

奥様は艦娘！ 艦これSS

室賀小史郎

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

注意・下記の事を了承してくれると幸いです。

①この作品はソーシャルゲーム『艦隊これくしょん』の二次創作です

②本編は台本形式です

③本編はスラングや顔文字を使用しています

④本編はすべて筆者の妄想です

⑤提督と嫁さんのイチャラブを長々と綴ります

⑥激甘垂れ流し

⑦キャラ崩壊・口調の乱れ

⑧描写激薄

⑨挿し絵無し

⑩話毎の提督は別人

⑪話毎のヒロインはくじ引きで決めています

⑫百合表現も中にはあり

以上がダメな方はブラウザバック推奨です。

『大丈夫だ、問題ない』と言う方だけ読んでください。

※

当初は上記のようにくじ引きでヒロインを決め、引いた順番でそのまま投稿していました。今では見やすくするために艦種毎にお話を並べ替えたので、いくつかお話の前書きや後書きに疑問を持たれるかと思いますが気にしないで頂けると幸いです。当初の順番は日付で

分かります故、どうかご理解ください。

※

投稿時間は毎回〇〇〇〇：午前零時です。

※

『改』は百合物のお話を普通の男女のお話としてまた上げてます。二
周目という訳ではありませんのでご了承を。

以上のことをご了承の上、閲覧して頂くようお願い致します。

誤字報告をしてくれる心優しい方々、いつも感謝してます！

—————

2016/06/21. 『改』で章を作りました。

2016/08/28. お話を並べ替えました。

2016/09/11. タグを追加しました。

あらすじを編集しました。

2016/11/26. お話を並べ替えました。

2017/02/01. あらすじを編集しました。

2018/04/30. あらすじに注意事項を追加しました。

あらすじを編集しました。

目次

金剛とケツコンしました。	1
比叡とケツコンしました。	6
榛名とケツコンしました。	11
霧島とケツコンしました。	16
扶桑とケツコンしました。	21
山城とケツコンしました。	26
伊勢とケツコンしました。	31
日向とケツコンしました。	35
長門とケツコンしました。	39
陸奥とケツコンしました。	44
大和とケツコンしました。	50
武蔵とケツコンしました。	55
ビスマルクとケツコンしました。	60
カヴールとケツコンしました。	65
イタリアとケツコンしました。	69
ローマとケツコンしました。	74
ネヴァダとケツコンしました。	78
コロラドとケツコンしました。	82
メリーランドとケツコンしました。	87
サウスダコタとケツコンしました。	90
マサチューセッツとケツコンしました。	95
ワシントンとケツコンしました。	100
アイオワとケツコンしました。	104

ウォースパイトとケツコンしました。
ネルソンとケツコンしました。
ロドニーとケツコンしました。
ガングートとケツコンしました。
リシユリユーとケツコンしました。
ジャン・パールとケツコンしました。

109 114 119 123 127 132

正規空母

赤城とケツコンしました。
加賀とケツコンしました。
蒼龍とケツコンしました。
飛龍とケツコンしました。
雲龍とケツコンしました。
天城とケツコンしました。
葛城とケツコンしました。
グラーフとケツコンしました。
アキラとケツコンしました。
サラトガとケツコンしました。
レンジャーとケツコンしました。
ホーネットとケツコンしました。
イントレピッドとケツコンしました。
アークロイヤルとケツコンしました。

136 140 146 151 156 161 165 171 176 181 187 191 195 200

装甲空母

翔鶴とケツコンしました。
瑞鶴とケツコンしました。
大鳳とケツコンしました。

205 211 216

ヴィクトリアスとケツコンしました。

221

軽空母

鳳翔とケツコンしました。

225

龍驤とケツコンしました。

230

龍鳳とケツコンしました。

234

祥鳳とケツコンしました。

239

瑞鳳とケツコンしました。

245

飛鷹とケツコンしました。

250

隼鷹とケツコンしました。

254

大鷹とケツコンしました。

259

雲鷹とケツコンしました。

263

ラングレーとケツコンしました。

267

神鷹とケツコンしました。

271

千歳とケツコンしました。

276

千代田とケツコンしました。

281

ガンビア・ベイとケツコンしました。

286

水上機母艦

神威とケツコンしました。

290

瑞穂とケツコンしました。

295

日進とケツコンしました。

300

秋津洲とケツコンしました。

305

コマندان・テストとケツコンしました。

310

重巡洋艦・航空巡洋艦

古鷹とケツコンしました。

315

加古とケツコンしました。

320

青葉とケツコンしました。

衣笠とケツコンしました。

妙高とケツコンしました。

那智とケツコンしました。

足柄とケツコンしました。

羽黒とケツコンしました。

高雄とケツコンしました。

愛宕とケツコンしました。

摩耶とケツコンしました。

鳥海とケツコンしました。

最上とケツコンしました。

三隈とケツコンしました。

鈴谷とケツコンしました。

熊野とケツコンしました。

利根とケツコンしました。

筑摩とケツコンしました。

プリンツとケツコンしました。

ザラとケツコンしました。

ポーラとケツコンしました。

タスカルーサとケツコンしました。

ノーザンプトンとケツコンしました。

ヒューストンとケツコンしました。

軽巡洋艦・重雷装巡洋艦

天龍とケツコンしました。

龍田とケツコンしました。

435 430

425 421

416 411

406 402

397 392

387 383

378 373

368 363

358 353

349 344

339 334

329 325

球磨とケツコンしました。	440
多摩とケツコンしました。	445
北上とケツコンしました。	450
大井とケツコンしました。	456
木曾とケツコンしました。	461
長良とケツコンしました。	467
五十鈴とケツコンしました。	472
名取とケツコンしました。	477
由良とケツコンしました。	482
鬼怒とケツコンしました。	487
阿武隈とケツコンしました。	492
夕張とケツコンしました。	496
川内とケツコンしました。	501
神通とケツコンしました。	506
那珂とケツコンしました。	512
阿賀野とケツコンしました。	518
能代とケツコンしました。	524
矢矧とケツコンしました。	529
酒匂とケツコンしました。	535
大淀とケツコンしました。	539
アブルツツイとケツコンしました。	543
ガリバルデイとケツコンしました。	547
シエフィールドとケツコンしました。	552
ブルックリンとケツコンしました。	556
ホノルルとケツコンしました。	561

ヘレナとケツコンしました。

565

デ・ロイテルとケツコンしました。

570

パースとケツコンしました。

575

練習巡洋艦

朝日とケツコンしました。

580

香取とケツコンしました。

584

鹿島とケツコンしました。

589

軽（航空）巡洋艦

ゴトランドとケツコンしました。

595

防空巡洋艦

アトランタとケツコンしました。

599

駆逐艦

神風とケツコンしました。

604

朝風とケツコンしました。

609

春風とケツコンしました。

614

松風とケツコンしました。

619

旗風とケツコンしました。

624

睦月とケツコンしました。

630

如月とケツコンしました。

634

弥生とケツコンしました。

639

卯月とケツコンしました。

644

皐月とケツコンしました。

649

水無月とケツコンしました。

653

文月とケツコンしました。

658

長月とケツコンしました。

663

菊月とケツコンしました。

三日月とケツコンしました。

望月とケツコンしました。

吹雪とケツコンしました。

白雪とケツコンしました。

初雪とケツコンしました。

深雪とケツコンしました。

叢雲とケツコンしました。

薄雲とケツコンしました。

白雲とケツコンしました。

磯波とケツコンしました。

浦波とケツコンしました。

綾波とケツコンしました。

敷波とケツコンしました。

天霧とケツコンしました。

狭霧とケツコンしました。

朧とケツコンしました。

曙とケツコンしました。

漣とケツコンしました。

潮とケツコンしました。

暁とケツコンしました。

響（Верный）とケツコンしました。

雷とケツコンしました。

電とケツコンしました。

初春とケツコンしました。

子日とケツコンしました。
若葉とケツコンしました。
初霜とケツコンしました。
有明とケツコンしました。
夕暮とケツコンしました。
白露とケツコンしました。
時雨とケツコンしました。
村雨とケツコンしました。
夕立とケツコンしました。
春雨とケツコンしました。
五月雨とケツコンしました。
海風とケツコンしました。
山風とケツコンしました。
江風とケツコンしました。
涼風とケツコンしました。
朝潮とケツコンしました。
大潮とケツコンしました。
満潮とケツコンしました。
荒潮とケツコンしました。
朝雲とケツコンしました。
山雲とケツコンしました。
夏雲とケツコンしました。
峯雲とケツコンしました。
霞とケツコンしました。
霞とケツコンしました。

904 899 895 891 886 881 877 871 866 861 857 852 846 841 836 831 826 821 816 812 808 803 799 795 789

陽炎とケツコンしました。

不知火とケツコンしました。

黒潮とケツコンしました。

親潮とケツコンしました。

早潮とケツコンしました。

初風とケツコンしました。

雪風とケツコンしました。

天津風とケツコンしました。

時津風とケツコンしました。

浦風とケツコンしました。

磯風とケツコンしました。

浜風とケツコンしました。

谷風とケツコンしました。

野分とケツコンしました。

嵐とケツコンしました。

萩風とケツコンしました。

舞風とケツコンしました。

秋雲とケツコンしました。

夕雲とケツコンしました。

卷雲とケツコンしました。

風雲とケツコンしました。

長波とケツコンしました。

卷波とケツコンしました。

高波とケツコンしました。

玉波とケツコンしました。

1025 1021 1017 1012 1008 1003 998 993 989 983 978 973 968 963 958 953 949 944 940 935 931 925 919 914 910

涼波とケツコンしました。
藤波とケツコンしました。
早波とケツコンしました。
浜波とケツコンしました。
沖波とケツコンしました。
岸波とケツコンしました。
朝霜とケツコンしました。
早霜とケツコンしました。
秋霜とケツコンしました。
清霜とケツコンしました。
秋月とケツコンしました。
照月とケツコンしました。
涼月とケツコンしました。
初月とケツコンしました。
冬月とケツコンしました。
島風とケツコンしました。
松とケツコンしました。
竹とケツコンしました。
梅とケツコンしました。
桃とケツコンしました。
Z1 (レーベレヒト・マース) とケツコンしました。
Z3 (マックス・シュルツ) とケツコンしました。
マエストラーレとケツコンしました。
グレカーレとケツコンしました。
リベッチオとケツコンしました。

シロツコとケツコンしました。
フレツチャーとケツコンしました。
ジョンストンとケツコンしました。
ヘイウツドとケツコンしました。
サミュエルとケツコンしました。
ジャーヴィスとケツコンしました。
ジェーナスとケツコンしました。
ジャヴェリンとケツコンしました。
タシユケントとケツコンしました。

海防艦

占守とケツコンしました。
国後とケツコンしました。
八丈とケツコンしました。
石垣とケツコンしました。
択捉とケツコンしました。
松輪とケツコンしました。
佐渡とケツコンしました。
対馬とケツコンしました。
平戸とケツコンしました。
福江（ふかえ）とケツコンしました。
御蔵とケツコンしました。
能美とケツコンしました。
倉橋とケツコンしました。
屋代とケツコンしました。
鵜来とケツコンしました。

125612521249124512401236123112251219121312081203119811931188

118311781173116811631159115511501146

稲木とケツコンしました。
日振とケツコンしました。
大東とケツコンしました。
昭南とケツコンしました。
第四号海防艦とケツコンしました。
第二十二号海防艦とケツコンしました。
第三〇海防艦とケツコンしました。

潜水艦

伊168とケツコンしました。
伊8とケツコンしました。
伊19とケツコンしました。
伊26とケツコンしました。
伊58とケツコンしました。
伊47とケツコンしました。
伊201とケツコンしました。
伊203とケツコンしました。
U-511&呂500とケツコンしました。
コマンダンテ・カツペリーニとケツコンしました。
ルイージ・トレツリとケツコンしました。
サーモンとケツコンしました。
ドラムとケツコンしました。《新艦娘》
スキヤンプとケツコンしました。
まるゆとケツコンしました。
伊41とケツコンしました。《新艦娘》
伊36とケツコンしました。《新艦娘》

伊400とケツコンしました。

伊401とケツコンしました。

伊13とケツコンしました。

伊14とケツコンしました。

その他艦種

あきつ丸とケツコンしました。

神州丸とケツコンしました。

熊野丸とケツコンしました。

明石とケツコンしました。

速吸とケツコンしました。

宗谷とケツコンしました。

第一百号輸送艦とケツコンしました。

山汐丸とケツコンしました。

迅鯨とケツコンしました。

長鯨とケツコンしました。

大鯨とケツコンしました。

平安丸とケツコンしました。《新艦娘》

間宮とケツコンしました。

伊良湖とケツコンしました。

改

武蔵とケツコンしました。改

ビスマルクとケツコンしました。改

飛鷹とケツコンしました。改

那智とケツコンしました。改

熊野とケツコンしました。改

14771472146614611456

14521447144314381434142914251421141714121407140213971393 1388138313781373

球磨とケツコンしました。改
川内とケツコンしました。改
初雪とケツコンしました。改
敷波とケツコンしました。改
漣とケツコンしました。改
暁とケツコンしました。改
子曰とケツコンしました。改
若葉とケツコンしました。改
夕立とケツコンしました。改
朝雲とケツコンしました。改
初風とケツコンしました。改
雪風とケツコンしました。改
天津風とケツコンしました。改
朝霜とケツコンしました。改
まるゆとケツコンしました。改

155915541548154315371532152615211515150915031498149314871482

戦艦・航空戦艦

金剛とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇提督&金剛邸（鎮守府付近）◇

金剛「ペラッ↑読書中

ピンポーン

金剛「？」

トコトコ

金剛「どちらサマデース？」

比叡『私達です！ 金剛お姉さま〜！』

金剛「Wow♪ 今開けマース♪」

ガチャ

比叡「金剛お姉さま、ごきげんよう♪」ニパッ

榛名「こんには、お姉さま」ペコリ

霧島「今日は午前中で私達の仕事が終わったので、遊びに来ました

♪」

金剛「どうぞ、上がってくださいサイ♪」

◇リビング◇

比叡「あの、みんなでお菓子を作ってきました♪」

霧島「久し振りに頑張りました」ニコッ

榛名「どうぞ」つ箱

金剛「Wow♪ Thank you♪」ウケトリ

比叡「ソワソワ

金剛「ふふ、そんなにそわそわしなくても、今連れて来るネ〜♪」ウ

インク

比叡「あ……えへへ／／／」テヘペロ

霧島「クスクス

榛名「ニコニコ

ー」。

金剛「ほくら、こんごう。みんなが遊びに来てくれマシタヨ」

金剛の背中「ω・・（↑こんごう）」チラッ

比叡「こんにちは♪ こんごうちゃん♪」

榛・霧『こんにちは♪』ニコッ

こんごう「こ、こんにちは……」ギューッ

金剛「もう……こんごうは相変わらず shy ね」ナデナデ

こんごう「うう／＼／／／」

比叡「お姉ちゃん達、お菓子作ってきたの♪ 一緒に食べよ♪」

榛名「甘くて美味しいよ」ニコッ

霧島「早くしないと無くなっちゃうわよ」クスクス

こんごう「た……たべるう／＼／／」トコトコ

金剛「ふふ、お菓子に負けたネ」クスクス

く金剛姉妹とこんごうのティータイム

こんごう「ど、どうぞ……／／／／」つ紅茶

比叡「ありがと♪」ナデナデ

榛名「良い子ね♪」ナデナデ

霧島「偉いわ♪」ナデナデ

こんごう「えへへ／＼／／」キラキラ

金剛「その紅茶はこんごうが淹れたんデスヨ」ニコッ

こんごう「マ、ママ!? ひみつっていったのに／＼／／」ポカポ

カ

金剛「恥ずかしがる必要ありませんヨ? ほら、その証拠にお姉

ちゃん達を見てごらんネ?」

こんごう「?」チラッ

比叡「わあ、美味しい紅茶〜!」

榛名「こんなに美味しい紅茶を淹れてもらえて、嬉しいなあ♪」

霧島「これは才能かもしれないわね!」

こんごう「んへへ／＼／／」キラキラ

金剛「良かったデスネ」ナデナデ

こんごう「うん！」ニパツ

く金剛姉妹とこんごうトークタイムく

比叡「こんごうちゃん、私のお名前覚えてくれた？」

こんごう「ひ、ひえーおねーたん……？」

比叡「正か〜い♪」ナデナデ

こんごう「へへ／／／」ニマニマ

榛名「私のお名前は覚えてる？」

こんごう「はるにやおねーたん……？」

榛名「そう、榛名だよ。お利口〜！」ナデナデ

こんごう「うゆ〜／／／」テレビテレビ

霧島「じゃあ、最後に私のお名前は言えるかしら？」

こんごう「きりちまおねーたん！」

霧島「ええ、正解よ〜♪」ナデナデ

こんごう「えっへん／／／」ドヤア

金剛「ニコニコ

ー。

比叡「へえ〜、じゃあこんごうちゃんは、将来はパパとケツコンするんだ〜」ホホエマー

榛名「金剛お姉さまにライブル出現ですね〜」ニコニコ

霧島「こんごうの可愛さかお姉さまの美しさか。勝敗が気になるわね」クスクス

こんごう「ママにはまけないも〜ん！」ブンブン

金剛「ママも負けませんヨ〜♪」ニコニコ

ー。

比叡「では、私達はそろそろ戻りますね！」

榛名「金剛お姉さま、こんごうちゃん。また遊びに来ますね」ペコ

リ

霧島「またお菓子を作って参りますね」ニコツ

金剛「鎮守府はすぐそこデスガ、気をつけて帰るんデスヨ〜！」

こんごう「ばいば〜い！」フリフリ

比・榛・霧『ばいば〜い！』ノシ

金剛「ワタシ達はパパが帰ってくる前にdinnerの準備をする
ネ♪」

こんごう「うん！ おてつだいする〜！」ピョンピョン
そして夕方〜

ピンポーン

金剛「こんごう、お出迎えしてください♪」

こんごう「はい！」トテトテ

こんごう「パパですか〜!？」

提督『パパですよ〜!』

こんごう「ゞ(*≡▽≡)ノ」ペアツ

ガチャ〜

こんごう「パパ〜！」トビツキ

提督「こんごう〜♪ ただいま〜♪」ウケトメ

こんごう「おかえい〜！」ホツペチュツ

提督「ただいま〜♪」ホツペチュツ

こんごう「えへへ♪」ギューツ

く抱っこしたままりピングへ〜

金剛「お帰りのサイ、パパ♡」チュツ

提督「ただいま、ママ」チュツ

こんごう「ママばかりずるい〜！ こんごうのおくちにもちゆ〜

！」グイグイ

提督「パパとママは夫婦だから、お口でちゆうするだぞ〜♪ こん

ごうとは出来ないな〜♪」ナデナデ

こんごう「むう〜」プクウ

提督「こんごうが大きくなって、パパのお嫁さんになってくれたら、

お口にちゆうしてあげるからな〜♪」

こんごう「うん♪」

金剛「クスクス

〜。

〜。

夜〜

比叡とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇金剛型姉妹部屋◇

コンコンー

金剛「開いてマスヨ」

カラカラー

比叡「お邪魔しまゝす」ヒヨコ

金剛「Oh、比叡！ いらつしやいネ」

比叡「こんにちはお姉さま」ニツコリ

榛名「いらつしやいませ、比叡お姉さま」ニコツ

霧島「こんにちは、姉さま」ニコツ

比叡「こんにちは」ニコツ

ゝ居間で姉妹トーク

金剛「それで今日はどうシマシタ？」

比叡「金剛お姉さまから教わったスープカレーを作ったので、そのお裾分けに」ニコツ

金剛「Oh、それは嬉しいデス」

榛名「比叡お姉さまは提督とゞケツコンされてからお料理が上達しましたからね」ニコニコ

霧島「愛の成せる業、ですネ」フフ

比叡「ちよ、ちよつと二人共々／＼／＼」カー

金剛「ふふ、ワタシも二人と同じ意見デスヨ。比叡の料理はとて
も美味しくなったネ」ニコニコ

比叡「こ、金剛お姉さままで……／＼／＼」カオマツカ

金・榛・霧『(乙女だなあ)』ニマニマ

比叡「と、とにかく、お鍋置いてきますね／＼／＼」

金剛「Wait、ちよつと待つネ」ガシツ

比叡「？」

金剛「もうlunch timeになるからこっちに置いてくだサ

♪イ♪」

榛名「では榛名はパンを持ってきますね」ニコッ

霧島「私はご飯にしようかしら」フフ

比叡「じゃあ、私はお皿に盛りつけますね♪」

金剛「Thank youネ♪」

♪金剛姉妹 lunch time♪

金剛「Delicious♪」

榛名「美味しいです♪」

霧島「また腕を上げましたね♪」

比叡「良かった〜！　じゃあ、私は司令にお昼ご飯持ってくるので失

礼しますね！」ニパッ

金剛「ふふ、了解ネ♪」

榛名「はい♪　スープカレー、御馳走様でした」ペコリ

霧島「仲睦まじくお過ごしください」ニヤッ

比叡「は、は〜い／＼／＼」

／パタン／

金剛「さて、ワタシ達も念の為様子を見に行きますヨ〜」

榛・霧『了解です』

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞ〜」

カチャー

比叡「司令、ご昼食をお持ちしました♡」

提督「ありがとう」ニッコリ

♪昼食タイム♪

提督「今日は何を作ってくれたんだ？」

比叡「本日は金剛お姉さま直伝のスープカレーですよ♪　主食は

ご飯にしますか？　パンにしますか？」

提督「ご飯をもらおうかな」ニッコリ

比叡「は〜い♡」

くカレーという名前の何か&白いご飯く

提督「いただきま〜す♪」人

比叡「召し上がれ〜♡」

提督「うん、今日もいい味だね〜！ このジャリジャリした食感がたまらないよ♪」ジャリジャリ

比叡「本当ですか〜♪ 隠し味にキウイフルーツ入れてみたんです♪」

提督「へえ〜、そうなのか！ いつも工夫して料理してくれてありがとう♪」ニコニコ

比叡「そんな……私は司令のお嫁さんですから♡」キヤツ

提督「比叡と出会ってから毎日幸せだよ」ニツコリ

比叡「私もです♡ さ、もつと食べてください♡」

提督「もちろんだよ〜♪」パクパク

◇執務室外・ドア前◇

金剛「ワタシ、隠し味にキウイフルーツを入れるなんて教えてマゼンヨ〜……」コソツ

榛名「カレーなのになんであんな色に……」コソツ

霧島「司令が味音痴なのが救いですね……」コソツ

金剛「それで比叡はアレンジ無し料理を食べるから、アレンジ後の料理の味の凄さ（悪い意味）に気付かないんデスヨネ……」

榛名「提督には特別に手間掛けてますから……」

霧島「常人なら匂いで分かると思いますけどね……」

提督「比叡、おかわり〜！」

比叡「は〜い♡」

金剛「ホント……テイトクじゃなければ比叡の相手は務まりマセンネ〜」ニコニコ

榛名「風景は幸せですけど、料理は殺伐としています」ニガワライ

霧島「これも何通りもある幸せのカタチなのかもしれないわね……」フフ

比叡『あ〜ん♡』つかレー

提督「あくん♡」モグモグ

金・榛・霧「(胃にはくれぐれも♡注意を)」ニガワライ

その日夜――

◇提督&比叡邸◇(鎮守府外より徒歩十分)

ガチャ――

提督「ただいま〜」

比叡「お帰りなさいませ〜！」ガバツ

提督「おつと……ただいま比叡」ウケトメ

比叡「えへへ♡ 恋しかつたです〜♡」ホールド

提督「俺もだよ」ホツペチュツ

比叡「へへ♡」トローン

〜居間でまったり中〜

比叡「今日は鎮守府でお夕食を済ませたんですよね？ すぐにお風

呂入りますか？」

提督「いや、もう少しこうしてたい」

比叡「分かりました♡」ニコニコ

〜比叡、提督にだいしゆきホールド中〜

提督「あゝ、食堂で夕食食べたけど小腹空いたかも〜」

比叡「何か作りましょうか？」

提督「お願いしようかな〜。比叡の料理食べないと落ち着かなく

て」ホツペスリスリ

比叡「ふふ、そんなこと言っても何も出ませんよ？♡」ホツペスリ

スリ

提督「愛は出るでしょ？」オデココツン

比叡「愛ならいつも出してますよ♡」オデココツン

提・比「えへへ♡」

提督「なあ、比叡」

比叡「なんですか〜？」

提督「俺、毎日幸せ。比叡、これからもずっと一緒にいてくれ」

ギユツ

比叡「当たり前です／＼／＼ いきなりそんな格好良いこと言わないでください／＼／＼」ドキドキ

提督「照れてる比叡も可愛いよ」チュッ

比叡「嬉しいです♡」チュッ

提督「先に比叡を食べようかな」ニッコリ

比叡「どうぞ♡ 沢山頂いてくださいませ♡」ホールド

提督「比叡くっ！」ガバツ

比叡「きやあ♡」

その後、夫婦は惜しまず互いの愛を相手にさらけ出し合った（意味深）そうなのー。

比叡 完

榛名とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇執務室◇

バーン！

金剛「ヘーイ、テートク〜！ 艦隊が戻ったヨ〜！」中破

提督「お〜、お疲れさん。取り敢えず前を隠しなさい。目のやり場に困るからな」

金剛「テイトクになら見られても構いませ〜ン♪」ドヤア

提督「胸を張るのを止めなさい」ニガワライ

金剛「むう〜」

「何をしているんですか、金剛お姉さま？」

金剛「ビクッ

榛名「中破したのに帰るなりどこか行つてしまわれて……探したんですよ？」

霧島「お姉さまが一番ダメージを受けたんですから、入渠が最優先です」

比叡「報告はその後でも良いと司令はいつも言ってるじゃありませんか」

金剛「ソ、ソーリー……」ニガワライ

榛名「勝手は榛名が許しませんよ？」ニコニコ

金剛「ゾクッ

金剛「オ、オー！ ではドックに行きマース！」ピューン

比叡「あ、金剛お姉さま〜！ 私も一緒に行きます〜！」パタパタ

霧島「お騒がせして申し訳ございません。では私も修復に入らせて頂きます。失礼します」ペコリ

提督「相変わらず台風のようだな」ニガワライ

榛名「金剛お姉さまがすみません」ペコリ

提督「気にするな。金剛がああなのは今に始まったことじゃない」

榛名「ありがとうございます」ペコリ

提督「榛名は怪我してないか？」

榛名「はい♪ 榛名は大丈夫です♪」ニコッ

提督「榛名はいつも無理をするからな。ちゃんと見てないと心配だ」ナデナデ

榛名「そんな……榛名には勿体無いです／＼／＼」

提督「嫁さんを気に掛けて何が悪んだ？」ナデナデ

榛名「嬉しいです♡」ニコニコ

「残りの仕事を片付け中」

提督「しかし困ったものだな……」ボソッ

榛名「何かお悩みですか？」

提督「いや何、さつき金剛が中破した状態でここに居たる？」

榛名「はい」

提督「目のやり場に困ってな……金剛だけじゃなく他の皆にも言えることだが……」

榛名「提督も殿方ですからね」ニガワライ

提督「俺も毅然に振る舞えれば良いんだが、どうも目が泳いでし

まっつてな」ニガワライ

榛名「それなら榛名にお任せください！♡」

提督「おう、何か名案が？」キタイ

榛名「提督が榛名の肌を見て慣れれば良いんです！♡」

提督「(。D。)」ナニソレ？

榛名「榛名は大丈夫です♡ あ、身を清めてからのの方が良いでしょ

うか？♡」ズイッ

提督「うん、待って。一旦落ち着こう」

榛名「はい♡」

提督「もつと別な案はないかな？」

榛名「別のですか……」ウーン

提督「ドキドキ

榛名「あ、榛名の考えが至らず申し訳ありません。見てるだけでは慣れませんよね♡」

提督「(。；。)」ン？

榛名「榛名の肌を直に触れれば、自ずと慣れますよね♡ 今準備致しますね♡」ヌギツ

提督「待って、止めて、ぬがないで！」

榛名「提督は着たままがお好きなのですね♡ 榛名は大丈夫です♡」バンザイ

提督「違う、そうじゃない！ 良いから手を下げなさい！」

榛名「はい……」

提督（なんでそんな残念そうなんだ？）

提督「こほん……取り敢えず、触って慣れるとか見て慣れるとかは却下だ。と言うかなんでそんなに飛躍する？」

榛名「榛名は提督ならば、触られるもの見られるもの大丈夫です♡

寧ろされたいです！♡」フンス

提督「アタマカカエ

榛名「大体提督が榛名をこんな子にしたんですよ？ 夜は口付けもたなー」

提督「はい、そこまで……それは夜の話で……」

榛名「こんな榛名は嫌いですか？」ウルウル

提督「」

榛名「ウルウル

提督「大好きです／／／／」

榛名「(♡♡♡*)」

ぎゅっ↑榛名、提督に抱きつく

提督「ちよ、榛名!?!／／／／」

榛名「榛名は欲張りです……」

提督「榛名？」

榛名「提督と出会えて、提督のお役に立てて、提督が笑ってくれていれば、それで満足でした」

提督「」

榛名「それでも提督は榛名を選んでくれて、榛名とケツコンしてくれて、榛名を沢山愛してくれて、こんなにも毎日が幸せなのに、榛名は提督をもっと欲しいと思う様になってしまいました……」

提督「榛名……」

榛名「提督、もつと榛名に触れてください。もつともつと提督と触れ合いたいです」ギューツ

提督「ギユツ

榛名「提督……?」

提督「榛名の気持ち、しっかりと受け止めさせてもらおうよ。俺も榛名が欲しいから」ギユツ

榛名「榛名……感激です♡」チュツ

提督「んんっ!?!」

榛名「あむ……んっ……ちゅっ……ああ……ちゅっ、んちゅっ……んんっ♡」

提督「ん……はる……な……んん!?!」

ガシツ↑榛名、だいしゆきホールド固め

榛名「はむっ……んんっ……っ……あん……ちゅく……っはあ♡」

ハアハア

提督「はあ……はあ……おい……／／／／」

榛名「提督の硬いです♡」グリグリ

提督「おい、あまり押し付けるな!／／／／」

榛名「榛名は大丈夫です♡」ハアハア

提督「俺が大丈夫じゃない!／／／／　そもそも、ここは執務室だ!／／／／」

榛名「もうお夕飯の時間なので誰も来ませんよ♡」オメメハート

提督「しかし……／／／／」

榛名「提督は榛名が欲しくないんですか?♡」

くだいしゆきホールド+潤んだ瞳+猫なで声

提督「くっ／／／／」

榛名「提督♡　目を逸らさないでください♡　ちゃんと榛名を見てください♡」グイッ

提督「榛名……／／／／」

榛名「欲しくないんですか?♡　榛名は提督が欲しいです♡」ホツペナデナデ

提督「プチッ↑バイバイ理性
ガタッ

く提督、榛名を机の上に押し倒すく
提督「もう止められないからな？」

榛名「榛名は大丈夫です♡」ホールド
ー。

◇執務室外・ドア前◇

提督『榛名！　いくぞ！』

榛名『榛名も、もう♡　ああっ♡』

／パンパンズンズン＼

金剛「ワ（。ヅ。）オ」ビツクリ

比叡「ひえく／／／／」カアーツ

霧島「なるほど♪」メガネクイツ

→入渠完了の報告&夕飯へ誘いに来た

金剛「これは先に榛名を召し上がったたネく♪」

比叡「／／／／」ドキドキ

霧島「この様子では私達が『おば様』と呼ばれる日が来るのも近い
かもしれませんね」クスクス

金剛「そうデスネく♪　楽しみデくス♪」

比叡「／／／／」コクコク

霧島「では私達は食堂でディナーにしますか」フフ

金剛「イエース♪」ウインク

比叡「／／／／」コクコク

その後、夫婦が執務室から出てきたのは朝方だったとかー。

榛名 完

霧島とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れー

◇執務室◇

霧島「一九〇〇ってこれからですか？」

提督「ああ……ケツコンしてからこれまで、ばたばたしていて二人の時間が取れなかった。幸い今はこれと言って忙しくは無い。こちらで二人の時間をもっとね」

霧島「そんな……私は今のままでも十分幸せです」

提督「そう言ってもらえるのは嬉しい。けれど、それでは私の気が済まん」

霧島「……分かりました。では今晚楽しみにしていますね」ニコツ
提督「ああ。……それとこれを私から霧島君へ贈ろう。私は残りの書類確認をするから、霧島君は先に休んで準備をしていてくれ。時間までには迎えに行く」

霧島「ありがとうございます。ではお先に失礼しますね」ニコツ

提督「ああ」ニコツ

◇金剛姉妹部屋◇

金剛「それで今夜はテイトクとdinnerデス？ 良かったデスネ、キリツシマー♪」

比叡「ケツコンしても司令とはまだ同室で暮らしていないんだから、今日くらい沢山甘えちやいなよ」ニコツ

榛名「楽しんできてね、霧島」ニコニコ

霧島「みんな……ありがとうございます」ニコツ

金剛「What? その袋はどうしたデス？」

霧島「これは司令からの贈り物です。中はまだ何なのか……」

比叡「開けてみたら？ お食事の時の話題になるかもしれないよ？」

霧島「そう、ですね……時間もまだありますし、開けてみましょう」

榛名「こっちまでドキドキしますね……」ワクワク

くプリンセスラインワンピースく

金剛「Wow! Beautiful♪」

比叡「素敵なワンピース♪」

榛名「霧島にピッタリ♪」

霧島「／／／」カア

金剛「流石はテイトクネく。ミモレ丈でelegantさとcut
eさを出してマクス！」

比叡「藍色なのも霧島に合った色合い♪」

榛名「ウエストリボンもお洒落で可愛い♪」

霧島「あ、あんまり言わないで／／／」プシュー

金剛「ふふ、Have a good night♪」ニコッ

比叡「今夜は帰って来なくても良いよ♪」ニコッ

榛名「素敵なパーティ！ ですね♪」ニコニコ

霧島「ああああ／／／」カオマツカ

く準備完了く

コンコンー

霧島「は、はい！」

提督『私だ。迎えに来た』

霧島「い、今出ます！」

提督『分かった』

霧島「チラッ

金剛「ウインク

比叡「グッ

榛名「ニコッ

霧島「行つてきます」ニコッ

ガチャー

霧島「お待たせしました、司rー」

提督「いや、気にすることはない」

く提督、黒のダークスーツ姿く

霧島「／／／」ポー

提督「む、やはり赤いネクタイは派手だったか？」

霧島「い、いえ！ とてもお似合いです／＼／＼」カア
提督「それは良かった。では行こう」ウデスツ
霧島「はい♡」ギユツ
金剛「お似合いのcoupleネ♪」コソツ
比叡「あんなにくつついちゃって」ニコニコ
榛名「はう♪」ウツトリ

◇夜景の見えるホテルレストラン◇

提督「テーブルマナーとかは気にせず、気楽に過ごしてくれ」

霧島「は、はい……」

提督「はは、畏まっている霧島君も可愛らしいな」ニツ

霧島「か、からかわないでください／＼／＼」

提督「はは……しかし、私の見立に間違いはなかった」

霧島「え？」

提督「そのワンピース、とても良く似合っている。美しいとはこの事だ……」ジツ

霧島「し、司令こそ素敵ですよ／＼／＼」

提督「霧島君に言われるのは嬉しいものだな」ニツ

霧島「／＼／＼」カア

提督「食事を持ってこさせる前に少し良いかな？」

霧島「はい。なんででしょう？」

提督「私とケツコンしてほしい、霧島君」

霧島「え……司令、私達はもう既にケツコンしていますが……」

提督「そうだが、あの時は大規模作戦の真っ只中だった上に、とても雰囲気が無かったと私は思う」

霧島「そんなことは……」

提督「だから改めて、こうしてまた霧島君に想いを伝えよう」

霧島「司令……」ドキドキ

提督「霧島君、君のことを愛している。この世の誰よりも……私とケツコンしてくれるね？」

霧島「っ……はい。私、霧島はいつまでも司令のおそばに……」ナ

ミダグミ エガオ

パチ……パチ……

提・霧『?』

パチパチパチパチー

提督「皆に聞かれていた様だな」ハニカミ

霧島「でも嬉しいです／＼／＼」フフフ

◇帰り道◇

提督「まさかホテル側からウエディング曲のサービスをしてもらうとはな」ハハ

霧島「とても良い思い出になりました」フフ

提督「寒くはないか？」

霧島「大丈夫です。司令が先程から肩を抱いてくれますから♡」

提督「そんな可愛らしい顔をしないでくれ／＼／＼」

霧島「今の私はお嫌いですか？」ウワメツカイ

提督「君をこのまま帰したくなくなってしまっじゃないか／＼／＼」ギユツ

霧島「私の帰るべき場所はもうとつくにここですよ、司令」キユツ

提督「霧島君……」

霧島「私ももう我慢しませんから」ギュー

提督「良いんだな……霧島君」

霧島「今は呼び捨てにしてください。今の私は貴方に仕えるべき部下ではなく……一人の女として、ここに居るのですから」

提督「霧島……」

霧島「ふふっ。もっと遠慮なく……私は貴方の女です。貴方を愛し、貴方と共にありたいと願った」ギユツ

提督「……霧島」ギユツ

霧島「これからも、ずっと一緒です……愛し合って、支え合って、暁の水平線に勝利を刻むその日まで……」

提督「『それから』の間違いだろ？」ニツ

霧島「はい♡」ニコッ

く朝く

◇提督の部屋◇

霧島「」パチッ

提督「おはよう、霧島」ニッ

霧島「お、おはよう、ございます／＼／＼」カア

提督「可愛い寝顔を拝ませてもらったよ」ニッ

霧島「い、言わないでください／＼／＼」プイッ

提督「こつちを向きなさい」グイッ

霧島「何ですキーっ!？」

提督「」チュッ

霧島「／＼／＼」ボンッ

提督「これから共に、もっと幸せになろう」ニッ

霧島「はい♡」ギユッ

その後二人は仲良く遅刻した。

理由は……分かるね？

霧島 完

扶桑とケツコンしました。

某攻略海域、昼下がりにー

艦隊帰投中

扶桑「無事に作戦終了出来て良かったわ」ホッ

山城「お疲れ様です、扶桑姉様♪ またMVPですね！ おめでと

うございます！」

扶桑「ありがとう、山城」ニコッ

時雨「ケツコンしてから絶好調だね、扶桑は」フフ

最上「愛の賜物かな？」ニヤニヤ

扶桑「あう……／＼／＼」テレリ

山雲「扶桑さんは、司令さんとく、いっつもラブラブだもんね」

ニコニコ

朝雲「そこら辺どう思いますか、小姑の山城さん？」クスクス

山城「ええ、実に妬ましいわね。しかもお似合いだから尚……妬ま

しいわっ！」クワッ

扶桑「あうあう／＼／＼」カオマツカ

時雨「ふふ、でも確かに二人はお似合いだよね♪」

最上「うんうん♪ 二人共支え合ってるって感じで、良いよね」

扶桑「／＼／＼」プシュー

扶桑、その後もからかわれながら無事に帰投

夕方ー

◇埠頭◇

満潮「お帰り。んで、司令官から伝言。『艦装解除後、各自入渠後に

補給。その後は各自休め。旗艦扶桑は報告に来てくれ』ってさ」

扶桑「了解。わざわざありがとう」ニコッ

満潮「別にこれくらい何ともないわ」フンッ

山城「提督も冷たいわね。出迎えても良いじゃない」

時雨「提督は提督の仕事があるんだし、仕方ないよ」

最上「それに提督が埠頭で待ってたら、ボクらが二人の邪魔になっ

ちやうよく」クスクス

山雲「扶桑さんとく、司令さんはく、よく抱き合ってるもんねく」ニコニコ

朝雲「しかもトリモチでくっついてるみたいだね」ニヤニヤ

扶桑「ああああ／＼／＼」カオオサエ

満潮「はいはい、良いからさっさと入渠と補給してきなさい」アキ

レ

全員『はくい』クスクス

扶桑「はい／＼／＼」ポツポツ

◇執務室◇

コンコンー

扶桑『提督、旗艦扶桑、ご報告に参りました』

提督「入りなさい」

ガチャー

扶桑「失礼します」ペコリ

提督「うむ、わざわざご苦労。満潮、君は下がっていい。扶桑が留

守の間、秘書艦任務ご苦労だった」

満潮「はいはい、どういたしまして。じゃあ、お先に」ノシ

扶桑「お疲れ様、満潮ちゃん」ニコツ

満潮「」ノシ

パターンー

扶桑「行きましたよね？」

提督「そうだな」

扶桑「では……良いですか？」

提督「あ、ああ、来たまえ」

扶桑「失礼します」ペコリ

のしつ↑扶桑、提督の膝の上へ乗る

扶桑「ああ……旦那様♡ 只今戻りました♡」ヒシッ

提督「お帰り、扶桑」

扶桑「頭は撫でてくださらないのですか？」ウワメヅカイ

提督「お、おお……」ナデナデ

扶桑「はふ♡ 落ち着きます♡」ギューツ

提督「そうか……良かった」

扶桑「旦那様♡ 旦那様♡」スンスン

提督「あまり匂いを嗅がないでくれ。くすぐったいのだ」

扶桑「ごめんなさい」シユン

提督「ウグツ

提督「ま、まあ、少しなら構わんぞ？」

扶桑「♡」ペアツ

くそれから暫く提督の匂いを堪能したく

提督「そろそろ報告を聞かせてもらっても良いかな？」

扶桑「はい♡ 作戦通り敵艦隊は殲滅。被害は最上ちゃん、朝雲

ちゃんが中破。山城、山雲ちゃん、時雨ちゃんが小破でした」

提督「扶桑は……」

扶桑「？」

提督「扶桑は怪我しなかったのか？」

扶桑「はい♡ 無傷です♡」

提督「そうか」ホツ

扶桑「心配してくださいありがとうございます♡」

提督「気にするな。嫁を心配するのは当然だからな」

扶桑「はい♡」

く扶桑、未だに提督の膝の上く

扶桑「重くありませんか？」

提督「今更だな……重かったらとつくに言っているし、そもそも膝へ乗せないさ」

扶桑「もしそうになったらダイエットします」

提督「そんな心配しなくて良い。重かったらの話だ」

扶桑「本当に重くないんですか？」

提督「重いとも」

扶桑「ガーン

提督「これが……」

扶桑「？」

提督「これが幸せの重さなのだ。幸せ過ぎている証拠だ」ニツ

扶桑「ズキューーン

扶桑（旦那様はすぐそうやって私を喜ばせるんですね♡）キユン
キユン

扶桑「旦那様♡」ヒシッ

提督「どうした？」

扶桑「愛しています♡ 心から♡」

提督「ああ、私も愛しているよ」ナデナデ

扶桑「んんっ♡ 今は頭を撫でてもらうより、口付けが欲しいです♡」

提督「はは、ケツコンしてから扶桑の甘えん坊は増したな」ホッペ
ナデナデ

扶桑「旦那様が甘やかしてくれましたから♡」

提督「ならば責任を取らなくてはな」ニツ

扶桑「はい♡ 責任取ってくださいませ♡」クチビルサシダシ
ちゅっー

扶桑「♡」ガシッ

提督「!？」

く提督、扶桑に頭を掴まれるく

扶桑「ふっ……んっ……っ……はあ♡ だんな、しやま♡ んんっ
……ちゅっちゅく♡」

提督「ふ、そう……んんっ」

扶桑「んはあ♡ はあはあ♡ 旦那様♡」トローン

提督「そんな目をするな……ここは執務室だぞ……」

扶桑「ならもう少し口付けを……♡」オメメハート

提督「口付けだけだぞ？」

扶桑「はい♡」チュッ

提督「!？」

く提督、扶桑にホールドされて唇を奪われるく

扶桑「ちゅっ♡ んんっ♡ んく♡」チュッチュッ

提督「んんっ、落ち着け、んちゅっ」

扶桑「いや、んっ、でしゅ、んんっ♡ちゅちゅっ♡」

◇執務室外・ドア前◇

扶桑『旦那様♡もっとう♡』チュツチュツ

提督『するから、少しは落ち着けっ』ンンツ

／ラブラブチュツチュツ＼

最上「これは明日もMVPは扶桑さんみたいだね」クスクス

時雨「幸せそうで何よりだね」クスクス

朝雲「ちよ〜つとラブラブ過ぎるけどね」ニガワライ

山雲「仲良し仲良しく♪」ニコニコ

山城「積極的な姉様も良いわ〜♪」オメメシイタケ

→入渠完了の報告に来た

満潮「ていうか、執務室でしないでほしいわ。私、明日もここで仕

事するのに……」グヌヌ

時雨「ご愁傷様」クスクス

朝雲「扶桑さんが居なきや普通なんだし、頑張れ！」

満潮「不幸だわ……」

山城「私の台詞取らないですよ」

最上「あはは♪とりあえず、もう報告は良いから食堂行こうよ♪」

全員『賛成』

その後、夫婦がどうなったかは分かるね？

扶桑 完

山城とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりに――

◇甘味処・間宮◇

扶桑「え？ 執務室の本棚から恋文が出てきた？」

山城「はい……」ドヨン

扶桑「前に山城が書いた物ではないの？」

山城「はい……」ズーン

扶桑「……まあ提督を慕う子は沢山いるから、一枚や二枚あるのは仕方ないんじゃないかしら」

山城「違うんです……」

扶桑「？」クビカシゲ

山城「あの……これがその恋文、です」つ封筒

扶桑「え」

山城「見てください……そして、私に何か助言をくださいませ」

扶桑「……」ウケトリ

カサー

『突然の手紙をお許してください。』

私は不器用なので、手紙で想いを綴ろうと思います。

私は貴女を心から想い、心から愛しています。

貴女に声をかけてもらえるだけで

貴女を遠くからでも見かけただけで

私の胸は高まり、貴女のこと一杯になります。

こうしていざ書いてみると

文面でもなかなか恥ずかしいですね。

もつと伝えたいことは沢山あるのに……。

今回はこれで終わります。

提督
』

扶桑（提督らしいですね……）フウ

山城「せっかく提督とケツコン出来たのに……。やっと私にも幸せ

が来たと思ったのに……」マツシロ

扶桑（……うくん。私から言ってもいいけれど、それはそれで駄目な気もするわね……）ウーン

カラシカランナー

提督「間宮君、すまないが抹茶と羊羹をもらえないかな？」

間宮「はい」

山城「ピクッ

扶桑「あら、提督だわ」

山城「私、席を外します。こんな状態では……」

扶桑「提督く」ノシ

山城「姉様っ!？」

提督「二人もここへ来ていたのか。山城君、どうして顔を背けているんだ？」

山城「べ、別に何もありません!!」

提督「……そうか」シユン

扶桑「提督、山城は今悩みがあるそうです」

提督「悩み？」

山城「ね、姉様っ!？」

扶桑「そういう訳で、どうぞ話を聞いてあげてください。これが悩みの種です」つ封筒

提督「コクリ

扶桑「では、私は失礼します」ペコ

山城「姉様く……」

扶桑「(大丈夫よ)」クチパク

山城「？」クビカシゲ

カラシカランナー

提督「さて、では封筒の中を……なっ!？」

山城（ああ、終わった……）

提督「山城君……読んだのだね、これを……」

山城「コクリ

（短い幸せだったなあ）

提督「君への恋文をまさか渡す前に読まれるとは……自分の詰めの甘さを痛感するな」テレリ

山城「え」

提督「この手紙は……私の君への想いを綴った恋文だ」ハニカミ

山城「／／／」ボンツ

(わ、私の勘違いだったの!?!?!)

提督「男らしくなくてすまない。これは処分しとー」

山城「待ってください!」

提督「山城君……?」

山城「私宛の恋文なんですよね、それ?」

提督「勿論だ。こんなこと君にしか送る相手はいない」キツパリ

山城「次からはこんなことしないでください」

提督「……そう、だな。うん、分かった」シユン

山城「次からはちゃんと直接私に想いを言って頂きます」

提督「っ!?!」メミヒラキ

山城「私は勘違いしてしまいました。この恋文を見つけた時、提督は私以外に好きな人がいるんだと」

提督「っ」タジツ

山城「ですから、不器用なら不器用らしく伝えてください。貴方の言葉で直接……」ウワメツカイ

提督「山城君……」

山城「約束してください」

提督「分かった。約束する」

山城「では早速、言ってください。貴方の私への想いを」

提督「い、いきなり過ぎでは……」タジタジ

山城「私の勘違いとは言え、私は深く傷付きました。なので勘違いでは無いんだという証拠を聞きたいんです」ズイツ

提督「分かった……山城君」ジツ

山城「」ドキツ

提督「深呼吸」

提督「これまでもこれから、移り行く季節を君と寄り添って眺め

ていきたい。それくらい君を愛している」

山城「／＼／＼／＼／＼」キyunキyunキyun

提督「／＼／＼／＼」カァー

山城「や、やれば出来るじゃないですか／＼／＼ 次からはそう
やつて直接お願いします／＼／＼」ニヤニヤ

(何これヤバイわ♡ 幸せ過ぎて死にそう／＼／＼)

提督「と、取り敢えず、これからもよろしく頼む／＼／＼」

山城「は、はい、こちらこそ／＼／＼」ニヤニヤ

それから数日後ー

昼ー

◇執務室◇

コンコンー

提督「入りましたまえ」

カチャー

山城「お昼、作って来ました♡」

提督「ありがとう」ニツ

く夫婦仲良く昼食時間く

山城「どうぞ♡」つ玉子焼き

提督「うん」ムグムグ

山城「どうですか？」

提督「うん」ムグムグ

山城「直接、ですよ？」

提督「お、美味しい……」

山城「く♡」ニコニコ

◇執務室外◇

山城「提督、愛してます♡」

提督「う、うむ／＼／＼」

山城「直接……」

提督「あ、愛している……心から／＼／＼」

山城「く♡」ポワーン↑恍惚ポーズ

／ラブラブイチャイチャ＼

時雨「前より執務室に入りにくくなったね」ニコニコ

最上「前よりラブラブになったもんね」ニコニコ

扶桑「私もここまでなるとは思わなかったわ」フッフ

満潮「うざっ」チツ

朝雲「妬かない妬かない」ニガワライ

山雲「仲良し仲良しく♪」

それからも提督は直接、山城への想いを伝え続け、山城はその度に
幸せを実感するのであったー。

山城 完

伊勢とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇執務室◇

日向「提督、定時だ。もう帰る準備をした方がいいんじゃないか？」
提督「いや、まだこの書類の山が片付かないから駄目だ」カリカリ
日向「別に急ぎの仕事でもないだろう？ 早くしないと嫁さんが泣くんじやないか？」

提督「急ぎじゃないが、終わらせないと後が面倒なんだよ。それにあいつならそれくらいで泣かないさ」カリカリ

日向「なら良いが……」

提督「連絡も入れてあるし、大丈夫大丈夫」カリカリ

日向「そうか……しかsー」
バターン！

提督「何事!？」ギョツ

日向「ヤレヤレ

伊勢「提督う〜！ 帰りが遅くなるなら私も手伝う！ 家に一人で待つてるのなんて、イヤ！」

提督「ポカーン

日向「だ、そうだが？」チラツ

提督「はあ……おいで」ニコリ

伊勢「♡」パー

タツタツタツタツ……ムギュー

提督「こらこら、まだ仕事中だぞ」ナデナデ

伊勢「むう……提督のイジワル〜」

提督「意地悪と言われてもな」ニガワライ

伊勢「罰として私が良いって言うまでこのままね！」

〜膝乗りお姫様抱っこ〜

日向「伊勢が来たなら、私は上がって構わないか？ 二人の邪魔はしたくないからな」フツ

伊勢「良いよ良いよ♪ お疲れ、日向！」ノシ

提督「みたいだ……すまない日向。お疲れ様」ニガワライ

日向「ああ、お疲れ」ノシ

(今日の夕食は激辛担々麺で決まりだな……)

パターンー

伊勢「日向に気を遣ってもらっちゃったね♡」ギュー

提督「こんな状況になったら、誰もが日向みたいに気を遣うだろ

……」ニガワライ

伊勢「むう……提督は私がここに居たらイヤなの？」プクウ

提督「何もそんなことは言ってないだろ……」

伊勢「だってえ……」ウワメヅカイ

提督「」プチツ

ガバツ---

伊勢「きやつ」

提督「嬉しい決まってるだろ、コラッ！」ギユツ

伊勢「えへへ、やつぱりそうよね♡」ホールド

提督「伊勢……可愛いよ伊勢♡！」ホツペスリスリ

伊勢「んんっ、髭が痛いよ♡」ホツペスリスリ

提督「何言ってるんだ、いつも深剃りはするなって言うくせに」スリ

スリスリスリ

伊勢「えへへ♡ だってこれ、案外気持ちいいんだもん♡」キヤツ

キヤツ

提督「伊勢が言わなきゃ、すつきりと深剃りしてるよ」ニガワライ

伊勢「あはは♪ それはダクメ♡」ウインク

提督「分かってるよ」アハハ

「そんなこんなで仕事再開」

伊勢「提督」クイクイ↑まだ膝乗り中

提督「なんだく？」カキカキ

伊勢「もう十分経ったわよ。ん♡」クチビルサシダシ

提督「はいはい」チュツ

伊勢「むう、なんかぞんざいだった。やり直し！ んっ」クチビ

ルサシダシ

提督「つたく……ちゅっ」

伊勢「そうそうこれこれく♡」スリスリ

提督「カキカキ

伊勢「まだ終わらないの？」

提督「伊勢の目には書類の山が見えないのか？」カリカリ

伊勢「これそんなに大切な書類なの？」

提督「書類はすべて大切だ。これ一枚一枚が鎮守府みんなが働いた証になるんだからな」カリカリ

伊勢「提督は真面目だなあ〜」

提督「俺は伊勢達みたいの前線へは出れないからな。出てもただの的だ。なんの役にも立たない」サラサラ

伊勢「提督……」

提督「だからこそ、こうした書類仕事やみんなの体調管理は俺がやらなきゃならないんだよ。誰も辛い思いなんてさせられないからな」サラサラ

伊勢「提督のそういう所、私大好きよ」ギョツ

提督「ありがとう」サラサラ

伊勢「でも……」

提督「ん？」

伊勢「一人で無理はしてほしくないな。提督が倒れたりしたら私は勿論、みんなが悲しむんだから」ギョツ

提督「伊勢……」

伊勢「提督が私達の幸せを思ってくれてるのはすつごく嬉しい。でも、提督もちゃんと幸せになってくれなきゃ……」ギュー

提督「ふっ、何を寝ぼけたことを言ってるんだ？」

伊勢「酷っ！ 提督のことをおmー」

チユッー

伊勢「ちゅ……ちゅっ、んんっ……ていと、んう、んううう……んっ、ちゅっ、ん……はあはあ……提督？」トローン

提督「伊勢と出会って、沢山デートして、ケツコンして、今もこう

して一緒の時を過ごさせているんだ。幸せに決まってるだろ」ナデナデ

伊勢「本当？」ドキドキ

提督「この手の嘘はついたことないぞ、俺は」

伊勢「うん♡」ギョツ

提督「伊勢との絆が俺の幸せだ。今までも、これからもな」ギュー

伊勢「うん……ああ、提督、好き♡ 大好き♡」

提督「俺もだよ……伊勢のことが大好きだ」

伊勢「これからもっと幸せにしてあげるね♡」ニコツ

提督「それはこっちの台詞だ」ニシシ

伊勢「あ」キューーン

提督「ん？」

伊勢「……ううん。なんでもないわよ♡」

提督「怪しいな……言え！ 言うんだ〜！」ホツペスリスリ

伊勢「きゃん♡」キャツキャツ

伊勢（出会った頃から変わらない提督の悪戯っ子っぽい笑顔が私は好きでたまらない……）

提督「ほらほらく、早く教えろ〜！」スリスリスリスリ

伊勢「提督のイジワル♡」

伊勢（本当に愛してるわ……イジワルな旦那様♡）

伊勢 完

日向とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇食堂◇

伊勢「ん、今日の演習は日向が居たから楽ちんだったなあ」ノビー

日向「そうか……私も久々だったがかなり発散出来たよ」フフ

最上「今日は提督が子供見ててくれてるんでしょ？ もういくつになつたんだっけ？」

日向「三歳と七ヶ月だ。お父さん娘だから、今頃べったりか一緒に
お昼寝してる頃だろう」

伊勢「ふふ、すっかり母親の顔になつたわね♪」

日向「自分でも驚いているよ」フフ

龍田「二人目のご予定は？」ニコニコ

日向「どうかな……余裕があればその内って感じじゃないか？」

雷「今も変わらずラブラブだからそうなるのは近そうね♪」

電「なのです♪」

日向「そんなにラブラブか？」

伊勢「ラブラブじゃない……あれだけ仲睦まじくしておいて……」
ヤレヤレ

最上「この前も手を繋いで日向ぼっこしてるの見かけたし」

龍田「その前は埠頭で夕日を見ながら提督の肩にもたれかかってた
わよね♪」

日向「提督の隣は居心地が良いからな」ニマニマ

雷「ご馳走さま」ニガワライ

電「仲良しは良いことなのです」ニコニコ

龍田「あ、頼んだの来たみたいよ♪」

全員『いただきま〜す!』

艦娘女子会中

日向「そろそろ行くか……」スツ

伊勢「今度遊びに連れてきてね♪」

龍田「楽しみにしてるわ♪」

最上「今度こそボクはお姉ちゃんだつて教えなきや！」

雷「連れてきたらクッキー焼いてあげるわ」ニコッ

電「電は絵本を読んであげるので」ニコニコ

日向「ああ、その時は頼むよ。じゃあ、お先に」ノシ

◇提督と日向の部屋◇

ガチャー

日向「ただいま」パタン

提督「お帰り、久々の演習はどうだった？」

日向「なかなかだったな。君には気を遣わせてしまったな」

提督「なあに、嫁さんのことを気に掛けるのは普通だろ？」ニツ

日向「そ、そうだな／＼／＼」キュン

く提督の隣に座る日向く

日向「ひゆうがは寝ているのか？」

提督「ああ、ずっと遊んでてついさつき寝た所だ」

日向「『ちち！ ちち！』ってべったりだったろ？」

提督「まあな。でも大きくなったら『こっち来んな』とか言われる

んだろうな……」シクシク

日向「君は相変わらず話が極端だな」ハハ

提督「娘を持つ父親なら誰しもが通る道……出来ればまだ子供でい

て欲しいものだ」

日向「その内次が出来るさ」ボソッ

提督「え？」

日向「何でもない……あの子が起きるまで今日あったことを聞かせ

てくれ」

提督「ああ、良いとも。まずー」

く提督語り中く

提督「それでさあ」デレデレ

日向「ムスッ

提督「？ どうした日向？」

日向「私も君に抱っこしてもらいたいぞ」プクウ

提督「え」

日向「自分から聞いておいて何だか……娘に嫉妬してしまった。だが……私は君の君は私のだ！　いくら娘でも独り占めして良いのは私だけだ！」ギュー

提督「相手は子供じゃないか……」ナデナデ

日向「頭を撫でるくらいじゃ私の機嫌は直らん」ジトー

提督「拗ねた日向も可愛いな」チュツ

日向「んんん……もつとだ」クチビルサシダシ

提督「はは、良いとも……ちゅっ、ん……」

日向「あん……ちゅ、ちゅっ……んはあ……」トローン

提督「愛してるよ、日向」ナデナデ

日向「私も愛してる……私の全ては君のものだ」ゴロゴロ

提督「俺の全ては日向のだよ」ナデナデ

カラカラー

ひゆうが「ははがかえってきてる、おかえりなさい」クシクシ

日向「ああ、ただいま」キリッ

提督「良く寝れたか？」

ひゆうが「うん♪」ギユツ

提督「それは良かったな」ナデナデ

ひゆうが「ねえねえ、はは？」クイクイ

日向「ん？　どうした？」

ひゆうが「なんでにこにこしてるの？」クビカシゲ

日向「……別に、何もないぞ……？　特別なことは、何もないぞ……」

「ニマニマ

提督「お母さん……」ニガワライ

(顔がにやけているぞ……)

ひゆうが「へんなはは」キャツキャツ

日向「んんん？　どこがだくく？　何も変なことはないぞ……」ニ

マニマ

提督(さつきから、声と一緒に花が舞っているような物言いで、顔をにやけさせては説得力が無いな)ニガワライ

ひゆうが「へんだよ〜♪」

日向「そんなことないぞ〜?」「ニマニマ

提督（日向お前……誤魔化すつもりとか、ないだろ?）ニガワライ

日向「何もなかったよなー、お父さん?」

提督「お母さん……」

（巻き込まないで欲しかった……）

ひゆうが「むう……ちちからもなにかいってよ！ ははへんだよね
?」

提督（ほらこうなった……）

ひゆうが「ねえねえ、ちち〜」グイグイ

日向「お父さ〜ん♪」ギョツ

提督（どうすんのよ、俺!）

その後暫くの間、提督は嫁と娘にまどわり付かれていたと、次の朝
の『鎮守府日和（青葉監修）』（新聞）に掲載されていたー。

日向 完

長門とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督自室◇

提督「ふあく……良く寝た……」ノビー

長門「おはよう、朝食の用意は出来てるぞ」ニコツ

提督「おはよう。今着替えるよ」ゴソゴソ

長門「ん。着替えたら顔を洗って歯磨きもしてこいよ?」

提督「あいよく」ノシ

提督準備中

提督「いただきます」人

長門「いただきます」人

長門「どうだ?」

提督「うくん、この味噌汁だと朝からちよつと塩分が多いかな」ズズツ

長門「そうか……せつかく提督が私を選んでくれたのに、まだまだ提督の方が料理上手だとは……」クツ

提督「でも、十分だと思うよ? 長門は自分に厳しすぎるんだよ」

長門「そうやって甘やかさないでくれ。私はお前の嫁として完璧になりたいからな!」

提督(変に妥協すると怒るからいつも気になることは全部言ってるけど、そんなに気負うことないのにな……)

長門「次は今日入れた味噌の量より少し少なくしよう……それと……」ブツブツ

提督「なあ、長門」

長門「ん?」

提督「今日さ、仕事あんまり無かったろ? 終わったらデートしない?」

い?」

ドキッ

長門「お、おお。良いな! ケツコンしてからバタバタしてて逢い引きどころではなかったからな!」ニコニコ

提督「よし、決まりだ。早速仕事に取り掛かろう」ゴチソウサマ
長門「うむ、そうだな♪」ゴチソウサマ

◇提督自室内のドア前◇

提督「さて行くか！」

長門「待て」ガシッ

提督「おわっ！ 何だよ……っ!?」フリムキ

チュッー

長門「行つてきますの口付けを忘れるな……いつもしてくれる約束
じやなかったのか？」ギョッ

提督「お、おお、悪い……じゃあ……」スッ

長門「……」ジー

提督「長門もいつてらっしやい」ニコッ

チュッー

長門「ふふ、やはりこれは胸が熱いな／＼／＼」ニマニマ

提督「俺もだよ」ニコッ

昼前ー

◇執務室◇

長門「資材確認も終わったぞ。後は何かあるか？」

提督「長期遠征組も帰ってきたし、後は今やってる書類で終わりだ
から、休んでて良いぞ」

長門「そうか……では少し席を外しても良いか？」

提督「良いよ。何かあったら連絡するから」

長門「ああ、では少し席を外させてもらうな」ニコッ

◇食堂、厨房◇

長門「間宮、長門だが今大丈夫か？」

間宮「あら、いらっしやいませ。仕込みは終わってるので、大丈
夫ですよ♪ いつもので良いですか？」ニコッ

長門「ああ、すまない昼食をしに来た訳じゃないんだ。少し相談が
あつてな」

間宮「ええ、私で良ければ」ニコ

長門「すまない。実はー」

↳長門説明中↳

間宮「なるほど、仕事が終わったら提督とのデート。その仕事は丁度お昼時に終わりそうだから、お弁当を作りたいと……ふふふ、相変わらず仲良しですね♪」

長門「ちや、茶化さないでくれ……／＼／＼」カア

間宮「ふふふ。では、早速作りましょうか。私は側で待機してその都度アドバイスすれば良いんですね？」

長門「ああ、それで構わない。よろしく頼む」ペコ

↳長門料理中↳

……。

……。

……。

◇執務室◇

長門「すまない。今戻った」

提督「お帰り〜。こつちも丁度終わったとこだ」コキコキ

長門「そうか、お疲れ様」ニコツ

提督「ありがと……お昼食べてからデートに行こうか？ それとも街で何か食べる？」

長門「そうだな……街に行ってからにしよう」

提督「分かった。準備して行こうか」

長門「ああ」ニコ

↳夫婦移動中↳

◇公園◇

提督「まさか長門が弁当を作ってくれていたなんてな」ニコニコ

長門「そんなに喜んでもらえるなんて作った甲斐があるな」ニコニコ

ドンツー

提督「重箱か〜♪」

パカツー

提督「おにぎりにサンドイッチにおかず……どれも美味そう」ニコニコ

長門「ふふ、さあ食べてくれ」ニコツ

提督「いただきます！」

「おにぎり」

提督「うん！ 良い塩加減！ 中味がツナマヨなのもグッドだよ

♪」パクパク

長門「ふふふ、そうか」ニコニコ

「サンドイッチ」

提督「このハムレタスも美味い」♪」パクパク

長門「」ニコニコニコニコ

「おかず」

提督「あ、ミニオムレツ取って」

長門「分かった……ほら」つミニオムレツ

提督「ありがとう……あむ……うん、おにぎりにもサンドイッチにも

合うよ♪」ニコツ

長門「それは良かった」ニマニマ

◇公園の芝生広場◇

提督「なあ、本当にここでこうしてるだけで良いのか？」ゴロゴロ

長門「ああ、今はこうして提督と共に居れる幸せを実感していたい」

ヒザマクラー

提督「そっか……こうして二人でのんびりするの久しぶりだからな」

長門「ああ……♪」ニコニコ

提督「長門……」

長門「ん？」クビカシゲ

提督「愛してるよ」

キューン

長門「私も……愛しているぞ、提督」

提督「良いか？」ホツペナデナデ

長門「断る訳がないだろ」ニコツ
チュツー

提督「ははは……」

長門「ふふふ……」

長門
完

陸奥とケツコンしました。

某海域、昼下がりー

く艦隊、演習より帰投中く

長門「久し振りの敵艦との殴り合い、胸が熱くなつたな」ハツハツハツ

伊勢「長門は突出し過ぎだったわよ。私達のフォローが無かったら無傷では済まなかったはずよ。演習だったから良かったけど……」

日向「陸奥も良くフォローしていたがな。もう少し周りも見て戦ってくれ」

扶桑「今回のことを次に活かせば良いかと。取り敢えずは帰ってゆっくりしたいですね」ニコツ

山城「長門がもう少し考えて動いてくれば、姉様も私も変に被弾すること無かったのに……」フコウダワ

陸奥「」

長門「わ、悪かった……その点はちゃんと反省しているから勘弁してくれ」アセアセ

伊勢「この前の演習の帰りも出撃の帰りもそう言ってたけど？」ジト

山城「連合艦隊旗艦を務めた経験があると周りのことは無視してもいいんですね分かります」

長門「だ、だから悪かったって！」アワワ

／ギヤースギヤースく

陸奥「ハア

く陸奥は第三砲塔を撫でやり、ため息を吐くく

日向「おい、まだこの前の出来事を気にしてるのか？」

陸奥「日向……」

扶桑「気にしてしまうのも分かるけど、あれは不慮の事故よ。幸い提督のお怪我も軽かったし」

陸奥「でも……」

(私の不幸が提督に降りかかったせいで……)

◆回想◆

ドローン！

陸奥『爆発!?!』

長門『方角からして工廠だ!』

陸奥『っ!? 今提督は工廠に行ってるの!』

長門『なんだと!?!』

く二人は急いで工廠へく

◆工廠◆

く工廠前では既に多数の艦娘達が消火活動をしていたく

長門『状況は!?!』

大和『逃げて来た妖精さん達によると突然艦装が爆発を起こしたそうなの!』

陸奥『提督は!? 提督は無事なの!?!』

武蔵『顔と右手に軽い火傷を負ったくらいだ。今は他に怪我をした妖精達と共に医務室に運ばれている』

陸奥『そう……良かった……』

長門『では後は火を消すだけだな! 皆で手分けして鎮火するんだ!』

くそして数時間後に火は消え、爆発の原因を見つけたく

長門『これは……』

陸奥『私の艦装……』

大和『陸奥……』

武蔵『姉さん、今はそつとしておいてやれ』

陸奥『う、うう……うわあああああああ!』

長門『お前のせいじゃない!』

く長門、陸奥を強く抱きしめるく

陸奥『私のせいで……工廠が! 提督がああああ!』

長門『艦装のトラブルだ! それに提督の傷も浅い! 気を強く持

て!』

陸奥『あああああああ!』

。』

。』

◇現在◇

長門「――そんな顔をするな、陸奥」カタポンツ

陸奥「長門……」

長門「艦時代のお前の事故の辛さはお前にしか分からない。こう言つてはあれだが、今艦娘となつて蘇つた私達が持っているのはただの記憶に過ぎない」

陸奥「ウツムキ

山城「長門の言う通りよ。確かに私達は艦娘になつても軍艦だつた当時のことがステータスに反映されてはいるけれど、史実通りに沈んだりすることは無いわ」

陸奥「山城……」

日向「それにあの提督はそんなことで私達を轟沈させるような人間ではないだろう?」

扶桑「それは陸奥が一番分かつてるはずよ……ね?」ニコツ

陸奥「日向、扶桑……」

伊勢「愛しの提督にそんな湿気た面見せたら嫌われちゃうわよ?」ニシシ

陸奥「伊勢……そう、よね。うん、ありがとう」ニコツ

長門「うむ。ではさつさと帰つて提督へ報告しに行くぞ!」

全員『おお〜!』

陸奥「おお〜!」ニコニコ

陸奥（本当にありがとう、みんな……）
くそして艦隊は無事に帰投したく

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞ」

ガチャー

長門「失礼する。第一艦隊帰投したぞ」

提督「ああ、みんなお疲れ様。報告を頼む」

長門「心得た、まずはー」

く報告中く

長門「ーと言った具合だ。後で詳細をまとめた報告書を提出する」

提督「ん、ご苦労様。じゃあみんなは補給をしてゆつくりと休んでくれ」

艦隊『了解!』

提督「よし! では解散!」

くそして艦隊はドックや補給へく

提督(陸奥、少しは明るい表情になったな……長門達と演習に向かわせて良かった)

数十分後ー

ガチャー

陸奥「提督、ただいま。何か手伝ってほしいことある?」

提督「おう、おかえり。そうだな、少し手伝ってほしいな」

陸奥「なら手伝うわ」ニコツ

提督「じゃあ、ちよつとあっちのソファアに行こう」スツ

陸奥「?」

く陸奥、提督のすぐ隣へ腰掛けるく

提督「では、お邪魔します」ゴロン

陸奥「きやつ……もお、いきなりびつくりするじゃないの」ナデナデ

く提督、陸奥の膝枕を堪能く

提督「とか言いながら俺の頭を撫でてくれる陸奥、愛してる♪」ニコツ

陸奥「それはどうも♪」ナデナデ

提督「なあ、陸奥」

陸奥「なあに？」

提督「もう何度も言ってるけどさ、気にしなくていいからな、事故のこと」ホッペナデナデ

陸奥「ええ……」

提督「お前の運命は俺が変えるからな♪」ニカッ

陸奥「ふふ、そうね♡」ニコニコ

(ああ、忘れてたわ……)

◆回想◆

陸奥「え、私とケツコン!? 本気なの!？」

提督「俺はこんな冗談言わない主義なんだが？」

陸奥「でも、私は……」

提督「自分の不幸が俺に移るってか？」

陸奥「……………」

提督「なあ、陸奥」

陸奥「何？」

提督「自慢じゃないが、俺は自分のこと幸運の持ち主だと思ってるんだよ」

陸奥「何それ？」ムッ

提督「お前が不幸って言うなら、俺がその運命を俺の幸運で変えてやるよ」

陸奥「え」

提督「どんなに不幸な最期でも、艦娘になった今では関係ないって言うてんだよ。黙って俺とケツコンしろ。幸せで不幸どころじゃないくしてやるから」ニカッ

陸奥「最低なプロポーズね……」クスクス

陸奥「……でも、嫌いじゃないわ♡」ニコッ

提督「愛してる、陸奥。俺と幸せになろう」ギョッ

陸奥「ええ、提督と幸せになるわ♡」ギューッ

◆現在◆

陸奥（――今考えても、無茶苦茶なプロポーズよね♡）

提督「陸奥♡」

陸奥「は〜い？」

提督「今陸奥は幸せか？」

陸奥「ん〜……まあまあかしら？」

提督「ええ〜」

陸奥「だって私のトラウマ抉ったもの〜」クスツ

提督「それでも軽い火傷で済んだ俺の幸運を褒めろよ」ニガワライ

陸奥「幸運なら無傷じゃなきゃ♡」ウイंक

提督「手厳しいな」アハハ

陸奥「私の不幸を掻き消してくれるんでしょ？♡」

提督「勿論さ♪」

陸奥「約束、守ってね……一生をかけて♡」

提督「当たり前だ」ホツペナデナデ

陸奥「〜♡」

陸奥（本当はあんなことがあっても生きていてくれていただけで、

私は幸せよ♡）

陸奥（もつと提督と幸せになりたいから言わないけど♡）

陸奥「提督♡」

提督「？」

陸奥「愛してるわ♡」

提督「俺も愛してる」

そして夫婦は静かな執務室でそつと口づけを交わし、互いの幸せをより一層育んだ――。

陸奥 完

大和とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇埠頭◇

大和「↑艦隊の帰投待ち

やまと「あ、かえってきた！」

武蔵「無事、艦隊帰投したぞ」

大和「武蔵、お帰り♪ みんなもお帰りなさい♪」

やまと「たけぞう！ みんなく！ おかえりく！」 キャツキャツ

妙高「只今戻りました」ニコツ

羽黒「ただいまです。大和さん、やまとちゃん」ニコツ

能代「只今戻りました！」

沖波「無事に帰還しました！」

島風「たっだいまく！」ノシ

武蔵「やまとく！ ただいまく！ ほら、お土産に綺麗な貝殻沢山

拾って来てやったぞく♪」ドツサリ

やまと「きやく！ きれくい！ ありがとう、たけぞう！」ギューツ

武蔵「可愛い姪っ子の為だ、これくらいお安い御用だ♪」ナデナデ

大和「いつもありがとう、武蔵♪」

武蔵「姉さんにはたけぞうと呼ばれる筋合いはない」プイッ

大和「(・ω・)」シヨボーン

艦隊『ニガワライ

やまと「ねえねえ、おとうさんは？」

大和「あ、そうよ！ 提督は!？」

武蔵「大丈夫だ、安心しろ」ニガワライ

妙高「提督は最後尾で私達の安全を守ってくれていたの、もう少し後になるかと」

羽黒「でも長門さんと金剛さん。後は第十戦隊の矢矧さん、浦風ちゃん、雪風ちゃん、磯風ちゃん、浜風ちゃん達も一緒ですからご安心ください」ニコツ

大和「そう……」

やまと「おとうさんまだかな〜！」ワクワク

能代「やまとちゃんはお父さん大好きね」フフ

やまと「うん♪ だいすき♪」

沖波「司令官がデレデレしちゃうの分かるなあ」ニコニコ

島風「お母さんとお父さんだったらどっちが好き？」

やまと「どっちもだいすき〜！」ニパツ

大和「やまとったら♪」ニコニコ

武蔵（なんていい娘なんだ……）ニへへ

やまと「あ！ かえつてきた〜！ おとうさ〜ん！」ピョンピョン

提督「ノシ

大和「ホツ

〜そして艦隊は補給や修復作業へ〜

提督「ふう〜」

大和「お帰りなさい、あなた」ギユツ

提督「ああ、ただいま、大和」ギユツ

やまと「あ〜ん！ やまとも！ やまともぎゅーつてする〜！」

提督「ああ、やまと。ただいま」ギユツ

やまと「おかえり〜♪」ギューツ

大和「お昼まだですよね？ 出来てますよ♡」ニコリ

提督「ありがとう、早速頂くとしよう」ニカッ

やまと「おとうさんがかえってくるのまつてたの〜♪」ピョンピョ

ン

提督「それはすまなかつた。早く行くとしよう……それ！」カタグ

ルマ

やまと「わ〜！ しゅっぱ〜つ！」キヤツキヤツ

大和「ええ♡」ピトツ↑提督の左腕を取る

〜家族仲良く部屋へ〜

◇提督&大和夫妻の部屋◇

大和「やまと、お父さんとお手手洗ってきなさい」ニコツ

やまと「は〜い！ おとうさん、いこ〜！」グイッグイッ

提督「ああ、今行くよ」アハハ

〜家族揃って頂きます！〜

提督「それでは……頂きます！」人

やまと「いただきます〜す！」人

大和「いただきます♪」人

提督「ん、今日は大和の肉じやがが。実にウマイ」モツモツ

大和「ありがとうございます♡」ニコニコ

やまと「やまとね〜、にんじんさんたべられるの〜！ みてて〜！」

パクン

提督「お〜、偉いじゃないかやまと〜！」ナデナデ

やまと「えへへ〜♪」ドヤア

大和「ふふ、好き嫌いしないのはいいことよ♪」ナデナデ

やまと「うん♪」

大和「偉い偉い♪」ナデコナデコ

やまと「えへへ〜♪」

〜家族揃ってご馳走様！〜

提督「じゃあ私は執務室へ戻って、先程の出撃の報告書をまとめに

行ってくるよ」

大和「行つてらっしやいませ、あなた♡」ニコツ

やまと「いつてらっしやいませ〜」ノシ

〜。

大和「洗い物も終わったし、後は〜」

コンコン〜

大和「やまと、お願い」

やまと「は〜い！」テテテテツ

やまと「だれですか〜!?!」

武蔵『たけぞうおばちゃんだよ〜♪』

ガチャ〜

やまと「いらっしやいませ〜！」ニパッ

武蔵「お〜、やまと〜♪ 遊びに来たぞ〜♪」スリスリ

やまと「くすぐったいよ〜！」キヤツキヤツ

大和「いつもごめんね、やまとの面倒見てもらっちゃって」ニガワライ

武蔵「なくに気にするな。どうせ今日の午後は暇だからな♪」

大和「ありがとう」ニコッ

武蔵「それに私が見てないと夫婦二人きりになれないだろ？」ミミウチ

大和「／／／」ボンツ

やまと「おかあさんおかおまつかつかく♪」

武蔵「あはは、そうだなく、たこさんみたいだなく」ニヤニヤ

大和「／／／」カオカクシ

〜やまと、武蔵の部屋へ遊びに〜

大和「では、大和も提督のお傍に！♡」グツ

〜戦艦大和、抜錨！〜

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞ」

ガチャー

大和「失礼します」ヒョコ

提督「おく、どうした？何かあったのか？」

大和「やまとが武蔵と遊びに行ったので、提督のお手伝いに参りました…♡」エヘヘ

提督「それはありがたい、ならばこの書類をまとめてくれ」

大和「はい♡」ニコニコ

〜大和、甲斐甲斐しく働く〜

提督「いつもいつもありがとうな、大和。君のような嫁さんを持って、私はとても幸せだよ」ニコリ

大和「そんな…大和こそ、毎日提督のお傍に居られて幸せです♡」

提督「ははは、大和は本当に出来た嫁だ。私は果報者だな」ニカッ

大和「キューーン」

大和「そんな素敵なお顔をみせないでください♡／／／」ドキド
キ

提督「大和の前では常に素敵であろうと努力しているからな」アハ
ハ

大和「もお♡」キュンキュン

提督「大和、これからはずっとお前を愛しているよ」

大和「はい♡ 大和も提督と同じ気持ちです♡」

大和、提督にだいしゆきホールド♡

提督「こら、まだ仕事だぞ？／／／」ギョツ

大和「口ではそう言いながら、ちゃんと大和の体を支えてくれているではありませんか♡」スリスリ

提督「それはそうだが……この体勢は……／／／」
ぴくん……

大和「あら♡ 提督ったら♡」クスクス

提督「す、すまん……最近こうすることも無かったからな／／／」

大和「ふふ、大和でこんなにしてくれて嬉しいです♡」ミミチュツ

提督「や、大和っ／／／」ビクツ

大和「やまともそろそろ妹が欲しいでしょうし、そろそろ頃合いではないですか？♡」ミミペロペロ

提督「し、しかし、ここは執務室だ／／／」

大和「やまとの時もここでしたよ♡」ミミハムハム

提督「プチツ↑理性は墜ちた

グイツ↑提督、大和を強く抱きしめる

大和「あん♡」

提督「せめて布団は敷こうな」ホツペナデナデ

大和「はい♡」ギューツ

この後めちやく（ryー

その後、大和のお腹に後の次女ヤマトが宿るのであったー。

大和 完

武蔵とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督と武蔵の部屋◇

提督「武蔵」ユサユサ

武蔵「んうゝ……もう少し……」Zzz

提督「置いて行つちやうよ？」

武蔵「置いて行つちや、ヤゝ」ギユム

提督「ならそろそろ起きて支度してね」ナデナデ

武蔵「ん」リョウテヒロゲ

提督「はいはい……」グイッ

武蔵「ニヘー

提督「おはよう」ナデナデ

武蔵「おはよゝ♡」ゴロゴロ

ゝ朝食を済まし執務室へゝ

◇廊下◇

提督「そういえば、今日の出撃はちよつと遠かったよね？」

武蔵「うむ、提督と昼飯がともに出来ないが、任務じゃ仕方ないな」

↑目が覚めた

提督「頑張つてね。はい、これ」つ手提袋

武蔵「？」

提督「お弁当。今日出撃するみんなの分。武蔵のは一番下に入つて
るから」

武蔵「ありがとう」

提督「今回の海域は島が幾つかあるから、見張りを立てつつ交代制
で食べてね」

武蔵「了解した」

提督「頑張つてね」ニッコリ

武蔵「任せておけ」ニヤリ

◇執務室◇

提督「では、第一艦隊はこれより出撃任務へ向かってもらいます。もう既に攻略した海域であつても慢心せず、細心の注意をして任務にあたってください」

艦隊『了解』ケイレイ

提督「気を付けて行ってらっしゃい」

艦隊『行ってきます！』

◇出撃任務海域◇

武蔵「全砲門、開けっ！」

ドドーン！

金剛「Fire〜！」

榛名「勝手は榛名が許しません！」

バボーン！

利根「その艦もらったー！」

筑摩「水偵のみんな。着弾観測よろしくね」

ババーン！

〜完全勝利S〜

飛鷹「私の出番無かつた〜」シユン

武蔵「開幕爆撃で敵旗艦を屠つたではないか」ニツ

金剛「そのお陰で誰も被弾しませんでしたヨー♪」

榛名「はい♪ 飛鷹さんのお陰です！」

利根「島が見えたぞ〜！」

筑摩「敵影も見えません」

武蔵「なら昼飯にするか。提督からみんなの弁当を預かってきたぞ」

金剛「WOW♪ 流石タイトクネ〜♪」

榛名「榛名感激です！」キラキラ

飛鷹「嬉しいわね」ニコツ

利根「気が利くのう♪」

筑摩「帰ったらお礼を言わなくてはいけませんね」ニコニコ

く交代で昼食タイムく

利根「武蔵く、食べ終えたからお主と見張り代わるぞ」

武蔵「む、分かった。頼む」

筑摩「飛鷹さん、交代出来ますよ」

飛鷹「ありがとう。後はお願いね」

榛名「お姉さまお先に頂きました。後は榛名にお任せを」

金剛「了解ネく♪」

飛鷹「美味しい♪ 提督ったら、また腕を上げたわね」

金剛「Yum, yum!」パクパク

武蔵「プルプル

飛鷹「どうしたの? ……わあ、凄い力作!」

金剛「WOW! 何デスカ、そのlove love満点のお弁当!」

く武蔵LOVEと描かれたキャラ弁く

武蔵「よし、帰ろう!」

金剛「会いたいのには分かりますが、まだ任務が残ってマス!」グイッ

飛鷹「任務放棄なんてしないでよ!」グイッ

武蔵「離せっ! 私は今すぐ提督に会って、提督を抱きしめるんだ!」

金・飛『惚気んな、リア充!』

利根「また始まったの」ヤレヤレ

筑摩「お弁当の度にこれですからね」ニコニコ

榛名「もう恒例行事ですね」ニコニコ

く第一艦隊、無事帰投く

夕方ー

◇埠頭◇

武蔵「提督く♡」ダキッ

提督「わぷっ」

武蔵「ただいまく♡ みんな無傷だそく♡」ギュー

提督「お、お疲れ様……」ニガワライ

金剛「殆ど武蔵が一人で殲滅してマシタ」ニガワライ

榛名『私は提督に早く会いたいんだ〜！』つて叫びながら敵艦隊が瞬殺でしたね」ニコニコ

利根「提督からの弁当があると後半戦が楽で良いのじゃ♪」

筑摩「こちらは索敵してれば済みますからね♪」

飛鷹「ホント、あれが大和の妹だとは思えないわ」ニガワライ

武蔵「提督♡」グルグル

提督「目が回る〜〜！」アワワ

それから、その夜――

◇提督と武蔵の部屋◇

提督「ヒザマクラー

武蔵「提督♡ 提督♡」ゴロゴロ

提督「ナデナデ

武蔵「提督♡」ゴロゴロ

提督「武蔵は甘えん坊だね〜」ナデナデ

武蔵「提督にしか甘えないぞ♡」ニコニコ

提督「今日大和に普段の武蔵の事を話したら、笑ってたわよ」

武蔵「ん？ 姉さんが来ていたのか？」

提督「ええ、今日は大和が居る所の○●鎮守府と演習だったから」

武蔵「そうだったのか。元気にしていたか？」

提督「ええ、相変わらず向こうの提督さんと仲睦まじい様子だった

よ」ニコニコ

武蔵「相変わらずだなく。姉さんからの電文（ライン）は向こうの

提督との惚気話ばかりだから」ヤレヤレ

提督「武蔵は違うの？」

武蔵「私はそんな面倒なことほしくない」

提督（機械音痴だもんね……）

武蔵「私は提督との写真を送っているくらいかな」

提督「へえ〜、どんなの？」

武蔵「この前送ったのはこれだ」つまホ

提督「どれどれ……ふあっ!？」

く提督と武蔵のチュープリ(無修正)く

提督「な、なんでよりによってこんなの送るの!?／／／／／」

武蔵「惚気話に対抗したいから」

提督「対抗意識燃やさないで!／／／／／」

武蔵「良いじゃないか。減るもんじゃ無いし」

提督「減る減らないの問題じゃないよ!／／／／／」

武蔵「むう」

提督「そんな顔してもダメ!／／／／／」

武蔵「仕方ないなあ」

提督「ああいう顔は武蔵にしか見せたくないもん／／／／／」モジモ

ジ

武蔵「キューーン

提督「だかー」

武蔵「提督♡」ガバツ

提督「きやつ、ど、どうしたの武sーんうっ」

武蔵「ちゅっ……ん、ちゅちゅっ……んあ……ちゅっ」

提督「んんっ……んっ……む、ちゅっ、しゃし……んんっ」

武蔵「んはあ……私だけに見せる顔、もつと見せてくれ♡」

提督「いきなりなんだからあ……別に良いけど／／／／／」

その後、提督は武蔵に美味しく頂かれましたー。

武蔵 完

ビスマルクとケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇埠頭◇

ビスマルク「作戦終了、艦隊が母港に帰還したわ！」

女提「ん、お疲れ」

ビスマルク「ピクッ

女提「みんなもお疲れ様。全員入渠後、補給をしっかりとって次の作戦まで自由時間。以上解散」

艦隊『了解』ケイレイ

ビスマルク「ねえ、提督」ガシッ

女提「何？」

ビスマルク「今日の戦果は私が一番だったのよ？ みんなも居なくなつたし、良いのよ？ もっと褒めても」ドヤア

女提「はい、おめでとく」ナデナデ

ビスマルク「ムスウ

女提「まだ何かあるの？ まだ仕事があるんだけど」

ビスマルク「何でもないわよ！」フンッ

女提「？」クビカシゲ

◇ドック◇

ビスマルク「まったく……提督は私を何だと思ってるのかしら。私は提督の Verlobte（婚約者）なのよ。なのに……」プンスカ
プリンツ「ビスマルク姉さまどうしたんですか？」

レーベ「さあ？」

マックス「どうせまた提督にあしらわれたんでしょ」アキレ

グラーフ「それぐらいであんなに怒ってるの？」

ユー「アトミラールに構ってもらえないと、ビスマルク姉さんはいつもこう……」

グラーフ「嘆かわしいわね」アキレ

プリンツ「アトミラールさんは加賀さんみたいにクールな方ですか
らね」ニガワライ

レーベ「でも提督はビスマルクにだけは甘いよね♪」
マックス「甘いって言うか激甘よ」アキレ

ユー「なんだかんだで、いつもビスマルク姉さんにはいつも優しく
て柔らかい表情になるからね」ニコリ

グラーフ「つまりビスマルクの一人相撲なわけね」ヤレヤレ
プリンツ「ニガワライ

約二時間後ー

◇ドック前◇

ビスマルク『じゃあ、私は先に行くわね』

プリンツ『はい！ お疲れ様でした！』

レーベ『またね♪』

マックス『お疲れ』

ユー『ノシ

グラーフ『お疲れ様』

ガチャーー

ビスマルク「ビクッ

ゝ提督待機中ゝ

女提「入渠終わった？」

ビスマルク「……仕事があるんじゃないの？」プレイツ

女提「もう終わった。だからここで待ってたの」ウワメツカイ

ビスマルク「キyun

女提「補給まだでしょう？ 行きましょう」テギユツ

ビスマルク「し、仕方ないわね／／／／／　そこまで言うなら行って

あげるわ／／／／」ドキドキ

女提「うん」ニッコリ

ビスマルク「／／／／／」ズキューーーン

◇補給室◇

女提「あくん」つ弾薬

ビスマルク「あむ……」モツモツ
女提「あくん」つ燃料

ビスマルク「んっ……」ゴクゴク

女提「美味しい？」クビカシゲ

ビスマルク「ええ♪」キラキラ

女提「補給が終わったら甘い物食べようね」つ弾薬

ビスマルク「しようね……」ムグムグ

女提「今日はアップルパンケーキにしたから」つ弾薬

ビスマルク「たによしみにえ！」モグモグ

女提「」ニツコリ

ビスマルク「／／／」キュンキュン

◇食堂◇

女提「はい」つアップルパンケーキ

ビスマルク「いただきわ♪」キラキラ

女提「どうかな？」ノゾキコミ

ビスマルク「おいひいわ！」モキュモキュ

女提「良かった」ニツコリ

ビスマルク「ええ♪ ……？」

女提「？」クビカシゲ

く提督の指に絆創膏く

ビスマルク「それどうしたの？」

女提「これ？ 書類の紙で切ったの」

ビスマルク「ドジね。気を付けなさいよ？」

女提「」コクリ

女提「あ、そろそろ遠征組が戻ってくるから戻らないと……」

ビスマルク「そう、なら行きなさい。私もこれを食べ終えたら執務

室へ行くわ」モツモツ

女提「分かった。じゃあ、後でね」

ビスマルク「ええ」

くそれからビスマルク完食く

ビスマルク「美味しかったわ。さて、食器を戻して私も執務室へ行きましょう」キラキラ

ビスマルク「間宮、食器ここへ置くわね！」

間宮「は〜い。あ、ビスマルクさん」

ビスマルク「？」

間宮「提督さんの指、後で医務室で手当してもらおうように言ってもらえないかしら？」

ビスマルク「良いけど、紙でそんなに深く切ったの？」

間宮「え、紙？」

ビスマルク「ええ、書類の紙で切ったって聞いたわ」

間宮「あ、あく、そうだったの〜」ニガワライ

ビスマルク「間宮、何を隠してるの？」

間宮「実はあの切り傷は、アップルパンケーキを作ってる時に負ったの……」

ビスマルク「え」

間宮「ビスマルクさんが今日の出撃で小破したのが心配で、リンゴの皮を剥いてる時に結構深く切ってしまったの」

ビスマルク「」

間宮「きつと提督さんはビスマルクさんに心配をかけないように誤魔化したのね……まあ、こうして私のせいでバレちゃいましたけど」ニガワライ

ビスマルク「気にしないで、間宮。D a n k e !」

間宮「え、ええ」

◇執務室◇

バタン---

女提「お帰り」

ビスマルク「遠征組は？」

女提「報告を終えて休ませたわ」

ビスマルク「そう……なら丁度良いわ」スチャ医療箱

女提「？」クビカシゲ

ビスマルク「指を見せなさい。特別に私が手当してあげるわ」
女提「ありがとう」ニコリ

ビスマルク「最愛の人を氣遣うのは当たり前でしょ／／／」ドキ
ドキ

女提「それでも、よ」ニッコリ

ビスマルク「／／／」キュンキュン

くビスマルク、手当中く

ビスマルク「こんなものかしら」ドヤア

女提「ありがとう」ニコリ

ビスマルク「次からは氣をつけなさい」

女提「ええ」ニッコリ

ビスマルク「Ihr Kärper ist nicht nur

für Sie allein. (あなたの身体はあなた一人だけ

のものではないのよ)」ボソツ

女提「」

ビスマルク「心得ておきなさい／／／」プイッ

女提「ビスマルク」クイクイ

ビスマルク「何……っ!？」

チュッー

女提「ちゅっ……んっ……んん……」

ビスマルク「あん……んんく……ちゅっちゅ……な、何なのいきなり!
!?!?!」ドキドキ

女提「ich koennte dich nicht mehr
lieben. (私はこれ以上ないほどあなたを愛してる)」ニコリ

ビスマルク「あ、当たり前でしょ／／／」カア

ビスマルク(ich bin total kluecklich

♡ (最高に幸せ♡))

ビスマルク 完

カヴァールとケツコンしました。

某鎮守府、早朝――

◇執務室◇

カヴァール「今日は休むわよ!」ドドン

提督「執務は?」

カヴァール「最近執務の進みが遅い!」

提督「最近忙しいからね」

カヴァール「でも休みなく二週間も働き詰めよ! 休むことも任務だわ! とうか、休みも取らないから仕事の効率が落ちるのよ! だから今日はお仕事禁止! はい、ペンは置く!」

提督「あ、ああ……はい」

カヴァール「Bravo! 次は両手を広げなさい!」

提督「は、はあ……こう?」

カヴァール「♪」ムギユツ

カヴァール、提督に抱きつく

提督「わっ、ど、どうしたんだ?」

カヴァール「ハグは癒やし効果があるのよ? あんたのだーい好きなわしがハグしてやったんだから、癒やされるでしょ?」

提督「あー、うん……」

カヴァール「ただカヴァールが提督とイチャイチャ出来なかったから、したいだけである」

カヴァール「任務も大切だけどねえ……やっぱり毎日十二時間は夫婦としての時間が必要だと思おうわ」スリスリ

提督「半日もこうしてたらクビにされるよ、俺……」

カヴァール「そうされないだけの戦果はあげてるはずでしょ?」

カヴァール「提督の階級は元帥なので、クビはほぼない」

提督「ん、分かった」

カヴァール「よろしい!♡」スリスリ

提督「あはは」ニガワライ

(最近本当に二人の時間つての無かったし、カヴァールも寂しかったんだな)

カヴァール「じゃああと五分ハグしたら、艦隊に休暇命令の放送するからね！」

提督「よろしく」

カヴァール「任せて♡」

◇中庭◇

カヴァール「んく、これよ。この時間をわしは待ってたのよ」ゴロゴロ

提督「カヴァールは膝枕好きだね」ナデナデ

く昼間から中庭のベンチでまったりとラブラブする夫婦く

カヴァール「いやいや、あんたの膝枕つて魔性だからね？ 太ってるからいい肉枕なのよ。だから痩せたら許さないわ」

提督「んく、周りからは痩せなって言われてるんだけどな」

カヴァール「そんなの従わなくていい。現に健康的に生活させつつ、このムチムチボディをキープさせているわしの手腕を褒めてほしいくらいよ」

提督「カヴァールのお陰で健康診断で引つかかることないからね。メタボ以外」

カヴァール「あんたが痩せないと死んじやうってならない限りは今をキープよ♡」

く腹の肉を揉みしだきから微笑むカヴァールく

提督「くすぐりたい」ナデナデ

カヴァール「わしはくすぐったくないわ♪」ムニムニ

提督「カヴァールを落としちゃうからやめて」

カヴァール「そんなチワワみたいな目をするの、卑怯よ……まったく♡」

提督「やめてくれてありがと。そういえばそろそろ——」
ぐう

く提督の腹が鳴るく

カヴール「時間に正確な身体ね♪」クスクス

提督「あはは……／＼／＼／」

カヴール「今日もちやくんとわしが愛情たっぷりの手料理をご馳走するから、楽しみに待ってなさい♡」

提督「うん、楽しみにしてるよ」

カヴール「たくさん食べて肥えるのよ♡ わしの癒やしのために♡」

提督「はいはい」ニガワライ

◇食堂・テラス席◇

カヴール「こつちがレバナニラ炒め。それとこつちがモツ煮。うなぎの蒲焼きに、アジフライでしょ。それとサバの味噌煮とサラダはあなたの好きなブロッコリー炒めよ！」

提督「おお……！」

カヴール「スタミナもぼつちり回復しないとね♪ ライスとパンどつちがいい？」

提督「どつちも！」

カヴール「ん！ どんどん食べなさい！♡」

提督「いただきまーす！」人

く提督、迷わず最初はブロッコリー炒めに箸を伸ばすく

カヴール「ふふふ、本当にブロッコリー炒めが好きね……あんた」

提督「いやあ、俺ブロッコリーって大嫌いだったけど、これならバクバク食えるんだよなあ」

カヴール「嫌いなのによく初めてご馳走した時に食べてくれたわね？」

提督「人生初の嫁の手料理を残すとか死刑じゃん。死刑。でも食べた瞬間に本当に美味くてブロッコリーを侮ってたよ」

カヴール「ブロッコリー炒めって言うてるけど、エビとじゃがいもにんにくと鷹の爪をオリーブオイルと塩コショウで炒めただけの簡単レシピなんだけどね」

提督「いやいや、本当に美味しいよこれ」

カヴール「良かった♡ あ、ご飯粒ついてる……可愛いんだから……はい、取れた。はむっ」

♪夫婦の激甘空間にテラス席は立ち入り禁止の看板が設置された

提督「あはは、これはお恥ずかしい」

カヴール「可愛いからいいわよ♡ それよりもっと食べて♡ わしはあんたが美味しそうに食べてるところを見るのが大好きなんだから♡」

提督「うん」

カヴール「なんかあんたの顔を見ながら食べるご飯って最高に幸せだわ♡」

提督「俺も同じ気持ちだよ」

カヴール「まあ当然ね♡」ニコニコ

提督「……カヴール」

カヴール「ん？ なぁに？♡」ニッコリ

提督「……これからもずっと愛してるよ」

カヴール「あはっ♡ わしも愛してるわよ♡」

その後も夫婦は鎮守府に砂糖砲撃をこれでもかと思舞ったため、翌日の出撃は皆ワンパンKOの嵐だったという――。

カヴール 完

イタリヤとケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&イタリヤの部屋◇

イタリヤ「Fratte^{イタ}lia^{リヤ}の^はdesta^{今目}ta^{覚め}♪」

「イタリヤ、伊国歌を歌いつつ料理中」

イタリヤ「……」ペロツ↑味見

イタリヤ「Buono^{美味しい}♪」

「そしてイタリヤは提督を起こしに寢室へ」

◇寢室◇

カチャー

イタリヤ「Amore^ダmino^リ♡朝よ♡」

提督「(☒ω☒)」スヤア

イタリヤ「ふふ、carino^{可愛}♡」キユンキユン

のしっ↑イタリヤ、提督のベッドへ乗る

イタリヤ「Amore mio♡起きて♡」ホツペチュツチュツ

提督「ん……あく、イタリヤ……おはよう」ムクリ

イタリヤ「Buono^{おはようございます}giorno♡」ホツペチュツ

提督「顔洗ってくる……」

イタリヤ「むっ」

提督「え?」

イタリヤ「何か忘れてなあい?」ジーツ

提督「ごめん……おはよ」ホツペチュツ

イタリヤ「Bravo^{素晴らしい}♡」ウインク

提督「そりやどうも//」

イタリヤ「♡」ニコニコ

「そして夫婦揃って朝御飯」

提督「頂きます」人

イタリア「召し上がれ♡」

「テーブルには和食が並べられていた」

提督「イタリアも大分日本に慣れたね。最初は朝から野菜とかお米食べなかったのに」

イタリア「郷に入つては郷に従え……慣れば何てことないわよ♪それに日本食って美味しいもの♪」

提督「そっか……なら良かったよ。無理を強いていたら悪いからね」

イタリア「ふふ、優しいのね♡ そんな所もス・キ♡」ウインク

提督「はは、どうも／＼／＼」

イタリア「♡」ニコニコ

「そして食後の一服」

提督「そういや、食後のエスプレッソも当たり前になったな」シミジミ

イタリア「ふふふ、提督をイタリア色に染めちゃった♡」ポツ

提督「俺は初めて会った時からイタリアに首つたけどよ」ハハ

イタリア「嬉しい♡ 私も提督に夢中よ♡」チュツ

イタリア「朝の提督とのキスはいつも通りエスプレッソの味ね♡」

提督「イタリアの味は甘いエスプレッソだな／＼／＼」ナデナデ

イタリア「だって苦いの嫌いだもん♡」

提督「なら俺との今のキスは嫌いか？」

イタリア「嫌いじゃないわ♡ 私のキスで提督のお口を甘くしてあげてるの♡」チュツチュツ

提督「そ、そうか／＼／＼」

イタリア「♡」チュー

提督「／＼／＼」

(キスされ過ぎて唇がふやけそうだ／＼／＼)
「甘い朝食を終えて夫婦は執務室へ」

◇執務室（和室仕様）◇

提督「さて、今日もやるか」キリッ

イタリア「♡」ドキッ

イタリア「……………今日は何からやります?」

提督「イタリアは資材数の確認して、艦装開発をしてくれ。出来ればタービンが欲しい。それが終わったら一度報告に執務室に戻って来てくれ」キリリッ

イタリア「了解です♡」キュンキュン

(仕事モードの提督ってス・テ・キ♡／／／／)

夫婦、それぞれの仕事を開始!」

◇資材庫◇

イタリア「んくと……………燃料が五万……………弾薬七万……………」カキカキ

ザラ「あ、イタリアさん、Buon giorno!」

イタリア「あら、ザラちゃんにポーラちゃん。Buon giorno no♪」

ポーラ「Buon giorno♪」ニパー

イタリア「あら、ポーラちゃん今日はちゃんと制服着てるのね」

ポーラ「そうなんですよ、ザラ姉えさまがちゃんと着なさいってすぐに怒るから」チラッ

ザラ「ポーラがすぐに胸元とか開けるから怒るの!」

ポーラ「え……………ポーラは大丈夫なのに」

ザラ「アタマカカエ

ポーラ「ポーラもアイオワさんとか摩耶^{マヤ}達みたいな制服が良かったな」

イタリア「あはは、ポーラは相変わらずね♪ ザラ、頑張ってるね」
ナデナデ

ザラ「はい、頑張ります」ニガワライ

ポーラ「なら、ポーラも頑張る」ニヘラ

イタリア「クスクス

イタリアはそれから次のお仕事へ」

◇工廠◇

イタリア「んくと……………提督はタービンが欲しいって言ってたから

使う資材は燃料100／弾薬251／鋼材250／ボーキ10で行きましよう」カチカチ

ローマ「あら、姉さん。秘書艦のお仕事？」

リベツチオ（以降リベ）「Buon giorno!」ニパー

イタリア「Buon giorno, 二人共♪ そうよ。二人は艀装の整備？」

ローマ「Buon giorno……ええ、やはり自分の艀装は自分でメンテナンスしたいから」

リベ「リベはお手伝いするの♪」

イタリア「ふふ、怪我しないようにね」ニコッ

ローマ「Grazie. そうするわ」

リベ「Grazie♪」

くそしてイタリアは仕事を終え、執務室へく

◇執務室◇

ガチャー

イタリア「只今戻りましたく」

提督「ああ、おかえり。報告を頼む」

イタリア「はい、まず資材ですがー」

くイタリア、報告中く

提督「そうか……タービンが二つ出来たか。ありがとう、これでまた戦略に幅が出るよ」ニカッ

イタリア「っ……どう、致しまして♡／／／」ドキドキ

（そんなにステキな笑顔見せないで♡／／／）キyunキyun

提督「ならイタリアは少し休憩してくれ。この書類が終わったら書類の整理を頼む」

イタリア「了解しました♡ では休憩させてもらいますね♡」

くイタリア、提督を後ろから抱きしめるく

提督「やはりこうなのか／／／」

イタリア「和室つていいですよね♡ 椅子が無いからこうして後ろ

から提督を抱きしめられるんだもの♡」

提督「そうか……／＼／＼」カキカキ

(煩惱退散煩惱退散煩惱退散煩惱退散煩惱退散ー)

イタリア「ねえ、提督……♡」

提督「どうした?／＼／＼」

イタリア「Ti 私 の こ と 好 き
p i a c c i o ? ♡」

提督「もちろん／＼／＼」

イタリア「ならちやんと言葉で言つて♡」ホッペスリスリ

提督「／＼／＼」

イタリア「早く♡」アタマガリグリ

君 提
「Tu sei la donna della mia vita
／＼／＼」

イタリア「♡」ギョーツ

イタリア「提督♡」

提督「今度は何だ?／＼／＼」

イタリア「Baciami♡」

提督「／＼／＼」チュツ

イタリア「Baciami ancora♡」

提督「キス魔め／＼／＼」チュツ

イタリア「提督にだけだもん♡」ギョーツ

イタリア (Sono pazza di te♡)

その後もイタリアは提督に何度も何度もキスをねだり、提督はその都度ちやんとキスをしてあげていたそうなー。

書類へ早く書けよ!

イタリア 完

ローマとケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇艦娘宿舎の一室◇

金剛「ドーン

榛名「ドーン

ローマ「いきなり人を呼び出して何かしら？」

比叡「ちよつと、霧島！ 本当に大丈夫なの!？」ヒソッ

霧島「(ここは二人のやりたいようにやらせましょう。何かあれば

私が止めますから)」ヒソヒソ

比叡(大丈夫かな)ハラハラ

霧島(大袈裟なんですから……)ニガワライ

金剛「ローマ……アナタ、テイトクと先日ケツコンしましたネ？」

ローマ「ええ、そうね。普通に指輪を渡されただけ……」

榛名「何ですか、その言い草は？ 提督の想いを受け取って何も思

わないんですか？」

ローマ「な、何も思わないはずないでしょ!? ただ、もう少し雰囲気

気というか……ムードがあれだっただけで……」

金剛「どんな風に指輪を貰ったんデスカ？」

ローマ「な、何で貴女達にそんなことをー」

榛名「それは金剛お姉さまと榛名の気持ちを知っているローマさん

なら分かるはずですよ！」クワッ

ローマ「」

金剛「ローマ……アナタはワタシと榛名の想い人とケツコンを果たした唯一の艦娘ネ……理解しているはずデス」

ローマ「だ、だからっていきなり……」

榛名「私達は提督を心から慕っていました……なのに提督は、ローマさんとケツコンした……」

金剛「ならば！ その時の話を聞かせるくらいしてもいいと思うのデス！」

ローマ「……何でそんなに聞きたがるのよ？」

金・榛『その時の話を聞いてせめて妄想だけでも幸せに浸りたいからデース(です)！』

ローマ「(□□□)」「ハ？」

霧島「ごめんなさい、ローマ」ニガワライ

比叡「金剛お姉さまと榛名の為にもどうかお願い致します！」フカブカ

ローマ「……はあ、分かったわよ」ヤレヤレ

金剛「Thank you ローマ！ では榛名！」

榛名「はい！ ボイスレコーダーの準備は万全です！」フンスフンス

金剛「Excellent！ 比叡！」

比叡「はい！ ローマさんにエスプレッソを淹れて参りますね！」フンスフンス

金剛「Brilliant！ 霧島！」

霧島「エスプレッソのお供にチョコレートをご用意しました」ニガワライ

金剛「Perfect！ ではローマはこちらの椅子に掛けてお待ちちくだサイン♪」

ローマ(包み隠さずありのままを話そう……同じ男性ヒトをかけて争った戦友トモなのだから……)

くそしてローマは提督とのお話を包み隠さず話したく

約一時間後ー

ローマ「ーとまあ、こんな感じだったわ。そろそろ帰ってもいいかしら？ 姉さんに仕事を任せたままで心配なのだけど？」

霧島「ええ、大丈夫よ。わざわざありがとう♪ 今度お礼にワインを贈るわ」ニコツ

比叡「ありがとうございます！ どうか司令とお幸せに！」

ローマ「ありがとう……／／／／」

榛名「素敵なお話をありがとうございました♪」ペコリ

金剛「Forever Happy♪」ウインク

ローマ「ええ……それじゃ／＼／＼」ノシ
くそしてローマは部屋を去ったく
金剛「（。▽。）。：：。」サトウダバー
榛名「（。△。）。：：。」サトウブシヤー
金・榛『想像以上に甘過ぎデス（です）！』コーヒーイツキ
比叡「ニガワライ
霧島（取り敢えず無事に済んで良かったわ……）ホツ

昼ー

◇執務室外・ドア前◇

ローマ（少し遅くなっちゃった……姉さん、提督のお手伝いちやんと出来てるかしら……）

イタリア『提督！ 早くく！ 早くしないとローマが帰ってきちゃうから！』

提督『わ、分かったからそう急かすなよ……』

イタリア『もう！ しっかりしてよね!？』

／ヤイノヤイノ＼

ローマ（まさか姉さんが提督に迫ってる!?!）

バーン!

ローマ「姉さん！ 私の提督に何をしてー」

提督「あ」

イタリア「来た来た♪」ニヤツ

ローマ「いるの……?」

く提督、手にはバラの花束（十二本）く

ローマ「???」コンワク

提督「／／／」カー

イタリア「ふふ、頑張つてね提督♪」ウインク

くイタリア、その場から笑顔で去るく

ローマ「提てー」

提督「ローマ、この花束を君へ」つ花束

ローマ「あ、ありがとう……／／／」

「Io continuo a vivere insieme」
ローマ「な、な、な／＼／＼」ボンツ

提督「先日のプロポーズの話をイタリアにしたら『もつとちやんと言葉にしてあげて！』と言われてな……だからこうして改めてその……／＼／＼」

ローマ「ふふ、あはははは」

提督「わ、笑わないでくれよ／＼／＼」

ローマ「うふふ、ごめんなさい……ただ前のプロポーズは『君にこれを』って言つて、指輪を渡したただけだったのに、いきなりこんな素敵なプロポーズに変わったからおかしくて」クスクス

提督「す、すまない／＼／＼」

ローマ「本当にどうしようもない人ね、貴方は♡」クスクス

提督「すまぬー」

ちゅっ♡↑ローマ、提督の唇を奪う

ローマ「素敵なプロポーズを二度もしてくれて嬉しいわ♡」

提督「ローマ……／＼／＼」

ローマ「これはまた金剛達に話すことが増えたわ♡」ボンツ

提督「え？」

ローマ「こつちの話よ♡ それよりもつと強く抱きしめて……私が

貴方のものだと分かるように……♡」ヒシツ

提督「あ、ああ／＼／＼」ギユーツ

ローマ「ん♡ Ti Amo♡」

提督「俺も愛してる……ローマ」チュツ

ローマ「んっ……んっ……ちゅっ……っ……んはあ♡ ふふ♡」

ギユーツ

ローマ (Tu sei mio per sempre♡)

そして二人はより一層強く結ばれたー。

ローマ 完

ネヴァアダとケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇中央広場◇

ネヴァアダ「ハアイ、夢と希望に溢れたキッズたち！ 今日に来てくれてThank you♪ アタシが今日ガイドを担当する戦艦ネヴァアダよ♪」

子どもたち『こんにちはー！』

「今日は鎮守府で行われる地域の小学生たちの見学会」

引率教師「本日はよろしくお願い致します」ペコリ

提督「こちらこそ。私はあいにく同行は出来ませんが、妻が案内する場所ならば自由に見学してくれて構いませんので、これをきつかけに艦娘たちがどんな存在なのか知ってもらえたら幸いです」

担任教師「きつと子どもたちもいい思い出になるかと」

ネヴァアダ「ちやーんとアタシの言うことを聞くのよ？ 安全な場所しか案内しないけど、言うことを聞いてくれないと大変なことになりちやうからー！」

男の子「大変なことってなに？」

ネヴァアダ「ケガよ、ケガ！ 転んだり、アタシたちの誰かとぶつかったりしたら大変なもの！」

子どもたち『はーい！』

「そんなこんなで鎮守府見学会が始まった」

◇砲撃訓練場◇

ネヴァアダ「ここが砲撃訓練場よ。あの先に浮かんでる的に当てるの。今はただ浮かべてあるだけだけど、動かして使うこともあるわ」

男の子「すげえ！」

女の子「あんなに遠いところに当たるのかなあ？」

ネヴァアダ「ふふっ、そう思うでしょう？ でもちやーんと当たるのよ？ そうじゃないとみんなを深海棲艦たちから守れないもの！」

「ネヴァアダがそう言って手を叩くと、大和と武蔵が訓練場へやって

きた〜

男の子「スゲー！スゲー！ 戦艦大和だ！」

男の子「武蔵もいるぞ！」

ネヴァアダ「これからあの二人が砲撃訓練を見せてくれるから、よおく見ておくのよー？ それと音が凄いから、配った防音イヤーマフをちゃんと装着してね」

子どもたち『はーい！』

〜大迫力の砲撃訓練を目の当たりにして、子どもたちは大興奮だった〜

◇航空隊訓練場◇

ネヴァアダ「さつきと似てるけど、ここは空母の艦娘たちが訓練する場所よ。A Iドローンを相手に航空機部隊で制圧したり、さつきの砲撃訓練に使った的に命中させたりするの」

男の子「今度は誰が来るの!？」

女の子「早く見たい見たーい！」

ネヴァアダ「あらあら、せっかちねえ♪ まあいいわ！ カモーン！」

〜ネヴァアダに言われて姿を現したのは、赤城・加賀の一航戦とサラ

トガ&ホーネットの四名〜

子どもたち『わあ〜！』キラキラ

ネヴァアダ「今日は航空機部隊の戦闘訓練を二手に分かれて行ってもらうわ。見やすいように各艦娘たちの視野が共有されるこのモニターがあるから、見えにくかったらこのモニターを見てちょうだい」

子どもたち『はーい！』

〜この訓練の見学も子どもたちはとても大興奮した〜

それから――

◇中央広場◇

ネヴァアダ「あつという間にお別れの時間ね！ 今日楽しめたかしら？」

子どもたち『はーい♪』

ネヴァアダ「Very Good♪ 今後もアタシたちはみんなが安心して暮らせるように頑張るからね！ でも、お勉強もちゃんとする

るのよ?」

子どもたち『はい!』

引率教師「それではみんな、声を揃えて……せーの!」
子どもたち『今日はありがとうございました!』

ネヴァダ「気をつけて帰るのよー!」

くこうして子どもたちはみんな笑顔で順番にネヴァダとタッチして帰っていった

提督「案内役、お疲れ様だったな。ネヴァダ」

ネヴァダ「あら、ダーリン♡ 迎えに来てくれたの?♡」

提督「いや、工場帰りだ」

ネヴァダ「んもう! そこは嘘でも迎えに来たって言うところでしょ!」

提督「嘘は良くない」

ネヴァダ「真面目なんだから……」ニガワライ

提督「俺に面白味を求めてはいけない」

ネヴァダ「それもそうね……とりあえず、一緒に執務室に戻りましょ♡」

提督「腕を組む理由は?」

ネヴァダ「ダーリン成分の補給♡」

提督「……可愛らしい補給だな」

ネヴァダ「うふふ♡」

くこうして夫婦は仲睦まじく残りの業務を終えた

すっかり日が暮れた夜――

◇執務室◇

ネヴァダ「はあく……今日は色んな子たちがいて大変だったけど、みんな可愛かったわ♪」

提督「それは良かったな……」

ネヴァダ「アタシも子ども欲しくなっちゃった♡」

提督「随分とストレートだな」

ネヴァダ「ダーリンはストレートに言わないと伝わらないでしょ

？」

提督「それもそうだな」

ネヴァアダ「で、どう？♡」

「ネヴァアダは自身の胸元をチラリと見せて、提督を誘う」

提督「俺に父親が務まるか分からん。覚悟も足りない」

ネヴァアダ「そんなのアタシだってそうよ。でも軽い気持ちで欲し
いって言ってるんじゃないの。ダーリンと一緒に絶対がいい親に
なれると思うし、なりたいの」

提督「そうか……」

「提督は決意した」

◇長官官舎・寝室◇

ネヴァアダ「はあ……はあ……はあ……はあ、You are too go
od to be true♡」

訳）あなたは最高過ぎる

提督「焼き付けたのはネヴァアダだろう？」

ネヴァアダ「そ、そうだけど……激し過ぎるというか……ああ、まだ
足腰に力が入らないわ……」

提督「出来るまで毎晩するぞ」

ネヴァアダ「え」

提督「ん？」

ネヴァアダ「ううん、なんでもない♡」

（バイバイ、これまでのアタシ……ハロー、新しいアタシ）

提督「大丈夫か？」

ネヴァアダ「ええ、大丈夫よ♡ それよりも早く会いたいわ♡」

提督「私もだ」

こうして夫婦は新しい家族を迎え、より幸せに過ごした……が、夜
はとても激しくなったそう――。

ネヴァアダ 完

コロラドとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇艦娘宿舎・談話室◇

コロラド「アドミラルからの愛がほしい」ドドン

アイオワ「What?」

サラトガ「Why?」

イントレピッド「Fuck you」チツ

長門・陸奥・ネルソン『……』ニガワライ

サラトガ「イビルアイ落ち着いて……。それで、いきなりどうしたの?いつものバッキングブロンコらしくないよ?」

コロラド「あ、ああ……なんだ、その……私はアイツとメオト?になつて随分経つ、よね?」

長門「そうだな。来月で1周年じゃないか」

陸奥「傍から見てた限り、何も問題無さそうだったけど?」

ネルソン「長門たちの言う通りだ。まあ、余としてはアドミラルがお主にだいたい振り回されているように見えるがな……それはそれで数あるカップルの一つの形であろう」

アイオワ「流石はバッキングブロンコ(荒馬)ってとこよね!」アハハ

コロラド「仲はまあ、皆が言うように悪くないと自負してるよ。でも、アドミラルはこの私をケツコン後も遠ざけているみたいで……」
イント「ケツコンしてるだけじゃない。私なんてどんなにアプローチかけても、その指輪を貰えなかったのに」ジトツ

コロラド「つ……そ、そう言わないで。わ、私だって、遠ざけられてると思っていたのに、選んでもらった時は本当に驚いたんだから」モジモジ

イント「うつれしそうにキラッキラした笑顔で自慢された記憶しかないのだけど?」ジトツ

コロラド「くくっ」ジワッ

くコロラド、泣きべそになってアイオワの胸に逃げ込むく

アイオワ「ヨシヨシ……イビルアイ、気持ちは分かるけどそれくらいにしなさいよ」

イント「……ソーリーソーリー」フンツ

アイオワ「もう」ニガワライ

サラトガ「話を戻して……提督に避けられているのをなんとかしたいってことでいいのよね？」

コロラド「コクコク

ネルソン「くだらん。全部自分が蒔いた種ではないか」

コロラド「なんでよ!？」

ネルソン「気付いてすらいらないなら、尚の事だ」ヤレヤレ

コロラド「わ、私は一体、アドミラルに何をしてしまったの!？」

陸奥「んく、提督から頭を撫でられたら決まって『気安く触るな』って悪態ついてたところじゃない?」

コロラド「グサツ

長門「提督からは何度もお前に歩み寄っていたが、その都度お前が変なプライドを拗らせ、勘違いした挙げ句、『お前は本当に学習しないな!』などと言ってしまったのが遠ざけられる原因じゃないのか?」

コロラド「グサツグサツ

アイオワ「原因が分かって良かったわね、バッキングブロンコ」ナ
デナデ

コロラド「う、うん……」

サラトガ「もつと素直になればいいだけじゃない。提督だってあなたのことが好きだから、嫌われてると思ってもその指輪を贈ったんでしょ?」

コロラド「……………」

サラトガ「提督はあなたが好き……でもあなたは自分のことを嫌ってると思ってる。なら任務以外では距離を置こうと思ってるのかも。これ以上あなたに嫌われたくないからって」

コロラド「……そう、なのか……」

イント「そもそもバッキングブロンコが素直にならないのが問題な

んじゃない。アドミラルに一途に想われて、いつも貴女は彼の一番で……なのに当の本人はその自覚0で空回り。私だったらもつとアドミラルを幸せにしたわ」

コロラド「カチン」

コロラド、イントレピッドの前にやって来る

コロラド「あ、あなたに何が分かるっていうの!? 初めて男性に優しくされ、なんの見返りも求められない愛情を向けられて……どうしたらいいか分からない私の気持ちなんて分からないでしょっ!」

イント「分からないわよ。だってその優しさはあなただけしか体験出来ない特別なものなんだから」

コロラド「っ」

イント「複数の艦娘とケツコン出来るのに、私たちのアドミラルはそれをしてない。それだけ愛されているのに、甘えてんじゃないわよ。今度はあなたからアドミラルに近づく番でしょ? あなたしか彼の隣には立てないのよ……私が喉から手が出るほどほしいその立ち位置にはね!」

コロラド「イビルアイ……」

イント「早く伝えに行きなさいよ。いつまでもここで腐ってるなら、私が奪いに行くけど?」

コロラド「……Thank you so much」ニコッ

コロラドは足早にその場をあとにした

イント「はあ、私って悪い女ね」

アイオワ「ミーはいい女だと思うわよ」ニコッ

サラトガ「サラも同意見です」

ネルソン「余が男だったなら、お主のような娘を妃に迎えたいな」
長門「すまないな、ヒール役をしてもらって」

陸奥「あとで間宮さんのところで美味しいものご馳走するわ」

イント「……やけ食いするわ」ニコッ

—————

◇執務室◇

提督「……?」

コロラド「あなた……好き……♡ もう離れないから♡ だからあなたも私をもう遠ざけないで♡」ギューッ

提督、コロラドからだいしゅきホールドの集中砲火を浴びせられ中

提督「↑提督はこんらんしている！

コロラド「私ね、あなたのこと大好きよ？♡ 今まで変にプライドを拗らせて、素直になれなかっただけなの♡」スリスリ

提督「

(あ、これは夢だ)

コロラド「でももうやめる。あなたのこと、世界中の誰よりも愛してるって、みんなに見せつけるわ♡」

コロラド「You color my life♡ You complete me♡」

訳)あなたが、私の人生に色を与えてくれるの。あなたが私を完成させるの。

提督「……………」

コロラド「ねえ、聞いてる？ 無視は傷つくわ」ウルウル

提督「……コロラド」

コロラド「なあに、あなた？♡」ニッコリ

提督「……俺は女々しい男だ。現実逃避して、コロラドが俺にデレデレしてくれる夢を見ている。許してくれ」

コロラド「カッチーン

ガシッ！

コロラド、提督を抱きかかえてソファアへ

ぺっ……ドサッ

提督「っ……コロラド？」
のしっ

コロラド、提督の上に跨がる

コロラド「私の愛をあなたの体に刻み込むことにしたわ」
提督「え」

コロラド「夢なんかでは体験出来ない、最高の時間をあげる♡」

提督「キヤアアアアツ」

それから数時間後ー

コロラド「っ♡っ♡」ビクンビクン

提督「コロラド、可愛かった」チュツ

コロラド「あ、あなたも素敵だったわ……♡」ゾクゾク

(私の方が深く体に刻まれちゃった……♡)

く見事に提督に飼い慣らされたバツキングブロンコであったく

提督「愛してるよ、コロラド」ギユツ

コロラド「うん、これからもつと素直になるね?♡」スリスリ

提督「それ以上可愛くなられたら、辛抱堪らんのだが?」

コロラド「ふふっ、あなたなら、特別♡ 好きな時にこの私を蹂躞

することを許してあげる♡」チュツチュツ

提督「っ」

ぴこん

コロラド「Wow♡」ドキッ

提督「早速、いいかな?」

コロラド「うん、いっぱいして♡ 私はあなただけの女だもの♡」

提督「コロラド!」

コロラド「あんっ、h u b b y♡」

その日、執務室には誰も入れなかったというー。

コロラド 完

メリーランドとケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇食堂外のテラス席◇

メリー「ちよつと、Admiral何してんの？ 姉貴なんて見えないでアタシを見なさい」グイッ

提督「ぐえっ」

メリー「姉貴はオマケなんだからね？」ムギュー

提督「……………」

コロラド「ねえ、私帰っていい？」

「コロラドは先程の演習で見事MVPとなり、提督が昼食をご馳走することになった。なのに提督の妻であるメリーランドがそれをよしとしない」

提督「見てないで助けてくれ。コロは姉だろ？」

コロラド「ペットみたいな名前では呼ばないで。まあ貴方を認めてるから特別に許してるけど、最近周りからもそれで呼ばれてるのよね」

提督「親しみあっていいだろ」

メリー「ねえ、堂々と浮気しないでよ。犬っコロ姉貴よりアタシの方が貴方のこと好きなんだけど？」

提督「知ってるし、コロはいい部下だ」

コロラド「おい、姉を犬呼ばわりするなんていい度胸ね？」ピキピキ

メリー「？ あ、姉貴いたの？ Admiralのことしか目に入って無かったわ。Sorry」

コロラド「(#^ω^)」ア？

提督「最初から居ただろうが。記憶力やばいぞメリー」

メリー「アタシの記憶はアナタ色に染められちゃったから♡」ニパー

提督「くつそ……笑顔が可愛過ぎて文句言えねえ！」

コロラド「じゃあ私帰るわね。ランチご馳走様」

提督「まつ、待ってくれコロ助！ コロッケサンドもあげるから！」
コロラド「ホントなり？ って何言わすのよ！」

提督「乗り良くて僕は満足なんだな」

メリー「Admiral？」ゴゴゴゴゴ

提督「あのなメリーさんや？ 僕はちみのお姉さまを労うために呼んだの。オーケー？」

メリー「I know it properly……ちやんと分かってるわ」

提督「ならコロを邪険にしないでやって」

メリー「アタシにはアタシの愛し方があるの」

コロラド「こうなると思っただから遠慮したのよ……」

「それでも前よりは姉妹で揃うことが増えたので、コロラドはその点に関しては良かったと思っっている」

提督「まあメリーのこととは無視してランチ食ってどうぞ。コロのためを用意してもらったランチバケットだから」

コロラド「ん、Thank you」

メリー「アタシのhandsomeに感謝して食べてね、姉貴？」

コロラド「ハイハイThank you」ヤレヤレ

「こうしてやっとランチタイムに入った」

メリー「はい、handsome♡ あーん♡」

提督「もぐもぐ」

コロラド「……………」ムシヤムシヤ

メリー「次はKiss……ん、まつ♡」

提督「ありがとう」

コロラド「……これ新手の拷問？」

メリー「Handsomeが褒美って言ったでしょ？」

コロラド「サンドウィッチの付け合わせがゴーヤのハバネロソース和えなのが今分かったわ。マミーヤに感謝するわ」トオイメ

提督「なんかごめんね？」

コロラド「そう思うならソレの扱いをもう少し見直すのね」

提督「でも……」チラツ

メリー「わあ、アタシを見てくれた♡ どうしたの？♡ Kiss
?♡」

提督「こんなに可愛いのに拒否出来ない！」

コロラド「……Are you fucking with me
? ふざけてる？」

提督「そのようなことは決して……」

メリー「犬っコロ。アタシのhandsomeに何すんのよ？」

コロラド「自分たちの行いを見てから言っつて？」

メリー「ラブラブなだけなの？ ねー？♡」

提督「おいらに振らないで……」

メリー「んふふ、照れてる♡ 可愛いんだ♡ んーま♡ んーま♡
チュツチュツ

コロラド「次からは本気で同席は遠慮するからね」

その後もコロラドはゴーヤのハバネロソース和えとダブルエスプレッソを口にしてこの拷問に耐えた。

メリーランドはそんなことも気にせず提督に自分の愛を叩き込み、提督はコロラドに申し訳無く思いながらも頬を緩めずには居られなかった——。

メリーランド 完

サウスダコタとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇食堂・厨房内◇

大和「それでは実際にこのレシピ通りに調理していきましょう」
サダク「お、おう、よろしく頼む」

大和「うふふ、そんなに緊張しなくても大丈夫です。カレーは簡単に作れますから」ニコツ

サダク「それは料理が出来るヤツが言うセリフだ」

大和「あはは……」ニガワライ

くサウスダコタは提督のために料理を勉強中く

サダク「まあそんなことはいい。それで野菜の皮剥きが終わったら切ればいいんだな？」

大和「はい。今回は煮込む時間もあるので多少切り方が粗くなっても大丈夫です」

サダク「了解だ。えつととりあえずこのポテトから……」

大和「サウスダコタさん、切る際は猫の手ですよ」コマリエガオ

サダク「キャット……？ これでどうナイフを持ってど？」

くサウスダコタ、両手を猫の手にしていて困惑中く

大和「ふふつ、可愛いですけど、野菜を押さえる手だけ猫の手にすれば大丈夫ですよ」クスクス

サダク「笑うな……だったら最初からそう言ってくれ／＼／＼」

大和「次から気を付けます」ニツコリ

トン、トン、トン、トン……

ー

大和「次はお鍋でお肉と玉ねぎを炒めましょう。先にお肉を炒めて、焼きめが付いたら玉ねぎを入れます」

サダク「火加減は？」

大和「中火でいいですよ」

サダク「了解」

大和「あの、お鍋に具材を入れる時は猫の手にしなくても大丈夫ですよ」ニガワライ

サダク「え？」

大和「猫の手は指を切らないようにするためですから、今は切る可能性ってありませんよね？」クスクス

サダク「……確かにそうだ／＼／＼」

大和「サウスダコタさんって可愛いですね」

サダク「う、うるさい……／＼／＼」

ジュー、ジュー、ジュー……

ー

サダク「あとは煮込むだけか？」

大和「はい。実際に作ってみたら簡単でしたよね？」

サダク「まあ大和がちよいちよい笑ってくるのがなければもっと快適だったな」ムスツ

大和「あはは、可愛かったのでつい……」ニガワライ

サダク「普段はカツト野菜を使ってるから、実際に自分でここまでやることはなかっただけだ」プイツ

大和「でも提督に喜んで欲しくて今回は頑張ったんですよ？」ニヤニヤ

サダク「う、うう……そうだよ、悪いか？　こんな女々しい理由で料理習って？／＼／＼」

大和「いえいえ、滅相もない」

大和「ただただ健気で可愛いなあ、と」

サダク「また言った！　また可愛いって言った！」

大和「あ、そろそろ火を止めて寝かせると味が良くなりますよ」
サダク「ぐぬぬ……」

ー

その日の夜ー

◇鎮守府内・長官官舎◇

く夫婦二人きりの食卓く

提督「まさかサウスダコタのカレーが食えるとはなあ……」ジーン

サダク「て、提督がカレー食いたって朝言ってたから、大和に教えてもらって作っただけだ」

提督「そこまでしてくれたのが嬉しいんだよ。本当にサウスダコタは可愛いなあ」

サダク「……………」プルプル

提督「どうした？」

サダク「また可愛いって言った……………」

提督「へ？」

サダク「可愛いって言った！ かわいって！」

提督「ええ〜(困惑)」

サダク「サダクは別に可愛くない！ カッコイイんだ！ なのに提督も大和も可愛い可愛いって……………」グヌヌ

提督「戦ってる時はカッコイイけれども……………」ニガワライ

サダク「サダクは誇り高き the state of the Battle shipなんだぞ！ それを可愛いなんて言ってる！」

提督「事実ですよん」ナデナデ

サダク「んへえ♡ って撫でるな！ 気持ち良くてついにやけどしちゃったじゃないかっ！」

提督「俺の前でくらしいと思うけど？」

サダク「そ、そういうのはベッドの上だけでいいんだよ……………」バカ♡／／／／

提督「まあ確かに普段男気溢れる感じなのに、ベッドの上ではされるがままなのは男としてグツとくるけどなあ」

〜とりあえず冷める前に食べることに〜

サダク「ど、どうだ？」

提督「うん！ 美味しい！」ナデナデ

サダク「わふう……………」じゃなくて撫でるな！」ポンポン

提督「ごめんごめん」ニガワライ

提督「にしてもそんなに撫でられるの嫌だったのか。だったら今までごめん？」

サダク「え……………」別にそこまで嫌なわけじゃ……………」

提督「でもこうも拒否されるとなあ。次からは気を付けるよ」
サダク「……お、おう」シヨンボリ

提督（犬がしかられて落ち込んでるみたい……可愛い）
ー

サダク「……んく……」

く食事の後片付けも終わると奥様は提督に抱きつくく

提督「どうした、そんなに甘えて？」

サダク「んく、んくんく」グリグリ

提督「撫でて欲しいの？」

サダク「……Yes」ギューツ

提督（可愛い（確信））

サダク「今はもう夜だから……ダメ？」ウワメツカイ

提督「んんっ」

（くっそ可愛い！（真理））

サダク「なあ、ダメなのかあ？」ウルウル

提督「ダメな訳ないだろう！」ナデナデナデナデ

サダク「んふっ、んくっ、ほっぺむにむにダメえ♡」

提督「撫でてるだけだぞく」ナデナデナデナデ

サダク「んふっ、あっ、しょんにゃによ、はんしよくだじよ……ひい
んっ♡」

提督「構って欲しいくせに見え張りやがって！ 可愛いのは変わら
ないんだよお！」ナデナデナデナデ

サダク「んんっ、かわいいって……言うな、はうっ、んっ、んにゆう
♡」

パツ↑ナデナデストップ

サダク「？ どうして止めるんだ？」

提督「いや、そろそろ時間かかって。長い時間されてたら嫌だろ？」

サダク「そ、そんなこと……」モジモジ

提督「だって撫でられるの嫌なんだろ？」

サダク「そ、そこまでは、言っ、ない……」

提督「じゃあ今までみたいに好きな時に好きなだけ撫でていい？」

サダク「……………それはあ、ちよつと…………」

提督「じゃあもうお終いな」

サダク「やだあ！　していい！　好きなだけしていいから！　止めちややだあ！」

提督（計画通り）ニヤリ

提督「じゃあ存分に撫でやろう」

サダク「(コクコク)」

提督「でも撫でるだけでいいのか？」

サダク「……………や」

提督「足りないよな？」

サダク「(コクコク)」

提督「時間が惜しいからソファアでいい？」

サダク「どこでもいい……………提督のしたいところでしてえ♡」オメメ
ハート

提督「分かった」

それからサウスダコタは提督にたくさん撫でてもらって朝を迎えたー。

サウスダコタ　完

マサチューセッツとケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇執務室◇

マサ「提督さん、そろそろ私の膝枕が恋しい時間じゃないか？」ソ
ワソワ

提督「いや、全く。それよりもこの書類を纏める方が重要だ」カリ
カリ

マサ「おい」ガタツ

提督「な、なんだよ？」ビクツ

マサ「私は妻だよな？」

提督「そうだな……」

マサ「なら夫を癒やすのは妻の役目じゃないか！」

提督「お前がしてるのは邪魔だと思ってるんだが？」

マサ「むう……」ムツスウ

提督「仕事と私どっちがいいの？　なんてアホ臭いこと言うなよ？
これは今後のため、そしてマサチューセッツとの未来のためにこな
すべき執務なんだからな」

マサ「……………そんな言い方、ズルい♡」

提督「ズルくねえよ……」

マサ「ズルい！♡」ダキツキ

提督「離れろ」

マサ「イヤ！♡」スリスリ

提督「ますますお前の膝枕が遠退くなく」

く態とらしく提督が言えば、マサチューセッツは渋々だが離れたく
マサ「あとでいっぱい触れ合う時間作ってくれる？」

く捨てられた子犬のような目をして訊ねるマサチューセッツく

提督「終わればいくらでもどうぞ」

く提督がそう言えば、マサチューセッツは輝く笑顔を見せて秘書机
に戻るのだったく

——五分後——

マサ「終わった……?」

提督「まだ」

マサ「(・ω・、)」

——更に五分後——

マサ「もう終わった……?」

提督「そんな短時間で終わるはずないんだよなあ」

マサ「(・ω・、)」

提督「……………」

(大型犬が落ち込んでら……かわいい)

——更に更に五分——

マサ「流石にもう——」

提督「残念。終わってません」

マサ「(・ω・、；……………」

提督「……………」

(かわいいなあ、くそ)

マサ「むう……………」

くマサチューセッツは拗ねて執務室のソファーに寝そべってしま
うく

提督「……………」カリカリ

マサ「寂しいなあ」

提督「……………」カリカリ

マサ「旦那に慰めてほしいなあ」

提督「……………」カリカリ

(我慢我慢)

マサ「イチャイチャしたいなあ」

提督「あく、もう分かりましたよ」

く提督は折れたく

マサ「Hey, come on♡」

提督「へいへい」

く両手を広げて待つマサチューセッツの胸にその身を預ける提督

マサ「んゝ♡ やっぱり私たちはこうでなきゃな♡」ナデナデ
提督「ホント、お前には敵わん」

マサ「提督さんへの愛は誰にも負けないぞ♡」ニコニコ

マサ「マサチューセッツ、提督との触れ合いを思い切り堪能♡」

提督「少ししたら作業を再開するから」

マサ「ううゝ、やだゝ」

提督「いや、仕事だから……」

マサ「そんなこと言うならこうだ！♡」

むぎゅっ

マサ「マサチューセッツのだいしゅきホールド炸裂♡」

提督「おい!?!」

マサ「どうだ、これでもう離れられないだろう♡」ウリウリ

提督「ふっ……」

マサ「? 何故、鼻で笑う?」

提督「俺をなめてるからだよ」

かぷっ

マサ「提督はマサチューセッツの首筋に噛みつき、そこを舌でくすぐり
つつ、キスマークを付けるように吸い上げる」

マサ「ちよ、て、提督さ……んっ♡ おっ♡ おおっ♡」

マサ「こうかはばつぐんだ!」

マサ「ま、まって……おっ♡ んおっ♡ だめえっ♡ それだ

めえ……おっ、ほっ、ゝゝゝっ♡」

ビクンビクン♡

提督「やっと解放されたぜ」ノビー

マサ「っ♡ っ♡ っ♡」カクカク

提督「本当にもう少しで終わるから、待っててくれよ?」
マサ「執務に戻ろうとした提督だったか」

ガシッ

マサ「マサチューセッツに思い切り腕を掴まれた」

マサ「はあゝ♡ はあゝ♡ はあゝ♡ はあゝ♡ はあゝ♡」

提督「……………WOW」

チユンチユン

提督「……………」

く提督は干乾びているく

マサ「♪♡」

くマサチューセッツは艶々していたく

マサ「提督さん、朝だよ♡」チュツ

提督「あ、ああ……」ゲツソリ

マサ「ジーツ

提督「? どうした?」

マサ「もう一回、ダメ?♡」

く胸元を人差し指でクリクリしつつ、お強請りするマサチューセッツ
ツく

提督「あれだけしたくせに!」

マサ「だって……提督さんの主砲、起きてるよ?♡」

提督「あゝ、これ? これは生理現象だから」

マサ「じゃあ出来るな♡」ニツコリ

提督「大淀が来ちゃうと思うの」

マサ「? 提督さんが寝ている内に、彼女にはもう昼まで執務室に
来ないようにメールしたよ?」

提督「え」

マサ「だから、しょ♡」

提督「い、いやだ!」

マサ「そんなに怯えないで……興奮する♡」

く舌なめずりするマサチューセッツく

提督「仕事あるから、ね?」ナデナデ

マサ「むう」

提督「ほら、服を着て」ナデナデ

マサ「提督さん」クイクイ

提督「ん？」

マサ「キスならいい？♡」

提督「勿論」ニカツ

マサ「んく、ちゅっ♡」ギューツ

提督「んっ、手を離そうか」

マサ「キスならいいって言った♡」ヒシツ

提督「おい」

マサ「キスならいいって言ったもーん♡」チュツチュツ

提督「脚のホールドもやめろ！」

マサ「キスだけ、キスだけ♡」

結局、昼まで提督は離してはもらえなかつたそう――。

マサチューセツツ 完

ワシントンとケツコンしました。

某鎮守府、昼ー

◇食堂・テラス席◇

ワシントン「Hey, baby……Kiss me♡」

提督「……おい、ランチ中なのに何言ってるんだ」アセアセ

ワシントン「何よ、私とあなたの仲でしょ？」ムスツ

提督「しかしだなあ」

サダク「別にこちらのことは気にするな。こちらはこちらで頂いている」

大和「ど、どれも美味しいですよ、ワシントンさん」ニガワライ

霧島「え、ええ、とても……」ニガワライ

綾波「アメリカのピザ美味しいですよ」モキュモキュ

ワシントン「~~~~~!」グヌヌ

提督「……」ニガワライ

◆今から数時間前◆

提督『え、サウスダコタやサウスダコタと仲のいい艦娘を呼んでランチ？ いきなりどういうことだ？ あれだけサウスダコタのことを嫌ってるのに』

ワシントン『嫌ってるんじゃないやなくて苦手なの。それより私はアイツに私があなたとラブラブで毎日幸せなところを見せつけたいの！』

提督『いや、見せつけなくてもみんな知ってると思うぞ？ ワシントン、君は陰でみんなからなんて呼ばれてるか知ってる？』

ワシントン『え、私なんて呼ばれてるの？』

提督『俺の番犬って呼ばれてるぞ。俺が誰としても常に俺の隣にいてその相手を睨みつけてるから』

ワシントン『自分のパートナーを守るのって普通でしょ？ そもそも私も私戦艦だし。最強だし』

提督『まあとにかくだ。そんなことしなくてもサウスダコタは俺らの仲を知ってるし、そのラブラブ？ってのを見せつけてもワシントン

が望むようなことにはならないと思うぞ?』

ワシントン『やってみたいと分からないでしょう!? あなたは私に
いっぱい構ってもらえて、私の手料理をいつものように美味しそうに
食べるだけなんだからいいじゃない!』

提督『分かった分かった……じゃあサウスタダコタたちに声掛けとく
よ』

◇そして今に至る◇

ワシントン (Shit!) どういうこと!? アイツ私と提督のラブ
ラブ具合に眉をひそめるどころか、寧ろ微笑ましいものを見る目を向
けてくるんだけど!)

ワシントン「Hey, baby ♡ お口を開けなさい ♡ あーん
♡」

提督「ワシントン……」

ワシントン「お・く・ち・は?」ニコニコ

提督「あ、あーん……」

ワシントン「Very nice ♡ いい子よ♡」

提督「あ、ああ……」ムグムグ

ワシントン「チラッ

サダク「本当にお前たちは仲がいいな。見ていて安心するよ」ハ
ハッ

ワシントン「#。D。」

大和「あ、あの、ワシントンさんは提督のどこに惹かれたんですか
?」

霧島「そ、そうね。前々から気になっていたの。よろしければ二人
の馴れ初めを聞いても?」

綾波 (皆さん気を遣ってて偉いなあ)

ワシントン「ええ、そこ聞いちゃう? 仕方ないわねえ! いいわ
! そんなに私とbabyのSweet memoriesを知り
たいならいくらでも話してあげる!」エッヘン

――

ワシントン「という感じね! 手短ではあったけど大体のことは教

えたわ！」

「一時間も掛かった」

大和「そ、そうですか……」

（仲睦まじいのはいいけど、提督も大変な方をお嫁さんにしてしまいましたね）

霧島「とてもいい出逢いね」

（ただワシントンさんが提督に一目惚れして、サウスタコタと仲良かったのが気に食わなくて、押せ押せで迫ったという話ね。そもそもサウスタコタと提督は友人同士なんだけど）

綾波「へー」

（提督の優しきは伝わったけど、聞く人によっては押しに弱い男を押し倒した女の話って感じ。外人の愛情表情ってすごい）

ワシントン「ふふん♪」

（流石にこれだけ惚気けたんだもの！ アイツも悔しがってー）

サダク「いい話だ。恋愛小説でも聞いているみたいだったな」ニコッ

ワシントン「ーない、ですって!? もう何なのコイツ！ プリン
スミたいな爽やか笑顔決めちゃって！ あ、コイツのあだ名ってそう
いえばBlack Princeだったわ……って」

「んなことどうでもいいわ！」ダイバン

提督「……」ヤレヤレ

大・霧・綾『……』ニガワライ

サダク「ニコニコ」

（普段あれだけ突っかかってくるのにこうして話をきかせてもらえらるとは嬉しい限りだ）

ーーーーー

「そんなこんなでワシントンの目論見は崩れ去った」

◇執務室◇

ワシントン「うえーん！ なんで！ どうして！ 今度こそアイツの悔しがってる顔を見れるはずだったのにー！」

提督「そういうこと考えてるから失敗するんじゃないか？」

ワシントン「何よ！　そもそもどうしてあなたは私の味方をしないの!?　やっぱりアイツの方が好きなの!？」

提督「好きなら君に指輪を与えてない」

(こういうアホなところ……ゲフンゲフン、放っておけないところが魅力なんだよな)

ワシントン「じゃあ、慰めて……」

提督「どうやって?」

ワシントン「自分で考えて!」

提督「今夜君にプロポーズした夜景の見えるレストランでディナーでも?」

ワシントン「……却下」

提督(一瞬揺れたな可愛いやつ)

「じゃあサウスダコタには絶対出来ないことをしようか」

ワシントン「何それ!？」

く提督、ワシントンにそつと耳打ちく

ワシントン「っ!?!」ボンッ

提督「どう?」

ワシントン「うん……するう♡　あなたとの赤ちゃんほしい♡」オメメハート

提督「可愛いね、ワシントンは」アゴシタナデナデ

ワシントン「あなたにだけえ♡」キュンキュン

後、見事にワシントンは提督との子をその身に宿したが、サウスダコタからは「本当におめでどうマイティ!」と寧ろ一番祝われてしまった。

しかしワシントンはもうそんなことを気にしない。何故なら提督が愛しているのは世界で唯一自分だけなのだ、とその身に刻まれたからー。

ワシントン 完

アイオワとケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れー

◇埠頭◇

アイオワ「Operation^作が完了したわ！」

提督「みんなお疲れ様。ドックで体を修復した後各自補給と夕食をとるように」

艦隊『はっ！』

提督（みんなが無事で良かった）ホッ

金剛「テ〜トク〜！ ワタシが今回のMVPデスヨ〜♪ 褒めてクダサ〜イ♪」ギューツ

提督「おわつ、急に抱きつかないでよ、まったく……おめでとう、金剛」ナデナデ

金剛「はわわ〜／／／」トローン

／モットナデルデース！ ハイハイ〜

アイオワ「ふふふ」

比叡「あの……金剛お姉さまがすみません」

アイオワ「Why? 謝る必要無いわよ？」

霧島「でもお二人はごケツコンしている仲なので、金剛お姉さまの行動は……」

アイオワ「そういうことね……No^問 problem^な Me^いのd^わarlingならあれくらい人を引きつけるのは当たり前だもの♪」
ウインク

榛名「はわ〜……やはり考え方が違いますね〜」

アイオワ「ふふ、darlingがMeのことがloveなのは分かっているから♡」ニコツ

龍驤（なしてこの面子の中にうちがおんねん……）チツ

金剛「テ〜トク〜♪」スリスリ

提督「はいはい」ナデナデ

アイオワ「（言〜）」ギリツ

龍驤「ビクッ

(うちは何も見とらん。うちは何も見とらんで！)
くそんなこんなで艦隊は本日の任務を終えたく

その日の夜ー

◇提督&アイオワの部屋◇

提督「アイオワ……ちよつと質問していい？」

アイオワ「What？」

提督「この状況は何？」

く提督はアイオワに押し倒される形で抱き枕状態く

アイオワ「DarlingにMeのloveを注いでるの♡ 目移

りしないように♡」

スリスリベタベタ↑アイオワ、提督に甘える

提督「目移りなんて……僕はそんな軟派なことしないよ……」

アイオワ「それでも心配なの……darlingはそんな心配する
ことがないからMeの気持ちに分からないのよ」ムウ

提督「確かにここには僕以外の男は居ないけど……」

アイオワ「ほら見なさい！」ギューッ

提督「でも……」

アイオワ「？」

提督「僕だって嫉妬する時あるんだよ？」

アイオワ「Why？」

提督「だつてアイオワと街とか歩いていると、君は魅力的だから異
性を魅了する。君は常に僕を見てるから分らないと思うけど、君と
すれ違った人達は皆、君の美しさに振り返っているんだよ」

アイオワ「Uh—huh」

提督「その都度僕は思ってる。『僕の妻をそんな目で見るな！』つて
……重いかもしれないけど、君を誰にも見せたくない。君は僕の最愛
の人だから」

アイオワ「Darling……♡／／／／」キュンキュン

提

督

「I love you more than words can say」
提督「おわっ」

「I like everything about you
I love you with all my heart」
ア
イ
オ
ワ

提督「僕もだよ」ニコツ

アイオワ「Darling♡」スリスリ
く散々愛を語り合い、ディナータイムく

◇茶の間◇

アイオワ「最初の時は畳って慣れなかったけど、今は畳が好きになつたわ♡」

提督「どうして？」

アイオワ「Darlingのすぐ隣に寄り添えるから♡」ホツペ
チユツ

提督「あはは、そうか」ナデナデ

アイオワ「ふふ、ねえく、darling♡」クイクイ

提督「ん？」

アイオワ「Kiss me on here♡」

くアイオワ、提督に頬を指して差し出すく

提督「勿論♪」

ちゅっ♡

アイオワ「く♡」キラキラ

くその後もイチャイチャしつつディナータイムを過ごしたく

◇寝室◇

くお風呂も済ませ夫婦は後、寝るだけにく

アイオワ「ねえねえ、darling♡」

提督「ん？」

アイオワ「Meはdarlingに出会えて本当にhappyよ

♡

提督「どうしたの、急に？」

アイオワ「言いたくなかったの♡」チュツ

提督「ありがとう、僕も幸せだよ」チュツ

アイオワ「♡」ギューッ

提督「それじゃ、そろそろ寝ようか」

アイオワ「You got it♡」チュツ

提督「おやすみ、アイオワ」チュツ

アイオワ「Sweet dreams♡」チュー

〜寝静まった後〜

アイオワ「♡」ジーツ

提督「すう…すう…すう…」ZZZ

アイオワ「♡」ニコニコ

〜アイオワ、提督の寝顔を堪能中〜

アイオワ

(You are special to me

I'm in love with you

I get the feeling, the more involved

I've never loved anyone like this

Today goes by with you, thinking of you

You are my everything

You are the most important person in

〜アイオワ、眠る提督の耳元に近づく〜

アイオワ「Love you now and forever

♡

そうつぶやいたアイオワは眠る提督の唇にそっと口づけ、自分も眠りに就いた。

提督（あんなこと耳元で言われたらドキドキして眠れないだろ！／
／／／／）
起きてしまった提督は朝まで悶々と過ごすのであったー。

アイオワ 完

ウォースパイトとケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇埠頭◇

ウォスパ「A ^艦 fleet ^隊 has ^{戻っ} returned ^わ♪」ニコツ
金剛「やつと戻って来れたネ〜♪」

イタリア「何だか今日は国際色豊かな出撃になりましたね〜」クス
クス

アイオワ「ふふ、そうかも♪」

ビスマルク「日本、ドイツ、イタリア、アメリカ、イギリス……凄
いメンバーよね」クスツ

大和「演習でしたけど、皆さんとこうして共に海へ行けて嬉しく思
います♪」

ウォスパ「キヨロキヨロ

アイオワ「そんなにキヨロキヨロしなくても、あそこにお目当ての
方は居るわよ♪」

ウォスパ「！」

ずばっ！↑ウォースパイト、瞬間移動

全員『ニガワライ

提督「お、みんな帰ってきてるなー」

ウォスパ「You' re my Sweetie! ♡」

ガバツ♡↑ウォースパイト、提督にダイブ

提督「おうふ!？」

どさっ！↑提督、押し倒される

ウォスパ「もお、ちゃんと受け止めて♡」スリスリ

提督「ご、ごめん……それとおかえり。My Juliet」ナデ

ナデ

ウォスパ「はう〜♡」キュンキュン

／ラブラブイチャイチャ〜

ビスマルク「あの淑女だったウォースパイトがあんなになるなんて

誰が想像したかしら？」

金剛「テイトクのハートを奪われマシタ〜」ムウ

大和「まあまあ、金剛さん」ニガワライ

イタリア「提督はウォースパイトさんとよくデートもしてましたし、時を重ねてなった形なんでしょうね」フッフ

アイオワ「二人がゴールインした時はやっとかってみんなが思ったはずよ」ニガワライ

「愛してやるの言葉じゃ足りないうわ
I love you so much that the words
私にはあなたが大嫌いじゃないよ
I love you are not enough」

「言葉に出ないくらい君のことが好きだよ
I love you more than words can say
ニコツ

ウォスパ「〜♡」

んちゅ〜♡

〜ウォースパイト、嬉しさのあまり提督に熱いキス〜

ウォスパ「んっ……はむ……ちゅっ……っ……more……

give it to me more♡ん……ちゅっ♡」

提督「ウォ……スパイト……んっ……ちゅっ」

／ラブラブチュツチュ〜

イタリア「おおく！」キラキラ

アイオワ「That was amazing!」キラキラ

金剛「時と場所は弁えるべきネ〜」ハイライトオフ

大和「確かにこれは……／／／」ハワワ

ビスマルク「日本で言う慎みが足りないわ」ヤレヤレ

ウォスパ「〜♡」チュツチュ〜

提督「〜／／／」↑流石に恥ずかしい

〜その後も散々キスをした〜

お昼〜

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞ〜」

ガチャー

ウオスパ「戻ったわ♡」ニコッ

金剛「おかえりなさいネ〜」ニ”コ”ニ”コ”

提督「お、おかえり……」ニガワライ

ウオスパ「？」クビカシゲ

金剛「ではワタシは部屋に戻ります……ガ！ 先程のことは注意してクダサイネ！」

提督「ああ、分かった」ニガワライ

金剛「ん……Good^{今日の}bye^{はさようなら} for now」

ウオスパ「Take^{気を}care^{つけてね}♪」

ボタン……

提督「ふう……」

ウオスパ「何かあったの？」

提督「あつたね……」

ウオスパ「何かしら？ 私にも何か手伝えることがあれば言って」

提督「手伝えるっていうか……僕達がやらなきゃいけないことなん

だよね」ニガワライ

ウオスパ「??」クビカシゲ

提督「もう昼食の時間だけど、昼食の前に少し真面目な話をしても

いいかな？」

ウオスパ「love^いly^わ」ニコッ

提督「んじや、ソファーに座って話そう」

ウオスパ「」コクコク

すとん↑提督、ソファーに座る

ぼすつ↑ウオースパイト、提督の膝の上に座る（定位置）

提督「」ニガワライ

ウオスパ「？」キョトン

提督「真面目な話だからさ、隣に座ってくれないかな？」

ウオスパ「OK……」シヨボン

く 渋々隣に座るく

提督「ズキツ↑良心が痛む

ウオスパ「(・ω・)」

提督「……」ズキズキツ

ウオスパ「(ノ|・)」ホロリ

提督「分かった、膝の上に座っていいから」↑折れた

ウオスパ「(?v?。)♡」

ぼすん♡

ウオスパ「く♡」ニコニコ

提督「それで、話なんだけど」ナデナデ

ウオスパ「ええ」

提督「人前でキスをしないようにしない?」

ウオスパ「!?!」↑劇画調

提督「金剛に言われたからじゃなくて、前々から思ってたんだ。みんな命を懸けて戦っているのに、僕らが浮ついてたらいけないんじゃないかなって……」

ウオスパ「Honey……」

提督「キスじゃなくて、みんなが居る前ではせめて手を繋ぐとかにしようよ。その方がみんなも変に気を遣わなくて済むと思うんだ」

ウオスパ「……」

提督「分かってくれるよね?」

ウオスパ「One condition」

提督「何かな?」

「Then give me a lot of kisses?」ウル
ウル

提督「二人きりの時ならたくさんするよ」ニコツ

ウオスパ「ならいいわよ♡」ギューツ

提督「ありがとう」ナデナデ

ウオスパ「なら……今は二人きりだから、いいわよね?♡」オメメ
ハート

提督「え」

ウオスパ「It's now or never」

提督「……分かった」ニコツ

ウオスパ「Love you now and forever」

Our love will last forever」

提

「No matter how much time goes by,」

I love you」

そして二人は永く熱いキスを交わしたー。

ウオースパイト 完

ネルソンとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇戦艦寮・談話室◇

金剛「あとはウオースパイトが来ればオーケーネ！」

「時間の合う者たちでティータイム予定」

長門「思い返せば、この茶会も随分と回を重ねてきたものだなあ」

陸奥「そうね。私や姉さんは金剛に強制的に参加させられてたけど、なんだかんだ楽しい」フフフ

金剛「二人は比叡たちより付き合いが長いデスからネ。でも楽しければ問題ナツシングネ！」バチコーン

ネルソン「それはそうと、オールドレデイはまだなのだろうか？

せつかくの金剛お手製のスコーンが冷めてしまうではないか……」ウズズ

陸奥「ふふ、その気持ちは分かるけどね。ウオースパイトだって演習の結果報告をしてるんだから、大人しく待ってましようよ」

長門「陸奥の言う通りだ。それに金剛の菓子は冷めても美味いだらう」

金剛「デヘヘヘ、褒めても紅茶しか出ませんヨ」

ネルソン「あいつめ……実は余がないのをいいことにオールドレデイとキャツキャウフフをしているのでは……」グヌヌ

長門「それこそあり得ないだろ……お前たちはあれだけ日頃から激しいスキンシップを我々の目の前でしている間柄だろうが」ニガワライ

陸奥「それともく、ネルソンは提督が浮気するほど軽薄な人だと思ってるの？」

金剛「それならワタシがテイトクとベッドでキャツキャウフフしマース！」

ネルソン「勝手なこと言いおつて。あやつは余一筋に決まってるだろ。だから、お、オールドレデイとだなんて……」プルプル

くネルソン、明らかに動揺の色を隠せていない」

陸奥「ふふふ、ネルソンは相変わらず提督にくびったけね」クスクス

長門「お前がそれだけ想いを募らせるんだ。そんな相手を差し置いて他の女にうつつを抜かすような男じゃないさ」

ネルソン「そ、そうだな！　なんとってあやつは余のことが好き過ぎて仕方のないやつなんだからな！」

金剛（でもまだ声が震えてるネ……）ニガワライ

ガチャー

ウオspa「皆さん、お待たせしてごめんなさいね」

ネルソン「お、遅いぞオールドレディ！　マイスイートハートとは何もしていないだろうな！　いくら陛下の妹君と言えど、余の夫を誑かすことは——」

ウオspa「——その逆よ、ネルソン」

ネルソン「へ？」

ウオspa「戻るのが遅くなったのはアドミラルからネルソンをよろしくと散々お願いされていたからなの」

ネルソン「……ふえ／／／」ボンッ

ウオspa「本当に困っちゃったわ——」

『ネルソンはロイヤルミルクティーが好きだから、それを出してやってくれ』

『ネルソンは何かを食べてる時はとても幸せそうに食べてるから見惚れるなよ。俺のお嫁さんなんだからな』

『ネルソンはちよつと態度が大きいけど、それがネルソンの数多くあるチャームポイントの一つなんだからな』

『ネルソンの写真撮って俺のスマホに送ってくれ』

——云々と、あなたの名前をあの短時間で何十回聞かされたことか「ヤレヤレ

ネルソン「………マイスイートハートがすまないことをしたな／／／」ウツムキ

ウオspa「全くよ……お陰で口の中がメープルファッジでも塗った

くられたくらい甘くなつたわ」

金剛「分かりますヨ……テイトクのネルソンLOVEはどんな味覚も無効化させるほどの糖度を誇りマス」

長門「口を開けば『ネルソンがー』『ネルソンはー』とネルソンのことばかりだからな」

陸奥「あつまーい♪」

ネルソン「……よ、よせ……恥ずかしい……／／／」カオカクシ
ウオspa「それもそうね。金剛、出来れば私には濃いめの紅茶をお願い」

金剛「了解ネー！」

「そんなこんなでネルソンは提督ネタでイジられ続けるティータ
イムを過ごした」

その日の晩――

◇夫婦で過ごす長官官舎◇

ネルソン「洗い物が終わったぞ」

提督「お疲れ様。いつも洗い物してくれてありがとうな」

ネルソン「これくらいどうってことない。それに料理はいつも貴様に頼りつきりなのだから、洗い物くらいは余がせぬとな」ニコツ

「ネルソン、提督の隣に座る（ソファー）」

提督「前は洗い物とかも俺がやってたのになあ」

ネルソン「その時はカップルではなかったからな。カップルとなれば、余だつて家事の一つや二つこなすぞ？」ムウ

ネルソン「貴様は召使いではなく、余のフィアンセだ。だから余も……その、少しくらい妻らしいことをしてやりたい」

提督「そつか。まあありがとうな」ナデナデ

ネルソン「ふん……余をここまで夢中にさせた罪は重いぞ？♡」

提督「一生をもつて償うよ」ホツペチュツ

ネルソン「んっ♡ 良い心掛けだ……が、そんな口づけ一つで足りるとは思っていないよな？」

提督「んっ？ 他に何されたいんだ？」

ネルソン「……貴様はここぞという時に意地の悪い奴になるな／／

／＼「ムスツ

提督「ええ〜？ 本当に分からないだけなんだけど〜？」

ネルソン「……………抱っこしろ♡／／／／」

提督「どうぞ、お姫様」ニコツ

提督、自身の太ももを叩く

ネルソン「……………むう……………やはり余が自ら上がらねばいかないのか♡

／／／／

提督「来ないの？」

ネルソン「……………行く♡／／／／」

ちよこん♡

提督「お姫様を捕まえたぞー♪」ギューツ

ネルソン「んにゃあ……………も、もう少しレディは優しく扱え♡」ヒシツ

提督「ごめんごめん」オデコチュツ

ネルソン「うう、口づけして欲しい場所はそこではない♡／／／／

／

提督「じゃあどこに欲しいの？」

ネルソン「……………余の口にい♡／／／／」

提督「良く言えました……………ちゅっ」

ネルソン「んむう……………っ……………ちゅっ……………んっ……………んはあ♡」ハア

ハア

提督「お気に召しましたかな、お姫様？」ナデナデ

ネルソン「わ、悪くはない♡」デヘヘ

提督「これからも愛してるよ、ネルソン」

ネルソン「どんなに生まれ変わろうと、きっと余は貴様のことを

知っていることだろう。そしてその時もまた、余は貴様と結ばれると

信じている♡」

提督「幸せなことだな」

「Our 私 た 愛 永 速 ン
love ち ネ
will の 愛 速 ン
last 永 速 ン
forever 永 速 ン
♡」

「No ど まん な 提 提 提
matter に how 時 提
much が 経 提
time て 提
goes 君 を 提
by, 愛 提

I し

l が

o が

その後もこの夫婦は甘く末永く、周りに情け容赦なく砂糖を振り撒いて行くのだったー。

ネルソン 完

ロドニーとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりに――

◇艦娘宿舎・談話室◇

ロドニー「姉さん、私の話聞いている?」

ネルソン「あ、ああ、聞いているとも!」

ロドニー「そう? ならいいけれど……じゃあ続けるわね」

ネルソン「……………」

〜ネルソンは妹ロドニーから何やら熱弁されている最中〜

陸奥「ねえ、ロドニーはネルソンに何をあんなに熱弁しているの?」

長門「提督の良さについて、だそうだ」

陸奥「は?」

コロラド「ほら、ネルソンってAdmiralに対して貴様って言う時あるでしょ? ロドニーはそれが気に入らないみたいなの」

メリーランド「夫を姉に貴様呼ばわりされて、とうとう行動に出たって感じ」

〜陸奥の質問に他のみんなが答え、陸奥は苦笑いを浮かべる他なかった〜

ロドニー「貴様、とはそもそも意味は身分の高い男性に使う言葉ではあったものの、身分の差が縮まり、皮肉を込めて使われることが多くなった。よって姉さんが私のSweetie(提督)を貴様と呼ぶのは不適切だと思うの」

ネルソン「しかしだな、余は断じてAdmiralを皮肉っている訳では――」

ロドニー「その割には随分と上から物を言っていると思うけれど? この前は旗艦に据えろと言い出すし、撤退命令に抗議するし」

ネルソン「あれはあと少しで屠れたところを追撃ではなく撤退なんて生ぬるいことをあやつが――」

ロドニー「生ぬるい? あやつ?」ギロリ

ネルソン「ぴっ!」

く妹の殺意の波動に思わず身震いするネルソンく

ロドニー「姉さん……あの時の姉さんは中破で、敵艦隊には重巡洋艦だけでなく、戦艦も残っていたのよ？　そこに追撃戦なんて仕掛けたらこちらの被害が広がる可能性の方が大きかった。だからSweetieは安全策を取ったのよ。向こうが撤退したのだから、深追いはせずにこちらでも立て直す方を選んだの」

ネルソン「それは分かっている。分かっているが、本当にあと少しだったんだ……だからつい熱くなつてだな……」

ロドニー「とにかく、もうSweetieに貴様なんて言葉を使わないでちょうだい」

ネルソン「わ、分かった……」

ロドニー「では今度は如何に私がSweetieを愛しているかを説明するから」

ネルソン「……………勘弁してくれ」

長・陸・コ・メ『（一人）』ナムー

くこうしてネルソンはロドニーからありがたい？　説明を長々とされるのだったく

日が落ちた夕方――

◇執務室◇

ロドニー「まったく……姉さんには困ったわ」

提督「気にし過ぎだと思っただけだな」ニガワライ

ロドニー「どうしてよ？　Sweetieは貴様なんて言葉を使われて悲しくないの？」

提督「皮肉を込めるとかは感じないし、実際にネルソンは頼れる仲間だからね。それにクソやクズなんて言う子もいるし、どう呼ばれようと俺は基本的に気にしないしな。自分がやれるベストを尽くすだけ」

ロドニー「こんなに素敵なSweetieにクソ？　クズ？　どここの誰？　泣かしてきてあげる」

提督「そんな物騒な言葉を聞いて教える訳ないよね？」

ロドニー「大丈夫。Sweetieは私が守ってあげるから、怖がらずに私に助けを求めて？」

提督「そもそも助けを求めてない件について」

ロドニー「あなたは優し過ぎるわ。だから心配なの」

ロドニーはそう言うのと提督を背後から抱き締めたく

ロドニー「Sweetie……私の全て。あなたが誰かに傷付けられるのも、あなたが傷付くのも見たくない」スリスリ

提督「ここにいる子たちはみんな優しいし、むやみに人を傷付ける子はいないよ」

ロドニー「何かあったら必ず私に言うのよ？ 消し炭にしてきてあげるから」

提督「ロドニーセ〇ムが怖くてみんなビクビクしてると思うよ」ニガワライ

ロドニー「そうかしら？ 金剛やアイオワ、リシユリユーにイタリア……他にもいっぱいあなたによくちよっかいかけるのには？」

提督「それはあの子たちが特別というかなんというか……でも俺はロドニー一筋。カツコカリですらないよ」

ロドニー「Sweetie……♡」

ロドニーは提督の想いに胸が高鳴る

ロドニー「もう、私をもっと夢中にさせてどうする気？♡」

提督「そんなつもりはなかったけど……夢中になってくれるなら嬉しいね」

ロドニー「なら二十四時間付きつきりになるわ♡」

提督「頼むから任務遂行して？」

ロドニー「もう、意地悪なんだから」ムスツ

提督「大戦果あげてるロドニーに任務放棄されると困るからな」

ロドニー「しょうがないわね……今後も頑張ってあげるわ」

提督「ありがとう」

くするとロドニーは今度は提督の椅子を自分の方へ向ける

提督「まだ執務の途中なんだけど？」

ロドニー「や。構って。5分だけでいいから」

提督「5分だけだよ？」

ロドニー「ええ♡」

むぎゅっ♡

「ロドニーは提督にだいしゆきホールドした」

ロドニー「ねえ、Sweetie……ちゅうしょよ？♡ ちゅう♡」

提督「はいはい……んっ」

ロドニー「ん♡ うふふ♡ 最高♡」

提督「俺も最高」

ロドニー「これからもずっと私が側にいてあげるからね♡」

提督「頼もしい限りだよ」

こうして夫婦は夕焼けに照らされながら、夕日が沈むまでキスして
いた——。

ロドニー 完

ガングートとケツコンしました。

某繁華街、昼一

◇公園のベンチ◇

ガングート「♪」ルンルン

「ガングート、ベンチに座って提督待ち」

ガングート(Дорогой(ダーリンの意)はまだだろうか……
せつかくのデートだというのに)

ガングートE・赤のロングワンピース

白の超ショート丈 ロングカーディガン

青のピンヒール

ガングート「デート中にこの私を一人にするとは、あとでハグの刑に処すしかないな」ウンウン

「お隣失礼しま〜す♪ お姉さん♪」

ガングート「? ああ、どうぞ」

「軽そうな男がガングートの隣に座る」

DQN「お姉さん、そんなにおめかしして彼氏とデート?」ニヤニヤ

ガングート「……………」シカト

DQN「あれれえ? もしかしてなんか訳あり? ここで会ったのも何かの縁だしさ〜、オレで良ければ話し聞くよ?」

ガングート「……………」ハア

(一人でペラペラと、うるさい奴だ……)

DQN「そんなに綺麗な顔してるんだからさ〜、ため息吐いちやダメだよ? ほら、どっかでお茶しながらさ♪」

「男がガングートの肩に手を掛けようとする」と

パシッ!

DQN「いてっ!?!」

ガングート「気安く私に触れるな。私に触れているのはДорогойだけだ」ギロリ

DQN「そう言わないでさ〜♪ オレ優しいよ?」

ガングート「そんなに私に踏まれたいのか?」

DQN「ちっ……下手に出てりやお高く止まりやごー」

カチャー

〜ガングート、トカレフ（ユーゴスラビア製）装備〜

ガングート「私は優しいからな、警告はしてやる。その狭い額に風穴を開けられなくてはならぬ、さつさと失せろ。そしてその汚い面を二度と晒すな」

〜セーフティ解除〜

DQN「アワワワワ↑恐怖で動けない

ガングート「行かないか……ならば今ここでー」

スパーン!↑ガングート、誰かに頭を叩かれる

ガングート「何奴!」

提督「(#、ヾ)「ゴゴゴゴ」

〜提督、仁王立ち+ハリセン武装〜

ガングート「……………」

〜ガングート、拳銃をしまう〜

提督「妻が申し訳ありません。何分、世間知らずなもので……お怪我はありませんか?」

DQN「へ? いや、いや、自分が悪かったんす! し、しし、失礼しました〜!」

（あの女を黙らせられるなんて、こいつも普通じゃねえ!）

びゅーん!

提督「あれだけ走られるなら、怪我は無いですよ」ウンウン

ガングート「……………」ホッ

提督「で、ガングート?」クルリ

ガングート「!?!」ビクッ

提督「人が往来する公園で何をしていたのですか?」ニコニコ

ガングート「し、しっここだったから警告を……」ガクブル

提督「一般人相手にですか?」ニコニコ

ガングート「……………はい」

提督「あれだけ一般人相手に拳銃を向けてはいけないと約束しましたよね？」

ガングート「だって……」

提督「だってではありません」ペチン

ガングート「にやうつ……うう、元はと言えばДорогойが私を置いて花を摘みに行ったのが悪んだ……」ムウ

提督「それはガングートが私に暗黒物質を食べさせたからです」

ガングート「なっ!? あれはピロシキだ！ それも提督が好きなのを沢山を詰め込んだ、私の愛がたつぷりのピロシキなんだぞ!?!」

提督「美味しい物を詰め込めば美味しい物が出来るわけではないと、何度も教えているでしょう。未だに私の胃は混沌としているというのに……」グルル

ガングート「久しぶりのデートだったから、頑張つて作ったのに……」シヨボーン

提督（その気持ちは嬉しかったので、全部（計五個）食べたんですよ。分かってください）グーキュルル

提督「とにかく、一般人に拳銃を向けてはなりません。それは敵を撃つ物です。国民を傷つける物ではありません」

ガングート「は、い……」

提督「ん、分かったのであればこれ以上は言いません」ナデナデ

ガングート「くっ♡」キラキラ

くそんなこんなで気を取り直し、デート再開く

◇シヨツピングモール◇

ガングート「Дорогойは日本で言う亭主カン・パークなんだな。この私がかうも飼いやられるとは♪」

提督「カン・パークではなくて、関白です。それと飼いやられるはいいません。注意をしています」

（そしてどうしてそう嬉しそうに言うのか……）

ガングート「Дорогойの色に染められているみたいで、私はそれがなんだか嬉しい♡ やはり男は軟弱な奴より、Дорогой

みたいに強くあるべきだからな♡」

提督「私はガングート達のように深海棲艦は倒せませんよ?」

ガングート「そういう強さじゃない。心の強さだ。Дорогой
が強いから、我が艦隊は躍進出来るのだからな♪」

提督「私は皆に命令するだけの弱い人間です。戦果は全てガングー
トやみんなが居てこそですから」

ガングート「謙遜するところもДорогойの魅力だな♡ 私は
鼻が高いぞ♡」フッフ

提督「話が噛み合っているようで、合ってませんね」

(しかし、貴女のような人が常に側に居るから、私は素で居られる
のかもありません)

ナデナデ↑提督、ガングートの頭を撫でる

ガングート「んう? どうした?♡」

提督「私のたつ♡」
……

Можно を обнять い тебя? い тебя? い тебя?
「ニッコリ」

ガングート「つ!?♡ / / / /」ズキューン

提督「ナデナデ ニコニコ」

ガングート「………Конечно♡ / / / /」

ぎゅむっ♡

提督「Я 心 тебя か люблю 愛 всем し сердцем

ガングート「私も………Ты あ сама たй が Лучший 番♡」スリス

リ

周りの人々『おろろろ!』サトウズシヤー!

それからも夫婦は仲良く腕を組んでラブラブなひと時を過ごし
たー。

ガングート 完

リシユリユーとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇中庭・木陰◇

リシユ「んく……こんな日は優雅にバカンスへでも行きたいわく」
ノビー

くリシユリユー、ベンチでのんびりく

リシユ(アミラル……mon mariはまだ帰って来ないのかしら……)

く提督は昼から漁協組合との会合に出席中く

リシユ(このリシユリユーを差し置いて、ムラクーモと一緒に行くなんてあり得ないわ……)プンプン

リシユ(でもリシユリユーが同席しても話は分からないし、ムラクーモの方が適任よね……私よりも前からアミラルを支えてきたんだから)ハア……

「あら、リシユリユーさん、こんにちは♪」

「こんにちは♪」

リシユ「あら、ヤマトにハルーナ、コマندان・テスト、Bon jour♪」

テスト「Bonjour. ■調子はどうか?」

リシユ「Pas mal……あなたは何?」

テスト「Je vais très bien♪」

く二人してお喋り中く

大和「本場のフランス語ってすごいわね」

榛名「はい……榛名なんて何を言っているのかさっぱりです」ニガ
ワライ

リシユ「あら、ごめんなさい。テストがいるとついね」ニコッ

テスト「ふふ、日本語でお話しますね♪」

大・榛『はい』ニッコリ

く暇潰しに四人でお喋りすることにく

リシユ「そういえば、ヤマート。一つ質問してもいいかしら？」
大和「はい、何でしょう？」

リシユ「貴女が持つてる日傘、前から素敵だと思ってたの。それはどこで買った物なの？」

大和「これですか？ これは提督から頂いた物なんです♪ 大和に似合うだろうって頂いたのですが、どこで購入されたのかまでは……」
「コマリエガオ

リシユ「アミラルからの贈り物……？」
プルプル

テスト「？」
クビカシゲ

リシユ「ハルーナもアミラルからカチューシヤをプレゼントされたのよね……今貴女がつけているヤツ」
ワナワナ

榛名「はい……榛名は大丈夫ですと言ったんですけど、榛名に似合うからあげる……と」
エヘヘ

リシユ「コマンダン・テスト？ 貴女もアミラルから何か贈り物をする？」

テスト「ええ……前MVPに輝いた時にスカーフを。君に似合うと思って買ってきたんだ……って」
ニコツ

リシユ「(#。D)」「ガタツ

大・榛・テ『!?!』
ビクツ

リシユ「私はまだアミラルから贈り物を貰ったことないわ！」

大和「何を贅沢言ってるんですか、リシユリユースさん」
ジトーツ

榛名「そうですよ、贅沢過ぎます」
ジトーツ

リシユ「どうしてよ!?!」
ガーン

テスト「それはリシユリユースさんの左手の薬指が原因なのでは？」

ニガワライ

リシユ「？」
チラツ

指輪キラ☆

リシユ「……♡／／／」
ニヤニヤ

大和「大和も提督から指輪をプレゼントされたかったです」

榛名「榛名も……」

リシユ「ま、まあ、そう思うのも無理はないわね！♡ でも残念な

がら、アミラルはこのリシユリユーを選んだの！♡ いくら戦友とは言え、アミラルは渡さないわ！♡」フフン

テスト「ニガワライ

大和「そんなこと知ってますう」プイツ

榛名「提督がジユウコンしないことは公言されてますからね」ム
スツ

リシユ「……………」

（正直、この二人は同性の私から見ても素敵。本当、私を選んでくれるだなんて思わなかった…………♡）

リシユ「ま、二人の分もリシユリユーがアミラルと愛を育むわ♡」ウ
インク

大和「はいはい、ご馳走様です」ニガワライ

榛名「提督に愛想を尽かされないようにしてくださいね」ニコツ
リシユ「誰に言ってるのかしら？」フフフ

「ほらほら、男なんだからしっかり〜！」

「なら少しは下ろすの手伝えよ!?!」

〜提督と叢雲がご帰還〜

リシユ「。：*；（*。▽。*），・*：。。」

〜リシユリユー、急いで提督の元へ〜

大和「戻りましょうか」ニガワライ

榛名「そうですね」アハハ：

テスト「リシユリユーがごめんなさい」ペコリ

◇正門◇

提督「まさか帰りにこんなに魚を貰うなんてな。車で行って良かった…………」

叢雲「お礼なんだからありがたく食べましょ」ニコツ

提督「だな……………んで、これからも海の平和をー」

リシユ「Bon^おne^か ar^えri^りvi^なve^さ♡」ピョーン

〜リシユリユー、提督の背中に飛びつく〜

提督「チーン

提督、頭を魚が入ったクーラーボックスに突っ込む

リシユ「((#) <) > (#)」スリスリ

叢雲「ヤレヤレ

提督「ぷはあ！」ザパアツ

叢雲「はい、タオル」つタオル

提督「サンキュ」フキフキ

リシユ「むう、リシユリユのこと無視するな！♡」グイッ

提督「してないしてない……」ニガワライ

リシユ「ずっとずっと待ってたんだから！♡」スリスリ

提督「ごめんごめん。ただいま、リシユリユ」ナデナデ

リシユ「ん♡」デレデレ

叢雲「そろそろ作業再開してくれない？」

提督「おっと、ごめん。リシユリユ、悪いけどこの魚を食堂に持つ

てくの手伝ってくれるか？」

リシユ「B i e n s ・ r ♡」

♡そして夜は魚料理パーティだった♡

◇夫婦の部屋◇

♡二人仲良く晩酌♡

リシユ「ん♡、m a r i ♡」ギューッ

提督「ははは、リシユリユはお酒が入ると甘えん坊になるな♡」ナ
デナデ

リシユ「だつて今日はお昼から会えなくて寂しかったのよ？」プン
ブン

提督「ごめんごめん」ニガワライ

提督「あ、そうそう。リシユリユに似合いそうな物があつたから
買ってきたんだ」つ包

リシユ「え……これのリシユリユに？」キラキラ

提督「ああ……君にピッタリなのがなかなか無くて、探すのに苦労
したんだ。待たせてごめんな」ニガワライ

リシユ「……M e r c i ♡ 開けてもいい？」

提督「どうぞ」ニコッ

くペンダント懐中時計、夫婦の写真付きく

リシユ「……………」♡「ギュッ

提督「それ、実はお揃いなんだ。ほら」つ同じ物

リシユ「素敵♡」フフフ

提督「これからも同じ時を歩んでいこう」ギュッ

リシユ「ええ、リシユリユーはあなたと共に……………」♡「ギューツ

リシユ(Je t'aime comme personne

e t'a jamais aimé♡

Mon amour pour toi est plu

s profond que toutes les mers

du monde♡

Pour toi, je sacrifierais t

out, même ma vie♡)

訳)あなたが今まで誰にも愛されなかつたくらいに私があるあなたを愛すわ。

私のあなたへの愛は世界で一番深い海よりも深い。

あなたの為なら命まで犠牲しても良い。

リシユ「Je t'aime trop fort…… mon m

ari♡」チュッ

提督「愛してるよ、リシユリユー」チュッ

リシユ「ンツ♡ ンツ♡」チュッチュッ

提督「ん……はは、それじゃ、そろそろ」ナデナデ

リシユ「ええ、リシユリユーを今夜もいっぱい可愛がってね♡」ス

リスリ

そして夫婦は静かにベッドインしたー。

リシユリユー 完

ジャン・パールとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がり――

◇明石酒保◇

ジャン「……………」

「ジャン・パールは日もある内から酒を飲み、カウンター席で項垂れていた」

リシュ「いつまでそうして俯いている気？ 仕事がないからってお酒だなんて……貴女、アミラルの留守を預かってる総責任者である自己覚はないの？」

明石「リシュリユーさん、そう言わないであげてください……」

リシュ「明石も！ 邪魔なら邪魔って言いなさいよ！ こんな辛気臭いのがいるせいで客が来ないって！ 姉である私がこの愚妹を罵ることを許すわ！」

明石「いやあ、そのようなことは決して……。そもそもここでカクテルを提供するって決めたのは私ですし、バーカウンターは店の奥で、普通の酒保は妖精さんたちがやってくれますから」

リシュ「そう……なら姉として私から謝るわ」

明石「いえいえ、お気になさらず。ジャン・パールさんが愛夫家なのはみんな知ってますし、離れているのは寂しいでしょうから」ニツコリ

リシュ「ありがとう」

リシュ「ほら、貴女も」

ジャン「Merci beaucoup……明石」

明石「いえいえ」ニツコリ

リシュ「はあ」ヤレヤレ

「こここの主である提督は語学力が堪能なため、日本の代表団の一員として国際会議に出向いている」

リシュ「今日帰って来るんだから、そんな様子を見られたら幻滅されるわよ？」

ジャン「そんなことないわ。あの人がそんなことするはずない」
リシュ「そこまで自信を持つてるなら少しはしゃんとしなさいよ」
　　頭では分かっているけど、心が伴っていないジャン・ボール
ジャン「リシュリユー、私はね、あの人が全てなの」
リシュ「普段からの貴女の惚気を聞いてれば分かるわ」
ジャン「だから離れている今、私は絶不調なのよ」ニッコリ
リシュ「今日初めて見せた笑顔が真っ黒でお姉ちゃんは悲しいわ」
ジャン「ふんだ」ピイツ
リシュ「はあ」

（我が妹ながら面倒臭い。アミラル、早く帰って来てくれないかしら）

カランコロソ

提督「ただいま」

ジャン「Mon 私amour……?」

リシュ「ほっ」

（やっと帰ってきた。ならさつさと逃げましょ）

ガツツ

　　リシュリユー、腕を何者かに掴まれる

リシュ「?」

明石「……………」

（一人にしないでください!）

リシュ「……………」

（今日は激辛料理で決まりね）アキラメ

　　そして

ジャン「Mon amour♡」スリスリ

提督「寂しい思いをさせて悪かったね」ナデナデ

ジャン「もつと慰めて♡」

提督「私の愛しいジャン・ボール。離れている間も、常に君のことを考えていたよ。そして離れている間も常に私の心は君の元にいた」
チユツチユツ

ジャン「嬉しい♡ 私も常にあなたのことを考えて、あなたのこと

を待ち望んでいたの♡」ニパツ

リシユ「待ち望み過ぎてポンコツだったわ」ゲンナリ

「愚痴を零すリシユリユだが、夫婦の耳には届いていない」

ジャン「Tu m'aimes?」

提督「Je t'aime. mourir」

ジャン「Embarrassé moi」

提督「Je vous suis attaché」ヒシツ

ジャン「Regarde moi」

提督「Tu as des beaux yeux」

ジャン「Embarrassé moi」

「Je ne peux pas vivre sans toi」
提督

「熱いキスを交わす夫婦」

ジャン「はあ……幸せ♡」

提督「私も幸せだ。さあ、カクテルで乾杯といこう。明石いつものを」

明石「アイアイサー」ハイライトオフ

提督「では」ニツコリ

ジャン「ええ♡」

カチン

その後も夫婦は二人だけの世界でイチヤイチャし、満足すると提督はジャン・ボールをお姫様抱っこして、二人が過ごす長官官舎へと戻った。

リシユ「はあ、やっと解放されたわ」

明石「ですね」ゲツソリ

リシユ「相変わらずあの二人はコープスリバイバーが好きね」

明石「カクテル言葉が『死んでもあなたと』ですからね」

リシユ「我が妹ながら愛が重いわ。義弟も同じく」

明石「ですね」

リシユ「Aimer, c'en est pas sérieux」

a r d e r l , u n l , a u t r e , c , e s t r e g a r
d e r e n s e m b l e d a n s l a m m e d i r e
c t i o n]

明石「日本語でお願いします」

リシユ「『愛すること、それは、お互いを見つめあうことではなく、同じ方向を一緒に見つめることである』って言ったの」

明石「おお」

リシユ「星の王子さまの作者、サン＝テグジュペリの言葉よ。あの二人にはお似合いよね」

明石「ですね」

リシユ「さて、明石。辛い物食べに行かない？」

明石「行きましょう！」

ジャン・バール 完

正規空母

赤城とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇執務室◇

赤城「提督、お帰りなさい」

提督「ただいま、赤城さん。今日はごめんね、お昼一緒に行けなくて」

赤城「いえ、演習が長引いたのですから仕方ありませんよ」

提督「そう言ってくれと助かるよ」

赤城「提督……何かお忘れではないですか？」

提督「え？」

赤城「こ・こ・に……補給」クチユビサシ

提督「ああ……ただいま」チユツ

赤城「ふふ、ありがとうございます♪」キラキラ

く夫婦仕事中く

赤城「提督、こちらのご確認をお願い致します」

提督「ん……前に比べたら資材も大分余裕出てきたね」

赤城「はい♪ 毎日いっぱい食べられるので幸せです♪」

提督「初めて赤城さんと加賀さんを同時に出撃させた時は卒倒しかけたよ」ニガワライ

赤城「す、すいません、大食らいで……」シユン

提督「いや、気にしないでよ。僕は赤城さんが美味しそうにご飯を食べてるところ見るの好きだから」ニコツ

赤城「」キユン

提督「沢山食べる赤城さんが好きだよ♪」ニコニコ

赤城「」キユンキユン

ギユツー

提督「赤城さん？」

赤城「そんなこと言うなら、提督も食べちゃいますよ?」ギュー
提督「毎晩美味しく頂かれてるよ?」ニコッ

赤城「くくくく／／／」カア

提督「ニコニコ

赤城「今晩は沢山頂きますね／／／」

提督「お手柔らかにね」ニガワライ

く夫婦休憩く

提督「あ、ねえ赤城さん」

赤城「はい、なんででしょうか?」

提督「さつき資材の確認書類見た時に、弾薬とボーキがなんか切り悪い数だったんだよね……」

赤城「そ、それはもしや!」ジュルリ

提督「端数を食べてもらえるとありがたいな♪」

赤城「は、はい! 食べます!」キラキラ

◇資材倉庫◇

提督「ええと……弾薬二三二とボーキ一〇五……と」

赤城「キラキラ

提督「ん、これは食べても良いよ♪」

赤城「いただきます」人

提督「召し上がれ」ニコニコ

パクパクー

提督「ニコニコ

赤城「……提督」

提督「どうしたの?」

赤城「そんなに見つめられると、食べにくいです……／／／」カア

提督「僕の楽しみを奪うの?」

赤城「そう言われても……／／／」

提督「♪」ピコーン

「じゃあ、僕が食べさせてあげるよ」ニコニコ
赤城「フア!」ボンッ

提督「はい、あーん」つ弾薬

赤城「あくん……」パクン

提督「美味しい？」ニコニコ

赤城「は、はい／／／」ニマ

く夫、嫁を餌付け中く

提督「食べてるときの赤城さんはやっぱり可愛いなあ」ニコニコ

赤城「も、もう提督う……／／／」モグモグ

提督「赤城さんに出会えて僕は本当に良かったよ」つボーキ

赤城「わ、私もです……／／／」モグモグ

提督「それは嬉しいな♪」ニコニコ

赤城「わ、私も嬉しいです／／／」モグモグ

提督「ねえ、赤城さん」

赤城「はい？」

提督「愛してる」ジツ

赤城「て、提督っ／／／」ドキッ

提督「言いたくなかったから言っちゃった」ニコツ

赤城「くく／／／」キュンキュン

ガバツ、床ドンー

提督「赤城さん？」

赤城「デザート頂きます……／／／」ハアハア

提督「ふふ、どうぞ」ニコツ

赤城「提督っ／／／」ギユッ

チュツー

赤城「んっ、ちゅっ……提督の唇はどんな甘味よりも甘いです／／

／／」トローン

提督「お口に合って良かった」ニコツ

赤城「」キュン

クイクイー

提督「？」

赤城「お代わりいいですか……？／／／」

提督「どうぞ」ニコツ

赤城「あんっ……ちゅっ……」

提督（さっきのは軽くて今回はついはむ感じみたいだ……）

赤城「お代わりを……／＼／＼」

提督「どうぞ」ニコニコ

赤城「んっ……ちゅ……ちゅっ……」

提督（今度はそつと重ねて、一度離してからついはむ感じか……）

赤城「身体が熱くなってきました……／＼／＼」トローン

提督「僕もだよ」ニコニコ

赤城「もう一度お代わりを……／＼／＼」

提督「良いよ」ニコツ

赤城「提督う……ん、ちゅっ……愛しています……ちゅ……」

提督「ん、ちゅ……赤城さん……」

赤城「まだ足りません……／＼／＼」キュツ

提督「何度でもどうぞ」ニコツ

赤城「ふふっ。提督……んっ、ちゅ……んんっ……」

◇資材倉庫前◇

赤城『あ……んっ、ちゅ……提督、ああ、提督う……んんっ、ちゅっ』

提督『んう……ちゅ、ふう……赤城さん』

／イチャイチャ チュツチュツ＼

天龍「もう資材ここに置いて帰ろうぜ／＼／＼」カア

龍田「ふふ、そうねえ♪」ニコニコ

暁「もうちよつと聞いていたい／＼／＼」ドキドキ

電「はわわわわ／＼／＼」ドキドキ

響「これは少し照れるな／＼／＼」ハラショー

雷「ラブラブね／＼／＼」ドキドキ

その後、夫婦は互いにスッキリとした清々しい笑顔で資材倉庫から出てきたと言うー。

加賀とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇埠頭◇

提督「戻ってきたな」

加賀「作戦終了。連合艦隊が帰投しました」ケイレイ

提督「お帰り。戦果はこちらでも確認しているから、今は入渠と補給に向かってくれ」ケイレイ

加賀「分かりmー」

夕立「提督さくん！ 夕立頑張ったっぽい！ 褒めて褒めて」
♪「ガバツ

島風「夕立ずっるゝい！ 私も頑張ったんですよ、提督！」
ギューツ

提督「お、おお……ちゃんと分かってるぞ。良くやってくれたな二人共」ナデナデ

夕立「わふく♪」ピコピコ

島風「へへく♪」キラキラ

＼ワタシモー！ アタシモー！ ワラワラ／

赤城「加賀さん、大丈夫ですか？」

加賀「何がですか？」

蒼龍「提督がみんなに取られちゃってますから……」

飛龍「ケツコンしてるとは言え、気にはするんじゃないですか？」

鳳翔「アラアラ

瑞鳳「モテる旦那を持つと大変だね」

加賀「提督は私だけの提督ではなく、艦隊みんなの提督です。艦娘とのスキンシップも大切ですし、あれくらいはケツコン前と変わりませんから」

飛龍「ケツコンしてるだけありますねー！」

蒼龍「そうですよね。束縛し過ぎると提督も困っちゃいますもんね」

赤城「正妻の余裕ってことかしら」クスクス

鳳翔「お二人は仲良しなご夫婦ですからね」ニコツ

瑞鳳「そういう所が大人だよね♪」

加賀「」

提督「みんな良くやってくれたなく♪」ナデナデ

駆逐艦勢『えへへ♪』キラキラ

加賀「」ギリツ

その日の夜――

◇提督&加賀・愛の巣◇

提督「あのく、加賀さん？」

加賀「何？」

提督「そろそろお腹空かない？」

加賀「空いたわね……」

提督「じゃあー」

加賀「嫌っ」キツパリ

く加賀、提督をだいしゆきホールド中く

提督「」

（部屋に戻ってきたのが一九〇〇過ぎだから……）チラツ

時計へ二一〇〇過ぎたぜ！

提督「」ニガワライ

加賀「頭の撫で加減がおぎなりになってるわ」ギューツ

提督「ご、ごめん」ナデナデ

加賀「く♡」トローン

提督「今日は一体どうしたんだ？」ナデナデ

加賀「今日、駆逐艦の子達を沢山構ってた」

提督「ああ、みんな頑張ってくれたからな」ナデナデ

加賀「私も頑張ったし、ここに戻るまでちゃんと我慢してたもん

……」ムウ

提督「勿論分かってるぞ？　ありがとうな」ナデナデ

加賀「んんっ♡　まだ足りないわ♡」ギューツ

提督（みんな、加賀が二人きりの時は甘えん坊なの知ったら驚くだろうな）

「ナデナデ

加賀「くっ♡」カオグリグリ

提督「加賀は甘えん坊だな」ナデナデ

加賀「こんな私は嫌い？」ウワメヅカイ

提督「そんなことないさ。普段の凜々しい加賀は綺麗だけど、今の甘えん坊な加賀は可愛くて好きだよ」ナデナデ

加賀「そうよね♡ えへ♡」スリスリ

提督「普段からこれくらい柔らかい表情なら、もっとみんなと打ち解けられると思うんだけどな」ニガワライ

加賀「だって……」プクウ

提督「まあ、加賀が柔らかい表情になったら、みんなに加賀を取られちゃうから、このままでもいいんだけどな」ナデナデ

加賀「旦那様♡」トクントクン

提督「で、本当に腹減りませんか？ そろそろ限界なんですけど」グウー

加賀「……仕方ないわね。一時晩御飯の時間にして、続きはその後にしてもらおうことにするわ」ムスツ

提督「ああ、頼むよ」ナデナデ

加賀「くっ♡」キラキラ

くやつと晩御飯！く

加賀「あくん♡」つ肉じやが

提督「あむ……うん！ 美味しい！」

加賀「くっ♡」ニヨニヨ

提督「はい、加賀もあーん」つ肉じやが

加賀「あく♡」オクチアーン

提督「イタズラゴゴロ

さっ↑避け

加賀「スカッ

提督「ニコニコ

加賀「くく／＼／／」ムウ

提督「ニコニコ

加賀「!!」シャーッ

かぷっ↑提督の首筋を甘噛み

提督「うわっ」ビクッ

加賀「ふあらふあつふあぶあふお♡」アムアム

訳（からかった罰よ♡）

提督「ちよ、俺が悪かったから、離して／／／」

加賀「いあ♡」チューチュー

訳（いや♡）

提督「ほら、ご飯冷めちゃうから！」グイッ

加賀「分かったわ……」ムウ

提督「後でな……／／／」ドキドキ

加賀「はい♡」キラキラ

くそんなこんなで晩御飯終了く

◇風呂◇

カポーン……

提督「あのく、加賀さん？」

加賀「何？」

提督「ここお風呂ですよ？」

加賀「知ってるわ」

提督「流石に二人は狭いんじや？」

加賀「だからこうしてるの」

く加賀、提督にだいしゆきホールド中（湯船の中）く

提督「今日はずっとこんな感じ？」

加賀「いいわね、それ♡」オメメハート

提督「身が保たないよ」ニガワライ

加賀「ムスッ

提督「ニガワライ

加賀「なら、これで我慢するわ」パクッ

提督「ビクッ

く加賀、またも提督の首筋を甘噛みく

加賀「旦那様はここを甘噛みされるの好きよね?♡」ハムハム

提督「好きっていうか、加賀が良くこうやって噛むから敏感になっ
たんだよ……////」

加賀「それはいいことを聞いたわ♡」アムアム

提督「おい////」ビクッ

加賀「く♡」チューチュー

提督「吸うな!////」

加賀「むう……」ジトツ

提督「そんな可愛く訴えても駄目だ」

加賀「じゃあ、こっちに戻すわ」ヒシッ

く加賀のだいしゆきホールドが炸裂!く

提督「タジタジ

加賀「く♡」キラキラ

◇寝室◇

加賀「旦那様♡ 私だけの旦那様♡」ギューッ

提督「そうだな」ナデナデ

加賀「もつと♡」

提督「ワシヤワシヤ

加賀「えへく♡」トローン

提督「さて、そろそろ寝ようか」

加賀「まだ旦那様から愛の言葉を聞いてない」ムスツ

提督「愛してるよ、加賀」ニッコリ

加賀「キスがないので不合格」プイッ

提督「ニガワライ

加賀「ここは譲れません」プクウ

提督「愛してるよ、加賀」チュッ

加賀「ん……んんっ、ちゅっ……っ……ふあっ、あん……んく♡」
チュッチュッ

提督「満足して頂けましたかな、お姫様?」ホツペナデナデ

加賀「はい♡」ヒシッ

提督「おやすみ、加賀♪」ホッペチユツ
加賀「おやすみなさい♡」ホッペチユツ

次の日ー

雪風「しれえ！ 頭撫でてくださいー！」ギューツ

時津風「あたしもあたしもー！」ギューツ

提督「おお、お疲れー」ナデナデ

提督「チラッ

加賀」

(……私の日那樣なのに……！)

提督(ーって思ってるんだろうな……)ニガワライ
エンドレスリピートであったー。

加賀 完

蒼龍とケツコンしました。

某鎮守府、昼ー

◇執務室◇

蒼龍「提督、そろそろ食堂に行きませんか？ もうお昼ですよ？」

提督「こっちはまだ終わらないから、蒼龍は先に行つていいよ」カ

リカリ

蒼龍「やだやだやだあゝ！」ガタツ

提督「ビクツ

蒼龍「せつかくの夫婦なんですから、ずっと一緒に居たいですうゝ」
ヤダヤダー

提督「でもまだ仕事が……」

蒼龍「ならいい子にしています！ 一人で食べるなら待つてる方がマ

シダー」

くうゝ↑蒼龍のお腹の音

蒼龍「あうゝ／／／」ウツムキ

提督「空腹は大敵だからな……よし、昼食にしよう」ナデナデ

蒼龍「ごめんなさあい／／／」クウー

提督「謝る必要は無いさ。寧ろ可愛かった」アハハ

蒼龍「もう、笑わないでくださいよう／／／」

提督「悪い悪い……じゃあ食堂に行こうか」

蒼龍「はゝい♡」ウデダキツキ

◇食堂◇

蒼龍「何にしようかな？」ウキウキ

提督「そーいや今は中華フェアなのかゝ」

蒼龍「蟹玉定食にしよう♪」

提督「俺は……蟹炒飯セツトだな」

ゝ夫婦並んでカウンター席へゝ

蒼龍「いただきます♪」人

提督「いただきます」人
ー。

蒼龍「はふはふ……おいひい♪」ムグムグ

提督「こつちも美味いぞ」モグモグ

提督「蒼龍」

蒼龍「なんですか？」

提督「少しあんかけ頂戴」

蒼龍「蟹玉じゃなくてあんかけですか？」

提督「うん」

蒼龍「いいですけど……？」

提督「炒飯に掛けて」ニシシ

蒼龍「うわゝ、あんかけ炒飯にする気ですねゝ？」

提督「ドヤア

蒼龍「むう……」

ゝあんかけ炒飯の完成ゝ

提督「ウマウマ」モグモグ

蒼龍（なんかずるい……）ムムム

ピコーン！↑蒼龍ひらめく

蒼龍「提督、提督」クイクイ

提督「ん？」

蒼龍「あゝ♡」オクチアーン

提督「ほれ」つあんかけ炒飯

蒼龍「んゝ♪ 美味しい♪」ムグムグ

提督「そりゃあ良かった」ニコツ

蒼龍「もう一口ゝ♡」オクチアーン

提督「どうぞどうぞゝ」つあんかけ炒飯

蒼龍「んゝ♡」ムグムグ

〈提督もあゝん♡

あゝん♪〉

／イチャイチャキヤツキヤツゝ

飛龍「激辛麻婆豆腐定食。唐辛子増し増しで」

加賀「激辛辣子鶏特盛り定食。唐辛子、山椒増し増しで」
赤城「激辛麻辣火鍋アカギ級。激辛棒々鶏アカギ級共に唐辛子増し増し増しで」

鳳翔「はくい」ニガワライ

昼下がりにー

◇休憩室◇

蒼龍「どうですか、提督？」ナデナデ

提督「余は満足じゃ」マツタリ

蒼龍「ふふ♪ 良かった♡」ニコニコ

提督、蒼龍の膝枕を堪能中

提督「膝枕は気持ちいいけど、蒼龍の顔が胸で見えないな」

蒼龍「もう、変なこと言わないでくださいよう／＼／＼」

提督「いや、事実だし……」

蒼龍「そんなこと言うならこうです♪」

むぎゆつ↑蒼龍の太もとおっぱいサンド炸裂

提督「ふおく!？」

蒼龍「どうだ♡」ウリウリ

提督「昇天しそう……」？d

蒼龍「ふふ♡ 提督にだけのサービスですからね♡」フニフニ

提督「疲れが吹き飛ぶ」

蒼龍「♡」ムギユーツ

夕方にー

◇執務室◇

蒼龍「提督、そろそろ終わりにしませんか？」

提督「もうそんな時間か……なら終わりにするか」ノビー

蒼龍「お疲れ様でした」ニコツ

提督「蒼龍もお疲れ様」ニカツ

蒼龍「今、戸締まりして来ますね♪」

提督「頼む」

◇提督&蒼龍邸（鎮守府付近）◇

く夫婦帰宅く

提督「ただいま♪」チュツ

蒼龍「お帰りなさい♡」チュツ

提督「お帰り♪」チュツ

蒼龍「ただいま♡」チュツ
ー。

蒼龍「上着預かります♪」

提督「ありがとう」つ上着

蒼龍「ジーツ

提督「？ 穴でも開いてた？」

蒼龍「あ、違います」

提督「じゃあ、何見てたの？」

蒼龍「前から気になってたんですけど、どうして提督はズボンのベルト通しにロープを結んでるんですか？」

提督「あく、これ？」

蒼龍「『艦長は艦と運命を共にするー』そう言う意味ですか？」

提督「それが本来の意味だな……俺の場合は少し違うかな」

蒼龍「？」クビカシゲ

提督「『沈みそうな艦娘は力づくでも引き上げるー』って言う自己満的な意味合いだよ」

蒼龍「キューーン

提督「幸いロープを使うような事態にはなっていないけど、これがあると気持ち引締められるからな」

蒼龍（提督……♡）キウンキウン

「私達は沈みませんよ。提督がしっかり指揮してくれますから」
ニパツ

提督「当たり前だろ。誰一人として轟沈なんてさせないさ」ナデナデ

蒼龍「はい♡」ギューツ

提督「ナデナデ

蒼龍「提督、提督♡」クイクイ

提督「ん？」

蒼龍「提督は私のことどう思っているの？♡」

提督「世界一愛しているよ」ニカツ

蒼龍「はう♡ 私も提督のことを世界一愛しています♡ いっぱい
いっっぱい♡」ギューツ

提督「可愛いやつめ♪」ナデクリナデクリ

蒼龍「きゃ♡」ヒシツ

深夜ー

◇寝室◇

蒼龍「提督♡」チュツ

提督「蒼龍♡」チュツ

蒼龍「私、幸せです♡」スリスリ

提督「俺もだよ」ナデナデ

蒼龍「でも、そろそろほしいな♡」

提督「ん？」

蒼龍「提督との子ども♡」

提督「!？」ドキッ

のしつ↑蒼龍、提督にマウントポジション

蒼龍「提督との子どもくください♡」ニパツ

提督「後悔するなよ？」ナデナデ

蒼龍「しませんよ♡」ギューツ

蒼龍（貴方となら未来は明るく輝いてるから♡）
そして夫婦はめちやくちや（ry

蒼龍 完

飛龍とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇埠頭◇

提督「」チョコリツフドウ

飛龍「てくとくとく！」ノシ

提督「」ニコ

ザバツー

飛龍「提督！ 第一艦隊、無事に帰投致しました！」ニコニコ

提督「」コクリ

飛龍「では、ドックに向かいますね！ 修復が済み次第執務室へ
mー」

提督「」フルフル

飛龍「え、今日は仕事が早く終わったからもう帰るだけ？」

提督「」コクコク

飛龍「じゃあ、食堂で待っててください！ 余り被弾してないので
三十分くらいで上がれますから！」

提督「」オロオロ

飛龍「そんなに急がなくてもいい？ 私は早く提督と一緒に居たい
んです！ だから急ぐんです！」

提督「」／／／「」テレテレ

飛龍「じゃあ、行ってきますね。みんなドックへ……居ない」キョ
ロキョロ

提督「」アセアセ

飛龍「先に向かった？ みんな薄情だなあ。追いかけますね！
また！」ノシ

提督「」ノシ

◇ドック◇

カポーンー

飛龍「みんな置いていくななんて酷いんじゃない？」ジトー

蒼龍「だって飛龍は提督と話してると長いんだもん」クスクス
加賀「おまけにあれだけラブラブオーラ満載の空気が蔓延している所に居るのは気が引けるわ」

赤城「見ているこっちが恥ずかしくなるのよね」ニガワライ

翔鶴「コクコク

瑞鶴「あの朴念仁さんがあれだけ表情変えるのって飛龍さんが居る時だけだからね」

翔鶴「ちよ、ちよっと瑞鶴っ」アセアセ

瑞鶴「あ……」ヤバッ

加賀「ヤレヤレ

赤城「ソシラヌフリ

蒼龍「飛龍……」オソルオソル

飛龍「私の愛しい愛しい提督に対して優柔不断で仕事馬鹿の朴念仁ですって……？」ギロリ

瑞鶴「わ、わわ私、そこまで言っていない……！」ガクブル
(どうしようどうしようどうしよう！ パターン青、レ級並みの

非常事態だわ！)

赤・加『南々無く』人

翔鶴「ごめんなさい、瑞鶴っ」オヨヨ

蒼龍「終わったらバケツ使ってあげるね」人

飛龍「これは提督への悪口の分！」つ天山
ポーンー

飛龍「これはその悪口で傷ついた提督の分！」つ彗星
バーンー

飛龍「そしてこれが夫婦の怒りよ！」つ流星改

バポーンー

瑞鶴「チーン プスプス

飛龍「あ、もう時間だ。じゃあ、みんなお先に♪」ノシ

翔鶴「瑞鶴く？」ツンツン

蒼龍「バケツ、バケツ」ザパー

加賀「学習しなさい」ヤレヤレ

赤城「飛龍さんに提督のことは禁句ですから」ニガワライ
瑞鶴（次からはもつと気をつけよう……）ハイライトオフ

◇食堂◇

飛龍「ーてなことがあつたんですよ!? 酷いですよね!?! 提督
はこんなに良い方なのに〜!」プンプン

提督「メツ

飛龍「た、確かにカツとなつて艦載機飛ばしちやいましたけど……
それはー」

提督「メツ

飛龍「はい……明日瑞鶴にちゃんと謝りますう」シヨボン

提督「ナデナデ

飛龍「えへへ〜♡」デレデレ

提督「スクツ

飛龍「はい、帰りましょうか♡」ギユツ

◇提督&飛龍邸◇（鎮守府内に有）

提督「カチャツ↑鍵開け

飛龍「あ、待ってください」

提督「?」クビカシゲ

〜先に飛龍が玄関へ〜

飛龍「お帰りなさい、あ・な・た♡」ニコニコ

提督「／／／」ドキドキ

飛龍「ふふ、照れてるあなたも素敵♪」ギユツ

提督「／／／」オロオロ

飛龍「〜♡」ギュー

提督「コホン

飛龍「は〜い、今夕飯作りますね〜♪」

提督「コクリ

飛龍「お風呂は今朝、追い焚きの設定しておいたから入れるはずよ、
ご飯作つてる間に入ってね」ニコニコ

提督「コクリ

〜提督入浴中〜

提督「ゴシゴシ

〜飛龍料理中〜

飛龍「ふんふ〜ん♪」トントン

〜十数分後〜

提督「ホクホク

飛龍「は〜い、夕飯も出来たわよ〜♪」

ズラーリッ〜

提督「キラキラ

飛龍「今日は前から提督が食べたがってたから、中華に挑戦してみ
たの。食べてみて」ニコニコ

提督「人

飛龍「召し上がれ〜♪」

提督「パクン

飛龍「ジ〜

提督「モグモグ

飛龍「ハラハラ

提督「ゴクン

飛龍「ドキドキ

提督「? d

飛龍「やったあ♪」バンザイ

〜仲良く夕飯タイム〜

提督「人

飛龍「お粗末様です」ニコニコ

提督「ゴロン オナカポンポン

飛龍「お行儀悪いわよ〜?」ニコニコ

提督「ゴロゴロ

飛龍「ふふふ」

提督「ゴロゴローピタッ

飛龍「?」

提督「トナリポンポン

飛龍「キユン」
提督「ポンポン」
飛龍「ポスツ」
提督「ギユツ」
飛龍「スリスリ」
提督「ナデナデ」
飛龍「ゴロゴロ」
提督「ツンツン」
飛龍「キヤツキヤツ」
提督「ニコニコ」
飛龍「デレデレ」
提督「ツンツン」
飛龍「パクツ」
提督「!?」ビクツ
飛龍「ハムハム↑指甘噛み中」
提督「アセアセ」
飛龍「チューチュー↑指吸い中」
提督「プルプル」
飛龍「ニコニコ」
提督「ガバツ」
飛龍「きやつ」
提督「フンス」
飛龍「ちゃんと声に出して言ってる?」メツ
提督「あ……あ、愛して、る。飛龍……／／／／」カア
飛龍「私もあなたのこと愛してるわ♡」ホールド
この後めちやくちや夜戦したとき。

飛龍 完

雲龍とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇空母寮一室◇

コンコンー

天城「はい、開いてますよ」

ガチャー

雲龍「失礼するわね……」

葛城「雲龍姉じゃん。どうしたの〜?」

雲龍「ちよつと相談があつて……」

天城「雲龍姉様にしては珍しいですね。どうされたんです?」

雲龍「実はー」

〜雲龍相談中〜

葛城「アタマポリポリ

天城「プルプル

雲龍「どうしたらいいかしら?」

葛城「(ねえ天城姉、これ相談? 惚気じゃないの?)」ボソボソ

天城「(まあ、提督と姉様の夜伽のお話でしたからね……でも結構真

剣そう)」ボソボソ

雲龍「あの……」

葛城「ああ、あれね。マンネリ防止つてやつね!」

天城「でも正直な所、私も葛城も殿方と夜伽の経験がないので何と
言えば良いか……」ニガワライ

雲龍「そうよね……」

葛城「てかさ、ケツコン前もケツコン後も年がら年中ラブラブなん
だし大丈夫なんじゃない?」

天城「何故その様なことを考えるようになったんですか?」

雲龍「昨晚も提督と営んだのだけど、いつも三回以上はしてくれる
のに昨晚は一度だけで終えてしまつて……」

葛城(あ?)

天城（ん？）

雲龍「それで不安になってしまつて……」

葛城（またまた体調が悪かつただけなんじゃ？）

天城（毎回三回以上が当たり前だから、感覚が麻痺してるのでは？）
雲龍「だから、お願い。どんな些細な事でも良いの。何かないかしら？」

葛城「うくん……スタミナ料理を作ってみるとか？」

雲龍「スタミナ料理……ありがとう、試してみるわね。天城はどうかしら？」

天城「いつだったか青葉さんの雑誌に『夫婦になつても適度な刺激が夫婦の仲をより良くする』と、書いてあつたのを読んだことがあります」

雲龍「適度な刺激……具体的にはどうしたらいいのかしら……」
ウーン

葛城「いつもと違うことするのが刺激になるんじゃない？（デートとか）」

雲龍「いつもと違うこと……（プレイ内容変更？）。分かつたわ。ありがとう二人共」ニコツ

天城「いえ、お力になれたのでしたら何よりです」ニコツ

葛城「頑張つてね〜♪」

雲龍「ええ、じゃあ提督の所に戻るわね」

パターンー

葛城「はあ、ただの惚気にしか聞こえなかつたよ〜」グダー

天城「まあまあ、提督と姉様が仲睦まじくしているのなら良いじゃない」ニコツ

葛城「仲睦まじいって言うか良過ぎだと思ふけどね〜」

天城「否定はしないわ」ニガワライ

葛城「だよね〜」ニガワライ

その日の夜ー

◇提督と雲龍の部屋◇

カチヤー

提督「今帰ったよ」

雲龍「お帰りなさい」ニコッ

提督「ただいま」チュッ

雲龍「んっ……ちゅっ……んはあ……ふふ」ギユッ

提督「今日も可愛いな、雲龍は」ナデナデ

雲龍「提督は今日も素敵よ」チュッ

提督「ありがとう」チュッ

く居間へ移動く

雲龍「今ご飯持ってくるわね」

提督「ありがとう」

く夫婦揃って夕飯く

提督「豚丼にレバナラのニンニク醤油炒め、ナスの味噌汁か……美味そうだ♪」

雲龍「頑張って作ったのよ」ニッコリ

提督「ありがとう♪ では！」人

雲龍「ええ」人

提・雲『いただきます』

提督「おお、これは本当に美味しいぞ！」ガツガツ

雲龍「おかわりもあるからね」ニコニコ

提督「おかわり！」つ茶碗

雲龍「はいはい♪」ニコニコ

く夕飯後の食休みく

提督「いやあ、美味かった♪ 雲龍、いつもありがとう♪」

雲龍「沢山食べてくれて嬉しいわ」ニコニコ

提督「じゃあ風呂に入るか」

雲龍「私も一緒に入っていいかしら？」

提督「珍しいな……どうかしたのか？」

雲龍「たまには一緒に入ろうかなって……ダメ？」ウワメツカイ

提督「ダメなもんか……よし、一緒に入ろう」ナデナデ

雲龍「ええ」ニペア

提督（可愛い奴／／／／）

◇お風呂場◇

カポーンー

提督「はあく、やっぱ風呂は良いなあ〜」クハー

雲龍「そうね」チャプ

提督「今日は雲龍も一緒だから、余計気分が良いよ♪」

雲龍「じゃあ、このまましちゃう？」ギユツ

提督「……おい、本当に今日はどうしたんだ？　なんでこんな積極的なんだよ……何かあったのか？」

雲龍「……分かったわ。説明する」

〜昨晚の事を説明中〜

提督「え、あく、それは……」シドロモドロ

雲龍「私はちゃんと言った。提督もちゃんと行って」ジツ

提督「雲龍ってしてる時いつも苦しそうにしてるから、嫌なのかなって思ってた……」

雲龍「苦しそうにしてる、かしら？」

提督「してるよ……最近は唇噛み締めてるじゃないか」

雲龍「声上げるのが恥ずかしいだけよ……／＼／＼」カア

提督「今更だな」ニガワライ

雲龍「／＼／＼」ウツムキ

提督「本当に無理してないのか？」ナデナデ

雲龍「してないわ……提督になら何をされても嬉しいわ♡」ギユツ

提督「じゃあ、俺も遠慮しないからな？」クイツ

雲龍「ええ、沢山愛して♡」

〜その夜めちやくちや（ry）

翌朝ー

◇空母寮一室◇

葛城「で、昨晚はお楽しみでしたと……」アキレ

天城「取り越し苦労でしたね……」ニガワライ

雲龍（体中包帯）「ええ、心配かけてごめんなさい」

葛城「てかさ……」

天城「その包帯はどうされたんですか？」

雲龍「／＼／＼」ウツムキ

天・葛『？』クビカシゲ

雲龍「昨晚にその……沢山キスマークを付けてもらったの……♡」
ポッ

葛城「ア？」

天城「ニガワライ

雲龍「ここもここも、全部提督のって証なの♡」デレデレ

天・葛『あく、これは長くなる』トオイメ

その後も二人は雲龍から事細かく惚気話を聞かされたのであったー。

雲龍 完

天城とケツコンしました。

某鎮守府、夜―

◇提督&天城邸（鎮守府内）・居間◇

天城「提督、お帰りなさいませ。長期のご出張、お疲れ様でした」ペ
コリ

提督「ああ……長い間留守にして悪かったな」

天城「いえ、ご無事で何よりです」ニツコリ

提督「ジーツ

（久しぶりに会えた嬉しさからの笑顔……実に愛らしい……）

天城「……どうしました？」

提督「いや……こうして天城に会えたのは一ヶ月ぶりだからな。そ
う思うと嬉しくてな……」

天城「大本営直々のご指名で今後の大規模作戦会議に参加していた
のですから、仕方ありません。私も、こうして提督と会えて嬉しく
思っています」ニコニコ

提督「

（何気ない言葉……でも今の俺にはとてつもなく嬉しい言葉だな
……）

天城「毎晩お電話は頂いていましたが、やはり直接会って提督のお
顔を見ながら話すと安心します♡」ニツコリ

提督「天城……」

（ああ……この笑顔、俺が愛してる女性ヒトが今すぐ目の前に……）

提督、思わず天城の頬を撫でる

天城「提督……？」キョトン

提督「わ、悪い！ つい……／＼／＼」カー

天城「ふふ……そうですね」ソツ

天城は頬に触れる提督の手に自分の手を重ねる

天城「私も……このように提督に触れて欲しいと、お電話の向こう
で声を聞きながら思っていました♡」スリスリ

提督（天城……そんなことを言われると、抑えが利かなくなるじゃないか！）

提督「天城……」スツ

提督、思いのままに天城を抱きしめる

天城「あ……提督……♡」ギューツ

天城、負けじと提督を抱きしめ返す

提督（天城……）

天城「♡」スリスリ

提督「天城……」ナデナデ

天城「♪」エイツ

提督「え……？」

ドサツ♡↑天城、提督を押し倒す

提督「あ、天城……？」

天城「提督……辛かったのはご自分だけだと思っていまいませんか？」
イジイジ↑提督の胸元をなぞる

提督「は……？」

天城「会えなくて我慢していたのは……ご自分だけだと思っていま
せんか？」

提督「天城……それは、つまり……」ゴクリ

提督「天城も……俺と会えなかったのは、辛かったということ……
か？」

天城「当たり前です……提督の声を聞いているだけで、提督の温も
りが蘇ってきて……どうして私の隣に提督がいないのかと恨めしく
感じることは一度や二度ではありませんでした」ジーツ

提督（天城……）

天城「提督のせいです」ギューツ

提督「ん……？」

天城「提督が私に想いを告げたりしなければ……私はこんなにも切
なさで胸を詰まらせることはありませんでした」スリスリ

提督「それは、そうだけど……」アセアセ

（謝るべき……か？）

天城「想いを告げてくれてありがとうございます……とても嬉しく思っています♡」ニッコリ

提督（え……）

天城「提督が告げてくれなければ……私はこんなにも幸せを感じることはなかったと思います」

天城「提督を想って切ない夜を過ごすことも、身体を熱くすることもなかったはずですから」

天城「辛いことも含めて……これらは全て、提督が私に与えてくださっている喜びです♡」

提督（天城……お前はそんなにも俺のことを想って……俺が側にいない時でも、俺のことを考えてくれて……）

提督（……切ない気持ちを抱えつつも、それすら喜びに感じてくれているのか……そのことが、ただただ嬉しい）

天城「提督」クイクイ

提督「ん？」

天城「口づけても……いいですか？♡」ウワメツカイ

提督「ああ、勿論だとも」

天城「んく……ちゅ……」

提督「ん、ちゅ……」

天城「もう一回♡」

提督「ああ、いいとも……」

天城「あむ……んっ……ちゅっ……」

提督「んっ……ちゅっ……はあ……」

天城「もう一回……♡」スリスリ

提督「ああ……」ホツペナデナデ

天城「んう……ちゅ、ちゅっ……ちゅっ……」

提督「ちゅっ……っ……っ……んはあ……」

天城「はあはあ……もう一回……♡」トローン

提督「ああ」ギユツ

天城「提督……ちゅ、んんく……お会いしたかった……ずっとずっと……こうして抱き合って、口づけたかったんです……♡」チュツ

チュツ

提督「ちゅ……んっ……天城……」チュツ

天城「もつと……してもいいですか?♡」ハアハア

提督「ああ……俺ももつと天城とこうしていたい」ホツペナデナデ

天城「ああ、提督う……ちゅ、ちゅっ……んっ……んむう……♡」

チュツチュツ

提督「天城……ちゅ……んっ……んんっ……」チュツ

その後も、夫婦は数え切れない程の口づけを交わし、幾度も愛し合った。

まるで初めてそれを覚えた恋人同士のように、飽きることなく何度も……何度も……

その翌日……

◇執務室◇

提督「……おはよう、みんな。これまで出張で出撃は無かったが、今日からまたみんなに出撃してもらうことになる。しつかり頼む……ぞ」ゲツソリ

天城「皆さん、頑張りましょうね!♡」ツヤツヤキラキラ

葛城「(提督大分やつれてるわ……出張大変だったみたいですね)」

ヒソツ

瑞鶴「(そうね……こんな時こそ私達がしつかりしなきゃね)」ヒソ

ヒソツ

翔鶴「ニガワライ

雲龍「(天城があんなにキラキラしているなら、疲れている理由はアレね……)」フフ

大鳳「(一ヶ月も離れ離れでしたから、盛り上がったんでしょね)」

フフ

天城「では提督♡ 早速今日の任務に取り掛かりましょう!♡」ニ

パー

提督「あ、ああ……頑張ろう……」ニツコリ……

天城 完

葛城とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

葛城「ねえ……お昼の時、天城姉と何の話をしてたの？」

提督「？ 特にこれといった話はしてないぞ。最近の調子を聞いたくらいだ」

葛城「ふくん……」

提督「さて、仕事仕事」ソソクサ

葛城（怪しい……）ムムツ

葛城（……もしかして浮気!?!）ガンツ

葛城（いやいや待つよ、葛城！ そもそもジユウコンだって許されてるし、気にしちゃダメよ!）ウンウン

葛城（……やっぱり、天城姉みたいな女の人が提督は好きなのかな……）シュン

葛城（そうよね……じゃなきやわざわぎジユウコンなんてしないもの）

葛城（でもでも、戦力増強の為かもしれないし……）ウーン

葛城（つてそもそもそうなるとは限らないじゃない!）ブンブン

提督（さつきから何百面相してるんだ？）カワイイヤツ

提督「葛城」

葛城「え、ななな、何!?!」ビクツ

提督「さつきから顔色が優れないように見える。休憩してきたらどうだ？」

葛城「……そう、ね。うん、少し外の空気吸ってくるわ」

提督「ああ、行ってこい」

葛城「うん……少ししたら戻るから」

提督「はいよ」ノシ

ガチャー

◇執務室・ドア前◇

葛城「あ」

天城「あら、葛城。お疲れ様」ニコリ

葛城「う、うん……お疲れ」

天城「？ 提督は居るかしら？ 少し話があるのだけど……」

葛城「え、うん。中に居るわよ」

天城「そう……じゃあ、私はこれで」ニコツ

葛城「う、うん……」

パターンー

◇執務室外・ドア前◇

葛城（もももも、もしかして、ケツコンの返事をしに来たの!?!）ア

ワワ

葛城（少しなら良いわよね……?）

く葛城、ドアに耳あてく

天城『提督、お昼の時に言われたことですけど……』

提督『ああ、頼めるか?』

天城『はい。私でよろしければ、喜んでお引き受け致します!』

葛城「」

く葛城、その場から走り去るく

葛城「」グスツ

雲龍「?」

（葛城?）

◇防波堤◇

葛城「」

く防波堤の隅で体育座りく

葛城（何でこんな気持ちになってるんだろ……）

葛城（これは浮気じゃないのに……）

葛城（提督……）

◆思い出◆

く告白く

提督『葛城、お前のことが好きなんだ！ 俺と付き合ってくれ!』フ

カブカ

葛城『え!? 正気なの!?!』

提督『俺は真剣だ! お前じやなきや駄目なんだ!』

葛城『そ、そんだけ言うなら……いい、いいわよ!』フンッ

提督『ありがとう! ずっと好きでいるからな!』

葛城『わ、分かったから、そんな恥ずかしいこと言わないで!』

くプロポーズく

提督『これで葛城も最高練度な。おめでとう!』ナデナデ

葛城『ふ、ふんっ!』航空母艦なんだからこれくらい当然でしよっ!』デヘヘ

提督『ならこれも当然のように受け取ってくれ!』っ指輪

葛城『え!』

提督『葛城……俺とケツコンしてほしい。俺のお前への気持ちは『恋』から『愛』に変わったから……!』

葛城『私でいいの……?』ウルッ

提督『お前じやなきや駄目さ!』ニッ

葛城『ならお嫁さんになってあげる!』ナキワライ

提督『愛してるよ、葛城……!』ギユッ

葛城『うん……♡』ギューッ

◇現在◇

葛城（今思えば私……提督に自分の気持ち伝えたことない……）

葛城（……どうして今になって気がつくんだろ……提督はもう……）グスッ

「何してるの、そんなところで?」

葛城「クルッ

雲龍「?」ニコッ

葛城「雲龍姉……」

雲龍「隣失礼するわね……」ストーン

葛城「どうぞ……」ウツムキ

雲龍「提督から伝言」

葛城「？」

雲龍「『晩飯までには部屋に戻ってこい』って」

葛城「？」

葛城「あ」

「もう夕暮れである」

葛城「はあく……」ガクツ

雲龍「何か悩み事？」

葛城「……」

雲龍「話せば楽になるかもしれないわよ？」

葛城「……実は……」

「葛城、説明中」

雲龍「そう……提督と天城が……」

葛城「うん……」

雲龍「ふふ、葛城は本当に提督のことが大好きなのね」クスクス

葛城「そ、そんなじゃ……」

雲龍「違うの？」

葛城「……好き……とっても……誰にも渡したくない……」

雲龍「ふふ、なら大丈夫そうね」ニコニコ

葛城「どういう意味？」

雲龍「さあ？ 後は自分で確かめなさい。私は天城と違って、一か

ら教えないもの♪」フフン

葛城「何よそれ……」ムウ

雲龍「それよりそろそろ例の『晩飯まで』なんじゃないの？」

葛城「あく、本当だ！」スクツ

雲龍「行つてらっしゃい」クスクス

「葛城、急いでその場を去る」

雲龍「さて、私はもう少し海を眺めようかしら……あの夫婦は熱く

て参っちゃうわ」クスクス

◇提督&葛城の部屋◇

ボタン！

葛城「提督、ごめん！ 少し遅くな……った……」

提督「おお、気にするな。今全部出来上がったところだからな」ニツ
く豪華な会席料理く

葛城「何……この料理……？」コンワク

提督「やっぱり忘れていたのか……」ヤレヤレ

葛城「？」

提督「今日は俺達のケツコン記念日だろう？」

葛城「あ」

提督「前々から天城から一から教わって、こつそり準備しててな」

葛城（あ）

雲龍『私は天城と違って、一から教えないもの♪』

提督「お前が休憩してる間に、料理は全部天城に教えてもらったから、正真正銘の会席料理だぞ！」ドヤア

葛城（あ）

天城『はい。私でよろしければ、喜んでお引き受け致します！』

葛城（そつか……私の勘違いだったんだ……）ヘナヘナ
ぺたん↑その場に座り込む

提督「お、おい！ どうした葛城！」

葛城「提督……」

提督「どうした!?!」

葛城「……き……」ボソツ

提督「は？」

葛城「好き！ 大好き！ 愛してるの！」ギューツ

提督「え……は……？」ボウゼン

葛城「好き好き好き好き好き、大好きく♡」ギューツ

提督「お、おおく……俺も大好きだぞ」ナデナデ

葛城「好きく♡！♡」ギューツ

葛城（提督は私の！♡）ギューツ

提督（初めて好きって言ってくれた！）カンキ

そして葛城は提督が愛情込めて作った手料理を食べ、更に提督もた

(ryー)。

葛城
完

グラーフとケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇食堂◇

カランカランー

レーベ「Guten Abend. 間宮さん、伊良湖さん♪」

マックス「Guten Abend」

ユー「Guten Abend」ヒョコ

伊良湖「いらっしやいませ♪」

間宮「いらっしやいませ♪」

提督「おく、みんな揃ってるな」ヒョコ

ユー「? アトミラール？」

マックス「あら、提督もいたのね」

提督「ああ」

間宮「ふふ、提督は今お料理をしに来てるんですよ」

レーベ「提督が料理? どうして?」

提督「ちよつとな……／／／／」

伊良湖「提督はグラーフさんの為にドイツ料理を作りに来られてるんですよ♪」

マックス「グラーフさんの為……ああ、そういうこと」フフ

ユー「???」キョトン

間宮「愛しい奥様の為に奥様の祖国料理を作る旦那様……素敵ですよね」ニコニコ

伊良湖「健気で微笑ましくもありますよね♪」

ユー「おく……!」キラキラ

レーベ「二人は前から仲良しだもんね」ニコツ

マックス「熱過ぎるくらいだけどね」フフフ

提督「か、からかわないでくれよ／／／」

提督「そういえば、ビスマルクとプリンツは?」

レーベ「あの二人は鳳翔さんのお店に行ったよ♪」

マックス「プリンツはビスマルクが酔った時の為に付いていったわ」

ユー「プリンツさんは優しいから」ニガワライ

提督「同情するな……つと所でみんなは夕飯か？」

レーベ「あ、そうだった！」

マックス「提督のせいで忘れてたわ」クストツ

提督「／／／」アタマポリポリ

間宮「今日はカレーですよ」

レーベ「やった♪ 大盛りでお願いします！」

ユー「ユーも……！」キラキラ

マックス「私は普通で……あ、辛口でお願いします」

伊良湖「は〜い♪」

提督「俺もそろそろ部屋に戻るよ。グラーフが帰って来てるかもしれないし、この料理を食べさせてみるよ。間宮さん、伊良湖さん、ご指導感謝します」ペコリ

間宮「いえいえ♪」

伊良湖「頑張ってくださいね♪」

レ・マ・ユ『お幸せに♪』

提督「お、おう／／／」ニコツ

同時刻――

◇居酒屋・鳳翔◇

鳳翔「はい、良い味です。これなら提督も喜んでくれますよ」ニコツ
グラーフ「そうか……良かった。鳳翔、感謝するぞ……Danke」
ペコ

鳳翔「いえいえ♪ しかし、提督の為にこうして和食を作るなんて……愛してるんですね」ニコニコ

グラーフ「と、当然だ……アトミラールは私の全てだからな♡／／
／／」ポツ

鳳翔「クスクス

ガラガラー

ビスマルク「Guten Abend. 鳳翔♪」
プリンツ「こんばんは〜」ペコリ

鳳翔「いらっしやいませ♪」

グラーフ「Guten Abend」

ビスマルク「あら、グラーフじゃない。貴女も飲みに来たの？」

グラーフ「違う」

鳳翔「グラーフさんは和食を習いに来たんですよ」ニコツ

ビスマルク「和食を？ どうして貴女がわざわざ？」

グラーフ「き、気まぐれだ……／＼／＼」プイッ

鳳翔「クスクス

プリンツ「……ああ、そういうことですか」フフ

ビスマルク「？」

鳳翔「プリンツさんの思ってる通りですよ」ニコニコ

プリンツ「グラーフさん、素敵です！」キラキラ

ビスマルク「？」

鳳翔「仲睦まじくて羨ましいですよね」ニコツ

プリンツ「はい！ 憧れちゃいます♪」フフフ

グラーフ「か、からかわないでくれ／＼／＼」プイッ

ビスマルク「ちよつと……一体何の話？」

グラーフ「そういえば、レーベ達は？」

プリンツ「レーベちゃん達は食堂に行きましたよ♪」

ビスマルク「私は飲みたい気分だったからこっちに来たのよ」

プリンツ「私もそんな感じですよ」ニガワライ

グラーフ（あの表情から察するに、ビスマルクが心配で付いてきた

んだな……）ニガワライ

「同情するよ、プリンツ……」

ビスマルク「？」

鳳翔「お二人はいつもののでいいですか？」

ビスマルク「え、ええ……メガジヨツキでお願い」

プリンツ「私は中ジヨツキで」ニコツ

鳳翔「は〜い♪」

グラーフ「では私はそろそろ帰る。鳳翔、和食の指導恩に着る……
Danke schön」ペコ

鳳翔「いえいえ、これくらいでしたらいつでも相談に来てください
♪」ニコッ

グラーフ「ああ、本当にありがとうございます。では失礼する。二人もまた」ノ
シ

ビスマルク「え、ええ、また」ノシ
プリンツ「Viel Glück♪」

グラーフ「Danke」ニコッ

◇提督&グラーフの部屋前◇

提督「あ」

グラーフ「む」

く夫婦、鉢合わせく

提督「グラーフ、その料理は？」

グラーフ「アトミラール、その料理は？」

く夫婦、ハモるく

提督「あはは」

グラーフ「ふふふ」

く笑い合い、取り敢えず部屋の中へく

◇リビング◇

提督「まさか二人してこっさり料理を作ってたとはなく」アハハ

グラーフ「笑うしかないな」フッフ

提督「俺達らしいな♪」

グラーフ「ああ」ニコッ

く夫婦仲良く、互いの料理を頂くく

提督「うわ、この肉じゃが美味いぞ、グラーフ！」ムグムグ

グラーフ「アトミラールが作ってくれたフラムクーヘンも美味しい

ぞ」モツキユモツキユ

提督「ありがとうございます、グラーフ」ニコッ

グラーフ「ありがとうございます、アトミラール」ニコッ

く「またもハモる夫婦」

提督「あはは、今日はなんかいつも以上に幸せな気分だよ」

「Ich bin glücklich wenn du glücklich
あ な た が 幸 せ ラー フ 私 も 幸

♪ 提督「Du bist mein Einund Alles
お 前 は 俺 の 全 て だ よ

グラフ「く」キュンキュン

くグラフ、提督の肩にもたれるく

提督「どうしたグラフ？」ナデナデ

グラフ「いちいち言わせないでくれ／／／／」

提督「ごめんごめん」ナデナデ

グラフ「謝罪などいらん……早く／／／／」オメメトジ

提督「愛してるよ、グラフ」チュツ

グラフ「んっ♡ちゅっ♡んっ♡っ♡ちゅっ……んはあ

♡「トローン

グラフ「Ich liebe dich sehr」ニパツ

提督「嬉しいよ♪」ナデナデ

グラフ「く」ゴロゴロ

こうして夫婦は互いの気持ちを確認かめ合い、より強い愛を育んだー。

グラフ 完

アクイラとケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇埠頭前◇

アクイラ「ソワソワ

グラーフ「もっと落ち着いて居られないのか、お前は」

アクイラ「だ、だって艦隊がまだ戻って来ないのよ!？」

グラーフ「連絡通りに戻って来ることの方が難しいんだ。多少の前後は当たり前だろう」

アクイラ「でもお〜……」

グラーフ「お前は本当に心配性だな……」

アクイラ「グラーフには分からないのよ! 愛する人が戦場から帰って来るっていうのが!」プイツ

グラーフ「恋人や旦那が戦場から帰って来るというのは経験が無いから何とも言えんが、戦友が帰って来るといのは分かる。恋人であれ戦友であれ、信じて大人しく待つのが待つ側の取るべき行動じゃないか?」

アクイラ「グラーフはそうでも、アクイラはイヤなの!」

グラーフ「付き合わされてるこつちの身にもなってほしいんだがな……」ハア

〜そうこうしている内に艦隊が帰投〜

アクイラ「提督〜♡ Cia^おo ci^かa o♡ 怪我したりしてない? 大丈夫?」ペタペタ

〜アクイラ、提督の体を念入りにチェック〜

提督「大丈夫だよ。ただいま、アクイラ。艦隊のみんなと話があるから離れてくれないか?」

アクイラ「は〜い……」

〜そして提督は艦隊の元へ〜

アクイラ「ぶ〜……」ユビクワエ

グラーフ「何不貞腐れてるんだ?」

アキラ「だってだって、せつかくアキラがお出迎えしたのにドライ過ぎない!？」

グラーフ「公私混同してない証拠じゃないか」

アキラ「納得いかない〜！」ポンポン

グラーフ「ヤレヤレ」

ー提督sideー

提督「赤城、加賀は相変わらずいい仕事をしてくれた。皆の被弾が少ないのも二人の働きがあつてこそだ。本当にありがとう」ニコツ

赤城「いえいえ、提督の作戦が良かったからです♪」

加賀「赤城さんと私が出撃したのですから当然の結果です。でも褒められて悪い気はしないわ」フフ

ーアキラsideー

アキラ「ねえ、何なの何なの？ アカーギもカガーも！ 提督はアキラだけの提督なのに！」テシテシ

グラーフ「良くやったと褒めているだけだろう？」イタイ

アキラ「でも提督はアキラのAm^大ore^切なのよ!?! なのにあんなにくつついて！」

グラーフ「親しいからこそその距離だろう。別に腕を組んでいる訳でもなく、ただ話しをしてるだけだろうに……」

アキラ「ぐぬぬ……」ワナワナ

ー提督sideー

提督「次も頼むぞ、二人共」

ぼむつ↑提督、赤城と加賀の頭を軽く撫でる

赤城「はい♪ お次も一航戦の誇りをお見せします♪」

加賀「期待には応えるわ／／／」ピイツ

ーアキラsideー

アキラ「くあwse^大drft^切gy^切ふじこ^切ip!?!」

グラーフ「今のは何語なんだ？」

アキラ「今の見た!？」

グラーフ「頭を撫でてただけだろう」

アキラ「アキラ以外の女性に触れたのよ!?!」

グラーフ「駆逐艦達にも良くしてやってることじゃないか」

アキラ「それは女の子でしょう!?! アカーギ達は女性なのよ!?! あれがきっかけで二人が提督を好きになったらどうするのよ!?!」

グラーフ「それは無いだろう」

アキラ「どうしてそう言い切れるのよ!?!」

グラーフ「それはー」

提督「アキラ、待たせて悪かった。遅くなったがグラーフも出迎えありがとう」

提督、艦隊との話を終えて戻って来た

アキラ「おかえり……」ギューツ

アキラ、透かさず提督に抱きつく

グラーフ「何、気にするな。それより奥さんに何か言っただれ」

提督「アキラ」

アキラ「何?」

提督「帰って来て、一番はじめに君の笑顔を見れたことがとても嬉しかった。出迎えてくれてありがとう……そして愛しているよ」ニコツ

アキラ「はう……アキラ、とっても嬉しい♡ アキラも提督を心から愛してる♡」ギューツ

提督「ああ」ギューツ

グラーフ(ーこのラブラブな二人の間に付け入る隙きなんて無いのはみんなが知っているからな)アキレ

そしてその日の夜ー

◇提督&アキラの部屋◇

アキラ「よしよし♡」ゴマンエツ

アキラ、提督の頭を撫で撫で中

提督「ゴロゴロ」

提督、アキラの膝枕を堪能中

アキラ「ねえねえ、Amore♡」

提督「どうした?」

アキラ「Ti私のpiaccio?♡」

提督「……………」ウーン

アキラ「どうして悩むの!?!」ガン

提督「Tiいつもpenso君のを考えてる
Vedi俺 comeが sonoど pazzoに di te?君に「ニコッ

アキラ「っ!!♡」ズキューーン
こっん♡

アキラ、提督のおでこに自分のおでこをくつつける

アキラ「Ti狂 amo da impazire♡」

提督「愛しているよ、アキラ」ホッペナデナデ

アキラ「んふふ♡」デレデレ

アキラ「二人は互いに寄り添って座ることにした」

アキラ「Amore♡」クイクイ

提督「?」

アキラ「呼んだだけ♡」

提督「そうか」ナデナデ

アキラ「♡」

アキラ「Amore♡」クイクイ

提督「また呼んだだけか?」

アキラ「ぶく♪」

提督「じゃあ、どうした?」

アキラ「あのね♡／／／」モジモジ

提督「?」

アキラ「Bassiamite♡／／／」

アキラ「草十期待の眼差し」

提督「勿論」アゴクイツ

アキラ「♡」ドキッ

ちゅっ♡

アキラ「あ…………んっ…………んっ…………んはあ…………っ…………ちゅっ…………」

はあ♡ えへへ、幸せ♡」ギューッ

提督「俺もだよ」ナデナデ

こうして夫婦はいつもと変わらない甘い夜を過ごしたー。
アクイラ 完

サラトガとケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇正門前◇

提督「……………」↑嫁待ち

「Hubby(夫の意味)♡ お待たせ♡」

提督「おゝ、大丈夫ー」

サラトガ「ありがと♡」ニコッ

サラトガE・ホワイトのロングブラウス

ワインレッドのマーメイドスカート

ブラックのメリー・ジェーン

サラトガ「せっかくのデートだから、頑張ってお洒落したの♡ ど
う?♡」クルッ

提督「あ、ああ、凄く素敵だよ／／／」

サラトガ「Wooーhoo♡ アイオワにも褒めてもらったけど、

Hubbyに褒めてもらえるのが一番嬉しい♡」ギューッ

提督「俺はどんな姿のサラでも好きだよ／／／」ハニカミ

サラトガ「I love you too♡」ホツペチュッ

提督「ありがとう……時間が惜しいし行こうか／／／」

く提督、サラトガの手を握る

サラトガ「♡」キュン

提督「サラ?」

サラトガ「んん、何でもない♡」ギユッ

提督「そっか……じゃあ、行こう」ニコッ

サラトガ「うん♡」ニパッ

◇大型ショッピングモール◇

サラトガ「JAPANのshopはどれもキレイで見てるだけで楽しいわね♡」

提督「何か欲しい物があるなら買うぞ?」

サラトガ「ん〜……今は特に無いわね。Hubbyは何か買いたい物あった？」

提督「俺も特には無いかな。サラトガとこうしてるだけで何も要らないって感……あ／／／／」

サラトガ「も、もお、Hubbyはすぐにそうやってサラを喜ばせるんだから♡／／／／」デレデレ

提督「あ、あはは……聞かなかったことにしてくれ／／／／」

サラトガ「無理です♡ もうすっかり聞いちゃったも〜ん♡」
ホッペチユツ

提督「こ、こら、人前でこういうことをするな／／／／」

サラトガ「いやだった？」ウルウル

提督「うぐ……／／／／」

〜首傾げ+上目遣い+ウルウル瞳〜

提督「恥ずかしいだけだ……嫌じゃない／／／／」プイッ

サラトガ「良かった♡」ギューッ

提督「調子のいい奴め／／／／」ナデナデ

サラトガ「Only you can make me happy

♡ or cry♡」

提督「何だつて？」

サラトガ「『私を笑わせられるのも、泣かせられるのもあなただけ

♡』って言ったの♡」ニコッ

提督「大袈裟な……／／／／」ナデナデ

サラトガ「んふふ〜♡」スリスリ

そして昼前ー

提督「あゝ、そーいやサラの枕、新しいの買わなきゃな」

サラトガ「Why?」

提督「いつまでもあの枕じゃ落ち着かないだろ……」ニガワライ

サラトガ「せっかくムツウーがプレゼントしてくれたのに……YE

S&SURE枕……」

提督「どつちも『はい』だからな……というかあれ陸奥から貰った

のか」

サラトガ「ええ♪ 夜に必要でしよって♪」

提督「確かに必要だけど、もう少し普通の枕にしよう」

サラトガ「分かったわ……じゃあ、あの枕は執務室でお昼寝する時用にする」

提督「部屋でクッション代わりにしてください！」

サラトガ「これが亭主関白……素敵♡」ウツトリ

提督「くく／＼／／」↑ツツコミを堪える

◇寝具コーナー◇

サラトガ「Cuteなものもsimpleなものも沢山あるわね♡」

キョロキョロ

提督「そうだな」

(子どもっぽくて可愛い……／＼／／) キュン

サラトガ「Hubby、サラこれがいい♡」

くサラトガ、ロング枕を選択く

提督「これ二人用じゃないか？」

サラトガ「そうよ♡」

提督「同じので一人用のあるぞ？」

サラトガ「Hubbyと同じベッドなんだもん、二人で一つの枕を使いましようよ、ね？♡」

提督「くっ／＼／／」

く上目遣い＋首傾げ＋ニッコニコく

提督「分かった……／＼／／」

(頷かざるを得ない！／＼／／)

サラトガ「えへへ、やっぱりHubbyは優しくて素敵♡」ホッペ
チュツ

提督「だからあ／＼／／」

サラトガ「もうしちゃったもくん♡」エへへ

提督「くく／＼／／」グヌヌ

サラトガ「更に追撃♡」ホッペチュツチュツ

提督「早く会計に行くぞ……／＼／＼」グイッ
サラトガ「あん♡ Hubby ったら♡」キyunキyun

そして昼ー

提督「そろそろ飯にするか……サラ、何か食べたい物あるか？」↑
荷物持ち

サラトガ「んく……お外ならハンバーガーかホットドッグかしら
？」

提督「外なのには？」

サラトガ「ええ♪ ニュージャージーでは軽食のレストランが多い
から、お昼はそういうところで食べるのよ♪」

提督「なるほど……んじや、この案内に載ってる『バーガーシヨツ
プ・ビッグセブン』って店に行くか」

サラトガ「Wow! 楽しみ♪ 早く行きましょ♪」

提督「はいはい」アハハ

◇バーガーシヨツプ・ビッグセブン◇

提督「サラトガのは凄い量だな……」ニガワライ

く提督は普通のハンバーガーのセットく

サラトガ「大きなハンバーガーが七つもだなんて……最高じゃない
♪」キラキラ

くサラトガは何もかもデカイセットく

提督「流石『ビッグセブンセット』の名は伊達じゃないな……食べ
るか」人

サラトガ「いただきます♪」人

サラトガ「Yum—yum♪」モキモキ

提督「ほつぺにケチャップが付いてるぞ」フキフキ

サラトガ「Thank you♡」ニコッ

提督「いえいえ」ニコッ

サラトガ「でも指で取ったケチャップは舐めて欲しかったわ」ムウ
提督「んなこと出来るか／＼／＼」カー

サラトガ「なら二人きりの時はしてね♡」

提督「……………／／／」コクリ

サラトガ「♡」ゴキゲン

そして食事を済ませた後も、二人は色々見て回った♡

そして夕方ー

◇帰り道◇

サラトガ「今日は楽しかった♡」

提督「俺も楽しかったよ」ニコツ

サラトガ「うん♡」

提督「でも結局、枕しか買わなかったけど良かったのか？ 遠慮し

なくても良かったんだぞ？」

サラトガ「遠慮はしてないわ。ただ……」

提督「ただ？」

サラトガ「荷物がいっぱいだと、Hubbyとこうして手が繋げな
くなっちゃうもん♡」ニコツ

提督「っ!!／／／」ズキューーン

「Please ^サ ^ラ ^ト ^ガ
の ^手 ^を ^離 ^さ ^な ^い ^ト
keep ^離 ^さ ^な ^い ^ト ^ガ
holding ^手 ^を ^離 ^さ ^な ^い ^ト
my ^手 ^を ^離 ^さ ^な ^い ^ト
hands ^手 ^を ^離 ^さ ^な ^い ^ト
♡」

提督「／／／」ギユツ

サラトガ「んふふ♡」ニコニコ

提督「サラ……………／／／」

サラトガ「ん？」

提督「I, ^君 ^に ^出 ^会 ^え ^て ^幸 ^せ ^だ ^よ
m so glad I met you／／／」

サラトガ「んふふ……………♡」

ガバツ♡↑サラトガ、提督の首に手を回す

提督「サラ？／／／」

サラトガ「I ^知 ^っ ^て ^る ^わ
know♡」

提督「そうか／／／」

そして二人は太陽が完全に沈むまでの間、長い長いキスをし

たー！。

サ
ラ
ト
ガ
完

レンジジャーとケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇長官官舎◇

レンジジャー「旦那様、そろそろ寢室に参りませんか？」

提督「そうだな。明日も早いし、寝るとしよう」

レンジジャー「あら、寝る前にすることがありますよ？」

提督「ん？ 何かあったか？」

レンジジャー「それをわたくしの口から言わせるのですか？ 相変わ

らず旦那様はいけずですね」

提督「????」

レンジジャー「わたくしたちのルーティンをお忘れになられるだなん

て……わたくし、悲しいです」

提督「え、今日もするの？ てかルーティンだったの？」

レンジジャー「ふふつ、間違えました♡ 正しくはルーティンになる、

でした♡」

提督「オーマイゴット。なんてこった」

レンジジャー「うふふ♡ アレを教えたのは旦那様ですよ？♡ 責任

……取ってくださいませ♡」

提督「分かったよ……じゃあ寢室に行こうか」

レンジジャー「はい♡」ウデダキツキ

◇寢室◇

レンジジャー「さあさ、旦那様♡ 早くお布団の上に座ってください

♡ 座る時は胡座ですよ胡座♡」ウキウキ

提督「はいはい……」ニガワライ

♡ 提督は素直に胡座を搔く♡

レンジジャー「それでは、失礼します♡」

♡するとレンジジャーは提督と向かい合わせで、彼の脚の隙間に腰を

下ろす」

提督「すっかりハマったんだね……これ」

レンジャー「はしっかりと提督をだいしゅきホールドする」

レンジャー「はい♡ 執務や任務での疲れが吹き飛びます♡ どうしてもっと早くに教えてくださらなかったのですか?♡」

提督「そんなこと言われても……」タジタジ

レンジャー「ふふつ、困っている旦那様は普段とは違って、可愛らしいですね♡」

提督「レンジャーは普段と違って小悪魔だな」

レンジャー「こんなわたくしはお嫌いですか?」

提督「とんでもない大好きです」

レンジャー「嬉しい♡」

レンジャーはそう言って提督の頬に何度も何度もキスをした

提督「でも、まさかこんなにこれが気に入るとは思わなかったよ

……」

レンジャー「そうですか……?」

提督「ああ。まさかルーティンにしたいほどになるとは思わなくてね」

レンジャー「わたくしも旦那様の前ではただの女ですから♡」

提督「可愛過ぎて困るよ」ナデナデ

レンジャー「むう……心外です♡」

言葉とは裏腹に笑みが増すレンジャー

提督「本当に可愛いよ、レンジャー。愛してる」

レンジャー「つ……／／」ウツムキ

提督「ん?」

レンジャー「旦那様はズルいです……／／」プイッ

提督「なぜ?」

レンジャー「愛の言葉をそんな素敵な笑顔で言われたら、文句のひとつくらい言いたくなります／／」

提督「ええ（困惑）」

レンジャー「わたくし、旦那様が思っているよりも恥ずかしがり屋

さんなんですからね？」

提督「恥ずかしがり屋が抱っこを要求するなんてあらへんやん」

レンジャー「だからこれは旦那様が教えたんです」♡「プンプン

提督「いや、俺はたまにはこういうこともした方がいいかなって
思って……」

レンジャー「たまになんか耐えられません！♡ 毎晩がいいです！
♡」

提督「分かったから落ち着こう。な？」

レンジャー「わたくしはいつも通りです♡」

提督「そうかな……？」

レンジャー「はい♡」

むぎゅっむぎゅっ♡

♡レンジャーの両手足は更に力がこもる♡

提督「レンジャーって案外甘えん坊だったんだな」

レンジャー「旦那様の前では甘えん坊にもなります♡」

提督「可愛いなあ、ちくせう」

レンジャー「ふふっ♡ 旦那様の前ではいつも可愛らしい妻であり
たいです♡」

提督「魔性の妻に骨抜きにされる♡」

レンジャー「こんなことで骨抜きになるようではいけませんよ♡

これから毎晩なのですから♡」ムギューツ

レンジャー「旦那様♡」

提督「レンジャー」

レンジャー「キス、しませんか？♡」ニコッ

提督「ああ、いいとも……ちゅっ」

レンジャー「んんっ♡」

♡提督からキスされて思わず嬉しい声が漏れてしまうレンジャー

♡レンジャー「んっ……ちゅっ、ちゅっ、あ……あむっ、んんっ、ちゅ
♡……んはあ♡」

提督「はあはあ、相変わらず、レンジャーのキスは熱烈だな」

レンジャー「ご許可を頂けるのでしたら、明日の朝までしていただけます♡」

提督「そんなの俺の身がもたないよ……」

レンジャー「あら、残念です♡」

提督「全然残念そうに見えないが？」

レンジャー「うふふっ♡ だっていずれ叶うことですし♡」

提督「なんだよそれ」ニガワライ

レンジャー「？ だって旦那様はわたくしのお願ひならば聞き届けてくださいますでしょう？」クビカシゲ

提督「さあそれはどうかかな？」

レンジャー「いつか聞き届けてくださいます♡ だってわたくしの旦那様ですもの♡」

提督「一生レンジャーに勝てる気がしないよ……」ニガワライ

レンジャー「あら、わたくしも一生旦那様に勝てる気はしませんから、お揃いですね♡」ギューツ

提督「………するか、キス」ナデナデ

レンジャー「うふふふふ♡ やっぱ旦那様は旦那様です♡ んっ♡」

こうして提督はレンジャーと朝までキスして過ごし、愛の大きさの違いを分からされた――。

レンジャー 完

ホーネットとケツコンしました。

某鎮守府、昼間ー

◇執務室◇

サム「提督く、一緒にランチしようよ」ギューツ

フレツチャー「美味しいサンドウィッチをご用意しますよ」ニコ

ニコ

サダク「どうせ今日は提督も暇な日だろ。いいよな？」カタクミ

アイオワ「天気もいいし、ピクニック気分で中庭でランチよ！」キラキラ

キラ

サラトガ「サラたち、ずっと出撃任務でしたからそれが落ち着いた今日のお昼くらい、いいですよね？」ニツコリ

提督「分かった、分かったからそんなに大勢で引っ付くな。この書類が終わったら行くから、先に行っててくれ」

ホーネット「ちゃんと提督はお連れするから大人しく待っていてね」ニガワライ

全員『イエツサー♪』

く全員退室して二人きりにく

提督「はあ、海外艦はスキンシップが激しいなあ」

ホーネット「サムやアイオワに至ってはハガーですし、ステイツではスキンシップが日常的ですから」

提督「握手とかはまだ分かるけど、ボディタッチは未だに慣れないよ」

ホーネット「その割には嬉しそうにしていますよね？」

提督「そりやあ上官としては距離を置かれるより、近い関係であるのは嬉しいからな」

ホーネット「そうですか」

提督「……怒ってる？」

ホーネット「いいえ？ 何か私に怒られるようなことでも？」

提督「いえ、身に覚えは御座いません」

ホーネット「なら気のせいです。それよりそろそろ書類を終わらせないと、また彼女たちが突撃して来ますよ?」

提督「やべ」

「……………」

◇中庭◇

「ワチャワチャのランチタイムを過ごして、食後のティータイム中

アイオワ「アドミラル、食後はグリーンティーでいいわよね?」

提督「ああ、ありがとう」

サダク「提督のお陰ですっかり食後はグリーンティーを飲むのが習慣になっちゃったなあ」

提督「別に俺に合わせなくても、好きなの飲んでいいんだぞ?」

フレッチャー「ノンノン。やはり信頼関係を築くためには相手の好みを把握しませんと」

サム「それに日本のお茶って美味しいから好きだよ!」

サラトガ「健康にも美容にもいいですからね。コーヒーはコーヒーで好きですが、提督と一緒にだところの方がいいです」

提督「なるほどねえ」

ホーネット「……………」ジトー

「ホーネット、旦那を仲間たちに取られて少々ご機嫌斜め」

イントレピッド「食後のデザート持ってきたわよ」

ジョンストン「レモンクリームチーズバーよ」

ガンビア・ベイ「みんなで作りました!」

コロラド「ヒューストーンがつまみ食いたけど、アイオワみたいに大量じゃないから安心してね」

ヒューストン「あく、コロラドさんだって食べてたのに!」

ヘレナ「アトランタもつまみ食いました」

アトランタ「毒味したんだよ」

提督「お……………」キラキラ

「提督、大の甘党」

ホーネット「提督?」ニコニコ

提督「はっ……すまん。つい美味しそうで」

ホーネット「おやつは抜きですからね？」

提督「お慈悲を……今日は俺の中で羊羹デーなんだ」

ホーネット「食べ過ぎ禁止ですから」ニッコリ

提督「orz」

アメリカ艦ズ『(ホーネットは不器用だなあ)』ニガワライ

—————

夕方——

◇長官官舎◇

ホーネット「むう」

「ホーネットは官舎に戻ってからずっと提督を睨みつけてる」

提督「……ごめんて……」

「提督、ひたすらホーネットに謝る」

提督「なあ、どうしてそんなに怒ってるんだ？」

ホーネット「私の前なのに他の子と仲良くしてた……」

提督「仲間と交流してただけじゃん」

ホーネット「私のこと構ってくれなかった！」

提督「普段みんなの前でキスとかしないですって言ってるじゃん」

ホーネット「そうじゃなくて……普通は私の隣に座るとか『美味し

いね』って笑みをくれたりとか、そういうのなかったもん」

提督「ええ」

ホーネット「確かにみんなの前でイチヤイチャするのはダメよ？」

でも提督は私の旦那様なんだから、いつも私を一番に思ってくれてな

いとダメなの。私はちゃんと提督のことを一番に考えてるのに……」

提督「俺には何よりも難しいミッションで御座んす」

ホーネット「むう……私ばかり提督のこと好きみたいで不公平だ

わ」

提督「おいおい、俺だってホーネットのこと大好きだぞ」

ホーネット「嘘。だったらランチの時にあんな行動取らなかった」

提督「だから悪かったってえ」

ホーネット「ふんだ。あなたに対する愛なら誰にも負けないんだか

ら」

提督（拗ねてるのかデレてるのか分かり辛いなあ）

く埒が明かないので提督はホーネットを抱きしめてみた」

提督「愛してる。ホーネット」

ホーネット「足りないわ」ムギユーツ

提督「心の底から愛してる」

ホーネット「悔しい……」ムギユギユーツ

提督「え？」

ホーネット「だってあれだけ怒ってたのに、あなたにハグされただけで許せちゃうんだもの、私」

提督「いいことじゃん」

ホーネット「今だってちゃんと私が触れられて嬉しいところに手をやって、頭もポンポンって撫でてくれる」

提督「腰に手を回されるの好きだもんな、ホーネットは」

ホーネット「私の体も何も全てがあなたの物って感じよね……むう」

提督「剥れられてもなあ」ニガワライ

ホーネット「こんなの……溺れるに決まってるじゃない！♡」スリスリ

提督「………可愛いよ、ホーネット」

ホーネット「キス。キスして」

提督「言うと思った」

ホーネット「いいから早くっ！ 私が満足するまで離れるのも禁止だからっ！」

それからホーネットは朝までずっと提督から離れられなかったというー。

ホーネット 完

イントレピッドとケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

イント「ハニー、キスして♡」ギューツ

提督「公の場で出来るわけないだろ!？」

く夫婦、本館へ向かう途中く

イント「むうく……どうしてそんなにイジワルするの？」ジトー

提督「起きた時も、部屋を出る前も、あれだけ散々キスしたじゃないか……どうしてそんなにキスしたいんだ？」ニガワライ

イント「ハニーとのキスはより幸せになれるから好きなのよ?♡

ハニーだつて同じ気持ちでしょう?♡」ニコツ

提督「……否定はしない」プイッ

イント「フッフ、だからキスして♡」

提督「執務室に着いたらな。俺はイントレピッドのことは好きだけど、外でキスとか人前でキスとか無理なんだ……こうして手を繋いでたり、腕を組んだりするのは慣れたけど……」

イント「相変わらず硬派ねく」ニガワライ

提督「なんとでも言え」プイッ

イント「でもそういうところもまた大好きよ♡」ギューツ

提督「うるさいうるさいうるさくいつ／＼／＼」

／イチャイチャキヤツキヤく

グラーフ「またあの夫婦は公の場でイチャイチャイチャイチャと……弛んでいるな」ヤレヤレ

赤城「まあまあ、あれくらいいいじゃないですか。夫婦なんですし、お仕事はきっちりこなしてますし」ニガワライ

加賀「グラーフさんも提督のことが好きだったから見てられないのね」

グラーフ「そ、そういうことじゃ……／＼／＼」アウアウ

アキラ「カガー、今グラーフもって言った! カガーも提督のこ
tー」

加賀「え、アキラさんは今日の訓練の標的艦をやりたい？ いい心掛けだわ。いい訓練にしましょう」ガシッ

アキラ「いやあああ！」

ー

提督（今日も空母のみんなは仲良しだなあ）

イント「ハニー、ハニー♡」スリスリ

昼ー

◇食堂◇

く食後のティータイムく

イント「ハニー、コーヒー持ってきたわよ♡」

提督「ああ、ありがとう」

イント「えっと、ハニーはミルク二つよね？」

提督「おう。イントレピッドはミルクと砂糖一つずつだよな？」

イント「YES♡」

く夫婦仲良くお互い入れてあげるく

イント「ハニー、キスく」

提督「ダメだ」キツパリ

イント「くくく」ブーブー

提督「執務室でも散々キスしただろ？ 公の場ではダメだ」

イント「じゃあいい」プイッ

提督「……………」ヤレヤレ

（やっと諦めてくれたか）ホッ

イント「♡」ニシシ↑企み笑い

イント「スキあり♡」ホツペチュツ

提督「なっ!?!／／／」

イント「ほっぺで我慢したの♡ ほっぺでも幸せを感じたでしょう

?♡」ニコニコ

提督「…………否定はしない／／／」

イント「じゃあ、もつとしてあげるく♡」ホツペチュツチュツ

提督「おわっ、や、やめろく!／／／」

／イチャイチャチュツチュツ＼

瑞鶴「かしましい夫婦ズイ」ハイライトオフ

翔鶴「まあまあ、瑞鶴」ニガワライ

サラトガ「相変わらねえ、イントレピッドは」フフ

ガンビア「ラブラブで見てるこつちが恥ずかしいよ／／／」

アイオワ「流石はevil eyeね！」

ウオスパ「こちらの目の毒という意味でね」クスツ

アーク「ストレートティーが甘いですね」

＼その後も夫婦は散々イチャイチャした＼

夕方ー

◇執務室◇

イント「んゝ♡」チュー

＼イントレピッド、提督の頬にキス中＼

提督「……………」カリカリ

＼提督、気にせず仕事＼

トントントントー

提督「どうぞ〜」

ガチャー

金剛「へーい、テイトク〜！♡ 最後の演習終わったデース！♡」

比叡「勿論、勝利ですよ！」フンス

榛名「それも完全勝利です！」フンス

霧島「私たちの手にかかれば当然の結果かと」ニコツ

大鳳「頑張りました！」ケイレイ

龍驤「ま、余裕やったな」ドヤア

提督「そうか……………みんなお疲れ様。補給後はゆっくりと休んでく

れ」ニコツ

イント「お疲れ様でした、皆さん♪」

榛名「？ 提督、頬に赤い箇所がありますよ？」

金剛「ワオ、ホントネ！ 虫刺されデスカ？」

提督「え、あ〜……………どうだろうか？ 仕事に夢中で気が付かなかった

／／／／

イント「〜♡」クスクス

霧島「気をつけてくださいいね、司令」↑察した

比叡「そうですよ！ 酷くなる前に虫刺されの薬塗ってくださいいね

！」↑気づいてない

大鳳「前も頬を刺された時に大きくなってましたからね！」↑無邪

気

龍驤「せやで〜、刺されるんやったら、もつと目立たないとこ刺さ

れな、アカンで〜」ニシシ↑察した

提督「あ、あ〜、うん、気をつけるよ／／／／」

〜こうしてみんなに心配されつつ、報告は終わった〜

提督「はあ……絶対霧島と龍驤は気づいてたじゃねえか〜」グツタ

リ

イント「フフフ、バレちゃったわね♡」↑満更でもない

提督「頼むから加減してくれよ……夫婦だからって浮ついてられな

いんだからさ」

イント「は〜い♡」ギューツ

提督「本当に分かっているのかね〜？」ナデナデ

イント「ハニーだってちゃんと分かっている？」

提督「何を？」

イント「私をこんなに笑顔に出来るのはハニーだけってこと♡」ニ

コッ

提督「つ……知るか／／／／」プイッ

イント「I still fall in love with

you every day♡

《私は未だに貴方に毎日恋をしてるわ》

Our bond is stronger than
the sun and sweeter than a bird
d ☒ s song ♡

《私たちの絆は太陽より強く、鳥の歌声よりも甘いの》

提督「イントレピッド……／／／／」

イント「I may not be your first date, kiss or love...but I want to be your last everything」

《私はあなたの初めてのデートの相手でもなければ、キスの相手でもなく、愛した人ではないかもしれない。でもあなたの全ての最後の人になりたい》

提督「.....You're the only one for me///」

《俺には君しかない》

イント「ハニー♡」チュー

提督「んんっ!?///」

結局、提督はこれからもイントレピッドからキスという降下爆撃をされ続けるのだったー。

イントレピッド 完

アークロイヤルとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇本館内・廊下◇

アーク「ふむ……あとはこの書類をアドミラルに持っていけば mission completeだ」テクテク

アークロイヤル、書類を持って移動中

アーク（今日は急な事でせつかくのdateは流れたが、こういう時こそ夫を支えるのは妻の役目だな）ウンウン

アーク「チラツ

アーク「チラツ☆

アーク（指輪を見る度、私はアドミラルが好きなんだと再認識する

……♡）フフ

アーク「チラツ

アークロイヤル、窓から空を見上げる

アーク（まさかこの私が異国でケツコンするなんて……）

アーク（最初はまさか私にケツコン指輪を渡しているだなんて気付かなくて、そのまま部屋まで戻ってしまったが……）

アーク（この指輪を見た瞬間、私はこの上ない幸せと喜びを感じた……♡）

アーク（あの時のアドミラルには悪いことをしたが、あれはあれで今では私達の笑い話だ♡）クスクス

「アーク（愛称）」

アーク「？」クルツ

ウオspa「Hiya」ニコツ

アイオワ「Hello」ノシ

金剛「Hello」ニコツ

ビスマルク「Guten tag」

イタリア「Ciao♪」ノシ

ガングート「Здравствуйте」

リシュ「Bonjour」

アーク「ん、みんな。報告の帰りか……急な救助任務を請け負って
くれて感謝する。金剛も支援艦隊旗艦、ご苦労様」ペコリ

金剛「問題ナツシングネ♪」

ウオspa「そつちこそ、dateが出来なくて残念だったわね」ニ
ガワライ

アーク「こればかりは仕方ないさ。dateならまた次の機会を待
てばいいが、人命の救助は時間との戦いだからな」

ビスマルク「言うじやない。ま、貴女はいつもアトミラールと一緒
にいるから、こんな時も平気よね」

ガングート「そう言つてやるな、ビスマルクよ。デートはデートで
普段とは違うのだからな」

リシュ「そうよ。いつもよりお洒落して、いつもよりとつびきり二
人の世界になれるのだから♪」

イタリア「今度はデートに行けるといいわね」ニコツ

アーク「あ、ああ……／＼／＼」

アイオワ「ほらほらみんな、アークがアドミラルのところに行けな
いでしょ？ ミー達も補給まだなんだし、行きましょ」ニコツ

「こうしてみんなと別れたアークロイヤル」

アーク「相変わらず、賑やかな艦隊だな」フッフ

アーク「こんな生活がいつまでも続いてほしいものだ……」

「そう思いながら、アークロイヤルは執務室へ」

◇執務室・ドア前◇

アーク（おかしなところはない……よな？）サツサツ

「アークロイヤル、身嗜みチェック中」

アーク（愛する人の前で変な姿は見せられないから／＼／＼）カ
ミクシクシ

アーク「すうく……ふうく……」↑深呼吸

◇執務室◇

トントントントー

提督「どうぞ〜」

カチャ……

アーク「今戻った。書類もしっかり受け取って来たぞ」ニコツ

提督「ああ、おかえりアーク。それじゃ早速見せてくれ」ニコツ

アーク「っ／／／／」キユン

提督「?」

アーク「こ、これだ♡／／／／」ドキドキ

(あの笑顔を見るとつい頬が緩みそうになる／／／／)

提督「ん、ありがと。んじやアークは少し休んでてくれ。俺はこれを確認するから」

アーク「了解だ／／／／」

〜アークロイヤル、秘書机へ〜

アーク「ふう……／／／／」パタパタ

(いけないいけない……仕事中に浮つくだなんて、皆へ示しが付かない／／／／)

アーク「／／／／」チラツ

〜アークロイヤル、提督を見る〜

提督「……」ハンコポンポン

アーク(くう……私をキユンキユンさせたくせに、涼しい顔して！
／／／／)

提督「……なあ、アーク」

アーク「ど、どうしたんだ?／／／／」

提督「本当にごめんな。デート楽しみにしてのにさ」

アーク「……ふふ、まだ言ってるのか? 今朝だってあんなに謝っ

ていただろう? 本当にJapaneseはよく謝るね」クスクス

提督「でも申し訳なくてさ」ニガワライ

アーク「我々は軍人だ。そして我々は人々を守り、時に助けるのが使命なんだ……だからもう謝るな」

提督「……」

アーク「アドミラルの決断が早かったから、今回の海難事故での死

傷者はゼロだったんだ。我が夫ながら惚れ直すほどの手腕だったよ♡」ニコッ

提督「ありがとう、アーク」ニコッ

アーク「ああ♡」デヘヘ

そして、夕方ー

提督「んく、終わったく」ノビー

アーク「お疲れ様♡」ナデナデ

くアークロイヤル、ソファアで提督を膝枕く

提督「民間人は全員無事だし、襲ってきた深海棲艦も掃討出来たし、万々歳だな」フウ

アーク「そうだな♡」ニコニコ

提督「あ、万々歳じゃない」

アーク「？」クビカシゲ

提督「デートだよ！ デート行ってねえ！」

アーク「まだ気にしてるのか？ 何度も言うが私はー」

提督「俺が行きたかったんだよ、アークと！」

アーク「え♡／／／」トウク

提督「すっげえ楽しみにしてんだよ、俺……／／／」プイッ

く提督、思わず顔を逸らすく

アーク「………♡／／／」キューーン

アーク（何だ、そんな表情や声出して……／／／）

アーク（幸せ過ぎて心がどうかなりそう……♡／／／）ドツクン

ドツクン

提督「よし、決めた！」スクッ

アーク「？／／／」

（今度はどんな言葉で私を幸せにしてくれるんだろう？♡）ド
キドキ

提督「ディナーだけでも行くぞ！ ディナーデートだ！」ニカツ

アーク「っ!?!♡」ズキューーン

（ああ……もうダメ♡）

グイッ♡

くアークロイヤル、提督を自分の元へ引き寄せるく
アーク「I am really glad I met you
You always make me happy
You're my sunshine
♡

I like you very much just as you are
♡

Stay with you are
I truly love you
♡

提督「アーク……／／／」
アーク「く♡」スリスリ ギョーツ

I didn't choose you.
My heart didn't

ニコツ

アーク「アドミラル♡／／／」

提督「さあ、ディナーへ行こう♪」

アーク「ええ♡」

そして夫婦は朝まで帰らなかったそうなの。

アークロイヤル 完

装甲空母

翔鶴とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇執務室◇

瑞鶴「提督さん、言われてた仕事終わったわよ」

提督「ありがとう、瑞鶴。後は私だけで出来るから、君は下がって
くれて構わん」

瑞鶴「いやいや、提督さんが仕事してて、私が休んでたら駄目でしょ
……翔鶴姉に怒られちゃうし」ニガワライ

提督「翔鶴には私からちゃんと伝えておくよ。だから休みなさい。
休養も大切な任務だぞ？」

瑞鶴「提督さんには言われたくないわね♪」ニヒヒ

提督「何も言い返せないな」アタマポリポリ
パタパタパタパタ↑走って来る音

瑞鶴「お、この足音は……」クスクス
バターン！

しようかく「おとうさくん！」ニパー

提督「おお、しようかく。良く来たな……しかし、何か忘れてはい
ないか？」

しようかく「？ ……はっ！」

しようかく、瑞鶴の元へ

しようかく「ずいかくおねえさん、こんにちは」ペコリ

瑞鶴「ええ、こんにちはしようかく」ナデナデ
しようかく「えへへ」ニマニマ

提督「瑞鶴は姉ではなくて叔bー」

瑞鶴「お姉さん」ニ”コ”リ”

提督「アツハイ」

瑞鶴「ところでしようかく、お母さんは？」

しょうかく「おかあさんはおかいものにかれました。なのでおとうさんのところへいくようにといわれました!」

瑞鶴「そっかそっか♪ じゃあ、お父さんはまだお仕事だから、しょうかくは私と甘い物食べに行こうか」ニコリ

しょうかく「え……」チラツ↑提督の様子を伺う

提督「食べて来ていいぞ。お母さんには秘密にしといてやるから」ニコツ

しょうかく「ヾ(*∇*)」バンジヤイ

瑞鶴「じゃあ行きましようか♪」

しょうかく「はーい!」オテテギユツ

提督「瑞鶴、すまんが面倒よろしく頼む。後これ……間宮のサービス券を渡そう」

瑞鶴「へへ、さーんきゅ♪」

しょうかく「さーんきゅ♪」キヤツキヤツ

提督「行ってらっしゃい」ニコツ

その頃、翔鶴はー

◇大型スーパー◇

翔鶴「えつと……これとこれと……あとはこれね♪」ヒョイヒョイ

翔鶴、晩ご飯の買い物中

翔鶴（今日は前に赤城先輩に教わった酢豚と……もやしとキュウリの中華和えと中華卵スープにしましょ♪）

翔鶴「あ」

店員「タイムセールを開催します! カナダ産豚バラのブロック肉100gが今だけ! 今だけ、80円! かなりのお買い得ですよ!」

翔鶴「(ー☆)」ギラツ

ヒュンツ!

翔鶴、瞬く間に豚バラ肉の500gパック入手

翔鶴「ふふ、お得に買えちゃった♪ 今夜の晩酌は少しおつまみも奮発してあげようかしら♪」クスツ

翔鶴（なんかこのタイムセール戦場の売り場の空気にも随分慣れたわね……）

「翔鶴（それだけ主婦が板に付いて来たのかしら♪）」

翔鶴「……主婦、か」

翔鶴（主婦……提督の奥さん……ふふ♡）「デレデレ」

翔鶴「早く帰って提督としようかくに美味しい晩ご飯作ってあげましょ♡」スキップ

その頃、しようかくはー

◇甘味処・間宮◇

間宮「はい、チョコレートパフエですよ♪」

しようかく「（。？。？。？）「フオー！」

瑞鶴「クスクス」

間宮「ごゆつくりどうぞ♪」

しようかく「いただきま〜す！」人

瑞鶴「召し上がれ♪」

ー。

しようかく「はむ♪ はむ♪」パクパク

瑞鶴（天使がいるわ〜）ポワーン

しようかく「ずいかくおねえさん」

瑞鶴「ん？ どうしたの？」

しようかく「あ〜ん」つパフエ

瑞鶴「キューーン」

瑞鶴「ありがと♪」パクツ

しようかく「おいしいですよね？」キラキラ

瑞鶴「うん、すっごく美味しいわ♪ じゃあ、私からも……はい、あ

〜ん♪」つパフエ

しようかく「あ〜ん……ん〜♪」ホツペオサエ

瑞鶴（かあいいかあいいかあいい〜！）「デヘヘ

しようかく「〜♪」アムアム

そして時は流れ、夜――

◇提督&翔鶴夫妻の部屋◇

翔鶴「く♪ く♪」↑料理中

しようかく「おかあさくん！」

翔鶴「はくい♪」

しようかく「おふろでました〜！」

翔鶴「ちゃんと十まで数えた？」

しようかく「かぞえました〜！」

提督「ああ、ちゃんと数えていたよ」

翔鶴「偉いわね〜♪」ナデナデ

しようかく「ムフーン

翔鶴「もう少しで晩ご飯出来るから、お父さんと待っててね」ニコツ
しようかく「はくい！」

◇居間◇

提督「ナデナデ

しようかく「♪」キヤツキヤツ

しようかく、提督の膝の上で戯れる〜

翔鶴「出来ましたよ〜♪」

しようかく「わくい♪」

提督「ほう……今日は中華か。美味そうだ」

〜家族揃って頂きます！〜

しようかく「おいしい♪」モグモグ

翔鶴「良かったわ……お父さんはどうですか？」

提督「ああ、実に美味しい。今日もありがとう」ニコツ

翔鶴「はい、どういたしまして♡」デレデレ

しようかく（おかあさん、とってもうれしそ〜♪）ニコニコ

〜晩ご飯も終え、夫婦の時間に〜

提督「しようかくは寝たぞ」

翔鶴「お疲れ様です。私もお風呂頂きました」ニコツ

〜夫婦寄り添って窓際に座って晩酌〜

翔鶴「本日もご苦労様でした」トクトク

提督 「翔鶴もご苦勞様」 トトツ

翔鶴 「今日のおつまみは甘海老にしました」 ニコリ

提督 「そうか……いつもありがとう」 ナデナデ

翔鶴 「あなたの奥さんですから♡」 ギューツ

提督 「ははは」

翔鶴 「何で笑うんですか？」 ムウ

提督 「可愛いことを言うからつい、愛おしくてな」 フフ

翔鶴 「!?／＼／＼」 ズキューーン

翔鶴 「も、もう……あなたはすぐにそうやって私を喜ばすんですか
ら／＼／＼」 ドキドキ

提督 「これくらいで喜ぶなんて翔鶴はお手輕だな」 ハハハ

翔鶴 「あなたの言葉だからですよ〜だっ♡／＼／＼」 テヘッ

提督 「男冥利につきるな」 ナデナデ

翔鶴 「ふふふ♡」 スリスリ

提督 「この先もずっとこうでありたいものだ」

翔鶴 「ずっとこうでいますよ♡ あなたと私、そしてようやくは
ずつと幸せです♡」

提督 「そう思ってもらえるよう、努力するよ」

翔鶴 「あなただけが努力しては駄目ですよ？」

提督 「ああ、分かっている。夫婦二人で、だろ？」

翔鶴 「はい♡」 ニコリ

提督 「愛してる、翔鶴。これからもずっと」 ホッペナデナデ

翔鶴 「私もあなたを愛しています♡ ずっと、ずっと……♡」 オメ
メトジル

ちゅっ♡

こうして夫婦は月明かりに照らされて、また一つの誓いの口付けを
した。

しようかく「(。?□?・)」 フォー!

→両親のラブラブシーンを目撃

しようかく(おとうさんとおかあさん、らぶらぶ〜♪)

次の日、夫婦はしようかくにその時の事を嬉しそうに話をされ、朝

から夫婦揃って顔を赤く染めるのであったー。

翔鶴 完

瑞鶴とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇空母訓練場（弓道場）◇

瑞鶴「……」↑訓練中

キリキリ……

瑞鶴「っ」

カツ……ターーンツ……

く矢は見事ど真ん中命中！く

瑞鶴「ふう……」

加賀「ふむ……今のは今日一番の出来だったと思います。見事でした」

瑞鶴「ありがとうございます」ペコリ

加賀「……貴女変わったわね。それも良い方へ変わられました」

瑞鶴「え」

加賀「今の貴女は初めて会った時とは変わったわ。散々嫌がってた私の指導もここまで黙々とこなす様になりましたし、私も貴女の成長が見れて嬉しく思います」ニコリ

瑞鶴「え、あ、ありがとうございます／＼／＼」カァー

加賀「では少し休憩にしましょう」

瑞鶴「あ、はい。私、矢拾って来ます！」

翔鶴「私はお茶を淹れて来ますね♪」

赤城「お願い致します♪」

蒼龍「ありがとう」ニコツ

飛龍「じゃあ、少しゆつくりしますか！」

く空母達のガールズトークく

赤城「瑞鶴さんの成長は、やはり提督のお陰かしら」ニコツ

瑞鶴「え」

蒼龍「でしようね♪ 何たつてみんなの提督のお嫁さんなんですもん♪」

瑞鶴「ちよ」

飛龍「愛は人を大きく成長させる。提督も多聞丸と同じで愛妻家だし、瑞鶴は幸せよね♪」ニコニコ

瑞鶴「まっ」

翔鶴「今朝も仲良く手を繋いで鎮守府へ来ましたからね」クスクス

瑞鶴「やめ、やめて／＼／＼」

加賀「これも提督のご寵愛を受けている者の洗礼だと、潔く受け入れなさい」カタポンツ

瑞鶴「あうあうあう／＼／＼」カオマツカ

赤城「ふふ、少し言い過ぎましたね」クスクス

瑞鶴「勘弁してくださいよう／＼／＼」パタパタ

蒼龍「そんなこと言つてく、満更でもないでしょ？」ニヤニヤ

飛龍「そうそう♪ 仲良しなことには変わりないんだから♪」ニヤニヤ

瑞鶴「そつ、そりやあ……まあ……／＼／＼」ウツムキ

加賀「二人はケツコン前から仲睦まじかったですが、ケツコン後は更に仲睦まじくなった気がします」フフ

瑞鶴「そ、そうですか？／＼／＼」

翔鶴「そうよ♪ 今日のお昼だって提督と仲良くお弁当食べてたじゃない」クスツ

瑞鶴「だつてそれは……提督と一緒に食べたいって言うから／＼／＼」アウアウ

蒼龍「でもそれだけなら、あんなにラブラブオーラ満点で食べないでしょ？」ニヤリ

飛龍「そうだよ。あくんなんてしちやってさ」ニヤリ

瑞鶴「だ、だからあれは、提督が口開けて待つてるから……口に運んであげただけで……／＼／＼」アウアウ

赤城「どちらにせよ、本当にご馳走様です」人

瑞鶴「や、やめてくださいよう／＼／＼」ワタワタ

赤・加『ふふふ』クスクス

蒼・飛『あはは』ケラケラ

翔鶴「ニコニコ」

瑞鶴「もつ、もう私上がりますね！ そろそろ提督の仕事の手伝いに戻らないといけませんから！／＼／＼」ソソクサ

赤城「はい、お疲れ様でした♪」

加賀「どうぞ夫婦仲睦まじく」フフリ

瑞鶴「どうも／＼／＼」

蒼龍「勤務中にいちやいやしたらだめだよ♪」ニヤニヤ

飛龍「いちやいやなら仕事の後でね〜！」ニヤリ

瑞鶴「分かってますし、しませんよ！／＼／＼」

翔鶴「提督によろしくね。すっかり補佐するのよ？」

瑞鶴「分かってる！ んじゃ、お疲れ様でした〜！」ピューン

瑞鶴、逃げる様にその場を後に〜

赤城「さて、私達はもう少しやりましょうか」

加賀「そうですね。五航戦の娘に負けてはいられませんから」フフ

蒼龍「私達も頑張りましょう♪」

飛龍「一航戦、二航戦の誇りをあの幸せ夫婦にお見せしましょう♪」

クスクス

翔鶴「ふふ、私も姉として頑張らなくてはいけませんね」ニコニコ

◇執務室◇

コンコンー

提督「開いてるよ。入って来て〜」

ガチャー

瑞鶴「失礼します」ヒョコ

提督「瑞鶴か。訓練終わったのかい？」

瑞鶴「うん……だからお仕事手伝わ」

提督「ありがと……でも今はこれと言って手伝いが必要なものは無いし……瑞鶴は休んでいいよ？」

瑞鶴「あ、そうなんだ……」シユン

提督「そんなにしよぼくれるなよ……あ、ならお茶淹れて来てくれないか？」

瑞鶴「分かった。お茶ね！ 任せて！」キリッ

提督「頼むよ」ニコッ

〜瑞鶴、提督にお茶を用意！〜

瑞鶴「淹れて来たわよ♡」ニコニコ

提督「ありがとう」ナデナデ

瑞鶴「んもく、なくに？♡」デレデレ

提督「お礼に撫でてやったんだよ」ニコッ

瑞鶴「もく、私は子どもじゃないのよ？♡」ニヨニヨ

提督「そのわりには嬉しそうな顔してるな」ナデナデ

瑞鶴「嫌とは言っていないでしょ？♡」エへへ

提督「可愛い奴め」ワシヤワシヤ

瑞鶴「きやく、わしやわしやするのやめてよ♡」キヤツキヤツ

提督「あはは♪」

瑞鶴「えへへ♡」

〜ひとしきり戯れついた〜

提督「ふう……瑞鶴が居るとやっぱり楽しいな♪」

瑞鶴「そうなの？」

〜瑞鶴 on the 提督の膝〜

提督「ああ、一人で仕事していると何かぽっかり穴が開いた様な……そんな感じになってな。でも瑞鶴が居るとそんなのも無くなって楽しく仕事出来るんだよ♪」

瑞鶴「もく、提督ったらあ♡」テレリテレリ

提督「事実だからなく、やっぱり瑞鶴は俺にとって、無くはならない存在なんだよ」ナデナデ

瑞鶴「ふふ、ならずとずっと居てあげるわよ♡」ギューッ

提督「ああ、末永くよろしく頼むよ」ナデナデ

瑞鶴「うん♡ じゃあ、約束の口付け……しよ？♡」ウワメツカイ

提督「勿論♪」

瑞鶴「提督……♡」クチビルサシダシ

提督「瑞鶴……ん」チュッ

瑞鶴「んっ……んく……ちゅっ……っ……はあ♡ えへへ♡ 提

督、大好き♡」ギューッ

提督「俺も大好きだよ、瑞鶴♪」ナデナデ

◇執務室外・ドア前◇

瑞鶴『提督♡ 好き好き♡』

提督『俺も瑞鶴好き好きだ♪』

／ラブラブイチャイチャ＼

赤城「あらあら」ニコニコ

加賀「仕方のない夫婦ね」ヤレヤレ

蒼龍「でもいちやいちやしてないあの二人は想像できないな」

飛龍「ごっちゃんです」人

翔鶴「妹夫婦がすみません」ニガワライ

→訓練終了の報告に来た

赤城「仕方ないので、報告は後にしましょうか」クスッ

加・蒼・飛『賛成』ニコッ

翔鶴「本当にすみません」ペコペコ

こうして夫婦は誰も寄せ付けること無く、時間の許す限りいちやいちやしていったというー。

瑞鶴 完

大鳳とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇野外訓練場(障害物有り)◇

提督「さて……今日も軽く訓練場を一周するか」ノビー

大鳳「はい♪ 今日私が提督を追い掛ける番ですね♡」

提督「はは、捕まえてごらん♪」

大鳳「捕まえてみせます!♡」フンスフンス

く夫婦仲良く訓練開始!く

提督「あはは! 俺はこつちだぞく! 愛しの大鳳!」

シユバババツ!↑障害物を笑顔で攻略

大鳳「私の愛しの提督♡ 待ってくださーい♡」

ヒュンヒュンツ!↑障害物を難なく攻略

へほらほら〜!

待て待てく♡く

くヒュンツ! ドドーン! ドバーン! アハハ! ウフフ!く

妙高「お二人は今日も朝から仲睦まじいわね♪」

羽黒「そ、そうですね」ニガワライ

矢矧「うちの提督って、たまに人間だつてことを忘れる時があるわ

……」

磯風「流石は磯風達の司令だな」ウンウン

浦風「動きがちよいちよい超人並じゃけどねえ」ニガワライ

秋月「あれで流してるんですから、本気は修羅ですよね」

初月「障害物有りの15kmコースを一時間くらいで終えるからな

……本気なら何分で終わるやら」シミジミ

くそして一周終了く

提督「はく、二回も捕まったぜく」フウ

大鳳「へへ♡ 今回は私の勝ちですね♡」ピース

提督「だなく……ほい、タオル」つタオル

大鳳「ありがとうございます♡」ゴシゴシ

提督「さて、シャワー浴びて朝飯だな」ニカッ

大鳳「はい♡」

提督「俺の方が早く出るだろうから、いつもみたいに先に食堂で席取っとくな♪」

大鳳「お願いします♡」ニパー

く案の定先に出た提督は食堂へく

◇食堂◇

カランカランー

大鳳「えつと提督は……」キヨロキヨロ

提督「大鳳く！」ノシ

く提督、窓際の席から手を振るく

大鳳「♡」ニコッ

く大鳳、透かさず提督の元へく

提督「おかえり♪」ナデナデ

大鳳「ただいまです♡」ニコニコ

く夫婦揃って頂きます！く

大鳳「提督、今日の仕事は何から始めますか？」

提督「んく、取り敢えずは艀装の開発と書類チェックだな」

大鳳「分かりました。艀装開発の際、投入する資材は如何しますか？」

提督「うくん……燃料30／弾薬20／鋼材10／ボーキ130の

彩雲狙いで頼むわ」

大鳳「了解しました♪」ニコッ

提督「おしつ……んじゃ今日も頼むぞ♪」ニッ

大鳳「はいっ♡」

そして時は流れその日の昼下がりー

◇執務室◇

大鳳「提督、一五〇〇です♪ 一服いれませんか？」

提督「ん……じゃあ、休憩にするか」

大鳳「今お茶を淹れてきますね♪ 緑茶でいいですか？」

提督「おう、いいぞ♪ 頼むわ〜」ノシ

〜そして執務室のソファへ〜

大鳳「どうぞ」つお茶

提督「ありがと〜」ウケトリ

大鳳「ちやんとぬるめにしましたからね♡」ニッコリ

提督「大義である♪」ナデナデ

大鳳「えへへ♡ 勿体無いお言葉です♡」スリスリ

大鳳「あつ、提督……」クイクイ

提督「？」

大鳳「そろそろ今朝のご褒美を頂いてもいい？♡」モジモジ

提督「ああいいとも……おいで♪」オヒザポンポン

大鳳「失礼します♡」コロロン

〜大鳳、提督に膝枕してもらおう〜

提督「明日は俺が勝つからな♪」ナデナデ

大鳳「ふふ、負けませんよ♡ 提督の膝枕は私の活力源ですから♡」

提督「それは俺も同じだ♪」グリグリ

大鳳「きゃ〜♡」ヤンヤン

提督「まあ大鳳と触れ合えるなら、膝枕するのもさされるのもどっち

でもいいんだけどな」アハハ

大鳳「ふふふ、そうですね♡」スリスリ

提督「幸せだなく」シミジミ

大鳳「はい、私も貴方のお嫁さんになれて幸せです♡」ニッコリ

提督「可愛い奴め♪」ホッペツンツン

大鳳「あん♡ もお〜♡」キャツキャツ

コンコン〜

提督「はい、どうぞ〜」

大鳳「」キリツ↑元の姿勢に戻る

ガチャー

翔鶴「失礼します。本日の訓練終了のご報告とそのご報告書を提出に参りました」ペコリ

瑞鶴「今日は結構いい訓練になったわよ♪」フフン
提督「ほう……ならば次は加賀と瑞鶴で出撃してもらおうかな？」ニ
ヤッ

瑞鶴「め、命令ならいいわよ……」メソラシ

翔鶴「ふふ、提督。あまり瑞鶴をイジメないでください」クスクス
提督「はは、悪い悪い」

大鳳「でも加賀さんも瑞鶴さんも互いの短所を補い合えているの
で、とてもいいコンビですよ」ニコニコ

瑞鶴「や、やめてよく！／＼／＼」

大鳳「でも事実ですからね♪」

提督「なら決まりだな」ハハハ

翔鶴「頑張つてね、瑞鶴♪」ガッツポーズ

瑞鶴「い、いいわよ！ やつてやろうじゃないの！」ムキー

提・大・翔『ははは！』

翔鶴「ふう……では提督、大鳳さん。私達はこれで失礼しますね」ニ
コッ

瑞鶴「机の上に報告書は置いておくわね！」

提督「はいよく、お疲れさん」ノシ

大鳳「ご苦労様でした」ペコリ

パターンー

提督「さて、翔鶴達は行ったが……どうする、大鳳？」

大鳳「も、もう少しいいですか？♡／＼／＼」

提督「勿論だ……おいで♪」オヒザポンポン

大鳳「ありがとうございます♡」コロリン

提督「何ならキスもしてやろうか？」ナデナデ

大鳳「ぜ、是非！♡」

提督「なら目を閉じて」ホツペナデナデ

大鳳「はい♡」オメメトジル

提督「愛してるよ、大鳳」

ちゅっ♡

大鳳「んっ……ちゅっ……んん……っ……んっ♡」

提督 「ぷはあ……さて、残りの仕事も片付けるか♪」ニカツ

大鳳 「はい♡」ニツコリ

大鳳 (私も貴方を心から愛しています♡ これからもずっと……
ずっと♡)

大鳳 完

ヴィクトリアスとケツコンしました。

とあるコンサート会場、夕暮れ――

◇ある劇のクライマックス◇

女「私は、ここで死ぬのね……しかし、あの人のためならば、本望。ただ……最期にもう一度、あの人に会いたかった」

モブ1「助けに来ました！」

モブ2「あとはお任せを！」

モブ3「早く後退してっ！」

女「あなたたち……一体どうして……!?!」

男「愛する君を決して死なせはしない！」

女「ああ……神よ、心より感謝致します」

それから劇はラストに入り、女は男とキスをして幕を閉じた

提督「なんだよ、あれ……」

提督、二階のVIP席に座ったまま頭を抱える

ヴィクト「うくん、素敵な劇だったわ♪ ラストにヒロインをヒー

ローが助けるシーンなんて最高に！」

ヴィクトリアスはまだ興奮が冷めない

提督「君はいいよな、こういうの慣れてるから。俺は恥ずかし過ぎ
て無理だ」

ヴィクト「王侯貴族のラブロマンスが劇になるのはよくあることだからね。でもそんなに恥ずかしがることないじゃない？ 多少、誇張してる部分はあるけど、本筋は合ってるんだし」

提督「俺はあんな颯爽とヴィクトリアスの前に現れてないし、そもそもあんな気障なセリフ吐いてない」

ヴィクト「あら、帰ってきた私に『君を失うのが怖かった』なんて言つて、その場で跪いてプロポーズしてくれなの？♡」

提督「あ、あれは今でも柄じゃないことをしたと反省してる……」

／／／カオマツカ

ヴィクト「可愛い♡ 反省しないで、日頃から甘い言葉を囁いていいのよ?♡」

提督「無理だ」

ヴィクト「残念♡」

提督「全然残念そうに見えないが?」

ヴィクト「そんな甘い貴方を知ってるのが私だけなんだもの……甘いに決まってるでしょ?♡」

提督「知らん」プイツ

ヴィクト「可愛い可愛い♡」ナデナデ

提督「うるさいうるさい。それと太ももを撫でるな。撫でるなら頭に……はっ!?!」

くつい本音が出た提督をヴィクトリアスはニヤニヤした眼差しで見つめる

提督「……忘れろ／＼／＼」

ヴィクト「いや♡」ナデナデ

提督「撫でるな／＼／＼」

ヴィクト「い・や♡」ナデナデナデナデ

提督「も、もうここを出るぞ!／＼／＼」

ヴィクト「はい♡」

くこうして夫婦は鎮守府へ戻った

その日の夜――

◇鎮守府本館内・夫婦の部屋◇

ヴィクト「んく、ディナーも最高だったわ♡ ありがと、ハニー♡」

ホツペチュツチュツ

提督「やめろ、離せ」

く提督はベッドの上でヴィクトリアスに後ろから抱きしめられながら、頬や首筋にキスの絨毯爆撃を食らう

ヴィクト「嬉しくないの?」

提督「嬉しくないとは言っていない」

ヴィクト「ならしてもいいでしょう?」

提督「やめろ」

ヴィクト「Why?」

提督「……興奮して寝れないんだ」

ヴィクト「っ♡」ゾクゾク

ヴィクトリアスは提督の照れ顔が大好物♡

提督「明日も早い。今日は劇のために仕事を明日に持ち越したから、いつもより早く起きてやらないといけないんだ」

ヴィクト「そうね♡」

提督「うん、だからもう寝る——」

ヴィクト「いや♡」

提督「日本語が通じないのか?」

ヴィクト「私イギリス艦娘だし?」

提督「劇はバリバリの日本語だったか?」

ヴィクト「突発性日本語聞き取り不可能難聴なの」

提督「変な病名を付けるな」

ヴィクト「私たちはもつと分かり合うべきだと思わない?」

提督「分かり合えていると思っていたのは俺だけだったのか」

ヴィクト「だってハニーは全然キスしてくれないし……」

提督「そうむやみやたらにする行為じゃないだろ」

ヴィクト「私はされたいの。十分に一回はしないと寂しくて切ないの」

提督「末期じゃないか……」

ヴィクト「そうよ? だからいっぱいしてくれないと、私がするようになるのよ?」

提督「イミワカンナイ」

ヴィクト「分かせて欲しいってことでOK?♡」フフ

提督「やめろ」

ヴィクト「嫌よ嫌よも好きのうち♡」ガバツ

提督「嫌がつてるんだが……」

ヴィクト「なら、私を払い退ければ?」

提督「……」

ヴィクト「ほら、出来ない♡ 本当に可愛んだから、ハニーってば♡」
「提督は結局無抵抗に、ヴィクトリアスからの絨毯爆撃を受けるしかなかった」

翌朝――

ヴィクト「あら、もう朝になっちゃった？」

提督「……結局寝れなかった」

ヴィクト「あらあら、一晩中だったのにハニーは舌出してダブルピースしないのね？」

提督「……は？」

ヴィクト「だって秋雲が描いてる漫画だと、男の人が女の人に一晩中されて、そうしてたから、日本人男性はみんなそうなのかなって……」

提督「それは偏見だ」

ヴィクト「はあい、ごめんなさい♡」ホッペスリスリ

提督「秋雲の漫画の内容はもうあてにするな」

ヴィクト「え、でもハニーのこれくしょんから参考にしたのよ？」

空母の爆撃に分からせられる提督ってタイトルの」

提督「……」

ヴィクト「索敵は大切なものよ？♡」

提督「……知らない」

ヴィクト「4冊も大事に保管してあるのに？♡」

提督「黙秘権を行使する」

ヴィクト「あはっ、かわいい♡」チュッチュッ

その後、提督は暫くの間ヴィクトリアスにその本のことだからかわれるのだった。

しかしまんざらでもなさそうな提督であった――。

ヴィクトリアス 完

軽空母

鳳翔とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇執務室◇

提督「……もう時間だな。あとの事は頼む」

赤城「了解しました」ニコッ

加賀「私達もこれが済み次第お邪魔させて頂きます」

提督「まいど……んじゃ、お先」ノシ

／パタン／

赤城「さて、私達も残りの書類を片付けましょう」

加賀「ええ、早くしないと満席になってしまいますから」

◇食事処・鳳翔◇

グツグツー

鳳翔「各お料理の下ごしらえも完了ね♪」フフ

／ガラガラ／

提督「遅れて悪い」

鳳翔「あら、あなたが来たということは、もう?」

提督「開店時間だ」

鳳翔「暖簾あげて来ますね」ユビワキラツ

提督「ああ」ユビワキラツ

く開店く

／ワイワイガヤガヤ／

客「女将さん、ビールおかわりく♪」

客「こつちもお願いしますく♪」

鳳翔「はくい、只今く!」ニコッ

／ガラガラ／

友提督「よっ! また来たぜく♪」

秘書艦「こんばんは」ペコリ

提督「いらつしやい、ここ空いてるぞ〜！」

友提督「とりあえず、日本酒！ 熱燗で！」

提督「はいよ！」

鳳翔「こんばんは、お冷とおしぼりです」ニコツ

秘書艦「ありがとうございます♪」

／オカミサーン！ オカンジョウ！＼

鳳翔「はい、只今〜！ ではごゆっくり♪」ペコリ

／アリガトウゴザイマシター マタクルヨ！＼

友提督「鳳翔さん、今日も綺麗だなく！ しかも家事もやってくれるんだろ？ お前には勿体無いな！」ガハハ

提督「だろ〜ん？ もはや俺が養われてるみたいだわ」ハハハ

秘書艦「相変わらず仲睦まじいですね」ニコニコ

提督「はは、まだまだこれからさ」ニヤニヤ

友提督「惚気んじやねえよ、気色悪い」ガハハ

提督「うるせえ！ さつさと他の注文しやがれ！」ハハハ

〜時は流れ〜

友提督「まさか、お前が提督業やりながら、小料理屋をやるなんて言い出すとは思わなかったぜ」ヒック

提督「お前は酔うとすぐにその話を持ち出すなあ」ニガワライ

友提督「それだけこっちは驚かされたんだよ！」ガハハ

提督「店を出すのがあいつの夢だったんだ。金は余ってたし、好きな女の夢くらい叶えてやるのが海の男つてもんだろ！」ハハハ

友提督「かあ〜つ、見せつけてくれるぜ！ 酒だ酒つ！ もう一本持つてこい！」ガハハ

提督「まいど〜！」ハハハ

秘書艦「すいません、いつもこんな調子で……」ニガワライ

鳳翔「いえいえ、あの人も何だかんだでいつも楽しんでますから」ニコニコ

秘書艦「そうなんですか？」

鳳翔「ええ。その証拠に……ほらあれ。鼻の下を指で擦ってるで

しよう？ あの人が喜んでいたり嬉しい時は、あの癖が出るんですよ」クスクス

秘書艦「本当……良く見てらっしゃるんですね」

鳳翔「はい、ずっと側で見えていましたから」ニコニコ

秘書艦「ナチュラルに惚気ましたね」ニガワライ

鳳翔「あらやだ、私ったら♡」デレデレ

秘書艦（可愛い……／＼／＼）

〈閉店〉

友提督「んじや、またなく」ヨロヨロ

秘書艦「もう、飲み過ぎですよ」ササエ

友提督「お前が居るから安心して飲んだんだよ♪」ヒック

秘書艦「はいはい……では失礼しますね。ご馳走さまでした」ペコ

リ

提督「まいど！ 気をつけてな！」ノシ

鳳翔「着いたら連絡くださいね」ニコツ

秘書艦「はい♪」ペコリ

／イキマスヨ！ ヤサシクー！／

鳳翔「ふふ、あのお二人は相変わらず仲がよろしいですね」ニコニ

コ

提督「なくに、俺達の方が何倍も仲良しだろ？」ニツ

鳳翔「もう……♡」テレツ

提督「はは、じゃあ後片付けするか」

鳳翔「はい♡」

〈閉店後後片付け〉

提督「いやあ、今日も忙しかったなく。赤城と加賀が来ると特にだ

……」カチャカチャ

鳳翔「でも今日も楽しかったです♪」カチャカチャ

提督「はは、違えねえ」へへ

鳳翔「／／／／」キュン

（初めて会った時から変わらない子供っぽい笑顔）フフ

提督「どした？ 俺の顔になんか付いてるか？」

鳳翔「素敵なお顔が付いてますよ」ニコニコ

提督「な、なんだよ、いきなり／＼／＼」カア

鳳翔「事実ですから」ニコニコ

提督「そうかよ……／＼／＼」へへ

鳳翔「クスクス

く夫婦の時間く

鳳翔「本日もお疲れ様でした」トクトク

提督「鳳翔もな」トクトク

提・鳳『お疲れ様』カンパイ

提督「ぷはあく♪」

鳳翔「ニコニコ

提督「今日もニコニコで幸せそうだな♪」

鳳翔「はい、とても幸せですよ♡」

提督「そいつあ良かった」グビツ

鳳翔「こういう時間を過ごしていると、夢が叶ったんだなとつくづく

く思います」ニコツ

提督「……そっか」へへ

鳳翔「本当にありがとうございます。あなたに出会えて、私はとても

も幸せです」ニコツ

提督「毎回言うな、それ……お礼なんてもう良いつてのに……」グ

ビツ

鳳翔「でも……」

提督「でもじゃねえよ。好きな女の夢を俺が叶えてやりたくてやつ

た事なんだからよ」ニツ

鳳翔「／＼／＼」キュンキュン

(本当にズルい人……♡)

提督「次の夢は子供……か？」チラツ

鳳翔「それも良いですけど、まだ暫くはあなたと二人きりのこの甘

美な幸せを感じて居たいです♡」

提督「奇遇だな、俺もだよ」へへ

鳳翔「あなた……んく♡」クチビルサシダシ

提督「鳳翔……」ナデナデ
チュッー

満月に見守られ、二人は仲睦まじく、互いの体温を感じながら肩寄せ合ったー。

鳳翔 完

龍驤とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

ガチャー

龍驤「司令官く！ 昼食やでく！」

提督「お、もうそんな時間かい？」

龍驤「せやでく、キミは何か集中すると時間忘れるからなあく」ヤレヤレ

提督「サボってる訳じゃないんだし、そんなこと言わないでよ」ニガワライ

龍驤「せやな。んじゃ……ほい」つ小包

提督「それは？ 新しい装備でも入ってるの？」

龍驤「いやいや、話の流れ的にお弁当に決まっとるやん！」ピシッ

提督「あ、そうか……ありがと」ニコッ

龍驤「キウン

提督「ん？ どした？」

龍驤「な、何でもないわ／＼／＼」

（あかん、今の笑顔は可愛すぎや／＼／＼）ドキドキ
く仲良く昼食タイムく

龍驤「ちよつち形がいびつやけど、気にせんといてな？」

提督「何も僕に合わせないで自分の手に合った大きさのおにぎりにすれば良いのに……」ムグムグ

龍驤「おつきく作った方が食べ応えあるやん？ それにこの大ききで握った方がキミの為に作ってるって感じがしてうちは良いんや」ニコニコ

提督「はは、そっか……やっぱり龍驤って可愛いね」ニコニコ

龍驤「は、はあく？ 何でいきなりそんな話になんねん！」

提督「だって健気なんだもん♪」パクパク

龍驤「健気で……」パク

提督「龍驤がお嫁さんで幸せだよ♪」パクパク

龍驤「んなくく!!!／／／／」ウガー

提督「どしたの？」ムグムグ

龍驤「キミのせいや！／／／／」カオマツカ

提督「??」クビカシゲモグモグ

龍驤「キユン

(何でそんな可愛い仕草すんねん！／／／／)

提督「顔赤いよ？」ゴチソウサマ

龍驤「誰のせいでこうなってるんねん！／／／／」オソマツサマ

提督「ええ、いつも言ってるじゃんか」

龍驤「その度にうちはキユン死にしかけてんねん！／／／／」

提督「じゃあもうこれからはそういうこと言わない……」

龍驤「へ？」

提督「『キユン死に』ってよく分からないけど、龍驤は困ってるんでしょ？ だからもう言わない」ニコツ

龍驤「そ、それは……それで……」オロオロ

提督「お嫁さんが困ることしたくないから」

龍驤「困ってるんやのうて、恥ずかしいだけで……言ってもらえないのはちよつと……」モジモジ

提督「じゃあ、これからも言っただいなの？」クビカシゲ

龍驤「キユン

提督「龍驤？」クビカシゲウワメツカイ

龍驤「んがくく!! ええよ！ 好きに言えばええよ！／／／／」

提督「龍驤」

龍驤「……何なん？」

提督「大好きだよ」ニコツ

龍驤「ズキユーン

提督「龍驤？」ノゾキコミ

龍驤「ガバツ

チュッー

龍驤「ぷはあ……うちかてキミのことが大好きやで」ニコッ

提督「ドキッ

龍驤「ニコニコ

提督「龍驤」ガバツ

龍驤「へ!? な、何なん!？」

提督「龍驤が可愛いからデザートに龍驤を食べるね？」

龍驤「んなっ／＼／＼」

提督「もう止められない」チュツチュツ

龍驤「だ、誰か来たら……／＼／＼」

提督「見せつければいい」チュツ

龍驤「駆逐艦の子らに見られたらあかん／＼／＼」

提督「いずれは知ることになる」ハムハム

龍驤「いや、待って……こ、心の準備が……／＼／＼」

提督「ダメ？」チュツ

龍驤「……っ／＼／＼」

提督「良いよね？」ハム

龍驤「あ、あか／＼／＼／＼」

く夫婦R―1く

龍驤「はあはあ……あかんって言うたやんかあ……はあはあ……ア

ホっ／＼／＼

提督「ごめんね……嫌だった？」

龍驤「えっ」

提督「嫌ならもうやらないから……」

龍驤「や……やならケツコンらせんわ……アホ／＼／＼」モジモ

ジ

提督「ムラッ

龍驤「キミやから……／＼／＼」

提督「じゃあ、もう一回良いよね？」ガバツ

龍驤「な……ちよつと……あっ／＼／＼」

く夫婦R―2く

龍驤「はあはあ……司令官のアホ……はあはあ／＼／＼」ビクンビクン

提督「ごめんね……龍驤、大丈夫？」

龍驤「大丈夫な訳、ないやん……／＼／＼」ハアハア

提督「執務室にある布団使う？」

龍驤「せ、せやな……／＼／＼」ハアハア

提督「ムラツ ガバツ

龍驤「そ、そういう意味ちやうて……あぁっ／＼／＼」

提督「可愛すぎる龍驤が悪い」チュツチュツ

龍驤「い、意味分かんわ……あう／＼／＼」

く夫婦R―3く

◇執務室前◇

提督「龍驤、愛してるよ！」

龍驤「あ……う、うちもや……あぁっ／＼／＼」

愛宕「あら、また始まつちやった。ラブラブねく♪」ニコニコ

高雄「報告はもう諦めて先にドツク行きましょう／＼／＼」パタパ

タ

文月「ねえねえ、何でお耳塞ぐのく？」フミイ

睦月「何かあったの？」ニヤシイ

加賀「これはリラックスする為のツボを押しているのよ」ハア

赤城「こうすると良い子に育つのよ♪」ヤレヤレ

愛宕「あ、これ掛けとかなきや♪」スツ

く『夫婦お楽しみ中』く

龍驤 完

龍鳳とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れー

◇提督と龍鳳の住む家◇（鎮守府内）

グツグツー

龍鳳「アジミ

（よしっ♪）

く夕食完成く

龍鳳「後は提督の帰りを待つだけ」フッフ

（早く帰って来ないかなあ♪）ルンルン

五分経過ー

龍鳳「時間は……」チラツチラツ

（そろそろかな……）ソワソワ

更に五分経過ー

龍鳳「ソワソワ

（よし、ドアの前で待ってよう）フンス

◇ドアの前◇

龍鳳「キラキラ

（喜んでくれるかなあ）ニコニコ

五分経過ー

龍鳳「まだかなあ」

（もしかして何かあったのかな……）

更に五分経過ー

龍鳳「アセアセ

（事故とか……？）アワワ

ガチャー

提督「ただいmー」

龍鳳「てくとくう！」ガバッ

提督「おわっ!? な、何だ!? 何があったんだ!?」コンワク

ペタペターー

く龍鳳、提督の無事を確認中く

提督（新しいプレイ？）

龍鳳「良かったあ……無事だったんですね」ホッ

提督「無事？ 何のことだ？」

く事情説明中く

提督「おいおい、少し遅くなっただけで縁起でもないことを考える
なよ……」

龍鳳「だって……」シユン

提督「第一、鎮守府本館から家まで徒歩十分くらいなんだぞ？ ま

して鎮守府内で事故なんてあるわけ無いだろう……」ヤレヤレ

龍鳳「そんなの分からないじゃないですかあ」プクウ

提督（何で俺が怒られてるの……？）

「……とにかく、そろそろ家に上がらせてくれない？ 帰ってきて

て玄関からまだ一步も動いてないんだよ」

龍鳳「あ、そうですね！ ごめんなさい！」パツ

◇居間◇

提督「はあく、疲れたく」

龍鳳「お疲れ様でした」ニコニコ

提督「お酒持ってきてく」

龍鳳「はい♪」

く晩酌く

提督「ぷはあく、美味いく♪」ビール

龍鳳「ニコニコ

提督「何かつまみある？」

龍鳳「さつき作ったモツ煮がありますよ♪」

提督「お、良いねえ。食べたい食べたい」

龍鳳「では持ってきますね♪」

提督「美味美味♪」ハフハフ

龍鳳「ニコニコ

提督「幸せく♪」ニマー

龍鳳「／／／／」キユン

(可愛い笑顔♡)

提督「龍鳳〜♪」

龍鳳「は〜い？」

提督「俺の嫁さんになつて〜♪」

龍鳳「もうなつてますよ♪」

提督「何度でも言いたくなるんだよ〜♪」

龍鳳「嬉しいです♡」ポツ

〜晩ご飯〜

提督「いただきま〜す！」人

龍鳳「召し上がれ〜♪」

提督「あ〜、美味しいしか出てこねえ〜！ いつもありがとな〜！」パ

クパク

龍鳳「いえいえ♪」ニコニコ

提督「ニコニコしてないで龍鳳も食べなよ〜。せつかく一緒に食べれるんだからさ〜」

龍鳳「そうですね♪ いただきます」人

提督「うんうん」パクパク

〜寛ぎタイム〜

提督「あ、忘れてた……」

龍鳳「どうしました？」

提督「明後日から出張なんだよ」

龍鳳「そう、ですか……何日くらいここを離れるんですか？」

提督「大本営で次の大規模作戦に関する会議だから、良くて一週間くらいじゃないか？」

龍鳳「一週間ですか……」シヨボーン

提督「なんでそんなにしよぼくてんのさ？」

龍鳳「だって一週間も会えないんですよ!?! 提督は平気なんですか!?!」

提督「平気も何も、龍鳳も行くんだぞ？」

龍鳳「へ？」

提督「当たり前だろう。大切な会議にうちの正妻秘書艦を連れて行

かないとかおかしくね？」

龍鳳「なら最初からそう言つてくださいよ！ もう……！」プクウ

提督「ごめんごめん。どんな反応するか見てみたくてさ」アハハ

龍鳳「もう……私をからかって楽しいですか？」ムウ

提督「楽しいっていうか可愛いから」ニツ

龍鳳「うう／＼／／」ウツムキ

提督「あれ？ 耳まで真っ赤にしてどうしたの？」ニヤニヤ

龍鳳「もう！ もうもう！ 提督のイジワル〜！」カオマツカ

提督「あはは！」

◇寝室◇

提督「なあ、いい加減機嫌直せよ」ニガワライ

龍鳳「反省の色が足りません」ジトー

提督「反省してるよ……」ホツペポリポリ

龍鳳「ん」オメメトジル

提督「??」クビカシゲ

龍鳳「キスしてください！ それで許してあげます！」クチビルサ

シダシ

提督（可愛い……こんな反応するからからかいたくなるんだよ）

チュツ〜

龍鳳「ふふふ♡」

提督（もうご機嫌だ……）

「これで許してくれるか？」ナデナデ

龍鳳「はい♡」ギユツ

提督「本当はさ……」

龍鳳「？」

提督「大本営へ出張とかじゃなくて、新婚旅行に連れて行ってやり

たいよ。いつものお礼も兼ねてさ……」

龍鳳「提督……」

提督「悪いな甲斐性無しで」ナデナデ

龍鳳「こんなご時世ですから……それに提督とこうして過ごせるだ

けで、私は毎日とっても幸せですよ」ニコニコ

提督「そっか……ありがとう♪」ナデナデ

龍鳳「こちらこそ、です♡」ギョツ

提督「あ、大本営での会議が終わったら一泊くらい温泉でも行っちゃうか」ボソツ

龍鳳「え」

提督「そうだな、そうしよう！ 新婚旅行くらいしたってバチは当たんねえよな！」

龍鳳「もう……提督ったら」フッフ

（仕方ない人……♡）

提督「よし、明日は旅行先決めよう♪」

龍鳳「はい♡」

（私は本当に幸せです♡）

提督「どこにすっかなあ」ニコニコ

龍鳳「♡」ニコニコ

（いつも……いつも感謝してます、提督♡）

その後、提督の提案通り二人は大本営での会議後、突然の新婚旅行へ向かった。

この騒動を艦娘の間では『愛の逃避行』と呼んだそうなー。

龍鳳 完

祥鳳とケツコンしました。

某鎮守府、昼―

◇提督&祥鳳邸（鎮守府内）◇

祥鳳「く♪」

サツサツサツく―

く祥鳳お掃除中く

ピンポーン！

祥鳳「？」

パタパター―

祥鳳「はい、どちら様ですか？」

瑞鳳『私、私！』

祥鳳「クスッ

祥鳳「新聞なら間に合ってます♪」

瑞鳳『新聞の勧誘じゃないよ！』

祥鳳「……私達は幸せなので壺は要りません♪」

瑞鳳『幸運を呼ぶ壺売りでもないよ！』

祥鳳「うふふ、今開けるわね♪」

ガチャ―

瑞鳳「もう、酷いよ祥鳳！」プンスカ

祥鳳「ごめんなさい……でもいくら姉妹でもちやんと名乗ってね。

新手の『私私詐欺』かと思っっちゃうから」ニコッ

瑞鳳「語呂悪過ぎるし声で分かってよ！」ウガー

祥鳳「ごめんなさい」クスクス

瑞鳳「もうく」フンッ

「かあさまく？」ヒョ」

瑞鳳「あく！ しょうほうく やっほうく」

しょうほう「ずいほうねえさま、こんには」ペコリ

瑞鳳「こんにちはく」スリスリ

しょうほう「ほつびえしゆりしゆりしないでくだささいく」アワ

ワ

瑞鳳「え、だつてしょうほうのほつぺたつてスベスベで気持ちいいんだもくん♪」スリスリ

しょうほう「く、くしゅぐつちやいでしゅ！」キヤツキヤツ

祥鳳「クスクス

くそして取り敢えず居間へく

◇居間◇

瑞鳳「そう言えばお昼つてもう食べちゃった？」

祥鳳「ただだけど？」

しょうほう「コクコク

瑞鳳「それは良かった♪ あの子、良かったらしょうほう連れて外食行ってきていい？」

祥鳳「へ？」

しょうほう「ほえ？」

く瑞鳳、祥鳳に近寄るく

瑞鳳「最近提督と二人きりの時間少ないでしょ？ 一肌脱いであげるって言ってるの」コソコソ

祥鳳「／／／」ボンツ

しょうほう「みゅ？」クビカシゲ

瑞鳳「つてなわけで、しょうほう連れてくね♪」

瑞鳳「さあ、しょうほう！ お姉ちゃんが何でもご馳走するよ！何が食べたい？」

しょうほう「え……でもお……」チラツ

祥鳳「ず、瑞鳳お姉ちゃんとお食べてきていいわよ／／／」パタパタ

しょうほう「(*・ω・*)」パア

瑞鳳「んふふ、で、何食べたい？」

しょうほう「おさかな！」ピョンピョン

瑞鳳「よし！ じゃあ出発♪」

しょうほう「しゅっぱーつ！」ワハー

祥鳳「しようほう、瑞鳳お姉ちゃんの言うことをちゃんと聞くのよ？ 瑞鳳お願いね、気を付けて行ってらっしゃい」

瑞・し『はくい♪』

瑞鳳「提督が手ぶらで執務室に來いって……提督とごゆっくり♪」
ヒソツ

祥鳳「ど、どうも／＼／／」

しようほう「ずいほうねえさま、はやく〜！」グイグイ

瑞鳳「はくい！」

〜二人を見送り、祥鳳は提督の元へ〜

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞ」

ガチャー

祥鳳「失礼します♡」ニコニコ

提督「お、来たな」

祥鳳「はい♡ 実は瑞鳳がー」

提督「しようほうを連れて外食に行っただろ？」

祥鳳「外出届けで分かりますよね」フッフ

提督「いや……そもそも今回の発案は俺だからな」

祥鳳「え」

提督「祥鳳、ちょっとこっちへ来てくれ」

祥鳳「は、はい……」テコテコ

〜祥鳳、提督のすぐ隣へ〜

提督「今日は俺達のケツコン記念日だろ？」

祥鳳「あ……そういえば……」

提督「はは、やはり忘れていたか」

祥鳳「も、申し訳ございません！」ペコリ

ポム↑提督、祥鳳の頭を軽く叩くように撫でる

祥鳳「提督……？」

提督「気にするな。普段から祥鳳には育児や家事を任せっぱなしだ

からな……だからこれはそのお礼も兼ねてるんだ」

祥鳳「提督……」

提督「俺がやれる家事は風呂掃除くらいで、後は仕事が終わって家に帰った時や休みの日くらいにしかしようほうの相手は出来ないからな……」

提督「俺がこうして仕事を頑張れるのは、いつも家のことをしつかりとやってくれる心強い奥さんがいるからなんだ。そんな奥さんに今日は俺から料理を振る舞おうと思つてな♪」ウインク

祥鳳「提督……♡」トクン

(だから手ぶらで来いと……♡)

提督「執務室のテーブルに料理を運ぶ」

祥鳳「わあ……」キラキラ

提督「鳳翔や間宮に聞いて作つたんだ。肉じゃが、鯛のあら煮大根、ほうれん草のおひたし、きのこのお吸い物だ」

祥鳳「……ぐすっ」

提督「しよ、祥鳳!？」

祥鳳「ご、ごめんなさい……嬉しくて、私……」ポロポロ

提督「祥鳳……」ナデナデ

祥鳳「ありがとうございます……私、嬉しい♡」ナキワライ

提督「喜ぶのは食べてからな」ナデナデ

祥鳳「はい♡ 頂きます♡」人

祥鳳、提督の手料理を一口」

提督「ドキドキ

祥鳳「美味しいです♡」ニコニコ

提督「そうか……良かった」ホッ

祥鳳「本当に嬉しい……私、とっても幸せです♡」ギューツ

提督「俺は祥鳳のその笑顔が見れて幸せだよ」ギユツ

祥鳳「うふ♡」スリスリ

「ご馳走様でした!」

祥鳳「ご馳走様でした……どれも本当に美味しく頂きました♡」

提督「なら作つた甲斐があるよ……ならデザートに俺でも食べるか

？」

祥鳳「」

提督「なんてー」

祥鳳「頂きます♡」ガシツ

提督「え、今のは冗dー」

祥鳳「ケツコン記念日に二人目だなんて、素敵ですね♡」オメメハー
ト

提督「(。D。)」

祥鳳「頂きまくす♡」ガバツ

提督「あああああああああ！」

くそしてく

瑞鳳「(#。D。)」ニオウダチ

提・祥『』セイザ

瑞鳳「ーそれで、つい盛り上がって執務室で致した、と……」ピ
キピキ

提督「す、すまん」

祥鳳「ご、ごめんなさい」

瑞鳳「別にやるなどは言わないけどさ……」チラツ

く執務室には生々しい痕跡が多数く

瑞鳳「こんなに汚すことなくない？ 内容は何となく察してあげる
けど……」

祥鳳「提督が激しくて♡」ポツ

提督「祥鳳こそ／＼／＼」カー

瑞鳳「惚気んな、アホ夫婦！ 取り敢えずしようほうは私が見てる
から二人は早く片付けなさい！」ウガー

提・祥『はい！』ピシツ

こうして夫婦は仲良く後片付けをしたが、その途中にまたいい雰囲気
気になって結局汚す(ry

夕方ー

◇執務室外・ドア前◇

提督『祥鳳、愛してるぞ！』ズンズン
祥鳳『私も愛してます♡』ギシギシ

／ギシギシズンズン／

瑞鳳「しょうほう、まだお父さん達は忙しいから、ご飯食べに行こっ
か」ハイライトオフ

しょうほう「は〜い♪」

瑞鳳（提督の名前で高級店行こう（使命感））

しょうほう「きょうはたくさんおそといけてたのしいですう〜♪」
キヤツキヤツ

後日ウン万円の請求書が提督の元に来たとかー。

祥鳳 完

瑞鳳とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇艦娘宿舎の一室◇

祥鳳「え、胸を大きくする方法を教えてください?」

龍驤「なんでうちを見てるんや!」

大鳳「メソラシ

鳳翔「ニガワライ

瑞鳳「だって……提督ったら毎晩アレする時に、『瑞鳳の胸は無くても美しい』とか『無くても愛らしさがある』とか言うんだもん!」ウ
ワン

祥鳳「ニガワライ

鳳翔「アラアラ

大鳳「／／／」ウツムキ

龍驤「(#^ω^)」イラッ

瑞鳳「それでね、無くてもごめんね。って言うと、『無くても恥じるこ
とはないぞ』って〜! 酷いと思わない!」

祥鳳「ニガワライ

鳳翔「ワカイワネー

大鳳「／／／」ポツポツ

龍驤「ブチッ

スクツ↑龍驤立ち上がる

瑞鳳「?」

龍驤「惚気んなら他でやれや」戦艦クラス的眼光

瑞鳳「ビクッ

龍驤「ええか? ウシ乳が多い艦娘の中で! 瑞鳳、君は司令官と
ケツコンした。それはウチらフラット艦の誇りなんや!」

大鳳「コクコク

瑞鳳「龍驤……大鳳……」

龍驤「胸が好きな野郎共が多い中、ウチらの司令官は胸が無い瑞鳳

を選んだや。寧ろ、かなりの理解者や。だからそのままであえねん」

祥鳳「「イイハナシダナー」

大鳳「「オオー」

鳳翔「「アラアラ」

龍驤「司令官は胸関係無く瑞鳳を愛してんねん。無理に大きくせんでもええねん」カタポンポン

瑞鳳「「そうなのかな……」

祥鳳「胸のことは置いといて……提督は瑞鳳を心から愛していることとは分かるわ」ニコツ

鳳翔「ケツコンする前から、お二人は仲睦まじかったですから」ニコニコ

大鳳「うん。それに提督がそう言ってるのは、瑞鳳が胸が無いのを感じて過ぎてるから、敢えてそう言ってるんじゃないかな」フフフ

龍驤「ほれ見てみい、みんなこう言ってるやないか。分かったら、んなこと気にせんで愛しの司令官とちくり合っただらええねん」

瑞鳳「／／／／」カア

「スツ↑瑞鳳立ち上がる

龍驤「？」

瑞鳳「みんなありがとう！ 私、提督の所に戻るよ！」

祥鳳「ええ、仲良くね♪」

鳳翔「御馳走様でした」ニコツ

大鳳「フアイトゥ！」ニコニコ

龍驤「女は胸やないで！」ニツ

瑞鳳「うん♪」

パターンー

龍驤「ただの惚気とか勘弁してほしいわ」ニガワライ

祥鳳「瑞鳳がすみません」ニガワライ

龍驤「えくてえくて」ノシ

鳳翔「ふふ、本当に仲がよろしいですね」クスクス

大鳳「本当ですね」フフフ

龍驤「ほな、報告書書いて提出するついでにひやかしにいったるか

くニシシ

大鳳「程々にね」ニガワライ

◇執務室◇

カチャー

瑞鳳「ただいま」ヒヨコ

提督「ああ、お帰り。もういいのか？」

瑞鳳「うん」

提督「そうか」

トコトコ……ぎしっ

く瑞鳳、提督へだいしゆきホールド

提督「ず、瑞鳳？」

瑞鳳「ね、提督」

提督「どうした？」

瑞鳳「提督は瑞鳳の胸、好き？」

提督「瑞鳳ならすべて好きだ」

瑞鳳「そつか……♡」ニへへ

提督「その様子だと、吹っ切れたみたいだな」ニツ

瑞鳳「うん♡」

提督「良かった……君には心から笑顔でいてもらいたいからな」ナ

デナデ

瑞鳳「提督……♡」トクン

提督「胸なんて無くてもいい。背丈だつて無くてもいい。小さければこうして私の両腕で包み込んで、守つてやれるし、誰にも渡すことは出来ないだろう？」ギユツ

瑞鳳「提督……♡」トクントクン

提督「まあ、瑞鳳ならなんでも好きなんだがな」ニツ

瑞鳳「私も……」

提督「ん？」

瑞鳳「私も提督だから全部好き♡ 大好き♡ 愛してる♡」

ギュー

提督「／／／」ドキッ

ぴくんー

瑞鳳「あ」

提督「メソラシ

ぴくぴくー

瑞鳳「なんか硬いのあたってるよ?」

提督「いずれ収まる……すまない／／／」カオマツカ

瑞鳳（照れてる顔、可愛い♡）ニコニコ

提督「と、取り敢えず、まだ仕事が残ってるから、片付けてしまおう」スッ

瑞鳳「ダメ!」ギユッ

提督「ぬうつ」

く瑞鳳、提督へ逆壁ドン（椅子の上で）

提督「ず、瑞鳳……／／／」

瑞鳳「こんなにしてたら、集中できないでしょ?」ハアハア

提督「これしき……／／／」

瑞鳳「無理は身体に良くないよ?」それに、私でこんなにしてくれたんでしょ?♡」サスサス

提督「ま、待ちっー」

瑞鳳「ギユッ

提督「くっ……／／／」

く瑞鳳、提督の顔を覗き込む

瑞鳳「瑞鳳のこと食べるう?」

提督「後悔するなよ?」グッ

瑞鳳「しないよ♡ 沢山食べて、ね♡」

く我、夜戦に突入す!」

◇執務室外・ドア前◇

提督『まだまだく!』ズンズン

瑞鳳『もう入らないよ♡』ビクンビクン

／ビビットピンクオーラ ムンムン

龍驤「／／／」コウチヨク

←付き添い

大鳳「龍驤さんはこれをひやかしに行くんですね。流石です」

祥鳳「尊敬します」ケイレイ

鳳翔「ご武運を」ケイレイ

龍驤「うちは空気読める子やから、行かへんで……／＼／＼」プル
プル

大鳳「取り敢えず、出直しましょうか」

祥鳳「ですね♪」

龍驤「鳳翔さん、クソにつがい抹茶とクソかつらい辛子蓮根頼むわ

／＼／＼」パタ。パタ

鳳翔「はい」ニコリ

その後も夫婦は激しく愛を語り合ったとさー。

瑞鳳 完

飛鷹とケツコンしました。

某攻略海域ー

◇戦闘◇

提督「飛鷹、艦載機を発進させて！」

飛鷹「了解！ 全機爆装！ さあ、飛び立って！」

妖精B・L「今度はここが戦場になるのか……」

妖精R・M「やるぞ、B・L！」

ヒューン

妖精B・L「この海域から出ていけえー！」

妖精R・M「この光は俺達だけが生み出しているものじゃない！」

チュドーリーン

飛鷹「制空権確保！ 行きます！」

提督「第二次攻撃部隊の発艦を急がせて！ 他の艦は砲雷撃戦用意

！」

……。

……。

……。

く戦術的敗北Cく

◇母港◇

提督「みんなお疲れ様。悔しい結果になったものの、次への課題はハッキリしたと思う。今日の所はゆっくり休んで傷を癒して」

艦隊『はっ』ケイレイ

提督「飛鷹もお疲れ様……貴女も入渠してきなさい。何ならバケツも使って良いから」

飛鷹「ええ……分かったわ」

提督「じゃあ、私は執務室へ戻って書類片付けてるから……」トボ

トボ

飛鷹「……提督……」

◇執務室◇

提督（またあの子達を大破させちやた……こればかりは慣れないわね……）

提督（戦争をしてるって頭では分かっている……でも普段笑顔のあの子達が苦痛に歪む顔は見たくない……）

提督（あの子達の為にももつと強くならなきゃ！）

コンコンー

提督「どうぞ」

カチャー

飛鷹「失礼します……バケツ使わせてもらったわ」

提督「あら、ゆっくりしてきても良かったのに……」

飛鷹「提督が落ち込んでるのにゆっくり出来るわけないでしょ？」

提督「落ち込んでなんか……」

飛鷹「じゃあ、なんでそんなに目が赤いの？」

提督「さつき目にゴミが入ったから……」

飛鷹「両目に入るなんて凄いわね」

提督「ウツムキ」

飛鷹「全く……あなたは優しすぎるのよ」ギョツ

提督「だって……」

飛鷹「優しいのはあなたの長所で短所よね」ナデナデ

提督「飛鷹が……みんなが傷つくのは見たくないから……」

飛鷹「でも私達が闘わなきゃ……」

提督「うん……」

飛鷹「ホント、泣き虫な提督ねえ……」クス

提督「笑わないでよ……飛鷹のイジワル……」

飛鷹「そんなイジワルな女とケツコンしたのは誰だったかしら？」

提督「……私です」

飛鷹「じゃあ、文句なんて無いわよね？」クスクス

提督「むくく」

……。

飛鷹「落ち着けた？」ナデナデ

提督「うん……ありがとう、飛鷹」ギョツ

飛鷹「良いのよ、あなたと私の仲なんだから」ニコツ

提督「飛鷹が居ないと、きつと私はダメダメ提督だよ」

飛鷹「あら、みんなあなたが提督で良かったって思ってるわよ」

提督「それは……飛鷹が私の側に居てくれるから頑張ってお仕事出来るの」

飛鷹「ありがとう、でもちゃんと自分のことも評価してあげて」

提督「……………」

飛鷹「私が初めてMVP取った時のこと覚えてる？」

提督「覚えてる」

飛鷹「あの時の提督はまるで自分のことのように喜んでくれた。正規空母が着任しても私をずっと旗艦として置いてくれた。私はそれがとても嬉しかったわ」

提督「そんなの当たり前だよ」

飛鷹「それにケツコンカツコカリも私としてくれた。普通なら正規空母や戦艦とする方がずっと良いのに」

提督「その話を大本営から聞かされた時、飛鷹のことしか浮かばなかった」

飛鷹「今の私が居るのは提督のお陰。だから提督は凄い提督なのよ」ニコツ

提督「そうなのかな……」

飛鷹「はあ、ホント困った提督ね……」スツ

提督「飛よ……んっ、んんっ……ちゅちゅっ……ひ、よう……んん、ちゅっ」

飛鷹「ちゅ……んはあ……そろそろ元気出してよ。私はいつもの明るい提督の笑顔が見たいんだけど？」

提督「ひ……よう／＼／＼」トローン

ズキューーシュー

飛鷹「その蕩けた顔も良いわね」クス

提督「ひよう……」クイクイ

飛鷹「あら、おねだり？」

提督「／／／」コクコク

飛鷹「じゃあ、鍵閉めてお布団敷きましょ♪」ニコツ

提督「はあい／／／」

カチャー

◇執務室ドア前◇

提督「ひよう……はやくう／／／」

飛鷹「そう焦らないの……時間はたっぷりあるんだから……」

妖精B・L「整備に來ないから呼びに來てみれば……」

妖精R・M「これは俺達だけでやるしかないみたいだな」

妖精B・L「そうですね……行きましょうか」

妖精R・M「その前にコーヒー買ってこうぜ。ブラックで」

妖精B・L「購買行くなならアイス買しましょう！」

妖精R・M「お前本当に凄いヤツだな……」

次の日、提督と飛鷹は共に眩しいくらいキラキラ輝いていたと、艦娘達は口を揃えて言っていたのか……。

飛鷹 完

隼鷹とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇執務室◇

提督「カキカキ

」提督、絶賛仕事中」

隼鷹「♪」ニコニコ

」隼鷹、絶賛提督見つめ中」

提督「隼鷹」

隼鷹「どした、提督？」ニコニコ

提督「あまり見ないでくれないか？ 視線を感じると落ち着かない

んだが……」

隼鷹「そうやって、あたしの楽しみ奪うんだ……」ジト

提督「ウグッ

隼鷹「だってあたしの仕事無いんだもん。暇じゃん」

提督「ならば他のみんなの所に行っても良いと言ってるだろう」

隼鷹「提督って冷たいね」

提督「ウグッ

隼鷹「提督と一緒にいれて嬉しいって思ってるのはあたしだけなん
だね」

提督「ウグッ

隼鷹「何も言ってくれないんだ？」

提督「隼鷹」

隼鷹「ちよつと外の空気吸ってくるわ」ガタッ

提督「

キーッ↑ドアを開ける音

隼鷹「ごめん、提督」

パタン……

提督「はあ……」アタマポリポリ

◇埠頭◇

隼鷹「なんでいつもこうなんだろ……」

く膝を抱えるく

隼鷹（本当はもっと仲良くしたいのにな……）

隼鷹（笑って冗談だつて言えばよかつたのかな……）

隼鷹（提督の仕事が忙しいのは分かってるけど……）

隼鷹（もっと構ってほしい……）

??「何してんの、そんな所で？」

隼鷹「クルリ

飛鷹「ん？」クビカシゲ

隼鷹「フイツ

く飛鷹、隼鷹の隣へく

飛鷹「隣、座るわね」ストーン

隼鷹「……もう座ってんじゃん」

飛鷹「一人になりたいなら私が来た時点で、あなたは他の場所に行くでしょ？」

隼鷹「……」

飛鷹「あんたのこと探してたわよ、提督」

隼鷹「……」

飛鷹「あんたはいつも私達の前では飄々としてるくせに、提督にだけは構ってちゃんよね」フフ

隼鷹「るせえ……」フイツ

飛鷹「提督だつてあんたを構ってやれなくてやきもきしてるはずなんだから、黙って待ってなさいよ」

隼鷹「それが出来ねえからこうなってるんじゃん……」

飛鷹「ニガワライ

隼鷹「提督が大変なのは分かっているけど、どうしてかいつもちよっかい出しちまってる、変な空気にしちまうんだよ」

飛鷹「……」

隼鷹「ここんどこ毎回こんな感じですよ……提督に嫌われちまうよ……」

飛鷹「それは無いんじゃない？」

隼鷹「なんでだよ……」

飛鷹「メクバセ

隼鷹「チラッ

提督「ガワライ」「ノシ

飛鷹「迎えが来たわよ」フフ

隼鷹「うう／＼／／」

隼鷹、提督と手を繋いで鎮守府内へ

飛鷹「ふふ、何だかんだで上手くいつてる風にしか見えないわ」ク
スクス

◇執務室◇

隼鷹「……」

提督「……」

提・隼『あの……』

提督「隼鷹からどうぞ」ニコッ

隼鷹「……さつきはごめん。構ってもらいたくて、つい……提督が
忙しいの知ってるのにさ」

提督「俺の方こそ、構ってやれなくてごめんな。仕事の要領が悪く
て、隼鷹を蔑ろにして……」

隼鷹「じゃあ、仲直りしようぜ？」

提督「ああ、もちろん」

ちゅっー

隼鷹「くっ」ギューッ

提督「ナデナデ

隼鷹「あたし、もっと大人になんないかなあ」

提督「今のままでも良いんじゃないか？」

隼鷹「毎回喧嘩っぽくなるのは嫌だよ」

提督「その度に仲直りすれば良いんじゃないか」

隼鷹「面倒くさいだろ、そんなの」

提督「仲直りした分、分かち合えた証拠さ」

隼鷹「すけこまし……」

提督「酷い言い掛かりだな」ニガワライ

隼鷹「あたし、もつと大人になる！ 提督に甘えてばっかじゃいけないもんな！」

提督「俺も悪いところを直していくよ」

隼鷹「お互い頑張ろうな！♡」ギューツ

提督「ああ、そうだな」ナデナデ

くそして仲良く仕事を終わらせ、帰宅く

◇提督&隼鷹宅・鎮守府内◇

く縁側で仲良く晩酌中く

提督「月が綺麗だな……」

隼鷹「どっちの意味だい？」グビツ

提督「どっちの意味でもいいぞ」フフ

隼鷹「この月をこれからも提督と眺めながら、こうして酒が飲みたいね」ニヒヒ

提督「はは、これは一本取られたな」

く隼鷹、提督の肩にもたれるく

隼鷹「あたしが酒以外にのめり込むものがあつただなんて、考えもしなかつたよ……」

提督「頑張って口説いたからな」フフ

隼鷹「落とされちまつたなあ、まんまとさ」へへ

提督「俺はしつこいからな」ナデナデ

隼鷹「でもクドくないしつこさだよ」スリスリ

提督「あつさり薄味が俺の売りだからな」ハハ

隼鷹「もう少しこつてりな方があたしは好みだけど？」

提督「ああ、沢山構ってやるさ。お姫様」ギューツ

隼鷹「分かってんじゃん♡」ムギューツ

提督「さ、せっかくだ。もう少し飲もう」トクトク

隼鷹「おっとと……ありがと♡」ニコツ

提督「俺の盃にも頼むよ」ニコツ

隼鷹「あいよ♡」トクトク

提督「ニコッ

隼鷹「へへ

提・隼『乾杯♪』

こうして夫婦は肩寄せ合って、盃に落ちた月を呑み干すのであつたー。

隼鷹 完

大鷹とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇艦娘宿舎・談話室◇

大鷹「(？・へ？)」「ムツスー

鳳翔「ニガワライ

く大鷹、ご機嫌斜めく

ガラガラー

飛鷹「あら？ 大鷹、どうしてそんな顔してるの？」

隼鷹「提督とケンカでもしたのかく？」

大鷹「お二人共、こんにちは。提督は悪くありません……そもそも

提督と私はケンカなんて致しません」キツパリ

飛・隼『？』クビカシゲ

鳳翔「ほら午前中、大鷹さんは提督と街へ行かれたでしょう？」

飛鷹「ええ、漁業協同組合との会合に行ったのよね？」

隼鷹「そこでなんか言われた的な？」

鳳翔「その帰りに商店街へ寄ったら、商店街の方々から提督の妹と

勘違いされたみたいなの」ニガワライ

飛・隼『あく……』ニガワライ

大鷹「むう……私、提督の奥さんなのに」イジイジ

飛鷹「大鷹はちよつと幼く見えるからねく」

隼鷹「それもあるけどさ、いつも提督の後ろをチヨコチヨコくつつ

いて歩いてるから、それが余計に妹っぽく見えるのかもなく」ニシシ

大鷹「妻は夫の三步後ろを歩くものです！ それに私はチヨコチヨ

コもしていません！」

鳳翔「まあまあ、大鷹さん。落ち着いてください」ドオドオ

大鷹「くく」プンポン

トントントー

ガラガラー

提督「大鷹く、いるかく？」

大鷹「あ、は〜い、旦那様♡ 大鷹はここに♡」ケロツ
〜大鷹、即座に提督の元へ〜

提督「休憩時間なのにごめん。これから工廠に向かうから、そのことを伝えにきたんだ」

大鷹「私もお伴致しましょうか？ 何かお手伝いを……」

提督「いや、大鷹は休んでてくれ。午前中に護衛任務を頼んじやつたし」ニガワライ

大鷹「提督を守るのは私のお役目です……しかし、帰ってきてからは旦那様を支える妻としてお側にいたいですう」ウルウル
〜どうする提督〜♪〜

提督「じゃあ、一緒に行こうか♪」ニコツ

大鷹「はい♡ お伴致します♡」エへへ

〜提督の背中を追いかけるように大鷹はその場をあとにした〜

飛鷹「妹って言うか、愛犬っぽく見えちゃうわね」アハハ

隼鷹「あ〜、尻尾ブンブンに振って飼い主の背中を追いかけてる感じだもんなく」ワカルワー

鳳翔「とても同意しますが、このことは大鷹さんに言わない方がいいですね」ニガワライ

そして夕暮れ〜

◇執務室◇

提督「ん〜っ、今日はこれで終わりだな〜」ノビ〜

大鷹「お疲れ様でした、旦那様♡」つお茶

提督「お、ありがとう♪」ナデナデ

大鷹「あ……えへへ♡」デレデレ

提督「そろそろ夜だな……」チラツ

大鷹「……そうですね／＼／＼」ポツ

提督「なんで顔を赤くする」ニガワライ

大鷹「だ、だって旦那様が私の方を見ているんですもの……♡／＼

／＼「ハウ

提督「俺は心配で見てるんだよ。着任したての頃の君は……むぐつ

!？」

く大鷹、提督の口を両手で塞ぐく

大鷹「むうく、そのような前のお話を持ち出さないうでください！／

／／／

提督「ココココ

く大鷹、提督の口から手を放すく

大鷹「今は旦那様のお陰で大丈夫です……旦那様が一緒にいてくださいますから♡」ニッコリ

提督「大鷹……」

大鷹「……旦那様、もしよろしければ手をお繋ぎしてもいい、ですか？／／／」モジモジ

提督「勿論」ニコツ

く提督、大鷹へ手を差し伸べるく

大鷹「♡／／／」

そく……スカツ↑提督、手を引っ込める

大鷹「？」パチクリ

提督「ニヤニヤ

大鷹「(？・へ？)ムウ

ガバツ！↑大鷹、提督の胸にダイブ

大鷹「意地悪しちや嫌ですう……」ムギユーツ

提督「あはは、どんな反応するのか見たくつてさ」ニガワライ

大鷹「暫くこうしてくれなきや、夕飯のおかずは手を抜きます」ム

ギユギユーツ

提督「それは嫌だなく、大鷹が作る料理は俺の日々の活力源なのに」ナデナデ

なく。愛い妻よのく
(そもそも手を抜くっただけで作ってくれることは確定なんだよ

大鷹「……／／／」

提督「愛する大鷹の美味しい料理を食べたいなく」

大鷹「……♡／／／」

く大鷹、だんだんニヤけてくるく

提督「大鷹く？」

大鷹「……も、もう、仕方ないですね♡／／／／／　そこまで言われたら手なんて抜けませんね♡／／／／／」ニヨニヨ

提督「はは、ありがとう♪　それとさつきはごめんな」ギューツ

大鷹「いいですよ♡　許してあげます♡」スリスリ

提督「でも本当に心配はしてるんだ、思っていることはちゃんと言うんだぞ？」

大鷹「……では、今思っていることを……／／／／／」

提督「何かな？」

大鷹「愛しい旦那様と接吻をしたいと……そう、思っております♡

／／／／／」モジモジ

提督「(。D。)」

(何、この可愛い生き物／／／／／)

大鷹「だ、旦那様？／／／／／」ウワメツカイ

提督「し、しようか、キス／／／／／」

大鷹「は、はい……してくださいませ♡／／／／／」

く大鷹、瞼を閉じて唇を差し出す

ちゅっ♡

大鷹「んっ……だんな、しゃまあ……んむう……ちゅっ、んんっ……

ちゅちゅっ……んはあ、はあ……旦那様♡／／／／／」トローン

提督「凄く蕩けた顔をしてるぞ、大鷹？」ホツペナデナデ

大鷹「見たら、ダメですよ♡／／／／／」スリスリ

提督「ちゃんと見せてくれ」ニコツ

大鷹「今日の旦那様は少し意地悪ですう♡／／／／／」ムウ

提督「拗ねた顔も可愛いだけだぞ？」ナデナデ

大鷹「にやう／／／／／」

その後も散々チュツチュしたー。

大鷹 完

雲鷹とケツコンしました。

某鎮守府、夕方――

◇鎮守府正門前◇

雲鷹「……………遅い」

「雲鷹、懐中時計を見ながらソワソワと落ち着きなく正門前を彷徨う」

大鷹「あのお、先程提督から連絡が来たばかりですし、そんなにすぐ帰って来られる訳ではないのでは？」

雲鷹「でも、もう十分も経ってるわ。まさか提督の身に何か……!?!」

大鷹「それこそ連絡が来ますよ……」ニガワライ

「提督は本日の午後から漁港委員会の人々と今後の護衛任務に関する会議に出席」

雲鷹「まさか、接待としていかがわしいお店に強制連行された……とか!? 駄目! そんなの駄目よ! 提督には私という妻がいるのに、他の雌が……男に媚を売るいかがわしい雌が跋扈するお店に連れて行くだなんて!」

大鷹「これから帰る、と連絡があつたじゃないですか……」アキレ
雲鷹「提督は優しいから向こうの厚意を断れずに流され、いかがわしい雌に嬲られ、蹂躪され、隠し撮りしておいた提督のあられもない映像をダシにタダ同然で海上護衛をさせる気なのかも……」

大鷹「漁港の方々には失礼では？」

雲鷹「それで私には提督が無様に私以外の雌でアへ顔晒してダブルピースしている写真が送られてくるのよ……」サメザメ

大鷹「秋雲さんの漫画の読み過ぎでは? とうか、そういう系の物良く読めますね。人の性癖にとやかく言いませんけど」ヒキギミ

雲鷹「どうしたらいいの!?! 私の身体で提督を救えなかつたら……私なんて貧相な身体なのに!」

大鷹「長い時は一晩中喚いているくせに良くそんなこと言えますね?」

雲鷹「ああ、私はもう提督の翩られ動画を見て悔し涙を流しながら自分を慰めることしか出来ないのね……くう！」

大鷹「心のどこかではそうなりたい願望があるのでは？」ニコニコ↑黒い笑み

雲鷹「ああ、提督……」メソメソ

大鷹（控えめに言っとうぜえ……♪）

くそこへ提督が運転する軍用車両が見えてきたく

大鷹「ほら、帰って来ましたよ」

雲鷹「ああ、動画を渡されるのね……」

大鷹「実は提督とそういう体のプレイをしていたりしてます？」

キーツ

提督「今戻ったぞ。留守の間、変わったことは？」

く提督は運転席の窓を開けて雲鷹たちに声をかけるく

雲鷹「問題無かったわ。それより早く車を置いてきて。私寂しくて死にそうなんだけど？」

く変り身の速さに定評がある雲鷹。対して大鷹はコイツまじかよと言った顔をしていたく

提督「今置いてくる。執務室で待っていてくれ……ちゅっ」

雲鷹「んっ……ええ、待ってる♡」

大鷹「お疲れ様でした」

（いつものことだけど、このオンオフ？の切り替えには慣れないです）

◇執務室◇

提督「……………」ニガワライ

雲鷹「♪♡」

く提督は執務室に入るや否や、雲鷹に抱きつかれて身動きが取れなくなっただく

提督「留守中のことを報告してほしいんだが……まずは離れてくれないか？」

雲鷹「嫌♡」ニパッ

提督「あのなあ」ニガワライ

雲鷹「私を置いて行つた罰♡」

提督「お前を連れて行くと誰彼構わず敵意剥き出しだからだよ……」

雲鷹「旦那を守るのは妻の役目」フンス

提督「それだけ俺を大切にしてくれているのは嬉しい。でも心配し過ぎだ。大鷹の様子を見るに、また突拍子もなくしようもない妄想をしていたんだろ？」

雲鷹「何よ、それ。非常に腹立つわ。訴える。判決は妻のことを変人扱ったことが重罪として、私をずっと側に置くこと。よって直ちに刑を執行しなさい」

提督「なんで任務中は頼りになるのに、俺のこととなるとこうもアホになるんだらうか？」

雲鷹「また貶した。刑加算ね」

「こうなると提督もお手上げなので、提督は雲鷹を抱きかかえてソファーへ移動」

提督「お前は束縛とか監視とかはしないのに、どうして変な方向への妄想が激しいんだらうな？」ナデナデ

雲鷹「いつも私を狂わせるのは、愛しい貴方だけ♡」

提督「ちくせう、かわいい笑顔だ」

雲鷹「♡」スリスリ

「提督の膝の上で撫でられている雲鷹はまるで猫のよう」

提督「ネット小説でまた変な物でも読んだのか？」

雲鷹「ラブラブ夫婦の旦那がキャパ嬢に取られる小説を読んだわ」

提督「うん、相変わらずいい趣味してる、悪い意味で。俺は拷問を受けても心だけは絶対に雲鷹から離れないぞ」

雲鷹「嬉しい♡」

提督「だから変な妄想しないようにな。あとで大鷹にも謝っておくんだぞ？」

雲鷹「提督がいつも私の側にいれば大丈夫♡」

提督「俺がいる時も穏やかなままでいれるか？」

雲鷹 「私の愛って激しいの♡」

提督 「変わる気はないってことで把握」

雲鷹 「(だってそうすれば貴方はいつも私のことだけを考えてくれるでしょう?♡)」

提督 「なんだって?」

雲鷹 「これからもずっと愛してるわって言ったの……♡」

提督 「そうか。俺も愛してるよ」

雲鷹 「うん、知ってる♡」

提督 「言われなかったら泣くくせに」

雲鷹 「だって言われないと寂しいもの♡」

提督 「ああ、くそ、かわいいな!」ムギユーツ

雲鷹 「♡」ゴマンエツ

なんだかんだ提督も雲鷹を狂おしい程に愛していることには変わらないのである——。

雲鷹 完

ラングレーとケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇執務室◇

ガチャッ!

ラングレー「Hello♪ My baby♪ お前の愛しのラングレーが演習から帰って来たぞー♪」

提督「お〜お帰り。映像はちゃんと観てたぞ。大車輪の活躍だったな」

ラングレー「まあな♪ ミーに任せとけば、圧勝間違い無し! だからな!」

提督「妻が頼もし過ぎて男して立つ瀬が無いな」ニッコリ

ラングレー「んなこと言って、笑ってんじやんかよ♪」

提督「妻の活躍が嬉しいのは俺のちっぽけなプライドとは関係無いからな」

ラングレー「ハハッ、そうかよ♡ んじやま、取り敢えず、いつもの頼むわ♡」

提督「ああ、いいとも。おいで」

ラングレー「〜♡」

〜ラングレーは両手を広げる提督の胸に飛び込んだ〜

提督「よしよし。いつもは凛々しくて勇ましいラングレーも、俺の前ではこうして甘えてくれて嬉しいよ」ナデナデ

ラングレー「ミーをこんな風にしたのは提督だろ? ほら、撫でてばっかりじゃなくて、他にもすることあんだろ?」

〜ラングレーはそう言って提督の唇を人差し指で撫でてキスを催促する〜

提督「ああ、分かった。んっ」

ラングレー「んう……ちゅっ♡ んちゅ、ん〜……はあ、Fileek♡」

提督「それは何よりだ。じゃあ昼飯にするか」ニッコリ

ラングレー「おつ、待ってました♡」

提督「腕によりをかけたから、たくさん食ってくれ」

ラングレー「言われなくてもそうするっての♡」ムギューツ

◇鎮守府本館内・多目的室◇

提督「お待たせ♡。今日はラングレーがリクエストしてた通り、ミックスフライだぞ」

ラングレー「うおっ！」キラキラ

提督「右からエビフライ、ホタテフライ、カキフライ、ホツキのフライだ。ただちゃんとサラダも食べるんだぞ？」

ラングレー「分かってるっ♡ 愛してるぜ、提督♡ んーま、んーま♡」ホツペチュツチュツ

提督「俺もだよ」ホツペチュツ

ラングレー「へへ♡」

(ミーの旦那は世界一だな♡)

♡そして♡

ラングレー「うんめえ！」ガツガツ

提督「作った甲斐があるよ」

ラングレー「特にこのたらこマヨで食うのがサイコーだ！」

提督「俺はタルタルソース派だな♡」

ラングレー「そつちも好きなんだけどなあ。でもミーはやっぱこつちのが好きだな。多分、提督が初めてミーに作ってくれたのがこれだったからなのかもしれないけど」ニパツ

提督「ああ、着任歓迎会の時か。赤城や加賀に負けず劣らずにがついてたもんな」

ラングレー「いやあ、日本の料理が美味いってのはアイオワたちから聞いてたんだけどさ。予想以上の美味さだったからな！ 初めて食った時のあの感動……提督には分からねえだろうなあ！」

提督「そりゃあ、作った本人だからな」ニガワライ

ラングレー「提督、この戦い終わったらレストランやれよ♡ 絶対繁盛するっ♡」

提督「あゝ、それもいいかもな。田舎でのんびりと定食屋でもやる

か」

ラングレー「のんびりか。今のミーとしては想像出来ないなあ」

提督「まあこんなご時世だしな」

ラングレー「暇過ぎて死にそうになるかもな」

提督「おいおい、俺だけに働かせるつもりかよ。レジとか接客は美人な妻にやってもらわないと客が来ないだろ？」

ラングレー「よく言うよ。大本営に一緒に行く時は常にミーの肩を抱いて周りの男たちを威嚇してるくせに♡」

提督「見せつけておいて損はない。それに接客しても絶対に変な虫は近付けさせないから安心しろ♪」

ラングレー「……他人を消す時は必ずミーに相談してからやってくれよ？」

提督「んな面倒なことしない。ちゃんときつちりと話し合いして解決するさ。俺は平和主義だからな」ニッコリ

ラングレー「OK……」ニガワライ

ラングレー「まあ、とにかくだ。そうしてやるためにもミーが早くケリつけてやんねえとな！」

提督「だな。頼りにしてるよ。でも無理だけはするなよな」

ラングレー「ミーが提督を置いて行くだけでも思ってたのか？♡」

提督「何かあるか分からないからな」

ラングレー「大丈夫大丈夫！ ミーを信じろ！ You 分 copy か ?♡」

提督「I 分 copy た y

ラングレー「それに……その……」チラチラ

提督「？」

ラングレー「お前との間に出来る、ミーたちの子どもたちにも会いたいしな♡／／／」ドキドキ

提督「俺の妻ぐうかわ」

ラングレー「う、うっせ♡／／／」

そして夫婦は幸せそうに微笑みつつ、昼食を終えた。

数年後、終戦を迎え、提督は退役して小さな定食屋を開き、提督の

側にはいつも妻と娘たちが寄り添っていたという――。
ラングレー 完

神鷹とケツコンしました。

某鎮守府、夜―

◇食堂・厨房◇

神鷹「よし……提督のディナー完成、です」フランス

→神鷹、料理を終えたところ→

間宮「お疲れ様です、神鷹さん」

伊良湖「提督も喜んでくれますよ」

神鷹「あはは、だと嬉しいです」

間宮「？ 提督と何かあったんですか？」

神鷹「い、いえ、そんなことは……提督にはいつも良くして頂いて、幸せで怖いくらいです！」

伊良湖「さらつと惚気けましたね」ニヤニヤ

神鷹「そ、そんなんじゃ……／＼／＼」アウ

間宮「ふふふ、神鷹さんが愛情込めて作ったお料理なら、提督はなんでも喜んでくれますよ」

伊良湖「そうですね！ ささ、早く提督の元へ！」

神鷹「あ、ありがとうございます。では……あ、厨房を貸して頂きありがとうございますました」ペコリ

→神鷹はそれから弁当箱を包んだ風呂敷を提げて食堂をあとにした→

◇本館までの道中◇

神鷹「……………」テコテコ

神鷹（鎮守府の敷地内でも、夜道は怖いなあ……。大抵は提督が一緒だけど、今日は執務がお忙しいから心配させないように大丈夫って笑って来たけど……うう）

じやり……

神鷹「っ!?!」ビクッ

佐渡「あ、いたいた！ こんばんは、神鷹さん！」ニコッ

択捉「こんばんは！」ケイレイ

松輪「こ、こんばんは」ニコリ

く 択捉たちの登場く

神鷹「皆さん……こんばんは。どうかされたんですか？」

択捉「はい！ これより任務を開始します！」ニコツ

神鷹「任……務……？」キョトン

佐渡「そそ、神鷹さんのだくい好きな人から頼まれた過保護な任務
だぜ！」ニヒヒ

松輪「司令に神鷹さんが一人で夜道を歩くから、無事に執務室まで
警護してきてって……」ニコニコ

神鷹「ああ、なるほど……」

(もう、提督つたら……／／／／) キュン

く 神鷹、択捉たちと仲良く執務室へ向かうことにく

佐渡「神鷹さん、提督の晩飯に何作ったんだ？」

神鷹「えつと……ポークハンバーグにフライドポテト、海藻サラダ、
ハムとレタスのコンソメスープと間宮さんたちから頂いたプリン
……あとは鮭とおかか昆布のおにんこを」ニコツ

松輪「おにんこ？」クビカシゲ

択捉「茨城弁でおにぎりって意味よ、松輪」

佐渡「司令は茨城弁訛りがすげえからな！ 神鷹さんみたいにいつ

も司令の側にいると、伝染っちゃうんだろうな！」ニシシ

神鷹「そ、そうでしょうか……？／／／／」ポツ

佐渡「現に伝染っちゃってんじゃん」ニガワライ

松輪「でも、それだけ長い間、お二人は同じ時間を過ごしてたんだ
なつて私には思えて、素敵です」ニコニコ

神鷹「ああああ／／／／」プシュー

択捉「神鷹さん!? 顔が真っ赤つかですけど、大丈夫ですか!?」ア
ワワ

神鷹「だ、大丈夫、です／／／／」ハウ

佐渡「茹でだこ神鷹さんだな」アツハツハ

神鷹「あうあうあう……／／／／」

「そんなこんなで道中は楽しく(?) 執務室に到着」

◇執務室◇

提督「いやあ、ありがとな、三人共々」ナデナデ

択捉「いえ、無事に任務を完遂できて良かったです!」ケイレイ

松輪「楽しくお喋りして帰ってきました」ニコニコ

佐渡「明日酒保でなんかお菓子買ってこれよな!」

提督「ああ、なんでも買ってやるぞ!」ガハハ

神鷹「……………」モジモジ

「そして択捉たちは寮へ戻り、夫婦だけになって遅めの晩御飯タイム」

提督「ーんで暫くはこれといった作戦もねえから、明日からみんなにちつと休暇をやらうと思つてよ。朝礼でみんなによく説明するよ」

神鷹「分かりました。作戦中は皆さん頑張っていましたし、ゆっくりと休んでほしいですね」ニコツ

提督「……………」ジーツ

神鷹「? 提督?」

提督「いや、悪い。ちつとお前の笑顔に見惚れてた」ハニカミ

神鷹「え!?!」ボンツ

提督「そーたに驚くことながつぺ」

神鷹「お、驚きますよ……………いきなり、そんな……………」ポツポツ

提督「だけんど、そーげーにおめは良く笑うようになったと俺は思うど? おめが俺ンとこき着任した日はいつも謝つてばかりで心配でしやあなかった」

神鷹「……………あはは、すみません」ニガワライ

提督「ほれ、今も謝つてつぺや」オデコペシツ

神鷹「きやう」

提督「俺はおめとこーたに笑い合える日が来て嬉しい。おめは訳あってドイツの客船から日本の空母になった経緯があつたから、最初は愛想笑いばつかだつたからな」

神鷹「あたしが今をこうして幸せに過ごせているのは全部、提督のお陰です♡」

提督「そーけ^{そうか}」ニカツ

「そして晩御飯を終えて食休み」

提督「あゝ、食った食った。ごつつおさん」

神鷹「お粗末様でした♡」

(たくさん食べてくれて良かった♡) ルンルン

「夫婦でソファアーに並んで座ってまったり」

提督「まあたニコニコしてどうした？」

神鷹「提督に出会えて幸せだなあって思ってます♡」

提督「そーけ……ああ、忘れてた。明日俺らの仕事が終わったら街

へ行くべ」

神鷹「はい、何かお買い物でも？」

提督「いいや、おめと前に約束しておいた神戸牛、食いに行くべ」ニ

カツ

神鷹「ええ!?!」

提督「作戦も無事に終えたし、^{こちら}でいっちょ食いに行くべ。で

も勿論みんなにはね^{内緒}しよだかな?」ナデナデ

神鷹「っ♡」ドキッ

むぎゅっ♡

提督「おっと!?!」

神鷹「また提督との幸せな思い出が増えます♡ ありがとう♡」

ます♡」

提督「まだ食いに行つてすらいねえべや」ニガワライ

神鷹「提督は嘘はつきませんから♡」テヘッ

提督「言ってる／＼／＼」テレッ

神鷹(これからもずっとお慕っています♡ あたしの最高の旦那様

♡)

後日、夫婦は神戸牛を堪能出来るホテルレストランへ行き、最高の

ディナーデートを過ごした。

しかしそのあとで神鷹が無自覚惚気で神戸牛を食べたことをポ

ロツと喋ってしまい、提督の財布が瀕死状態になることを提督はまだ知らないー。

神鷹 完

千歳とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇艦娘宿舎の一室◇

コンコンー

瑞穂「はい、どうぞ」

カラカラー

千歳「こんにちは」

千代田「お姉、やっときた」

瑞穂「お疲れ様です」ペコリ

千歳「あはは、ちよつとお仕事がいつもより長引いちやつて」

千代田「とか何とか言つて、どうせ提督と離れるのが嫌で駄々こねたんでしょう？」ジーツ

千歳「あ、はは、何を言ってるのよ、千代田ったら」アセアセ

瑞穂「まあまあ、千代田さん」ニガワライ

千代田「はあ、お姉もお姉だけど提督もお姉をすぐ甘やかすからな」

千歳「えへへ♡」デレエ

千代田「褒めてないからね」ギロツ

千歳「アツハイ……」シユンツ

瑞穂「クスクス

トコトコー

千代田「あ、お昼寝から起きたかな？」

瑞穂「みたいですな」ニコツ

ガラツー

ちとせ「千代田、瑞穂……」クシクシ

千代田「おはよ、ちとせ」ナデナデ

瑞穂「お母様がお迎えに来ましたよ」ニコツ
ちとせ「おかあさん！」パア

トテトテ……むぎゆっ♪

ちとせ、千歳にダイブく

千歳「ちとせく♪ いい子にしてたく？」ギユッ

ちとせ「してたく！」キラキラ

瑞穂「ふふ、とても良い子にしていますよ」ニコッ

千代田「護衛艦についてのお勉強もしたのよく、ねく？」

ちとせ「ねく♪」ニパッ

千歳「そう……」ナデナデ

ちとせ「おおきくなつたらねく、ごえいかんになつてねく、おとうさんとねく、おかあさんをねく、わたしがまもるのく！」キラキラ

千歳「ちとせ……」

ちとせ「それでねく、おとうさんとけっこんするのく！」ニパー

千歳「それはだくめく♪」ニコニコ

ちとせ「ええく！ どうしてく!? おかあさんだけずるいく！」プン
ン
ン

千歳「お父さんはお母さんのだもん♪」

ちとせ「やくん！」プン
ン

瑞穂「また始まりましたね」クスッ

千代田「子どもにムキになつちやつて……」ニガワライ

瑞穂「それだけ愛されているのでしようね」フッフ

千代田「好き過ぎて泣けるって言うくらいだからね」ヤレヤレ

瑞穂「それも愛の形なのでしようね」ニコッ

ちとせ「ちとせのほうがおとうさんをしあわせにできるもん！」

千歳「お母さんの方が出来るわよ」ニコニコ

ちとせ「むうく！」プン
ン

千歳「何よく！」ギューッ

千代田「もう少し違う構い方すればいいのに……」ニガワライ

瑞穂「あらあらまあ」ニコニコ

ちとせ「そして千歳はちとせを抱っこしたまま自室へ帰ったく

その日の夜――

◇提督&千歳夫妻の部屋◇

くちとせを寝かし付け、夫婦の時間く

提督「今日もお疲れ様」トクトク

千歳「ととつ……ありがとうございます♡ あなたもお疲れ様でし

た♡」トクトク

提督「つと……ありがとう」ニカツ

提・千『乾杯』カチン

ー。

千歳「そういえばちとせがね……」

提督「む?」

千歳「将来は護衛艦になって私達を守るんだって今護衛術の勉強してのよ」

提督「そうか……」

千歳「私達の子どもだから当然と言えば当然なのだけれどー」

提督「戦うことを夢見てるのはどうなのか、といったところか?」

千歳「つ……あなたには何でもお見通しね」クスツ

提督「お前とは長い付き合いだからな。何となくで大体のことは把握出来るさ」ニツ

千歳「もう、茶化さないで／＼／＼」テレッ

提督「すまん……でも、確かに子どもならではの夢を持ってほしいと思うこともあるな」

千歳「時代が時代だからこそ仕方ないことなのかもしれないけれど、ね……」

提督「それに悲しいことだが、平和になったらそれでその平和を守る力が必要となるからな」

千歳「……そう、ね……」

提督「心配するのは分かるが、し過ぎは良くない。未来は我々の頑張り次第でいくらでも変えられるのだからな」ナデナデ

千歳「あなた……」

提督「我々が一刻も早く深海棲艦との戦争を終わらせ、今の子ども達の代には平和で何もやることの無い世界にしてやろう。言い方が

少しあれだがな」ニガワライ

千歳「はい、あなた♡」スリッ

提督「そうなつてもちとせが護衛艦の道を志すなら、親である我々はそれを支えよう」

千歳「そうですね♡」

提督「さ、そうする為にも我々は今日の前のこと（深海棲艦との戦争）に集中しよう」

千歳「はい、今日の前のことに（提督との晩酌）♡」

数十分後ー

千歳「それで、ちとせつたらあなたとケツコンするって聞かないのよ／＼／＼／＼」

提督「そんなこと言ってくれるのも今の内さ……それより飲み過ぎじゃないか？」ナデナデ

千歳「むう、あなたは私とちとせ、どっちが大切なの？」ジトー

提督「両方大切だ。比べるのが間違ってる」アタマポンポン

千歳「うゆ……上手いこと誤魔化されてる気がすゆ／＼／＼／＼ニコニコ

提督「誤魔化すも何も、お前のことは一人の女性として愛しているし、ちとせは娘として愛しているからな」

千歳「んふふ♡ もつと言つて♡」スリスリ

提督「お前を愛している」

千歳「んへへ♡ 嬉しい♡」ゴロゴロ

提督「それは良かった」ナデナデ

千歳「ん♡」ゴマンエツ

提督「む、酒が無くなつたな……そろそろ寝るか」

千歳「最後にもう一杯、いいですか♡？」

提督「……まあ、良いだろう」

（可愛いから）

千歳「じゃあ、最後は人肌で♡」ニコニコ

提督「人肌か……では酒を温めてくるから待つー」

千歳「口移しがいい♡」スリスリ

提督「な!?!／／／／」

千歳「いいじやなくい……それにこの方法教えたのあなたよく？」

♡「ムナモトクリクリ

提督「わ、若気の至りだ……／／／／」カァー

千歳「やっぱ子どもを産むと冷めちやうのね」シクシク

提督「それは妻が夫に冷めるって意味じゃないか？」

千歳「あなたは私の愛が伝わってないのね!?!」ガーン

提督「あゝ、分かった分かった！こっちが悪かった!」

千歳「それじゃあ、ん♡」クチビルサシダシ

提督「ん……」

ちゅっ♡↑仲直りのキス

千歳「えへへ♡」

提督「はあ／／／／」

千歳「じゃあ次はお酒♡」ンー

提督「仕方ないな／／／／」

千歳「ん♡ん♡……ちゅ、あむ♡」コクツコクツ

提督「ぶはあ……これでどうだ?／／／／」

千歳「幸せ♡」ギューツ

提督「そうか／／／／」ナデナデ

その後、提督は千歳に美味しく頂かれたそうなりー。

千歳 完

千代田とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

千代田「提督……」

提督「ん？ ああ、もうお昼か。分かった俺はいつも通り適当に何か食べるから、千代田は千歳の所に行きなよ」ニコツ

千代田「……うん、分かった……」

提督「千歳によろしくな」ノシ

千代田「うん……」

提督「？ 元気無いぞ？」

千代田「提督……あのー」

提督「分かっているって、二人の邪魔はしないから安心して姉妹で過ごしてこい」ニコツ

千代田「っ……うん、分かった」

パターンー

◇廊下◇

千代田「トボトボ

千代田（また言葉が出なかった……）

千代田（提督はいつでも私と千歳お姉の時間を優先してくれる……ケツコン前もケツコンした今でも……）

千代田（私が望んでたことなのに……）

千代田「グスツ

千代田（私には千歳お姉が居ればそれで良かった）

千代田「なのに……」

千代田（提督の優しさに触れて、提督の愛に触れて……私は変わった）

千代田（提督ともっと一緒にいたい……触れ合いたい……）

千代田「もっと私を見て欲しい……」

「千代田？」

千代田「？」チラッ

千歳「こんなところでどうしたの？ こっちは宿舎よ？」

千代田「千歳お姉……」ブワッ

千歳「ちよ、どうしたの!？」

千代田「千歳お姉！ お願い！ 助けて！」ウワーン

千歳「え、えええ」ヨシヨシ

く千歳、取り敢えず千代田を部屋へ連れてく

◇艦娘宿舎・千歳型姉妹部屋◇

千歳「はい、お水」

千代田「くすんっ……ありがと……」ウケトリ

千歳「それで何があったの？」

千代田「提督ともっと仲良くなりたいの……」

千歳「？ どういうこと？」

千代田「私……提督が好きなの……大好きなの。こんな私にも優しく、私のことを一番に考えてくれて、私の考えを常に優先してくれる……」

千歳「ウンウン

千代田「今日だってそう……朝食に誘おうとしても「俺に構わず千歳と過ごせ」。昼食に誘おうとしたら「二人の邪魔はしないから姉妹で過ごしてこい」って」

千歳「」ホウホウ

千代田「自分が招いたことだって分かっている……でも、もうこれ以上耐えられない！ これ以上好きな人から距離を取られるのは寂しいの！」

千歳「千代田……」

千代田「毎回、毎日そう。私が言う前に「千歳ならー」「千歳とー」「千歳にー」って。提督に見てもらいたくて頑張ってるのに……提督は私に千歳お姉としか見てないの！」

千歳「千代田、落ち着いて。ね？」ドオドオ

千代田「あ……ご、ごめん」

(どうしてこんな言葉がスラスラ出てくるんだろ?)

ごくつ↑千代田、水を飲む

千歳「千代田も悪いけど、提督も悪いから、どっちもどっちね〜」

千代田「提督は悪くないもん！　いくらお姉でも提督を悪く言うなら許さないから！」ガタツ

千歳「分かったから、落ち着いて！」ドオドオ

千代田「う、うん……」ストン

(あれ？　何言ってるんだろ、私……)

ごくつ↑千代田、水を飲む

千歳「まったく……今みたい提督にもその調子で迫ればいいのに……」ニガワライ

千代田「だ、だって……あの笑顔を向けられると、何も言えなくなっちゃうんだもん」

千歳「どうしてよ」ニガワライ

千代田「だって……素敵なんだもん／＼／＼」モジモジ

(どうしよう、提督のことしか考えられない！)

ごくごくつ↑千代田、水を飲む

千歳(まさか提督が千代田をここまで攻略済だったなんてね〜)

千代田「提督にニコツてされるだけで、胸がキューーンってするの／＼／＼　すつごく素敵なの／＼／＼」デレデレ

千歳「ふくん、そっか〜」

(ようやく姉離れ出来るわね〜。その為には……)

千代田「は〜、もっと私を見て欲しいな〜♡」ポワワーン

千歳「そうね〜」

(なんとかして千代田の思いを提督に伝えなきゃならないわね！)

千代田「は〜、何であんなに素敵な人が側にいたのに気が付かなくなんだろ……／＼／＼」ヒツク

千歳「そうね〜」

(あれ？　なんか顔が赤いわね……?)

千代田「提督〜、提督〜／＼／＼　千代田寂しいよ〜／＼／＼」ヒツクヒツク

千歳「」

(もしかして……)

「千歳、コップを確認」

千歳「」チビッ

(あ、これ日本酒だ……しかも千歳鶴)

※千歳鶴 鬮酒 純米 度数21・3%

千代田「提督くくくく」

千歳(千代田にバレないようにミネラルウォーターのペットボトルに入れ替えてたの忘れてた！)

千代田「私、今から提督に気持ちを伝えてくる！」スタッ

千歳「え」

千代田「千代田抜锚します！」ケイレイ

千歳「う、うん……」ケイレイ

「そして千代田は提督の元へ」

千歳「うん、私がキューピットね！ うん！」ヒラキナオリ

◇執務室◇

提督「千代田のやつ、今日は遅いな……」カリカリ
バターン！

提督「Σ(。D。)」ビクッ

千代田「」ハアハア

提督「そ、そんなに急いで来なくても良かったんだぞ？」アセアセ

千代田「提督！」

提督「は、はい！」

千代田「提督く！」

ぎゅむ↑千代田、提督に抱きつく

提督「(。D。)」ナニゴト？

千代田「提督！ 好き！ 大好き！ 千歳お姉より提督の方が大切なの！ これからは提督から離れないなら！」

(言っちゃったくくく)

提督「その言葉、信じていいのか？」

千代田「うん……信じて……もつと千代田を見て♡」
提督「俺は千代田の側にいられるだけでいいんだぞ？」

千代田「私はそれだけじゃいやなの！♡」ギューツ

提督「嬉しいよ、千代田……大好きだ」ギユツ

千代田「提督♡ 千代田も大好きだよ♡」スリスリ

◇執務室ドア◇

千歳（ふおろ！／／／／）↑心配で見に来た

→絶賛覗き見中

千歳（お酒が入つてるとは言え、あんなに大胆になるなんて／／／

／）ドキドキ

千歳（やっぱりお酒って偉大ね）ウンウン

その後、提督と千代田は共に同じ部屋で過ごし、夫婦で過ごす時間が格段に増えたそうなの。

千代田 完

ガンビア・ベイとケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇艦娘宿舎◇

ガンビア「し、失礼しまゝす」ヒヨコ

アイオワ「ヘイ、ボーナス・ベイビー！」ノシ

サラトガ「いらっしやい♪ 適当なところに座って。今、コーヒ―を淹れるから」

ガンビア「Thank you」ニコツ

ー

アイオワ「それで、今日はどうしたの？」

ガンビア「あの……祖国にいるお姉ちゃんたちに手紙を書いたんだけど、封筒が足りなくて……余ってたらもらえないかなって」

サラトガ「ええ、勿論よ♪ ちよつと待ってて！」

サラトガ、封筒を探しに棚の方へ

アイオワ「手紙ね。ミーなんて送ったことすらないわ」

ガンビア「え、そうなの？」

アイオワ「ええ。だつてニュージャージーもミズーリもウイスコンシンもバンバンEメール送ってくるもの。わざわざ手紙なんて送らないわよ」ヤレヤレ

ガンビア「ああ、Eメールがあつたんだつた……忘れてた」ニガワライ

アイオワ「ま、ベイビーは愛しのアドミラルのことで頭いっぱいだもんね。仕方ない仕方ない♪」

ガンビア「そ、そんなこと……あるけど……／／／／／」

アイオワ「どうせ、その手紙の中身もアドミラルとのスイートメモリーばかりなんでしょ？」ニヤニヤ

ガンビア「そ、そんなに書いてないよう／／／／」

サラトガ「そんなにつてことは少しは書いてるんだ」♪

サラトガ、封筒を持って戻ってきた

ガンビア「うう……だつて、日本でのことなんてアドミラルと過ごしたことばかりだから、自然にそうなつちやうんだもん／＼／＼ウツムキ

アイオワ「なるほどね」ニヤニヤ

（今も自然に惚気けたわね）

サラトガ「幸せそうね」ニコニコ

（微笑ましいなあ）

ガンビア「……………／＼／＼」モジモジ

アイオワ「例えば、どんなことを書いたの？ 全部じゃなくていいから、少し教えてよ♪」

サラトガ「サラも知りたくい♪」

ガンビア「ええっ!?!／＼／＼」

「NOと言えないアメリカ軽空母」

ガンビア「え、えつと……今度アドミラルをアメリカへ連れて行くから、その時にお姉ちゃんたちに会わせるねって書いたよ?／＼／＼」

アイオワ「Oh, やつとハネムーンに?」

ガンビア「ち、違うよう……アメリカ海軍との交流会。アドミラルはその代表団の一員に選ばれたの。アメリカに留学経験があるから」サラトガ「アドミラルも階級はこつちの言葉で大将だし、そういう大切な場にも選ばれるのね」フムフム

アイオワ「でもなんにしたって、向こうでの自由時間くらいあるんでしょ? ならハネムーン気分で行ってきなさいよ♪」

ガンビア「お、お仕事はお仕事だから……／＼／＼」

アイオワ「むう、堅いわね」

サラトガ「まあまあ」クスクス

「そんなこんなでガンビア・ベイは二人と別れ、執務室に戻った」

◇執務室◇

ガチャー

ガンビア「も、戻りました……」

提督「ああ、おかえり」ニコツ

ガンビア「えへへ♡」ニヨニヨ

「ガンビア・ベイ、すぐに提督の元へ」

ガンビア「サラさんから封筒貰えた♡」

提督「良かったじゃないか」ナデナデ

ガンビア「うん♡」スリスリ

提督「そういえば、今度アメリカに行くけどそのことはちゃんと書いてあるの?」

ガンビア「Of course♡ 早くお姉ちゃんたちにアドミラルを紹介したいな♡ 手紙だけじゃ、アドミラルの良さは伝えきれないもん♡」

提督「普通の日本軍人だよ、俺は」ニガワライ

ガンビア「No, not at all!」

「ガンビア・ベイ、提督を強く抱きしめる」

ガンビア「I am so grateful you are my husband……」

訳) あなたが私の旦那でいてくれて本当に感謝してるの

提督「ベイ……」

ガンビア「アメリカ艦の私を……臆病な私をいつも優しく導いてくれたのはアドミラルなの。私がこのみんなと仲良くなれたのも全部アドミラルのお陰……だからアドミラルは私にとっての太陽なの」

提督「そっか……そう言ってもらえると、嬉しいな」ナデナデ

ガンビア「If a kiss could tell you how much I love you, I am sure we would be kissing forever♡」ニコツ

訳) もしキスでどれくらいあなたを愛しているかを伝えることが出来るなら、永遠に私たちはキスしているわ

提督「そ、そんなにか? そう言われると、かなり照れるんだが……」

／／／／

ガンビア「When I tell you I love you, I am not saying it out of ha

bit, I am reminding you that you are my life♡」

訳）愛してるって言う時は、習慣として言ってるんじゃないからね。あなたが私の人生そのものだってことを思い出してもらいたいから言ってるの

提督「……／／／／」

ガンビア「I love you♡」

提督「お、俺も愛してるよ／／／／」ハニカミ

ガンビア「えへへ、嬉しい♡」ギューッ

提督「さ、さて、そろそろ仕事に戻らないとな！／／／／」

ガンビア「フッフ、今じゃアドミラルの方が照れ屋ね♡」ホッペツンツン

提督「だって、こんなに積極的になるとは思わなかったからさ／／／／」

ガンビア「それも全部、アドミラルのお陰♡」ホッペチュツ

提督「そっか／／／／」

ガンビア(Thank you for showing me how it feels to be loved♡)

そして夫婦がアメリカに行き、晴れてガンビア・ベイの姉たちと顔合わせしたが、ガンビア・ベイの無自覚シュガーテロの餌食なったそうなー。

ガンビア・ベイ 完

水上機母艦

神威とケツコンしました。

草原広がる丘、昼ー

神威「わあく♪ あなたく、早く♪」ノシ

提督「おく、ちよつと待ってくれ〜！」

〜やつと休日、夫婦揃ってピクニックにやってきた〜

提督（レンタカーしてまで来た甲斐があるな〜。あんなにはしゃいで……可愛い奴）

→免許持ちの車無し

◆回想◆

神威「え？ 明日はお休みなんですか？」

提督「ああ、暫くは大きな作戦も無いし、うちの艦隊はこの前の作戦でそこそこの戦果を上げたからな。だから上層部も二つ返事で鎮守府全体に休暇をくれたよ」

神威「それは喜ばしいですね♪」

提督「ゴールデンウィーク関係無しに作戦だったから、せめて二日間は休暇を取りたかつたんだが、ケチ臭く一日しかくれなかつた……」ニガワライ

神威「今戦時中ですし、仕方ありません。しかし一日でも皆さんも休めるのでしたら良いではありませんか」ニッコリ

提督「相変わらず聖母神威だな〜」↑浄化され中

神威「うふふ、大袈裟なんだから♡」クスクス

提督「それで、だ。神威は何かしたいことあるか？」

神威「あなたと一緒になら、何でも♡」

提督「そう言ってくれるのはありがたいがな……。せつかくの休暇なんだ、わがまま言ってもいいんだぞ？」

神威「しかし休暇はあなたが……」

提督「神威と二人きりで過ごせる時間が欲しくて、上に掛け合つた

んだ。だから俺のことは気にするな』

神威『あなた……♡／／／／』キユン

提督『新婚旅行以来、やっと回つてきた休暇だ。普段出来ないことを二人でしようぜ♪』ナ？

神威『っ!?!♡／／／／』ズキユーン

提督『ほれ、何がしたいんだ？ 言ってみ？』ニコニコ

神威『では、お言葉に甘えて……♡／／／／』モジモジ

提督『おう♪』

神威『あなたと二人きりでピクニックへ行きたい、です♡／／／／』
エへへ

提督『了解♪ 場所は宛があるのか？』

神威『はい♡』ニパー

提督『よし、んじや明日はピクニックだ！』オー！

神威『はくい♡』オー！

◇そして今◇

提督(俺の日頃の行いのお陰でお天道様もニコニコで絶好のピクニック日和だな♪)

神威「わあ、野の花も沢山♪ 少しだけお邪魔しますね♪」ニコ

ニコ

く提督が準備する中、神威は楽し気に花にご挨拶中く

提督(俺じゃなくて、神威の行いのお陰だな……)フッフ

神威「あ……むう／／／」プクウ

提督「？ どうした？」

神威「あなた、さつき神威のこと見て笑ったもん／／／ ただお花さんに挨拶してただけなのに／／／」ポンポン

提督「ああ、いや、可笑しくて笑ってた訳じゃないぞ？ 神威は今

日も可愛いな／／／って思ったらついニヤけちまったんだ」ニガワライ

神威「そ、それはそれで恥ずかしいです……♡／／／」ポツポツ

提督「ははは、今更だな♪ よし、設営完了♪ 荷物置けるぞく」

神威「は、はくい／／／」

く神威、提督の元へく

提督「んじや、先ずは腹ごしらえからだな♪」

神威「はい♡ しっかりご用意して参りました♡」

提督「何かなく？♪」ワクワク

テテテテッテレー♪

神威「水上爆撃機く♪」

提督「よくし、これで草原を荒野に変えよう♪ っておい！」↑ノ

リツツコミ

神威「うふふ、冗談です♪ おにぎりとたまごサラダ、厚焼き玉子、

アスパラベーコン、そして……」

提督「そして？」

神威「アジフライでくす♪」

提督「♪」イヤツファー！

神威「さあ、食べてください、あなた♡」ニコツ

提督「え、あくんオプシオンは？」

神威「……恥ずかしいです／＼／＼」

提督「せつかく二人きりなのに？」

神威「……／＼／＼」モジモジ

提督「仕方ない。なら俺がやってやろう♪」つ玉子焼き

神威「……あむ／＼／＼」モキユモキユ

く恥ずかしながらもちやんと食べる神威く

提督「どうよ？」ニコニコ

神威「……ごくん。美味しいです♡／＼／＼」テヘヘ

提督「んじや次は俺の番な♪」アーン

神威「はくい♡／＼／＼」つおにぎり

提督「デカイデカイ!!」

くそんなこんなでラブラブな昼食を経て、夫婦仲良く草原を散策く

◇紫蘭が一面に広がる場所◇

神威「わあく♪ あなた、紫蘭があんなに沢山あります！」

提督「自然にあんなに咲いてるのは凄いなく」オオー

神威「紫蘭は痛み止めや止血効果を持つ生薬にもなるんですよ」
提督「じゃあ摘むか？」

神威「摘みませんよ。今はちゃんとお薬が売られていますから……それに、あんなに一生懸命咲いているのに摘んでしまうのは可哀想です」

提督「記念に摘んで行っても良かったんだがな」

神威「記念なら記憶にちゃんと残します♡ あなたとの素晴らしい

思い出が、この日の記念です♡」ニッコリ

提督「そうか……／＼／＼」

(まさに女神だ……／＼／＼)

神威「もつと近くで見ましょ♪」

提督「あつ、神威！」

く神威は駆け出すがく

神威「あつ……きやふう!？」

く神威は盛大に転けてしまったく

提督「だ、大丈夫か、神威!? 盛大に顔から行つたろ!？」

神威「え、えへへ……お恥ずかしいところをあなたに見られちゃい

ました／＼／＼ 手を突いたので顔は大丈夫です／＼／＼」

提督「花は逃げないんだから、少しは落ち着け」アハハ

神威「そんなに笑わないでくださいよう／＼／＼」ハウ

提督「悪い悪い。さて、んじゃ……」ガシッ

神威「へ……きやつ!？」

く提督、神威をお姫様抱っこく

神威「あ、あなた？ な、何を？ 神威はちゃんと歩けますよ?」オ

ドオド

提督「また転けたら今度は本当に怪我をするかもだろ?」

神威「むう……もう転けません／＼／＼」

提督「心配だからだくめ♪」ニカツ

神威「意地悪く♡／＼／＼」

(そんなお顔をされたら強く言えなじゃないですか……／＼／

／) ドキドキ

こうして夫婦はそのまま仲良く花を眺め、他にも自然と触れ合い、夫婦の時間を堪能したー。

神威 完

瑞穂とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

コンコンー

瑞穂「はい、どうぞ」

ガチャーー

千歳「失礼しまゝす」

千代田「こんにちは」

瑞穂「あら、お二人共こんにちは」ペコリ

千歳「こんにちは。今日の訓練の報告書を持ってきたわ」ニコツ

瑞穂「まあ……ご苦労様です。こちらでお預かりしますね」ニコツ

千代田「お願いしまゝす」つ報告書

瑞穂「はい、確かに承りました」ニコニコ

「時間があるのでお喋りタイム」

千歳「提督は今出撃中だっけ？」

瑞穂「はい」

千代田「やつぱり心配？」

瑞穂「全く心配していないと言えば嘘になりますが、必ず無事に帰ってくると思っています」ニコツ

千歳「相変わらずお熱いわね」

千代田「ご馳走様です」人

瑞穂「お粗末様です」

千歳「で、あっちはどうなの」フッフ

千代田「ニガワライ

瑞穂「はい？」キョトン

千歳「もう提督とケツコンして半年は過ぎた訳だし、そろそろおめでたいご報告があってもいい頃じゃない。だからどうなのかな」
「つて」ニヤニヤ

千代田「千歳お姉、そんな言い辛いこと聞かないの」メツ

瑞穂「昨晚も目一杯可愛がってもらいましたので、その定めならば
いずれ♡／＼／＼」キヤツ

千代田「瑞穂も素直に答えないで！」アウトー

千歳「ほうほう……なら、そろそろかしら〜？」ニヤニヤ

瑞穂「ど、どうなのでしよう……こればかりは授かることですから、
瑞穂だけでは何とも♡／＼／＼」デヘヘ

千代田「ニガワライ

千歳「でも提督と瑞穂はすっごくラブラブだから、赤ちゃんも遠慮
しちゃうかしら〜♪」

千代田「それってよく聞くけど、子供ができない人への気遣いだっ
て何かの本で読んだよ？」

千歳「そんなの知ってるわよ。で、どうなの？」

瑞穂「何がですか？」クビカシゲ

千歳「だから、瑞穂は提督との赤ちゃん欲しいの？ 欲しくない
の？」

千代田「千歳お姉ツツコミ過ぎ」ニガワライ

瑞穂「そうですね……今でも十分幸せですけど、提督との赤ちや
んが出来ればもっと幸せですから、欲しいですね♡」ニッコリ

千歳「おお〜！」

千代田「瑞穂は素直過ぎ」ハア

瑞穂「そうですか？」

千代田「ヤレヤレ

千歳「ほうほう……ならこれはもう少しでおめでたいご報告が聞け
るかしら♪」

千代田「これは提督と瑞穂の問題なんだから、そんなに急かすよう
なこと言わないの……ごめんね、瑞穂」

瑞穂「いえいえ、全然気にしてませんから」ニコツ

ガチャー

提督「今戻ったぞ……おお、千歳と千代田も来ていたのか」

瑞穂「提督、おかえりなさいませ」ペコリ

千歳「あらく、おかえりなさい」ニヤニヤ

千代田「出撃お疲れ様です」ケイレイ

提督「うむ……二人は何か用事でもあったのか？」

千歳「はい、今日の訓練の報告書を提出に♪」

千代田「そして休憩がてら瑞穂とお喋りしました」

提督「そうか……妻が世話になったな。ありがとう」

千歳「いえいえ、こちらこそとても楽しくお喋り出来ましたよ」

♪「ニヤニヤ

千代田「わ、私達はもう行きますね！ 失礼しました！ ほら千歳

お姉！」グイッ

千歳「ちよ、千代田！ そんなに引つ張らないで〜！」ズルズル

パターンー

提督「どうしたんだ、突然？」クビカシゲ

瑞穂「さあ、なんでかしら？」クスクス

提督「女性だけの席だったから、何か男の私に聞かれては不都合な話をしていたのかな？」

瑞穂「いえ、そのようなお話ではありませんでした。ただ提督と瑞穂はいつ赤ちゃんを授かるのかというお話でした」ニコッ

提督「日のあるうちからなんて話をしているんだ……」

瑞穂「あら、そんなにかがわしいお話ではありませんよ？」

瑞穂「瑞穂は愛する提督の赤ちゃんを産みたいと思ってますから

♡「ニコッ

提督「おい／＼／＼」カー

瑞穂「瑞穂は本気ですよ？♡」ウワメツカイ

提督「ぬ、ぬう／＼／＼」カオマツカ

瑞穂「ふふふ、照れてる提督は可愛らしいですね♡」クスクス

提督「ゆくゆくは……」

瑞穂「？」

提督「ゆくゆくは子どもを授かるだろう……だが今は、その時が来るまでは瑞穂との二人きりの時を私は大切に過ごしたいと、そう思っている」

瑞穂「提督……♡」キyunキyun

提督「柄にもないことを言ってしまった……さ、仕事を終わらせよう／＼／＼」

瑞穂「はい♡」ニコニコ

くそして夫婦仲良く仕事を片付けたく

その日の夜ー

◇提督&瑞穂邸（鎮守府近辺）◇

提督「瑞穂……」

瑞穂「はい、どうしました？♡」ニコニコ

提督「いや……少し近すぎやしないか？／＼／＼」ドギマギ

瑞穂「いいではないですか……提督は瑞穂と肩寄せ合うのはお嫌ですか？♡」

提督「その聞き方は卑怯じゃないか？／＼／＼」

瑞穂「卑怯じゃありません♡ どうなんですか？♡」ニコニコ

提督「嫌なはずがないだろう／＼／＼」クツ

瑞穂「うふふ、嬉しい♡」ギューツ

提督「く／＼／＼」アタマポリポリ

瑞穂「提督とこうして肩寄せ合う時間が瑞穂は大好きです♡」

提督「そうか……／＼／＼」

瑞穂「提督♡」スリスリ

提督「今日は妙に甘えるな」ナデナデ

瑞穂「提督が瑞穂との時間を大切にしたいと仰ってくれましたから♡」ニコニコ

提督「確かに言ったが……こう、こそばゆいというか……／＼／＼」アタマポリポリ

瑞穂「まあ、可愛らしい♡」ニコニコ

提督「何とでも言え／＼／＼」クツ

瑞穂「♡」ギューツ

瑞穂（提督との赤ちゃんが出来るまでは）

提督「／＼／＼」カオマツカ

瑞穂（提督は瑞穂が独り占めさせて頂きますね♡）

瑞穂「提督、心からお慕いしています♡」ホツペチュツ

提督「わ、私も瑞穂を愛しているぞ／／／／」

瑞穂「提督からは瑞穂にしてくれないんですか？」ジーツ

提督「……させてもらおう／／／／」

瑞穂「はい♡ どうぞ♡」ホツペサシダシ

提督「では……」

く提督、目を閉じて瑞穂の頬へ口づけをく

瑞穂「♡」ニコツ

く瑞穂、頬では無く口を差し出すく

ちゅっ♡

提督「っ!?!／／／／」

瑞穂「ふふ、御馳走様です♡」テヘツ

提督「くく／／／／」

瑞穂「く♡」ギユーツ

その後も夫婦は甘い甘い一緒の時を過ごし、朝を共に迎えたー。

瑞穂 完

日進とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇長官官舎・寝室◇

日進「もう起きる時間じゃ、旦那さん♡」

日進、いつもの制服に割烹着姿

提督「……まだ眠い……あと五分だけ寝かせて……」

提督、布団に包まる

日進「もう、そがいな可愛いこと言うたらんで、起きくんさいっ」ユサユサ

提督「いやだ……俺はまだ寝るんだ……」

日進「ふむ……」ウデクミ

(なかなか起きんなあ……まあ、昨晚ちいと頑張らせすぎてしもうたせいかな?)

く 昨晚はお楽しみだった夫婦

日進「旦那さくん、起きんの？」ユサユサ

提督「(⊠ω⊠)」スヤア

日進「……」グヌヌ

(起きる気0か……仕方ない)もぞもぞ

く 日進、提督の眠る布団の中へ

日進(じやつたら、先に起きとることちに)挨拶してしまうもんね

く♡)ニヒヒ

日進(昨晚、あがいにしたのに……獣だわ♡)ドキドキ

ガバツ

提督「朝っぱらから何やらかそうとしてんだ!」

く 流石の提督も飛び起きる

日進「あはっ、起きた起きた♡ でもこのままじゃ大変じゃけえ、最後までしちやるね♡」

提督「え、ちよ、まつ……」

日進「頂きます♡」

提督「あああああつ」

—————

同日、昼前

◇執務室◇

提督「……………」ポケエ

提督、どこかのジョー状態

日進「~~~~♡」ツヤツヤ

日進、平常運転

千代田(補佐)「提督？ お仕事サボってないでちゃんとやってよ？」

千歳(補佐)「昨晚は頑張り過ぎちゃった感じかな？」ニヤニヤ

日進「へへへ、まあそうとも言おう♡ 今朝はわしの方からいっぱい

可愛がってしようたし♡」デレデレ

千歳「あらあら、ご馳走様です♪」

千代田「ホント、日進は提督LOVEだよね」アキレ

日進「だって旦那さんのことぶち好きじゃもん♡」

千代田「うわっ、なんか砂糖のボディブロー受けた感じ」ウツプ

千歳「ふふふ、提督は幸せ者ね。もう日進さんがいなくなったら生きていけないんじゃない？」

千代田「冗談に聞こえないよ、千歳お姉」ニガワライ

日進「旦那さんはわしがおらんと生きていけんよ？」ケロツ

千歳「え」コウチヨク

千代田「それやばくない？ 甘やかすのと愛するのは違うって言うじゃん」

(てか本気の目が怖いんだけど……)

日進「何がやばいん？ 神様やらお釈迦様がそうあれと決めたん？

違うじゃろ？」

日進、千代田に詰め寄る

千代田「い、いや、それは分かんないけどさ……程々にしといた方

がお互いのためというか……」タジタジ

日進「わしは旦那さんに助けられた……前いた鎮守府で使えんけえと言われ続けて、解体されんで済んだのは旦那さんがわしを引き取ってくれたからじゃ」

千代田「……それは知ってる」

日進「じゃけえわしはわしなりに旦那さんへ受けた恩を返しよるだけ。ここまで練度も上がったのも旦那さんのお陰。二人が軽空母になれたんじやって旦那さんのお陰じゃろ？」

千代田「まあ、その通りだけど……」

千歳「今の私たちがいるのは提督のお陰よね」ウンウン

日進「ならわしが感謝しとる理由も分かるはずじゃろう？」

千歳「」コクコク

千代田「まあ、ね」

(気持ちは分かるんだけどなあ)

千代田「でも流石に度が過ぎてる気がするって思うのよ」

日進「行き過ぎてなんかおらん。まだまだ足らんくらいじゃ。本当ならすべての業務はわしがやって、旦那さんにやあ何も考えんでわしとイチャラブしとってほしいもん」

千歳「まあ、私としては二人の言い分はそれぞれ分かるわ」

(そしてそれが平行線だということもね) ニガワライ

千歳「提督は提督で日進さんに甘やかされながらも、やるべきことはやってるんだし、いいんじゃない？ 二人が幸せなら外野がとやかく言うことじゃないわよ」

千代田「千歳お姉……」

日進「千歳……」

千歳「提督だってここまで艦隊を指揮してきた素晴らしい方だもの。千代田が心配することなんてないわよ、きつと」

千代田「そう、だよね……うん、私のお節介だった」

千歳「日進さんもこれから提督のために支えてあげてくださいね

♪

日進「勿論じゃ！」

その日の夜――

◇長官官舎・居間◇

提督「あく、疲れた〜」

日進「お疲れ様♡ うんと甘えてね♡」ナデナデ

〜日進、提督に膝枕中〜

日進「……………なあ、わし、ええお嫁さん出来とるかな？」

提督「昼間のこと気にしてるのか？」

日進「だって、千歳に言われたことが悔しいんじやけえ。まるでわしより提督のこと知っとるみたいに言われとったみたいで…………」

提督「実際千歳はうちに来た初めての水上機母艦だからなあ」

日進「むう…………」

提督「でも千歳や千代田は頼れる部下で、俺の嫁さんは日進にしか務まらないよ」ニコツ

日進「旦那さん…………♡」キュン

提督「だからこれからも俺を甘やかしてくれ」

日進「うんっ…………わし、もつともつと旦那さんを幸せにしちやる！死ぬるまで愛して、死んでも愛して、来世があるならそこでも愛す

！」フンス

提督「マジか…………俺って幸せ者だなあ」

日進「わしに愛される覚悟が足らんくない？」

提督「そうかもしれない…………これからは毎日覚悟することにするよ」

日進「へへへ、後悔させんけえのお♡」

（だって愛しとるもん！…こがいなええ人、絶対離さんけえね！）

日進「という訳で今夜もいっぱい子作りしようね♡」

提督「相変わらずムードそっちのけだなあ!？」

日進「ムードなんてあとからどうとでもなるよ♡ それより今は幸せな時間を噛み締めよ?♡」

提督「…………了解。俺はそんな日進が好きだよ」

日進「旦那さん…………ぶち好きっ♡」ガバツ

そしてその夜も夫婦はお楽しみで、今朝と同じ翌朝を迎えるのだっ
たー

日進 完

秋津洲とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇提督&秋津洲夫妻邸◇

大艇「〜！〜！」

秋津洲「洗濯物運んでくれてありがと、大艇ちゃん」ナデナデ

大艇「〜…:」

秋津洲「そんなに心配しなくても大丈夫かも」ニコニコ

大艇「〜」

秋津洲「う〜ん、じゃあこれから洗濯物畳むから、それを運んでほしいかも♪」

大艇「！」コクコク

秋津洲「」ニコニコ

〜洗濯物畳み中〜

秋津洲「ふんふん♪ ふんふん♪」テキパキ

秋津洲「あ、提督のシャツのボタンが取れかかっているかも！」

大艇「〜〜？」

秋津洲「うん。裁縫セット持ってきて欲しいかも」

大艇「〜！」

秋津洲「お願いね〜！」

〜それから畳み終え、裁縫開始〜

秋津洲（こうして…:こうして…:）

プスッー

秋津洲「イタっ!？」

大艇「〜！〜！」

秋津洲「大丈夫大丈夫、血も出てないから」ニガワライ

大艇「〜…:」

秋津洲「あはは、ごめんかも〜」ニガワライ

ー。

ーーー。

秋津洲（よしっ！ 完璧かも！）ドヤア
ピンポーンー

秋津洲「お客さんかも？」

大艇「くく」

秋津洲「うん、出てほしいかも」ニコッ

大艇「く！」コクリ

カチャー

提督『おお、大艇。手伝いありがとうな』

大艇『く！』

ピクツ

秋津洲「提督く！ お帰りなさく！」パタパタ

提督「おわっ！ ちよつ、走るな！ 走るんじゃない！」アワワワ

大艇「く！ く！」

秋津洲「むうく、提督も大艇ちゃんも過保護過ぎかも……」

提督「いやいや、身体を大切にしなさい」ナデナデ

秋津洲「はーい♡」ギョッ

く居間へ移動く

秋津洲「そういえば今日は帰ってくるの早かったかも」

提督「そりやあ、大艇がついているとはいえ、心配でな……」

秋津洲「もうく、大袈裟く」ニコニコ

提督「良いだろう、別に」フイツ

秋津洲「拗ねちやイヤかもく♡」アタマグリグリ

提督「拗ねてねえさ」ナデナデ

秋津洲「く♡」スリスリ

提督「で、様態はどうだ？ 明石によればそろそろだろう？」

秋津洲「そろそろって、まだ予定日まで余裕があるかも」ニガワラ

イ

提督「いや、慢心はいかんぞ。予定日なんて予定でしかないんだか

らな！」フンス

秋津洲「パパは心配性かもく。ねく？」オナカサスサス

「秋津洲は妊娠中である」

秋津洲「あつ」ピクツ

提督「ど、どうしたんだ!？」

秋津洲「今動いたかも」ニコニコ

提督「おお! そうかそうか! どれどれ」

「提督、秋津洲のお腹に耳あて」

秋津洲「どう?」

提督「ああ、聞こえるよ……」シミジミ

秋津洲「ふふ、提督はこれからパパになるかも」

提督「かもって……かもじゃないだろ」アハハ

秋津洲「今のかもは口癖のかもなの!」プンプン

提督「知ってるよ」アハハ

秋津洲「もう、イジワルしちやイヤかも」プクウ

提督「あはは、ごめんごめん」

秋津洲「なら、ん」クチビルサシダシ

提督「はいよ」チュツ

秋津洲「えへへ♡ 提督だあい好き♡」デレデレ

提督「俺もだよ」ニッコリ

ー。

秋津洲「あ、また動いたかも」ニコニコ

提督「今日は良く動くなく」オナカナデナデ

秋津洲「く」

提督「最近いつにも増して機嫌が良いな」

秋津洲「当たり前かも」

提督「不安とかないか?」

秋津洲「確かに不安はあるかも。でも、大好きな提督とあたしの子

どもが産まれてくるんだよ? 不安より幸せの方が大きいの」

提督「そうか」ナデナデ

秋津洲「目指せサッカーチームかも!」

提督「サッカーチーム……十一人は多過ぎな気が……」ニガワライ

秋津洲「十一人じゃないかも! 交代枠も合わせて最低十四人かも

！」

提督「いやいや、俺が良くてもお前の身体が心配なんだが……」

秋津洲「何も本当にその人数作る訳じゃないかも。それくらいの気持ちで居るってことよ！」ドヤア

提督「そうか……」ニガワライ

秋津洲「でも、まずはこの子を育てなきゃ……」オナカサスサス

提督「そうだな……秋津洲同様にこの子にも沢山愛情を注がねばな」オナカナデナデ

秋津洲「♡」トクン

秋津洲「ねえ提督」クイクイ

提督「ん？」

秋津洲「キス……してほしくなっちゃったかも♡」

提督「秋津洲はキスが好きだな」ナデナデ

秋津洲「提督とのキスは気持ちいいもん♡」

提督「そりゃあ嬉しいな♪」ホツペナデナデ

秋津洲「早く♡」

提督「」チュツ

秋津洲「んむう、ちゅっ……んはあ……ちゅっちゅ……あん……」
トローン

提督「そんな可愛い顔をしないでくれ」ナデナデ

秋津洲「本番は出来ないから、あたしのお口でする？ してあげるよ？」アーン

提督「駄目駄目！ そういうのはちゃんと産んで安定してからだ！」

秋津洲「本番じゃないから大丈夫なのに」ムスツ

提督「なんでお前ががっかりしてるんだ」ニガワライ

秋津洲「提督のが恋しくて？」

提督「なんで疑問形なんだよ」ニガワライ

秋津洲「むう、いいでしょ？ だいたいこうなったのは提督のせいかも！」

提督「それは……まあ……／／／」テレリ

秋津洲「やっぱり我慢出来ないかも♡」ガバツ
提督「ごらっ」

秋津洲「スローなら大丈夫って明石さんに教わったかも♡」
提督「あいつは……」

秋津洲「提督はしたくない？」ウワメツカイ

提督「うっ／＼／＼／
ピクッー

秋津洲「あ……にへへ♡ 身体は正直かも♡」サスサス

提督「ゆつくりだからな？ 少しでも痛みだしたら中止だからな
！」

秋津洲「はくい♡」チュツ

後日、提督と秋津洲夫妻の元には元気な女兒が誕生し、艦隊のみんなから祝福を受けたー。

秋津州 完

コマンドダン・テストとケツコンしました。

某鎮守府、休日の朝ー

◇提督&テストの部屋・寝室◇

テスト「ん……」パチッ

むくり……

テスト「朝、か……んっ、ん……」ノビー

テスト「チラッ

提督「(☒ω☒)」スヤア

テスト「♡」クスッ

ストーン♡↑テスト、また寝そべって提督の寝顔を観察

テスト(可愛い寝顔♡)ニコニコ

テスト(夜はいつも獣なのに♡)ツンツン

提督「ん……」

テスト(起きないなら早起してる方に挨拶しちやおうかしら♡)

さすさす♡↑何をとは言わない

提督「ん、ん……」／／／／「ピクン

テスト「あは♡」サスサス

提督「ん、んっ……」／／／／「ピクンピクン

テスト(あく、我慢出来ない♡)

ちゅっ♡↑テスト、提督の唇を奪う

提督「ん……んんっ!?!」↑やっど起きた

(何だこの状況!?!／／／／)

テスト「あん、んっ、ちゅっ……んんっ、んむう……っ、ちゅっ、ん

はあ……ふふ、Bonjour おはよう 愛 し い 人 me♡

提督「お、おはよう……こ、この状況は、何?／／／／」

テスト「寂しかったから、お手で遊びしてたの♡」

提督「……ごめん……お、起きたから、その手を……うぐっ／／／

／

テスト「もっと強く?♡」ゴシゴシ

提督「や、止めるんだ！／＼／＼」ビクビク

テスト「分かっているわ♡ 日本で言う『嫌よ嫌よも好きのうち』でしよ？♡」

提督「そ、そうじゃなくてだな／＼／＼」

テスト「大丈夫♡ ちゃんと最後はわたくしの中にある、あなた専用の弾薬庫に注がせてあ・げ・る♡」ホツペチュツ

提督「うわあああん／＼／＼」

「私の屍を超えて行け！（想像にお任せ）」

そしてお昼前ー

◇リビング◇

「夫婦はソファアーに並んで座り、コーヒーを飲みながら談笑中」

テスト「んふふ、あなたと朝からあんなに情熱的なダンスを踊れるなんて、最高だわ♡」ツヤツヤ

テストE：提督ワイシャツのみ

提督「幸せなら良かったよ」マツシロ

テスト「ムッ

「テスト、提督の顔を自分の方に向ける」

提督「ど、どうした？」

テスト「あなたは幸せじゃないの？」

提督「え？」

テスト「わたくしは確かに幸せだわ。でもそれはあなたも幸せじゃないと、本当の幸せとは言えないの」

提督「……………」

「Le bonheur se partage a deux」ト

ニコッ

「提督、テストの手を握ってテストの目を見る」

テスト「♡」ドキッ

「Il n'y a personne au monde qui sache

f^笑 a^顔 i^と r^笑 e^い r^を i^m e^t s^え o^ら u^れ r^る e^e a^人 u^は t^一 a^人 n^t q^も u^い e^t o^な i^い

ニコツ
テスト「?!?」
かばつ♡↑テスト、提督を押し倒す

提督「で、テスト?／／／／」

「Tu^あ e^な s^な l^た e^は m^世 e^界 i^ス l^ス l^の e^夫 u^よ r^ト m^テ a^マ r^リ i^ア u^ウ m^夫 o^ト n^ト d^ト e^ト

♡」ホツペチユツチユツ

提督「で、テストだつて世界一の奥さんだよ／／／／」ナデナデ

テスト「んゝ、ちゅっ♡」チユツチユツ

提督「で、んむう、すと……んんっ、ん／／／／」チユツチユツ

テスト「あむ♡ んっ♡ んゝっ♡」チユ

(あなたに夢中だわ♡)

テスト「んはあ……ふふふ、糸引いちやつてる♡」

提督「そ、そうだね……／／／／」フキフキ

テスト「あん、舐め取つてあげようとしたのに♡」ムウ

提督「い、いや、普通に拭こうよ／／／／」

テスト「はゝい♡」スリスリ

提督「時にテスト……」

テスト「?」クビカシゲ

提督「その……君の手がね。ガツチリとナニを掴んでるのは何故

？」

テスト「今日はお休みよ? 起き抜けのコーヒーの後はコレでしょ

?」スコスコ

提督「いやあの……まだご飯も食べてないんだけど?」

テスト「じゃあ、終わったたら食べましようね♡」ホツペチユツ

提督(結局こうなるのか!／／／／)

く朝食が無いなら愛する人を食べればいいじゃない(想像にお任

せ)

そしてお昼過ぎー

◇キツチン◇

テスト「もう少し待っててね、mon amour」

テストE・エプロン

ワイシャツ

提督「う、うん……／＼／＼／＼」

テスト（ふふ、見てる見てる♡）

提督「あのさ、火傷したら大変だから、せめてちゃんと服は着よう

よ……／＼／＼／＼」

テスト「大丈夫よ♡」

提督「でも……／＼／＼／＼」オロオロ

テスト「我慢出来ないなら先にまたわたくしを食べる？♡」

提督「料理中なんだからそんなことしません！／＼／＼／＼」

テ ス ト

T u e s l e p l u s g e n t i l m a r i a u m o n d e

♡」

提督「そりやどうも／＼／＼／＼」

テスト「夜は獣だけど♡」クスツ

提督「こら／＼／＼／＼」

テスト「きやく♡」

くその後もイチャイチャしつつ料理したく

◇リビング◇

テスト「はい、あくん♡」つ肉

提督「はむ……ん、Cest d'licieux」

テスト「ふふふ♡」ニコニコ

提督「これってエグイエット・カナール・オー・ナヴェって料理

だっけ？」

テスト「そうよ♪ Aiguillettes de canar

d aux navets……ソテーした鴨の上胸肉に、カブをそえ

た料理なの♪」

提督「へえ〜……」モグモグ

テスト「気に入ったならまたいつでも作ってあげる♡」

提督「ごくん……僕はテストが作る物ならなんでも好きだよ」ニ

ッコ

テスト「んもお……merci♡」キュンキュン

〜ご馳走様でした〜！〜

提督「は〜、食べた食べた♪」マンゾク

テスト「じゃあ今度はデザートタイムね♡」ノシツ

〜テスト、提督の上にのしかかる〜

提督「またするのか!!?／／／／」

テスト「せっかくのお休みなんだから、存分に愛し合いましょ♡」ニ

ッコ

提督「あ……ああ……／／／／」

テスト「いただきま〜す♡」ガバツ

提督「ああああ〜／／／／」

そして次の日ー

テスト「では皆さん！ 今日頑張って行きましょう♪」キラキラ

ツヤツヤ

提督「………健闘を祈る」ヤツレ

瑞穂「あらあら」ニガワライ

秋津洲「方やキラキラ、方やゾンビなの」ニガワライ

日向「昨日はお楽しみだったようだ」フフリ

伊勢「これは、そろそろマイホーム考えなきやね」ニシン

千代田「その時はボルドーワインで乾杯ね」フフ

千歳「そこはあえて日本酒でしょ」ニコニコ

その後、夫婦は鎮守府近辺にマイホームを購入したそうなー。

コマンダン・テスト 完

重巡洋艦・航空巡洋艦
古鷹とケツコンしました。

某商店街、夕方ー

◇八百屋◇

古鷹「こんばんは〜」ニコリ

主人「おお、古鷹ちゃん♪ 今日の良い長ネギと芽キャベツが手に入ったんだ！ どうだい？ 愛しの旦那さんにこれでスタミナ料理作って夜のー」

ドゴオ！

奥方「古鷹ちゃんになんてこと言ってるんだい！ ごめんね〜、古鷹ちゃん」

主人「チーン

古鷹「い、いえいえ〜」ニガワライ

奥方「それで、今日は何にするんだい？ メニューを教えてください
ばおすすめの野菜をあたしが選んであげるよ」ニコニコ

古鷹「えつと……今日はカレーにしようかなって思ってます」ニコリ

奥方「良いわね〜！ なら〜、これとこれと……あとはおまけで、ほら！ このイチゴ持って行って！」

古鷹「わあ♪ ありがとうございます♪」ペコリ

奥方「良いのよ〜♪ 古鷹ちゃんはお得意様だし、娘みたいなものよ！ だから、早く子供の顔見せてね♪」

古鷹「は、はい／／／ 頑張りましゅ／／／」カオマツカ
〜会計を済ませ、帰宅中〜

古鷹（この商店街はみんないつも明るくて、温かくて、好きだなあ
♪）ルンルン

古鷹（このみんなの為に、頑張って海の平和を守らなきゃ！）フ
ンス

??「お、古鷹ちゃん！ 今日には夫婦で買い物じゃないのかい？」

古鷹「あ、お魚屋さん、こんばんは。はい、今日提督は他の鎮守府の応援に行ってますから」ニコリ

◇魚屋◇

店主「そうなのかい。そいつあご苦労様だなあ！ なら尚更、うちで何かウマイ物買ってウマイ晩飯を御馳走してあげなよ！ サービスするからよ！」ニコニコ

古鷹「え、どれくらいサービスしてくれるんですか？」ニコニコ

店主「古鷹ちゃん達には海の安全を守ってもらってるからなく……どれでも半額で売ってやる！」ドヤア

古鷹「本当ですか！？」キラキラ

店主「おうよ！ 男に二言はねえ！」ドヤア

女将「まくた調子のいい事言って……」ヤレヤレ

古鷹「あ、こんばんは」ペコリ

女将「こんばんは。亭主が嗚呼言ってるから、好きなの持ってきた」ニコニコ

古鷹「えっと、なら……」キョロキョロ

車海老「おい嬢ちゃん、俺らなんてどうだい？」

古鷹「この車海老を十尾ください♪」

店主「相変わらず良い目利きしてやがるなあ」ニガワライ

女将「あんたの負けね……今下処理してあげるからね♪」

古鷹「お願いします」ニコニコ

くお得に車海老ゲット！

女将「今度は夫婦揃って来てね♪ ここ（商店街）では有名なおしどり夫婦なんだから」ニコニコ

古鷹「はい／／／／ 少し恥ずかしいですけど、今度は提督と一緒に来ますね／／／／」プシュー

女将「またね〜！」ノシ

店主「提督さんによろしくなく」ノシ

古鷹「はい♪」ニッコリ

く明るい笑顔を残して帰る古鷹く
女将「あんた、今晚の晩酌抜きだからね」
店主「はい……」

◇提督&古鷹ハウス◇（鎮守府近辺）

古鷹「提督にく♪ 美味しいお料理く♪ 作りましょく♪」ルンル
ン

トントントントントー

古鷹E・ピンクと白チエツク柄ハートフリルエプロン

古鷹「今日は古鷹特製車海老カレー♪」ルンルン

古鷹（喜んでくれるかなあ♡）ニコニコ

◆妄想◆

提督「こんなに美味しいなんて、古鷹は最高だ……勿論デザート（意味深）も貰っていいよね？」ギユツ

古鷹「はい♡ 甘く仕上がってますよ♡」クパア

提督「古鷹く〜！」ガバツ

古鷹「提督く〜♡」ホールド

◇現実◇

古鷹「古鷹く♡ 提督く♡ なくんで、きやく♡」ポワポワ

提督「何を一人で百面相してるんだ？」

古鷹「きやつ」

グラツ---

提督「ととつ……驚かせてごめん。怪我はないか？」ダキヨセ
古鷹「あ、はい／／／／ あ……お帰りなさい……えつと／／／

／」モジモジ

提督「ああ、ただいま」クビカシゲ

古鷹「助けに来てくれてありがとうございます／／／／」モジモジ

提督「嫁を守るのは当然だ」キリツ

古鷹「ありがとうございます……でもお／／／／」モジモジ

提督「？」

むにゆむにゆ↑胸を鷲掴み

古鷹「恥ずかしいです／＼／＼」モジモジ

提督「うおっ、ごめん！」モミモミ

古鷹「言葉と行動が違いますゆ……／＼／＼」アツ

提督「古鷹が可愛いからだ」キリッ

古鷹「嬉しいですけど、お料理出来ません／＼／＼」ンツ

提督「止めてもいいのか？」ジーッ

古鷹「や」

提督「？」

古鷹「止めてほしくない、です♡／＼／＼」モジモジ

提督「なら、先に古鷹を頂こう」ギユッ

古鷹「はい♡ 召し上がってください♡」オメメハート

「ちやんと火を止めてから夜戦開始！」

提督「可愛かったよ、古鷹」チュッ

古鷹「提督も素敵でした♡」チュッ

提督「ナデナデ

古鷹「今お掃除（意味深）しますね♡」

「そして二戦目へと（ry）」

台所（ここではないでもらいたい……）ゲセヌ

「それから二人で遅めの晩ご飯」

提督「頂きます」人

古鷹「どうぞ♡」ニコニコ

（結局三回もしちゃった♡／＼／＼）キヤッ

提督「うん、沢山煮込んだから美味しいな！」モグモグ

古鷹「えへへ♡ 嬉しいですよ♡」ニコニコ

提督「古鷹の車海老カレーは俺の大好物だから、凄く嬉しいよ」ナ

デナデ

古鷹「♡♡♡」キュンキュン

提督「これを食べてこれからも頑張ろう」モグモグ

古鷹「え、またしてくれるんですか？♡／＼／＼」ドキドキ

提督「あゝ、明日からの仕事をつて意味だっただけ……／＼／

／」アタマポリポリ

古鷹「はうう〜……私ったら……／＼／＼」ポツ

提督「古鷹がしたいなら、もつとしてあげるけど?／＼／＼」チラツ

古鷹「し、したいですう……♡／＼／＼」ポツ

提督「良いよ♪」ニツコリ

古鷹「はしたなくてごめんなさい／＼／＼」ウツムキ

提督「それだけ俺が好きって証拠だろ?」ナデナデ

古鷹「はい♡／＼／＼」オメメハート

提督「はしたないなんて思っていないよ。俺の世界一の嫁をはしたないなんて言わないでくれ」ギユツ

古鷹「はい♡ 世界一の旦那様♡」スリスリ

提督「んじや、まずは腹ごしらえだな」ニツコリ

古鷹「イチゴもありますからね♡」ニコニコ

提督「それは楽しみだな♪ 古鷹と一緒に食べよう♪」

古鷹「えへへ♡ はい、古鷹と一緒に召し上がって(意味深)ほしいです♡」オメメハート

その夜、提督は重巡洋艦の良い所を沢山見せつけられ、とても短く感じる長い夜を古鷹と過ごした。と提督本人がアオバタイムズの取材に笑顔で語った。

ドゴオ!↑壁を殴る音

青葉「ドゴオ!ドゴオ!

衣笠(野次馬根性で『今の気持ちをどうぞ♪』なんて言うから)ヤレヤレ

加古「(☒☒)」スヤア

古鷹「／／／」ウツムキ

古鷹 完

加古とケツコンしました。

某鎮守府、昼一

◇執務室（和室仕様）◇

提督「カリカリ↑↑仕事中心

障子バーン！

提督「（。ム。）「ナニゴトダ!?

加古「たっただいま〜！ 提督〜！」ババーン

提督「加古か〜、もう少し静かに入って来てくれよ」ニガワライ

加古「相変わらず小心者だな〜、これくらいでビビるなよ〜」

提督「はは、加古には敵わない」アタマカキカキ

加古「へへ〜ん♪ いくら提督でもこの加古様にはk〜」

ごちん！↑加古、頭を何者かにぶたれる

加古「つて〜」シャガミコミ

古鷹「提督に失礼でしょ、加古」マツタク

加古「何も殴ることないだろう〜？」ナミダメ

古鷹「少し強く叩いただけでしょ？」シレッツ

加古「グヌヌ

提督「まあまあ、古鷹。僕は大丈夫だから、な？」

〜提督、そう言いつつ加古を庇う〜

古鷹「提督はいつも加古には甘いんですから」ハア

提督「仕方ないよ……心底惚れた人だから／＼／＼」ナデナデ

加古「提督〜♡ あたしも提督にメロメロだぞ〜♡」スリスリ

／カコー！ テイトクー！〜

スス〜ツ〜

青葉「失礼します〜」

衣笠「あ、やっぱこうなってたか……」ニガワライ

古鷹「あれ、二人共どうしたの？」

青葉「いえ、帰りが遅いので様子を見て……」

衣笠「この様子じゃ、まだ報告は出来てないわよね？」

古鷹「うん……ごめんね」

青葉「司令官と加古さんが揃うところなる確率が高いですから、仕方ないでしょう」ウンウン

衣笠「そうそう、謝ること無いよ」ニガワライ

加古「提督♡ 好き好き♡」ゴロゴロ

提督「僕も加古が好きだよ♪」ナデグリナデグリ

青葉「いつもの二人過ぎて写真を撮る気も起きませんね♡」

衣笠「撮っても二人が喜ぶだけだからね」ニガワライ

古鷹「はあ……」アタマカカエ

加古「提督♡」トローン

提督「加古♪」ホツペナデナデ

青葉「あ……この空気はキスに発展する可能性が100%なので、青葉達はお昼にでも行きますか」ソソクサ

衣笠「賛成♡」ソソクサ

古鷹「報告は後だね」ニガワライ

古鷹達は退散した♡

加古「提督……ん♡」クチビルサシダシ

提督「加古……ん」チュツ

加古「んむ♡ ちゅ♡ ん♡ ちゅ♡」ギューツ

提督「はあ……僕達もお昼食へに行こうか」ニコツ

加古「いく♡」ゴロゴロニヤーン
♡ 夫婦仲良く食堂へ♡

◇食堂◇

加古「あ♡」オクチアーン

提督「はいはい♪」つご飯

加古「ん♡」ムグムグ

提督「幸せだね♡」モグモグ

加古「うん♡ めっちゃ幸せだよ♡ あ♡」オクチアーン

提督「それは良かった♪ はい♪」つおかず

加古「♡」ムシヤムシヤ

／ラブラブイチャイチャ＼

青葉「ご飯が甘いですね」ムグムグ

衣笠「何もかけてないのにね」パクパク

古鷹「く／／／」カオカクシ

く夫婦はその後にも周りに砂糖を振り撒いたく

昼下がりにー

◇執務室◇

提督「ふむ……ならば次は空母も同行させた方がいいね……その点も踏まえてまた案を出す。それまではみんな休養ってことでお願い」

古鷹「……分かりました」

提督「何か不満な点があるかい？」

古鷹「いえ不満なんてありません。私は提督の膝枕で眠る妹が気に入ってるだけです」ハア

加古「んへへ♪」Z z z

提督「あはは、可愛いよね♪」ナデナデ

古鷹「提督は加古には激甘です……」プンプン

提督「いやあ／／／」テレリ

古鷹「別に褒めてませんからね！」

加古「てい、とくく♡」ンへへ

古鷹「はあ……」アタマカカエ

提督「ニガワライ

くその後も加古は提督の膝枕を堪能したく

その日の夜にー

◇提督&加古の部屋◇

提督「加古、お風呂と晩ご飯、どっちにする？」

加古「んく……風呂かな♪」

提督「分かった。今沸かしてくるよ」

加古「あたしも一緒にいく♡」ヒシッ

提督「分かったよ」ニコッ

「お風呂沸いたよ！」

加古「提督、今日も一緒に入るだろ？」♡」アタマグリグリ

提督「うん、一緒に入ろうか」ナデナデ

加古「へへ、やたっ♡」ニパッ

◇風呂場◇

カポーン……

「夫婦向かい合って湯船に浸かる」

加古「なあ提督」

提督「ん？」

加古「何をさつきから悩んでるんだ？」

提督「え」

加古「あたしが昼寝してる間に古鷹と話してたことか？」

提督「聞いてたのかい？」

加古「寝惚けたけど、ちよつとは聞こえたからね」

提督「空母を必要とするんだが、誰に頼もうかと思つてね」

加古「順当に行けば一航戦の二人だろ？」

提督「そうだけど、そろそろ雲龍型の娘達にも任せようかと思つてね」

加古「なら瑞鶴と葛城にしたら？ 瑞鶴なら葛城のフォローも出来るだろうし、あたし等も出来るだけフォローするよ？」

提督「それだと加古達の負担が大きくなるじゃないか……」

加古「何を今更吐かしてんだよ。そんなにあたし等が信用出来ないのか？」ジトツ

提督「そうじゃないよ……ただ、少しでも被害を抑えたいからね。みんなを……加古を失いたくないから」

加古「馬鹿だなく、提督は」

提督「な、僕は加古を」

加古「提督が待つてるんだ。あたしが沈む訳ないだろ……提督は黙ってあたしの帰りを待つてりやいいんだよ♡」ニパッ

提督「キユン

提督「無駄に良い顔して、こいつめ……／＼／＼」ホッペツンツン
加古「へへくん♡」ニコニコ

ぎゅっ↑提督、加古を抱きしめる

提督「負けてもいい……必ず帰って来てくれ……」ギューツ

加古「いつもちゃんと帰って来てるだろ、バーカ♡」ヒシツ

提督「信じてるよ」ナデナデ

加古「んっ、信じて待ってる♡」ホッペチュツ

提督「男前な奥さんで頼もしいよ」アハハ

加古「旦那が女々しいからな♡」へへ

加古「ピクツ

く加古のお腹に何か硬い感触がく

加古「……相変わらず、ここだけは男らしいのな／＼／＼」

提督「あはは……／＼／＼」

加古「ちゃんと戻って来れるように、提督ので繋いでもらおうかな♡」

提督「こ、ここですか？／＼／＼」

加古「そんなヤル気なくせて何言ってるんだよ♡」ミミチュツ

提督「そ、それは……／＼／＼」ピクツ

加古「ほら、早く♡ あたしをしつかり繋いでおいてくれよ♡」ミ
ミタブハムハム

提督「分かった……／＼／＼」グツ

加古「提督、愛してる♡ ちゃんと帰って来るからな♡」ホールド

提督「僕も愛してるよ、ちゃんと待ってるからな♪」チュツ

後日、加古は元気に出撃しMVPを総なめにしたとかー。

加古 完

青葉とケツコンしました。

某攻略海域、昼ー

く戦闘中く

青葉「良く見えますねく！」

ドドーン！ ババーン！

く完全勝利Sく

青葉「お役に立てて嬉しいです！ また青葉をよろしくね♪」MV

P

衣笠「今日も絶好調だね、青葉！」

古鷹「ふふ、帰ったら愛しの提督が待ってるもんね」ニコニコ

加古「ビュービュー」ニヤニヤ

鳥海「ふふ、幸せそうで何よりです♪」

天龍「あそこだけ温暖化がヤベエな」ニヒヒ

青葉「か、からかわないてくださいよく／＼／＼／」

ピピッー

夕張『こちら指令部の夕張です。ご報告を旗艦で提督のお嫁さんである、青葉さんお願い致します！』ニヤニヤ

青葉「も、もうく、勘弁してくださいく／＼／＼／」

夕張『それでお嫁s……じゃなかった青葉さん、報告を』

青葉「は、はい……こちら全員無傷で敵艦隊は壊滅させました」

衣笠「そしてお嫁さんがMVPだよく！」

青葉「衣笠く！／＼／＼／」

夕張『ほうほう……だ、そうですよ提督』ニヤニヤ

青葉「」ビクッ

提督『流石我が嫁だ！ 良くやってくれた！ 愛してるぞく！』

青葉「くく／＼／＼／」プルプル

天龍「おいおい、旦那の愛に応えてやらなくて良いのかく？」ニヤ

ニヤ

加古「応えてあげないと可哀想だよく？」ニヤニヤ

青葉「……ます」ボソツ
夕張『えく?』ニヤニヤ

青葉「青葉も! 司令官のことを愛してます〜! / / / /」
衣笠「わお♪ 海のだ真ん中で愛を叫ぶ〜♪」

古鷹「ニガワライ

鳥海「クスクス

加・天『いいぞ〜! もっとやれ〜!』

夕張『はい、御馳走様で〜す! 気をつけて帰ってきてくださいね

♪ 提督と埠頭で皆さんのお帰りを待ってますから!』

ピッー

青葉「さ、さあ! 帰りましょう! / / / /」

天龍「そうだなあ。早く帰って旦那に会いたいもんなく」ニヤニヤ

加古「沢山甘えないとなあ」ニヤニヤ

青葉「もう許してください〜い! / / / /」カオマツカ

古鷹「ほらほら、それくらいにして帰りましょう」ニコツ

鳥海「これ以上やると青葉さんが狼になってしまいますからね」フ

フフ

衣笠「そだね〜♪」

青葉「〜 / / / /」

〜そして無事に帰投〜

それから時は過ぎ夕方〜

◇執務室◇

青葉「ん……っ……ふ……っ……」

提督「ん〜っ……」

青葉「ぷはあ……」トローン

提督「青葉……そろそろ仕事を終わらせないと……」

青葉「嫌です……んっ」チュツ

提督「んん〜っ」

青葉「ん……ちゅっ……ふう……ちゅ……ん……っ……」

提督「はあ……どうしたんだ今日は……?」ナデナデ

青葉「司令官が皆さんの前で「愛してるぞ」なんて言うから、その後すごいからかわれたんですよ?」ジト

提督「幸せな悩みじゃないか」シレッ

青葉「しれつと言わないでくださいよ〜! 恥ずかしいやら嬉しいやら大変だったんですから!」

提督「嬉しいもあるなら良いじゃないか」ナデナデ

青葉「恥ずかしいもあるんです! だからお仕置きとして、こうしていっぱいキスしてるんです!」

提督「しかし〜」

青葉「しかしじゃありません〜!」

提督「アツハイ」

青葉「沢山キスしてもらわなきゃ、こっちの気が済みませんから♡」

提督（お仕置きなのか……?）

〜その後も暫く青葉のお仕置きは続いた〜

深夜〜

◇提督&青葉の部屋◇

提督「はあく、やっと部屋に戻れた〜」グツタリ

青葉「本当ですぬ〜」

提督「お前がキスしまくってきたせいでこんな時間になったんだよ〜」グリグリ

青葉「痛い痛い、痛いです〜!」ワタワタ

提督「つたく……」

青葉「司令官は青葉とのキス、嫌でしたか?」

提督「うぐ……」

青葉「どうなんですか?」ウワメツカイ

提督「嫌なわけ……ないだろ／／／」プイッ

青葉「にへへ〜♡」ギユツ

提督「つたく」ナデナデ

青葉「ささ、お風呂も済ませましたし、ゆっくりしっぽりとお布団へゴーです♡」グイグイ

提督「お、おお／＼／＼」

く夫婦仲良くお布団へく

青葉「司令官く♡」スリスリ

提督「どうした？」ナデナデ

青葉「司令官、青葉のこと好きですか？」

提督「好きだとも」

青葉「大好きですか？」

提督「大好きだとも」

青葉「愛してますか？」

提督「愛しているとも」

青葉「青葉幸せです♡」

提督「俺もだ」ナデナデ

青葉「じゃあ、執務室の机の三番目の引き出しの二重底の場所に大切そうに入れてある、『従順洋艦のミルクタイム』というB r デイスクは処分しますね♡」

提督(!?)

青葉「後、執務室の本棚の一番上の棚にある、右から二冊目の辞書にカモフラされてる、『空母達の九九艦爆これくしょん』と『戦艦の正しい乗り方』も処分しますね♡」

提督「う、うん……」

青葉「索敵も砲撃も雷撃も（意味深）。青葉にお任せ♡」ホツペ
チュツ

提督「本当に頼もしいな……」

青葉「では、司令官が浮気しないように青葉の良さを披露しますね♡」ノシツ

提督「おうふ……」

そしてその後めちやくちや（ry

青葉 完

衣笠とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇甘味処・間宮◇

間宮「フルーツパフェ、お待たせしました。ごゆっくりどうぞ」
ニコッ

古鷹「ありがとうございます」ニコッ

加古「うまそ〜♪」

青葉「今日もいい仕事してますね〜」パシヤパシヤ

衣笠「そうだね〜……」

〜みんなでおやつ休憩中〜

加古「〜♪」パクパク

古鷹「美味しい〜♪」ニコニコ

青葉「フルーツの酸味がいい仕事してますね〜」パクン

衣笠「ハア

古鷹「ねえ、衣笠どうしちゃったの？」コソッ

青葉「あ〜……放っておいて結構です」ニガワライ

加古「〜♪」パクパク

古鷹「でも……」チラッ

衣笠「空……綺麗だなあ〜」ハア

古鷹「絶対おかしいよ！」コソコソッ

青葉「案外どうでもいいことですよ〜？」ヤレヤレ

加古「〜♪」パクパク

古鷹「でも、放っておけないよ！」

古鷹「衣笠……何かあったの？ 私で良ければ話を聞くよ？」

衣笠「古鷹……いいの？」

古鷹「勿論♪ 大切な仲間の悩みの一つや二つ、いつでも相談にのるよ！」ニコッ

衣笠「あのね……」

青葉「スーッ↑スニーク移動

加古「キユツ↑耳栓装着

衣笠「提督が素敵過ぎて辛いの……♡」ポツ

古鷹「エ？

衣笠「今朝は、爽やかな笑顔で『おはよう』って言って私の頭を撫でてくれたの♡」ウヘへ

古鷹「コクコク

衣笠「執務中とかはお互いに仕事してるから、スキンシップやキスは出来ないけど、私が提督の方を見ると、提督も私の方を見てるの♡」ヤンヤン

古鷹「コクコク

衣笠「それでね、私が『どうしたの？』って聞くと、『衣笠を見たくなったから』ってハニカミながら言うの♡！」テーブルバンバン

古鷹「コクリ

衣笠「それでねそれでね♡ー」

衣笠「その後も惚気話を熱弁♡

衣笠「ー本当に素敵で♡」

青葉「衣笠」

衣笠「ん？ どしたの青葉？」

青葉「そろそろ第一艦隊が出撃から帰ってくると、連絡がありましたよ♡」

衣笠「ホント!?!」

ガタツ

衣笠「私埠頭に行くね！ 古鷹、話を聞いてくれてありがと♪ みんなもまたね♡！」

衣笠「周りに花を振り撒きつつ去る♡

加古『お・わ・っ・た？』クチパク

青葉「コクリ

加古「スポツ↑耳栓を外す

青葉「古鷹、お疲れ様です」カタポンツ

加古「お前はよく頑張った、あたしは感動したよ」カタポンツ

古鷹「／／／」↑惚気話にあてられた

青葉「ほらほら、パフエを食べてリフレッシュですよ。と言っても殆ど溶けちゃってますけど」つパフエ

古鷹「あゝ／＼／＼」パクン

加古「落ち着いたか？」パタパタ

古鷹「甘くない……／＼／＼」

青葉「ですよ〜」ニガワライ

加古「敬意を表してあたしが何か奢ってやるよ。言ってみ？」

古鷹「と〜つても苦い抹茶とと〜つても辛いお煎餅がいい……／

／

加古「任せろ」キリッ

青葉「間宮さんお願いします」ケイレイ

間宮「は〜い♪」ケイレイ

間宮（提督と衣笠ちゃんが仲睦まじいのは良いことだけど、今回の古鷹ちゃんみたいにあてられて、辛い物や苦い物を欲する娘が増えたわね〜）クスクス

間宮（甘味処なんだけどなく）ニガワライ

◇埠頭◇

提督「いや〜、危ねえ危ねえ。みんな大丈夫か？」

鳥海「はい、司令官さんがすぐに撤退命令を出してくれましたから」

ニコッ

天龍「でも、もう少し粘っても良かったんじゃないか？」

夕張「でも次はボス戦だったし、こっちは小破と中破がいたから、夕イミングはばっちりだったよ」ウンウン

卯月「みんな生きてるからこっちの勝ちだぴょん！」へへーン

龍驤「せやな」ウンウン

祥鳳「すみません、私の中破したばかりに……」シユン

提督「気にすんな。今回の失敗は次に活かせばいい。生きてさえ居れば次があるんだからよ」ハハッ

鳥海「流石、重巡洋艦や軽空母を基幹に戦果をあげてきただけのことはありますね」クスクス

提督「まあな」ガハハ

「……くうくう！」

提督「？」

艦隊『あ』↑察し

衣笠「提督くく！」

提督「おく！ 衣笠く！」

くエンダアアアアアアアアア

衣笠「お帰り、提督♡」ギューツ

提督「ただいま、衣笠！」ギューツ

く抱きしめ合い、見つめ合う夫婦く

衣笠「提督……ちゃんと危なくなる前に逃げて来てくれたんだね♡

嬉しいよう♡」スリスリ

提督「約束したからな……」ナデナデ

衣笠「怪我はしてない？」ペタペタ

提督「大丈夫だ」ニツ

衣笠「今度は私も連れてつてよね！ 提督を守るのは私の役目なん

だから！」ムウ

提督「なら、衣笠は俺が守るな」ガハハ

衣笠「」キューーーン

衣笠「っ♡」チュツ

提督「んっ」チュツ

く海をバツクに熱いキスく

龍驤「もう行こうや」ニガワライ

卯月「もう少し見てたいぴよん……」ワクワク

祥鳳「駄目よ、馬に蹴られちゃうわ」ニガワライ

鳥海「行きましようか」クスクス

夕張「今日は激辛キムチ鍋にしようかなく」

天龍「オレは取り敢えず青汁飲んでえな」

く夫婦、二人きりにく

衣笠「提督、大好き♡」オメメハート

提督「ああ、俺もだぞ」ナデナデ

衣笠「えへへ♡」スリスリ

提督「さて、執務室でもう一仕事だな。衣笠も補佐を頼むな」ナゲ
ナゲ

衣笠「はくい♡ 衣笠さんにお・ま・か・せ♡」ウインク

提督「なら移動しようか」ヒョイツ

衣笠「きやく♡」ヒシツ

提督、衣笠をお姫様抱っこ

衣笠「いつもこうしてくれるけど、重くないの？」

提督「軽い軽い♪ なんとたつて俺の嫁さんだからな♪」ニツ

衣笠「何それ。嬉しいけど、無理しないでね♡」ホツペツンツン

提督「ならお前も無理すんなよ？ 夜中にこっそり訓練してんの
知ってんだぞ？」

衣笠「あちやく、バレてた」テヘペロ

提督「二人で共に強くなろう。俺達は夫婦なんだからな」ニカツ

衣笠「はくい♡」ギユツ

提督（これから衣笠を守る為に強くなるからな♪）

衣笠（これからも提督を守る為に強くなるからね♡）

夫婦はその後数多くの戦果をあげるのだったー。

衣笠 完

妙高とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりに

◇鎮守府内・提督&妙高夫妻邸◇

く妙高、洗濯物取り込み中く

妙高「テキパキ

ピンポーンー

妙高「はい！」

カチャーンー

那智「邪魔するぞ」

足柄「やつほく♪」ノシ

羽黒「こんにちはく」ペコ

妙高「あら、いらっしやい。入って入って」ニコツ

妹ズ『お邪魔しまくす』

く居間く

妙高「今洗濯物取り込んだじゃうから、少し待ってて」

那智「気にするな。家事頑張ってくれ」

足柄「キヨロキヨロ

羽黒「？ 足柄姉さん、どうしたの？」

足柄「妙高姉さん、チビは？」

妙高「みようこうなら今お昼寝中よ」フフ

那智「だ、そうだぞ」ハハ

足柄「せっかく羽黒とクツキー焼いてきたのにく」ブー

羽黒「まあまあ」ニガワライ

妙高「その内起きてくるわよ」ニコツ

カラカラー

みようこう「おかーさくん」クシクシ

那智「噂をすれば、だな」ニツ

足柄「みようこうく♪ 足柄お姉ちゃんよく♪」

羽黒「こんにちは、みようこうちゃん」ニコツ

みようこう「なちおねえちゃん、あしがらおばちゃん、はぐるちやん。こんにちは〜」クシクシ

足柄「みようこうちゃん？ ちよ〜つともう一回私のこと誰だか言ってみて〜？」ピクピク

みようこう「あしがらおばちゃん……」

足柄「みようこうちゃん、こつちにいらっしやい。その口取ってあげるから」超弩級戦艦クラスの笑み

那智の背後一ミサツ

足柄「は や く い ら っ し や い」ニコリ

みようこう「(；。D。)(」ガクガクブルブル

那智「そんなことをしてるからおばさんなんて言われるんだ」ヤレヤレ

羽黒「後は日頃の行いとか……」ニガワライ

妙高「子どもって意外と見てるから」ニガワライ

足柄「orz

トコトコー

みようこう「めんね〜(ごめんね)」ヨシヨシ

足柄「やっぱりこの子天使だわ〜」ギユツ

みようこう「キヤツキヤツ

那智「ふつ、子どもには敵わんな」

羽黒「可愛いから」ニコリ

妙高「さて、洗濯物畳まなきや」

みようこう「おてつだいする〜」テコテコ

妙高「ありがとう」ニコツ

那智「へえ、もうお手伝い出来るのか〜。偉いな」

足柄「そりや、私達の姪っ子なんだから当たり前でしょう」ドヤア

羽黒「ふふ、偉いね」ナデナデ

みようこう「たおるたためるんだよ〜♪」セツセツ

足柄「上手〜♪」ベタボメ

那智「三歳にしては上出来じゃないか」ニコニコ

羽黒「上手に出来たね〜」ニコニコ

みようこう「ドヤア

妙高「ニコニコ

くみんなでおやつく

みようこう「それでね、おとーさんがね、おしごといくときはね、みようこうのね、ほっぺにちゅうしてくれるの〜！」

羽黒「良かったね〜」

妙高「ニコニコ

みようこう「それでね、そのおかえしにね、おかーさんとみようこうでね、おとーさんのほっぺにちゅうってするの〜！」

那智「へえ〜、そうなのか〜」チラッ

妙高「／／／」ウツムキ

みようこう「するとね、おとーさんはね、おかーさんにね、あいしてるっていつてね、おくちとおくちでちゅうってするんだよ〜！」

足柄「本当に良く見てるのね〜」チラッ

妙高「／／／」ソツポムキ

みようこう「おとーさんとおかーさんはなかよしの〜」キラキラ
ラ

那智「そうだな〜。仲良しだなあ〜」

足柄「良かったわね〜」ワシヤワシヤ

羽黒「相変わらず仲良しですね、妙高姉さん」ニコニコ

妙高「ま、まあね／／／」パタパタ

くみようこうその後も色々暴露く

そして、夕方〜

那智「そろそろ私達は戻るとするか。これから夜戦訓練が控えているからな」

足柄「そうね、また来るわね。みようこう」ナデコナデコ

羽黒「またね」フリフリ

みようこう「ばいばい〜」フリフリ

妙高「またね」ニコッ

パターン〜

妙高「さて、私達もお父さんのお迎えに行きましようか」「ニコッ
みようこう」「いく〜！」ピョンピョン

◇執務室◇

コンコンコンコンコンコンー

提督「どうぞ〜」ニコニコ

ボタンー

みようこう「おとーさん！」

提督「みようこう〜♪」リョウテヒロゲ

みようこう「おとーさ〜ん！」トビツキ

提督「みようこう〜♪」ウケトメ

／ワイワイ キヤツキヤツ〜

妙高「お疲れ様です。すみません、いつも」ペコリ

大淀「いえいえ、いつもこの時間は提督もソワソワしてますから」ニ

ニコ

妙高「もう、お父さんったら」ニコニコ

大淀「提督、ご家族がお迎えに来てくれたので今日はここまでにし

ましよう」

提督「ん、分かった。じゃあ、片付けするか〜」

みようこう「おてつだいする〜！」ピョンピョン

提督「ありがと〜♪」ナデグリナデグリ

妙高「ニコニコ

〜家族揃って仲良く帰宅中〜

妙み提 ↑横並び

みようこう「きょうね〜！ なちおねえちゃんとあしがらおばちゃ

んとはぐろちゃんかね、あそびにきたの〜！」

提督「そうなのか〜♪ 沢山お話出来たか〜？」

みようこう「うん！ おとーさんとおかーさんはなかよしなんだ

よって、いっぱいおしえてあげたの〜！」

提督「それは良いことを教えたな〜」ナデグリナデグリ

みようこう「ドヤア

妙高「／＼／＼」カオマツカ

◇提督&妙高夫妻邸◇

ガチャー

みようこう「ただいま〜！」トテトテ

提督「はは、転ぶなよ〜」

妙高「提督、お帰りなさいませ……ん♡」クチビルサシダシ

提督「ただいま、妙高」チュツ

妙高「ふふ♡」ギユツ

みようこう「あ〜！ みようこうもちゅうする〜！」トテトテ

提督「良いぞ〜」ホツペチュツ

みようこう「〜♪」ホツペチュツ

〜居間〜

みようこう「ねえねえ、おとーさん」クイクイ

提督「どうした〜？」

みようこう「どうしておとーさんはみようこうのおくちにはちゅうしてくれないの〜？」

提督「それはお父さんがお母さんを世界で一番愛してるからだぞ〜」

みようこう「みようこうは〜？」

提督「みようこうは娘として世界一愛してるぞ〜」ナデグリナデグ

リ

みようこう「〜♪」

妙高「ハニカミ

妙高（私も提督を世界で一番愛しています）

みようこう「おかーさん！ こっちにきて〜！」

妙高「はーい♪」

妙高（これからもずっと……♡）

妙高 完

那智とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&那智の部屋◇

く提督料理中く

提督「るるるるるる」

トントントントー

提督「らくらんらるる」

ジュジュワアるるー

提督「くくよし、完成」ニコッ

カチャー

那智「戻ったぞ……」

提督「お帰り、朝の鍛錬お疲れ様。朝食出来てるよ」

那智「ただだこう……」

提督「元気無いわね、どうしたの？」

那智「……いや、何でもない」

提督「ならちゃんと私の瞳を見て言って」ジ

那智「メソラシ

提督「ジ

那智「……提督には隠し事は出来ないな」ハア

くリビングで朝食中く

提督「それで？　なんで元気が無いの？」

那智「……今日の仕事が嫌なんだ」

提督「え？　今日は前から楽しみにしてた、他所の鎮守府の第一艦

隊が一同に会して大規模演習をする日じゃない。何が嫌なの？」

那智「提督が同行しないじゃないか……」

提督「それは大本営での定例会議があるから仕方ないじゃない」

那智「夕方まで離れて過ごすんだぞ?!　その会議はいつも秘書艦が

同行するはずじゃないか！　何で第一秘書の私じゃなくて、第二秘書の金剛が同行するんだ!？」

提督「夕方まででしょ？　那智には第一艦隊の旗艦として参加してもらわなきゃ私が困るのよ」

那智「むうくく……」プクウ

提督「そんなにむくれないですよ……」

那智「ムツスー」

提督「今日は那智の好きなもの作ってあげるから」ナデナデ

那智「沢山口付けもしてくれるか？」

提督「それは演習の結果次第かな。私が居なくてもしつかりして
る所を見せてもらわなきゃ」

那智「もし良い結果を出したら？」

提督「今晚の晩酌は全部私が口移ししてあげる」ニコツ

那智「それは本当か!？」ガタツ

提督「嘘ついてどうするのよ……」ナデナデ

那智「必ず良い戦果を約束しよう!」キラツケカンリヨウ

提督「うん♪ ……じゃあ、そろそろ準備して」ニコツ

那智「ああ!」フンス

時は流れ昼過ぎー

◇大規模演習海域◇

那智「私達の出番はまだ先だし、演習前に腹ごしらえしよう……皆、
これを提督から預かってきた」つ包み

加賀「何でしょうか？」

夕立「お弁当っぽい!」パア

赤城「提督お手製のお弁当!?　これは流石に気分が高揚します!」
キラキラ

大和「赤城さん、加賀さんみたいになってますよ」フフ

五十鈴「提督の料理は美味しいから、気持ちは分かるわ」ニコニコ

那智（士気が上がったな。流石私の……『わ・た・し・の』提督だ）
ニコニコ

パカッーヒカリアフレルー

那智「お、おお……!!」カンゲキ

夕立「那智さんのお弁当凄いつぽい〜！」ワツサワツサ

加賀「ふむ……愛が籠ってますね」シミジミ

赤城「あらあら……妬けちやいますね」フフ

五十鈴「うひゃ〜、すごっ」キョウガク

大和「羨ましいですね♪」

〜いぎ、演習開始〜

那智「さあ那智戦隊の力を存分に見せつけてやろう！」ギラギラ

ノドツカラデモカカツコイオラー!!

夕立「那智さんのキラキラがMAXっぽい！」オオ

加賀「提督からの愛妻弁当効果ね」フウ

大和「那智さんと提督の似顔絵弁当でしたからね♪」

五十鈴「離れていても惚気け満載である意味感心するわ……」ヤレ

ヤレ

赤城「明らかに私達のお弁当よりも手が込んでいましたからね」ニ

コニコ

演習相手ー

陸奥「向こう凄いやる気ね……」ワオ

長門「楽しめそうだな」フフフ

瑞鶴「こっちの那智とは大違いね」クスクス

那智「言わないでくれ……／＼／＼」カオマツカ

妙高「あんな那智も新鮮ね♪」

翔鶴「どこかの私もあんな風になっているのかしら？」シミジミ

〜那智大奮戦〜

時は流れ夜ー

◇提督&那智の部屋◇

〜晩酌中〜

提督「まさか全十戦中・八勝二敗とはね……脱帽だわ」ニコツ

那智「もつと誉めて良いんだぞ？」ドヤア

提督「はいはい」ナデナデ

那智「く♡」

提督「ん」クチビルサシダシ

那智「♡」チュツ コクコクツ

提督「んはあ……気分はどう？」ニコニコ

那智「最高だ♡」ニヘー

提督「なら良かったわ♪」ナデナデ

那智「幸せとはこのことだな……♪」ルンルン

提督（可愛い……）キユン

〜数時間後〜

那智「てくろくく♡」ゴロゴロ

提督「はくいく♪」ナデナデ

那智「しゆきしゆき♡」チュツチュツ

提督「私も那智が好きよ」チュツ

那智「もつろおしゃけのむく♡」

提督「はくい」コクツ

那智「あくん♡」

提督「」チュツ

那智「く♡」ガシツ

提督「っ」ビクツ

（那智の舌が入ってきた!!）

那智「ちゅ……ちゅちゅ……んあ、ちゅっ、あむっ……ちゅっちゅっ……」

提督「っはあ……もう、急にどうしたの？」ドキドキ

那智「♡／／／」モジモジ

提督「お酒はもう良いの？」ナデナデ

那智「ん♡」コクン

提督（可愛い……）キユンキユン

那智「てくろくう……なちをく、可愛がつて？♡」ウワメヅカイ

提督「ええ、いいわよ♪」チュツ

那智「あ……んんっ……もつろく♡」ギユツ

提督「ご褒美に沢山可愛がつてあげるからね♪」ニコニコ

那智「うん♡」ニパー

その夜、二人はより仲睦まじく時を過ごしたー。

那智 完

足柄とケツコンしました。

某海域、昼過ぎー

く艦隊帰投中く

妙高「何とかここまで帰って来れたわね」

那智「だがちゃんと戻るまでは偵察機を飛ばしておこう」

羽黒「そうですね。何かあるか分かりませんが」

足柄「ふふ、潜水艦でもなんでも私が沈めてあげるわ!」

大淀「足柄さんは今日も絶好調ですね」クスクス

霞「単にうるさいだけよ」ヤレヤレ

妙高「ごめんなさい……でも今回全員が無傷なのは足柄のお陰でもあるので、今はお許しください」ニガワライ

那智「もう少し落ち着いてくれれば姉としては有り難いのだがな……」

羽黒「でもそれが足柄姉さんですから」アハハ……

足柄「さあ、私、足柄の凱旋よく!」アーハッハッハ

霞「うるさい……」

大淀「まあまあ、霞さん」ドオドオ

妙高「大丈夫よ、霞さん。もう鎮守府に着きますから」ニコッ

霞「それもそうね……」

◇某鎮守府・埠頭◇

く艦隊帰投!く

提督「お疲れ様、みんな無事で何よりだ」ケイレイ

艦隊『はっ!』ケイレイ

提督「念の為ドックで全員精密検査を。それが終わったら補給をしてくれ」

艦隊『了解っ!』ケイレイ

提督「足柄」

足柄「は、はい!」

提督「またMVPだったな……おめでとう。俺も自分の事のように嬉しいよ」ナデナデ

足柄「あっ……ありがと……♡／／／」ウツムキ

提督「相変わらず足柄の反応は可愛いな……これ以上俺を魅了してどうする気なんだ、ん？」ホツペナデナデ

足柄「わっ、私はそんなつもりじゃ……♡／／／」アウアウ

提督「はは、慌てふためく足柄も実に愛らしいよ」ニコツ

足柄「あ、ああ……うう♡／／／」モジモジ

提督「無事に帰ってきてくれてありがとう。愛してるよ、足柄」ホツペチュツ

足柄「は、はひ……私も提督を愛してるわ♡／／／」ニヨニヨデレデレ

那智「さつきまでの威勢はどこにいったのやら」ヤレヤレ

羽黒「足柄姉さん、可愛いです♪」

霞「静かにはなったけど今度は甘過ぎて辛いわ」イライラ

大淀「本当に仲睦まじいですね♪」

妙高「足柄は提督には心底弱いですからね」ニコニコ

「そんなこんなで艦隊はドックへ」

◇ドック◇

明石「はい、皆さんの精密検査は終わりました！ どこにも異常はないので補給室へ向かってください♪」

艦隊『了解！』

トントナー

明石「はい、どうぞ」

ガチャラー

朝霜「ちはく……足柄^{ガラ}さん、精密検査終わった？」

足柄「ええ、終わったわよ♪」

朝霜「それは良かった♪ おくい、清霜！ 精密検査終わったっ

てさく！」

清霜「分かったく！ 今行くねく！」

／オワツタツテサ ヤッター！／

全員『ニコニコ

足柄「ニツコリ

タツタツタツタツ！

ガチャラー

あしがら「おかーさん、おかえりなさい！」ワハー

足柄「ええ、ただいま♪ 朝霜に清霜、娘の面倒見てくれてありがとう♪」

朝霜「いいっていいって♪」

清霜「そうだよ！ それにあしがらちゃんとっても良い子にして待ってたんですよ♪」

足柄「あら、そうなの？ 流石は私と提督お父さんの子ね♪」ナデコナデ

コ

あしがら「えへへ♪」キヤツキヤツ

く足柄、あしがらを連れてみんなと補給室へく

◇補給室◇

あしがら「あくん！」つ弾

足柄「あくん♪」パクツ

あしがら「おいしい？」ニコニコ

足柄「うん♪ ありがとう、あしがら♪」ナデナデ

あしがら「えへへ♪」ゴロゴロ

妙高「ねえ、あしがらちゃん」

あしがら「なくに？」

妙高「さつきからずつと手に持つてる紙って何かしら？」

あしがら「あ、これ？ これはね」フツフツフ

那智「どこであんな笑い方を覚えたんだか……」ニガワライ

羽黒「どこことなく足柄姉さんの企み笑いに似てる」クスツ

霞（子どもは親を見て育つのね）ヤレヤレ

大淀（可愛いな）ニコニコ

あしがら「じゃーん！ おかーさんとおとーさんかいたのー！」ペ

カー

く笑顔の夫婦が描かれているく

妙高「あら上手く♪」ニコツ

那智「力作じゃないか」ナデナデ

あしがら「えっへん！」ドヤア

羽黒「あれ？ でもあしがらちゃん自身がどこにも描いてないよ？」

大淀「右が提督で左が足柄さんですから……」エーツト

霞「本当、あしがらがいないわね……描き忘れたの？」

あしがら「ううん！ これでいいの♪」

足柄「どうして？」

あしがら「だってねく、おかくさんはおうちだとおとくさんのところにいつつもいるもん♪ それでいつつもここにこにこしてるのく♪」ニコニコ

足柄「っ!?!?／／／」ボンツ

妙高「ふふ、そうなのく？」チラツ

那智「それは仲がいいなあく？」チラツ

羽黒「じゃあこの絵はそんな二人を描いたんだねく？」チラツ

大淀「良く描けていますねく？」チラツ

霞「描いてもらって良かったじゃない。足柄お母さん♪」カタポ
ンツ

足柄「やめてく、言わないでく／／／」カオカクシ

あしがら「おかくさん、おかおまつかつかく♪」キヤツキヤツ

くその後も足柄は皆からからかわれ続けたく

昼下がりにー

◇執務室（和室）◇

提督「はは……それは大変だったな」

足柄「むうく、他人事だと思つてく／／／」

く足柄、提督の隣に座りふてくされるく

提督「子どもはそういうところを良く見てるからな……でも何も間

違っていないじゃないか」フフ

足柄「そうだけどく！／＼／＼／」

提督「ほら、そんなに声をあげるとあしがらが起きるだろ？」シート
足柄「うっ」

あしがら「んく……」Z Z Z

くあしがら、提督の膝枕でお昼寝中く

提督「いいじゃないか。仲が悪いと思わてるより」ニカツ

足柄「そう、ね……」ニコツ

提督「そういえば……あしがらにもう稽古つけるそうだな」

足柄「ええ♪ 護衛術を中心に教えるわ♪」

提督「護衛術？ 普通の戦闘術じゃないのか？」

足柄「ええ、この子が大きくなる頃……その時は攻める力じゃなく
て、守る力が必要になるだろうから」ニコツ

提督「そうだな……そうなるよう大人の我々が今を頑張ろう」

足柄「勿論よ♪ 勝利が私を呼んでるわ♪」ニコニコ

提督「足柄」

足柄「？ どうしたの提督」

ちゅっ♡

足柄「っ!?!♡／／／」

提督「頑張るのは良いが一人で頑張るな。俺が常に足柄と共にいる
ことを忘れるなよ？」ナデナデ

足柄「……ええ、ありがとう♡／／／」ニパッ

そして夫婦はお昼寝している愛娘をよそに、また口づけをするので
あつたー。

足柄 完

羽黒とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇執務室◇

ガチャー――

足柄「提督！ 演習の報告書持って来たわよ！」

妙高「ノックしなさい、足柄！」

那智「まあ、もう開けてしまったものは仕方ないだろ」ニガワライ

羽黒「あ」

「羽黒、提督の上着を抱きしめ中」

足柄「あらあらあら、お邪魔だった？」ニヤニヤ

妙高「少し眠りなさい」ビシツ↑手刀

足柄「チーン

那智「すまん、羽黒」ニガワライ

羽黒「だ、大丈夫ですう……／＼／＼」カァー

妙高「提督は留守？」

羽黒「は、はひ／＼／＼」ウツムキ

那智「大丈夫、誰にも言わん」ナデナデ

羽黒「あつ、ありがとうございませい……／＼／＼」カオマツカ

妙高「上着じゃなくて本人にしてもらいなさいな」ナデナデ

羽黒「だつ、だつて／＼／＼」

足柄「せつかくケツコンしてるんだから、遠慮しちゃダメよ！」↑

復活

羽黒「ビクッ

那智「まあ、羽黒には無理だろう」ニガワライ

妙高「これでも前よりはマシになったのだけどね」フフ

足柄「私としてはもつと攻めてもいいと思うけど……」

羽黒「／＼／＼」モジモジ

妙高（無理よね）

那智（無理だろうな）

足柄（無理そうね〜）

羽黒「〜／／／」ウツムキ

ガチャー

提督「ただいま〜…あれ、みんなも居たのか？」

妙高「あ、お帰りなさいませ」

那智「ああ、演習の報告書を渡しに来た」

足柄「提督はどこに行ってたの？」

羽黒「つ／／／」トトトツ↑提督の元へ

むぎゆつ♡↑羽黒、提督に抱きつく

提督「ちよつと工廠の方にな。報告書、預かるよ」ナデナデ

〜提督、当然の様に羽黒を受け入れる〜

羽黒「♡／／／／」カオグリグリ

〜羽黒、提督の胸に顔を埋める〜

妙高「(; ㉔)。」ハウア!

那智「(。□。)」アングリ

足柄「(。㉔)」ヤルジヤナイ

提督「? 報告書はどうした？」

妙高「え、はい! こちらになります!」つ報告書

提督「ん、お疲れ様〜」ウケトリ

那智「おい、貴様。私達の妹に何をした」ハイライトオフ

提督「え」

那智「こんな羽黒を私達は知らん。ならば、後は貴様しか犯人は居ないだろう? 何をしたんだ? 言え、さもなくばここで貴様の頭に

鉛玉を打ち込む」ゴゴゴゴゴ

提督「え、ええ…?」

羽黒「いくら那智姉さんでも司令官さんに牙を剥くなら、容赦しません!」ギロリ

那智「なっ!」

足柄「はいはい、落ち着いて二人共〜」ドオドオ

那智「足柄! お前は不審に思わないのか!」

足柄「いや、あの子が前から提督大好きだったの知ってたし、あれ

くらいイケる子だつて信じてたから別になんとも……」

妙高「驚いたわ……でも、そうよね。この子は昔からやる時はとことんやる子だものね」ニガワライ

那智「グヌヌ

羽黒「ヒシツ

く羽黒、提督を庇うように抱きしめるく

那智「はあ……まあ、お前達が付き合おうと決めた時から、羽黒はお前に任せると決めた。これは外野が口を挟むことではない、な」ハア

羽黒「ホツ

提督「なんとかなつたみたいだね」ナデナデ

羽黒「はい♡」スリスリ

那智「未だに信じられん」シミジミ

妙高「受けましょう」ウンウン

足柄「泣かされてるより全然いいことじゃない♪」アハハ

羽黒「司令官さん♡」カオグリグリ

提督「はいはい♪」ナデコナデコ

羽黒「えへへく♡」ニヨニヨ

那智「幸せそうな顔だな」ホホエマー

妙高「では私達はそろそろお暇しましょう」ニコツ

足柄「そうね。これ以上いるとお砂糖吐きそうだし」ニガワライ

く姉達が退出し、夫婦だけにく

提督「しかし、妙高達は凄く驚いていたな。話してなかったのか？」

羽黒「はい／／／／」

く羽黒 on the 提督の膝（定位置）く

提督「どうしてさ？」

羽黒「は、恥ずかしくて……／／／／」モジモジ

提督「さつき抱きついて来たのに？」

羽黒「だ、だって……／／／／」アウアウ

提督「だって？」

羽黒「お留守番してるの寂しかったから……我慢出来なくて♡／／／／」ツンツン↑兩人差し指を突き合わせる

提督「羽黒って実は大胆な子だよね」ナデナデ

羽黒「うう……／＼／＼」ツンツン

提督「というか、そんなに寂しかった？」

羽黒「はい……」ギューツ

提督「たかだか十分くらいじゃないか」ナデナデ

羽黒「十分じゃないです！ 十二分と三十五秒、五百ミリ秒も離れてたんですよ！」プンプン

提督「細かいよ……」ニガワライ

羽黒「ちゃんと計ってましたから！」フンスフンス

提督「それ短距離走とかで使う電気計時じゃん……」

羽黒「明石さんに頼んで作ってもらいました♪」ニコツ

提督「てかこれだけじゃ正確に計れないよね？」

羽黒「司令官さんが執務室から出たら動くようにセンサーを設置してますよ？」クビカシゲ

提督「当然の様に言うのな……」

羽黒「??」キョトン

提督「まあ、可愛いからいいや」ナデナデ

羽黒「えへへ♡」ゴロゴロ

提督「じゃあ、午前中の仕事終わらせて昼食にしよう」

羽黒「あの……司令官さん……」クイクイ

提督「ん？」

羽黒「お帰りのキスとただいまのキス、してませんか？♡」ウワメ

ツカイ

提督「お、お……ただいま、羽黒」チュツ

羽黒「ん♡ お帰りなさい、司令官さん♡」チュツ

提督「羽黒は本当に可愛くて困るよ／＼／＼」ナデナデ

羽黒「えへへ……ごめんなさい♡」ニコニコ

こうして二人は仲睦まじく今日も仕事に励むのだー。

羽黒 完

高雄とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇鎮守府・正門前◇

提督「先に待っててって言われたからそうしたけど、一体どうしたんだろう……」

(まあ、艦娘とはいえ女性だし、それなりの準備があるのかな)

高雄「お待たせしました」

提督「ああ、一体どうさー」

高雄「せっかくのデートなので、少しお洒落してきました♪ 似合っていますか？」クビカシゲ

高雄E・カーディガンⅡブラツクのみドル丈

ラフなVネックTシャツⅡ無地のホワイト

スキニージーンズⅡインディゴブルー

TストラップパンプスⅡグレー

提督「人

高雄「な、なんで拝むんですか!？」

提督「いや、女神様が目の前に居られるので」人

高雄「大袈裟ですよ／＼／＼」ウツムキ

提督「いや、まじで可愛いよ？ もうケツコンしたいくらい」

高雄「もうケツコンしてますう／＼／＼」モジモジ

提督「俺ってまじで幸せだな……こんな綺麗な奥さん居るんだもんなく。まじで人生勝ち組」フフ

高雄「もう♡／＼／＼」テレリテレリ

提督「じゃ、早速行こうか。女神様」ニツ

高雄「は、はひ♡／＼／＼」ギユツ

く腕を組み、肩寄せ合ってデートへ

◇繁華街◇

高雄「自分でウインドウショッピングがしたいと言いましたが、退

屈ではないですか？」

提督「高雄の表情がコロコロ変わるから、見ている飽きないよ？」

高雄「うう／＼／＼」ウツムキ

提督「真つ赤な顔も可愛い」ニコニコ

高雄「商品を見てくださいよう／＼／＼」カー

提督「高雄見てる方が楽しいからな」ニコニコ

高雄「はう♡／＼／＼」キュンキュン

高雄「と、取り敢えず、他の場所に行きましょう／＼／＼」グイッ

提督「ああ、全然いいよ」アハハ

◇アクセサリーショップ◇

高雄「このペアリング素敵ですね」ハワー

提督「そうだな、シンプルでいいな」ウンウン

高雄「こっちのペアリングも素敵ですけど、やはりシンプルなのがいいですよ」ニコニコ

提督「こっちは……うん……どこかのセレブ姉妹が付けそうなものだな」ニガワライ

高雄「こっちのリングも素敵……」ホウ

提督「どれか気に入ったのがあれば買うか？　ウン百万円は無理だ

けど」ニガワライ

高雄「いいえ、買わなくてもいいです」ニコリ

提督「そうなの？　遠慮しなくてもいいんだぞ？」

高雄「遠慮なんてしてませんよ♪」ニッコリ

提督「でも……」

高雄「指輪ならもう間に合ってますから♡」ユビワキラーン

提督「ドキッ

高雄「提督からもらったこの指輪があれば、他の指輪なんて必要ありませんから♡」ニコニコ

提督「そ、そうか／＼／＼」ドキドキ

(やっべえ、女神様をも超越してるよ……)

高雄「はい♡」ウデギューッ

提督「／＼／＼」ナデナデ
店員「オロロロ」サトウダバー

◇お花屋さん◇

提督「はい」つ花束

高雄「ふふ、いつもデートの時は花束をくださいますね」ニッコリ

提督「俺の親父が良くおふくろに花束を贈ってたからな」

高雄「素敵なお両親ですね♪」

提督「ガキの頃は「キザだな」なんて思ってたが、実際に贈ってみると親父の気持ちが分かるよ」ハニカミ

高雄「ふふ♡」ウデギューツ

店員「パールパールパール

く繁華街を散策中く

中年男性「もし、そこのお二人さん」

提督「はい？」

高雄「何でしょうか？」

中年男性「お二人さんはカップルかご夫婦ですかね？」

提督「はい、夫婦ですが」

中年男性「おお！ 私はそこで写真屋を営んでいるものなんです
が、店頭飾る写真のモデルさんを探してましてね〜！」

提督「はあ……」

店主「私の長年の勘がビビッと来ました！ どうか、お二人にモデル
をお願いしたい！」フカブカ

提督「」チラツ

高雄「」ニコリ

提督「はい、私達で良ければご協力します」ニコリ

店主「ありがとうございます！ では、早速お店の方へ！」

◇写真店◇

提督「あの……確かにご協力しますとは言いましたが……」

高雄「どうしてこの衣装なのでしょうか……？」

提督E・白のタキシード

高雄E・白のウェディングドレス（プリンセスライン）

店主「いやあ！ 良くお似合いで！ 私の目に狂いは無かった！」
パチパチ

提督「ニガワライ

高雄「／／／」ウツムキ

店主「ではでは、好きなポーズをお願い致します♪」

提督「高雄……」

高雄「は、はい／／／」

フワツ↑提督、高雄を持ち上げる

高雄「きやつ／／／」

提督、高雄をお姫様抱っこ

高雄「て、提督／／／」ウツムキ

提督「またこうして高雄のウェディングドレス姿が見れて嬉しいよ」ニコリ

高雄「はう♡／／／」

提督「せっかくの機会だ。楽しまなきやな」ウインク

高雄「……はい♡」ギューツ

店主「良いよ！良いよ！ もっと！ もっと頂戴！」パシヤパシヤパシヤパシヤ

♪撮影終了♪

店主「いやあ、良い写真が撮れました！ ありがとうございます
！」ペコリペコリ

提督「いえいえ、私達も楽しかったです」

高雄「こちらこそ、ありがとうございます」ペコリ

店主「いえいえ♪ では、この写真を店頭に飾らせてもらいますね！」

♪お姫様抱っこ+優しい笑顔で見つめ合う二人♪

提督「はい」ニコリ

高雄「／／／」テレリテレリ

店主「お礼としてこの写真とフォトフレームを差し上げます♪ 本
当にありがとうございます！」

く仲良く帰宅中く

提督「しかし、良く撮れてるな」シミジミ

高雄「ですね♡」

提督「これからもよろしくな、高雄」ギョツ

高雄「はい♡ こちらこそよろしくお願い致します♡」ギューツ

提督「これからも愛してるぞ、高雄」

高雄「私も愛しています♡ ずっとずっと♡」

そして二人は夕焼け色に染まる海をバックに、二度目の誓いのキス
をしたー。

提督『おう／＼／＼』

プツン……

艦隊帰投中

愛宕「さあゝて、帰りましょ♪」

高雄「そうね……」ニガワライ

摩耶「毎度毎度よくやるぜ／＼／＼」パタパタ

鳥海「恒例行事だもの」クスクス

白露「ラブラブ〜！ ヒューヒュー！」

時雨「ふふ、アツアツだね♪」

愛宕「そんなに褒めないで〜♡」ヤンヤン

高雄「あれだけやっておいてよく言うわ……」

鳥海「それが愛宕姉さんですから」ニガワライ

摩耶「提督と息を吸うようにキスしてりやあな／＼／＼」アチアチ

時雨「唇がふやけそうだよね」クスクス

白露「うわお……」

愛宕「そんなにキスしてないわよ。せいぜい潤すくらいしか♪」

ウインク

摩耶「ぜってえ嘘……」ジトー

高雄「頭が痛いわ……」ハア

鳥海「ニガワライ

白露「私達もいつか愛宕さんみたいになるのかな〜？」

時雨「どこかの鎮守府ではそうなるかもね」フフ

そして夜――

◇執務室◇

無事に帰投

愛宕「提督〜♡ ただいま〜♡」ムギユツ

提督「」ジタバタ

愛宕「あん♡ そんなに暴れないで♡」ムギユギユーツ

提督「」チーン

高雄「ちよ！」

摩耶「おい！ 動かなくなってるぞ！」

鳥海「愛宕姉さん、早く司令官さんを離して！」

白露「男の浪漫が叶ったね提督！」？d

時雨「大丈夫かな？」ニガワライ

愛宕「〜♡」ギューツ グルグル

提督「プラーン

高・摩・鳥『提督（司令官さん）〜！』アワアワ

白露「オオー

時雨「アハハ

ー。

ー。

◇提督&愛宕邸（鎮守府内）◇

提督「あく、まだ頭がクラクラする〜」

愛宕「ごめんなさ〜い♪」テヘペロ

提督「ああいうのは嬉しいけどさ、少しは加減してくれると助かる

よ……」ニガワライ

愛宕「は〜い♡」

〜提督、愛宕の為に夜ご飯の準備〜

提督「トントントン

愛宕「ウズウズ

提督「えっと、調味料はつと……」ガサゴソ

愛宕「えいつ♡」

むぎゆ♡↑愛宕、提督の背中に抱きつく

提督「お、おい／／／／ いきなり抱きつくな！／／／／」

愛宕「だつて〜、すぐそこにエプロン姿の提督がいるのよ〜？ 抱

きつかなくちや！♡」ギューツ

提督「料理中なんだぞ？／／／／」

愛宕「今は包丁も火も扱ってないでしょ〜？♡」ムギユツ

提督「そうだけど……／／／／」

愛宕「うふふ〜♡」アタマグリグリ

〜後ろから抱きつかれたまま料理再開〜

提督「つーか、料理中に抱きつくのって普通なら逆じゃないか？」

愛宕「提督は私がお料理中でも抱きついてくれないじゃない」ムッ

提督「そりゃ、危ないからなく」マゼマゼ

愛宕「むう」アタマグリグリ

提督「自分のせいで好きな人が傷つくなんて嫌だろ？」

愛宕「」キュン

愛宕「じゃあ、次からはゆっくり抱きつくわね♡」ムギューツ

提督「」ニガワライ

(抱きつかないという選択肢はないのか……)

↑上手に出来ました↑！↑

◇茶の間◇

↓夫婦揃って頂きます！↓

愛宕「今日は私がMVPだっただから、ご褒美よね？♡」キラキラ

提督「ああ、分かっていると／＼／＼」

↓提督、愛宕にご飯を食べさせる↓

提督「何から食べる？」

愛宕「チキンシチュウ」オクチアーン

提督「ほい」つシチュー

パクン

愛宕「おいひい」ムグムグ

提督「愛宕はチキンシチュー好きだよな」つシチュー

愛宕「だって、提督が初めて手作りしてくれたのがチキンシチュー

だったから」モグモグ

提督「愛宕が初めて作ってくれたのが、チキンシチューダンプリン

？とか言うのだったからな。お返しに作っただけだったんだが

……」

愛宕「理由はどうあれ、美味しい物は美味しいもん♪ 提督の愛も

詰まってるし♡」オクチアーン

提督「そりゃ、嫁さんの為に作った料理だからな」つシチュー

愛宕「ふふ、私……とつても幸せよ♡」

提督「そりゃ良かった。俺も幸せだよ」ニコッ

愛宕「キユンキユン」

愛宕（うふふ、幸せ過ぎて困っちゃうわ♡）キユンキユン

その後も愛宕は提督の手料理を美味しく頂き、提督も美味しく頂いたのでかれた（わかるね？）とさー。

愛宕 完

摩耶とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇医務室◇

コンコンー

明石「はくい」

ガラガラー

摩耶「ちはく」ヒヨコ

明石「あら摩耶さん、いらっしやい♪」

摩耶「お、おう／＼／＼」

明石「ふふ、今日もお見舞いご苦労様」ニコツ

摩耶「お、おう／＼／＼」

明石「ふふ、じゃあ私は席を外しますから、夫婦でごゆっくり♪」

摩耶「く／＼／＼」ウツムキ

明石「何かあつたら連絡くださいねく」ノシ

摩耶「く／＼／＼」ノシ

く摩耶、提督の居るベッドへく

シャツ↑カーテンを開ける

摩耶「起きてるか？」ヒヨコ

提督「お、摩耶か」ニコツ

摩耶「ね、寝てなくていいのかよ？／＼／＼」

提督「病気じゃないからなく。それに俺のサインが必要な書類も溜

まっちまうだろ？」

摩耶「そ、そうだけどよく／＼／＼」

提督「取り敢えずこれ、今朝もらった書類だ。全部終わったから」

摩耶「お、おう／＼／＼」

提督「何でそんなしおらしくなってんだ？」

摩耶「う、うるせく／＼／＼」プイッ

提督「？」クビカシゲ

摩耶「それよりほら、これ」

提督「お、そういやもう昼飯か。サンキュ」ニカッ

摩耶「／＼／＼」キュン

(いい笑顔しやがって……クソが♡／＼／＼) ニへへ

く夫婦揃って昼食く

摩耶「今日は摩耶様特製のたんぽぽオムハヤシだぜ♡」ペカー

提督「お、美味そう！」

摩耶「アタシが作ったんだから当たり前だろ！♡」フーン

提督「ありがとな、摩耶。俺は幸せだ」ニコッ

摩耶「／＼／＼」キュンキュン

(くう、んな笑顔見せん！クソが♡／＼／＼) デへへ

摩耶「い、いいから食べよ／＼／＼」つオムハヤシ

提督「ありがと……あむ……うん♪ 美味い！」

摩耶「へへ、つたりめえだろ♡」ニシシ

提督「チラッ

く摩耶の手は絆創膏だらけく

提督「本当にありがとうな、摩耶。でも無理はするなよ？」ナデナ

デ

摩耶「してねくし／＼／＼」

提督「でもー」

摩耶「うっせえな！ 提督だって無理してるくせに！」

提督「摩耶……」

摩耶「その腕や背中、怪我だって、全部アタシを守ったりなんかし

たからだろ!? 無理してんのは提督だろうが!!」

提督「……確かに、迷惑掛けてごめん」ペコ

摩耶「大体よく、アタシは艦娘で、提督はただの人間だろ？ アタ

シは沈んだりしなきゃ後は綺麗に治るんだからさ……もうアタシを

庇って自分の船を盾にすんのやめろよな？」

提督「気をつけるよ……みんなや摩耶にこっぴどく怒られたから

な」ニガワライ

摩耶「つたりめえだろ、クソが！」

提督「はは、返す言葉も無えな」

ぎゅっ↑摩耶、提督を抱きしめる

摩耶「提督が指揮してくれなきや、アタシは真の力を発揮出来ねえんだ……アタシより先に居なくなるなんて、アタシは嫌だかな」
ギューツ

提督「おう」ナデナデ

摩耶「提督が負った傷に比べれば、こんな傷屁でもねえんだかな」
ギューツ

提督「おう……」ナデナデ

摩耶「早く良くなつてまた一緒の部屋で過ごそうな。あの部屋でアタシ一人だと……さ、寂しいんだからよ／＼／＼」ヒシツ

提督「……おう！」ナデナデ

摩耶「♡」スリスリ

提督「」ナデナデ

提督「摩耶」ホッペナデナデ

摩耶「んだよ♡」ゴロゴロ

提督「キスしていいか？」

摩耶「んなの聞くな、さっさとしやがれ♡」クチビルサシダシ

提督「摩耶……」チュツ

摩耶「あん♡ んん……っ……んあ♡ ちゅっ……っ……っ……

ちゅっ……へへ♡」ギューツ

提督「愛してる、摩耶」ニコツ

摩耶「あ、アタシだってめちやくちや愛してるぜ♡」ニパツ

提督「はは♪」

摩耶「へへ♡」

くそれから昼食を終え、食休みく

提督「摩耶く」

摩耶「んだよく」

く摩耶、提督の膝に頭を乗せるく

提督「その体制辛くないのか？」

摩耶「別にく。つかアタシがこうしてたいんだからいいだろ？ 文

句あんのか？」ジトツ

提督「いや、無いけど……」

摩耶「なら黙ってる……それと、頭撫でろ」カオグリグリ

提督「はいはい」ナデナデ

摩耶「♡」ンヘヘ

提督（まるで犬みたいだな）ナデナデ

摩耶「みゅ♡」ゴロゴロ

提督（今のはちよつと猫っぽいかな）ナデナデ

摩耶「提督♡」

提督「ん♡？」

摩耶「提督がもう無茶する間が無いくらい、アタシ強くなるからな

♡「ニパツ

提督「期待してるよ」ナデナデ

摩耶「おう♡」

摩耶「……らさ」

提督「ん？」

摩耶「だからさ……おまじないしてくれよ♡」

提督「おまじない？」

摩耶「よく出撃前とかにしてくれんだろ！／／／／」

提督「あく、あれか」ニガワライ

摩耶「みなまで言わせんな、クソが♡／／／／」

提督「じゃあ、目を閉じろ」

摩耶「おう♡」

ちゅっ……髪へのキス（思慕）

摩耶「ん♡」

ちゅっ……額へのキス（祝福）

摩耶「あ♡」

ちゅっ……頬へのキス（親愛）

摩耶「♡」

ちゅっ……唇へのキス（愛情）

摩耶「んんっ♡」

提督「最後に立ってくれ、摩耶」

摩耶「おう♡」スツ

ちゅっ……お腹へのキス（回帰）

提督「愛してる、摩耶」ニコツ

摩耶「アタシも愛してるからな！♡」へへッ

◇医務室外・ドア前◇

摩耶「次はアタシがする番だな♡」

提督「俺はいいよ／／／／」

摩耶「駄目だ！アタシもしたい！いいからやらせろクソが♡」

提督「お、おい／／／／」

／イチャイチャチュチュツ／

明石（これはまだ掛かりそうね……／／／／）パタパタ

その後結局摩耶が医務室を出てきたのは夜だったとかー！。

摩耶 完

鳥海とケツコンしました。

某攻略海域、夕方ー

く艦隊、最深部戦中く

ドーン！ ドーン！

天龍「ちいっ！」中破

青葉「天龍さん！ もう少しですよ！ 耐えてください！」

天龍「わくってるよ！」

ポーン！ ドーン！

衣笠「よし、敵艦見えた！ 鳥海ちゃん！」

古鷹「周りの敵は私と加古に任せて！」

加古「おらく！ お前らの相手はあたしらだく！」

ドドーン！ バーン！

鳥海「……主砲よく狙って……撃てーっ！」

ババーン！ ↑クリティカル&オーバーキル

く勝利Sく

鳥海「青葉さん、残存勢力は？」

青葉「今のところは大丈夫です♪ 念の為、索敵機はまだ飛ばして

あります！」

鳥海「ありがとうございます。では鎮守府に戻りつつ、報告をしまし
しょう……古鷹さん、司令部へ入電をお願いします」

古鷹「了解！」

く艦隊帰投中く

鳥海「ー報告は以上です」

夕張『了解しました♪』

鳥海「あの……司令官さんは大丈夫ですか？」

夕張『へ……提督？ うん、今高雄さん達が仕事手伝ってるし何ら

問題なさそうだけど？』

鳥海「そう……」ホッ

夕張『ふふ、お嫁さんが無事に帰ってきたらもつと大丈夫かもよ』ニ

ヤニヤ

鳥海「……からかわないですよ……もう、切るからね／＼／＼」
夕張『あは、ごめんなさ〜い♪ 気をつけて帰投してくださいね♪』
プツン〜

鳥海「もう、夕張ったら／＼／＼」パタパタ

青葉「んふふ〜、夕張さんに嗚呼言われただけなのにお顔が真っ赤つかですよ〜？」ニヤニヤ

衣笠（また始まった……）ニガワライ

鳥海「茶化さないですよ……昨晩はこの海域のことで夜通しで作戦を練ってたから……」

加古「愛しの旦那さんの体調が心配だったんだ〜」ニヤニヤ

天龍「いや〜お熱いな〜」ニヤニヤ

古鷹「もう二人共止めなよ〜、鳥海さんに迷惑でしょう？」ニガワライ

鳥海「迷惑ではないわ……心配してたのは事実だから」ニコツ

青葉「お〜、お熱いですね〜！ 戻ったら司令官に何をしてあげたいですか〜？」

衣笠「ちよつと青葉〜」

鳥海「膝枕をしてあげたいかな♡ せっかく作戦が成功したんだから、目一杯休ませてあげたいから♡」

衣笠（あくそうだった。鳥海ちゃんはナチュラルに惚気るんだった……）

古鷹（乙女の顔してるなあ、鳥海さん）

天龍「ビュー♪ 熱いね〜！」

加古「いいぞ〜！ もっと惚気ろ〜！」

青葉「これはまた甘々な記事になりそうですね〜」メモメモ

鳥海「あんまり補長して書かないでね、恥ずかしいから♡／＼／＼」
エヘヘ

衣笠（書くのは構わないんだね……）ニガワライ

古鷹（恥ずかしいで済むんだね……）カタイエミ
〜そして無事に艦隊は帰投した〜

◇執務室◇

鳥海「ー以上が今作戦結果の詳細です。後日に報告書にまとめ、提出します」ケイレイ

提督「うむ……ご苦勞様。みんなもご苦勞だった……ドックでゆっくりと身体を癒した後、各自補給して休んでくれ」

艦隊『はっ!』ケイレイ

提督「では下がっていいぞ。高雄、補給室に居る摩耶に連絡をしておいてくれ。愛宕は大淀の所へ行って次の任務発令書をもらってきてくれ」

高・愛『了解しました』

鳥海（体調は大丈夫そうね……良かった♡）

青葉「司令官」

提督「ん？ どうかしたか？」

青葉「鳥海さんが司令官の体調を心配してましたよ？」

加古「それに今回のMVPは鳥海だぞ？」

天龍「そんな健気な嫁さんに何か気の利いた言葉くらいかけてやれよ」

鳥海「ニガワライ

衣笠「もう青葉達ったら」ヤレヤレ

古鷹「あはは……」ニガワライ

提督「」

愛宕「かけてあげないんですか、提督？」ニヤニヤ

高雄「ちよ、愛宕、貴女まで……」アワワ

提督「これと言って何も言うことはない」

青・加・愛・天『（工工エエエ）（ハ、）（エエエエ工）』

衣・古・高『』ニガワライ

鳥海「クスッ

提督「だからー」

提督、鳥海のすぐ目の前へ

鳥海「……司令官さん？」キョトン

提督「チュツ

提督、鳥海のおでこへキス

全員『!?!?!』

提督「私からの祝福だ……さ、早くドックへ行きなさい」

鳥海「はい♡ 司令官さん、ありがとうございます♡」ニコニコ

青葉「青葉としたことがシャッターチャンス逃しました／＼

／

加古「あゝ、やべゝ……辛い物頂戴／＼／＼」

天龍「んなのアリかよ／＼／＼」

愛宕「大胆ねゝ、良いもの見ちゃった／＼／＼」

衣・古・高『（攻撃範囲が広すぎる／＼／＼）』ハワワ

鳥海「ゝ♡」キラキラ

その日の夜――

◇提督&鳥海の部屋◇

提督「なあ、鳥海……」

鳥海「はい、何ですか?♡」ニコニコ

提督「部屋に戻るなり有無を言わさずこの状態になったが……これには何の意図があるんだ?」

提督、鳥海に膝枕をされるゝ

鳥海「昨晚、司令官さんはあまりおやすみしてませんでしたから、僭越ながら私が癒してあげてるんです♡」ナデナデ

提督「そうか……」

鳥海「私では司令官さんを癒すには役不足でしょうか?」シヨボン
提督「そう悲しそうな顔をしないでくれ……とても癒されている

よ」ホツペナデナデ

鳥海「良かったです♡」ニパツ

提督「辛くはないか?」

鳥海「ついさつきしたばかりですよ? 心配し過ぎです♡」クスクス

提督「そうか……／＼／＼」

鳥海「司令官さんのお陰で今回も私がMVPを取れました。本当にありがとうございました♡」

提督「私は手助けくらいしかしていない。全ては鳥海の方だ」ホツペナデナデ

鳥海「勿体無いお言葉です♡」スリスリ

提督「今回の作戦成功に伴い、明日は午前中で仕事が終わる。良かったら明日は午後からどこか出掛けるか？」

鳥海「んん…出掛けるのもいいですけど、私は司令官さんとゆっくり過ごしたいです♡」

提督「気を遣う必要はないんだぞ？」

鳥海「ふふ、ならお一つお願いをしてもいいですか？」

提督「何だ？」

鳥海、顔を提督の耳元に

鳥海「いっっぱい愛してもらいたいです♡」ボソツ

提督「!?／／／／」

鳥海「今からでも私はいいですよ♡」ニコニコ

提督「お前って奴は／／／／」カァー

鳥海「えへへ♡」

提督「夕飯を食べたらな…／／／／」テレツ

鳥海「ではスタミナ料理にしますね♡」

提督「ああ／／／／」

鳥海「♡」ニコニコ

そしてその夜めちやくちや（ryー）。

鳥海 完

最上とケツコンしました。

某海域――

↳艦隊帰投中↳

最上「今回の作戦も上手くいったね♪」

山城「そうね。姉様が居ないのが心残りだけど……」

時雨「帰る頃には入渠も終わってるさ」

満潮「今回は最上が頑張ったから、扶桑が居なくても何ら問題無かったわ」

最上「えへへ♪」

朝雲「そりゃあ、艦隊唯一の指輪所持者だからね」ニヤニヤ

山雲「司令さんのく、奥さんだもんね」ニコニコ

最上「や、やめてよ、二人共／＼／＼」

山城「そう言いつつも嬉しそうじゃないの……その幸せそうな顔が妬ましいわ」フッフ

時雨「まああれだけ仲良かったら妬げちゃうよね♪」

最上「もく、やめてよく／＼／＼」

満潮「ま、奥さんの定めよね。頑張りなさいな」フフ

最上「えく／＼／＼」

↳そして無事に帰投!↳

◇埠頭◇

扶桑「みんなお帰りなさい」ニコツ

山城「姉様！ お出迎えありがとうございます♪」キラキラ

最上「扶桑さん、提督は？」

扶桑「提督なら執務室でお仕事してるわ。忙しそうだったから私が代わりにみんなのお出迎えに来たの。最愛の人じゃなくてごめんなさいね」クスツ

最上「べつ、別にそういう意味で言ったんじゃないよ／＼／＼」

時雨「あはは、今日の最上はからかわれてばかりだね♪」

満潮 「今日のつて言うかいつもでしょ」クスクス
朝雲 「そうそう♪」

山雲 「そうよね〜♪」

山城 「じゃあ、補給と入渠してから報告しに行きましょうか。最上は無傷だし、補給してドックで精密検査したら、提督に会いに行きなさいな」ニコリ

最上 「あ、ありがと／＼／＼」エヘヘ

全員 『(乙女の顔してる)』ホホエマー

〜最上、皆より一足先に執務室へ〜

◇執務室◇

ガチャラー

最上 「提督〜、ただいま〜」ヒョコ

シーン……

最上 「トイレにでも行ったのかな？」キョロキョロ

最上 「あ」

提督 「」Z z z

〜提督、執務室のソファで居眠り中〜

最上 (提督、手袋外してる……)

〜最上、ふと提督の右拳の傷痕を見る〜

最上 「ふふっ」

◆回想◆

扶桑 『申し訳ありません!』

山城 『姉様だけのせいではありません!』

最上 『ごめん、提督……作戦失敗しちゃって……』

満潮 『あんたが変な指揮したから失敗したのよ! 次からはちゃんとしなさいよね!』

時雨 『言い過ぎだよ、満潮』

朝雲 『次に活かしましょう……』

山雲 (当日秘書艦) 『取り敢えず、みんな入渠でいいかしら?』

提督『ああ、全員入渠だ。今回は俺の作戦が甘かった。みんなすまなかった！　そしてみんな生きて戻ってきてくれてありがとう！』フカブカ

扶桑『勿体無いお言葉です』ニコリ

山城『ふ、ふんっ……姉様だけ残して沈むもんですか／＼／＼』

最上『こちらこそありがとう、提督♪』

時雨『次は頑張るからね』ニコツ

満潮『わ、分かってればいいのよ！／＼／＼』プイッ

朝雲『次もまあ……がつ、頑張ってあげるわ／＼／＼』

山雲『ニコニコ

』艦隊はドックへ行き、損傷の少なかつた最上は一足先に執務室へ

◆執務室へ繋がる廊下◆

最上『あれ、山雲？　どこか行くの？』

山雲『はい、司令さんに頼まれて、みんなのおやつを間宮さんに頼みに行くの』

最上『そっか、提督は執務室に居るよね？』

山雲『居ますよ』ニコツ

最上『分かった、ありがとう♪』

山雲『はくい』ノシ

◆執務室外・ドア前◆

最上『フウ

ドゴオ！　ドゴオ！

最上『ビクッ

カチャー！

最上『？』チラッ

提督『くそ！　なんて様だ！　仲間を戦地に送って、大怪我させて

！　何が提督だ！』ダンッ！

』提督、執務室の壁を殴る』

ボタン!

最上『提督!』

提督『最上!?!』サツ↑手を隠す

最上『隠しても無駄だよ……見てたから……』

提督『……』

最上『ごめんなさい。ボク達のせい……』

提督『今回ののは全て俺のせいだ。お前達は何も悪くない』

最上『提督……』

提督『見苦しい姿を見せたな、すまん』

最上『謝らなくていいから、まずは手当てしよ? 今救急箱持つてくるから』

提督『重ね重ね、すまない』

最上『ニガワライ』

く手当て完了く

最上『提督、ボク強くなる』

提督『ん?』

最上『提督がこんなことしないように強くなるの!』

提督『変に気を遣わせて悪いな。俺も更なる努力をするよ』

最上『なら、一緒に頑張ろうよ!』

提督『そうだな、お互いに強くなろう!』

最上『うん!』

◇現在◇

最上(あれからずっと一緒に歩んで来たよね♡)

提督「」Zzz

最上(そして気付いたら、提督のことが好きになっちゃったんだよね♡)テレリ

最上(今でも大好きだよ、提督♡)

ちゅっ♡

く最上、提督にキスく

提督「んあ……あ、最上。帰ったのか……」ボケエ

最上「キスで起きるのはボクの役目のはずでしょ?♡」ニコリ
提督「すまん……作戦が成功したって聞いて気が緩んじまったみたいだ」ムクリ

最上「最近忙しかったもんね、仕方ないよ♡」ナデナデ

提督「ま、朝は俺がキスで起こしたからおあいこだな♪」ニツ

最上「ふふ、そうだね♡」ギューツ

提督「さて、んじゃ今日の作戦のおさらいだ! 次はもっと被害を
少なくするぞ!」

最上「うん♡ ボクももつと強くなるよ!♡」

提督「あ、その前に最上」チヨイチヨイ

最上「ん? 何、提督」

ちゅっ♡

く提督、最上にキスく

提督「おかえり、最上♪」ニツ

最上「ただいま、提督♡」ニパツ

◇執務室外・ドア前◇

提督『さて、愛しのお姫様の為に頑張るか!』

最上『もく、恥ずかしいよ!♡』

／ラブラブキヤツキヤツく

扶桑「ふふ、入りにくいわね」

山城「夫婦になってラブラブ度が増しましたよね」ニガワライ

満潮「ったく、馬鹿夫婦なんだから」クスツ

時雨「取り敢えず今は二人きりにさせてあげようか」ニコツ

朝雲「賛成♪」

山雲「なら司令さんの名前で甘い物食べよう♪」

山城「いいわね、それ」

満潮「たらふく食ってやる」

山雲「レッツゴ〜♪」

扶・時・朝『ニガワライ

最上 完

三隈とケツコンしました。

某鎮守府、昼―

◇鎮守府本館の廊下◇

三隈「クマクマくまりんこ♪」ルンルン

♪三隈、スキップで廊下移動♪

三隈（執務室に戻ったら提督とランチですわ♡）

三隈「チラッ

♪ケツコン指輪キラッ☆

三隈「くまりんこ♡」デヘヘ

◇そこから少し離れた所◇

最上「三隈はかなりご機嫌だね♪」

鈴谷「そりやあご機嫌っしょ♪」

熊野「やつと提督とごケツコンされたのですから、あの浮かれよう

も仕方ありませんわ」クスクス

最上「ケツコン前からもうケツコンしてるんじゃないかって思うくらいラブラブだったからね♪」

鈴谷「毎晩毎晩泣きながら部屋に戻って来てたもんね♪」ニシシ

熊野「そして毎朝毎朝キラキラして部屋を出て行かれるんですものね」フッフ

鈴谷「ケツコンしたことで二人は晴れて同じ部屋で暮らせるようになって良かったよね♪」

熊野「ですわね♪」

最上「幸せで何よりだよ♪」ウンウン

♪姉妹は三隈の幸せを心から祝福した♪

◇執務室◇

コンコン―

提督「入りなさい」

ガチャ―

三隈「失礼します。三隈、只今戻りました。言われていた報告書は全て大淀さんに提出して参りました」ニツコリ

提督「お疲れ様。少し待っていてくれ。みんなの報告の途中だから」

三隈「了解致しました」ニパツ

提督「では、報告の続きをしてくれ」

天龍「おう……取り敢えず遠征は無事に終わったからよ、今度は出撃させろよ」ニヤリ

龍田「もお、天龍ちゃんつたら」クスクス

提督「すまないが、二人には暫くの間、遠征部隊を頼みたい」

天龍「おいおい、そりやないんじやないか？ オレ達は戦場じゃ役立たずってか？」アン？

／天龍、提督の肩に腕を回す／

三隈「ムッ

提督「そうは言っていない。ただ二人は練度が他の軽巡洋艦達とは違って高いからな。そんな二人になら遠征任務が不慣れな駆逐艦を安心して任せられるんだ」

天龍「な、なくんだ、そういうことならまあ、仕方ないな／／／

／ウリウリ

提督「こら、頭をそんなに揺するな！」

龍田「ふふふ♪」

提督「龍田も笑っていないで止めてkー」

球磨「クマ〜！ なら球磨達はそろそろお休みが欲しいクマ〜！」

多摩「そうにやそうにや！」

／そこに球磨と多摩も加わり提督はもみくちやに／

三隈「ムウ

三隈（三人共、三隈の提督にベタベタし過ぎです）プンブン

提督「三隈〜！ 助けてくれ〜！」

三隈（やはり提督は三隈を頼ってくださいるのですね♡）

三隈「分かりました♪ 今お助け致しますわ♪」カチャ

三隈E. 55口径20.3cm連装砲

天龍「うお!?! いきなりなんてもんこつちに向けてんだよ!?!」

球磨「暴力反対クマ〜！」

多摩「ちよつとしたおフザケにや！」

龍田「あらあら〜♪」クスクス

〜 天龍達はすぐさま提督から離れる〜

提督「と、とにかくだな……天龍達はこれまで通り暫くは遠征慣れしてない駆逐艦達に同行し、遠征のいろはを教えてください」

天龍「お、おう！」ガクブル

龍田「了解しました」ニコニコ

提督「そ、それから球磨達は高練度の駆逐艦達と重要な遠征に行つてもらいたい。それが終わればちゃんと休みをあげよう」

球磨「わ、分かったクマ！」ガクブル

多摩「や、約束にや！」ガクブル

〜そして天龍達は報告を終え執務室を後にした〜

提督「」フウ

三隈「お疲れ様でした♡」ニッコリ

提督「あ、ああ、ありがとう、三隈。助かったよ」ニガワライ

三隈「くまりん♡」ニパツ

三隈「それにしても皆さん、提督に引つ付き過ぎですわ……三隈の提督なのに……」ムツスー

提督「そ、そうだな」カワイタエミ

三隈「提督に三隈以外の娘の匂いが付いてはいけませんわ♡ 今三隈の匂いで上書きしてあげますわ♡」

〜 三隈、提督の膝に乗りだしいしゅきホールド〜

提督「み、三隈!?!/ / /」

三隈「提督は優し過ぎます……三隈以外に触れられて、お辛かったですわよね♡」スリスリ

提督「そんな大袈裟な……」

三隈「それとも……」

提督「」ゾツ

三隈「嬉しかったんですか？」ハイライトオフ
提督「そ、そんnー」

三隈「そんなことありませんわよね？ 三隈の提督がそんなこと思
うはずありませんわ。だって提督は三隈だけを愛してくれると誓っ
てくれたんですもの。三隈には提督だけ。提督にも三隈だけ。なの
に皆さんはそんな三隈の提督に触れて……あんなにあんなにあんな
にあんなにあんなにあんなにあんなにあんなにあんなにあんなにー」ブツブツ

提督「三隈」

三隈「はい、提てー」

ちゅっ♡

く提督、強引に三隈の唇を奪うく

三隈「ん♡ んむう♡ ちゅ……んっ……ちゅちゅっ……んはあ♡

提督、いきなり激しいですわ♡」ハアハア

提督「少しは落ち着いたか？」

三隈「はい♡」ンツ

提督「あれくらいいつものことだ。それに私は三隈一筋だ。心配す
るな」ナデナデ

三隈「提督♡」アツ

(そんなに三隈のことを……♡) オメメハート

提督「では私達もそろそろ昼食にー」

三隈「提督♡」ハアハア

提督「どうした三kー」

がしっ♡↑三隈、提督を更に強くホールド

三隈「先に三隈を頂いて(意味深)ほしいですわ♡」

提督「なっ!?!／／／／」

三隈「提督があんな情熱的な口づけをしたせいですわ♡ 責任とつ
てくださいいね♡」オメメハート

提督「分かった」グツ

三隈「あん♡ 沢山愛してくださいまし♡」ギューツ

提督「勿論だとも」ニカッ

三隈「く♡」キュンキュン

そして夫婦はお昼時間一杯まで三隈の立体的な航空砲雷撃戦(意味
深)をし、お昼は仲良くレーションを食べることになったそうなー。

三
限
完

鈴谷とケツコンしました。

某鎮守府、昼ー

◇提督&鈴谷邸（鎮守府内）◇

鈴谷「く♪」コトコト

く鈴谷料理中く

鈴谷「アジミ

鈴谷「よし♪」

時計へおう、もう昼飯の時間だぞ！

鈴谷「うわっ、やっぱ！ 早く提督に持ってかなきゃ！」

く鈴谷、手料理を持って提督の元へく

◇執務室◇

最上「提督、資料の整理終わったよ♪」

三隈「誤字脱字のチェックも終わりましたわ」

熊野「少し過ぎちゃいましたけど、これで午前中のお仕事は終わりでしてよ」ニコリ

提督「おおく、やっと昼飯かあく」ノビー

最上「あつはは♪ 提督がもたもたしてるからだだよ♪」

三隈「ふふ、まあ量も量ですから、仕方ありませんわ」

熊野「どこぞの姉が専業主婦なんてのになってしまわれたのも原因ですわね」クスクス

提督「いやあ、あはは……」ニガワライ

コンコンコンコンコンー

最上「噂をすればだね」クスクス

三隈「お約束の五回ノックですわ♪」

熊野「『愛してる』のサインでしたかしら？」「ニヤニヤ

提督「いやあ……あはは……ど、どうぞく」タジタジ

ガチャー

鈴谷「お昼持ってきたよ！ 提督♡」ニパッ

提督「あ、ありがとう／＼／＼」デレッ

最上「ニヤニヤ

三隈「本日もお熱いですわ」ニコリ

熊野「夫婦揃って締りのないお顔ですこと」クスクス

鈴谷「？」クビカシゲ

提督「い、いや、こっちの話だよ／＼／＼」アセアセ

最上「じゃあ、ボク達もお昼休憩もらうね」

三隈「ご夫婦のお時間の邪魔になってしまいますものね」ニコニコ

コ

熊野「どうぞ、夫婦仲良く、ごゆるりと」ウインク

提督「あ、ああ、またね／＼／＼」ノシ

鈴谷「またね♪」ノシ

／＼二人っきりの時間／＼

鈴谷「今日はデミたまハンバーグにしたんだよ♪」ジャーン

提督「うわ、美味しそう！」

鈴谷「美味しそうじゃなくて美味しいの♡」ウインク

提督「そ、そうだね／＼／＼」

／＼夫婦仲良く昼食タイム／＼

鈴谷「召し上がれ♪」

提督「頂きます」人

提督「パクン

鈴谷「ニコニコ

提督「うん♪ すっごく美味しいよ！」パクパク

鈴谷「あつたり前じゃくん♡ おかわりもあるからじゃんじゃん食

べてね♡」

提督「勿論だよ！」ガツガツ

鈴谷「♡」ニへへ

鈴谷「あ、ねね」クイクイ

提督「ん？」ムグムグ

鈴谷「今度のお休みっていつか分かった？」

提督「ごくくん……えつとね……来週の頭なら休めるよ」

鈴谷「やったあ♪ じゃあさじやあさ、デート行こ♡ デート♡」キラキラ

提督「どこか行きたいところでもあるの?」モグモグ

鈴谷「うん♡」

提督「遠いところ?」

鈴谷「ううん、駅前のショッピングセンター♡」

提督「また何か欲しいものでも?」

鈴谷「欲しいものじゃないし! てか、鈴谷そんなにねだってません♡!」プンプン

提督「そうかな? この前はワンピース買ったし」

鈴谷「ウグツ

提督「その前は新作コスメセット買ったし」

鈴谷「グハツ

提督「そんでそれより前はペアリングだったよね?」

鈴谷「ウボアー

鈴谷「た、たまたま買って欲しいのが多かっただけじゃん! 男なんだからそんなネチネチ言わないでよ!」

提督「んく……確かにそうかもね。ごめんね」ペコ

鈴谷「べ、別に謝らなくてもいいし……」アセアセ

提督「鈴谷は優しいなあ」ニツコリ

鈴谷「キューーン

提督「料理も美味しいし、家事もやってくれるし……こんなお嫁さんをもらえて幸せ者だなあ♪」

鈴谷「提督だつて……」

提督「?」クビカシゲ

鈴谷「て、提督だつて、優しいし、頭いいし、鈴谷の料理美味しそうに食べてくれるし、頭の撫で方ハンパないし、誰にも負けない鈴谷の自慢の旦那だからねっ〓〓〓〓」カー

提督「あはは、ありがとう。鈴谷にそう言ってもらえて嬉しいよ」ニコニコ

鈴谷「はうっ〓〓〓〓」

(あく、提督の笑顔が私を駄目にする〜♡) キュンキュン
〜御馳走様でした!〜

提督「はあく、美味しかった〜」マンゾク

鈴谷「へへーん♡」ドヤア

(二回もおかわりしてくれた♡) ニヨニヨ

提督「ねえねえ、鈴谷」クイクイ

鈴谷「なにになに〜?♡」

提督「デザート貰っていい?」

鈴谷「え」

ドンツ↑壁ドン

鈴谷「デザートって、鈴谷?♡／／／」ドキドキ

提督「駄目かな?」ニコニコ

鈴谷「食いしん坊さん♡ 太っちゃうぞ〜♡」ニコニコ

提督「鈴谷が可愛いから悪いんだよ」ホツペナデナデ

鈴谷「へへ♡ あったり前じゃーん♡」ニツコリ

提督「頂きます♪」ホツペチュツ

鈴谷「あん♡ へへ♡ 召し上がれ♡」ホツペチュツ

◇執務室外・ドア前◇

提督『鈴谷〜!』ズンズン

鈴谷『もつと〜♡』ホールド

／ズンズンギシギシ

最上「もう少し休憩続くね〜」ニガワライ

三隈「馬に蹴られるのは嫌ですものね」ニコニコ

熊野「はあ、せめて他でやってほしいものですわ」ヤレヤレ

最上「まあ、提督は鈴谷大好きだからね」ニツコリ

三隈「鈴谷さんも提督が大好きですものね」クスクス

熊野「似た者同士ですわね」フフフ

それから夫婦はキラキラ状態で執務室から出てきたと言うー。

鈴谷 完

熊野とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

熊野「提督、もうお昼ですわ。昼食に致しましょう」

女提「あ、ちよつと待って。あと少しでこの書類終わるの」「カキ

カキ

熊野「レディを待たせるなんて、いけないことですわ」「ヤレヤレ

女提「ご、ごめんね」ニガワライ

熊野「構いませんわ。今に始まったことではないですもの」「フフ

女提「ニガワライ

ー」。

女提「終わった終わった」「トントン

熊野「お疲れ様でした」ニコツ

女提「んじや、食堂に行こうか」ニコツ

熊野「その必要はありませんわ」

女提「？」

熊野「提督があまりにも待たせるので、私わたくし自ら作ってきて差し上

げましたわ」ドヤア

女提「わあ、ありがと」ニコニコ

熊野「キユン

熊野「こ、これくらい淑女の嗜みですわ／／／」プイツ

女提「今夜は私が作るね」ニコツ

熊野「駄目ですわ」

女提「？」

熊野「い、一緒にお料理したいですわ／／／」ウツムキ

女提「じゃあ一緒に作るよ」ナデナデ

熊野「と、当然ですわね♡／／／」ニコニコ

くそんなこんなで昼食く

熊野「どうです？ 私わたくしが丹精込めて作った焼き鮭定食のお味は？」

ドキドキ

女提「うん♪ 美味しい♪」ムグムグ

熊野「♡ 当然ですわね♡」ニヨニヨ
ー。

女提「……熊野は最近和食が好きだね♪」モグモグ

熊野「そうかしら？」パクン

女提「そうだよ。初めて会った頃は洋食を好んで食べてたもん」

熊野「……言われればそう、ですわね……」

女提「味覚でも変わった？」

熊野「変えられた、の方が近いですわね」クスクス

女提「??？」

熊野「提督は和食が好きですわよね？」

女提「うん」

熊野「そのせいですわ」ニコツ

女提「??？」

熊野「はあ……提督は鈍感で困りますわ」ヤレヤレ

女提「え〜」ニガワライ

熊野「提督とケツコンして、一緒に暮らすようになって、わたくし私の味覚は和食を好むようになりましたのよ？」ニコツ

女提「そつかく、私色に染まっちゃったかく♪」ニコニコ

熊野「そうです……熊野の身も心も、何かもが提督色ですわ♡」ニコツ

女提「素直な熊野可愛い♪」ナデコナデコ

熊野「ちよ、あん♡ いきなり頭を撫で回さないでくださる？♡」ニヨニヨ

女提「良いではないか、良いではないかく♪」ナデコナデコ

熊野「んんっ……もう♡／／／」デヘヘ
ガチャー

鈴谷「チーツス♪ 少し遅くなったけど、報告書持って来たよ♪」

熊野「あ／／／」ウツムキ

女提「あく、やつと持ってきた〜。遅いよ〜」

鈴谷「めんごめんご♪ ちゃんとこうして持ってきたんだし、許してよ♪」ハグ

女提「調子いいんだから」ナデナデ

鈴谷「へへ♪ んじゃ、机に置いてくね！」

女提「は〜い、お疲れ〜♪」

鈴谷「それ鈴谷の真似〜？ 全然似てないし〜」アハハ

女提「いい線いってたと思ったのにな〜。では、帰り際に本家を、どぞ〜♪」

鈴谷「んじゃ、お疲れ〜♪」ノシ

女提「お疲れ様」ノシ

鈴谷「あ、熊野〜」

熊野「な、何かしら？／＼／＼」

鈴谷「撫でられてる時の熊野、可愛かったよ♪」ウインク

熊野「／＼／＼」ボンツ

鈴谷「んじゃね〜♪」

パターンー

熊野「／＼／＼」プシュー

女提「良かったね♪」ナデコナデコ

熊野「〜♡／＼／＼」↑嬉し恥ずかしい
ー。

〜食後のティータイム〜

熊野「どうぞ♪」

女提「ありがと」ニコツ

熊野「今日はラベンダーにしましたの」フフ

女提「いい香り〜」ホッ

熊野（可愛いお顔ですわ♡）

女提「頂きます♪」コクツ

熊野「♡」ニコニコ

女提「うわあ、ラベンダーって感じ〜！」

熊野「うふふ、もっと品のあるご感想がほしいですわね」クスクス
女提「私にはそんなの無理無理」ニガワライ

熊野 「前から知ってますわ♪」コクッ

くまつたりしつツイチャイチャク

女提 「ねえねえ、熊野く」

熊野 「？」

女提 「大好き♪」ニパッ

熊野 「私は愛わたくししてますわ♡」ニパッ

女提 「負けたく」アハハ

熊野 「圧勝ですわね♡」フフン

女提 「ねえねえ、熊野く」

熊野 「？」

女提 「愛してる♪」ニパッ

熊野 「愛してますわ♡」ニパッ

女提 「同じく♪」エヘヘ

熊野 「同じですわね♡」クスクス

ー。

女提 「さて、そろそろ午後の仕事に取り掛からなきゃねく」

熊野 「そうですね。では……んく♡」クチビルサシダシ

女提 「はくい♪」チュッ

熊野 「それだけですの？♡」

女提 「もつとほしいの？」

熊野 「聞かなくても分かるでしょうに、イジワルしないでください

な♡」ウワメツカイ

女提 「あはは、ごめんね♪」ナデコナデコ

熊野 「ならば、今度は長く……んく♡」

女提 「ちゅっ……んっ……ちゅっ……っ……んんっ……」

熊野 「あふ……むう……んっ……んあ……はむ……っ……っ……ん

はあ♡」トローン

女提 「お気に召しましたかな、お嬢様？」ホツペナデナデ

熊野 「提督の愛で、もういっぱいですわく♡」オメメハート

女提 「午後の仕事の補佐、お願いね♪」

熊野 「この熊野にお任せを♡」ホツペチュッ

女提「お返し♪」ホッペチュツ

熊野「あん♡」

◇執務室外・ドア前◇

熊野『提督♡ 提督♡』チュツチュツ

女提『熊野♡♪』チュツチュツ

／ラブラブチュツチュツ＼

三隈「まだ入れませんわね」ニコニコ

最上「そ、そうだね」ニガワライ

鈴谷「ああなると二人は長いよね、熱い熱い」ニシシ

→ 出撃許可を貰いにきた

最上「もう少し待機してよっか？」

三隈「ならば伊勢さん達にも教えなくてはいけませんね」

鈴谷「あの二人はこうなってるの知ってて来なかつたんじゃないの？」

最・三『あゝ』ナツトク

そして夫婦が仕事を再開したのは、それから一時間後だったとかー。

熊野 完

利根とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

利根「そこで吾輩が颯爽と砲撃し、筑摩達を守ったのじゃ！ どうじゃ？ 凄いか!? 凄いじゃろ！」

利根、提督の膝の上に座り武勲自慢

提督「うんうん……利根は本当に頼りになりますね」カキカキ
提督、仕事をしながら利根の話を聞く

筑摩「ニガワライ

→利根と帰投報告に来た

筑摩（姉さん……提督のお邪魔になってます……）

利根「それでな、ここからが凄いいんじやがー」ペラペラ

提督「ふむふむ……それは本当に凄いですね。利根のお陰ですね」
ナデナデカキカキ

利根「そうじゃろうそうじゃろう♡」ゴマンエツ

筑摩「ニガワライ

利根「つと、つい話が長くなってしまったな……では、補給と修復
に行つて参るぞ！」

提督「はい、行つてらっしゃい。筑摩もゆつくりしてきてください
ね」

筑摩「あ、はい……失礼します」ペコリ

利根「ではの！」ノシ

提督「はい」ノシ

◇ドック◇

利根「くはく、やはり出撃後の入渠は格別じゃな♪」

筑摩「そうですね」

利根「しかし、提督と一緒にじゃないと寂しいのう」パチャパチャ
飛龍「相変わらず提督好きだね、利根は」クスクス

蒼龍「鎮守府では名物夫婦だからね」アハハ

谷風「熱いね熱いね」ニシシ

浦風「仲良き事は美しき哉……じゃね」フフ

筑摩「でも、姉さん。提督のお仕事のお邪魔はいけないと思いますよ」

利根「む？ 吾輩がいつ提督の邪魔をしたと言うのじゃ？」

筑摩「先程の報告で姉さんはずっと提督の膝の上に座って居たじゃないですか」ニガワライ

利根「？ あれくらい邪魔ではなからう？ 何せ吾輩達は夫婦なのだからな！」ドヤア

蒼龍「当然って感じだね」アハハ……

飛龍「それが当たり前なんだね」ニガワライ

浦風「利根さんらしい反応じゃあね」クスクス

谷風「普段からあだもんね」ニガワライ

筑摩「はあ……提督は優しい方ですから何も言えないのかもしれないが、私から見たら十分にお邪魔になってましたよ？」

利根「むむ……」

筑摩「提督の妻だと言うのなら、もう少し夫を気遣ってあげたらどうですか？」

利根「そつ、そうか……ぜ、善処するのじゃ……」

蒼・飛『（無理なんだろうな）』ニヤニヤ

浦・谷『（あれは無理そうな顔だ）』ニガワライ

筑摩（善処するだけなんですな……）ハア

利根「うゝむ……」ウデクミ
ゝそんなこんなで入渠終了！ゝ

◇執務室◇

ガチャー

利根「今戻ったぞ！」

提督「お帰りなさい。丁度お茶にしようとしてたところです。利根の分も淹れますね」ニコツ

利根「うむ、よろしく頼むのじゃ！」
ー。

提督「どうぞく」つお茶

利根「感謝するのじゃ♪」ウケトリ

提督「いえいえ♪」

く提督、自分の席に着くく

利根「ソワソワ

提督「？ 膝の上に座らないんですか？」

利根「し、仕事の邪魔にならぬか？」

提督「今更ですね」アハハ

利根「う、うるさい／＼／＼」プイツ

提督「邪魔ならば断ってますよ。そんなこと気にせずこつちへいらつしやい」オイデオイデ

利根「う、うむ……♡／／／」オズオズ

ちよこん↑利根、提督の膝の上へ

提督「♪」ナデナデ

利根「♡」ゴロゴロ

利根「邪魔ならちやんと言うんじゃぞ？ 吾輩は提督の妻なのだからな？」ギューツ

提督「お心遣いありがとうございます」ニコツ

利根「夫を気遣うのは妻の勤めじゃからな」フフン

提督「頼りになる奥さんで私は果報者ですね♪」ナデナデ

利根「当然じゃな♡」ニコニコ
ー。

利根「く♡」ゴキゲン

く利根、提督の膝の上を堪能中く

提督「く♪」ナデナデカキカキ

く提督、利根を愛でながら執務中く

利根「のう、提督よ」

提督「はい？」

利根「本当に邪魔になつてはいないか？」

提督「はい♪ 利根をこんなに近くに感じながらだと、仕事が捗りますから」ナデナデ

利根「なら良いのじゃが……」ギューツ

提督「何かありましたか？」

利根「うむ……筑摩にちと言われたのじゃ。提督にこうしているのは筑摩から見れば十分に邪魔になっていると……」

提督「フムフム

利根「じゃ、じゃから……ええつと……」モジモジ

提督「不安になった。といった所ですか？」

利根「すつ、少しじゃ少し！ 筑摩に言われたからではなく、妻としてだな……！」アセアセ

提督「クスクス

利根「なっ!!? 何故笑うのじゃ！ 吾輩は真剣にー」

提督「不安になる必要はありませんよ」

利根「」

提督「先程も言ったように、利根とこうしていると仕事が捗ります。それに好きな女性に甘えられて嫌な男性はいませんよ」ニッコリ

利根「提督……♡／／／／」キyunキyun

提督「ですから不安がらずに、これまで通り、素直に甘えて来てください。私はそのままの利根が好きですから」ナデナデ

利根「すつ、狡いぞ！ わつ、わわ、吾輩の方がもつともつと提督を好いておる！ 言葉では表せないくらい愛しておるぞ！」プンプン

提督「はい、分かってますよ♪ こんなにも可愛らしい奥さんに愛してもらえて、私は本当に果報者です」ニコニコ

利根「♡／／／／」ズキューーン

クイクイ↑利根、提督の服を引っ張る

提督「？」

利根「その笑顔は狡いぞ……／／／／」

提督「すみません」ニッコリ

利根「接吻してくれたら許してやる♡／／／／」デレデレ
提督「喜んで♪」ホッペナデナデ

利根「ちゃんと長くしないと怒るからな♡／／／」クチビルサシ
ダシ

提督「分かっていますよ」チュツ

利根「ん♡」ギューツ

◇執務室外・ドア前◇

利根『もつと♡ もつとじゃ♡』チュツチュツ

提督『ええ、分かっています♪』チュツチュツ

／ラブラブチュツチュツ＼

筑摩「やはり無理でしたね〜」アタマカカエ

蒼龍「仕方ないよ」アハハ

飛龍「今に始まったことじゃないしね♪」

谷風「砂糖吐きそう」ウツプ

浦風「ほれ、バケツ」つバケツ

→ 出撃時の報告書を提出に来た

筑摩「はあ、困った夫婦ですね……」ニガワライ

蒼龍「んじやもう少し後で来ようか」ニコツ

飛龍「そうね♪」

谷風「につがいに抹茶が飲みたい……」

浦風「うちは辛いもんがほしいけ……」

夫婦の熱愛振りに、艦隊のみんなは揃ってその場を後にするしかなかったー。

利根 完

筑摩とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇艦娘寮・一室◇

利根「は？」

筑摩「ですから、提督にもっとだらしなくなってもらいたいです」

利根「……いや、その……はあ？」

筑摩「て・い・と・く・に――」

利根「いやいや、耳が遠いから聞き返してる訳じゃないのじゃ！」
ミキーン

筑摩「あ、そうでしたか」ニコツ

利根「だらしなくなったら、吾輩達が困るではないか。提督は鎮守府の顔じゃぞ？ それがだらしなくなっては他の鎮守府やここに所属する艦娘達に示しがないではないか」

筑摩「とねえさんは分かってません！」ビシッ

利根「な、何がじゃ？」タジッ

(とねえさん?)

筑摩「私は提督のお世話をしたんです！ 歯茎にお魚の骨が刺さったのを取ってあげたり」

利根「ウグッ

筑摩「暑くて弱りつつもごねている所にアイスやラムネを持って行ってあげたり」

利根「グアッ

筑摩「大晦日の大掃除で大の字が付いているだけで面倒だと怠けている代わりにお掃除してあげたり」

利根「ウボァー

筑摩「色々お世話をしたんですよ！ 姉さん？ 聞いてますか？ とねえさん！」ユサユサ

利根「お、おう……聞いておるぞー」

(吾輩はそんなにも腑抜けていたと言うのか……) ハイライトオ

フ

筑摩「提督はいつもキッチンとしていますから、私がお世話する機会が無いんですよ……」

利根「……て、手が掛からなくて良いではないか」

筑摩「手が掛かるから良いんじゃないですか!」

利根「そ、そうか……」

筑摩「なので、どうしたら提督をだらしなく出来るかを相談に来たんです!」

利根「左様か……しかし……無理ではないか?」

筑摩「どうしてですかっ!」

利根「提督は真面目な御仁じや。現に筑摩とケツコンするまで、お主とは手さえ繋がらなかったではないか」

筑摩「はい。硬派で素敵ですよね♡」キヤツ

利根「……それに、ばれんたいでいとか言う日も、筑摩からのチョコレート以外誰からも、義理ですら貰わなかったのだぞ?」

筑摩「はい。一途で素敵ですよね♡」デレデレ

利根「……それに、家事も積極的にしてくれておるのだろうか?」

筑摩「はい。いつも前線で闘っているんだから、家にいる時くらいは自分に何もかも委ねさいと……本当に理想の旦那様ですよね♡」クネクネ

利根「(#≡▽≡)」プチツ

筑摩「可愛い笑顔ですね、とねえさん♪」

利根「筑摩! お主は惚気に来たのか!? 惚気に来たんじゃない!? 相談ではないのだな!」ウガー

筑摩「惚気てなんかいませんよ! 私は真剣です!」プンブン

利根「ならこんな話は無駄じゃ! 無駄無駄無駄無駄無駄!」

筑摩「どうしてですか!」

利根「良いか筑摩よ……提督のあの性格は一生変わらない」

筑摩「それを変えたくて相談に……」

利根「筑摩……良くく聞くのじゃ」ジツ

筑摩「」コクリ

利根「お主は今まで吾輩に淒く尽くしてくれた。そんなお主が今は
尽くされる立場に変わって、それが不安なのじゃ」

筑摩「」

利根「良いではないか。好きな者に尽くされる。それが嫌ならお主
も吾輩に尽くしてくれていた時のように振る舞えば良いではないか」

筑摩「とねえさん……」

利根「提督が尽くして、筑摩も尽くす。理想の夫婦だと吾輩は思う
ぞ？」

筑摩「分かりました。私、提督に負けず尽くします！」

利根「その意気じゃ！」

そしてその日の夜――

◇提督&筑摩邸（鎮守府から約徒歩十分）◇

く夫婦仲良く帰宅く

提督「ただいま」

筑摩「お帰りなさい」ニコニコ

提督「筑摩もお帰り」

筑摩「只今戻りました」ペコリ

く居間へ移動く

提督「さて、では先に風呂を洗ってくる。筑摩は――」

筑摩「私は晩御飯の準備をしますね」ニコツ

提督「いや、それくらいは私が……」

筑摩「私、決めましたから」ニコリ

提督「何をだね？」

筑摩「提督が私に沢山尽くしてくれるので、お返しに私も沢山尽く
します♡」ウインク

提督「気持ち嬉しいが……」

筑摩「提督はもっと私に甘えても良いと思います」

提督「」

筑摩「真面目なのはとても良いことです。しかし、ずっと肩肘を
張っているは安らげないではありませんか」

提督「」

筑摩「私が尽くしては安らげませんか」

提督「いや、そんなことは……」

筑摩「ならば私に甘えてください。せつかく夫婦になれたんですから、旦那様にはちやんと甘えられたいです」

提督「本当に良いのか……?」

筑摩「はい♡」ニッコリ

提督「では……早速、お願いがあるのだが……」

筑摩「何なりと♡」

提督「筑摩を抱き締めたい……／＼／＼」カア

筑摩「ズキューーン

(か、可愛過ぎる!♡) ドキドキ

提督「だ、駄目だろうか?／＼／＼」ウワメツカイ

筑摩「そんな仕草反則です♡」キyunキyun

提督「??」

筑摩「どうぞ、提督のその両腕で筑摩を包んでください♡」

提督「筑摩……」ギユツ

筑摩「んあ♡」ビクッ

提督「す、すまない! 痛かったか!」スツ

筑摩「止めないでください」ギユツ

提督「ち、筑摩!?!／＼／＼」

筑摩「もつと……もつと強く抱き締めてください♡」

提督「こ、こうか?」ギユーツ

筑摩「ああ♡」ビクンビクン

提督「だ、大丈夫か?」

筑摩「はい♡ しばらくこのままをお願いします♡」ハーハー

提督「息が荒いが……」

筑摩「気のせいです♡」オメメハート

提督「そ、そうか……」ギユツ

筑摩「んんっ♡」

その後、筑摩は提督から抱き締められることがやみつきになったと

いうー。

利根「結局尽くされていおるではないか」ヤレヤレ

筑摩 完

プリンツとケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督自室◇

プリンツ「くくくく」ルンルン

くプリンツ料理中く

提督「頂きます」人

プリンツ「召し上がれく」

提督「ムグムグ

プリンツ「ジー

提督「？ 大丈夫、ウマイよ」ムグムグ

プリンツ「ペア

◇提督自室内のドア前◇

提督「さあてく、頑張るかあく」ノビー

プリンツ「私も頑張ります！」フンス

提督「……プリンツさ」

プリンツ「はい？」キョトン

提督「今日はピンクのリボンで髪まとめてるんだね。似合ってるよ」

プリンツ「くく」ギユツ

提督「じゃあ、行こうか」

プリンツ「はい」

◇廊下◇

ビスマルク「あら二人共、Guten Morgen. 今日も仲良くご出勤？」フフ

プリンツ「ビスマルク姉さま！ Guten Morgen! そうですよ」エヘ

提督「おく、モーゲンモーゲン」ノシ

ビスマルク「貴方は相変わらずね……まあ、私は貴方を認めてるか
ら別にいいけど……」ハア

プリンツ「おねえさまあ」ムスツ

ビスマルク「……はいはい、分かっているわ。それじゃ私は出撃準備
に向かうわね。二人共、S c h n e n T a g n o c h (素敵な
一日を)！」

プリンツ「はい♪」

提督「素敵な一日を……ね」

◇指令室◇

提督「ビスマルクを先頭に時雨、摩耶、鳥海、蒼龍、飛龍の順で単
縦陣。蒼龍、飛龍は艦載機をもう飛ばして。摩耶は時雨と一緒に対空
準備。ビスマルク、鳥海は射程圏内に捕捉次第敵空母へ集中砲火」

艦隊『了解!』

提督「……………」グツ

プリンツ「ギユツ

提督「……大丈夫、ありがとう」

くS勝利く

提督「フウ

プリンツ「お疲れ様でした。良い指揮でしたね」

提督「ん。……んじゃ、執務室に行くから、プリンツはー」

プリンツ「ドックへ連絡ですよね♪」

提督「ん」

◇執務室◇

ビスマルク「第一艦隊帰投したわよ!」

プリンツ「お姉さま、皆さんお疲れ様です!」

摩耶「今回はこの摩耶様がMVPだぜ♪」ドヤア

提督「うん、見た。良かったよ」ナデナデ

摩耶「へへくん♪」キラキラ

プリンツ「ムウ

提督「じゃあ、みんなドック向かって。報告書は明日までに提出。お疲れ」ノシ

艦隊『失礼します』ケイレイ

提督「さて、書類片付けるか……」

クイクイー

提督「ん？ どした〜？」

プリンツ「摩耶さんだけズルいです……」ウワメツカイ

提督「摩耶は頑張ったからね〜」

プリンツ「むう……」プクウ

提督「そんな顔されても撫でないよ？」

プリンツ「シユン

提督「さあて、書類書類〜」

プリンツ「シヨボーン

〜仕事中〜

提督「あ〜、終わった終わった〜」ノビー

プリンツ「お疲れ様です♪」

提督「プリンツもお疲れ〜」ノシ

プリンツ「ありがとうございます♪ 私、今日も頑張りましたよね

？」ズイツ

提督「ああ、頑張ったな〜」ノシ

プリンツ「では！」スツ

提督「ナデナデ

プリンツ「〜♪」ニコニコ

提督「もう今日の仕事は無いよね？」

プリンツ「はい。本日の業務は全て終わりましたから」

提督「じゃあ……」スツ

チュツ（頬）ー

プリンツ「アトミラルさん……／／／／」カア

提督「頑張ったお嫁さんへのご褒美」ニツ

プリンツ「えへ〜♪／／／／」ポヤア

提督「じゃあ、戸締まりして部屋に戻ろうか」

プリンツ「あ、アトミラールさん」クイクイ
提督「ん？」

チュツ（頬）ー

プリンツ「えへへ、今日の仕事を頑張った旦那さまへのご褒美です
♪」ニパッ

提督「ありがと。じゃあ行こうか」ウデスツ

プリンツ「はい♪ アトミ……旦那さま」ギユツ

提督「ナデナデ

プリンツ「Ich sehe nur dich.（貴方しか見え
ない）」ボソ

提督「ん？」

プリンツ「何でもありませんよ♪」テヘ

提督「Egal was kommt, ich werde di
ch nie verlasssen.（何があっても君を離さない
よ）」

プリンツ「くく／／／／」カア

提督「ニコツ

プリンツ「ガバツ

チュツ（唇）ー

提督「!?!?!」

プリンツ「／／／／」ニヘ

提督「は、早く部屋に戻るぞ／／／／」カア

プリンツ「はい♪」ギユツ

プリンツ 完

ザラとケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇執務室◇

提督「カリカリ↑↑仕事中心

ザラ「♡」ジーツ↑↑見つめ中心

ザラ（はあ……今日も提督はス・テ・キ♡）ウツトリ

ザラ「チラツ

く左手の薬指の指輪キラツ☆

ザラ「♡」

◆思ひ出◆

提督『ザラ、この指輪を君に』つ指輪

ザラ『え』

提督『僕とケツコンしてください』

ザラ『え……ええ!?!』

提督『Non trovò altre parole per
esprimerti questisentimenti
all'infioriche : TIAMO.』

訳「この気持ちを君に伝える言葉が2つしか見つからない。『君を、
愛してる』」

ザラ『提督……』ポロポロ

提督『何度でも言います。僕とケツコンしてください、ザラ』ニツ
コリ

ザラ『……はい♡ ザラを提督のお嫁さんにしてください♡』
ギューツ

提督『ああ、今日は人生で最良の日だ……愛しているよ、ザラ』ホツ
ペナデナデ

ザラ『Ti amo♡』チュツ

◇現在◇

ザラ（でへへ♡）ニヨニヨ

「ーラ……ザラ！」

ザラ「びやいつ！」ビクッ

提督「あく、やつと気が付いてくれた。ぼーつとしてたみたいだけど調子でも悪いのかい？」ノゾキコミ

くザラのすぐ目の前に提督の顔がく

ザラ「い、いえ！ らいじょうぶでしゅ！」カミカミ

（提督のお顔がすぐそこにく♡）キヤー

提督「そうかい？ ならいいけど、無理な時は遠慮せずに言うんだよ？」ナデナデ

ザラ「Si♡」ニパー

提督「ん♪ じゃあ僕はこれから工場の方に行くから、ザラはー」

ザラ「ザラもお伴します♡」ヒシッ

提督「え……いやでも、執務室（ご）を空けるのはちよつと……誰か来るかもしれないし」

ザラ「なら書き置き残して行きましょう♡ ね？♡ ね？♡」ウワメツカイ

提督「分かったよ。一緒に行こうか」ニガワライ

ザラ「Gr（あ）azie♡」ワハー

く夫婦揃って工場へく

◇工場までの道中◇

提督「ザラはケツコンして甘えん坊になったね」

ザラ「そうですか？」

く夫婦、手は恋人繋ぎく

提督「そうだよ……今だつてこうして付いてきてるし、寧ろ一緒に居ない時間の方が少ないんじゃないかな？」

ザラ「嫌……ですか？」ウルウル

提督「あく、違う違う。そうじゃないよ。ただ妙に甘えん坊になつたなあつてふと思つてね」ナデナデ

ザラ「だつてせつかくケツコンして夫婦となつたんですから、一緒に居ないと損ではありませんか？」

提督「あはは、確かにそうだね。夫婦の時間は沢山あったことに越したことはないからね」ニッコリ

ザラ「はい♡」ギューッ

／イチャイチャラブラブ＼

ローマ「あゝ、今日もタバスコの出番ね」

イタリア「ふふ、パンナコッタよりも甘いわね♪」

リベツチオ「リベもいつかあんな幸せなケツコン生活送りたいな」

♪「ハワー

昼――

◇鎮守府内・中庭◇

ザラ「はい、提督♡ あゝん♡」つパスタ

提督「あむ……うん♪ 今日も美味しいね♪」

ザラ「えへ♡ 嬉しいですう♡」ニヨニヨ

／中庭の木陰の下で夫婦揃ってランチ／

提督「じゃあ次は僕の番だね……はい、あゝん」つピザ

ザラ「はむはむ……ん♪ Buon^{美味}o♡」

提督「ザラの料理はどれも美味しいからね」ナデナデ

ザラ「もう……提督さんったらあ♡」ヤンヤン

提督（可愛いなあ）

ザラ（M^とolto^て felice^{も幸}）

／ラブラブイチャイチャ＼

ビスマルク「プリンツ、エスプレツソ頂戴」ハイライトオフ

プリンツ「はい」ニガワライ

グラーフ「流石は愛の国イタリア……愛情表現もまた甘々だ。見て

るとブラツクが練乳でも入れたみたいに甘くなる」フツ

マックス「甘過ぎるわ」

レーベ「仕方ないよ、二人はラブラブだもん」ニコニコ

ユー「幸せなことはいいこと」ウンウン

夕方――

◇執務室◇

提督「よし、今日の執務は無事終了」ノビー

ザラ「お疲れ様です♡」

提督「遠征組もみんな帰ってきたし、今日はこれでお終いかな」

ザラ「Si♡」

提督「なら、戸締まりして帰ろうか」ニコツ

ザラ「は〜い♡」

〜戸締まりして部屋へ戻る夫婦〜

◇提督&ザラの部屋◇

ガチャー

提督「ふう〜、ただいま〜」

ザラ「提督♡」グイッ

パタン……

〜ザラ、部屋に戻った途端に提督の唇を奪う〜

ザラ「ん……ちゅ、ちゅっ……ん〜……ちゅっ♡」ギューツ

提督「んんっ……ん……ぷはあ……いきなりだね」ナデナデ

ザラ「ずっと我慢してましたから♡」ニへへ

提督「その割にはほっぺやおでこかに結構されてたけど？」

ザラ「本当はちゃんとしたキスがしたかったです！♡」プクウ

提督「あはは、しても良かったんだよ？」ナデナデ

ザラ「ダメです……」

提督「どうして？」

ザラ「いつでも提督と唇でキスしてたら、そればかりになっちゃいますから♡／／／／」ハニカミ

提督「キyun」

ギユツ♡↑提督、ザラを抱きしめる

ザラ「提督？」キyotn

提督「Se non ti avessi conosciuto,
l'amia vita sarebbe stata infelice」

訳（君と知り合わなければ、僕の人生は不幸なものになっていた
らう）

ザラ「提督♡」キュンキュン

提督「愛してるよ、ザラ」ホツペナデナデ

ザラ「ザラも愛してます♡」クチビルサシダシ

ちゅっ♡

提督「ザラ……」ギューツ

ザラ「提督♡」スリスリ

(Non posso vivere senza dite♡) ラ

その後も夫婦は時間を忘れて愛を確かめ合うのであったー。

ザラ 完

ポーラとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりに

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞ」

ガチャー

ポーラ「提督、ただいま」

提督「ああ、お帰り」

ポーラ「はい、これ。オーヨドーさんから次の任務もらったよ」

つ書類

提督「ん、ありがとう」

ポーラ「ねえねえ、提督」クイクイ

提督「ん？」

ポーラ「ポーラ、そろそろ休憩したいなあ」ウワメツカイ

提督「……………」

ポーラ「提督と休憩したいなあ」ウワメツカイ

提督「……………はあ、分かった」

ポーラ「やった♡」ギューツ

提督「ったく……」ニガワライ

夫婦揃ってソファに座り休憩時間

ポーラ「ん♡」ズイツ

ポーラ、提督に向かって頭を下げる

提督「綺麗なつむじだな」

ポーラ「む！」アタマグリグリ

提督「はは、軽い冗談だ」

ポーラ「イジワルしちゃやくだ」アタマグリグリ

提督「悪かったって……ほら、これでどうですか、お姫様？」ナデ

ナデ

ポーラ「にへへ♡」ニヨニヨ

提督「ポーラは撫でられるのが好きだな」

ポーラ「提督の撫で方は優しいも〜ん♡ だから大好き〜♡」スリ

提督「そうなのか？」

ポーラ「うん〜、だからもつと撫でて〜♡」

提督「はいはい」ナデナデ

ポーラ「〜♡」ゴロゴロ

提督「そういえば珈琲淹れてなかったな。ちよつと淹れてくる」
スツ

ポーラ「ポーラも行く〜♡」ギューツ

提督「はいはい」

ポーラ「〜♡」

〜珈琲を淹れてからまたソフアーへ〜

ポーラ「提督〜」

提督「ポーラは砂糖二つとミルク二つだったな」テキパキ

ポーラ「そうだよ〜♡」ニヘー

提督「ほれ」つ珈琲

ポーラ「Gra^ぁzi^がe^と♡」

提督「おう」ニカツ

ポーラ「ポーラも提督の珈琲にお砂糖とか入れてあげたいな〜」
ジーツ

提督「あいにく俺はブラック派だ。ごめんな」ニガワライ

ポーラ「ぶ〜…よく苦いまま飲めるね〜。お砂糖とミルク入れた方が絶対美味しいのに〜」

提督「俺はブラックの方が美味いんだよ」ゴクツ

ポーラ「まあお互いに美味しいならいいや〜♡」ゴクツ

提督「お、そういえば…」

ポーラ「？」

〜提督、机の引き出しから何かを取り出した〜

提督「ポーラが大淀の所へ行ってた間にザラからチョコレートを買ったんだよ。ミルクチョコレートの中に赤ワインが入ってるらし

い」

ポーラ「(。?口?)」フオー!

提督「はは……ほれ、口開けろ」

ポーラ「あく♡」オクチアーン

提督「よっ」ポイツ

ポーラ「むぐむぐ……んく! Buono^{美味しい}♪」

提督「後でザラにお礼言っておけよ?」パクッ

ポーラ「はくい……あく!」

提督「ん?」

ポーラ「なんで提督は自分で食べてるの!? ポーラが提督に『あく♡』ってする番なのに!」プンブン

提督「え、あく……ごめん?」

ポーラ「むく!」ジトー

提督「……じゃあ……あく」オクチアーン

ポーラ「んへへ♡ はくい♡」ポイツ

提督「ありがとう」ムグムグ

ポーラ「うん♡」

数分後ー

ポーラ「んく、暑い♡」スリスリ

提督「暑いなら離れたらどうだ?」

ポーラ「やくだ♡」ヒシッ

提督「ポーラはお酒に強いのか弱いのか分からないな」ニガワライ
ポーラ「今はそんなことよりポーラの目を見て♡」

グイツ↑ポーラ、提督の顔を自分の方に向ける

提督「はいはい」

ポーラ「んへへ♡ 提督♡」

提督「どうした?」

ポーラ「キスしていい?♡」

提督「どうぞ」

ポーラ「♡」

ちゅっ♡

ポーラ「もう一回♡」

提督「おう」

ポーラ「〜♡」

ちゅっちゅっ♡

ポーラ「提督からまして♡」

提督「分かった」

ポーラ「♡」タイキ

ちゅっ♡

ポーラ「一回だけなの〜?♡」ジーツ

提督「はいはい／／／」テレッ

ポーラ「は〜や〜く〜♡」ンー

ちゅっちゅっ♡

ポーラ「へへ〜♡ 幸せ〜♡」スリスリ

提督「そりや良かった／／／」カー

ポーラ「んもお、提督は照れ屋さんだから♡」ホツペツン

ツン

提督「うるさい／／／」

(酔うとキス魔になるとか反則だろ!!／／／)

ポーラ「夫婦なんだからそんなに照れなくてもいいのに♡」ホツ

ペチユツ

提督「夫婦でもこんなにキスするなんて知らなかったよ!／／／

／

ポーラ「おかしいな〜……ケツコン前に沢山キスして慣らせたのに

〜♡」クビスジユツ

提督「慣れる慣れないの問題じゃないんだよ!／／／」

ポーラ「そっか〜♡」

(照れてる提督は可愛いからいつか♡)

ポーラ「ねえねえ、提督〜♡」

提督「今度はなんだ?／／／」

「D, ora in poi vogli^ポo sempre^ラ stare^に al^居

♡

提督「」

ポーラ「分かった?♡」

提督「外国語は不慣れでな／＼／＼」プイッ

ポーラ「あは♡ 残念♡」ニコニコ

提督「そ、そうだな／＼／＼」

ポーラ「提督♡」スリスリ

提督「ポーラ…愛してるよ／＼／＼」ナデナデ

ポーラ「えへへ♡」

ポーラ「提督♡」

提督「ん?」

ポーラ「Ti amo♡」

提督「あ、ああ／＼／＼」

ポーラ(Vorrei che mie parole

i arrivassero dritte al cuore♡)

訳《私の言葉があなたの心にもつすぐ届きますように♡》

ポーラ「あ、提督、提督♡」クイクイ

提督「こ、今度はなんだ?／＼／＼」

ポーラ「夜は提督でポーラを酔わせてね♡」チュッ

提督「!?!?!」ボツ

ポーラ「んふふ♡」

その夜めちやく(ry)。

ポーラ 完

タスカルーサとケツコンしました。」

某鎮守府、夜――

◇執務室◇

タス「ハニー、流石にもう切り上げないか？」

提督「いや待ってくれ。あと少しなんだ」

タス「……それは一時間前にも聞いたんだけどね？」

提督「いや、本当に。本当にあと少しなんだ」

タス「ちよつと化粧直し行ってくる」

提督「ん、いつてら」

タス「はあ、本当に真面目。あたしじゃなかったらすぐに愛想尽かされるよ」プンプン

タス「でもま、これも惚れた弱みかな♡」

タスカルーサは軽い足取りで執務室から離れていった

そして――

ガチャリ

タス「ただいまー」

提督「りー（おかえりの意）」

タス「終わった？」

提督「……」

タス「夜食食べない？ ホットサンド作ってきたよ」

提督「流石俺のヴィーナス……」

タス「あたしはハニーの奥様だよ♡」ニコツ

提督はやつとペンを置いて、タスカルーサがいるソファアーターブルへ

タス「はい、どうぞ。火傷しないようにね。こっちはトマトレタス

サラダとインスタントだけどコーンスープね」

提督「いただきます！」人

サクツ

提督「うん！ うまい！」

タス「ふふつ、簡単な物なのにハニーはいつも美味しそうに食べてくれるから、好き♡」

提督「本当にうまいからな！ モグモグ……」

タス「♡」

提督「ん？ これは妙に甘いな……」

タス「ああ、今夜のはkitchinetteの冷蔵庫にある物でパツと作ったから……その甘いのはpuddingだね」

提督「へえ、こうやってホットプレスサンドにするとフレンチトーストみたいになるのか」

タス「お口に合ったのならよかった♡ まああとのはいつものハムチーズとツナマヨとさつき食べたコンビーフエッグだけだね」

提督「十分だよ。ほら、ルー（愛称）も食べなよ」

タス「ああ、勿論だ」パクン

提督「ん、これでもうひと頑張り出来るな！」

タス「……ダメだ」

提督「え？」

グイッ

タスカルーサは提督の肩を強引に引っ張って、提督を膝枕した

提督「お、おい、まだ執務が……」

タス「明日やればいい。そもそもハニーはどうしてそんなに急いで執務をやりたがる？」

提督「そうすれば後々楽だから……」

タス「ウソだね」

提督「嘘じゃないって……」

タス「ならどうしていつも執務してるんだろうね？ 今の執務を終わらせても、執務はなくならない。また次の執務が送られてくるだけだ」

提督「……」

タス「少しくらい休んでも誰も何も言わない。その内ハニーの体が

壊れてしまうよ。そうなったら、あたしはハニーを止めなかった自分を責める」

提督「……ルー」

タス「もういいだろ。十分やった。今日はお終い。ね?」

提督「……分かった」

タス「うん、偉い偉い♡」ナデナデ

く満面の笑みで提督の頭を撫でるタスカルーサく

タス「このまま眠っちゃってもいいからね?」

提督「いや、流石に眠ったりはしないよ」

タス「えー」

提督「なんで不満そうなの?」ニガワライ

タス「だって起きてたらまた仕事しそうなんだもん」

提督「……:……:」

タス「当たり前だよね?」

提督「モウシゴトシナイヨ?」

タス「そんなわざとらしいカタコトで騙されるほど子どもじゃないんだよねー」

くタスカルーサは提督の頭を少し強めにぐりぐりするく

提督「イタツ! やめてくれ!」

タス「あたしの膝枕を受けても仕事のこと考えてるハニーが悪いと思うなー」グリグリ

提督「しない! 今日はもう帰るから!」

タス「はじめからそう言えばいいのに……。ほらほら、だったら戸締まり確認して帰るよ?」

提督「あ、でもその前に少しだけ——」

タス「久々にグーでいこうか?」ニコニコ

提督「——なーんて、嘘だよ! 早く戸締まり確認して帰ろう!」

タス「ん、いい子いい子♡」ナデナデ

くその後二人は仲良く長官官舎へと引き上げたく

◇長官官舎◇

タス「お風呂どうする?」

提督 「遅いしシャワーで済ませる」

タス 「ならあたしもー」

提督 「じゃあ先どうぞ」

タス 「やだ」

提督 「なぜ？」

タス 「あたしがシャワー浴びてる間に仕事しそうだから」

提督 「なら俺が先に入ってくるよ」

タス 「よろしい。あ、先に浴びたとしても仕事したらグーでいくよ。

グーで」

提督 「しませんとも」ニガワライ

そして――

タス 「さっぱりしたー♪」

提督 「おかえり。じゃあ髪乾かすよ」

タス 「お願いーい♡」

タスカルーサは提督に髪を乾かしてもらうが好き

提督 「ほんと、いつ見ても綺麗な金髪だな」

タス 「提督の髪だって綺麗な黒髪だよー♡」

提督 「そりやどうも」

タス 「あたしもアイオワくらい長くしようかなー」

提督 「ルーは伸ばしても短くしても似合うと思うよ」

タス 「それはあたしがハニーの好みだからでしょ？♡」

提督 「そりやあね……」

タス 「あはは、嬉しいなあ♡」

タス 「ねえ、ハニー」

提督 「んー？」

タス 「これからもずっと愛してる♡」

提督 「俺も愛してるよ」

タス 「うん♡」

タス (You are an important person

in my life♡)

訳) あなたはあたしの人生においてとても大切な存在だよ♡

こうして夫婦の夜は穏やかに更けていった――。
タスカルーサ 完

提督「すう……すう……」

ノーザン（少しお髭が伸びたわね。いつもきつちり剃っていらつしやるけれど、徹夜明けだと仕方ないわね）

ノーザン「……………」

ノーザン「っ」

ジョリジョリ……

くノーザンプトンは寝ている提督に頬擦りするく

ノーザン（んっ、やっぱりこのチクチクした感覚好きかも♡）

ノーザン「く♡」スリスリスリスリ

ジョリジョリジョリジョリ……

ノーザン「はうあ♡」

（癖になつちやう……ジョリジョリしゆき♡）

提督「……余程気に入ったみたいだな？」

ノーザン「ひやう!？」ビクーン

く提督はにこやかにノーザンプトンを見ていたく

ノーザン「て、提督……お、起きてらしたのでですか？」

提督「寧ろこれで起きない奴はいないだろ？ まあノーザンプトン

みたいに横抱きしても疲れて寝入っていたりすれば話は変わってくるが……」

ノーザン「す、すみません／＼／＼」

提督「別に怒ってない。そんなに気に入ったのなら今日はそのまま

でいようか？」ニッ

ノーザン「だ、ダメですよ。身嗜みはキチンと整えないと……」

提督「そう言う割りにはどことなく名残惜しそうに見える」

ノーザン「もう、意地悪う／＼／＼」

提督「可愛い反応をしてくれるものだから、ついな。あと少しだけこのままでいるから、それまで好きにするといい」

ノーザン「そう言われても恥ずかしいです……／＼／＼」

提督「そうか。残念だな。君が頬擦りしてくれるていれば、俺は君の甘い香りを堪能出来るのに」

ノーザン「……す、少しだけですからね？／＼／＼」

提督「ああ」ナデナデ

その後暫くノーザンプトンはジヨリジヨリしたく

昼過ぎ――

◇執務室◇

提督は工廠へ出向き、ノーザンプトンが留守番中く
ガチャリ

サダク「失礼する」

ノーザン「あら、サウスダクタ。先日の報告書かしら？」

サダク「そうだ」つ報告書

ノーザン「はい、確認して提督に渡しておきますね」

サダク「……………」ジーツ

ノーザン「？　どうかしたのかしら？」

サダク「いや何、昨晚徹夜でもしたのかと思ってさ」

ノーザン「ええ、したけれど……………何故？」

サダク「肌荒れしてるぞ。少し左頬が赤い」

ノーザン「え、ああ、これね。そ、そうなの……………ほほほく」

ガチャリ

提督「戻ったぞ」

ノーザン「おかえりなさいませく」

サダク「ああ、お疲れ」

提督「なんだ、サウスダクタもいたのか」

サダク「ああ。報告書を提出しにな」

提督「そいつはご苦労。暫くは英気を養ってくれ」

サダク「そうさせてもらう。それと……………」

提督「どうした？」

サダク「あまりノーザンプトンをこき使うなよ？　提督の仕事に付
き合うのは秘書艦としての役目かもしれないが、提督の愛する女が体
調不良になるぞ」

提督「体調不良？　ノーザンプトン、どこが悪いのか？」

ノーザン「い、いえいえ、そんなことは全く……………」

サダク「遠慮なく言ってやれ、ノーザンプトン。お前のせいで肌荒れしたって」

ノーザン「サウスダコタ！」

提督「肌荒れ？」

サダク「そうだ。見ろよ、左頬」

提督「？　なんだ、それは昼前にずっと俺の髭の感覚を味わっていたが故の赤みだ。いずれ消える」

ノーザン「提督!?!／／／／」

サダク「ほう……なんだただイチャついてた証拠か」

提督「ああ、そうだ。じゃれついてくれる嫁が可愛くてな。こんなになるまで許してしまった」

ノーザン「……………／／／／」プシユー

サダク「程々にな。荒れた肌で愛する人の頬に頬擦りするのは気が引けるだろうから」

ノーザン「……………はい／／／／」

くサウスダコタはそう言って執務室を去ったく

ノーザン「提督、酷いですう／／／／」

提督「別に隠すような行為でもないだろう。やましいことではない」

ノーザン「そうですね……威厳が……」

提督「威厳より俺の妻の可愛さを見せつけるのが最優先だ。なにせ俺は自他共に認める愛妻家だから」

ノーザン「もう、提督ったら……♡」

後日、ノーザンプトンは艦隊のみんなから頬の様子を見られるようになったとか――。

ノーザンプトン　完

ヒューストンとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

ロイテル「あつはつは、相変わらずヒューストンは提督LOVEだね♪」

パース「よくもまあ毎日毎日そんなにもいちゃつけること……」ヤレヤレ

ヒューストン「いいじゃないですかあ、別に。誰にも迷惑掛けてませんし……」ムウ

「ヒューストン、友たちと女子会（午後のティータイム）中」

「提督はその場の空気が苦手なので酒保へ出向いている」

ロイテル「にしてもさく、ヒューストンは真面目だからそりゃあケツコンしたら一途に相手に尽くすだろうとは思ってたけど、まさかそこまでとはね」

ヒューストン「そんなに意外なの？」

パース「そうだよ。ランチだろうがなんだろうが全部食べさせてあげる必要つてある？ かなり時間の無駄だと思う」

ヒューストン「ムダなんかじゃないですっ！ 愛する提督のために、このヒューストンが原材料から厳選して愛情をたくっぷり詰め込んだお料理よ？ それを愛する提督に食べさせてあげるまでが私流の愛なんだから！ そこにムダなことなんて一つもないのよ!？」

パース「……………そ」プイッ

ロイテル「パース、言うだけ無駄つて。この前なんてクリームをわざわざ互いに指につけて舐めさせ合ってたバカカップルだよ？」

パース「うへえ」ドンビキ

ヒューストン「見られてたのね……／／／」キャッ

ロイテル「見られてたっていうか、嫌でも目に入ったというか……その時私が目の前にいるのにそうしてたよね？ そもそも私がひとりパフェを堪能してたらヒューストンが提督連れて来たんだよね

？」

ヒューストン「そうでしたね……私、ついつい提督に夢中になって……／＼／＼」ハウ

パース「……ちっ」

ロイテル「でもさ、ヒューストンなりの愛を相手は重く感じてるかもよ？」

ヒューストン「え」ピシッ

パース「……」↑ちよつと嬉しそう

ロイテル「だって提督、たまに小さくため息吐いてたもん」

ヒューストン「そ、そうなの？」

ロイテル「うん。まあ私はそれをたまたま見ただけだけど、その時提督が長いため息のあとに『ヒューストン』ってつぶやいてた」

ヒューストン「」ガーン

ロイテル「ケツコンして半年経った訳だし、提督としてはそれなりに色々と落ち着いて来たんじゃないかな？　だからヒューストンも少くしだけ控えめにしてあげたら？」

ヒューストン「え、ええ、考えておくわね」ハイライトオフ

パース（露骨に落ち込んでるう）↑とても楽しんでる

—————

その日の夜——

◇夫婦愛の巣（鎮守府内の一室）◇

ヒューストン「……………」

提督「？」

（なんか午後からヒューストン大人しいな。いつもなら無理矢理な理由でキスのオンパレードなのに、今までキス14回しかしてない）↑感覚麻痺

ヒューストン「……………」チラッ

提督「？」ニコッ

ヒューストン「っ」メソラシ

提督「」ガーン

（え、目逸らされた!?　俺なんか知らない内にしでかした!?　も

しかして14回中5回しかデープなしてなかったから!! でもみんなの目の前だったし、ソフトなのでもとっても幸せそうに微笑んでたのに!?)

ヒューストン「……」

(ああ、ダメ! 目が合っちゃった! キスしたいっ!

今すぐにも押し倒して夜通しキスしてたいっ! でもそんなことしたら重たい女だってなって嫌われちゃう! 大好きな提督に嫌われたら私……生きていけないっ!)

提督「な、なあ、ヒューストン?」

ヒューストン「は、はい?」

提督「晩飯、どうする? 俺が作ろうか?」

ヒューストン「それなら私が……」

提督「まあ、いいからいいから」

ヒューストン「では、お言葉に甘えて……」

—————

提督「遅くなつてごめんな」

ヒューストン「いえ、気にしないでください」ニコツ

提督「それじゃあ、いただきますっ」人

ヒューストン「いただきます」人

提督「覚えてるか、これを初めて俺がヒューストンにご馳走した時のこと」

ヒューストン「覚えてますよ。当然じゃないですか。私の大切な思い出です」フッフ

提督「……嬉しいよ。やっぱ、作って良かった」

ヒューストン「でも、スキヤキって特別な日に食べる物だって言っていましたよね? 今日何かありましたか?」

提督「いや、特別な日って訳じゃない。でもー」

ヒューストン「?」

提督「俺がヒューストンに嫌われてないって自信がついた日だな」ニコツ

ヒューストン「っ」ドキッ

提督「ほら、今日はいつもよりキスしてないし、それこそディープなものも片手で数えられる回数しかしてない。もしかしたら俺がヒューストンに嫌われたのかと思って不安になったんだ。ほら、俺ってあんまり自分からキスとか出来ないからさ」ニガワライ

ヒューストン「そ、そんなことありませんっ！ 元はといえばすべて私が悪いんです！ 私の愛が提督にとって重く感じてたらいけないと思ってる」

提督「重いだなんてとんでもないっ。寧ろ毎日がヒューストンの愛に満たされてて、気がついたら幸せ過ぎてため息吐いてるくらいなんだからな」

ヒューストン「え」

「ヒューストン、やつともやもやが晴れる」

提督、ヒューストンの側に行き、その瞳を強く見つめる

提督「Wow……, you, re breath takingly beautiful.

《わあ……息を呑むくらい綺麗だ》

Is it for real that this perfect lady is my soulmate?

《こんなにパーフェクトな女性が俺の運命の人だなんて、いいのか?》

You, re the gift from the heaven.

《君のことは天国から俺への贈り物だと思ってるよ》

You are so beautiful, that you make me forget all my worries.

《全ての悩みを忘れさせてくれるほど、君は綺麗だ》

You are so cute I want you to adopt you.

《可愛過ぎて独り占めしたい》

I truly love you.

《俺はあなたのことを本当に愛しています》

ヒューストン「くく♡」オメメハート

提督「すべて本心だよ」ニコツ

ヒューストン「はい……Thank you♡」

（私、もう迷わない。迷う暇があるなら、提督に私の愛を

伝えよう♡）

ヒューストン「提督♡」

提督「ん？」

ヒューストン「今夜は夜通しでヒューストンの愛を捧げますね♡」

チュツ

提督「嬉しいよ」チュツ

翌朝、夫婦のイチャラブ具合は更に増し、艦娘たちはエチケツトバケツを常備するようになったそうなのー。

ヒューストン 完

軽巡洋艦・重雷装巡洋艦

天龍とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇艦娘宿舎の一室◇

コンコンー

龍田「はあい、開いてるわよ〜」

ガラガラー

天龍「よう」ヒョコ

龍田「あら、天龍ちゃんが私の部屋に来るなんて珍しいわね〜。お仕事は〜?」

天龍「ちよ、ちよつと相談したいことがあるから、休憩貰ってきた……／／／／」モジモジ

龍田（乙女の顔しちやって〜、可愛いわ〜）

「取り敢えずそこに立ってないで中に入って座ったら? 今お茶淹れるわ」

天龍「わ、悪いな／／／」オズオズ

〜天龍、龍田に相談中〜

龍田「ふ〜ん……大好きな提督の為に手料理を作ってあげたいのね〜」ニコニコ

天龍「だ、大好きは余計だ……提督の為に料理を教えてくださいって言っただけだろ／／／」ウツムキ

龍田「はいはい……それで一番相談しやすい私の所に来たのね〜」クスクス

天龍「〜／／／／」モジモジ

龍田「どんな料理を教えればいいの〜?」

天龍「龍田の得意料理の竜田揚げがいいかなって……提督が前に龍田の竜田揚げをウマそうに食べてたから……」

龍田「うふふ、分かったわ〜。じゃあいつもの竜田揚げじゃなくて、

少し違う竜田揚げを教えるわね♪」

天龍「頼む」ペコ

龍田「じゃあ早速お料理しながら教えるわね」ニコツ

天龍「おう！」

「そして天龍は龍田から料理を習った」

天龍「ん、ありがとな龍田。これで提督に作ってやれるぜ♡」へへ

龍田「何も天龍ちゃんが作らなくても、言ってくれれば私が作ってあげるのに」

天龍「それは駄目だ」

龍田「どうして？」

天龍「お前はオレより女らしいし、料理も上手いから提督が龍田に惚れちまうかもしれねえだろ……／＼／＼」モジモジ

龍田「」

天龍「いくら龍田でも提督をとられるのは嫌だ、から……／＼／＼」ムウ

龍田「うわ、提督が夢中になる理由がよく分かるわ」

「ふふ、すっかり天龍ちゃんもお嫁さんの顔になったわね」

ホッペツンツン

天龍「るせ／＼／＼」プイッ

龍田「今日教えたのを作れば提督は天龍ちゃんしか見えなくなるわね」

天龍「そ、そうか？♡」

龍田「そうよ、提督は天龍ちゃんのこと大好きなもの」

天龍「へへ、そっか……へへ♡」ニヨニヨ

龍田（にやけてる天龍ちゃんも可愛いわ）

「頑張つてね、天龍ちゃん」ニツコリ

天龍「おう♡」デヘヘ

「天龍、上機嫌で戻る」

龍田「天龍ちゃんが幸せで嬉しいわ。あの笑顔をもし提督が壊したら……」フフフ

龍田「そんなことはないだろうけど」ニコニコ

その日の夜――

◇提督&天龍の部屋◇

ガチャラー

提督「ただいま」

トトトツ――

天龍「おう、お疲れ♡ ほらカバン寄越せ♡」ワハー

提督「いつも悪いね」つかバン

天龍「これくらい嫁さんなら当然だろ？♡ それにお前はうちの大

黒柱なんだからさ♡」ニコニコ

提督「僕が頑張れるのは天龍という大切な存在があるからだよ。天龍が居るから僕は頑張れるんだ」ナデナデ

天龍「格好付けやがって……♡／／／」ドキドキ

提督「そのままのことを言っただけだよ」ニコツ

天龍「くく♡／／／」キュンキュン

天龍「と、とにかく手洗いとうがいして着替えて来いよ……♡／／／」
／／「プイッ

提督「うん、分かったよ」ホツペチュツ

天龍「♡／／／」ドキッ

提督「ただいまのキス♪」ウインク

天龍「く／／／／」

グイツ↑天龍、提督の胸ぐらを掴んで引き寄せる

天龍「ただいまのキスはこつちだろ？♡／／／」チュツ

提督「てん……ちゅっ……りゅ……っ……ちゅ、ん……」

天龍「んっ……ちゅ……ちゅ……んあ……ふふ、嬉しいか？♡」ニコニコ

提督「幸せだよ」ニコツ

天龍「つたりめーだろ♡ オレのキスなんだからよ♡」へへー

くそして提督は着替えにく

天龍「えつと……あとは揚げるだけだな……」

く天龍、龍田から教わったものを料理中く

天龍「揚げてる間にキャベツの千切りとプチトマトも用意して……」テキパキ

数分後ー

天龍「んく……龍田が作った時と同じ色だな……あとはキッチンペーパーで油を取って……」

く龍田直伝料理完成！く

提督「すごく美味しそうな匂いだね。天龍が料理なんて珍しいね」ヒヨコ

天龍「お、着替え終わったのか。まあ嫁さんらしいことしないだし、な／＼／＼」

提督「楽しみだなく♪」

天龍「おう……期待してていいぜ♡」ニコツ

◇茶の間◇

く夫婦揃って頂きます！く

提督「へえく、鯖の竜田揚げだね……すごく美味しそうだよ」オオー

天龍「ウマそうじゃなくてウマいんだよ♡ 早く食ってくれよ♡」

ニへへー

提督「そうだね……では、頂きます」人

天龍「おう♡」

パクッ

天龍「どうだ、ウマいか？」ドキドキ

提督「……とつても美味しいよ！」

天龍「く♡」パー

提督「外はカリッとしてて、中はふつくら……ご飯が進むよ！」パク

天龍「へへく、おかわりもあるからどんどん食えよな♡」ニヨニヨ

提督「僕は本当に幸せ者だな……」

天龍「は？ 何だよ急に？」

提督「天龍が頑張つて僕の為に手料理を作ってくれたからねく。こ

んなに嬉しいことはないよ」ニコッ

天龍「こ、これでも嫁さんだからな♡／／／／」

提督「龍田から聞いたよ、作り方教わったんだってね」ナデナデ

天龍「ま、前に龍田の竜田揚げ褒めてただろ？ だから習いに行つたんだよ／／／／」

提督「ありがとう、龍田の竜田揚げよりも美味しいよ」ナデナデ

天龍「ふふ、褒め過ぎだバーカ♡」ギューッ

提督「でも、次は僕と料理しようね♪ 僕の手料理も天龍に食べてもらいたいから♪」

天龍「おう♡ オレもお前の手料理食べたいからな♡」

こうして夫婦は仲良く料理する時間が増え、更に愛を育んでいったー。

天龍 完

龍田とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎ――

◇執務室◇

ガチャー――

天龍「うゝつす」

龍田「あらゝ、天龍ちゃん♪」ニコニコ

天龍「おう……龍田だけか？」キョロキョロ

龍田「そうよく。提督はさつき演習に向かったわ」

天龍「そつか……じゃあ、これ渡しといてくれよ」つ書類

龍田「はゝい。遠征の報告書よね？」

天龍「おう。……なあ」

龍田「？　なくに？」

天龍「何で提督の軍服の上着羽織ってるんだ？」

龍田E・提督軍服ゝ

龍田「何でって、提督から借りたのよ？」クビカシゲ

天龍「何で借りたんだ？」

龍田「だってゝ、私は演習へ連れてってくれないんだものゝ」

天龍「だからそれを代わりに置いてつたのか……そもそもお前の練度はもう上がんねえだろ……」

龍田「これで妥協してあげたのゝ」プクウ

天龍「お熱いこつて……」ニガワライ

龍田「うふふゝ。いくら天龍ちゃんのお願いでも提督は渡さないわよゝ」ニコニコ

天龍「大丈夫大丈夫」ニガワライ

ゝ時間が余ってるので姉妹雑談中ゝ

天龍「そういやよ……」

龍田「？」クビカシゲ

天龍「今日の演習先って提督が女のとこだよな？」

龍田「そうねゝ」

天龍「あそこの女提督、うちの提督が好きって前にあそこの艦娘から聞いたんだヨー」

ドンツ！↑にこやか笑顔で机に穴開け

天龍「チーン

龍田「あ、つい……ごめんね、天龍ちゃん」ニコニコ

天龍「あ、ああ……」ガクブル

龍田「へえ、あそこの女提督さんがね」ニ”コ”ニ”コ”

バキバキ！↑湯呑みが割れる音

天龍（怖い……！）ガクブル

龍田「そんな女が私の提督に触れたら困るわね。演習から帰ってきたら癒してあげなきゃ」ニコニコ

天龍「ま、まあ……うちの提督はお前一筋だし、大丈夫だろ……」

龍田「もく♡ 天龍ちゃんつたら♡ そんな恥ずかしいこと言わないで♡」バシバシ

天龍「痛え痛え！」

龍田「あ、ごめんね、天龍ちゃん」サスサス

天龍「つたく……お前は提督のことになるといつもそうだよな」ヤレヤレ

龍田「だつて、大好きなもの♡」キヤツ

龍田「……だから、変な虫が付かないように私が守ってあげなきゃいけないの……（低音V○）……」ギリギリ

天龍「痛えーっての！ つねるな！」ガー

龍田「あ、ごめんね！」サスサスサス

天龍「はあ……もう良いって。本当にどうしようもねえな」オーイ
テー

龍田「そんなに褒めないでよ♡」クネクネ

天龍「褒めてねえよ！」ガンツ

／ワイワイガヤガヤ

天龍「ん？ 戻って来たたんじゃねえか、たテー」
く既に姿無し

天龍「」

天龍「帰ろ」トボトボ

◇埠頭◇

提督「良い演習だったな。みんなご苦労様」

艦隊『はっ』ケイレイ

提督「雷と電も対水で良い働きだったぞ」ナデナデ

雷「もつと私を頼ってもいいのよ！」デヘヘ

電「嬉しいのです♪」ハニャー

??「て〜い〜と〜く〜！」

提督「？」フリムキ

ガバツ！

提督「お、おお！」ウケトメ

龍田「お帰りなさ〜い♡」スリスリ↑だいしゆきホールド

提督「ああ、ただいま。龍田」ナデナデ

龍田「うふふ〜♡」デレデレ

艦隊『ヤレヤレ

龍田「早く執務室に戻りましょ♡」

提督「そうだな……。じゃあ、みんな補給して次の命令があるまで

休んでいてくれ」

艦隊『了解！』ケイレイ

／ハヤクハヤクー セカサナイデクレ＼

◇執務室◇

龍田「提督、早く座つて〜♡」ニコニコ

提督「？　ここか？」ドカッ

龍田「そうそう♡　じゃあ……。少し失礼しま〜す♡」カチャカチャ

提督「何故手錠をする？」

龍田「今日は演習先で何かありました？」

提督「……向こうの提督と挨拶をして、演習をして、また挨拶をし

て帰ってきただけが……」

龍田「ちよつと失礼しますね」ノシッ

スンスン↑提督の匂いを確認中

提督「??」コンワク

龍田「ん……大丈夫みたい♡」ニコニコ

提督「では手錠をー」

龍田「頭」ボソツ

提督「？」

龍田「雷ちゃんと電ちゃんの頭を撫でてましたよね？」ハイライト

オフ

提督「ああ、褒めていたからな……」

龍田「キリコンさん？」ハイライトオフ

提督「頭を撫でて褒めていただけだ……変な誤解は止めたまえ」

龍田「じゃあ、私の頭も撫でてくれますか？」ハイライトオフ

提督「龍田なら無条件で撫でるぞ」ニコリ

龍田「く♡♡」キyunキyun↑恍惚ポーズ

く提督、拘束を解かれるく

龍田「ごめんなさい……醜い嫉妬をしてしまつて……」

提督「気にしてないさ……そんな龍田も好きだ」ナデナデ

龍田「提督♡」キyunキyun

提督「だから安心しなさい……それに、私達はその……もう夫婦、なのだからな……／／／」カア

龍田「」プチツ↑理性が切れた音

ガバツ

く提督、龍田に押し倒されるく

提督「おい……危ないだろう」ナデナデ

龍田「提督が悪いんですよ♡」オメメハート

提督「ここですか……？」

龍田「嫌なんですか？」サスサス

提督「するならば……ちや、ちゃんとした所でしたい……。龍田の

肌を他の者には見せたくないのだ……／／／」テレビ

龍田「」ズキyun↑龍田に電流が走る

龍田「我慢出来ません♡」ハアハアハア

提督「ま、待ちたまえ……せめて湯浴みをした後で……／＼／＼」
龍田「待てません♡」ハツハツハツ

提督「ま、待ってくれ……」

◇執務室外◇

提督『た、龍田……待つんだ……／＼／＼』

龍田『提督♡ 提督♡ 愛してます♡』ズツズツ

／ピンクオーラムンムン＼

天龍「悪いな、今提督と龍田は忙しいから報告書は後で頼む……」

天龍（世話の焼ける夫婦だぜ……）ヤレヤレ

龍田『提督♡♡ 愛してます♡♡』ビクンビクン

提督『た、龍田♡！』ビクビク

天龍（あゝ、空が青いぜ、コンチクショー……）フフ

龍田 完

球磨とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

球磨「提督く」

女提「なくにく？ お昼ご飯く？」

球磨「違うクマく」

女提「じゃあ、どうしたのく？」

球磨「ちゆうしたいクマく」

女提「じゃあ、こっちおいでく」

球磨「クマく♪」

ぽふっ↑提督の胸にダイブ

女提「きやつ……もう、痛いじゃない……」

球磨「こんな立派なクツションを二つも付けてるくせに痛いクマく？」

女提「当たり所が悪ければ痛いわよ」

球磨「……ごめんクマく」シユン

女提「許してあげる♪」チュツ

球磨「ん♡」チュツ

球磨「クマく♡」ニヨニヨ

女提「ナデナデ

(アホ毛がハート型になってるわ……)

球磨「もつとく♡ もつとちゆうするクマく♡」アタマグリグリ

女提「分かったから胸に顔を擦り付けないで／＼／＼」ビクツ

球磨「感じちやうクマく？」ニヤニヤ

女提「敏感なの知ってるでしょ、もう／＼／＼」プイツ

球磨「あくん、それじゃちゆう出来ないクマく！」

女提「イジワルする人にはちゆうしてあげませくん」ツーン

球磨「ごめんなさいクマく！」ウワーン

女提「はいはい♪」チュツ

球磨「ん〜♡」チュツチュツ
くう〜……

球磨「あ……／／／」エヘヘ

女提「お昼ご飯食べに行こっか」ニコツ

球磨「クマ〜！」ニパツ

〜準備して食堂へ〜

◇廊下◇

球磨「クマ〜♪ クマクマ〜クマ〜♪」スキップ

女提「球磨は今日もご機嫌ね〜」クスクス

球磨「提督と一緒に居れば、球磨はいつもご機嫌クマ〜♡」ニパツ

女提「キューーン

(可愛いわ……／／／) ドキドキ

球磨「クマ〜♡」ニコニコ

◇食堂◇

カランカラン〜

球磨「着いたクマ〜♪」ヴォー

女提「そうね〜」フフ

北上「球磨姉に提督じゃん」

大井「馬鹿夫婦のご登場ね」

多摩「今日も一緒に登場にや〜」

木曾「お熱いな」

女提「みんなも来てたのね」ニコツ

球磨「球磨達は一心同体だクマ！」ドヤア

北上「へえ〜いいね〜」ニヤニヤ

木曾「冷やかしても通じねえな」ヤレヤレ

大井「冷やかしてもあの熱さじゃ、直ぐに温まっちゃうわよ」クス

クス

多摩「ストップ地球温暖化にや」ビシツ

女提「そんなこと言われても〜……」ニガワライ

球磨「球磨達は地球に優しい温かさだから大丈夫クマ〜」フフン

北上「ニヤニヤ

木曾「ニガワライ

大井「ヤレヤレ

多摩「ニヤ〜

「そんなこんなで皆揃って昼食〜

球磨「今日の鮭は脂が乗ってるクマ〜♪」アムアム

女提「良かったわね〜」ニコニコ

北上「アタシ達も同じテーブルで良かったの〜?」

大井「いいのよ北上さん。どうせ年がら年中一緒にいるんだから、

こういう時くらい他人と交流しなきゃ」

多摩「気にするだけ無駄にや」パクパク

木曾「確かになく」パクン

女提「木曾、ほっぺにケチャップ付いてるわよ」

木曾「お、マジか」ゴシゴシ

女提「あく、反対反対。こっちよ」チョン

木曾「おく、サンキュー提督」ニツ

女提「どういたしまして♪」ペロツ

球磨「!?!」

「その時、球磨に電流が走る〜

多摩「ヤレヤレ

北上「ニヤニヤ

大井「アキレ

木曾「ア〜ア

女提「???」クビカシゲ

球磨「ペタペタ

「球磨、自分でほっぺに醤油を付ける〜

球磨「クマ〜! 提督、球磨のも取ってクマ〜!」ズイツ

女提「どこ?」

球磨「ここだクマ〜!」ズズイツ

女提「あく、これね」スツ

球磨「サツ

女提「何で避けるのよ。取れないじゃない」

球磨「何で普通に指で拭こうとしてるクマ？」

女提「？　ならナプキン使う？」つナプキン

球磨「そんなの必要ないクマ」

女提「なら避けないでよ」ニガワライ

球磨「提督が舐め取ってくればすぐクマ♡」ズイツ

女提「

北上「いいね、しびれるね」ニヤニヤ

多摩「馬鹿夫婦は伊達じゃないにや」ニマニマ

大井「早く舐め取ってあげたらどうですか、提督？」ニヤニヤ

木曾「／／／」ドキドキ

球磨「ほら提督、みんな期待して待ってるクマ♡」ホラホラ

女提「……はくい／／／」

ペロツ……ちゅぱ……

女提「……取れたわよ／／／」カオマツカ

球磨「上出来だクマ♡」デレデレ

女提「／／／」カオカクシ

球磨「♡」デヘヘ

北上「お、ラブラブですな」ニヤニヤ

大井「馬鹿夫婦じゃなくて、大馬鹿夫婦に昇進ですな」ニヤニヤ

多摩「おめでとくにや」ニヨニヨ

木曾「うわ／／／」ドキドキ

女提「お願い、そんなに言わないで／／／」アワワ

球磨「恥ずかしがる必要ないクマ♡　みんな球磨達を褒めてるクマ

♡「ニパツ

女提「それはない！／／／」

北上「ええ、褒めてるよ」www

大井「ええ、ちゃんと褒めてますよ」www

多摩「にやwww」

木曾「／／／」ドキドキ↑まだ興奮気味

女提 「穴があつたら入りたい／＼／＼」カオカクシ

球磨 「なら球磨も一緒に入ってあげるクマ♡」ヨシヨシ

北上 「一緒に入ったら狭いだらうね♡」ニヤニヤ

大井 「でも密着度は高いですよね♡」ニヤニヤ

多摩 「そこでしっぽり過ぎすんですね、分かるにや」ニヨニヨ

木曾 「／＼／＼」プシュー↑想像してしまった

女提 「やめて♡／＼／＼」言わないで♡／＼／＼

球磨 「球磨がいるから大丈夫クマ♡」ホツペチユツ

女提 「♡／＼／＼」アワワワ

その後も提督はからかわれ続け、球磨はそんなことお構い無しに提督の頬やおでこにキスをするのであったー。

ご飯へ早く食わねえと冷めちまうぜ？

球磨 完

多摩とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

提督「おーい、多摩く？」ユサユサ

多摩「にゃく？」クシクシ

提督「そろそろおやつ休憩にしたいから膝降りてくれない？」

多摩「……分かったにゃ」ストーン

提督「ありがと。多摩も一緒に行こ」

多摩「にゃあ」ギユツ

く夫婦移動中く

◇甘味処・間宮◇

P r r r r : P r r r r :

提督「電話だ……ごめん、多摩。食べてて」

多摩「」コクリ

提督「待っててね」ナデナデ

く提督席外すく

カランカランー

球磨「クマ？ 多摩もおやつクマー？」

多摩「提督とおやつ休憩にゃ」

球磨「相変わらず仲が良いクマねく」

多摩「にゃにか悪いにゃ？」

球磨「悪くはないクマ。ただケツコンしてから多摩は遠慮が無く

なったクマ」

多摩「どういうことにゃ？」

球磨「ケツコンする前の多摩はその名の通り自由奔放だったクマ」

多摩「猫じゃにゃいにゃ……」

球磨「それ本気で言ってるクマ？ ……とにかく、ケツコンしてか

ら多摩は常に提督の膝の上か背中に居るクマ」

多摩「だって……」

球磨「クマ？」

多摩「だって提督の側は多摩が一番安らげる場所だからにや♡」
レ

球磨「……ちよつとくそにつがい抹茶貰ってくるクマ」

多摩「提督が居にやいと寂しいのにや……」シユン

球磨「いやいや、その窓から丸見えクマ」

多摩「温もりがにやいのにや……」シヨボン

球磨「なら近くに行けば良いクマ」

多摩「電話の邪魔ににやるのにや……それに、提督の邪魔はしたくないのにや……」シヨボボン

球磨「言ってることは立派だけど表情が伴ってないクマ」

多摩「提督う……」ミーミー

球磨「まるで捨てられた子猫ちゃんだクマ」ヤレヤレ

カランカランー

木曾「お、球磨姉と多摩姉じゃないか。休憩か？」

球磨「ちゃんと語尾に『キソー』を付けろっていつも言ってるクマ」

多摩「そんにや妹に育てた覚えはにやいのにや」

木曾「またその話かよ……北上姉も大井姉も語尾に何も付けて無いだろ。なんで俺ばっかり……」

球磨「そんなの末っ子だからに決まってるクマ」

多摩「末っ子はただお姉ちゃんの言うことを聞く生き物にや」

木曾「すげえ理不尽だな、おい！」ガンツ

カランカランー

提督「おや、球磨と木曾もおやつ休憩？」

球磨「クマー」ノシ

木曾「そんなところだ」

多摩「……提督う」クイクイ

提督「ん？ ああ、待たせてごめんね。ただいま」ホツペチュツ

多摩「にや♡」スリスリ

球磨「おお」マジマジ

木曾「っ!?!／／／」ガンミ

多摩 「ごろごろにや〜ん♡」ゴロゴロ
提督 「よくしよし〜♪」ナデナデ
球磨 「相変わらず激甘だクマ」ニヨニヨ
木曾 「局地的温暖化が深刻だぜ／＼／＼」パタパタ
提督 「？」
多摩 「クイクイ
提督 「どした？」
多摩 「にや〜」オクチアーン
提督 「はいはい……どうぞ〜♪」つたい焼き
多摩 「にや〜♪」ハムハム
木曾 「たい焼きでもああして食べるんだな／＼／＼」パタパタ
球磨 「リア充のすることは分からないクマ」ニヨニヨ
カランカラン〜
北上 「あれ〜、みんな揃ってるじゃん」ノシ
大井 「激ウザ夫婦も揃ってますね」チツ
球磨 「姉妹勢揃いクマ〜」ノシ
多摩 「大井に褒められたにや／＼／＼」ポツ
提督 「良かったね、多摩」ナデナデ
大井 （スルーに限るわ……）ピキピキ
木曾 「……二人も休憩か？」
北上 「そだよ〜」
大井 「……ええ」
多摩 「この丸テーブルまだ空いてるから、二人共ここに座るにや」
北上 「え、どう見ても一席足りないけど……」
大井 （あ……）察し
多摩 「多摩が提督のお膝に乗れば解決にや」チヨコン
提督 「空いたよ」ナデナデ
北上 「んじや、お邪魔しま〜す」スツ
大井 「北上さんが良いって言うなら……」スツ
多摩 「にや〜」オクチアーン
提督 「どうぞ〜♪」つたい焼き

多摩「くっ」ハムハム

球磨「ニヨニヨ

北上「ニヤニヤ

木曾「／＼／＼」ドキドキ

大井「イライラ

多摩「大井、そんなにやにイライラしてたらお肌に悪いにや?」

大井「姉さんのせいでしょ!」ウガー

北上「まあまあ大井っち……二人は誰もが認めるバカツプルなんだから気にしない方がいいよ」ドオドオ

球磨「大井は多摩に提督を取られて悔しいから余計にイライラしてるクマ?」ニヨニヨ

大井「なっ!? なんで私が!!」プイッ

北上「凶星だねえ……」

木曾「やっぱりなあ……」

多摩「正妻は譲れにやいけど側室にやら許すにや」

大井「……わあ、嬉しいですう♪ なんて言うとも思ってるの!!」クワッ

球磨「一瞬揺れたクマ」

北上「間があつたね」

木曾「遊ばれてるなあ」

提督「大井……気持ちは嬉しいが、僕あ多摩一人しか愛せない不器用者なんだ……」

大井「しっ てます！ いちいちマジレスしないでください！」フンッ

(私が振られたみたいなの流れにするのやめてよ!?)

多摩「提督うっ♡ 多摩も提督一人だけを愛してるにやっ♡」ゴロゴロ

提督「嬉しいよ、多摩♡」ギュー

大井「アホらし……幸せそうな顔して」フフ

北上「大井っちってやっぱり良い女だよね」ニヒヒ

球磨「大井はまた一回り成長したクマ」ウンウン

木曾（自慢の姉だぜ、大井姉……）ソンケイ

多摩「にゃ〜♡んにゃにゃ〜♡」ゴロゴロ

提督「可愛い、可愛いよ多摩〜♡」ギュー

球・北・大・木『間宮さん、くそにつがい抹茶とくつそ激辛わさび
漬けください（クマ〜）！』

その後も四人は夫婦が店を去るまで、ラブラブ振りを見せつけられ
たそうな〜。

多摩 完

北上とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

北上「提督」

提督「どした？」

北上「そろそろさ、おやつタイムにしな？」

提督「もうそんな時間か……分かった」スツ

北上「いこいこ」ギユツ

提督「ああ」

◇廊下◇

北上「ねえねえ」クイクイ

提督「ん？」

北上「キスしたくなっちゃった」ジ

提督「」チュツ

北上「えへへ」

提督「」ナデナデ

北上「良いね」

」夫婦イチャつき中

球磨「はいはい。申し訳ないけど、この先バカツプルが居るため迂回してほしいクマ」ハイライトオフ

多摩「アホ夫婦の邪魔をすると大井の魚雷が火を吹くにや」ハイライトオフ

木曾「悪いが向こうから回ってくれ」ハイライトオフ

大井（ああ、提督と北上さんが幸せそうだわ）

◇甘味処・間宮◇

北上「何にしようかなあ」

提督「たまにはこのジャンボパフェにしてみるか？」

北上「お、良いね」二人で一緒に食べよ

」ジャンボパフェが来たよ！

提督「ほら」つパフエ

北上「あむ……美味美味」ニコニコ

提督「良かったなあ」

北上「提督もあくん」つパフエ

提督「はむ……うん、美味しいな」ニツコリ

北上「キユン

提督「？」

北上「キスしよ？」

提督「チュツ

北上「へへ、甘い♡」

提督「パフエ食べてるからな」ナデナデ

北上「もつと♡」

提督「ああ」

／ラブラブチュツチュツ＼

球磨「ごめん、今この奥の席は使えないクマ」ハイライトオフ

多摩「甘いものが甘く感じなくなるにや」ハイライトオフ

木曾「おやつを楽しむためにも他の席に座ってくれ」ハイライト

オフ

大井（うふふ、二人の邪魔はさせませんからね♡）

◇執務室◇

北上「提督」

提督「どした？」

北上「そろそろ定時だよ」

提督「もうそんな時間か……分かった」

北上「窓とか戸締めししてくるね」

提督「ありがとう」

北上「いえいえ♪」パタパタ

く夫婦後片付け中

球磨「もう今日は終わりクマ」ハイライトオフ

多摩「報告書はまた明日提出してほしいにや」ハイライトオフ

木曾「急用以外は遠慮してくれ〜」ハイライトオフ
大井（お仕事お疲れ様でした♡）

◇提督&北上ハウス◇

〜無事に帰宅〜

大井「姉さん達に木曾、今日もお手伝いありがとう♪」

球磨「クマ〜」ノシ

多摩「にや〜」ノシ

木曾「キソ〜」ノシ

球・多・木『（やつと解放された……）』

大井「さてと……じゃ、私達も帰りましょうか♪」

球磨「クマ〜」ノシ

多摩「にや〜」ノシ

木曾「キソ〜」ノシ

◇居間◇

北上「提督〜♡」ゴロゴロニヤーン

提督「ナデナデ

北上「ん♡」クチビルサシダシ

提督「チュツ

北上「もつともつと〜♡」

提督「良いとも」ホッペナデナデ

北上「ちゅつ、ん……ちゅつちゅつ……はあ、あむ……ちゅつちゅ

……ぷはあ……へへ♡」ギユツ

提督「大好きだよ、北上」ナデナデ

北上「もつと♡」

提督「大好きだ、北上」ナデナデ

北上「もつと〜♡」

提督「愛してる、北上」ギュー

北上「♡♡♡」ゴマンエツ

〜提督料理中〜

北上「今日は何〜？」ウシロカラダキツキ

提督「コロツケと豚汁だ」トントントン

北上「やった〜♪ 提督のコロツケ好き〜♪」スリスリ

提督「油が飛ぶと危ないから顔出すなよ？」

北上「は〜い♪」スンスン

提督「北上、くすぐったいよ」

北上「へへ、ごめ〜ん」テヘペロ

〜夕飯の時間だよ！〜

提督「いただきます」人

北上「いただきます〜」人

提督「火傷しないようにな」

北上「はいは〜い♪」フ〜フ〜

提督「〜ジ〜

北上「〜ハフハフ

提督「〜どうだ？」

北上「〜美味しいよ〜♪」ニパツ

提督「〜良かった」ニツコリ

北上「〜キュン

提督「〜？」

北上「〜今日もいっぱいサービスするね♡」

提督「…………頼むよ／／／／」

北上「〜任せて〜♡」

◇お風呂場◇

北上「痒いところある〜？」ゴシゴシ

提督「ちよい右…………ああそこだ…………」

北上「背中傷、痕になっちゃったね…………」コシコシ

提督「〜まだ気にしてるのか？」

北上「〜そりゃあ、ね…………」コシコシ

提督「〜この傷痕は北上と大井を救った証だと思っている」

北上「〜でもり級の攻撃だったんだよ？」

提督「確かに凄い激痛だったけどもう過ぎた事だ」

北上「うん……」

提督「……自己満だろうが、これは私の誇りなんだ」ニッコリ

北上「今そんな顔するのズルい／＼／＼」キューーン

提督「え？」

ガバツーン

北上「いっぱいいっぱいキスしたい♡」

提督「ホッペナデナデ

北上「ちゅちゅっ……んん、てい、んむう、くう……ちゅっちゅ……

ちゅ

提督「ナデナデ

北上「提督、大好き♡」スリスリ

提督「ああ」ギョツ

北上「そろそろ流して湯船いこっか♡」

提督「そうだな」ニツ

カポーンー

北上「はあく、お風呂は良いね♡」

提督「同感だ」

北上「♪」パシヤ

提督「ナデナデ

北上「♡」ニへへ

◇寝室◇

北上「提督の体ホカホカ♡」スリスリ

提督「北上も温かいぞ」ギュー

北上「提督、アタシ毎日幸せだよ♡」

提督「これからももっと幸せになろうな」ナデナデ

北上「うん♡」ギュー

そして今宵も夫婦は仲睦まじく身を寄せ合って過ごすのであった。

北上
完

大井とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇鎮守府内・廊下◇

大井「く♪」ルンルン

北上「おく、大井つちじやん」

大井「あ、北上さん姉さん達に木曾♪ こんにちは♪」

北上「んく」ノ

球磨「クマく」ノ

多摩「にやく」ノ

木曾「おう」

大井「北上さん達はこれからお昼？」

北上「そだよく。大井つちは相変わらず提督のお世話？」

大井「ええ♡ 提督のお世話♡」キヤハ

球磨「頑張るクマく」

多摩「にやく」

木曾「ニガワライ

大井「ありがと♪ じゃあ、提督が待ってるからまたね♪」ノシ

く花を咲かせて大井は去っていくく

多摩「今日も大井はデレデレにや」

球磨「ケツコンして更にデレデレ度が増えたクマ」

木曾「未だに幻でも見てる気になるけどな」

北上「まあ、提督は大井つちの命の恩人だから、恋に落ちても仕方

ないよく」

球磨「そうクマね。とりあえず、球磨達は球磨達で食堂に行くクマ

く」

多摩「にやく。早く行かないと席が埋まっちゃうのにや」

北上「そだねく」

木曾「今日は豚丼でも食うかなく」

球磨「球磨は鮭の塩焼き定食にするクマく♪」

多摩「多摩も同じにや〜♪」
北上「アタシはカレーかな〜。辛いやつ」

◇執務室◇

トントナー

提督「はい」

ガチャー

大井「て・い・と・く♡」ヒョコ

提督「ああ、大井か。どうかしたのか？」

大井「もお、冷たいですね〜。せっかくこんな可愛いお嫁さんが、お昼を作って持ってきてあげたのに〜」ブー

提督「可愛いのは認めるが……」アタマポリポリ

大井「むう〜」プクウ

提督「ニガワライ

大井「まあいいです……今は左脚の具合はどうですか？」

提督「特に問題ない。心配し過ぎだ」ニガワライ

大井「心配し過ぎくらいが丁度いいんです！ 提督はもう少し自分の身体を労るべきです！」ビシッ

提督「耳が痛いな」アタマポリポリ

大井「少しでも違和感を感じたら教えてくださいね？」

提督「ああ」

大井「約束ですよ？」ジト

提督「ああ、勿論だ」ニカッ

大井「ニキュン

大井「と、とにかく！ お昼にしましょう！」ドキドキ

提督「そうだな」ニカッ

大井（素敵過ぎでヤバイわ／＼／＼）デレデレ

く大井特製カレー堪能中く

提督「大井のカレーはいつ食べてもウマイな」モグモグ

大井「えへへ♡ 提督への愛がた〜くさん入ってますから♡」ニヨ

ニヨ

提督「良い嫁さんをもったな、俺は」ハニカミ

大井「」キューーン

提督「大井、鼻血が出ているぞ？」フキフキ

大井「あ……す、すみません……／＼／＼」

「御馳走様でした！」

提督「さて、午後からの仕事も頑張るか！」

大井「食器を片したら、私もお手伝いしますね♡」

提督「ありがとう」ナデナデ

大井「♡」キラキラ

◇提督&大井の部屋◇

「大井、食器を片付け中」

大井「へへ♡ 沢山食べてくれた♡」ゴシゴシ

大井「幸せ♡」キュツキュツ

大井「もつともつと提督へ愛と感謝を伝えなきゃ！」フンスフン

ス

大井（だって、自分の左脚を犠牲にしてまでこんな私を守ってくれたんだもの♡）

◆回想◆

「某海域にて」

大井「くう……魚雷発射管が……」タイハ

北上「大井っち避けて！」

大井「!？」

木曾「大井姉貴♡！」

提督「ちいっ！」

（間に合え、ポンコツ！）

ドローン！

北上「嘘……」

木曾「大井……姉貴……」

ドローン！ ドローン！

北上「ウザい！」

木曾「クソがつ！」

バーン！ バーン！

く戦闘終了く

北上「大井つち！」ダッ

木曾「大井姉貴！」ダッ

大井「……あれ？ 私……生きてる……？」

提督「無事か？ 大井」

く提督、自身の操る船を盾に大井の轟沈を阻止く

大井「なん、で……提督が最前線に……？」

提督「仲間を守るのは当然だろう？ 船はエンジンがお釈迦になっちまったから、帰りはお前達に頼むしかないがな……」ニカッ

大井「……無茶しないで……っ!？」ビクッ

提督「どうした？」

大井「提督！ 脚が！ 提督の左脚が！」

提督「さっきの爆発で持ってたかたみたいだな。まあ、良いさ。脚の一本くらい」ハハッ

大井「！」

提督「脚の一本くらいでお前が死なずに済んだんだ。安いもんだろ？」ニカッ

大井「ごめんなさい……！ ごめんなさい！」ギューツ

提督「おーおー、泣くな泣くな」ナデナデ

大井「うう……くう……」ギューツ

北上「大井つち！ つて、提督!？」

木曾「話は後だ！ みんな！ 手を貸してくれ！」

◆回想終わり◆

大井（提督には私の一生を捧げる恩がある。それが提督に助けてもらった私の使命！）グッ

◇執務室◇

トントナー

提督「はい」

ガチャー

大井「只今戻りました♡ 提督♡」ヒョコ

提督「……ああ、お帰り」ニガワライ

大井「左脚の方は大丈夫ですか？」

提督「大丈夫だ。さつきも聞いたじゃないか」アタマポリポリ

大井「だって……」

提督「何度も言うがな、大井」

提督「俺はお前を助けて脚を失ったことを後悔したことはない。だから必要以上に責任を感じる必要はない」

大井「はい……」

提督「俺はちゃんとこうして生きてる。お前という良い嫁さんも持てた。俺はお前を救えたことを誇りに思っているんだ」ナデナデ

大井「提督……」

提督「左脚を失ってなければ、こんなに気負わせることがなかったはずなんだがな」ニガワライ

大井「ありがとうございます」ギューツ

提督「そうだ。謝罪の気持ちよりも感謝の気持ちの方が俺は嬉しい」ナデナデ

大井「愛してます♡ 心から♡」

提督「ああ、俺もだよ」チュツ

大井「んう……ん……っ……ちゅっ……はう♡」トローン

提督「さ、午後の仕事を片付けよう」ニカツ

大井「はい♡」

大井（私はあの時、確かに轟沈しましたー）

大井（提督の深い愛の中へ♡）

大井 完

木曾とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

木曾「おい、そろそろ昼飯にしないか？」

提督「む、もうそんな時間か……あと少してこの書類が終わるから、先に食堂へ行つて席を取つておいてくれるか？」

木曾「分かった。ちゃんと来いよ？ 来なきや泣くからな」ジトツ

提督「ああ、必ず行く。泣かずに待つていてくれ」

木曾「ん」

〽木曾、提督に向かって頭を下げる〽

提督「？」

木曾「」スツ

〽木曾、帽子を取る〽

提督「あく、すまん」ナデナデ

木曾「今日は気が付いたから許してやる♡ いいぞ、もつと撫でろ♡」エヘヘー

提督（甘える木曾は可愛いな……）ナデナデ

木曾「〽♡」ゴマンエツ

〽提督の撫で撫でを堪能し、いざ食堂へ〽

◇食堂◇

カランコロンー

鳳翔「あら木曾さん……今日も場所取りですか？」ニコツ

木曾「そうだ」

鳳翔「ならいつものカウンター席にしますか？」

木曾「ああ」

〽木曾、いつもの席をキープ〽

カランコロンー

球磨「お腹減ったクマ〜！」

多摩「鳳翔さ〜ん、多摩と球磨に甘鮭定食くださいにや〜！」

鳳翔「は〜い♪」

北上「あれ木曾っちが居る〜。あ、鳳翔さん、アタシ鯖の味噌煮定食で〜」

大井「また提督の為に席を取ってるのね。私も北上さんと同じものをお願いします」

鳳翔「はいはい♪」

木曾「〜ノシ

球磨「眼帯夫婦の奥さんの方クマ〜」ヴオー

多摩「激甘夫婦の奥さんの方にや〜」ニヤ〜

木曾「何だよその変な名称は……」

北上「何って提督と木曾夫婦の名称だよ〜」ニヤリ

木曾「そうかよ……」フツ

大井「提督はまだ仕事？」

木曾「そうだ。でもその内来る」

球磨「なら早く食べて、退散するクマ！」

多摩「甘鮭が砂糖漬けになるにや〜！」

木曾「何でだよ……」ニガワライ

北上「そりやあ、あんな仲良く食べてたら何でも甘くなるよ〜」ニヤニヤ

木曾「あれくらい普通だろ？」

大井「あんなに肩寄せ合って食べなくてもいいと思うけどね……」

木曾「ただ仲良く食べてるだけだ」フフン

球・多・北・大『ニガワライ

鳳翔「は〜い、皆さんの定食出来ましたよ〜」ニコツ

球磨「待ってたクマ〜！」

多摩「にや〜！」

北上「んじや木曾っち、お先に〜♪」

大井「またね、木曾」ニコツ

木曾「ああ」ノシ

(眼帯夫婦、か……) フフ

◆回想◆

とある海戦にてー

ドーン！ ドドーン！

木曾『ちい！』

那珂（旗艦）『きやくー！』タイハ

五十鈴『那珂!?!』

球磨『これはまずいクマ！』

野分『司令！ ご指示を！』

舞風『提督！』

提督『全艦に告ぐ！ 那珂を護衛しつつ引き上げる！ 繰り返

すー』

く艦隊は戦場を離脱く

木曾『追撃はもうないみたいだな……』フウ

舞風『那珂ちゃん、大丈夫？』

那珂『平気だよ！ 顔は守ったから！』キラツ☆

野分『本当に遅いですね』ニガワライ

球磨『たんこぶ作るアイドルなんて見た事ないクマ』ヤレヤレ

五十鈴『まあ、これが那珂だからね』クスクス

ブーン……！

五十鈴『敵の艦載機!?!』

球磨『まだ来るのかクマ!?!』

提督『五十鈴、球磨、木曾！ 撃ち落とせ！』

木曾『分かってる！』

提督『野分、舞風は那珂を守れ！』

野分『了解！』

舞風『任せて！』

ダダダダッ！

ポーン！

五十鈴『!?! 木曾避けて！』

木曾『!?!』

球磨『神風クマ!』

提督『させるか!』

く提督、自身の操る船で艦載機に突撃く

ズガーーン!

那珂『提督くく!』

木曾『マジかよ……おい……』

五十鈴『提督!』

球磨『野分、舞風はそのまま周囲を警戒するクマ!』

野分『りよ、了解!』

舞風『提督……』

五十鈴『提督! 無事なら返事して!』

木曾『どこだ! 返事をしろ!』

ザパアツ!

球磨『提督!』

提督『おう』ボロツ

木曾『早くここを離脱するぞ、捕まれ!』

提督『悪い右眼が見えん……すまないが手を掴んでくれ』

木曾『……っ』

く木曾、自分の眼帯を提督の右眼に巻くく

木曾『何もしてないよりはマシだろう』

提督『それでは木曾の眼が……』

木曾『んなの後回しだ!』

提督『綺麗な眼をしているな』ニツ

木曾『つせえ!／＼／＼ さっさと離脱するぞ!／＼／＼』カァー

くそして提督はその海戦で右眼を失ったく

◆医務室◆

くその敗戦から数日後く

木曾『おい……様態はどうだ?』

提督『火傷がまだ痛むがこれくらい問題ない。それより木曾、これ返すぞ……』つ眼帯

木曾『おう……ん？ 何だ、この箱は？』

提督『木曾、お前この前の作戦で練度が最高になったよな？』

木曾『その海戦で負けたがな……ってそんなことは今はどうでもー』

提督『それをお前にずっと渡したかった……受け取ってくれ』

木曾『？』

パカッー

木曾『っ!?!』

く輝く指輪く

木曾『っ!?!』

提督『好きな女を守りたくて、あんな馬鹿げたことをした男は嫌い
か？』

木曾『とことん馬鹿野郎だな、お前は……っ／／／』グスッ

提督『すまん……でも私はお前を救えた。お前の命が右眼の光一個
なら儲け物だと思っている』

木曾『馬鹿野郎……！』ポロポロ

提督『嫌なら断ってくれて構わん……』

木曾『馬鹿野郎のお前を支えられるのは俺くらいだろ！ いいさ、
一生俺がお前を守ってやる！』ギューッ

提督『ありがとう、木曾……愛している』ギユッ

木曾『……俺もお前を愛してるぞ！』ナキワライ
くプロポーズの翌日く

提督『これは？』

木曾『お、俺が改二になる前に巻いてた眼帯だ……いつまでも包帯
じゃ格好付かないだろ？／／／』

提督『ありがとう、木曾』ニカッ

木曾『こ、これでも嫁……だからな／／／』プイッ

提督『これで私達は夫婦揃って仲良く眼帯巻きだな……眼帯夫婦と
言ったところか』ハハハ

木曾『言ってるよ、馬鹿野郎♡』ニへへ

◇現在◇

提督「ー會、どうした？ 木曾」ホッペペシペシ

木曾「お、お、何だ居たのか／＼／＼」

提督「どうかしたのか？」

木曾「……俺らはみんなから眼帯夫婦って呼ばれてるんだとよ」フ

フ

提督「良い響きじゃないか」ハハ

木曾「ただ恥ずかしいだけだろうが♡」ニパッ

提督「その割には満更でもなさそうだな」ナデナデ

木曾「染まったんだよ、お前の色に♡」

提督「そいつは違うな……」

木曾「？」

提督「この眼帯を貰った時から、俺が木曾の色に染まったんだ」ニ

カッ

木曾「っ!?!♡」キューーン

むぎゅっ♡↑木曾、提督を強く抱きしめる

木曾「なら互いの色に染まったんだな、俺らは♡」オデココツン

提督「そうだな」ハハ

そして夫婦は人目も気にせず熱い口付けをするのであったー。

鳳翔「今日も青汁が美味しいわ♪」ニコニコ

球・多・北・大『鳳翔さん、こつちにも青汁ジョッキください（ク

マ）（にや）ー！』サトウダバー

木曾 完

長良とケツコンしました。

某鎮守府、昼前ー

◇陸地訓練場◇

ピピーン

長良「はい！ 午前中の訓練はこれでおしまいだよ！」

舞風「疲れた〜」グツタリ

野分「ふう……ふう……」

嵐「今日もハードだったなあ」ゼエゼエ

萩風「そ、だね……」ハアハア

夕雲「流石に走り込みは海を駆けるのと勝手が違うわね……」ハア
ハア

秋雲「あぁ、水……」

巻雲「もう歩けない〜……」

風雲「神通さんと……同レベルの、過酷さ……ね……」ゼエゼエ

??「おーい！」

長良「♡」パァー

全員『あ』

提督「長良〜！」ノシ

長良「て〜い〜と〜く〜♡」バビューン

全員『(消えたッ!?)』ギョッ

〜長良、瞬く間に提督の側へ〜

長良「提督♡ 迎えに来てくれたの♡」キラキラ

提督「ああ、午前中の仕事も終わったからな。ほら」つタオル

長良「ありがと♡」ニコニコ

長良「!？」ピキーン

〜長良、提督の匂いを嗅ぐ〜

提督「お、おい、どうしたんだ？」

長良「……匂いがする」ボソ

提督「??？」

長良「どうして私以外の女の匂いがするの？」ニコニコ
提督「あ、ああく、さつき金剛に会ったから……」アセアセ
長良「会うとこんなに匂いがするんですか？」ニコニコ
提督「いつもの様に飛び付いてきたから……」オロオロ
長良「飛び付いてきたら避けないんですか？」ニコニコ
提督「いや……避けたら危ない、じゃん？」ダラダラ
長良「提督は優し過ぎだよ♪ まあ、そんな所も好きなんだけど♡」
ニコニコ

提督「あ、ありがとう……」ニガワライ
長良「でもー」
提督「ビクッ」
長良「この匂いは私の匂いで消してあげるね？　好きでもない女の匂いが付いたら不快だもんね」ハイライトオフ

提督「お、おお……」ビクビク
長良「だよね♡」ギューツ
提督「お、おお……」コウチヨク
長良「嬉しい？　♡　嬉しいよね？　♡　嬉しいはずだよね？　♡」ハイ
ライトオフ

提督「あ、ああ、嬉しいとも……」ビクビク
長良「へへへ♡」ギューツ
く長良、提督にだいしゆきホールド中く
舞風「長良さんあなつちやつたし、解散しようか」ソソクサ
野分「ええ。変に声を掛けると逆鱗に触れるならね」
嵐「みんな解散く！」（小声）
くみんなその場を去るく

長良「みんな気を遣って、私達を二人きりにしてくれたね♡」オメ
メハート

提督「そ、そうだな……」カワイタエミ
長良「く♡」ギューツ
提督「なあ……」
長良「んく？　♡　なくにく？　♡」

提督「このままじゃ、長良が汗で冷えて風邪引いちゃうから、そろそろ移動するなり、シャワー室行くなりしないか？」

長良「……したくなっちゃったの？♡」

提督「いやいや！ そうじゃなくて、お前の体の心配をだな！」アセアセ

長良「ふふ、分かってる♡ からかっただけ♡」ホッペチユツ

提督「からかわないでくれよ」タジタジ

長良「だって狼狽えてる提督って、いつものカッコいい感じが消えて、可愛くなるんだもん♡」オメメハート

提督「ありがと／＼／＼」カァー

長良「じゃあ、シャワー室行ってくるね♪ 出たら執務室に行くから♡」ウインク

提督「お、おう／＼／＼」ノシ

そしてお昼ー

◇執務室◇

提督（やっぱ、あれは俗に言うヤンデレなのかなあ〜？）

提督（そうだよな〜。ケツコンしてから一緒の部屋で寝泊まりしてるけど、部屋は壁中、俺と長良のツーショット写真が貼られてるし、この前は靴底にGPS付けてたし、海軍の胸章に盗聴器付けてたし……）

提督（まあ、酷い束縛とかはされてないし、焼き餅がすげえってことにしよう。うん）

コンコンー

提督「はい、開いてますよ〜」

ガチャー

長良「ただいま、提督♡」ヒョコ

提督「ああ、お帰り」ニコツ

長良「もうお昼だけどどうする？ 食堂行く？ それとも私が何か作ろうか？」

提督「今日は食堂に行こう。鳳翔の作ったかきたまうどんが食いた

いん……だ……」ヤツチマツタ

長良「へえ、鳳翔さんの作った手料理が食べたいんだ」ハイライトオフ

提督「ま、待て待て！ 決して鳳翔が好きとか、そういうのじゃないから！」アセアセ

長良「なんでそんなこと言うんですか？ 私まだ何も言っていないの。怪しいな」ニコニコ

提督「だから落ち着けっ！ 俺はお前だけを愛してる！ 浮気なんてしない！」

長良「はい、提督♡」ケロツ

提督（危なかった……）ハア

長良「今日も私がちやくんと食べさせてあげますね♡」ギューツ

提督「いや、うどんだからー」

長良「食べさせてあげますね♡」ニコツ

提督「お願いします」カワイタエミ

長良「私がつつと面倒見てあげますからね♡」ホツペチュツ

提督「嬉しいけど、長良もたまには休んでね。毎日の訓練に秘書艦

任務、それに俺の世話もだなんて、流石に心配だからさ」ナデナデ

長良「♡」↑恍惚ポーズ

提督「あ、なら今日は俺も食べさせてやるよ！」

長良「ふあっ!?!／／／」

提督「いつものお礼にさ、な？」ニカツ

長良「はい♡ 提督、大好き♡」ギューツ

提督「俺もだよ」ギユツ

その時提督は思いもなかった。

まさかこれが……あんなことになるなんて……。

◇食堂◇

長良「提督♡ 早く♡」

提督「なんで公の場で口移しなんだ！」

長良「食べさせてくれるって言ったから♡」

提督「普通に食べさせてやるって意味だよ！」

長良「聞こえませ〜ん♡ それより早く〜♡ うどんのびちやうよ
〜?♡」クチビルサシダシ
提督（俺の馬鹿〜っ!）

長良
完

五十鈴とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&五十鈴邸◇（鎮守府内）

〜寝室にて〜

五十鈴「あなた、起きて」ミミモトボソツ

提督「今日は非番〜」モグリコミ

五十鈴「非番だけどもう九時よ？」ユサユサ

提督「ん〜」

五十鈴「せっかく揃ってお休みなんだから、一緒に過ごしましょうよ〜」ユサユサ

提督「ふんっ」ツカマエ

五十鈴「きやつ」ポフツ

提督「五十鈴抱きまくら〜」スリスリ

五十鈴「もう…：…仕方ないわね♡」ナデナデ

〜そして結局一緒にスヤスヤ〜

お昼ー

◇居間◇

五十鈴「もう〜、結局お昼になっちゃったじゃない」

提督「そんなこと言いながら五十鈴だっぴ一緒に寝たじゃないか〜」

五十鈴「そりや、側で幸せそうに寝てられたら、ああなるわよ〜／＼」プイツ

提督（可愛い）ナデナデ

五十鈴「〜♡」

〜昼食タイム〜

五十鈴「これ食べ終わったら少し付き合っしてほしいことがあるの」

提督「ん、何？」

五十鈴「この前の演習の反省会。得意の対空戦だったとはいえ見直しておきたいの」

提督「真面目だな……分かった」
五十鈴「お願いね♪」

◇シアタールーム◇

提督「なあ……五十鈴」

五十鈴「何？」

提督「反省会するはずなんじゃないのか？」

五十鈴「で、でも私達しかいないじゃない？」

五十鈴 on the 提督の膝

提督「そうだな」

五十鈴「そうよ」ニコツ

提督「これは反省会する空気ではないのでは？」

五十鈴「うゝ、確かにそうだけどお……こうしてたって出来るじゃない……」プクウ

提督「俺の理性が保たぬ」ニガワライ

五十鈴「変態……」

提督（解せぬ）

五十鈴「まあ、確かに最近お互い忙しくてそれどころじゃなかったものね」スツ

提督「？」

五十鈴「ソファにコロん」

五十鈴「……しましうか♡」リョウテヒロゲ

提督「五十鈴〜！」ガバツ

五十鈴「きやつ……ふふ♡」ギユツ

提督「五十鈴〜♪」スリスリ

五十鈴「あなた〜♡」スリスリ

夫婦営み中

提督「五十鈴は綺麗だよな」ナデナデ

五十鈴「何なのいきなり……嬉しいけど」

提督「いきなりじゃないさ。いつも思ってる」

五十鈴「そ、そう／＼／＼」テレリ

提督「海に立つ五十鈴も、笑顔の五十鈴も……どんな五十鈴も綺麗
だっけいつも思ってる」ギョツ

五十鈴「わ、私だっけあなたのこといつも素敵だと思ってるわよ／
／／／」

提督「え」

五十鈴「指揮してる時、書類仕事してる時、笑顔を向けてくれた時
……全部全部、素敵。その度に私はあなたが好きなんだって再認識す
るの」ギョツ

提督「五十鈴……」ギョツ

五十鈴「あくもう！ 好き！ 大好き！ これでもかかってくらい私
はあなたが大好きなの！」ギョー

提督「俺もだよ……愛してる、五十鈴」ギョツ

五十鈴「ねえ、もう一回しましょう？ まだ出来るわよね？♡」ス
リスリ

提督「任せろ」ニツ

五十鈴「野獣♡」

提督「なら五十鈴は美女な♪」

五十鈴「当たり前でしょ♡」チュツ

く夫婦までも営み中く

提督「五十鈴大丈夫か？」ナデナデ

五十鈴「え、ええ／／／」ピクピク

提督「五十鈴が可愛過ぎて止まらなかったよ」ナデナデ

五十鈴「構わないわよ……あなたの愛は激しいから♡」

提督「でも五十鈴ってる時はすっごい甘えるよな」ニヤニヤ

五十鈴「い、良いじゃない……あなたを感じるところ……胸がキュ
ンとして……／／／／」カア

提督「」ナデナデ

五十鈴「不思議ね……」

提督「何が？」

五十鈴「こうしてるともつとあなたが欲しくなるの。こんなに近く
にいるのに」

提督「ナデナデ

五十鈴「あなたと繋がってる時なんて特にそうよ？ あなたのことでいつも以上に頭が一杯になるの」

提督「俺もだよ……五十鈴への気持ちが溢れて五十鈴しか見えなくなるよ」チュツ

五十鈴「チュツ

提督「五十鈴……」ホツペナデナデ

五十鈴「ふふ、元気ね……もう復活したの？」ギユツ

提督「五十鈴のせいだ」

五十鈴「私のせいなら責任取らなきゃいけないわね♡」ガバツ

提督「五十鈴？」

五十鈴「今度は私がしてあげる♡ 一杯私を感じてね♡」

提督「もちろんだ」ギユツ

く夫婦い（ry）

提督「はあくはあくはあく／／／」クター

五十鈴「はあ……はあ……♡」ビクンビクン

提督「風呂入るか」ナデナデ

五十鈴「そうね／／／」

提督「結局反省会にならなかったな……」ニガワライ

五十鈴「まあたまには良いわよ」ニコツ

（幸せだし♡）

提督「よし、風呂に行くぞ」ダキアゲ↑お姫様だっこ

五十鈴「きやつ……もう♡」ギユツ

提督「五十鈴」

五十鈴「なくに？♡」

提督「これからもずっとずっと愛してるぞ」ニツ

五十鈴「／／／」ズキューーン

五十鈴「当たたり前でしょ！ 私だって愛してるわよ！♡」

五十鈴（こんな素敵な人、手放すもんですか♡）

ギユツー

五十鈴
完

名取とケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇提督と名取の愛の巣・茶の間◇

名取「本日のお仕事もご苦労様でした」ヒザマクラ

提督「ありがと……やっと明日は休みだよ。長かった」イヤサ

レ――

名取「じゃあ、今夜は沢山愛してくださいね……あ・な・た♡」

提督「お手柔らかに頼むよ……」ハハ

名取「そんなこと言つて……もうすっかりやる気満々みたいですよ

?♡」サスサス

提督「それは名取が触るからだ……」アセ

名取「なら責任を取らなくてはいけませんね♡」サスサス

提督「まだ風呂にも入ってないんだが……」

名取「お風呂でしたらいいことですか?♡」サスサス

提督「そうじゃないよ……」アセアセ

名取「大丈夫ですよ♡」サスサス

提督「何が……?」

名取「お風呂は所詮前座……本番はお布団の中で、ね♡」チュツ

提督（赤مام〇の出番かな……）ゴクリ

～夜戦だけは……得意なんです、私！～

昼――

名取「あなた、そろそろ起きてください」ユサユサ

提督「んが……ああ、おはよう。名取」

名取「お昼ご飯出来てますからね♪」

提督「ん～」ノシ

名取「茶の間で待ってますね♡」チュツ

提督「ムクリ

◇茶の間◇

提督「ふあく……おはよう、名と、りっ!?!」ギョツ

名取「おはようございます。あなた♡」（エプロンのみの装備）

提督「な、名取く／＼／＼」メソラシ

名取「あら、朝まで沢山愛して頂いたのに、もう……♡ 遅しくて

素敵♡」オメメハート

提督「こ、これは生理現象だよ……／＼／＼」サツ

名取「ふふ、先に私を食してくださいますか？♡ あ・な・た♡」

提督「ご、ご飯を頂くよ。せっかくなら温かいうちに食べたいし

……／＼／＼」カア

名取「分かりました♪ 腹が減ってはなんとやらと言いますしね♡」

提督（このままじゃ本当に腹上○しかねん……何とかせねば……）

「な、なあ、今日は休みなんだし、デートにでも行かないか？」

名取「わあ、嬉しいです♪ でも、せっかくのお休みなのにゆっくりしてなくて良いんですか？」

提督「何言ってるんだ。名取と過ごす時間は俺にとって一番の癒やしだよ」キリッ

（流石に外なら手出しは出来まいて……）ケケケ

名取「あなた……♡」キュンキュン

提督「さ、早く食べてデートに行こう」ニッ

名取「はい♡」

提督「ちゃんと着替えてね」

名取「分かっています♡」

◇繁華街◇

く街中散策中く

提督「そのカチューシャまだ持っていてくれたんだな」

名取「当たり前じゃないですか。あなたが初めてのデートの時に買ってくれた思い出の品ですよ？」ニコニコ

提督「……あの時はこうして手を繋ぐ事すらあたふたしてたのにな」ニヤッ

名取「ふふ、今は全然恥ずかしくありませんよ♪」

提督「そうだな……自然に恋人繋ぎ出来てるな」ニッ

名取「あなた色に染められちゃいましたから……♡」ポツ

提督「………そっか」アハハ

(どっちかと言うと俺が染められてる気がするよ……)

くウインドウシヨツピングく

名取「このマグカップ可愛いですね♪」

提督「こっちも名取の好みじゃないか？」

名取「あ、本当……ふふっ」

提督「？」クビカシゲ

名取「いえ……大好きな人に好みを知ってもらってるのって良いなって思ったら、つい」フフフ

提督「名取とはずつと一緒に居たからな……そりゃ分かるさ」ニッ

名取「じゃあ……」

提督「ん？」

名取「私が今、どうして欲しいと思ってるか当ててみてください♪」

ニコニコ

提督「……／／／」メソラシ

名取「分からないんですか？」ニコニコ

提督「ここは店の中だ……／／／」カア

名取「誰も気にしませんよ♪」

提督「俺なら気にする……／／／」ボンッ

名取「ふふ……今のあなたは初めて会った時の私より恥ずかしがり屋さんになっちゃいましたね♡」

提督「誰のせいだー」

チュッー

提督(くあwse d r f t g y ふじこー p ／／／)

名取「んっ……ちゅ、んはあ……ちゅちゅっ……ちゅっ……」

提督「っはあ……な、名取！／／／」カオマツカ

名取「ふふふ♡これが正解です♪」ニパッ

他客 a 「オロロロロ」サトウダバ

他客 b 「ちっ、コーヒーが甘いく感じる……」サトウツッー

他カツプル『ちよつとスタ〇行こう』ダツシユ

◇綺麗な湖畔の公園◇

く名取、提督を林の奥へ誘い中く

提督「あのく、名取さん？ こつちは薄暗いから、向こうに戻った方が……」アセ

名取「こつちの方が誰にも邪魔されませんかから♡」カチャカチャ

提督「うん、ズボンのチャックから手を離してから言つてね」アハハ

名取「三回目のデートではお外でしたじやないですか♡」サスサス
提督「鎮守府の外！ それもちゃんとホテルでしたでしょ!？」ガ
ンツ

名取「明日はお仕事で今夜はそんなに出来ませんから、今してあげますね♡」

提督「いやいや、常識的に考えて」

名取「適度な刺激は夫婦生活には大切つて青葉さんの新聞で読みましたよ?♡」

提督「適度つて意味知つてる?」

名取「♡ おつきくなつてきました♡」サスサス

提督「な、なあ、名取……」

名取「あなた……♡」オメメハート

提督「き、きやあああああつ!!」

く頑張ります！ 旦那様!く

提督「くく」マツシロ

名取「く♡」ツヤツヤ

提督「そろそろ帰ろうか……」ヤツレ

名取「はい、あなた♡」ウルオイ

提督（誰にも見られて居ないのが奇跡だ……）

名取「く♡♡」ルルン

??「……見ちゃいました!!」ニシシ

後日、このバカ夫婦のともでもエピソードは何者かの手によって鎮

由良とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇提督&由良宅◇（鎮守府内）

由良「プンプン

〜由良ご機嫌斜め〜

由良「今日はケツコン記念日なのに……提督さんつたら何も言わないで、起きたらすぐに執務室に行っちゃった……」ムスツ

〜ぬいぐるみ抱き締め〜

由良「ケツコンする前から仕事一筋の人だったけど、二人の記念日まで忘れちゃうなんてひどい……」

〜ふて寝〜

由良「私はこうしてお休み取ったのに、提督さんは普通に仕事入れているんだもん。私だけ浮かれてみたいで馬鹿みたい……」ハア

〜指輪キラ〜

由良「ケツコン出来て嬉しかったのって私だけなのかな……」

◆回想◆

提督『これを由良に渡そう』つ指輪

由良『え』

提督『ケツコン指輪だ。嫌なら断ってくれて構わん』

由良『そ、そんな！ 断るだなんて！』

提督『では、受け取ってくれるね？』

由良『はい♡』

提督『カツコカリとは言え、今日から私達は夫婦だ。これからは私の家で共に暮らそう』

由良『分かりました♡』

提督『よろしく頼む』ペコ

由良『こちらこそ♡』ペコリ

◆回想終了◆

由良「もともと表情を面に出さない人だけど、流石に今回の響く

なあ……」ハア

ピンポーン

由良「誰だろ？」

ピンポーン

由良「は〜い！」トテトテ

ガチャーン

夕立「由良さ〜ん！」ノシ

村雨「こんにちは〜♪」

五月雨「どうも〜♪」

春雨「こんにちは」ニコツ

由良「あら、みんなしてどうしたの？」

夕立「あのね、間宮さんと伊良湖さんのお店に、新作スイーツが出来たんだって！」

五月雨「それで由良さんが今日はお休みだって、提督が教えてくれたので……良かったら一緒に行きませんか？」

由良「う〜ん……」

春雨「どうですか？」ノゾコキコミ

村雨「提督から無料券貰ってますよ？」ピラツ

由良「……ええ、分かったわ。一緒に行きましょう」ニコツ

全員『やったく〜♪』バンザイ

由良(家でぼーっとしてるより、甘い物食べに行って気晴らししよ)〜早速、甘味処へ〜

◇甘味処・間湖(まこ)◇

カランカラン〜

パンツ！ パンパンツ！ パンツ！

由良「!?」ビクツ

長良「お嫁さんのご入店で〜す♪」

五十鈴「みんな拍手〜！」

／パチパチパチパチパチパチ／

由良「え、あの……これはどういう……」コンワク
嵐「ほら、由良さん！ こっちこっち！」グイツ

萩風「待ってたんですよ♪」グイッ

野分「早くこちらへ」ニコッ

舞風「早く♪」

由良「あ、あんまり引つ張らないで♪！」

♪店内のお座敷へ♪

名取「こつちに座ってね♪」

鬼怒「ほら座る座る♪」

阿武隈「今日の主役なんだから」ニコニコ

由良「一体なんノー」

♪店の奥から提督登場♪

提督「／／／」カオマツカ

♪提督、両手に大きなケーキ所持♪

由良「」

間宮「これ、提督が頑張って作ったんですよ」ニコニコ

伊良湖「私達は横でアドバイスしただけなので、一から全て提督特製のケーキですよ♪」

由良「」ウルウル

提督「……由良」

由良「はい……」

提督「今日は私達がより強く結ばれた、記念すべき日だ」

由良「はい……」クスン

提督「私は普段から無愛想で、由良にはいつも迷惑をかけてきたと思う」

由良「いいえ……」フルフル

提督「私は何分こんな人間だから、これからも沢山迷惑をかけてしまうのは変わらないだろう……」

由良「はい」ニガワライ

提督「しかし、由良。君をこれから先も沢山愛していくことも変わらない。こんな人間だが、これから先もずっと、私の妻として、私の支えになってほしい」

由良「はい……提督さん。私、由良はこれから先もずっとずっと、

提督さんの側に居ます♡」ナキワライ

提督「これからもよろしく頼む／＼／＼」

由良「はい♡ こちらこそ♡」

／パチパチパチパチパチパチ／

長良「ではでは♪ 夫婦一周年記念の共同作業、ケーキ入刀です！」

五十鈴「皆さん、カメラのご用意はいいですか？」

／ワラワラガヤガヤ／

由良「なんか恥ずかしいですね／＼／」テレテレ

提督「何も恥じることは無い。今日はそういう日だからな」フフ

由良「キウン

提督「さ、切ろうか」

由良「……はい♡」

／ケーキ入刀／

／パシヤパシヤパシヤパシヤパシヤパシヤ／

／パチパチパチパチパチパチパチパチパチ／

長良「おめでどう、提督、由良♪」

五十鈴「これからも仲良くね♪」

名取「おめでどうございます♪」

鬼怒「おめでと〜！」

阿武隈「おめでどう♪ 提督、由良お姉ちゃん♪」

皆『おめでと〜♪』パチパチ

由良「みんなありがとう♪」ニッコリ

提督「サプライズとは言え、今朝は無神経なことをしてすまなかつたな」

由良「もう気にしてません♡」

(本当……笑っちゃう)

提督「愛している、由良」ホッペナデナデ

由良「由良も愛してます……♡」メヲトジル

ちゅっー

／パチパチパチパチパチ／

由良（こういう人だって忘れてた自分が本当の馬鹿だったみたい♡）

由良「由良、とっても幸せです♡」ニッコリ

提督「私もだ」ナデナデ

由良「今夜は期待しててくださいいね♡ ね♡」ミミモトボソツ

提督「お手柔らかに頼む……／／／」カオマツカ

由良「これからも愛してもらえるように、由良のいいところ、沢山見せちゃうから♡」ウインク

提督「／／／」ドギマギ

由良「♡」ニコニコ

その夜が、後のおめでたい発表へと繋がるのは、今の提督は知る由もなかったー。

由良 完

鬼怒とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

鬼怒「提督！ そろそろ休憩にしよう！」

提督「ん？ おく、もうそんな時間か。なら休憩にするか」ノビー

鬼怒「うんうん♪ 働き過ぎはいけないもん♪」ニコツ

提督「んじゃ、間宮さんの所にも行くか？」

鬼怒「うん♡」ギューツ

提督「おいおい、そんなにくつついたら歩きにくいよ」ニガワライ

鬼怒「いつもこうしてるんだから大丈夫だよ♡」スリスリ

提督「本当に甘えん坊だな、鬼怒は」ナデナデ

鬼怒「提督にしか甘えないよ♡」ニへへ

提督「可愛い奴め」ナデナデ

鬼怒「え、今の可愛かった!?!♡」

提督「おう、可愛かったよ」ニコツ

鬼怒「じゃあ、キス♡ キスして♡」

提督「何でだよ／／／」

鬼怒「特別な時にしてくれるって約束でしょ!?!」

提督「……分かったよ／／／」

鬼怒「早く早く♡」クチビルサシダシ

ちゅっ♡

提督「こ、これでいいか？／／／」

鬼怒「えへへ♡ うん♡」ニパー

提督（この笑顔ずるい／／／）ナデナデ

鬼怒「♡」スリスリ

くそして夫婦仲良く甘味処へく

◇甘味処・間宮◇

カランカランー

間宮「いらつしやいませ〜」ニコツ

提督「こんには、間宮さん」

鬼怒「こんにちは〜♪」

間宮「あら、今日も夫婦お揃いで……お熱いですね♪」

提督「ま、まあな／＼／＼」

鬼怒「鬼怒達はアツアツだよ〜♡ マジパナイから!♡」ギューツ

間宮「うふふ、鬼怒ちゃんは今日も絶好調ね。お二人はいつもの
いいですか?」

提督「ああ、それで頼むよ／＼／＼」

鬼怒「お願いしま〜す♪」ノシ

間宮「では、あそこの窓際の席でお待ちください♪」

〜夫婦は言われた通り窓際の席へ〜

提督「なんかいつもここの席だよな」

鬼怒「そりゃあそうだよ! ここは提督と鬼怒の専用の席だもん
♡」

提督「え」

鬼怒「なんかね〜、鬼怒達がここに座ってる方がみんないいんだっ
て♪ だからここの席は鬼怒達専用なんだよ♡」

提督「そ、そ〜なのか……」ニガワライ

(砂糖吐くのを回避する為っぽいな〜) トオイメ

◇甘味処の外◇

長良「あ、提督と鬼怒が窓際に座ったよ!」

五十鈴「ならまた後で行きましょう。今行ったら甘さなんて消し飛ぶ
から」ニガワライ

名取「仲良しでいいんだけどね〜」カタイエミ

由良「雰囲気が甘くて甘味どころじゃなくなっちゃうのよね」カワ
イタエガオ

阿武隈「鬼怒お姉ちゃんじゃないけど、あの空気はパナイもんね」ア
ハハ……

〜提督の予想は的中していた〜

◇甘味処の中◇

間宮「お待たせしました。間宮特製パフェです♪」

鬼怒「キタキタ〜！」

提督「今日も美味そうだな」

間宮「スプーンはこちらに置いておきますね♪ ごゆっくりどうぞ♪」ペコリ

鬼怒「早く食べようよ、提督〜！」ワクワク

提督「食べていいぞ」ニガワライ

鬼怒「むう」

提督「？」

鬼怒「提督……パフェの食べ方教えたよね？」ジトー

提督「あ、あ〜、そうだったな……食べさせ合うルールだったな／＼／＼」

鬼怒「も〜、しっかりしてよ〜。夫婦での決まり事だよ〜？」ムツスー

提督「ごめんごめん」ニガワライ

鬼怒「まあいいけどさ〜……んじゃ、あ〜♡」オクチアーン

提督「はい／＼／＼」つパフェ

鬼怒「はむ……ん〜♪ おいひい〜♪」ムグムグ

提督（可愛い顔して食うよな〜／＼／＼）ドキドキ

鬼怒「次は提督の番♡ はい、あ〜ん♡」つパフェ

提督「キヨロキヨロ

鬼怒「んも〜、提督つてはまだ恥ずかしいとか思ってるの〜？」

提督「こっ、こんなの慣れる訳ないだろ／＼／＼」カー

鬼怒「提督つて純粋だよね♡ そういうところ好き♡」ニへへ

提督「う、うるさい／＼／＼」プイッ

鬼怒「そっか〜……提督にとって鬼怒との時間は恥ずかしい時間なんだね〜」シユン

提督「なっ、何でそうなるんだよ!?!」

鬼怒「だってそういうことでしょ〜？ はあ〜、提督とこうしてい

られて嬉しいって思ってるのは鬼怒だけなんだね」シヨボーン

提督「……／＼／＼」クツ

鬼怒「残念だなく……鬼怒の愛が伝わらないだなんて」シヨボ
ボーン

提督「分かった！ 分かったよ！ 食べる！ 食べるから！」

鬼怒「え、無理しなくていいよ？」

提督「無理なんてしてねえし！ ほら、早く！」オクチアーン

鬼怒「え、そんなに鬼怒のあくんがほしいの？」

提督「俺だつて鬼怒を愛してるんだ！ これくらいどうつてこと
ねえし！ ほら！」オクチアーン

鬼怒「そこまで言われちゃあげるしかないね あくん」つパ
フエ

提督「あむ……う、美味しいな／＼／＼」カァー

鬼怒「だよねだよね」ニヨニヨ

(計画通り♡)

／ハイモウヒトクチ！ アーン

球磨「あの夫婦は今日も絶好調クマ」サトウダバー

多摩「居合わせたのが運の尽きにや」サトウツツ

北上「大井つち、そんなに七味掛けたらケーキじゃなくなつちや
うよく？」

大井「いいんです！ 寧ろこうでもしないと保ちませんから！」シ
チミダバー

木曾（食い終わってて良かった……）

間宮「この時はブラジルコーヒーのブラックが丁度いいわね」ゴク
ゴク

鬼怒「提督♡ 鬼怒にもまた頂戴♡ 今度は口移しがいい♡」

提督「ああ、なんだつてやってやるさ！ 俺は鬼怒を愛してるんだ
からな！／＼／＼」↑やけくそ

鬼怒「鬼怒も提督のこと愛してるよ♡」ニパー
その後も夫婦はシュガーテロを続けたとかー。

鬼怒
完

阿武隈とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れー

◇提督&阿武隈ハウス◇

〜二人仲良く布団の中〜

提督「休日ももう終わりだな……」

阿武隈「そうですね……」

提督「どこか出掛けなくて良かったのか？」

阿武隈「どの口がそんなこと言うんですか？」ジトー

提督「先程まで阿武隈の口と熱いキスをしていたこの口だが？」

阿武隈「く、口じゃなくて唇ですう！／＼／＼」カア

提督「何を今更赤くなっているんだ？」ニヤニヤ

阿武隈「あの時はあの時！今は今なんですう！／＼／＼」プイッ

提督「ははは、阿武隈はいつでも可愛いなく」ナデナデ

阿武隈「ううう、話を逸らさないでください」プンブン

提督「何が不満なんだ？」

阿武隈「不満っていうか……今日はせつかくの休日だったのに、提

督ったら……／＼／＼」ゴニョゴニョ

提督「何？聞こえない」

阿武隈「て、提督が朝から今の今まで、え……えっちなことするか

ら……／＼／＼」モジモジ

提督「嫁とするのは当然だ」キリッ

阿武隈「朝から今までですよ!?!／＼／＼」カオマツカ

提督「そうだな、流石に腹が減ったな」フムフム

阿武隈「ううう／＼／＼」

◇リビング◇

提督「今日の夕飯はなんだ？」

阿武隈「由良お姉ちゃん直伝のクリームシチューです♪ 後は余熱

で少し寝かせるだけですよ♪」

提督「そうか……じゃあ暇だしこっちに來て座りなさい」

阿武隈「「ケイカイ

提督「？」

阿武隈「今日はもうえつちなことは無しですよ？」ジトー

提督「大丈夫だよ……ただ阿武隈と触れ合いたいんだよ」

阿武隈「そういうことなら……」オズオズ

く阿武隈、提督の膝の上に向かい合って座るく

提督「分かっているじゃないか」ナデナデ

阿武隈「お付き合ひしてる時からこう座れって言ってたのは提督で

すよ？」ジトー

提督「だってこの方がより幸せを感じられるからな」ナデナデ

阿武隈「それは分かります……／＼／＼」ゴロゴロ

提督「阿武隈はいい匂いがするな」スンスン

阿武隈「そうですか？」

提督「ああ……優しくて甘い香りだ」スンスン

阿武隈「そうですか／＼／＼」テレテレ

提督「落ち着くなあ〜」

阿武隈「あたしもこうされると落ち着きます♪」アタマアゲ

チュッー

阿武隈「……！」ピクン

提督「あ……」ドキッ

阿武隈「……ちゅー、しちゃいましたね／＼／＼」エヘヘ

提督「まあ、この状態でこつちを向けばそうなるな」ハハ

阿武隈「提督……」クイクイ

提督「今日はもうえつちなのは無しなんじゃないのか？」ニヤニヤ

阿武隈「ちゅーはえつちな行為じゃないです……だから……ん〜」

クチビルサシダシ

提督「甘えん坊め……」チュッ

阿武隈「んう……ちゅ、ふう……ああ」トローン

提督「阿武隈……」ナデナデ

阿武隈「提督う……なんでえつちなちゅーなんですかあ〜／＼／

／ジトー

提督「キスなのだからえっちではないのだろう?」「ニヤニヤ
阿武隈「うう／＼／／」モジモジ

提督「もう終わりにするか?」「ナデナデ

阿武隈「……てください／＼／／」

提督「ん?」

阿武隈「もつとしてください!／＼／／」ホールド

夕飯前の営み中

阿武隈「はあ、はあ……お風呂が先、ですね……」クタア

提督「そうだな……ひとつ風呂浴びるか」ダキッ

阿武隈「ふえ!? このまま行くんですか!／＼／／」

提督「一日中一緒に居たんだ、風呂も一緒になくてはな」ニコッ

阿武隈「は、はい／＼／／」ドキドキ

(抱っこは嬉しいけど、まだ提督のが……／＼／／)

◇風呂◇

提督「いい湯だなあ」ハフー

阿武隈「そ、そうですね／＼／／」ソワソワ

提督「どうした、阿武隈?」

阿武隈「て、提督のが背中にあたって……／＼／／」

提督「好きな女が湯船の中で寄り添っていれば、男ならこうなるさ」

ハハ

阿武隈「今日あんなにしたのに……／＼／／」ゴニョゴニョ

提督「阿武隈が可愛いからこうなるんだ」

阿武隈「あたしのせいにならないでください／＼／／」

提督「いや、阿武隈のせいだ……だから」ダキッ

阿武隈「ま、またですか!／＼／／」

提督「阿武隈だって準備万全じゃないか」ニヤニヤ

阿武隈「これはさつき提督が……／＼／／」

提督「ならまた注いでやらねばな」ギユッ

阿武隈「ま、待って……あっ／＼／／」

風呂上がり前の営み中

阿武隈「はあく、はあく、あん……はあくはあく」ビクンビクン

提督「よし、上がって飯だな！」キリッ

阿武隈「は、はい♡」

◇リビング◇

〜晩ご飯中〜

阿武隈「今日は本当にえっちなだけの休日でしたね……」ハア

提督「たまにはこんな休日もありだな」マンゾク

阿武隈「むう……」ジト

提督「阿武隈は嫌だったか？」

阿武隈「え」

提督「」ジツ

阿武隈「えくと、その……き、気持ち良かったし、嫌ではなかった、

です……／／／」カア

提督「じゃあ、寝る前にもう一度な」ニコツ

阿武隈「え」

提督「嫌か？」ジツ

阿武隈「あ、あたし的にはオツケー、ですう／／／」ウツムキ

その後、結局寝たのは朝方だったー。

阿武隈 完

夕張とケツコンしました。

某鎮守府、朝――

◇提督&夕張夫妻邸（鎮守府近辺）◇

夕張「パチッ

夕張「んん、提督く」ムギユツ

夕張「？」

夕張「いない……」キョロキョロ

トントントントン……

夕張「あれ？ この音……」
バツ！

時計へもう朝食の時間だぜ！

夕張「――」。ドゥ」

夕張「急いで提督の元へ」

夕張「すみません、寝坊しちゃって！」

提督「おく、おはよう」ニコッ

夕張「お、おはよう／／／」ドキッ

提督「朝食は俺が用意してるから、朝の支度をしてこい」

夕張「す、すみません……」

提督「そんなに気にするな、俺達は夫婦だろ？」ナデナデ

夕張「はう……ありがと♡／／／」キユンキユン

く支度して夫婦で朝食く

提督「頂きます」人

夕張「頂きまくす」人

――。

夕張「はあく、私がお嫁さんなのに、また提督に朝食の準備させ
ちやったく」シユン

提督「家事は夫婦でって決めたる？ それに夕張が朝に弱いのは
知っているからな」アハハ

夕張「うん」

提督「深夜アニメの見過ぎだ」ナデナデ

夕張「だつて〜」

提督「新しい艦装開発のヒントになるんだろ？ 趣味でもあり、研究にもなってるならとやかく言わないさ」

夕張「提督……」

提督「それに嫁さんの為に料理するのも悪くないしな♪」

夕張「提督♡／／／」トクントクン

提督「今日も艦装の開発よろしくな」ナデナデ

夕張「はい！♡」

く朝食を済ませた夫婦はそれぞれの仕事場へく

◇工廠・艦装開発部◇

夕張「〜♪」カーンカーン

睦月「夕張さん、今日もご機嫌にやしい」ニコニコ

如月「司令官の愛をたくさんもらってるからかしら〜？」フッフ

弥生「今朝も、工廠の前まで司令官と仲良く手を繋いで出勤してきたもんね」クスツ

望月「巷で言うリア充ってやつだよね〜」

卯月「ラブラブ夫婦だぴよん♪」

菊月「それは良いが……今作ってるこれはなんだ？」

→夕張のアシスタント

夕張「これは潜水艦専用の対艦ミサイルと巡航ミサイルよ♪ これの艦装開発が成功すれば、潜水艦の娘達だけの任務がより楽になるわ♪」

睦月「オリヨクルが捗る……」ニヤシイ

如月「潜水艦の人達が聞いたらどんな反応するのかしら……」ニガワライ

菊月「まあこれの開発が成功してからの話だな」

夕張「全ては提督の為、よ♪」ウインク

弥生「ですね」フッフ

卯月「頑張るぴよん♪」

望月「お熱いこつて〜」ノシ

夕張「もう〜、望月ちゃん。そんなに褒めないで♡」デヘヘ

望月「皮肉のつもりだったんだけど……」

菊月「何を言っても無駄だ。望月」カタポンツ

如月「司令官と夕張さんはどんな皮肉も褒め言葉に変換されるから」クスクス

望月「ヤレヤレ

夕張「愛する提督の為に♡」カーンカーン

全員『ニガワライ

そしてお昼〜

◇執務室◇

提督「カキカキ↑提督仕事中

コンコン〜

提督「どうぞ〜」

ガチャ〜

夕張「失礼します」

提督「お〜、夕張。午前中の仕事は終わったのか？」

夕張「はい♪ キリのいい所で終えました♪」

提督「そうか……お疲れ様」ナデナデ

夕張「ん♡ ありがとう♡」キュンキュン

夕張「提督はまだ終わらなそう？ 私で良ければ手伝うけど……」

提督「今やつてるこの書類で一区切りだから、大丈夫だよ」ニコツ

夕張「じゃあ、ここで待っててもいい？」

提督「寧ろここにいてくれ。夕張がそばにいと嬉しいからな」ニコツ

コッ

夕張「♡／／／」キュンキュン

(嬉しい♡)デヘヘ

夕張「私も提督のそばにいられて嬉しいわ♡」ニパツ

提督「可愛いやつだな」ナデナデ

夕張「提督にだけだもん♡ 本当よ？♡」ニヘヘ

提督「分かっているさ」ニコニコ
くそして夫婦はお昼休憩にく

◇食堂◇

提督「間宮さん、天ぷら蕎麦大盛りくださ〜い」

夕張「私は天ぷら蕎麦の普通盛りで〜」

間宮「は〜い、夫婦セットですね〜♪」クスクス

提督「お願いしま〜す♪」

夕張「♡／／／」ウツムキ

間宮「は〜い♪」

く夫婦揃ってカウンター席へく

提督「頂きます」人

夕張「頂きます〜す／／／」人

夕張「なんか『夫婦セット』って照れますね／／／」

提督「でも事実だしなく。ほぼ毎日昼はお互い天ぷら蕎麦だろ？」

夕張「そうですね〜／／／」

提督「みんなに知れ渡っていいじゃないか」アハハ

夕張「もう、提督ったら♡／／／」キョんキョん

提督「ほら、夕張。かまぼこやるよ」つかまぼこ

夕張「あ、ありがと♡」アムツ

提督（可愛い♪）

夕張「〜♪」モツキユモツキユ

提督「」ナデナデ

夕張「んう？」

提督「気にするな」ナデナデ

夕張「は〜い♡」ニコニコ

夕張「提督、海老の尻尾食べる？」

提督「お〜、食べる食べる♪」アーン

夕張「は〜い♡」つ海老の尻尾

提督「はむっ……うん、海老の尻尾は美味しい」バリムシヤ

夕張「私は殻が苦手〜」ニガワライ

提督「この歯ごたえが美味しいのにな」バリバリ
夕張「そっか♡」フフフ

／マツタリラブラブ

睦月「うわ、ラブラブ♪」

文月「お似合いだよね♪」

卯月「見てるこっちまでポカポカするぴよん！」

弥生「和むね」ニコニコ

如月「二人共、そんなに七味掛けて平気なの？」

菊月「大丈夫だ、問題ない」ズルズル

望月「寧ろ蕎麦を選んで後悔してるよ」ズルズル

夕張「提督、あくん♡」

提督「夕張もあくん♪」

こうして夫婦は午後の仕事へ向け、英気を養うのであったー。

夕張 完

川内とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇艦娘宿舎・神通&那珂部屋◇

那珂「ええく!? まだキスもしてないのおく!?」ガタツ

神通「那珂ちゃん! 声!」シー

那珂「あ……ごめん……」ストン

川内「いや、良いよ。事実だし……」ニガワライ

那珂「でも驚き。あれだけラブラブなのにキスもしたことないんだ……」

神通「お付き合いの仕方はそれぞれだからね……」

川内「いや、実際にはキスしそうって雰囲気にはなるんだよ?」

那珂「じゃあなんでまだしてないの?」

川内「恥ずかしくて理由付けて逃げちゃうんだ／＼／＼」アタマポリポリ

神通（乙女ですね〜）ホホエマー

那珂「生娘かつ!!」ビシツ

川内「え、な、那珂?」

那珂「川内ちゃんがこんなな情けないお姉ちゃんだったなんて知らなかった!」

神通「な、那珂ちゃん、落ち着いて」ドオドオ

那珂「だってそうじゃん! 提督から歩み寄ってくれてるのに川内ちゃんは逃げてるんだよ!」

川内「グサツ

那珂「だから夜戦でしか役立たないとか言われるんだよ!」

川内「グサグサツ

神通「那珂ちゃん、言い過ぎ……」

那珂「だって……」プルプル

川内「?」

神通「那珂ちゃん?」

那珂「だって私、提督のこと大好きだったんだよ？　川内ちゃんに負けないくらい大好きだったんだよ？」

川内「那珂……」

那珂「でも提督が一人の艦娘としかケツコンしない人だって知ってたし、それは川内ちゃんだって思ってたから、私は身を引いたんだよ？」

神通「那珂ちゃん……」

那珂「私だけじゃないよ！　加賀さんも金剛さんも高雄さんも！　他のみんなも！　提督と川内ちゃんならって身を引いたんだよ!？」

那珂「川内ちゃんはみんなの提督を独り占め出来てるんだよ!？　さっさとキスなり夜戦なりしてくれないと、私やみんなで提督盗っちゃうよ！　それでも良いの!？」

川内「分かった」

神通「姉さん……?？」

川内「今から提督のところ、行ってくる」

ガチャー

川内「那珂……」

那珂「何?？」

川内「ごめん……それから、ありがとう」ニコッ
ボタン

神通「那珂ちゃん……」ヨシヨシ

那珂「ギユッ

神通「ナデナデ

那珂（提督と川内ちゃんは幸せにならなきゃいけないんだから!）
グスグス

神通（今日の那珂ちゃん、とっても格好良かったよ）ナデナデ

◇執務室◇

バーン!

川内「提督!」

提督「お帰り。夜戦はまだよ」

川内「提督！」ズイッ

提督「ど、どうしたの川内っ!？」

チユッー

川内「ぶはあ……提督、今まで逃げててごめん。もう逃げないからギユッ

提督「突然どうしたの？ 嬉しいけど……」

く川内事情説明中く

提督「そっか……そんなことがあったのね……」

川内「うん。だから私はもう逃げない！」ギユー

提督「私もね、みんなの気持ちは知ってたの。でも私は不器用だから、一人しか愛せない……その一人は川内しかいなかった。だから私は貴女とケツコンしたの」ギユッ

川内「うん……」

提督「どんなに時間が掛かってもいい。川内が側に居てくれればそれで良かった」

川内「でも、それじゃみんなや提督から逃げてることになっちゃう……」

提督「貴女らしい考えね」ナデナデ

川内「だって……」

提督「貴女のそういうとこ大好きよ」ホツペチュッ

川内「んっ、私は提督の優しいところが大好き」ホツペチュッ

提督「ふふ、川内とこうしてキス出来て幸せよ」ニコッ

川内「ドキッ

(可愛い……／／／)

トクンー

川内(あれ?)

提督「どうしたの？」クビカシゲ

川内(どうしてこんなに提督が欲しいって感じてるんだろう?)

提督「川内？」

(なんでそんなに潤んだ瞳で私を見るの?)

川内(そっか……キスしたいんだ、私)

「提督、キス……したい」

提督「良いわよ……んっ」

川内「んんっ……ちゅちゅっ……あむ、ちゅっ……」
(もつと、もつとしたい)

ガシッー

提督「んっ……ちゅっ、川内、んんっ、ちゅっ」

川内「ちゅちゅっ……んはあ、んっ……ちゅっ」

(キスする度にもつとしたくなる)

提督「んっ、んあ……はむ、ちゅっ……」

川内「んはあ……提督う……♡」

提督「このまましちゃう？ 夜戦」ホツペナデナデ

川内「うん、したい♡」ギユッ

◇執務室外ドア前◇

提督『こんなに積極的になってくれて嬉しいわ』チュツ

川内『こんなに気持ち良いなら、もつと早くすれば良かったよ……

♡』チュツ

／アアーテイトク！ センダイ！

那珂「はあ、やつとだよ」↑心配で様子見に来た

神通「でも段階が早いような／／」↑付いてきた

那珂「夜戦に定評のある川内ちゃんだもん。仕方ないよ」キラツ☆

神通「これで本当に良かったの？」

那珂「うん☆ 提督のこと大好きだけど、同じくらい川内ちゃんも

大好きだもん！」キラツ☆

神通「そっか」ニコツ

那珂「あ、もちろん神通ちゃんも大好き」ギユツ

神通「ありがと……じゃあ、そろそろ私達は戻ろっか」ナデナデ

那珂「うん♪ あ、これ貼ってかなきゃ！」

く夫婦、夜戦突入す！ 入っちゃメツ！

後日、提督と川内は艦隊のみんなから沢山祝福された（からかわれた）とき。

川内
完

神通とケツコンしました。

某鎮守府、早朝――

◇鎮守府内訓練場◇

神通「ふうく……」

神通（今日も良い訓練になりましたね）フンス

神通「チラッ

時計へおう、行かなくていいのかい？

神通「急いで提督を起こしに行かなくては！」
――。

◇提督&神通の部屋◇

く神通、提督を起こしにく

神通「提督く」ソロリ

提督「（ ⊗ ω ⊗ ）」「スヤア

神通「まだ寝てますよね？」

く神通、提督のそばへく

神通「く♡」ホッペツンツン

提督「んく」

神通「く♡」ニコニコ

神通（よく寝てる♡）

提督「（ ⊗ ω ⊗ ）」「スヤア

神通（可愛い寝顔♡）クスクス

神通「♡」チュッ

提督「んく……」

神通「……♡／／／」ポッ

神通（口付けで起こそうとしたのに／／／）モジモジ

神通（体が火照ってきてしまいました♡）ハアハア

もぞもぞ↑神通、提督の布団の中へ

提督「んんっ……」ビクッ

神通「提督の匂い♡」ウツトリ

提督「ビクッ

神通「〜♡」

提督「ん〜、ん……」パチッ

提督（下半身が妙にあっただけえな……）

ペラッ↑布団を捲る

神通「あ、提督♡ おはようございます♡」

提督「〜（。ロ。ロ。）」ウワオ！

〜朝の陣！〜

提督「はあ、はあ……朝から熱烈だな……／／／／」

神通「お粗末様でした♡」ツヤツヤ

提督「シャワー浴びてくるよ／／／／」

神通「私も一緒にしてもいいですか？」

提督「（。；）」ナンダト？

神通「ダメですか？♡」ギューッ

提督「

〜上目遣い+潤んだ瞳+甘えた声〜

提督「どうぞ／／／／」

神通「嬉しいです♡」ヒシッ

提督「〜／／／／」ナデナデ

◇お風呂場◇

シャーーー……

提督「ふう……」

神通「♡」ジーツ

提督「あの〜、神通さん？」

神通「はい♡」

提督「そんなに見つめられると、恥ずかしいです／／／／」

神通「あ、すみません♡ つい見惚れてしまって♡」ジーツ

提督（尚も目は離さないのね……／／／／）

神通「提督♡」ピトッ

提督「うおっ、ど、どうしたんだ!?!／／／／」

神通「神通がお背中を流して差し上げます♡」ハアハア

提督「なんか息荒いですよ、神通さん？」

神通「大丈夫です♡」

ガバツ↑神通、提督を押し倒す

提督「あのく、そこは背中ではなく腹なんですが？／／／／」

神通「提督♡ 提督♡」オメメハート

提督「オウフ

神通「大丈夫です♡ 天井の染みを数えてる間に終わりますから

♡」ハアハア

提督「それは男の台詞だろ!?!／／／／」

神通「関係ありません♡」

提督「あああああああ!」

く朝風呂開戦・洗い場の乱く

提督「マツシロ

神通「♡」ツヤツヤ

提督「神通……」

神通「はい♡」ニコニコ

提督「」

神通「どうしたんですか?♡」ニコニコ

提督「……なんでもない／／／／」

(可愛い正義とはよく言ったもんだなく／／／／)

神通「変な提督♡」クスクス

提督「あはは……と、取り敢えず朝食食べて、執務室に行こうか／

／／／

神通「はい♡」

昼前ー

◇執務室◇

提督「あのく、神通さん？」

神通「はい♡」

提督「何をしていらっしやるんで?」

神通「お昼前ですから♡」ニコニコ

提督「いつも言ってるけど、そんなことしなくてもー」

神通「お気に召しませんか？」ウルウル

提督「」

「上目遣い＋潤んだ瞳＋寂しそうな声」

提督「……嬉しいです／／／」

神通「♡」ニパッ

神通「心を込めてさせて頂いてますね♡」

提督「オウフ

「執務室の中の乱」

提督「チーン

神通「♡」ツヤツヤ

提督「」

(神通……恐ろしい娘!!)

そしてお昼ー

「神通、お手製の昼食」

神通「提督♡ どうぞ♡」つサンドイッチ

提督「なあ……サンドイッチくらい自分でー」

神通「あくん♡」ニコニコ

提督「くっ……／／／」パクッ

神通「美味しいですか？」

提督「ふほふ、おいひいでふ／／／」

神通「良かった♡ 次は何が食べたいですか？♡」

提督「ごくん……ならそのフライドポテトを」

神通「はくい♡」パクッ

提督「(へへ)「マサカ？」

神通「どおほ♡」

「神通、ポテトをくわえて提督へ」

提督「そこは普通の『あくん』なのでは？」

神通「いやでふふあか？」

提督「……頂きます／／／」

神通「ふあい♡」ニコニコ

ぱくっ

ぱくぱくっ

提督（こちら辺で離れ〜）

神通「♡」ガシッ

ぱくっ、むちゅっ♡

提督「／／／!?」

神通「んっ♡ んっ♡ ちゅっ……んあ♡ どうでした?♡」ニコ

ニコ

提督「ふほふ、おいひいでふ／／／」

神通「良かった♡」ニコニコ

提督（このままやられっ放しで終われるか!!）カッ

提督「次は俺が食べさせてやるよ♪」

神通「え、よろしいのですか?♡」ニコニコ

提督「あ、ああ……」

（あれ? 動じない?）

神通「では……あ♡」オクチアーン

提督「お、おお……」っサンドイッチ

神通「はむ♡」

提督「ビクッ

ぱくっ

ぱくぱくっ

提督（あ）

神通「♡」パクッ

〜神通、提督の指をくわえる〜

提督「じ、神通……指まで食うな／／／」

神通「ふあべへまへんほ?♡」ペロペロ

提督「／／／／」

ガバッ

〜提督、神通を押し倒す〜

提督「お前はいつもいつも誘いやがって／／／」

神通「神通は甘く仕上がってますよ♡」ホールド

提督「心ゆくまで堪能してやる！」

神通「ああ♡ 提督♡」オメメハート

く執務室の中の抵抗戦く

◇執務室外・ドア前◇

提督『神通！ 神通く！』

神通『提督♡ 素敵です♡』

／ギシギシギシギシ／

川内「今日もお盛んだねく」

那珂「熱々だからね☆」

川内「私達が見張ってるから出来るんだけどねく」

那珂「神通お姉ちゃんの為だもん♪」

川内「まあその分夜戦（普通）任務が出来るから良いや♪」

那珂「早く二人の赤ちゃんに会いたいな☆」

こうして夫婦の営みは、この姉妹によつて今日も守られているのであった。

神通 完

那珂とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

那珂「提督く！ お仕事終わったよー！」キヤハ☆

提督「おー、お疲れー」カリカリ

く提督、絶賛仕事中く

那珂「みんな補給とお風呂でいい？」

提督「おう。ゆっくりしてこい」カリカリ

那珂「はーい☆ 行つてきまーす♪」キャピツ

提督「あいよー」ノシ

那珂「チラッ

提督「カキカキ

那珂（提督……）

提督「ペラペラ

◇ドック◇

那珂「はー……」

川内「ため息なんかついてどうしたのさ？」

神通「何か悩み事？」

那珂「実はー」

く那珂、相談中く

神通「そう……提督が……」

川内「まあ確かに最近忙しいよね。私らがこれだけ忙しいんだも

ん。提督はもつとだよね」

那珂「うん……夜も遅くまでお仕事してて、帰ってくるの夜中だも

ん……。手伝うって言つてもさせてくれないし……」シュン

神通「提督は那珂ちゃんには特別優しいから、残業はさせたくない

んだと思う」

川内「でもあの調子じゃあ、倒れちやいそうだよねく」

那珂「そんなのダメ！」

川・神『ビクッ

那珂「提督が倒れるなら、嫌われてもいいからお手伝いする！ 好きな人が倒れるの見たくないもん！」

く 那珂、修復剤を使ってドックを出るく

神通「那珂ちゃん……」

川内「ホント、私らのアイドルだよ、那珂は」アハハ

神通「どんな状況でもみんなを鼓舞する、頼もしいアイドル。それが那珂ちゃんだから」ニコッ

◇執務室◇

バーン！

那珂「ただいま☆」

提督「早かったな」カキカキ

那珂「バケツ使ったもん♪」

提督「マジかよ……まあ、いいけどよ」カリカリ

那珂「ねえねえ、何かお手伝い出来ることある？」

提督「今はねえな」ペラペラ

那珂「うく……じゃ、お茶淹れてくるね☆」

く 那珂、お茶を淹れて持ってくるく

那珂「どうぞ☆」キラーン

提督「おう、サンキュ」ゴクッ

那珂「お仕事の方はどう？」

提督「いつもと変わんねえな……つたく、偉くなりや仕事が好きになると思ってたのよ」ニガワライ

那珂「そんな理由で頑張ってたのく？」ジトー

提督「さあ、どうだかなく？」

那珂「でも、遅くまでお仕事頑張ってるよね」

提督「俺の頑張りが那珂や艦隊の評価に繋がるんだ。俺のせいで艦隊の……いや、那珂が悪く言われるのは嫌なんだよ」

那珂「キュン

提督「だから毎日この書類の山を片付けてるのさ」ニツ

那珂「嬉しいけど……無理されたら私、悲しくなっちゃうよ……」

提督「那珂……」

那珂「提督が私やみんなを大切にしてくれてるけど、それと同じくらい、私も提督を大切に思ってるんだよ？」

提督「ありがとな」ニツ

那珂「ねえ、本当に私に出来ることないの？」

提督「なら……とびっきりの笑顔くれよ」

那珂「え？」

提督「俺はいつもお前がくれる明るい笑顔が大好きなんだ。艦隊のアイドルとしてじゃなく、俺だけの嫁さんとして、俺だけに見せる笑顔をくれ」ニツ

那珂「ズキューーン

那珂「も、もう……なんでそんな恥ずかしいこと言うかなあ／＼／＼

／＼テレッツ

提督「俺は恥ずかしくねえもん」

那珂「私は恥ずかしいの！／＼／＼」

(嬉しいけど♡)

提督「はは、そうかい。で、とびっきりの笑顔はくれるのか？」

那珂「してあげるに決まってるでしょ！今の那珂ちゃんは提督だ

けの那珂ちゃんだよ♡」ニパツ

提督「はは、マジで女神だよ」ナデナデ

那珂「女神じゃなくて、アイドル〜！」ポンポン

提督「へいへい」ナデナデ

那珂「も〜！」ポンポン

そして夕方ー

〜提督、未だに仕事中〜

那珂「提督〜、次のお手伝いは〜？」

提督「ならキスしてくれよ」

那珂「ふえ？」

提督「だから、キスしてくれよ」

那珂「な、ななんなん?!? / / / /」

提督「ナカチャンニウムが不足してきたから」

那珂「何その成分!?!」

提督「ナカチャンニウムはナカチャンニウムだよ。早くキスしてくれよ」

那珂「う、うん / / / /」

ちゅっ

提督「最高♪」ニッ

那珂「もう♡ / / / /」テレッ

那珂「提督」

提督「おう」

那珂「好き」

提督「俺も」

那珂「世界で一番大好きだよ」

提督「俺もだ」

那珂「無理しないでね?」

提督「おう」ニコニコ

那珂「ウズウズ」

提督「何遠慮してんだ。来いよ」チヨイチヨイ

那珂「うん♡」

〜那珂ちゃん、提督の膝の上へ〜

那珂「えへへ♡」ホッペスリスリ

提督「那珂の肌はスベスベで気持ちいいな」ホッペスリスリ

那珂「幸せでしょ?♡」

提督「ああ、幸せだ」ニッ

那珂「もつと提督の役に立ちたいよ」アタマグリグリ

提督「その気持ちはありがたいが……」ニガワライ

那珂「お礼よりお仕事をください!」

提督「なら夕飯作ってくれねえか? 片手で食えるやつ」

那珂「おむすびとか?」

提督「お、いいね♪ 頼むわ！」

那珂「じゃあ、作ってくるから待ってて♡」ホッペチュツ

提督「待ってるさ」ホッペチュツ

〜那珂ちゃん、お料理をしに食堂へ〜

◇食堂の厨房◇

那珂「愛情込めて〜♡」ニギニギ

間宮「ニコニコ

(愛情たっぷり夕飯ね)

伊良湖「ニコニコ

(微笑ましいです)

那珂「美味しいおむすび作るの〜♡」ニギニギ

〜おむすびの山〜

間宮(ちよっと作り過ぎな気もするけど……)

伊良湖(戦艦クラスの量ですね……)

〜大量のおむすびを持って執務室へ〜

◇執務室◇

那珂「提督♡ 那珂ちゃんのスペシャルおむすび、作ってきたよ

〜♡〜

提督「ちよ、多くね？」ニドミ

那珂「那珂ちゃんも一緒に食べるから大丈夫♪」ピース

那珂「嫌かな……？」ウルウル

提督「嫌なわけねえだろ」ナデナデ

那珂「提督♡」ガバツ

提督「おわっ!?!」

那珂「えへへ♡ 早く食べよ♡」ギューツ

提督「おう」ナデナデ

那珂「〜♡」ギューツ

〜夫婦仲良く夕飯〜

那珂「どう？」

提督「まいう♪」ニツ

那珂「えへへ♡」ニパツ

提督「食ったらまた仕事だなく」モグモグ

那珂「今もしてるじゃん！」

提督「まあなく」モグモグカリカリ

那珂「本当に少しは休んだ方がいいよ……このままじゃ倒れちゃうよ……」

提督「それがよく、すげえやる気が湧いてくるんだわ」

那珂「どうして？」

提督「これを頑張りやまた偉くなれるからな」ニツ

那珂「また〜？」ジトー

提督「偉くなりや……」

那珂「？」

提督「偉くなりや、この戦争が終わった時……お前達の自由を保証してやれるだろ？」

那珂「提督……」

提督「何より、戦争が終わってお前と離れるなんて俺は嫌だからな！ だから偉くなるんだよ！」

那珂「」キユン

提督「分かったか？」ニカツ

那珂「うん♡ でも一人で頑張るの禁止！ 私もお手伝いする！」
ヒシッ

提督「お前には敵わねえな」ナデナデ

那珂「だって那珂ちゃんだもん♡」ニパッ

こうして提督は元帥にまで昇り詰め、艦娘の権限を確立したのであった。

そしてその傍らには常に笑顔で彼を支える那珂アイドルが居たと言うー。

那珂 完

阿賀野とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇執務室◇

能代「――ということ、今回の遠征任務は大成功でした」

提督「ふむ……分かった。ご苦労だったな。次の任務までゆつくりと休んでくれ」

能代「はっ！」ケイレイ

提督「うむ……では能代は下がっていいぞ」

能代「その前に一つ進言してもいいでしょうか？」

提督「何かな？」

能代「いつも言っていますが、阿賀野姉えを甘やかさないでください」

提督「？」

能代「その『何それ？』みたいな顔やめてください。隣を良くご覧になってください」

提督「チラッ

阿賀野「(⊗ ω ⊗)」スヤア

く阿賀野、提督の肩により掛かりぐっすりく

提督「可愛いだろう？」ドヤア

能代「アタマカカエ

能代「……そもそも、書類仕事ならちゃんど執務室の机でしてくださいよ。どうしてもいつもソファアでやるんですか」

提督「どうしてもと言われても……」

能代「ジーツ

提督「こうしないと阿賀野と一緒に座れないじゃないか」

能代「その『何言ってるんだ？』みたいな感じで言わないでくださいよ」ハア

提督「仕方ないじゃないか。私は阿賀野に惚れているのだから」
能代（だくっ、もう！）

コンコンー

提督「入りなさい」

ガチャー

矢矧「失礼するわね。午前の訓練が終わったわ」

酒匂「その報告に来ました〜！」ピャー

提督「ああ、ご苦労。最近着任した者達の訓練の具合はどうだ？」

矢矧「当初に比べたら全体的に連携も出来ていたわ。後は演習でどれだけ動けるかってところかしら」

酒匂「訓練ならみんな矢矧ちゃんの言う通りに動けるよ〜♪」

提督「そうか……ではそろそろ演習を組むとするか。決まり次第連絡する」

矢矧「了解」ケイレイ

酒匂「ぴゃん♪」ケイレイ

矢矧「……入った時から気になっていたのだけれど、能代姉えはどうしてずっと頭を抱えてるの？」

能代「アタマカカエ

酒匂「阿賀野ちゃんが司令により掛かって寝てるからじゃないかな〜？」

矢矧「ああ、なるほどね」ニガワライ

提督「いつものことだ」ハハ

能代「どうして矢矧も酒匂も平然としてられるのよ。何？ 私が少数派なの？」

矢矧「ケツコン前からこうじゃない。嫌でも慣れるわよ」

酒匂「それに起きてたら起きてたでいつも二人はちゆうしてるよ〜？」

能代「なん……ですって？」

能代「本当ですか、提督？」ギロリ

提督「(*ノω・*)」テヘ

能代「もうやだこの人達」ガツクリ

酒匂「能代ちゃん、そんなに落ち込まないで」ヨシヨシ

能代「酒匂……」

矢矧「受け入れてしまえば楽になるわよ？ それにもし執務室が和室だったら常に膝枕とかしてそうだし」

能代「はあ……そうよね」

提督「ふむ……」

能代「提督も『その手があったか』みたいな顔しないでください！」
ウガー

矢矧「そんなことより報告も終わったなら昼食にしない？」

酒匂「今日は能代ちゃんのカレーが食べた〜い！」

能代「いいわよ……その代わり今日のスパイスは効くわよ」
〜そんなこんなで夫婦二人きりに〜

提督「阿賀野、起きているんだろ？」

阿賀野「えへへ、バレちゃった？」

提督「途中から寝息が乱れたからな」

阿賀野「だって能代がうるさいんだもん」ニガワライ

提督「あれもいつものことだ」ナデナデ

阿賀野「ねえねえ、提督さあん」クイクイ

提督「？」

阿賀野「ちゆうして？♡」ウワメヅカイ

提督「もちろん」

ちゅっ♡

阿賀野「えへへ♡ 阿賀野嬉しい♡」ギューツ

提督「阿賀野が嬉しいと私も嬉しい」ナデナデ

阿賀野「お昼は何食べたい？」

提督「阿賀野の特製炒飯がいいな」

阿賀野「ええ〜、また炒飯なの〜？」

提督「まただ……ダメか？」

阿賀野「もお〜、仕方ないなあ♡ た〜くさん作ってきてあげるね♡」
♡「ホッペチユツ

提督「頼むよ」ホッペチユツ

阿賀野「あん♡ えへへ♡ じゃあ作ってくるね♡」チュツチュツ

提督「ああ、待ってるよ」チュツチュツ

阿賀野「はくい♡」チユー
提督「行つてらっしゃい」チユー
く散々キスをしてから夫婦は離れたく

◇提督&阿賀野の部屋・厨房◇

阿賀野「提督にく♡ 阿賀野の愛がたくつぷり入ったく♡ 特製の炒飯を作るよ♡」ルンルン

く阿賀野、料理中く

阿賀野「あつ、そういえば！」

ガサゴソー

阿賀野「この前明石さんからもらった『元気の素』入れよ♡ これ入れると提督さんとても元気になるから♡」

サツサツパツパツー

阿賀野「いつも阿賀野達の為にお仕事を頑張ってくれてるんだもん…妻として見えない所で夫を支えなきや♡」

数分後ー

阿賀野「かくんせく♡」

く炒飯+麻婆茄子+中華スープ+中華サラダく

阿賀野「早く持つてこ♡」ニパー

昼食時ー

◇執務室◇

ガチャー

阿賀野「ただいまく♡」ヒョコ

提督「おかえり」ニカッ

阿賀野「じゃくん♡ 作ってきたよ♡」

提督「おお！」

く夫婦仲良く頂きます！く

阿賀野「召し上がれく♡」ニコニコ

提督「んぐんぐ…美味い！」ニカッ

阿賀野「えへへ♡ 嬉しい♡」

提督「いやあ、これだよこれ。やっぱり阿賀野の炒飯は最高だ」
阿賀野「むう、炒飯だけなの？」プンスコ

提督「何を言う。阿賀野は全てが最高だ」ナデナデ

阿賀野「でへへ」ニヨニヨ

「ご馳走さまでした！」

提督「はあ、食べた食べた」マンゾク

阿賀野「お粗末様」ニコツ

提督「それにしても熱いな」パタパタ

阿賀野「ご飯食べたからね」パタパタ

「夫婦共に火照り顔」

提督「阿賀野……」

阿賀野「なあに？」

提督「デザートをもらってもいいかな？」アゴクイツ

阿賀野「あん」阿賀野は食べ頃よ」オメメトジル

提督「美味しく頂くよ」

ちゅっ♡

ー。

ー。

◇執務室外・ドア前◇

提督『阿賀野！ 愛してるぞ！』ズツズツ

阿賀野『提督さあん♡ 阿賀野にもっと頂戴♡』ホールド

／アガノー！ テイトクサーン！

能代「／／／」

矢矧「お盛んね」クスツ

酒匂「もう少し後で来ようか♪」ニコツ

→次の任務を確認に来た

能代「あんのおくバカ夫婦／／／」プルプル

矢矧「まあまあ能代姉え」ドオドオ

酒匂「ほらほら、邪魔したらダメだよ♪」グイグイ

その後スッキリした顔で執務室から出てきた夫婦は、能代からキツ
いお説教を喰らったそうなの。

その最中でも夫婦は互いを見つめ合い説教など聞こえてなかったらしいー。

阿賀野 完

能代とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇艦娘宿舎の一室◇

コンコンー

矢矧「はい、開いています」

ガチャー

能代「ヒヨコ

矢矧「あら、能代姉え。どうしたの？」

阿賀野「能代く♪ やっほ☆」ノシ

酒匂「ぴやく？ 能代ちゃん、元気ない？」

能代「ちよつと、みんなに相談が……」

阿・矢・酒『？』クビカシゲ

く能代、相談中く

阿賀野「ニガワライ

矢矧「ヤレヤレ

酒匂「コマリエガオ

能代「お願い！ 私にカレー以外の料理を教えて！」人

阿賀野「本当にカレーしか作れなかったんだねく……」

矢矧「というか、ケツコンしてもう一ヶ月よ？ 一ヶ月間ずっとカレーを食べてた提督に脱帽するわ」

能代「い、一ヶ月まるまるカレーではなかったわよ？ ちゃんと食

堂もいってたんだから」アセアセ

酒匂「栄養バランスは大丈夫そうだけど、今後が不安……」

能代「そうなの！ だからみんなお願い！」人

阿賀野「よし！ お姉ちゃんが一肌脱いであげましょう♪」

矢矧「まあ阿賀野姉えは家事スキルだけは一人前なものね」ニコリ

酒匂「阿賀野ちゃんのお料理なら安心安心♪ 他が駄目な分、家事はすごいもん♪」

阿賀野（あれ？ 阿賀野もしかして貶されてる？）

能代 「ありがと〜、阿賀野姉え〜！」 ガバツ
阿賀野 「わあ……えへへ、よしよし」 ナデナデ
(能代に頼られてるならいつか♪)

◇艦娘宿舎の厨房◇

阿賀野 「じゃあ、簡単なお味噌汁から〜♪」

能代 「お願いします！」 フンス

矢矧 「頑張つてね」 ↑心配で付いてきた

酒匂 「ぴゃん♪」 ↑右に同じ

〜お味噌汁伝授開始〜

阿賀野 「まずは野菜を切るんだけど、野菜なら何でもいいよ♪ 今
回はこの人参と長ネギを使うね♪ んで、野菜をいい感じの大きさに
切るの〜♪」

能代 「いい感じ……」 メモメモ

矢矧 「ホホエマー

酒匂 「ニコニコ

阿賀野 「そして沸騰したお湯にさつき切った野菜を入れま〜す♪」

能代 「沸騰したお湯に……」 メモメモ

矢矧 「ホホエマ

酒匂 「ニコニコ

阿賀野 「そしたら〜、この本ダシを入れて少し煮込みま〜す♪」

能代 「本ダシを入れて……」 メモメモ

矢矧 「ニツコリ

酒匂 「ニコニコ

阿賀野 「それでいい感じになったら味噌をいい感じに入れま〜す
♪」

能代 「いい感じになったら、いい感じに入れる……」 メモメモ

矢矧 「ニガワライ

酒匂 「ニコニコ

阿賀野 「そしてまた煮込んで、いい感じに煮込んだら完成〜♪」

能代 「いい感じに煮込んだら完成……」 メモメモ

矢矧（これは感覚的な調理法ね。教えるのには向かないわ……）ア
タマカカエ

酒匂「すごい♪ 分かりやすかった♪」ピャー

矢矧（なん……だと？）

阿賀野「後はお豆腐切って冷奴とく、お肉と余った人参とネギをお
醤油で炒めればく、これで一膳完成♪」

能代「すごい！ 初めて阿賀野姉えを尊敬したわ！」

阿賀野「ありがとく♪」キラリーン☆

矢矧（あれで喜べるんだ……）ニガワライ

酒匂「後であたしも作ってみよう♪」

そしてその夕方ー

◇提督&能代の部屋◇

く能代料理中く

能代「えつと……お味噌汁の具材は……」

じやがいも、人参、玉ねぎ、各種のきのこー

能代「えつと……野菜を切つて……」トントントン

能代「沸騰したお湯に入れて……」ポチャポチャ

能代「本ダシを入れて煮込む……」コトコト

能代「……うくん。何か隠し味でも入れてみようかな……」キョロ

キョロ

スパイス達へよう、今晚俺達は用無しかい？

能代「スパイシーなお味噌汁もありよね？」

そして約一時間後ー

く上手に出来ましたく！く

能代「カレーが……」orz

能代「い、いや！ 提督が帰ってくるまではまだ時間があるわ！

これは一晩寝かせて、明日の朝食にしましょう！」

く再びお味噌汁にチャレンジく

それから約一時間後ー

く上手に出来ましたく！く

能代「カレーが〜！」アタマカカエ

能代「どうして！ どうして隠し味にスパイスを入れるとカレーになるの!? 具材がカレーに近いから!？」

能代「私はカレーに呪われているというの〜!?」アタマカカエ

提督「何一人で叫んでるの?」

能代「あ、てて、提督!? お、おほか、お帰りなさい!」

提督「ただいま♪ 変な能代」クスクス

能代「わ、笑わないでくださいよう／＼／＼」

提督「ごめんごめん……それよりお腹空いたからさ、晩御飯にしてもらっていい?」

能代「あ、まだ出来てないんです……もう少し待っててください!」

提督「え、でもその鍋、カレーだよね? まだ煮込むの?」

能代「実は〜」

〜事情説明中〜

提督「そつかり、これお味噌汁の失敗作なんだ〜」

能代「はい……ごめんなさい」シユン

提督「謝ることないよ♪ 僕、能代が作るカレー大好きだからね♪」

能代「でも、ケツコン前からずっとカレー料理ばかりで嫌になりませんか?」

提督「嫌になるなんてとんでもない!」クワツ

能代「!?」ビクッ

提督「好きな人が愛情込めて作った料理だよ? 嫌になる訳がないよ」

よ

能代「でも〜」

提督「それにね」

能代「?」

提督「こうして仕事終えて帰ってきたら、可愛いお嫁さんが居て、しかも手料理もあるんだよ? これって幸せなことなんだよ?」

能代「提督……」トクン

提督「だから、僕はケツコンしてから毎日幸せ。もっと言うなら、能代に出会えてからずっと幸せだよ」ニコニコ

能代 「提督……♡」キュンキュン

提督 「だから、そのカレー、食べさせて♪」ニッコリ

能代 「はい♡ 沢山召し上がってください♡」オメメハート

提督 「料理の勉強するなら、僕としようね♪ 夫婦の時間が増えるから♪」

能代 「はい♡」ギューツ

提督 「能代は可愛いなあ♪」ナデナデ

能代 「えへへ♡ 提督の前だけですよ♡」ホツペチュツ

提督 「ニコニコ

その翌日、能代は満面の笑みで昨晚の晩御飯報告をしたが、みんなどこか乾いた笑顔で聞いていたそうなの。

能代 完

矢矧とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇艦娘宿舎の一室◇

能代「え？」

阿賀野「提督トリコンくっ!？」

酒匂「びゃく……」

矢矧「ドヨーン

阿賀野「ちよつと待って！ それどういう事!？」ガタツ

能代「阿賀野姉え、落ち着いて！」

酒匂「どうしてそんなことになっちゃったの？」

矢矧「実はー」

◆回想◆

矢矧「え、指輪を？」

提督「ああ、すまないが外してくれ」

矢矧「……」

提督「これは命令だ。早く外せ」

矢矧「分かり………ました……」

く指輪を外して、提督へ返す

提督「確かに預かった」

矢矧「はい……」

提督「すまん………矢矧……」

矢矧「いえ……」

◆回想終了◆

矢矧「きつと私があまりにも無骨者だから、愛想を尽かされたんだわ……」

能代「指輪を返したただけでしょ？」

阿賀野「そうだよ！ 指輪を返したくらいでリコンになんてならな

いよー！」

酒匂「それから司令と何かあったの？」

矢矧「何も無いわ……と言うより、その次の日から提督は大本営へ出張に行ってしまったから……」

阿賀野「別居宣告とかされてないんだから大丈夫だよ！」

矢矧「でも……」

能代「不安なのは分かるけど、何もリコンとは限らないでしょ？」

指輪を外させたのは何か他の理由があるのよ」

矢矧「そうなのかしら……」

酒匂「何でそんなに不安なの？」

矢矧「私ね……鍛練ばつかで、提督と逢引（デート）すらしたことないの。ケツコンして一緒に暮らすようになっただけで、提督のお嫁さんらしいことなんて何一つしてこなかった……」グスッ

酒匂「矢矧ちゃん……」

矢矧「提督は『そのままのお前で良い』『無理に今までの生活を変えなくて良い』って……ううっ……言ってくれた。提督の優しさに甘えて……ぐすっ……提督に何もしてあげなかった……」ポロポロ

能代「矢矧……」

矢矧「だから提督は、こんな私から指輪を外させたのよ……」グス
グス

阿賀野「いい加減にしなよ！」

能・酒『ビクッ

矢矧「阿賀野姉え……?」

阿賀野「さつきから聞いてれば、くよくよして泣いてるだけじゃない！ まだ分かんないじゃん！ まだ時間あるじゃん！ 泣いてる暇があるなら、提督に『別れたくない』『提督のことが好き』って矢矧の思いを伝えなよ！」

矢矧「……」

阿賀野「あのね、矢矧……よく聞いて」

矢矧「コクリ

阿賀野「提督が矢矧のことを嫌いになるなんて有り得ないから。矢矧がどれだけ提督に大切にされてきたか自分で分かってるでしょ？」
ニコリ

矢矧「ええ……」

阿賀野「ならくよくよしないの！ 指輪外しただけでリコンなら、書類なんて要らないんだよ！ 今までの自分が悪いって気づいたなら、今すぐお料理とかの勉強して提督に尽くすの！」ビシッ

矢矧「でも私、料理とかしたことなくて、何からやればいいのか……」

阿賀野「もう。何でそこで一人でやろうとするの？」

矢矧「え？」

阿賀野「矢矧には私達、姉妹がちゃん居るんだから。ね？」

能代「ええ、妹の世話くらい、阿賀野姉えの世話と同じよ♪」ウインク

酒匂「お姉ちゃんをサポートするのは妹の役目だよ♪」ニパッ

矢矧「みんな……ありがとう……」グスッ

阿賀野「ほら、泣かない泣かない。泣いていいのは精一杯やれることをやってからだよ」ヨシヨシ

矢矧「うん……」

能代「じゃあまずはカレーからやっていきましょう♪」ナデナデ

矢矧「うん……！」

酒匂「美味しいお料理で司令をあとと言わせちゃおう♪」ギユッ

矢矧「うん！」

く矢矧の料理奮闘記・壱く

阿賀野「矢矧！ 野菜切るだけなんだから、日本刀持ち出さなさいで！」アワワ

矢矧「え……そんな小さな刃で斬れるの？」

阿賀野「切れるよ！」

矢矧「包丁って凄いのね……」

く矢矧の料理奮闘記・弐く

能代「ちよ！ それはタバスコ！ カレー粉じゃないわ！」

矢矧「え……カレーの辛さはタバスコで決まるんじゃ？」

能代「違う！ 本格的に作りたいのは分かるけど、今はまだ市販のカレー粉にしましょう。市販のもちやんと美味しく出来るから

……」

矢矧「ふむふむ……」

く矢矧の料理奮闘記・参く

酒匂「矢矧ちゃん！ お米を研ぐのに砥石は使わないよ！」

矢矧「え……研ぐのに？」

酒匂「お水に浸して手で研ぐの！」

矢矧「そんな研ぎ方があったのね……」

それから数日後、夕方――

◇提督&矢矧の部屋◇

提督「今帰った」

矢矧「おおおおお帰りなさい」

提督「？ 今、飯の支度をする」

矢矧「今日は私が作ったわ！」

提督「？ 熱でもあるのか？」 オデコピトツ

矢矧「な、無いわよ！／／／」 カア―

く矢矧お手製カレーく

提督「ほう……」

矢矧「食べてみて……」

提督「いただきます」人

パカー――

矢矧「ソワソワ

もぐもぐ――

矢矧「ドキドキ

ごくん――

矢矧「ハラハラ

提督「米が柔らか過ぎるな。水を入れ過ぎだ」

矢矧「グサツ

提督「カレー粉も所々溶けきれてない。砕かずに入れたようだな」

矢矧「グサツグサツ

提督「カレーの名脇役である玉ねぎも少ない。もつと入れてもいい

くらいだ」

矢矧「グサツグサツグサツ

矢矧「orz

提督「しかし……」

矢矧「？」

提督「嫁の愛が良い味を出している」ニカツ

矢矧「ズキューーン

提督「矢矧、手を出しなさい」

矢矧「……はい」スツ

く絆創膏だらけの手く

提督「ありがとう。凄く美味いよ」テギユツ

矢矧「提督……♡」キyunキyun

提督「それと指輪、返すな」

矢矧「あ、はい……？」

く指輪は指輪だが何か違うく

提督「今までの指輪に私達の名前の彫刻を施した。大本営にそういうのが得意な奴がいてな。頼みこんでやってもらった」

矢矧「……／＼／＼／」

(そんな理由だったんだ……♡) トクン

提督「さ、冷めてしまわない内に食べよう」

矢矧「はい♡」

(本当、言葉足らずなんだから……♡)

翌日ー

矢矧「それで提督ったらね♡ー」デレデレ

阿賀野(矢矧の早とちりか) トオイメ

能代(夫婦揃ってそそっかしいんだから……) ヤレヤレ

酒匂(矢矧ちゃん幸せそう♪) ピヤー

矢矧「それでく♡ んでく♡ くで♡」デレツデレ

阿・能・酒『これは長期戦かな』ニガワライ

その後、阿賀野達は矢矧の惚気話を数時間にわたって聞かされたそ

うな……。

矢矧
完

酒匂とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&酒匂の部屋◇

トントントーンー

酒匂「大好きな〜♪ 司令に〜♪ 酒匂の愛を込めたく〜♪ 朝食を作るの〜♪」ピヤンピヤン

〜酒匂、お料理中〜

酒匂「今日は〜♪ ベーコンエッグと〜♪ 大根のお味噌汁に〜♪ はずなのおひたし〜♪」

酒匂「そして最後に〜♪ 酒匂の愛を注入〜♪」ナゲキツス

提督「今日も元気だな、酒匂は」アハハ

酒匂「びゃん♡ 司令起きたら、おはようございます♡」ニパツ

提督「ああ、おはよう。愛しの奥さんの歌声で目が覚めたよ」ナゲナゲ
ナゲ

酒匂「びゃ〜♡ 照れちやうよく♡」ヤンヤン

提督「はは、可愛いな酒匂は♪」

酒匂「えへ♡ でもちゃんとキスして起こしてあげたかつたな〜♡」アタマグリグリ

提督「それは惜しいことをしたな〜……でもまだ脳が寝てるから、酒匂のキスで起こしてほしいな〜」

酒匂「起こす〜♡」ガバツ

提督「おお、起こしてくれ♪」ナゲナゲ

酒匂「起きて、旦那様♡」チュツ

提督「ん……ちゅ……んっ」

酒匂「んあ……あむ……んんっ、ちゅちゅっ♡ んはあ、起きた〜?♡」トローン

提督「バツチリだ♪」ニカツ

酒匂「んへへ〜♡ 今朝の旦那様とのキスはミント味だった〜♡」
カオグリグリ

提督「歯磨きしてきたからな♪」ナデナデ

酒匂「そつか♡」

提督「さて、ベーコンエッグがそろそろ出来るんじゃないか？」

酒匂「あつ！ 焦がしちゃう〜！」アセアセ

提督「火傷するなよ〜？」

酒匂「は〜い♡」

〜そして夫婦は仲良く朝食を食べ執務室へ〜

◇鎮守府本館・廊下◇

酒匂「司令〜、お昼は何か食べたい物ある〜？」ギューツ

提督「ん〜……酒匂の料理はどれも美味しいからな〜……」

酒匂「嬉しいけど何でもいいはダメだよ〜？」スリスリ

提督「ん〜……朝は和食って感じだったし、昼間は洋食がいいかな〜」

酒匂「じゃあじゃあ、ハンバーグ作ってあげようか？ 挽肉が余っ

てるから♡」ホツペチュツ

提督「お、いいね！ それで頼むよ！」

酒匂「は〜い、楽しみにしててね♡」クビスジチュツ

提督「おう♪」ニカツ

〜提督、酒匂をお姫様抱っこして移動中（デフォ）〜

提督「お、執務室に着いたな……今日も頑張るか〜！」

酒匂「びゃん♡」ホツペチュツチュツ

パターンー

◇執務室の隣にある一室◇

〜夫婦をこっそり見守る三人の艦娘〜

阿賀野「今日も二人は仲良しさんだね♪」ウフフ

能代「阿賀野姉えはあれを見て良く平然としてられるわね……」
ウツプ

矢矧「私達は胸焼けしそうよ……」ウウツ

阿賀野「だつて艦だった頃と違って今はちゃんと酒匂が幸せになっ

た姿を見ることが出来てるんだよ？ あの時の私達には出来なかったことが今出来てるんだもん。嬉しいじゃないの♪」ニコツ

能・矢『阿賀野姉え』

阿賀野「艦の時代……大戦の時、酒匂が竣工する頃にはもう私も能代も居なかった。そして唯一残ってた矢矧も酒匂と関わった時間は少ないでしょう？」

阿賀野「それに私達と違って、酒匂はあの作戦で沈んだ……私達姉妹の中で一番壮絶で残酷な最期だったもん……」

矢矧「私が……帰って来れなかったばかりに、あの子に全部押し付けてしまったから……」

能代「矢矧……」ヨシヨシ

阿賀野「それは言いっこなしだよ、矢矧。提督さんがいつも言うてるでしょ……『過去は変えられない。だけど今を生きるお前達の未来はいくらでも変えられるし、それを変えるのが俺の使命だ』って。もうあの時の私達じゃないんだから……」

矢矧「……ええ、そうよね」

能代「ニコツコリ

阿賀野「そんな辛くて悲しい艦時代だった酒匂だけど今はどう？辛くて顔を歪めてる？ 悲しくて泣きじゃくってる？」

能代「毎日笑顔ね……それもキラキラ輝いてるわ」ニコツ

矢矧「泣きじゃくるところかいつもデレデレした顔をしてるわね」ニガワライ

阿賀野「でしょ♪ そんな酒匂を見守っていられるんだもん、阿賀野は提督さんと酒匂が毎日幸せに過ごす光景を見るの大好きよ♪」ニコニコ

能代「そうね……私としたことがとても大切なことを忘れていたわ」

矢矧「ええ……私達が叶えてあげられなかった酒匂の幸せを今こうして見守れることを感謝しなくてはいけないわね」

阿賀野「そうそう♪ だから二人も提督さんと酒匂を温かく見守ろうね♪」ウインク

能・矢『ええ、もちりー』

ガチャー

酒匂「司令大好き♡」チュツチュツ

提督「俺も酒匂のことが大好きだぞ♡」チュツ

酒匂「びゃく、幸せ♡」ニコニコ

夫婦、砂糖振り撒きつつ執務室を出てくる

提督「あはは、俺も幸せだよ♪ 早く工場に行つて艤装の開発を終

わらせような」ニカッ

酒匂「はくい♡ あたし頑張る♡」デレデレ

夫婦は仲良く工場へ

阿賀野「ふふ、幸せそうで何よりだね♪」ニコニコ

能・矢『』

阿賀野「あれ？ 二人共どうかしたの？」キョトン

能代「無理！ あれを温かく見守るなんて絶対に無理よ！」サトウ

ダバー

矢矧「ごめんなさい、酒匂……そのシュガーテロには勝てないわ

……うっ！」サトウボタバタ

阿賀野「二人にはまだ無理みたいね」セナカサスサス

能代「徐々に慣れさせなきゃ……」

矢矧「ええ……最初は半径一キロより外から双眼鏡で見て慣れさせ

ましょう……」

阿賀野「あはは……」ヨシヨシ

そして姉三人をよそに夫婦は鎮守府に砂糖を振り撒くのであつたー。

酒匂 完

大淀とケツコンしました。

某鎮守府、昼前ー

◇酒保◇

大淀「はく……♡／／／」ウツトリ

大淀「ケツコンしちゃったく……♡／／／」ハフー

大淀、指輪を見つめ幸せを噛み締め中

鳳翔「ふふ、大淀さんは今日も絶好調ですね」ニコニコ

明石「自分が暇だからつてここに入り浸れても困りますよ」イライ

ラ

大淀「提督と私がケツコン……うふふ♡／／／」ニヨニヨ

鳳翔「幸せそうで何よりではありませんか」フフフ

明石「私は鳳翔さんみたいに大人にはなれませんか」ムカムカ

鳳翔「抹茶のおかわり淹れます?」

明石「お願いします」つ湯呑

鳳翔「はくい」クスクス

大淀「はあく、こんなに幸せで罰があたらないかしらく♡／／／」

デレデレ

明石「(#・▽・)」ブチツ

大淀、大淀の側へ

明石「ねえ、大淀く? 幸せなのはいいけど、一人で虚空に向かっ

てニヤニヤしないでくれない? 他のみんなが酒保へ入り難いから

く「ニコニコ」ニコニコ

大淀「あ、ごめんなさい……私ったらつい♡／／／」ニヨニヨ

明石（殴りたいこの笑顔!）

「大淀が提督のこと大好きなのはみんなケツコン前から知ってるから、今更そんなに蕩けた顔しないでよ」

大淀「ええ!? 知っていたの!?!／／／」ボンッ

明石「寧ろバレてないと思ってたことに驚くわ」ヤレヤレ

大淀「そ、そんなにバレバレだった?／／／」カァー

明石「バレバレって言うか……ダダ漏れ?」

大淀「く／＼／／／」カオマツカ

鳳翔「毎回提督のことを目で追っていれば誰でも気付きますよ。それにその時の大淀さんはお目目がハートでしたから」クスクス
へ抹茶です。大淀さんもどうぞ♪

ありがとうございます！く

あ、ありがとうございます／＼／／／

く取り敢えず一服く

大淀「そ、そんなにも見てましたか、私は？／＼／／／」

鳳翔「はい、それはもう熱心に」ニコニコ

大淀「はうううく／＼／／／」カオカクシ

明石「何を今更照れてるのよ？」ニガワライ

大淀「だっ、だって気付かれてないものだとばかり……／／／／／
／」アウアウ

明石「ところがぎつちよん！ バレバレだったわけよく、んく？」
ホツペツンツン

大淀「く／＼／／／」ウツムキ

鳳翔「まあバレたのはそれだけではなくて、普段の行動や態度からも見て取れましたね」ニツコリ

大淀「えく、そんなあく!?／／／／／」

明石「恋は盲目つてよく言ったものねく……大淀見ると良く分かるわ」ウンウン

大淀「そ、そんなに？／＼／／／」

鳳翔「そうですねく……任務完了のお知らせなんか良い例ではないですか？」

大淀「そうですか？ 何ら変わりなく報告していたはずですが……？」

明石「じゃあ試しに今、いつも任務完了の時に言ってるセリフ言ってみて」

大淀「分かったわ……んんっ」

大淀「提督♡ 作戦、成功しました♡ 素敵です♡」デレデレ

明石「あ艦！」

明石（照れるかデレるかどっちかにしたらいいのに……）アキレ
鳳翔（仲睦まじいですね）ニコニコ

提督「そういえばそろそろ昼食の時間だな……今日はどうするんだ？」

大淀「きよつ、今日もお弁当を作ってきたので、執務室か中庭等で食べませんか？♡／／／／」ヒシッ

提督「毎日すまないな……なら今日も美味しく頂くとしよう」ナゲナゲ

大淀「はい♡／／／／　しっかり召し上がってください♡／／／／」デレッデレ

提督「毎日愛妻弁当が食べられる私は幸せ者だな」ニカッ

大淀「毎日私の料理を提督に食べてもらえる私も、とつても幸せです♡」ニハ〜

提督「では行こうか……」ヒダリウデスッ

大淀「はい♡」ウデダキシメ

くそして夫婦は仲良く酒保を去った

明石「結局デレデレになるのね……お熱いこつて……」ハア

鳳翔「ふふ、私達もお昼にしましょうか」ニコッ

明石「ですね……鳳翔さん、私激辛カレーでお願いします」

鳳翔「はいはい♪」

そして今日も酒保では香辛料や珈琲等がバカ売れしたとさー。

大淀　完

アブルツツイとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇艦娘宿舎・イタリア艦寮◇

ガリ「うつぶ……もう勘弁してくれえ……」

くガリバルデイ、赤疲労く

アブル「ダメよ、ガリィ。さ、こつちのお料理も味見お願いね」ニツ
コリ

くアブルツツイはキラキラ状態く

ガリ「いや、マジで無理。これ以上食ったら吐く」

アブル「それは困ったわね」ウーーン

ガリ（出張帰りの提督を手料理でもてなしたいのは分かるが、全品をアタシが味見する意味なんてねえだろが！ しかも何品作る気なんだよ！）

くガリバルデイは十品目で数えるのをやめたく

ガリ（そもそも出張つたつたつたつた一週間だし、内地の方と情報交換してただけなんだから、ここまで大袈裟なことしなくてもいいだろ……）

くガリバルデイは内心でため息を吐くく

アブル「ああ、旦那様はご無事かしら？ ちゃんとご飯食べてたかしら？ 心配だわあ……」ソワソワ

ガリ「本部なんだからその点は大丈夫だろ。てか、せつかくの内地なんだから色々と羽を伸ばして来たんじゃない？」

アブル「ええ、そうね。ここ（パラオ）も素敵な場所だけど、故郷ですものね」

ガリ「そうそう。流石に実家にや帰れねえだろうけど、久々の内地を楽しんできたって」

アブル「だからこそ、妻の私の手料理が恋しくなってるわよね！」メラメラ

ガリ「なんでそうなんだよ！」

(つたく、ケツコンする前からベツタリだったし、その報告を聞かされた時もデレッツデレだったが、この半年で更に提督LOVEに拍車がかかりやがったなあ)

アブル「それじゃあ今度はこのパンナコッタをー」

ガリ「だから食い物は暫く無理だつて言つてんだろおおおおつ

!!!!」ウガー!

ーーーーーーー

夜ー

◇夫婦の愛の巣(本館内の部屋)◇

アブル「旦那様あ♡ こちらもどうですかあ?♡」

提督「ああ、頂こう」

く夫婦水入らずでディナータイムく

アブル「はい、あくん♡」

提督「あむっ……」モクモグ

アブル「お口に合いますか?♡」キラキラ

提督「ああ、もう一口頂こうか」

アブル「あはっ、嬉しいですう♡」

提督(腹が苦しい……しかし、愛する妻がこうして手を尽くしてくれているなら食べるのが大和男子だ! お残しは赦されないっ!)

ー

アブル「まさか、全て召し上がって頂けるなんて……感激ですつ!

♡」オメメハート

提督「し、暫く、体を揺らさないでくれ……ご馳走さまっ」ウツ

アブル「まあ、どこかお加減でも?」ウルウル

提督「いや、それはない……流石に疲れはあるがな」

アブル「明日はまた任務ですが、それまではどうぞごゆるりとお過ごしくださいね?♡」

提督「ああ」

アブル「それで旦那様?」

提督「?」

アブル「少々お話ししたき事があるのですが?」

提督「なんだ？」

くふとアブルツツイからのオーラが冷たくなるく

アブル「旦那様の上着の内ポケットから、とても可愛らしい物が出て来たのですが……？」

提督「っ!？」

くアブルツツイの手にはファンシーな紙で包まれた何かがかく

アブル「何方かからの贈り物でしょうか？」ブラックスマイル

提督「……………」

アブル「無言は肯定と取りますが？」

提督「……………ち、違う」

アブル「ではこれは旦那様が？」

提督「……………」

アブル「旦那様らしくありませんね？　旦那様のことであればこの

私が網羅しているはずですが……」

提督「……………私の趣味ではない」

アブル「ではやはり何方かからの？」

提督「違う」

アブル「話しては頂けない……ということですか？」

提督「……………私のことは網羅している、と言ったのは君だ。ル

イージ・デイ・サヴォイア・ドゥーカ・デッリ・アブルツツイ」

アブル「…………ふふっ、ええ…………ええ、そうですとも♡」

く途端に幸せオーラ全開のアブルツツイく

アブル「それならばそうだと仰ってください♡」ヒシッ

提督「…………私がそういう人間でないと知ってるはずだ」

アブル「それでも万が一ということがありますでしょうか？」

提督「ない」キッパリ

く提督、アブルツツイの目を力強く見つめるく

提督「三年間だ……三年掛かって口説き落とした最愛の君だ。私は初めて君と会ったあの時から、君以外の女性へ愛を囁やけない。まして出張で君の元を離れ、その君がいなからと、君以外の女性と褥を共にするなんてことはないっ」

アブル「旦那様……♡」ゾクゾク

提督「早く開けるといい」

く包の中には桃の花を模した飾りが付いたかんざしがく

アブル「Stupenda（キレイ）……」

提督「……帰路の途中、偶然店先にあった。それが目に入った瞬間、私は君のことを思い出した」

アブル「……♡」

提督「今度それをつけた君に着物を着せ、実家の皆に見せびらかそうと思う」

アブル「まあ♡」クスクス

提督「だから次の内地への出張は君にも同行してもらおうぞ」ダキョ

セ

アブル「はい……私のことも連れて行ってください♡」ピトツ

提督「……それで、だな……」コホン

アブル「ふふふっ♡」

提督「笑うな。もう随分と君に触れていないのだ」

アブル「そうですね♡ 私も愛する旦那様に沢山触れて欲しいです

♡

提督「同じ気持ち、なのだな？」

アブル「はい、勿論です♡」

提督「少々、乱暴にしてしまうかもしれん」

アブル「それは……ときめきますね♡ 早速お風呂でどうですか？

♡

提督「いや、もう辛抱堪らん。ここで抱く」

アブル「それはとても幸せなことです♡」

提督「アブルツツイ」

アブル「旦那様……♡」

提督「愛している」

アブル「愛しています♡」

もうこの二人にそれ以上の言葉は今宵はいらなかったー

アブルツツイ 完

ガリバルデイとケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇執務室◇

提督「……よし、今日の仕事終わり！」

ガリ「おっ、終わったのか！ お疲れ！」

提督「ガリバルデイもお疲れさん」

ガリ「アタシはそこまで疲れてねえよ。それよりほおら♡」

くガリバルデイ、ソファアーに移って提督に向かって両手を広げるく

提督「……ムードもへったくれもないな」アハハ

ムギユツ♡

ガリ「うるせえ、夫を癒やすのは妻の仕事だろ♡」

く熱い抱擁を交わす夫婦く

ガリ「んく、やっぱ仕事終わりのぎゆうは最高だなあ♡」スリスリ

提督「それには同感だ」

ガリ「だよな♡ へへへへ♡」

提督「おい、そんなに擦り寄ってきたら髪がボサボサになるぞ？」

ガリ「別にいいよ、髪くらい。海に出れば嫌でもダメージ受けるん

だから。それよりアタシの至福の時間を取るな！」

提督「まるで甘えたがりの大型犬だな」ナデナデ

ガリ「ご主人様大好きく……ってな♡」アハ

提督「ガリバルデイにご主人様呼びされるのはちよつと……」ヒキ

ギミ

ガリ「んだよく、ノリ悪いなあ」ムスツ

提督「そう呼ばれるのは柄じゃないんだよ。いつもので十分だ」

ガリ「わあつたよ……Amo♡ (Amoreの省略系)」ニパッ

提督「うん、それそれ」

ガリ「Amoく、アタシの大好きな大好きなAmoく♡」グリグリ

くガリバルデイ、甘えるように提督の胸元に顔を押し付けるく

提督「おいおい、そんなにやったら制服のボタンで痛くするぞ？」

ガリ「別にいい!♡」

提督「俺は良くない。今上着脱ぐから待ってろ」

ガリ「やくだく! 待てないく!」

提督「それでも待ってて言ってるんだよ!」デコピン

ガリ「きやうつ……はくい」シヨボン

くガリバルデイ、一旦提督から体を離すく

ガリ「……もういい?」ウズウズ

提督「まだ」

ガリ「……まだ?」ソワソワ

提督「まだ」ニコニコ

ガリ「Amo……」ウルウル

くガリバルデイ、我慢出来ず涙ぐむく

提督「我慢だ。少しは学習してくれ」

ガリ「だつてく、仕事中はいい子に我慢してるだろく? それなの

にこんなやつてあんまりだぜく?」

くガリバルデイ、拗ねたように両手の人差し指を突き合わせるく

提督「何も上着を脱ぐ数秒だろ」

ガリ「だつてAmoは脱ぐのおつせえんだもん」ムウ

提督「毎回毎回騷の悪い大型犬に上着をしわくちやにされるからなあ」

ガリ「……なら最初から脱いで抱きついてくれればいいのに……」
ボソツ

提督「次からそうしたい……けど、あんなに可愛く両手を広げられると、ついつい誘われちゃうんだよなあ」ニガワライ

ガリ「アタシのせいにすんのか!」

提督「うん」サワヤカエガオ

ガリ「なんか納得いかねえ」グヌヌ

提督「ガリバルデイ」

ガリ「あん?」

提督「俺の言うことは?」ニコニコ

ガリ「つ……無条件で従いませしゅ♡」ゾクゾク

提督「ん、いい子だ」ニカッ

ガリ「くうん♡」デレデレ

（優しい笑顔なのに目が笑ってないAmoの笑顔はゾクゾクするう……♡）

「ガリバルデイ、しつかり夫から調教済み」

提督「よし、もういいー」

ガバツ……ドサツ！

「提督、ガリバルデイのせいで床に押し倒される」

提督「後頭部が悲鳴を上げている件について」ズキズキ

ガリ「んなのアタシは知らない件♡」ハアハア

スリスリ……ベタベタ……チュツチュツ♡

「解き放たれた猛犬はご主人様に最大限の愛情表現をしまくる」

提督「ちよ、くすぐりたい」

ガリ「ああ、ごめん……でも、Amoの匂い好きだから……♡」ス
ンスン

提督「本当に犬みたいだなあ」ナデナデ

ガリ「なんでもいい♡ Amoに愛されるなら、アタシはなんでも

嬉しい♡」ゴロゴロ

ガリ「アタシはそれくらいAmoを愛してるし、Amoのためなら
なんだってするぞ！♡」

提督「男冥利に尽きるね」ナデナデ

ガリ「へへへ……♡」スリスリ

提督「はは、可愛いなあ本当に」

ガリ「Amoの嫁さんだから♡」ニパッ

「その後も暫く、ガリバルデイは提督の匂いを堪能した」

「……………」

そして夜……

◇夫婦が暮らす長官官舎◇

提督「いやあ、今日も美味かった」

ガリ「へへ、なら良かったぜ♡」

提督「でも珍しくナポリタンだったな」

ガリ「？ あれはナポリタンじゃないぜ？ トマトソースだ。ナポリタンみたいにケチャップなんて使ってないからな！」

提督「相変わらずナポリタンには厳しいのな」ニガワライ

ガリ「いや、別にあれはあれで美味しいと思うぜ？ でも自分から進んで作る気はない。アタシのプライドがそうさせない」

提督「なるほどね。ならお礼に明日は俺がナポリタン作ってやるよ」

ガリ「マジか！ やった！ ならあのアニメのやつがいい！」キラキラ

提督「ああ、本当に好きだな。カリオスト□に出てきたミートボールスパゲティだろ？」

ガリ「うんうん、それ！ あれめっちゃ美味かった！ Am○ならあれだけでイタリアに店出せるぜ！」

提督「大袈裟な」ニガワライ

ガリ「大袈裟なんかじゃねえよ！」

提督「はいはい」

ガリ「信じてくれよ〜！」

（そ、それに、イタリアで店出したら、向こうにいる仲間にこんなに美味しい料理が出来るのが『アタシのAm○なんだぜ♡』って自慢出来るし♡）テレテレ

提督「なんでそんなにやにやしてるんだよ」

ガリ「へへへ、だってさあ♡」ニヨニヨ

提督「つたく、可愛いなあ」

ガリ「えへえへ♡」

〜ガリバルデイ、徐々に提督との距離を詰めてくる〜

提督「ほら、飛びつきたいんだろ？」リヨウテヒロゲ

ガリ「っ♡」ガバツ

どし〜ん！

提督「……嫁の愛が豪快な件について」ズキズキ

ガリ「そんなのアタシ知らね♡」スリスリ

提督「常に後頭部にクツション付けとこうかな……」

ガリ「いいんじやね？ そうすればアタシも加減しないで飛びつけるし♡」

提督「加減していたという驚愕の事実が発覚した件について」

ガリ「だからアタシは何も知らねえって♡ それより晩飯も食ったんだし、早くイチャラブしようぜ♡」オメメハート

(Amo……好き好き好き好き♡)

提督「もうしてるだろ」

ガリ「もつと！♡」

提督「はいはい……ガリバルデイ」

ガリ「なんだ？♡」

提督「Ti amo da morire」

ガリ「♡」キウンキウンキウン

提督「ガリバルデイは？」ニコツ

ガ

「Ogni giorno mi innamoro, dite」

提督「ありがとう、嬉しいよ」

ガリ「アタシも……Grazie♡」ニペア

こうして夫婦は今宵も、仲睦まじく、互いの体温を感じながら愛を囁き合うのだったー。

ガリバルデイ 完

シエファイールドとケツコンしました。

某鎮守府、夜

◇艦娘宿舎、談話室◇

ウオスパ「……………」

ネルソン「……………」

アーク「……………」

提督「お願いしますっ！ ウォースパイト様っ！ どうかこの迷える子羊めをお救いくださいっ！」ドゲザ

く提督、ウォースパイトたちの前で土下座し、懇願く

ネルソン「ええい、陛下の妹君の御前である！ もつと地べたに額を擦り付け、懇願しろ！」

提督「ははっ！」

アーク「ネルソン、悪乗りは止せ。アドミラルも、普通にしろ。そんな状況では話も進まない」

提督「イエッサー！」セイザ

ウオスパ「えっとそれで、何だったかしら？」

提督「シエファイールドの愛が重いです！」

ウオスパ「愛されていないよりいいではなくて？」

提督「仰る通りでげす。しかしながら、ああも毎回毎回毎回愛の波状攻撃を受けますと、この身が保ちませぬ！」

ウオスパ「今日はその変なキャラで通すの？ 流星にそろそろうざったく……んんっ、ウザいわ」ニツコリ

提督「言い直したのに辛辣う！」

ネルソン「そもそもシエファイールドのやつがああなのは前からだ。それを承知の上でケツコンしたんだろう？」

アーク「ネルソンの言う通り。私たちからすればアドミラルたちは幸せで見えていて胸焼け……失礼、微笑ましいのですよ」

提督「みんなも知つての通り、シエファイールドって真顔で虫を叩き潰すだろ？」

ウオspa「そうね」

ネルソン「深海棲艦もそうだな」

アーク「味方として頼もしい限りではありませんか」

提督「なのにな、俺と二人きりの時は違うんだよ！ この前なんて俺があくびしただけでソファベッドを用意して問答無用で添い寝お昼寝させられたんだ！」

ウオspa「別にいいじゃないの」

提督「それだけじゃない！ 俺がくしゃみしたらソファベッドを用意して問答無用で俺の服をひん剥いて、自分もすっぽんぽんになつて人肌で温まるのが一番とか言つて結果的に執務を徹夜するはめになつたんだ！」

ネルソン「セクハラで訴えるぞ」

提督「とにかくくだ！ シェフィールの愛で俺は駄目人間にされる自信があるんだ！ 助けてくれ！」

アーク「聞いているこつちとしてはただの惚気話にしか聞こえなかつたんですが……まあ本人がそう感じるのなら深刻なんでしょうね」ウンウン

ウオspa「そうでしょうね。でもだからといって私たちにはどうすることも出来ないのも事実」

ネルソン「結局のところ貴様が自分を律していけばいいだけだ。シェフィールが悪いのではなく、貴様の心、精神力の問題だな」

提督「Oh……」

「こんなところにいたのね、旦那様」

提督「っ!?!」ビクッ

「私、シェフィールだ。今、あなたの後ろにいるの」

提督「な、何故ここに？」

シェフィール「？ 私はあなたのことならどこにいても分かるわ。それだけ愛しているし、そもそも鎮守府内ならどこへいようと気配で分かるもの」

提督「どこの達人なんでえす!？」

シェフィール「全ては愛のなせる業。それよりも私たちが離れてしまっ

ていた37分と34秒――」

提督「細かつ！」

シエファイ「――と07ミリ秒以下省略のロスを埋める必要があるの。あなたなら分かるわよね？　ね？」ムギユツ

提督「おうふ……」

シエファイ「ふふつ、いい子いい子♡ 私はあなたを愛してる♡ あなたと離れていた時間は本当に意味の無い時間だったわ♡ もう今日は離れない、離さない♡」

提督「いやでもトイレとか」

シエファイ「勿論付いていくに決まってる♡ 大丈夫、将来はあなたのそうした介護も私の生き甲斐になるのだから♡ あなたは安心して私の愛を感じていてくれればそれでいいの♡」スリスリナデナデ

提督「いやいやいや！」

シエファイ「ふふつ、わがままなところも可愛い♡ ああ、大好き♡ もっと私に甘えて……もっと私を困らせて夢中にさせて♡」ホッペチユツチユツ

ウオスパ「とんだ茶番ね」

ネルソン「さっさと追い出せ。余はもう部屋に帰って寝るぞん」

アーク「寒つ……シエファイ、二人の時間を邪魔したくないから連れて行ってくれていいぞ」

シエファイ「了解。オールドレディ、皆さん、おやすみなさい。旦那様のがままに付き合ってくれてありがとうございました」

提督はお嫁さんにお姫様抱っこされてその場をあとにした

――

◇鎮守府本館内、夫婦の部屋◇

シエファイ「さあ、あなた♡ キスの時間ですよ♡」ハリハリ

提督「ここに来るまでも沢山したんだが……？」

シエファイ「それは私からで、あなたからじゃない。今はあなたから私にキスをする時間♡」ニッコリ

提督「愛が怖いお」ガクブル

シエファイ「じゃあ私のこと捨てる？」

提督「極端なんだよ！　そうじゃなくて、適度に適切にしようよって話をしてんだよ！」

シエファイ「ああ、愛するあなたから怒鳴られるなんて……嬉しいわ♡　私をそれだけ愛してくれているのね♡　それに怒鳴っている表情も素敵♡」

提督「話を聞いてくださーい！」

シエファイ「ちゃんと聞いてるわ。つまり私の愛情表現が過度だと、そう言いたいよね？」

提督「え、あ、うん」

シエファイ「でもごめんさい。私、こうしてあなたへの愛を伝えてないとどうにかなっちゃういそうなの。それだけあなたへの愛が止まらないの」

提督「シエファイ……」

シエファイ「だからこればかりは我慢してとしか言えないわ。だってあなたが私を本気にさせたから、あなたが私を愛してるって言うてくれたから、だから私は私を愛せたの。あなたが私を愛してくれたから」

提督「そうか……」

シエファイ「もういい？」

提督「へ？」

シエファイ「キスして。我慢出来ない」

提督「わ、分かった。一回だけな。明日もお互い早いんだし」

シエファイ「うんっ♡　愛してるわ、あなた♡」

しかし一回で終わるはずもなく、しっかりと朝までコースになったのは言うまでもない。

結局のところ提督も提督でシエファイールドのことが好きで仕方ないのだー。

シエファイールド　完

ブルツクリンとケツコンしました。

某鎮守府、朝――

◇長官官舎◇

ブル「……んあ？」

　　ブルツクリン、目覚める

ブル「ん……朝か。ダーリン、朝よ。起きて――」

　　しかし隣にいるはずの提督の姿はなく、もぬけの殻

ブル「!？」ガバツ

　　ブルツクリンは即座に起き上がり、キッチンへと走った

ブル「ダーリン！」

提督「おはよう、ブルツクリン。取り敢えず、服を着たらどうだ？」

ブル「え？ あ、ご、ごめんなさい／＼／＼」

提督「朝から良いものを見たよ」

ブル「う、うるさいわよ！／＼／＼」

提督「俺の妻は何も着ていなくても美しいからな」ナデナデ

ブル「むう……／＼／＼」

提督「ほら、朝の支度をしてきなさい。それとも着替えさせてやろうか？」

ブル「ひ、一人で出来るわよっ／＼／＼」

　　それから夫婦は仲良く朝食を食べた

――
昼――

◇執務室◇

ブル「あ、もうランチタイムね。ダーリン、どうする？」

提督「ちやんと弁当作ってきたぞ。二人分」

ブル「Rally？」

提督「ああ……ブルツクリンが好きなのツナマヨのおにぎりもある」

ブル「あ、ありがと……／＼／＼」

提督「いえいえ」

く夫婦はソファアーテーブルに移って弁当を広げるく

ブル「いただきますくす♪」人

提督「いただきます」人

ブル「ん……おいひい♪」ムグムグ

提督「それは良かったよ」モグモグ

ブル「でも……」

提督「でも？」

ブル「アタシ、妻として何もしてなくない？」

提督「？ 俺はブルツクリンとケツコン出来て毎日が幸せだぞ？」

ブル「それは、まあ、アタシもだけど……。そうじゃなくて、家事をしたりとかさ……」

提督「する必要ないだろ。俺がやるんだから」

ブル「でも……」

提督「ブルツクリンは常に死と隣り合わせだ。そんな君に家事をする時間なんて与えたくない。そんなことをしている時間があるなら、俺との時間を作ってほしい」

ブル「あう……／／／／」

提督「愛してるよ、ブルツクリン」

ブル「え、ええ……アタシも♡／／／／」

昼下がり――

◇中庭◇

ブル「気分転換に外でお茶しようって言ったのはアタシだけどね……」

提督「何か不満が？」

ブル「ふ、不満はないんだけど……／／／／」モジモシ

くブルツクリンはベンチテーブルで提督に横抱きにされて可愛がられ中く

提督「ブルツクリンと過ごす時間は最高だな」

ブル「そ、そう……／／／／」

提督「こうしてれば余程のことがない限りはみんな挨拶くらいしか

してこないし」

ブル「そりやあ……そうでしょうね……／＼／＼」

「みんな夫婦のシユガーテロの餌食にはなりたくないのだ」

提督「愛してるよ、ブルツクリン」

ブル「あ、アタシも♡／＼／＼」

提督「あ、ホノルルだ……呼ぶか？」

ブル「やめて」

提督「そうか。俺を優先してくれて嬉しいよ」

ブル「え、ええ……」

（前に誘って怒られてるなんて言えないわ。ホノルルの平穩はアタシが守らなきゃ……）

夕方――

◇執務室◇

ブル「ふう、今日の執務も終わったわね。と言っても、アタシは何もせずダーリンに抱っこされてただけなんだけど……」

提督「ブルツクリンを抱っこしているとやる気が増すんだ」

ブル「もう慣れたわ……」ニガワライ

提督「そいつは良かった」ニカッ

ブル「良くはないわよ、絶対」

提督「不満なのか？」

ブル「そ、そうじゃなくて……」

提督「なくて？」

ブル「もつとこう、役に立ちたいのよ。妻としても、艦娘としても」

提督「ブルツクリン……」

ブル「ねえ、本当にアタシってダーリンの負担になってない？」

提督「？ どうして？」

ブル「だってアタシ、何もしてない……」

提督「しなくていいって言うてるのは俺だが？」

ブル「それで『あ、そう？ じゃ、よろしく』って出来る程アタシは凶太くないのよ」

提督「ブルツクリンのお世話をするのも、ブルツクリンをこうして抱っこして仕事をするのも、俺の喜びなのに……」

ブル「そんなガツカリすること？」ニガワライ

提督「俺の愛がまだまだなんだな」

ブル「え、待って？　ねえ、待って？」

提督「ん？」

ブル「十分伝わってるから今以上はやめて。幸せ過ぎておかしくなるから」

提督「幸せの過剰摂取で健康被害は出ないよ」ナデナデ

ブル「それは……そうだけど、ダメなものはダメなの！」

提督「怒ってるブルツクリンも可愛いよ」ナデナデ

ブル「だからやめてっば！　ダーリンがいないと生きていけないでしょ！」

提督「ふむ。まだその程度か」

ブル「ふえ？」

提督「ああいや。もうとつくに俺無しでは生きられない身体になつてると思ってたんだが、まだそうじゃないと分かったから」ニコツ

ブル「んん？」

提督「大丈夫。変なことは神に誓ってしていない。ただ世界一愛しているブルツクリンを俺無しでは生きられない身体に改造しているだけだ」ニカッ

ブル「サラツと怖いこと言うのね!？」

提督「愛故だな」ナデクリナデクリ

ブル「ちよ、と、もう、ナデナデし過ぎよ!♡」

(自分が一番分かってる。ダーリンがいないと生きていけないなんて)

ブル「でもアタシ、ダーリンのために何かしたいのよ！　癒やすとかそういうのじゃなくて、アタシにしか出来ないことを！」

提督「じゃあもつと俺に身を委ねて？」

ブル「こ、こう？」スリスリ

提督「そうそう」ナデナデ

ブル「でも、これ……アタシが幸せなだけなんだけど？」

提督「いいじゃないか。俺も幸せだぞ？」

ブル「本当に？」

提督「本当に」

ブル「じゃあ明日はアタシが朝食もお弁当も作るっていい？」

提督「手を切ったら俺が泣いちゃう」

ブル「過保護過ぎる……」

提督「普段はそれ以上に危ないんだ。ならあとは俺に任せて」ニ
コッ

ブル「ホント、アタシをダメにする天才ね。責任取ってよね？♡」

提督「神とブルツクリンに誓うよ」チュッ

ブル「もう♡」

（もう変に悩むのやめよ。その代わりに、アタシもいっぱい愛を伝えればいいんだもの♡）

そして夫婦は更にシュガーテロリストとして名を馳せる――。

ブルツクリン 完

ホノルルとケツコンしました。

某鎮守府、夕方――

◇執務室◇

ホノルル「ふう〜、執務終了〜！ お疲れ〜、提督！」

提督「ああ、お疲れ。今日もありがとうな」

ホノルル「にしし、これくらいホノルル様にかかればベリーイー
ジーだよ♪」

提督「そう言ってくれると助かるよ。それじゃあ、戸締まりして書類を大淀に提出したら、官舎へ戻ろうか。今日は俺が食事当番だからな」

ホノルル「OK！ ねえねえ、ディナーは何？」

提督「それは出来てからのお楽しみ」

ホノルル「ええ〜！」

提督「まあ、どうせ作るところを見てれば何かは分かるだろう……ホノルルはいつも官舎に戻れば離れている時間の方が短いからな」ニガワライ

ホノルル「だって官舎はもうプライベートの時間だもん。昼間はちゃんと二人きりでもくつつきたいの我慢してるんだし……」

提督「ああ、分かってる。それじゃあ行くか」

ホノルル「は〜い♪」

〜夫婦は仲良く寄り添って、執務室をあとにした〜

◇長官官舎◇

提督「いつものことだが、まだ慣れないな」ニガワライ

ホノルル「え、何が？」

〜台所に立つ提督とその後ろから抱きついてるホノルル〜

提督「いや、この距離感というか……密着度が慣れないなって」

ホノルル「え〜、まだ慣れないの？ このホノルル様とケツコンしたらこうなるよって言ったのに？」

提督「いやまあ、うん。自分でも幸せな悩みだと思ってる」

ホノルル「日本人つてホントシヤイだね。ま、提督は今後しつかりとアタシ色に染めてあげるからね♡」

「そう言つてホノルルは提督の首筋に何度もキスをして、キスマークをつける」

提督「ホノルルさんや」

ホノルル「ふあんふえひよくふあ?」

訳) なんでしようか?

提督「手元が狂うからやめてくれないかな?」ニコツ

ホノルル「っ」ゾクリ

提督「お口は?」ニコニコ

ホノルル「は、離します」

提督「うん、よろしい」

「なんだかんだ提督には従順なホノルル」

提督「さて、あとはこれを煮詰めて……」

ホノルル「ねえ、これなんて料理?」

提督「あれ、分からなかった?」

ホノルル「うん。だって初めて見たもん。でも美味しそうなのは分かった!」

提督「そつか。ホノルルにはまだ食べさせたことなかったもんな」

ホノルル「え……じゃあ、昔の女に作ったやつとかなの?」

提督「ええと……どうしてそんな方向に?」

ホノルル「だって、提督素敵だもん。昔付き合ってた人にでもこうして作つてあげてたのかなって……」

提督「そう言つてくれるのは嬉しいけど、俺はホノルルが初めての人なんだけど?」

ホノルル「いやいや、夜の方はアタシが初めてもらったけど、初めて付き合つた人ではないでしょ? まあアタシも提督が初めてなんだけど……♡」エヘヘ

提督「だから付き合つたのもホノルルが初めてだよ。料理はまあ、間宮さんたちに休暇を与えた際に艦隊のみんなに俺がご馳走して

たっただけ」

ホノルル「そつかあ。じゃあ、提督の手料理を食べる初めての女にはなれなかつたんだなあ」

提督「しょんぼりするとどこそこ？」

ホノルル「だあつて、提督の初めては全部アタシがいいんだもん
く」ブーブー

提督「いやあ、それは無理だろ」

ホノルル「分かつてるけど、気持ちは常にそうなの！」

提督「ホノルルがそんな風に思ってくれて嬉しいよ」

ホノルル「へへへ、当然だね♡」

くそれからイチャイチャしながら料理を作ったく

◇居間◇

提督「いただきます」

ホノルル「いただきますーす！」

パクン！

提督「美味しい？」

ホノルル「デツリイイイシヤアアアスツ！」

くホノルル、大感激く

提督「そこまで喜んでもらえて嬉しいよ」ニコニコ

ホノルル「いや何これ！ チーズがとろとろなのにポテトはホクホ

クで！」モグモグ

提督「俺の実家は定食屋やってさ。常連さんにこういうの作って
くれて頼まれて、親父が作ったんだよ」

ホノルル「へえ……素敵なパパさんだね！」モグモグ

提督「コロツケにチーズ入れてカツ丼みたいにしてくれてリクエ
ストも凄いいけどな」ニガワライ

ホノルル「でもそれを実現させちゃうんだから凄いつて！ しかも

美味しい！ ハート型なのもキュート！」モグモグ

提督「ハート型なのはホノルルだからだよ」

ホノルル「へ？」

提督「愛してるから、それを込めてたらハート型になった」

ホノルル「へ、へえ……そつかあ／／／」ドキドキ

提督「いつもホノルルからは伝えてもらってるから、俺はこういう形でって思ってる」

ホノルル「乙女か／／／」キュンキュン

提督「何分、お嫁さんが可愛くてかっこいいからなあ」

ホノルル「めっちゃアロハが溢れるんだけど……／／／／／」

提督「どういう意味だよ」ニガワライ

ホノルル「愛してるってこと！♡」

くホノルルはそう言って提督に抱きついたく

ホノルル「今夜、多分寝れないからね♡」

提督「いつものことだな」

ホノルル「くく……アロハ♡」

提督「俺も愛してるよ」

ホノルル「うん……ねえ、キスして♡」

提督「食べ終わったらな」

ホノルル「ぶう、けちく♡」

提督「キスしたら止まらないだろ？」

ホノルル「まあね♡」

その後、食べ終わってからキスし、当然のように夜戦へ移行する夫婦であった――。

ホノルル 完

ヘレナとケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇執務室◇

ヘレナ「アトランタ……毎回毎回言うけれど、あなたの報告書は不備があり過ぎる」

アトランタ「What?」

ヘレナ「それはこちらのセリフよ」

アトランタ「面倒くさい」チツ

ヘレナ「何か言った?」

アトランタ「べつつにく。そもそもさ、ニホンゴムツカシイヨ」

ヘレナ「その日本語をあなたは現在進行形で話しているでしょうに……」

アトランタ「話すのは出来るよ? でもさ、筆記能力とか着任する際に問われなかったしい? 意思疎通が出来ればいいって日本の偉い人が言ってたしい?」

ヘレナ「だからってこんな適当な報告書が受理されるはずないでしょう。何なのこの、怪文書。FBIの人間ですら解読出来ないわ」

アトランタ「そう?」

ヘレナ「そうだから毎回こうして言ってるの」

アトランタ「だってさ、提督さん?」

提督「ん? ああ、まあ慣れてないと書き方とか分かんないよなあ。俺としてはパターン掴んだから解読するのはもう平気なんだけど」

アトランタ「ほら、ボスは問題無いって」

ヘレナ「そういう問題じゃないの! いい!? 提督はこの怪文書を毎回毎回上の人が読んでも分かるように書き換えてから提出してるのよ!?! あなたが始めから上に提出しても大丈夫な文書を書いていれば、提督の苦勞が幾らかは軽減されるの! あなたのせいで必要な時間が消費されてるのよ!」

アトランタ「つまり、あたしのせいでイチヤつく時間が減るから

もつとイチャつけるように筆記も完璧にしろ、と。そういうこと？」
ヘレナ「ちがいます!!!」

提督「まあまあヘレナ。アトランタだけじゃなく、君も含め海外艦のみんなは慣れない異国で懸命に任務に殉じてくれてるんだ。なのにそういう細かいとこまで求めるのは酷だよ。その分は俺がカバーする。どうかそのための提督だ。だから毎度のようにアトランタへ厳しく当たるのはもう止めなよ」

ヘレナ「しかしそれだと提督の負担が……」

提督「常に命張って任務をこなす君たち以上に俺に負担があるなんてことないよ。君たちは日本のために戦ってくれてる。ならこちらは言葉等のことは大目に見る。十分フェアだろ」

アトランタ「そーだそーだ」

ヘレナ「………分かりました。もうこの件でとやかく言うのは止めます」

アトランタ「最初から言わなきゃ良かっただけじゃん」

ヘレナ「っ！」ギロツ

提督「アトランタもその辺にしとけ。俺より君の方がヘレナのことを知ってるだろ？」

アトランタ「ん、まあ確かに。んじやま、あたしは帰るからあとよろしく。迷惑料はパウンドケーキとカップチーノで手を打とう」

提督「ああ、一五〇〇になったらまたおいで」

アトランタ「ほいほい」ノシ

アトランタ退室

ヘレナ「………」

提督「さて、ヘレナ。アトランタの報告書をくれ。上に出しても問題無いように文書まとめないと」

ヘレナ「………了解しました」

それからヘレナは提督の言葉に従ってはいたが、必要最低限の会話しかなかった

—————

一四〇〇——

◇鎮守府内・簡易厨房◇

ヘレナ「どうして提督がアトランタにここまでするんです？ まさかアトランタに何か弱みでも握られていたりしますか？」

提督「どしてそうなるの……」ニガワライ

「二人はエプロンしてパウンドケーキ作り中。と言つても作つてるのはほぼ提督」

ヘレナ「だって……そうでないと辻褄が合いません」

提督「弱みなんて握られてない。言つた通り、あれもこれもつて求めるのは間違つてるよなつてこと」

ヘレナ「気遣いと甘やかすのは違うと思います」

提督「甘やかしてるならヘレナだけかな。可愛いお嫁さんだし」

ヘレナ「そういうことではなく……！」

提督「君のその自分にも周りにも厳しくする姿勢は過去の事から来てるものだろう？ みんな……特にアメリカ艦の子らはそれを知っているから、どんなに君に厳しく当たられても強くは言い返さないだろう」

ヘレナ「っ……」

提督「なのに俺まで君のように厳しくする必要は無いんじゃないかな。君がああな事を充分に反省して、今度はそうならないように何に対しても真面目に取り組んでること……みんな知ってる。その結果、周りにも厳しくなってしまうことも、みんな知ってるんだよ」

ヘレナ「………ヘレナは悪い子だから」

「ヘレナは艦時代に軽巡ジュノーが伊26の雷撃で轟沈された際に護衛していたが、更なる潜水艦の雷撃を警戒してジュノーの生存者を置き去りにして逃げてしまった。」

ジュノーの生存者のサメにやられたり、また長時間の漂流で力尽き、生き残つたのはわずか10名だけであつた。

「見捨てて逃げた僚艦」とも言われ、この事でヘレナの艦長はその責任を負われ解任された。

それをヘレナは艦娘になつてから猛省し、故に真面目が服を着て歩いている状態になつている」

提督「それを言ったら日本にとってアメリカ艦はみんな悪い子だろうね。俺の祖父さんも海軍で艦時代のヘレナにやられたから」

ヘレナ「……聞きました」

提督「でももう過去のことだ。確かに祖父さんの仇である君がうちに着任する、なんて聞いた時は心穏やかではいられなかつたけど、君と接して考えを改めた。俺は俺の祖父さんを忘れないし、軽巡洋艦ヘレナがしたことも忘れない。でも憎んでない」

ヘレナ「……………」

提督「君が変わったように、俺も変わらなきやつて思った。そうしたらいつの間にか、君を愛してた」

ヘレナ「……………はい」

提督「だからヘレナも、自分にも周りにも少しづつ優しくなろう。今は自分の意思があるんだから、いくらだつて変わるはずだ」ニコツ

ヘレナ「……………提督」

提督「ん？」

「I love you more than words can say.
You bring my life.
あなたには私の人生に光をもたらしてくれました。」

We're meant to be each other」

提督「大袈裟だよ」ニコツ

—————

◇執務室◇

アトランタ「……………ヘレナどうしたの？」

提督「さあ、何か心境の変化でもあったんじゃないかなあ？」ニガワライ

ヘレナ「……………♡」ムギューツ

くヘレナ、アトランタの前なのに提督の膝上に座って提督の胸板に頬擦り中く

アトランタ「まあなんでもいいけど。パウンドケーキの甘さを感じ

ない。加えてカプチーノもつと苦くして欲しいかな」

提督「重ね重ね申し訳ないね」ニガワライ

ヘレナ「アトランタ、あんまり提督を困らせないで。ヘレナの大切な人なんだから。ね、提督♡」ホツペチュツチュツ

アトランタ「日本的に言うと、眠れる獅子を呼び覚ましたって感じ？」

提督「……俺もここまでなるとは思わなくて……」

ヘレナ「提督う、I love you♡」

提督「……お、おう。アイラブユーアイラブユー」

ヘレナ「く♡」ニヘエ

提督「可愛いなあちくせう」

アトランタ「まあ末永く爆発してどうぞ」

それからというもの、真面目ヘレナではなく引っ付きヘレナの異名で砂糖を振り撒いたー。

ヘレナ 完

デ・ロイテルとケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇鎮守府食堂◇

ロイテル「んゝ、おいひいく♪」モグモグ

提督「ホント毎回毎回美味そうに食うな」

ロイテル「だってホントに美味しいもん！ ニッポンのご飯、私大好き！ 肉じゃがとかコロツケとか！」

提督「ほぼ芋やん」

ロイテル「お刺身とかだって好きだもーん！」プンスコ

提督「はいはい。まあこつちに来て食が合わなかつたら苦労しただろうから、その点は良かったよな」

ロイテル「うんっ！ そ・れ・に♡」ピトツ

ゝデ・ロイテル、隣に座る提督の肩に頭を預けるゝ

提督「それに？」

ロイテル「最愛の人が出来た素敵な国よ♡ ニッポンに来て良かった♡」ホツペチュツ

提督「はは、そう言ってもらえると嬉しいな」

ロイテル「うん♡ だからこれからも私だけを死ぬまで愛してね♡」

提督「死んでも愛してるさ」

ロイテル「でへへゝ♡」

提督「ところでそのコロツケ、半分くれない？」

ロイテル「いいよゝ♪ 提督のハムチーズカツも半分ね♪」

ゝその後も仲良くランチタイムを過ごしたゝ

――

◇中庭◇

ゝ夫婦は仲良くベンチに腰掛けて食休み中ゝ

ロイテル「いい天気だねゝ」ホノボノ

提督「食後のお茶がまた格別だなあ」ホツコリ

ロイテル「そうだね。いやあ、私もニッポン人らしくなったなあ」
提督「けど執務室に戻ったらまたストローワツフルを嗜むんだろ？」

ロイテル「オランダと言えばストローワツフルだから！ それと
チューリップ！ 世界中の6割の花が集まるオランダだよ！」
フランス

提督「ザ・ヨーロッパだもんなオランダの風景って」

ロイテル「でしよでしよ？ やっぱりオランダっていい国だよね！

提督はオランダのどこが好き!？」

提督「国歌とかかな。穏やかでいい歌だし……あとはミツ〇イー」

ロイテル「えへへ、好きな人に母国を褒められるのって嬉しいなあ

♪

提督「そうだな」フフツ

ロイテル「なんで笑うの？」

提督「好きな人が笑っていると、自分も笑顔になるだろ？」

ロイテル「もう、またそんなこと言つて……

I k ^大 z i e j e ^好 g r a a g ^き ♡」

提督「俺も好きだ。よし、執務室に戻って仕事再開だ」

ロイテル「は〜い♡」

—————

昼下がりに

◇執務室◇

ロイテル「つてな感じで〜♡」デレデレ

ヒューストン「幸せそうで何よりだわ」フフフ

パース「惚気が今日も冴え渡ってるね」

〜旧友たちと交流中。提督は演習に同行中〜

ロイテル「だあって世界一の旦那だも〜ん♡ 仲間には聞いてほし

いじゃん♡」

パース「交流会が惚気を聞く会になつてる件について」

ヒューストン「まあまあパース。幸せなことは誰かに聞いてほしく
なるでしよ?。」

ロイテル「ヒューストンは流石だね〜♪ パースは心が狭くつて〜」

パース「ほう、そう言うならあれを言ってもいいと?」

ロイテル「何を?」

パース「ケツコン前にあなたが提督のことを思い浮かべて夜な夜な〜」

ロイテル「〜わーわーっ!〜／／／／ やめて〜!〜／／／／ 絶対に言わないで〜!〜／／／／ というか忘れてっつて言ったじゃ〜ん!〜／／／／」

ヒューストン「忘れてっつて言われてもねえ」ニガワライ

パース「私たちはそれを毎晩聞いてたものね」

ロイテル「だ、だつて……それだけ好きだったんだもん……／／／／
／」モジモジ

ヒューストン（かわいい♪）

パース（くそ、かわいいなコイツ）

ロイテル「で、でも好きな人の写真とか声とか、見てたり聞いてたりしたらにやけちやうのつて普通でしょ?〜／／／／」

ヒューストン「理解はするけど……」

パース「あなたは声がだだ漏れレベルだから」

ロイテル「にや〜!〜／／／／ だから忘れてっつてば〜!〜／／／／
ガチャリ

提督「何を騒いでるんだ? 廊下まで叫び声が聞こえてたぞ?」

ヒューストン「あら、提督、おかえりなさいませ」ペコリ

パース「お疲れ様です。提督の奥様が惚気ててうざかったのだから
かってました」

ロイテル「……／／／／」

〜デ・ロイテル、机に顔を突っ伏して悶え中〜

提督「おいおい、俺の妻をあんまりいじめないでくれよ」

パース「次からは程々にしときますね」

ヒューストン「あ、あの〜、では私たちも戻りますね」ニガワライ
パタン

提督「……大丈夫か？ 耳まで真つ赤だけど？」

ロイテル「……………Ik zie je graag」ムギユーツ

提督「おくよしよし」ナデナデ

ロイテル「んく、んくんくんく」カオグリグリ

提督「余程からかわれたんだな」ナデコナデコ

ロイテル「うん」

提督「ヨシヨシ

く数分後く

提督「落ち着いた？」

ロイテル「うん、ありがと」

くそれでもまだ奥様はひつつき虫く

提督「詳しくは聞かないけど惚気るのも程々にな」

ロイテル「だって聞いてほしかったんだもん」ムウ

提督「俺たちの話は甘過ぎるからな。いくら友達といえど限度があるってことさ」

ロイテル「自慢したかったの。私の最高の旦那だよって」

提督「もう十分伝わってるってことだ」

ロイテル「言い足りないく。キスした回数とか手を繋いだ時間とか愛の言葉を送り合った回数とか全部言いたいのか」

提督「……………それは迷惑じゃないかなく？」ニガワライ

ロイテル「提督もパースたちの味方になるんだ？」

提督「俺がパースたちの立場だったら止めてほしいからな」

ロイテル「裏切り者く」ウワーン

提督「裏切ってないだろ」

ロイテル「提督は無条件で私の味方にならなきゃダメなのく。だから裏切り者なのく」

提督「そんな旦那とはリコンする？」

ロイテル「する訳ないじゃん！く」ムギユーツ

提督「でも俺キズついたなあく」

ロイテル「何でもするからくく リコンしないでくく」

提督「じゃあ、気持ちを込めて愛の言葉を」

ロイテル「Ik^愛 hou^し van^て jou^る」ニツコリ
提督「俺の嫁とうてえ」ムギユーツ
ロイテル「えへへ〜♡」

結局のところ、奥様の惚気自慢大会は余計に長引くことになつたー。

デ・ロイテル 完

パースとケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇執務室◇

パース「提督、ここの計算間違えてます」

提督「どれ……あ、本当だ。ありがとう」

パース「こんな単純な計算くらい出来ないでどうするんですか、嘆かわしい」

提督「……適材適所ってことでうちでも経理班作ろうかな」

パース「そんなことに人材を割いてどうするんです？　今までも上手く行っていた。ならこのままでいいと思います」

提督「でもな、ミスを減らすためにも数字に強い部下に任せる方が円滑になるとは思わないか？」

パース「ダメです。それに提督のミスを見つけて、修正させるのが私の役目。ただでさえ出撃がない日の私はお飾りなのに、私の役目を奪わないでください」

提督「ならもう少し柔らかく指摘してくれよ。毎回毎回嘆かわしいだの見てるこつちが悲しくなるだの言われるのつらたん」

パース「なら私以外を秘書艦にしたらどうです？　そうすれば辛くなくなるでしょ？」

提督「……このままでお願いします」

パース「まったくくすぐ甘えるんだから。嘆かわしい」フフツツ
くなんだかんだでよろしくやっている夫婦だが」

◇執務室外・ドア前◇

ロイテル「ねえ、パースってあんなにアホだったっけ？」

ヒューストン「うん、彼女の言ってることは正しいんだけどねえ」

ニガワライ

く二人は報告書を提出しにきていた」

ロイテル「私だってパースの言い分は分かるよ？　でもさ――」

ヒューストン「――ええ、言いたいことは分かるわよ」

◇執務室◇

パース「ほら、また間違えてますよ」ユビサシ

提督「ああ、ありがとう」

パース「まったく、救いようのない人ね」ナデナデ

提督「本当に面目ない」

パース「行動で示してください」ナデナデ

提督「は〜い」

〜パース、提督の膝の上に鎮座（お姫様抱っこ）。加えて提督がミスる度に指摘しつつ、提督の頭や顎を撫でて猫可愛がりしている〜

◇執務室外・ドア前◇

ロイテル「厳しくするか甘やかすかどっちかにすればいいのにな〜」

ヒューストン「パース的にはあれが一番しつくりくるのよ、きつと」

ロイテル「いやでもさ、入り辛いつたらないよね」

ヒューストン「これも慣れないといけないわ」

ロイテル「ここに着任する前は本当に緊張したけど、まさかこんなことに苦労するとは思わなかったなあ」

ヒューストン「パースが思いの外提督LOVEになっちゃったし、こんな風になるなんて思いもしなかったものね」ニガワライ

〜二人は報告書をなんとか提出し、足早に執務室をあとにするのだった〜

〜

パース「お待たせしました」

提督「いや全然待ってないよ。寧ろお昼作ってくれてありがとう」

パース「これは妻の役目ですから」フフン

〜夫婦、執務室のソファアーテーブルで遅めの昼食〜

提督「今日は何かな？」

パース「時間が過ぎちやつてるからラップにしたの。メインの具材は右のこちらからコンビーフ、ツナマヨ、ハムチーズよ。スープは連続になって申し訳ないけど今朝と同じコーンポタージュ。それとあなたの好きなマッシュポテト」

提督「十分だよ。ありがとう」

パース「お礼を言い過ぎです。それよりキスしてくれた方が私は嬉しいです」ニッコリ

提督「お礼に言い過ぎも何もないよ……ちゅっ」

パース「んっ……言葉より、私はやっぱりこっちのがいい♡」

く仲良くランチく

パース「はい、あなた……あーん♡」

提督「あぐ……うん、うまうま」

パース「ふふ、そう♡」

提督「俺、パースの作るツナマヨって好きなんだよなあ。玉ねぎのみじん切りじゃなくて、ピクルスのみじん切りっていうのが面白くて」マグマグ

パース「そう♡」

提督「鎮守府の食堂でも間宮さんたちがラップを出してるそうだし結構人気で今度パースから本場の味を教えてほしいって」

パース「ふーん……あなたに振る舞うのと同じレシピは教えられないけど、それでいいなら」

提督「え、これ普通のと違うのか?」

パース「当たり前でしょ? この味は私からあなたにだけの特別な味なの。誰にでも出してあげるものじゃないわ」

提督「パースの愛で泣きそう」

パース「意味わかんない♡」フフツ

く食後の一服く

パース「今日はコーヒーにしました、どうぞ♡」

提督「ありがとう」

パース「また言ってる」ジト

提督「ああ……ちゅっ」

パース「んっ♡ よろしい♡」ニコニコ

提督「午後からの遠征隊はもう行ったよな?」

パース「ええ、ちゃんと報告はあったでしょ?」

提督「演習部隊も予定通り向かったし、午後は少しゆっくり出来る

な」

パース「そうなるように執務を予定より長くさせたんです」

提督「出来る女だなあ」ナデナデ

パース「今更?♡」ゴロゴロ

提督「改めてそう思ったってこと」

パース「ふーん♡」スリスリ

提督「さあ、俺のプリンセス。午後からは何をご所望ですか?」

パース「そうね……15時にはヒューстонたちや日本の艦娘たち

とお茶会があるから、それまでは可愛がってもらおうかしら?♡」

提督「仰せのままに♪」ホッペチュツ

パース「あんっ♡ もっ♡」

提督「I love Sweathheart」チュツ

パース「んう……もっとお♡」スリスリ

提督「パース……んっ」

パース「んんっ……ちゅっ、ちゅぶ……んんう、ぢゆるっ……ちゅ

ぶ……ふはあっ……んふう、ちゅく……はあはあ♡」オメメハート

提督「愛してる。本当に」

パース「私も、です♡」

提督「これからもずっと一緒だ」ギョツ

パース「I don't need a superhero in

my life, I just need you with

me♡」

私の人生にヒーローはいらない。私に必要なのはあなただけ

提督「I vow to fiercely love you

in all your forms, now and fore

ver. I promise to never forget

that this is a once in a life

time love」

今もこれからもずっと、どんな君も愛し続けると強く誓うよ。

これが一生に一度の愛だということを決して忘れないと約束する

パース「ああ、私も♡ 私も約束するわ♡」ギユツ
提督「ああ」ギユツ

パースは提督とその後もしチャイチャし、約束の15時を過ぎてもイチャイチャし、午後から上がってきた報告書たちは執務室の外のドア脇に置いてある台に山積みになっていた。

なので夫婦は本日も夜遅くまで二人仲良く残業するのであったー。

パース 完

練習巡洋艦

朝日とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

提督「……」テキパキ

提督、今日も今日とて執務の真つ最中

朝日「……」ジーツ

奥様である朝日はそんな提督を見つめる

提督「……」カリカリ

朝日「……」はあ、もう見ていられませんね

提督「ん？ どうかしたのか、朝日？」

朝日「どうかしたのか、ですか……。ええ、ええ、どうかしました」

しなやかに立ち上がる朝日は、そのまましずしずと提督の元へ

提督「なんだ？」

朝日「なんだ、ですか……。そうですかそうですか」フフフツ

提督「ちよ、だから――」

朝日「提督？ 私（わたくし）、とても憤っています」

奥様はニツコリとどす黒い笑みを浮かべる

提督「理由を訊ねても？」ヒヤアセ

朝日「ご自覚がない、と？」

提督「あいにくだが……。全く、これといって……」

朝日「……」

提督「……」ニガワライ

朝日「今の時刻は？」

提督「ん……。昼の一三〇〇を過ぎたところだな」

朝日「そうですね……。では、昼餉は召し上がられましたか？」

提督「勿論だ。いつも朝日に注意されているからな」

朝日「それは良うございました。して、本日の昼餉は何を？」

提督「明石のところでは昨日新発売したレーションだ。味はまあそれほどでもないが、必要な栄養素を凝縮させ、開封してすぐに口に含め、更に噛む必要もなくスルツと飲み込めてとても時間短縮が出来た」

朝日「今、私は提督の頬を無性に叩きどう存じます」ニッコリ

提督「な、何故だ!？」

く提督は慌てて椅子に座ったまま上半身を反らし、逃げの体勢にく朝日「悲しいですね、本当に。今に始まったことではないですが、本当に変わりませんね……」

ヒュン、ヒュン、ヒュン

く奥様の張り手が小気味良く空を切るく

提督「ぼ、暴力はいくはない……」

朝日「制裁です♪」

パチーン

くとてもいい音がしたく

朝日「お仕事も大切ですが、お体を壊してしまつては本末転倒。故に規則正しい生活を、と先日お話致しました」

提督「あ、ああ……そうだな。だから——」

朝日「そんな物で食事を済ませる、と?」

ヒュン、ヒュン、ヒュン

く提督は身震いしたく

朝日「私が昼餉をお作りしますと再三申し上げていますのに」ヤレヤレ

提督「いやしかしだなあ」

朝日「私の負担を気になされているのは分かります。しかしそれも妻の務め。寧ろ喜びでもありますと伝えましたよね?」

提督「う、うむ……」

朝日「……明日からそうさせていただけますね?」

提督「はい」

くこうして提督は妻の優しさに甘えることにしたく

次の日の昼——

◇執務室◇

朝日「提督、昼餉のお時間ですので、一度手をお止めいただけますか？」「ニコニコ

提督「あ、ああ、そうしようか」サツ

朝日「今のは見間違いと言うことにはしておきますね」ニッコリ

提督「そ、そうだな」

(あとで明石のところへ返品しに行かないと)

提督はとりあえず奥様が用意するテーブルへ

提督「本当に辛くないか？」

朝日「いいえ？ 寧ろ作るのが楽しかったです。あなたが食べてくれると思うと、余計に」

提督「そうか……ありがとう」

朝日「さあさ、召し上がってくださいませ♪」

く差し出された弁当箱を受け取るく

パカリ

提督「のり弁？」

朝日「はい。今朝お出しした焼き鮭と切り干し大根の煮付け……あとは玉子巻きです。ね、そんなに私の負担にならないでしょう？ お

味噌汁もこちらの魔法瓶に入っています」ニコニコ

提督「そうだな。こういった感じなら、全然……」

朝日「あなたが私を大切に思ってくださいるように、私もあなたを大切に思っています。ですから甘えてほしいのです」

く提督の手を取り、心からそう願う奥様く

朝日「多忙を極めるあなたを私なりになんとかお支えしたい。そう思っただけじゃないですか？ あなたを大切にしたいじゃないか？」

提督「そういう言い方は卑怯じゃないか？」

朝日「お慕い申し上げます。心から」

提督「……勝手にしてくれ」

朝日「はい♪ ですので今後もお任せくださいませ♡」

提督「……おう」

朝日「お望みとあらば、食べさせてあげましょうか？♡」

提督「恥ずかしいからやめてくれ」

朝日「あら、残念です♡」

提督「からかうんじゃない」

「食べたのり弁は醤油がかかっているのに、桜でんぶのように甘く感じた提督であつた」

その日の夜――

◇長官官舎◇

朝日「お風呂いただきました」

提督「ああ、おかえり……」

「提督は先に風呂を済ませて晩酌中」

朝日「お酌致します」

提督「ん、ああ、頼む」

朝日「ゴクツ」

提督「んん!？」

朝日「んっ♡」

提督「んってされてもだな……」

朝日「んーん!」

提督「……はあ、端からそのつもりだったな?」

朝日「ん♡」ニパー

提督「ったく……んっ」

朝日「んっ……ん……んう♡」

ちゅぱっ♡

提督「人肌の酒は美味いな」

朝日「ふふっ、あなたが私に仕込んだのですよ?♡」

提督「人聞きの悪いことを……喜んでするじゃないか」

朝日「接吻出来る良い手段ですから♡」

提督「控えめなのか強かなのか……」

こうして夫婦はいつもよりも長い晩酌を過ごすのだった――。

朝日 完

香取とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇鎮守府内・中庭◇

香取「ふう……今日は日差しが暖かくて気持ちいいわね……今日の体調はいつもより良いし、もう少しで回復出来るかしら」ニコニコ
＼ワイワイガヤガヤ／

香取「艦隊のご帰還かしら？」

◇埠頭◇

提督「みんなお疲れ様。詳細は後でいいから、各自入渠と補給をしてくれ」テキパキ

◇埠頭側の物陰◇

壁「□□□」？↑香取「今日も提督は素敵だわ♡」

??「物陰で何してるんですか？」

香取「ビクッ

香取「フリカエリ

鹿島「？」クビカシゲ

香取「鹿島……」ホッ

鹿島「？ ああ、提督を見てたんですね」ニヤニヤ

香取「うう……」ウツムキ

鹿島「隠れて見てないで、普通に声をかければ良いのに」ニコニコ

香取「だ、だって……お仕事中でも」モジモジ

鹿島「執務室でやることやってよく言いますね」ニヤニヤ

香取「はうう……」メキョッ

＼香取壁に頭をめり込めせる＼

鹿島「クスクス

香取「／／／」モジモジ

鹿島「ま、お仕事に差し障りの無いようにしてくださいね」ウイン

ク

香取「え、ええ／／／」カア

鹿島「あら、丁度こちらへ向かって来てますよ?」

香取「ええ!?!?!」フリムキ

提督「?」

香取「ビクッ

〜目と目が合う〜

提督ニコツ「ノシ

香取「〜♡」ノシ

鹿島「じゃあ、お邪魔にならないように、私は戻りますね♪ おし

どり夫婦さん♪」ニコニコ

香取「え、ええ／＼／＼」

提督「香取、今日は外に出ていたんだね」ニコツ

香取「はい、まだ本調子ではありませんが、今日は体調も良いし、日差しも暖かいので、日向ぼっこをしました」ニコニコ

提督「それは良いな。僕も仕事が無ければ香取と一緒に日向ぼっこ

したいよ」ニコツ

香取「これからも沢山機会があります。その時はご一緒に致しましょう♡」

提督「勿論さ」ナデナデ

香取「はう♡」オメメハート

提督「……つと、もう行かなきゃ。じゃあ、また後でね」ホッペ
チユツ

香取「ん♡ はい、この後も頑張ってくださいませ♡」ホッペチユツ

夕方ー

◇提督&香取の部屋◇

〜香取お料理中〜

香取「〜♪」トントントン

〜味見〜

香取「うん♪」バツチリ

ズキッー

香取「痛つ……」アタマオサエ

香取「最近妙に頭痛や腹痛が酷いのよね……そのせいで秘書艦任務がこなせないなんて……」ハア

香取「この所ずつとこうだし、流石に明石さんに診てもらおうかしら……」

香取「そうね……一度診てもらいましょう。感染性のものだと提督や艦隊の皆さんにご迷惑を掛けてしまいますから！」フンス

く意を決して明石の元へく

◇医務室◇

香取「こんばんはく」

明石「はーい！ あら、香取さん。どうされました？ あ、掛けてください」つ椅子

香取「ありがとうございます。えっと、最近妙に頭痛や腹痛が続いていて、一度診断してもらえませんか？」

明石「頭痛と腹痛ですね……他に症状はありますか？」

香取「うくん……トイレに行く回数が増えたかもしれません」

明石「ふむふむ……他には？」カキカキ

香取「今はそうでもないのですが、身体のだるさと眠気がひどい日があります」

明石「……ふむ。最近胸が痛いと感じたことはありませんか？」

香取「少し前にありましたけど、今は治まっています」

明石「腰痛はありますか？」

香取「あく、少し痛いかもしれませんが」

明石「最近味覚や嗅覚に変化はありましたか？」

香取「そうですね……ちよつと変わったかもしれません。なんとなくですが……」

明石「そうですね……ちよつと検査するのでお時間を頂きますがよろしいですか？」

香取「はい、大丈夫です」

明石「分かりました。ではー」

く香取詳しく検査中く

明石「おめでとうございます。ご懐妊ですよ。約五週間です」ニコッ

香取「ええ!？」

明石「ちゃんと検査したので間違いありませんよ。おめでとうございます」ニコニコ

香取「ほ、本当なんですか!？」

明石「はい♪」

香取「ここに、私と提督の子が……」オナカサササ

明石「これから十二週間までは流産の可能性が高いので、くれぐれもご注意くださいくださいね。そして、これからつわりがひどくなる時期に入っていくので、その時は無理せずに医務室へ来てくださいね」

香取「分かりました……えつと……ありがとうございます」ペコリ

明石「いえいえ♪ お幸せに♪」ニコッ

夜――

提督「妊娠!? 本当に!？」

香取「はい♡」

提督「この中に僕達の子どもが……?」オナカナデナデ

香取「はい♡」

提督「い」

香取「?」クビカシゲ

提督「イヤッフウ♪」ガッツポーズ

香取「」ポカーン

提督「やった! やった! とうとう僕達にも子どもが出来たん

だね!」ギューッ

香取「……はい♡」ギョッ

提督「これから辛いだろうけど、僕に出来る事なら何でもするから!」

香取「では、早速してもらいたいことが……／／／／」

提督「なにになに?」

香取「口付けをしてほしいです♡／／／／」

提督「ズキューーン」

提督「香取……」ホツペナデナデ

香取「提督♡」クチビルサシダシ

ちゅっ……

提督「愛してるよ」ギョツ

香取「香取も愛しております♡」ギョーツ

後日、香取の懐妊が発表され、艦隊みんなから数々の祝福の言葉が二人へ贈られたー。

香取 完

鹿島とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇鎮守府正門前◇

提督「ソワソワ

「提督さ〜ん〜」

提督「クルッ

鹿島「お待たせしました！ 鹿島、只今参上しました♪」

鹿島E・灰色のタートルネック

白色のフレアスカート

黒色のショートブーツ

提督「ふつくしい……」

鹿島「やだ……美しいだなんて／＼／＼」テレテレ

提督「いや、本当にふつくしくしく尊いぞ、鹿島」ギョッ

鹿島「あん……提督さん♡」トクン

(ふつくしいって何なのかな?)

提督「さ、行こうか」ヒダリウデスッ

鹿島「はい♡」ウデダキツキ

◇遊園地◇

鹿島「わ〜、ここが遊園地ですか〜!」キラキラ

提督「そうだぞ。本当はもつと凄いとここに連れて来てやりたかったんだが……」ニガワライ

鹿島「提督さんで行けるなら何処でも嬉しいです♡」ニパッ

提督「ありがとう」ニコッ

鹿島「キユン

グイッ↑鹿島、提督の腕を引っ張る

提督「？」カクン

鹿島「連れて来てくれてありがとうございます♡」ホッペチユッ

提督「!?!?!」

鹿島「ふふふ♡ 早く中に入りましょ♡」グイグイ
提督「お、お／＼／＼」ドキドキ
く夫婦、いざ園内へ！く

◇メリーゴーラウンド◇

鹿島「わあく！ どれに乗ろうかなく!?」キョロキョロ

提督「鹿島」

鹿島「はい？」クルツ

提督「お手をどうぞ、姫さま」ニカツ

く提督、白馬に跨り鹿島に手を差し伸べるく

鹿島「ズキューーーーン

鹿島「はい♡ 王子さま♡」オメメハート

く鹿島、提督の膝の上へく

くメリーゴーラウンドスタート♪く

鹿島「あの……」

提督「どうした？」

鹿島「今更ですけど、これって二人で乗ってもいいんですか？」

提督「この馬はカップル専用だから安心しろ」ナデナデ

鹿島「なら良かったです♡」スリスリ

子ども「ママく、あそこの人達ラブラブだよく？」

母親「言わなくても分かってるわよく」サトウウツプ

◇ジェットコースター◇

鹿島「た、高いですう！」ヒシツ

提督「うん鹿島さん？ 怖いのは分かるけど腕の関節決まってるよ

？」ダラダラ

く下り坂キタ——（。▽。）——！！く

鹿島「きやくくくつ」ギューツ

提督「耐えろ！ 俺の腕ええええつ！」

く急カーブキタ——（。▽。）——！！く

鹿島「いやくくくつ」ギギギツ

提督「折れんな！ 折れんじやねえええつ！」
く二連宙返りキタ——（。△。）——！！く
鹿島「提督さくくくんっ！」ミシミシッ
提督「ここで！ 耐えるんだよおおおおつ！」
く無事に終了く
鹿島「はく！ 怖かったけど楽しかったです♪」キラキラ
提督「よよよっ良かったよく」
（もう少し長かったら俺の左腕は折れていたぜ）

◇コーヒーカップ◇

鹿島「これは何ですか？」

提督「これはハンドルで回すとコーヒーカップの回る速度が上がるんだよ」

鹿島「回してもいいですか!？」キラキラ

提督「いいぞく♪」

鹿島「面舵いっばい♪」グリングリン

く右の高速回転く

提督「ふあくくくっ!？」

鹿島「(≡▽≡)」キヤッキヤッ

鹿島「取り舵いっばい♪」

く左へ急速転換く

提督「ふおくくくっ!？」

鹿島「ゞ（*≡▽≡）ノ」キヤハハハ

く航海終了く

提督「」フラフラ

鹿島「楽しかったく♪」キラキラ

提督（鹿島恐ろしい娘！）

昼下がりー

◇レストラン◇

く少し遅いお昼ご飯く

鹿島「わあ♪ このサンドイッチ美味しい♪」ハムハム
提督「俺は鹿島が作ったやつのが好きだな」パクン
鹿島「もう、照れちやいますう♡／／／」デレデレ
提督「事実だからな」アハハ
鹿島「提督さんつたら♡／／／」ヤンヤン
サンドイッチへ解せぬ

◇お化け屋敷◇

鹿島「これがあのお化け屋敷！」キラキラ

提督「暗いから手を繋いで行こうか」テサシダシ

鹿島「はい♡」ギョツ

く恨めしやく！く

鹿島「わく♪ すごい☆」キラキラ

お化け「(。㇗)」「ナニ？」

提督「ごめんなさい」ニガワライ

く私の子を返せく！く

鹿島「子ども思いですね」クスン

お化け「(。㇗)」「ウワオ

提督「すみません」ペコリ

く首置いてけく！く

鹿島「すごい迫力☆」パチパチ

お化け「(。㇗)」「ナン…ダト？」

提督「申し訳ございません！」ペコペコペコ

く出口く

鹿島「大迫力でしたね♪」サワヤカエガオ

提督「そうだね…」ヤツレタエガオ

提督「鹿島つてお化け平気だったんだなく、驚いたよ」ニガワライ

鹿島「そうですか？」

提督「そうだよ。鹿島は怖い物知らずなんだな」アハハ

鹿島「私にだって怖いと思うことありますよ」プクウ

提督「そうなの？」

鹿島「はい……もし、提督さんと離れ離れになったらと思うと怖くて眠れません」ウルウル ギューツ

提督（何この可愛い生き物／＼／＼）キョンキョン

鹿島「鹿島を置いて行かないでくださいね？」ヒシッ

ぼむつ↑提督、鹿島の頭を軽くたたく

提督「置いて行くわけないだろ？ 最期まで一緒だ」ポンポン

鹿島「はい♡」ギューツ

客「？ ドラマの撮影？」

客「映画か、この遊園地のPVじゃね？」

夕方ー

◇観覧車◇

提督「どうだった、今日は？」

鹿島「はい♪ とつても楽しかったです♪」ニパッ

提督「そりや良かった♪」

鹿島「夕日……綺麗ですね」

提督「そうだな」

鹿島「執務室で見る夕日も好きですけど、こうした場所で見ると夕日も素敵ですね」

提督「最後に乗って正解だったな♪」

鹿島「提督さん」

提督「？」

鹿島「お隣に座ってもいいですか？♡」

提督「どうぞ／＼／＼」

鹿島「♡」ニパッ

〜鹿島、提督の隣へ〜

鹿島「えへへ♡ 提督さん♡」ギューツ

提督「おう／＼／＼」ナデナデ

鹿島「提督さん、愛してます♡ これかもずっと、ずっと……♡」

提督「俺もだよ、鹿島」ナデナデ

鹿島「っ♡」チュッ

提督 「んっ!?! / / / /」

鹿島 「ん♡ んん♡♡ ちゅっ♡ あむ♡ ちゅ♡♡」

提督 「んはあ……かつ、鹿島 / / / /」

鹿島 「また連れて来てくださいね♡」 ホツペチユツ

提督 「おう / / / /」 テレツ

こうして夫婦初の遊園地デートは幕を下ろした。

夫婦は夜空掛かった空の下を、鎮守府に着くまで肩寄せ合って帰っていったー。

鹿島 完

軽（航空）巡洋艦

ゴトランドとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりに

◇中庭◇

ゴトランド「はあ……」

ゴトランド、ベンチに腰掛けたため息を吐く

ゴトランド「……………」ズーン

ガングート「何を一人で辛気臭い顔をしているんだ、お前は？」

タシユ「何か悩み事？」

ゴトランド「ガングートにタシユケント……………Hej.こんにちは 私は別に

……………」

ドカツ↑ガングートが隣に座る

ガングート「何もないような顔をしてないから聞いているんだ。さっ

さと吐け」

ゴトランド「相変わらず凶々しいわね……………」

タシユ「なはは、まあこれでもガングートは君を心配してるのさ。

あたしもガングートに言われるまでは気づかなかったからね」

ガングート「余計なことを言うな」フンツ

ゴトランド「……………」ニガワライ

ガングート「それで、何があつたんだ？ 北欧出身だからと迫害で

も受けているのか？」

ゴトランド「そんなことある訳ないでしょ」

タシユ「そうだよガングート。まあ、同志提督と唯一ケツコンして

るってことでイジられる場合は仕方ないけどね」ニツ

ゴトランド「そ、それはもう落ち着いたわ……………というか、提督がい

い人過ぎてみんなに好かれ過ぎてるのよ！ 金剛とか榛名とか大和

とかイタリアとかリシユリユとか……………みんなみんな二言目には『提

督とのケツコン生活はどう？』って訊いてくるんだもん！」

ガングート「さりと惚気おって……」

タシユ「まあ、みんな気になるものさ。同志提督は君には特別な愛情を注いでいるしね」

ゴトランド「ま、まあ、それは……身に沁みて分かつてるけど……
／＼／＼」デレデレ

ガングート「悩みなのか、それともただ単に惚気話を話したいだけなのか……」ヤレヤレ

ゴトランド「そ、そんなじゃないわよう……」

タシユ「でも提督絡みつてことは分かった。それで、同志提督と何かあったのかい？」

ゴトランド「……」

ガングート「我々は口は固い。言い難いことでも聞き流してやる。だからさつさと吐け」

ゴトランド「……あのねー」

ガン・タシユ『……』ウンウン

ゴトランド「ー提督とケツコンして半年以上経つけど、私って提督の奥さんらしいこと全くしてないのよ」

ガングート「そうか」

タシユ「自分で何か出来ることを探してやったらいいんじゃないかな？」

ゴトランド「それがね、あの人ったら完璧過ぎて家事も何も私の出る幕じゃないの……」

ガングート「至れり尽くせりつてことで良いではないか」

ゴトランド「貴女はそれでいいかもしれないけど、私は嫌なの。それに家事は夫婦するのがスウェーデン式なもの」

タシユ「まあ、ここは日本だからね。それに同志提督は欠点を探す方が難しいよ」ニガワライ

ゴトランド「そうなのよ！ 微笑んでくれるだけでも素敵なのに、お料理の腕は最高で私をいつもお姫様扱いしてくれて軍略は見事部下にも優しく完璧過ぎなのよ！」テシテシ

ガングート「文句なのか惚気なのかどっちなんだ……それと私の太

ももを叩くな」ペシッ

ゴトランド「あたっ……ンンッ、とにかく、私も愛する提督に何か愛をお返ししたいの！ でもそれが見つからなくて辛いの！」

タシユ「愛のお返し、ね……」

ガングート「赤子がへそでロシアアンテイーを飲むくらい馬鹿馬鹿しい。んなことで悩むとは……」

タシユ（ことわざが色々どっちやになつてて、カオスな言葉になつてるよ……）

ゴトランド「そんな言い方……」

ガングート「事実だからな。そもそも完璧なんて無い。完璧だと思っていた我が祖国ソ連が崩壊したように、必ずや誰しも欠点があるんだ」

ゴトランド「………」

ガングート「それにロシアの思想家ドストエフスキーはこう言ってる……『女こそ男を完成させる唯一のものである』と。提督^{あいつ}が今のようになったのは全部お前の存在あつてこそだ」

ゴトランド「意味分かんない」

ガングート「お前は良くあいつのことを褒めるだろ？」

ゴトランド「ええ。だって本当にそう思うから凄いわとか素敵だつて伝えてるのよ？」

ガングート「つまりそういうことだ」

ゴトランド「??」クビカシゲ

タシユ「まあ、なんて言うか、君が純粹に同志提督を褒めるから、彼は君にまた褒めてもらいたくて頑張つてるんだってことだよ。つまり君はもう同志提督に愛を送り、その愛に彼は応えてるんだ」

ガングート「駆逐艦にそうやって説明されないと気がつかんとは、嘆かわしい」

ゴトランド「うるさいわね……でもなんとなくモヤモヤは解消された気がするわ、^{ありがとう}Tack!」ニコッ

くそしてゴトランドは二人と別れ、足取り軽く執務室へ……提督の元へ戻った

その日の夜ー

◇夫婦で過ごす長官官舎◇

くデイナータイムく

提督「どうか、僕なりに考えてスウェーデン料理を作ってみたんだけど……?」

ゴトランド「どれも美味しい! 特にこのPyttipannaとJanssons frestelseはお店開けるレベルよ!」キラキラ

提督「良かった……ゴトランドのその笑顔が見ただけで、僕は幸せだよ」ニコニコ

ゴトランド「っ♡」キュン

提督「ゴトランド?」

ゴトランド「……私もすごく幸せ♡」

提督「うん! 明日もまた美味しいご飯をゴトランドのために作るね!」ニコツ

ゴトランド「っ!♡」キュンキュン

提督「ゴトランドの笑顔は最高だ……そんな君と毎日過ごせる僕は世界で一番幸せな男だよ」

ゴトランド「私だつて提督の愛がいつぱい入ってる料理を独り占め出来て、世界一幸せよ♡」

提督「愛してるよ、ゴトランド」ギユツ

ゴトランド「Jag · lskar dig♡」ギューツ

その後も夫婦は相変わらず他を寄せつけないほどラブラブにイチヤイチャして鎮守府へ砂糖を振り撒くのであったー。

ゴトランド 完

防空巡洋艦

アトランタとケツコンしました。

某鎮守府、夜ー

◇執務室◇

アトランタ「提督さん、もう二二〇〇を過ぎたよ。一度休憩にしない？」

提督「ああ、そうだね」ノビー

アトランタ「いつもの？」

提督「頼む」

アトランタ「ん♡」

く奥様は提督にアメリカンコーヒーを淹れたく

アトランタ「どうぞ♡」

提督「サンキュ」

く仲良くソファアで休憩く

提督「んく、カフェインで残りの書類仕事も頑張るか。ごめんな、夜苦手なのに付き合わせて」

アトランタ「別に今回が初めてって訳じゃないから気にしなくていい。それより早く終わらせて夫婦の時間を確保して。それにあなたと一緒に夜だもの、なんであれ嫌な訳ないでしょ？」

提督「そっか、なら頑張らないとな」

アトランタ「そうだよ。んく……ちゅっ♡」

提督「!!?」

アトランタ「ふふっ、頑張らないと提督さんのだあい好きなの続き……出来ないよ?♡」

提督「張り切っちゃうぞー!」

アトランタ「あはは♡」

(ホント、単純で愛しいMy sweet heart♡)

しかしー

?? 「夜戦終わったあああああつ！ 最高だったあああああつ！」
?? 「ぽいぽいぽい♪」

?? 「っしやあ、夜食のラーメン食ったろー！」

?? 「今日も輝いちやった☆ きやは☆」

?? 「今夜も素敵でした！」パチパチ

?? 「ダンスも絶好調だったー！」

ーうるさいのが夜間任務から帰ってきた。

提督「ははは、アイツら……揃いも揃って元気だなあ。怪我してないかこっちは心配だったのに」

アトランタ「ちっ」

(折角のいい雰囲気か台無し)

く奥様、ご立腹く

提督「ほらほら、そんな顔するなよ」ナデナデ

アトランタ「むう……♡」ゴロゴロ

提督「ドックと補給室に通達してくれ」

アトランタ「了解♡」

ー

提督「……」

アトランタ「……」

提督「腹減ったな」

アトランタ「コクコク」

く何故なら夜間任務部隊のみんなが、報告のあとで夜食をみんなで食べると楽しそうに話してからく

提督「どうせ0時回るし、俺らも何か夜食食うか」

アトランタ「賛成」

提督「何かリクエストあるか？」

アトランタ「作ってくれるの？ それならあたしが……」

提督「なら二人で作ろうぜ。といっても食材見ただけだな」

アトランタ「いい案ね♡」

ー

◇簡易厨房◇

提督「手っ取り早くカップ麺にでもしようかと思っただが……」
アトランタ「キレイになくなってね」

提督「まあここのは夜間警備にあたるメンツも食べてもいいことになってるからな。あとで補充頼んでおかなきゃな」

アトランタ「どうする?」

提督「とりあえず、キスしてから考える」

アトランタ「唐突……でもいい案♡」

提督「んっ」

アトランタ「んっ♡」

＼ラブラブチュツチュ／

提督「さて、どうするか。冷蔵庫に何かあるか?」

アトランタ「ちよつと待ってね」

がちや

アトランタ「んっ……卵とベーコンと玉ねぎ、あとお米」

提督「決まった」

アトランタ「何にするの?」

提督「出来てからのお楽しみだ♪」

アトランタ「???」クビカシゲ

＼それからどしたの＼

アトランタ「おお……」キラキラ

提督「どうよ?」

アトランタ「Fantastic! Please marry

me!♡」

提督「もうケツコンしてるって。大袈裟だな」

アトランタ「だって、オムライスのおにぎりだなんて想像してなかつたもん!」

提督「ベーコン使ってるからチキンライスじゃなくてポークライスになっちまってるけどな」

アトランタ「そんなの些細なこと! 早く食べよ食べよ!」キラキ

ラキラキラ

提督「そうだな。いただきます」人

アトランタ「いただきます！」人

ー

提督「美味いか？」

アトランタ「とつても！♡」ニパー

提督「なら良かったよ」

アトランタ「提督さんってなんでも出来るからズルいなあ」

提督「そうか？」

アトランタ「そうだよ。フライパンでお米炊いちやうし、こんなオシヤレなおにぎり作れちやうし……あたしも何かお手伝いしたかった」

提督「薄焼き卵焼いてくれたり、みじん切りやつてくれたじゃないか」

アトランタ「そうだけど……」

提督「俺はアトランタと同じ時間を過ごせてるだけで幸せだよ」

アトランタ「そんな言葉を今言うなんて……ズルい♡」

提督「ズルくないと提督なんてやってられないよ。毎回毎回敵を欺き、敵の意表を突くのが仕事なんだからな」

アトランタ「まんまとあたしも提督さんに攻略されちやったしね

〜ニへへ

提督「人聞きの悪い言い方だな」ニガワライ

アトランタ「だってそうでしょ？ 一目惚れしたとは言われたけど、まさかこんな風になるなんてさ」

提督「頑張ったからな」

アトランタ「でも今じゃあたしの方が好きな自信あるもんね♡」

提督「何を言うか。俺の愛に平伏せ」

アトランタ「やー♡ あたしの方が愛してるも〜ん♡」

提督「なんだと〜？」

アトランタ「やんのかこら〜？♡」

＼イチヤイチャチュチュ／

提督「……引き分けだな」

アトランタ「……そうだね♡」

提督「なんかキスするのが当たり前の生活になったな」

アトランタ「愛が溢れてるってことだね♡」

提督「俺のな」

アトランタ「あたしの愛の間違いでしょ？♡」

提督「なんだとう？」

アトランタ「やんのかこらあ？♡」

＼イチヤイチヤチュツチュ／

提督「……引き分けだな」

アトランタ「……そうだね♡」

提督「幸せって怖いなあ」

アトランタ「あたしの愛の為せる業だね♡」

提督「俺の間違いだろ？」

アトランタ「なんだとく？♡」

提督「やんのか？ お？」

＼イチヤイチヤチュツチュ／

結局のところ、夫婦は永遠とイチヤコラしていたために朝方まで執務室にいる羽目になった。

が、翌朝の夫婦はお互い妙につやつやしていたというー。

アトランタ 完

駆逐艦

神風とケツコンしました。

某鎮守府、昼ー

◇執務室◇

提督「ふむ……」カキカキ

く提督、執務中く

提督「すくはあく」

く執務しつつ煙草を吸うく

コンコンー

提督「どうぞく」

ガチャーー

神風「司令官、ただいまく！ お昼御飯作つて……あく！」

提督「ん？」モクモク

神風「司令官、また煙草吸ってるく！」

提督「ん……ああ、悪い悪い」ケシケシ

神風「むうく……吸つちや駄目とは言わないけど、執務中に吸うの

はメツ！」

提督「悪かったって……」ニガワライ

神風「吸うなら吸う！ 執務なら執務！ ちやんとどつちかにしな

きや！」

提督「はい……」

神風「それから吸うならちやんと窓を開けるの！」

く神風、注意しつつ窓を開けるく

提督「すみません……」

神風「全く……しっかりとよねく。神風達の司令官なんだから

！」

提督「はい……」

神風「(私だけの司令官でもあるけど……♡／／／／)」ボソツ

提督「ん、ごめん。聞き取れなかった」

神風「何でもない♡ とにかくお昼御飯にしよ♪ ね?♡」ニコッ

提督「ああ、そうしよう」

く夫婦仲良く執務室で昼食く

神風「ねえ、司令官」

提督「ん?」

神風「お昼御飯はいつも私の塩おにぎりだけど飽きないの? 他の

お料理だって足柄さんや羽黒さんに教わって作れるようになったんだよ?」

提督「俺は……神風が握ってくれるおにぎりが好きなんだよ」ニツ

神風「ズキューーン

神風「そつ、そうなんだ♡／／／」ドキドキ

提督「ああ」モグモグ

神風「その……私の塩おにぎりが好きな理由って何、かな?／／／

／」チラッ

提督「理由か……」ウーン

神風「ワクワク

提督「塩加減が良くて……」

神風「うんうん♡」

提督「シンプルで……」

神風「うん♡」

提督「形が歪で……」

神風「う、ん?」

提督「一個一個が小さくて……」

神風「うん……」

提督「海苔も巻かれてなくて……」

神風「……」

提督「こう……安心出来る味……なんだよな」ニツ

神風「ズキューーン

神風（上げて落として更に上げてきた♡／／／）キュンキュン

提督「だからいつも神風のおにぎりが食べたくなるんだよ」ニツコ

リ

神風「え、えへへ♡ 嬉しいな♡」ニヨニヨ

提督「俺も神風のおにぎりが食べれて嬉しいよ」

神風「にへへ♡」ヤンヤン

提督「あはは」ニコツ

く昼食を終え食休みく

神風「はい、司令官♡ 温かい緑茶、淹れて来たわよ♡」コトツ

提督「ありがとう、神風」ナデナデ

神風「あ……えへへ♡」スリスリ

提督「なあ、神風」

神風「なあに？♡」ゴロゴロ

提督「煙草吸っていい？」

神風「ふふ、言うと思った♪ 今は執務中じゃないからいいわよ♪」

ニコツ

提督「ありがとう」スツ

く提督、席を立つく

神風「♡」スツ

く神風、席を立つく

提督「……」ツカツカ

く提督、窓際へく

神風「く♡」テコテコ

く神風、提督の傍へく

提督「……神風」

神風「んく？♡」

く上目遣い＋首傾げ＋につこり笑顔く

提督「あ……その、なんだ……吸い難いから、向こうにー」

神風「嫌♡」ヒシツ

く神風、提督の腰にしがみつくく

提督「嫌って、お前な……」

神風「だって今はお仕事じゃないから離れたくないんだもん♡」

く上目遣い＋首傾げ＋愛らしい笑顔く

提督「く／＼／＼／」アタマポリポリ

神風「く♡」カオグリグリ

提督「ほら、煙とか灰とかが神風の方に行ったら悪いから……」
神風「それくらい気にしないよ♡」

く上目遣い＋首傾げ＋無邪気な笑顔く

提督「……／＼／＼／」クツ

神風「……♡」ニコニコ

提督「本当に吸うからな？」

神風「どうぞ♡」

く上目遣い＋首傾げ＋屈託無い笑顔く

提督「………」

神風「あれ？ 吸わないの？」キョトン

提督「ちよつと吸う気分じゃなくなったから／＼／」プイツ

神風「？ ……！」ピコーン

クイクイ↑提督、神風に服を引かれる

提督「ん？」

神風「煙草吸わないなら口づけ……してもいい？」♡」

く上目遣い＋首傾げ＋甘えた顔く

提督「……いいぞ／＼／」

神風「やった♡ んっ♡」クチビルサシダシ

提督「……ちゅっ、ん……」

神風「ん♡ ちゅちゅっ……ん♡ ちゅ……っ……んはあ……え

へ♡♡ 煙草吸ってないから今の口づけは苦くない♡」ニパー

提督「いつも苦い口づけで悪いな……」ニガワライ

神風「ん♡♡ 苦い口づけも司令官との口づけだから、私は好き

♡」

く上目遣い＋首傾げ＋蕩けた笑顔く

提督「そうか……／＼／」ナデナデ

神風「うん♡」

提督（真面目に禁煙しようかな……）

神風「あつ、今禁煙しようか考えてるでしょ？」

提督「あ、ああ……」

神風「しなくてもいいよ？ 変に禁煙してストレス溜めちゃうのも体に良くないって言うし、私は『吸い過ぎない』って約束してくれればそれでいいもん♡」

提督「神風……」

神風「でもー」

提督「？」

神風「出来るだけずっと一緒に居たいから、本当に体は大切にしてくれ？」

く上目遣い＋首傾げ＋思い遣る顔く

提督「ああ、もちろん。俺だって出来るだけ長く神風と共に居たいからね」ナデナデ

神風「ん♡ そう思ってくれてるなら、よし！♡」ニパツ

提督「ああ」ニツ

神風「じゃあ……約束の口づけ、して♡」ンー

提督「約束するよ」

ちゅっ♡

神風「えへへ♡ ずっと一緒だよ、司令官♡」ニコツ

提督「ああ、ずっと一緒だ」ナデナデ

神風「ん♡」スリスリ

提督「さて、午後の仕事を始めるか」

神風「了解♡」

後日、提督は禁煙外来を受診したそうなるー。

神風 完

朝風とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇執務室◇

提督「ふわあ〜……」アクビ

朝風「ほら、司令官！ 朝なんだからシャキツとしなきゃダメよ！」

パシーン

〜朝風、提督の背中を叩く〜

提督「うぐっ！」

朝風「目は覚めた？」ニコツ

提督「はいい！」キラッ

朝風「ん、そうそう♡ せつかくの朝なんだから、しっかりしてよ

ね♡」ナデナデ

提督「〜♪」デレデレ

神風（補佐艦）「毎朝毎朝……」ハア

春風（補佐艦）「仲睦まじくて良いではありませんか」クスクス

朝風「さあ、お仕事開始よ〜！」キラキラ

提督「お〜！」キラキラ

神風「お〜」ニガワライ

春風「お〜♪」

そしてー

〜提督、工廠へ出向き中〜

朝風「えつと〜、次はこれと……あ、これは司令官のサインが要る

わね」テキパキ

神風「朝風はいつも元気ね〜」フフ

朝風「もっちりろん♪ お日様に負けないくらい、元気に過ごさな

きゃ♪」

春風「朝風さんらしいですね」クスッ

神風「と言うかケツコンしてから更にパワーアップした感じよね」

ニヤニヤ

朝風「な、いいい、いつも通りでしょ!?／／／／ね、春風!?／／／」

春風「はい、朝風さんは司令官様に恋心を抱いた時から、より明るくなりましたね」ニコリ

朝風「なっ……ちよ、ま……なな何言ってるのよ!?／／／／」

神風「あく、確かにそうだよね……毎晩毎晩、秘書艦任務終えて部屋に帰って来ると、司令官のことが恋しくて泣いてたもんね」ホッペツンツン

朝風「は、はあ!?／／／／そんなことにやいし!／／／／」

春風「それで早朝に起きて司令官様のお部屋へ、元気良く赴いていましたよね♪」

朝風「そ、それは……好きな朝だからであつて、大好きな司令官に会えるから喜んでた訳じゃ……／／／／」アウアウアウ

神風「ま、何にしても朝風が幸せそうで何よりだわ」アハハ

朝風「もう分かったから、早く書類まとめてよ!／／／／」

神風「あはは、了解♪」

春風「残業は嫌ですものね」ニコニコ

神風「司令官と一緒になら何だつてオツケーでしょ♪」

朝風「うるゝさゝいゝ／／／／」

神・春『ごめんなさゝい♪』クスクス

朝風「つたくもお／／／／」フンツ

そしてー

朝風「あ、誤字。ここには脱字。もお、だらしないわね」テキパキ

神風「……」ジーツ

朝風「あ、また万年筆適当に置いて……ちゃんとペン立てについて言ってるのに」ブツブツ

神風「……」ジーツ

春風「？」クビカシゲ

朝風「? 何か用、神風姉?」

神風「用って言うか気になったんだけどさ……」

朝風「うん」

神風「今日の朝風っていつものリボンじゃないよね」

朝風「え、まあ……そうだね」

朝風E・青地に赤と白のライン入りリボン

朝風「変かな?」

神風「変じゃないよ。床屋さんみたい!」

朝風「それ褒めてるの?」ニガワライ

春風「時々身に着けて居ましたよね?」ニコツ

朝風「うん♪ 実はこれ、司令官からの贈り物なの♡」エへへ

神風「あゝ、そつかそうか」ニヤニヤ

朝風「な、何よ? / / / /」タジロギ

神風「べつつにく。ただリボンを触って幸せそうに言うもんだか

ら、微笑ましいなあゝって」ニシシ

朝風「ふ、普通よ、普通! / / / /」

春風「クスクス

朝風「だ、大体、私はもつと可愛いデザインが良かったのよ! / / / /

／／ これ着けてると、ウオースパイトさんとかテストさんとかが母
国の国旗の色だって、妙に嬉しそうに話しかけて来るんだから / / / /

神風「でも着けてる、と」ウンウン

朝風「その妙に慈愛に満ちた笑顔止めてよ! / / / /」

神風「照れない照れない」ウフフ

朝風「うふふじゃなくい! / / / /」ブンブン

ガチャラー

提督「ただいま」

朝風「あ、おかえり、司令官♡」コロツ

提督「あ、また整理してくれたのか? ありがとう」ナデナデ

朝風「これくらいいつものことでしょ♡ ほら、こっちとこっちの

書類、誤字と脱字があるわよ♡」つ書類

提督「うわ、マジか……」ウケトリ

朝風「ホント、司令官は私が居ないとダメダメね♡」ナデナデ

提督「はは、確かにそうだな」デレデレ

朝風「しつかりしなさいよね♡」ホツペチュツ

提督「おう♪」デレッツデレ

／キヤツキヤウフフ／

神風「あつま／／／」

春風「甘過ぎますね♪」↑慣れた

／こんな感じで今日も時は過ぎていった／

夕方ー

神風「では、私達はお先に失礼します」ケイレイ

春風「お疲れ様でした。お先に失礼致します」ペコリ

朝風「お疲れ様、また明日ね♪」

提督「ゆつくり休んでくれ」ノシ

パタン……

提督「さて、こつちも戸締まりして部屋に戻るか」

朝風「あ、ま、待って！」ソデギユツ

提督「どうした？」

朝風「どうしたって分かってるでしょ？♡ このリボンなんだから

♡

提督「え、今ここで？／／／」

朝風「だってもう夕方だよ？♡ 夜になるよ？♡」オメメハート

提督「せめて部屋でシャワー浴びてからに……／／／」

朝風「やだ♡ 今朝からずっと我慢してたんだから♡」ハーハー

提督「でも……／／／」

朝風「早く……今夜はアレ着けなくて大丈夫な日なんだから♡」

提督「こら、誰かに聞かれたらどうするんだ／／／」

朝風「私は平気だもん♡」エヘヘ

提督「／／／／」

のしつ♡↑朝風、提督の膝の上に乗る

ぎゅっ♡↑朝風、提督をだいしゆきホールド

朝風「私に夜の良さを教えたのは司令官でしょ♡」

提督「はい……／／／／」

朝風「私と一つになったまま朝を迎えましょ♡」クビスジカプツ

提督「っ／／／／」ビクツ

朝風「司令官の主砲もやる気満々よ？♡」グリグリ

ガバツ↑提督、朝風をお姫様抱っこ

提督「取り敢えず部屋に戻るぞ……続きはそれからだ／／／／」

朝風「仕方ないわね♡」ホッペツンツン

提督「／／／／」カァー

朝風「司令官♡」クイクイ

提督「今度はなんだ？／／／／」

朝風「愛してる♡」ホッペチュツ

提督「部屋へ急ごう／／／／」

朝風「うん♡」ホッペチュツチュツ

その後、提督が朝風をお姫様抱っこしたまま部屋へ入る所を多くの者達が目撃。

そして次の日の食堂の朝食はお赤飯だったというー。

朝風 完

春風とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&春風の部屋◇

春風「く♪」トトト

く春風、朝食の準備中く

春風「く♪」ルンルン

提督「今日は随分とご機嫌だな、春風」

春風「あら、旦那様♡ おはようございます♡ はい、昨晚はとて

も良い夢を見れましたので♡」ニコッ

提督「おはよう……そうか、それは良かったな♪」

春風「はい♡」ニコニコ

くそれから夫婦揃って朝食く

春風「召し上がれ、旦那様♡」

提督「頂きます……ん、今日も美味しい」ニカッ

春風「良かった♡」

提督「いつもありがとうな」ナデナデ

春風「ふふふ、嬉しいです♡」

く朝食を終えて夫婦はお仕事へく

◇執務室◇

提督「今日は遠征隊をメインに、出撃は控え目で行こう。先ずは資材確保を優先だ」

春風「分かりました。では遠征隊の選抜をお願い致します」

提督「先ず第二艦隊からだかー」

春風「ふむふむ……」

く夫婦熱心に仕事中く

あつと言う間に昼時ー

春風「旦那様、ご昼食をお持ちしました♡」

提督「お、ありがとう。頂くよ」

春風「召し上がれ♡」ニコツ

「春風お手製の和食御膳を堪能」

提督「ん、美味しいな」モグモグ

春風「嬉しいです♡ お代わりもありますから、たと召し上がってください♡」ニコニコ

提督「春風みたいな嫁さんを持って、俺は幸せものだな」シミジ

ミ

春風「ふふ、わたくしも旦那様と結ばれて幸せです♡」

提督「キュン

春風「♡」ニコニコ

提督（尊い……／＼／＼／＼）

春風「あの……旦那様？」

提督「え、あ、どうした？／＼／＼／＼」

春風「いえ、あの……そんなに見つめられると、嬉しいですが、照れてしまいます♡／＼／＼／＼」ポツ

提督「あ……す、すまん／＼／＼／＼」

春風「いえ、わたくしこそ／＼／＼／＼」

提督「あはは／＼／＼／＼」

春風「うふふ／＼／＼／＼」

「それから夫婦は見つめ合いつつ昼食をとった」

そして昼下がりに――

◇伝令室◇

大淀「はい、確かに承りました。あとこちらが達成した任務報酬の詳細です。提督へ提出してください」つ書類

春風「はい、確かに。では、また後ほど」ペコリ

大淀「はい♪」

「春風、新たな書類を持って執務室へ」

◇鎮守府本館・廊下◇

「あれ？ 春風〜！」

春風「あつ、神風姉様。こんにちは」ペコリ

神風「やつほ〜♪ 今日も頑張ってるね〜！」ナデナデ

春風「ふふ、お心遣いありがとうございます」

神風「あはは、そんな気にしなくていいの〜」

春風「ふふふ」

神風「そ・れ・で〜？ どうなの〜？ 司令官とは〜？」ウリウリ

春風「はい、毎日春風に沢山の愛を注いでくれます♡」ニヨニヨ

神風「お、おお〜……」

春風「勿論、わたくしも旦那様へ毎日沢山の愛をお送りしております♡」ニコニコ

神風「そ、そつか〜……／／／／」

（今日はかなりお砂糖ぶっかけてくるわね／／／／）

春風「今朝もわたくしのお料理を褒めてくださいました♡ それからお仕事ではわたくしが補佐しなくてはならないのに、旦那様は丁寧にわたくしにお仕事の手ほどきをなさってくれてー」

神風「あ、あく……そういえばその書類、司令官に持つてく〜とこだつたよね？ ごめんね、呼び止めちゃって／／／／」ハナシソラシ

春風「あらやだわたくしつたら……こちらこそ申し訳ございません。では、またの機会にお話しますね」ニツコリ

神風「う、うん……楽しみにしてるね〜……」ノシ

春風「はい、失礼します」ペコリ

〜春風、小走りで執務室へ〜

神風「時を追う毎に惚気る甘さが強くなってきたわね……」

神風（ま、春風が幸せそうならいっか）ニガワライ

◇執務室◇

カチャー

春風「遅くなって申し訳ございません、旦那様。春風、只今戻り

mー」

提督「ぐう……ぐう……」ZZZZ

提督、居眠り中

春風「あらまあ」

春風（ご昼食の後ですし、今日は日も暖かいですからね）フッフ

春風（えつと……毛布をー）

提督「ん……はる、かぜ……」

春風「旦那様？」

提督「はる、かぜ……」ムニヤ

春風（わたくしの夢を見てくれているのですね♡）

ふあさ↑春風、提督に毛布を掛ける

春風「ナデナデ

春風（少しだけ、ご休憩にしましょう♡）

提督「……はる、かぜ……」

春風「春風はすぐお側に居ますよ♡」ナデナデ

提督「おまえは……おれが、まもる……から……」ムニヤムニヤ

春風「っ!?!♡」ドキッ

提督「ムニヤムニヤ

春風「♡」

春風（旦那様は夢の中でも春風を守ってくれているのですね♡）

キyunキyun

提督「ぐう、ぐう……」ZZZZ

春風「キヨロキヨロ

春風（誰も居ません、よね？）

春風「♡」ニコッ

ちゅっ♡

提督「ん……ぐう……」

春風（春風からしちやった♡）テヘッ

春風「旦那様がわたくしを守ってくださっているように、わたくし

も旦那様をお守りしますね♡」

提督「それは心強いな」

春風「」

提督「おはよう」ニッ

春風「あ、あああのあの……旦那様、いつから……／＼／＼」アワ

提督「春風がキスしてくれた時から」ニヤツ

春風「は、はう／＼／＼」カオカクシ

提督「恥ずかしがることないだろ？ 嬉しかったんだぞ？」ナデナ

デ

春風「／＼／＼」

提督「真っ赤な顔の春風も可愛くていいな♪」

春風「泣きますよ？／＼／＼」ウルウル

提督「それは勘弁願いたい……ほら、これで許してくれ」アゴクイツ

春風「あー」

ちゅっ♡

提督「な？」ニツ

春風「／＼／＼」ウツムキ

提督（あれ？）

春風「旦那様……」

提督「は、はい？」

春風「もう一度、ちゃんとしてほしい、です♡／＼／＼」ウルウル

提督「ズキューーン

春風「駄目、でしょうか？／＼／＼」ウルウル

提督「駄目なんかじゃないよ」アゴクイツ

春風「あ♡」

提督「目を閉じて」

春風「はい♡」

提督「愛してるよ、春風」

ちゅっ♡

春風（春風も旦那様を愛しています♡）

そして暫くして唇を離れた夫婦は、執務室に差し込む夕日に照らされる中、互いの顔を見つめ合い自然と求め合うように深く抱きしめ合い、今度は深いキスを交わすのであったー。

春風 完

松風とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

提督「松風、次の書類を頼む」

松風「オーケー♪ 終わったのは僕に任せて♪」

提督「おう、頼む」

く夫婦、阿吽の呼吸でバリバリ仕事中く

神風「今日もあの夫婦は凄いわねく」

朝風「どっちも真面目だからね。それで仕事が出来るんだから、理想の関係よね♪」

春風「司令官様も松風さんも、お互いを本当に信頼されているからこそのお仕事ぶりですからね」フッフ

く姉達はお手伝い中く

松風「司令官、この書類のここと、こっちの書類のここ、間違っているよ？」つ書類

提督「お、すまない。今直す」

松風「別に謝らなくてもいいさ。これが僕の役目だからね♪」ウインク

提督「ありがとう、松風」ニコツ

松風「つ……あ、ああ、どういたしまして♡／／／／」ハニカミ

(ああ、なんて素敵なお笑顔なんだろう……そんな笑顔を見せられたら、我慢が……♡)

く松風、デレデレ顔でモジモジ中く

神風「あれはキスしたいのを我慢してる顔ね」ニガワライ

朝風「ソフトなのくらいすればいいのに」ニガワライ

春風「真面目ですねく♪」クスクス

そして昼下がりー

く休憩時間に第二十二駆逐隊が遊びに来るく

臯月「でさく、文月つたらねく♪ー」

文月「やくん、臯月ちゃん、言わないでく／＼／＼」

水無月「あはは、もう遅いねく♪」

長月「こればかりは話したくなるよな」フフ

松風「はは、みんなは相変わらずだね」クスクス

提督「元気なことはいいことだ」ナデナデ

文月「はいく／＼／＼」フミュー

く臯月と文月は提督の膝の上に座っているく

松風（僕も座りたいな……つて駄目だ駄目だ！／＼／＼ 休憩とは

言え、まだ勤務中なんだから！／＼／＼）

く松風、一人百面相中く

神風「あれは何やってるのよ」ヤレヤレ

朝風「甘えたいけど甘えたら駄目って言い聞かせてるんでしょ」ニ

ガワライ

春風「松風さんらしいですねく」フッフ

そして夕方ー

神風「それじゃ、司令官、松風！ お疲れ様でした！」ペコリ

朝・春『お疲れ様でした』ペコリ

提督「手伝いありがとう。また明日も頼むよ」ノシ

松風「お疲れ、姉貴。また明日」ニコツ

く神風達が戻り、夫婦二人きりにく

提督「さて、後は残りを片付けて終わりだな」

松風「そうだな。早く終わらせよう♪」

提督「おう♪」ニコツ

松風「っ♡／＼／＼」キュンキュン

提督「どうした、松風？」

松風「な、なんでもない……は、早く書類を／＼／＼」ドキドキ

（君の笑顔は本当に心臓に悪い……あれだけでこんなにもときめ

くだなんて……♡／＼／＼）

くその後も何とか乗り切った松風く

夜――

◇夫婦の部屋◇

提督「ん、今日も良く働いたな」ノビー

松風「お疲れ、鞆預かるよ」

提督「サンキュ♪」

松風「間宮さんのところで晩御飯は済ませたし、今追い焚きしてくるから、君は着替えるといい」ニツコリ

提督「ああ、でもその前に♪」

松風「? ……何かあるのkー」

ちゅっ♡↑提督からの突然のキス

松風「くくっ!!!♡／／／」ビクーン

提督「……っ!!……ちゅっ……んっ……」ギョツ

松風「んはあ……ど、どうしたんだい、いきなり……♡／／／」ト

ローン

提督「ただいまとおかえりのキス♪」ウインク

松風「………バカ、こういうのはもつと……こう……♡／／／」

ドキドキドキ

提督「お気に召さなかったかな?」ニツコリ

松風「知ってて訊くなんて、君は趣味が悪いね♡／／／」モジモ

ジ

提督「女の趣味はいいはずなんだがな♪」

松風「っ……それは否定しない♡／／／」ハニカミ

提督「ふふん♪」

松風「まったく……♡／／／」フフフ

それから――

◇居間◇

提督「まつか……ぜ……んんっ、ちゅっ……」

松風「しゆき……あむっ、らいしゆき……ちゅっ、んあっ……♡」

チュツチュ

くお風呂も済ませ、夫婦はラブラブ中く

松風「んはあ、はあ……ずっとずっと、待ってたんだ♡ 君とこうしてキス出来るのを、ずっと……♡／／／」ギューツ

松風、提督にだいしゆきホールド中

提督「俺もだよ……だから、もつともつと松風を感じたい」

松風「僕もだ……僕も君をもつと……♡」

く吸い寄せられるようにまた唇を重ねる

松風「んっ、ちゅっ……れる♡ あむ♡ んんっ♡」

提督「ぷはあ……松風」ナデナデ

松風「もつと……あれだけじゃ僕が満足しないって君は知ってるだろう？♡」ホツペチュツチュ

提督「じゃあ、どうするんだっけ？」ニコツ

松風「舌を出すんだったよな？♡」

提督「そうだよ♪」

松風「ええく……♡」べー

提督「はむ♪」パクン

松風「んっ♡」ピクン

く松風、提督に舌を優しく愛撫される

松風「あ……あむ……んあっ♡」ビクン

提督「ちゅっ、んんっ……はむっ」

く今度は甘噛みされる

松風「んあっ……ま、まつへっ♡／／／」ゾクゾク

提督「まひまへん」カミカミ

松風「っ……くくくくっ！♡」ビクンビクン

く松風、身体が小刻みに震える

提督「ぷはあ……可愛いよ、松風♪」ナデナデ

松風「はく、はく♡／／／」ピクンピクン

提督「今度は何をお望みかな？」ニコツ

松風「はへ？♡／／／」

提督「もう一度、同じキスがいいかな？」ニコニコ

松風「べ、ベッドでしたいよう……♡／／／」ギューツ

提督「ふふ、松風のこんなになつてるもんな♪」

松風「んあ♡ いじわるするのやあ♡／／／／」ウルウル
提督「ごめんごめん」チュツ

松風「ん……えへへえ♡」キユンキユン

提督、松風をお姫様抱っこ♡

提督「愛してるよ、松風」ニッコリ

松風「僕も♡ 僕もいっぱい君を愛してるう♡」スリスリ

この夜もめちやく（ryー

松風 完

旗風とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れー

◇資材倉庫◇

旗風「よし……資材の確認終わり、です」ニコッ

旗風（あとは司令にご報告して、そうしたらお夕飯の準備をしなくては……）

旗風「チラッ

〜ケツコン指輪キラッ☆〜

旗風「♡」ニッコリ

旗風（誰もいませんよね？）キョロキョロ

旗風（今参ります、旦那様♡）

ちゅっ♡↑指輪へ口づけ

「はったかくぜー」セナカポンツ

旗風「ひゃう！／＼／＼」ビクーン

「きゃっ、な、何!？」

「びっくりした……」

「あらあらまあまあ」クスクス

旗風「?／＼／＼」クルッ

朝風「ご、ごめんね、旗風……まさかそんなに驚くとは思ってなくって」ニガワライ

松風「ごめんよ、旗風」ニガワライ

春風「お騒がせして申し訳ありません、旗風さん」ニコッ

旗風「あ、姉さん達でしたか……／＼／＼」フウ

朝風「いやあ、工廠に機装を置いて来た帰りに倉庫の扉が開いてたから、」

松風「念のため確認に来たんだ」

旗風「そうでしたか……重ね重ね申し訳ありません」ペコリ

朝風「いいのいいの。それより確認は終わった?」

松風「終わってないなら、僕らも手伝うよ」ニコッ

旗風「お心遣いありがとうございます。しかし確認は今しがた終わりましたので、大丈夫です」ニッコリ

朝風「そっか♪ ならあとは司令官に報告するだけってことね♪」

松風「僕らも訓練の報告に行くところだから、一緒に行こう♪」

旗風「はい」ニッコリ

くすると、春風が旗風の側へく

旗風「？」

春風「二人に指輪へ口づけているところがバレてなくて良かったです
ね♪」

旗風「!?／／／／」ボンッ

春風「クスクス

旗風「朝姉さん達にはご内密に／／／／」

春風「勿論です」ニッコリ

旗風「／／／／」ホッ

朝風「ほらく、二人共く！」ノシ

松風「早く行くぞく！」ノシ

春風「はくい」

旗風「は、はくい／／／／」

くそして四人で執務室へく

◇その道中◇

朝風「そういえば、今日のお昼に食べたサンドイッチ……あれ美味しかったわね♪」

松風「ああ、あれは美味しかったな。オーソドックスな物から斬新な物まで、飽きのこないランチだった」ウンウン

旗風「流石は春姉さんですね」ニコニコ

春風「あら、あのサンドイッチは全て司令官様がお一人でお作りになられた物ですよ？」

旗風「ええっ!?」ビツクリ

朝風「あんた司令官のお嫁さんなのに知らなかったの？」

松風「というか驚きすぎじゃないか？」ニガワライ

旗風「は、旗風は午前中は遠征任務で司令の側にはいなかったの……」オロオロ

春風「司令官様は旗風さんやわたくし達が喜ぶだろうって張り切って作ってらしたのに……」アラアラ

朝風「あくあく、司令官可哀想」ホッペツンツン

松風「確かにそうだけど、旗風も美味しそうに頬張ってたし結果オーライじゃないか？」ナデナデ

旗風「旦那様の手料理だったのに……旗風は妻なのに……全く気付かなかった……」アワワ

旗風「い、急いでお詫びを申し上げないと！」ダツ

旗風、走って執務室へ

朝風「あはは、走ってちゃった♪」

松風「旗風らしいな……」ニガワライ

春風「ふふふ、ではわたくし達も参りましょう」

こうして三人はゆっくりと執務室へ向かった

◇執務室・ドア前◇

旗風「……っ……!!」ハアハア

神風「あら、旗風？ そんなに息を切らせてどうしたの？」

旗風「か、姉姉さん……司令は……はあはあ、司令は居られますで、しょうか？」

神風「え……ええ、いるけど今はー」

旗風「失礼致します！」

神風「あ、旗風!？」

バタン!

旗風「……」

提督「……」

提督、ソファーに座り込んでいる

旗風「？」クルリ

神風「見ての通り、司令官は眠ってるわよ。だから静かにして」ニガワライ

旗風「！」コクコク

神風「ずっと忙しかったし、流石の司令官も電池切れって感じね」ク
スクス

旗風「左様ですか……」

神風「私もついさつき、昨日の出撃の報告書を提出に来ただけど、
この様子だからさ」

旗風「なるほど」

「へえ、あの司令官が居眠りか」フムフム

「これは奥様の出番じゃないか？」ニヤニヤ

旗風「っ」ビクッ

「朝風達も合流」

朝風「ほくら、奥さん♪ 司令官のところにとっさと行きなさい♪」
セナカトンツ

松風「サンドイッチのお詫びも兼ねて世話を焼いてあげなよ」ウイ
ンク

春風「わたくし達はお暇しますね。訓練のご報告もあとにしますの
で」ニツコリ

神風「なら、私もこの報告書はあとでまた提出に来るわね」ニコッ
姉ズ『頑張って（ください）ね♪』ノシ

旗風「／／／／」ノシ

「こうして夫婦水入らずに」

◇執務室・ソファア―テーブル◇

提督「すう……すう……」ZZZ

旗風「………♡／／／／」ドキドキ

「提督の寝顔にキyun」

「とりあえず提督の隣へ座る旗風」

旗風（旦那様……お疲れ様です♡）

ちゅっ♡↑提督の頬へそっと口づけ

提督「……」グラッ

旗風「へ？」

ぼふっ……

旗風「……………／＼／＼」ハワワワ

提督「すう……………すう……………」ZZZ

く体勢が崩れ、旗風が提督を膝枕する形に

旗風「……………ふふふ……………♡／＼／＼」ハニカミ

なでなで↑提督の頭を優しく撫でる

旗風「旦那様、いつもお疲れ様です♡ 今だけは何も気にすること

なく、妻である旗風の膝でお眠りください♡」ナデナデ

旗風「それから、お昼のサンドイッチ……………とても美味しく頂きました♡

た♡ 旗風はこの上なく幸せに存じます♡」フフフ

旗風「……………なんて、起きておられる旦那様へこんなことは恥ずかし

くて言えませんが……………／＼／＼／＼」ハニカミ

「そんなに恥ずかしいこともなかろう？」

旗風「え？」

提督「おはよう、旗風」ニコツ

旗風「……………」フリーズ

提督「？ 旗風？ おい、旗風？」ノシ

旗風「……………／＼／＼／＼」ボンツ

く旗風、やっと状況整理が追いついた

旗風「だだだ、旦那様！／＼／＼／＼ 何も言わないでください！／＼／

／＼ そして今の旗風を見ないでください！／＼／＼／＼

く旗風、提督の目を手で覆う

提督「何故だ？ とても愛らしいじゃないか」ホツペナデナデ

旗風「恥ずかしいんです！／＼／＼／＼」

提督「そんなことはないと思うが……………」

旗風「旗風は恥ずかしいんです！／＼／＼／＼」

提督「旗風の反応はいちいち愛らしいな」アハハ

旗風「そんなに旗風をいじめて楽しいですか、旦那様？／＼／＼／＼」

ムウ

提督「楽しいか楽しくないかで言えば、断然前者だな」

旗風「っ！／＼／＼／＼」カッ

んちゅっ♡

提督「んむっ!?!」

く旗風、提督の口を口づけで塞ぐく

旗風「ん……あんっ……ちゅっ……んう♡」チューツ

提督「あ……はた、かぜ……んっ」

旗風「はあはあ、ダメ、です……んっ、まだ……ちゅっ、ダメ……はむっ♡」

提督「んはあ……はあ、旗風?／＼／＼」

旗風「意地悪な旦那様のお口……チャックしちゃいました♡／＼／＼」

く旗風、そう言って自身の唇を舐めずるく

提督「……っ／＼／＼」ズキユーン

旗風「もう意地悪なことを言っではいけませんからね?♡」ナデナ
デ

提督「／＼／＼」コクコク

旗風「んふふ♡」デレデレ

提督（またあとでいたずらしよう（使命感））

その夜も提督は思わず旗風にいたずらし、お仕置きの口づけをされるのだったー。

旗風 完

睦月とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇鎮守府内中庭◇

如月「え、料理を教えて欲しいの？　睦月ちゃんか？」

睦月「何その言い方？」ジト――

如月「ごめんなさい」ニコニコ

睦月「別に良いけど。それで、教えてくれる？」

如月「もちろん♪　司令官の為に料理を覚えようとしてる睦月ちゃんの頼みですもの♪」

睦月「料理を教えて欲しいしか言っていないのによく分かったね！」

流石如月ちゃん！」キラキラ

如月（司令官と付き合ってた時から睦月ちゃんは、司令官絡みのことしか相談してこないもの）ニガワライ

◇艦娘宿舎の厨房◇

如月「さて、料理を教えるのは良いけど何を教えれば良いの？」

睦月「カレーとか？」

如月「まあカレーなら簡単で良いかも。分かったわ」ニコツ

く睦月奮闘中く

睦月「出来たにやしく！」

如月「ちゃんとメモは取った？」

睦月「バツチリ♪」

如月「じゃあ味見してみましようか」

睦月「うん♪」

く味見中く

睦月「提督のカレーみたいに凄く美味しいって感じはしないけど、食べられる美味しさかな……」

如月「司令官の手料理とか羨ましいわ。私としては十分美味しいと思うわよ？」

睦月「喜んでくれるかな？」

如月「きつと喜んでくれるわよ。司令官は睦月ちゃんからしてもらうことは無条件で喜んでるから」ニコッ

睦月「だからちゃんと喜んでほしいんだよね」

如月「大丈夫大丈夫♪」

睦月「うん！ 分かった！」ニへへ

如月（ふふ、乙女の顔しちやって……）

「じゃあ今丁度お昼だし、司令官に持って行ってあげれば？」

睦月「あ、そうだね！ 行ってくる！ 如月ちゃんありがとう♪」ノ

シ

如月「どういたしまして♪」ノシ

◇執務室◇

コンコンー

提督「開いてるぞ」

カチャー

睦月「旦那様、お昼だよ！」ピョコ

提督「おお、もうそんな時間か。じゃあ食堂でも……ん？」

睦月「え、えへへ……如月ちゃんに教わって、カレー作って来たの

……食べてくれる？」ウワメヅカイ

提督「キウン

（何この可愛い生き物）

睦月「旦那様？」クビカシゲ

提督「あ、ああ、勿論頂くよ」ナデナデ

睦月「んへえ♪ 撫で撫で気持ち良い♪」ニパア

く昼食準備中

提督「なあ、睦月」

睦月「なあに？」クビカシゲ

提督「どうしてこっち向きで座ってるんだ？」

睦月「いつも向かい合って座ってるでしょ？」

提督「俺の言い方が悪かったな。何で俺の膝の上でこっち向いて

座ってるんだ？」

睦月「こうして座った方が旦那様の喜ぶ顔を間近で見れるにやしい

♪「ニペア

提督「そ、そうか／＼／＼」

(流石マイ・スイート・エンジェル・ムツキエルだよ) ドキドキ

睦月「はい、旦那様♪ あくん♡」つかレー

提督「あむ……うん、OC♪」ニコニコ

睦月「ホント!?!」

提督「ああ、凄く美味しいよ!」ニコニコ

睦月「良かったあ♡」ニコニコ

提督「睦月睦月」クイクイ

睦月「なあに?」

提督「あく」オクチオープン

睦月「えへへ、はくい♡」つかレー

く昼食中く

提督「いやあ、食った食ったく」

睦月「お粗末様にやしい♪」ルンルン

(おかわりまでしてくれたく♡) カンゲキー

提督「今度は俺も料理教えるよ」

睦月「え、でも……お仕事が……」

提督「夫婦で過ごす時間も必要だろ?」ギユツ

睦月「あ……♡」キュン

提督「せっかくケツコンしたんだ、もつともつと睦月と同じ時間を
過ごしたいよ」ギュー

睦月「うん♡ 睦月も同じ気持ちだよ♡」キュツ

提督「うん」ナデナデ

睦月「旦那様だあい好きく♡」チュツ

提督「んっ!?!」

睦月「ちゅっ、んんっ……ちゅ、ちゅっ……はあく……えへへ♡」ニ
マー

提督「可愛いなく」ナデナデナデナデ

睦月「にやしいく♡」ゴロゴロ

◇艦娘宿舎◇

睦月「ーっつてな感じでえ、今度から一緒に料理するんだあ♡」デレツデレ

如月「良かったわね〜」ニコニコ

弥生「良かったね」ニコツ

卯月「良かったぴよん」ニパツ

睦月「これもみんな如月ちゃんのお陰だよ〜♪」デレツデレ

如月「お役に立って良かったわ」フフフ

睦月「あ、そろそろ提督の所戻らなきや……またね〜♪」デレツデレ

如月「は〜い♪」ノシ

弥生「行つてらっしやい」ノシ

卯月「ぴよ〜ん♪」ノシ

／パタン／

如月「まさかあんなに惚気られるとは思わなかったわ」フフフ

弥生「ずっとお顔が緩んでた」フフフ

卯月「うーちゃんには出来ないぴよん」ニガワライ

弥生「いや、卯月はもう既に別の話で……ゲフンゲフン」

卯月「弥生ちゃん何言ってるぴよん？」クビカシゲ

如月「それより睦月ちゃんと作ったカレーまだあるから夕飯になつたら食べない？」

卯月「食べるぴよん♪」

弥生「食べる……その時はちよつとタバスコ入れよう……」

如月「私もそんな気分ね〜」

それから夫婦は前にも増して周囲にラブラブオーラを振り撒いたというー。

睦月 完

如月とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れー

◇埠頭◇

艦隊、遠征から帰投

如月「司令官、艦隊が戻りました」ケイレイ

提督「無事に帰投出来てよかった」ニコツ

如月「んもう、司令官つたら……それは私の台詞でしょう?」ム

ナモトツンツン

提督「お、おお、ごめんごめん」ニガワライ

如月「ふふ、いいわよ」ホツペチュツ

提督「き、如月／＼／」

如月「あら、嫌だった?」ニコニコ

提督「嫌な理由無いだろ／＼／」カー

如月「じゃあ……次は司令官の番」ホツペサシダシ

提督「え」

如月「早く」ズイツ

提督「／＼／」ホツペチュツ

如月「うふふ」ニヨニヨ

提督「／＼／」

／ラブラブイチャイチャ

睦月「ほえ……今日も二人はラブラブ」

望月「んなこといいから早く解散させてくれないかな」

弥生「二人が仲良しなのはいつものこと……」クスツ

卯月「もう先に資材運んじやう?」

夕張「ん……」チラツ

如月「司令官」ギューツ

提督「き、如月／＼／」アワワ

夕張「そうしょつか」如月ちゃんが居れば何も問題無いからね

♪

望月「んあゝ、めんどゝ」トボトボ

睦月「あはは、あと少しだけ頑張ろ」ニコニコ

弥生「如月の分も持つてく……」ヨイシヨ

卯月「うーちゃんも半分持つぴよん♪」ヨッ

弥生「ありがとう」ニコッ

望月「んじや夕張^パさんはあたしの半分持つてゝ」

夕張「却下します」キツパリ

望月「ですよねゝ」

睦月「クスクス

くそして埠頭には夫婦だけにゝ

提督「あれ、みんな居ない？」キヨロキヨロ

如月「いつも通り私達に気を遣つてくれたみたいよゝ♡」ギューッ

提督「ああゝ、また提督としての威厳が……」orz

如月「うふふ、元から威厳なんてないじゃない♪」クスクス

提督「何それ酷くない？」

如月「酷くないわよゝ♡」ニコニコ

提督「ぐぬぬ……」

如月「(だって司令官の魅力は私だけが知ってればいいもの♡)」ボソッ

提督「え？」

如月「何でもなくい♡ それよりドックと補給に行つてくるわね

♪

提督「あ、ああ、行つてらっしゃい」

如月「ジーツ

提督「？」

如月「0点……」プイッ

提督「Σ(。D)」「ナンデ!？」

如月「私はドックと補給に行くのよ? 司令官と離れちゃうのよ?」ジトー

提督「えゝつと……」ウーン

如月「行つてきます」プイッ

提督「う、うん……」

如月「(#・▽・)」

如月「いっつてきます！」

「威圧しつつ唇を差し出す如月」

提督「お、おおく！ 行つてらっしゃい……」チュツ

如月「ん♡ 次は私に教えられる前にちゃんと気づいてくれなきやイヤよ?♡」ウワメツカイ

提督「努力します……」

如月「そこはちゃんと『分かった』つて言つて♡」クチビルツンツ

提督「／／／」コクコク

如月「素直な人は好きよ♡」クスツ

「そして如月はもう一度提督にキスをして埠頭を後にした」

提督「敵わない♡／／／」

「そう思いつつ提督は執務室へ戻った」

そして夜――

◇執務室◇

提督「えつと……艦隊みんなの今の練度は……」ペラペラ

提督「ん、こう見ると駆逐艦の子達の練度が低いな……今後の為にも練度を上げて――」

「――ん」

提督「その際は念の為、軽空母の子と軽巡の子から一人ずつ同行させて――」

「――官……司令官!」

提督「うるさいなあ……まあどうせまた川内だろう。つたくこつちはそれぞれころじやないつてのn――」

グイツ↑提督、不意に顎を持たれる

ちゅつ♡↑それと同時に唇も奪われる

提督「っ!?!」

如月「ん……ちゅ、んんっ、うん♡ あ……んあ……ん、ちゅ……
気がついたかしら、し・れ・い・か・ん♡」ニツコリ

提督「はあはあ……き、如月……いつから居たんだ？／＼／＼」
如月「結構前から居たわよ？」 司令官が全く部屋に戻って来なくて寂しいから来ちゃった♡」ニコツ

提督「来ちゃったって……今日は遅くなるって朝に伝えただろう？」

如月「ええ、聞いたわよ？」 でも寂しいんだもの、ダメなの？」ウワメヅカイ

提督「うぐっ／＼／＼」

如月「どうなの？」 ジーツ

提督「ダメじゃ、ない……／＼／＼」

如月「うふふ♡ 嬉しいわ♡」ギユーツ

くそして如月は提督の膝の上に座るく

提督「夜更かしはお肌に悪いんじゃないのか？」

如月「あら、司令官はそんなに私を追い出したいの？」ムナモトクリクリ

提督「いや、そういうワケじゃなくてだな……」

如月「ふふ、大丈夫よ♡ お肌が痛んだら司令官に責任を取って

もらうから♡」スリスリ

提督「そ、そうか……」ニガワライ

如月「それより、もう少し私のことも頼りにしてね？ 司令官は一人じゃないのよ？」

提督「いつも頼りにしてるよ。いつもありがとう、如月。俺が頑張れるのは如月がいつも傍で俺を支えてくれるからだ」

如月「司令官……」

提督「辛い時、挫けそうな時……どんな時も如月が傍に居てくれた。こんな俺の傍に……本当にありがとう」ニコツ

如月「んく……満点って言ってあげたいけど、90点ねく」

提督「手厳しいな」ニガワライ

如月「私の愛する人はこんな男性ヒトじゃないもの♡」ニコツ

提督「……はは、ありがとう」ナデナデ

如月「く♡」ニコニコ

提督「なあ、如月」

如月「なあに？」クビカシゲ

提督「気分転換に少し散歩しないか？」

如月「散歩？」

提督「今日は月も綺麗だ……一緒に静かな夜の海でも眺めながら歩かないか？」

如月「♡」キュン

如月（全くもう……司令官ったら♡）

提督「どうだ？」

如月「もちろん行くわ♡」

提督「よし、行こうか」ニコツ

如月「ええ♡」ギューツ

如月（こうした不意打ちが上手で困っちゃうわ♡）

そして夫婦は二人きりで夜の海をゆっくりと眺め、また執務室に戻って艦隊スケジュールを練っている内に二人寄り添って眠りに就いてしまうのであったー。

如月 完

弥生とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇執務室◇

提督「本日の出撃は○○海域だ。前日説明した作戦通り、しっかり頼むぞ。連（絡）相（談）報（告）は必ずすること！」

艦隊『了解』ケイレイ

く提督の右腕には弥生がぶら下がっている

長門（相変わらずだな……）

陸奥（腕疲れないのかしら……）

飛龍（ラブラブだなあ）

蒼龍（慣れちゃったけどこれってすごいんだよね）

夕張（リア充ってすげー）

島風（良いなあ）

く艦隊出撃く

提督「さて、俺達もデスクワーク始めるか」

弥生「コクコク

コンコンー

提督「はーい」

カチャーー

天龍「邪魔するぞく」

龍田「失礼します」ペコ

提督「お、昨日の遠征の報告書か？」

天龍「そうだ」

龍田「はい、弥生ちゃん」

弥生「お疲れ様です」ウケトリ

天龍「んじや、渡したからもう行くぜ」

龍田「失礼しました」ニコツ

提督「ん。お疲れさん。ゆっくり休んでくれ」

天龍「おう」

龍田「はい」ニコッ

パターンー

◇執務室外◇

天龍「はあく〜」ダツリヨク

龍田「もう、いい加減慣れようよ天龍ちゃん」ナデナデ

天龍「ぜってえ無理」ゲツソリ

龍田「クスクス

天龍「なんで毎回毎回毎回毎回毎回毎回、弥生は提督の膝の上にいるんだよ……………」グツタリ

龍田「ケツコン前からそうじゃない」ニコニコ

天龍「なんかよく……………あ、オレめっちゃ邪魔じゃん。みたいな感じがして苦手なんだよ〜」ウツロメ

龍田「別にキスとかしてるわけじゃないんだし、気にし過ぎよ〜」ニコニコ

天龍「こればかりはぜってえ慣れない。断言出来る」

龍田「ふふ、天龍ちゃんらしい」クスクス

天龍「取り敢えず、食堂行ってコーヒー飲も……………」

龍田「賛成〜♪」

昼前ー

◇執務室◇

提督「そろそろ昼か……………午後イチで第一艦隊が戻ってくるし、少し早いが昼食取って帰投するの待つか」

弥生「コクリ

提督「じゃ食堂にー」

弥生「クイクイ

提督「？」

弥生「お弁当作ってきた」つお重

提督「おお！ これ弁当だったのか！」

弥生「なんだと思ってたの？」

提督「重要書類」

弥生「仕事し過ぎ……」メツ

提督「面目ない」ニガワライ

く夫婦仲良く昼食く

弥生「美味しい？」ノゾキコミ

提督「美味いぞ！ 特にこのサンドイッチ！」

弥生「良かった」ニコリ

提督「ありがとうな」ナデナデ

弥生「くっ」ニマニマ

弥生「ねえねえ」クイクイ

提督「むぐ……ん？」モグモグ

弥生「夕食は何が食べたい？」

提督「そうだなあ……今洋食だから、夕食は和食が良いかな」

弥生「分かった」

提督「帰りに買い物してこうな」ナデナデ

弥生「っ」コクリ

◇執務室外◇

球磨「まったく……こっちは遠征で汗水垂らして働いてきたのに、

呑気に夫婦でご飯クマー」チツ

多摩「これはもう、一言物申すにや」グツ

木曾「」

球磨「しかしこの甘い空気をブチ壊すのは少し良心が痛むクマ」

多摩「にや？ 木曾、『俺に任せろ』とは、頼りになるにや」

木曾「おい」

球磨「おお！ それは心強いクマー！」

多摩「頼むにや！」

木曾「話を聞けよ！」

く結局木曾が突入く

木曾「食事中悪いな……遠征から帰還した報告に来た」

提督「はい、お疲れさん」

弥生「お疲れ様でした」

木曾「じゃ、俺は行く。邪魔したな」

提督「ゆつくり休んでくれ」

弥生「ペコリ

パターンー

〈流石球磨の妹だクマー！〉

木曾はやれば出来る子にや！〉

〈だくっ、うるせー！〉

夕方ー

く夫婦仲良く帰宅しつつ夕食の買い出し中く

◇スーパー◇

く精肉コーナーく

提督「豚バラが安いな」

弥生「じゃがいもと玉ねぎは家にあるから、シラタキと人参も買って肉じゃがにしようか？」

提督「お、良いなそれ」

弥生「決定」ニコリ

提督「ああ」ニツ

く冷凍品コーナーく

弥生「あ」ピタツ

提督「お、アイスが半額セール中だな」

弥生「司令官」ジー

提督「好きなの買って良いぞ」ナデナデ

弥生「♪」キラキラ

くそして帰宅く

◇提督&弥生夫妻邸◇

く仲良く台所へ立つ夫婦く

提督「玉ねぎ切れたぞく」ナミダメ

弥生「ありがとう」フキフキ

提督「こつちこそありがとう」ナデナデ

く上手に出来ました！く

提督「頂きます」人

弥生「召し上がれ」

提督「んく！ 美味しい！」パクパク

弥生「良かった」ニコリ

提督「味噌汁もバツチリだ♪」ゴクゴク

弥生「く♪」ニコニコ

く食事もお風呂も済ましたよ！く

提督「さあて、明日も頑張るか〜！」ノビー

弥生「アイス……」クイクイ

提督「お、そうだったな」

弥生「ん♪」

提督「はい、弥生」つアイス

弥生「アムアム

提督「美味しいか？」

弥生「コクコク

提督「そっか♪」パクン

弥生「クイクイ

提督「？」

弥生「……口移しがいい」オクチアーン

提督「はいよ」チュツ

弥生「あ……んんっ……ちゅっ、ちゆる……ん、はあ……」トロ

ン

提督「お気に召したかな？」ホツペナデナデ

弥生「もつと……♡」オメメハート

提督「勿論」ニコリ

弥生「♡♡♡」

アイスそつちのけで、夫婦はしつぽりと睦み合い、夜が更けていったー。

弥生 完

卯月とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

加賀「艦隊が帰投したわ。作戦通り敵艦隊を殲滅出来ました。本日も良い指揮でした」ケイレイ

提督「ご苦労様。ドックの準備は済んでるから順に入渠するように」

加賀「分かりました……ところで」

提督「？」

加賀「秘書艦が堂々と提督の膝の上で昼寝してるなんてどういうことかしら？」キツ

提督「これは良いんだ……うーちゃんには昨晚徹夜させてしまったからな」

加賀「昨晚……徹夜……っ!?!?!」ボンツ

提督「加賀さん……君が思っているような艶めいた話ではないからな？ 今日の作戦を二人で煮詰めていたんだからな？」ジトー

加賀「あ……そ、そうね……ケツコンをしているからつい……!?!?!」カア

提督「勿論仕事が終わってから沢山したから、朝チュンだったさ」ドヤア

加賀「くくっ。も、もう失礼するわね!?!?!」ダット

提督「おやおや、加賀さんも可愛いところがあるんだな」ハハ

卯月「うーちゃんよりも可愛いぴよん？」ムスツ

提督「お、起きてたのか？」

卯月「話し声で起きたぴよん！」

提督「おはよう」ニコツ

卯月「おはようござ……じゃないぴよん！ 加賀さんよりうーちゃんの方が可愛いぴよん！ と言うより加賀さんになんてこと言う

びよん！」プツプクプー

提督「え……うーちゃんと俺のラブラブ情報を少し話したただけなんだが？」キョトン

卯月「どうして『それが何か？』みたいな顔してるんだびよん！」

提督「それは昨晚のうーちゃんが可愛かったからだ」ニコニコ

卯月「くうく／＼／／」カオマツカ

提督「それよりおはようのキスいるか？」

卯月「……………いるに決まってるびよん…………」キユツ

提督「そうか」スツ

チュツー

卯月「うゆ／＼♪」ゴロゴロ

提督「うーちゃんはキスするのが好きだな」ニコツ

卯月「それは間違いびよん。うーちゃんは司令官とちゆつてするのが大好きなんだびよん♪」

提督「おや、それじゃ俺と一緒にだな」

チュツー

卯月「お返しびよん♪」オデココツン

提督「」ニコニコ

くう／＼

卯月「お、お腹空いたびよん／＼／／」エへへ

提督「もう昼間だからな。食堂に行くか」

卯月「びよん♪」ギユツ

く夫婦移動中く

◇食堂◇

提督「いただきます」人

卯月「いただきますくすつびよん！」人

く夫婦食事中く

提督「ほらうーちゃん」つアーン

卯月「あむ……美味しいびよん／＼♪」ムグムグ

提督「それは良かったな♪」パク

卯月「うーちゃんも料理勉強した方が良いびよん？」

提督「どうしたんだいきなり……？」

卯月「だってうーちゃんはお嫁さんなのに料理出来ないから……」

提督「なら一緒に料理の勉強するか？」

卯月「びよん……？」

提督「夫婦なら一緒にやった方が良いと思うし、俺もうーちゃんに手料理作ってやりたいからな」ニコツ

卯月「なら一緒にやるびよん♪」ニパツ

提督「そうしよう♪」アタマコツン

卯月「びよくん♪」アタマコツン

吹雪「間宮さん、ブラックコーヒーください」

白雪「私も……」

初雪「私にも」

深雪「私も」

叢雲「右に同じ」

磯波「以下略」

間宮「今マンデリンの深入り焙煎をご用意しますね」

◇中庭◇

卯月「お腹いっぱいだびよくん♪」

提督「俺もだ」ナデナデ

卯月「これからの予定は？」

提督「各報告書の確認と着任艦の名簿作りと着任艦の訓練カリキュラム作りかな。あ、そういえば後で新しい艦が着任するんだっけ……」

卯月「うにゆく、今日も徹夜するびよん？」

提督「そうならないように頑張るよ」

卯月「うーちゃんも頑張ってお手伝いするびよん♪」

提督「ありがとう」ナデナデ

卯月「うゆく♪」ゴロゴロ

睦月「今日もラブラブだね♪」

夕立「提督さんのお膝の上は卯月ちゃんの特等席っぽい♪」
吹雪「そうだね」ズズツ↑コーヒー

◇執務室◇

武蔵「本日よりここへ着任した大和型二番艦、武蔵だ。よろしく頼む」ケイレイ

提督「よろしく頼む。君はうちでは初の大和型だ。期待させてもらう」ナデナデ

卯月「卯月だぴよん♪ うーちゃんって呼んでぴよん！」ゴロゴロ
武蔵「ああ、よろしく頼む……時に提督……」

提督「ん？」ナデナデ

武蔵「何故膝に卯月を？」

提督「？」クビカシゲナデナデ

武蔵「その『ん？ 何か問題でも？』みたいな顔は止めてくれないか？」

卯月「ここはうーちゃんの特等席だからぴよん♪」ゴロゴロ

提督「俺とうーちゃんはケツコン済みだからな」ナデナデ

武蔵「そ、そうか……仲睦まじいのは良いことだな、うん」

提督「それで君の今後のことだがー」ナデナデ

武蔵（目の前の光景のせいで話に集中出来ん……／／／／）

く説明中く

提督「ーという感じだが、疑問点はあるか？」ナデナデ

武蔵「い、いや……」ゲツソリ

卯月「お部屋に案内するぴよん♪」

武蔵「いや、それは大丈夫だ……それよりコーヒーを貰えないだろうか？」

提督「おやおや、茶のひとつも出さずに申し訳ないな」ナデナデ

卯月「ミルクやお砂糖はいるぴよん？」

武蔵「ブラックで頼む……」

提督「分かった」ナデナデ

卯月「どうぞぴよん♪」

武蔵（何でコーヒーを淹れるだけなのに引っ付いて居るんだ……）
アタマカカエ

艦娘達の間ではこれを『着任式』と呼んでいる。

卯月 完

皐月とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れー

◇執務室◇

ガチャーー

皐月「司令官ただいまー！ 艦隊が戻ったよー！」

提督「ああ、お疲れ様。幾度もの鎮守府近海対潜哨戒を良くやってくれた。詳しい報告は明日にして皐月はドックに行ってきたさい」

皐月「ボクの出番終わり？」

提督「今日はもう誰の出番も終わりだ」ナデナデ

皐月「なら仕方ないね！ ドック行ってきまーす♪」

提督「うん、行っておいで」ニコツ

ピタッー

提督「？ どうした？」

皐月「司令官も今日のお仕事終わりだよね？」

提督「ああ、皐月達が帰ってきたからな」

皐月「じゃあさ……」モジモジ

提督「??？」

皐月「夫婦でお風呂入りたいな……／／／」ウワメツカイ
ドキッー

提督「そ、それは……／／／」オロオロ

皐月「夫婦専用のお風呂あるんだし良いでしょ？」クイクイ

提督「わ、分かった……／／／」カア

皐月「やった♪ じゃあ早く行こう♪」キユツ

提督「戸締まりしてからな／／／」

◇夫婦専用風呂場◇

く夫婦洗いつこ中く

提督「皐月の髪はいつ見ても綺麗な金髪だな」ワシヤワシヤ

皐月「そうかな？ 結構癖っ毛なんだよ？」

提督「短くするとだろ？　これだけ長いならそんなに癖は出ないだろ」ワシャワシャ

臯月「司令官は短い髪の方が好き？」

提督「臯月が短い髪なら好きだな」ワシャワシャ

臯月「どういうこと？」

提督「臯月ならどんな髪型でも好きってことだ」ワシャワシャ

臯月「っ!?　流石に恥ずかしいよ／／／」キュン

提督「本当のことだからな」アハハ

臯月「もう……／／／」フフ

提督「流すぞ」

臯月「は〜い♪」

ザバーツ〜

臯月「次は司令官の番だよ♪」

提督「ああ、頼むよ」

ゴシゴシ〜

臯月「どうかな？」

提督「気持ちいいよ」

臯月「良かった♪」

ゴシゴシ〜

臯月「司令官の背中って大きくて安心するなあ」

提督「そうか？　これくらい男なら普通だぞ？」

ゴシ〜

臯月「この背中にボクや艦隊のみんなを背負ってもらってるんだよ

?　大きいに決まってるよ」ギュー

提督「はは、なら臯月達がもつと安心出来るようにさらに大きくな

らなくてはな」ニツ

ズキキューン〜

臯月「ああ、もうダメだ！」ガバツ

提督「ど、どうしたんだ、臯月!?」ウケトメ

臯月「司令官……」ウルウル

提督「臯月……？」

臯月「好き……大好きだよ、司令官！」ギュー

提督「俺も大好きだ。臯月……」ギユツ

ピクシー

臯月「お腹にあたってるんだけど……」モジモジ

提督「す、すまない……だが、この体勢は……」タジ

臯月「ふふ、ボクでこんなにしてくれたんだ♪」

提督「好きな女にこんなことされたら誰だってこうなる……」

／

臯月「しちやおつか……」ミミモトボソ

提督「臯月!!」ガバツ

臯月「司令官♪」ホールド

く夫婦近代化改装中く

カポシー

臯月「えへへ／／」ツヤツヤ

提督「ふう……」ケンジャタイム

臯月「今日はちよつと激しかったね／／」

提督「いつもは布団だからな……痛くなかったか？」

臯月「うん♪ とつても気持ち良かったよ／／」ポツ

提督「そ、そうか」ナデナデ

臯月「ここが防音で良かったね♪」

提督「まるでこうなるのを予想されていたみたいで癪だ……」ニガ

ワライ

パシヤー

臯月「司令官と入るお風呂はいつも以上に気持ち良いなあ」ハフ

提督「俺もそう思うよ」ナデナデ

臯月「お風呂の中でならずつと司令官の膝の上に乗ってられるく

♪「ルンルン

提督「臯月は軽いから普通の時でも大丈夫だぞ？」

臯月「そんなこと言う tomorrow から……いや、今晚からずつと司令官

の膝の上に居座るよ？」クルツ ギユツ

提督「それは何とも俺得な宣言だな」ニコニコ

臯月「ボク得でもあるよ♪」ニコニコ

提督・臯『大好きだ(よ)』

提督「プッ

臯月「ププ

提督「あはは」

臯月「えへへ」

バシャー

提督「よし、明日も良い日にしよう！」

臯月『『明日も』じゃないよ』

提督「？」

臯月『『これからも』でしょ？』

提督「違うない」ニコッ

臯月「でしょ？」ニコッ

チュッ

臯月(ボクの特別な日は……)

臯月(司令官が居る限りこれからも続くからね♪)

臯月 完

水無月とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇鎮守府本館・廊下◇

水無月「えつと……この書類は資材についてで、こつちが次の任務の書類……」

臯月「水無月〜！」

どく〜んつ↑臯月、水無月に軽く体当たり

水無月「う、うわわ〜！」

ばささつ……

臯月「あ……ご、ごめん」ニガワライ

水無月「さ〜つち〜ん〜？」ニコニコ

臯月「わわつ、ごめんね！ 水無月の後ろ姿が見えたからつい……」
アワワ

水無月「もお〜……だからって体当たりしないですよ〜」

臯月「ごめんごめん。拾うの手伝うね！」エヘ

水無月「次から気をつけてね？」

臯月「うん♪」

「つたく、いきなり走り出したと思っただら何してるんだお前は」ヤレヤ
レ

「み^水つち^無ちゃん大丈夫〜？」

水無月「あ、ふみ^文ち^月ちゃんにな^長が^月が^だ♪ うん、水無月は大丈夫だよ♪」ニコツ

文月「良かった♪」ニパー

長月「ながなが……いい加減にやめてくれないか、その呼び方」
水無月「どうして？ 可愛いのに……」

長月「長門さんがうるさいんだ……」ハイライトオフ

水無月「あ〜……うん、気をつけるね」ニガワライ

長月「そうしてくれ」

臯月「それより水無月〜」

水無月「ん、なあに？」

皐月「毎日秘書艦任務は大変でしょう？　前みたいにボクが代わってあgー」

水無月「大丈夫だよ♪」キツパリ

皐月「ええ〜…前は喜んで代わってくれたのに〜」

長月「あの頃の水無月と今の水無月は違う。そういうことだろう」

文月「みっちゃんは司令官大好きだもんね♪」

水無月「えへへ、改めてそう言われると照れちゃうな…大好きだけれど／／／」ポツ

皐月「一緒に移動する時はいつも手繋いでるもんね〜…いいな〜」

水無月「えへへ♪　いくらさっちんでも司令官の隣は譲れないよ♪」

長月「そもそも何がきっかけだったんだ？　前は…その、ここ、恋なんてしてるようには見えなかったんだが／／／」ハウ

水無月「きっかけ？」

文月「あたしも知りたくい♪」キラキラ

皐月「ボクも知りたいな♪」

水無月「単純な理由だよ？」

皐・文『いいよ〜♪』

長月「／／／」キョウミシンシン

水無月「えつとね…司令官に『水無月は明るくて一緒に居ると楽しい』って言われたんだ／／／」エへへ

皐月「フムフム

水無月「それで水無月、とっても嬉しくなっちゃって…毎日お仕事を頑張る司令官のために少しでも楽しい思いをさせてあげようと思つて色々したんだ♪／／／」

文月「ホウホウ

水無月「ご飯やおやつを作つてあげたり、何気ない出来事をお話したり、気分転換と一緒に鎮守府の中や外を散歩したり…」

長月「／／／」ウンウン

水無月「それで、気が付いたら……司令官しか見えなくなっちゃつてたんだ♡ えへへ♡／／／／」

皐・文『おおう！』キラキラ

長月「そ、そうなのか……／／／／」ドキドキ

水無月「うん♡ ね、単純でしょ？」エへへ

皐月「シンプルでいいじゃん♪」

文月「素敵だと思うよ♪」

長月「／／／／」コクコク

水無月「えへ、ありがと♪ あ、早くこの書類持ってかなきゃ！

ごめんね、みんな！ またねく！」ノシ

パタパタパタパタツ！

皐月「乙女の顔してたねく」フフフ

文月「幸せいっぱいなお顔だったねく」ニコニコ

長月「甘過ぎた……何か苦い物が欲しい／／／／」

皐月「なら間宮さん達の所にも行こうか♪」

文月「プリンアラモード食べるく♪」

長月「私は無糖コーヒーゼリーにする／／／／」

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞく」

ガチャー

水無月「ただいま、司令官！ 遅くなってごめんね！」

提督「慌てる必要はないよ。おかえり、水無月」ニコツ

水無月「っ……ありがと、司令官♡」エへへ

提督「ああ」ニコツ

く水無月、提督の側へく

水無月「これが今の資材数の書類で、こつちが次の任務の書類だよ

♡」つ書類

提督「ん、確かに……いつも丁寧に揃えてくれてありがとうな、水

無月」ナデナデ

水無月「これくらい当たり前だよ♡」エへへ

提督「それでもさ……水無月にはいつも感謝している。君のような女性と出会えて私は幸せだよ」ニコッ

水無月「っ……うう♡／／／」ウツムキ

提督「水無月？」

水無月「……いよ／／／」

提督「え？」

水無月「ずるいって言ったの！／／／」カァー

提督「ど、どうしてだい？」

水無月「司令官はいつもそうやって水無月を喜ばせるんだもん……だからずるいの！／／／」ヒシッ

く水無月、提督の胸に顔を埋めるく

提督「そ、そうなのか……」ナデナデ

水無月「そうだよ……司令官はずるっこだ……／／／」ギューッ
(でもそこが大好きなんだけどね♡ えへへ♡)

提督「でもね、水無月……」

水無月「？」

提督「私はいつも水無月から幸せと喜びをもらっているんだよ？

水無月が私の側に居てくれるから、私は日々の仕事を頑張れるんだ」

水無月「司令官……♡」キyunキyun

提督「それにもっと極端な話をすれば、私は水無月が私に対して笑顔を向けてくれるだけでこの上ない喜びを感じている」

水無月「そ、そうなんだ……♡／／／」エへへ

提督「笑顔だけで私を喜ばせる水無月と私、どちらがずるいんだろうな？」ニコッ

水無月「あ……で、でもそれは……ううく／／／」ウツムキ

提督「ふふ、赤くなる水無月は笑顔の水無月とは別の可愛さがある……こんなにも私を虜にする水無月はずるいな」ニコニコ

水無月「わ、わわ、分かった、分かったから！／／／」水無月の方がずるっこでいいから！／／／ もうやめて、恥ずかしい！／／／」カオマツカ

提督「そうなのか？」

水無月「そうなの！／＼／＼／＼」

提督「そうか」クスクス

水無月「笑わないでよ、もお／＼／＼／＼」ムウ

提督「水無月」

水無月「今度は何？／＼／＼／＼」

提督「愛している……心から」

ちゅっ♡↑提督、水無月に優しくキス

水無月「んはあ……水無月だつて愛しているよ、司令官のこと♡／

／／／

ちゅっ♡↑水無月、提督にお返し

提督「ん……ありがとう、水無月」ナデナデ

水無月「うん♡／＼／＼」ギューツ

水無月（やつぱ、司令官の方がいっぱいすぎるっこだ♡／＼／＼）

水無月「ねえ、司令官……♡」クイクイ

提督「何かな？」

水無月「お仕事が終わってからでいいから、次のちゅうは沢山して

ほしいな……えへへ、いいでしょ？♡／＼／＼」ウワメツカイ

提督「……今からしよう」アゴクイツ

水無月「あつ……んんっ♡」チュツチュ

その後、提督とキスをし過ぎた水無月は暫くの間、蕩けた顔が治らなかつたそうなの。

水無月 完

文月とケツコンしました。

某海域、夕方――

く遠征帰りく

文月「ふんふふくん♪」ルンルン

長月「今日の遠征は大成功だから、文月もいつもより機嫌がいいな」

三日月「それだけじゃないと思うよ」クスクス

臯月「今日はずっと遠征だったからね」クスクス

名取「ずっと提督に会えなかったもんね」ニコツ

川内「妬げちやうよね」ニヒヒ

文月「みんなく、早く早く」ノシ

長月「そんなに急がなくても、鎮守府は逃げないぞく！」

臯月「もう少しゆっくり行こうよ！ 荷物多いんだからく！」

三日月「あんまり離れ過ぎないでねく！」

名取「ふふ、仕方ないね」クスクス

川内「少しでも速度上げようか」ニツ

文月「司令官く！ 今、司令官の文月が帰るからねく！」キヤツ

長月「何を叫んでんだか……」ヤレヤレ

臯月「おく、熱い熱い」ニシシ

三日月「文月ちゃんつたらく」ニガワライ

名取「クスクス

川内「帰ったらいい物見れそ」アハハ

◇埠頭◇

提督「

く提督、埠頭で遠征隊の帰り待ちく

「……いい！」

提督「？」

文月「司令かくん！ おくいい！」ノシ

提督「はは、元気に帰ってきたな……」ノシ

く作戦完了く！ 艦隊が帰投！く

文月「ただいまく♡」トビツキ
ぽふっ

提督「ああ、お帰り。文月」ナデナデ

文月「フミィく♡」アタマグリグリ

提督「ちよ、くすぐったいよ」アハハ

／イチャイチャ キヤツキヤツく

名取「ラブラブく♪」ニコニコ

川内「あそこだけお花畑が広がって見えるよ」ニヒヒ

長月「アホ夫婦め……」ヤレヤレ

皐月「まあまあ……」ニガワライ

三日月「微笑ましい光景♪」

文月「あのねあのねく、たくつくさん資材持ってきたんだよく♡」ホ
メテホメテ

提督「ああ、分かっているとも。ありがとうな」ナデナデ

文月「フミィく♡」ホールド

提督「んじや、資材運んで、後は補給して休んでくれ。みんなご苦
労様」

艦隊『はっ！』ケイレイ

く文月、提督の背中にぶら下がり中く

長月「おい、文月。あと少しなんだからしつかりやれ」

皐月「終わったら好きにだけ甘えていいからさ」

三日月「もう一踏ん張り。ね？」ニガワライ

文月「はくい！ じゃあ、ちよつと行ってくるね、司令官♡」ホッ
ペチュツ

提督「ああ、執務室で待ってるよ」ホッペチュツ

文月「あん♡」デレデレ

川内「さて、さつきと運んじやお♪」

名取「うん♪ 夫婦の時間が減っちゃうもんねく」クスクス

三日月「なんかすいません」ペコ

長月「あれが姉だなんて……恥ずかしいぞ」ハア

臯月「前からああじゃん」アハハ

文月「司令官♡」

提督「文月♪」

そして夜――

◇提督&文月の部屋◇

提督「トントントン

♪提督、料理中♪

文月「ねえねえ、お野菜洗ったよ♪」

♪文月、お手伝い中♪

提督「ありがとう♪」トントントン

文月「後は何がある♪？」

提督「じゃあ、お鍋に水入れてコンロで沸騰させてくれ」

文月「はくい♪ お水どれくらいか見てて♪」

ジャー

提督「ん、それくらい」

文月「はくい♪」

テコテコ

文月「うんしょ……火加減は♪？」

提督「強火でいいぞ♪」

文月「はくい♪」カチツ

提督「水が吹きこぼれないように見てて」

文月「ねえねえ」クイクイ

提督「ん？」

文月「ぎゅゅってしながら見てていい？」ウワメツカイ

提督「それで見えるのか？」

文月「こつちからぎゅゅってすれば見えるよ♪」

提督「ならいいぞ♪」

文月「わくい♡」ギューツ

提督「頭をぐりぐりしてたら見えないだろ？」

文月「えへへ♡ はくい♡」ヒシツ

くそして料理完成！く

◇茶の間◇

文月「いただきます♪」人

提督「頂きます」人

文月「フミイ♪ おいひい♪」モグモグ

提督「それは良かった」ニコッ

文月「司令官の作ったクリームシチュー好き♪」パクン

提督「はは、それは嬉しいな」ニコニコ

文月「えへへ♪」ニコニコ

くご飯を済ませて夫婦でお風呂へく

◇風呂場◇

カポーン……

文月「司令官とお風呂♪」パチャパチャ

提督「疲れが取れるな」グダー

文月「ねえねえ」クイクイ

提督「ん？」

文月「抱っこ♪」

提督「ああ、いいよ。おいで♪」リョウテヒロゲ

文月「フミイ♪」スリスリ

提督「文月は柔らかいなく。肌もスベスベだ」スリスリ

文月「えへへ♪ くすぐりたいよ♪」キャツキャツ

提督「はは、悪い悪い」ナデナデ

文月「♪」ギューッ

くお風呂も済ませて寝室へく

◇寝室◇

文月「司令官司令官♪」早くこつちに来てよ♪」トナリポンポン

提督「今電気消すから待ってくれよ」アハハ

文月「はくい♪」

パチッ

ゴソゴソ

提督「ふうく、明日も頑張ろうく」ノビー

文月「ねえねえ」クイクイ

提督「ん？」

文月「お嫁さんは旦那さんの腕枕を所望する♡」

提督「どうぞ」スツ

コロソ

文月「えへへ♡」

提督「明日も仕事、よろしくな」ナデナデ

文月「文月に任せて♡」

提督「ああ、頼りにしてるよ」チュツ

文月「♡」チュツ

文月「もつとちゅ♡」クチビルサシダシ

提督「ああ、いいとも」チュツ

文月「ん……ちゅっ……んん……っ……っ……んあ……ちゅっ♡」

提督「はあ……大好きだよ、文月」ニコツ

文月「あたしも司令官のこと、だあいすき♡」ニパツ

そして夫婦は仲良く身を寄せ合って、今日を終えるのだったー。

文月 完

長月とケツコンしました。

某鎮守府、昼前ー

◇執務室◇

ガチャーー

長月「司令官、資材の確認終わったー」

提督「あ」

長月「ぞ？」

「提督、手にはチョコレート」

提督「……食べる？」

長月「その前に説教を喰らえ」ニコニコ

提督「話を！話を聞いてくれー！」

長月「問答無用だ！」シャー

「長月、提督をお説教」

長月「別にお菓子を食べるなどは言わん。でも私に仕事をさせておいて、自分はこのうのうとお菓子を食べるのは酷くないか？」

提督「で、でもー」

長月「でもじゃない！それにもうすぐ昼食時だろ!? そんなに食いたかったのか、そのチョコレートが!？」

提督「だからー」

長月「だからじゃない！しかもそのチョコレートはクラン〇ーチョコレートじゃないか！一人だけで食べるなんて酷くないか？そういうのは夫婦で共有するものだろう!？」

提督「こ・れ・は！長月が資材の確認に行つてすぐに報告に来た夕張から貰ったんだよ！それで長月が帰ってきたら一緒に食べようとしてたんだ！」

長月「な、そ、そうだったのか……ならば早く言えばいいものを……
／／／／／

提督「言うタイミングをことごとく奪ったのは誰だ？」

長月「私だ」キリッ

提督「……はあ、もういいよ」

(いい顔しやがって……)

長月「ともあれ誤解してすまなかった。許してくれるか？」

提督「俺はいいって言ったぞ？」

長月「だが接吻はされてない。仲直りの接吻はどうした？ ケツコ
ン前に二人で決めただろう？」

提督「え、別にケンカしたわけじゃないだろ？」

長月「それでは私の気が済まん」ギューツ

く上目遣い＋待望の眼差し

提督(ああ、キスしたいのか……)

「分かった……」アゴクイツ

長月「あ……ん♡」クチビルサシダシ

提督「これで仲直りだ」

ちゅっ♡

長月「んんっ♡ つ♡ ちゅっ♡ んはあ……な、何だ、もっ、も

う終わりなのか……？／／／」モジモジ

提督「仲直りのキスならこれくらいだと思うが？」

長月「そっ、そうか……分かった……」シユン

提督(何この可愛さ？ 俺を萌え殺す気か？)

「あ、あゝ、長月がいいなら、俺、もつとキスしたいな(棒)」

長月「っ!?!♡ し、仕方ないな♡ 愛しの司令官にそこまでお願い

されちや断われないからな♡ させてやろうじゃないか♡」ニコニコ

提督(どうやら長月は俺を萌え殺す気のようにだ……) ↑褒めてる

「じゃあ、いいか？」アゴクイツ

長月「是非も無し♡」オメメトジル

ちゅっ♡

長月「んむう……ちゅっ……ん……はあ、あむ……っ……んんっ

……っ……ちゅっ……♡」ギューツ

提督(一生懸命舌を絡めてきて可愛過ぎる……)

「……ぶはあ……ふう……／／／」ドキドキ

長月「はあはあ……とつても良かったぞ♡」トローン

提督「そっか／＼／＼」ナデナデ

長月「んあ、あんまり撫でるな♡／＼／＼」ニヨニヨ

提督「可愛いから撫でてるんだよ」ナデグリナデグリ

長月「し、仕方ない司令官だな、まったく♡／＼／＼」ゴロゴロ

提督（口ではそう言いつつ擦り寄って来るのぐうかわ／＼／＼）

ポーンポーンポーン↑執務室の時計の音

長月「お、もうお昼だな。食堂に行くか？」

提督「あゝ、今すぐはちよつと無理だ。期限が迫ってる報告書がま

だ出来てないんだ」ニガワライ

長月「む……それは由々しき問題だな。慢心は良くないぞ？」

提督「長月に誤解されなきや、終わってたよ」ニガワライ

長月「す、すまない……」シユン

提督「いいよ、もう少しで終わるから」

長月「そ、そうか……」ホッ

提督「んなわけで長月は先に食べてこいよ。俺はまだ食えないからな」

長月「しかし……」

提督「これは俺の仕事だ。長月は午後から演習だろ？」

長月「……分かった。ならまた後で会おう」

提督「ああ」ナデナデ

長月「♡」

くそして長月は執務室を後にするく

長月「ふふ、甘いな司令官。一緒に昼食が食べられないなら、一緒に昼食を食べられるようにすればいいのさ♡」クツクツクツ

く長月は取り敢えず食堂へく

◇食堂◇

カランカランー

間宮「いらっしやいませく」ニコツ

長月「こんにちは、間宮さん」

間宮「こんにちは♪ 今日は何にしますか？」

提督（本当、一生勝てる気しねえよ……／＼／＼／＼）
そして夫婦は仲睦まじく昼食を取った。

長月は提督の膝の上に座り、提督は仕事をしながらー。

長月 完

菊月とケツコンしました。

某鎮守府、〇九〇〇ー

◇提督&菊月の愛の巣◇

カチャー

菊月「だあ（旦那様の略）、具合はどうだ？」ヒョコ

提督「き、菊月か……ゴホッ……ああ、大丈夫だよ……」

菊月「起き上がるな。身体に障るぞ」

提督「すまないな……この身体じゃ、お前を抱きしめてやる事も出来ない」ゴホッゴホッ

菊月「気にするな……私、菊月はそんな柔な艦ではないぞ」ニコッ

菊月お世話中ー

提督「艦隊の指揮は大丈夫か……？」

菊月「ああ、霧島や金剛が良く働いてくれている」

提督「そうか……」

菊月「軽く何か食べるか？」

提督「それより、喉が渴いたな……」

菊月「分かった、今水を持ってこよう」スツ

菊月給水中ー

菊月「ゆつくりだぞ？」

提督「ああ……っ!? ゴホゴホッゴホッ！」

菊月「だあ！ しっかりしろ！」サスサス

提督「すまない……大丈夫だ……」ナミダメ

菊月「クツ……」ウツムキ

（だあがこんなに苦しんでいるのに、私は……）グツ

ポンポンー

菊月「っ」

提督「そんな顔をするな。いつもの凜々しい菊月にそんな顔は似合わないよ……その原因である張本人が言ったもんじやないがな」ナデナデ

菊月「そ、そうだな／＼／＼」テニホオズリ

提督「菊月は温かいな……」

菊月「だあのお蔭だ」テニチュツ

提督「菊月と出会えて良かった……」ヨワヨワシイエミ

菊月「私もだ……だあは私の全てだ」ニコツ

提督「秘書艦の仕事は良いのか……？」ゴホツ

菊月「ああ、問題ない。長月達も手伝ってくれているからな」

提督「そう、なのか……みんなに迷惑をかけているな……」

菊月「誰もだあが迷惑をかけているなんて思っていないさ。胸を張れ」ムナモトポンツ

提督「……ありがとう」ヨワヨワシイエミ

菊月「さ、そろそろ寝よう。この菊月がだあの側にちゃんと居てやるからな」テギユツ

提督「ありがとう……ゴホツ！　ゴホツ！」

菊月（心配だ……）ウルウル

菊月寝かし付け中――

提督「――スースー

菊月「寝たようだな。じゃあ仕事に戻ろう」

パタン――

◇執務室◇

菊月「今戻った」パタン

文月「お帰り。司令官の様子はどうかだったの？」

菊月「ああ、大丈夫だ。今は寝ている」ソワソワ

長月「なら良かった。こっちの仕事も終わった。後は遠征班と演習班が戻るのを待っただけだ」

菊月「そうか……」ソワソワ

文月「クスクス

長月「ヤレヤレ

菊月「？」クビカシゲ

長月「少しは落ち着け。司令官から離れてまだほんの数分じゃない

か」

菊月「だつてあんなに苦しんでいるんだぞ！　こうしている間にも急に容態が変わる可能性だつてあるんだぞ！」

文月「自分でさつき寝てるつて言ったのにいゝ？」

菊月「そ、それは……」

長月「はあ、全く仕方なの無いヤツだなお前は。もう今日は上がれ。司令官から離れるな」

文月「後はあたしと長月がやるよ」ニコニコ

菊月「お前ら……すまない！」ダツ

長月「走つて行つたぞ……」

文月「菊月ちゃんは司令官のことになると早いから」

◇提督&菊月の愛の巣◇

カチャー

トコトコー

菊月（だあは……ぐつすり寝ているな）

提督「スースー

菊月（呼吸も安定している）

提督「スースー

菊月（だあ……）ナデナデ

提督「んんく……きく、づき……」

菊月「菊月はここだぞ、だあ」テギユツ

提督「きく、づき……」ナデナデ

菊月「ああ、ここにちゃんと居るぞ」ニコツ

提督「ありが、とう……」ウデダラツ

菊月「!?　だあ……？　だあ！　おい、しっかりしろ！　だあつた

ら！」ユサユサ

提督「チーン

菊月「だあ……グスツ、私を……菊月を置いていかないでくれ……」
グスグス

◇提督&菊月の愛の巣のドア前◇

提督『きく、づき……?』

菊月『ああ……良かった……だあ』ギユツ

提督『どう、したんだ……そんなに泣いて』ナデナデ

菊月『な、何でもないぞ／＼／＼』

提督『……そうか』ナデナデ

菊月『く♪』スリスリ

夫婦観察中――

長月「はあ、あの馬鹿……」ヤレヤレ

文月「おめめがハートだあ〜」オオ

臯月「尻尾があれば千切れるくらい振ってるね、きつと」クスクス

三日月「司令官はただの風邪なんですけどね……」ニガワライ

望月「司令官が寝落ちする度にこれじゃあ、ただの風邪も長引くよ

〜

長月「かといって司令官の側に居ないと凡ミス連発だからな」

文月「菊月ちゃんは司令官が居ないとずっとソワソワしてるもんね

〜♪

臯月「菊月が出撃するときは司令官も一緒に行くもんね」

三日月「風邪が移らないようにき、キスもお預けらしいですから、余計にしないでしょうね……」

提督『きく、づき……』ネオチ

菊月『だあ〜!』ウワーン

それから提督の風邪は完治するまで、計一週間掛かったとか――。

菊月 完

三日月とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れー

◇執務室◇

三日月「タイキチュウ

提督「カキカキ↑工作中

提督「よし、こんなもんか……」カタグルグル

三日月「終わりましたか？」

提督「おう。これ大淀に提出してきてくれ」つ書類

三日月「はい♪ 行ってきます」ケイレイ

提督「おう」ナデナデ

三日月「もう！ 仕事が終わってすぐに私の太もも撫でないでくだ

さい！」「ペシン

提督「酷い……」

三日月「と・に・か・く、行ってきますね」ニコリ

提督「アツハイ」

◇廊下◇

三日月（まったく……司令官ったら……）モンモン

ドンー

三日月「きゃっ」

鳳翔「あら、ごめんなさい。大丈夫？」

三日月「はい、大丈夫です……こちらこそすみません。ちよつと考

え事していて」

鳳翔「何か悩み事？」

三日月「悩み事と言うか、困り事と言うか……」ニガワライ

鳳翔「私で良ければお話を聞きますよ」ニツコリ

三日月「ありがとうございます。あ、この書類を大淀さんに提出し

てからで良いですか？」

鳳翔「私も大淀さんに空母組の報告書に提出しに行くところなので、一緒に行って、それから少しお話ししましょうか」ニコツ

三日月「はい！」ニコッ

◇鎮守府内・多目的室◇

鳳翔「それで、どうかしたんですか？」

三日月「あの……司令官についてなんです」

鳳翔「提督のことですか？」

三日月「はい……司令官、いつもちゃんとお仕事してくれてるんですけど、仕事終わりや休憩になるとすぐに私の太ももとかを触ってくるんです……」

鳳翔「提督がですか？」

三日月「はい……」

鳳翔「クスクス」

三日月「笑わないでくださいよ」ムウ

鳳翔「ごめんなさい……でも、つい」クスクス

三日月「もう、こっちは結構困ってるんですよ……」

鳳翔「でもそれはきつと三日月ちゃんだからだと思いますよ」ニコッ

三日月「え」

鳳翔「三日月ちゃんが着任する前は、私は提督の秘書艦を務めていたのは知ってますよね？」

三日月「はい、知ってます」

鳳翔「私は秘書艦をしていた時、提督からそんなことされたことありませんでした」

三日月「ええ!?!」

鳳翔「きつと私の前の漣ちゃんもされたことないと思いますよ。三日月ちゃんみたいに悩んでることなんてありませんでしたから」

三日月「じゃ、じゃあ、どうして私だけ……」

鳳翔「それはその指に付けている物が教えてくれると思いますよ」ニコッ

三日月「？」

く左薬指に光る指輪く

三日月「あ」

鳳翔「他の鎮守府ではジウコンをしている方も大勢います。そんな中、この鎮守府の提督は三日月ちゃんにだけその指輪を渡しました。この意味分かりますよね？」

三日月「はい……」

鳳翔「提督は三日月ちゃんともつとスキンシップを取りたいんだと思います。近頃忙しかったですし、提督は元々不器用な方ですからニッコリ

三日月「わ、私、執務室に戻ります！」ガタツ

鳳翔「はい」ニコニコ

三日月「ありがとうございますございました！」

鳳翔「」ニコニコ

パターンー

鳳翔「ふふ、似た者同士ですね」ニコニコ

◇廊下◇

三日月（私馬鹿だなあ……簡単なことに悩んで……）

三日月（司令官はいつも私を求めてくれた……でも、私がそれをいっつものことだと突っ返してた）

三日月「司令官……！」

タツタツタツタツ

◇執務室◇

提督「あく、また怒られちった……」ウナダレ

提督（もつとちゃんと言葉にしないとダメな……）

提督（でも本人を目の前にするといつて悪戯に走つちまう……俺の悪い癖……）ハハ

提督「どうしようもなー」

パターンー

提督「」ビクッ

三日月「はあ……はあ……」カタデイキ

提督「ど、どうした！ 敵襲か！ 防衛システムは何故反応しない！」

三日月「ち、違います！ 敵襲じゃありません！」アセアセ

提督「じゃあ何だ!？」

三日月「三日月が司令官に会いたくて走ってきただけです……!？」

ハッ

提督「え」ポカーン

↳ 落ち着き中↳

提督「落ち着いたか？」

三日月「／／／」コクリ

提督「それで……さっきの言葉はどういう意味だ？」

三日月「こ、言葉の通りで、す／／／」カア

提督「でも何故？ 今までそんなことなかったじゃないか……」

三日月「じ、実はー」

↳ 三日月説明中↳

三日月「ーなので、早く司令官に会って謝りたくて……」

提督「三日月……」

三日月「すみませんでした……今まで冷たくあたってしまったって……」

提督「謝るのは俺の方だ……」

三日月「え？」

提督「俺がもつと、ちゃんと言葉にして三日月と触れ合いたいと言えれば良かったんだ」

三日月「司令官……」

提督「知つての通り、俺は不器用でな……好きな女を目の前にするついでに悪態をついてしまう……ただ仲良くしたいだけなのに」

三日月「……」

提督「すまなかった！ これからはもつとちゃんと言葉にするよう努力する！」フカブカ

三日月「あ、頭を上げてくださいっ」アセアセ

提督「」フカブカ

三日月「わ、私は……司令官のことをちやんと考えていませんでした。いつもの悪戯だと、そう流してしまっていました」

提督「いや、それが普通だ」

三日月「でも！ 司令官は私にしかそういうことをしないと鳳翔さんに言われて、やっと気が付きました！」ギョツ

提督「み、三日月……!?!」

三日月「今までごめんなさい……司令官の本当の気持ちに気付けなくて……」グスツ

提督「俺が悪かったんだ……気にするな」ナデナデ

三日月「おあいこ、ですね」ニコリ

提督「ああそうだな」ニツ

三日月「司令官……ん♡」クチビルサシダシ

提督「三日月……」

チュッー

三日月「えへへ♡ 大好きです、司令官♡」ギョツ

提督「ああ、俺も大好きだ、三日月」ギュー

その後、二人はこれまでの時間を埋めるかの様に、周りがドン引きする程のバカカップル夫婦へ変貌したらしいー。

三日月 完

望月とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室（和室）◇

トントニー

提督「はくい」

スーッー

睦月「失礼しまゝす」ヒヨコ

如月「遠征の報告書持ってきました」ニコリ

弥生「どうぞ」つ報告書

提督「はい、ご苦労様」ウケトリ

睦月「あれ？ 望月ちゃんは？」キヨロキヨロ

如月「ちゃんと居るわよ」ニコニコ

弥生「寝てる……」

望月「すう……すう……」Z z z

く望月、提督の膝枕でお休み中

提督「お腹いっぱいになって眠くなつたみたいだよ」

如月「良いなあ、望月ちゃん……」

弥生「」コクコク

睦月「まあ望月ちゃんだけの特権だからね」クスクス

提督「気ままなのが彼女の個性だからね」

睦月「でもでも、提督の隣は絶対に誰にも譲ろうとしないにやしい！」

如月「今だって提督のズボン掴んで離そうとしなてないものね」クスクス

弥生「仲良しさん……」フフ

提督「／／／」アタマカキカキ

弥生「みんな、もう行こ？」

睦月「そだね」

如月「邪魔しちや悪いものね」クスクス

提督「報告書ご苦勞様」ニコリ

睦・如・弥『』ニコツ

パターンー

提督「さてと……報告書を確認してー」

望月「ムクリ

提督「お？ 起きたの？」

望月「睦月達がここに入ってきた時にね」

提督「そうだったのか」

望月「あんな大声なら誰だって起きるよ」ノビー

提督「元気なのはいいことさ」

望月「まあね」アフ

提督「寝直さなくて良いのかい？」

望月「うん。ゲームしたいから起きるよ」

提督「あはは、そっか」

望月「ゲームやる前にお茶淹れてくるけど、司令官もいる？」

提督「ならついでに淹れてもらおうかな」

望月「あいよ」

提督「ハーゲンメイデン（アイス）もあるから、食べたいなら食べ

ていいよ」

望月「何味？」

提督「バニラとストロベリーがあるよ」

望月「ふくん。とりあえずどっちも持ってくるわ」

提督「ああ、いいよ」

くお茶とアイスを持ってきたよ！」

提督「サラサラ↑仕事中

望月「キヨロキヨロ↑どっちの味にするか悩み中

提督「二つを半分個するかい？」

望月「する」ニへへ

提督「じゃあ、僕もおやつ休憩にするかな」トント

望月「そうしよそうしよ」ウデダキツキ

提督「ナデナデ

望月「くっ♡」ゴロゴロ

くアイスが柔らかくなるまで待機く

望月「司令官く」

提督「ん？ なんだい？」

望月「膝枕く」

提督「どうぞ♪」ヒザポンポン

望月「く♡」コロロン

提督「望月は膝枕されるのが好きだね」ナデナデ

望月「司令官の膝枕が好きなんだよく♡」スリスリ

提督「そうかいそうかい」ヨシヨシ

望月「ここはあたしだけの場所で、あたしがいつでも甘えていい場所だからねく♡」ゴロゴロ

提督「他のみんなにすると望月は怒るからねく」

望月「当たり前じゃん。司令官はあたしのだもん。いくら姉の睦月達でもそれは許さないからね」フフン

提督「僕は望月に愛されてるな」ナデナデ

望月「司令官があたしなんかを愛してくれてるからね♡ あたしだって愛されたらその温かさに溺れるよ♡」ゴロゴロ

提督「そっかそっか♪」ナデナデ

望月「はあく……司令官は本当にあたしをダメにする天才だなあく♡」トローン

提督「人聞きが悪いな」ニガワライ

望月「だって事実だからねく。こうして膝枕して、更にめっちゃ優しく頭撫でるんだもん♡」ハフウ

提督「好きな人には優しく触れるのが、僕流だからね」ナデナデ

望月「布団の中でもこれくらい優しいよな♡」

提督「んんんっ／／／」セキバライ

望月「へへ♡」ニコツ

提督「／／／」カー

望月「今更照れることないじゃん♡」ホツペツンツン

提督「恥ずかしいものは恥ずかしいんだよ／／／」

望月「くっ」ニコニコ

く気を取り直して撫で撫で再開く

望月「んくっ♡ 気持ちいいくっ♡」トローン

提督「気に入ってもらえて嬉しよ♪」ナデナデ

望月「たまにはあたしが膝枕してあげようか？」

提督「え」

望月「やられっぱなしもなんか悪いしさく。これでも司令官のお嫁さんだからねくっ♡」

提督「気持ちだけでいいよ♪」ニコッ

望月「遠慮しなくてもいいんだよく？」ホッペツンツン

提督「僕はこうして望月に膝枕して、優しく頭を撫でたり、髪を手で梳くのが好きだから」ニッコリ

望月「キューーン

望月「そ、そっか♡／／／／」へへ

提督「ああ」ニコニコ

望月「もつと頭撫でたり、手櫛したりして♡」オメメハート

提督「勿論♪」ナデナデ

望月「はうあくく♡」キラキラ

提督「ニコニコ

こうして夫婦はその後も仲良く触れ合い、アイスのことは忘却の彼方へ消えていったー。

アイスへ解せぬ

望月 完

吹雪とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇鎮守府正門前◇

提督「ソワソワ

吹雪「すみません！ 準備に手間取ってしまいました〜！」パタパ

タ

提督「クルツ

吹雪E・シヨート丈フレアワンピ（白色）

シヨートニットカーディガン（空色）

フラットヒールパンプス（藍色）

提督「ああ、女神とは本当に居たんだな……」ジーン

吹雪「ど、どうですか？ 前に司令官からプレゼントされた服を着

てみたんですけど……／／／／」モジモジ

提督「凄く可愛いよ、吹雪」

吹雪「ほ、本当ですか!?!?!」

提督「勿論！ やっぱり俺の見立てに間違いなかったな！ 思わず

見惚れたよ〜！」

吹雪「う、嬉しいです／／／／」ハニカミ

提督「じゃあ、行こうか」テサシダシ

吹雪「はい♡」コイビトツナギ

◇繁華街◇

〜ウインドウショッピング中〜

吹雪「こうしてゆっくりデートするの久しぶりですね」

提督「そうだな。仕事が忙しかったからな……構ってやれなくてご

めん」ナデナデ

吹雪「そんな!? 私、司令官と一緒に過ごせるなら、いつでも幸せ

ですよ！」

提督「ありがとう。今日は目一杯デートを楽しもうな」ニツ

吹雪「はい♡」ポツ

◇雑貨屋◇

吹雪「司令官、このストローすごいです！ ハート型ですよ〜！」
提督「飲み物が口に入るまでかなり吸わなきゃなんねえな」ニガワライ

吹雪「このキーホルダー、ペアで付けるみたいですね！」

提督「ああ、二つ揃うとハートになるやつか」

吹雪「お互いの好きなところを書き出すノート……？」クビカシゲ

提督「へえ〜、質問が書いてあつてその質問にお互いの答えを書くのか……」チラツ

吹雪「オメメシイタケ

提督「買うか」

吹雪「はい♡」

◇アクセサリーショップ◇

吹雪「このクローバーのイヤリングなんてどうですか？」

提督「こつちの錨の形したイヤリングなんてどうだ？」

吹雪「わあ〜、こんなのもあるんですね〜！」

提督「いやこつちのも吹雪に似合うな……」キョロキョロ

店員「素敵な彼氏さんですね」イラツシヤイマセ

吹雪「あ……えへへ♡ ありがとうございます／＼」テレリ

提督「彼氏じゃありません。俺達夫婦なので」キリツ

吹雪「っ!?!／＼」ボンツ

店員「わあ！ ご夫婦！ とてもお若いのでつい……失礼しました〜！」

提督「いえいえ、妻とは二年前に出会いましたね……その可憐さに一目惚れし、半年の交際を経て……」ペラペラ

店員「わあ〜！ とつても良い恋愛だったんですね〜！ とても素敵ですね〜！」

吹雪「／＼／＼」ウツムキ

〜吹雪は堪え切れず提督の手を取って逃げ出した〜

吹雪「もう、恥ずかしいじゃないですかあ／＼／＼」カオマツカ
提督「良いじゃん！俺達のスイートメモリーだぜ!?」
吹雪「普通に思い出つて言つてくださいよ／＼／＼」
提督「照れてる吹雪も可愛いな……」マジマジ
吹雪「話を聞いてくださいよ／＼／＼」ウガー

く街を散策中く

吹雪「あ、こんな所にオルゴール店があつたんですね」

提督「見るからに老舗つて感じだな……入つてみるか？」

吹雪「はい！」

◇オルゴール店◇

吹雪「これ全部オルゴールなんですよね。すごい」キョロキョロ

提督「シンプルなのから大掛かりな作りの物まであるな」

吹雪「あ、この白いピアノのオルゴール可愛い♪」

提督「おお、良いなあこれ」

吹雪「うわつ、ご、五万円です……！」ガクブル

提督「良音質七二弁オルゴールだとよ……」

店主「試しにお聴きになりますか？」ヒョコ

提督「え、良いんですか？」

店主「はい。買う買わない関係なくオルゴールの音色を楽しんで頂

きたいですから」ニコリ

吹雪「じゃ、じゃあお願いします」

店主「畏まりました」

くパツヘルベル・カノンく

提督「良い音色だ……」シミジミ

吹雪「はい……」ウツトリ

く音を堪能した後、近くの公園へく

提督「あ、さっきのオルゴールの店にケータイ忘れた」

吹雪「え、本当ですか!？」

提督「悪い。ちよつと行つてくるから、待つてて」タツタツタツ

吹雪「気をつけてくださいねく！」

吹雪、提督待ち

吹雪「そそつかしいところは前から変わらいなあ」フッフ

(早く帰って来ないかなあ)

数分後

提督「お待たせ」

吹雪「あ、お帰りなさい。ケータイは見つかりました？」

提督「あ、実は胸ポケットに入ってた」ニガワライ

吹雪「ええ!?」

提督「いやあ、いつも右なんだけどさつきまで左に……」タハハ

吹雪「もう、すっかりしてくださいよ」ニガワライ

ガサ

吹雪「?」司令官、その袋は?」ユビサシ

提督「お、もう見つかったか」

吹雪「?」クビカシゲ

提督「これ、吹雪にやるよ」つ袋

吹雪「は、はい。ありがとうございます……」

提督「ほら、開けて開けて」

吹雪「は、はい」

ガサゴソ

吹雪「これ……!」

先程のオルゴール

提督「今日、ケツコンして一年目だろ? だからさ、その記念」ニツ

吹雪「もう……大袈裟過ぎです」

提督「気に入らない?」

吹雪「とつても気に入りました」ホツペチュツ

提督「お、おい／＼／＼」

吹雪「えへへ」いつも愛してます、司令官」これ大切にします

ね」ギユツ

提督「あ、ああ……俺も吹雪を愛してるよ／＼」テレリ

吹雪「とつても幸せです」

それから夫婦は人目も憚らず、暫くの間、抱きしめ合った。

吹雪
完

白雪とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇大広間◇

鳥海「皆さん、お集まり頂きありがとうございますがとうございます♪」
川内「只今より、我らが提督と！」

吹雪「私の妹、白雪の！」

初雪「リア充（ケツコン）記念の」

深雪「ケツコン披露宴を始めます！」

／パチパチパチパチパチパチ／

鳥海「では、新郎新婦の入場で〜す♪」

／結婚行進曲『夏の夜の夢』／

／パチパチパチパチパチパチパチパチパチ／

提督E・白の海軍服＋数々の胸章

白雪E・ワンショルダースレンダーラインドレス

叢雲「おめでとう、二人共！」パチパチ

磯波「おめでとうございます♪」パチパチ

名取「おめでとうございます〜！」ハナビラマキマキ

由良「おめでとう♪」ハナビラマキマキ

衣笠「おめでと〜♪」パチパチ

陽炎「決まってるわよ〜！ 二人共〜！」パチパチ

海風「素敵ですよ、お二方！」パチパチ

江風「ヒューヒュー♪」ハナビラマキマキ

涼風「目から汗が止まんねえぞ〜！」グシグシ

／新郎新婦、壇上へ／

鳥海「――二人は永遠の愛を誓いますか？」

提・白『誓います』

川内「では、指輪交換を！」

提督「白雪……」

白雪「司令官……」

（指輪交換）

提督「愛してるよ、白雪」ニコッ

白雪「愛してます、司令官」ニコッ

ちゅっー

／ワァァァ パチパチパチパチ／

吹雪「ではでは、これよりは無礼講！」

初雪「みんなでどんちゃん騒ぎ」

深雪「司令官と白雪のケツコンに乾杯！」

／カンパァイ！！／

（宴スタート）

川内「よし！ 今夜は景気良く夜戦に行くよし！」

江風「お伴します♪」

海風「心配なので海風も同行しますね」

名取「い、良いのかな？」オドオド

由良「さあ……」ニガワライ

提督「みんな楽しんでるようだな」ウムウム

白雪「司令官、皆さんを見るのもいいですけど、ちゃんと私のことも見てくださいね♡」ノゾキコミ

提督「もちろんだよ。こんな素敵な花嫁様を見逃してたまるか」ニコッ

白雪「うふふ♡ 白雪は幸せです♡」ニコッ

提督「俺もだよ。これからもっと幸せになろう」ナデナデ

白雪「はい、司令官♡」

提督「白雪は何を飲んでるんだ？」

白雪「オレンジジュースです♪」

提督「そうかそうか♪ では俺が注いでやろう♪」

白雪「ありがとうございます♡」

とくとくー

白雪「今度は私の番ですネ♪」

提督「日本酒を頼むよ」

白雪「は〜い♡」

とくとく〜

提督「乾杯♪」カチン

白雪「乾杯♡」カチン

ゴクツ〜

提督「お、何か余興が始まるみたいだな」

白雪「吹雪ちゃん達が何かしてくれるみたいですね」

〜吹雪型姉妹、特設ステージへ〜

吹雪「皆さ〜ん！ 私達、吹雪型姉妹でお二人に歌を贈ります！」

初雪「頑張る」フンス

深雪「ちゃんと聞けよな！」ニカツ

叢雲「／／／」カオマツカ

磯波「頑張ります」ニコツ

〜ミュージックスタート〜

吹雪「水面が揺らぐ〜♪」

初・深『触れ合〜った指先の〜♪』

吹雪「見つめ合〜う〜だ〜け〜♪」

叢・磯『一瞬に碎け散る〜♪』

吹・初・深・叢・磯『キラツ☆』ウインク

提督「みんな上手だな〜」ニコニコ

白雪「嬉しいですね♪」テビヨウシ

吹・初・深・叢・磯『魂に銀河〜流れてく〜♪』

〜パチパチパチパチパチパチパチパチ／

鳥海「続きまして、サプライズパフォーマンスです！」

白雪「スクツ

提督「？」クビカシゲ

〜白雪、特設ステージへ〜

白雪「隠れて頑張つて練習しました。愛する司令官へこの曲を贈り

ます」ペコリ

鳥海「僭越ながらピアノは私、鳥海が務めさせて頂きます」ペコリ

／＼ヒューヒュー パチパチパチパチ／
演奏開始

白雪「海の底に眠る」

提督「」

白雪「凧いだ明日の海に」

白雪「司令官（あなた）の眼差しに」

曲はクライマックスへ

白雪「ー手を握っていて」

スタンディングオベーション／

白雪「ペコリ

提督「くっ……」ゴシゴシ

白雪「愛してます、司令官♡」

提督「ああ！ 俺はずっとお前の手を離さないからな！」オトコナ

キ

白雪「♡」ニコツ

披露宴は無事に終わり、二人の時間へ

夜ー

◇提督&白雪の部屋◇

提督「まさかあんな隠し玉があっただんてな」タハハ

白雪「ふふ♡ 司令官の泣き顔可愛かったです♡」

提督「みんなの前で泣かされたよ」ニガワライ

白雪「♡」ニコニコ

提督「白雪には負けるが、俺からもサプライズだ」

白雪「え？」

小さな包みを渡す

白雪「開けていいですか？」

提督「コクリ

ガサゴソー

白雪「ペンダント……」

提督「そうだ。俺と白雪が初めて会った時に撮った写真が入っている」アタマポリポリ

白雪「素敵なサプライズプレゼントを……嬉しい♡ ありがとう♡
ございます♡」

提督「白雪の歌には負けるさ」ニガワライ

白雪「勝ち負けじゃありませんよ♡ 気持ちの問題です♡」
ギューッ

提督「これからもよろしくな」ナデナデ

白雪「はい♡」

二人の航海はこれから始まるのだー。

白雪 完

初雪とケツコンしました。

某鎮守府、昼―

◇執務室（座敷仕様）◇

トントナー

女提「はくい」

吹雪『司令官、秘書艦の吹雪です。艦隊が鎮守府近海対潜哨戒から帰還したのでそのご報告にお連れしました』

女提「はくい、どうぞ」

ス―

吹雪「失礼します」ケイレイ

白雪「失礼します。旗艦白雪、戻りました」ペコリ

深雪「おいつす！ ただいま」ノシ

叢雲「戻ったわよ」

磯波「只今戻りました」ペコ

女提「はくい、お帰りなさい。見たところ酷い怪我は無さそうね」
ホツ

白雪「はい。お陰様で」ニコリ

深雪「敵の魚雷なんて屁でもないぜ」ニカッ

叢雲「そう言うあんたが一番ダメージ多いじゃないの」ニガワライ

磯波「でも、最深部^ボは倒せましたよ」

女提「お疲れ様、補給と修復しつかりね」修復作業が終わったら
お昼御飯ご馳走してあげるわ」

白雪「まあ、ありがとうございます！」ニコッ

深雪「やった！ 楽しみ」ガツポーズ

叢雲「悪くないわね」クスッ

磯波「ありがとうございます」

吹雪「で……？ 嫁艦さんからは何も無いの？」

初雪「？ お疲れ」ノシ

初雪、提督の股の間に座る（定位置）

吹雪「アタマカカエ

白雪「ふふ、初雪ちゃんは今日も定位置だね」ニコッ

深雪「司令官の嫁だかな♪」

叢雲「少しは仕事してほしいものだわ」ヤレヤレ

磯波「あはは……」ニガワライ

初雪「私がこうしてることで司令官を癒すという重要な任務をこなしているのだ」キリッ

女提「初雪はやれば出来る子だもんね♪」ナデナデ

初雪「そうだよ♡」ゴロゴロ

L v. 93 吹雪「確かにそうだけど……もう少しシャキツとしてよ
〜ハア

L v. 90 白雪「まああれが初雪ちゃんだから」ニガワライ

L v. 95 叢雲「実際この鎮守府で一番練度が高いのはこの子だも
んね……」

L v. 89 深雪「確かにな〜」アハハ

L v. 89 磯波「そうだね」カタイエミ

L v. 155 初雪「むふ〜ん」ドヤア

女提「〜♪」ナデナデ

〜白雪達はドックへ〜

吹雪「司令官、私は何をしましょうか？」

女提「じゃあ、ご飯炊いてきてくれる？」

吹雪「了解しました♪」ケイレイ

女提「お願いね〜♪」ノシ

〜吹雪、厨房へ〜

初雪「あ、司令官。ここの漢字間違ってるよ〜」

女提「え……あちや、直さなきや」

初雪「司令官は私が居ないとダメだなあ♡」ニへへ

女提「仰る通りで」ニガワライ

初雪「〜♡」ニコニコ

女提「お昼御飯は何食べたい？」カキカキ

初雪「ん〜、今朝は和食だったし、お昼は洋食の方がバランスいい

んじゃない?」

女提「了解♪ ならハンバーグにでもしましょうか♪」カキカキ

初雪「(。?∩?)」フォー!

女提「ふふっ」ナデナデ

初雪「早く書類を終わらせてハンバーグを作るのだ」アタマグリ
グリ

女提「は〜い♪」

書類を片付け、厨房へ

◇廊下◇

初雪「司令官」クイクイ

女提「ん? なあに?」

初雪「おんぶ」

女提「もお」ニガワライ

初雪「お願い♡」ウワメツカイ

女提「は〜い」スツ

初雪「やたっ♡」ギューツ

女提「初雪はおんぶされるの好きよね」ヨツ

初雪「だっておんぶされてると、司令官を後ろからぎゅうつて出来るもん♡」スリスリ

女提「ふふ、そっか♪」

初雪「普段は私が司令官に後ろから抱きしめてもらってるからね」

♡ おんぶの時だけは交換♡」ゴロゴロ

女提「ならしっかり抱きしめてね♪」

初雪「任せて♡」ギューツ

仲良く厨房へ

◇厨房◇

吹雪「司令官、お疲れ様です! 今お米炊き始めました!」ケイレ

イ

女提「ありがとう♪」ナデナデ

吹雪「あ……えへへ／＼／＼」テレビ

初雪「む」

女提「さて、じゃあお料理をー」

初雪「ねえねえ」クイクイ

女提「? どうしたの、初yー」

ちゅっ♡

女提「っ!？」

吹雪「(。 ㇿ)」「ファッ!？」

初雪「ちゅっ……っ……んっ……ん♡ んはあ♡」

チラツ↑初雪、吹雪を見る

初雪「♡」ドヤア

吹雪(嫉妬したんだ／＼／＼)ニガワライ

女提「もお、いきなり何なの?／＼／＼」カー

初雪「司令官が私の前で他の子を愛でたから」ジトー

女提「頭を撫でただけじゃないの／＼／＼」

初雪「司令官は初雪のだもん♡」ホールド

女提「みんな知ってるし、私だって初雪だけよ?」ナデナデ

初雪「それでも見せつけなきゃ♡」ヒシッ

吹雪「……／＼／＼」カオカクシ

女提「分かったから、ね? 吹雪も困ってるし……」

初雪「初雪より、吹雪を取るんだ……」ジトトー

女提「もお、本当にヤキモチ焼きなんだから♡」ナデナデ

初雪「だつて……」

女提「大丈夫よ。私は初雪だけを愛してるわ。これからもずっと

……ね♪」ニコリ

初雪「うん♡ 初雪も司令官をずっとずっと愛してるよ♡」スリ

スリ

女提「安心した?」

初雪「ちよつとだけね♡」

吹雪(凄いラブラブ……／＼／＼)ハワワ

女提「ならどうすれば安心出来るの?」

初雪「司令官からキスしてくれたら安心する♡」

女提「分かったわ……ちゅっ」

初雪「ん♡ん♡ちゅっ♡」ギューツ

吹雪（もう無理、外行こ……／＼／＼）スタコラサッサー

初雪「ぷはあ……えへへ♡司令官、愛してる♡」スリスリ

女提「私も愛してるわ♪」ギューツ

その後、提督は吹雪達に手料理を振る舞ったが、吹雪は暫く意識がボンヤリとしていたというー。

初雪 完

深雪とケツコンしました。

某鎮守府、夕方――

◇執務室◇

ガチャ――

深雪「司令官！ 艦隊が帰投だぞ〜！」トビツキ

提督「つと……お疲れ様です」ナデナデ

深雪「へへ♡」スリスリ

吹・白・初・叢・磯『ニガワライ

提督「みんなもお疲れ様です。入渠後、それぞれ補給をお願いします」

艦隊『了解』ケイレイ

提督「さ、深雪も入渠してきてください」ナデナデ

深雪「はい♪」

◇ドツク◇

〜みんなが入渠中〜

深雪「三十分も入ってなきやいけないのかあ〜」グデーン

吹雪「仕方ないよ〜」ニガワライ

初雪「入渠は大事……」

白雪「深雪ちゃんも司令官がいないと寂しいんだよね」クスクス

深雪「当たり前だろ〜？」

叢雲「お熱いわね」アキレ

磯波「まあまあ」ニガワライ

吹雪「いつも二人になると司令官と何してるの？」

深雪「ん〜……特に何もしてない」

白雪「ちよつと意外……」ビツクリ

初雪「嘘は良くない。ちゃんと素直に言うべきそうすべき」イアツ

磯波「ま、まあまあ」ニガワライ

叢雲「別に今私達しか居ないんだから誤魔化さなくてもいいんじゃない

ないの？」

深雪「そんなこと言われてもなあ〜」アタマポリポリ

白雪「じゃあ、昨晚は司令官と何をしてたの？」

深雪「ええ〜、昨日の夜〜？」ウーン

吹雪「ドキドキ

初雪「ワクワク

叢・磯『キキミミ

深雪「一緒にご飯作って、それを食べさせ合って、一緒にお風呂入って、洗いっこして、お風呂から上がった後にテレビ見て、一緒の布団で沢山え〇ちして、それから寝たくらいしかないんだけど……」

吹雪「／／／／」

白雪「『くらいしか』の使い方がおかしい」ニガワライ

初雪「ごっちゃんです」人

叢雲「流石アホ夫婦ね……／／／／」カア

磯波「凄いんだね／／／／」

深雪「？ ケツコンしてから毎日こうだから凄いのか分かんないな

……」

吹雪「ケツコンする前は？」

深雪「え？ 執務室で司令官とー」

叢雲「あー！ 言わないで！」

初雪「コクコク

白雪「カワイタエガオ

磯波「／／／／」カア

吹雪「仲良しさんだね／／／／」ドキドキ

初雪「てかさ、深雪は司令官のどこが好きなの？」

叢雲「あんた好みのタイプは男らしい人だもんね」

白雪「あ〜、確かに。それ聞くと深雪ちゃんにしては意外だよね」

吹・磯『コクコク

深雪「全部好きだけど、強いて言えば笑顔が好きかな♡」テレビリ

姉妹『（乙女だ）』

深雪「あの笑顔で頭撫でられたり、名前呼んでもらうとき、もう胸

がキューーンってなってさ〜」デレデレ

「……」。

◇執務室◇

提督「……それで話をしていたら、みんなのぼせて医務室へ直行した、と」ニガワライ

深雪「なく、不思議だよなく」

提督「まあとにかく報告ありがとうございます。深雪は先に部屋へ戻って休んでいてくれて構いませんよ」ニコリ

深雪「え〜、やだ」

提督「しかし……」

深雪「まだ仕事あるんだろ？ なら手伝う！ てか一緒に居たい！」ムギュー

提督「ではお手伝いはしなくて良いので側に居てください」ナデナデ

深雪「分かった！♡」スリスリ

〜提督仕事中〜

提督「カリカリ

深雪「〜♡」

提督「カキカキ

深雪「〜♡」

提督「サラサラ

深雪「……………」

深雪「司令官ってさ……………」

提督「はい？」

深雪「私のどこが好きで私と一緒になってくれたの？」

提督「突然ですね……………」ニガワライ

深雪「みんなに司令官のどこが好きか聞かれて、その時に司令官はどのようなかなって思ってたさ……………」

提督「そうですね……………」

深雪「告白の時は『あなたが好きです』だけだったし、プロポーズ

も『これからはあなたを愛していききたい』だったからさ……もちろん、それが嫌だったわけじゃないからな？」

提督「ええ、分かっています。……そうですね」

深雪「ワクワクドキドキ

提督「深雪、一つお願いをしても？」

深雪「？ 何？」

提督「笑ってください。いつもみたいにニカツと」

深雪「??? こうか？」ニカツ

提督「それです」

深雪「へ？」

提督「深雪のことは全て愛しています。しかし、一番はあなたのその笑顔……その笑顔が一番好きです。これからもその笑顔を守っていきたくと思っています」ニコリ

深雪「司令官も私と一緒になんだな♡」ニカツ

提督「はい、一緒ですね。私も入渠的一幕を聞いた時、嬉しく思いました」ニコリ

深雪「そつか♡」スツ

ストロー

深雪、提督をだいしゆきホールド

提督「どうしました？」ナデナデ

深雪「なあ、久々にここではない？♡」

提督「またまたいきなりですね……」ナデナデ

深雪「ダメ？♡」ウワメツカイ

提督「据え膳食わねばなんとやらですね」ニコリ

深雪「やった♡」

提督「愛してます……これからもずっと」チュツ

深雪「私もだよ♡」チュツ

く夫婦夜戦突入す

深雪 完

叢雲とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&叢雲の部屋◇

叢雲「く♪」トントントン

叢雲「豚肉の生姜焼き、お味噌汁、各野菜の浅漬けと……あ、リンゴもダメになっちゃうから剥いてあげなきゃ♪」

叢雲「く♪」ムキムキ

叢雲「よし！ 朝餉完成ね♪」

く提督を起こしに寢室へく

叢雲「あなた、朝餉の準備出来たから起きてく」ユサユサ

提督「んんん」ネガエリ

叢雲「まったく……」ヤレヤレのしつ↑提督上に乗る

叢雲「朝よ……旦那様♡」ミミモトボソツ

提督「んんん、右耳は叢雲にゃんこで／／／」ネガエリ

叢雲「(#^ω^)」ピキツ

叢雲「ささつと起きなさいっ！」ズツキ

ガツンー

提督「ふぐおっ！」

叢雲「？ 熱い？」

ぴとつ↑おでことおでこをくつつける

叢雲「熱があるじゃない！ 取り敢えず、明石さんに連絡を！」パ

タパタ

数分後ー

明石「ーうん、風邪ね」

叢雲「風邪……」

明石「熱が下がればすぐに良くなるわ。後で風邪薬を用意しとくから、手が空いたら取りに来て」

叢雲「分かりました。ありがとうございます」ペコリ

明石「ええ♪ 叢雲さんは提督に付いててあげて。大淀には私から伝えておくから」ニコリ

叢雲「何から何まですみません。よろしく願います」ペコリ

明石「いいのいいの♪ じゃあ、お大事にね♪」ノシ

叢雲「本当にありがとうございます！」フカブカ

パターンー

提督「風邪か……ごめんな、心配かけて」

叢雲「気にしないで。ここの所忙しかったし、疲れが出たのよ。私こそあなたの体調管理にはちゃんと気をつけてたのに、こんなことになってごめんなさい」ナデナデ

提督「いや、叢雲のせいじゃないよ」

叢雲「でも……」

提督「そんな不安そうな顔をするな。お前はいつも通り、自信に溢れた笑顔で居てくれればいい」ナデナデ

叢雲「何よ……カツコつけて／＼／＼」テレツ

提督「お前の前ではいつも格好良いはずだぞ？」フフ

叢雲「はいはい、身を持って知ってるわよ♡ ったく♡」ニコニコ

提督「取り敢えず今日の出撃は無しで、遠征と演習のみだと通達してくれ」

叢雲「分かったわ。それが終わったらまた様子を見に来るわね。取り敢えずリング置いとくから食べれるなら食べてね」ナデナデ

提督「ああ、ありがとう。後は頼むよ」

◇執務室◇

叢雲「ー」と言う訳だから、今日はそう言う事をお願い」

古鷹「演習は任せて」ニコリ

比叡「司令が寝込んでいても、私達が！ 気合い！ 入れて！ 勝利して来ますから！」フンス

榛名「執務の方は榛名と金剛お姉さまが代理としてやっておきますので、叢雲ちゃんは提督の看病に専念してください」ニコリ

金剛「任せてくだサーイ♪」ウインク

叢雲「ありがとう、お願いするわ」ニコリ

吹雪「何かあったらすぐに呼んでね！」

初雪「暇なら漫画貸すから」ノシ

叢雲「ありがと」ニッコリ

くこうしてまた提督の元へく

◇提督&叢雲の部屋◇

叢雲「明石さんの所で薬貰ってきたりして、ちよつと遅くなっちゃったけど、お粥も出来たし……様子を見に行きましょ」

くお粥と薬を持って寝室へく

叢雲「ソーツ

提督「んく、ん……」

叢雲（あんまり良い寝顔ではないわね……）

提督「はあ……はあ……」

叢雲（苦しそう……汗もすごい……）フキフキ

提督「はあ……はっ、んん……」パチツ

叢雲「ごめんなさい、起こしちゃったわね……」

提督「叢雲……？」ホツペサワサワ

叢雲「ちよつと……くすぐったいわよ……／／／／」

提督「ごめんな……」

叢雲「別にー」

グイツ↑抱き寄せる

叢雲「ちよ、ちよつと……いきなり何なのよ／／／／」

提督「お前を失う夢を見た……あの日、助けるのが間に合わなかった夢を……」ギユツ

叢雲「何縁起でもない夢見てるのよ……私はちゃんと助かったでしよ。あなたが身を呈して守ってくれたんだから」ナデナデ

提督「たまに考えるんだ……」

叢雲「何をよ？」

提督「本当はあの日、叢雲を助けることが出来なくて、俺は寝込ん

でしまつて、これは現実逃避している俺が見ている夢なんじゃないかと……」

叢雲「馬鹿ね、あんたは……私はちゃんとこうして生きてるし、あんたもちゃんと生きてるでしょ」ナデナデ

提督「ああ……」

叢雲「あの時は本当に生きてた心地がしなかった……自分のせいであなただが遠くに行っちゃうかもしれないって思った……」

提督「……」

叢雲「でも、あなたはちゃんと戻ってきてくれた。それが夢だなんて言わないで」オデコペシッ

提督「そうだな……ごめん」ニガワライ

叢雲「風邪つて厄介ね。あなたをここまで苦しめるなんて」ナデナデ

提督「重ね重ねごめん」

叢雲「もう良いわよ」オデコチュッ

叢雲「さて、お粥作ってきたから食べなさい。食べて薬を飲んだら汗拭いてあげる♡」

提督「頼む」ニコリ

「食事と服薬を済ませ、汗拭きへ」

叢雲「結構汗掻いたわね」フキフキ

提督「熱だからな……」

叢雲「……そうね」フキフキ

(弱々しくて汗ばんでて息が少し荒い……／＼／＼)

提督「ん……ああ……」

叢雲(最近してなかったから、変に意識しちゃう／＼／＼)

「ま、前の方を拭くからこっち向いて／＼／＼」ドキドキくるっー

叢雲(熱ですごく顔が赤くて、目が潤んでる／＼／＼)

提督「叢雲？」ハアハア

叢雲(すごいする……好きな人の匂いが……)ムラムラ

「ごめんなさい」ボソッ

提督「ん？」

ガバツ―

叢雲「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい！ 我慢出来ないの♡ すぐ終わらせるから♡」ハーハー

提督「え、まさか……」

叢雲「うん……ごめんなさい♡／／／」オメメハート

提督「最近してなかったから……しよるか。汗掻けば治るかもしれないし」ニコリ

叢雲「ありがとう♡ 大好きよ♡」チュツチュツ

提督「ゆっくり頼むな」ナデナデ

叢雲「頑張る♡」チュツチュツ

◇部屋の外・ドア前◇

叢雲『ああ♡ これ好き♡ もつと♡』ギシッギシッ

提督『もつとゆっくり……／／／』

／ギシギシギシ／

吹雪「大丈夫そうですね／／／」

古鷹「そうだね／／／」

明石「また後でお見舞いに来ましようか」ニガワライ

後日、夫婦仲良く風邪を引いたとき―。

叢雲 完

薄雲とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

吹雪「薄雲、それで相談って言うのは？」

白雪「気兼ねなく何でも言ってる」

初雪「そーそー」

深雪「姉妹なんだからさ！」

叢雲「と言ってもどうせ司令官絡みでしょ？」

磯波「薄雲ちゃん、提督のこと大好きだもんね」

浦波「司令官とケンカでもしちやっただんですか？」

薄雲「そういう訳じゃないの」

提督「そうだ。俺たちはいつでも仲良しだ」ドヤア

薄雲、提督に膝の上に乗せられた上で後ろから抱きしめられ中

深雪「だよな。ケンカじゃねえよなあ」

浦波「そっか」

磯波「仮にケンカしても一緒にいるけどねえ」クスツ

薄雲「……………それは提督が私を離してくださらないからで／／／

／

提督「ケンカしてようが離すもんか。ケンカしてても愛してる」

ホツペチュツチュツ

薄雲「♡／／／／」

姉妹『……………』カワイタエミ

吹雪「こほん。お姉ちゃん本題に戻ってほしいな」

薄雲「あ、はい。それでご相談なんです、提督が離れてくださらなくて……………どうしたらいいですか？」

提督「」ホツペチュツチュツ

シーンと静まる執務室

薄雲「あ、あの！ 本当に真剣にご相談してるんです！ 提督は私が任務以外は私の側を離れようとしなくて、このままじゃ私危険が危

ないと思うんです！」

くテンパリ過ぎて意味不明の言葉まで飛び出す奥様く

初雪「等と言っております」

吹雪「なるほど、ではこれにて解散」

く吹雪たちは席を立つく

薄雲「ま、待つてください！ 私、本当に悩んでいるんです！」

提督「ああ、可哀想な薄雲。でも可愛い」ホツペチュツチュツ

叢雲「んく、無理じゃない？」

白雪「そうだね」

深雪「そもそも薄雲の自業自得なのもあるからなあ、司令官の溺愛っぷりは」

薄雲「私のせいですか!？」ガーン

磯波「私も人のこと言えないけど、薄雲ちゃんとてもネガティブだもん」

浦波「ですねえ。ケツコンする前はいつも私たちに

『提督、ちゃんと私のこと覚えてくれたかな?』

『提督のお役にちゃんと立ててるかな?』

『提督って素敵だから、私が秘書艦なんかやってたら周りから変に見られちゃわないかな?』

って言っていましたから」

吹雪「だから私が姉として司令官にそのままをご報告したら、こうなったの。いいことだったでしょ? 不安は解消したし、大好きな司令官からは余計に愛されるしで」

提督「その節は世話になったな吹雪。お礼に間宮券を渡したが無くなったらいつでも言え。姉妹分用意してやる」

吹雪「あ、じゃあ今度は伊良湖券もセットで」

提督「お安い御用だ」キリッ

吹雪「てな訳で問題無し！」

薄雲「問題有りまくりですよお！ このままじゃ前の生活に戻れないです！」

初雪「前の生活とは?」

薄雲「ですから、こんなに極端な愛され方をする前です。私としては前くらいが良かったかと……」

初雪「等と意味不明な供述をしています」

叢雲「確かに意味不明よね」

白雪「前は前で薄雲がへらってたからねえ」

提督「すぐに不安になる薄雲もそれはそれで良かった。しかし男なら不安すら掻き消す愛を送らないといけないと思ったままで」ナデナデホッペチュツチュツ

薄雲「くっくっくっく」

く薄雲、何だかんだニヤケ顔をしているく

吹雪「とにかく、相談は相談じゃなかったマル」

白雪「愛されることに慣れてないだけって感じかな」

初雪「そして慣れて更なる甘みへ」サムズアップ

深雪「幸せでいいな、お前」

叢雲「甘んじて受け入れなさいな。艦隊のみんなもあんたたちの立ち振る舞いがまたいきなり変わったら、それこそ足並みが乱れるもの」

磯波「妖精さんたちも心配しちゃうもんね」

浦波「シーツをクリーニングに出さない日があるだけで妖精さんたち心配するもんね」

くということ、相談会は終わって吹雪たちは執務室を去って行ったく

薄雲「はあ……」ガツクリ

提督「どうしたんだい、俺の薄雲。まだ俺の愛が足りない?」

薄雲「そうじゃないですう」

提督「ならどうしたというんだ?」

薄雲「愛され方に困惑してるんですう」

提督「受け入れればいいんだよ!」

薄雲「無理だから言ってるんですっ!」

くとは言いつつ、提督の膝から逃げようとしな奥様く

提督「だったら今のこの状況は?」

薄雲「……知りません」プイツ

提督「逃げないって時点で薄雲はもう俺の愛に満足しているということだ」

薄雲「うう……」

提督「何が不満なんだ？」

薄雲「……私たちは寿命が圧倒的に違うからです。もし提督がいなくなってしまうたら、私はどうやって生きていけばいいのですか？」

提督「……………」

薄雲「こんなにも愛してもらえて幸せです。でもこの幸せは永遠じゃない……ですから、あまり過度なことはしないでください」

提督「無理だな」

薄雲「どうしてっ!？」

「提督、薄雲の目を真っ直ぐに見つめる」

提督「……俺が死んだあとも、薄雲に忘れられない男でいたいから」

薄雲「私が提督を忘れるだなんて……」

提督「忘れなくても、どうしても薄れてはいくだろ。でも俺はそれすらも嫌だ。そのために俺は毎日毎日薄雲からも周りからも何と言われようとイチヤイチャする」

薄雲「そんな……」

提督「薄雲がいつも忘れないでいて欲しいと願うように、俺も薄雲に忘れないでいてもらいたい。だったら生きてる間中、濃い時間を共有すればいいだけのことさ」

薄雲「……本気なのですね？」

提督「指輪を贈ると決めた時点で俺は本気だったぞ？」

薄雲「では何故急にこんなにも接し方を変えられたのでしょうか？」

提督「んなの薄雲がいつまで経っても変わらなかったからだ。だってら今まで以上にイチヤイチャしないと」

薄雲「そう、なのですね……」

提督「そうそう。確かに急ではあったかもしれないが、薄雲だって嫌じゃないから強く拒否してこないんだろ？」

薄雲「……はい」

く奥様、陥落く

提督「素直でよろしい。ならもうこんな話は終わりだ。せつかく時間
間が空いてんだからイチヤイチャしよう」ホッペツンツン

薄雲「あんっ、ほっぺつんつんしないでくださいっ」

提督「どうして？」

薄雲「……嬉しくなってしまうので……／＼／＼」ウツムキ

提督「可愛いから拒否する」ツンツンツンツン

薄雲「きやあつ、もう提督う、やめてくださいい♡」

こうして夫婦は散々イチヤイチャし、その戯れの声は執務室の外まで
で聞こえ、執務室の前を通る者たちに砂糖を吐かせたー。

薄雲 完

白雲とケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇執務室◇

白雲「旦那様、もう日付けを跨ぎますよ?」

提督「お、もうそんな時間か……」

白雲「今宵はどうされますか? このまま執務室で夜を明かしますか?」

提督「いや、官舎に戻ろう。あとは戸締まりをすればいいだけだからな」

白雲「畏まりました。ですが、戸締まりは既にこの白雲が責任を持って完了致しました故、すぐに戻られますよ」

提督「それはかたじけない。では戻ろう。白雲、手を」

白雲「はい、道中よろしくお願い致します、旦那様♡」ニコリ

くこうして提督は奥様をエスコートして夫婦が過ぐす長官官舎へ戻ったく

◇長官官舎◇

白雲「送り届けてくださり、ありがとうございます」

提督「どういたしまして」

白雲「それでは一時(いつとき)の間、失礼致します」

提督「ああ」

く白雲は先に官舎の中へ入るく

提督「……」

トントントン

提督「今戻った」

白雲「お帰りなさいませ、旦那様♡ 本日もお務め、ご苦労様でござ

いました♡」ニコツ

く三つ指突いて夫を出迎えるのが白雲なりのルールく

白雲「さあさ、旦那様♡ 帽子と上着をお預かりします♡」

提督「いつもありがとう」つ帽子&上着

白雲「白雲はこの瞬間がとても好きなのです♡」

提督「未だに俺は小っ恥ずかしく思う」

白雲「あら、どうしてでしょう?」

提督「恥ずかしいだろ……好きな女性がこうやって俺みたいな不法者を淑やかに出迎えてくれるのは……」

白雲「まあ、まあ……なんと愛くるしいことでしょう♡ お気にな

さらずとも良いのですよ?♡ 白雲は旦那様のそういうところもお慕いしておりますから♡」

提督「やめてくれ……心臓が保たん」

白雲「あらあらまあ♡」

提督「……風呂に入る」

白雲「はい、只今♡」

◇風呂場◇

提督「……」

白雲「お背中をお流ししますね♡」

提督「頼む」

白雲「はい♡」

提督「……いつもありがとう」

白雲「こちらこそ、いつもありがとうございます♡ 旦那様と出会

えて、白雲は本当に幸運です♡」

提督「俺も同じ気持ちだ……」

白雲「そんなに熱のある言葉を……旦那様は白雲をもっと夢中にさせる気ですね?♡」

提督「いや、そんなつもりは……いいや、好かれるのは素直に嬉しいんだが……そういった意図は全く……」

白雲「はあ、もう愛くるしい♡ 端なくも抑えが利かなくなってます♡」

ぴとっ♡

く奥様は堪らず提督の背中に身を寄せるく

提督「……白雲」

白雲「旦那様が白雲をいつも狂わせるのです♡」
提督「……そうか」

白雲「旦那様♡ ああ、旦那様♡ お慕いしております♡ 心の底から、誰よりも……ずっと、ずっと♡」スリスリ

「何度も何度も提督の背中に頬擦りする奥様♡」

提督「分かったから、体を冷やす前に湯船に浸かるぞ」

白雲「はい♡」

カポーン

提督「白雲は向かい合って浸かるのが好きだな」

白雲「愛する旦那様のお顔が見られますから♡」

提督「……」

白雲「お顔を反らしても、凛々しい素敵な横顔が見えます♡」

提督「……なあ、決して他意がある訳ではなく、純粋に好奇心からくる質問をしてもいいか？」

白雲「はい、何なりと♡ 因みに今日の白雲の旦那様専用愛情タンクは枯渇しております故、いつでも受け入れ万全でございます♡」

「奥様は淑やかに笑い、提督の胸板をくすぐる♡」

提督「ごほん！ それは、まあ、風呂から上がったらな……」

白雲「まあ、嬉しい♡ 寸胴で面白みのない白雲の体でそれも単装砲を滾らせてくださるなんて……♡」

提督「んんっ、ごほんっごほんっ！」

白雲「あら、質問でしたね♡ どうぞ、何なりと♡」

提督「あ、ああ。その、白雲はもし俺が他の女性にうつつを抜かしたらどうする？ やはり悲しくて涙を流してしまうのか？」

白雲「そうですねえ……白雲以外と戯れた悪い単装砲を解体しますね♡」

提督「ひゅっ」

「提督は思わず自身の愚息を守った♡」

白雲「それからお相手の方と『お話し』をしますね♡」

「提督は本当に浮気するつもりはないが、改めて絶対に浮気しないと心に誓った♡」

◇寝室◇

白雲「少々長い湯浴みになってしまいましたね」

提督「俺がくだらない質問をしたせいだ。気にしないでくれ」

白雲「はい♡」

提督「本当に浮気しないからな？」

白雲「信じていますよ♡ 金剛様や榛名様、大和様……他にも多くの見目麗しい方々が旦那様をお慕いしていますが、変わらず白雲をお側に置いてくださっていますもの♡」

提督「ああ、心配する必要はない」

白雲「心配したことはありません♡」

提督「なら良かった……」

白雲「ですが——」

提督「ん？」

「奥様はぼすんと提督の胸の中に飛び込む」

白雲「——白雲も嫉妬はします」

提督「お、おお……」

白雲「皆様、旦那様との距離が近過ぎるのです」

「むつと少し眉をひそめ、頬を膨らませる奥様」

提督「なんだ、この可愛い生き物……」

白雲「旦那様の妻にございます♡」

提督「あ、口に出してたか？」

白雲「嬉しいです♡ 嫉妬なんて消えてしまいました♡」スリスリ

提督「そうか、なら良かった」ナデナデ

白雲「それでは、白雲を召し上がられますか？♡」

提督「ただこうか……」

白雲「心ゆくまでご堪能くださいませ♡ 白雲は旦那様にだけの白雲です♡」

提督「ああ、当然だ」

白雲「♡」

こうして夫婦の夜は甘く甘く更けていった――。

白雲 完

磯波とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇鎮守府内・提督&磯波邸◇

〜寝室〜

磯波「提督さん、提督さん」ユサユサ

提督「(⊗ ω ⊗) スヤア」

磯波「提督さん、提督さん」アセアセユサユサ

提督「んんん……」

磯波「朝ですよ」ユサユサ

提督「おお、磯波。ありがと」ナデナデ

磯波「おはようございます」ニコニコ

提督「(⊗ ω ⊗) スヤア」

磯波「提督さん！」ユサユサユサユサ

〜やつの朝食タイム〜

提督「いやあ、いつも悪いな」アハハ

磯波「もう……せつかく作ったのに冷めちゃいました」プクウ

提督「そんな可愛い顔しないで機嫌直してよ」

磯波「お、怒ってるのに可愛いって言われても嬉しくありません

／／／

提督「可愛いよ？ 怒った顔も照れて噛んだとも」ニヤニヤ

磯波「もう……もうもう！／／／」プンブン

提督「可愛いねえ〜可愛いねえ〜」ニヤニヤ

磯波「くう／／／」ウツムキ

〜そんなこんなでお仕事へ〜

◇室内玄関前◇

提督「じゃあ、行ってくるよ」キリッ

磯波「行ってらっしゃい、提督さん♡」ニコニコ

提督「(⊗ ω ⊗)」

磯波「？」クビカシゲ

提督「(・ω・)」アレハ？

磯波「朝からですか？／／／／」

提督「(・ω・)」コクコク

磯波「も、もう／／／」チュツ

提督「やっぱり行つてきますのキスつて大事だよね！ 行つてきます」キリリツ

磯波「い、行つてらっしやい／／／／」ハニカミ

提督はお仕事へ

磯波「さてと……お洗濯と洗い物しよつと」ニコツ

洗い物中

磯波「今日も美味しいって言つておかわりもしてくれた♡ 鳳翔さんや間宮さんに習つた甲斐があつたなあ♡」ニマニマ

磯波「お昼はいつも通り中庭にお弁当持つてけば良いけど……何作ろうかなあ」カチャカチャ

磯波「提督さんは何でも美味しいって言つてくれるから悩んじゃうなあ」キュツキュツ

磯波「そうだ！ 青葉さんの雑誌でキャラ弁特集してたから、それを参考にして持つてこ♪」フキフキ

◇縁側◇

お洗濯中

磯波「フンフン、フフフン、フンフン♪」パンパン

磯波「今日はシートと昨日脱いた服くらいだから、すぐ終わっちゃうな」ホシホシ

磯波「シートのシミは……うん、取れてる♪」バサバサ

磯波「なんか毎日シート洗つてる気がする／／／」ホシホシ
??「あら、磯波ちゃん。今日も精が出るわね♪」

磯波「？ あ、鳳翔さん。おはようございます」ペコリ

鳳翔「おはようございます♪ 専業主婦も板に付いてきたみたいね」ニコツ

磯波「そ、そんな／／／」ワタワタ

鳳翔「ふふ、恥ずかしがらなくても良いじゃない」ニコニコ

磯波「そ、そうですね」／＼／＼「モジモジ

鳳翔「ふふふ、初々しいですね」ニコニコ

磯波「んんっ。それより、何か御用ですか？／＼／＼」パタパタ

鳳翔「あ、そうでした。これ、店のお得意様に頂いたのでお裾分けに」ニコツ

磯波「わく！ 大っきなイチゴですね〜！ 良いんですか？」

鳳翔「はい。何でも豊作だったみたいで不揃いが有り余ってしまつたみたいです」ニガワライ

磯波「ほえ〜」シミジミ

鳳翔「大っきな段ボールに三箱も頂いてしまつて……二つは間宮さんと伊良湖さんの所へ持つて行つたんですが、私の店でイチゴはなかなか出ないので……だから少し協力してくれると助かるの」ニコツ

磯波「分かりました！ ありがとうございます！」ペコリ

鳳翔「こちらこそありがとうございます♪ じゃあ、専業主婦頑張つてね」ウインク

磯波「は、はひい／＼／＼」ボンツ

◇台所◇

磯波「このイチゴどうしようかなあ」

イチゴ「へめっちや甘いぜ！」

磯波「一つ食べちやお♪」ジャー

パクン〜

磯波「甘くておいひい〜♪」モグモグ

パクン〜

磯波「んん〜♪」モグモグ

〜イチゴ堪能中〜

磯波「結局九個も食べちやつた／＼／＼」テヘヘ

(でもまだまだあるし……ジャムにでもしようかな)

〜ジャム作り中〜

磯波「後は普通に食べたり、間宮さんと伊良湖さんに教えてもらつ

たいちゴタルトでも吹雪ちゃん達に作ってあげよ♪」

磯波「アジミアジミ

(ん♪ バツチリ) ニコッ

〜いちゴタルト作り中〜

磯波「イチゴが甘いからお砂糖は少なめで大丈夫だよ」マゼマゼ

磯波「ワンホールとかにするよりは、手の平サイズの方が食べやすくていいよね？」レシピカクニン

磯波「あ、提督さんには特別にストロベリーパイ作ろ♡ 前にアツ

プルパイ作ったらまた食べたいって言ってくれたもん♡」

(リンゴじゃないけどイチゴでも喜んでくれるよね♡) ルンルン

〜お菓子作りに没頭中〜

◇鎮守府内・中庭◇

提督「ーそれで、お弁当作る時間がなくなって、今日の昼食はストロベリーパイになった、と？」

磯波「は、はい〜」シユン

提督「いやいや、別に責てるわけじゃないよ。可愛いなって思ってたナデナデ

磯波(また可愛いって言う……／／／)ムウ

提督(膨れっ面しててもかわええんじやあああ!) ナデナデ

磯波(〜♡)ニへへ

提督「とりあえず、今日の昼食はストロベリーパイなんだろう？ 早く

食べようよ！」ニッコリ

磯波「あ、は、はい♡」ニコッ

〈美味い！ 磯波愛してる！

へう、嬉しいです〜♡

〜いちヤこら昼食タイム〜

◇中庭・隅◇

吹雪「今日もアママだね〜」セイボスマイル

白雪「カレー甘口に感じるね〜」ジアイスマイル

初雪「辛口にしてるんだけどね」ノホホーン

深雪「ブート・ジヨロキア入れなきやな」トオイメ
叢雲「ハバネロより辛い物じゃないとね」トオイメ

その後、吹雪達は磯波の作ったストロベリータルトを食べたが、何か甘さを感じなかったと言うー。

磯波 完

浦波とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&浦波の部屋・寝室◇

浦波「ん……んう……」パチッ

浦波、目を覚ます

浦波「ふあ……よく寝た……ん、なんかすすすすする？」

浦波、装備無し（意味深）

浦波「!？」

浦波（ええ!? 何で!? どうして何も着てないの!?)

トンツ↑浦波何かにぶつかる

浦波「？」チラッ

提督「ん……んう……」ZZZ

浦波「!？」ドキッ

浦波「チラッ

浦波、左薬指を確認

指輪キラッ☆

浦波（そつか……浦波、昨晚……司令官と……♡／／／／）カァー

浦波、昨晚の事を思い出す

浦波「えへへ♡／／／」デレデレ

浦波「。ム。」ハッ!

浦波（早く朝食の準備しなきゃ!）

浦波、慌てて台所へ

◇台所◇

浦波「えつと、麦飯は炊いて……ある♪ じゃあ、おひつに入れて、

あとはお味噌汁作って、鯖を焼いて、お漬物を用意すれば大丈夫♪」

浦波、お料理開始!

浦波「お味噌汁の具は……司令官の好きなワカメとお豆腐にしよ

♡」

浦波「お出汁を入れて、具を投下♪」

浦波「味噌は普通より少なめの方が司令官は好き♡」

♪味噌汁完成♪

浦波「鯖の方は……ん、いい具合に焼けてる♪」

浦波「後はお皿に盛り付けて、その脇に大根おろしと九条ねぎを添えて♪」

♪鯖焼き完成♪

浦波「あとは白菜と大根のお漬物をー」

提督「おはよく……」ノビー

浦波「あ、司令官♡ おはようございます♡ もう少しで朝食が出来ますから朝の支度をして、茶の間でお待ちください♡」

提督「歯磨きとかはもう済ませたよ……」チラツ

浦波「流石ですね、司令官♡」

提督「あ、うん……ありがとう」チラツチラツ

浦波「？」クビカシゲ

提督「あのさ、浦波」

浦波「はい、なんででしょうか？♡」ニパツ

提督「それは朝食は私っていうアピール？」

浦波「？ ……ひやわ〜！／／／／」

♪浦波E・エプロンのみ♪

浦波「ししし失礼しました！／／／／ 今着替えター」

提督「だくめ♪」ギユツ

浦波「はうう♡／／／／」

提督「男のロマンが叶ったんだ。もう少し堪能させてくれたっていいじゃないか？ ん？」ニコツ

浦波「で、でも……恥ずかしい……♡／／／／」キュンキュン

提督「恥ずかしがる浦波も可愛い」ニコニコ

浦波「あ……うう……少しだけですからね？♡／／／／」

提督「ええ〜？」

浦波「『ええ〜？』じゃないですよ♡／／／／」アウアウ

提督「なら恥ずかしいのが気にならなくなればいいんだな？」

浦波「え？ 一体どういうケー」

ちゅつ♡↑提督、浦波の唇を奪う

浦波「んむう!?!♡ ちゅつ、んつ……んふあ♡ ひれい、んつ、か
んつ……あふつ、ちゅつ、んんつ♡」

提督「んつ……ちゅつ……ぷはあ……可愛いよ浦波」ナデナデ

浦波「ひれいかんのばか♡／／／」ハアハア

提督「どうして？ こんなにトロ顔のくせに？」チュツチュツ

浦波「んう♡ んつ、んゝつ♡ んはあ♡ えっちなきしゅはらめ
れふよ♡／／／」トローン

提督「浦波は俺とのキスは嫌いかな？」チュツチュ

浦波「あん……ちゅつ、ちゅゝ……はあ、しゅきれふ♡／／／」カ
オグリグリ

提督「ならもつとそのトロケた顔を見せてごらん」アゴクイツ

浦波「あ……ひれいかあん♡／／／」ハアハア

提督「朝食の前に浦波を頂いていいかな？」

浦波「はゝい♡／／／」デレデレ
ゝ朝の海戦！ 砲撃開始！ゝ

◇茶の間◇

提督「んゝ……飯は冷めても愛でホカホカだなく♪」ガツガツ

浦波「黙って食べてくださいよ、もう／／／」カオマツカ

提督「愛する浦波と愛を語りながら食事して何が悪い！」クワツ!

浦波「あゝ、もう!／／／ 分かりましたから普通に食べてくだ
さい!／／／」

提督（可愛いなく、我が嫁は……）ニコニコ

浦波「ゝ／／／」モグモグ

ゝこうして遅めの朝食を終えたゝ

◇ドア前◇

浦波「もう、司令官のせいで遅くなっちゃいましたよ」プンスコ
提督「まだ余裕あるじゃんか」

浦波「余裕があってもいつも通りの時間じゃないと駄目なんです！」ムウ

提督「てい♪」ツンツ↑浦波の膨れた頬を押す
ぷしゅっ↑浦波の口から空気が漏れる

浦波「もうもうもう！／／／／ どうしていつも茶化すんですか！
／／／／」ウガー

提督「浦波が可愛いのが悪い」キリッ

浦波「っ……う、浦波のせいにしないでください！♡／／／／ 何がキリッですか！♡／／／／」テシテシテシテシ

（嬉しいけどなんか納得いかない！♡／／／／）

浦波、照れ隠しに提督の胸辺りを叩く

提督「事実だからなく……致し方ないのさ」キラーン

浦波「はあく……もう浦波のせいでいいですから、早く執務室に向
かいますよう……本当に遅刻しちやいます」ダツリヨク

提督「そうだな。ケツコンしたからといって怠慢は良くないから
な」ニコニコ

浦波「……ソーデスネー」ボウヨミ

（そういう所はしっかりしてくれるのに……もう♡）

ガチャー

提督「さあ、行こうか、マイスイートハニー、浦波♪」

浦波「普通に呼んでください♡／／／／」↑実は嬉しい

提督「あ、そう言えば言い忘れてた。浦波……」

浦波「今度は何ですか？」ナゲヤリ

提督「今日のリボン、白で似合ってるぞ♪」

浦波「っ!?!」ドキッ

（気付いてくれた♡／／／／）

提督「それにリボンも一緒に三つ編みに編み込んでるから、更に可
愛いぞー！」

浦波「わ、分かりましたから……もうその辺で♡／／／／」ニコニ

ヨ

（嬉しい♡／／／／）

提督（めちやくちや喜んでる顔だな……愛いのう、我が嫁は♪）

「さあ、改めて張り切って行こう♪」ヒダリテサシダシ

浦波「はい♡」ギョツ

こうして本日も鎮守府にシュガーが吹き荒れるー

浦波 完

綾波とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&綾波の部屋◇

綾波「く♪」トントントン

綾波、お料理中

提督「ふあゝ、おはよゝ」アタマポリポリ

綾波「あ、司令官♡ おはようございます♡ 今朝食の用意が出来

ますから、身支度をして来てくださいます♡」

提督「はいよゝ」ノシ

綾波揃って朝食

提督「今日の味噌汁もウマイな」ゴクツ

綾波「ありがとうございます♡」ニパツ

提督「綾波の味噌汁を飲まないと一日が始まらないからなあ」

綾波「そう言ってもらえて嬉しいですう♡」ニヨニヨ

提督「蕩けた顔も可愛いなく」アハハ

綾波「もう、司令官ったらあ♡」テレリテレリ

綾波揃って夫婦はお仕事へ

◇執務室◇

綾波「司令官、遠征部隊と演習部隊共に出撃しました。次はどうしましようか？」

提督「……レベリングも合わせて重巡洋艦の者達と軽空母の者達を基幹に、練度の低い駆逐艦の者達を順にキス島海域へ向かわせよう」

綾波「了解しました」ケイレイ

ー。

綾波「司令官、第一艦隊出撃しました。次はどうしますか？」

提督「大淀の所に行つて任務遂行状況の確認を頼みたい。俺は第一艦隊の連絡を待ちつつ、この書類の山を片付ける」

綾波「了解しました」ケイレイ

ー。

綾波「司令官、お茶を淹れて来ました。一服なさってくださいませ」

提督「ああ、ありがとう」ゴクツ

綾波「♡」ニコニコ

提督「綾波が淹れるお茶はいつも飲みやすくて美味しいな」ニコツ

綾波「司令官の好みは把握してますから♡」ニパツ

提督「本当にいい嫁さんを持ってたよ」ナデナデ

綾波「あ……えへへ♡ いい旦那様にもらってもらえて綾波は幸せです♡」ニコニコ

提督「なら、これからもいい旦那様と思われるように頑張るよ」ニコツ

綾波「そんなことしなくても、司令官はずっと素敵なお旦那様ですう

♡」スリスリ

提督「可愛いことを言うんじゃない。余計に惚れるじゃないか／＼」テレツ

綾波「綾波は毎日毎日司令官の素敵なお所に惚れちゃってますよ♡

今日よりも明日はもっと司令官のことが好きになります♡」ピトツ

提督「く／＼／＼」ナデナデ

綾波「えへへ♡／＼／＼」テレリテレリ

◇執務室外・ドア前◇

提督『自分で言ってるよ／＼／＼』

綾波『だつて♡／＼／＼』

／イチャイチャラブラブ＼

由良「入りにくいわね」ニガワライ

吹雪「司令官と綾波ちゃんラブラブ／＼／＼」

白雪「今入ったら馬に蹴られちゃいそうだね」ニコニコ

初雪「もう遠征報告なんてしないで帰りたい……」

磯波「でも報告はしなきゃ」アセアセ

敷波「でもこの中に突入するのは難易度高いよね」ニガワライ
く結局みんな突入して報告したく

昼――

◇提督&綾波の部屋◇

「夫婦は部屋に戻ってお昼休憩」

綾波「司令官、お味の方はどうですか？」

提督「ああ、凄くウマイよ。綾波のこの和風オムレツは最高だ！」マ
グマグ

綾波「嬉しいです♡ 今回の玉ねぎは少し大きめなみじん切りに
して歯応えを出してみたんです♡」

提督「うん、シヤキシヤキした食感もあるし、醤油と大根おろしが
実に合う！」モグモグ

綾波「まだまだありますから、たくさん食べてくださいね♡」ニヨ
ニヨ

提督「そんなこと言ってる間におかわりだ！」っ茶碗

綾波「ふふ、はくい♡」

「昼食を終えて食休み」

綾波「司令官♡」

提督「ん？」

綾波ニコニコ「どうぞ♡」オヒザポンポン

提督「お、おく／／／／」コロソ

「提督、綾波の膝枕へ」

綾波「午後のお仕事まで、綾波が癒して差し上げますね♡」ナデナ

デ

提督「綾波には敵わないな」アハハ

綾波「ふふふ♡」

提督「綾波はいい匂いだな」

綾波「恥ずかしいのであんまり嗅がないでくださいね？／／／／」

提督「少しなら嗅いでもいいんだ？」

綾波「そ、それは……きつ気に入ってもらえてるなら少しくらいは

……／／／／ハウウ

提督「あはは、ごめんごめん。少し意地悪な言い方だったな」ホッ

ペナデナデ

綾波「あ……えへへ♡ なら口付けしてくれたら許してあげます♡」

提督「お安い御用さ♪」

綾波「司令官……ん♡」

ちゅっ♡

提督「機嫌は直ったかな？」ニコッ

綾波「はい♡ もうご機嫌です♡」ニヨニヨ

(初めからご機嫌ですけど♡) テヘッ

提督(綾波は可愛いなあ♡) ホッペナデナデ

綾波「あん♡ 綾波のほっぺ気持ちいいですか？♡」エへへ

提督「もう最高……いつまでも触っていたいよ」

綾波「お好きだけどうぞ♡」ニヨニヨ

提督「ではお言葉に甘えて……」ナデナデナデナデ

綾波「きやく♡」

◇部屋外・ドア前◇

綾波「はあく、癒されますう♡」

提督「俺が癒されてるの？」

綾波「司令官がそばに居てくれるだけで癒されます♡」

提督「俺も綾波がそばに居てくれるだけで癒されるよ」

綾波「司令官♡」

提督「綾波……」

／シレイカーン！ アヤナミー！

霧島「これは……もう少し待ちましようか」ニガワライ

高雄「午後からの作戦の打ち合わせはもう少し後からですね」ニガ

ワライ

愛宕「ラブラブで羨ましいわ♡」クスクス

長良「でも仲良過ぎだよね♡／／」アハハ……

川内「今日は夜戦だからなんでもいい♡」ルンルン

そしてその夜の海戦で提督は素晴らしい采配で艦隊を指揮し、綾波

は獅子奮迅ならぬ黒豹奮迅の活躍を見せたー。

綾波 完

敷波とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇鎮守府内・中庭◇

敷波「んく……」ノビー

「しきになつみ〜」

敷波「ん？」クルツ

綾波「やつほ♪」ノシ

吹雪「こんにちは」ノシ

磯波「こんにちは〜」ペコリ

敷波「あれ〜、みんなしてどうしたの〜？」

綾波「ついさつきそこで会ったの。それで今日は天気が良いから、

中庭に行こうって話になつて〜」

吹雪「そしたら先に敷波ちゃんが居たから声を掛けたの♪」

磯波「敷波ちゃんは休憩？」

敷波「まあある意味休憩かな」

吹・磯・綾『？』クビカシゲ

敷波「今司令官がさ〜、お昼ご飯作りに行つてるからさ〜♡」ニハ

へ

吹雪「あく、なるほど〜」ニガワライ

磯波「良かったね、敷波ちゃん」ニコニコ

敷波「別にそこまで良くはないけど、まあ悪い気はしないな〜♡」デ

レデレ

綾波「ふふ、幸せそうで羨ましいな〜」ニコニコ

敷波「ま〜その〜、それなり……かな。うん♡」エヘヘ

吹・磯・綾『（お顔はニヤけてるけどね〜）』クスクス

「敷波〜！」

吹雪「あ、司令官の声だ」

磯波「お料理出来たのかな？」

綾波「良かったね、敷n〜」

敷波「じゃあね、みんな！」シユンツ

敷波、瞬く間に提督の元へ

敷波「司令官く♡」ダキツキ

女提「あ、ここに居たのねく、ご飯出来たわよ♪」ウケトメ

吹雪「もうあんな所に居るく……」ウワー

磯波「見えなかったく……」キョウガク

綾波「流星は敷波ね……」フフフ

女提「吹雪達にちゃんと挨拶したの？」

敷波「ちゃんとしたよ」プクウ

女提「ならいいわ。さ、お昼にしましょう♪」ナデナデ

敷波「うん♡」ギューツ

吹雪「幸せそうにしちやって♪」

磯波「敷波ちゃん可愛い」ニコニコ

綾波「後はもう少し素直になればいいんだけどね」ニガワライ

女提「今日はオムライスにしたのよ♪」

敷波「ホントく!? やった！ 司令官ありがとく♡」アタマグリグ

り

／ラブラブイチャイチャ

吹雪「案外簡単にデレたね」サトウウツプ

磯波「そうだね」サトウツツ

綾波「敷波……恐ろしい娘！」サトウダバ

◇提督&綾波部屋◇

女提「手は洗った？」

敷波「洗ったよ！」ノシ

女提「んっ、よろしい！ では……いただきます！」人

敷波「いただきます」人

敷波、オムライスを堪能中

敷波「はむ♪ はむ♪ はむ♪」パクパク

女提「く♪」ニコニコ

敷波「んく♪ おいひい♪」ムグムグ

女提 「敷波への愛が沢山入ってるからね」ウインク
敷波 「は、恥ずかしいこと言わないでよ……嬉しいけど♡／／／／」
パクン

女提 「私は恥ずかしくないもん♪」

敷波 「つたくもう……♡／／／／」テレリ

女提 「照れてる敷波は可愛いなあ……いつも可愛いけど」ニコニコ
コ

敷波 「そ、そんなこと言ったって……何も出ないよ？／／／／」
カー

女提 「見返りが欲しくて言ってるんじゃないもの♪」

敷波 「バカ♡／／／／」ニハへ

女提 「私はとつくの昔から敷波愛よ」^{バカ}ニツコリ

敷波 「♡／／／／」↑嬉し恥ずかしい

く御馳走様でした！く

敷波 「美味しかった♪ 洗い物はアタシがやるねく」

女提 「なら一緒にー」

敷波 「だくめ、司令官はお料理してくれたから、これは敷波が司令官にすることなの！ とっちやヤ♡」メツ

女提 「キューーン

女提 「じゃ、じゃあお願いしようかな／／／／」ドキドキ

敷波 「任せてく♡」ルンルン

女提 (天使だわく／／／／)

敷波 「く♡」ジャブジャブ

く洗い物も終わり、揃って食休みく

敷波 「司令官の膝枕って最高く♡」ゴロゴロ

女提 「お気に召してもらえて光栄だわ♪」ナデナデ

敷波 「ねえ、司令官……」

女提 「ん？ どしたの？」

敷波 「司令官、あのさく、言いたいことあるんだけどさく……／／／／」
／／「モジモジ

女提 「ゆっくりでいいわよ」ニツコリ

敷波 「うん……あつ、あのね……司令官……」ウワメツカイ
女提 「ナデナデニコニコ」

敷波 「やっぱ、いい！ 言わない……」プイッ

女提 「あら、残念♪」クスクス

敷波 「全然残念そうに見えないんけど？」ジトツ

女提 「いつものことだからね」フフ

敷波 「いつ、いつもじゃ！ うう……いつも、かな……」

女提 「ナデナデ」

敷波 「……」アシバタバタ

女提 「敷波」

敷波 「な、何？……」

女提 「私の料理、今日も沢山食べてくれてありがと♪ 大好きよ♪」

オデコチュツ

敷波 「!?……」キユンキユンキユン

敷波 「おでこだけじゃ……ヤ……」ボソツ

女提 「ん？」ニヤニヤ

敷波 「もう、分かってるくせに……！ 意地悪しないでよう……」

……」モジモジ

女提 「だって可愛いんだもん♪」クスクス

敷波 「バカ……！……」

女提 「ごめんね♪」ナデナデ

敷波 「いつ、いいから早くしてよ……」プンポン

女提 「は……い♪」ホッペナデナデ

敷波 「ん……」オメメトジル

ちゅっ♡

女提 「これでどう？」ナデナデ

敷波 「もつと！……」クチビルサシダシ

女提 「は……い♪」チュツ

敷波 「っ……んっ……ちゅっ……ちゅ……んはあ……」トローン

女提 「♪」ニコニコ

敷波 「もつとお……」

女提「はくい♪」チュツ

敷波「んむう♡ ちゅっ♡ んん♡ んあ♡」チュツチュツ

敷波（『好き』って直接言うのはまだ恥ずかしいから）

女提「ちゅっ……んっ……っ……ぷはあ……満足した？」

敷波「まだ♡」チュツ

女提「あん……んんっ……んはあ、ちゅっ……」

敷波（行動でいっぱい『好き』って伝えるね♡）

敷波「んはあ♡ えへへ♡」ギューツ

女提「大好きよ、敷波♪」ナデナデ

敷波「うん♡」

敷波（アタシも司令官のこと大好きだよ♡）チュツ

こうして夫婦はお昼休み一杯までキスしていたというー。

敷波 完

天霧とケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇艦娘浴場◇

綾波型姉妹、揃って入浴タイム

カポーン……

天霧「くはあく……仕事を頑張ったあとの風呂は身にしみるね、
こんちくしよ」

狭霧「お疲れ様です、天霧姉さん」ニコツ

天霧「おく、狭霧もお疲れ」ノシ

綾波「とうとう明日ですね」ニコツ

天霧「そうだな。でもこのあたしが支えてんだから当然っちゃ当然だけだな」ニシシ

敷波「おめでたいけど、アタシはまだちよつと実感湧かないなあ」
漣「あく何かそれ分かる。初期艦としてご主人様と色んなことあつたけど、今回みたいなのは流石に……」ニガワライ

朧「アタシは嬉しいな。もっと強くなれるってことだし」ニコニコ
曙「ま、クソ提督なりに頑張つて来たんだから、そこは評価してあげるわ」フンツ

潮「もお、曙ちゃんったら」クスクス

天霧「曙、あたしの前であいつをクソ呼ばわりすんなって前に言つたはずだよな？」ニッコニコ

曙「うっ」メソラシ

狭霧「まあまあ、姉さん」ドオドオ

漣「あれはボノタソのデフォオつすから、天霧ネキどうかこの通りで」
フカブカ

天霧「つたく……旦那をクソとか呼ばれていい気分しねえんだかな？」

曙「ご、ごめん……」

綾波「それに司令官は明日から元帥海軍大将になるんですからね

？」

曙「わ、分かってるわよ……」ブクブク

「明日は任命式典を控えている」

漣「漣も”ご主人様”なんて気安く言えなくなっちゃうな」

天霧「んなの気にする玉じゃねえよ、あいつは」ケラケラ

敷波「天霧はいつもアタシらの前ではあいつ呼ばわりだもんね」

ニガワライ

天霧「階級がどうなるうが、あいつはあいつだろ。寧ろ階級が変わってから扱い変える方がどうかしてるぜ？」

隴「確かにね。それに提督も元帥になったからって鎮守府を離れる訳じゃないし」

曙「現場主義だからね、あのクス……提督は」

潮「それに前と違って今は元帥が一人じゃないもんね。中には大本営に入る人も居るけど……」

天霧「ま、人それぞれ事情があんだろ。あたしらの鎮守府はこれまですりでも変わんねえさ」

狭霧「そろそろ、上がりましようか……天霧姉さんもそろそろ提督の元へ行きたいですよ」ニコツ

天霧「バカ、わざわざんなこと訊くなよ♪／／／」テレリ
姉妹『ニヤニヤ

「そしてお風呂から上がって解散」

◇提督&天霧の部屋◇

ガチャー

天霧「たっだいま」と

シーン……

天霧「ありや？ あいつまだ風呂から帰ってないのか……んじや、晩飯の支度して待っててやっか♡」ニシシ

天霧（愛する人が美味そうに食べてくれと料理も上達するって不思議だよ♡）デヘヘ

それから一時間後――

天霧「……………遅えっ！」

く提督、未だ帰らずく

天霧「連絡も寄越さねえでどこほつつき歩いてんでえ、あいつは!?
せつかく前祝いってんで、すき焼き作ってやったってのに！」イラ
イラ

天霧（いつもならとつくに帰ってきてんのに、何かあったのか？

まさかあいつの昇進を快く思っていないやつらから何かしら受けたり
とか……………）

天霧「いいや、そんなことない」ブンブン

天霧「そもそも男用の風呂場は本館内にあるし、あいつはなよつち
く見えて合気柔術家だし……………」ウーン

天霧「ハッ！」

天霧「まさか風呂場で倒れちまつてんのか!？」ガタツ

く天霧、お風呂場へ急行く

◇本館内・廊下◇

天霧「はあはあ……………つはあ……………あっ！」

提督「」

く提督を発見く

天霧（見つけたぞ、こんちくしょう!）

天霧「……………っ!？」

く提督、げっそりした表情で窓辺にく

天霧「お、おいおい、どうしたってんだよく? 何かあったのか?」

アセアセ

提督「天霧……………みんなとお風呂に行ったんじゃ?」

天霧「んなのとつくに済ましたよ。今何時だと思ってるんだ?」ニガ
ワライ

く提督、腕時計を確認く

提督「もうこんな時間だったのか……………」ハハハ……………

天霧「」スツ

ギユツ♡↑天霧、提督を抱きしめる

天霧「部屋に戻ろうぜ……晩飯、温め直してやつから♡」セナカポ
ンポン

提督「天霧……」

天霧「な？♡」ニコツ

提督「ああ」ニコリ

く天霧に手を引かれて、提督は部屋へく

◇提督&天霧の部屋◇

天霧「ガツツリ食えよ？♡ 明日の式典で、んな湿気た顔じゃ締

まらねえからな♡」ニコニコ

提督「ありがとう、天霧……すごく美味しいよ」ニコツ

天霧「てやんでい♡ 頑張って作ったんだからあたぼうよ♡」ド
ヤア

提督「お代わりくれないか？」つ茶碗

天霧「おう、食え食え♡」テシテシ

提督「そ、そんな大盛りにししないで、普通で」アセアセ

天霧「こんくらい男なら平らげろ、べらぼうめえ♡」テシテシ

提督「アバババ

く晩御飯を終えた夫婦は、布団で寛ぎタイムへく

◇寝室◇

天霧「んく、やっぱ夜はこうだよなく♡ 安心するぜく♡」スリス

リ

提督「僕もだよ」ナデナデ

く布団の上で夫婦は互いを抱きしめ合うく

提督「天霧……」

天霧「んく？ どうしたく？」

提督「どうして何も訊かないの？」

天霧「あたしの旦那はいちいち訊かなくても話してくれるって信じ
てっから♡」ニコリ

提督「その言い方はズルいなく」ニガワライ

天霧「一人で勝手に思い悩んでる方がよっぽどズルいって、あたしは思うけどなく♡」ホッペツンツン

提督「天霧には勝てないなく／＼／＼」

天霧「今更気付いたのかよ、バカ♡」へへ

提督「……明日は任命式だろ？ 誰かが小破したら帰還命令を出す僕みたいな弱虫が、元帥なんて大役を任されていいのかわからなくて考えちゃって」

天霧「相変わらず小せえことで悩んでんなく」ニガワライ

提督「し、仕方ないだろう……僕が今までやってこれたのはー」

天霧「みんなのお陰……だろ？」

提督「ああ、そうだよ」

天霧「あたしらはそんな提督だから支えてんだ。誰よりも臆病で、誰よりも優しい提督のことをな」

提督「……………」

天霧「確かにこれまでの元帥にしちゃあ、華々しい戦果も功績もない。勲章だつて片手で数えられる」

提督「ごもつとも」ニガワライ

天霧「でもよお……提督はこれまで艦娘を誰一人も沈めてないし、大規模作戦も必ず完遂してきただろ？ これが評価されなかつたら、あたしや怒鳴り込んでたぜ……」

天霧「提督は艦隊の……あたしの誇りだ。それにケチ付ける輩が居るってんなら、あたしやみんなが黙らせてやる」

天霧「だからドーンと胸を張りな♡」ニパッ

提督「ありがとう、天霧……僕は君に出会えて幸せだ」ギューッ

天霧「へへ、出逢いってのは面白いな♡」スリスリ

提督「いくら感謝してもしきれないよ、本当……」ニコッ

天霧「今出来ることなら一つあるぜ？」ニシシ

提督「え……うわっ」

天霧「提督を仰向けにして覆い被さる」

提督「あ、天霧？」

天霧「明日にや元帥にもなるんだ……その次はパパになろうぜ？」

♡

提督「ええ!?! / / / /」

天霧「大丈夫……うんと優しくしてやっから、提督は天井の染みでも数えとけ♡」へへへ

提督「立場が逆なんじゃ…… / / / /」ドキドキ

天霧「あ、やっぱあたしを見とけ♡ よそ見厳禁……な?♡」ニパツ

提督「お手柔らかに…… / / / /」

天霧「それは無理だく!♡」ガバツ

こうして夫婦はより一層絆を深めた。

後、提督は天霧との間に子宝も出来、歴史に名を連ねる名将とまで謳われる存在になる。

そんな名将の傍らには、常に彼を支える小さく強い妻が笑顔で彼の背中を叩いていたそうなり。

天霧 完

狭霧とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇提督&狭霧の部屋◇

狭霧「すみません。狭霧たちのお部屋のお掃除手伝ってもらっちゃって……」

天霧「いいっていいって♪ 今日暇だしな♪」

綾波「そうよ。今日は司令官が同期の方々と一緒に飲みに行かれて、出撃も訓練も出来ないから丁度いいし」ニコッ

敷波「にしても狭霧も甲斐甲斐しいよね。司令官は遊んでるのに、その間にこうして掃除なんてしてあげちゃってさ」

狭霧「あの人はいつも狭霧たちのためにお仕事を頑張ってくれます。そんな方がやっとなのお休みを過ごしているんですから、これくらいはして差し上げないと」ニコッ

天霧「すっかり奥さんの顔だね」ニシシ

綾波「狭霧が幸せそうでお姉ちゃん嬉しい」ニコニコ

敷波「唯一のケツコン艦だからね」ニヤニヤ

狭霧「も、もう……茶化さないでください……／／／カァー

姉ズ『ニヤニヤ

ガチャー

漣「只今戻りやした♪」

隴「明石さんのところで飲み物とか買ってきたから、休憩にしよう」

く第七駆逐隊、帰投く

く一旦手を休めておやつ休憩く

曙「お茶とラムネと買ってきたから好きなの取って。あたしは残ったのでいいから」

潮「お菓子は駄菓子を色々と買ってきました」ニコニコ

漣「狭霧ネキく、お茶とラムネどっちがいいく？」

狭霧「狭霧はお茶がいいな」ニコッ

漣「あ〜い♪」コトツ

く狭霧、みんなより少し遅れてちやぶ台へく

天霧「ん、何のメモだ、それ？」

狭霧「お買い物物のメモです。あの人がお夕飯には戻るので、胃に優しい物を作つといて差し上げないといけませんし、他にも色々……」ニコツ

曙「クソ提督のこと甘やかし過ぎなんじゃない？」

狭霧「そんなことはありません。あの方は狭霧無しでは生きていけませんから♡」ユガンダエミ

姉妹ズ『ゾツ

漣「ど、どんなの作る予定なの？」

狭霧「しじみのお味噌汁に肉うどんですかね。お酒を飲んだあとですから」ニコツ

朧「どっちも二日酔い予防効果があるね」

潮「流石だなく」

曙「てか、それならあたしらが買い物行く時に言えば良かったじゃない。近所のスーパーくらい行ってあげるのに」

狭霧「んく、それも考えたんだけどね。でもこっちは流石に頼めないから」ニガワライ

天霧「こっちのつて？」

狭霧「あの人がよく読む雑誌♪」

く週刊ぷるるんおっぱいコレクションR—18く

曙「(^ 皿 ^) ……」オチャブフウーツ

潮「／／／」ハワワワ

漣「ほうほう、ご主人様も男ですからなく」

朧「うへく、Jカップとか妖怪じゃん」ペラペラ

天霧「そういうのまでお前が買ってきてやらなくてもいいんじゃないか？」ニガワライ

狭霧「何かとお忙しい方ですから」ニツコリ

綾波「甲斐甲斐しいですねえ」ウフフ

敷波「ニガワライ

曙「つか、あんたつてよく好きな人がそういうの読んでても平気よ

ね……あたしにはちよつと無理だわ」フキフキ

狭霧「だつて所詮は写真ですし、それくらい可愛いじゃないですか
♪」クスクス

漣「妻の余裕ですな」ニヤニヤ

狭霧「だつて……」ニタア

姉妹ズ『ゾクツ

狭霧「あの人は狭霧が一番で狭霧を愛してて狭霧の旦那様で狭霧が
全てで狭霧から一生離れられないもの♡」

く恍惚ポーズ+歪んだ笑みく

狭霧「狭霧を愛してくれていても、こういった写真くらいは見てしま
うもの……それがあの人の♡ でも必ず最後には狭霧の元へ戻って
来てくれる……だからこれくらいいいの♡」ハアハア

P r r r …… P r r r ……

狭霧「あら、電話……きつとあの人からだわ♡」パタパタ

く狭霧、電話対応で席を外すく

曙「こつわ……」ブルブル

漣「愛がくつそ重いお」ガクガク

潮「そ、それだけ信頼してる、のかな？」アハハ……

朧「お互いが幸せならそれでいいんじゃない？」ニガワライ

敷波「アタシは何も見えない」ウンウン

天霧「痴情のもつれとかになんないことを願うぜ」

綾波「ふふふ、きつと大丈夫よ♪」

狭霧「はい……は……い、分かりました♡ 気をつけて帰ってきてく
ださいね♡ 帰ってくるまでドアの前でずっとずっとずっとと
と待ってますから♡」

姉妹ズ『（本当にずっと待ってるんだろ……）』

そして夕方に提督、帰宅ー

狭霧「すみません、お買い物までしてきて頂いて……」

提督「いいっていいって、酒飲んだって言っても俺は酔うまで飲ま
ないしさ。それに綾波たちと部屋の掃除までしてくれたんだろ？」

これくらいどうってことないって」ナデナデ

狭霧「あなた……♡」キューン

狭霧「今すぐ狭霧が腕によりをかけてお夕飯を作りますね♡」ホッ
ペチュツ

提督「よろしく」ホッペチュツ

くそれから狭霧は割烹着を着て台所へく

狭霧「あなたく、お風呂はどうしますか？♡」

提督「酒飲んじやつたし、朝に入るよ。とりあえず体だけ濡れタオルで拭いてくるく」

狭霧「分かりました♡」

く二人揃って頂きますく

提督「くくく、味噌汁が身にしみるく」ズズツ

狭霧「おうどんもありますからね♡」ニコニコ

提督「ありがとう……あ、これ忘れないうちに渡しとくな」

く軍帽を狭霧に渡すく

狭霧「はくい♡ あとでGPSの電池を交換しておきますね♡」

提督「その電池が切れなきや、もう少しみんなと飲んでただけ
どなあ」

狭霧「狭霧が至らずにすみません」フカブカ

提督「あ、悪い悪い。別に狭霧を責めてる訳じゃないんだ」

狭霧「でも……」

提督「それをやるとけば狭霧は安心なんだろう？ こっちは遊ばせて

もらったんだし、それぐらいいいよ」ナデナデ

狭霧「あなた……♡／／／」キューンキューン

提督「今度はデートしような」ニコツ

狭霧「でしたら狭霧は他家デートがいいです♡」

提督「遠慮する必要ないぞ？」

狭霧「遠慮なんてしてません♡」

提督「しかしなあ」

狭霧「だって……」

提督「？」

狭霧「だってお家デートなら狭霧があなたをずっと独占していられますから♡」ハアハア

提督「なるほど……」

狭霧「その時は朝から次の日の朝まで、ずっとずっとずっとずつとずつとずつと、狭霧だけを見ていてくださいね♡」ニコニコ

提督「寝かせてはくれないのか……」コマリエガオ

狭霧「今夜も寝かせてあげませくん♡ 今朝そう約束しましたよね？♡」ハアハア

提督「おうふ」

狭霧「く♡」コウコツポーズ

狭霧（狭霧は永遠にあなたのもの……♡）

（死んでもあなたを離さない……♡）

（そしてあなたも狭霧を離さない……♡）

狭霧「………幸せ♡」フッフ

提督（赤مامシ飲もう……）

その夜、提督は狭霧から一睡も許されず、ゲツソリしながら朝を迎えたそうなのー。

狭霧 完

朧とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れー

◇埠頭◇

提督「↑第一艦隊帰還待ち

「ーい！」

提督（戻って来たか……）ホッ

く艦隊が戻って来た！く

朧「旗艦朧、そして第一艦隊、みんな帰還しました！」

提督「お疲れ様、朧。みんなもお疲れ様」ケイレイ

朧「はっ！」ケイレイ

艦隊『はっ！』ケイレイ

提督「じゃ、みんなドックで修理してから、補給してくれ」

全員『了解！』ケイレイ

提督「ん」ケイレイ

くみんなドックへく

朧「提督」クイクイ

提督「？ どうした？」

朧「朧、提督の役に立てた？」クビカシゲ

提督「勿論、ありがとうな」ナデナデ

朧「えへへ♡」ニコニコ

提督「さ、朧もドックに行つて補給してこい」ナデナデ

朧「その前にさ……／／／」モジモジ

提督「？」クビカシゲ

朧「わ、分かつてよく、もうく／／／」ギューツ

提督「？」ナデナデ

朧「な、撫でるじゃなくてく／／／」アタマグリグリ

提督「あ、キス？」

朧「／／／」コクコク

提督「お帰り、朧」チュツ

朧「んっ♡」ギューッ
／イチャイチャラブラブ\
曙「イライラ
漣「オメメシイタケ
潮「／／／」ドキドキ
→朧待ち
朧「じゃあ、ドック行ってくるね?♡」ギューッ
提督「行つてらっしゃい」ギユッ
／そしてやつとドックへ／

◇ドック◇

カポーン

朧「はく、気持ちいい」クハー

曙「そうね」

漣「いやあ、さつきもアツアツでしたね、朧ちゃん♪」グフフ

潮「ニガワライ

朧「え、恥ずかしいな／／／」テレツ

瑞鶴「あんだだけ普段からイチャイチャしてて、今更何を恥ずかし
がつてんのよ」ニガワライ

翔鶴「ふふ、仲睦まじくて羨ましいわ」クスクス

朧「翔鶴さんも瑞鶴さんも止めてよく／／／」ブクブク

曙「でも毎回毎回良くやるわよね、あんだ等は」アキレ

朧「そんなにしてる?／／／」

漣「朧ちゃん的にはどうなの?」ニヤニヤ

朧「えく……うくん」ウデクミ

潮「／／／」ドキドキ

／朧、回想中／

朧「……いっぱいキスしてる♡／／／」ブクブク

曙「ヤレヤレ

漣「ほうほう」ニシシ

潮「／／／」ハワー

翔鶴「ふふ、熱いわね♪」

瑞鶴「そもそもなんでそんなにキスするのよ？ 映画やドラマでもそんなにしてるのはそうそう無いと思うんだけど？」

隳「提督とのキスってさ……」

全員『キョウミンシンシン』

隳「すると幸せな気持ちになって、胸がきゅゅってなるんだ♡／／
／／ んでね、提督の唇が離れると、なんか寂しくなって、またしちやうんだよね♡／／／／」デレデレ

全員『（乙女の顔だ〜！／／／／）』

隳「それだけ提督が好きなんだなって実感する♡」ニヨニヨ
全員『（ナチュラルに惚気けた〜！／／／／）』

隳「あゝ、提督とのキスのこと考えたら、提督に会いたくなっちゃった♡ 早く入渠終わらないかな〜♡」デヘヘ

全員『ごっちゃんです』人

隳「？」

それから暫くしてー。

◇執務室◇

コンコンー

提督「は〜い」

カチャー

隳「ただいま〜」ヒョコ

提督「ああ、お帰り。補給も済んだか？」

隳「フルフル

提督「？ 補給は大切だ。ちゃんとしないとダメじゃないか……どこか調子悪いのか？」

隳「っ」

ぽふっ↑隳、提督に抱きつく

提督「つと……どうした？」ナデナデ

隳「提督〜」カオグリグリ

提督「なんだ？」ナデナデ

隳「好き〜♡ 大好き〜♡」ギューツ

提督「ああ、俺も大好きだぞ」ナデナデ

臙「補給して♡」ヒシツ

提督「ん？ 補給物資はちゃんと配給したはずだが……？」

臙「そうじゃなくてさ♡／／／」ムウ

提督「？」

グイツ↑臙、提督の顔を引き寄せる

臙「んっ♡」チュツ

提督「んんっ!？」

臙「ん……ふっ……んあ……ん……ちゅっ♡」

提督「んっ……ちゅ……んはあ、はあ……お、臙？／／／」

臙「テイトクニウムの補給がまだだよ♡／／／」スリスリ

提督「ズキューーン

臙「いっぱい欲しいよう♡／／／」オメメハート

提督「もう少し待ってくれ……まだ仕事が／／／」アセアセ

かぷっ↑臙、提督の耳を甘噛み

臙「早く♡」ハムハム

提督「♡／／／」

臙「♡」チュパチュパ

提督「プチッ↑ステンバイイ？」

ゴー!↑提督、臙を抱き上げる

提督「今日の仕事は終わりだ。これより我々の部屋へ帰投する」ギ

ラギラ

臙「うん♡」ギューツ

提督「存分にテイトクニウムとやらを補給してやるぞ」ミミモトボ

ソツ

臙「♡♡」ゾクゾク

提督「さあ、行こうか」ニコツ

臙「優しくしてね?♡」スリスリ

提督「それは難しいな」ニカツ

臙「もう♡／／／」テレツ

提督「嫌なのか？」ニヤツ

隳「知ってるくせに♡／／／／」テレリテレリ

提督「本人から聞かないとな」フフフ

隳「提督のえっち♡／／／／」プシユー

提督「なんとでも言え」フフン

隳「も♡／／／／」ドキドキ

提督「それで、嫌なのか？」ニヤツ

隳「嫌じゃないよ♡ 提督は隳に酷いことしないで知ってるもん

♡」ギューツ

提督「ああ、沢山愛してやる」ホツペチユツ

隳「♡」コクリ

こうして夫婦はキスしながら自分達の部屋へ消えていった。

夫婦が部屋に戻るまでにすれ違った者達の多くは砂糖を盛大に吐いたとかー。

隳 完

曙とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

漣「ご主人様、ボーノ（曙）にどんな魔法をかけたんですか？」

提督「は？」

隴「曙が凄く変わったんだよ」

潮「コクコク

提督「……どう変わったんだよ？」

漣「ですからー」

ガチャー

曙「書類、大本営にちゃんと送ってきたわよ、提督……って、あんな達も来てたの？ 今お茶淹れてきてあげるから、ちよつと待ってなさい」ソソクサ

く曙、給湯室へく

隴「おかしいよ……あの曙が、アタシ達にお茶を淹れてくれるなんて……」

潮「前から優しいのは知ってたけど、提督とケツコンしてからずっとあの調子で……」

漣「正直不気味なんですよ」

提督「やはりお前達もそう思うか……」

隴「当たり前でしょ……提督大好きっ娘だったのは知ってたけど、ケツコンしてここまで変わるなんて誰も思わないよ」

潮「今の曙ちゃんが嫌な訳じゃないんですけど、なんだか落ち着かなくて……」

提督「安心しろ……俺もだ……」

隴・漣・潮『え』

提督「みんな、俺がMなのは知っているな？」

隴・漣『コクリ

潮「キョウガク

提督「ケツコン前のぼのたん(曙)はまさにツンデレの鑑だった。頭を撫でればノーモーション腹パンは当たり前前、大好きだと言ったらフルスイング張り手五発(『愛してる』のサイン)のご褒美、他の艦娘を褒めたら一日放置プレイは常識、その他ect……ツン九割のデレ一割で最高の黄金率だった……」

提督「なのにー」

ガチャー

曙「お茶、淹れてきたわよ。お茶請けは伊良湖さんの最中で良いわよね？」コト

朧「あ、ありがとう……」モナカー

漣「あざまーす」

潮「ありがとう、曙ちゃん」ニコツ

曙「別にお礼なんて良いわよ」ニコリ

トコトコー

曙「それでみんなして何の話してたの？」ストーン

「当然の様に提督の膝の上に座る曙」

提督「ー今はこれである」

朧「モナカポロツ

漣「s n e g

潮「／／／」ボンツ

曙「？ 何なの？ ねえ、あたしを仲間外れにしないでよ」ウルウル

提督「ニガワライ

朧「あ、曙が最近変わったって話をしてたの……」

曙「あたしが？」

漣「ポーノは変わった！ ツンツンしなくなった！」

曙「ツンツンって……」

潮「最近、提督に文句を言わなくなったよね」

曙「文句言うことないもの♡」ヒシッ

漣「でもご主人様は罵られたみたいだよ？」

曙「そうなの？」ウワメツカイ

提督「うつ……」

曙「ジーっ」ウワメヅカイ

提督「はい……」カンネン

曙「じゃあ、今のあたしは嫌いなのか？」ウルウル

提督「うう……」

曙「」ウルウル

提督「めっちゃ可愛くて今のぼのたんもラブリーマイエンジェルです！」カンキ

曙「♡」パー

漣「そもそも、なんで今まで隠してたのに今はオープンになったの？」

曙「提督が『お前の全てを愛してる！ だからこれからもずっと俺といてくれ！』ってプロポーズしてくれたからよ♡」ギューツ

朧「それにしたって変わり過ぎじゃない？ アタシ達だけじゃなくて、みんな驚いてるよ？」

曙「だってラブラブな所を見せつけないと、誰かに盗られちゃうかもしれないでしょ？ せっかくこんな素敵な人とケツコン出来たんだもん。誰にも渡さないわ♡」ヒシツ

潮「じゃあ、なんでケツコン前はあんなに酷いこと言ってたの？」

曙「あ、あれは自信が無かったのよ……提督に愛してもらってるかの自信が……。だからつい強くあたってただけだったの……。ごめんね、提督」ナデナデ

提督「もう何度も聞いたし、そもそもご褒美だったから。だからもう謝るな」ニガワライ

曙「本当に提督は優しくて素敵♡ もう本当に愛してるわ♡」ギューツ

提督「俺もだよ」ギユツ

曙「♡」オメメハート

朧「うひゃく／＼／＼／カア

潮「熱々だね／＼／／パタパタ

漣「砂糖吐きそう」ウツプ

曙「提督♡ 大好き♡」スリスリ

提督「俺もだ〜！」ナデナデ

曙「♡」デレデレ

潮「？ 曙ちゃん。片耳にイヤホン付けてるけどどうしたの？」

曙「あく、取るの忘れてたわ」

漣「ボーノってそんなに音楽好きだったっけ？」

曙「音楽じゃないわ……これはね♡」カチャカチャ

♡スピーカーへ繋ぐ♡

提督『お前の全てを愛してる！ だからこれからもずっと俺といてくれ！』

提督『ぼのた〜ん！ 愛してるぞ〜！』

提督『ぼのたんがいれば俺はそれだけで頑張れるんだよ』

提督『ありがとうございますっ！』

♡提督ボイスのオンパレード♡

提督「何これ!? いつも作業中とかにイヤホン付けてるとは思ってたけど、こんなの聴いてたのか!? てかなんでこんなのあるんだよ!?」ゾクゾク↑M特有の鳥肌

曙「なんでって録音してたからよ？」クビカシゲ

提督『それが何か?』みたいな顔して首傾げないですよ、可愛くて萌える」

曙「にへへ♡ これは前にプレゼントした万年筆のお陰よ♡ その万年筆は録音機能付きなの♡」ウインク

提督「なん……だど!?」ゾクゾク

漣「じゃあケツコン前、よく寝る前にパソコンで作業してたのって……」

曙「ええ、これの編集してたの♡」ニコニコ

朧「曙の愛って凄く重かったんだね……」

曙「提督は満足してるわよ？ ねえ?♡」ウワメツカイ

提督「ヤンデレぼのたんめちやカワ!」?d

曙「ね?♡」

潮「二人が幸せなら私はそれで良いと思うよ」ニガワライ

朧「そうだね……」ニガワライ

漣「恋は病と言いますし」ニガワライ

曙「恋じゃないわよ」

朧・漣・潮『?』クビカシゲ

曙「愛よ、LOVE♡ね、提督♡」ホツペチュツ

提督「そうだね♪」デレデレ

曙「ねえねえ、もっとキスして良い?♡」オメメハート

提督「どこにでもお好きにどうぞ♪」ナデナデ

／ラブラブチュツチュツ＼

漣「ちよつくらキス島海域行ってル級狩ってくる」ガタツ

朧「アタシも行くよ。今なら夕級も狩れそう」フフフ

潮「一気に殺らずに目一杯なぶつてからにしようよ」ニコニコ

提督「雪風達も連れてけよ? 後中破したら戻って来いよ?」

曙「気を付けてね!」

朧・漣・潮『ok』

キス島へ向かう三人を見送り、夫婦は仲良く艦隊の指揮を執った。
朧、漣、潮の無双ラッシュで敵艦隊は瞬殺だったとか……。

曙 完

漣とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れ前ー

◇執務室◇

提督「よし、今日のお仕事終わりー！」ノビー

漣「お疲れ様です、お嬢様♪」

提督「漣もお疲れ様」ナデナデ

漣「撫で撫でk t k r！」キラツケカンリヨウ

提督「夕食までまだ時間あるし、少しラブラブ（二人つきりで過ごす事）しよっか」ニコニコ

漣「了解です♪」ギョツ

提督「あ……もう、甘えん坊なんだから」ナデナデ
くまつたり中

提督「あ、そうそう」

漣「？」

提督「漣に頼みがあったんだよね」

漣「珍しいですね。何ですか？」

提督「聞いてくれる？」ジツ

漣「な、内容によりませんがまずは聞かないと……」アセ

提督「あ、そうだね」

漣（何なんだろ……？）

提督「漣……あたし最近気付いたんだけど、これは漣とケツコンしたあたしの前からの気持ちなの。この衝動を受け止められるのは漣しか居ないの」ガシツ

漣「は、はあ……」コンワク

提督「これを着て欲しいの！」

くコスプレ衣装くシヤランラー♪

漣「着ませんよ！」

提督「どうして!?! 制服もセーラー服だし、髪の毛ピンクだし、短めのツインテで、いかにもセーラー○ーンのち○うさちゃんじゃない

の！」

漣「だからってコスプレまでしたくありませんよ！」

提督「漣だから見たいのに……」シヨボン

漣「うっ……」

提督「せっかく夜なべして作ったのに……」シヨボボン

漣「はあく、わかりましたよ。着れば良いんですね？」

提督「さっすがあたしの漣！ 愛してる！」ダキッ

漣「調子の良いお嬢様ですね〜♪」ギユッ

〜着替え中〜

漣「どうですか？」クルッ

提督「good！」キラキラ

パシヤー

漣「どうして写真撮るんですか？」

提督「可愛いから！」

漣「／／／／」

（恥ずかしいけど嬉しいから止めてと言えない……）

提督「次はこれ！」

漣（まだあるの!?!）

〜鹿目ま〇か〜

漣「クルッ

提督「great！」キラキラ

パシヤー

漣「／／／／」

（無邪気な笑顔が眩しい……）

提督「次次！」

〜江戸〇留奈〜

漣「よく作りましたね」アキレ

提督「漣の為だもん！ これもwonderful！」

パシヤー

漣（段々楽しくなってきちゃった……）

提督「お次はこれ！」

く栗山○来く

漣「メガネとか新鮮ですね♪」カチヤ

提督「メガネ姿もexcellent!」

パシヤー

漣「次は何ですか!？」wkwk

提督「これ!」

(ノツてきたね、流石あたしの漣!) フンス

くモモ・ベリア・デビル○ク

漣「ヘアピンだけとかも良いですね♪」キラッ

提督「実にsuperb!」

パシヤー

漣「♪」ポージング

提督「可愛い♡」パシヤパシヤ

提督「はあ、堪能したく♪」ホクホク

漣「良かったですね♪」↑元通り

提督「でも、やっぱり漣は今のままが一番素敵♡」キヤッ

漣「最後に爆弾投下しないでください／／／」カオマツカ

提督「だって本当のことだもん♪」ギユッ

漣「もうく、お嬢様ったら／／／」キユッ

提督「あ、好き好きゲージMAXになった!」

漣「どうぞ／／／」メツブル

提督「漣……」ホオナデナデ

漣「」ピクン

提督「んく……ちゅっ……ちゅちゅっ、ちゅく……」

漣「んあ……あふ、んんっ……ちゅっ……はあ♡」トローン

提督「気分はいかが?」ナデナデ

漣「最高ですう／／／」ゴロゴロ

提督「漣はあたしのこと好き?」

漣「大好きです／／／」

提督「あたしも漣のこと大好き♪」ギユッ

漣「あん……／＼／＼」ピク

提督「もしかしてさっきのスイッチ入っちゃった？」ナデナデ

漣「／＼／＼」コクリ

提督「ならコスプレして着たまましょっか♡」

漣「憲兵さん呼ばれちゃいますよ♡」

提督「呼んだら見せつけちゃおうね♪」

漣「とんだ変態のお嬢様ですね／＼／＼」

提督「でもそれで感じちやう漣も好き♡」チュツ

漣「あ／＼／＼」ピクン

提督「時間はたっぷりあるから色んなシチュで楽しましょ♪」

チュツチュツ

漣「はい……んっ／＼／＼」ビクッ

く夜戦突入！く

◇執務室外、ドア前◇

提督『あら、もうこんなに♡』フフ

漣『ああ、い、言わないでくださいく／＼／＼』ハアハア

提督『嬉しいからこんなになってるんでしょ？♡』フフフ

漣『お、お嬢様の、んっ……イジワ……ああっ、あっ／＼／＼』ビ

クビク

／ピンクオーラポンポンく

朧「すごいね……」↑提督と漣を呼びに来た

潮「ラブラブだね」↑朧を呼びに来た

曙「もうほつといて食堂行かない？」↑潮を呼びに来た

朧「そうだね。提督は漣を食べてる（意味深）みたいだし」ニヤニ

ヤ

潮「これ以上ここに居たら馬に蹴られちゃいそうだもんね」ニコニ

コ

曙「盛ってるだけでしょ」ヤレヤレ

結局二人が執務室から出てきたのは深夜零時過ぎだったとい

うー。

漣
完

潮とケツコンしました。

某鎮守府、昼前ー

◇埠頭◇

潮「はあ……」

く潮、海に向かって溜息をこぼすく

「おりよう？ ウツシー、どつたの？」

潮「あ、みんな……」

漣「やほやほく」ノシ

隴ニツコリ「」ノシ

曙「しけた面して何してんのよ、みつともない」

潮「ご、ごめん……」シユン

曙「謝らなくていいわよ別に……」

漣「大丈夫大丈夫」ぼのたんの言葉を翻訳すると『あなたにそんな顔は似合わないから、悩みがあるなら話さない』って意味dー」

ドゴオ！

隴「曙のコークスクリューっていつ見ても綺麗だよねく」

漣「」チーン

曙「と、とにかく、どうせまた一人で抱え込んでるんでしょ？ 私達で良ければ話を聞くくらいは出来るわよ？」

潮「曙ちゃん……ありがとう」ニコツ

曙「ま、まだ何もしてないのにお礼とか気が早過ぎよ／／／／プ
イツ

隴（素直じゃないなあく）

「くこじや何だし、アタシ達の部屋に行かない？」

潮「うん」

曙「おら、さっさと起きろ！」ゲシツ

漣「い、イエスマム……」

◇隴・曙・漣部屋◇

朧「はい、お茶。ペットボトルのだけど」つ茶

潮「ありがとう」ニコッ

曙「で？ 悩みは？ どうせ糞提督関連でしょ？」

潮「え……うん」

漣「夫婦に託つけて、毎晩変態プレイでもさせろー」

曙「あんた少し黙っててくれない？ それともまた喰らいたいの

？」ニコッ

漣「さ、サーセン……」ガクブル

朧「提督とケンカしたとかじゃないよね？」

潮「うん、違うよ」

曙「毎日毎日、人の目も気にせず見つめ合う馬鹿夫婦がケンカなんて有り得ないでしょ」アキレ

潮「そ、そんなに見つめ合っていないよお／／／／」

漣「あれくらいは見つめ合うの内に入らないんですね分かります」

潮「／／／／」ウツムキ

潮「……あのねー」

／潮、相談中／

朧「提督がキス以上をしてくれない……ねえ」ニガワライ

曙「／／／／」ギューッ

漣「ぼのたん！ 無言で漣の内腿をつねるのはどんな意味が／！」

ツクエバンバン

潮「／／／／」ポツポツ

朧「潮にしては前向きな悩みだね。こう言っちゃ悪いけど、ちよつと安心したよ」ニコッ

曙「それには同意するわ……でも私達はキスすらしたこと無いからその先の話なんて……／／／／」ギリギリ

漣「力！ 力緩めてぼのたん！ 千切れる！」バタバタ

潮「あ、曙ちゃん、漣ちゃんじゃなくて、このタオルにしない？」アセアセ

曙「タオルが可哀想じゃない」シレッ

漣「漣は現在進行形で可哀想だよ!?!」

く取り敢えず話を元に戻すく

曙「ま、あの糞提督は潮にだけはベタ甘だからね。潮から誘えばしてくれるんじゃないの?」

潮「さ、誘うって言われてもお……／＼／＼」

漣「おっぱい見せて『抱いて!』って言えばすぐにベッド直行だと思うけど?」ニヤニヤ

臙「提督は男の人だけどそれは無理じゃない?」ニガワライ

曙「そうね……糞提督が万年発情期のセクハラ糞提督なら話は別だけど、糞提督はその名の通り糞が付く真面目だからね」

潮「ねえ、曙ちゃん……」

曙「あ」ヤバッ

潮「相談を聞いてもらってる身としてとても言いにくいんだけど、流石に糞って言い過ぎじゃない?」ニコニコ

曙「ご、ごめん……気をつけるわ……」ガクブル

臙「まあまあ……」ドオドオ

漣「ぼのたんの『糞』はデフォだから気にしないでいいよ♪」

曙（漣、後でぶん殴る♪）

漣「多分ご主人様は自分から手は出せないと思うよ?」

臙「どうして?」

漣「だってご主人様はウツシーを自分の命より大切にしてるもん」

曙「何であんたがそんなの知ってるのよ?」

漣「これでも初期艦ですから♪ 因みにご主人様がウツシーにポーズするかしないかの相談もされてたよ♪」ドヤア

潮「そ、そうだったんだ……／＼／＼」

漣「ご主人様はウツシーにぞっこんだからね。プロポーズの相談の時なんて『私が潮とケツコンしたら、潮を汚すことにならないだろうか?』って真剣に悩んでたし」ニガワライ

臙「うへ、愛が重いよ」

曙「でもくsー提督らしい発想ね……」ヤレヤレ

潮「……汚れてない」ボソッ

臙・曙・漣『え?』

潮「私、そんなことで汚れないもん！ 大好きな人とケツコンして汚れるなんておかしいよ！」

隴「う、うさー」

潮「私、提督に抗議してくる！ もっともっと触ってっってお願ひしてくる！」ダツ

く潮、提督の元へく

曙「ヤバくない、あれ？」

隴「漣、こうなるの分かってて話したでしょ？」

漣「あ、バレた？」

曙「何やってんのよ、ったく……」

漣「だってご主人様もウツシーももどかしいんだもん……さつさと本当の意味で結ばれてくれないと、漣は嫌だから！」ナキワライ

隴「漣……」

曙「馬鹿ね……」ナデナデ

漣（ご主人様の馬鹿！ 漣じゃなくてウツシーを選んだんだから、ちやんとウツシーを幸せにしてよ！）グスグス

隴（漣……本当に自慢の妹だよ……）ウンウン

曙（殴るのは明日にしてあげよう……）

◇執務室◇

バーン！

提督「む？」

潮「ハアハア

提督「潮？ どうしたんだ、そんなに息を切らせて？」

潮「私、提督に汚されてません！」ズイツ

提督「？」

潮「私は提督とケツコンして、キスも出来て、毎日幸せです！ 汚されてなんていません！」ギューツ

提督「す、すまん、何の話だ？」コンワク

潮「提督が私を大切にし過ぎてるから、私から行動することにしたんです！」

提督「」

潮「提督……潮は提督に汚されてなんていません。寧ろ毎日幸せで満たされています……なのに提督が潮に負い目を感じているなんて嫌なんです」グスツ

提督「潮……」

潮「もつと私に触れてください……抱きしめてください……私は提督にされることなら何だって嬉しいんですから」ギューツ

提督「すまない、潮……君を大切にしているつもりが、君を追い詰めていたなんて……」

潮「」

提督「私の手で可憐な君を汚したくなかった……しかしそれは逃げていたんだと、今ハッキリと自覚した。潮、こんな頼りない男ではない。そしてありがとう」ギューツ

潮「もつと触ってください……私は、潮は提督の女です♡ 汚すんじゃないなくて提督の色に潮を染めてください♡」スリスリ

提督「潮はこんなにも大胆だったんだな」アハハ

潮「こんな潮は嫌いですか？」ウワメツカイ

提督「嫌いなもんか……こんなにも愛おしいというのに……」ホツペナデナデ

潮「えへへ♡ 私も提督を愛おしく思っています♡」チュツ

こうして夫婦はより強い絆で結ばれ、末永く愛を育んでいったー。

潮 完

暁とケツコンしました。

某鎮守府、おやつ時ー

◇甘味処・間宮◇

雷「最近の暁姉はだらしがないと思うの！」

暁「ふえ？」

電「いきなりどうしたのです？」

響「前からだらしがないけどね……」

暁「ガーン

電「あ、暁お姉ちゃん!?」アセアセ

雷「前に比べて酷くなってるってことよ」

暁「何を根拠に言うのよ？」グヌヌ

響「自覚が無いようだね」

電（何が始まるのです？）

雷「暁は司令官とケツコンしてから墮落したわ」

響「この写真が証拠だ」スツ

暁「……ファツ!?」アイスポトツ

電「……はにやあ!?／／／」プリンポトツ

く仕事中の提督にだいしゆきホールドする暁の写真く

暁「こ、これくらい夫婦なんだから良いでしょっ!?!／／／」カオ

マツカ

電「はわわわわく／／／」プシユー

雷「そんなんじやダメよ！」

響「いくら夫婦でも司令官の仕事の邪魔をするのはどうかと思う

よ」

雷「公私混同は良くないわ！ イチャイチャするならプライベート

の時にしなさいよ！」

暁「うう……」

電「じゃ、じゃあ、プライベートはどんな感じなのです？」

暁「そ、それはその……可愛がってもらってるわ／／／」カア

電「なのです！」キラキラ

響・雷『』ピキッ

雷「プライベートでも甘やかされてるのね……これじゃあ、いつか愛想尽かされるわね」

響「そうなたらリコン待ったなし、だね」

暁「チーン

電「あ、暁お姉ちゃん……？」オソルオソル

暁「司令官に嫌われる……」ボソツ ガクブル

電「え」

暁「そんなのいやあく〜！」ダツ

〜暁逃走〜

電「二人共少し言い過ぎなのではなかったのです……？」

雷「良いのよ……前からラブラブだったけど、ケツコンして更に拍車が掛かって……。見せ付けられるこっちの身にもなって欲しいわ！〜フンツ

響「司令官からの寵愛を独り占めしてるから少しは仕返ししないとね」フフ

電（まるで小姑なのです……）

◇執務室◇

バターーーー

暁「じれいがくん！〜ビエーン

提督「ど、どうしたの暁？」ギョツ

暁「うえ〜くん」ホールド

提督「ととつ……おくよしよし」ナデナデ

〜暁あやし中〜

暁「クスン……」ギュー

提督「少しは落ち着いたかしら？」ナデナデ

暁「コクン

提督「じゃあ、何があつたか話してごらんなさい」セナカポンポン
暁「……あのねー」

〜暁説明中〜

暁「ーっつてことがあったの……」グシグシ

提督「なるほどね……」ヨシヨシ

(鼻肩し過ぎた私の責任でもあるわね……)

暁「司令官……」

提督「なあに？」

暁「このままだと暁は司令官に……きき、嫌われちゃうの……？」ウルウル

提督「あら、私はそんなに薄情な人間じゃないわよ？ それに好きな子に甘えられて嫌なことなんて無いわ」ニコニコ

暁「ホント……？」クビカシゲ

提督「本当よ」ニコニコ

暁「ホントにホント？」ウワメツカイ

提督「ええ、本当の本当よ」ホツペチユツ

暁「あ……／＼／＼」エヘヘ

提督「うん♪ やっぱり暁は笑顔の方が可愛いわね♪」ニコニコ

暁「えへへえ〜♪ 当然よ♪／＼／＼」テレテレ

提督(愛が鼻からこぼれ出そうだわ……)ナデナデ

暁「でも暁もレディだから、公私混同しないように気を付けるわ！」
フンス

提督「あらあら、それは残念だわ〜」ニコニコ
〜数分後〜

暁「し れ い か く ん ♡」スリスリ

提督「あ か つ き く ♪」スリスリ

(知ってた……)ニヘヘ

暁「司令官好きい〜♡」ギユツ

提督「私は暁のこと大好き〜♡」キユツ

暁「なら暁は大好きい〜♡」ホツペチユツ

提督「なら私は愛してる〜♡」ホツペチユツ

暁「えへへ〜♡」ギユツ

提督「ふふふ〜♡」キユツ

クイクイー

提督「んく？」

暁「んく♡」クチビルサシダシ

提督「ふふ」ホツペナデナデ

暁「早くうく／＼／／／」

提督「はあい……んつ、ちゅつ……」

暁「んんつ、ちゅつ……んちゅ……はあ」トローン

提督「蕩けた顔も可愛いわよ」ナデナデ

暁「ニヘラ

提督「ニコニコ

クイクイー

提督「んく？」

暁「今晚は沢山甘えたい……」ミミモトボソツ

提督「じゃあ、沢山愛してあげる♪」ギユツ

暁「当然よ♡」キユツ

くその晩めちやくちや夜戦したく

く翌朝く

◇廊下◇

暁「司令官く♡」ホールド

提督「暁く♡」ウケイレ

／イチャイチャラブラブく

雷「昨日より歯止めが利かなくなってるわ……」

響「バカップルには効果無しだったね……」ハラシヨー

電「寧ろ火に油だったみたいなのです／＼／／」ドキドキ

暁「司令官♡」ギユー

提督「暁♪」ニコニコ

それ以来『ダツコちゃん暁』は当鎮守府の名物となったそうなりー。

暁 完

響（В е р н ы й）とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

コンコンー

響「開いてるよ」

ガチャー

暁「失礼するわね」

雷「遠征終わったわよ♪」

電「なのです♪」

響「みんなお疲れ様。ちゃんと補給はしたかい？」

暁「ええ、みんな補給済ませたわよ♪」

雷「司令官は？」キョロキョロ

電「響ちゃんはお留守番なのです？」

響「そうだ「だ」」

暁「暇そうね」

響「司令官が仕事を終わらせて出て行ってしまったからね」

雷「お世話のしがないわね」ヤレヤレ

響「いHe_T.い 司令官は料理が出来ない……と言うか仕事以外は落

第点だ。家事は主に私の担当だ」

電「響ちゃんは司令官さんのお世話が大好きなのですね♪」

響「それはちよつと違うな」

暁・雷・電『？』クビカシゲ

響「私は司令官を愛してる……心から。だから私は私に出来ること
で尽くしている。世話が好きだからではない。司令官を愛している
から出来るんだ」

暁「……相変わらずお熱いわね／／／」パタパタ

雷「御馳走様」ニヤニヤ

響「お粗末様……♡」ポツ

電「はわわ／／／」

暁「乙女の顔してるわね／＼／＼」

雷「そりやああんだけラブラブならね〜」

電「仲良しなのはいいことなのです！／＼／＼」

響「流石に恥ずかしいな♡」ニヨニヨ

暁・雷『（説得力ないわ！）』

電（幸せそうで何よりなのです♪）

ガチャ〜

提督「今帰ったぞ〜」

響「お帰り司令官。遅かったじゃないか。次から私も付いていくからな♡」ヒシッ

暁・雷・電『／＼／＼』ウワオ

提督「いや、流石にトイレにまで来られたら困るんだが……」ニガワライ

暁・雷・電『ふあっ!?!／＼／＼』

響「……なら、トイレの前で待ってる」ギューッ

提督「それも落ち着かないから勘弁して」ニガワライ

響「司令官が私に愛を教えたくせに、冷たいな……」プクウ

提督「いやでも……いつも一緒にいるじゃないか。流石にトイレくらいは……」

響「分かった……夫婦の間でもプライバシーは大切だからね。これくらいは妥協するよ」

提督「た、頼むよ」ナデナデ

響「す〜……はあく……司令官の匂いは落ち着くね♡」スリスリ

提督「あ〜、響？」

響「何だい、司令官？ キスかい？♡ ちゅうかい？♡ それとも

接吻かい？♡」

提督「いや、それぞれもキスだから……」

響「ならあっち（意味深）かい？ 流石に暁達の前では恥ずかしいな♡／＼／＼」テレッ

提督「うん落ち着いて、響。そうじゃないから」

響「じゃあ何だい？ 新手のプレイでも試したいのかい？♡」

提督「違うそうじゃない！ 暁達がさつきから固まってるんだよ！」

響「？」クルリ

暁「(；。D。)」アングリ

雷「(。D。)」ポカーン

電「(／／△／／)」ハワワワ

響「私達の愛に言葉も出ないようだね♡」ギューツ

提督「驚きのあまり言葉が出ないんだろ」ニガワライ

響「司令官は本当に照れ屋だね。夜だけ野獣ー」

提督「はいそこまで」クチフサギ

響「♡」アムアム

響、提督の掌を甘噛み

提督「やめろ／／／／ 取り敢えず、暁達をどうにかするのが先だ

／／／／

響「ぷはあ♡ 分かったよ、仕方ないな♡」

響、暁達の側へ

響「暁、雷、電……しつかり見ろ」

提督「ン？」

響、再び提督の側へ

響「っ♡」グイッ

提督「んぐっ!？」

響「っ……ちゅっ……ちゅ……んんっ……んはあ♡」

提督「ぷはあ……お、おい響！／／／／」

響「これが私と司令官の愛だ♡」ギューツ

響、無言で倒れる暁達

提督「暁！ 雷！ 電！」

響、提督、急いで三人を医務室へ

ー。

◇鎮守府内・廊下◇

響「私を置いて暁達を連れて行くななんて酷いじゃないか」プクウ

提督「元はと言えば響のせいだろうが」ニガワライ

く響、提督の背中にしがみつきち中く

響「今日はもう離れないぞ♡」ヒシッ

提督「分かったよ」ニガワライ

響「お風呂も一緒だぞ♡」スリスリ

提督「はいはい」ナデナデ

そしてその日の夕方ー

◇提督&響の部屋◇

響「今日はシチーと豚肉のシヤシリクだよ♡」

提督「おく！ 美味そう！」

響「そりゃあ美味しいさ……司令官への愛が沢山入ってるから♡」

ポフッ

く響、そう言いつつ提督の膝の上へく

提督「あ、ありがとう／＼／＼／」

響「ふふ、司令官はケツコンしてから本当に照れ屋さんになったね

♡ 可愛いと思うよ♡」ニコニコ

提督「可愛いって……大体、響が変わり過ぎなんだよ」ニガワライ

響「そうかな？」

提督「そうだよ、付き合ってた頃は人前で手を繋ぐのがやつとだつ

たじゃないか」

響「あの頃の私は司令官に恋してたからね♡」

提督「じゃあ、今は？」

響「Я ^心 тебе ^か люблю ^愛 всем ^て сердцем ^る♡」

提督「／＼／＼」ドキッ

響「付き合っていた頃の私は何かと奥手で、司令官と触れ合いが少な過ぎた……これをしたら嫌われんじゃないか、あれをしたら駄目じゃないかかって」

提督「響……」

響「でも司令官はプロポーズの時に言ったよね？ 『関係が壊れる

のを恐れて何もしない方が一番嫌だ』って」

提督「ああ」

響「その言葉で私は気付いた。本当の愛に……だから晴れて結ばれた今は、こうして常に触れ合っていたんだ♡」

提督「そっか……」ナデナデ

響「さ、冷める前に食べようか♡」

提督「なあ、響」

響「何だい？」

提督「俺も響を心から愛してるよ」チュツ

響「嬉しい♡ Сп^あа^りс^がи^とб^とо^う♡」

響（不死鳥なのに、司令官の愛の前では溺れてしまうよ♡）

響 完

雷とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

雷「司令官、そろそろ休憩にしない？」

提督「いやキリが悪いからもう少し待ってくれ……」カリカリ
プチッ↑キレた

雷「その台詞はもう三回も聞いてるわ！ つべこべ言わずに少し休憩しなさい！」シヨルイボシュート

提督「お、おい……俺の仕事なんだから良いじゃないか……」

雷「そんなんじやダメよ！ 休むことも仕事なのよ！ 観念して休憩しなさい！」

提督「……分かったよ」ヤレヤレ

雷「そうよ♪ お嫁さんの言うことは絶対なんだから！」ドヤア

提督「じゃあー」

雷「今お茶を淹れてくるわね♡」

提督「頼むよ」ニコツ

雷「は〜い♡」ニパツ

〜夫婦仲良くソファーに座って休憩〜

雷「は〜い、司令官♡ お茶淹れて来たわよ♡」

提督「ああ、ありが……どう!？」

〜お盆に湯のみがズラリ〜

提督「おい……なんだこの量？ にい、しく、ろく……九杯もあるぞ……」

(あの短時間でどんだけ淹れてきたんだよ！)

雷「全部飲まなくても良いわ♡ 好きなの飲んで♡」

提督「好きな……？ ロシアンルーレット的なやつ？」

雷「なんでそうなるのよ！ 全部私の愛がたくくさん入ったお茶よ！」

提督「いやでも……？ もしかして全部種類が違うのか？」

雷「そうよ♪ 煎茶、番茶、玉露、抹茶、紅茶、ほうじ茶、玄米茶、烏龍茶、さんぴん茶よ♪」

提督「次から普通に種類だけ淹れてくれ」ニガワライ

雷「じゃあ、その都度今日はどんなお茶が飲みたいか言っ♡」

提督「あ、ああ……」

雷「それで、どのお茶を飲むの？」

提督「勿体無いから全部飲むよ。雷が先に飲みたいの取りなさい」

雷「ダメよ！ こういうのはまずはじめに男の人から選ぶんだから！」

提督「……なら煎茶で」

雷「はくい♡」つ煎茶

提督「えつとく、何か茶菓子は……」ガサゴソ

雷「お茶菓子ならもう作って来たわよ♡」ジャーン

く大きなチーズケーキ

提督「あの短時間で!？」

雷「そんな訳ないでしょ？ これはお昼ご飯を作った時に同時進行で作ってたの♡ 司令官は私の作ったチーズケーキ好きでしょ？♡」

ニパッ

提督「あ、ああ……とても好きです……」

(なんだよなんだよこの料理スキルとか嫁スキル！ 高いな

んてもんじゃないぞ！)

雷「はくい、司令官♡ あくん♡」つケーキ

提督「あむ……」モグモグ

雷「どう？ 美味しい？♡」ニコニコ

提督「めつちや美味しいツス……」

雷「えへへ♡ やたっ♡」ニパッ

提督(天使……いや、聖母がおる……)トウトイ
くそんなこんなでお茶終了

提督「はあく、食った食った」ゲツプ

雷「沢山食べてくれて嬉しいわ♡」ニコニコ

提督「あ、ああ……」

(あんな笑顔で口に運ばれたら食べるしかないじゃないかっ！)

雷「じゃあ次ね♡」

提督「次？」チラッ

雷「はい、司令官♡ 頭乗せて♡」オヒザポンポン

提督「え、仕事は……？」

雷「まだ仕事しようとしてるの？ 今は休憩中でしょ？ それに

沢山食べたんだから、少し横になりなさい♡」オヒザポンポン

提督「でも食べて寝ると太るし……」

雷「私がちやくんとカロリーコントロールしてるから大丈夫よ♡

現に体重はずっとキープ出来てるでしょ？」

提督「……確かに……」

雷「ね♡ ほら、分かったなら大人しくお嫁さんの膝枕を堪能しな

さい♡」オヒザポンポン

提督「分かった……」オズオズ

雷「そうよ♡ お嫁さんの言うことは絶対なんだから♡」ナデナ

デ

提督「あく、ダメになる♡」

雷「ダメになったら責任をもって、私が養ってあげるわね♡」

提督「それはそれで良いかも……ってイカンイカン！ 早まるな俺

！」

雷「ふふ、司令官はもっと私を頼ってもいいのよ♡」

提督「今でも十分頼りにしてるさ」ホッペナデナデ

雷「そうなの？」

提督「ああ、家事に仕事の補佐、家計のやりくり……今だってこう

して癒やしてもらってる」ナデナデ

雷「だって大好きな司令官のお世話をするのが、私の生き甲斐であ

り、癒やしだもの♡」ニコニコ

提督「たまには雷も俺に甘えてくれよ？ 俺ばっか甘えてちゃ悪い

からな」

雷「なら……キスしましょ♡」

提督「それ甘えてるに入るのか？」

雷「もちろん♡ 司令官とのキスは気持ちいいから大好きよ♡」
提督「そつか……」ニコツ

雷「司令官♡ んーっ♡」クチビルサシダシ

提督「雷……んっ」チュツ

く膝枕状態でキスく

雷「んっ♡ んっ♡ ちゅっ♡ んんん♡ ちゅっ♡ んんん♡

ぷはあ……えへへ♡」トローン

提督「とろけた顔も可愛いな」ナデナデ

雷「司令官のお嫁さんなんだから当たり前よ♡ それよりもっとキ

ス♡」ンー

提督「はは、分かった」チュツ

雷「♡」

◇執務室外・ドア前◇

雷『司令官♡ しゅき♡ だいしゅき♡』チュツチュツ

提督『俺もだ、雷♡！』チュツチュツ

／ラブラブチュツチュツ

暁「／／／／」プシュー

電「／／／／」ハワワー

響「／／／／」ハラシヨ

→遠征完了の報告に来た

暁「あ、後にしましょうか／／／／ 夫婦の時間を邪魔するのはレ

デイじゃないわ／／／／」

響「寧ろこの中に突入は無理だ／／／／」

電「早くこの場を離れるのです♡／／／／」

その後も執務室前で多くの艦娘達が顔を真っ赤にして狼狽し、夫婦は長過ぎる休憩時間を過ごしたー。

雷 完

電とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞ」

カチャー

電「旗艦電、及び第一艦隊、無事に帰投なのです！」

提督「ご苦労。報告を頼む」

電「なのです！ 目標敵艦隊は壊滅。こちらの被害は加賀さんと長門さんが小破。電を含めた残り全員は無傷なのです！」

提督「そうか、それは重畳。加賀と長門には入渠後補給を。残りは精密検査後補給してから身体を休めるよう通達してくれ」

電「了解なのです！」ケイレイ

提督「……では、下がって良い。電も補給しておいで」

電「はい……えっと……」キヨロキヨロ

提督「？」

電「司令官さん……ん」クチビルサシダシ

提督「お帰り、電……」チュツ

電「えへへ……では、補給してきますのです♪」ニヨニヨ

提督「蕩けた顔をちゃんと直してからな」ニツ

電「はわわわく／＼／＼」

◇格納庫◇

暁「あら電じゃない。出撃終わり？」

電「はい、なのです♪」ニヨニヨ

響「お疲れ様」

電「暁ちゃん達も遠征お疲れ様なのです♪」ニヨニヨ

雷「お疲れ……ってその締りのない顔は何？」

電「え？」ニヨニヨ

暁「何って司令官絡みしかないじゃない」ニヤツ
響「大方お帰りのキスでもされたんだろう」フフ

雷「相変わらずアツアツね」ヤレヤレ

電（どうしてバレてるのです？）ニヨニヨ

暁・響・雷『顔が全てを物語ってるよ（ね）』ニヤニヤ

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞ」

カチャー

電「精密検査と補給終わったのです」

提督「お帰り」

鈴谷「お疲れ」

金剛「お疲れサマ」

電「お二人共、どうかしたのです？」

提督「明日の作戦について説明をね」

鈴谷「そゆこと」

金剛「少し待っててください」

電「……了解なのです」

（作戦内容を聞くだけで司令官さんの腕に引っ付くのはおかしいの
です）ムウ

提督「ちよつとは離れてくれ」

鈴谷「こうした方が分かりやすいの！」ムニユ

金剛「気にしたらイケマセ」ムニユ

電「ムナモトササ」

（数分後）

鈴谷「じゃね」キラキラ

金剛「Bye Bye」キラキラ

／パタン

提督「全く、あの二人は調子が良いな……」ニガワライ
電「ムスツ

提督「電?」

電「どうしました?」プクウ

提督「なんで怒ってるんだ?」

電「怒ってないのです」プイツ

提督（怒ってるじゃないか……）

電「プンスカ

提督「怒ってないでこっち向いてくれ」ナデナデ

電「……電はあのお二人と違って大きくありませんよ?（胸的に）」

提督「確かにそうだ……だが、小さい方が可愛いじゃないか（身長的に）」

電「なら暁ちゃんも響ちゃんも雷ちゃんも可愛いってことなのですか?」ジトー

提督「確かに可愛いな……だが、やはり電が一番だ。だからこそケツコンしたんだからな……」ナデナデ

電「とんだロリコンさんなのです」ジトトー

提督「酷い言われようだな……電だから愛しているというのに……」

電「／／／／」キュン

提督「電、機嫌を直してくれないか?」アスナロダキ

電「はにゃ♡」ゾクゾク

提督「電……」ギユツ

電「ちゆってしてくれたら許してあげるので♡」ンー

提督「お安い御用♪」チュツ

電「んっ……あふ、んんっ……ちゆ……司令、か……ちゆっ、んむ
〜……」

提督「機嫌はどうだ?」ナデナデ

電「絶好調、なのです♡」キラツケカンリヨウ

提督「じゃあ、残りのお仕事も頼むよ」ナデナデ

電「今日は司令官さんのお膝の上でしたいのです♡」

提督「良いだろう♪」チュツ

電「♡♡」トローン

く夫婦仕事(?) 中く

電「司令官さん、今夜は何が食べたいですか？」スリスリ

提督「うくん……麻婆……」カキカキ

電「」ピクツ

提督「麻婆豆腐が良いな」カキカキ

電「了解なのです♪」ホッ

提督「楽しみだ♪」カキカキ

◇提督&電の部屋・茶の間◇

電「どうぞなのです♪」

／ババーン＼

提督「これは美味そうだ。頂きます！」人

電「♡」ニコニコ

提督「美味い！」ガツガツ

電「良かったのです♡」エへへ

く楽しい晩ご飯タイムく

提督「ああく美味かつた。ご馳走様」人

電「お粗末様なのです♡ 洗い物してきちやいますね」

提督「ありがとう、お願いするよ」

く電洗い物中く

電「洗い物終わったのですく」

提督「お疲れ様」テレビポチポチ

電「何をしています?」

提督「いや、何か面白そうなのがやってないかチャンネル回してるんだ」ポチポチ

テレビ『やっぱり女は胸で異性を虜にする!? 今から出来る豊胸

マツサージ法!』

電「」ピクツ

提督「電?」

電「やっぱり小さいとダメなのです?」ムナモトサスサス

提督「気にし過ぎだ……」ナデナデ

電「でも……」

提督「胸なんて関係ない。一番、電を愛しているのだから」ナデナ
デ

電「司令官さん……♡」キュンキュン

く数時間後く

提督「風呂も済ませたし、今日はもう寝よう。明日の仕事も頑張ろうな」

電「は、はい、なのです……／／／／」モジモジ

提督「？」

電「今晚は夜戦（意味深）しないのです？／／／／」モジモジ

提督「あれを買ってこないと無いからな……」ポリポリ

電「夫婦なのですし、そろそろ使わなくてもいいのです／／／／」
ギョツ

提督「それは……／／／／」ドキッ

電「司令官さんとの赤ちゃんください、なのです♡」ホールド

提督「電くくくく！」ガバッ

電「司令官さん♡」キヤッ

その後夜が明けるまで夜戦したというー。

電 完

初春とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりに――

◇執務室・座敷仕様◇

初春「のう……」クイクイ

提督「どうしました？」

初春「そろそろ休憩を入れたらどうじゃ？　昼から休みなく働き通しじゃろう」

提督「あく、この書類がもう少しで終わりますから、それからいいですか？」

初春「お主はいつもそうじゃのう……まあ良いわ。わらわがその間に茶の一つでも立ててやろう♪」

提督「お願いします」ニコリ

初春「うむ♪」

〳初春、点茶中〳

初春「出来たぞい。そちらの書類は終えたかえ？」

提督「はい、丁度今終えました」トントン

初春「ではこちらへ座ると良い」

提督「はい」ニコリ

〳提督、初春の正面へ〳

初春「ムウ

提督「初春さん？」

初春「お主、何故に正面へ座るのじゃ？」

提督「ではどこへ座るんです？」

初春「お主はわらわの夫であろう！　夫は妻の横へ寄り添う！　これが基本じゃ！」

提督「……ふふ、はい。承知しました」クスクス

初春「何をそんなに笑っておるのじゃ？」

提督「いえ……初春さんが余りにも可愛らしいことを言うので

……」ニコニコ

初春「なっ!?／＼／＼」カア

提督「そうですね。お昼休みが終わってから構ってあげられませんでしたから、構ってあげますね」スツ

初春「わらわに言われなくとも気付くものじゃ、うつけ者め／＼／＼」プイッ

提督、初春の直ぐ右へ正座

初春「……」チラチラッ

提督「今度はどうしました?」

初春「正式な茶会ではない。足を崩して良いぞ?」

提督「いえいえ、せつかく初春さんが立ててくれたお茶を頂くんですから、ちゃんと正座して頂きたいと思います」ニコリ

初春「その心は嬉しいが……今は……」モジモジ

提督「?」クビカシゲ

初春「うが〜! 足を崩しても良いと申しておるのじゃ! 素直に

胡座を掻かぬか!」

提督「はい、分かりました」クスクス

提督、胡座を掻く

初春「う、うむ……上出来じゃ」ウズウズ

提督「では頂きますね」スツ

初春「待てい」

提督「はい?」

初春「何か忘れては居らぬか?」

提督「……あ。初春さん」

初春「ニコニコ

提督「お茶を立ててくれてありがとうございます」ペコリ

初春「(#。皿。)」

提督「頂きます」スツ

初春「待て待て待て、待つのじゃ〜!」

提督「はい?」

初春「いつも思うが、本当に貴様は察しが悪いのう……」ジト

提督「すみません」ニコリ

初春「わらわが何故、貴様に胡座を搔かせたのかよう考えてみい……」ジト―

提督「足を崩させる為ですよね？」

初春「よう考えてから答えを出せい！」カツ

提督「……………あ」ピーン

初春「ニコニコ

提督「夫の僕に対するお気遣いですね！　ありがとうございます」

ペコリ

初春「(#・▽・)」

初春「違う！　全っ然！　全くもって！　根本的に！　違う！」ウ

ガ―

提督「??？」

初春「その胡座に空間があるじやろ？」

提督「はい」

初春「その空間が寂しいじやろ？」

提督「つまり？」

初春「じゃ、じゃから……そこにわらわが座れば、お、お主も寂しい思いはしないじやろ？／／／／」カア

提督「そう、ですね……どうぞ、こちらへ」スツ

初春「う、うむ♡」ストーン

く初春、向かい合って膝乗りく

提督「ニコニコ

初春「な、何か言わぬか／／／／」

提督「初春さんは重いですね」ニコニコ

初春「貴様、沈みたいのかや」ギロリ

提督「仕方ないじやないですか」ニコニコ

初春「遺言くらいは聞いてやるぞよ？」ギラッ

提督「いつも実感しますが、お姫様はもつと軽いと思っ
ています
ね……」ニコニコ

初春「ほう？」

提督「この重さが、お姫様の重さだといつも思い知らされます」ニ

ニコニコ

初春「／／／」キュンキュン

提督「♪」ニコニコ

初春「ほ、他には何かあるかや？／／／」ドキドキ

提督「初春さんは今日もお美しいですね」ニコニコ

初春「あ、当たり前じゃ／／／」デヘヘ

提督「瞳が透き通っていて、吸い込まれそうです」ニコニコ

初春「ふふ、この瞳に映るわ、我が夫のみぞ？♡」デレデレ

提督「嬉しいですね」ニコニコ

初春「ふふ♡」デレツデレ

くそしてやっとお茶の時間へく

初春「お主が鈍感なせいで茶が冷めてしまったのう」

提督「申し訳ありません」

初春「仕方ないのう、温めてやるとするかの」コクツ

提督「お願いします」ニコニコ

こくつ↑初春、冷めたお茶を口に含む

初春「んく……」モゴモゴ

提督「」ニコニコ

初春「ん♡」クチビルサシダシ

提督「頂きますね……ん」チユツ

初春「んんっ……ちゅっ……♡」

提督「……っ……」コクコク

初春「んっ……どうじゃ？♡」オメメハート

提督「大変結構な服加減です」ニコリ

初春「当然じゃの……のう」クイクイ

提督「はい？」

初春「お茶請けはわらわにせぬか？♡」ムナモトチラツ

提督「頂きます」ニコリ

初春「う、うむ♡」ホールド

◇執務室外・ドア前◇

／ラブラブチュツチュツ

若葉「あれは新しい寝技か？」ノゾキ

子曰「新しい遊びじゃないの？」ノゾキ

初霜「二人共、覗き見しないで行きますよ。お二人の秘事はそつとしとくものですから」ズリズリ

若葉「む……そうか」ズルズル

子曰「もうちよつと見ていたかったなあ」ズルズル

初霜「あ、これ掛けとかなきや！」スツ

く夫婦契り中く

初春 完

子日とケツコンしました。

某鎮守府ー

　提督と子日の一幕

ある日ー

子日「提督♪」

女提「な〜に〜?」

子日「今日は何の日〜?」

女提「子日♪」

子日「正解♡」ギューツ

別の日ー

子日「提督♪」

女提「な〜に〜?」

子日「今日は何の日〜?」

女提「子日〜?」

子日「ブブー! 今日の子日と提督が初めて出会った日♪」

ギューツ

女提「あちやく、間違えちやった〜」テヘペロ

子日「お詫びにちゆうして♡」

女提「は〜い」チュツ

子日「〜♪♡」チュツ

とある日ー

子日「提督♪」

女提「な〜に〜?」

子日「今日は何の日〜?」

女提「う〜ん……」ウデクミ

子日「時間切れ〜! 今日の子日が提督の彼女になった日♪」

ギューツ

女提「そつかく、もうそんなになるんだね〜」ナデナデ
子日「えへへ♡ そうだよ〜♡」ゴロゴロ

違う日〜

子日「提督〜♪」

女提「なくにく〜?」

子日「今日は何の日〜?」

女提「今日は……改になった日!」

子日「ブブー! 今日の子日と提督が初めてデートした日〜♪」

ギューツ

女提「初デートの日かく! 初デートは水族館だったわね〜♪」

子日「うん♡ その時に買ったお揃いのイルカのぬいぐるみは宝物

〜♡」

女提「うふふ、買った甲斐があるわ♪」ナデナデ

またある日〜

子日「提督〜♪」

女提「なくにく〜?」

子日「今日は何の日〜?」

女提「この前が初デートの日だったから〜……今日は初めてお泊りした時!」

子日「ブブー! 今日は初めてちゅうをした日♡」キャツ

女提「そうなんだ〜。よく覚えてるわね〜♪」ナデナデ

子日「大切な思い出もん♡」

女提「じゃ、キスしよつか♪」

子日「うん♡」

チュツ〜

また別の日〜

子日「提督〜♪」

女提「なくにく〜?」

子曰「今日は何の日〜?」
女提「う〜ん……今日は子曰の姉妹が揃った日!」
子曰「ブブー! 今日提督が子曰を女の子にした日♡」ヤンヤン
女提「初えつちの日か……子曰はあの頃から可愛いわ♪」ナデナデ
子曰「提督の前だけだよ♡」ギューツ
女提「今夜も沢山してあげるわね♪」ホツペチュツ
子曰「きゃ〜♡」キュンキュン

またとある日ー

子曰「提督〜♪」

女提「なくに〜?」

子曰「今日は何の日〜?」

女提「今日は……何の日?」

子曰「正解は……提督が浮気をした日♡」ギューツ

女提「……その日は浮気っていうか、初春と初霜の改二記念に二人をランチに連れて行っただけよ?」ナデナデ

子曰「えへへ♡ 分かっているけど寂しかったんだもん♡」

女提「ごめんね」ナデナデ

子曰「うん♡」ギューツ

また違う日ー

子曰「提督〜♪」

女提「なくに〜?」

子曰「今日は何の日〜?」

女提「今日はケツコン記念日!」

子曰「正解♡」ギューツ

女提「仕事が終わったら一緒にディナーに行きましょうね♪」ホツペチュツ

子曰「行く♡」オメメハート

女提「これからもよろしくね、私の可愛いお嫁さん♪」チュツ

子曰「んん♡ もっちりん♡」チュツ

◇鎮守府内、廊下◇

初春「子曰」

若葉「アタマポリポリ

初霜「子曰姉さん」

子曰「? どしたの?」

初春「これ、お主の日記帳じやろ?」つノート

子曰「あ、ホントだ〜! どこにあったの?」

若葉「執務室に忘れていたぞ。さつき遠征の報告に行ったら、提督にこれを届けるように言われたんだ」

子曰「そっか。ありがと♪」

初霜「大切なノートなので、忘れないでくださいね」ニコツ

子曰「うん♪ あのさ……」

春・若・霜『?』クビカシゲ

子曰「……日記の中見た……?」

初春「何故見なくてはならんのかな?」

若葉「お前のプライバシーを覗くような私達ではないぞ」

初霜「ニガワライ

子曰「提督はこの中見たのかな?」

初春「見てはいないのでないか?」

若葉「いつも大切そうにしてるんだ。黙っては見ないだろう」

初霜「コクコク

子曰「そっか♪ 良かった! 見られたら恥ずかしいもん♪」

キヤツ

初春「次からは忘れるでないぞ」

若葉「今回は良かったが、次回は見られるかもしれないからな」

初霜「気を付けてくださいね」

子曰「うん♪ みんなありがと♪ またね〜♪」ノシ

〜笑顔でその場を去る子曰〜

初春「恥ずかしいと言うか、わらわは怖かったぞ」ガクブル

若葉「しかし、あれも愛の形だ。受け入れろ」ガクブル

子曰「ん♡ えへへ♡」アタマグリグリ

子曰
完

若葉とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&若葉の部屋◇

女提「トントントン

」提督、お料理中」

若葉「チョコクリツフドウ

」若葉、提督の背後で待機中」

女提「若葉……」

若葉「む、どうしたんだ？」

女提「毎回言うけど、部屋の中でもあたしの背中を守らなくていいのよ？　と言うか、鎮守府内なら誰もあたしのことを狙ったりしないでしょう？」

若葉「はあ……」ヤレヤレ

女提「(なんであからさまにため息つくの!?)」

若葉「提督……何度言われても答えは変わらないぞ？　若葉は提督が大好きだ。そしてそんな大好きな提督は艦隊のみんなから慕われている。ならいつ若葉の提督を狙う輩がいるかわからない。そうならないように若葉がこうして提督を守っているんだ」

女提「そんな大袈裟なー」

若葉「大袈裟なものか！　この前だって若葉が目を離れた際に、金剛が若葉の提督に迫っていたじゃないか！」

女提「あれはただ金剛にお茶会に誘われてただけよ……それにあたしだけじゃなくて、若葉も一緒になって話してたのに……」ニガワライ

若葉「そんなの知らん」プイッ

女提「あたしは若葉とケツコンしてるんだから、そんなに心配しなくてもいいのよ？」

若葉「ジュウコンだって出来るんだぞ？」ジトー

女提「する気なんてないわよ。あたしはこの人って決めたらその人しか眼中にないもの」キツパリ

若葉「そ、それはそうだが……♡／／／／」ニコニコ

女提「こんなに可愛い娘とケツコンしたのに、他の娘なんて目に入らないわよ」ニッコリ

若葉「!?♡」キューーーン

若葉「胸が痛いぞ！ だが……悪くない。幸せな痛みだ♡／／／

／」キュンキュン

女提「大袈裟な娘ね〜」クスクス

若葉「提督が毎回若葉の心……ATフィールドを突き破るのが悪いんだ！♡／／／」テレテレツ

女提「なんでわざわざ言い直したのよ……」ニガワライ

若葉「そっちの方がカツコイイだろ？」キリッ

女提「そ、そうね〜……さ、朝ご飯にしましよ。お皿とお椀用意して♪」

若葉「了解だ」ケイレイ

〜二人仲良く朝食〜

若葉「いただきます」人

女提「召し上がれ〜」ニコニコ

若葉「提督……」

女提「ん？ なあに？」

若葉「あの……その、だな……♡／／／／」モジモジ

女提「ん〜？ なあに〜？」ニヤニヤ

若葉「わ、わかってて訊いてくるなんて……ず、ズルいぞ♡／／／

／」ウウー

女提「あたしが考えてることが違うかもしれないから、言われなきやわからないも〜ん♪」ニッコニコ

若葉「ど、どうしていつもこういう時はイジワルなんだ……♡／／

／」クツ！

女提「若葉がもじもじしてるとこ見るの可愛いから♪」サワヤカエガオ

若葉「いい性格してるな♡／／／／」ツタク

女提「それほどでも〜♪」ニシシ

若葉「あの……な？♡／／／／」

女提「うんうん♪」ニコニコ

若葉「若葉と食べさせ合いっこしてくれ……♡／／／／」カァー

女提「よく言えました……いいわよ♪ 隣においで♪」トナリポ
フポフ

若葉「く♡／／／／」ウツムキ テレテレツ

ちよこん↑若葉、提督のすぐ右側へ

女提「いらっしやい♪」ギューツ

若葉「こ、こら……いい、いきなり抱きしめるんじゃない♡／／／／
／」ニヨニヨ アセアセ

女提「ええ、お顔は『嬉しい♡』って言ってるのに？」ホツペ
スリスリ

若葉「う、うう♡／／／／」ニヨニヨ モジモジ

女提「可愛い♪ 何から食べる？」

若葉「青のり玉子焼き……♡／／／／」

女提「は〜い♪」

若葉「あく♡」オクチアーン

女提「っ玉子焼き」

若葉「あむあむ……ん♡」ニコニコ

女提「美味しい？」ニコニコ

若葉「愚問だな♡」ニヘヘー

女提「うふふ♪」

若葉「次は若葉が提督に食べさせる番だな！♡」

女提「なら、サラダのトマトちよくだい♪」アーン

若葉「任せろ♡」つトマト

女提「はむ……ん、新鮮で美味しい♪」モグモグ

若葉「提督はサラダが好きだな〜」

女提「野菜が好きだからね……歯ごたえとか旨味とか甘味とか、
最高じゃない？」

若葉「流石鎮守府の裏で菜園をやるだけのことはあるな……」ニガ
ワライ

女提「若葉ももつと野菜食べなきゃダメよ？ 強要はしないけど適度には食べてもらわなきゃ、お肌にも悪いわよ？ 只でさえ毎晩遅くまで起きてるんだから」ナデナデ

若葉「う……知ってたのか……」

女提「そりゃあ視線は感じるもの」ニガワライ

若葉「し、仕方ないだろ……夜は大好きな提督の顔がすぐ横にずつとあるんだ……見入らない方がおかしいんだ／＼／＼」アウアウ

女提「ふふ、相変わらず大袈裟ね」クスクス

若葉「だつて……」

女提「？」クビカシゲ

若葉「だつてその時間帯は……若葉だけが提督を独り占め出来る時間だから♡／＼／＼」

女提「」キユン

若葉「提督はみんなから慕われてるから、この部屋を出たら二人つきりになんてなれないんだぞ？ でもこの部屋に入れば、もう誰にも提督を取られなくて済むんだ……だから遅くまで提督の顔を見てるんだ……♡／＼／＼」

女提「本当に若葉だったら……」ギユツ

若葉「あ、ん……♡」ギューツ

女提「そんな風に言われたらキスしたくなるじゃないの」ホツペナ
デナデ

若葉「この瞬間を待っていた！♡」オメメトジル

女提「ふふ……んっ♡」

ちゅっ♡

若葉「もう……終わりののか？♡／＼／＼」ウウー

女提「続きは夜、ね♡」ウインク

若葉「じらされるのも悪くない♡／＼／＼」デレツデレ

女提「うふふ……さ、朝ご飯食べちゃいませよ♪」

若葉「わかった！♡」

そして二人はゆっくり仲良く朝食を食べさせ合ったー。

若葉 完

初霜とケツコンしました。

某鎮守府、朝――

◇提督自室◇

提督「パチッ

むくり↑起きる

提督「静かな朝だな……」

ゞそごそ↑身支度

提督（深海棲艦との戦争は一先ず終わった……）

ジャブジャブ↑洗顔

提督（海の平和は一先ず戻った……）

ゞしごし↑顔を拭く

提督（しかしこれからが本当の戦い……）

シヤコシヤコ↑歯磨き

提督（平和を守る戦いだ……）

ぺっ↑うがい

提督（未だにはぐれ深海棲艦が出るからな……）

コンコン――

提督「？ 起きているよ、入ってきなさい」

カチャ――

初霜「失礼します」ペコリ

提督「おや、君が呼びに来るとは……もうそんな時間に？」

初霜「違います。朝一番でお伝えしたいことがあります……」

提督「……分かった。とりあえず入ってそこへ掛けなさい」

初霜「失礼します」

ゞ初霜、ソファ―へ座るゞ

提督「それで何かな？」

ゞ提督、初霜の正面の椅子に座るゞ

初霜「あの……その……」モジモジ

提督「？ 話しくいなら無理に話す必要はないぞ？」

初霜「いえ！ 今日……今日こそは言いたいんです！」
提督「分かった」

初霜「あの……きよ、今日が何の日か覚えていますか？」

提督「君にケツコン指輪を渡した日だな」

初霜「その時の私の言葉を覚えていますか？」

提督「覚えているよ」

初霜「……」ウツムキ

提督「……」

初霜「て、提督は……」

初霜「提督は今でもこの私を愛してくれていますか？」

提督「愛しているとも。君には迷惑を掛けているがな」

初霜「そんなことを思ったことは一度もありません！」

提督「初霜……」

初霜「寧ろ、私の方が、提督に……多大なるご迷惑を……っ」ポロ

ポロ

提督「何を泣いているんだ。君には君の信念があり、君はそれを貫いているだけだろうに」

初霜「ごめん、なさい……ぐすっ……提督のお気持ちを……ぐすぐすっ……知っていないながら……っ……私は……」ポロポロ

提督「おいおい……それでは私が未練がましく君を思い続けていたみたいじゃないか」

初霜「そんな！ 提督は素敵な方です！ こんな私を愛してくれているんですから！」

提督「はは、ありがとう。君からそう言われるととても嬉しいよ」
ニツコリ

初霜「っ」ゴシゴシ

初霜、提督の側へ

提督「？」

初霜「長い間お待たせして申し訳ありませんでした。今度は初霜から言わせて頂きます」

初霜「私、初春型四番艦、初霜は……提督、あなたの事が好きです。」

長い間一途に待っていてくれて、本当に……本当に、嬉しいですよ。どうか私を提督のただ一人のお嫁さんにしてください！ 戦いはまだまだ続きますが、今度はみんなを守る戦いではなく、愛する提督を守る為に戦います！」ペコリ

提督「」

初霜（なんて自分勝手なんだろう。待たせるだけ待たせたくせに……）

提督「私の心はあの頃から変わらない」

初霜「え」

提督「君を初めて見た時……私は君に恋をした」

提督「そして君の事を知る度に、私は君にのめり込んでいった」

提督「君の艦隊を守ろうとする信念と敵に立ち向かう勇氣。仲間達を守れた時の微笑みと仲間達と過ごしている時の笑顔。全ての君が私を虜にした」

提督「何度でも言おう。私は君を愛している。そして、この身が朽ち果てようとも、君が答えを出す日を待つと」

初霜「てい、とく……」ポロポロ

提督「さあ、もつとこちらへ来なさい。私達はやっと本当の夫婦になれたのだから」

初霜「はい……提督……答えを出すのが遅くなって……ごめんなさい」ギューツ　グスグス

提督「私が好きで待っていたんだ。気にするな」ナデナデ

初霜「でも……」

提督「長年待っていた甲斐があつた。心から惚れた女性を妻に出来たのだから」ナデナデ

初霜「長く待たせた分、これからは提督のお側を離れなせんから」ギューツ

提督「ああ、嬉しいよ」ナデナデ

初霜「提督、愛しています。そしてずっと私が守ってあげます」ニコリ

提督「男の立つ瀬がないな」ニガワライ

初霜「そんなことありません！ 提督は私の自慢の旦那です！ 世界一の旦那です！」

提督「嬉しいよ、初霜」ニツコリ

初霜「あの、提督……」

提督「ああ、なんだい？」

初霜「誓いのキス……したい、です／＼／＼」カァー

提督「初霜を愛する事を誓うよ」ホツペナデナデ

初霜「私も提督を愛する事を誓います」クチビルサシダシ

ちゅっー

提督「愛しているよ」ナデナデ

初霜「私も愛してます♡」ギューツ

待つ事は苦ではなかったー

何故ならー

初霜「提督♡」ニツコリ

好きな人の笑顔がいつもすぐ側にあつたからー。

初霜 完

有明とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇埠頭◇

初春「こんのお……大うつけがあああああつ!!!」

↳埠頭に初春の怒号が響く

有明「うつせえなあ……悪かったつて。てか、全員怪我ねえし、当初の予定の遠征任務も無事に完遂出来たんだし、そんなキレなくてもよくね?」

初春「貴様がその態度だから声を張っておるんじやろうがたわけっ!」

子曰「初春、そんなに怒らないであげて……」

若葉「子曰、止めるな……今回ばかりは流石にしつかりと注意しくべきだ」

初霜「確かに……私たちの連携があつたからこそ今回はこの結果になつたけれど、毎回こう上手くはいかないもの。何かがあつてから後悔するのでは遅いから」

有明「んだよお、あたしの味方は子曰だけかよお」

初春「味方云々の話ではないわっ! 貴様のせいで妾たちの誰かが沈んでおつたかもしれないぬのじゃぞ! 何が『あれ一隻だからついでに戦果貰つちまおうぜ』じゃ! 正規でなくとも軽空母群に突撃するなんて大うつけがすることじゃ、この大うつけめがつ!」

有明「いやあ、一隻だけだと思つて近寄つたら隊列組んでたもんで……」
「テヘペロ」

初春「じゃから軽空母がのこのこと一隻で散歩なんてしてるはずなかろうが、たわけっ!」

ゴチンツ!↑初春のげんこつ制裁

有明「いつてえ……!」

初春「ふんっ、沈んでおつたらこの痛みさえ感じぬわ」

有明「くっそく……人が下手に出てりや長女振りやがって……」

初春「はんつ、実際に長女なのだから仕方ないじゃろ。出来の悪い下を持つと姉は大変なんじゃ」

有明「ぐぬぬ……」

提督「初春さん、もうその辺で終いにしやってはくれませんか？」

有明「提督！ 初春が遠征任務成功したのにあたしのこと怒るんだぜ！」

く有明、提督の背中に隠れるく

初春「妾は好きで叱りつけているわけではないぞ。姉として、今後の艦隊のために注意しておるだけじゃ」

提督「これだけ怒られたのですから、有明さんも分かったはずですよ」

初春「はあ……そもそも貴様が日頃からこやつを甘やかしておるから此度の体たらくに繋がったのではないか？」

提督「いやはや手厳しい……肝に銘じておきます」

初春「そうしてくれ。でないとな命がいくらあっても足りぬ」

有明「いーつ、だ」アツカンベー

初春「貴様はもう一発欲しいのかや？」ニ”コ”ニ”コ”

有明「シサツ↑再び提督の背中へ退避」

初春「やっておれぬ……妾たちは補給へ行くぞ」

提督「ゆつくり休んでくださいね、皆さん」ニガワライ

く埠頭で夫婦だけにく

提督「有明さん、もう初春さんたちは行きましたよ？」

有明「お、おう、サンキュー提督。助けてくれて」

提督「定時報告が来た時点でこうなるのではと思ってましたから」

有明「ならもつと早く助けに来てくれよお」

提督「私は叱るのが下手ですから、初春さんに任せようかと思いまして」

有明「マジか……じゃあ、提督も初春と同意見ってこと？」

提督「そうなりますね」

有明「んだよお、提督もかよお」

く有明、抗議の意思を込めて提督に抱きついて提督のお腹ら辺を頭

でグリグリする」

提督「今回ばかりは運が味方したに過ぎませんからねえ」

有明「……運も実力の内だろ？」

提督「では私が今から護衛も付けずに一人で渡米します」

有明「は？」

提督「私も提督となってそこそこのキャリアを積んで来ました。ならば運が味方をして無事に往復出来ますよね？」ニコニコ

有明「いや、それは……」

提督「おや、有明さんの理論上では無事に帰って来れるはずですよ
ね？」ニッコリ

有明「……」

提督「……私や初春さんたちの気持ちが少しは理解出来ましたか？」

有明「はい……ごめんなさい」

提督「賢い方は好きですよ」ナデナデ

有明「く／＼／／／」↑嬉し恥ずかしい

提督「では今からちゃん和初春さんたちのところへ行つて謝つてくるように。私の自慢の賢い有明さんなら出来ますよね？」

有明「はくい……／＼／／／」

提督「うんうん、いい子いい子。素直でよろしい。大変結構です」ニコニコ

有明「く／＼／／／」デヘヘ

—————

く無事、初春たちに謝つてわだかまりが無くなった有明

◇執務室◇

提督「もうお昼ですが、大きな赤ちゃんのせいでどうも出来ません
ねえ」

有明「提督う、あたしのこと嫌いになっちゃやだあ……」グリグリ

く有明、提督にだいしゆきホールド中

く初春に同じことを繰り返すと提督に愛想を尽かされると言われたから

提督「嫌いになんてなりませんよ。次から気を付けてくれれば」
有明「気を付けなかったら嫌われるってことだろ？ そんなのやあくだあく」ムギユーツ

提督「有明さんは勝手に体が動いてしまう子ですからねえ」ニコニコ

有明「提督に嫌われたらあたし無理い……」

提督「ではしっかりと気を付けてくださいね」

有明「出来そうにねえからこんなになってんだよお」グリグリ

提督「ですよねえ」ケラケラ

有明「笑ってる場合じゃねえだろ。提督はいいのかよ、私のこと嫌いになって」ムスツ

提督「では最終手段を使いましょうか」

有明「最終手段？」

く提督、しなやかに有明からのだいしゆきホールドを解いて、有明をお姫様抱っこするく

提督「これから有明さんをママにします」

有明「ママ？ ああ、ママな、ママ……ふあっ!？」

提督「ふふ、ママになれば子育てで任務に就く必要もありませんからね。加えて私と更にラブラブになれて一石二鳥です」

有明「い、いや、それは流石にまだ早いつつうか……／／／／ア
セアセ

提督「私との子どもを産んでください、有明さん」ニコツ

有明「キyun

提督「いいですよね？」

有明「……はい／／／／」

提督「照れている有明さんも愛らしいですよ」ニコニコ
—————

約一年後——

提督「幸せですねえ」

有明「……お、おう……／／／／」

初春「これ、ありあけ！ 妾の髪で遊ぶでない！」

ありあけ（0歳）「ゞ（＊、▽、＊）ノ」キヤツキヤ

子曰「お母さんに似て初春っ子（お姉ちゃん子の意）だねえ」ニコニコ

若葉「お父さん子でもあるからまさに有明の子だな」ニヤニヤ

初霜「かわいいですねえ♪」

提督「もう危ないことは出来ませんね？」ニコニコ

有明「もう二度としねえよ……／＼／＼／」

提督「大変結構。ではご褒美に二人目を拵えましょうか」ニコツ

有明「え……ま、マジか……まあ、提督が欲しいならあたしは……

何人でも……♡／／／」デレデレ

提督「（私の嫁超かわいい）……今夜は長くなりますよ」

有明「お、おう……／／／／」キyunキyun

初春「有明が大人しくなったのは良いが……」

子曰「前にも増して提督にデレデレになっっちゃったねえ……」

若葉「平和でいいじゃないか」ウンウン

初霜「私たちがしつかりと守りましょう！」フンス

ありあけ「ゞ（＊、▽、＊）ノ」キヤツキヤ

その後、夫婦の間に子宝がたくさん出来、提督と艦娘たちはその平和を守るために邁進したー。

有明 完

夕暮とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇食堂◇

ざわざわ……ざわざわ……

子曰「せいしくに！」

初春「これ、静肅に、じゃ」

子曰「あ、そっか！ 静肅にー！」

くほんわか空間く

子曰「これより提督夫婦によるシュガーテロの裁判を行います」

有明「検察側。準備出来てるぜ」

子曰「弁護側の準備はいいですか？」

白露「……帰りたい」

時雨「弁護側、いつでも大丈夫です」

子曰「白露ちゃん、帰りがつてるけど？」

時雨「いつもの発作だから大丈夫だよ」

白露「ねえ、なんで時雨はそんなにノリノリなの？」

時雨「面白そうだから！」キリッ

白露「……お姉ちゃんは悲しい」

子曰「問題ないってことで！ では被告人を呼んでくださいー！」

く夕暮を提督がお姫様抱っこした状態で、若葉と初霜に誘導されて

入廷く

子曰「わあ、相変わらず仲良しー♪」

初春「いつものことじゃな」

有明「ええ、まずお二人の朝のルーティンをお聞かせください」

提督「朝起きたら隣で眠る妻にキスをします」

夕暮「旦那様にキスで起こして頂き、お互いのおお召替えをし合い、

朝の身だしなみを整えます」

提督「そうしたら二人で朝食を作り、食べさせ合います」

夕暮「食べ終わったら一緒に洗い物をし、腕を組んで執務室へ向か

います」

有明「みんな聞いたな？ もう朝からシュガーをばら撒いていることがよく分かったはずだ。迷惑だよなあ!」

シーン

時雨「迷惑じゃないってさ」

有明「んだとお!」

時雨「だってそうじゃないか。そもそもこの裁判だって君が無理矢理始めたことだろう？ ただ単に妹を提督に取られ、嫉妬した。それだけのことさ」

有明「時雨、お前なら分かるはずだ!」

時雨「何が?」

有明「既に傍聴席にいる何人かがエチケツトバケツに砂糖を吐いている!」

時雨「それは単に耐性の問題だよ。ほら、見てごらん?」

有明「ん?」

提督「夕暮、どんな判決がくだされようと、俺は死ぬまで君を愛しているよ」

夕暮「わたくしも同じ気持ちです、旦那様♡」

時雨「何しようど夫婦は二人だけの世界で生きている。有明、もうスルーするか、このクソ甘空間を一種のドラマや何かだと思つて楽しむ方が有意義じゃないかな?」

有明「諦めんなよ!」

時雨「時には諦めも肝心だよ」

有明「裁判長!」

子曰「あ、はい」

有明「有罪にして暫くアイツらが一緒に過ごせないようにしてくれ!」

子曰「夫婦なのに?」

有明「毎日毎日夕暮から惚気けられるのはうんざりなんだ!」

子曰「でも神様に愛し合うことを誓つて、実行してるんだから何も悪いことしてないよ? 神様に有罪判決出すのと同じになつちゃう

よ？」

有明「マジレスすんなよ！ お前普段はアホの子だろ！」

初春「そもそもこんな茶番、あのうつけ夫婦に何も意味などない。ほれ、見てみい？」

有明「？」

提督「夕暮、今夜は月見酒なんてどうかな？」

夕暮「まあまあまあ♡ いいですねえ♡」

提督「あ、でも……」

夕暮「何か？」

提督「月よりも綺麗な君を見ている方がいいと思うんだ」

夕暮「旦那様♡」

く抱き合う夫婦に熱狂する傍聴席く

有明「うえっぷ」

若葉「どうせこうなるからやめとけばよかったんだ」ヤレヤレ

初霜「これに懲りたらもうこんなことしない方がいいよ？」

有明「でももう少し節度守ってほしい」

若葉「イチヤイチヤくらい流せ」

初霜「一度受け入れたら楽よ？」

有明「ダメだ。あたしだけでもあのクソ甘夫婦を注意しねえと

……」

若葉「難儀な奴だ」

子曰「無罪ってことでいいよね？」

初春「他にないじやろうて」ヤレヤレ

時雨「ほら、白露帰ろ？」

白露「麻婆豆腐食べて帰る」

◇執務室◇

提督「結局、有明は何がしたかったんだらうな？」

夕暮「さあ？ 多分構って欲しかったのではないでしょうか？」

提督「ああ、確かにそうかも。夕暮といるのが当たり前になったからな。今夜の月見酒は有明も呼ぼうか」

夕暮「いいですね！」

提督「なら早速約束してくるか」

夕暮「はい！」

く提督は当然のように夕暮をお姫様抱っこするく

夕暮「うふふ、こうすると旦那様のお顔が近くて幸せです♡」

提督「はは、俺もだよ」

夕暮「頬に口づけしても？♡」

提督「お好きにどうぞ。俺は拒まない」

夕暮「では失礼して……んっ♡」

提督「くすぐったいな」

夕暮「我慢してくださいませ♡ んっ、んっ、んっっまっ♡」

提督「あはは」

夕暮「うふふ♡」

こんな状態で有明に月見酒の約束をした夫婦は当然有明から怒号と共に参加する旨をもらうのだった――。

夕暮 完

白露とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇食堂◇

白露「ボケエ

春雨「あの……白露姉さんは大丈夫なんでしょうか？」

夕立「FXで有り金全部溶かした人みたいな顔してるっぽい！」

村雨「『ぬ』と『ね』の区別がつかない顔してるわね」

時雨「提督が大本営へ出張して今日で一週間だからね。結果があれだよ」

五月雨「白露……」ウルウル

涼風「お前が泣きそうになってどうすんだよ」

江風「普段はうるせえくらいなのに、提督がいねえとこれだもんな
〜……こつちまで落ち着かねえよ」

海風「静か過ぎるのよね。提督と白露は常に一緒にイメージがありますから」

白露「ボケエ

時雨「取り敢えず今日提督が帰ってくるから、夕方までの辛抱だね」

村雨「おやつにクッキーでも差し入れてあげようかな」

夕立「夕立の分も作って〜！」

村雨「はいはい♪」

春雨「なら私はお手伝いします！」

五月雨「私も……」ガタツ

涼風「五月雨はあたいと遠征だろ」

五月雨「そうだった……」ストン

海風「海風達は演習任務なので、白露のことお願いします」

江風「クッキー取っといってくれよな」ニヒヒ

その日の昼下がり――

◇提督&白露の部屋◇

白露「↑布団に丸まり中

白露（提督の匂いが薄れちゃってる……）

白露（提督……）

回想中）

提督『今日は白露がMVPだったのか！ 良くやったぞ！』ナ

デナデ

白露『えへへ♡』

回想終了）

白露「

白露（帰ってきたら、褒めてくれるかな……）

白露（提督の大きな手で頭撫でてくれるかな……）

白露（提督の優しい笑顔見せてくれるかな……）

白露「提督……」

コンコンー

白露（誰だろ……時雨達かな？）

トコトコー

ガチャー

提督「ただいま、白露」ニコリ

白露「てい……とく……？」

提督「一週間も寂しい思いをさせてごめんな」ギユツ

白露「あ」

白露（優しい声、落ち着く匂い、確かな温もり……）

提督「？ 白露？」

白露「提督……」

提督「どうした？」

白露「提督」

提督「おう」

白露「提督！」ギユツ

提督「お、おお!？」

白露「ちゃんといいい子にして待ってたんだよ♡ 撫でて撫でて」

♡」アタマグリグリ

提督「ああ、ちゃんと分かっているとも」ナデナデ

白露「提督♡ 提督♡」

提督「ああ」ニコニコ

（尻尾があれば千切れんばかりに振ってるんだろうな）

♡抱き合つたまま室内へ♡

提督「はあく、やっと帰ってきたって感じだよ」ハフー

白露「お疲れ様♡」

♡白露ダツコちゃん状態♡

白露「出張はどうだったの？」

提督「ああ、白露の事が気掛かりでなかなか内容が入ってこなかったから、後でまた資料を読み返すんだよ」タハハ

白露「もう♡、あたしがいないとダメなんだから♡」

提督「そういう白露は秘書艦任務は大丈夫だったのか？」

白露「うっ……」メソラシ

提督「白露も人のこと言えないな」ウリウリ

白露「仕方ないじゃ♡ん！ 提督がいないから寂しかったの♡」

ギユムツ

提督「俺らしいな」ニガワライ

白露「だね♡」アハハ

♡夫婦リラックスマード♡

提督「白露の匂い、落ち着くなあ」スンスン

白露「提督の匂いも落ち着くよ♡」クンクン

提督「白露の温もり♡」ギユー

白露「提督の温もり♡」ムギユツ

提督「白露、白露」

白露「なにになに♡？」

提督「に♡」

白露「に♡♡」

提督「あく、これこれ。この笑顔が俺の渴いた心を潤してくれるんだよ♡」ホツペスリスリ

白露「だってあたしの笑顔が一番だも♡ん♡」ホツペスリスリ

提督「あゝ、白露可愛いよ白露」ギュー

白露「当然でしょ♡」ゴロゴロ

提督「白露マジエンジェ」イヤサレー

白露「でしょ♡ 提督だけの白露だからね♡」エへへ

提督「俺だって白露だけのだぞ♡」ワシヤワシヤ

白露「きや♡」

◇部屋外・ドア前◇

提督『俺だけの白露♡♪』

白露『あたしだけの提督♡♡』

提督『俺の大好きな白露♡♪ 今日はずっと離さないぞ〜!』

白露『あたしの大好きな提督♡♡ 明日も離さしてあげないよ♡』

／イチャイチャラブラブキヤツキヤツ

時雨「完全に二人の世界全開だね」ニコニコ

村雨「クツキー作って来たけど、要らないわね」ニコニコ

夕立「クツキーなんて生ぬるいっばい!」

春雨「お菓子より甘い世界ですからね♡／／／」

時雨「仲良き事は美しき哉……今は二人つきりにしてあげよう」フフ

村雨「このクツキーは私達で食べて、白露には後でまた(激辛)クツキー焼いてあげましょうか」ニコリ

夕立「明石さんの酒保で苦丁茶(くうていちや)買ってきて、二人に飲ませるっばい!」クフフ

春雨「普通にしてあげましょうよ……」ニガワライ

村・夕『リア充には丁度いい天罰よ(っばい)』ニコ

春雨「『ピィイ!』」

時雨「愛の試練だね」クスクス

春雨(時雨姉さん、楽しんでる♡)アワワ

白露 完

時雨とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&時雨の部屋◇

時雨「パチッ

時雨「ムクリ

時雨「チラッ

提督「(☒ ☒)」スヤア

時雨「クスクス

のしっ↑提督にのしかかる

時雨「提督、朝だよ。起きよう」

提督「んく……時雨……」ゴシゴシ

時雨「おはよう♡」ニパッ

提督「おはよう……」ナデナデ

時雨「ふふ、朝ご飯作ってくるね。二度寝しちやダメだよ？」ホッ

ペツンツン

提督「大丈夫く……今起きるから……」ムクリ

時雨「ふふ、なら一緒に洗面台に行こうか♡」ヒシッ

提督「おく……」ナデナデ

くそして夫婦で朝食く

時雨「今日の任務も昨日と同じでいいのかい？」

提督「ああ、今は新しく着任した子らの練度を上げなきゃいけないから」

時雨「了解♪ ならみんなにそう伝えとくね」

提督「ありがとう」ニコッ

時雨「これくらい当然さ」フフ

昼ー

◇執務室◇

扶桑「こちらが前回の出撃の報告書です」

提督「ご苦勞様。これで山城達と一緒に美味しいもの食べて」つ間宮券

扶桑「まあ、ありがとうございます♪ おやつ時にでもみんなで頂きますね」ペコリ

提督「そうして……時雨」

時雨「うん。今ファイル持っていくね」

扶桑「ふふ、熟練夫婦みたいですね」ニコツ

提督「はは、自慢の嫁さんだよ」ニコツ

時雨「もう♡／／／」テレッツ

昼下がりにー

◇甘味処・間宮◇

時雨「提督、あくん♡」つパフエ

提督「あく……うん、今日も美味しいな」モグモグ

時雨「そっか♡ はい、もう一口、あくん♡」つパフエ

提督「あく」パクン

／ラブラブイチャイチャ

山城「間宮さん、この券で激辛辛子蓮根ください」

満潮「私も同じやつ」

朝雲「右に同じ」

扶桑「あらあら……」ニガワライ

最上「ボクは普通に羊羹と抹茶を」ニコツ

山雲「山雲も♪」

間宮「はくい」ニガワライ

夕方ー

◇執務室◇

時雨「提督、そろそろ定時だよ？」

提督「ああ、俺はもう少しこの書類を片付けるよ」カリカリ

時雨「分かった……なら僕も手伝うね」ニコツ

提督「いや、時雨は先に休んでー」

時雨「僕がいたら邪魔かい……？」ウワメツカイ

提督「キユン」

提督「そんなことないさ」ナデナデ

時雨「えへへ、良かった♡ 一人は寂しいもん♡」ギューツ

提督「／／／」ナデナデ

(大天使シグレエル……恐るべき破壊力だ……／／／)ドキド

キ

時雨「ねえ」ソデクイクイ

提督「ん？」

時雨「残業前にキスしてもいい、かな？♡」

／上目遣い＋首傾げ＋潤んだ瞳／

提督「ズキユーーン

時雨「ダメ？♡」

提督「喜んで」ホツペナデナデ

時雨「嬉しいよ♡ ん♡」クチビルサシダシ

ちゅっ♡

夜ー

◇提督&時雨の部屋◇

提督「今日も疲れたなあ／」ノビー

時雨「ふふ、お疲れ様♡」ホツペチユツ

提督「時雨もお疲れ様♪」ホツペチユツ

時雨「提督、上着脱いて」

提督「ありがと／」つ上着

時雨「あ……ふふ♡」ニコニコ

提督「何笑って……うおっ!?!／／／」

／上着のポケットから夫婦の写真を発見／

時雨「僕もいつも持ち歩いてるよ♡」ニコニコ

提督「おう……／／／」

時雨「♡」

提督「さ、さて、晩飯にするか／!／／／」

時雨「ふふ、そうだね♡」

く夫婦揃って晩飯く

時雨「提督が作ったお味噌汁、美味しく♪」ゴクツ

提督「時雨が作った肉じゃがも美味しいぞ♪」パクツ

時雨「ふふ♡」ニコニコ

提督「はは♪」ニカツ

く晩飯後の食休みく

時雨「追い焚きして来たよ」

提督「ありがとう。沸くまでのんびり待とう」

時雨「うん♡」

提督「時雨」

時雨「？」

提督「抱っこさせて」

時雨「いいよ♡」

く提督、あぐらの所に時雨を座らせるく

提督「落ち着くなく」アスナロダキ

時雨「むうく」

提督「あれ？ 嫌だったか？」

時雨「この体勢だと提督の顔が見えないよ……」

提督「ズキューーン」

く時雨、提督と向き合うく

時雨「僕はこうして提督と見つめ合っていたいな……♡」ウワメツ

カイ

提督「時雨は可愛いことを言うから反応に困るよ／／／」ナゲナ

デ

時雨「僕が可愛いのは提督がいっぱい愛してくれるからだよ♡」

ギューツ

提督「ならいっぱい時雨に愛されてる俺も可愛いのか？」

時雨「提督は可愛いより素敵だね……僕の自慢の旦那さんさ♡」ス

リスリ

提督「そうか／／／」ナゲナゲ

(くそく!) 大天使シグレエルの威力がパネエぞ! / / / / / ド
キドキ

時雨「提督」ムナモトクイクイ

提督「ん?」

時雨「キス、しよ?♡」

く上目遣い+首傾げ+潤んだ瞳く

提督「お、おう / / / /」

時雨「♡」クチビルサシダシ

提督「」チュツ

時雨「く♡」

ガシツ↑時雨のだいしゆきホールド炸裂!

提督「!?!」ビクツ

時雨「ん……ちゆつ……つ……んはあ♡ んつ……んくつ……あふ

……ちゆつ♡」

提督「んつ……ちゆちゆつ……んく……」

時雨「もつろ……はむつ……んんつ♡ ちゆつ……んく♡」

提督「ぷはあ……はあ、はあ……熱烈だな…… / / / /」

時雨「ふふ♡」スリスリ

提督「 / / / /」ナデナデ

時雨「く♡」ゴロゴロ

提督「時雨」

時雨「何だい、提督?」

提督「愛してるぞ」ナデナデ

時雨「僕も愛してるよ♡」ギューツ

時雨(提督の側は……)

提督ニコツ「♪」ナデナデ

時雨ニコツ「♡」スリスリ

時雨(僕だけが居ていい場所だから♡)

時雨 完

村雨とケツコンしました。

某海域、昼下がりー

く第四艦隊・帰投中く

那珂「もう少しで鎮守府だねく♪」ノビー

由良「資源沢山持ってこれで良かったわく」ニコツ

春雨「みんな無事なのも良かったです♪」

五月雨「ホントホント」ニコニコ

夕立「でもなんか退屈だったっぽい」

村雨「夕立は出撃の方が性に合っているわよね」クスクス

夕立「だつて出撃して戦果あげると、提督さんが頭撫でてくれるもん♪」ニパツ

村雨「いつも出撃とか関係なく頭撫でてもらってるじゃない」ニガワライ

春雨「ええ!?! 夕立姉さん、ズルいです! 春雨も司令官に撫で撫でされたいです!」

五月雨「私もされたいです!」

那珂「あはは、今回のお仕事は大成功だし、みんな撫でてもらえるよ♪」

由良「きつとワシヤワシヤくって撫でてくれるわね」クスクス

夕立「早く帰って提督さんに撫でてもらうっぽい!」

春雨「あ! 夕立姉さん、待ってください!」

五月雨「ズルいですよ!」

村雨「みんなく! 隊列崩さないでく!」

那珂「仕方ないなく……由良ちゃん、村雨ちゃん、速度上げよ」

由良「了解」クスクス

村雨「すみません」ニガワライ

くそして無事に帰投!く

◇執務室◇

提督「」カキカキ↑仕事中

ダダダダダッ！

提督「？」

ダダダダダダダダダッ！

提督「??」

ズバーーン！

提督「!Σ(□?;)」

夕立「提督さん、ただいま〜！」トビツキ

提督「お、おお〜、夕立……お帰り」ウケトメ

春雨「夕立姉さん！」

五月雨「あ〜！ 一人だけズルいです！」

／ワイノワイノ!!

那珂「失礼しま〜す☆」キラツ☆

由良「失礼します」ペコリ

村雨「失礼します」ニガワライ

提督「お、お〜、三人共お帰り〜」

〜提督、夕立達で揉みくちやに〜

那珂「村雨ちゃん、旦那さん盗られちゃったね〜」

由良「元気出してね？」ナゲナゲ

村雨「い、いえいえ！ 大丈夫ですよ！ あれくらいいつものこと
ですから！」

那珂「村雨ちゃんは大人だね〜。那珂ちゃんが村雨ちゃんの立場
だったら嫉妬しちゃうな〜」

由良「私もちよつと妬いちゃうかも……提督ってモテるから大変
ね」

村雨「提督が私だけを愛してくれてるのは分かってますから」ニ
コッ

那珂「さっすが〜♪」

由良「正妻の余裕ってやつかしら」クスクス

村雨「いや〜、ははは」

夕立「提督さん、褒めて褒めて〜♪」ギューッ

春雨「春雨のことも褒めてください〜！」ヒシッ

五月雨「私も忘れちゃ嫌です〜！」グイグイ

提督「分かった分かった」ニガワライ

／ワイワイガヤガヤ

村雨「グツ↑拳を握りしめる

那珂「ほらほら、みんな〜！ 報告出来ないから、そこまでだよ

！

由良「これ以上提督さんの邪魔しちゃダメよ〜」

夕・春・五『はい』

〜報告終えたみんなは戻り、夫婦だけに

提督「なあ、村雨？」

村雨「何ですか？」

提督「この状況は？」

村雨「嫌なんですか？」

提督「嫌というか……恥ずかしいかな……」

〜村雨、提督にだいしゆきホールド〜

村雨「提督は村雨のだもん……」ヒシッ

提督「そうだな」ナデナデ

村雨「夕立も春雨も五月雨も、みんな提督にくつつき過ぎなのよ

……」ギューッ

提督「今に始まったことじゃないけどな」ニガワライ

村雨「提督は誰の？」プクウ

提督「俺は村雨のだよ」ナデナデ

村雨「うん♡」ギューッ

提督（村雨って意外とヤキモチ焼きだよな〜）

村雨「提督、ちゅうしょよ？♡」ジーツ

提督「え」

村雨「村雨は提督の愛が無いと死んじゃうの♡ いいでしょ〜？

♡」ウルウル

提督（なんだこの可愛い生き物／＼／＼）

村雨「提督♡」グイグイ

提督「一回だけだぞ？ まだ仕事なんだからな」ナデナデ

村雨「は〜い♡」オメメトジル
ちゅっ♡

村雨「〜♡」ガシッ

提督「!？」

村雨「あむ♡ んむう♡ はっ♡ んん〜♡」チュツチュツ

提督「んっ…:…んんっ…:…っ…:…はむ…:…」チュツチュツ

村雨「あん♡ んっ♡ ちゅ〜…:…ぷはあ♡」ハアハア

提督「おい／＼／＼／」

村雨「なあに、提督〜?♡」トローン

提督「一回って言ったろ／＼／／」

村雨「口を付けて離すまでが一回だもん♡」エへへ

提督「可愛い屁理屈を言うな／＼／／」ペシッ

村雨「あん♡ いじわる〜♡」

提督「いじわるじゃない／＼／／」

村雨「提督とのちゅうなら私、何時間でも出来るわよ?♡」スリス

リ

提督「何時間でもって…:…／＼／／」

村雨「してみる?♡」ウワメツカイ

〜村雨の唇ぷるん〜

提督「仕事の後でな／＼／／」ナデナデ

村雨「ふふ、約束よ?♡」ホッペツンツン

提督「おう／＼／／」

村雨「うふふ、楽しみにしてるわ♡」ニコニコ

提督「仕事終わらせるぞ／＼／／」

村雨「はいは〜い♡」

提督「ピタッ

村雨「どうしたの?」

提督「それはこっちの台詞だ」

村雨「?」キョトン

提督「膝の上から降りてくれ」

村雨「どうして?」

提督「仕事が出来ないからだ」

村雨「村雨は提督にとつて邪魔なの？」ウルウル

提督「そうじゃなくてだな……」

村雨「ρ(TWT、)」「イジイジ」

提督「分かったよ……好きだけいろ」ナデナデ

村雨「えへへ♡ 提督って優しいから大好き♡」ギューツ

提督「ありがと」ナデナデ

◇執務室外・ドア前◇

村雨『提督♡ 村雨だけの提督♡』スリスリゴロゴロ

提督『おく、村雨だけの俺だぞ♡』ナデナデ

／イチャイチャラブラブ＼

白露「うわお／／／」ノゾキ

時雨「ちよつと入りにくいね」ニガワライ

江風「村雨姉貴って結構甘えるんだな／／／」ノゾキ

海風「結構では無いと思うわ／／／」チラッ

涼風「お熱いなく、こんちきしょく／／／」チラッ

川内「凄いラブラブだねく、前から知ってたけど」ニガワライ

→遠征完了の報告に来た

川内「先に艀装置いて来ちゃおうか」

時雨「そうだね」

白露「その時間で終わればいいけどねく」

江風「ンなら、間宮さんの所でお茶してからにしようぜ♪」

海風「でも報告は？」

涼風「あん中に入れる訳ないだろく？ 報告はその後だよ」

川内「んじゃ、艀装外して間宮さんとこ直行♪」

全員『おく！』

しかしその後でも、夫婦のラブラブタイムは終わっていないなかったというー。

村雨 完

夕立とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&夕立の部屋◇

女提「夕立く、起きてく」ユサユサ

夕立「ぼいく……」ムクリ

女提「おはよう。朝よ」ニコリ

夕立「ぼい」ギユム

女提「早くしないとデート行けないわよ」ナデナデ
ガバツー

夕立「デート！ 今日デートっぼい！」キラキラ

女提「朝ごはん食べてデート行きましょう」ニツコリ

夕立「はくい♪」

く夫婦揃って朝食く

女提「いただきます」人

夕立「いただきます！」人

女提「今日のデートはどこ行きたいか決めた？」

夕立「沢山あって決まらないっぼい」ムグムグ

女提「ニガワライ

夕立「だって夕立は提督さんと一緒ならどこでも楽しいもん♪」パ
クパク

女提「相変わらず可愛いこと言うのね」ナデナデ

夕立「えへへ♡」

女提（可愛いっ!!）ナデグリナデグリ

夕立「わふく♡」キラキラ

く朝食を終え、街へく

◇繁華街◇

女提「取り敢えず街へは来たけど、どうする？」

夕立「クンクン

女提「夕立？」

夕立「こつち！ こつちっばい！」グイグイ

女提「はいはい」フッフ

◇クレープ屋◇

夕立「キラキラ

女提「何にするの？」

夕立「ストロベリークリーム！」

女提「分かった……すみません、ストロベリークリームを一つ」

店員「畏まりました！」

夕立「提督さんは食べないの？」

女提「朝食食べてそんなに時間経ってないし、私食べたらず食べただけ増えちゃうから」ニガワライ

夕立「ムウ

女提「どうしたの？」

夕立「提督さんはもつと食べた方が良いつばい！ 提督さん気にし過ぎっばい！」

女提「私くらいの歳になれば気にしなきゃいけないのよ……」ニガワライ

夕立「どんな提督さんでも夕立が居るから問題ないっばい！」
ジーツ

女提「ありがと……でも、本当に今はお腹減ってないのよ」ナゲナ
デ

夕立「分かったっばい」

店員「ストロベリークリームお待たせしました！」

女提「は〜い」

店員「ありがとうございました〜！」

くそばにあったベンチへ〜

女提「はい、どうぞ」つくレープ

夕立「わ〜い♪」アムアム

女提（可愛い♡）ニコニコ

「美味しい？」

夕立「……とつても美味しいっぽい♪」ニパッ

女提「夕立、口元にクリーム付いてるわよ」フフ

夕立「え〜！」ペタペタ

女提「こつちよ」ペロッ

夕立「えへへ♡ 提督さんありがと♡」ニコッ

女提「どういたしまして♪」

夕立「ジーツ

女提「？」クビカシゲ

夕立「提督さんも一口食べて」つくレープ

女提「え」

夕立「せっかくデートしてるんだから、こういうことは共有した方が

良いっぽい！」フンス

女提「ふふ、分かった……あむ」

夕立「あ」キュン

女提「ん、甘くて美味しいわね♪」ニッコリ

夕立「／／／／」キュンキュン

女提「ん？」クビカシゲ

夕立「提督さんがお口あくんつてする仕草が可愛かったから、もう

一口食べて見せて〜♪」

女提「ええ〜!?／／／」ボンッ

夕立「お願い」ウルウル

女提「し、仕方ないわね……はむっ」

夕立「〜♡」キラキラ

女提（恥ずかしいけど、夕立が幸せならいいか）

◇ペットシヨップ◇

女提「わあ〜、柴犬〜♪」ナデナデ

柴犬「シツポブンブン

夕立「グヌヌ

女提「かあいいく♪」スリスリ
柴犬「シツポブンブンブン

夕立「提督さん、もう次に行くつぽい」グイッ

女提「えええ」

夕立「早く」グイグイ

女提「柴犬ちゃん」

くペットシヨツプの外へく

女提「何がダメだったのく？」

夕立「ムツス」

女提「わんちゃん可愛かったじゃないのく」

夕立「でも、あんなにデレデレになる必要ないつぽい」フンッ

女提（嫉妬かな？）

夕立「プンスコ」

女提「機嫌直してよ」ナデナデ

夕立「頬ずりしてないつぽい」ジト

女提「はいはい」スリスリ

夕立「なんだかおぎなりつぽい？」ジトト

女提「夕立好き」スリスリ ナデナデ

夕立「夕立も提督さん好き」にへへくくく」デへへ

女提（ちよろかわ）ナデナデ

昼

◇公園◇

夕立「お弁当」ワクワク

女提「ふふ、しっかり作ったからね」

パカッ

夕立「わあ！ サンドイッチ！」

女提「おかずも沢山作ったからね」

夕立「いただきまます」人

女提「召し上がれ」

夕立「ジャムサンド美味しい」ハグハグ

女提「ジャムもお手製だからね♪」

夕立「提督さんとケツコン出来て毎日幸せっぽい♡」ニパツ

女提「私は夕立に出会ってから毎日幸せよ」ニツコリ

夕立「ズキューーン

女提「？」

夕立「夕立、提督さんしか見えない♡」オメメハート

女提「あら、今更ね♪」ナデナデ

夕立「えへへ♡」スリスリ

女提「これからもよろしくね」ホツペチユツ

夕立「♡」

女提「ニコニコ

耳ペロッー

女提「きやつ／／／」ビクッ

夕立「夕立、スイッチ入っちゃったっぽい♡」オメメハート

女提「公共の場だから落ち着いて／／／」アセアセ

夕立「じゃあ、向こうの林の奥で素敵なパーティーするっぽい♡」グ

イグイ

女提「ま、待って♡!!／／／」ズルズル

二人は林の中へ消えていったー。

夕立 完

春雨とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇食堂◇

春雨「そんな、いけません！ そんなことをしたら司令官が！」

提督「俺のことはいいんだよ。春雨や皆の健康管理も俺の仕事のうちだ」

春雨「それを言うなら春雨は秘書艦でお嫁さんです！ 大切な司令官の健康管理は私の担当です！」

提督「それでは春雨が……いつも執務室で仕事ばかりの俺より、いつも前線に赴いている春雨の方が辛いだろう？」

春雨「それが私達の使命ですから！ それに愛する司令官が倒れちゃったりしたら艦隊が……春雨はどうしたらいいか……」ポロポロ

提督「な、泣くな……分かった、じゃあこうしようー」
／ヤイノワイノ!!＼

五月雨「またやってる……」アワワ

夕立「ねー、提督さん達またやってるっぽい」ハムハム

時雨「まあいつも通りだね」クスクス

村雨「今日は玉子焼きの最後の一個をどっちが食べるかで口論してるわねー」モグモグ

白露「昨日は最後の唐揚げで口論してたよねー」パクパク

涼風「白玉ぜんざいの最後の白玉でも口論になってた」ヤレヤレ

海風「互いに思い遣るからこそ毎回あなるのよね」ハア

江風「ンでもって最終的にはー」

提督「ーこれなら二人で食べられるな」ニカツ

春雨「はい♡ 仲良く半分こ、です♡」ニパツ

／イチヤイチャラブラブ＼

江風「ー結局お二人仲良く半分ずつ食べるってなるンだよな」
パクパク

海風「結局毎回あなるのがオチなんだから最初から半分にしよ

うってならないのかしら」ニガワライ

村雨「寧ろ大皿で頼まないで小皿で頼めばいいのにね」ニガワライ

時雨「あのやり取りも二人にとっては必要な戯れなんだよ、きつと」
フフフ

夕立「やっぱり二人は仲良しっばい」モグモグ

白露「夫婦だからこそ」飯のおかずまでも同じお皿の物を食べたい
んだね」

五月雨「その内全部食べさせ合おうんじや……」

涼風「みなまで言うな。フラグが立つ」

春雨「美味しいですね、司令官♡」

提督「そうだな」

く夫婦仲良く最後のおかずを食べさせ合おう

姉妹達『今があれじゃ、いつか絶対全部を食べさせ合おうよね、アレ

……』↑確信

春雨「♡」

提督「♪」

くそして夫婦はお仕事へ

◇執務室◇

春雨「司令官！ これくらいは春雨がやりますから、司令官は次のお仕事に！」

提督「いや、ここは俺が。春雨はさつき工廠へ行つてきて、今帰つてきたばかりじゃないか」

春雨「これは秘書艦である春雨のお仕事です！」

提督「いやでもこれくらいは俺がやった方が……全ての雑務を愛する嫁にさせるのは気が引ける」コマリガオ

春雨「そんな困った顔をしないでください……分かりました。ならこうしましょうー」

／ワイノヤイノ!!

長良「ニガワライ

由良「クスクス

那珂「またやってるね〜♪」キャハ

長良「遠征の報告書を提出しに来ただけなんだけどね〜」

那珂「いつもどっちが報告書をファイリングするかで揉めちゃうよね〜♪」

由良「しかもどっちの主張も相手を思い遣ってるのよね〜」フフツ

那珂「そして最後には〜」

春雨「〜こうしてやれば二人で出来ますね♡」ニコニコ

提督「そうだな♪」

／アハハ！ エヘヘ！＼

那珂「〜二人で一緒にファイリング作業になっちゃうんだよね〜♪」

長良「効率を考えるとあっちの方が悪いけどね」ニガワライ

由良「夫婦で流れ作業じゃなくて共同作業だからね」クスツ

長良「結局こうなるなら最初から一緒にやればいいのよね」

由良「そこはほら、お約束ってことで♪」

那珂「思い遣り口論があつてこそその二人だからね〜♪ その内提督

が春雨ちゃんを膝に乗せて全部作業するんじゃない？」キャハ

長良「なりそう……」

由良「そうかもね♪」

提督「ここを抑えて」

春雨「ここを止めて」

提・春『出来上がり〜♪』

〜春雨は提督の膝の上に座っている〜

長良「まあ仲悪いよりは、ね」

由良「そうそう、それにあれでこそその二人だから」

那珂「あつま〜い♪」

春雨「〜♡」スリスリ

提督「〜♪」ナデナデ

そして時は流れ夕暮れ〜

◇執務室◇

提督「よし、今日の仕事終わり！」

春雨「お疲れ様でした♡」ニコツ

提督「さて、夕飯の買い物しつつ帰るか♡」ノビー

春雨「はい♡」

く戸締まりをして夫婦は帰宅く

◇自宅近くのスーパー◇

春雨「今日は何が食べたいですか？」

提督「まずはぐるっと回って、それから決めよう」ヒダリウデスツ

春雨「はい♡」ウデギユツ

ー。

春雨「牛挽肉が安いですねく」

提督「卵もお一人様一パックで百円だな」

春雨「牛挽肉……卵……お家には玉ねぎも残ってましたし、フーカ
デンビーフでも作りましょうか？」

提督「おく！ いいなそれ！」

春雨「由良さん直伝なので自信あるんですよ♡」エツヘン

提督「春雨の料理はどれも美味しいから大丈夫さ」ナデナデ

春雨「嬉しいです♡」ゴロゴロ

くお会計を済ませ、袋詰めく

春雨「エコバッグ、エコバッグ……」スチャ

提督「今日はそんなに買わなかったし、一つで済みそうだな」

春雨「はい♪ 軽いので私が持ちます♪」

提督「いや、軽いからこそ俺が」

春雨「愛しの司令官に荷物を持たせるなんてダメですう！」

提督「んく、愛しの春雨に荷物を持たせるのは悪い気が……」

春雨「じゃあ……♡」チラツ

提督「そうだな♪」ウインク

く夫婦はバッグの持ち手を片っぽずつ持つく

提督「これなら……」

春雨「一緒に持てますね♡」
こうして夫婦は軽い荷物を互いに仲良く運び、夕暮れに照らされ笑
顔で帰宅したー。

春雨 完

五月雨とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇執務室◇

コンコン――

提督「はい、どうぞ」

ガチャ――

由良「失礼します」

那珂「お仕事（遠征）終わりました☆キラッ

夕立「提督さん！ ただいまっぽいっ！」

春雨「ただいまです」ニコッ

涼風「これが今回の成果だぞっ！」っ報告書

村雨「あとこちらが家具コインです♪」っ家具コイン

提督「ああ、ご苦勞様」ウケトリ

涼風「あれ？ 提督の嫁さん居ないのか？」キョロキョロ

由良「もお、涼風ちゃんったら……」クスクス

那珂「この時間に居ないってことは……」

春雨「お茶汲みですかね？」

夕立「流石奥さんっぽい！」

村雨「そうねっ」ニコニコ

提督「んんっ／／／」セキバライ

由良「こらみんなっ、提督さんが困ってるわよ」フッフ

那珂「照れてる☆」キラッ

夕立「提督さんお顔真っ赤っぽいっ！」キヤツキヤツ

春雨「今日は熱いですからね」クスッ

村雨「しかも局地的にねっ」ニヤニヤ

涼風「団扇持ってくるかっ？」ニシシ

提督「勘弁してくれ……／／／」

ガチャ――

五月雨「ただいま戻りましたっ。提督、お茶をお持ちしました」ニ

コニコ

提督「あ、ありがとう／＼／＼」ハニカミ

由良「奥様のご登場ね♪」

那珂「おつかえり☆」

夕立「五月雨来たっぽい！」

春雨「ニニコニコ

村・涼』ニヤニヤ

五月雨「皆さんもお帰りなさい、遠征お疲れ様でした！」コトコト

コケっ↑いつもの

全員『あ』

湯呑が宙を舞う

バシヤ！↑湯呑は綺麗な弧を描き提督の頭に

提督「ボタバタ

全員『(ダイリー達成)』

五月雨「あわわ！ 提督、ごめんなさい！ 今拭きますから！」パ

タバタ

五月雨、提督に掛かったお茶を拭く

由良「提督さん、大丈夫ですか？」

提督「ああ、大丈夫だ。こうなるとわかっているから、五月雨にはぬるめのお茶をいつも頼んでいるからな。それに五月雨もちやんとこうなることを見越して、タオルを常備している。実に頼もしい限りだ」ナデナデ

五月雨「えへへ」フキフキ

那珂「ベクトルがズレてる」ニガワライ

村雨「愛のなせる業ね」ウンウン

春雨「そうなのかな？」ニガワライ

夕立「でもぬるいなら火傷しないから安心っぽい！」

涼風「もうお茶をかけられること前提で考えた方が楽だもんなく

ウンウン

それから艦隊は下がり、二人きりに

五月雨「提督、帽子と上着預かります。早くしないと染みになっ

ちやいますから」

提督「いつもすまないなく。今回も頼むよ」ナデナデ

五月雨「はい、お任せください！♡」フンスフンス

提督「あはは、五月雨のその前向きな姿勢を見ていると力が湧いてくるよ」

五月雨「それだけが取り柄ですから♪」ニパツ

提督「何を言ってるんだ？ 他にも重要な取り柄があるだろう？」

五月雨「??」クビカシゲ

提督「俺にいつも幸せを与えてくれるという、取り柄があるじゃないか」ニカツ

五月雨「はうく……そんな、急に……はふう、反則ですよ♡／／

／／「ヤンヤン

提督「急も何も事実だからな」アハハ

五月雨「もお、提督ったら♡」モジモジ

提督「そんなことしても可愛いだけだぞ？」ニヤニヤ

五月雨「あうあうあう……♡／／／」ポツポツ

五月雨「と、取り敢えず！ 洗濯してきちやいますね！／／／／

提督「よろしくな」

五月雨「はい♡」ワハー

◇提督&五月雨の部屋◇

五月雨「えっと、まだそんなに時間は経ってないから洗面台でさ

さつと手もみ洗いすれば大丈夫だよね♪」

◇洗面台◇

五月雨「く♪」ジャー

くお水を貯めるく

五月雨「はっ！ お水につける前に上着のポケットの中を確認しなきゃー！」

ガサゴソー

五月雨「普通のポケットには何も無かった……次は胸ポケットを……」ガサゴソ

く何か厚紙のような物を発見く

五月雨「あ……」

五月雨（提督……胸ポケットに五月雨とのケツコン式の写真なんて入れて、持ち歩いていたんですね♡）

五月雨「えへへ♡」ニヤア↑幸せで顔が緩む

五月雨「（。ㇿ。）」ハッ！

五月雨（いけないいけない！ つい嬉しくてだらしない顔に……！）

五月雨「えつとあとは内ポケットだけ……」ガサゴソ

五月雨「？」

く何やら小物が入っているく

五月雨「あっ」

く五月雨お手製の御守を発見く

五月雨「うふふ♡」ニヨニヨ

五月雨（提督……いつも持っていてくれてたんだ♡）

ガチャー

提督「五月雨、悪いんだが上着に大切な物を入れっぱなししてたんだー」

五月雨「あ♡」ワハー

提督「ーが……ポケットの中、確認してくれたのか……」
テレッツ

五月雨「えへへ♡」ニヨニヨ

提督「笑わないでくれ……」カァー

五月雨「嬉しくて笑みがこぼれちゃいます♡」デレッツデレ

提督「と、取り敢えずその写真と御守を返してもらえないか？」
／／「アワワ

五月雨「は〜い♡ にへへ♡ 私も提督とのケツコン式の写真と提督から貰った御守をいつも持ち歩いてますよ♡」ギューツ

提督「そ、そうか……はは、何だか恥ずかしいが、それと同時に嬉しさもあるな／／」ナデナデ

五月雨「一緒ですね♡」カオグリグリ

提督「そうだな……／＼／＼／＼」

クイクイ↑提督、服を引っ張られる

提督「？」

五月雨「んゝ♡」

提督「ズキューーン

く瞼を閉じる＋唇差し出し＋少しの背伸びく

提督「五月雨……」

ちゅっ♡

五月雨「提督、大好きです♡」エへへー

提督「俺も五月雨が大好きだ」ニカツ

そして夫婦はその後、暫くいちやついていたとかー。

数時間後ー

五月雨「あゝ、洗濯するのすっかり忘れてました〜！」

提督「まあこれくらいなら漂白剤と重曹で落ちるさ。こうなった時の為に買い置きしてある」ナデナデ

五月雨「流石提督です♡」ニパツ

こうして仲良く染み抜きし、仲良く仕事に追われたのであったー。

五月雨 完

海風とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇執務室◇

海風「提督、遠征班の確認終わりました。問題ありません」

提督「そうか。ならみんなに遠征に向かうよう通達してくれ。それが終わったら資材の確認と艦装開発を頼む」

海風「了解しました」ケイレイ

提督「よろしくな」ニコリ

海風「はい……／＼／＼」ポツ

◇埠頭◇

海風「では遠征班の皆さんお気をつけて」ケイレイ

遠征班『了解』ケイレイ

／サア、イクワヨー ガンバロー オー！＼

海風「次は資材の確認と艦装開発つと……」クルリ

満潮「あら、海風」

朝潮「おはようございます」

海風「おはようございます。二人してどうしたんです？」

満潮「今日は訓練も休みだから艦装の手入れよ」

海風「海風もこれから資材の確認と艦装開発に工廠へ行くので、一緒に行きましょう」

朝潮「そうね♪ 一緒に行きましょうか」ニコツ

満潮「そうね」

ゝいぎ、工廠へ

海風「あの……ちよつと聞いてほしいことがあるんですが、いいですか？」

朝潮「はい。私達で良いなら」ニコツ

満潮「いちいち畏まらなくていいから、早く言いなさい」

海風「ありがとうございます。実はー」

く海風相談中く

朝潮「司令官へ日頃の感謝、ですか……」フムフム

満潮「別にそんなことしなくてもいいんじゃないの？ あんたはあいつを良く補佐してるんだから」アキレ

海風「しかし！ 提督は海風に沢山のものを与えてくれました！ そのお礼がしたいんです！」

満潮「はあ……仕方ないわね……」ヤレヤレ

朝潮「うくん……司令官の好きな料理を振る舞うのはどうです？」

海風「料理……」

満潮「あいつは案外辛い物が好きなのよ。中華料理とかいいんじゃない？」

海風「確かに……いつもカレーの時は辛口を頼んでましたし。中華料理……鳳翔さんに相談してみます！」

朝潮「そうね。料理に関しては私達は助言は出来ませんから」ニガワライ

海風「でも、いい案を頂けました。二人には感謝します♪」

満潮「はいはい、どういたしまして」

朝潮「はい♪」

それから数日後ー

夕方ー

◇執務室◇

海風「提督、そろそろ夕食の準備をしに行ってもいいですか？」

提督「ああ、いつもありがとう。今日もよろしく頼むよ」

海風「出来上がったらお呼びしますね」フンス

提督「楽しみにしてるよ」ニコリ

海風「はい／＼／＼」

◇提督&海風部屋◇

海風「えつと……豆板醤と山椒をいつもよりも辛味が強い物を使つて……」

く海風奮闘中く

海風「チロツ↑味見

(っ!?)

パタパター

海風「ゴクゴク

海風「辛かった……」フウ

(こんなに辛いのに大丈夫かな……)

海風「でも鳳翔さん直伝ですし、きつと大丈夫」フンス

く提督を呼んで夕食タイムく

提督「おく、今日は中華かく」キヨロキヨロ

海風「はい♪ 鳳翔さんに教わって作りました」ニコリ

提督「麻婆豆腐に青椒肉絲……これは回鍋肉か？」

海風「はい♪ どうぞ召し上がってください！」

提督「頂きます」人

パクシー

海風「ドキドキ

モグモグー

海風「ハラハラ

提督「うん！ 辛くてとても良い！ とてもウマイぞ！」

海風「良かったです」ニコニコ

提督「しかし、どうしていきなりこんな料理を？」

海風「感謝の気持ちです」ニコリ

提督「感謝の気持ち？」

海風「はい。海風は提督から沢山の贈り物を頂きました。優しさ、

真心、愛情……沢山、沢山……」

提督「海風……」

海風「だからその感謝の気持ちを込めて、今日は提督が好きな辛い料理にしました」ニコリ

提督「参ったな……」ニガワライ

海風「？」クビカシゲ

提督「先を越されたよ」

海風「え」

提督「俺もな……海風から沢山の贈り物ももらってるんだ。海風に
出会ってから毎日……」

海風「提督……」

提督「だから俺も海風にこれを作ったんだ……」つ箱

海風「あ、ありがとうございます」ウケトリ

提督「開けてくれ」

海風「は、はい……」

パカッー

く四号ワンホールのショートケーキく

海風「わあ……」キラキラ

提督「海風は甘い物が好きだろ？ だから間宮に教わりながら作っ
たんだ」ニガワライ

海風「あ、ありがとうございます！ とても嬉しいです！」

提督「なら夕食のデザートに食べよう」

海風「勿論です！」

くデザートタイムく

海風「いただきます」人

提督「どうぞ」

パクリー

提督「ドキドキ

モグモグー

提督「ハラハラ

海風「甘くて美味しいですく♪」

提督「良かったく」ダツリヨク

海風「しかし、二人して料理を出し合ったのは驚きましたね」フフ

提督「それだけ似た者同士なんだろ」ハハ

海風「提督、いつもありがとうございます♡」

提督「こちらこそ、いつもありがとうございます」ナデナデ

海風「あ……えへへ♡」デレデレ

提督「ほら、もつと食べる」つケーキ

海風「はい♡」モグモグ

提督「今度一緒に料理しようか」

海風「はい、喜んで♡」オメメハート

こうして夫婦はより互いを思い遣り、仲睦まじく末永く幸せに暮らしましたとさー。

海風 完

山風とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇鎮守府本館・廊下◇

山風「えへへ……提督、沢山食べてくれた♡ 沢山おかわりしてくれた♡」

山風「山風、昼食時の食器を洗い終わって執務室へ戻る途中」

山風「提督の笑顔、好き♡ 優しくて……心がポカポカして……ずっと見ていたく、なる♡」

山風「えへ、えへへへへ♡」ニヨニヨ

「お前何歩きながら笑ってんだ？」

「傍から見ると怖えぞ？」

「ちよつと、二人共！」

山風「はう!?／／／」ドキーン

江風「また提督のこと考えながら歩いてたのか？」ホッペツンツン

涼風「毎度毎度お熱いね、こんちくしょう♪」ホッペツンツン

山風「や、やめひえお／／／」アウアウ

海風「いい加減になさい」ゴチン

江・涼『はぴょん!』

山風「海風姉／／／」ウウー

山風「海風、海風の元へ」

海風「よしよし……二人がごめんなさいね」ナデナデ

山風「うん……平気」スリスリ

江風「ててて……ほんの冗談じゃんかよ」ナミダメ

涼風「そうだよ……」ジンジン

海風「冗談でも山風は嫌がってたでしょ？」ギロツ

山風「ふっ」イカク

江風「ゴメンゴメン」ニガワライ

涼風「許してくれよ」ニガワライ

海風「はあ……山風、二人にはちゃんといい聞かせるから、許してあげて。ね？」ナデナデ

山風「……………分かった」コクリ

「そしてみんなで執務室へ」

山風「海風姉達は提督に用事？」

海風「ええ、江風この子がこの前の報告書をまだ提出してなかったから」ニガワライ

江風「そそ♪ やつと書けたんだ♪」

山風「提督、何も言わないけど困ってたど、思う……………」ジトトツ

江風「ゴメンゴメン」ニガワライ

涼風「こりや忘れてたなんて言えねえなく」ニシシ

江風「ちよ、バカ、涼風！」

山風「か わ か ぜ」ジトトツ

江風「ゴメンってば！」アワワ

山風「あたしにじゃなくて提督に謝って」プイッ

江風「お、おう、ちゃんと謝るよ」ニガワライ

海風「次からはその日の内に書くのよ？」

江風「は〜い……………」

海風「返事はハッキリ」

江風「はい〜！」

海風「語尾を伸ばさない！」

江風「はいっ！」

涼風「クスクス

江風「〜！」グヌヌ

山風「アツカンベー

江風「（———）」ウウー

◇執務室◇

提督「はい、確かに受け取りました」ニコニコ

海風「妹がすみませんでした」フカブカ

江風「スンマセンした〜！」フカブカ

提督「大丈夫大丈夫。ちゃんと提出したなら問題ないよ♪」
海風「ほ、本当ですか？」

提督「ああ。それに江風は前からちゃんとやれる子だと分かってたからね」ナデナデ

江風「へへ♪ さっすが提督♪」スリスリ

涼風「調子がいいなく」ニガワライ

山風「……………」スツ

山風、提督の元へ

提督「ん、どうした山kー」

山風「!!」ゲシッ

山風、提督のスネにローキック

提督「うぐお!!」

海風「山風!」

江風（うわ、痛そ…………）

涼風（嫉妬のローキックか）

山風「もう知らない!」フンッ

山風、執務室の隅で体育座り

提督「や、山kー」ナミダメ

山風「放つといて!」

提督「うぐ…………」

海風「山風…………」オロオロ

江風「どうすんだ、提督?」ニヤニヤ

涼風「早く謝れよ?」ニヤニヤ

提督「もちのろんだとも…………」

提督、山風の側へ

山風「放つておいてよ…………あたしになんか構って、ないで、江風を、構って、たらいいんじゃない?」イジイジ

提督「何を言っているんだい。僕が一人の女性として愛しているのは山風、君ただ一人だよ」ナデナデ

山風「やつ、放つといて!」

提督「そんなに寂しいことを言わないで。愛する君にそんなことを

言われるのは悲しい」ギョッ

「提督、山風をあすなる抱きしながら撫で撫で」

山風「んんっ……こ、こんなにやことしたって……んっ、許しやにやんだか、らあ♡／／／／」トローン

提督「許してくれるまで止めないよ」ナデナデナデナデ

山風「放つといてって、言つてゆでしよ〜!♡／／／／」スリスリ
／ヤマカゼー! テイトクー!〜

江・涼『(。彡)』ポカーン

海風「ここは提督にお任せして、もう行きましよう／／／／」

江・涼『(。彡)』コクコク
パタン……

そしてー

山風「んゆ〜♡ 提督〜♡ しゅきしゅき〜♡」スリスリ

提督「ああ、僕も山風を心から愛している」ナデナデ

山風「もつと〜♡ 放つといちやや〜♡ 構つてくれなきやや〜

♡「ニコニコ

提督「可愛い奴め♪」ナデコナデコ

山風「ん〜♡」ヤンヤン

提督「ん、撫で撫では嫌かい?」

山風「撫で撫でじゃなくて……／／／／」ウウー

提督「じゃなくて?」

山風「あの、えと……うう〜♡／／／／」モジモジ

「山風、提督と向き合う」

山風「今は誰も居ないから、そのお……ちゆう、してほしいな♡／

／／」オメメハート

「上目遣い+甘えた声」

提督「!!?／／／／」ズキューーン

山風「♡／／／／」エヘヘ

提督「山風……」アゴクイツ

山風「あ♡」ー

提督「愛している、山風」チュツ

山風「んっ、ちゅっ♡ んんっ、んはあ、んっ……ちゅっ、ちゅっ……んむう♡」ギューッ

提督「んんっ……っ……ん、はあ……随分と熱烈なキスだね／＼／
／」ホツペナデナデ

山風「提督があたしに初めて教えたちゅうだよ♡」ホツペチュツ

提督「そ、そうだったかな？」ニガワライ

山風「うん♡ 提督はあたしにいつぱい、色んな初めて、教えてくれた♡」

とんっ♡↑提督、山風に押し倒される

提督「山風？」

山風「これからすることも、提督が教えてくれた……ことだよ♡」エ
へへ

提督「せ、せめて夜に……／＼／＼」

山風「あたしの初めても、こんな時間だった……よ？♡」ハーハー

提督「そ、それは……／＼／＼」

山風「今度はあたしが……提督に……山風の提督への愛を、教える……ね？♡」

提督「お手柔らかに／＼／＼」

山風「提督はあの時、激しかった……から、そのお願いは……却下
します♡」ニコニコ

提督「おうふ／＼／＼」

◇執務室外・ドア前◇

山風『提督♡ 好きっ♡ 大好きっ♡ 愛しているのっ♡ だから
もっとおっ♡』

提督『や、山風おっ／＼／＼』

／パステルピンクオーラムンムン＼

妙高「あらあら、こんな日が高い内からだなんて」ニガワライ

那智「何をやってるんだ、このバカ夫婦は」ヤレヤレ

足柄「近い内にお赤飯炊かなきゃいけないかしら？」ニコニコ

羽黒「／＼／＼」コウチヨク

加賀「山風はちゃんと出来る子だと信じてました」ウンウン

龍驤「いやいや、納得してへんで、そこはちゃんと注意したれや」ニ
ガワライ

その後、帰投報告に来た加賀達はドアの隙間にソツと報告書を挟んで静かにその場を後にしたー。

山風 完

江風とケツコンしました。

某海域、夜――

江風「提督！ 敵の大艦隊補足したよ！」

提督「現れたな……各艦砲雷撃準備！ 川内は朝潮、大潮、満潮、荒潮を率いて中央突破！」

川内「了解！ 夜戦だ！」

朝潮「一発必中！ 肉薄するわ！」

大潮「いつきますよ！」

満潮「撃つわ！」

荒潮「仕方ないわねえ！」

提督「神通！ 陽炎、不知火、霞、霞を率いて敵右舷へ砲撃！」

神通「了解！ 皆さん付いてきて！」

陽炎「悪いわね！ もらったわ！」

不知火「沈め……！」

霞「撃ちます」

霞「沈みなさい！」

提督「最後に那珂！ 五月雨、海風、江風、涼風と共に左舷へ砲撃！」

那珂「はくい☆ じゃ、みんな行くよ☆」

五月雨「お任せください！」

海風「よく狙って、てー！」

江風「よし、一気に畳み掛けるぜ！」

涼風「いっけえー！」

くA勝利く

江風「ちつとばかし撃ち漏らしたが上出来だろ！」

那珂「うん☆ 敵も退いてるから後は周りに注意だね☆」

海風「!? 上空より敵爆撃機！」

川内「撃ち落とせー！」

神通「江風ちゃん！ 避けて！」

江風「え」

海風「江風ーっ！」

提督「っ!!」

ババーーーン……ぷすぷす……

五月雨「江風！」

涼風「応答しろ！ 江風っ！」

江風「ああ……う、そ……だろ……」

川内「被害は!？」

江風「提督が……」

神通「え？」

江風「提督が……江風の代わりに……っ！」

海風「急いで応急処置を！」

那珂「五月雨ちゃん、涼風ちゃん！ 船に提督を引き上げるの手

伝って！」

五・涼『はい!』

某鎮守府、朝ー

◇指令室◇

長門（提督代理）「状況は分かった。報告ご苦労、三人共」

川内「長門さん、今回のことは私達にも責任があります。だから……」

神通「どうか江風ちゃんには寛大な処分をお願い致します」

那珂「長門さん！ お願いします！」

長門「分かっている。夜間の敵艦載機を撃墜させる難しさは私もよく知っているからな。それに江風より私は提督に怒っているからな。提督の強さは認めているが刀一本で艦載機をぶった斬るなど前代未聞だ」ニヤリ

川・神・那『ゾクッ

長門「そういうことだから安心しろ。今江風はどうして……って聞くまでもないか……」ニガワライ

川・神・那『ニコッ

くそれから数日後く

某鎮守府、朝――

◇医務室◇

江風「提督！ 朝飯持ってきたぜ！ もちろん江風の手作りだぞ！」「へへーん

提督「おお、毎日悪いな」

江風「ンなこと気にすンなよ！ 提督は江風の旦那様で命の恩人なんだからさー！」

提督「妻を守るのは当然だ」

江風「カツコつけてンじゃねえよ……バカ／＼／＼」キユン

提督「ニコニコ

江風「おら、口開けろ！ ンっ」つお粥

提督「ん……うん、美味しい」ニコツ

江風「あつたり前だろ！」へへーん

江風、提督のお世話中

提督「そういえば、長門はまだお冠か？」

江風「最初よりはマシかな」

提督「目覚めて一発目に怒鳴られたからなあ」ニガワライ

江風「そりゃあ仕方ねえよ。提督の命に関わることだったんだし」

(江風のせいだけど……)ズキツ

提督「江風が危ないって思ったらついな……いやあ、火事場の馬鹿力って本当にあるんだな」

江風「ギユツ

提督「江風？」

江風「もうあんな無茶なことしないでくれよ……」ブルブル

提督「」

江風「助けてもらって嬉しかった……でも、それで提督がいなくなつちまったら……江風はどうしたら良いんだよ！ せつかく提督とケツコン出来たつてのにさー！」ブワツ

提督「そうだな……心配掛けて悪かった」ナデナデ

江風「もう絶対あんなことすンなよ……約束だぞ？」グシグシ

提督「ああ約束だ」ギユツ

江風「江風ももつと強くなるからな！」ニッ

提督「ああ」ギユッ

ピクシー

江風「ン？」

サスサス

江風「おい……」ジト

提督「し、仕方ないだろ……／＼／＼」メソラシ

江風「まあ、確かにあの日以来してねえけどさ／＼／＼」サスサス

提督「おい……／＼／＼」ピクッ

江風「こんなの見ちまったら我慢出来ねえよ」サスサス

提督「俺あの日以来風呂入ってないぞ／＼／＼」

江風「ンなの関係ねえよ……寧ろこつちの方がより提督の匂いを強く感じられて、江風は好きだぞ？」スンスン

提督「嗅ぐな……おっ／＼／＼」ゾクッ

江風「なあ、提督」良いだろ？」ムナモトウリウリ

提督「止めろ／＼／＼」

江風「本当に止めて良いのか？」ホッペツンツン

提督「／＼／＼」

江風「無言は肯定だかな」ガバッ

くベッドがギシギシ中

提督「はあ……はあ……はあ……」

江風「はあ……はあ……あ、やば、溢れてきた……」

提督「早く拭けよ……／＼／＼」

江風「ン……どうせシート交換するしかねえし、このままもう一

回しようぜ」オメメハート

提督「マジかよ／＼／＼」

江風「良いだろ？ 大好きな提督だからこんなになってるんだぞ、

江風のは」ギユッ

提督（その台詞反則だろ！／＼／＼）

ピクシー

江風「お……中でおつきくなったな」ニへへ

提督「うるさい／＼／」メソラシ

江風「大好きだぞ、提督♡」チュツ

提督「……俺もだ／＼／」ハニカミ

◇医務室外の扉前◇

江風『あぁつ、提督♡ 提督♡』ハアハア

提督『ちよ、もつとゆつくり……／＼／』

／ギシギシユサユサ

長門「／＼／／」プルプル

陸奥「あらあら、これは出直した方が良いわね♪」

大淀「お見舞いしてから本日の任務構成を聞こうと思いましたが、

これでは聞けませんね／＼／」パタパタ

明石「私は二時間くらい工房の方に行つてようかな／＼／」ドキ

ドキ

その後お昼まで医務室には誰も入れなかったと言う。

そして提督と江風は夫婦仲良く、長門から大目玉を食らうのであつたー。

江風 完

涼風とケツコンしました。

某鎮守府、休日の朝――

◇提督&涼風の部屋◇

く居間にてく

涼風「なあゝ、いいだろ〜?」グイグイ

提督「そういうのは五月雨達と行ってくれよ」グラグラ

涼風「あたいは提督と行きたいんだよ〜!」

提督「僕はそういうの得意じゃないんだって……」

涼風「あたいと一緒なんだから、得意も不得意も無いだろ〜?」

提督「周りの目もあるし……」

涼風「幼妻つて言葉もあるんだから平気だよ〜!」

提督「はあ……分かった。僕の負けだ」

涼風「じゃあ!」パア

提督「行くよ……」ニガワライ

涼風「やあつた♪ 提督大好き〜♡」ホツペチユツ

提督「調子が良いな……」ニガワライ

涼風「へへ〜ん♡」

提督「じゃあ準備して行こうか」

(胃薬持つて……)

涼風「がってんだ〜♪」

お昼前――

◇ファンシーな作りの喫茶店◇

提督(ピンクや白とかばっかで目がチカチカするチカ! 寒色系!

寒色系はどこチカ!) ↑錯乱

「(つ㇗C)」メガ!メガー!

涼風「すいませーん! このカップル限定『メロメロ♡きゅん』を
ください!」

提督(何そのDQNネーム!?)

店員「畏まりました。セットのお飲み物はどうされますか？」

涼風「あたいカフェモカ！」

提督「……エスプレッソで……」

店員「畏まりました。少々お待ちください」

店員「『メロメロ♡きゅん』入りました〜！」

厨房「『メロメロ♡きゅん』了解です！」

提督（空気を読まないスタイルか……）ハイライトオフ

涼風「提督は恥ずかしがり屋だなあ。あたいら夫婦なんだからもつ

と胸張れよ♪」ニコニコ

提督（天使の笑顔と悪魔の行為だ……）ハイライトオフ

涼風「久々にデート出来て嬉しいなあ♡」ルンルン

提督「ごめんね……あんまりデートとかしてあげられなくて……」

涼風「気にすんなよ♪ 提督が外出苦手なの知ってるし。あ、ちや

んとあたいを愛してくれてるのも知ってるからな♡」ニパッ

提督「そ、そんな事を大声で言わないでよ……／／／／」

涼風「悪い悪い♪ お、来たみたいだぜ！」

提督「チラッ

店員「お待たせしました〜。『メロメロ♡きゅん』でございます。お

飲み物はこちらに。甘い一時をどうぞ〜」

くすつごく大きなフルーツパフェ〜

提督（なあにこれえ！）v.o. AIBO

涼風「うお〜！ でっけえ〜！」キラキラ

提督「あれ？ スプーン一つしかない、ね……!?」マサカ

涼風「これは一つのスプーンで食べるんだよ？ だからカップル限

定なんだから♪」

提督（慈愛スマイルで残酷な事をサラッと……）ハイライトオフ

涼風「提督とこうして恋人っぽいことしたかったんだよ♡」ポツ

提督「……そっか……」ニコッ

（なら僕も頑張らなきゃいけないな……）

涼風「だいたい提督は気にし過ぎになんだよ〜。あたいと一緒なん

だから、な？♡」ウインク

提督「そ、そうだね／＼／＼」メソラシ

涼風「はは♪ つくことで、ほら！」つパフェ

提督「うん、瑞々しいフルーツだね」マジマジ

涼風「誰がフルーツの品評しろって言ったんだよ！ 口開けろよ、

口！」つパフェ

提督「ええ!? 待ってよ！ こ、心の準備ががががつ!!」

涼風「そんな準備いつまで経っても終わんねえだろ？」つパフェ突
込み

提督「むぐつ!?!」

涼風「どう？」

提督「うん、美味しいと思われまするでござるで候」↑パニック中

涼風「そつかそつか♪ じゃあ、次はあたいの番」オクチアーン

提督「綺麗な歯並びに虫歯無し!」? d

涼風「だから、食べさせてくれよ」オクチアーン

提督「か、かかか、開始する」ガクブル

涼風「オペでも始めるのか？ 普通にあくんって言ってくれよ」

オクチアーン

提督「あ、あくん／＼／＼」プルプル

涼風「あむ……うん♪ 美味しい♡」リヨウホホオサエ

提督「よ、良かった……／＼／＼」ドキドキ

涼風「でも提督の手が震え過ぎて口の端つこに付いちまった……」
チラツ

提督「」ビクッ

涼風「付いちまった……!」チラツ

提督「……／＼／＼」ウツムキ

涼風「付いちまった」ズイツ

提督「／＼／＼／＼」ペロツ

涼風「上出来上出来♡」ナデナデ

提督（ああ、貝になりたい）

涼風「提督はさ……」

提督「？」

涼風「もつと自分を出して良いと思うんだよ」

提督「ニガワライ」

涼風「せつかく提督からプロポーズしてくれたのに、告白やプロポーズの時だけ近寄って来て、後は離れてるなんてズルくないか？」

提督「メソラシ」

涼風「せつかく一步を踏み出したんだからさ。戻らないでそのままあたいの側にいてほしいな」ウワメツカイ

提督「ど、努力するよ……僕もす、涼風ともつと一緒にいたいから……／＼／＼」ウツムキ

涼風「へへ♡ そっか、そうだよな♡」ニへへ

提督「うん」ニツコリ

涼風「じゃあ気を取り直していつてみよう！」つパフェ

提督「も、もう少し段階を踏まえてだね……」オロオロ

涼風「告白もプロポーズも段階すつ飛ばしてたんだから気にするな！♡」つパフェ突込み

提督「んむう!?!」

涼風「あはは、ほらほらく♡」ツメコミ

提督「んぐくっ!?!」

／ホラホラー ムグー!?!＼

カップルa『こつちにもあのテーブルと同じメニューを!』

カップルb『こつちにも一つく!』

カップルc『こつちもく!』

提督と涼風効果でその日の喫茶店はカップルや夫婦でこつた返したとかー。

涼風 完

朝潮とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇艦娘宿舎一室◇

大潮「ええ!? 司令官が浮気く!!」ガタツ

荒潮「あらあらく」

満潮「アキレ

朝潮「シユン

大潮「そんなあく! 何かの間違いですよ!」ブンブン

荒潮「まあまあ、大潮ちゃん落ち着いて」ドオドオ

満潮「その根拠は?」

朝潮「この前、夕飯の買い物をしてたら、司令官が見知らぬ女性と歩いているのを目撃したんです」

荒潮「見間違いとかは?」

朝潮「それはないわ。司令官がどんなに光学迷彩で姿を消しても気で分かるもの……そもそも軍服着てたし」

大潮「何それ怖い」

満潮「知り合いとかに会って立ち話してただけなんじゃないの?」

朝潮「それもそうだけど、その時間帯はまだ執務室で仕事している時間帯だったの! それに証拠だってあるわ!」つ写真

くカフェでにこやかに話す提督とその女性く

朝潮「青葉さんに頼んでつけてもらったの……それで数日したらこれが……」

大潮「うわあ……何か受け取ってますよ、これ……」

荒潮「あらあら……プレゼントかしら?」

満潮「あの鉄面皮がねく」

朝潮「こんな笑顔見たことない! やっぱり私じゃダメだったんだわ!」グスッ

大潮「あわわ! 朝潮、落ち着いて!」ヨシヨシ

荒潮（おかしいわねえ、提督はこんな器用なこと出来る人じゃない

はずなんだけど……) クビカシゲ

満潮 (あんだだけ毎日イチャついてるくせに、んなのありえないでしよ……馬鹿馬鹿しい) アキレ

大潮 「最近変わったこととかありますか?」

朝潮 「ううん……行つてきますのキスも、お帰りなさいのキスも、ありがとうのキスも、ごめんなさいのキスも、愛してるのキスも変わらず沢山してくれてるわ……」 グスツ

大潮 「お、おお」 アセ

荒潮 「あらあら」 ニガワライ

満潮 「イラツ

朝潮 「今日だつて帰るの早いから、一緒にお風呂入つてご飯食べようねつて言つてた……」 クスン

大潮 「ゼツク

荒潮 「ニガワライ

満潮 「プチツ

満潮 「あんだね〜! 惚気るなら他でやりなさいよ! 何が浮気よ! 何が『私じゃダメだつたんだわ』よ! そんだけイチャついてられるなら問題ないでしょうが!」 ウガー

大潮 「み、ミツチー、ステイ!」

満潮 「ミツチー言うな! てかステイつて何よ! 私は犬か!」

荒潮 「まあまあ、満潮ちゃん……」 ドオドオ

満潮 「荒潮も! こいつに何か言つてやりなさいよ!」

荒潮 「そうねえ……」 チラツ

朝潮 「◇◇」 ウズクマリ

荒潮 「朝潮ちゃん……」

朝潮 「?」

荒潮 「提督は朝潮ちゃんだからケツコンしたのよ?」

朝潮 「コク

荒潮 「不安なのは分かるけど、提督が朝潮ちゃんを愛してるのは凄く分かるわ。だから大丈夫……ね?」 ナデナデ

朝潮 「うん……分かったわ。とにかく今日帰つてきたら訊いてみ

る」

荒潮「うん♪」ナデナデ

大潮「大丈夫ですよ、きつと！」ナデナデ

満潮「ふんっ」プイッ

その日の夜ー

◇提督&朝潮の部屋◇

朝潮「あの、司令官……」

提督「ん？」

朝潮「私、見てしまったんです……司令官が私以外の女性と歩いているのを……」

提督「!？」

朝潮「これ……申し訳ありませんが青葉さんに頼んで撮ってもらいました……」つ写真

提督「!!？」ギョッ

朝潮「私……ずっと司令官の事を尊敬していました！それは今でも変わりません！」

提督「朝潮……」

朝潮「そんな尊敬する司令官にケツコンしようと言われた時……本当に嬉しかったんです！とても幸せだったんです！」

提督「朝sー」

朝潮「もう私……朝潮は、司令官無し我的生活になんて戻れません！だからお願いです、私を……朝潮を……ぐすつ……置いて行かない

で……」ポロポロ

提督「朝潮……すまない……」

朝潮「!？」ビクッ

ぎゅっー

朝潮「しれい……かん……？」

提督「すまない……不安にさせて」ナデナデ

朝潮「ギュー

提督「俺だつてお前無し生活なんて考えられない。お前を置いて

行くなんて有り得ない……だから、もう泣かないでほしい」ギュー

朝潮「しれ……か……うう、司令官つ……ぐすつ……しれいかくん
！」グスグス

提督「すまなかつた……大丈夫、大丈夫だ……」セナカポンポン

それからー

提督「落ち着いたか……？」ナデナデ

朝潮「はい……」クスン

提督「すまなかつたな」チュツ

朝潮「はい……私も泣いてすみませんでした」チュツ

提督「これで仲直りだな」ナデナデ

朝潮「はい♡」スリスリ

く夫婦仲直りのイチャイチャ中く

朝潮「え……この女性、司令官のお姉さんなんですか!？」↑提督に
だいしゆきホールド中

提督「ああ、二つ上のな。ちよつと用事があつてな」↑受け入れ中

朝潮「用事……ですか？」クビカシゲ

提督「まあここまで来てしまったのなら、もう良いだろう……朝潮
少し待つててくれ」

朝潮「はい」ストン

提督「これを朝潮に……」つ箱

朝潮「ありがとうございます！ 開けても？」

提督「」コク

ガサガサー

くシンプルなデザインの純白Aラインドレスく

朝潮「司令官……これは……」

提督「ウエディングドレスだ……朝潮のサイズが無くてな。そこで
姉が被服業をしているからオーダーメイドで頼んだんだ」

朝潮「じゃあこの写真は……」

提督「このドレスを受け取っていた。おめでとと言われるたよ」ハ
ニカミ

朝潮「」ウルウル

提督「ど、どうしたんだ!? 気に入らなかつたか!?」アセアセ

朝潮「違います…：嬉し涙ですよ」ニコニコ

提督「よ、良かった…：」ホッ

朝潮「…：司令官」

提督「？」

朝潮「これからもずっと朝潮をお側に置いてください♡」ギョッ

提督「手放す気など毛頭無いよ」ウケトメ

朝潮「司令官…：大好きです…：いいえ、いっぱいいっぱい愛して
ます!♡」チュッ

提督「俺も愛してるよ、朝潮」チュッ

◇部屋の外ドア前◇

朝潮『司令官♡』

提督『朝潮♡』

／ラブラブイチャイチャ＼

満潮「ほら見なさい」↑心配で様子を見に来た

荒潮「勘違いだったみたいね♪」↑付いてきた

大潮「何事もなくて安心しました!」↑付いてきた

満潮「ホント…：馬鹿なんだから」ニッコリ

荒潮「ニコニコ

大潮「早くケツコン式見たいですね♪」ルンルン



ー後日、提督と朝潮は盛大なケツコン式を開いたそうなの。

朝潮 完

大潮とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&大潮邸（鎮守府内）◇

提督「（ ）」スヤア

ダダダダダダッ

大潮「どーんっ♪」ダイブ

提督「ふぐお！」


大潮「あくさでくすよく！ 旦那様く！ 起きてくださ〜い♡」

提督「チーン

大潮「あ、あれ？」

提督「ゴーン

大潮「あわわわ！ 旦那様く！ 旦那様く！」ユサユサ

提督「（）」ハッ！

大潮「旦那様く、ごめんなさい〜……」ショボーン

提督「大丈夫大丈夫。大潮のスキンシップはその名の通りだから

な」ナデナデ

大潮「えへへ♡ はい♡」ニパッ

く夫婦仲良く食堂へく

大潮「旦那様く♡」ギューツ

提督「なんだく？」ニコニコ

大潮「呼んだだけですよ♡」ギューツ

提督「そっかそっか」ニコニコ

く提督の左腕にぶら下がる大潮の図く

／ラブラブキヤツキヤツく

大潮「司令官と大潮は今日も仲睦まじいようですね♪」

荒潮「あそこだけ南国だわ〜♪」アラアラ

満潮「ただやかましいだけよ」ヤレヤレ

大潮「あ！ みんな〜！ おはよ〜！」

提督「おはよう、朝から第八駆逐隊勢揃いだな」

朝潮「おはようございます！」ケイレイ

荒潮「おはようございます♪ ラブラブなご夫婦さん♪」ニコニ

コ

満潮「おはよ……」プイツ

「それからみんなで食堂へ」

朝潮「あの……夫婦水入らずの所をいいのでしょうか？」

提督「ん？ みんなでご飯食べた方が美味しいじゃないか」

大潮「そうですね！ だから気にしないでオツケーです！」

荒潮「うふふ、みんなで食べると美味しいわよね♪」

満潮「普通の状況ならね……」ピキピキ

「大潮 on the 提督の膝」

提・大『？』クビカシゲ

満潮「気にしないで。もう慣れたから」

大潮「!!」ペカー

スタツ↑提督の膝から降りる

タタタツ↑満潮に近づく

満潮「な、何よ？」

グイツグイツ↑満潮を引っ張る

満潮「だから、何なのよ!？」

スツ↑満潮を持ち上げる

満潮「キャツ……ちよ、ちよっテー」

チヨコン↑満潮を提督の膝の上に乗せる

満潮「な、な、な……／／／」プルプル

提督「？ 撫でると？」ナデナデ

大潮「もう、ミツチーも乗りたいなら言えればいいのに」ニコニ

コ

満潮「どうしたら、そんな解釈になるのよーっ！」

大潮「え、違うの？」クビカシゲ

満潮「違うに決まってるでしょっ!？ それと頭撫でないでくれない

!？ 気持ちいいんだけど!？」コンラン

大潮「ミツチーは素直じゃないですね」ニコニコ

提督「ね〜」ニコニコ

朝潮「〜」ウズウズ

荒潮「次は朝潮ちゃんですその次は私ね〜♪」

大潮「いいですよ〜！」ニコニコ

提督「任せなさい」キリッ

満潮「あうあうあ〜／＼／＼」オメメグルグル

〜そんなこんなで朝食終了〜

昼前ー

◇執務室◇

大潮「旦那様！ 資材の確認、艀装開発共に終わりました！」ケイ

レイ

提督「ありがとう。もうそろそろお昼だし、大潮は一先ず休んでて
良いよ」

大潮「了解です！」

よじよじ↑提督の背中へ登る

ぎゅ〜っ↑おんぶの状態で待機

大潮「〜♡」ゴマンエツ

提督「大潮〜」

大潮「はい！ 何でしょう!?!」

提督「ただ呼んだだけだよ〜」

大潮「えへへ♡ 大潮の真似っ子ですね♡」ギューッ

提督「朝のお返しさ」フフン

大潮「は〜い♡」スリスリ

◇執務室外・ドア前◇

大潮「旦那様〜♡ 大潮にキスをしてください〜♡」

提督「どこに〜？」

大潮「今日はお口に欲しいです〜♡」

提督「良いぞ〜」チュッ

大潮「ん〜♡」ニコニコ

／イチャイチャチュッチュッ

霞「プルプル↑憤り」

山雲「今日もラブラブさくん♪」ニコニコ

朝雲「毎日毎日、よくやるわ」ヤレヤレ

霰「報告書渡せない……」ンチャ

朝雲「ここはやっぱり霞の出番じゃない?」

山雲「ここを切り開けるのは霞ちゃんだけよね♪」

霰「お願いします」

霞「ああ、もう! バカばかり!」↑本当は頼られて嬉しい

霞『ほら! クズとバカ! 報告書持ってきたわよ! ウザいこと

してないで仕事しなさい!』ウガー

提督『ほいほい、ご苦労様♪』ナデナデ

大潮『お疲れ様です!』ニパツ

霞『頭を撫でるな! 心がピヨンピヨンするでしょっ!?!／／／／』

↑本心駄々漏れ

朝雲「やっぱり霞は頼りになるわね」

山雲「山雲も撫で撫でされたいなあ」

霰「霰も……」

夕方ー

◇執務室◇

大潮「旦那様〜! お仕事終わりですよ〜!」

提督「ん、分かった。じゃあ、戸締まりして帰ろうか」

大潮「は〜い♡」ギョーツ

〜朝と同じように仲良く帰宅〜

◇提督&大潮邸◇

大潮「夕飯までまだ時間がありますね〜。どうしましょうか!?!」

提督「大潮がしたいことで良いよ〜」

大潮「では旦那様と夜戦(意味深)したいです♡」

提督「良いぞ〜」ギョツ

大潮「どーんとお願ひします♡」ホールド

〜夫婦少し早い夜戦に突入す!〜

大潮「はあうう♡ ぽかぽかしますねえ♡」

提督「そうだね」ナデナデ

大潮「大潮はとっても幸せです♡」ギョツ

提督「俺もだよ」ナデナデ

大潮「♡」デレデレ

その後も追撃戦（意味深）を繰り返し、夫婦は仲良くカップ麺を食べたというー。

大潮 完

満潮とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&満潮の部屋◇

提督「パチッ

提督「朝か……さて、起きるー」

のしっ↑何かが上半身にくつついている

提督「……？」

「バサッ↑掛け布団をめくる

満潮「んんく……すう……すう……」ZZZ

く満潮、提督にしがみつき爆睡中く

提督「ナデナデ

満潮「うにやく……んう……」ゴロゴロ

く提督、満潮を離して洗面所へく

数分後ー

満潮「パチッ

満潮「……朝よ、司令kー」

く提督は居ないく

満潮「!？」

スクツ↑立ち上がる

満潮「司令官、どこ!？ 私を置いて行かないで！」

〈洗面所にいるぞく

満潮「っ!!」

ダッ↑透かさず提督の元へ

◇洗面所◇

満潮「バカく！ 勝手に居なくなるんじゃないわよ！」トビツキ

提督「いや、あまりにも気持ちよく寝てたからさ……」

満潮「何それ意味わかんない！ ちゃんと起こしてよ！ もう一人

になんてなりたくない！」ギューッ

提督「大丈夫、鎮守府には朝潮も大潮も荒潮も他の姉妹やみんなが居る。俺だつて居る。だから大丈夫だ」ナデナデ

満潮「そんなシエービングクリーム付いた顔で言われても説得力ないわよ」クスクス

提督「ひげ剃りしようとしてたからだよ……俺だつてこんな状況で言つててカッコ付かないの知つてるよ」ニガワライ

満潮「私は悪くないもん♡ 司令官が私を置いて行つたのが悪いんだもん♡」ヒシツ

提督「へいへい……」

(『もん♡』とか反則だろ……／／／／) ドキドキ

満潮「♡」カオグリグリ

昼——

◇執務室◇

満潮「こつちの書類整理終わったわよ。そつちはどう？」

提督「あく、まだ掛かるな。だから満潮は先に——」

満潮「嫌っ」プイッ

提督「だよなく」ニガワライ

満潮「司令官と離れてる間に司令官が倒れたりしたら嫌だもん

……」ジーツ

提督「」アタマポリポリ

満潮「司令官は私の一番大切な人だもん……もう何も出来なかつた

私じゃないもん……」ヒシツ

提督「分かつた……じゃあ頑張つて終わらせるから待つてくれ」

満潮「そんなの当たり前じゃない♡」ギユーツ

提督「」ナデナデ

満潮「♡」スリスリ

♡そんなこんなで仕事を終わらせ食堂へ♡

◇食堂◇

朝潮「司令官、満潮、お疲れ様です！」ケイレイ

大潮「こゝんにくちはく！」

提督「おう、お疲れさん」ノシ

荒潮「今日も夫婦仲良く昼食ねく♪」

満潮「つさいわね。いいでしょ別に……／＼／＼」ヒシツ

荒潮「ふふ、別に悪いだなんて言つてないわよく♪」

提督「はは、まあなんだ……あんまりからかわないでくれよな」

荒潮「はくい」クスクス

提督「三人も今から昼食なら、せっかくだから一緒のテーブルで食べるか？ 前空いてるぞ？」

朝潮「え、いいんですか？ せっかくのお二人の時間が……」

満潮「平気よ。二人っきりの時間は結構取れるから」ニコツ

荒潮「結構というか殆どよねく」ニヤニヤ

大潮「もおく、荒潮。また怒られますよく？」ニガワライ

満潮「ギロリ

提督「まあまあ満潮」ニガワライ

大潮「ほら、早く食べましょう！ ね！」アセアセ

荒潮「はくい」クスクス

朝潮「ニガワライ

満潮「グヌヌ

くそして昼食を済ませ談笑中く

満潮「本当に司令官は私の大切な人になった自覚が無くて困っちゃうわ」クドクド

く満潮、今朝の出来事をみんなに話すく

朝潮「ふむふむ……満潮は司令官のことが大好きなのですね」ウン
ウン

大潮「少し大袈裟な気もしますけどね」ニガワライ

荒潮「ニコニコ

提督「ちよ、ちよっと俺トイレ行ってくる」↑逃げ

満潮「あ、待ちなさいよ！ 置いて行かないでって言ってるのでしよ！」タタタツ

朝潮「（。D。）「エ？」

大潮「（。□。）」エエ!?

荒潮「だいたくん♪」

提督『おい、トイレにまで付いてくるなってあれほど!』

満潮『大丈夫! ちゃんとドアの前までだから!』

提督『落ち着けねえよ!』

満潮『私だつて落ち着かないわよ!』

朝潮「な、何だか凄いわね……」

大潮「ミツチー恐ろしい娘!」

荒潮「どんな時でも離れたくないのね」ニコニコ

満潮『司令官! まだなの〜! 大丈夫〜!』

提督『まだだよ〜! てかまだ数秒だろ!』

朝潮「愛つて凄いのね……」

大潮「満たされまくってますね〜」

荒潮「提督も大変ね〜♪」

昼下がりにー

◇執務室◇

提督「……満潮、ちよつとこつちへ来て座れ」

満潮「ん? 分かったわ」

テコテコ……ストン

提督「おい……」

満潮「?」クビカシゲ

〜満潮 on the 提督の膝（定位置）〜

提督「はあ……まあいい。なあ、もう少し普通にならないか?」

満潮「私は普通だけど? 何言ってるの、司令官ったら♡」ホッペ

ツンツン

提督「いや、常識的に考えてくれよ。あまりにも俺達はくつつき過ぎだろ?」

満潮「な、何よ……嫌なの?」ウルウル

提督「う……嫌とかじゃなくてだな……」

ぎゅつ↑満潮、提督にしがみつく

満潮 「私がこうなったのは全部、司令官のせいじゃない……」
提督 「満sー」

満潮 「司令官が私を大切にしてくれるから、司令官は私の一番大切な人になったんだから……もうあの頃の私には戻れないのよ……」

提督 「満潮……っ!？」

ちゅっ↑満潮、提督の唇を奪う

満潮 「んんっ……っ……んはあ……」

提督 「満潮……」

満潮 「お願い……私を一人にしないで……」ギョーツ

提督 「……分かった……満潮を一人にしないよ。約束する」ナゲナ

デ

満潮 「じゃあこれからも離れないから♡」スリスリ

提督 「トイレの中は勘弁な」ニガワライ

満潮 「………分かった」

提督 「間があっただけど!？」

満潮 「知らないもん♡」ギョーツ

提督 「ったく……」ナゲナゲ

提督 (変に過保護で心配性過ぎるけど……)

満潮 「司令官、好き♡ 大好き♡」ゴロゴロ

提督 (満潮が艦時代に経験したことが和らぐなら……)

満潮 「司令官♡」ホッペチュツチュツ

提督 (俺がこの笑顔を守らなきゃいけないよな)

◇執務室外・ドア前◇

提督 『満潮、愛してるぞ』

満潮 『私も愛してるわ♡』

／ラブラブイチャイチャ／

扶桑 「どんな作戦よりもこの瞬間が一番難しい任務よね」クスクス

山城 「もう諦めてドック行きましょう」イライラ

最上 「それがいいね」ニガワライ

時雨 「今この空気を壊したらいけないから♪」

朝雲「満潮姉ったら……」ヤレヤレ

山雲「ラブラブ過ぎて溶けちゃうわよね」ニコニコ

→作戦完了の報告に来た

その後夫婦は誰も近寄せることなくいちやいちゃいして
いたそうなの。うなー。

満潮 完

荒潮とケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇提督自室◇

提督「明日からの作戦は大変だな……」

荒潮「この荒潮が居るんだから大丈夫よ♪」

提督「でも……」

荒潮「私を信じて……ね？」ニコツ

提督「うん……必ず皆で成功させよう」

荒潮「勿論よ♪」ニコニコ

く夫婦まつたり中く

荒潮「提督く♪」

提督「どうした？」ナデナデ

荒潮「んふふく♪ 呼んだだけよ♪」スリスリ

提督「はは、こいつう」ギュー

荒潮「もつとおく♪」トローン

提督「甘えん坊だなあ」ニコツ

荒潮「あら、お付き合いでする時にいつでも甘えて良いって言ったのは提督よ？」

提督「荒潮はケツコンしてもあんまり変わらないね」ハハ

荒潮「変わらないことも大切よ？」

提督「いや、変わったことがあるな……」

荒潮「それは何かしらあ？」

提督「恋から愛に変わったよ」チュツ

荒潮「んもうく／＼／／」キウンキウン

提督「好きだよ、荒潮……」チュツ

荒潮「んんっ……好きなだけ？」

提督「大好きだ」チュツ

荒潮「あん……その程度なの？」

提督「愛してるよ、荒潮……」チュツ

荒潮「あ……んんっ、ちゅっ……あふ、ちゅ……はあく」トロー

提督「蕩けた顔も可愛いよ」ナデナデ

荒潮「もう、えっちなキスするなんてくくく」デレデレ

提督「スイツチ入った？」ニコツ

荒潮「……入っちゃったわあ／／／」モジモジ

提督「じゃあ……」ナデナデ

荒潮「ふふ、ロリコン提督さん♪」ギユツ

提督「愛した女が小さかったただけだ」チュツ

荒潮「うふふ♪」チュツ

く夫婦夜戦突入す！く

朝ー

◇布団◇

荒潮「」パチツ

提督「」Zzz

荒潮（おはよ、提督♪）チュツ

◇台所◇

荒潮「さて、朝食作り開始く♪」エプロン

トントントントー

荒潮「昨晚も優しかったわあ♪」ルンルン

シュツシュツー

荒潮「普段も優しいけどお、お布団の中では一段と優しいのよねえ

く♪」クネクネ

ジュワくくー

荒潮「最初告白された時は驚いたけど今でも嬉しいわあ♪」キユン

◇回想◇

提督「あ、荒潮……」

荒潮「？」提督、荒潮に何かご用かしらあ？」

提督「あの……」シドロモドロ

荒潮「???」クビカシゲ

提督「君の事が好きなんだ。大好きなんだ。一人の女性として愛し

ているんだ!』

荒潮『っ!?!／／／』カア

提督『どうかケツコンを前提に付き合ってほしい!』

荒潮『あ、荒潮でいいの?』

提督『君じゃなきやダメなんだ』ギユツ

荒潮『私、とても甘えん坊よ?』

提督『いつでも甘えてくれ。好きな女から甘えられて嫌な男はいない』ジツ

荒潮『』ギユツ

提督『あ、荒潮……?』オロオロ

荒潮『私はずつと提督のものよ……!』ギュー

提督『大切にする』ギユツ

荒潮『うふふ／／／』

◇現在◇

荒潮「んふふふ♪」デレデレ

ジユ／／／

荒潮「あ」

コゲツ／／

荒潮「ちよつと焦がしちゃったわ……」シユン

提督「それくらい大丈夫さ」ヒヨコ

荒潮「きやつ……もう、いつ起きてきたの?」

提督「荒潮がおはようのキスをしてくれた時」

荒潮「あ、あらあ、じゃあ……」

提督「全部見てたよ。百面相する荒潮も可愛かった」マガオ

荒潮「く／／／」カア

提督「」ナデナデ

荒潮「も、もう少しで朝食出来るから、仕度しておいて／／／」カ
オマツカ

提督「分かった」

◇テーブル◇

提督「いただきます」人

荒潮「召し上がれ」ニコニコ

く夫婦朝食中く

提督「荒潮……」

荒潮「はあい」つヶチャツプ

提督「ありがとう」ニコツ

荒潮「ニコニコ」

提督「ご馳走さま」人

荒潮「お粗末さま」ニコニコ

提督「さて……本日から作戦、頑張るか！」

荒潮「私も頑張るわ♪」ニコニコ

提督「荒潮……」

荒潮「なあに？」

提督「いつもありがとう、愛してるよ」

荒潮「うふふ、私も愛してるわ♪」

チュッー

提督「よおし、気合い入れるぞく！」

荒潮「ふふ、提督なら大丈夫よ♪」ニコツ

荒潮（だって勝利の女神がついてるんだから）ニコニコ

荒潮 完

朝雲とケツコンしました。

某鎮守府、夕方――

◇埠頭◇

女提「んくっ……今日の作戦も無事に終了ね〜」ノビー

扶桑「提督のお陰で大きな被害もなく済みました。ありがとうございます
います」ニコツ

山城「いつも現場での指揮はありがたいですが、今回の様な陣頭指
揮は危険なのでこれっきりにしてくださいね」ジロツ

女提「空はこんなに綺麗なのに……」オヨヨ

山城「姉様のマネをしても変わりませんよ！ しかも台詞違います
！」ウガー

時雨「結構似てたと思うけど？」クスクス

最上「確かに♪」アハハ

満潮「滑稽ね」フフフ

山雲「クスクス

／アハハ フフフ／

壁―――↑朝雲「……………」

扶桑「……提督」

女提「？」

扶桑「メクバセ

女提「あ、朝雲〜！ ただいま〜！」ノシ

朝雲「ノシ

山城「元気無いわね……提督、早く謝った方が良いですよ？」

山雲「司令さん、何をして朝雲姉えを悲しませたの？」ハイライト

オフ

女提「私何もしてないよ！」ガン

時雨「まあ、とにかく朝雲の所に行ってきなよ」ニガワライ

満潮「私達はドック行って補給でいいのよね？」

女提「う、うん！ 報告書はまた後でね〜！」ノシ

パタパタパタパター

最上「朝雲どうしたんだろう？」

山雲「山雲達が司令と仲良くお話してたから嫉妬してるんだよ」
クスクス

時雨「朝雲らしいね」ニコニコ

扶桑「それが分かってたなら、あんな冗談言わないの」フフ

山城「姉様も止めなかったじゃないですか」フフフ

満潮「あんなアホ夫婦は放つといて、ドツク行きましょ」ヤレヤレ

山雲「賛成♪」

◇執務室◇

女提「朝雲く。機嫌直してよ」

朝雲「私は機嫌を損ねてなんてないわよ。そもそも怒ってないし」
ツーン

女提「ツンツンしてるもくん」

朝雲「してません」ツーン

女提「何が悪かったのよ」

「ウーン

朝雲「ん」リョウテヒロゲ

女提「ん？」クビカシゲ

朝雲「……ん！」リョウテヒロゲ

女提「……ん？」クビカシゲ

朝雲「抱っこ！ これくらい察してよ！」

女提「お、おおう！ はい」ギユツ

朝雲「すくはく……もつと強く……」ヒシッ

女提「これくらい？」ギユー

朝雲「悪くないわ……」ヒシッ

女提「もしかして、出撃編成に入れなかったの怒ってる？」

朝雲「」

(鈍感っ！)

女提「ごめんね……でも、朝雲にはここに残っててほしかったの」

朝雲「」

(なんか語り出したしっ!)

女提「やっぱり、帰るべき場所に最愛の人が居るって思うと、なんかこう……生きて帰る為の力になるじゃない……」ギュー

朝雲「」

(戻って来なかったら一生怨んでやるからっ!)

女提「これからも私の帰るべき場所であってね」オハナチユツ

朝雲「／／／／」キユンツ

(あくもう! 馬鹿! 大好き!♡)

朝雲「ねえ」

女提「ん?」

朝雲「しゃがんで……」

女提「?」ストーン

女座り+上目遣い+首傾げ提督

朝雲「／／／／」ドキツ

(どうしよ……可愛い／／／／)キユンキユン

女提「あ、あの?」オズ

朝雲「何でもない! ちよつとそのままだからね!」スツ

おでこへキスー

女提「アゼン

朝雲「これからも司令の帰ってこれる港で居てあげる。だから、

ちゃんと帰ってきてね」ギユツ

女提「約束するわ」ギユツ

朝雲「でも……」

女提「?」

朝雲「まだちゃんと謝ってもらってないから、許すのはまだ」ツン

女提「あれく?」ニガワライ

女提(何だろう……私は一体朝雲に何をしてしまったというの?)

グルグル

／ウーン ウーン

朝雲「」

(鈍感……)

女提「」ウーン

朝雲「」

(鈍感なくせに、変に気が回って、優しくて、誰とでも仲良く、強くて……艦隊みんなの司令……)

女提「うくん」アタマカカエ

朝雲「」

(そして私が心から愛する人……) クスクス

女提「??」

朝雲「もう何だかアホらしくなっちゃったわ」ヤレヤレ

女提「Σ(・▽・;)」ヒドイ

朝雲「司令は私のことどれくらい好き？」

女提「え……とつても好きよ？ 心から愛してるし、朝雲無しの生活なんて考えられないくらい」

朝雲「ふくん……じゃあ、私にキスして。ん♡」クチビルサシダシ

女提「うん……」チュツ

ガシツ↑だいしゆきホールド

女提「んんっ！」ビクツ

朝雲「ちゅっ……ん……っは……んん……ちゅっ」

女提「んむう……あしや、ぐも……んん……」

朝雲「……ぷはあ……これで許してあげる♡」ニコツ

女提「(。Д。)」ポカーン

朝雲「何？ 何か不満でもあるの？」ジトツ

女提「う、ううん」ブンブン

朝雲「よろしい♡」ニパツ

女提「??」

◇執務室外のドア前◇

女提「ねえ、何で怒ってたの？」

朝雲「教えてあげない♡」

女提『ええ〜！ 教えてよ〜！』

朝雲『一生悩みなさい♡ そうすればずっと私のことが頭から離れなくなるから♡』

女提『私の頭の中は朝雲への愛でいつもいっぱいだよ〜！』

朝雲『それでも♡』

／キヤツキヤツ ウフフ＼

山雲「朝雲姉え、嬉しそう♪」コソツ

山城「妬ましいわ……」コソツ

扶桑「二人共、そろそろお暇しましょう」ニガワライ

最上「提督は鈍感だね〜」ニヤニヤ

時雨「でもそれが提督さ」クスクス

朝雲 完

山雲とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇艦娘宿舎・朝雲&山雲部屋◇

朝雲「ねえ、山雲」

山雲「なくに〜?」

朝雲「あなたつてさ、司令のこと嫌いななの?」

山雲「え? 大好きよ〜?」

朝雲「じゃあ、どうして司令と一緒に暮らさないの?」

山雲「どうしてかしら〜?」

朝雲「私はそれを訊いてるんだけど」ニガワライ

山雲「司令さん……山雲のこと嫌いなのかな〜」シユン

朝雲「いやいや、嫌いだったらそもそも指輪渡さないでしょう?」

山雲「そうよね〜……でも、どうして一緒に暮らしてくれないのかしら〜?」ウーン

朝雲「司令も司令だけど、考えてみたらあなたにも問題あるわよね」

山雲「ええ〜、そうかな〜?」

朝雲「だって山雲は最初『司令さんから綺麗な指輪貰った〜♪』ってだけで、プロポーズって分かってなかったじゃない」ニガワライ

山雲「うう〜……確かにそうだけども……司令さんは『これを山雲にやろう』としか言わなかったも〜ん」

朝雲「だから私はどっちも悪いって言ってるの」

山雲「うう〜」

朝雲「そんで終いには末っ子の霞に二人して説教されてるんじゃないや世話無いわ」ニガワライ

山雲「朝雲姉え、酷い〜」プクウ

朝雲「だって本当のことじゃないの」

山雲「そうだけども〜」ムウ

朝雲「しつかし……司令ももう少しロマンチックにプロポーズしてくれれば良かったのにね〜」

山雲「そうかな？ あれくらいが司令さんらしくて、山雲は大好きよ♡」ニコニコ

朝雲「はいはい、御馳走様」ニガワライ

山雲「司令さんは口下手だからね♡ 可愛いのよね♡」ニコニコ

朝雲（この子の惚気も天然なのかしら……）ニガワライ

朝雲「山雲は司令と一緒に暮らしたいって思ってるのよね？」

山雲「うん、思ってるよ。司令さん大好きだよ♡」

朝雲「はいはい……なら、今度は山雲から言うのはどう？」

山雲「？」クビカシゲ

朝雲「だって誤解があったとは言え、司令は先に動いたじゃない？ なら今度は山雲が『一緒に暮らしたいな』って言えばいいんじゃない？」

山雲「ええ！？」

朝雲「あなた……驚くこと出来たのね」ビックリ

山雲「今日の朝雲姉え意地悪さくん」ムウ

朝雲「あはは、ごめんごめん……で、本題に戻すけど、どう？」

山雲「『どう？』って言われても／＼／＼」ウツムキ

朝雲「やっぱ難しいか」ニガワライ

山雲「うう／＼／＼」

朝雲（さて、本当にどうしようかしら）ウーン

コンコンー

朝雲「？ はい？」

『私だ』

朝雲「司令？ 今開けるわね」

山雲「♡」ニパッ

ガチャー

提督「すまないな」

朝雲「構わないわよ。それで、私達に何か用事？」

提督「正確には山雲に用がある」

山雲「何かしら？」

提督「次の仕事の件で意見をもらいたい。急で悪いのだがこれから執務室へ来てもらってもいいか？」

山雲「いいわよ〜♡」ニコニコ

朝雲（うわ、すっごく嬉しそう）

提督「そうか、助かる。では私は先に執務室へ向かう。山雲も準備が出来たら来てくれ」

山雲「はい〜♡」

提督「うむ……では邪魔したな」スツ

朝雲「お疲れ様でした」

パターンー

朝雲（これは一緒に暮らすのは当分先ね……）ヤレヤレ

「山雲〜、準備はdー」

山雲「行つてきま〜す♡」ルンルン

朝雲（うわあ、お花畑が見えるわ）ニガワライ

「行つてらっしや〜い」ノシ

山雲「は〜い♡」

パターンー

朝雲「はあ〜……あれだけ好きならさっさと言えばいいのに……もどかしいわ」モヤモヤ

朝雲「？」

〜机に山雲の筆記用具を発見〜

朝雲「やっぱ抜けてるわね〜」クスツ

（届けてあげましょ）

〜朝雲、執務室へ〜

◇執務室◇

コンコンー

提督「入りなさい」

ガチャーー

山雲「失礼します〜♡」

提督「早かったな」

山雲「司令さんの頼みですからね♡」ニコニコ

提督「それはありがたいな」ナデナデ

山雲「えへへ♡」

提督「……仕事の前に大切な話があるんだが、聞いてくれるか？」

山雲「いいわよ？」

提督「いいわよ？」

提督「ジーツ

山雲「??」クビカシゲ

提督「山雲」

山雲「はくい」ニコツ

提督「私は君を一人の女性として愛している」

山雲「山雲も司令さんのこと大好きよ♡」ニコニコ

提督「あ、ああ、ありがとう／＼／＼」テレツ

山雲「大切な話ってこれ？」クビカシゲ

提督「いや、ここからが本題だ……」

提督、山雲の前で片膝を突く

山雲「？」キョトン

提督「プロポーズの時……私の言葉が足らなかったばかりに、山雲には大変な迷惑をかけたすまない」

山雲「ううくん、山雲がちゃんと確かめなかったのも悪かったわ」
ナデナデ

提督「はは、ありがとう……とにかく、ぱつとしないプロポーズになったのは変わらない。だから今から言うことは、ちゃんと言おうと思う」

山雲「ならく、山雲もちゃんと聞くわね」ニコツ

提督「ああ、頼む」

山雲「ニコニコ

提督「鎮守府付近に小さいが一軒家を購入した……山雲、私と一緒にその家で暮らさないか？」

山雲「え」

提督「山雲が朝雲を慕っているのは承知している。だからこれは強

制ではない。山雲が「ー」

山雲「っ」

ちゅっ

提督「んんっ!?!」ビクッ

山雲「ちゅっ……ん……っ……っ……っ……ぷはあ」ハアハア

提督「や、山雲……?」

山雲「断る理由^{わけ}なんてないわよ」 私は司令さんと一緒に居たい

もん♡」ギューッ

提督「で、では……!?!」

山雲「山雲もはつきり言うわね」 私は司令さんのお嫁さんとして、隣に居たいです」 山雲も一緒に連れてってください」

提督「や、山雲」ギョッ

山雲「あん♡ もう……甘えん坊さくん♡」ナデナデ

◇執務室外・ドア前◇

提督『山雲、一生君を離さないぞ!』ヒシッ

山雲『山雲も♡』ギューッ

／イチャイチャラブラブ＼

朝雲「うわお／／／」

→立ち聞きしてしまった

朝雲「と、取り敢えず……おめでとう、かしら?」アハハ……

その後、山雲と同室だった朝雲は霞、霞と三人部屋へ移り、提督と山雲は夫婦として新居で遅めの夫婦生活をスタートさせた。ー。

山雲 完

夏雲とケツコンしました。

某鎮守府、昼下り――

◇執務室◇

トントントン――

夏雲「どうぞく」

ガチャリ――

朝雲「お邪魔するわよ」ピョコ

山雲「お邪魔するわね」ピョコ

峯雲「失礼します」ニツコリ

くいつものメンバー勢揃い

夏雲「皆さん、こんにちは。どうかされましたか？」

朝雲「間宮さんのところで新作スイーツが販売されたから買ってきたのよ」

山雲「良かったら一緒にお茶しましょ」

峯雲「時間も頃合いかと思って、お誘いに来ました」

夏雲「そういうことですか。分かりました。提督、少し休憩にしましょう」

提督「ああ、分かった」

くすると提督は流麗な動きでみんなに茶を淹れてあげる

提督「朝雲と山雲は緑茶。峯雲は紅茶で良かったな？」

朝雲「ありがと、司令」

山雲「司令のお茶、山雲大好きよ」ニコニコ

峯雲「ありがとうございます、提督さん」フフ

提督「夏雲、おいで」

夏雲「……皆さんの前で、ですか？」

提督「嫌……なのか？」

く提督は見るからにしゅんとする

夏雲「うう……／＼／＼」

朝雲「別に私たちしかいないんだからいいじゃない」

山雲「仲良しなのはいいことよ〜?」

峯雲「満潮姉さんや霞ちゃんはいませんし、告げ口もしませんから」

提督「夏雲……」

〜提督の絶るような眼差しと声色に夏雲は渋々といった具合に諦めた〜

夏雲「……失礼します／＼／＼」

提督「ああ、夏雲……愛おしいよ」ナデナデ

夏雲「〜／＼／＼」テレワライ

〜提督は休憩時間に夏雲を抱っこしないと頑張れないのだ〜

朝雲「んじゃ、スイーツ食べましょ♪」

山雲「全種類買ってあるから食べ比べしよ〜ね〜♪」

峯雲「このために今日は並びましたからね♪」

提督「夏雲、あ〜ん」

夏雲「あ、あの、提督……夏雲は自分で食べられますので……／＼／＼」

提督「俺がこうしたいんだ。それとも俺にこうされるのは嫌なのか?」シヨボン

夏雲「そ、そういうことではなくて……／＼／＼」アワアワ

提督「気にすることはない。ほらお口を開けて? あーん」

夏雲「あ、あ〜ん／＼／＼」

サクツ

提督「どうだ?」ニコニコ

夏雲「おいひいでふ／＼／＼」モグモグ

提督「そうか、そうか。なら間宮には特別報酬を与えなくてはならないヨリ」

夏雲「この前も新しいメニューを夏雲が喜んだからという理由で与えていましたよね?」

提督「そうだ。俺の愛する妻が満足したなら、夫としてその働きの見合った報酬を出すのは当たり前だろう」

夏雲「間宮さんたちも毎回恐縮しているじゃないですか……」

「今回のマカロンだけでなく、提督は夏雲が喜ぶ度に間宮たちに十
万円報酬を手渡ししている」

朝雲「司令、気持ちは分かるけど、そうやってほいほいお金出し
てあげてたら間宮さんたちが新しいメニュー出すの渋るわよ？」

山雲「お金より、美味しいって伝える方が間宮さんたちは喜ぶと
思うのよね」

峯雲「伊良湖さんなんかは恐縮し過ぎて新作を出しても、すぐに提
督さんに伝わらないように皆さんに頼んでいるくらいです」ニガワ
ライ

提督「そうだったのか……。それは悪いことをした。なら今後は厨
の設備を新調する方向でいこう。そうすればみんなも喜ぶだろうし、
夏雲も美味しいものが食べられて幸せなはずだ」

夏雲「あの……夏雲はもう十分幸せなので、もうそのへんで……
／／／／アウ

提督「何故だ？　幸せ過ぎて死ぬことはない。俺は夏雲を愛してい
るし、もつと幸せになつてほしい。そして君の幸せは俺の幸せでもあ
るんだ」

夏雲「ふえええ……♡／／／／」

提督「さあ、夏雲。もつとお食べ。あーん」

夏雲「あ、あくん……♡／／／／」モグモグ

朝雲（あんなに幸せそうに食べさせてもらっちゃって……）フッフ

山雲（仲良し仲良し♪）ニコニコ

峯雲（こちらまで幸せな気持ちになりますね）ホッコリ

提督「ほら、今度はいちごのだぞ。あーん」

夏雲「あむ♡／／／／」

提督「どうだ？」ニコニコ

夏雲「お、おいひいでふ♡／／／／」

提督「やはり特別報酬を……」

夏雲「だ、駄目ですう！」

提督「しかしだな……」

夏雲「間宮さんたちを困らせたらいけません！」プン

提督「そうか……そうだな」

夏雲「ホッ」

提督「それじゃあ次は、このブルーベリーのにしようか。あーん」

夏雲「あくん♡」ニコニコ

その後も夫婦は朝雲たちの前でイチヤイチャしていたが、夏雲が幸せそうにしていただけで姉妹は無味と化したマカロンでも美味しく頂けたそう――。

夏雲 完

峯雲とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇食堂◇

朝潮「満潮、霞……姉妹をここに呼び出して何する気？」

大潮「みんなでおやつにするには早過ぎますよ？」

荒潮「それとも、もうお腹空いちやっただ？」

朝雲「荒潮姉さん、それは流石にバカにし過ぎなんじゃ……」ニガ

ワライ

山雲「それで、結局どうしたの？」

霞「二人してずっと仁王立ちしたまま……」

満・霞『……………』

食堂に集められた朝潮型姉妹

満潮「みんなに私と霞から訊きたいことがあるわ」

霞「みんなはあいつらを見てどう思う？」

二人が指を指した方角には

提督「峯雲、愛してるぞ！ ケツコンしてくれ！」

峯雲「は、いい、ケツコンします♡」デレデレ

提督「で、もうしてるんだけどな！」

峯雲「そうでしたね♡」テレリテレリ

馬鹿夫婦が食休みを馬鹿仲良く過ごしている

朝潮「どう思うと言われても……仲睦まじいとか……」

大潮「今日もラブラブで峯雲は幸せそうですね！ お姉ちゃんとし

ては嬉しい限りです！」

荒潮「いつもの二人よね？」

朝雲「何も変わったことないと思うけど？」

山雲「仲良し仲良しく♪」

霞「ラブラブ、幸せ、いいこと」ンチャ

満潮「はあ」

霞「大変ね。もう私たちだけしか正常な艦娘はいないみたい」ヤレ

ヤレ

朝潮型姉妹『?』クビカシゲ

満潮「いいい、みんな、よく聞いて」

霞「あいつらの日頃の行動はクズよ。クズオブクズよ」

満潮「ケツコンしてそのクズさは増す一方」

霞「執務室、工廠、埠頭……あらゆる場所であの夫婦は年中イチャこらしてるのよ」

満・霞『みんなそれをどうして普通に受け入れられる訳!?!』

提督「今朝もたくさんキスしたのに、峯雲と一緒にいるとキスしたくてたまらないよ」ナデナデ

峯雲「たくさんしてくだい♡ 提督からされることはすべて嬉しいです♡」ウツトリ

朝潮「………何も問題ないからでは?」

大潮「クズオブクズとか言ってますが、クズオブクズと二人が評してるお方は海軍大将ですよ? クズオブクズだったらなれないと思うのですが?」

荒潮「それに、毎月たかさんの勲章を大本営から頂いてるしく、そうした中でもあしてラブラブなのは凄いことよ?」

朝雲「まあ満潮姉さんも霞も、あの夫婦には節度ある生活をしてほしいってことよね?」

山雲「今更無理だと思うのよね」

霞「イチャイチャしてなきや、病氣……天変地異の前触れだよ」

霞「ああ、ホント馬鹿ばかり」

満潮「私たちの鎮守府はよそでなんて呼ばれてるか知ってる?」

朝潮型姉妹『?』

満潮「砂糖の降る鎮守府……略して”さと鎮”よ」

霞「それもこれもあのクズが大本営で大々的にやった全鎮守府参加の観艦式で盛大にプロポーズしたからよ!」

提督「峯雲……俺の最高の妻……もつとその瞳を見せてくれ」アゴクイツ

峯雲「ああ、提督……そんなに見つめられたら、恥ずかしいです♡」

トローン

提督「恥ずかしくても、ずっと俺のことを見つめてくれているじゃないか」

峯雲「ひとときも提督のことを見逃したくないからです♡」

提督「峯雲っ！」ダキッ

峯雲「提督っ♡」ギユッ

朝潮「あれはいいお話じゃないですか」

大潮「皆さん祝福してくれましたね」

荒潮「外野がとやかく言うことじゃないわ」

朝雲「てか二人が気にし過ぎてるだけよ」

山雲「他のみんなはエチケツトバケツ持ち歩いてるし、山雲はあ

の二人が仲良くしているとこ見るの大好きよ」

霞「二人と同属の曙も叢雲もあの夫婦に何も言っていない」

満潮「あのままでいいはずないでしょ！」

霞「公の場でイチャイチャするのはダメって教えなきやでしょ!」

提督「峯雲、愛してる……」

峯雲「提督……愛しています♡」

く夫婦は相変わらずラブラブイチャイチャ中」

満潮「あれを見てて本当に何も思わないの!」

朝潮「まったく」

大潮「いつも通りなので」

荒潮「別にこれといって思うことないわ」

霞「さと鎮なんて呼ばれて恥ずかしくない訳!」

朝雲「周りの人の評価を気にするのはおかしいって霞はいつも言ってるじゃない」

山雲「それとも、二人は、司令官さんに、前みたいに構って

ほしいの?」ニヤニヤ

霞「峯雲が着任してから、ずっと司令官は峯雲一筋だから、寂しいんだね」ヨシヨシ

満・霞『そうよ、悪い!!?』

く本心だだ漏れ」

提督「話は聞かせてもらった！」

峯雲「提督を独り占めしてしまつて申し訳ありません」

満潮「べ、別に謝られても……ねえ？」

霞「私たちのことも忘れないでいてくれれば……別に」

提督「何言つてるんだ。大切な仲間を忘れる訳ないだろ？」

峯雲「そうですよ。提督はそんな薄情なお方ではありません！」

満潮「うん」

霞「コクリ」

提督「俺は確かに常日頃から妻への愛がとめどなく溢れてしまう愛妻家だ。でもみんなのことを忘れることはないから、安心してほしい」

満・霞『ん？』

峯雲「これからも提督を独り占めしてしまうし、いっぱいイヤイヤチャしちゃうけど、頼りにしてます！」

満・霞『んんんん？』

朝潮型姉妹『ニガワライ

提督「ダメだな、俺は……峯雲が好き過ぎて、夜も眠れなくて、仲間にも変な不安をさせてしまつて」クツ

峯雲「毎晩毎晩愛されて幸せなのに……姉さんや妹に心配をさせてしまつて申し訳ないです」

満潮「霞……」

霞「ええ……」コクリ

満・霞『末永く爆発しろ、バカ（クス）夫婦ー!!!』

夫婦『ありがとう！』

朝潮型姉妹『（今日も鎮守府は平和だなあ）ホッコリ

提督「峯雲、愛してる！」ダキッ

峯雲「愛しています、提督♡」ギユッ

その後もさと鎮の無差別シュガーテロは旋風を巻き起こし、その甘さの前に深海棲艦もたじろいだとかそうじゃなかったとかー。

峯雲 完

霰とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇埠頭◇

霞「↑待機中

霞「ちよつと霰！」

霞「なあに？」

霞「ついさつき司令室に救援信号が届いたの！ 第一艦隊が帰投中に敵艦隊の奇襲を受けたらしいわ！」

霞「分かった。救援に向かう」

霞「ええ！」

く出撃準備よし

神通「皆さん、準備は良いですか？」

陽炎「いつでも行けます！」

不知火「行けます」

霞「行けるわ！」

霞「行ける」

飛龍「敵に空母がいるみたいだから、私も同行するね」

神通「お願い致します。では各艦、抜錨！」

全員『おう！』

◇某攻略海域・隠れ島◇

提督「いってて……派手にやられたな」

青葉「司令官、動かないでください。手当が出来ません」

衣笠「止血完了！ 加古ちゃん、そこの葉っぱ取って！」

加古「あいよ！」

古鷹「提督……ごめんなさい……」グスグス

提督「お前に轟沈されるよりはマシだよ。もう謝らなくていいから、今は周りの警戒にあたれ」ナデナデ

古鷹「はい……！」ゴシゴシ

熊野「空母が三隻も出てくるだなんて……」クツ

鈴谷「鈴谷達の艦載機だけじゃちよつと無理ぼだよね」グヌヌ

提督「混乱に乗じて救援を頼めたのは幸いだつたが、いつまでここに隠れていられるかだな」

ドーン！ ボーン！

古鷹「敵襲!？」

提督「違う」

青葉「味方です!」

提督「よし、青葉、鈴谷、古鷹。敵さんは今、後ろがガラ空きだ。お礼してこい!」

古・青・鈴『了解!』

く殲滅完了く

神通「遅くなつて申し訳ありません。第二艦隊、旗艦神通、及び第二艦隊各艦はこれより直ちに、第一艦隊の救援活動、並びに護衛任務を開始します」ケイレイ

提督「座つたままで失礼する……救援感謝する。大破者を優先的に頼む」ケイレイ

神通「了解です!」

霞「ほら、あんたは早く司令官の側に行きなさい。こつちの作業は私達で十分だから」

霞「ありがとう」

霞「はいはい……」

く霞、提督の元へく

提督「おう、霞。心配かけてすまん」ノシ

霞「心配なんてしてない」プイツ

提督「なんだつれねえな」ニガワライ

霞「司令官が霞を置いていくなんて有り得ないから」ギユーツ

提督「つたりめえだ」ナデナデ

霞「馬鹿……」

提督「おう……」ナデナデ

霰「馬鹿……馬鹿……！」

提督「」ナデナデ

くそして凱旋！く

◇埠頭◇

神通「怪我している人からドックへ搬送してください！」

霞「その死に損ないは医務室にね！」

提督「はは、手厳しいねえ」ニガワライ

霰「霞は素直じゃないから」

提督「知ってるよ……あんな涙ぐんでんだからな」ハハハ

霞「っさいわね！ さっさと搬送されなさいよ！」

明石「提督、今医務室へ運びますね」

提督「おう、頼むわ」ノシ

神通「霰さんは提督のお側に付いててあげてください♪」

霰「ありがとうございます」ケイレイ

古鷹「霰ちゃん……」

霰「？」

古鷹「ごめんなさい……提督が怪我したのは、私を敵の爆撃機から庇ったからなの……私が至らなかつたせいです。ごめんなさい」フカブカ

霰「大丈夫。司令官が無茶するのは昔から」

古鷹「でもー」

霰「司令官は私を置いていかないって約束してくれた。だからこれからも大丈夫」ナデナデ

古鷹「っ」ポロポロ

霰「霰も司令官も謝ってほしくない」テギユツ

古鷹「うん……ありがとう。私、もつと強くなるね！」ナキワライ

霰「うん」ニコリ

くそして霰は提督の元へく

霞「ほら、あんたも怪我してるんだから、話が終わったんならドックへ行くわよ」グイツ

古鷹「ありがとう、霞ちゃん」ニコリ
霞「ええ。謝ってたらビンタしてたわ」ニコリ
古鷹「ニガワライ」

夕方ー

◇医務室◇

提督「」

霞「」

明石「葉が効いて眠ってるだけで、命に別状は無いわよ」ナデナデ
霞「コクリ」

明石「私は席を外すから、提督の看護お願いね」ニコツ

霞「コクコク」

霞、提督の側へ

提督「スースー」

霞「」

(また約束を守ってくれた)

霞、提督の手を握る

提督「スースー」

霞「馬鹿……」

(すっごくすっごく心配したんだよ)

霞、提督の手を強く握る

提督「んん……あ、られ……だい、じょうぶ……だぞ……」ネ

ゴト

霞「馬鹿」クスクス

霞「置いていいたら許さないから……」

のしっ↑ベッドへのしかかる

提督「スースー」

霞「約束守ってくれて、ありがとう」

ちゅっ……

霞「ニコニコ」

(起きたら司令官の好きなもの作ってあげよ♡)

提督は持ち前の回復力と霰の献身的な看護の甲斐もあり、すぐさま戦線に復帰し、多くの戦果をあげ、闘将とまで謳われた。

そしてその闘将のすぐ隣には、彼を心から想い、支える、小さな女神が常に微笑んでいたと言うー。

霞とケツコンしました。

某鎮守府、お昼前ー

◇執務室◇

霞「悪いわね。手伝わせちゃって」

朝潮「私達は暇だったから構わないわ」ニコツ

大潮「はい！ それにみんなでやった方が楽しいからね！」

満潮「これくらいならいつでも言いなさい」フフ

荒潮「姉妹だもんね」ニコニコ

霞「助け合う、当然」フンス

霞「ありがと。お陰で午後の分まで終わりそうだわ」

コンコンー

霞「どうぞ」

ガチャー

朝雲「みんなから報告書もらって来たわよ」

山雲「よく」ニコツ

霞「はい、お疲れ様。こっちで預かるわ」

朝雲「はくい」つ報告書

山雲「そういえば、外に司令さん達が居たよ」

霞「出撃から帰って来たのね。皆大丈夫そうだった？」

朝雲「みんな笑顔だったから大丈夫よ」

山雲「酷い怪我した人も居ないし、司令さんももう少しで来るんじゃないかな？」

霞「そう……なら良かったわ」

ガチャー

提督「霞、今戻ったぞ」

霞「お帰りなさい。戦果はどうだった？」ガタツ

霞、提督のそばへ

提督「特に目立った被害は無いが、少し連携がもたついた感があったな。これからはそこを課題に訓練をしていこうと思う」ギユツ

霞「そう、なら後で出撃時の詳細を見て分析しましょう」ギューツ
く霞、提督と自然にハグく

朝潮（仲睦まじいわね）ホホエマー

大潮（ナチユラルハグ！）オオー

満潮（ナニアレ？）ポカーン

荒潮（お熱いわねく♪）アラアラ

朝潮（話の内容とやってる行動が違う）ウワオ

山雲（仲良しさくん♪）ニコニコ

霞（霞も変わったねく）ウンウン

霞「こっちはみんなが仕事を手伝ってくれたお陰でもう殆ど終わりよ」ホツペチユツ

提督「それは重畳。皆、すまなかつたな……恩に着る」ホツペチユツ
全員『カワイタエミ

霞「じゃああなたも帰って来たことだし、昼食にしましょう。みんなも行くでしょ？」ヒシツ

提督「お礼にご馳走するよ」ナデナデ

全員『あ、ありがとうございます』ニガワライ

く作業を止めて、昼食へく

◇食堂◇

提督「みんな席に着いたな？」

霞「……大丈夫みたいね」

提・霞『いただきます』人

全員『いただきます』人

ー。

朝潮「あの、司令官……」ノ

提督「どうした？」

朝潮「私達も同じテーブルで良かったんですか？」

霞「何か問題あるの？」

く霞 on the 提督の膝く

満潮「朝潮、気にしたら負けよ」カタポンツ

荒潮「そうそう♪ 二人はこれが普通だから」ニコニコ
大潮「フオー！」

朝雲「ニガワライ

山雲「クスクス

霰「ニコニコ

提督「？ 良く分からんが、気にしなくていいぞ？」

霞「そうよ」

「そう言いつつ食べさせ合う夫婦」

全員『ニガワライ

周り『アツマァイ

ー。』

提督「みんな食べ終えたか？」

霞「……大丈夫みたいね」

提・霞『御馳走様でした』人

全員『色々と御馳走様でした！』人

「昼食を終え、夫婦は皆と別れ執務室へ」

朝潮「本当に仲が良いわね」クスクス

大潮「鎮守府で移動する時は常にお姫様抱っこだもんね」

満潮「上官が来てもあの調子だったものね」

荒潮「上官の人も何も言えなかったわよね」

朝雲「それだけ自然なのよ。あの二人が」ニガワライ

山雲「それだけ二人は一心同体なんだね」

霰「帰り際に上官さんは凄い砂糖吐いてたけどね」

◇執務室◇

提督「さて、残りと言ってももう殆ど終わっているんだよな？」ナ
テナデ

霞「ええ、あとはあなたのサインか判子が必要な書類と各書類の
ファイリングくらいね」ギューツ

「霞、提督をだいしゆきホールド中」

提督「ならさっさと終わらせて、今日の出撃時の分析に移るか」

チュツ

霞「そうね。時間は有効に使いましょ」チュツ
ー。

提督「霞」

霞「ん」

く阿吽の呼吸で仕事中く

ー。

提督「終わったなく」ギユツ

霞「ええ、お疲れ様」ギユーツ

提督「分析は部屋でやるか？」ナデナデ

霞「ここでもいいんじゃない？　せめて定時までにはここにいなぎやい

けないでしょ？」スリスリ

提督「それもそうだな」ホツペチュツ

霞「しっかりしてよね」ホツペチュツ

く夫婦、分析中く

提督「ここだ、ここ」アスナロダキ

霞「確かに……若干ではあるけど遅れてるわね」ウデニダキツキ

提督「やはり、ここも課題だな」ナデナデ

霞「そうね。でもここは評価出来る動きだわ」ゴロゴロ

ー。

提督「お、もう定時か」ホツペチュツ

霞「あら、早かったわね」ホツペチュツ

提督「帰るか」ナデナデ

霞「ええ」スリスリ

く戸締まりして部屋へ帰投く

夕方ー

◇提督&霞夫婦の部屋◇

提督「お帰り、霞」チュツ

霞「お帰り、あなた」チュツ

提督「ただいま、霞」チュツチュツ

霞「ただいま、あなた」チュツチュツ

提督「今日は先に風呂に入るか」ギユツ

霞「そうね。あなたは出撃したし、汗を流しましよ。追い焚きはしてあるから、もう入れるわ」ギユーツ

◇風呂場・洗い場◇

霞「あなたの背中は大きいわね」ゴシゴシ

提督「そうか？」

霞「そうよ。逞しくて安心出来て……とつても素敵」ゴシゴシ

提督「霞にそう言われると嬉しいな」

霞「単純ね」ギユーツ

提督「最愛の女性にそう言われれば男なんてそんなもんさ」ナデナ

デ

く交代く

提督「霞の肌は綺麗だな」ゴシゴシ

霞「あなたの為に毎日気を遣ってるからね」

提督「どんな霞だつて愛しているぞ？」

霞「そんなの知ってるわ。でも最愛の男性の為に頑張るのが女なの

よ」フリムキチュツ

提督「嬉しいな」チュツ

く流して湯船へく

カポーン

霞「気持ちいいわね」ギユーツ

提督「そうだな」ギユツ

く抱き合つて湯船に浸かる夫婦く

霞「ねえ」クイクイ

提督「ん？」

霞「愛してるわ、あなた♡」ニパツ

提督「愛してるぞ、霞♪」ニカツ

霞「明日も頑張りましょうね」スリスリ

提督「一緒にな」ナデナデ

ちゅっ♡

そして夫婦は明日もその先も、仲睦まじく過ごしていくのであつたー。

霞 完

陽炎とケツコンしました。

某鎮守府、昼ー

◇鎮守府内・中庭◇

陽炎「うくん、たまにはこうして外で昼食つてのも良いわね♪」
不知火「そうですね……それには不知火も賛同します」

霞「……」イライラ

霞「うまうま」モツモツ

神通「ニガワライ

提督「ほくら、マイスイートハニー陽炎♪ 僕の自信作の唐揚げ
だよ♪」つ唐揚げ

陽炎「あくん……うくん♡ おいひい♡」

陽炎 on the 提督の膝

霞「なんでわざわざあたし達を呼ぶのよ……」コメカミオサエ

陽炎「え？ なんでつてそりゃあ……」

提督「これは日頃、陽炎がお世話になっている君達への感謝を表す
昼食会だよ？」

陽炎「コクコク

霞「あたしには夫婦仲を見せびらかしてる風にしか見えんだけど
……」

陽炎「やだなあ、霞。私達は元々仲良いわよ♡」

提督「もうわざわざ見せびらかす必要ないよな♪」
ラブラブイチャイチャ

不知火「霞さん、そちらのハムサンド取ってください」

霞「んちゃ」つハムサンド

神通「提督は料理が上手ですね……陽炎が羨ましいです」モグモグ
霞「なんであんな達はこの状況下で食べれるのよ！」

不知火「いつもの光景なので、不知火は気にしません」

霞「状況を受け入れるのも大事……」モツモツ

神通「まあ、夫婦ですから」ニガワライ

霞「つたくも〜」ガツガツ

陽炎「もう、霞つたら〜」

提督「美味しく頂いてくれるのは嬉しいが、ゆっくり食べなよ。まだまだあるんだからな」

霞「うるふあいふあね！ ごくん……あんたらはイチャこらしてなさいよっ！」

陽炎「だつてき、司令♡」ヒシッ

提督「ならイチャつかねばなるまいて♪」ギユッ

＼イチャイチャキヤツキヤツ／

霞「(#。D。)」シヨス

霞「怒るだけ無駄だと思う……」

不知火「同感です」

神通「ケツコン前からこうですからね」ニガワライ

＼そんなこんなで昼食会終盤〜

提督「さて、みんな僕の手料理はどうだったかな？」

不知火「どれもとても美味しかったです。御馳走様でした」ペコリ

神通「とても美味しく頂きました、お心遣い感謝します」ペコリ

霞「美味しかった……また食べたいです」ンチャ

霞「料理は悪くなかったわ」フンッ

陽炎「だつてき、司令」ニコニコ

提督「うんうん、作った甲斐があったよ〜♪」

提督「じゃあ、最後にデザートだ♪ 今持ってくるから待ってて！」

タツタツタツ

陽炎「行つてらっしや〜い♪」ノシ

＼そして話題は夫婦の話題へ〜

神通「今日も仲がよろしかったですね」ニコッ

陽炎「えへへ♡ どうも♡」テレテレ

不知火「司令と陽炎はいつも仲が良いですが、喧嘩とかするんですか？」

陽炎「そりゃあ、するわよ？」

霞「霞、嘘発見器持ってきて」

霞「そんなの鎮守府にないよ……」

神通「でも意外ですね……喧嘩なんてしないと思ってました」

陽炎「そんな……つい一昨日も喧嘩しちゃったんですよ？」

不知火「一昨日……いつもと変わらなかったと記憶してますが……」

陽炎「あく、喧嘩したのは夜だったから」ニガワライ

霞「どんな喧嘩したのよ？」

霞（結局心配で訊いちゃうんだよね、霞って）フフ

陽炎「そんな大した喧嘩じゃないのよ？」

◆回想◆

陽炎『えく！ 私の方が司令を愛してるもん！』

提督『いいや！ 僕の方がより陽炎を愛してる！』

陽炎『じゃあ、お互いに相手の好きな所を上げてきましょう！』

提督『受けて立つ！ 先に出なくなった方が負けだからな！』

く約一時間後く

陽炎『指揮してる時の頭の回転の早さが好き♡』

提督『いつも周りを気遣う優しさが好き♪』

陽炎『私をいつも甘やかしてくれる所が好き♡』

提督『僕の手料理を笑顔で食べてくれる所が好き♪』

く更に約一時間後く

陽炎『司令、好き♡ 大好き♡』チュツ

提督『陽炎、大好きだぞ♪』チュツ

陽炎『これでおあいこね♡』スリスリ

提督『そうだね、おあいこだ♪』スリスリ

陽炎『一杯愛してくれてありがとね♡』チュツ

提督『こつちこそありがと♪』チュツ

提・陽『えへへ♡』オデココツン

◆回想終了◆

陽炎「ーてなことがあって♡」デレデレ

神通「／／／」パタパタ

不知火「／／／」コウチヨク

霞「／＼／＼」プルプル↑憤り

霞「ふむふむ……」キョウミシンシン

陽炎「喧嘩しちやっただけど、最後はちゃんと仲直りして、その夜は……うふ♡ うふふふ♡」キャツ

神通「な、仲睦まじくて良いと思います／＼／＼」パタパタ

不知火「／＼／＼」コクコク

霞「爆発しろっ、このクズ共！／＼／＼」ズビシツ

霞「御馳走様です」ケプツ

提督「みんなお待ちせ〜！」

く提督お手製チーズケーキ〜

全員『〜！』キラキラ

提督「陽炎がこの前食べたいって言ったから、張り切って作ったんだ〜♪」

陽炎「覚えててくれたの〜？♡ もう大好き♡」ホツペチュツ

提督「当たり前だろ〜♪」ホツペチュツ

／ラブラブイチャイチャチュツチュツ＼

全員『（未永く爆発しろ〜！）』

その後みんなチーズケーキを食べたが、提督と陽炎夫婦の前に、チーズケーキの甘さは消し飛んだというー。

陽炎 完

不知火とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇埠頭◇

提督「↑艦隊の帰還待ち

↓少しづつ艦隊の影が見える↓

提督「ホッ

↓艦隊、無事に帰投↓

神通「ー報告は以上です」ケイレイ

提督「お疲れ様。各自補給、修復に入ってくれ」ケイレイ

艦隊『はっ！』

陽炎「不知火く、いいの？ 司令に甘えなくて」ニヤニヤ

神通「もう任務も終わったから、甘えてきてもいいのよ？」ニコッ

不知火「まずは補給と修復が先です。司令の命令ですから」キリッ

霞「相変わらずドライね……まあ目の前でイチャつかれるよりはマ

シだけど」

霰「不知火は大人……」カンシン

不知火「チラッ↑提督の後ろ姿を見る

不知火（司令……♡）アツイマナザシ

陽炎（相変わらずね）ニガワライ

神通（不器用ですね……）クスクス

霞（あんな顔しなきゃ一人前なのに）ヤレヤレ

霰（不知火可愛い……）カンドウ

夜ー

↓補給、修復終了！↓

◇執務室◇

コンコンー

提督「はい」

不知火『司令、不知火です。神通さんの代わりにご報告に参りました』

提督「どうぞ〜」

ガチャラー

不知火「失礼します」

提督「補給と修復は済んだみたいだな」

不知火「はい、不知火を含めた全員、どこにも異常ありません。神通さん達は食堂へ向かわせました」

提督「不知火も行ってきたいいぞ？ こっちはまだ掛かるから」

不知火「え」

提督「不知火もお腹空いてるだろ？ みんなと食べてこいよ」

不知火「……嫌ですう……」シヨボーン

提督「ビクッ

不知火「不知火は司令と一緒にがいいですう……不知火に落ち度でも？」ウルウル

〜上目遣い＋潤んだ瞳＋寂しそうな声〜

提督「すぐに片付けるから、少し待ってろ／／／／」

（あんな顔されたら頑張るしかねえだろ！）

不知火「不知火もお手伝いします♡」ニパー

提督「おう、頼むわ／／／」ナデナデ

不知火「〜♡」デヘヘ

〜そして仕事終了〜

提督「何とか終わったな〜」カタパキポキ

不知火「お疲れ様です、司令」

提督「不知火もな〜」ナデナデ

不知火「はい♡」ニヘヘ

提督（尻尾があつたら千切れんばかりに振ってそうだ……）

提督「んじや、食堂に行くか」

不知火「了解です」

〜夫婦揃って食堂へ〜

◇廊下◇

不知火「司令」クイクイ

提督「ん？」

不知火「不知火の右手が寂しいと言っています。どうでしょうか？」

提督「え」

不知火「どうしましょう？」ウルウル

く上目遣い＋潤んだ瞳＋おねだり声く

提督「ほら／＼／＼」オテテギユツ

不知火「あ♡」

提督「これでいいだろ？／＼／＼」カァー

不知火「まあまあね♡」デレデレ

提督「なら、こうか？／＼／＼」

く提督、不知火と恋人繋ぎく

不知火「あら、素敵♡」ニヨニヨ デレデレ

提督「そりやどうも……／＼／＼」カァー

(可愛過ぎんだろ、こいつ／＼／＼) ドキドキ

不知火「く♡」ルンルン

◇食堂◇

不知火「司令、どこで食べますか？」

提督「もうあんまり人も居ないし、あそこのテーブルでいいだろう」

不知火「了解しました」

く夫婦揃っていただきまゝす！く

提督「なあ、不知火」

不知火「何でしょうか？」

提督「もう少し席を離さないか？ 近過ぎだろ？」

く不知火、提督とゼロ距離く

不知火「不知火に落ち度でも……？」ウルウル

提督「ウツ

く上目遣い＋潤んだ瞳＋悲しそうな声く

提督「不知火が食べにくくないならそれでいいよ／＼／＼」

不知火「はい♡」ニパニパ

提督（駄目だ……勝てる気しねえ／／／／）

不知火「司令」クイクイ

提督「ん？」

不知火「不知火は司令に『あゝん』をしてあげたいです」

提督「おい……流石に公の場では……」

不知火「そうですね……ダメですよね……？」ウルウル

提督「又ウ

く上目遣い＋潤んだ瞳＋残念そうな声く

提督「キヨロキヨロ

提督「今は殆ど居ないから、少しだけだぞ？」ミミモトボソツ

不知火「はい、ありがとうございます♡」ニコニコ

提督「じゃあ、早くやれ／／／／」

不知火「何だかんだで司令も乗り気で、不知火は嬉しいです♡」エ

へへー

提督「いいから早く！」

（今なら誰もいないんだよ！）

不知火「そんなに不知火の『あゝん』を求めてくれて、不知火は幸

せです♡」デレデレ

提督（嫁がぐうかわで辛い……／／／／）

くそして仲良く晩ご飯を終えたよ！く

◇提督&不知火の部屋◇

く提督、不知火より先にお風呂場へく

提督「はあ……今日も嫁の可愛さがヤバかった……」

ジャー……

提督（ケツコンしてからかなり変わったよな）ゴシゴシ

「……」

「……」

提督（いや、もともと可愛かったけどさ……あんな露骨に可愛くな

るなんて想像出来なかったし……）ゴシゴシ

「…れい！」

提督（ん？）チラッ

不知火「無視しないでくださいよ……不知火、泣いちゃいますよ？」
ウルウル

くバスタオル姿＋潤んだ瞳＋甘えた声く

提督「お、おく……すまん。考えごとをしてた……／／／／」

不知火「何か悩み事でも？ 不知火なら何でもしますよ？」ピトツ

提督「いや、悩み事じゃない。今日も不知火が可愛いって思っ
て……」

不知火「不知火の事で頭をいっぱいにくれていたのですね♡」
デレデレ

提督「そ、そうなるな……／／／／」

不知火「とても嬉しいです、司令♡」ギューッ

提督「そうか／／／／」ナゲナゲ

不知火「司令♡」トローン

提督「!?／／／／」

くバスタオル姿＋密着する体＋髪を下ろした嫁く

提督「／／／／」ウグツ

不知火「し・れ・い♡」オメメトジル

くはだけたタオル＋猫なで声＋唇を差出す嫁く

提督「」プチツ↑理性轟沈

ちゅっ♡

不知火「あむ♡ むう♡ ちゅっ♡ んんっ♡ んむう♡ ちゅ

ちゅく♡ んはあ♡」ハアハア

提督「いちいち可愛過ぎんだよ、お前は／／／／」ハアハア

不知火「司令のお嫁さんですから♡」ニコツ

提督「自慢の嫁だよ」ナゲナゲ

不知火「不知火は幸せです♡」ニパー

提督「沢山愛してやるからな……覚悟しろよ？」グツ

不知火「沢山愛してください♡」ホールド

そしてめちやくちや（ryー

不知火 完

黒潮とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&黒潮邸（鎮守府内）◇

黒潮「旦那はん、朝やで〜。起きて〜なく〜」ユサユサ

提督「お〜…もう朝か〜」ノビー

黒潮「そうやで〜♪ 顔洗って、はよ支度してや〜♪」ニコニコ

提督「あいよ〜」

黒潮「歯磨きもちやくんとするんやで〜！」

提督「ん〜」ノシ

黒潮「さて、朝食盛り付けよか」ニパツ

〜夫婦揃って朝食〜

黒潮「どうや、美味しい？」キラキラ

提督「うん、今日も美味しいよ」ムグムグ

黒潮「そつかそつか〜♡」ニコニコ

提督「今日は随分ご機嫌だなく〜」

黒潮「そらそうや♪ 今日デートやんか♡」

提督「そ、そうだったなく〜」

黒潮「もしかして忘れとったん？」ジトー

提督「」ダラダラ

黒潮「まあええわ。最近忙しかったし、しゃあないやろ♡」ニコツ

提督「お、おう」ニガワライ

黒潮「出来れば次は忘れんといほしいなく♡」ニコニコ

提督「善処しよう」モグモグ

黒潮「頼むで、旦那はん♡」ウインク

〜朝食を終えてデートの支度〜

黒潮E・白のロングカーディガン

黒と白のチェックブラウス

インディゴブルーのデニムミニスカート

提督（ぐうかわ／＼／＼）

黒潮「ほな、行こか♡」ウデギユツ
提督「おう／＼／＼」

◇映画館◇

提督「何か観たいのあんの？」
黒潮「これやこれ！」

『提督と艦く平和を守る抜錨く』

※アクション

提督「何かすげえ壮大な感じがするな」

黒潮「そうやろそうやろ」ウキウキ

提督「じゃあチケット買うか」

黒潮「あゝい♡」

くチケット購入！く

提督「飲み物は？」

黒潮「うちは……烏龍茶！」

提督「ん……すみません、烏龍茶二つ」

黒潮「後ポップコーンのL一つ」

店員「畏まりました♪」

く館内へく

黒潮「この席やで♪」

提督「おう、中間の真ん中か。丁度いいな」

黒潮「そうやな♡」ピトツ

提督「おい、そんなにくつつかなくても……／＼／＼」

黒潮「デートなんやからええやんか♡」ギューツ

提督「おい／＼／＼」

黒潮「どうせ誰も気にせんで♡」ニコニコ

提督「つたく……／＼／＼」

黒潮「く♡」ヒシツ

他客「パルパルパルパル

他客「ネタマシイワ！

提督（周りの視線が痛い……）

黒潮「〜♡」ニコニコ

提督（黒潮が幸せそうならそれでいいか……）

〜上映中・終盤〜

『おい！ 何してる！ 弾幕薄いぞ！』

『もう少しだ！ もう少しで救援が来る！ それまで耐えろ！』

『無茶言わないで！』

『我々が食い止めなくて誰が奴らの進行を食い止めるんだ！』

『しかしこれ以上は……!!』

提督「ふむ……」

（いかん……職業柄、この艦長の指揮ばかりに目が行く）

黒潮「ハハラハラ」

提督（黒潮がかなり強く手を握って来ているな……）

黒潮「ギューッ

『艦長、本艦に急接近する敵戦闘機あり！』

『またか！ 撃ち落とせ！』

ドーン！

黒潮「ハワワ

提督（そろそろかな？）

『中破、か……ここまでなのか……』

『艦長！ 来ました！ 我が軍の救援が！』

『ようし！ こちらも反撃だ！ 有りたっけの弾をぶち込んでやれ

！』

黒潮「パアッ

提督「フフ

〜上映が終わりロビーへ〜

黒潮「いや〜、手に汗握る展開やったわ〜！」コウフン

提督「そうだな〜」

黒潮「最後まであの艦長がああ艦を信じて戦ったのがもうサイコー

やった！」

提督「ちよつと作戦に無理があつたけどな〜」

黒潮「もう、霧囲気壊すなや」

提督「俺だつたらあんなことしないからな。弱腰と言われようが万全を期して挑むね」

黒潮「ニガワライ

提督「いくら上の命令でもちゃんと作戦を立てなきやあなるんだという勉強になった」ウンウン

黒潮（ホンマしやあないなあ）ニコニコ

提督「お前にはあんな思いさせないよう頑張るからな」ナデナデ

黒潮「い、いきなりそんな言うの反則やで♡／／／／」キウンキウン

提督「俺は本気だ」

黒潮「ありがと♡」ギューツ

提督「おう」ナデナデ

くそして夫婦は次の場所へく

昼――

◇喫茶店◇

提督「喫茶店でいいのか？」

黒潮「映画の後は喫茶店やで♪」ウイंक

提督「へへ」

黒潮「へへて、つれない反応せんでや」ムウ

提督「ごめんごめん」ナデナデ

黒潮「ホンマしやあない人やな♡」

提督（ちよろかわ／／／／）

店員「ご注文お決まりでしょうか？」

提督「ブレンド一つ」

黒潮「うちはカフェオレください♪ あとこのカップル限定、ランチセット♪」

提督（ん？）

店員「畏まりました」ペコリ

提督「カップル限定のランチセット？」

黒潮「そうやで♡ 前から気になつとてな♡」ニへへ
提督（DQNメニユーじゃないことを祈ろう）

黒潮「♡」ワクワク
ー。

店員「お待たせしました。ブレンドとカフェオレ、ランチセットになります。ごゆっくりどうぞ」ペコリ

♡ハート尽くしのランチセット♡

提督「ハート型の様々なパンにハート型のハンバーグ……んでハート型の器に入ったポテトサラダ等々……」

（DQNだった……）

黒潮「ほな、食べよか♪」人

提督「お、おう」人

♡夫婦で昼食♡

黒潮「はい、あくん♡」つパン

提督「いや、一人で食べるぞ？」

黒潮「こうやって食べるのがルールやで♡（嘘）」

提督「マジか……／／／／」

黒潮「はよ、口開けて♡や♡」ニコニコ

提督「アー

黒潮「♡」ニコニコ

♡食べさせ合って完食♡

提督（公開処刑だったな／／／／）

黒潮「♡」ニヨニヨ

提督（幸せそうな顔しやがって／／／／）

店員「失礼します。カップル限定、ランチセットのデザートをお持ちしました」

黒潮「お♡」キラキラ

提督「(。Д。)」アングリ

♡ハートチョコが乗ったチョコパフェ♡

店員「こちらの専用スプーンでどうぞ。ごゆっくりどうぞ」ペコリ
提督「これも食べさせ合うのか……」トオイメ

黒潮 「そうやで♡」つパフエ

提督 (ええいままよ!) パクツ

黒潮 「素直でええで♡」ニコニコ

提督 「くくくく」ムグムグ

その後も夫婦は仲睦まじく周りに砂糖をばら撒きながら過ごした。

黒潮 完

親潮とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇鎮守府内・中庭◇

親潮「ポケエ

〜親潮、ベンチに腰掛け青空を見上げ中〜

「な〜にしているの?」

親潮「?」クルツ

陽炎「やつほ〜♪」ウインク

不知火「こんにちは、親潮」ニコツ

黒潮「んなどこで佇んでどないしたんや?」ニコツ

親潮「姉さん……」

陽炎「隣、失礼するわね♪」

親潮「どうぞ……」

黒潮「ほな、うちは反対側〜♪」

親潮「は、はい……」

不知火「黒潮、もっと詰めてください。不知火が座れません」

黒潮「あいあい〜」ニガワライ

不黒親陽↑並び

親潮「あ、あの、私退きますから……」

陽炎「駄目に決まってんでしょ?」グツ

黒潮「せやで〜?」

不知火「何か心配事があるなら不知火達に話してくれませんか?」

親潮「ウツムキ

陽炎「全く……世話の焼ける妹ね〜」クスツ

親潮「え?」

黒潮「水くさいで〜?」ナデナデ

不知火「一人で抱え込む必要はありませんよ。無理には聞きません

が」ニコツ

親潮「姉さん……」

陽炎「どんなことでも相談しなさい。私達は姉妹なんだから」ナデ
ナデ

親潮「ありがとう、ございます」ニコツ

黒潮「ほな、何があったか言ってみよか♪」

不知火「まあ、先程からずっと左薬指にしている指輪を撫でてましたから、司令のことでしょうけど」クスツ

陽炎「ほくら、茶化さないの。で、どうしたの?」

親潮「実はー」

く親潮、姉達に相談中く

陽炎「ふくん……司令がねく……」ウデクミ

黒潮「言われてみれば確かに最近顔色が悪いなく」ウーン

不知火「司令は一人で不知火達を指揮していますからね。鎮守府には百名以上の艦娘が居ますし、その苦労はかなりのものかと……」

親潮「はい……夜も遅くまで執務や作戦計画に追われていて……」

陽炎「親潮も手伝ったりしてるのよね?」

親潮「勿論です……でも、手伝わせてくれるのが零時までで……」

不知火「零時以降は?」

親潮「明日の生活に差し支えるから寝るようにと……」

黒潮「なしてそこで引つ込むねん……」ニガワライ

親潮「司令のご命令は絶対ですので……」

陽炎「ヤレヤレ」

不知火「親潮は本当に良い意味でも悪い意味でも真面目ですね」
フウ

黒潮（不知火には言われとうないと思うで?）

親潮「だ、だって愛する方のご命令に背きたくありませんし……」

／／／ポツ

黒潮（そこで惚気るんかい!）

陽炎「ならいい考えがあるわ♪」ニコツ

不知火「心配なので先に不知火達に教えてください」

黒潮「せやな」

陽炎「……なんか納得いかないけど、まあいいわ。耳貸しなさい」

く陽炎、二人に説明中く

陽炎「どうよ？」

不知火「驚きました。陽炎にしてはまともです」オオー

黒潮「長女って感じがしたわく」パチパチ

親潮「？」

陽炎「あんたらが私をどう見てたかよく分かったわ」

不・黒『今更ですね（やん）』

陽炎「とにかく！ 親潮、私の考えを聞きなさい」ニコツ

親潮「は、はい……」

く親潮、陽炎から案を聞くく

親潮「分かりました！ 陽炎姉さん、不知火姉さん、黒潮さん！

ありがとうございます！ 早速今夜実践します！」

く親潮、元気にその場を後にするく

陽炎「さて、次はあんたらのお仕置きにしましょうか♪」

不知火「し、不知火にお、落ち度はないぬい……」ガクブル

黒潮「う、うちかて無いでく」メソラシ

陽炎「さ、訓練場へれつつごー♪」

不知火「ぬい……」ズルズル

黒潮「いややく！」ズルズル

その日の深夜ー

◇執務室◇

提督「カリカリ↑仕事中心

親潮「テキパキ↑お手伝い中

時計へヒくハく！ 零時だぜく！

提督「ん、もうこんな時間か……親潮は先に下がって休んでくれ。

後はこちらでやる」

親潮「分かりました」

提督「……ああ、お疲れ様」ナデナデ

親潮「はい♡」ニへへ

パターンー

提督（今日はやけに素直だったな……いつもなら少し嫌そうにするが……）

提督（まあ慣れたんだろうな）

提督「さて、これも親潮や艦隊みんなの為だ。頑張って終わらせよう」

そして数十分後――

トントナー

提督「ん、誰だこんな時間に……どうぞ」

カチャー

親潮「失礼します」ヒョコ

提督「ん？ 親潮じゃないか、どうしたんだ？」

親潮「あのおく……えつとおく……／／／」モジモジ

提督「??」クビカシゲ

親潮「私は……親潮は、司令のお嫁さん……ですよ？／／／」

提督「は？」

親潮「こ、答えてください！／／／」

提督「……親潮は俺の自慢の嫁さんだ」

親潮「つ……で、では、部下ではなく……妻として夫のお側に居ても良いでしょうか……／／／」ハウ

提督「」

親潮「部下として支えるのが零時までなら、それ以降は妻として支えられたらナー」

ぎゅっ♡↑親潮、提督に抱きしめられる

親潮「し、司令!／／／」アワワ

提督「どうしてお前はこうも健気なんだ……愛おしくて仕方なくなる……」ナデナデ

親潮「司令……♡／／／」ドキドキ

提督「ありがとう……こんな嫁さんを持って幸せだよ」

親潮「え、えへへ……はっ、こ、光栄です♡／／／」テレリテレリ

提督「妻なら素直に喜べ」ニガワライ

親潮「は、はい♡」ニへへー

親潮「あ、お夜食に五目ご飯のおにぎりををご用意致しました、どうぞ♡」

提督「おく有り難い。頂くよ」ニカツ

親潮「はい♡」ワハー

「仕事を休憩してソファで夜食タイム」

提督「そうか……陽炎達が……お前だけじゃなく、みんなにも心配掛けていたんだな」モグモグ

親潮「そうですよ……お一人でご無理はなさらないください」
ジーツ

提督「ありがとうな」ナデナデ

親潮「はい♡」

親潮「(それに司令のお側に居られないのは寂しいですから♡／／／
／／)」ボソツ

提督「聞こえてるぞ」

親潮「はうあ!?!♡／／／」ドキッ

提督「確かにそうだな……」スツ

ぎゅっ♡↑親潮、またも抱きしめられる

親潮「し、司令?♡／／／」

提督「仕事にかまけて妻を放つたらかしにするのは夫として失格だよな」ホッペナデナデ

親潮「そんな、失格だなんて……いつも私達の為にお仕事を頑張る司令は素敵な夫です♡／／／」

提督「でも、寂しかったのだろう?」

親潮「それは……そうですけどお／／／」ハウー

提督「もう寂しい思いはさせないと誓うよ」

親潮「司令……はい♡」ニッコリ

ちゅっ♡

提督「ははは」

親潮「えへ♡」

そして夫婦はシュガーテロリストへと変貌するのであったー。

親潮
完

早潮とケツコンしました。

某鎮守府、夕方――

◇艦娘宿舎の厨房◇

早潮「ん〜、こんな感じ？」

黒潮「おお、ええ感じやんか！」

陽炎「妹の進歩にお姉ちゃんは感動を禁じ得ないわ」グスン

親潮「愛の力は偉大ですね」ニコニコ

不知火「司令も喜んでくださるでしょう」ニツコリ

早潮「ちよ、みんなして大袈裟過ぎない？」

陽炎「だつてまさかあんたから料理を教えて欲しいなんて言われる日が来るとは思つてなかったもの」

黒潮「せやで。天変地異の前触れかと思おて雪風大明神のどこまで願掛けに行つたくらいや」

不知火「磯風が『なら私が』と教官になろうとする度に手刀で止めた日々が懐かしいですね。あれはあれでいい訓練になりました」又
イツ

早潮「親潮姉え〜！」エーンツ ダキツキ

親潮「ああ、それだけみんな早潮の変化が嬉しかったってことだよ！」ヨシヨシ

早潮「うう〜」クスンクスン

不知火「そんなことよりもう時間なのでは？」

早潮「あつ、ヤバ！ 旦那待たせるとかナシよりナシだし！」

黒潮「急いで行つたれや〜♪」

陽炎「お姉ちゃん、姪っ子が欲しいな〜♪」

親潮「姉さん……」ニガワライ

不知火「走ると危ないので、多少遅れても安全第一に輸送してください」

早潮「分かったからその生温かい視線やめろし〜！」

〜優しい姉たちに見送られ、早潮は提督が待つ執務室へと向かった

◇執務室◇

トントントン――

提督「どうぞー」

ガチャ――

早潮「や、やほー、やってるー?」

提督「早潮、戻ったのか。俺は見ての通り仕事だ。悪いが今夜は料理してる暇ないから、間宮さんここで済ませてくれ。済ませたらそのまま官舎へ戻って休んでいいから」

早潮「……………むう」

提督「? どうした?」

早潮「いや、なんていうか……………あたしってホント提督に甘えてたなって……………」

提督「? いいんじゃないか? 嫁の特権だろ。俺は早潮のことが

大好き過ぎてウザいと自負している」キリッ

早潮「ちよ、んな恥ずいこと決め顔で言うなしく♡」

(旦那がイケメン過ぎて超ヤバたにえん!♡)

提督「俺は恥ずかしくない。思いは言葉にしないと伝わらないからな」

早潮「ああもう、あたしの旦那好き好きの好き♡」

提督「おう、俺も早潮が好きだぞ。ほら早く食堂行かないと込むぞ」

早潮「はにやく♡ じゃなくて! 提督! ストップ! お手手ス

トップ!」

提督「?」ピタ

早潮「ん、おけ! んで、ソファーにゴー!」

提督「?」スクツ

テクテク……………ストン

早潮「おけおけ! んじゃ、はい!」ニコッ

提督「? なんだこの小包みは?」

早潮「えつと……………その……………愛妻弁当、的なの? / / / /」

提督「ほう……………」

早潮「ちよ、真顔になるなし！／＼／＼／＼」

提督「何が望みだ？」

早潮「は？」

提督「早潮が愛妻弁当なんてレアアイテムを作るといふことは何か望みがあるんだろう？　なんだ？」

早潮「ちよ、まっ——」

提督「そうか、世界が欲しいか。俺は早潮が望むなら深海棲艦を駆逐して世界の覇者と——」

早潮「好きな旦那にただ愛妻弁当作りたかっただけだし、いいいいいっ！」

　　早潮は顔を真っ赤にしてそう叫ぶと、提督はこれまでにない程にいい笑顔を浮かべた

提督「俺は世界一幸せだよ」

早潮「た、食べてから言っ……／＼／＼／」

提督「気持ちだけで幸せなんだ」

早潮「♡♡」

提督「愛してるよ、早潮。一生俺だけの妻でいてくれ」

早潮「えへへ、あたしも愛してる♡♡」ヒシッ

提督「俺の方が愛してる」ニコッ

早潮「は？♡　あたしの方が愛してっ♡♡」

提督「はは、俺の早潮への愛には敵うまい」ニコニコ

早潮「いやいや、あたしの方が上だから♡♡」ニコニコ

　　夫婦は暫く愛してる合戦をした

早潮「んもおく！　旦那のせいで遅くなったじゃん！」

提督「負けられない戦いだっただからなく」

早潮「負けろしく。あたしの方が上なの決まってるだからさ」

提督「ん？」

早潮「は？」

提督「いや、俺の早潮への愛を分かってないみたいだからさ」

早潮「へ？」

提督「を？」

早潮 「あたしとやろうっての？」

提督 「やるまでもないだろ？」

早潮 「あ？」

提督 「お？」

早潮 「あたしの方が旦那のこと超愛してるし！♡」

提督 「ところがどっこい俺の方が愛してるんだなー」

早潮 「あたし！♡」

提督 「俺」

早潮 「あたしあたしあたし！♡」

提督 「俺だつて」

こうして夫婦は犬も食わぬ愛してる戦争をし続け、最終的にイチヤイチャラブラブのまま朝を迎えた――。

愛妻弁当く解せぬ

早潮 完

初風とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&初風の部屋◇

初風「パチッ

初風（もう朝ね……）

初風「チラッ

女提「（☒ω☒）」スヤア

初風「フフ

初風（可愛い寝顔♪）ニコニコ

女提「はっ……かぜ……」ムニヤムニヤ

初風「キューーーン

初風（可愛い……どうしよう／／／／）

モゾモゾ↑提督の顔に接近

初風（私ばかりキュンキュンさせられるのは悔しいから……）

かぷっ↑提督の耳を甘噛み

初風「ハムハム

初風「／／／／」↑やっつて恥ずかしくなった

女提「んんん」ゴロン

初風「っ!？」

く提督、初風を抱き枕にく

初風「キュンキュンキューーーン

初風（あく、なんていい匂いーじゃなくて！ またキュンキュン

させられたわ！／／／／）

女提「んん」ギューッ

初風「あ……んん♡」

初風「ドキドキ

初風（絶妙な力加減……気持ちいい♡）キュンキュン

女提「パチッ

初風「あ」

女提「おはよ〜」ニパー

初風「お、おはよう／＼／＼」

(どうしよう、凄く可愛い／＼／＼)

女提「朝一番で初風の顔が見れて嬉しい」ニパー

初風「プチッ↑さらば理性

ガバツ↑初風、提督に覆い被さる

女提「? ちゆう?」

初風「コクコク

女提「は〜い♪ ん〜♡」クチビルサシダシ

初風「んっ……ちゆうっ……っ……んんっ……はあ、んんっ……ちゆう

ちゆうっ……♡」

女提「んはあ♡ 朝から激しいね〜♪」ニパー

初風「提督が可愛いからよ／＼／＼」ドキドキ

女提「初風も可愛いよ〜♡」ニパー

初風「あ、ありがとう／＼／＼」テレツ

女提「でもディープなら歯磨きした後がいいな〜」ナデナデ

初風「どうして?」スリスリ

女提「寝起きだと口臭とか気になるじゃない。エチケツトよエチ

ケツト」ナデナデ

初風「私と提督の仲だもの、気にしないわ。提督なら例え口の中に、

にんにくがたっぷり入っても気にしないわ」スリスリ

女提「私は気にするの」メツ

初風「どうしてよ」ムウ

女提「臭いって思われたくないじゃない。好きな子には特に……」

ナデナデ

初風「キュンキュンキュンキュン

(また被弾(意味深)したわ／＼／＼)ドキドキ

初風「っ、次から気をつけるわ／＼／＼」テレリテレリ

女提「うん♪」ニパー

〜そしてようやく起き出す二人〜

◇洗面台◇

女提「ジャブジャブ↑洗顔中

初風「シャコシャコ↑歯磨き中

く交代く

初風「パシャパシャ

女提「シャカシャカ

◇鏡台◇

女提「ポンポン↑お化粧中

初風「ジーツ↑見つめ

女提「ヌリヌリ↑お化粧中

初風「提督っていつもメイクするけど、する必要あるの？　しなくとも綺麗じゃない」

女提「女は勝負する時は必ずメイクするの」

初風「勝負？」

女提「そう勝負」

初風「誰か口説き落とすの？」ジトツ

女提「何でそうなるの？」ニガワライ

初風「女の勝負ってそういうことじゃない？」

女提「私は毎日メイクしてるでしょ？」

初風「毎日口説き落とす勝負を？」ジトツ

女提「口説き落とすから離れて」ニガワライ

女提「私の毎日の勝負は、艦隊指揮みんして無事に帰還させること、よ

ニパツ

初風「提督……」トクン

女提「みんなを生かすも殺すも私の一つ一つの行動で決まるの。一度失ったらやり直しなんて出来ないもの」

初風「そうね……」

女提「それに……」

初風「？」

女提「最愛の子が泣いたり、沈んだりするところなんて見たくないじゃない？」ニパツ

初風「……………そ、そうね／＼／＼」テレリテレリ
(なんでいつも私ばかり……………／＼／＼)

◇台所◇

女提「♪」トントントン↑料理中

初風「コポコポ↑湯沸かし中

女提「初風、トースト用意して」

初風「分かったわ」

♪朝食完成!♪

女提「頂きます」人

初風「頂きます」人

初風「提督の作ったポタージュスープを飲むと朝って感じがするわ」コクッ

女提「そっかそっか♪」ニパー

♪朝食も済ませ出勤準備♪

初風「私も少しは料理出来るんだし、交代で作らない? 提督の料理は好きだけど、なんだか悪いわ……………」

女提「最愛の人に手料理を振る舞うの夢だったから、とっても幸せだよ、私♪」ニパー

初風「キyunキyunキyunキyunキyunキyun

(くうくう／＼／＼) ↑嬉し悔しい

女提「ニパニパ

初風「バカ提督……………／＼／＼」プイッ

女提「(。ロ。;)」ガーン

初風「ありがと……………私も幸せ、よ……………／＼／＼♡」デレッ

女提「(?・v?。)」「ニパッ

初風「そ、そんな可愛い顔しないでくれない?／＼／＼」

女提「キスしたくなっちゃうから?♡」ニパー

初風「分かってるならしないで／＼／＼」プイッ

女提「朝食のデザートに甘いもの、欲しくない?♡」ウインク

初風「……………いる／＼／＼」ギョッ

女提「召し上がれ♡ ん♡」クチビルサシダシ

初風「ちゅっ♡ ん♡……ちゅっ……んっ……っ……はあ♡」

女提「おかわりはいいの？」ナデナデ

初風「もちうわ♡」チュツ

こうして夫婦は今日も仲良く遅刻するのであったー。

初風 完

雪風とケツコンしました。

某鎮守府、お昼前ー

◇執務室◇

女提「また大破者を出しちゃった……」

女提「笑って許してくれたけど、あれは確実に私のミス……」

女提「ハア

女提（私……やっぱり提督向いてないのかもしれない）

女提（未だに大和型未建造だし、彩雲持つて行かせないと高確率でT字戦不利だし、開発は基本ペンギンだし……）

女提「みんなが頑張ってるのに、それを預かる私がこの様じゃみんなに顔向け出来ないよー！」ブワツ

コンコンー

女提「うわーん！」メソメソ

ガチャー

雪風「しれえ！ どうしたんですか!? 誰かにイジメられたんですか!？」

女提「雪風」ヒシツ

雪風「はい！ 雪風がここに居ます！ だから泣き止んでください！」ギューツ

女提「初風と天津風と時津風の様子は？」グスグス

雪風「問題ありません！ 寧ろ、三人共しれえのことを心配してましたよー？ 自分達が破しちゃったから責任を感じてないかって……」ヨシヨシ

女提「責任感じるよー！ 私のせいでみんなを傷つけちゃったんだもん！」エグエグ

雪風「あれは陣形にも連携にもミスはありませんでした。こちらの情報不足です……雪風が付いていながらすみません」ギユツ

女提「雪風が謝ることないよー！ 雪風が付いてたからみんな轟沈せずに済んだのー！」ビエーン

雪風「それを言うなら、しれえのお陰ですよ。しれえが咄嗟に回避指示をしてくれたので、大破状態でもあの攻撃を避け切れたんですから」ナデナデ

女提「でも〜！」メソメソ

雪風「しれえは強情ですな〜」ニガワライ

女提「知ってるも〜ん！」グスグス

雪風「それでも、雪風達を心から大切にしてくれる優しいしれえです」ギユツ

女提「」エグエグ

雪風「皆さんちゃんと分かっていますよ。しれえがどれだけ雪風達を大切に思ってくれてるか」ナデナデ

女提「だって、みんな私の大切な家族だもん」グスツ

雪風「そんなしれえが雪風達は大好きなんですよ♪」ギューツ

女提「ありがとう〜！」ビエーン

雪風「」ナデナデ

〜そして暫くして、やつとのこと泣き止む〜

雪風「大丈夫です……雪風達は誰一人として沈んだりしません」

女提「うん……」

雪風「雪風達は必ず、しれえの元へ帰ってきます。雪風が保証します！」エツヘン

女提「うん……」

雪風「だからしれえ、いつもみたいに雪風達を優しく見守っていてください♪ 皆さんしれえの微笑みを見るのが大好きなんですよ〜

♪「ニパツ

女提「うん……」ニコリ

雪風「えへへ♡ やつぱりしれえの微笑みは最高です♡」ギューツ

女提「ありがとう」ギユツ

雪風「しれえ♡」クイクイ

女提「？」

雪風「♪♡」ホツペチュツ

女提「!!!?」
!!!
／／／／／

雪風「えへ♡ 幸運の女神のキス、感じてくれましたか?♡」ニッコリ

女提「うん♪ ありがとう、雪風。大好きよ♡」ホッペチュツ

雪風「あ♡」トクン

女提「ニッコリ

雪風「く♡／／／」キユンキユンドキドキ

コンコンー

女提「はーい! ちよつと待ってて〜!」

「雪風、ちよつと待っててね」ナデナデ

雪風「はい♪」

ガチャー

天津風「司令、修復が終わったから報告に来たわよ」

初風「酷い顔……やっぱ泣いてたんだ」マジマジ

時津風「ダメだよ、泣いてばっかじゃ〜!」ナデナデ

女提「ごめんね、三人共〜!」ダキッ ブワッ

天津風「な、泣かないですよ! 私達はあなたに責任があるだなんて

思っていないんだから!」アワワ

初風「泣き虫な提督ね……」クスクス

時津風「もく、泣いちやダメえ〜!」ナデナデ

女提「だつて〜」グスグス

天津風「沈まなかったのはあなたの手腕よ。感謝してるんだから

……ね」ヨシヨシ

初風「誰も轟沈してないのは提督の強運のお陰よ。自信を持って」

ナデナデ

時津風「だから笑って! ほら、にく♪」ニコッ

女提「うん……」ニッコリ

天津風「／／／」キユン

初風「いい笑顔……そうでなきゃね」クスクス

時津風「提督スマイル頂きました♪」ニパッ

／ワイワイキヤツキヤツ

雪風（雪風達は沈みません……!）

女提「そんなに頭撫でないでよ」ニコニコ

初風「仕方ないでしょ」クスクス

天津風「だってあなたは泣き虫なんだもの」

時津風「ねえ」

雪風（だって幸運の女神がいつも雪風達を見守ってくれてて……）

時津風「司令、あたしお腹減った」

初風「美味しいランチ、食べたいな」

天津風「みんなで食堂行きましょ」

女提「ふふ、そうね」ニッコリ

雪風（幸運の女神がいつも側で微笑んでくれていきますから）

女提「雪風、みんなとご飯食べに行きましょ」

雪風「はい」ギョツ

天津風「相変わらず仲良し夫婦ね」ヤレヤレ

初風「提督、いつものあれ、やってみせてよ」フッフ

時津風「おお！ 見たい見たい」

女提「え」ニガワライ

雪風「キラキラ↑待望の眼差し

女提「も、恥ずかしいんだからね？」チュツ

雪風「♡」チュツ

初風「いつ見てもいい光景ね」ニコニコ

天津風「この光景が見れるんだもの、轟沈なんて出来ないわ」フッフ

フ

時津風「幸運の光景だもんね」

雪風（幸運の女神のキスを感じています♡）

雪風 完

天津風とケツコンしました。

某海域、昼下がりー

く第二水雷戦隊、帰還中く

矢矧「今回の任務も無事に終わって良かったわ」ホッ

能代「そうね。もう鎮守府の正面海域に入ったし、少し速度落としましようか」ニコッ

時津風「速度はそのまんまが良いと思うよ〜！」

初風「約一名がさつきからそわそわしてますから」ニヤッ

雪風「なのでこのままの速度が良いと思います〜す！」

天津風「ちよつ、な、何言ってるのよ！／＼／＼／＼」

能代「あちやく、これは配慮が足りなかったわね〜」ニガワライ

矢矧「みたいね……なら逆に少し速度上げましょうか」クスッ

天津風「能代さん達までく！／＼／＼／＼」カァー

初風「良いじゃないの。その分早く会えるわよ？」フッフ

時津風「良かったね〜、天津風♪」クスクス

雪風「帰ったら沢山甘えられますね〜！」ニコニコ

天津風「あ、甘えるなんて……／＼／＼／＼」

初風「そうよね〜……天津風はまだ提督に『好き』の一言すら伝えられてないものね〜」

時津風「早く言ってあげないと司令が可哀想だよ？」

雪風「言葉で伝えるのは大切ですよ？」

天津風「わ、分かってるわよ／＼／＼」プイッ

矢矧「私達はもうただの兵器じゃないわ。ちゃんとこうして言葉でコミュニケーションが取れるんだから」

能代「そうよ。恥ずかしいのは分かるけど、ちゃんと言葉にしてあげると、提督だって喜ぶはずよ」ニコッ

初風「そしてそのままオフトウンヘゴーね、分かります」

時津風「憲兵さん呼ばなきゃ！」

雪風「お二人はケツコンされてますので大丈夫ですよ〜！」

天津風「バカアアアアア！／＼／＼／
全員『あはは♪』

天津風（今日こそ、ちゃんと言おう……私の言葉で『好き』って気
持ちを……）

◇埠頭◇

く無事に帰投！く

矢矧「ふう……無事に帰投ね」フフフ

能代「天津風のお陰で楽しく帰投出来たわね」クスクス

天津風「ううく……／＼／＼／カァー

時津風「あれ、司令が居ないね」キョロキョロ

雪風「お仕事でしょうか……」

初風「珍しいわね。いつもなら何があっても出迎えて来るのに
……」

神通「皆さん、お帰りなさい」

矢矧「あら神通……」

能代「みんな無事に帰投したわ。提督は今ー」

神通「提督は今医務室です」

時津風「ええく!?」

雪風「な、何があつたんですか!？」

初風「説明してください!」

天津風「静かにつ!!」

シーン……

天津風「大声を出してごめんなさい……でも、みんな冷静に。神通
さんが説明出来ないでしょう?」

能代「神通、提督に何があつたの?」

神通「はい……つい一時間程前に階段を踏み外してー」

天津風「っ」ダツ

時津風「天津風!」

矢矧「行かせてあげなさい……」

雪風「神通さん、しれえの具合は……」

初風「階段からなら頭を打った可能性が高いわ」
能代「どうなの、神通？」
神通「……大変申し上げ難いんですがー」

◇医務室◇

バターーン！

天津風「司令官！」

島風「あ、天津風……」

明石「天津風ちゃん……戻ったのね……」

天津風「二人共、司令官は!？」

島風「……」ウツムキ

明石「どうぞ、こちらへ」

天津風、明石に連れられ奥の部屋へ

◇病室◇

天津風「

霞「早く起きなさいよ！ クズ司令官！」

浜風「提督！ 提督！ 目を覚ましてください！」

初霜「提督く！」

提督、ベッドの上で横たわる

天津風「ドサツ

天津風、膝から崩れ落ちる

明石「天津風ちゃん……」

天津風「司令官……しれい……かん……」ポロポロ

明石「みんな、提督と天津風ちゃんだけにしてあげましょう」

霞「ええ……」

初霜「分かり、ました……」

浜風「了解しました……」

明石「じゃあ、私達は外に居るから」

天津風「コクリ

天津風と提督だけに

天津風「司令官……」グスツ

女提「」

天津風「呑気に寝てんじやないわよ……早く起きなさいよ……」
女提「」

天津風「こんなに身体を冷たくして……身体に毒だわ」ギユツ

天津風「早く……起きなさいよ……」

女提「」

天津風「ごめんなさい……」ボソツ

天津風「素直になれなくてごめんなさい……」ポロポロ

天津風「告白の時も、プロポーズの時も、愛してもらった時も……
いつも何も言えなくて、ごめんなさい」ギユーツ

天津風「あなたはいつも私への愛を伝えてくれてたのに……ぐすつ

……私はいつも……ううっ」

女提「」

天津風「私はあなたに出会えて……っ、あなたに愛してもらえて
……ぐすつ……本当に嬉しかった……っ……」

天津風「こんなに大好きなのに！　こんなにこんなに愛してるのに
！　早く目を覚ましなさいよ！」

天津風「私は大好きなあなたを逃がさないんだからああああああ
!!!!」ギユーツ

女提「……あまつ、かぜ？」

天津風「!?」

女提「心配掛けちゃったわね……ごめんなさい」

天津風「しれい……かん？」

女提「大丈夫、私は生きてるわ」ニコツ

天津風「ばか……ばかあ……!!」ギユーツ

女提「頭打ってそのまま気を失っちゃった」ナデナデ

天津風「……ばか……後でちゃんと説明してよね……」ヒシツ

女提「天津風から大好きって言われて目が覚めちゃった♪」

天津風「うるさい、ばか♡／／／」フンツ

女提「ふふ」ナデナデ

女提「ありがと、天津風……愛してるわ」チュツ
天津風「逃がさないって言ったでしょ♡」チュツ

◇病室・ドア前◇

天津風『うわ、大っきなたんこぶ……』ツンツン
女提『イタタタっ!』

／ワイワイキヤツキヤツ＼

明石「目が覚めたみたいね」ホツ

雪風「良かったです……」へタア

初風「これで一安心ね」ホツ

時津風「神通さんが変に険しく言うから焦ったよ!」

神通「ご、ごめんなさい」ウツムキ

矢矧「階段を踏み外したって言っても最後の一段で、しかも運悪く

走って来た島風とぶつかって気絶だなんてね」ニガワライ

能代「どっちにしても肝を冷やしたわ」ハア

霞「あんた達が大袈裟だったのもあるわね」ヤレヤレ

初霜「ご、ごめんなさい」シユン

浜風「申し訳ありません」シユン

島風「そういう霞ちゃんだって凄く心配してたじゃん!」

霞「元はと言えばあんたが廊下を走ってたからこうなったんでしょ
うが!」ゲンコツ

島風「いったくい!」◇◇

天津風 完

時津風とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇甘味処◇

時津風「ドヨーーン

雪風「時津風、どうしたの？」ナデナデ

初風「何かあったみたいね」

天津風「話せるなら聞いてあげるわよ？」

時津風「司令が浮気してたの……」

雪・天『ええ!?!』

初風「フムフム

雪風「そんな！　あり得ないよ！　だってしれえは時津風一筋だも
ん！」

天津風「そ、そうよ！　司令官は金剛さんや榛名さんに言い寄られ
ても動じないなのよ!?!」

初風「まあまあ、二人共、落ち着いて。時津風、提督さんが浮気し
てたつて言う証拠は？」

時津風「司令の机の引き出しにえつちな写真集があつたの……それ
もおっぱいが大きい人ばかり写ってるやつ！」

雪風「ええ!?!」

天・初『え?』

時津風「酷いよね。あれだけあたしにあんなことやこんなことばっ
かりしてきたくせに……胸が無いから……」グヌヌ

雪風「しれえ酷いです！」↑意味を分かってない

天津風「ねえ、時津風。ちよつといい？」

時津風「何？」

初風「もしかして写真集があつたから浮気なの？」

時津風「そうだけど……何？」

天津風「いや、司令官も男の人だし……」ニガワライ

初風「写真集くらいでとやかく言つてたら可哀想よ」

時津風「でもお〜……」

初風「男の人って言うのは頭と下半身は別々の人間なのよ」↑雑誌で得た知識

時津風「そうなの？」

初風「そうよ。それに写真集くらいなら可愛いものでしょ。実際に他の女の人と会ってたりしたら別だけど、それくらいは許容してあげないと」

時津風「あたしそこまで大人になれないもん。司令があたし以外の女の人見てるの嫌だもん！」

雪風「でもここには沢山の女性が居るよ？」

時津風「目に入っちゃうのは仕方ないし、あたしも変に気にしないよ？ あたしが言った『見る』ってのは、部下とか仲間として見るんじゃないくて、異性として見てるのが嫌って言ったの」

雪風「お〜、なるほど！」オテテポンツ

天津風「ん〜、何かの間違いだと思っただけだね〜」

初風「そうよね……問題のその写真集はどうしたの？」

時津風「そんなのソツコー庭で燃やしたよ！」

初風「そう……」ニガワライ

天津風「何も燃やさなくても……」ニガワライ

時津風「だってあの写真集はあたしの司令をたぶらかしたんだもん。今思えば細切れにした後で燃やしてやればよかったよ」フンツ

雪風「時津風はしれえのことになるとやる事が派手になるね〜」ニガワライ

初風「愛のなせる業ね」カタイエミ

天津風（司令官も大変ね……）コマリエガオ

カランカランー

提督「ああ、時津風。ここに居たのか。探したんだぞ？」

時津風「司令♡ ……じゃなくて、何？」

初・雪・天『（今思いつきリデレた）』ニガワライ

提督「何って、休憩時間になったと同時に出て行くから……寂しい

じゃないか」ギューツ

時津風「あたしも寂しかった♡ ……じゃなくて！ そんなの司令が悪いんでしょ？」ツーン

初・雪・天『(デレデレだあ)』カタイエミ

提督「俺に何の問題があったんだ？ こんなに時津風を愛しているというのに……」ギューツ ナデナデ

時津風「時津風も司令のこと愛してる♡ じゃなくて♡！ 本当は心当たらないの!?!」ニヨニヨ

初・雪・天『(もう顔に出ちやってる)』ホホエマー

提督「悪いけど全く検討がつかない……」

時津風「むうくく!」

初風「提督さんがえつちな写真集を持ってたのが原因みたいよ？」
タスケブネ

提督「何?」

雪風「ダメですよ、しれえ！ 時津風が居るのによそ見しちゃ!」
メツ

提督「コンワク

天津風「机にしまって置いたんでしよう?」

提督「ああ！ あの写真集のことか!」

時津風「やつと気がついた……司令のバカ、浮気者」フンツ

提督「ん？ でもあの写真集もう無かったよな?」

時津風「当たり前だよ！ あんなの見つけた瞬間に燃やしたよ!」

提督「焼却処分したのか？ 流石にやり過ぎだろ」ニガワライ

時津風「やり過ぎじゃないよ！ そんなにあの写真集が大切な!?!」

時津風「やり過ぎじゃない!?!」

提督「何を言ってるんだ？ 俺は時津風以外の女体なんて男の裸を見ているのと同じ感覚だぞ?」

時津風「ならなんであんなの持ってるのさ!」

提督「あれは秋雲から取り上げた私物だ」

時津風「え」

初・雪・天『(おや？ 空気が変わった……?)』

提督「あいつが今度描く漫画の参考に俺の名前で買ったそうだ。鎮守府の風紀的にも問題だったから、俺が取り上げたが、どう処分するか悩んでたんだ」

時津風「」

提督「まあ、俺じゃどうしようも出来なかったし、焼却処分してしまつて良かったのかもしれない。ありがとう、時津風。流石俺の嫁だな」ナデナデ

時津風「え、えへへ♡ もう、司令が浮気したつて勘違いしちゃつたじゃん♡ 今度からちゃんと話してよね♡」アタマグリグリ

提督「そうだな……悪かった」ギューツ

時津風「あたしに隠し事しちゃ駄目なんだから♡」スリスリ

提督「ああ、次からはちゃんと相談するよ」ホツペチュツ

時津風「えへへ♡ 約束だよ♡」ホツペチュツ

提督「ああ」ホツペナデナデ

時津風「なら……約束のちゆうして♡ ん♡」クチビルサシダシ

提督「約束だ」チュツ

時津風「♡」チューツ

／ラブラブイチャイチャチュツチュツ＼

初風「やつぱりこうなつたわね」サトウダバー

天津風「知ってた」サトウダバー

雪風「仲直り出来て良かったね♪」ニコニコ

その後、夫婦は一緒におやつを食べ、周りに砂糖を振り撒いた。

後日、秋雲は腹いせに提督と時津風の薄い本を出したが、夫婦は全く気にする素振りも見せなかったというー。

時津風 完

浦風とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&浦風邸（鎮守府近辺）◇

浦風「さあて、洗濯も終わったし、そろそろ愛しの旦那さんを起こそうかのお」

浦風（やつと取れた休みじやけど、寝過ぎたら明日から辛いけえのお……ここは心を鬼にせんと）グツ

くいざ、提督の眠る寝室へく

浦風「旦那さくん、起きんさくい♪」↑小声

提督「Zzz

浦風（よお寝とる……寝顔ぶちかわええ♡）ニマニマ

提督「んんく……うら、かぜ……」ムニヤムニヤ

浦風「／／／／」キューーン

（ねつ、狙つとるんけえ!?!?!?! 反則じゃてっ!?!?!?!）ド
キドキ

浦風「すく……はあく……」↑取り敢えず深呼吸
のしつ↑浦風、提督に少し寄り掛かる

浦風「旦那さくん、もお一〇時過ぎたけえ、そろそろ起きくんさい

♡」ホツペチユツ

提督「んく……」パチツ

浦風「おはよう、旦那さん♡」ニコツ

提督「天使がいる……ここは天国か？」

浦風「起きてすぐにそんな冗談言えるなら大丈夫じゃねえ♪」ナゲ
ナゲ

提督「少しは乗ってくれても良いだろうに……」

浦風「うちは天使じやのおて、お嫁さんじやよく♡」ニコニコ

提督「……そうだな／／／」テレツ

浦風「もお、なくによお、照れてく♡」ホツペツンツン

提督「浦風が可愛いこと言うからだ／／／」

浦風「うちはいつだって旦那さんの前じゃあ可愛いけえね♡」ニへ

提督「……それもそうだな／＼／＼」ナデナデ

浦風「♡」スリスリ

くそして起きて遅めの朝食く

提督「久々の休みだからすげえ寝たなく」モグモグ

浦風「毎日頑張つとるけえね……今日はぼちぼちゆっくりしてお♪」ナデ

ナデ

提督「んじや、今日はゆつくり浦風とデートするかく」

浦風「ええねえ♪ デートく……ん？ でっ、デート!？」

提督「え、ダメ?」

浦風「いやいや、うちはええけど旦那さん疲れとるじやろう!？」

提督「浦風とデートして癒されたいなく」

浦風「ホンマにええの?」チラツチラツ

提督「休みの時くらいしか二人で出掛けるなんて出来ないだろ？」

仕事以外で夫婦の時間を過ごそうぜ?」

浦風「♡／／／」キュンキュン

ぽすっ↑浦風、提督に抱きつく

浦風「ホンマ旦那さんはぶちええ旦那さんじゃねえ♡ うちをこれ

以上惚れさせてどうするん?♡」カオグリグリ

提督「一生隣に居てくれればそれでいいさ♪」ナデナデ

浦風「はうあく♡／／／」↑嬉し恥ずかしい

提督（あくマジ天使……）ナデグリナデグリ

浦風（ホンマにスルこすい人じゃあ♡）デレデレ

くそして夫婦は仲良く街へ繰り出したく

◇繁華街◇

く取り敢えず街中を散策く

浦風「♡」ルンルン

提督「随分ご機嫌だな」

浦風「当たり前よ♡ 旦那さんと久々のデートじゃけえのお♡」

ヒシッ

提督「デートつってもただ歩いてるだけだけどなく」

浦風「それでもええんよお♡」ニコニコ

提督「浦風の笑顔が見れるなら何でもいいや」ナデナデ

浦風「んもお、旦那さんはたらしじやお♡」スリスリ

提督「人聞きの悪いことを言うな。俺は浦風にしかこんなこと言わないぞ?」

浦風「知つとるよ、そがあなこと♡」ニパッ

提督「……／／／」ナデナデ

(ぐうかわ……／／／) ドキドキ

浦風(照れとる旦那さんぶち可愛い♡) ニヨニヨ
ー。

提督「お、あそこにクレープの屋台あるな。買うか?」

浦風「ええねえ♪ うちチョコバナナ生クリームがええ♪」

提督「あいよ♪ んじゃ、ちよつくら買ってくるから、そのベンチで待つててくれ」

浦風「はくい♡」

浦風「ベンチに座る」

浦風「風が気持ちええねえ」ノビー

「カノジョ♪ こんな良い日に一人で寂しくない?」

浦風「?」クルッ

DQN男「良かったらオレとお茶でもどう?」

「見るからに遊んでそうな男が現れた」

浦風「ごめんねえ、うち連れいるけえ。他をあたった方がええよ?」

DQN男「うわ、君方言で喋るんだ♪ めっちゃ可愛いね!」

「男、浦風の隣に座る」

浦風「ウンザリ

DQN男「今日都合が悪いなら、今度遊ぼうよ♪ 電話番号教えるからさ♪」

「すみません」

浦風「♡」

DQN男「あ？ 誰あんた？」

提督「私は貴方の隣に座っている女性の夫です……妻が何か粗相でも？」 修羅の眼光

DQN男ビクツ「つ……べ、別に何でもねえよ！」 ケツ

く男は逃げるようにその場を去る

提督「つたく……近頃の若い奴は礼儀がなつてないなく」 ヤレヤレ

浦風「旦那さくん♡ ぶち格好えかったんじゃ♡」 ギューツ

提督「何もされてないか？」

浦風「大丈夫じゃ♡」 カオグリグリ

提督「次からはあんなことにならないように、常に一緒に居ような」

ナデナデ

浦風「うん♡」 デレデレ

提督「んじゃ、クレープ食べてまた散策するか♪」 ニカツ

浦風「そうじゃね……つてクレープはどうしたんじゃ？ 手に持つ

とらんが？」

提督「あ」

店員「お客さくん！ クレープ〜！」 ノシ

提督「浦風のこと頭が一杯で受け取るの忘れてた」 ニガワライ

浦風「もお、しゃあない人じゃのお♡ 一緒に受け取りに行こ♡」 ニ

コニコ

提督「面目無い……／＼／＼」

浦風「ええよ♡」

(ホンマにどこまでもしゃあない人じゃ♡)

浦風「旦那さん♡」

提督「ん？ どうした？」

浦風「助けてくれてありがとう♡ ぶち愛しとるよ♡」

ちゅっ♡

提督「!?!?!」

浦風「うふふ♡ 人前でキスするんはちいと恥ずかしいのお♡／＼

／＼」 テレリテレリ

提督「そっ、そうだな／＼／＼」 カァー

浦風 「♡／／／／」ニへへ

提督 「俺も浦風を愛してるよ」ミミモトボソツ

浦風 「旦那さん……うん♡ うちも♡」ギユーツ

その後、夫婦は人目もはばからず周りに砂糖を振り撒いたー。

浦風 完

磯風とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

磯風「司令！　しっかりしろ！　司令ーっ！」

提督「チーン

バターーン！」

浜風「磯風！」

磯風「浜風！　司令が……司令が！」

浜風「分かってます……谷風、浦風！」

谷風「はいよ！」

浦風「うちに任しときく！」

提督、医務室へ

ー。

浜風「提督の容態は何とか落ち着きました。今は浦風が付き添い、安静にしています」

磯風「そうか……」ホッ

浜風「さて……それでは磯風」

磯風「うむ……」セイザ

浜風「私達はあれ程一人で料理をするなど忠告していたはず……何故、その忠告を無視して事に及んだのか。お聞かせください」ゴゴゴゴゴ

谷風「正直にね」ゴゴゴゴゴ

磯風「愛する人に自分の手料理を食べてほしかったからだ……」

浜風「その度に提督は倒れているんです。料理をするなどは言っていないんですか？」

谷風「谷風達がいなかったら、間宮さんとか鳳翔さんとかいるじゃない」

磯風「磯風のみ力で手料理をー」

浜風「ですからそれが問題だと言ってるんです！」クワツ

谷風「磯風のみ力では無理なんだよ。残念だけど」

磯風「グヌヌ

浜風「……それで、今回はどんな物を？」

磯風「この鶏の唐揚げだ」つ皿

谷風「カーツ!？」キョウガク

浜風「これを提督が？」

磯風「ああ、大喜びで食べてくれた♡」デレエ

浜風「……これ、ほぼ生ですよ？」

磯風「おお！ それは知らなんだ！」オテテポンツ

谷風「いや、色で分かるうよ……」

磯風「前に作つたら黒くなり過ぎたからな。今回はサツと火に通す程度にしたんだが……」ウーン

浜風「サツとつてどれくらいですか？」

磯風「しゃぶしゃぶを参考にした」キリツ

谷風「アウト」

磯風「何故だ!? 火を通しておけば大抵は大丈夫のはずだろ!？」
ガーン

浜風「しゃぶしゃぶのお肉は薄く切られているからあれだけで大丈夫なんです。唐揚げの鶏肉は見ての通り塊です。ならばそれなりに火に通す必要があるんです」

磯風「なるほどな……」メモメモ

谷風「メモするのは大切だけど、そのメモ役に立ったことないよね？」

磯風「ちゃんと確認はしている」

浜風「そのメモ、見せてください」

磯風「いいぞ」つメモ帳

←磯風メモ

『鶏の唐揚げはしっかりと火に通してから油で揚げる』

浜風「アタマカカエ

谷風「ニガワライ

磯風「？」クビカシゲ

浜風「磯風、とにかく一人での料理は禁止です。次に破ったら謹慎処分にするよう提督に進言します」

磯風「なっ!? それはあんまり」

浜風「毎回自分の手料理で提督が倒れているのに？」ギロツ

磯風「……っ」クツ

谷風「お説教はこれくらいにしてあげるから、取り敢えず提督のお見舞いに行つてきなよ」

磯風「そつ、そうだな……行つてくる」

磯風、足早にその場を去る

浜風「はあ……磯風も磯風ですが、提督も提督です」アタマカカエ
谷風「何度同じ目に合つても磯風の料理食べるもんね」ニガワラ

イ

浜風「本当に、夫婦揃つて参りますよ」ハア

谷風「仲悪いよりはいいけどね」アハハ……

◇医務室◇

提督「」パチツ

浦風「目え覚めたようじゃねえ」ナデナデ

提督「……そうか……俺はまた倒れたのか……」ムクリ

浦風「そうじゃねえ」ニガワライ

提督「また磯風あいつに悲しい思いをさせちまったなく……うっ！」

浦風「もおく、無理し過ぎじゃあてえ」セナカサスサス

提督「だが、この前の季節のフルーツをふんだんに使つたすき焼き

(多分)よりは食えたぞ……」フフフ

浦風「……提督さんは夫の鑑じゃねえ」セナカサスサス

提督「ふふ、磯風を心から愛しているからな」マツサオ

浦風「」ニガワライ

◇医務室外・ドア前◇

磯風「司令は目覚めているようだな……早く謝らなくては……！」
ぐっ↑ドアを開けようと力を入れる

浦風『しかし、どうして毎回倒れると分かってて食べるんじゃ？』
磯風「ピタッ

浦風『ちゃんと断るのも優しさじゃと思うんじゃが……』
磯風「」

提督『あはは、馬鹿言うな。俺にそんなこと出来る訳ないだろ？』
浦風『何故じゃ？』

提督『あいつが料理を作つて来た時の顔はな……これまでにないくらい嬉しそうな顔してんだよ。めっちゃ可愛いんだあの顔』

磯風（司令♡／／／／）キュンキュン
浦風『しかしのう……』

提督『それにさ、あいつの料理をした後の指……いつも痛々しいんだよ。あれだけ傷作つてまで料理をしてくれた最愛の人の手料理を一口も食わずに突つ返すなんて、俺には出来ねえな』

浦風『ほんまにしゃあない夫婦じゃねえ』クスクス

提督『なんとでも言え。磯風への愛は不滅だからな』アハハ
ガチャラー

浦風「おおく、磯風く！ 浜風達のお説教は済んだんけ？」

磯風「あ、ああ／／／／」

提督「おう、磯風。すまないな、今回も倒れちまつて」ニガワライ
磯風「あ、謝る必要は、ない……／／／／」モジモジ

浦風「ふふ、んじゃあ、うちはそろそろ戻るけ。提督さんの事は磯風、頼むけえね」カタポンツ

磯風「う、うむ……／／／／」

く夫婦二人つきりにく

提督「どうした、そんなに離れてないでもっとこっちに来いよ」テ
マネキ

磯風「うむ……♡／／／／」
ぎゅつ♡↑提督、磯風を抱きしめる

提督「料理、ありがとうな。また作ったら食わせてくれ」ナデナデ

磯風「ああ……今度こそ、ちゃんとした手料理を愛する司令に食べさせるぞ♡」スリスリ

提督「楽しみにしてるよ」ホツペナデナデ

磯風「ああ♡」オメメトジル

ちゅっ♡

磯風（必ず美味しい物を作るからな♡）

その後、磯風の料理を食べて提督が倒れる事は格段に減ったとい
うー。

磯風 完

浜風とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇艦娘寮・第一七駆逐隊部屋◇

浦風「なんじやて？」

谷風「あはは……」ニガワライ

磯風「ふむ……」ウデクミ

浜風「セイザ

浦風「すまん。もう一度言うてくれん？」

浜風「提督が私と一度も○ツクスをしてくれません」キツパリ

浦風「アタマカカエ

谷風「ニガワライ

磯風「確認しておきたい事がある」ノ

浜風「何でしょう？」

磯風「その○ツクスとは性別の名詞ではなく、男女の夜の営みとしての意味で捉えていいのか？」

浦風「直球過ぎじやて／／／／」カァー

谷風「／／／」アタマポリポリ

浜風「はい。相違ありません」

磯風「一度もと言ったが、ケツコンしてからか？ それともケツコン前からか？」

浜風「ケツコン前からです」

浦風「提督さんは硬派な方じゃけえ、それだけ浜風を大切にしろるっちゆうことじやなきやろの？」

谷風「提督はいつも浜風を第一に考えてるからね」

磯風「浜風から誘ったりはしないのか？」

浜風「この前、ネコランジェリーを着て誘いましたが、『うむ。よく似合っていて実に愛らしい』としか言われませんでした／／／／」テレテレ

浦風「自分で説明して照れんなや」ニガワライ

谷風「てか、浜風も意外と積極的だね／＼／＼／＼」

磯風「そもそも、なんでそんなに司令と営みたいんだ？ 時が来ればいずれはそうなるだろうに……」

浜風「みんなも知つての通り私、浜風は提督を心から愛し、お慕いしています。ならば愛しい人ともっと深く繋がりたいと思うのは至極普通のことかと」

浦風（実は惚気吐きに来たんか!?)

谷風（当然の様に惚気るんだね〜）

磯風「ならばもう、いつその事押し倒すしかないのではないか？

『押して駄目なら倒してみる』これだ」

浦風（ツツコミ待ちか!?)

谷風（こつちも当然の様に……）

浜風「ふむ……その様な言葉もあるのですね。分かりました。早速試してみます」フンス

浦風（うちは知ら〜ん。何も聞いとらんけえね）ダラダラ

谷風（提督……頑張れ!）トオイメ

磯風「ああ、頑張れ。愛があれば必ず勝つる!」

浜風「ありがとうございます。みんなに相談して良かったわ。やはり持つべきものは戦友ね！ じゃあ、休憩時間も終わるから秘書艦任務に戻るわ。またね」ニコリ

浦風「じゃあの……」ノシ

谷風「ばいばい……」ノシ

磯風「ああ、またな」ノシ

パターンー

浦風「はてさて、どうなることかのお」

谷風「まあ悪い方はいかないっしょ」

磯風「司令がどう応えるか、見物だな」

◇執務室◇

コンコンー

提督「入れ」

ガチャー

浜風「休憩頂きました。これより任務に戻ります」ケイレイ

提督「む……まだ休んでいても良いのだぞ？ 今日の仕事はもう殆ど終わっているからな」

浜風「お心遣いありがとうございますですが、提督のお側にいたいので」

提督「そうか……それは嬉しく思うが、力み過ぎない様になる時は休んでくれ」ニコリ

浜風「は、はい♡／／／」ドキドキ

(不意打ちの笑顔はやはり凶器です♡／／／) キュンキュン

提督「胸を押さえているが、痛むのか？」

浜風「い、いえ、ちよつと苦しいだけです♡(キュンキュンし過ぎてる)」

提督「それはいかん！」ガタツ

浜風「て、提督!?!／／／」

提督「心の臓に異常があつては大変だ。早く明石に診てもらおう」ヒョイツ

く提督、浜風をお姫様だっこ

浜風「ま、ままま待つてください！ 病気ではありませんから!／／／」ドキドキ

提督「何かあつてからでは遅いのだ！ 私はお前を失う事など考えたくない！」

浜風「て、提督が好きだから胸が苦しいだけです!／／／ 病気ではありません!／／／」カオマツカ

提督「そ、そうか……そういつた苦しきか……」ホツ

浜風「／／／」カァー

提督「早とちりをしてすまなかつたな」スツ

浜風「っー」

ちゅっー

提督「!!!?」

浜風「ん!……っ……ちゅっ……んんっ……♡」

提督「サレルガママ

浜風「んはあ……提督♡」トローン

提督「い、いきなりどうしたと言うのだ!？」ドキドキ

浜風「提督が私を大切に想ってくれてるので、浜風もこうするこ
とで提督へ想いを伝えようかと♡」ニコリ

提督「浜風はたまに大胆になるから驚かされる」ドキドキ

浜風「提督はこういうことはしてくれませんかね♡ だから私か
らするんです♡」ギューツ

提督「どうすれば良いのか分からぬのだ。本当ならば男の私が、浜
風の手を引かなくてはならない立場だと言うのに、申し訳ない」

浜風「反省してますか？」

提督「うむ、心から反省している」

浜風「ならば今、この場で私を本当に提督の女にしてください♡」

提督「そ、それは……」タジタジ

浜風「ここまで言わせたんですから、提督が責任を取ってください
ね♡」ギューツ

提督「出来る限り優しくしよう」ギューツ

浜風「はい♡ 初めて同士、一歩ずつ歩んで行きましょう♡ 浜を

穏やかに吹ける風のように♡」ホッペチュツ

提督「そうだな。我々も次の一歩を踏み出そう」チュツ

浜風「んん♡ んん……っ……んあ♡ ていと、んんっ、くう♡

あふ……ん……ちゅっ♡」

ー。

◇執務室外・ドア前◇

提督『浜風！ 愛しているぞ！』ズンズン

浜風『はい♡ 私も提督を……ああっ♡』ビクンビクン

／シヨツキングピンクオーラ＼

浦風「どうしてこうなったんじや」アタマカカエ

谷風「かあっつ／／」プシユー

磯風「ふふ、無事に攻略出来たようで何よりだ」ウンウン

→心配で様子を見に来た

浦風「た、たちまちいぬろ（とりあえず帰ろ）／／／／」

谷風 「浦風動揺し過ぎて方言出まくってるよ／＼／＼」
磯風 「では間宮さんに今夜は赤飯でも炊いてもらいに行くとしよ
う」フフフ

その日の食堂の夕飯は赤飯で、夫婦は揃って顔を赤くしながら仲良
く寄り添って夕飯を平らげた。

浜風 完

谷風とケツコンしました。

某海域ー

く帰投中く

谷風「今回の作戦も無事に終わったねく♪」

磯風「楽な仕事だった」フツ

浜風「後は周囲を警戒しつつ帰投ですね」

浦風「最後まで気は抜かんで行くのが肝心じゃあねく」

雪風「早く帰ってしれえに褒めてもらいたいですく♪」

阿武隈「ふふ、雪風ちゃん今回のMVPだったもんね♪ きっと沢

山褒めてもらえるんじゃないかな」ニコニコ

浜風「良いんですか、谷風？」

谷風「へ？ 何が？」

磯風「司令が雪風を褒めて妬かないのかって言いたいんじゃないか？」フフ

谷風「ああ……別に。頑張った娘を褒めるってたけじゃん」

浦風「流石じゃあねく。正妻の余裕ってやつじゃ」ニヤニヤ

谷風「そ、そんなんじゃないやい！／／／／」カア

雪風「谷風真っ赤です♪」

阿武隈「あんまりからかったら、谷風ちゃんが可哀想でしょう」クスクス

谷風「もうくく！／／／／」カオマツカ

某鎮守府、帰投ー

◇執務室◇

阿武隈「ー以上報告終わります！」ケイレイ

提督「はい、皆さんお疲れ様でした。大きな被害も無く作戦を終えたこと、心から祝福します」ニコニコ

雪風「しくれくえっ！ 雪風が今回のMVPだったんですよくー！」
ピョンピョン

提督「ええ、分かってますよ。実に良い働きでした」ナデナデ
雪風「〜♪」ルンルン

提督「では皆さん、ドックへ向かってください。補給もお忘れなく。
ゆっくりと心と身体を癒やしてください」

六名『了解しました！』ケイレイ

／アーツカレター オフロオフロー ホキユウー＼

谷風「」チラッ

提督（お疲れ様）クチパク

谷風「♡」ピース

〜夜になったよ！〜

◇鎮守府内・提督&谷風邸◇

ガラガラー

提督「只今帰りました〜」

トテトテトテテー

谷風「おっ帰り♡」トビツキ

提督「おつと……いきなり飛びつくのは危ないですよ？」ナデナデ

谷風「いつもちゃんと受け止めるくせに♡」ヒツツキ

提督「これでも軍人の端くれですからね」ナデナデ

谷風「〜♡」スリスリ

◇茶の間◇

谷風「今日は先に風呂にするのか？ それともご飯？」ホールド

提督「今日はお風呂を先に頂きたいですね」ニコニコ

谷風「がってん！」

◇お風呂場◇

〜夫婦入浴中〜

谷風「〜♪」ゴシゴシ

提督「いつもありがとうございます〜」ニコニコ

谷風「あつたり前でしょう♪ それにこうやって背中流すの好きな

んだよ♪」ゴシゴシ

提督「幸せですね〜」ニコニコ

谷風「谷風も〜♪」ゴツシゴツシ

く湯船く

カポーンー

提督「はあく……生き返りますね〜」ハフー

谷風「お風呂は良いよねえ……お風呂はさあ……♪」ハフー

提督「今日もお疲れ様でしたね、谷風」ナデナデ

谷風「提督もお疲れえい」ナデナデ

提督「ありがとうございます」ニコニコ

谷風「へへ〜♪」

◇茶の間◇

く晩ご飯く

提督「いただきます」人

谷風「いったただきまあ〜す♪」人

提督「おお、また腕を上げましたね〜。昨日より美味しいですよ」ニ

ニコ

谷風「よっしゃあ！」キラキラ

提督「家事は任せつきりで申し訳ありませんね〜」ナデナデ

谷風「そんなの良いんだよ！ 谷風は提督のお、お嫁さんなんだか

らさ……／／／「テレビ

提督「ではそんな働き者なお嫁さんには間宮さんのアイスをご馳走

しましょうか」ニコニコ

谷風「こいつは粋な計らいだね！」キラキラ

提督「ニコニコ

く食後のまったりタイムく

谷風「提督く、あくん♡」つアイス

提督「ありがとうございます……あむ」

谷風「えへっ♡」パクッ

提督「そう言えば……」

谷風「うん？」ムグムグ

提督「今日は焼きませんでしたね、ヤキモチ」ニコニコ

谷風「な、何だよ、いきなり……あくん」つアイス

提督「あむ……いえいえ、今日みたいな日はよくヤキモチを焼いて

いたので」ニコニコ

谷風「ケツコンする前の話でしょう？　今はそんな必要ないでしょ

……提督は谷風のだってみんな分かっているからね♡」パクツ

提督「ふふ、それもそうですね」ニコニコ

谷風「それとも妬いて欲しかったとか？」ニヤツ

提督「そうですね……あれはあれで実に愛らしい谷風でしたから」

ニコニコ

谷風「かぁー／／／／」

（いつもの仕返ししようと思ったのにカウンターくらったー！／

／／／／

提督「ニコニコ

谷風「何で提督はそんな恥ずかしい台詞をスラスラ言えるの？」

提督「恥ずかしい台詞、ですか？」

谷風「うん……『愛らしい』とかさ……／／／／」

提督「本当の事ですからね」ニコニコ

谷風「いつも谷風ばかりドキドキさせられててなんか悔しいな

〜」

提督「それは心外ですね」

グイッー

谷風「かあっ……何でいきなり抱きしめるの？／／／／」

提督「聞こえますか？」ギユツ

谷風「え？」

ドックンドックンー

谷風「あ……」

提督「いつもなんですよ？」

谷風「え？」

提督「谷風と一緒にいるといつも僕の鼓動が早まるんです」

谷風「提督……」

提督「谷風の声を聞くと、谷風と目を合わせると、谷風と触れ合う

と……谷風と過ごす一瞬一瞬がとても幸せで、ドキドキさせられてま

す」ギユツ

谷風「提督も谷風と同じなんだね／＼／＼」
提督「はい」ニコニコ

谷風「えへっ♡ 提督、愛してるよ♡」ギョツ

提督「僕も愛しています、心から」ギョツ

チュッー

自然と口付けを交わした二人は、幸せそうに微笑むのだったー。

谷風 完

野分とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇食堂◇

提督「隣いいかな？」

野分「は、はい、どうぞ」

提督「今日の日替わりは豚カツとメンチだったけど、野分のそれはメンチ？」

野分「はい……」

提督「そつかそつか♪ 俺もメンチにしたんだ♪ 同じ物を選ぶって夫婦らしくて嬉しいよね♪」

野分「そ、そうですね……」

くそして会話終了く

舞風「喧嘩でもしてるのかな？」

萩風「でも険悪な感じはしてないよ？」

嵐「でも今までのわっちにベツタリだった司令が、ここんところ、のわっちにあれだけだなんておかしくね？」

く取り敢えず野分に訊いてみることにく

◇艦娘宿舎◇

舞風「え!? 提督のことを引つ叩いたく!?」

萩風「あんなに仲良しだったのに、どうして!？」

嵐「気持ちは分かるけど、二人共落ち着けよ」ドオドオ

野分「……それは、司令が二人きりになるといつもすぐに、その……え……え／＼／＼」

舞風「あ、うん。察したから先をどうぞ」

野分「そ、それでね……司令は私が好きなのか、私の身体が好きなのか頭がこんがらがって……」

萩風「まあ、不安定にはなるよね……」ウンウン

野分「そ、それで先日、またいつも通りする流れになりそうだったので……」

嵐「殴った、と……?」

野分「な、殴ってない! 叩いちやったの!」

嵐「殴ったと一緒だろ」ニガワライ

舞風「気持ちは分かるけどさく。叩いちやダメでしょく」

萩風「まずは話し合わなきゃ」

嵐「殴られて司令はなんだって?」

野分『お前の気持ちを考えてなかった。これからは気を付ける』と
……」

舞風「ちゃんと反省したなら、なんであんなにギクシヤクしてるの
?」

萩風「野分はまだ怒ってるの?」

野分「許してるわ」

嵐「じゃあ、なんだってあんな空気になんだよ?」

野分「あれ以来、司令は野分に対して距離を置いているの……」

舞・嵐『距離?』

萩風「どんな風に?」

野分「前みたいに隙あらばベタベタしてくることが無くなって、一切触れてくれなくなったの。寝る時はこれまで同様一緒の布団で寝てるけど、本当にただ寝るだけ。変わらず笑顔で話し掛けてくれるけど、ただの軽い会話だけ……」

舞風「ちゃんと反省して理解してくれたってことじゃないの?」

萩風「司令が野分のことを本当に大切にしているのは伝わるもん」

嵐「のわつちが気にし過ぎてるだけじゃね?」

野分「でも! 頭も撫でてくれないし、ほっぺにキスすらしてくれないのよ! 極端過ぎない!」

野分「もしかしてもう他の艦娘に……」ガクブル

嵐「いやいや、ネガティブ過ぎだろ! てか、司令はそんな人じゃねえって!」

舞風「のわつちからしてって言えばしてくれるよ」ニガワライ

萩風「コクコク」

野分「そう、なのかな……?」

嵐「だ〜！ うじうじするなら、いつその事今から訊きに行けよ！」
舞風「賛成！ 二人がギクシヤクしてるところこつちまで調子狂うもん！」

萩風「行こう、野分！」

野分「分かった……！」

◇執務室・外のドア前◇

／ワイワイガヤガヤ／

嵐「？ 先客がいるな」

野分「多分、雪風と時津風ね。この時間はいつも司令に構ってもらいに來てるから」

舞風「あの二人も提督のこと好きだもんね〜」

萩風「お父さんとかお兄さんの感じなんだろうね〜」

◇執務室内◇

雪風「しれえ、なんで野分ちゃんとケンカしてるんですか〜？」

時津風「中にはリコンするかもつて噂まで流れてるよ〜？」

提督「喧嘩ではないが……マジかそれ？」

雪風「はい！ だから早くいつものお二人に戻ってくださいよ〜！」

◇執務室外◇

野分「ガンメンソウハク

嵐「おい、ただの噂なんだから気にすんなよ！」

萩風「司令が野分とリコンするとか絶対無いから！」

舞風「てか、そんな噂を消す為にも早く提督と話をしようよ！」

◇執務室内◇

時津風「その噂のせいで、金剛さんや榛名さんが司令を狙ってるって話もあるよ！」

雪風「他のLOVE勢の方々も動くみたいです！」

提督「マジかよ……確かに最近、よく引っ付かれるとは思ったが、そんな理由だったのかよ……」

◇執務室外◇

嵐「こりや、なんか雲行きが怪しくなってきたな……」

萩風「早く誤解を解かなきゃ！」

舞風「のわてー」

野分「……メ」ボソツ

嵐・萩・舞『え?』

野分「そんなのダメ！」バツ

バーン!

◇執務室内◇

提督「野分?」

野分「ダメです、そんなの! 司令が触れていいのは野分だけです

! 司令は野分の旦那様です! なのに他の方とだなんて……絶対
にダメです!」

提督「の、野分……」

野分「司令、こつちへ」グイッ

提督「え、お、おい!」ズルズル

く野分、提督を連れて何処かへ移動く

雪・時・嵐・萩・舞『(。彡)』ポカーン

◇提督&野分部屋・寝室◇

提督「おわっ」

く提督、畳の上へ押し倒させれるく

提督「野分……?」

野分「司令……」

ドン!↑逆床ドン

野分「叩いたりしてすみませんでした。もう怒ってませんから……
どうか……どうか、野分を沢山触ってください!」ポロポロ

提督「野分……」

野分「野分は自分が嫌になりました。司令には慎むようにと言った
のに、いざそうなる自分がかうも欲深くなるだなんて……」ポロポ
ロ

提督「そんなこと言うな。俺の自慢の嫁さんだからさ」ニコリ

野分「ありがとうございます、司令……大好きです。もう司令に触れてもらえないのは嫌です……野分に触れてください……」ギョツ

提督「不安にさせてごめんな」ナデナデ

野分「司令く……」ギョーツ

提督「野分を自分勝手に振り回してたから、今度は大切にしようとして、こんなことになってしまった……ごめん」ナデナデ

野分「ちゃんと仲直りしましょう」ナキワライ

提督「ああ、仲直りしよう」ニコリ

チョッー

野分「司令……大好きです♡」スリスリ

提督「俺もだよ」ギョツ

野分「特別に今してもいいですよ?♡」

提督「え、いや、それは夜でいいよ。仕事も残ってるし……」

野分「司令がしたくないなら野分がしてあげますね♡」

提督「え」

野分「司令♡ 司令♡ 司令♡」オメメハート

◇部屋の外◇

提督『ちよ、野分! 待て! / / / / /』

野分『司令はいつも待っていてくれませんでしたから、お返しです♡』

それにここはもうやる気満々みたいですよ♡』

／ズンズンユサユサ＼

雪・時・嵐・萩・舞『／／／／／』オウフ↑心配で追い掛けてき

た

その後二人が仕事をサボって情事に勤しんでいたという情報が流れ、二人は周りからとても生温かい目で見られたとか……。

野分「司令♡」ギョーツ

提督「野分♪」ナデナデ

しかし二人はそんなことを気にする素振りは全くなかったー。

野分 完

嵐とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇第四駆逐隊の部屋◇

トントントントントー

嵐「パチッ

トントントントントー

嵐（司令が居ない……）キョロキョロ

ジユワ〜

嵐（朝飯作ってるのか……）ムクリ

カチャー

嵐「はよく……」クシクシ

野分「あらおはよう。今、朝食作ってるから朝の支度してきなさい」

嵐「あれ？ なんてのわつちが俺らの部屋に？」

野分「……司令は一昨日から大本営へ出張中よ。寝ぼけてないで

シヤキッとして」

嵐「あ、ああそうだったな〜」

（司令……）ズキッ

◇洗面所◇

萩風「あ、おはよう嵐」シヤコシヤコ↑歯磨き中

舞風「おはおは〜」シヤコシヤコ

嵐「おはよー……」ジャブジャブ↑洗顔中

舞風「く〜ぺっ……提督が居ない三日目の朝はどう？」

萩風「ま、舞風っ」アセアセ

嵐「寂しい……」ポロポロ

舞風「え、ちよつと……」アセアセ

萩風「嵐……」ヨシヨシ

嵐「司令に会いたいよお〜」ウワーン

舞風「ガチ泣き……ど、どうしょ」オロオロ

野分「……何を騒いでいるの？」

舞風「あ、のわっち！ お助けを！」

萩風「野分、嵐が……」ヨシヨシ

嵐「司令……し”れ”え”く！」ビエーン

野分「アタマカカエ

く嵐落ち着き中く

野分「少しは落ち着いた？」ヨシヨシ

嵐「グス……」コクリ

萩風「あと数日間の辛抱だから、ね？」ヨシヨシ

嵐「うん……」グスグス

舞風「三日目でこれじゃ、この先心配だなあ」ハア

◇リビング◇

野分「いただきます」人

萩・舞『いただきます！』人

嵐「いただきます……」人

野・萩・舞『』

く朝食タイムく

舞風「あ、今日の目玉焼き美味しい♪」パクパク

萩風「コンソメスープも美味しい♪」ゴクツ

野分「ありがとう。嵐はどう？」

嵐「うん……美味しいよ……」モソモソ

野・萩・舞『』

◇キッチン◇

く後片付けく

舞風「ねえ、あのあらっしーなんかならない？」カチャカチャ

萩風「司令が出張に出てからずっと様子がおかしいもんね」フキフ

キ

野分「確かに困ったわね……司令が出張の間、出撃任務が無いのが

救いだわ」キュツキュツ

嵐「ボケー

舞風「三日目で泣き出したんだから、この後もつと酷くなるんじゃない？」

萩風「例えば？」

舞風「夜中に提督を探して鎮守府内を徘徊するとか……」

野分「有り得そうで怖いわね……」

嵐（司令……）ウルウル

舞風「ちよ、また泣き出しそうなんだけど!？」

萩風「嵐く」アセアセ

野分「気を強く持つのよ！」アセアセ

嵐「ううく」グシグシ

く四日目、夜く

◇寝室◇

嵐「司令……司令……」ウルウル

くグスグス エグエグく

舞風（ね、寝れない……）

野分（重症ね……）

萩風（貰い泣きしそう……）

く五日目、夕方く

◇鎮守府門前◇

嵐「」

へオイ イツマデソコニイルンダ？

シレイガカエツテクルマデ！く

舞風「今朝からずっと門に張り付いてるよ？」

萩風「飼い主の帰りを待つワンちゃん状態……」

野分「みんなも心配してるわね……」

く六日目、昼く

◇第四駆逐隊の部屋◇

嵐「司令、俺を置いてどこに行ってたんだよく！」

『ごめんごめん。これからは寂しい思いさせないからな』ギュー

「えへへく、司令く♡」キヤツキヤツ

くシレー！ アラシー！く

野分「チーン

舞風「とうとうぬいぐるみで会話し出しちゃったよお」ブルブル

萩風「理由が理由だから怖いっ」ガクガク
コンコンー

野分「はっ……はいつ」

ガチャラー

提督「ただいま……嵐を迎えにkー」

嵐「司令く！」ガバツ

提督「おわっ……危ないだろ……」ナデナデ

嵐「つるせ〜！俺を放つたらかしにした罰だ！今日は離さない
からな♡」ギュー

野分「司令、お帰りなさいませ。早かったですね」

提督「うん。なんか嵐が泣いてる夢を見て、急いで終わらせて来た
んだよ」

萩風「流石は司令ですね」オオ

舞風（予知夢!?!）

嵐「司令！俺が居るのに他の奴と話してんじやねえよ！今は俺
を構え〜♡」ギュー

提督「そ、そうだな……じゃあ、三人共出張中、嵐の面倒を見てく
れてありがとう。失礼するよ」

パターンー

◇ドアの向こう◇

嵐「司令、ちゅー♡ ちゅーした〜い♡」

提督「ここは廊下だぞ！」

嵐「やだ〜♡ 今〜♡ 今が良い〜♡」

提督「部屋に帰ったらいくらでもしてやるから！」

嵐「部屋まで待てない♡ ちゅーしながら部屋に行く〜♡」

提督「暴れるな！」

嵐「なら俺からする〜♡」チユツ

提督「んんっ！」

嵐「ん〜っ……ちゅっ、ちゅ……んはあ、んっ……ちゅちゅっ……」

提督「んん〜っ！」

／イチャイチャラブラブチュツチュツ

◇室内◇

野分「どつと疲れたわ……お昼ただけど、今日はもう間宮さんの所にも行かない？」

萩風「う、うん。行こっか／＼／＼」ドキドキ

舞風「ブラックコーヒーと激辛トムヤンクン頼もう……」

この日、食堂ではブラックコーヒーと激辛料理がいつもの数倍頼む数があったらしい。

嵐 完

萩風とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇鎮守府内・中庭◇

く第四駆逐隊、日向ぼっこ中く

野分「今日は平和ね」ホツコリ

嵐「だなく」マツタリ

舞風「ダンスもいいけど、こんな日もありだねく」ノビノビー

＼ザワザワザワザワ／

野分「本館が騒がしい……何かあったのかしら？」

嵐「行ってみようぜ！」

舞風「何もないといいけど……」

◇鎮守府本館内◇

萩風「司令、しっかりしてください！ 司令！」

提督「チーン

明石「萩風さん、落ち着いて」

明石「皆さん、ここは私達に任せてくださーい！ これより提督を

医務室へ運びます！ 道を開けてくださーい！」

妖精A「どいたどいたく！」

妖精B「患者さんのお通りだく！」

く提督、医務室へ移送く

萩風「司令……」

野分「萩風」

嵐「おいおい！ 司令が運ばれてったぞ!!」

舞風「ハギー（萩風）、何があつたの!？」

野分「待つて二人共。一先ず場所を変えましょう。ここでは落ち着

いて話せないから」

萩風「じゃあ、執務室で話すね。今なら誰もいないし、秘書艦の私
は残ってなきやいけないから」

野分「分かった。二人もそれでいい？」
嵐・舞『コクコク』

◇執務室◇

萩風、野分達に説明中

野分「なるほど……いきなりその場で倒れたのね……」

嵐「でもおかしくね？ 萩は自他共に認める健康オタクだぜ？ 司令の健康管理は完璧のはずじゃ……？」

舞風「何か心当たりないの、ハギー？」

萩風「……」ウーン

野分「取り敢えず診断結果を待ちましょう。それで分かるはず」

嵐「……待つてるのもあれだし、みんなで医務室行った方が早くね？」

舞風「そだね♪ 明石さんに診断結果聞きに行こう！」

萩風「そう……だね。うん！ そうしよう！」フンス

～みんなで医務室へ～

◇医務室◇

カチャー

野分「失礼します」

嵐「ちわ～」

萩風「失礼します」

舞風「お邪魔します」

明石「あら、いらっしやい。提督のお見舞い？」

野分「はい。それと倒れてしまった原因を聞きに」

萩風「明石さん！ 司令は、司令はどこが悪いんですか!？」

嵐「おい、気持ちは分かるけど静かにしろよ。ここは医務室だぞ？」

舞風「ハギー……」ナデナデ

萩風「ごめん……ありがとう」

明石「結果はもう出てるわ。原因は寝不足による鉄欠乏性貧血よ。

今はぐっすり寝てるわ」

野分「寝不足？」

嵐「萩、司令はちゃんと寝てなかったのか？」

萩風「ううん。寧ろ最近の前より早くから寝てたよ」

舞風「それなのに寝不足……？」ウーン

明石「ねえ、萩風ちゃん。提督と寝る時は一緒の布団で寝てる？」

萩風「え!?! / / / /」ボンツ

野分（寝てるのね、萩風……）

嵐（そりゃ、夫婦だしなく）ニヤニヤ

舞風（ラブラブ夫婦だもんね）ニヨニヨ

明石「別に変な意味で聞いているんじゃないのよ？　ちよつとした確認なの」

萩風「は、はい / / / /　えっと……一緒のお布団で、寝ています……」

/ / / /」ゴニヨゴニヨ

明石「そう……これは仮定の話なんだけどー」

「その話は私からしよう」

　　奥のベッドから提督登場

明石「もう起きてても大丈夫なんですか？」

提督「まだ少し眠いが、これは私から話さねばいけないからな」

野分「では、野分達は席を外します。行きましよう、嵐、舞風」

嵐「あいよ」

舞風「は〜い」

明石「私も外しますね。外で待機してますから、何かあったら呼んでください」ペコリ

提督「すまんな」

　　夫婦二人きりの医務室

提督「萩風……」

萩風「は、はい……」

提督「まず最初に心配をかけたことを謝らせてくれ。すまなかった」ペコ

萩風「い、いえ！　大丈夫です！」

提督「ありがとう。次に寝不足の理由を話そう」

萩風「はい」

提督「その理由は……」

萩風「その理由は……!」ドキドキ

◇医務室外・ドア前◇

嵐「くっそく……何話してるか聞こえねえ」グヌヌ

舞風「のわっち、コップ持ってたらしない?」

野分「そんなの持ち歩かないでしょ、普通。と言うより盗み聞きは止めなさい」

嵐「だって気になるんだもんよ」

舞風「そうだそうどく!」

野分「はあ……明石さんからも何とか言てー」

明石「え?」↑手にコップ+ドアあて

→絶賛盗み聞き中

嵐「明石さんズルいぜ! 俺にもコップ貸してよ!」

舞風「あたしにもく!」

明石「どうぞく♪」つつコップ

野分「どこから出したんですか!」

嵐「んな細けえこたあいいだろ?」

舞風「それより早く聞こうよ!」

野分「アタマカカエ

◇医務室内◇

提督「実はな……」

萩風「実は?」

提督「……んだ」ゴニョゴニョ

萩風「え?」

提督「だから、隣で眠る萩風の可愛らしい寝顔に見惚れて寝るのを忘れていたんだ!」

萩風「ええく!? / / /」ボンツ

◇医務室外◇

嵐「やべく、砂糖吐きそう……」
舞風「辛い物が欲しいかも……」
明石「」パールパールパール
野分「」ソワソワ↑気になってる

◇医務室内◇

萩風「そんな理由だったんですか」ポカポカ

提督「すまぬ……すまぬ……」イタイ

萩風「うう／＼／＼ 嬉しいですけど、しっかり寝てください
よう／＼／＼」テレリテレリ

提督「ああ、以後気を付ける。すまなかった」フカブカ

萩風「許しません！／＼／＼」プイッ

提督「」フカブカ

萩風「／＼／＼」チラッ

提督「」フカブカ

萩風「……分かりました、許します」ハア

提督「ありがとう、萩風！」

萩風「と言うか、寝るのを忘れるほど私の顔が好きなんですか？
／＼／＼」テレッ

提督「勿論。しかし外見だけではなく、中身も可愛らしくて大好き
だ」キツパリ

萩風「／＼／＼」デヘヘエ

萩風「何かをひらめく」

萩風「なら、今度から起きてる私を存分に見てください／＼／
それなら寝不足になりませんよね？♡」

提督「しかし、それでは萩風が迷惑だろう？」

萩風「私は司令と見つめ合うの大好きです♡」ニコッ

提督「／＼／＼」ドキューン

提督「本当に、いいのか？／＼／＼」

萩風「はい♡ ずっと私、萩風を見ていてください♡」

提督「ああ、見るとも」ギョッ

萩風「司令♡」オメメハート

◇医務室外◇

嵐「おろろく」サトウダバー

舞風「ドゴォ！↑床パン

明石「パリーン↑コップが粉々

野分「／／／／↑結局聞いて硬直

◇医務室内◇

萩風「司令、もつと♡ もつと見てください♡」オメメハート

提督「なんて可愛いんだ、萩風……」ギョッ

こうして提督の寝不足は解消したが、仕事の速度が低下したのは言うまでもない。

萩風 完

舞風とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇艦娘宿舎の一室◇

野分「え？ 司令が？」

嵐「構ってくれない？」

萩風「いつも仲良しなのに？」

舞風「仲はいいよ？ でも、なんかこの前から距離を置かれてるよ
うな……そんな気がして……」

野分「杞憂だと思うけど？」

嵐「のわっちの言う通りだ。気にすんなよ」

萩風「そうだよ、司令は舞風と一緒にの時は凄く優しい顔してるも
ん」

舞風「でもあれ以来、提督からあたしに触れてくれること無くなっ
たんだもん」シュン

野分「『あれ以来』？」

嵐「あれって何のことだ？」

萩風「良かったら聞かせてくれない？」

舞風「え……うん、まあ……あれだよあれ……夫婦の営みってやつ
……
／／／／カァー

野・嵐・萩『え』

舞風「この前ね、初めて提督と……しっ、しちやったの♡／／／／
ウツムキ

野分「へ、へえ、良かったじゃない／／／／」

嵐「やることヤツてんなら大丈夫なんじゃねえの？」

萩風「嵐、もう少しオブラートに包んでよ／／／／」

舞風「でもあれ以来してなんだく……」シヨボーン

野分「ふむ……どうしてかしら？」ウーン

嵐「司令も男だしやる気が無い訳じゃなさそうだよな」ウデクミ
萩風「無理には訊かないけど、初めての時に何かあったの？」

舞風「あゝ、あたし泣いちゃった……」ニガワライ

野・嵐・萩『ええ!?!』

舞風「だ、だつてすつごく痛かったんだもん……提督のー」

野分「分かった、その先は言わないで」

嵐「……まあでも、相手が泣いちゃったら、結構考えるよなく。その泣いちゃったのが原因じゃね?」

萩風「司令は舞風のことをとても大切にしているから、自分が泣かせたことに責任を感じてるんじゃないかな?」

舞風「やっぱりそうなのかな。あれ以来、毎回……いつもそう。あたしから撫でてって言わないと撫でてくれないし、キスだってあたしからしよって言わないとしてくれない……」

野分「うーん……舞風は初めて司令と交わった時に泣いてしまったけど、嫌だったわけじゃないのよね?」

舞風「うん……さつきも言ったけど、最初は痛かった。でも後半は痛みより、提督ともっと深い関係になれた嬉しさでいっぱいだったよ?」

嵐「ならそれを司令に伝えれば解決するんじゃないやね?」

舞風「そう……なのかな?」

萩風「多分、舞風を泣かせたことが足枷になっちゃってるんだと思う。だから舞風からちゃんと違うんだよって教えてあげれば何とかなるんじゃないかな?」

舞風「萩……」

野分「貴女達なら大丈夫よ。あれだけ仲がいいんだから」ニコツ

嵐「そうだぜ。ちゃんと言葉にすれば解決するさ♪」

萩風「そうそう。夫婦だからこそ、そういうことはちゃんと言葉で伝えないと」ニコニコ

舞風「うん……分かった! プロポーズの時は提督から言ってくれたんだもん! 今回はあたしから言わなきゃ!」フンス

野分「その意気よ、舞風」

嵐「頑張れよ♪」

萩風「雪風姉さんじゃないけど『絶対、大丈夫!』ね♪」

舞風「みんな……うん！　あたし、提督に伝えてくる！」ダッ
　　舞風、走って提督の元へく
野分「何とかなかったわね」ニガワライ
嵐「ただの贅沢な悩みってだけだったな」ヤレヤレ
萩風「ふふ、また更に仲良しになるね」ニコニコ

◇執務室◇

コンコンコンコンー

提督「はい、どうぞ」ニガワライ

ガチャー

舞風「ただいま、提督！♡」

提督「ああ、おかえり。もう話は終わったのか？」

舞風「うん！♡　後は提督に伝えるだけ！♡」

提督「俺に？」

舞風「うん♡」ニパツ

提督「何かな？」

舞風「あのねー」

舞風、ここでふと思うく

舞風（あれ、今あたしが言おうとしてることって初めての感想っぽ
い……？）

舞風「く／＼／＼」カオマツカ

提督「ど、どうした？　顔が真っ赤だぞ？」

舞風「あ、うん、大丈夫！　ちよ、ちよつと待って！／＼／＼」

舞風（みんなが後押ししてくれたんだもん……大丈夫。それに
……）

舞風「」チラッ

提督「」ハラハラ

舞風（大好きな提督とのこれからも為だもん！）

舞風「すうく……はあく……よし！」

提督「」キンチョー

舞風「あのね……初めて提督とした時のことなんだけど……」

提督「ドキッ

舞風「泣いちやつてごめんね……痛くつてつい……」

提督「……舞風が謝ることじゃない。あれは俺の責任だ」

舞風（やっぱり責任感じさせちやつてたんだ……）

「でもね……」

提督「？」

舞風「あたし、幸せだったの。本当の意味で提督のお嫁さんになれた気がして♡」

提督「舞風……」

舞風「あたし、提督ともっと深い関係になりたい♡ だって提督のこと大好きなんだもん♡ もっともっと側に居たいもん♡」ギューッ

提督「女の子から言わせるようじゃ、俺もまだまだだ……ごめん、舞風。そしてありがとう。俺も舞風が大好きだ……だから俺も舞風ともっと深い関係になりたい」ギューッ

舞風「えへへ♡ 嬉しいよお♡」スリスリ

提督「舞風……」ホッペナデナデ

舞風「提督……ん♡」クチビルサシダシ

ちゅっ♡

舞風「へへへ、提督とちゅうしちやつた♡」ニヨニヨ

（しかも提督の方から来てくれた！♡ やつた！♡）ゲヘヘ

提督「しちやつたな」ナデナデ

舞風「今夜は一緒に踊ってくれる（意味深）？♡」エヘッ

提督「舞風は大胆だな……」テレッ

舞風「だって提督となら、あたしは何だって大丈夫だもん♡ 提督があたしの全てだもん♡」ホッペチュッ

提督「／／／」カー

舞風「えへへ♡」ニパッ

提督（この笑顔をこれからも守っていこう）

舞風 完

秋雲とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇執務室◇

加賀「ドドンツ

瑞鶴「ドドンツ

愛宕「ドーンツ

榛名「ドドーンツ

大和「ドバーンツ

秋雲「ハ、□、；、三、；、□、（）「ナンゾ!?

加賀「秋雲さん……これは何かしら？」つ薄い本

秋雲「。。。。（ハ）「ズガーン

瑞鶴「この本……私と加賀さんがあられもないことになってるんだけど？」ゴゴゴゴゴ

愛宕「私はこれ」つ薄い本

秋雲「（〜）〜；）」

愛宕「別に描くなどは言わないわ。でもなんで触手が相手なの？」

ニコニコ

榛名「榛名はこれを」つ薄い本

大和「大和も」つ薄い本

秋雲「Σ（O―O；）」

榛名「榛名は何故こんなにも沢山の方と？」プルプル

大和「大和はこんなにはしたなくありません」ギロツ

秋雲「えっと……それはその……」オロオロ

全員『ゴゴゴゴゴ

秋雲「ご、ごめんなさい！」ドゲザ

提督「俺からも注意しとくからさ……みんな今回はこれくらいで……な？」

加賀「……今回は提督に免じて許します。しかし次はありませんよ？」ギロツ

瑞鶴「次こんなの描いたら分かってるわね？」ギロツ
愛・榛・大『ね?』ギロツ

秋雲「は、ははははいいいいっ!」フカブカ
「何とか事なきを得た秋雲」

秋雲「ふあゝゝ、怖かったよゝゝゝ」ギューツ

提督「ならあんな物描かなきや良かったんだよ」ナデナデ

秋雲「だってゝ」スリスリ

提督「イラスト描くのが好きなのは分かるけど、描いて良い物と悪い物くらい分かるだろ?」アタマポンポン

秋雲「むゝ」カオグリグリ

提督「人の趣味にとやかく言いたくないけどさ。周りに迷惑掛けないようにしような」ナデナデ

秋雲「はゝいゝ」ギューツ

提督「ま、次から気をつけるんだな」アハハ

秋雲「うんゝゝゝ」シヨボーン

提督「ほらほら、元気出せよ」メモトチュツ

秋雲「んあゝゝゝもう♡」キウンキウン

提督「秋雲は笑ってる方が断然可愛いぞ?」ナデナデ

秋雲「はいはい、あんがと♡」ニパツ

提督「うん♪ 可愛い可愛い♪」ナデコナデコ

秋雲「えへへゝ♡」ニコニコ

「元気になったので仕事開始」

提督「カリカリ

秋雲「カキカキ

」。

提督「ハンコポンポン

秋雲「カキカキ

」。

提督「ペラペラ

秋雲「ヌリヌリ

」。

提督「ふうく……午前中はこんなもんかな」ノビー

秋雲「お疲れく、秋雲の飲み掛けだけど、カフェオレ飲む？」つか
フェオレ

提督「おう、サンキュ」ゴクツ

秋雲（間接キス……♡／／／／）へへッ

提督「？ どうした？」

秋雲「んくんく、何でもない♡」ニへへ

提督「なあ秋雲」

秋雲「ん、どつたの？」クビカシゲ

提督「「オイデオイデ

秋雲「んく？」

トコトコ

秋雲「何、提督」

提督「「チュツ

秋雲「んんっ……ん……っ……ちゅっ……んく♡」ギユツ

提督「ぶはあ……うん、やっぱり間接キスより直接した方がいいな」

ニカッ

秋雲「く♡／／／／」キュンキュン

秋雲「き、キスするならそう言つてよ……びっくりするじゃんか／

／／／／」テレツ

提督「そんなこと言いながら秋雲だって、ちゃんと俺に抱きついて、

自分からも舌を入れてきたじゃないか♪」ホツペナデナデ

秋雲「うくるくさくい／／／／」ムギユーツ

提督「秋雲は可愛いな♪」ナデコナデコ

秋雲「んく／／／／」テレテレツ

提督「さて、昼飯にするか！」

秋雲「おう／／／／」

昼

◇鎮守府内・廊下◇

秋雲「ねえねえ、たまには中庭で食べない？」

提督「今日は暖かいからそれもいいな」

秋雲「んじや、決まり♪」

提督「間宮さんに弁当作ってもらおう」

秋雲「そうしよ♪」ウデダキツキ

◇鎮守府内・中庭◇

提督「このベンチが良さそうだな」

秋雲「異議なくし♪」

ー。

提督「頂きます」人

秋雲「いただきやくす」人

く夫婦仲良くランチく

提督「そういや、また持ってきたんだな。それ」モグモグ

秋雲「んぐ？」クビカシゲ

提督「それ……えっと、スケブだっけ？」

秋雲「あゝスケブね。当たり前じゃん♪」

提督「さつきもずつと何か描いてたけど、何描いてたんだ？」

秋雲「んく？ 見る？」つスケブ

提督「え、見ていいのか？」

秋雲「人に見せなきや上達しないもん」

提督「なら……」ウケトリ

ペラッー

提督「」

秋雲「へへく、どうどう？ ♡」

く提督の仕事風景画く

提督「上手く描けてるなく／＼／＼」

秋雲「でしよでしよ？ ♡ 自信作だよ♡」ニへへ

提督「てかこれ、格好良く描き過ぎじゃないか？ 俺こんな風に仕

事してないぞ？／＼／＼」

秋雲「そこはほらく、夫補正つてやつ♡」キシシ

提督「つたく……可愛いこと言うな／＼／＼」ナデナデ

秋雲「く♡」ニマニマ

提督「……」ウーン

秋雲「？ どったの、急に考え込んで？」

提督「次薄い本を描くなら俺を題材に描けよ」

秋雲「へ？」

提督「それなら誰も文句無いだろ？ 俺は気にしないからさ」

秋雲「やだよ！ 提督が秋雲以外とあんなことしてるの描きたくな

い！」ヒシッ

提督「しかしな〜……」

秋雲「ピコーン

提督「？」

秋雲「いいこと思い付いた！ 次は提督描く！」

提督「お、お〜……頑張れ」

秋雲「うん♡」

数日後ー

提督「／／／」カオオサエ

秋雲「♡」ニへへ

加賀「流石に気分が甘くなります／／／」

瑞鶴「うわっ、うわっ／／／」

愛宕「あら〜／／／」

榛名「はわわわ〜／／／」

大和「まあ……これはこれは……／／／」

『提督と秋雲の開戦 R-18』

オータムクラウド 作

提督（どうしてこうなった！／／／）

秋雲（いくら同人誌でも、提督の隣は譲れないね♡）ニシシ

この作品は鎮守府で人気を博したが、余りにもリアル+甘過ぎの
為、発売中止となった。

秋雲 完

夕雲とケツコンしました。

某鎮守府、昼前ー

◇執務室◇

提督「カリカリカリカリ↑仕事モード

夕雲「サラサラサラサラ↑秘書モード

提督「ほい」つサイン済み書類

夕雲「はい」つサイン必要書類

長波「あたしらの手伝いにならないんじゃないかね？」ニガワライ

卷雲「阿吽の呼吸ですね」オオー

夕雲「卷雲さん、この資料のファイリングお願いします」

卷雲「は〜い♪」

提督「長波、資料の資料取って」

長波「は、はいよ〜」

昼ー

◇食堂◇

夕雲「はい、あなた。あ〜ん♪」つおかず

提督「あ〜ん……うん、美味しい」ムグムグ

夕雲「嬉しいです♡ はい、もう一口♪」つおかず

提督「あ〜ん……」パクツ

夕雲「ニコニコ

提督「んじや、お返しね」つおかず

夕雲「はむ……う〜ん、もう少し薄味の方がいいかしら？」モグモ

グ

提督「気にしなくていいんじゃないの？」

夕雲「ダメですよ〜。塩分の摂り過ぎはお身体に毒なんですから」

メツ

提督「そっか〜」

夕雲「あなたには長生きしてもらわないと、私が嫌なんです」ムウ

提督「うん……了解」ニコツ

夕雲「はい♡」

風雲「相も変わらず仲良し夫婦ね〜」ニガワライ

高波「でも幸せそうでこっちも幸せかも……です」ニコニコ

清霜「甘い光景だねえ♪」ニマニマ

昼下がりにー

◇攻略海域◇

提督「夕雲、被害報告を！」↑仕事モード

夕雲「はい！ 被害はー」↑旗艦モード

朝霜「あれが昼間いちやいちやしてた夫婦に見えねえな……」シミ

シミ

早霜「二人共真面目さんだからね……」フッフ

提督「朝霜！ 艦隊はこのまま進軍する！ 気を抜くなよ！」

朝霜「お、おう！」

夕雲「早霜さん、雷撃準備を！」

早霜「了解……」フッフ

帰投後、夕方にー

◇執務室◇

提督「ふむ……これがこうで……」

コンコンー

提督「はーい」

カチャーー

夕雲「入渠と補給終わりました♪」

提督「お帰り。身体の方は？」

夕雲「はい、バツチリ」ニコツ

提督「そうか……」ナデナデ

夕雲「んん♡」

提督「あと少し、頑張ろうな」ニコツ

夕雲「はい♡」

〜夫婦仕事中〜

提督「夕雲、そろそろ巻雲達が呼びに来る頃だ。後はこっちでやっ
とくから」

夕雲「はい、分かりました。時間が掛かりそうなら連絡くださいね」
提督「ああ、分かってるよ」

夕雲「お料理作って待ってますね」チュツ

提督「楽しみにしてるよ」チュツ

◇執務室外ドア前◇

／ユウグモ アナタ チュツチュツ＼

卷雲「流石にこの空気を壊すのはいけないと思うんです。はい」

朝霜「毎度毎度よくやるぜ／／／」パタパタ

清霜「大人ってスゴイ／／／」ドキドキ

夜――

◇提督&夕雲の部屋◇

ガチャ――

提督「ただいま」

夕雲「お帰りなさい」セイザタイキ

提督「いつもそんな大袈裟な出迎えしなくても良いのに……足辛いでしょ？」ニガワライ

夕雲「大袈裟なんかじゃありません……それに、ちゃんとあなたが帰ってくるのを見計らってやっていますから」ニコニコ

提督「そっか……ただいま」チュツ

夕雲「んっ♡」チュツ

夕雲「荷物お持ちしますね♪」

提督「ありがとう」

く晩ご飯タイムく

提督「今日は豪勢だね」

夕雲「明日はあなたの昇進式ですから」ニコニコ

提督「あれ、知ってたの？」

夕雲「私を何だと思ってるんですか？ あなたの嫁さんの夕雲ですよ？」フフン

提督「夕雲には敵わないく」ニガワライ

夕雲「でも、なんで隠してたんですか？」

提督「いやあ、なんか言うタイミング無くて」ニガワライ

夕雲「ふふふ、あなたらしい」クスクス
提督「そんなに笑うなよ」

夕雲「ごめんなさ〜い」クスクス
提督「あはは」

翌日の正午ー

◇大本営埠頭・昇進式特設会場◇

夕雲（少将ともなると昇進式って凄いのね〜。まさか鎮守府に所属する全員出席するだなんて思わなかったわ〜）

女役員①「失礼、△◇鎮守府の夕雲さんですよね？」

夕雲「はい……」

女役員②「次の式典が始まりますので、こちらへ」

夕雲「は、はい」コンワク

（昇進式だけじゃなかったの？）

〜数十分後〜

◇控室◇

女役員①「あとはこちらでお待ちください。時間が来たらお知らせに上がります」

女役員②「とてもお似合いですよ。では失礼します」

夕雲「」

◇会場◇

元帥「ーこれにて、昇進式を閉じる。そしてこれより少将とその伴侶艦、夕雲のケツコン式を行う！ 全員、整列！」

ザザッー

元帥「新婦、入場！ そして全員、暁の水平線へ祝砲！ 放てー！」

ドーン！ ドーン！ ドドーン！ ドーン！

ガチャー

〜マーメイドライン純白ドレス着用・夕雲〜

パチパチパチパチパチパチー

風雲「アメリカンスリーブタイプかあ」パワー

長波「似合ってるな♪」ニシシ

高波「とつてもおめでたいかも〜！」パチパチ

卷雲「綺麗です〜」カンドウ

朝霜「くっ……お”め”と”う”」グスグス

早霜「朝霜姉さんは感動屋さんね……分かるけど」パチパチ

清霜「おめでとう〜♪」ピヨンピヨン

〜夕雲、提督の隣へ〜

夕雲「もう、やり過ぎですよ♡／／／／」プンプン

提督「よく似合ってるよ」ニコツ

夕雲「当たり前です♡／／／／」ニへ

提督「改めてこれからもよろしく頼むよ」

夕雲「はい♡」ニコツ

チュッー

夕雲（これからもずっと面倒みてあげますね、あ・な・た♡）

その後、提督が企画したサプライズのケツコン式は大きな話題となり、他の鎮守府の提督からも自分達もこれを知りたいと問い合わせの電話が絶えなかったとか。

夕雲 完

卷雲とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇執務室◇

提督「カキカキ

提督、仕事中」

卷雲「ジーツ

」卷雲、待機中」

提督「……卷雲」

卷雲「はい！」ガタツ

提督「いや、座ってて」

卷雲「はい……」ストーン

提督「あのさ……少し言い辛いんだけど……」

卷雲「？」クビカシゲ

提督「落ち着かないからそんなにこつちを見ないでくれないかな

？」ニガワライ

卷雲「(？・□——!!)ガーン

提督「ごめん、言い方が悪かった。好きな人にその、なんだ……見
つめられてると恥ずかしいから……」／／／／カァー

卷雲「(♡ω♡*)「キュンキュン

テコテコ↑卷雲、提督の側へ

提督「？」

卷雲「司令官さま♡」ギューツ

提督「ちよ、卷雲……！／／／／」

コンコンー

提督「は、はい！ どうぞ！」

ガチャーー

夕雲「失礼しま……あら、お邪魔しちゃいました？」クスツ

提督「い、いやいや！ 大丈夫！／／／／」

卷雲「♡」ホールド

夕雲「そうですか」クスクス

提督「んんっ……で、何か用事かな？／＼／＼」

夕雲「はい。巻雲さんに」

巻雲「巻雲に何の用ですか？」

夕雲「時計を見ても分からないかしら？」ニッコリ

巻雲「？」チラッ

時計へ一時半過ぎだぜ！

巻雲「??」クビカシゲ

夕雲「ヤレヤレ

提督「巻雲、訓練の時間じゃないのか？」

巻雲「（。 ㇿ。）ハッ！

夕雲「みんなには先にウォーミングアップするようにお願いしてきましたから、早く向かいましょう」ニッコリ

提督「頑張つてね、巻雲」ナデナデ

巻雲「はい♡ 司令官さまの為に巻雲、頑張ります♡」

提督「夕雲達も怪我のないようにな」

夕雲「はい♪」

くそして巻雲と夕雲は訓練へく

提督「さて、巻雲が居ないうちに仕事を進めなきやな」

◇野外訓練場◇

夕雲「巻雲さん連れてきました」

巻雲「遅れてすみません！」フカブカ

長良「あく、やつと来た」

木曾「こつちはもうアツプは終わったから、二人もアツプしてそれが終わったら参加しろ」

夕・巻『はい！』

く巻雲、夕雲とウォーミングアップ開始く

夕雲「巻雲さん」タッタッタツ

巻雲「何ですか？」パタパタ

夕雲「提督と仲睦まじいのは良いですが、ちゃんとやるべきことは

「忘れないでくださいね？」

卷雲「あはは、ごめんなさい」ニガワライ

夕雲「提督はこの鎮守府で一番卷雲さんに信頼と愛情を寄せているんですからね。その証拠に卷雲さんは唯一の嫁艦なんですから」クドクド

卷雲「は、はい……」アウ

夕雲「他の皆さんに示しがつかないと、卷雲さんだけでなく提督の評価にも影響するんですからね？」

卷雲「はい……」アウアウ

夕雲「せっかく提督と幸せな生活を送っているんですから、幸せだからこそしっかりとその幸せを守る努力をしなくてはいけませんよ？」

卷雲「(´・`・´)ハウ

夕雲「提督は卷雲さんとケツコンしてから更に戦果をあげています。それは卷雲さんの為に更なる努力をしているからなんですよ？」

卷雲「司令官さま……」

卷雲「なら卷雲もちゃんと愛する司令官さまの為に頑張ります！」
フンスフンス

夕雲「はい、その意気です」ニコニコ

「そして卷雲はいつも以上に訓練に励んだ」

夕方――

長良「――じゃあ、今日の訓練はこれで終わり！」

木曾「各自柔軟して解散だ」

全員『ありがとうございます！』

「みんなでストレッチ」

風雲「卷雲姉、今日は遅刻したけど凄い頑張ってたわね」グイー

夕雲「ん……ふふ、そう、ね」ノビー

風雲「夕雲姉さんが何か言ったの？」グツ

夕雲「ちよつとだけお説教してあげただけ、よ」ン

風雲「あはは、そっか」

秋雲「卷雲く、後で漫画の――」

卷雲「嫌です」グイグイ

秋雲「あだだだ！ 分かったからもう少し優しく！」

卷雲「何言ってるの！ 柔軟はこれくらいやらなきゃ！」グツグツ
秋雲「にぎやー！」

木曾「つたく…訓練後だつてのに元気だな」ニガワライ

長良「そこが鎮守府のいい所だからね」ノビー

木曾「ま、確かにな」フフ

「卷雲〜！」

卷雲「司令官さま♡」トビツキ

提督「うわっ」ウケトメ

卷雲「迎えに来てくれて嬉しいです♡」ホールド

提督「ちよ、卷雲！ みんな見てるから！／／／」アセアセ

／ダイジョウブデスヨ！ オレガダイジョバナイ！＼

木曾「あれも鎮守府のいい所だよな」フツ

長良「私なんてあれを見ないと今は落ち着かないかなあ」アハハ

秋雲「あく、撈るわ」カキカキ↑スケツチ中

風雲「いつの間持ってきたのよ」ニガワライ

夕雲「あらあらまあ」ニコニコ

卷雲「司令官さま♡」

提督「ん、どうした？／／／」

卷雲「卷雲、これからもつとつと司令官さまの為に頑張ります

♡ なので卷雲から目を離さないでくださいませ♡」

提督「あ、ああ、勿論だよ／／／」ナデナデ

卷雲「えへへ♡」

グイツ↑卷雲、提督顔を固定

卷雲「♡」チュツ

提督「!?／／／」

木曾「な／／／」

長良「わあ／／／」

秋雲「いいねえ」サラサラ

風雲「卷雲姉ったら」ヤレヤレ

夕雲「幸せな光景ね」ニコニコ

卷雲「ん」♡ ちゅっ♡ んん♡ んはあ……えへへ、司令官さま

♡ だあいすきです♡「ヒシッ

提督「お、俺もだよ／＼／＼」カオマツカ

そして夫婦は更なる戦果をあげていくのであったー。

卷雲 完

風雲とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇艦娘宿舍◇

コンコンー

夕雲「は〜い」

カラカラーー

風雲「お邪魔します……」

夕雲「あら、いらっしやい風雲さん」ニコツ

卷雲「いらっしやいませですよ〜」ノシ

風雲「ちよつと夕雲姉さんに相談が……」

夕雲「ん？ 何かしら？」

卷雲「卷雲も聞いてあげますよ♪ お姉さんですからね！」ドヤア

風雲「ありがとう。えつとねー」

〜風雲説明中〜

夕雲「ふんふん……なるほどねえ〜」

卷雲「司令官さまへのお料理ですか……」フムフム

風雲「この前提督が昇進したでしょ？ そのお祝いに何か作りたい

のよ」

夕雲「提督はああ見えてお料理上手なのよね〜。何が良いかしら

〜」

卷雲「因みに司令官さまの好物は何ですか？」

風雲「……カレー」

夕雲「カレーか〜……」

卷雲「カレーですか……」

風雲「ね、迷うでしょ？ カレーなら私だって作れるけど、いつものとはちよつと違う感じにしたいのよ！ だからお願い！ 姉さん達の知恵を貸して〜！」人

夕雲「う〜ん……変に凝ったことをする必要はないんじゃないかしら」

風雲「え？」

卷雲「卷雲もそう思います」

風雲「卷雲姉まで……」

夕雲「確かに提督が昇進したお祝いに、何か美味しい物を御馳走するのは良い考えだと思うわ」

風雲「じゃあ……」

卷雲「でも、わざわざそんなに考えることはないと思うのです」

風雲「ええ〜……」コンワク

夕雲「風雲さんのお料理のままの味を提督に食べてもらうのが一番だと思うわ」

卷雲「はい。変化を付けることは大切ですが、普遍も大切なのです」

風雲「？」クビカシゲ

夕雲「簡単に言うのと、いつもの風雲さんのお料理と風雲さんの『昇進おめでとう』の言葉があれば、提督はそれだけで満足してくれるってことよ」ニコツ

卷雲「ですです〜♪ 司令官さまは風雲のことが大好きですし、変に気を遣われるのは苦手なお方ですからね♪」

風雲「私より提督のこと分かっててなんかズルいな……」

夕雲「それは私達の方が早くに着任したから仕方ないわ」クスクス

卷雲「でも卷雲達が知らないことを風雲は沢山知ってますよ〜♪

何せ夫婦なんですから」ニコニコ

風雲「そりやあまあ、そうだけど／＼／＼」テレリ

夕雲「ならいつも通り、愛情たっぷりのお料理でお祝いしてあげてね」ニコツ

卷雲「きつと風雲からしてもらうことなら司令官さまは何でも嬉しいと思いますよ♪」

風雲「そつか……そうだよね！ よし！ 私、いつも通りに愛情一杯のカレー作るよ！」

夕雲「頑張ってるね」ニコニコ

卷雲「応援してます」ニパツ

風雲「うん！ ありがとう♪」ニツコリ

そしてその日の夜――

◇提督&風雲部屋◇

ガチャラー

提督「帰ったぞ〜」

風雲「あ、お帰りなさい！ もう少しで夕飯出来るから、手洗いとうがいして待っていて〜！」

提督「おう、分かったよ〜」

(この香りはカレー……しかも風雲特製カレーだな)

〜夫婦揃っての夕飯〜

提督「おお〜！ シーフードカレーじゃねえか！」キラキラ

風雲「そうよ〜♪ 頑張って作ったんだから♪」ニコニコ

提督「いやあ、これはうまそうだ！ 早く食べようぜ！」ワクワク

風雲「はいはい♪ いただきます！」人

提督「いったただつきま〜す！」ガツガツ

風雲「ニコニコ

提督「うん！ うまい！ これはおかわり不可避だ！」ガツガツ

風雲「うふふ、あたり前でしょ♪」

提督「本当、料理が上手くなつたな〜。前は料理するたんびに指を切つてたとは思えねえよ」ケラケラ

風雲「ま、前のことは良いでしょっ／／／／」

提督「あはは、恥ずかしがるこたあねえだろ。あれがあつて今があるんだからよ」つおかわり

風雲「それでも恥ずかしいの！ も〜／／／／」ハイ

提督「しっかし本当にありがとうな」

風雲「いきなりどうしたの？」

提督「これ、俺の昇進祝いだろ？」

風雲「そ、そうだけど……なんで分かったの!?!」

提督「ケツコンして初めてのお前の料理はこのシーフードカレーだったからな。これ、特別な日にしか作らねえレシピだろ？」

風雲（なんでこんなにバレてるの〜!）

提督「好きな女のことだからな。ついっつうか、なんっつうか……分
かんだわ」ハニカミ

風雲「／／／／」キュン

提督「ありがとうな、風雲。俺、これからも頑張るからよ……支え
てくれるか？」

風雲「私を支えなきや誰が支えるってのよ！」

提督「赤城とか大和かな？」

風雲「そこで違う人の名前を出すな！」

提督「あはは、悪い悪い」

風雲「もく」プクウ

提督「俺、風雲とケツコンして良かったわ、マジで」

風雲「そんなこと言っただって……」

提督「マジで愛してる。これからも、いつまでも」

風雲「♡」ズキューーン

風雲「ねえ……」

提督「あん？」

風雲「私もずっと、提督を愛してるわよ／／／／」カア

提督「ははは、柄にもねえこと言ってるなよ！ 顔真っ赤だぜ！」ケ

ラケラ

風雲「むう／／／／」フンツ

提督「飯はうまいし、嫁さんは可愛いしで、マジで最高だなく♪」ア

ハハ

風雲「そくですか／／／／」プイツ

提督「ああ、そうだと」ニコニコ

風雲（そんな笑顔されたら、許すしかないじゃない……ばか♡）

提督「風雲く、おかわり〜！」

風雲「はいはい♡」ニコニコ

風雲（これがずっと変わりませんように♡）

風雲 完

長波とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

朝霜（本日秘書艦）「くあく、司令く。もう昼だぞく？」ノビー

提督「そうだな。この書類で終わるから朝霜は食堂にd――」

コンコン――

朝霜「あいよく」

カチャー――

長波「おーっす！ 長波サマだよー！」ニコツ

朝霜「おくおく。今日も通い妻のご登場か」ニヤニヤ

長波「はあ？ 通い妻じゃないだろ？」

朝霜「いやいや、通い妻だから」アキレ

長波「一緒の部屋に住んでるから通う必要ないけど？」

朝霜「ああハイハイ。お熱いこつて」ヤレヤレ

長波「？」クビカシゲ

朝霜「とりあえず、あたいは食堂行くから、司令のこと頼んだぞく」

ノシ

長波「はいよく♪」

長波「提督、提督の嫁さんの長波が来てやったぞ！ 昼飯にしよう

ぜ♡」

提督「ありがとう。この書類がもう少しで終わるから、ちよつと待ってて」ナデナデ

長波「じゃあ、あたしは向こうのテーブルに昼飯用意しとくな♡」

提督「頼むよ」ニツコリ

く昼食タイムく

提督「おお、オムライスかく♪」

長波「へへ♪ 頑張って作ったんだぞ？」

提督「ありがとう」ナデナデ

長波「へへ♡」

提督「いただきます♪」人

長波「いただきます♪」人

提督「長波、ケチャップ頂戴♪」

長波「ならあたしがかけてやるよ♡」

提督「お願いするよ」ニッコリ

♪LOVE(ケチャップ)♪

長波「はいよ♡」

提督「あはは、俺も長波LOVEだぞ！」

長波「知ってるよ!♡」ニヘー

提督「知ってても言いたくなるんだよ！」

長波「♡」ニヘヘ

提督「お、これただのオムライスじゃないな」ムグムグ

長波「へへ♪ その卵の中にはチーズが入れてあるんだ。ただの

ふわとろオムライスと違って美味しいだろ？」ニシシ

提督「うん！ これは美味しい！」パクパク

長波「へへ♡ つたり前だろ♪」ニコニコ

♪食休み♪

提督「満足満足♪」ケプツ

長波「そんだけ喜んでもらえたんなら、作った甲斐があったよ」

(しゃー!)グッ

提督「長波も料理が上手くなったよな」

長波「そうか？」

提督「そうだよ。毎日幸せだ」ニッコリ

長波「ドキッ

提督「どうかしたか？」

長波「あ、あたしも毎日幸せだよ?♡」ウワメヅカイ

提督「キュン

(可愛い可愛い可愛い可愛い!)

長波(言っちゃった♡)テレリ

提督「長波……」

長波「ん〜？♡」

提督「ちよつとこつちに」テマネキ

長波「なになにく〜？」テテテ

提督「ギユツ

長波「うわ♡いきなり何だよ♡」ギュー

提督「長波が可愛いから」ナデナデ

長波「提督の前だけだつての♡」スリスリ

提督「なあ、良いか？」ホツペナデナデ

長波「聞く必要無いだろ？ん♡」クチビルサシダシ

提督「長波……」チュツ

長波「ん……ちゅつ……あ、ちゅちゅつ、んむう……ちゅつ」

提督「……はあ。長波」ギユツ

長波「もつと……もつと強く抱きしめてくれよ♡」

提督「こうか？」ギュー

長波「んあ♡そ、そうそう、これこれ♡」トローン

提督「長波の鼓動がはつきり分かるよ」

長波「提督だつてドキドキいってるぜ？」

提督「好きな女と抱きしめ合つてればこうなるさ」

長波「へへ♡」スリスリ

提督「さて、そろそろ仕事再開するか」

長波「分かった♡夕方になったら迎えに行くからな♡」ホツペ

チュツ

提督「それまで頑張るよ」ホツペチュツ

◇執務室ドア前◇

／ラブラブイチャイチャ＼

朝霜（早く終わんねえかな〜／／／／）ドキドキ

夕方〜

◇廊下◇

〜夫婦部屋へ帰る途中〜

長波 「今日もお疲れ様、提督♡」 チュツ
提督 「ありがとう♪」 チュツ

／イチャイチャラブラブ＼

金剛 「今日も相変わらずネー」 ニガワライ

島風 「お姫様だっこ〜！」 キラキラ

雪風 「仲良しですね〜！」 オメメシイタケ

榛名 「お熱いですね♪」

摩耶 「もう見慣れちゃったよ」 アキレ

妙高 「お付き合っていた頃から仕事終わりは、ああして長波を抱きかかえていましたからね」 ニガワライ

◇提督&長波の部屋◇

〜仲良く入浴中〜

提督 「はあく、熱い風呂は気持ちが良いなあ」 クハー

長波 「だなく」 チャプ

提督 「長波は向かい合って座るのが好きだなく」

長波 「だって、こつち向きだと大好きな提督の顔が近いから嬉しいんだよ♡」

提督 「可愛いこと言うんだな」 ナデナデ

長波 「前から言ってるだろ♡」 へへ

提督 「そうだな」 ナデナデ

長波 「〜♡」

〜湯上がり夫婦〜

長波 「提督、今日もお願い〜い♪」

提督 「お〜、任せろ〜！」

〜髪乾かし中〜

提督 「ブオーン

長波 「〜♪」

提督 「長波の髪は触ってて気持ちいいな」 ブオーン

長波 「ちゃんと手入れしてるからな♪」

提督「こんなに長いと大変そうだな」ワシヤワシヤ

長波「もう慣れたよ。それに提督は長い髪の方が好きだろ？」

提督「どうして？」ワシヤワシヤ

長波「だって、よくあたしの髪ホメてくれるじゃん？」

提督「ああ、長波の髪だから褒めるんだよ。長くても短くても、長波だから好きなんだ」ワシヤワシヤ

長波「そ、そっか♡」

(やべえ、キユンときた〜！♡) キューーーン

その後も夫婦は仲良く過ごし、気がついたら朝を迎えていたのであった。

長波 完

巻波とケツコンしました。

某鎮守府、昼下り――

◇執務室◇

ガチャ

巻波「書類大淀さんここに持ってつたよ、提督。んで、その帰りに高波からおやつ貰ったからさ、休憩がてら一緒に食べない？」

提督「ああ、なら休憩するか」

巻波「いいお返事！ ならお茶淹れてくるから、ソファで待ってて！」

くそれからく

巻波「んっ、おいひい！」

提督「高波はまた腕を上げたな」

く高波特製バタークッキーを堪能中く

巻波「そりやあんだだけ長波姉にくつついて色々習ってれば上達するわよ」

提督「そういや、お前が着任したばっかの頃は高波と良く長波争奪戦やってたよな」

巻波「え、意味わかんない。そんなことしてないし」

提督「それマジで言ってる？」

巻波「マジですけど何か？ 藤波風に言えば『モチ』ですが？」

提督「へえく」

巻波「だって巻波、提督に一目惚れして、長波姉に提督の好みを色々聞いてただけだし。その頃はまだ他の姉妹に提督が好きなことバレたくなかったからちよつとアレだっただけし」

提督「お、おう……」

巻波「んく、何なにく？ 一目惚れって言われて照れてんのく？

提督「って案外初心だよねく♪」

提督「……そりやあ、俺も一目惚れだったから、そんなこと言われたら照れるだろ……」

巻波「ほえ？」

ポク

ポク

チーン

ボンツ！

巻波「ちよ、ま、え？ え？ それマジ？ 初耳子ちゃんなんですけど？」

提督「たった今伝えたからなあ」

巻波「サラツと言い過ぎじゃない!？」

提督「俺も巻波が一目惚れしてくれてたなんて知らなかったしなあ」

巻波「い、一々そういうこと言わないじゃん？」

提督「だよな。だから俺も言わなかった」

巻波「……………／／／／」

提督「……………」

くなんとも言えない空気が流れるく

巻波「あのく……………何か言ってくれませんか？」

提督「好きだよ？」

巻波「え、あ、うん、私も好きよ……………えへへ♡」

提督「……………」

巻波「……………／／／／」

く二人してニヤニヤしながら沈黙するく

巻波「だ、だからく、何なのよ、この空気はく！」

提督「俺は巻波の息遣いの音とかだけでも嬉しいんだが？」

巻波「うっさい！ うっせうっせ！ 恥ずかしいことばっか言うのダメだから！」

提督「……………」

巻波「……………うるさい」

提督「何も言っていない」

巻波「私の心臓がうるさいの……………」

提督「……………可愛い」

卷波「うがぁー！ もう好き！ 好きだよ……とつてもとつても大好き！」

提督「俺も好きだよ」ニコツ

卷波「くくくっ♡」

ガバツ

く卷波、提督の膝上に向かい合うようにして座るく

提督「どうした？」

卷波「悔しい」

提督「？」

卷波「だってさあ、私ばっか恥ずかしい思いさせられてるんだもん」
提督「そんなことないと思うんだけど……」

卷波「あるし！ 提督がニコツてただけで私顔熱いもん！」

提督「そんなこと言われてもなあ」

卷波「ほらその顔！ その仕方ないなああって顔！ キュンキュンする！」

提督「お、おう……」

卷波「むう……どんな表情でも仕草でもキュンキュンするう……」

提督「……」

卷波「巻波の全部提督のモノじゃん……こんなにこんなに夢中にさせてさ」

提督「俺は嬉しいけど？」

卷波「むう……むうむう！ こんな……こんな……」

提督「なんだよ？」

ぽすっ

く卷波、提督の胸板に顔を押し当ててるく

卷波「好きになる一方じゃんか！♡」

テシテシ！

く卷波、提督の胸板を軽く叩いて謎の抗議く

提督「俺も毎日巻波のことが好きになってるよ」

卷波「う、うう嬉しいけどお、今はそんなこと訊いてないく！」

提督「好きなのに……」

卷波「分かった！ 分かったから！ 私も好き！ それで提督も私が好き！ うん、オツケー！ もうこの話終わり！」

提督「あ、ああ」

「また二人の間に沈黙が流れる」

卷波「……………ねえ」

提督「ん？」

卷波「ぎゅってする力を弱めていいとは言っていないんだけど？」

提督「ああ、ごめん」ギユツ

卷波「んんっ…………へへ…………♡」ニヤニヤ

提督「もう少しこのままでもいいんだけど、いいか？」

卷波「え、仕方ないなあ♡ 私も同じ気持ちだから許してあげる

♡」スリスリ

◇執務室外・ドア前◇

高波「二人共ラブラブかも…………♪」

長波「ラブラブ超えてね、アレ」

高波「言っちゃダメだよ、長波姉様。みんなそんなこと知ってるもん」

長波「あ、しまった。あまりにもゲロあまだから思わずツッコんじまった」

高波「ツッコんだら負け、かも！」

長波「だなく。ま、報告書はもう少しあとにするか」

高波「高波もクツキーの感想を訊くのあとにする」

長波「私たちは執務室のドアに『ゲロあま注意』と言う張り紙を貼ってその場をあとにした。」

しかし結局、戻って来ても夫婦はくつついたままだったので、長波様が突撃することになったそう――。

卷波 完

高波とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇本館・廊下◇

高波「えつと、頼まれた書類は大淀さんにちゃんと渡せたし、執務室に戻ったらまた違うお仕事のお手伝いしなきゃ、かも！」フンスフンス

「お、いいところに居たな♪」
「本当だ♪」

高波「かも？」クルリ

風雲「やつほく、奥様♪」

長波「よ、高波婦人♪」

高波「あつ、風雲姉様、長波姉様！ こんにちは、ですー！」ペコリ

風雲「今日も元気ね♪」ナデナデ

高波「はい♪」

長波「というか、奥様とか婦人って言われても慌てなくなったな〜」

高波「ケツコンしてから毎日言われれば慣れる、かもです」ニガワ

ライ

風雲「ふふ、それもそうよね」クスクス

長波「からかい甲斐がないなあ〜」チエツ

高波「もう〜…姉様つたら〜」ニガワライ

長波「悪い悪い♪ それより高波はこれから執務室に戻るとここか？」

高波「はい！ 戻って司令官のお手伝いをするんですー！」

風雲「あなたは本当に健気でいい子ね〜」ナデナデ

高波「あ、ありがとうございます♪」エへへ

長波「頑張るのはいいが、ちゃんと休めよな？ これ、差し入れだ。

これでも食べながら休憩しろ」つ包

高波「わあ、ありがとうございます♪」ニパッ

風雲「さつき私と長波で焼いたチョコチップクッキーよ♪」

高波「え、風雲姉様も作ったんですか？」

風雲「そうだけど？」

高波「指は切つてないですか？ 火傷とかも大丈夫ですか？」ニギ
ニギ

高波「高波、風雲の手を確認」

風雲「だ、大丈夫よ！」

長波「あはは！ 高波にまで心配されてちや世話ないな！」ケラケ
ラ

風雲「う、うるさいうるさい！ とにかく、私は平気！ クツキー
もちやんと焼けた！ ちゃんとそれ食べて休憩しなさいよね！／／

高波「分かりました！ ありがとうございます！」ニパア

長波「おう♪ 提督によろしくな♪」ノシ

高波「はい♪ では失礼します、かも！」ペコリ

高波は足取り軽く執務室へ

風雲「ふふ、あんなに喜んでもらえて嬉しいわ♪」

長波「後は夫婦水入らずで甘い時間だな」ニシシ

◇執務室◇

コンコンー

提督「はい」

高波「高波です！ 只今戻りました、かも！」

提督「どうぞ」

ガチャー

高波「ただいま、かもです♡」ニヘー

提督「おかえり。書類の提出ありがとうな」ナデナデ

高波「そんな、あれくらいどうってことない、かも♡」ニヨニヨ

提督「そうか、頼もしいな」ナデコナデコ

高波「えへ♡」デレデレ

提督「それじゃ、高波は少し休んでいいよ。俺はこの書類を片付
けるから」

高波「あつ、なら高波もお手伝いします！」

提督「今帰ってきたばかりだろ？　少しは休まなきゃ」

高波「でもおく……あつ」

高波「クツキーの包に気が付く」

高波「あ、あの……司令官！」

提督「ん？」

高波「これ、書類を提出した帰りに風雲姉様と長波姉様から頂きました！　チョコチップクツキーかもです！」

提督「へへ、良かったじゃないか♪　それでも食べながらゆっくり休憩するといい♪」ナデナデ

高波「あう……え、えとえと……これは司令官と食べてって言われて貰った……かも／＼／＼」モジモジ

提督「ふむ」

高波「だ、たがら……あのおく……司令官も休憩して、一緒に食べませんか？　♡／／／／」

高波「上目遣い＋潤んだ瞳＋モジモジした仕草」

提督「何だこの可愛い生き物は／＼／＼」キューーン

提督「そ、そうだな……少し休もうか／＼／／」

高波「っ♡　はい♡　今、お茶を淹れてきます♡」ニパア

提督「頼むよ／／／／」

（やべえ、後でたんと撫でねば！）↑使命感
くそして夫婦揃って休憩時間く

高波「く♡」

提督「えらくご機嫌だな？」

高波「はい♡　とっても幸せですから♡」エヘー

高波、提督の膝の上で向かい合って座るく

提督「やべえ、可愛過ぎる／＼／／」ドキドキ

「ナデナデ

高波「かも♡」スリスリ

提督「ほら」つくツキー

高波「あくん……んく、おいひいでふう♡」ムグムグ

提督「良かったな♪」

高波「次は高波があげる番、かも♡」つくツッキー

提督「あむ……うん、ウマイな」モグモグ

高波「はい♡」

提督「はく、珈琲の苦さがまたクツッキーに合うなく」フウ

高波「高波は苦くて飲めない、かもです」ニガワライ

提督「無理に俺に合わせなくていいさ」アハハ

高波「でもお、司令官と夫婦なんですから、同じ物が飲めるようになりたくない、かも……♡／／／」デヘヘ

提督「ったく、本当にお前は可愛いからずるいぜ／／／」

高波「えへへ♡ 大好きな司令官に可愛いと思ってもらえて嬉しいです♡」ニパー

提督（可愛い可愛い可愛い可愛い可愛い可愛い可愛い／／／／）

「ナデグリナデグリ

高波「ひゃあく♡」ゴロゴロ

くそしていちやいちやしてて時は過ぎたく

夕方ー

高波「今日も夕日が綺麗、かもく」ウツトリ

提督「そうだな。綺麗だな」シミジミ

高波「こうして司令官と一緒に見る夕日は、特別綺麗に見えます♡」

提督「これからもずっとこの夕日を二人で見たいこうな。何年も、何十年も」

高波「はい♡」ニパッ

そして夫婦はそれを約束するかの様に、長くゆっくりと互いの唇を重ね合わせたー。

高波 完

玉波とケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇長官官舎◇

玉波「……………」

玉波「……………ふふっ」

玉波「ふふふふ♡」ニヨニヨ

玉波、自然と顔がにやけてしまう

玉波「……はあ、幸せ……こんなに幸せで、私大丈夫でしょうか？

♡ 幸せって過剰摂取で死に至るなんてことありませんよね？♡」ヤンヤン

玉波、火照る頬を両手で押さえ、左右に腰を回す玉波

玉波「……ふふふふ♡」

ケツコン指輪へキラキラしてるだろ？

玉波「あの日から一切色褪せていない……寧ろ輝きが増して見えていますね……♡」

玉波「提督、早く帰って来ないかな♡」

その頃――

◇鎮守府付近の駅周辺◇

提督「やつとここまで帰って来たぞ……なんで今日に限って泊地の本部で会議なんだよ。遠いんだからテレビ会議でいいじゃんかよ」

玉波「今日は提督と玉波のケツコン記念日」

提督「まあ玉波は怒ってなかったし、ここまで来たから帰りにお土産の記念日ケーキも買って帰れるからいいけどさ……」

提督「来年のケツコン記念日は絶対に一日中イチャイチャしてやるっ」

玉波、拳を握り締め、心に誓う提督

提督「さて、ケーキ屋行って予約したケーキ受け取ってさっさと帰るか。玉波も待ってるだろうし」

◇ケーキ屋◇

提督「よし、無事に受け取ることができた。ミッションコンプリート。あとはこれを持って帰れば——」

キキーツ！

提督「え」

某鎮守府——

◇長官官舎◇

玉波「……………流石に遅いですね」

玉波「まさか、事故？」

く妙な胸騒ぎが玉波を襲うく

玉波「……………」ポチポチ

く玉波、不安をかき消すために提督のスマホに電話をかけるく

トウルルルル…………トウルルルル…………

玉波（お願いします。出てください）

トウルルル…………トウル——

提督『もしもs——』

玉波「提督！ 今何処ですか!? 何かあったんですか!? 玉波はいつでも出撃出来ます！」

提督『落ち着け。連絡するのが遅くなってすまなかった。ちょっとアクシデントがあったのは事実だが、俺は無事だ。それともう官舎の前にいる』

玉波「っ！」

く玉波、スマホを投げ捨てて提督の元へく

ガチャツ！

玉波「提督っ！」ガバツ

提督「ぬおっ!？」

く玉波、提督の胸に飛びつくく

玉波「提督…………ああ、提督！ 心配したんですよ！」カオグリグリ
提督「すまんすまん。帰りに引つたくり現場に出くわしてな。犯人

を拘束して、警察を呼んで、事情聴取されて、それで今だ」

玉波「引ったくり……まさか、私の提督を狙って……」ゴゴゴゴゴ
提督「ちゃんと説明聞いてたか？ 出くわしたただけだ。それで俺の方へ犯人が向かって来たから、捕まえたんだよ。これでも俺も一応は軍人だからな」

玉波「そ、そうですか……お怪我はありませんよね？」

提督「怪我はない。骨にも異常はないが、一応明日の朝イチで医務室で精密検査受ける予定」

玉波「今からでも診てもらった方が……」

提督「それは俺が嫌だ。実際本当に俺の身には何も危険はなかったからな。ただ」

玉波「ただ、どうしたんです!？」

提督「予約しておいた記念日を祝うためのケーキがおじやんになった……」トオイメ

玉波「ケーキくらい、提督の身に比べたら、いえ比べるまでもありませんね。ケーキなんてまた買えばいいのですから」

提督「ああ、ただ」

玉波「まだ何かあるんですか!？」

提督「いや決してそうじゃない。ただこの日のために予約しておいた物だったから残念だな」ニガワライ

玉波「もう……本当甘党なんですから♡」

提督「とういうことで、俺は何もない。大丈夫だ」

玉波「良かったです、本当に♡ それに特別なモノなんて、私には提督さえいてくだされば全てが特別ですよ♡」

提督「………嫁がいい女過ぎて死にそう」

玉波「そういう冗談はやめてください」ペシッ

提督「あて……はは、ごめんごめん」ニガワライ

玉波「もう。それより、お風呂入ってください。それからお食事にしましょう」

提督「そうだな」

◇居間◇

提督「おお……これまた豪勢だな」

玉波「はい。実は藤波さんを始め、姉妹のみんなからお祝いだところのようにお料理を頂きましたので」

「ところ狭しと並べられた夕雲型姉妹の料理はとても夫婦だけでは食べ切れない」

提督「夕雲たちも呼んでパーティにした方が良さそうだな」

玉波「私もそう思いましたが、無理です。みんな私たちに気を使つて、今日は何が何でも絶対にお邪魔しないって言われてますから」

提督「なるほどな……まあ日頃の玉波から来る俺への愛を見れば納得だな」

玉波「それを言うなら提督の方では？」

提督「いやいや、玉波には負けるよ」

玉波「いえいえ、提督程では……」

それから一頻りいやいやいえいえ合戦を経て、夫婦は仲睦まじいケツコン記念日を過ごし、珍しく夜ふかしたという――。

玉波 完

涼波とケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇執務室◇

提督「……はあ」

「今夜は執務が多く徹夜コース」

提督「楽な仕事じゃないのは分かってるけど、デスクワークつてのは苦手だなあ」

ガチャ

涼波「おいっす！　しっかりやってるかね、提督？」

提督「？　どうした、もう休んでる時間だろ？」

涼波「何水臭いこと言ってるのさ。あたしが提督のことほったらかす女だとも思ってるの？」

「涼波、提督の膝上に座る（定位置）」

提督「いや、でも今日は長時間遠征で疲れてるだろ？」

涼波「確かにそうだけど、でも提督が頑張ってるのに自分だけ休むのって夫婦としてどうなのよ？」

提督「そこは夫婦関係なく、休める時に休んだ方がいい」

涼波「つのヤロー……」ワナワナ

「涼波の笑顔が怖くなる」

提督「ど、どうした？」

涼波「はあ、だよねえ。提督だもんねえ。朴念仁のあんぽんたんだもんねえ。言わねえと分かんないよねえ」

提督「なぜナチュラルにデイスってくるんだ？」

涼波「だっかくらくらく！　今日はずっと離れてたし、一人じゃ寂しいから一緒に居よってこと！」

むぎゅー！

「涼波、提督にだいしゆきホールド」

提督「そ、そうか……すまん。嬉しいよ」ナデナデ

涼波「ふん……気付かなくても見捨てないのはあたしくらいなんだ

からね？」

「涼波は拗ねたように提督の胸元を人差し指でぐりぐりする」

提督「涼波に見捨てられたら嫌だな。夕雲に殺される」

涼波「はい、そこで身内でも別の女の名前出すのマイナス100点！」

提督「うくん……」

涼波「はい、そこで何も取繕えないところもマイナス100点！ 既にマイナス500点です！」

提督「おい、200点だろ。なぜそんなに多い？」

涼波「あたしがここに来た意図を察せなかったのと、会って抱きしめてくれなかったのと、キスしてくれなかったことが加点されてるから」

提督「うっ……」

涼波「因みに今キスすればプラス500点になるけど？」ニヤニヤ

提督「……いつもすまん。愛してるよ、涼波……ちゅっ」

涼波「んうっ……ちゅっ、ちゅぱ、れろれろ……ちゅっ」

提督「はあ、どうかな？」

涼波「いきなりデープしたから加点200点止まりかな……♡」

「でも満更でもない表情の涼波」

提督「ぐっ……少しくらい甘く採点してくれてもいいんじゃないか？」

涼波「はあ？ 甘く採点して今なんだけど？ 辛口採点だったらも

うマイナス1000点いつてるから」

提督「ひ、酷い……」

涼波「あたしのこと全然分かってくれない提督の方が酷くない？」

「っんっん」

「涼波、提督の頬を人差し指で突く」

提督「うっ、ぐう……面目ない」

涼波「まつ、提督はホントあたしじゃないとダメダメだなあ♡ 良かったね、提督♡ あたしが提督のこと好き好き艦娘で♡ 良

提督「そうですね／＼／＼」

涼波「だからこれからもあたしを構わないとダメなんだぞ〜？
いくらあたしが提督好き好き艦娘でも、構ってくれないとどうなるか
分かんないぞ〜？♡」

提督「構わないとどうなるんですかね？」

涼波「そうだなあ」ウーン

提督（殴るとか、蹴るとか言ってるさそう）

涼波「一人でずっと部屋の隅で泣く」

提督「へ？」

涼波「だって構ってくれないってことは、提督にとってあたしの存在がそれくらいってことじゃん？ だったら泣くしかないじゃん。
好き好きなのに構ってくれないんだもん」

提督「し、しない！ そんなこと絶対にしない！ 涼波が泣いてる
ところなんて見たくない！」

涼波「ひひっ、ば〜か♡ 構ってくれないとって言ってんじゃん♡
というか、なんで提督がそんな必死なの？♡」

提督「そ、それは……俺は仕事仕事でよく涼波を放置してるから
……」

涼波「だからこうして構って攻撃しに来てるじゃん？ それでも無
視されたら泣くってこと。現に今提督はあたしのこと構ってくれて
るじゃん。そういうとこ、大好き♡」

ちゅっ♡

〜涼波、提督の頬にキスをする〜

提督「涼波……」

涼波「へへっ、その締りない顔も好き♡ 全部全部大好き♡ だか
らずつとあたしのこと構ってね？♡」

提督「勿論……こんなに可愛いお嫁さんを構わないとか無理だろ」

涼波「おっ、今のはいいね♡ 加点10点あげる！♡」

提督「加点ひっく！」

涼波「当たり前じゃん。愛はそう簡単に育めないんだよ？」

提督「それはそうだが……」

涼波「だからもつともつと、あたしのこと喜ばせてよね♡ じゃないといつまで経ってもマイナスのままだぞ〜?♡ マイナスのままだとリコンの危機だぞ〜?♡」

「涼波はそう言うが、提督が必死になってくれるのが嬉しいのでリコンすることは端から考えてない」

提督「涼波」

涼波「んん、どつたの?」

提督「愛してる。こんな俺のことをいつも支えてくれる涼波を心から。ずつと一緒にいたい。だからリコンしないでくれ」

涼波「くくくくっ♡」ゾクゾク

「この必死な愛の言葉が涼波は堪らないのだ」

提督「執務なんて後回しだ。リコンされないために、涼波に俺の愛を知ってもらわないと」

ぎゅっ

「提督は涼波を抱きしめる」

涼波「はいはい、分かったから執務はしようよ♡ 終わってからの方が色んなこととしてあたしに分からせることが出来るぞ〜?♡」

提督「む…それもそうだ。だったら早く終わらせて、涼波に俺の愛を伝えないと!」

涼波「ひ、ひひっ…何してくれるのかなあ?♡」ドキドキゾクゾク

提督「キスする」

涼波「ええ、キスだけえ?♡」

提督「キスマークつける」

涼波「おお…いいね♡」

提督「満足するまで構う」

涼波「じゃあ証明してもらわないと♡」

提督「すぐに終わらせるから待っててくれ」

涼波「はいはい♡」

「(こっとうとこがあたしを離さないんだよねえ…絶対に言わないけど♡)」

その後、執務を終わらせた提督は涼波が満足するまで構い続けた――

涼波 完

藤波とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇給湯室◇

藤波「えっと、上官のお二人とうちの司令の分つと……」

↳藤波、お茶の準備中↳

龍田「藤波ちゃん」ニコツ

能代「お茶汲み手伝うわ♪」

藤波「龍田さん、能代さんも……ありがとうございます」ペコリ

龍田「今日はお偉いさんが来てるから暇なのよ」クスクス

能代「私も今は手が空いてるから」ニコツ

↳三人でお茶の準備中↳

藤波（司令は猫舌だから少し空気を入れて……）カチャカチャ

龍田「フッフ

藤波「？ どうしたんですか、龍田さん？」

龍田「ううん。提督のことが好きなんだなあ……って思っただけ

♪」

藤波「そ、そりゃあ、まあ……／＼／＼」テレツ

能代「奥さんならではの気配りよね♪」

藤波「じよ、上官の前で火傷させるのが嫌なだけです／＼／＼」プ

イツ

龍・能『』ホホエマー

↳そして三人で会議室へ↳

◇会議室外・ドア前◇

上官 a『いつまでそうしている気だ！ これだからお前は無能なんだ！』

上官 b『まあまあ、彼はちゃんと言われた任務は遂行してますでしよう』

上官 a『言われたことをやるだけなら猿でも出来る！ だが言われ

たこと以上の結果を出せない無能に無能と言うのは当然だろう!』

く中では険悪な雰囲気は漂っている

能代「メクバセ

龍・藤』コクリ

◇会議室◇

コンコンコン

提督「どうぞ」

ガチャー

能代「失礼します。お茶をお持ち致しました」

提督「ありがとうございます」

龍田「失礼致します」ニコツ

上官a「うむ」イライラ

能代「失礼します」ニコツ

上官b「ああ、どうもありがとう」ニガワライ

藤波「どうぞ」コトツ

提督「ありがとう」ニコツ

くお茶を出すと三人はまた一礼して会議室を出る

◇会議室外・ドア前◇

上官a『駆逐艦なんてもんは使い捨てる物だ。なのにそんな捨て石に指輪を渡すからこんなことになるんだ、このペド野郎』

上官b『まあまあ!』

藤波「グッ

く顔付きが変わる藤波

能代「気持ちは分かるけど、今は耐えて」

龍田「提督も耐えているでしょう?」

藤波「コクリ

上官a『次の作戦が上手く行かなかった時、それがお前の最後だ。もつとも、水雷屋のペド野郎には期待してすらいがないがな。どうせなら特攻して華々しく散れ』

ガチャー

上官 a 「なんだ、まだ居たのか。お前等も覚悟しとけ。海で死ぬるチャンスやるんだからな」

くそう吐き捨てる上官はズカズカとその場を後にしたく

上官 b 「本当にすまないね。しかし私を含め、多くの者が陰ながらだが君を支持している。それだけは分かってほしい」

提督 「そのお言葉だけで十分です。お心遣いありがとうございます」ペコリ

くもう一人の上官は提督と握手すると、藤波達にも笑顔を向けてその場を後にしたく

提督 「藤波、第一艦隊から第四艦隊までをブリーフィングルームへ集めてくれ。今後について話を詰める」

藤波 「分かったわ……。司令、あの……」オズ

提督 「大丈夫だ。俺は居なくならないし、一人も沈めたりしないよ」ニコツ

藤波 「うん♡」ニパツ

提督 「龍田、能代。悪いが湯呑の片付けを頼む」

龍田 「はくい♪ 私も後から向かいますね♪」

能代 「了解です。後はお任せください♪」

そしてブリーフィングを終え、時間は夜に――

◇執務室◇

提督 「……………」カキカキ

く提督、最終確認中く

提督 「ふう……………」ノビー

（駆逐艦達の練度もようやく目的値に達した。後は潜水艦の偵察隊の報告を待って、それから更に煮詰めれば勝率は格段に上がる）

ガチャー

藤波 「司令く、お茶持ってきたわよ。少し休憩したら？」

提督 「ああ、いつもすまない」ニコツ

藤波 「そう思うなら、私に言われる前にちゃんと休憩してよね」フ

フフ

提督「お耳が痛い〜」ア〜ア〜

藤波「♪」クスクス

〜藤波、提督の側へ〜

提督「藤波のお茶はいつも丁度いい熱さだから、余計に美味しく感じるよ」ニコニコ

藤波「司令は私が何回注意しても、そのまま飲んじゃうからね〜。毎回火傷されてたら嫌でもこうするわよ」ホッペツンツン

提督「重ね重ね申し訳ない」ニガワライ

藤波「もう慣れたわよ、お子ちやま司令さん♪」クスクス

提督「猫舌なだけだ」プイッ

藤波「あはは♪」

〜すると藤波の表情がふと暗くなる〜

藤波「藤波、次の作戦、頑張るから」ギョツ

提督「？ 昼間のこと気にしてるのか？」

藤波「当たり前じゃない。司令のこと何も知らないくせに、あんな……あんな……」グスツ

提督「ありがとう、俺のために涙まで流してくれて」ナデナデ

藤波「藤波はどうなったっていい。司令のためなら藤波は〜」

提督「それ以上は言うな」

藤波「でも〜」

提督「俺は……俺は失敗する気はないぞ」ニコツ

藤波「根拠もないくせに」グスツ

提督「根拠ならあるさ。あの海域は戦艦や空母には不利だ。良くて重巡までだろう……だからこそ駆逐艦や軽巡洋艦が必要なんだ」

提督「うちには元から練度が高い駆逐艦と軽巡洋艦が揃ってる。加えてあれから更に練度も上がった。慢心さえしなければ完遂可能だ」

提督「それに……」

〜提督、藤波の目を真っ直ぐに見つめる〜

提督「藤波っていう心強い女神が俺には居るからな♪」ニコツ

藤波「急に何よ……格好付け♡」ナキワライ

提督「好きな女の前ではいつまでも格好良くありたいと思う」フンス

藤波「藤波、飾らない人が好みなんだけど?」キヒヒ

提督「(・ω・)」エエー

藤波「ふふ、冗談冗談♡ 藤波は司令一筋よ♡」チュツ

(こんなに素敵な人が他に居るもんですか♡)

提督「藤波く! 俺も藤波一筋だ! 愛してるぞく!」ギューツ

藤波「きやつ♡ 分かっているから、そんなに恥ずかしいこと大声で言わないで♡」ギューツ

後日の海戦で提督率いる水雷戦隊は一人も失うことなく敵艦隊を殲滅し、提督は功四級金鷄勲章きんしくんしょうを受賞。水雷屋としても軍人としても確固たる地位を確立した。

因みに提督にキツくあたっていた上官はこの海戦で自分が不利と感じ、味方に特攻させ、自身は撤退。

しかしその際、敵潜水艦の雷撃を喰らい、戦死。そして特攻した味方は生還するという皮肉な結果に終わったそうなのー。

藤波 完

早波とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇執務室◇

提督「……………うーん」

～作戦立案中～

早波「……………」ゴロゴロ

～早波、執務室のソファでまったり中～

浜波（補佐）「……………」オロオロ

藤波（補佐）「……………」アタマカキカキ

浜波「（注意しなくて大丈夫かな?）」ヒソ

藤波「（何を?）」ヒソヒソ

浜波「（だつてはーちゃん、司令が頑張ってるのに何もお手伝いしないんだよ?）」

藤波「（別に司令は気にしてなさそうだし、いいんじゃない?）」

浜波「（で、でもさ、お嫁さんでしょ? もう少し協力する姿勢があってもいいんじゃない?）」

藤波「（浜ちゃんの言いたいことは分かるけどさ、早ちんって前から嗚呼じゃん）」ニガワライ

浜波「（でも司令が悩んでるのに、そのお嫁さんが何もしてないのはおかしいよ。それに司令がかわいそう…………）」

藤波「（でも司令って早ちんのこと大好きでケツコンしたんだし、何も不満なんてないっしょ?）」

浜波「……………」ウーン

スクツ↑浜波、提督の元へ

浜波「…………司令」

提督「ん、どうした浜波?」

浜波「な、何かあつた、あたしにお手伝い出来ることある、かな?」

あつたら言つて?」

提督「ならお言葉に甘えて…………その棚からこの5年間の戦闘記録

を持ってきてほしい」

浜波「う、うん、分かった」ニコツ

藤波「藤波も手伝うよ」スクツ

早波「……………」グダア

ー

提督「ん、こんなとこかな。少し休憩」ノビー

藤波「なら藤波お茶淹れてきてあげるよ」

提督「おう、サンキュ」ノシ

浜波「司令、肩でも揉もうか？」

提督「ありがたい。頼むよ」

浜波「ううん、これくらい当然だよ」ニパー

く浜波、提督の肩を優しくマツサージ中

浜波「ごめんね、はーちゃんが何もお手伝いしなくて」

提督「早波？」

浜波「うん……………今日、ずっと二人の様子見てたけど、司令ばかり頑張ってる、肝心のはーちゃんはずっとソファで寝てるだけだったから」

提督「前からあだぞ、あいつは」

浜波「それなのによくケツコンしたね」ニガワライ

提督「浜波も知つてると思うが、早波はみんなには見えないところで努力する子だ。褒められることの少ないことを黙々とこなす。だから早波は艦隊一のアシスト職人なんだからな」

浜波「でも、もう少し司令のために頑張ってもいいと思うんだよね……………」

藤波「ただいま。浜ちゃん、まだ言ってるの？」ニガワライ

浜波「だって……………」

藤波（まあ、浜ちゃんは本当に司令のこと尊敬してるから、そんな人に何もしてない風に見える早ちゃんが許せないんだろうけどねえ）

提督「まあ、あれはあれで可愛いとこがいっぱいあるんだぞ？」

浜波「それはそうだろうけど……………」

提督「よし、ならとびきり可愛い俺の嫁を見せてあげよう」

浜波「？」

提督「二人共、手伝ってくれてありがとうな。ちよつとここに座れ」
ポンポン

提督、自身の両太ももを軽く叩いてみせる

藤波「なにになに、なにしてくれんの？♪」ニヒヒ

浜波「えつと、あの……／＼／＼」オロオロ

提督「遠慮せずに、座れ」ニコツ

藤波「お邪魔しまゝす♪」チヨコン

浜波「し、しし失礼します……／＼／＼」ストン

提督「二人共ありがとうなく♪ おく、よしよしっ♪」

なでこなでこ

藤波「きやく♪」

浜波「はわわっ／＼／＼」

なでこなでこなでこなでこ

早波「………」スクツ

てこてこ↑早波、提督の元へ

早波「んく」グイグイ

藤波「え、ちよ、なんなの早ちゃん？ 押さないでよっ」

早波「んく、んくんく」グイグイ

浜波「わわっ、ど、どうしたの？」

提督も浜波も早波に提督の膝の上から追いやられる

早波「よっ♡」ストン

提督、すぐさま提督の膝の上へ

早波「ん♡」ズイツ

提督「ほいほい……よしよし」ナデナデ

早波「んへへ♡」スリスリ

藤・浜「………」ポカーン

二人は早波の変わり様に呆気にとられる

早波「いくらお姉ちゃんや浜波でも、司令に可愛がられていいのは

私だけだからね？」

藤波「あはは、早ちゃんかーわいい♪」

(普段何も興味なさそうなくせして、司令にはべったりなんだなあ)

浜波「ふふふつ、ホントだね♪」

(司令がはーちゃんに惚れてるのも分かるなあ。あたしから見ても今のはーちゃんは可愛いもん)

提督「この通り、我が嫁は可愛過ぎなのだ」

早波「そんなこといいからあ、もつと撫でてく。私以外の女の子を可愛がった罪はそれっぽっちじゃ許されないんだぞく？」

提督「早波可愛いよ早波」ナデナデナデナデ

早波「んく♡」

早波「司令」チヨイチヨイ

提督「ん？」

早波「今度はちゆう……んっ♡」クチビルサシダシ

提督「ほいほい……ちゅっ」

早波「んくっ♡」ギューッ

くチュツチュタイムが幕を開けてしまったく

藤波「ありやりや、藤波たちの前でもお構いなし」

浜波「うわっうわっ……あれ、キスなの？／／／／」

早波「しれー、すき♡ はむっ……ちゅくっ♡」

提督「俺もだ……んっ、ちゅっ」

その後、夫婦は藤波たちの前なのに遠征から帰ってきた夕雲たちが報告にやってくるまで、キスしていたという。

当然、夕雲からは『程々にしてくださいね』と絶対零度の微笑みで注意されたとかー。

早波 完

浜波とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇本館内・廊下◇

浜波「……………」テクテク

浜波（司令、お仕事終わったかな……………今日はたくさん書類あったし、まだまだ終わらないかな）

く浜波は工廠から帰る途中く

浜波「頼まれてたソナーはいくつか開発出来たし、あとは報告するだけ……………」ブツブツ

ドンツ↑誰かとぶつかる

浜波「うわっ」ヨロツ

「おつとと、悪い悪い。大丈夫か？」グイッ

浜波「あ、な、なあちゃん（長波）……………うん、大丈夫……………」

く長波、藤波、沖波、朝霜と鉢合わせく

長波「なら良かったぜ。妹をケガさせちまうのは嫌だしな」ニコツ

浜波「そ、そう……………なあちゃんたちは執務室に用事？」

長波「おう。朝霜が昨日の遠征の報告書をやっと仕上げたからな」
チラツ

朝霜「う、うっせーな……………ちよつと遅れただけだろ？」

藤波「昨晚のうちに仕上げとけば約束の朝イチに持ってたのにな」
く「チラツ

朝霜「くくく」グヌヌ

沖波「まあまあ、ちゃんとこうして出来上がったし……………」ニガワラ

イ

浜波「そ、そっか……………なら、あた、あたしが持っていこうか？」

長波「それはダメだな。提督には朝霜を注意してもらわねえといけねえからな」

藤波「だよねだよねく」

沖波「こういう時くらい潔くないとね」

朝霜「わあつてるよ……」

浜波「し、司令は優しいから、きっとそんなに強くは怒らないと、思う……もし、怒られそうになったら、あたしがちゃんと、守るから」ナデナデ

朝霜「やったぜ♪」

長波「あんま甘やかすのもどうかと思うけどねえ」ヤレヤレ

藤波「まあ、浜ちゃんも司令もお人好しだからね」ケラケラ

沖波「二人共優しいからね」クスクス

浜波「……や、やめてよ……もう／＼／＼」
くこうしてみんなは執務室へく

◇執務室・ドア前◇

トントントン

浜波「司令、浜波、も、戻りました……長波たちも一緒です……」

シーーン……

長波「ん？ いないのか？」

藤波「司令く？ 報告書、持ってきたよ」トントントン

シーーン……

朝霜「トイレにでも行ってんじゃね？」

沖波「それなら、掛札してくはずよ……」ウーン

浜波「……開けるよ、司令」

ガチャ……

◇執務室◇

提督「……」

く提督、絶賛居眠り中く

朝霜「なくんだいるじゃんか！ 居眠りしてんじゃねえよ！」ペ
チン

提督「イテツ!」

浜波「あっちゃん（朝霜）、司令になんてことするのさ！」

朝霜「え、お、おう、すまん」ニガワライ

浜波「司令、大丈夫？ 痛かったよね？ もう大丈夫だよ」ナデナ
デ

提督「お、おう、ありがとう」

長波（相変わらず過保護だな）ニガワライ

藤波（浜ちゃんは司令のことになると人が変わるな）ニシシ

沖波（微笑ましいなあ）ニコニコ

「そんなこんなで遠征報告書を提出」

提督「ん、問題なく受理する。次からはちゃんと提出期限を守って
くれると助かるよ。この働きが無駄になってしまうからな」

朝霜「あ〜い」

長波「おい、もう少しちゃんと返事しろよな」

朝霜「わあってるよ〜」

提督「ははは、朝霜はやれば出来る子だからな。そう目くじら立て
ないでやってくれ。私も今回は居眠りという失態を犯してしまった
しな」

藤波「司令が居眠りとかかなりレアだしね〜。ちゃんと夜は寝た方
がいいよ？」

沖波「司令官の代わりはいませんから、ご自愛ください」

提督「ああ、肝に銘じるよ。妻もこの調子だからな」

浜波「……………」ギューツ

「浜波、提督が心配で提督の膝上に乗って抱きしめ中」

長波「まあ、奥さんが見張つてりや無理も出来ないだろ…………」ニガ

ワライ

藤波「んじや、藤波たちはもう行くね♪」ウインク

沖波「失礼しました」ペコリ

朝霜「そんじやな、司令！」ノシ

パタン

「みんなは退室して夫婦だけに」

提督「さて、仕事を再開するか。どんどん仕事も溜まってしまっ
な
な」

浜波「まだ、ダメ…………！」ギューツ

提督「？　しかしだなー」

浜波「ダメ！」

提督「ぬう……」タジツ

浜波「仕事を再開する前に少し休もう？　大切な人が倒れるなん

て、あたし耐えられないから……」グスッ

く今にも泣きそうに訴える浜波く

提督「……分かった」カンネン

浜波「うん、素直に頷いてくれて、嬉しい♡」エへへ

提督（ズルい笑顔だ……／／／／）

く浜波はソファーに移ると、ポンポンと自分の膝を叩くく

浜波「おいで、司令……お膝、貸してあげるから♡」

提督「ああ、お言葉に甘えよう」

ごろん

浜波「貧相な枕だけど我慢してね？♡」ニコニコナデナデ

提督「貧相だなんて思わないさ。とても落ち着く、優しい枕だ」

浜波「そつか……嬉しい♡」

提督「……居眠りなんてするようじゃ、私もまだまだだな」

浜波「毎日忙しいのに、あたしをあんなに可愛がるからいけない
じゃないかな？♡」

提督「仕方ないだろう……こんなにも愛おしいというのに」ホツペ
ナデナデ

浜波「もう……えっち♡」ポツ

提督「満更でもない顔をしてるが？」

浜波「司令があたしで気持ち良くなってくれるのは、嬉しいから♡」
エへへ

提督「可愛い奴め」アハハ

浜波「司令の前だけだよ……こんなあたしをこんな可愛がつてく
れるの♡」ニコツ

提督「私は浜波の綺麗な瞳に惚れたからな……」

浜波「司令のために、今は目を隠してないんだからね？　ちやんと
責任とってね？」

提督「勿論だ。私の一生をかけて責任をとろう」

浜波「えへへ、幸せ♡ 大好きだよ、司令♡」ニコッ

提督「ああ、私もだ」ニコッ

こうして夫婦は穏やかで甘い時間を過ごしてから、バリバリと仕事をこなすのだったー。

浜波 完

沖波とケツコンしました。

某海域、昼下がりー

く水雷戦隊帰投中く

能代「みんなく、大丈夫く？」

長良「もう鎮守府の正面海域だから、あと少し頑張ろうね！」

早霜「ボーキが沢山で嬉しいけど……」

朝霜「重くてしやあないぜ……」

長波「なあに甘えたこと言ってるんだよ！　ちったあ沖波を見倣えよ

……」ニガワライ

沖波「うんしょ、うんしょ……」エツサホツサ

能代「ふふ、頼もしいわね」

長良「ナイスガッツだよ、沖波ちゃん！」

早霜「沖波姉さんは元気の源があるからね」フッフ

長波「お前の言わんとすることは分かる……でも言うな。みんな

知ってるから」

朝霜「沖波としちゃあ、五時間も司令と離れてたからなく。早く任

務を終わらせて司令に会いたいんだろうな」ニガワライ

沖波「く♡」

(司令官♡ 司令官♡ 司令官♡)

長良「ありや、こつちの話が聞こえてないね」ニガワライ

能代「乙女の顔してるわね」クスクス

長波「んじゃ、ラストスパートだな♪」

早霜「早くしないと沖波姉さんが先に行っちゃいそうだしね」ニ

コッ

朝霜「しつかたねえなく」

沖波「司令官く♡ 司令官く♡」ニヨニヨ

全員『ニガワライ

くそして無事に帰投！く

◇埠頭◇

能代「無事到着ね……全員整列して」
ザッー

能代「……ん。全員居るわね。じゃあ早速資材を運び込んで、報告に行きましょう」

長良「よくしつ、もう一踏ん張り♪ 頑張ろ〜!」

長波「んじゃ、さつさと運んじまうか〜」

早霜「そうね、沖波姉さんの為にも」フッフ

朝霜「つくことだから、沖波もー」

沖波「よいしょ、よいしょ」↑黙々と作業中

朝霜「早っ!?!」

早霜「姉さんらしいわ」クスクス

能代「私達も運んじやいましょう」ニガワライ

長良「了解」ニガワライ

長波「はあ……」ヤレヤレ

「資材を運び終えた艦隊は執務室へ」

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞ〜」

ガチャーー

能代「失礼します。旗艦能代、及び第二艦隊帰投しました。提督に遠征任務完了のご報告に参りました」ケイレイ

提督「お疲れ様。報告を聞こう」

能代「はっ。今回のボーキサイト輸送任務は予定より多くのボーキサイトを持ち帰ることに成功しました」

提督「おお、それはありがたい。大成功の報酬に間宮&伊良湖券を贈呈しよう」ニッコリ

朝霜「やり〜♪ あんがとな、司令!」ニパッ

早霜「頑張った甲斐があつたわ……ありがとうございます」ペコリ

長波「さんきゅ〜、提督♪」

長良「ありがとうございます、提督！ 補給が終わったら、早速みんなの間宮さん達の所に行きますね！」

能代「提督、お心遣いありがとうございます」ニコツ

沖波「ジーツ

提督「おや？ 沖波は券では満足出来なかったかな？」

沖波「え、あつ！ い、いえ！ ありがとうございます！／／／／／」ペコリ

提督「？ 顔が妙に赤いが……大丈夫か？」スツ

提督、沖波の側へ

提督「うくん……熱は無いようだな……」オデコピトツ

沖波「ふああ／／／／ し、しし、司令官!?!／／／ 近いっ、近いでsー」

提督「チユツ

提督、沖波の唇を奪う

沖波「し、司令官……ん、ちゅっ……んく」ギユーツ

提督「んはあ……思わずキスしてしまった。おかえり、俺の大切な

沖波「ナデナデ

沖波「司令官ったら……ただいま、です♡」スリスリ

能代「(。D。)「ポカーン

長良「(・▽・)」ニヤニヤ

長波「(／／D／／)」ウワオ

朝霜「(／／△／／)」マジカヨ

早霜「(―人―)」ゴツチャンデス

提督「沖波もみんなと補給してきてくれ。それからみんなとおやつでも食べてきなさい」ナデナデ

沖波「分かりました♡」ギユーツ

「そんなこんなで補給へ」

◇補給室◇

長良「いやあ、さつきはアツアツだったね」ニヤニヤ

沖波「す、すみません／／／」デヘヘ

早霜「ふふ、仲良し過ぎるのも考えものね」クスクス
能代「（ハ。ム。）へソウネ：：カンガエモノダワ：：」

早霜「能代さん、まだ顔が戻ってないわ」オテテヒラヒラ

長波「あんなの見せつけられたら誰だつてああなるさ／＼／＼」パ
タパタ

朝霜「（／＼△／＼）へマダカオガアツイ：：」

長良「こっちもまだ戻らないね」ニガワライ

沖波「ご、ごめんなさい／＼／＼」

くようやく補給終了く

長良「補給も終わったし、間宮さん達の所行こっか♪」

早霜「賛成」ニコツ

能代「（ハ。ム。）へカライモノプリーズ：：」

朝霜「（／＼△／＼）へニガイモノプリーズ：：」

長波「こりや重症だなあ」

沖波「あ、あの、沖波は、その：：／＼／＼」

長良「分かってる♪ 提督の所に行くんでしょ？」

長波「あたしらはあたしらで過ごすから、沖波は提督といちやい
ちやしてこい」ニコツ

早霜「甘味よりも甘い時間を過ごしてね」ニヤニヤ

沖波「く／＼／＼」ウツムキ

沖波「と、取り敢えず、沖波は司令官の元へ戻ります！ 失礼しま
す！／＼／＼」

く沖波は提督の元へく

長波「走って行つちまったな」アハハ

早霜「ラブラブで何よりだわ」クスクス

長良「お砂糖に困らないね♪」

◇執務室◇

ガチャー

沖波「司令官♡」

提督「お？ 随分と早いなー」

ちゅっ♡

く沖波、提督の唇を奪うく

沖波「あむ♡ んくっ……っ……ちゅっ……んむう……はあ♡」エへへ

提督「熱烈だな」アハハ

沖波「だって五時間も司令官と離れてたんですよ？♡ 間宮さん達

のお菓子より、沖波は司令官がほしいです♡」スリスリ

提督「可愛い嫁さんだな」ナデナデ

沖波「司令官が沖波をとつても愛してくださいますから♡」ニコニコ

提督「ふふ、赤面しながらもそう言う沖波は愛くるしいな」ホッペチユツ

沖波「あ♡ えへへ♡ もっと近くで司令官のお顔を見せてください♡」オデココツン

提督「ああ、いいとも」オデココツン

沖波（私の大好きな司令官の優しい笑顔……♡）

提督「沖波……」ホッペナデナデ

沖波「司令官……ん♡」オメメトジル

ちゅっ♡

沖波（幸せ過ぎて涙が溢れちゃいます♡）

その後も二人は互いの顔を見つめ合っていたときー。

沖波 完

岸波とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れー

◇埠頭◇

岸波「ふう、遠征任務完了。みんなちゃんというわよね？」

沖波「大丈夫、みんないるよ」

藤波「藤波はいにや〜い」イヒヒ

朝霜「あたいたいもいにや〜い」キシシ

長波「返事してる時点でいるだろが」ニガワライ

浜波「あはは……」ニガワライ

岸波「……全員無事ね。なら資材の搬入作業に入りましょう」

全員『は〜い』

◇資材倉庫◇

岸波「藤姉も朝ちゃんも、返事はちゃんとしてっていつも言ってるでしょ？」プンプン

藤波「藤波〜、堅苦しいの嫌いなのだ〜」

朝霜「軽い冗談じゃん♪」

岸波「だからってー」

長波「まあまあ、藤波と朝霜がこうなのは今に始まったことじゃねえし、岸波も気にすんなよ」

岸波「……………」

沖波「ほらほら、手が止まっちゃってるよ」

浜波「は、早くこれを終えて、司令に報告しに行こうよ」

岸波「っ…………そ、そうね。早くやつちやいませよ」セツセツ

岸波、明らかに態度を変える

藤波「あはは、岸波は相変わらず司令LOVEだね〜」

朝霜「ラブラブのあっちちだなあ！」

岸波「うう、うるさいうるさい！／／／／」カオマツカ
〜そんなこんなで作業を終えて執務室へ〜

◇執務室◇

提督「うん、報告ご苦労。補給が済んだら、改めて報告書を提出して、次に備えて休んでくれ」

長・沖・浜・岸『はい』

藤・朝『あゝい』

岸波「……………」ギロツ

藤波「きやく、きつしーこわーい！」

朝霜「司令く、たっ^助けてー！」

く藤波と朝霜、提督の背中に避難く

提督「おとと……………」

浜波「ぎゃ、逆効果なんじゃ……………」

沖波「岸波ちゃん、とりあえず落ち着いて」ドオドオ

長波「お前ら遊んでないで補給行くぞく」

岸波「……………」分かりました」

提督「岸波……………」

岸波「ふんだっ」プイツ

く岸波、さつさと執務室を出ていくく

提督「orz」ズーン

藤波「あちや…………怒つちやった」

朝霜「ご、ごめんな、司令……………」

提督「うん、大丈夫……………」

長波「まあ、あたしからもフォローしとくからさ、そう気を落とすなよ、提督」ニガワライ

沖波「岸波ちゃんは司令官のこと嫌いになってませんから！」

浜波「そ、そうだよ！　だ、だから元気出して！」アセアセ

提督「うん、ありがと……………」

くこうして長波たちは岸波を追って補給室へ向かうのだったく

◇補給室◇

長波「岸波」

岸波「……なんですか？」

沖波「司令官、すごく悲しんでたよ？」

岸波「……………」

浜波「べ、別に司令が悪い訳じゃないのに、あんな態度とつたら可哀想だよ」

岸波「……………」コクリ

長波「藤波たちもそれなりに反省してるしよ、戻ったら提督に謝れよ？」

藤波「ごめんね、きつしー。藤波たち謝るから、司令に冷たく当たらないで？」

朝霜「すまん……………」ペコリ

岸波「…………私も久々に遠征隊の旗艦を任されたから、気負い過ぎてた。私こそごめんなさい」ペコリ

長波「うんうん」

沖波「仲直り出来て良かった」ホッ

浜波「あとは司令と仲直りすれば安心だね」ニコッ

岸波「ええ」ニコリ

その後には姉妹仲良く過ごした

◇執務室◇

トントントントー

提督「どうぞ」

カチャー

岸波「失礼します。岸波、補給を終えました。報告書作成の前に少しお話があります」ケイレイ

提督「あ、ああ、何かな…………？」

岸波「…………今は提督だけ…………よね？」キョロキョロ

提督「え、あ、うん。そうだけど？」

岸波、確認を終えると提督の元へ駆け寄る
むぎゅっ♡

岸波「提督…………」ギューッ

提督「き、岸波？」オロオロ

岸波「先程は愛する提督の言葉を無視して、冷たくしてごめんない……嫌いならないで」

提督「……馬鹿だなあ。あれくらいで僕が岸波を嫌いになるなんてあり得ないじゃないか」ナデナデ

岸波「提督……好き♡ 好き好き好き、大好きい♡」キュン

提督「僕も岸波のことが大好きだよ」ニコツ

岸波「……♡」キュンキュン

提督「知つての通り、僕は軍人としては軟弱者でね。嗚呼いう場面になるとなんて言えばいいのか分からなくなっちゃうんだ」ニガワライ

岸波「出会った頃から変わりませんね♡」クスクス

提督「僕にはない頼り甲斐のあるところが、僕が岸波に惚れた理由でもある……男としては情けないかもしれないけどね」

岸波「でも、私は提督のような心優しい人の愛を一身に受けることが出来るから、とても幸せよ？♡」スリスリ

提督「可愛いことを言わないでくれよ……」

岸波「大好きな提督の前だから可愛く言ってるの♡」ニッコリ
く仲直り大成功く

そしてー

提督「……でだね、岸波」

岸波「なあに？」ムギユーツ

提督「そろそろ離れてくれないかなあ、なんて」ニガワライ

岸波「……私とギユーツとするの、嫌？」シヨボン

提督「そういう訳じゃないんだけど……ほら、岸波だって遠征の報告書を長波たちと書かなきゃだろ？」

岸波「そうだけど……報告書ならすぐに出来るもん。私は朝から提督のために遠征へ行ったの。そんな私にご褒美くらいくれたって罰は当たらないと思うんだけど？」

提督「言い分は分かるけど……」タジタジ

岸波「提督は私と離れたいんだ……」シヨボボン

提督「ああ、もう可愛いな！ 離れたくないに決まってるだろ！」
ギューッ

岸波「くく♡」キュンキュン

提督「長波たちに悪いからあと五分だけだぞ？」

岸波「嫌。あと十分♡」

提督「せめて八分程度で……」

岸波「私とー」

提督「わわ、分かった！ 十分、十分だぞ!?!」

岸波「えへっ、やった♡ てくとくう、好き……好き♡」スリス
リ

提督「僕もだよ」ナデナデ

（嫁が可愛過ぎる……）

こうして夫婦は離れていた時間を取り戻すかのように熱い抱擁を
交わし、それは長波たちが岸波を迎えに来るまで続いたというー。

岸波 完

朝霜とケツコンしました。

某海域、昼ー

くみんなで帰投中く

朝霜「司令、大丈夫か？」

女提「うん、問題無いよ。ただボートが沈んじゃったなあ」ニ
ガワライ

清霜「清霜のせいでごめんね、司令官く」シユン

女提「気にしない気にしない♪ 清霜が無事なら問題無い！」ナゲ
ナゲ

清霜「へへ、ありがとう♪」ニパツ

霞「つたく……怪我しなかったから良かったけど、危ない橋を渡る
のは金輪際無しにしてよね」ジトツ

大淀「ル級の砲撃を装甲の薄い船……ましてやボートで庇うなんて
前代未聞ですよ」ジトツ

足柄「救命ボートがあつて良かったわね。運ぶのは私達だけど
……」ジトツ

女提「ごめんなさい……」ニガワライ

朝霜「まあまあ、司令だつて清霜を助けるためにこうなつたんだし、
許してやってくれよ」ヨウゴ

清霜「そ、そうだよ！ 司令官は悪くないもん！」

霞「んなの分かつてるわよ。でもそう何度も同じことされちゃた
まったもんじゃないわ」ギロツ

大淀「ボートもタダではありませんし、本当に危険ですから」ギロツ
足柄「勇敢なのは認めるけど、その度にこれじゃあねく」ギロツ

女提「以後気をつけます」フカブカ

霞・大・足『よろしい』

◇埠頭◇

霞「さて、無事に帰投ね。補給と入渠で良いのよね？」

女提「うん。各自でお願い〜」ノシ
霞「ん。じゃあみんな行きましょ」

足柄「んじゃ、お先に♪」

大淀「報告書は後でお届けします」ペコリ

清霜「司令官、助けてくれてありがとう！ お風呂行ってくるね〜♪」
ノシ

女提「ごゆっくり〜」ノシ

〜夫婦、埠頭に残る〜

女提「朝霜は行かなくて良いの？」

朝霜「おい……」ギロツ

女提「は、はい！」ピシッ

朝霜「危険なことすんなって言っただろ！ この馬鹿〜！」
ぽふっ

〜朝霜、提督に抱きつく〜

女提「心配掛けたね……」ナデナデ

朝霜「心配したよ！ すんげー心配した！ 清霜を守ってくれたのは感謝してるけど、それで司令が死んじまったら、あたいはどうすれば良いんだよ！」ブワッ

女提「ごめん……」ナデナデ

朝霜「目の前で愛してる人に死なれるとか、あたいはぜってえ嫌だかな〜！」グスグス

女提「うん、気をつけるね」ナデナデ

朝霜「もつとキツく抱き締めてくれよ……司令が生きてるって実感がまだ足んねえから……」ギューッ

女提「うん」ギユッ

朝霜「あたいを置いてっいたら、ぜってえ後追いかけて、あの世ですつとき使つてやる……」グスグス

女提「なら死ぬわけにはいかないね」ナデナデ

朝霜「あつたり前だ！」ウワーン

女提「」ナデナデ

朝霜「もつと撫でろ！」ギューッ

女提「はくい」ナデコナデコ

朝霜「馬鹿♡」グスグス

／ラブラブラブラブ

伊勢「他に誰も居ないか確認してからやってほしいなく」ニガワラ

イ

日向「今に始まったことじゃないだろ」ヤレヤレ

潮「ラブラブく／／／」ハウ

初霜「早く行きましよう／／／」ドキドキ

夕雲「アラアラ

卷雲「オオー

→演習帰り

そしてその日の夜――

◇提督&朝霜の部屋◇

く提督、料理中く

朝霜「司令、本当に大丈夫か？」

女提「大丈夫大丈夫。精密検査もしたし、どこにも異常は無かったから」

朝霜「そうだけどさく」

女提「ほら、油が飛ぶから少し離れて」

朝霜「やだ！」ヒシッ

く提督を後ろから抱き締める朝霜く

女提「ニガワライ

朝霜「ヒシッ

女提「せめて手を背中の方に隠して？ 飛ぶと火傷しちゃうから」

朝霜「分かった……」ギユッ

女提「エプロンの紐が解けちゃうよ」

朝霜「解けたって良いじゃん」

女提「そうだけどく」ニガワライ

くそんなこんなで夜ご飯完成！く

朝霜「司令特製のメンチカツ……」ジュルリ

女提「あはは、涎を拭きなさい」フキフキ

朝霜「早く食おうぜ！」キラキラ

女提「そうしたいけど……」ニガワライ

朝霜「？」

↳朝霜 on the 提督の膝↳

女提「これじゃあ食べにくいかな〜って」ニガワライ

朝霜「く〜」プクウ

女提（あら可愛い♡）キュン

朝霜「い、良いだろ、別に……あつ、今日、司令が無茶した罰だ！」

女提「今思いついたでしょ？」「あつ」て言ったもん」

朝霜「うるせえ！ 足を揚げるな！」

女提「揚げ足ね、揚げ足……」ニガワライ

朝霜「ぐぬぬ……」

女提「まあ仕方ないか……このまま食べましょ」人

朝霜「は〜い♡」人

↳頂きます！〜

女提「お味はどう？」

朝霜「すっげえ、ウマイ！」ガツガツ

女提「良かったわ」パクン

朝霜「もし司令が今日大怪我してたら、こんな風に一緒に飯食えな

かったんだよな……」

女提「そうだね〜」

朝霜「マジで気をつけろよな？ 司令が居ないとあたいは……あた

いは……」

女提「大丈夫」ギユツ

↳提督、朝霜をあすなる抱き↳

女提「こんなに側で想ってくれてる子が居るんだもの。一人になん

てさせないわ」ギユーツ

朝霜「つたり前だろ、馬鹿……」

女提「朝霜、こっち向いて顔上げて」

朝霜「？」クルリ

ちゅっー

朝霜「／／／」ボンッ

女提「約束のキスよ♪」ウインク

朝霜「気障なことしてんなよ、ったく／／／」キュンキュン

女提「さ、食べちゃいましょ」

朝霜「おう／／／」

朝霜（もっと強くなって、あたいがちゃんと司令を守ってみせる
……）

朝霜（こう見えてエースだからな♡）ニヒヒ

朝霜 完

早霜とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇工廠前◇

早霜（司令官に言われた艤装開発は完了）

早霜（司令官、今朝から体調が優れないみたいだし早く戻って次のお手伝いをしなきゃ……）

早霜（お昼も食欲無くて食べれてなかったし心配だわ……）

／ガヤガヤ＼

早霜（本館の方が騒がしいわね……どうしたのかしら？）

くすると本館から朝霜と清霜が飛び出して来たく

早霜「二人共どうしたの？ そんなに慌てー」

朝霜「あ、早霜！ 探したんだぞ！ 大変なんだ！」

清霜「司令官が倒れちゃったの！」

早霜「え……司令官が？」

清霜「医務室で明石さんに診せたら、過労からきた高熱だって！
今はとにかく熱を冷ますように言って言った！」

早霜「そう……今朝から体調が悪いと思ってたけど『これくらい何とかなる』って聞かなくて……」

朝霜「そうだったのか……とにかくあたいらは食堂行って追加の氷を貰いに行くから、早霜は一度医務室の方に向かってくれ」

清霜「司令官のところに早く行ってあげて！」

早霜「わかったわ。知らせてくれてありがとう」

くそして早霜は医務室へく

◇医務室◇

ガチャー

早霜「失礼します」

明石「あ、早霜さん」

早霜「明石さん、司令官の具合は……？」

明石「……三十九度を超える高熱よ。今は薬で眠ってるけど、今は安静にしてなきゃいけないから面会は出来ないわ。ごめんなさい」

早霜「そう、ですか……」

明石「辛いだろうけど我慢してね？」

早霜「はい……では、私は執務室に戻ります。よろしくお願いします」ペコリ

明石「ええ、任せて」ニコツ

ー。

◇執務室◇

早霜「司令官……」

早霜（司令官が倒れたのは私がちやんと休むよう言わなかったから……）

早霜（ごめんなさい……）

早霜「っ！」ブンブン

早霜（ダメよ私！ こんなこと司令官は望んでない！）

早霜（でも私に何か出来ることなんて……あつ）

早霜「大淀さん」

大淀「はい？」

早霜「少し鎮守府の外へ用事があるので出掛けます。後のことを頼んでもいいですか？」

大淀「どちらに？」

早霜「鎮守府の裏に小さな神社ありましたよね？」

大淀「……わかりました。こちらのことはお任せください」ニコツ

早霜「ありがとうございます！ 行ってきます！」

早霜、走って鎮守府裏の神社へ

◇鎮守府裏の神社◇

早霜（良く司令官とここにお参りに来てて、その時にこの神社は無病息災のご利益があるって司令官が言ってた……）

早霜（今の私に出来ることなんて祈願くらいしかないけど、何もし

ないでいるよりはマシだから！」

早霜「やっぱりここはお百度参りが効果的かしら……」

早霜「ここは鎮守府の側だから基本的に一般人は居ない。誰にも見られることはなさそうね……」

早霜「……後は裸足ね」

「早霜、裸足に」

「ジャリッ」

早霜「くっ……素足だと砂利が……」ズキズキ

早霜「でも司令官はもつと辛い思いをしてる……これくらい！」

「お百度参り開始」

「ー。」

早霜「十度目のお参り……どうか司令官の熱が下がりますように……」

「一度お参りする度に一つの砂利を参道に置き、数を数える」

「ー。」

早霜「これで……五十度目のお参り……っ」

早霜「痛っ！」ズキッ

「早霜の足の裏からは血が滲んでいた」

早霜「……今も司令官は高熱にうなされてる」

早霜「司令官は私を変えてくれた掛け替えの無い人……司令官がこれで良くなるなら、これくらいっ」

早霜「だからどうか少しでも早く回復してくれませうように……私のお祈りを聞き届けてください……」

「ー。」

早霜「はあ……はあ……ふう……これが九十度目のお参り……」

早霜「流石お百度参りね……根を上げてしまいそう……」

早霜「でも……っ……これも全て愛する司令官の為。だからどうか……どうか司令官をお助けください……どうか……」

「早霜はもう既に足の裏の感覚が無かった」

「ー。」

早霜「……っ」

早霜「これで百度目……終わり、ね」

〜早霜はお百度参りを終え、鳥居の側に座り込む〜

早霜「ふう……もうすぐ日が暮れるわね。結構長い時間が過ぎてたのね……流石お百度参りと言ったところかしら」フッフ

〜思わず微笑してしまふ〜

早霜（これで少しは司令官は良くなるかしら……早く戻って医務室の様子を見に行かなきゃ）

〜早霜はそう考えながらゆっくりと鎮守府へ〜

夕暮れ〜

◇医務室◇

ガチャ〜

早霜「失礼、します……」

明石「早霜さん!? 足を引きずってどうしたの!?!」

早霜「えつと〜」

〜早霜、明石に説明〜

明石「はあ……なんて無茶を……」

早霜「ごめんなさい。居ても立っても居られなくて……」

明石「とにかくドックへ入ってください。今度は早霜さんを治します」

早霜「わかりました……」

〜。〜

明石「足はもう治りました?」

早霜「はい、お陰様で」ペコリ

明石「では、提督のお側についててください。もう熱も下がりましたから」

早霜「本当、ですか?」

明石「はい♪ 今は顔色も良くなってぐっすり寝ています」ニコツ

早霜「バツ

〜早霜、急いで提督の眠るベッドへ〜

提督「すう……すう……」

早霜「司令官……ああ、司令官……」ポロポロ

明石「私は酒保の方に行きますね。何かあったら連絡を」ニコツ

早霜「ありがとう……ぐすつ……」ぎいつ、ました……っ」

明石「はい」ニツコリ

くそして二人きりにく

早霜「司令官……」ナデナデ

提督「……すう、すう……」

早霜「♡」クスツ

早霜（神様、ありがとうございます）

提督「ん……おお、早霜……」

早霜「お加減はどうですか？」

提督「俺は……ああ、そうか……心配を掛けてすまない」

早霜「もう過ぎたことです。今はゆっくりと静養してください」

ニツコリ

提督「ありがとう、早霜」ホツペナデナデ

早霜「ん……はい♡」スリスリ

早霜「元気になったらもう二度と無理をしないように、うんとお説教してあげますね♡」ホツペツンツン

提督「お手柔らかに頼むよ」ニガワライ

早霜「ダメです♡」ニツコリ

提督「随分頼もしくなったな……」アハハ……

早霜「今の私が居るのは司令官のお陰です♡ 私を変えてくれた恩人で、最愛の人です♡」

提督「……そうか。俺も早霜を愛しているぞ」ホツペナデナデ

早霜「嬉しいです♡ さあ、私が側に居ますのでどうかおやすみになつてください♡」ナデナデ

提督「ああ、そうさせてもらうよ」ニコツ

早霜「おやすみなさい♡」チュツ

こうして提督は早霜のお陰で次の日には全快した。

そして早霜の愛のお説教をたんと味わったそうなり。

早霜
完

秋霜とケツコンしました。

某鎮守府、深夜ー

◇居酒屋・ほうしよう◇

秋霜「でさく、司令官ってばめっちゃうちのことすこすこだからく、
毎晩毎晩大変なんだく♡」デレデレ

く奥様、出来上がってますく

早霜「ふふつ、そうなの。そんなに秋霜さんは司令官のことが好き
なのね」

清霜「やっぱり秋霜姉様って司令官好き好きなんだねく」

く今宵はこのメンツで飲んでいるく

秋霜「ちよちよ、待って待って。なんで？　うちたった今司令官が
どれだけうちのこと好きかって話をしたばっかじゃん？　なんでそ
うなる訳？」

清霜「だつて……ねえ？」

早霜「ねえ」ニコニコ

秋霜「はあ？」

鳳翔「ふふふ、お二人は秋霜ちゃんの仕草や態度で察したみたいで
すよ」

秋霜「あ、え、そうなんですか？　というか、鳳翔さんもキヨキヨ

とハヤハヤと同意見な感じ？」

鳳翔「はい、そう思います」

秋霜「どの辺が？」

鳳翔「そうですね……私が聞いていた限りですが、『髪をいつも綺麗
だと褒めてくれる』、『可愛いと毎朝告げてくれる』、『毎晩寝る前は愛
の言葉を囁いてくれる』、『軽く小突いて来る時の苦笑いした顔が好
き』……どれを取っても惚気にしか聞こえませんか」

秋霜「……ふえ……／＼／＼」ボンッ

早霜「あら、見事なゆでだこ」フフリ

清霜「惚気ながらお酒いっぱい飲んでたもんねく♪」ケラケラ

秋霜「……しよ、しよんなこと……ないもん……／＼／＼」ウツム
キ

鳳・早・清『(かわいい)』

秋霜「だ、だつてさ、司令官がそれだけうちのこと好きだから、そ
うやってくる訳っしよ？／＼／＼／＼ だもん、うちが司令官にべた惚
れつてことじゃなくて……司令官がうちにべた惚れなんだつて話に
なるっしよ……？／＼／＼」

早霜「それも言えるけど……うん、なんて言えば伝わるのかしら
？」

清霜「あのねあのね、秋霜姉様が司令官の話をしてる時つてね、姉
様の周りにハートマークがいっぱい飛んでるような感じになるの！」
早霜「ああ、それだわ。そうなの。まるで一面お花畑のところにい
るといふか、満天の夜空をお散歩してるというか……とにかくメルヘ
ンチックなオーラがぷんぷんと、ね」

清霜「うんうん。さっきの寝る前のチュウの話とかさ！ もうその
時のこと思い浮かべてぼわわーんつてお顔になつてたし！」

早霜「無意識なんだろうけど、惚気話中に指輪へ何度もキスしてた
し……」

早・清『あく、司令官のことが好きなのね(なんだ)くつて凄く感
じた(わ)』ニッコリ

秋霜「……くきゆう……／＼／＼」

く奥様、恥ずかし過ぎてテーブルの下に隠れるく

ガラガラー

朝霜「こんばんはく」ノシ

鳳翔「あら、いらっしやいませ」

朝霜「あ、ごめん鳳翔さん。あたい客として来たんじゃないんだく」

鳳翔「お顔を見せてくれるだけで結構よ」ニッコリ

朝霜「えへへ、今度いっぱい食べたり飲んだりするな……で、秋霜
来てるよな？」

鳳翔「はい、今テーブルの下でダンゴムシさんになってますけど」フ
ツ

鳳翔「分かりました」ペコリ
早霜「ご馳走様です」ペコリ

(色んな意味で)

清霜「ありがと、司令官！ あとあと、秋霜姉様のことあんまり怒らないでね！ 秋霜姉様は司令官のことが好きで好きで仕方なくて、清霜たちにその好き好き自慢してただけだから！」

提督「分かった」

(清霜たちにあとでスペシャル甘味券を贈ろう)

秋霜「あああああ／／／／」

朝霜「んじゃあたいは持ち場戻るぞ」ノシ

—————

◇鎮守府内・帰り道◇

提督「随分と楽しんだみたいだな」

秋霜「……はい、とても……／／／／」

提督「俺のことが好きで好きで仕方ないんだってな？」

秋霜「……はい、それはもう、とても……／／／／」

提督「そんなに恥ずかしいことか？」

秋霜「……はい、それはそれは、とても色々……／／／／」

提督「そうか。ならいいことを教えてやろう」

秋霜「？／／／／」

提督「そのお相手も秋霜のことが好きで好きで仕方なくて、いても立ってもいられなくて、明日も早いのに探しに出してしまう程なのだから」

秋霜「っ♡」キュン

提督「お互い、恥ずかしいな」ニッコリ

秋霜「……しゅれくか〜ん〜、しゅきい♡」ギューツ

提督「ははは、しっかり掴まれ」

秋霜「離さない♡」

提督「そうだ。離れてもいいが、必ず俺の隣に戻って来い。俺の隣は秋霜だけの場所だ」

秋霜「はいいいい♡」オメメハート

提督「しじみの味噌汁も作ってあるからな。温め直してやるから歯磨きする前に飲むといい」

秋霜「司令官のお膝の上でのみゆく♡」

提督「この甘えん坊め」ニッコリ

秋霜「えへえへっ♡」デレデレ

次の日、秋霜は見事に二日酔いとなったが、提督に手厚くお世話されたことで余計にデレデレ度が上がったそうなのー。

秋霜 完

清霜とケツコンしました。

某攻略海域、昼下がりにー

艦隊帰投中

清霜「ね〜ね〜、鎮守府にまだ着かないの〜？ ね〜ね〜ね〜！」

霞「あ〜、もう、っさいわね！ まだ着かないって何度も言わせんな！」ウガー

朝霜「まあまあ、あたいからも言っとくからさ。そういきり立つなよ」ドオドオ

足柄「鎮守府海域に入ってからもう十九回目ね」ニガワライ

大淀「まあ清霜ちゃんにとっては早く会いたい方が居ますからね」フフ

初霜「大好きな提督が待ってますからね」クスクス

清霜「は〜、早く着かないかな〜。帰ったら司令官にぎゅーっしてもらうんだ〜♡」エヘヘ

朝霜「分かったから少しは落ち着け」ペシッ

清霜「うへへへ〜♡」オメメハート

霞「つたく本当に馬鹿なんだから」イライラ

初霜「まあまあ、霞ちゃん」ニガワライ

足柄「まあ、霞としては複雑よね〜」

霞「何がよ？」ギロツ

足柄「何ってそりや、霞も提督が好きだからじゃない♪」

霞「な!! 何訳の分かんないこと言ってんの!! ぶっ飛ばすわよ

!!」ワタワタ

清霜「そうなの、霞ちゃん？」

霞「違うわよ！」

足柄「そうよね〜……大切な友達と大好きな提督はもうケツコンしてるもんね〜」ニヤニヤ

大淀「つまり……霞ちゃんは提督が好き。清霜ちゃんは友達。そして好きな人と清霜ちゃんがケツコンした……なかなか凄い図ですね」

ウーン

霞「変な解説入れるな！ あのクスも清霜も好き！ そんな二人がケツコンした！ なら私はそれを祝福する！ それだけよ！」

朝霜「霞……お前、マジでいい女だ。あたいが男だったら惚れてたよ」ナデナデ

初霜「ご立派です霞ちゃん」ナデナデ

清霜「ありがとう、霞ちゃん。清霜達、必ず幸せになるから！」
ギューツ

霞「く／＼／／／」

霞「あゝ、もう！ 馬鹿ばかりいいいいいいいい！ カオマツカ
く霞の叫びが海に響き渡るく

◇埠頭◇

清霜「着いたく♪」バンザーイ

霞「疲れた……」グツタリ

朝霜「あんだだけ大声出したりや余計な」ニガワライ

初霜「」ニガワライ

足柄「楽しかったく♪」キラキラ

大淀「」クスクス

清霜「執務室に直行！」ダツ

霞「待った！」ガツツ

清霜「うぐつ」ガクツ

霞「あんだねく……あたしが旗艦なのよ？ あたしの指示が無いのに勝手な行動しないでくれない？」EXボスオーラ

清霜「は、はい！」ガクブル

霞「早く会いたいの^{ッス}は分かるけど、先ずは入渠と補給。これは司令官から言われてるの」

清霜「はくい」

霞「それに……好きな人の前にボロボロのまま行ったら心配させちゃうし、好きな人の前では綺麗で居たいでしょ？」ネ？

清霜「霞ちゃん……」

足柄（女として負けた気がする……）ガーン
大淀（女子力が違い過ぎる……）ガーン
朝霜（すげえ、霞かつけえ〜！）カンドウ
初霜（霞ちゃん、ご立派です！）カンドウ
霞「みんなも入渠と補給、行くわよ！」ニツ
朝霜「おうよ♪」
初霜「はい！」
足・大『は〜い……』ズーン
清霜「……………」
霞「何ボケツとしてんの、早く行くわよ」グイッ
清霜「あ、う、うん！」
〜入渠&補給を済ませて執務室へ〜

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞ〜」

カチャー

霞「報告書持ってきたわよ」つ報告書

清霜「ただいま〜」

提・霞『(?)』

提督「ああ、ありがとう。後は休んでくれ。お疲れ様」

霞「ケイレイ

パターンー

提督「清霜、何かあったか？」

清霜「……………」ウツムキ

◇執務室外・ドア付近◇

霞（何黙ってんのよ清霜……）コソツ

→心配で様子を見ている

◇執務室内◇

提督「話す気がないなら無理には聞かない。さ、おいで」チヨイチヨ

イ

清霜「うん……」

ぽふつ↑清霜、提督の腕の中へ

提督「お帰り、清霜」ナデナデ

清霜「うん……」ギューツ

提督「」ナデナデ

清霜「……ねえ、司令官」

提督「どうした?」

清霜「どうして清霜とケツコンしてくれたの?」

提督「唐突だな……そんなの好きだからに決まってるだろう?」

清霜「他に司令官のことを好きな子がいても?」

提督「勿論だ。その気持ちは嬉しい……が、俺はジュウコン出来るほど器用じゃない。なら一番愛している清霜とケツコンするのは当然だ」

清霜「清霜よりもっともいい子いるよ! 霞ちゃんとか!」

提督「霞?」

◇執務室外◇

霞(あいつ……後でぶん殴る!)プルプル

◇執務室内◇

提督「そうか……霞が俺をな……」

清霜「霞ちゃんは清霜なんかよりとっても頼りになるよ! だからー」

提督「だから霞とケツコンしろってか?」

清霜「……うん」

提督「馬鹿言うな」ペシツ

清霜「っ!」ビクツ

提督「それで俺が霞とケツコンしたら、霞はどんな顔をして、お前に会えばいい? どんな気持ちで過ごせばいい?」

清霜「……それは……」

提督「あいつはそんなことをされてまで、ケツコンしたいなんて言わない。清霜も良く知ってるだろう?」

清霜「うん」

提督「なら霞に一番いいのは俺達がずっと仲良く過ごすことだ。それに俺はお前と以外ケツコンするなんて考えたくない」

清霜「司令官……」トクン

提督「これからもずっと仲良く過ごそう。愛してる、清霜」ギユツ
清霜「清霜も……清霜も司令官が好き！ いっぱいいっぱい愛してる！」ヒシッ

提督「そうだ。遠慮なんてするな。お前はお前の感じるままでもいいんだ」ナデナデ

清霜「うん♡ 清霜はずーっと司令官を愛してるから♡」スリスリ

提督「ああ、嬉しいよ」ナデナデ

◇執務室外◇

霞（一件落着ね……つたく馬鹿なんだから）クスクス

後日――

清霜「霞ちゃん！ 霞ちゃん！」

霞「何よ？」

清霜「あのねあのね♡ 昨日司令官とね♡」デレデレ

〜清霜、惚気話中〜

霞（確かに仲良く過ごすところを見せてもらってるわ……）

霞（でもね……）

清霜「んでね♡ 司令官ってね♡」デレデレ

霞「ウザいのよおおおおお！」

清霜「えへへ♡ それでね♡」

この清霜と霞のやり取りは鎮守府の名物になったそうなる。

秋月とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇提督&秋月の部屋◇

秋月「ふんふんふん♪」

♪洗濯物取り込み中♪

秋月「これを畳んだらお夕食の準備しなきゃ♪」

♪洗濯物畳み中♪

秋月「今日は特売で買った牛缶を贅沢に一缶丸々開けちゃお♪」

コンコンー

秋月「？ はあい！」

ガチャー

提督「ただいま、秋月」ニコツ

秋月「え、司令？ お帰りなさい、早かったですね！」

提督「ああ、今日は午後から海が荒れてな……危険だったから午後からの任務は中止にしたんだ」

秋月「そうですか……それは大変でしたね」

提督「大変ではあるが嫁に早く会えるなら何でも良いさ」ギョツ

秋月「も、もう……／＼／＼」キユン

♪提督着替え中♪

秋月「今お夕食の準備をしますからね」ニコニコ

提督「あ、ああ」

秋月「ルンルン

提督「……なあ、今日のおかずはなんだ？」

秋月「今日は特売で買った牛缶です♪ なんと一缶丸々ですよ！」

二パツ

提督「そ、そうか……」

(ケツコンしてから毎日缶詰めなんだが……) ↑ケツコンして

一ヶ月

秋月「♪」ニコニコ

提督（そろそろちゃんとした料理を出させるか……）

「秋月、ちよつと良いか？」

秋月「はい？」

提督「今日は一緒に作ろう」

秋月「え」

提督「夫婦で一緒に台所に立つのが夢だったんだ」

秋月「……実は私もです／＼／＼」ニコツ

◇キツチン◇

く夫婦料理開始く

提督「今日はこの牛缶を使った料理をしよう」

秋月「はい！」

く夫婦料理中く

提督「牛缶を使ったビーフカレーの出来上がりだ！」

秋月「おお！」キラキラ

提督「どうだ？ アレンジ一つでこんな料理まで出来るんだ」

秋月「勉強になりました！ 次は別の缶詰めで他のお料理を教えてください

ください！」

提督「あ、ああ」

（缶詰めは必須なのか……）

◇リビング◇

く夫婦食卓を囲むく

提督「いただきます」人

秋月「いただきます！」人

秋月「あむ……んく♪ おいひいでふうく♪」キラキラ

提督「ははは、それは良かった」ニコニコ

秋月「司令は凄いですね。軍略も見事で家事も私よりお上手で……

私の立つ瀬が無くなってしまいます」

提督「秋月は真面目だからな……君とケツコンしたことでもこんなにも幸せなんだ。そう寂しい顔をするな」ナデナデ

秋月「司令……／＼／＼」

提督「君と出会って恋をして、こうして結ばれた……それ以上の幸

せは秋月、君と一緒に得たい」

秋月「私もです……／＼／＼」キュンキュン

提督「今の一時も幸せだがな」ニコッ

秋月「ふふ、幸せ過ぎて怖いですね／＼／＼」ニコニコ

く夕食後の夫婦団欒く

提督「今度から料理は一緒にやるか……」ヒザマクラー

秋月「良いんですか？ 仕事の疲れとかあるんじゃないや……」ミミカ

キー

提督「だからだ。仕事中は秋月と離れ離れだから、帰った時くらい

ずつと一緒に居たいじゃないか」

秋月「……／＼／＼」カア

提督「秋月？」

秋月「司令は私を喜ばせる事ばかり言うんですね／＼／＼」

提督「思った事を言っているだけだ」

秋月「それはそれでまた嬉しいです／＼／＼」ニコニコ

提督「秋月が喜ぶならこつちも嬉しくなるな」ニコッ

秋月「ふふ……」

提督「はは……」

◇バスルーム◇

くお風呂タイムく

秋月「お湯加減はどうですか？」

提督「ああ、最高だ」

秋月「良かつです♪ では、私も失礼しますね」チャポン

提督「秋月は綺麗な肌をしているな」シミジミ

秋月「司令が沢山愛でてくださいますから」ニコニコ

提督「嫁を愛するのは当然だろ？」

秋月「それが一番効果があるんですよ♪」フフ

提督「ではこれから愛でよう」ナデナデ

秋月「はい、沢山愛でてください／＼／＼」エヘヘ

◇リビング◇

提督「風呂上がりはやはり酒だな」オカワリ

秋月「飲み過ぎないでくださいね」トクトク

提督「そう言いつつ注いでくれるじゃないか」ゴクツ

秋月「司令はこれくらいでは酔いませんからね」ニコツ

提督「酔わないよう注意はしているからな」ゴクツ

秋月「そうですね……司令は酔うと何かと強引ですから」

提督「そうみたいだな……」

秋月「初めて司令が酔った時は朝まで寝かせてくれなかったので大変でした／＼／＼」キャツ

提督「そ、そうか……」

秋月「はい。でも強引に迫られるのもそれはそれでときめきました
／＼／＼」ポツ

提督「あいにく、酔うと記憶が……」

秋月「知ってますよ。その次の日は凄く謝ってもらいましたから」

ニコニコ

提督「そこは覚えている……」

秋月「ふふふ」トクトク

提督「／＼／＼」ゴクツ

◇ベツドルーム◇

提督「では寝るとすrー」

秋月「司令……／＼／＼」つYesはい枕

くYes向けく

提督「おいで」ニコツ

秋月「はい／＼／＼」ギユツ

くその後めちやくちや（ryく

秋月 完

照月とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&照月の部屋◇

照月「提督……」

照月「提督っ！ 起きてよ〜！」ユサユサ

照月「朝御飯出来たよ〜？」ユサユサ

提督「（☒ω☒）」スヤア ムニヤムニヤ

照月「もう、朝起きないのはケツコン前からずっと直らないんだから♪」クスッ

のしつ↑照月、提督にのしかかる

提督「ん〜……」Zzz

照月「こらく、起きろ〜っ」ホッペツンツン

提督「んへへ〜……」Zzz

照月「幸せそうに寝ちやつて……」ニガワライ

照月（でも幸せだなあ……こういうの……♡）

「まさに夫婦って感じ♡」キヤツ

提督「そりやあ夫婦だからな」キリツ

照月「きやあ!?! お、脅かさないですよ！ つてか起きてたならちやんと一回で起きてよ!」

提督「ん〜？ だってお嫁さんに起こしてもらおうのって男の浪漫じゃん？」

照月「ロマンって……起きたなら朝の支度して。朝御飯出来てるから」

提督「うい〜」

〜提督、洗面所へ向かう〜

照月（ふふ、ああいう所も前から変わらないなあ♡）

〜夫婦揃って頂きます!〜

照月「今日は大根の味噌汁とベーコンエッグと各種の浅漬けにしたの♪」

提督「お、出会った頃の缶詰め料理が嘘のようだよ！」

照月「いつまでもあの時の照月じゃないんだからね！」プンブン

提督「いやあ、だってケツコン前はレーションが殆どだったからな
よ」ニガワライ

照月「むう、そんな意地悪言うなら食べないで！」プイッ

提督「うわあ、この味噌汁うつまよ！」ガツガツ

照月「ジトーツ

提督「照月、味噌汁お代わりよ」つお椀

照月「つ……はよいよ／＼／＼」

(前からホント何も変わらないんだから……／＼／＼) ドキドキ

提督「よよ」モグモグ

照月「よよ」ニコニコ

よご馳走様でした！よ

提督「さあてよ、嫁の愛情たっぷりの朝食を堪能したし、今日も気
合いを入れて仕事するかよ！」ノビー

照月「へへよ」 照月も提督の補佐、しっかりするからねよ」ニパツ

提督「おう、頼むぜよ」ニカツ

よそして夫婦仲良くよ出勤！よ

◇鎮守府本館内・廊下◇

照月「ねえ提督、お昼はどうする？ 食堂行く？ それとも照月が

何か作る？」

提督「んよ……食堂がいいんじゃないか？ 今井フェアとかいうの
やってるじゃん」

照月「あくやってるねよ。なら天井食べようかなよ」

提督「はは、まだまだお昼じゃないつのに、照月は食いしん坊だ
なよ」

照月「なつ、いいでしょ、別に！」

提督「俺は悪いなんて言っていないぞよ」ハハハ

照月「むうよ／＼／＼」

照月「だって……」

提督「？」

照月「だって、大好きな人と食べる御飯って特別な感じがして、いつもより美味しいんだもん♡／／／」モジモジ

提督「ズキューーン

照月「提督と一緒にだから照月は御飯が好きなんだからね？♡」

く上目遣い＋首傾げ＋真っ直ぐな眼差し

提督「そ、そうだな…俺も照月と食べる飯は特別うまいよ／／／
／」ナデナデ

照月「うん、そうだよね♡」へへへ

提督（見事なカウンター喰らったぜ／／／）ドキドキ

照月「♡」ニコニコ

「今日も仲良く出勤ですね、お二人共♪」

「少し仲が良過ぎるけどね…」クスクス

照月「あ、秋月姉、初月！ おはよう♪」ノシ

提督「お、おはよう」ノシ

秋月「おはようございます、仲良しご夫婦さん」ニコリ

初月「おはよう、おしどり夫婦さん」フフフ

照月「もお、変な言い方しないでよ／／／」

提督「ニガワライ

秋月「別に変な言い方じゃないわよ」クスクス

初月「そうだ…朝っぱらから夫婦仲良く腕を組んでの出勤中に、廊下のだ真ん中でいちやいちやしてるんだからな」フフフ

照月「そ、それは、つい、流れで…／／／」ウツムキ

提督「おいおい、俺の嫁さんをイジメないでくれよ」ハハハ

秋月「ふふ、ごめんなさい♪」

初月「そうだな。奥さんをいじめるのは旦那さんの特権だからな」
クスクス

提督「そうとも！ 妻を愛でていいのは夫である俺だけだ！」フンス
フンス

照月「もお、やめてよ！ みんなしてえ！／／／」
くそしてからかわれた後、やっと執務室へく

◇執務室◇

ガチャー

提督「さあてゝ、やるかゝ！」

照月「」

提督「おい、まだ拗ねてるのか？」

照月「ふんだっ」プイツ

提督「悪かったつてゝ……許してくれよゝ」ナデナデ

照月「撫で撫でだけじゃっ」ツーン

提督「じゃあどうしたら許してくれるんだ？」

照月「自分でよく考えて！」フンツ

提督「うゝん……」

ピコーン↑提督、何か閃く

提督「照月……」アゴクイツ

照月「え」

ちゅっ♡

照月「!?!?!」

提督「どうだ？ 機嫌は直ったか？」ナデナデ

照月「バカ……いきなり過ぎるよお♡／／／／」テレリテレリ

提督「照月は俺とのキスが大好きじゃないか」

照月「そ、そうだけどお♡／／／／」アウアウ

提督「ん？ もっとしてほしいってことか？」

照月「ちっ、ちが……くはないけどおゝ／／／／」

提督「あく、ごめんな。抱きしめてからが良かったのか」ギユツ

照月「はう♡／／／／」ギユーツ

提督「さつきはからかってごめんな」チュツ

照月「あ……んんっ……ちゅっ……ふ……っ……ちゅっ……んはあ

……ふう♡」トローン

提督「機嫌は直った？」ナデナデ

照月「もうとつくに直ってるもん……バカゝ♡／／／／」デレデレ

提督「悪い悪い……じゃあ仕事に取り掛かるか」

照月「あ、待って」グイッ

提督「ん？」

照月「あと少しだけぎゅうってしてほしい、なんて♡」テヘヘ

提督「（。▽。）…」グハッ!!

照月「て、提督!？」

提督「だ、大丈夫だ…問題無い」ギユッ

照月「な、ならいいけど…ん♡」ギユッ

提督「いちいち可愛過ぎるんだよ、照月は／／／」

照月「いひひ♡ 提督はいつも素敵だよ♡」スリスリ

そして夫婦は散々いちやついた後、やっと仕事へ取り掛かるのであったー。

照月 完

涼月とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

涼月「提督、言われた資料の整理が終わりました。次は何をすればよろしいでしょうか？」

提督「ああ、ありがとう。それならー」

ポッポー、ポッポー、ポッポー

涼月「あら、もう一五〇〇になるのですね……」

提督「みたいだな。涼月といると時間の流れが早いよ」

涼月「ふふふ、またそんなことを言って……」

提督「仕方ないだろ。仕事でもこうして同じ時間を過ごせるだけで、こんなにも満たされてるんだから」ナゲナゲ

涼月「あ……うふふ♡」

提督「君の笑顔を見ると、こちらまで笑顔になれる。本当に幸せだと心から思うよ」

涼月「提督は私を幸せにしてくれることばかり言うのですね……ずるいです♡／／／」ドキドキ

提督「これは失敬……さ、そろそろ秋月たちも執務室に戻ってくるだろう。お茶の準備をして出迎えてやろう」

涼月「は〜い♡」

それからー

秋月「失礼します。司令、頼まれた艦装開発を終えて戻って参りました！」ケイレイ

照月「こっちはその報告書ね♪」つ報告書

初月「戻ったぞ」

提督「うむ、預かるよ。俺は早速これを確認するから、みんなはお茶でも飲んで休んでくれ」

涼月「どうぞ」ニッコリ

くこうしてみんなで休憩タイムく

提督「おお、初月凄いいじゃないか。ソナーを三つも立て続けに開発成功だなんて」

初月「たまたまだ、たまたま。それよりお前はしっかりと仕事しろ。いつもいつも涼月姉さんに迷惑を掛けてー」

涼月「お初さん！ 提督に”お前”だなんて！ その呼び方は不敬だと、前にも注意したでしよう!？」

初月「あ↑忘れてた

照月「まあまあ、涼月。初月は親しみを込めて言ってるんだからそう目くじらを立てる必要ないって」

涼月「照月姉さん……」

秋月「傍から聞けば不敬だけだね……。でも司令と初月の仲だからこそ呼べるということでもあるわ」

涼月「秋月姉さんまで……」

提督「初月もちゃんと公私で使い分けてるし、俺は気にしないよ」

涼月「っ」ムツ

→涼月、提督の元へ

涼月「そもそも、提督がそうやってお初さんを甘やかすから直らないんですよ!？ もっと私たちの先頭に立つ身であるとお自覚ください!」

提督「え、おお……」

涼月「だいたい、提督はいつもいつもー」

くどくどー

照月「あちやく、また涼月のお説教スイッチが入っちゃったね」ニガワライ

秋月「ああなると長いよね……心から心配してのことなんでしようけど」ハア

初月「あれだけ説教してる方が不敬なんじゃないか?」

秋・照『矛先がこっちに向いちやうでしょ!』シート

涼月「私だって本当ならば愛する提督にこのようなことは言いたくありません。しかし愛するからこそ私はこうして提督の為を思いー」

提督「涼月」

涼月「……何でしょうか？」

提督「そろそろ俺が準備しておいたふかし芋が出来上がる頃だ。簡易厨房から持ってきてくれないか？ 勿論、俺たちの分もな」

涼月「はい、喜んで！♡」コロッ

く涼月、ルンルン気分で執務室を後にく

提督「計画通り……」ニヤリ

初月「あれは小悪党がする顔だ」

照月「夕張さんから借りたならノートのキャラみたい」

秋月「というより、涼月もチョロすぎる気がするわ」

初月「お前、いつの間にかし芋の準備なんてしてたんだ？」

提督「秋月たちを待つてる間にちよちよつと」テヘツ

初月「……………」

提督「ねえ、その心底汚らしい物を見たかのような視線だけで訴えるのやめて」

照月「提督の業界ではご褒美じゃないの？」ケラケラ

提督「俺はそんな趣味はない！」

秋月（どんな業界なのかな？）↑純粹

くすると涼月がふかし芋を持ってきたく

涼月「皆さん、持ってきましたよ♪」

全員『はくい』

涼月「秋月姉さんは塩でよろしかったでしょうか？」

秋月「うん、ありがとう」ニコッ

涼月「照月姉さんはマヨネーズ、でしたよね？」

照月「そだよ、ありがとう♪」

涼月「それでお初さんがバターね」

初月「ん、ありがとう」

涼月「提督は胡椒ですね♡」

提督「おう、サンキュ♪」

初月「？ 涼月姉さんの分はどうしたんだ？」

提督「ああ、俺と涼月はいつも半分こしてるからな。これで問題な

いんだ」

照月「ひやく、相変わらずラブラブ♪」

秋月「こら、照月」

涼月「うふふ♡」

「みんなでいただきます!」

照月「はふはふ……んく、ホクホクでおいしいく」ホワワーン

秋月「艦娘になってこんなに贅沢が出来るなんて、幸せです!」モグモグ

初月「食事もおやつも好きなだけ食べられるなんて、本当に幸せだよな」モツモツ

提督「今は戦時中でも、そういったことは気にするなよ? みんなが腹いっぱい食べるように、そしてみんなと一緒に戦争を終わらせるために提督俺がいるんだからな」

涼月「く♡」オメメハート

照月「……ていうかさ、さつきから気になってたこと訊いていい?」

提督「どうした?」

秋月「さつきから涼月が司令のお膝に乗って、黙々と司令のお口へお芋を運んでいるんですけど……」

提督「ああ、もぐもぐ、これか? もぐもぐ。これはだな、もぐもぐ」

初月「喋るか食べるかどっちかにしろよ」ニガワライ

涼月「これは私からお願ひしたことなんです♡」

提督「もぐもぐもぐもぐ」コクコク

秋・照・初『?』クビカシゲ

涼月「この前、テレビで恋人同士がこうやって食べさせているのを見て、私もやってみたいなって思ったんです♡」

提督「もぐもぐもぐもぐもぐもぐ」コクコク

涼月「それでこの前、試しにやってみたのですが、何だかこう……食べている提督が可愛くて♡」イヤンイヤン

提督「もぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐ」コクコク

涼月「なので、これはもうやめられません♡」エヘヘ

提督「もぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐもぐ」コクコク
秋月「な、なるほど……」

照月「お、お幸せにね……」

初月（というか、もう芋が無くなるぞ……）

涼月「あら、お芋がもう無くなってしまいました！」

提督「ごっくん……そうか」

涼月「ダメですねえ、提督が可愛いくてつい我を忘れてました」シヨ
ポーン

提督「涼月」

涼月「はい？」

提督「お口直し」

涼月「っ……はい、喜んで♡」

ちゅっ♡

秋月「（ ㇗ ）。。。」

照月「（*。▽。 ） ≡ 3」

初月「（ 〃 〃 〃 ）」

その後、しばらく続いた夫婦のチュツチュタイムを三人の姉妹はただ見つめていた。

その間に口へ運ぶ芋は砂糖菓子のように甘かったというー。

涼月 完

初月とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

コンコンー

ガチャーー

秋月「失礼します。司令、本日の対空訓練の詳細と結果を記した報告書を持って参りました」ケイレイ

照月「照月も手伝ったよ」ノシ

提督「ご苦労。こちらで預かる」

照月「おやおやく、お邪魔しちゃったかな？」ニヤニヤ

秋月「やめなさい照月」ニガワライ

提督「はは、いつものことさ」

照月「幸せそうに寝ちゃって」ニコニコ

秋月「前から執務机より、ソファーでの作業が当たり前になってましたからね」フフ

提督「こつちの方が初月と一緒に座れるからな」

初月「すう……すう……」ギューツ

く初月、提督の肩にもたれてお昼寝中く

秋月「でも秘書艦なのにこんなに堂々とお昼寝するのもどうかと……」

照月「秘書艦だけどお嫁艦でもあるからね♪・特権だよ特権♪」

秋月「でも、他の皆さんにも示しが……」

照月「示しも何も、提督と初月がラブラブ夫婦だってみんな知ってるんだから平気だよ」アハハ

秋月「はあ……まさか初月が心を許した相手にはこんなに甘える子だったなんて思いもなかったわ」ヤレヤレ

提督「俺も最初は驚いたけど、やっぱり嬉しさの方が強かったな……好きな子にこんなに甘えてもらえて幸せだよ」ニコツ

照月「はいはい、ご馳走様」ニシシ

秋月「司令も初月も程々にしてくださいね？ 仲良く過ごすのはいいですが、やるべきことはちゃんとやってもらわないとー」

照月「はいはい、秋月姉が言わなくてもちゃんと二人はしっかりやってるでしょ？ ほら、もう行こ？」グイグイ

秋月「な、もう！ 提督、失礼しますね！」

照月「んじゃね〜♪ 初月もしっかりね〜！」

パターンー

提督「ははは、バレていたみたいだぞ？」ナデナデ

初月「〜／／／／」ハウ

提督「途中で目が覚めてたよな？」クスツ

初月「うん……／／／／」ウツムキ

提督「でも話題が話題だから起きるに起きれなかったんだよな？」

ホツペツンツン

初月「わかってるなら言わないでくれ／／／／」アウアウ

提督「何もみんな俺と初月の仲は知ってるんだから気にしなきやいののに」ナデナデ

初月「ぼ、僕にだって恥じらいはあるんだ／／／／」ゴロゴロ

提督「でもみんな俺の肩や膝枕でお昼寝する初月は目撃してるぞ？ 青葉だって当たり前過ぎて写真にすら撮らないんだからな」クスクス

ス

初月「うう〜／／／／」

提督「恥ずかしいけど俺の側でお昼寝するのは止められないと言ったところかな？」ニヤニヤ

初月「わ、わかってるなら言わないでよ／／／／」プイッ

提督「はは、すまんすまん。初月が顔を真っ赤にしてる姿が可愛くてな〜」ナデナデ

初月「相変わらず調子のいい奴だな／／／／」スリスリ

提督「そんな調子のいい奴とケツコンしたのは誰だ？」オデコツンツン

初月「〜……今日はなんでそんなにイジワルなんだ？ もっといってもみたいに優しくしてくれ……」ウウー

提督「悪い悪い♪ 好きな子には意地悪したくなる男心なんだよ」
ナデナデ

初月「そんな男心要らないよ……」プクウ

提督「ほら、いつもみたいに撫でてやるから機嫌直せ、な？」

初月「っ!?!♡ し、仕方ないな……そういうことなら許してやる
……僕は寛大だから♡／／／／」キラキラ

提督（口では嗚呼言いながら、目は期待で爛々じゃないか……可愛
い奴め）

「ほら、おいで」オヒザポンポン

初月「うん♡」コロロン

→初月、提督の膝枕で仰向けに寝る→

提督「初めて初月と会った時はこんな仲になるなんて思いもしな
かったな」ナデナデ

初月「僕をこんな風にしたのは提督だろ？ 責任とってくれないと
困る」ジト→

提督「いやあ、責任とかの問題じゃないだろう？」ニガワライ

初月「提督が僕にこんな気持ちいいことを教えたくせに？」ジト
ト→

提督「いや……まさか初月がそんなに気に入るとは思わなかった
から……」

初月「ふーん」ジーツ

提督「あはは」カタイエミ

初月「……まあいい。それよりそろそろ頭じゃない場所を撫でてく
れないか？」

提督「ん、了解だ。今日はどこから撫でる？」

初月「やはり言わせるのか……／／／／」クツ

提督「おねだりは大事だぞ？」ニコニコ

初月「お前は本当に変態だな……／／／／」

提督「初月の前だけだ」キリツ

初月「僕以外にも言ったら二度と口利かないからな？」ムツ

（多分僕の方が寂しくて結局口利いてしまっただろうけど……／

／／／

提督「そんなことになったら寂しくて嫌だからしないさ。もともとする気なんてないがな」アハハ

初月「っ……そうか、ふふ♡ そうだよな♡」キュンキュン

(やはりお前も僕と同じ思いなんだな……♡／／／)

初月「提督……」クイクイ

提督「ん？」

初月「今日は、その……お腹から撫でてくれないか？♡」

提督「はいよ」オナカナデナデ

初月「くうくん♡」ゴロゴロ

提督「本当の犬みたいだな」アハハ

初月「し、仕方ないだろ!?!／／／／ お前の撫でる力加減が……ん

♡ 良過ぎるんだ……はふ♡／／／／

提督「可愛いから何も問題ないさ」オナカナデナデ

初月「く……ん♡ なら、いい♡」ゴロゴロ

提督「愛してるよ、初月」オデコチュツ

初月「その台詞なら唇に欲しかったな♡」

提督「こうか？」チュツ

初月「ん♡ ちゅ……ちゅ……っ、はあ、んあ……ちゅ……」

提督「ちゅっ……んっ……っ……」

初月「ちゅっ、んはあ……ふふ、次からは最初から唇に頼むぞ♡」ニ
パー

提督「了解だ」ニコツ

その後、執務室からは夫婦の艶めいた声が聞こえてきたそう
な……。な

初月 完

冬月とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎ――

◇鎮守府本館・簡易厨房◇

冬月「まず、本当にこんなことで提督は喜ぶのか？」

涼月「勿論ですよ。手作りのお料理を振る舞われて嫌な気持ちになる方はいませんか」

冬月「それは比叡や磯風の場合でもか？」

涼月「さあ、まずはかぼちやの下ごしらえですよ♪ でないと、おやつの時間に待ち合いませんからね！」↑聞かなかったことにした
冬月「ああ、そうだな」↑察した

涼月「今は便利ですよ。電子レンジひとつあるだけで簡単に下ごしらえ出来てしまいます」

冬月「そうだな。ボタンをポチポチして待つていけば、知らせ音が鳴って、そうしたらかぼちやが柔らかくなるんだから不思議だ」

く皮を剥いたかぼちやを一口サイズに切って、柔らかくなるまで電子レンジでチンく

涼月「ではなめらかなになるまでフォークでかぼちやを潰してください」

冬月「ああ」

グツサアアアツ

かぼちやへぐあああつ!!!!!!

涼月「あの、かぼちやに何か恨みでも？」

冬月「？ 何もないが？ 寧ろいつも美味しくて感謝しているくらいだ」グツサグツサ

かぼちやへいぎいいつ!!!!!!

涼月「次はこの生クリーム50ml、お砂糖大さじ2、有塩バター20gを加えてよく混ぜ合わせてください」

冬月「分かった」

バシヤツ

ザパツ

ペシヤツ

グツサグツサグツサグツサ

涼月「もつと優しく……」

冬月「ん？ ああ……」グツサグツサ

涼月「提督への愛情も込めて混ぜ合わせてくださいね」ニガワライ

冬月「無論だ」グツサグツサ

涼月「それではアルミホイルを鉄板に強いてください」

冬月「分かった」

サツサツ、スーッ

涼月「その上にアルミカップを置いて、そこへ先程混ぜ合わせた物をスプーンで流し入れ、丸く整えてください」

冬月「なるほどな」

ペチンペチン

涼月「この時、しっかりと提督への愛情も込めて整えてあげてください」

冬月「分かった。おい、お前。もしも不味く焼き上がってみろ。その時は容赦なくお前は豚の餌にしてやるからな。それが嫌なら美味しく焼き上がるよう努力しろ」

涼月「あの……それは脅迫では？ そして食べ物に脅迫しても意味はないかと……」

冬月「？ 提督は私にこう言われると悦ぶんだが？」

涼月「そうですか……」

(提督、お冬さんになんてことさせているのです……)

涼月「形が整ったら、お好みで黒ごまや白ごまを乗せてください」

冬月「どちらもという選択肢は？」

涼月「勿論、大丈夫ですよ」

冬月「ではそうしよう」パラパラ

涼月「最後に卵黄を塗って、トースターで焼き色が付くまで焼けば
終わりですよ」

冬月「分かった」

上手に焼けましたー♪

冬月「おお！ 見事に焼き上がったぞ！ ありがとう、すず！」

涼月「いえいえ、またいつでもお教えしますからね」

冬月「恩に着る！ これで提督も私にメロメロになるだろう！」

涼月「元から提督はお冬さん一筋ですよ」ニッコリ

冬月「そう言ってくれるのはありがたいが、やはり不安じゃないか。
すずも含め、艦隊の全員が見目麗しい。大和なんて提督のドストライ
クだ」

涼月「しかし、提督はお冬さんとかケツコンしてませんよ？」

冬月「や、やめろ……それではその……提督が私にしか興味がな
いみたいな言い方じゃないか……／＼／＼」アワアワテレテレ

涼月「現にそうではありませんか」ニガワライ

冬月「ぐう……もう私は行くぞ！ ありがとな、すず！」ピューン

涼月「本当に照れ屋さんなんですから……」クスクス

◇執務室◇

ガチャリ

冬月「提督！ 提督は私が一番なのか!？」

提督「どうして戻って早々そんな愚問を？ 当然、冬月が一番に決
まってるだろ」

冬月「そ、そうか……提督は私が一番で、既にメロメロなんだな……

♡」ニヨニヨ

提督「何を今更……」

冬月「では、ジュウコンはしないんだな？♡」

提督「する気ないな」

冬月「ではでは、この壁に掛けてある大和の姿絵は仕舞ってもいい
な？♡」

提督「!? それはいくない」

冬月「ん？ 何故だ……？」スんツ

提督「き、気に入ってるからだ」タジタジ

冬月「つまり嘘を吐いたのか？ 素直に吐くんだ。私がまだ理性を保っている内に」ハイライトオフ

く詰め寄る冬月く

提督「……………」

冬月「私を見る」グイツ

提督「……………」

冬月「さあ吐け」ニツコリ

提督「じ、実は……………」

冬月「実は？」ニコニコ

提督「あの姿絵の後ろに冬月の姿絵が隠してあるんだ／＼／＼」

冬月「……………ほう♡」ゴマンエツ

提督「でも本人を前に堂々と飾って置くのはどうかと思って、それで……………／＼／＼」

冬月「そうかそうか♡ しかしどちらにしても、姿絵は捨てるぞ♡」

提督「何故え!？」

冬月「姿絵なんかより、生身の私を見る♡」ニコニコ

提督「おおう」

冬月「私は姿絵の私だろうと、提督が私以外に目を奪われるのが許せないんだ♡ この意味が分かるな？♡」ナデナデ

提督「コクコク

冬月「ん、いい子だ♡ では私が作ったスイートかぼちやを食べさせてあげよう♡」ホツペチュチュツ

提督「ありがたく食すよ。それとスイートパンプキンな」

冬月「お菓子の名前なんてどうでもいいだろう、全く♡」デレデレ
結局、冬月の重い重い愛情の前に、提督は轟沈していく――。

冬月 完

島風とケツコンしました。

某鎮守府、早朝ー

◇提督&島風の部屋◇

島風「パチッ

むくり↑起きる島風

島風「んゝ、朝ゝ」ノビー

チラッ↑隣を確認する島風

提督「(☒ω☒)」スヤア

島風(ふふ、提督まだ寝てる。おっそゝい♡)ニシシ

ストーン↑ベッドから降りる島風

島風(今日の朝ご飯は何かなく)グツグツ↑屈伸

島風(その前に軽く走ってこよゝ♪)グイッグイッ↑アキレス腱伸
ばし

島風「あれ？」キヨロキヨロ

島風(連装砲ちゃんがない……)ウーン

島風(どこかな?)キヨロキヨロ

島風「？」

く提督の眠る所に不自然な膨らみく

島風(もしかして……)

ふあさつ↑提督の掛け布団を少しめくる

連装砲「(☒ω☒)」スヤア

島風(また提督の所で寝てる……ずっるゝい!)グヌヌ

島風「ツンツン

連装砲「？」ムクリ

島風「朝だよ。それと私の提督から離れて」

連装砲「プイッ

島風「な」

く連装砲、島風を無視して二度寝く

島風「提督は島風のだってば！」グイッ

連装砲「く！」グギギ

提督「んあゝ……何だゝ？」チラッ

島風「私の提督から降りてよゝ！」グイツグイツ

連装砲「く！ く！」グギギギギ

提督「（。ㇿ。）」ポカーン

（何この状況……？）

くそれから起きた提督が仲裁く

提督「朝起きたら俺の所に連装砲ちゃんが居たから、それをどかそうとして、連装砲ちゃんはそのれを拒んでいた……と」ニガワライ

島風「そうですね！ だからちゃんと叱ってくださいよ！」

提督「でも連装砲ちゃん軽しい、そんなに目くじらを立てることもないだろ？ な？」ナデナデ

連装砲「く！ く！」コクコク

島風「だって提督は私のだもん！ いくら連装砲ちゃんでも、提督の側で寝るのはイヤだもん！」プンプン

提督「犬や猫がそばで寝てるのと一緒じゃないか」ニガワライ

島風「犬だろうと猫だろうとイヤ！ 提督は島風のなの！ 誰にも譲らないもん！」ヒシッ

提督「大丈夫大丈夫。俺は島風だけだからな」ナデナデ

島風「そうだよね♡ だってケツコンしてるんだもん♡」ニパー

提督「そうそう……だからこれくらいで怒るなよ？」ナデナデ

島風「それとこれとは違う！」シャー

提督「ニガワライ

提督「ピコーン↑閃いた！」

提督「なら島風はこれから寝る時は俺の腕の中で寝るようにしたらどうだ？」

島風「え」

提督「それなら島風が一番俺のそばにいれるって話になるだろ？」

島風「もっともっとそばに居てもいいの？」♡「キラキラ

提督「いいから提案したんだが？」

島風「やったゝ♡ やっぱり提督は島風が一番なのね♡ 嬉しい♡

提督大好き♡ 世界で一番愛してる♡」ガバッ
ばふっ↑提督、島風に押し倒される

提督「つとと……いきなり飛びつくなよ……危ないだろ？」ナデナ
デ

島風「軽いから大丈夫でしょ？♡」ゴロゴロ

提督「それでも衝撃とかはあるんだよ」ニガワライ

島風「むう……私とこうしてるのイヤなの？」ホツペツンツン

提督「嫌じゃないさ。ただ危ないってだけだ」

島風「イヤじゃないならいいや♡」スリスリ

く提督、島風を抱きしめたまま寝そべるく

提督「で、どうだ？ これが寝る時の体制になるが……？」

島風「んく、近くに提督の顔があつて嬉しいけど、ドキドキして眠
れなさそう……／＼／＼／＼」

提督「慣れれば平気だろ」

島風「慣れるなんて無理だよ！ 私は毎日毎日まくい日、提督と居
ると胸がドキドキしてるんだよ？」

提督「はは、告白した時は『私早いから冷めるのも早いかもよ？』と
か言つてたのが嘘みたいだな」ナデナデ

島風「む、昔の話でしょっ!?!／＼／＼」カァー

提督「でも、よく冷めなかつたな。覚悟してただけど、無駄だつ
たみたいだ」アハハ

島風「だつて……／＼／＼」

提督「？」

島風「どんどん提督の好きな所見つけちゃつて、好きつて気持ち
が早いんだもん♡／＼／＼」デレデレ

提督「ズキューーン

(こいつ俺を落としに掛かつてるな!?)

島風「提督く、好き♡ 大好きだよ♡ いっぱいいっぱいいくつぱ
い愛してるよ♡」カオグリグリ

提督「……俺も負けないくらい島風のが好きだ。愛してる」
ギューッ

島風「えへへ♡ 嬉しい♡ でもでも、私の好きな方が強いからね♡」

提督「先に告白して先にプロポーズをしたのも俺なんだがな」ニヤリ

島風「むっ、その後で私が逆転したもん！♡ 今はぶっちぎり私の方が提督への愛が勝ってるもん！♡」

提督「はは、ならそういうことにしといてやるよ」ナデナデ

島風「そういうことじゃないもん♡」ニへへ

提督「さて、じゃあそろそろ支度して朝飯にでも行こうぜ。早くしないとな！」ニカッ

島風「うん♡」ニパー

◇室内ドア前◇

く支度を終えて、いざ食堂へく

提督「さ、行こうか」

島風「待って提督！」グイッ

提督「ん？」

島風「行ってきますのちゅう………したいな♡」モジモジ

提督「おう♪ 任せろ！」

島風「うん♡」オメメトジル

ちゅっ♡

島風「ちゅっ♡ んく♡ つ♡ んむう♡ ちゅく♡」ギューッ

提督「んっ……っ……っ……ちゅっ」ギユッ

島風（提督とのちゅうは長くてゆつくりだけど……）

提督「んはあ………じゃ行くか」ニカッ

島風「うん♡」ギューッ

島風（こういうゆつくりなら大好き♡）

島風 完

松とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

提督「昼飯にするぞ、松」

松「待ってました！ 今日は何ですか!?!」ワクワク

提督「今日はなんと」

松「なんと?」

提督「牛フィレ肉のステーキだからあああああつ!」

松「ええええええ!」

松「つて、牛フィレ肉って何ですか?」クビカシゲ

提督「そこからかよ!」

松「だ、だつてえ知らないんだもん。仕方ないじゃない……」ユ
ビツンツン

提督「牛のフィレってのはだな」

松「フィレとは?」

提督「すごく美味しい肉だ!」

松「お肉つてどこでも美味しくないですか?」

提督「ちつちつちつ。違うんだなあ、これが」

松「????」

提督、松の前にドドンとフィレステーキを見せつける

提督「このフィレつてのはそこそこ珍しい肉なんだ。赤身であつさり。なのに柔らかくてご飯が進む進む!」

松「ゴクリ」

提督「まあ味見つてことで一切れ食ってみ。あーん」

松「あゝ、む……んゝ!」

松、美味し過ぎてその場でびよんびよんする

松「美味しい! 何これすつごく美味しいわ!」

提督「だろう? 松に食べさせたくて知り合いの肉屋に頼んでおい
たんだ」

松「んもう、提督大好きー!♡」ムギユー

提督「ふつ、言われなくても分かっているさ。松の胃袋はもう俺の手料理無しじゃいられないからな!」ドヤア

松「えへへ、確かに。でも提督の手料理が美味しいだけじゃなくて、ちやんと松のことを思っ作ってくれるから好きなんだからね?♡」

提督「分かっている」

松「えへへえ♡」ニコニコ

〜ということで、夫婦は美味しい昼食を過ごした〜

昼下がりにー

提督「む、もう三時になるな」

松「おやつだっ!」ガタツ

提督「待て」

松「はい」ピシッ

提督「今日のおやつは」

松「今日のおやつは?」

提督「ウォースパイト直伝の英国キャラットケーキだあああああ
!」

松「キャラットケーキいいいいいつ!?!」

松「人参のケーキって美味しいんですか?」

提督「まあ確かに人参ケーキと言われたら、馴染みがないとそれって合うの?って思うよな」

松「」コクコク

提督「でも不思議なことに美味しいんだなあこれが!」

松「おお!」キラキラ

提督「しかも人参だから普通のケーキより比較的ヘルシー!」

松「おおー!」キラキラキラキラ

〜キャラットケーキ御開帳〜

提督「どうだ、美味そうだろう? 今回はシナモンを使ってみた」

松「ふわあ、美味しそう……」ジュルリ

提督「そうだろうそうだろう。好きなだけ食べていいからな。俺は

今これに合うミルクティーを淹れてくるから」

松「待ちます！ 食べるなら一緒にいいですから！」

提督「可愛い奴め」

松「にへへ……」テレビ

くそれからく

提督「どうだ、美味しいか？」

松「はいっ、とくつても！」ニパア

提督「そりやあ良かった。はい、あーん」

松「あむっ……んく♪」モキュモキュ

く松、提督の膝上（定位置）で雛鳥の如く食べさせてもらっている

）

松「あの、提督……」

提督「ん？」

松「さつきから松にばかり食べさせてますけど、提督は食べないんですか？」

提督「あ、忘れてた」

松「えく、何ですかそれく」

提督「だって松に食べさせるのは俺の生き甲斐だからなあ。食べ物運ぶとお口開けて待ってて可愛いし、頬を手で押さえて『んく♪』つてなってるの可愛いし、次が欲しくて何も言わなくてもお口開けちゃうのも可愛いし」

松「あう……だあってえ……」モジモジ

提督「何をしてても松は可愛いなあ」ナデナデ

松「ぴえ……♡」

提督「ほらたんとお食べ」

松「あくむっ♡」

くこうして時間は過ぎていくく

夜ー

松「提督、本日もお疲れ様でした！」

提督「お疲れ。明日もよろしくな」

松「はいっ！」

提督「つてことで晩飯だ！」

松「よつるごっはん♪ よつるごっはん♪」ルンルン

◇長官官舎◇

提督「さあ、今晚の晩飯は何か!？」

松「何ですかく!？」ワクワク

提督「それはだな」ナデナデ

松「それは!？」

くお鍋の蓋オープンく

提督「余った牛フライで作った肉じゃがだああああ！」

松「きやあつ、美味しそう！」

提督「好きなだけおかわりしていいぞ」

松「わーいわーい♪」

松「いつも美味しい手料理を食べさせてくれてありがと♡ 松、提

督とケツコン出来て毎日幸せっ♡」チュツ

提督「俺はしたいことをしてるだけだ。俺こそ毎日愛する人の世話を焼けて幸せだ」チュツ

松「えへっ、本当なら立場逆なのに」スリスリ

提督「いいじゃないかそんなの。これが俺たちの関係なんだから」

松「うんっ♡」

くそしてく

提督「はい、あーん」

松「あゝ、む……んゝ、お肉とろとろお」

提督「執務の合間に執務室から近い簡易厨房で仕込んで、長時間煮込んでおいたからな」

松「提督つて本当に何でも出来ちゃうから困っちゃうわ」ニガワラ

イ

提督「こうして好きな人の世話をするのが夢だったからなあ。提督になってみんなに手料理を振る舞うことは多くなったが、やっぱり愛する人にだけ作る料理ってのは作ってるだけで幸せなんだよ」

提督「だからこれからも俺の料理をたくさん食べてくれ」

松「っ……はあい♡」

竹とケツコンしました。

某鎮守府、昼下りー

◇執務室◇

竹「ふあゝ……いやあ、午後から暇になるのはいいが、いざそうなってみるとやることなくてつまんねえなあ」

「今日は午後から提督だけ泊地の本部で会議のため、竹は留守番中」

松「？ 書類整理とか戸棚の整理とかは？」

「松は自主的に竹のお目付け役としてこの場にいる」

竹「はあ？ 戸棚も書類も見てみろよ。何ひとつ整理整頓する必要がねえだろ」

松「………確かにそうだけど」

竹「提督は俺にはもったいねえ旦那だかんなあ。欠点を探す方が難しい。この泊地でもイチニを争う元帥で、町の人たちからの評判もいい。その上イケメンだし家事も完璧にこなす。そんな奴が俺に何かさせるようなこと残して会議に行くかあ？」

松「行かないわね……」

竹「だろおん？ だから暇でしつかたねえってなってんじゃんか」

「竹、ソファーに寝転ぶ」

松「………提督って竹のどこを気に入ってケツコンしたんだろう？」

竹「あ、ナチュラルにデイスった？ 本人目の前にしていい度胸だな。お姉ちゃんよお」

松「ごめんごめん。ただふと疑問に思っただけなのよ。ほら艦隊には綺麗な人から可愛い人まで勢揃いなのに、提督が選んだのは竹だけだったから」

竹「知らねえよ。こつちだっっていきなりプロポーズされてビビったんだから」

松「そつか……まあでも姉としては妹が幸せなケツコンをしてくれ

て嬉しいわ」

竹「あつそ」

くそれから二人は将棋や花札をして暇潰しするのだったく

ーーーーー

夜――

◇鎮守府本館内・夫婦の部屋◇

提督「竹え、マジで疲れたあ。お偉方の使えない組が本気で使えない提案ばかりしてきて、マジで迷惑だったあ。こっちは小学生でも分かるような表とグラフと説明文までご丁寧に提示して話をしてるのにさあ」

竹「まあ現場にいない人間ってのはそういうもんだろ。俺が艦だった頃に比べたらかなりマシになってると思えるけどなあ」ヨシヨシ

く提督、竹の膝枕で今日の会議のことで愚痴るく

提督「そもそも駆逐艦の重要性があいつら分かってないんだよお。何のための駆逐艦だと思ってるんだよお。戦艦や正規空母だけで戦争に勝てる訳ねえじゃんかよお」

竹「だなあ」セナカポンポン

提督「戦艦だって正規空母だって出撃するだけでかなりのコストなんだぞお。なのに戦艦三隻と正規空母三隻が最強の編成だとかマジで勘弁してほしいわあ。敵に潜水艦いたら何も出来ないじゃんかよお、アホがよお」

竹「まあいいじゃねえか。真っ向から馬鹿な意見言うのがいるから、こつちとしてはこれで合ってるんだって答え合わせになるじゃんか」アタマナデナデ

提督「ああ、竹マジ天使。超愛してる」

竹「へへ、俺も……愛してんぜ♡」ニパッ

く提督、やつと立ち直るく

提督「はあ、本当に今日の会議は今までの会議で一番アホくさかった。あんな時間過ぎすなら竹とイチヤイチャしていたかった」

竹「ははっ、今してんだしいいだろ。それより会議は結局どうなったんだ？」

提督「お偉方の使えない組にもまともなのが数人いるから、今の国防費を減額するってことにはならなかった。増額してガツチリ守って、且つ駆逐艦や海防艦をもっと増やして哨戒活動すればコストもそこまで掛からないってことでまとまった」

竹「んじゃあ俺ら駆逐艦の仕事が増えるって訳か」

提督「そうなるな」

竹「いいねいいね♪ お前を守るために働けるなんて最高じゃねえか♪」

提督「本当に、頼りになる奥さんだ」ホツペチユツ

竹「んっ……俺にはこれくらいしか取り柄ねえからな」

提督「何言ってるんだ？ 俺のメンタルケアも竹しか出来ないことだぞ」

竹「そりゃあ、まあ……あんなお前を見たらな？」

◆過去◆

提督は由緒ある軍家に生まれた次男坊で常に優秀な兄と比較されてきた。

兄は父と同じ陸軍に入り、提督も当然自分も陸軍に入るつもりでいた。

しかし父に言われたのだ。

『残念ながら後継者はお前じゃない。よって陸軍に入る必要がない。丁度海軍の知り合いが人手不足だと言っていたから、お前は海軍に入れ』

辛かった。しかし提督は腐らなかつた。ここで腐ってしまえば、これまでの努力が無駄になるから。

幸い兄との関係は良好で陸軍である兄とのパイプがあつたお陰で陸軍と合同練習や作戦協力も上手く行き、提督は父から褒められる程にまでなつた。

しかし提督は日々重いプレッシャーがのしかかり、弱みを吐き出せないでいた。

何も出来ず、ただただ一人で泣くことしか出来なかつた。

そんな泣いている提督に何も言わず寄り添ってくれたのが『竹』

だったのだ。

それから提督は少しずつ竹だけでなく、他の艦娘たちにも『手伝ってほしい』と言えるようになり、艦隊はより邁進したのである。

◇現在◇

提督「本当にありがとう。竹があの時、俺を見つけてくれたから、今の俺がいる」

竹「へいへい。んな恥ずかしいこと言う暇があるんなら、もっと俺に甘えろ♡」

提督「キスしたい」

竹「好きなだけしろ♡」

提督「竹ええええっ！」ガバツ

竹「おうっ、もつと来いっ♡」ムギユーツ

その後めちやくちやryー。

竹 完

梅とケツコンしました。

某鎮守府、昼下り

◇執務室◇

梅「……………」

竹「……………」

桃「……………」

ダンッ

〜桃が机を叩く〜

桃「んも〜、つまんない〜！ 暇過ぎ〜！ 那珂先輩のライブ映像
見ていい!?!」

梅「今は勤務中よ。提督が竹姉さんたちと漁協の人たちのところに行っているこの留守の間は、梅たちが何かの時のためにいるんだもの」

桃「梅姉かったーい！ ボーキサイトみたいに硬い！ そんな頭
カツチカチでよくお嫁さんになれたね!?!」

松「こおら。言い過ぎよ、桃」

桃「だあつて〜!」

〜桃、両手足をバタつかせて不満を訴える〜

梅「……………」メガネクイツ

〜対して梅はいつものクールフェイスを崩さない〜

松「提督は今、来月からの護衛任務についての話し合いに行つてて、
今後は竹が梅から旗艦を引き継いで行うことになるってことまでは
聞いているでしょ?」

桃「聞いたよ！ でもなんであたしたちは執務室で待機なの!?! 待
機は別にいいとして、暇過ぎでしょ!」

松「あのね、桃は昨日まで長期遠征行つてたから、わざわざ提督が
休めるように配慮して待機になったんだよ? それに敵はいつ攻め
てくるか分からないんだから」

桃「なら好きなこととしててもいいじゃん!」

松「ライブ映像に夢中になって対応が遅れたらどうするのって話よ」

桃「ならないよ！　そもそも海防艦と他の駆逐艦の子たちが鎮守府海域で哨戒行動してるし、空母の人たちも航空隊出してパトロールしてるのに！　どうやったら攻め込まれるのさ！」

梅「戦争に絶対なんてないからよ」

桃「そうだけど〜！」

桃としては長期遠征中に届いた那珂ちゃんスーパーライブ（当鎮守府比）のライブブルーレイが見たくて堪らないのだ

松「はいはい、拗ねないの。提督が帰ってくればお土産も貰えるんだから」

桃「桃缶だったらぶん殴ってやる……」

梅「梅がそれを黙って見ているとでも？」

桃「なら梅姉は提督がお土産で梅干し買って来たら喜ぶの!？」

梅「勿論。すっごく嬉しいわ」ニッコリ

桃「もうやだこの提督LOVE姉……」

松「今に始まったことじゃないでしょ。ほら待機中はお菓子食べ放題なんだから、お菓子食べて落ち着きなよ」

桃「赤城さんみたいに戸棚空にしてやる！」ガツガツ

八つ当たりするように菓子を食ばまくる桃だったが、えびせんべいを五枚食べたなら満腹になって眠ってしまうのだった

そして――

◇執務室◇

夕方頃に提督が鎮守府へ戻ってきた

桃「すび〜……すび〜……」ZZZZ

竹「よく寝てんな……」

二人が執務室へ入ってきてても起きない桃を、竹が背負っている梅「昨日の長期遠征のこともあるし、疲れてるのよ。それに寝るまでキーキーうるさかったもの」

松「完全に電池切れって感じだったよね」クスクス

提督「なんか悪いことをしたな」ニガワライ

梅「大丈夫よ。提督は何も間違ったことはしていない」

提督「ありがとう」

竹「んくじゃ、俺らは先に上がるぜ。またな」

提督「ああ、お疲れさん」

梅「お疲れ様でした」ペコリ

松「お疲れ様でしたー♪」ケイレイ

竹「お疲れー！」

桃「むにやあ……」Zzz

く松たちが執務室をあとにく

梅「さて、では提督。帰還予定時刻よりだいぶ遅くなった理由をお聞かせ願いますか？」

提督「……………はい」

く梅は提督が予定した時刻よりも遅く帰還したことに腹を立てている。何故なら自分を置いて行って寂しかったからく

梅「まあ、座って聞きましょうか」

提督「はい」

そして――

提督「まず言いたいことは、俺は竹に指輪を渡す気はないからな？」

梅「……………うん」

提督「で、遅くなった理由は、漁協の人たちに竹たちの实力を見せたからだ」

梅「どうしてそうなったの？ 提督が率いている梅たちはみんなか

ら信頼されてるのに」

提督「信頼されてるからこそだ。しかも今まで旗艦に置いていた梅を、俺の個人的なことで竹に代わってもらうんだから、梅と同じように安心感を持ってもらうためにそうしたんだ」

梅「なるほど。で？」

提督「砲撃の腕前と対空射撃の腕前を披露した。ただその際に安全を考えて竹には数キロ離れてもらってね。今日は波もちよつと荒れてたし、目標地点に着くまで時間が掛かった」

梅「でもそれを考慮してもこの時間にはならないわよね？」

提督「そのあとで漁協の人たちが喜んでやってな。梅の姉つてのもあつて海産物をこれでもかと頂いたんだ」

梅「あの大量のホタテがそうなのね」

提督「そう。それを積んで運ぶのが想定外だった。夕飯の支度を任せている間宮さんたちにも確認取る必要もあつたし」

梅「分かつたわ。そもそも浮気とかじゃなくて、何か不測の事態にでも遭つたのかと思つただけなの」

提督「心配をかけて悪かつたな」

梅「ええ。でもどんな些細なことでも連絡はしてね。そういう大事、大事なのよ？」

提督「ああ、次から注意するよ」

梅「じゃあこのお話はもうお終いね。じゃあ、来月からのお話を聞かせて」

提督「来月からの……？」

梅「そう。来月からの梅の予定は提督のせいでもまるつきり分からないんだもの」

提督「そうか……」

梅「だから聞かせて。そういうの大事大事」

提督「そうだな」

梅「コクコク」

提督「梅は来月から俺の妻として、常に俺の側で補佐してほしい。あとは……その、出来れば空いた時間でイチヤイチャ出来たらなど……／＼／＼」

梅「ふふつ……可愛い……で、もつとないの？ 大事な話、なのでしよう？」ニコニコ

その後も提督は梅が満足するまでこれからの大事な予定を話し、快く頷いて聞いてもらうのだった――。

梅 完

桃とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎ――

◇執務室◇

桃「提督のバカーツ！ 大っ嫌いっ！！！！」

バツシーン！

提督「……………てえ」

提督、桃からの渾身のビンタを食らう

桃「実家に帰らせてもらうからね！ ベーっだ！」

バタン！

桃、執務室をあとに

提督「……………話を最後まで聞けよ……………」

提督、まだ執務室があるので追いかけない

ガチャ！

桃「フツ、ここは追いかけてくるとこじゃん！ ほんつとくに女

心が分かってないんだから！ バーカバーカ！」

バタン！

そう言い残して桃は今度こそ執務室をあとにした

提督「お前は俺の心を分かってないがな……………」

ドアに向かって独りごつ提督であつた

◇艦娘宿舎、松型の間◇

松「それで飛び出して来ちゃったの!？」

竹「お前のビンタとか……………提督のやつ歯あ折れてね？」

桃「折れるほどやってないし！ てか、なんで松姉も竹姉もなんか

あたしが悪い風なの!？」

松「別にそんなことないよ」ニガワライ

竹「おい、んな取り繕う意味ねえんだから言っちゃまえよ」

松「でもこういうのは自分で気付かないと……………」

竹「かあく、お姉ちゃんも楽じゃねえなあ！ じれつてえつたらあ

りやしねえ！」

桃「二人してなんのこと言ってるのか分かんない！ もういい！」

那珂先輩のそこに行くもん！」ベーツ

バタン！」

竹「はあ、まるで台風だな」

松「でも私たちがから言われるより、那珂さんから言われた方がいいかも」

竹「それでも駄目ながら俺が提督の代わりにビンタでもして目え覚まさせてやるよ」ニッ

松「そうならないことを願うわ……」

◇艦娘宿舎、川内型の間◇

那珂「なるほどなるほど。それでこつちに来たんだね！」

桃「はい！ なので暫くお世話になります！」ケイレイ

川内「まあ私は夜いないし、私のベッド使いなよ」

神通「……姉さん……」

那珂「それにしても提督らしくないね。今度の観艦式で桃ちゃんだけはライブやっちゃダメなんて」

桃「ホントですよ！ せつかく那珂先輩と一緒にステージ立てると思つたのに……」

川内「好きだからこそそなんじゃない？」

桃「どういうことですか？」

那珂「あー！ 那珂ちゃん分かつちやつたー！」

桃「え？ え？」

神通「提督らしいと言えばらしいですね」クスッ

川内「にしても愛が重くない？」ニガワライ

那珂「え、那珂ちゃんはこれくらいがいいなあ」

桃「あの、話が見えないのですが……」

那珂「だ、か、く、ら、く、！ 提督が桃ちゃんを独り占めしたいってことだよ！」

川内「観艦式のステージだと一般客がこぞって押し寄せるからね

く。写真もバシバシ撮られるだろうし」

神通「自分のお嫁さんを大勢に見られたくないのでしょうか。何しろ提督の桃さん愛は凄まじいですから」

桃「そんなにですか？」

那珂「わあ、自覚症状なし！」

川内「爆発……いや、爆散しろ」

桃「なにゆえ……」

神通「ふふ……桃さん、どうしてこの鎮守府に高性能なシアタールームがあるか分かりますか？」

桃「？ 作戦中の映像をみんなで見ても改善なり反省なりするためですよ？」

那珂「ブブー！ 桃ちゃんが『大画面でライブ映像見たい！』って提督に言ったからです！」

桃「も？」

川内「じゃあなんで酒保にサイリウムが売ってるか分かる？」

桃「みんなでライブを楽しむため？」

那珂「ブブー！ 桃ちゃんが『酒保でサイリウム売ってくれないかなあ』って提督の前で零したからです！」

神通「因みに酒保で売ってるのはピンク単色しかないのよ？」

桃「もももも？／／／／」

く桃は混乱しているく

那珂「桃ちゃん、全然提督のこと分かってないね」

川内「提督が何か始める時はいつも桃発信なのにねく」

神通「この前のスイーツパラダイスもバーベキューも……全部桃さんが提督の前で零したことやお願ひしたことばかりですよ」

桃「……………」

那珂「じゃあ、最後の問題！ 桃ちゃんはこれから何をしなきゃいけないでしょうか？」

桃「……提督に謝って、ちゅうして、ぎゅってして、いっぱいちゅうする」

川内「なんでちゅう二回言った？」

神通「程々にね／＼／＼」

那珂「相変わらずラブラブだ〜♪」

桃「お世話になりました！ あたし急ぎます！」
〜こうして桃は再び提督の元へ〜

◇執務室◇

カチャ……

桃「て〜とく〜……いる〜？」

提督「殴り足りなくて戻って来たのか？」

桃「そんなんじゃない！ てか、殴ってない！ ビンタだもん！」

提督「似たようなもんだろ。で、大嫌いな人間の元へ何しに来たんだ？」

桃「だ、大好きだもん……」

〜おずおずと桃は提督の元へ〜

提督「この短時間で何があったんだ？」

桃「ちよつと色々……」

提督「ちよつとなのに色々なのか」ククツ

桃「う、うるさいなあ。揚げ足取らないで！」

ぼすっ！

〜桃、提督の膝上に座る〜

提督「どうした？ 大嫌いな人間の膝の上なんかに座って」

桃「もう意地悪言わないで……あたしが悪かったから」

提督「どう悪かったんだ？」

桃「えつと……提督からの愛情が分かってなかった？」

提督「疑問系なんだな」

桃「あくもう！ とにかくごめんなさい！ 大好きです！」

ぶちゅ！♡

〜やけくそ気味に桃から提督へキス〜

桃「んはあ……許してくれる？」

提督「男らしいキスだったな」

桃「そろそろ殴っていい？」

提督「おやおや？　また俺の心を理解せずに暴力か？」

桃「ぐぬぬ……」

提督「もう少し愛情たっぷりなキスして欲しかったなあ」　チラッ

桃「……♡」　チュッ

提督「うん、最高」

桃「あたしも気持ち良かった……♡」　へへへ

提督「桃は俺だけのアイドルでいてくれ」

桃「うん、仕方ないから提督だけになってあげるね♡」

提督「愛してるよ」

桃「じゃあぎゆうってして♡」

提督「お安い御用だ」　ギョッ

桃「えへへ♡」

こうして夫婦の愛は深まり、更に艦隊のみんなからの冷やかしが増えた――。

桃　完

Z1 (レーベレヒト・マース) とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりに

◇食堂◇

カランコロン

鳳翔「いらつしやいませ」

レーベ「いらつしやいませ〜！」

ビスマルク「Guten tag!」

プリンツ「こんにちは、です♪」

マックス「Guten tag」

鳳翔「こんにちは。何にしますか？」

ビスマルク「私はザツハトルテね♪」

プリンツ「私はあんみつで」ニコツ

マックス「白玉ぜんざいください」

鳳翔「分かりました。席でお待ちください。レーベちゃん食器の用

意お願いします」ニコツ

レーベ「は〜い♪」テキパキ

〜ビスマルク達はテーブル席へ〜

ビスマルク「今日もレーベは頑張ってるわね」

プリンツ「微笑ましいですよね」ニコニコ

マックス「提督の為に食堂でお手伝いしながら日本食を習ってるん

だよね」

ビスマルク「アトミラールはいいお嫁さんをもらったわね」

プリンツ「ふふ、そうですね」

マックス「提督には勿体無い」フフフ

レーベ「お待たせ〜。みんなのおやつ持ってきたよ♪」

ビ・プ・マ『Danke♪』

レーベ「ニコツ

〜」。

ビスマルク「ん〜、ハウシヨ一のザツハトルテは最高ね♪」ムグム

グ

プリンツ「レーベちゃん、日本食のお勉強は進んでる？」

レーベ「うん♪ 今日のエビと大根の煮付けとかの煮物について習ったんだ♪」ニコニコ

マックス「ふくん……良かったね」クスツ

鳳翔「レーベちゃんは飲み込みが早いので教えるこちらでも楽しく教えられますよ。ビスマルクさんは珈琲でプリンツさん達は抹茶です」ニコツ

プ・マ『Danke♪』

ビスマルク「Danke……レーベは健気よね。アトミラールの為にここまでするんだから」ゴクツ

レーベ「好きな人に尽くすのって心が満たされるよ？♡」ワハー

マックス「うわ、あつま」ゴクツ

プリンツ「熱くもあるよね」ゴクツ

ビスマルク「レーベも女の顔をするようになったわね」フフ

鳳翔「愛情も最高の調味料なのでレーベちゃんのお料理はどれも美味しくなりますよ」ニコツ

レーベ「あはは……なんか照れちゃうな／／／」ニヨニヨ

マックス「今更ね……今朝だって仲良く手を繋いで執務室に入っていくの見たわよ？」

プリンツ「朝食の時は仲良く食べさせ合ってたよね♪」

ビスマルク「昼食の時は互いの手を握り合って、更に互いに見つめ合っていたわね」フフ

鳳翔「おしどり夫婦以上の夫婦仲ですわね♪」

レーベ「にへへ♡／／／」テレテレ

くその後もみんな楽しく談笑した

ビスマルク「それじゃ、私達はまた訓練してくるわ」

プリンツ「ご馳走さまでした」ペコリ

マックス「色んな意味でご馳走してもらったわ」クスリ

鳳翔「ありがとうございます」ペコリ

レーベ「訓練頑張ってるね！」ノシ

くビスマルク達が帰った後く

レーベ「く♪」カチャカチャ

鳳翔「その洗い物が終わったら今日は終わりでもいいですよ」

レーベ「え、本当に？」

鳳翔「はい。夕飯の仕込みはもう済んでますし、レーベちゃんはそろそろ提督の夕飯の支度があるでしょう？」

レーベ「チラツ↑時計確認

時計へもう一六〇〇過ぎだぜ！

レーベ「あツ、本当だ」

鳳翔「今日は私の教えた煮物を作って差し上げるのでしよう？ そろそろ支度しないと、ね？」ニコツ

レーベ「Dan……じゃなくて、ありがとう」ニコツ

鳳翔「ふふ、どういたしまして♪」

くそしてレーベは片付けを終え、食堂を後にしたく

夕方ー

◇提督&レーベの部屋◇

レーベ「えつと……大根と蒟蒻は下茹でして、その間に玉葱をすりおろして、豚のホルモンに塩をまぶして手で揉むように脂を抜いて、しつかりと水洗い……」テキパキ

レーベ「そしたらホルモンもたつぷりの水で下茹でして、その後また水洗い……」レシピカクニン

レーベ「さつきまで使ってたお鍋を洗って、炭酸水を入れる。下茹でしたホルモン、大根、蒟蒻、玉葱のすりおろしを入れて、お酒とお砂糖も入れて中火で煮込みながらアクを取っていく……」

グツグツ……

レーベ「アクがあまり出てこなくなったら、味噌とお醤油を加えて蓋をしないで煮込む……」

グツグツ……

レーベ「最後に……／／／／」

レーベ（提督への愛を沢山込める……／／／／）

「i ch w e r d e d i c h i m m e r l i e b e n」
ずーっ と 愛 し 続 け る か ら ね べ
グツグツ……

レーベ「こ、こんな感じかな♡／／／／」エへへ
ガチャラー

提督「今帰ったぞ〜」

レーベ「あ♡」

〜レーベ、火を止めて提督の元へ〜

レーベ「おかえりなさい、提督♡」

提督「ああ、ただいま」ニコツ

レーベ「今日もお勤めご苦労様でした♡」フカブカ

〜レーベ、正座し三指をつけてお辞儀〜

提督「そんなに畏まらなくていいよ。もっとフランクでいい」ニガ
ワライ

レーベ「日本ではこうするって本で読んだよ？」

提督「あ〜、確かにここは日本だけどそんなに気にしなくていいよ」

ナデナデ

レーベ「分かった♡」

提督「キスとハグでもいいからな♪」

レーベ「もう、提督ったら♡／／／／」テレテレ

〜そして夫婦揃って夕食〜

提督「今日はモツ煮か〜」

レーベ「お酒もあるからね♡」

提督「至れり尽くせりだなあ〜」

レーベ「さ、食べて食べて♡」

提督「いただきます！」人
パクッ

提督「うつま〜い！」

レーベ「♡」ニコニコ

提督「ありがとう、凄くうまいぞ！」ガツガツ

レーベ「沢山食べてね♡ いっぱい作ったから♡」

提督「いつも美味しい料理をありがとうな」ナデナデ

レーベ「お嫁さんなら当然だよ♡」

提督「俺はいいお嫁さんをもらったなく……俺も何かお返し出来ればいいんだが」

レーベ「ふふ♡」

トンっ↑レーベ、提督の肩にもたれる

レーベ「じゃあ、夜にまた沢山愛してほしいな♡」ウワメツカイ

提督「お、おお、任せろ！／／／／」カァー

レーベ「えへへ、幸せ♡」ギューツ

提督「お、俺も幸せだよ／／／／」

レーベ「♡」キラキラ

その後も夫婦は仲睦まじく夕食を食べ、その夜はめちやく（r
yー

Z1 完

Z3 (マックス・シユルツ) とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇執務室◇

提督「さて、今日の仕事も頑張るか〜」

マックス「そうね。頑張りましょう」

提督 (マックスとケツコンして数ヶ月……)

提督 (付き合っていた頃とは違い、色々変わったことがある……)

マックス「提督、少し椅子を引いてくれない?」

提督「お、おお」

ちよこん↑マックス、提督の膝の上へ

提督 (表情は変わらずとも甘えるようになった……)

マックス「もう少し足閉じて。座りにくいわ」

提督「あ、ああ」

提督 (前よりハッキリ言うようになった……)

マックス「うん♡ やっぱりあなたの膝の上は落ち着くわ♡」ニ

パッ

提督「それは良かった／＼／＼」ナデナデ

マックス「〜♡」ニコニコ

提督 (めちやくちや可愛くなった／＼／＼) ドキドキ

提督 (そして何より……)

マックス「提督」クイクイ

提督「? どうしたマターー」

グイッ

マックス「んっ♡」チュッ

提督「!?／＼／＼」

提督 (キス魔に豹変した……／＼／＼)

マックス「ぷはあ……ふふ♡」ゴマンエツ

提督「いきなりキスをするな／＼／＼」ドキドキ

マックス「どうして?」

提督「び、びつくりすんだよ／＼／＼」

マックス「私とのキスは嫌？」

提督「嫌とかそういうnー」

グイッ

マックス「んんっ♡」チュッ

提督「!?!?!」

(話を聞け!?!?!)

マックス「んはあ……こんなに心が温かくなって、気持ちいいのに、嫌いな？」

提督「嫌いとかじゃない／＼／＼」

マックス「じゃあ何でしちゃダメなの？」

提督「それなー」

ビスマルク「／＼／＼」プルプル

プリンツ「／＼／＼」ハワー

グラーフ「ジーツ

レーベ「／＼／＼」ニガワライ

ユー「／＼／＼」オー

はち「ジーツ

提督「みんなが居るからだ!!／＼／＼」

マックス「関係ないわ。私がキスしたいと思ったらする。キスは恥ずかしい行為でも何でもない。愛ある行為よ」キリッ

提督「／＼／＼」アタマカカエ

マックス「!?!」ピコーン

グイッ

マックス「んん♡」チュュー

提督「んん!?!」

／ラブラブチュッチュッ

ビスマルク「朝から熱過ぎるわ／＼／＼」パタパタ

プリンツ「止めなくていいんでしようか?／＼／＼」ハワワ

グラーフ「ふむ……続けて」ジーツ

はち「次は舌も入れて」ジーツ

レーベ「止めさせようよ／＼／＼」カアー
ユー「これがバカツプル／＼／＼」ジーツ

提督「ぷはあ……と、取り敢えず、ビスマルクを旗艦に他の鎮守府と演習に行ってもらおう……頑張ってkー」

グイツ

マックス「あむ♡」チュツチューー

提督「んんん!?!?!」

ビスマルク「演習相手には悪いけど、今なら過去最高火力が出せそうね」ハイライトキエール

プリンツ「演習相手の皆さんに本当のゲルマン魂をお見せしましょう」ハイライトキエール

レーベ「あはは……」ニガワライ

グラーフ「今日の演習は楽しそうだな」

はち「この夫婦の手柄だね」

ユー「これも作戦の内だったとは……!!」

くそして第一艦隊は演習へく

提督「マックス……少しいいかな?」

マックス「ええ、何かしら?」

提督「そこへ正座しなさい」

マックス「新手のプレイ?」チョココン

提督「はい、ではマックス・シウルツさんに問題です。今から俺が貴女にどんな話をするでしょうか?」

マックス「Ja^{はい}」ノ

提督「はい、マックス・シウルツさん」

マックス「キスは今度からデープがいいという要求ね」キリツ

提督「不正解!!」

提督「もう少し慎みと言うか、モラルをだな……頼むからむやみやたらキスするのは止めてもらえないか?」

マックス「嫌なの?」ジーツ

提督「だから嫌じゃない……ただこういうのは二人きりの時」

グイツ

提督「が……ん?!」

マックス「んん〜♡」チュツ

提督「んん〜!／／／／」

マックス「んんっ♡ ちゅっ♡ はむ……んん〜っ、ちゅっちゅ〜♡」

提督「っはあ……お前は言ってるそばから／／／／」

マックス「？」クビカシゲ

提督「なんでそんな不思議そうな顔をする」

マックス「今は私とあなた以外に誰も居ない。さっき言っていた二人きりじゃない。だからキスした」キリッ

提督「良い顔で屁理屈を述べるな!!」

マックス「ムツスー

提督「なんでそんなキスがいいんだ？」

マックス「ふーん、聞いちやうんだ。全部あなたが悪いに」

提督「は？」

マックス「あなたが私にキスを教えた。あなたが告白してきた後やプロポーズされた後、そして付き合っている期間中、あなたは私に沢山の優しく激しいキスをした。その時の幸せな感覚が忘れられなくて、私はあなたとのキスが大好きになった。だからキスするの」ジーツ

提督「／／／／」

マックス「責任取って♡」ギューツ

提督「／／／／」ドキドキ

提督（惚れたら負けたのは良く言ったもんだ……）

提督「……／／／／」

マックス「どうなの？♡」ジーツ

提督（だってこんなの……）

提督「取ります／／／／」

マックス「ふふ、愛してる♡」チュツ

提督「俺も愛してる／／／／」チュツ

提督（勝てる術なんてないのだからー）

マックス「♡」チュツチュツチュー

提督（可愛い顔しやがって／／／）ドキドキ

それから提督はマックスに唇を奪われ続ける人生を謳歌したそうなー。

Z3 完

マエストラーレとケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇正門前◇

マエ「……………」カミノケイジイジ

リベ「お姉ちゃん、さつきからずっと髪の毛弄ってるね」

マエ「べ、別にいいでしょ……」

リベ「提督とデートするのは初めてじゃないのに、もしかして緊張してるの？」ニヤニヤ

マエ「そ、そんなんじゃない！ それにリベだって一緒だし、デートって訳じゃないんだからね！」

リベ「あはは、お姉ちゃんは提督とケツコンしてから照れ屋さんになっただね♪」

マエ「う、うう、うるさいうるさい！／／／／」

提督「朝から元気だな、お前ら……」アフ

提督、あくびをしながら到着

マエ「つ……私はからかわれたの！ それより遅いよ、提督！

ちやんと私が起こしてあげたのに！」

提督「部屋じゃ、ゆつくり支度して来てねとか言うてましたやん」

マエ「うるくさくい！」ポンポン

リベ「あはは、お姉ちゃんは提督のこと大好きだから仕方ないね！」

提督「マジか。俺もマエストラーレ大好きだから超感激」

マエ「くく……もう知らない！」プイッ

提督「……おい、マエストラーレ」

マエ「な、何？ 今更謝ったてー」

提督「前髪崩れちまってんじゃん。せつかく可愛いのもったいねー」

提督、マエストラーレの前髪を優しく手で梳く

マエ「……………Gr a z i e ♡」ニへへ

提督「おう」ニカツ

リベ（髪の毛触って欲しくて弄ってたのかな？）ニヤニヤ
くそして三人は予定通り街へ繰り出すく

◇鎮守府近辺の大型ショッピングモール◇

リベ「うわー！ おつきー！」キョロキョロ

マエ「キョロキョロして迷子にならないですよ？」

リベ「うん！」

提督「んで、何が必要なんだっけ？」

マエ「えつと……夫婦で使うブランケットとクッション、それと写真立てとコルクボード！」メモカクニン

提督「どれも家具妖精に作ってもらえばいいのでは？」

マエ「ダメ！ こういうのは自分の目で見て納得したのを買いたいの！」

提督「さいですか」

リベ「じゃあ、雑貨屋さん巡りに出ばーっ！」

マエ「きやあ、ちよつとリベ！ そんなに引っ張らないでー！」

提督「転けるなよく」

◇雑貨屋その1◇

マエ「あ、このクッション可愛い……」

提督「めっさハート尽くしやん。俺も使うんだぞ？」

マエ「むう、提督ワガママく」

提督（とか言ってて違うの選んでくれる嫁が愛しい）

リベ「ねえねえ、カップル専用のマグカップが売ってるよ？」

マエ「わあ、可愛いデザイン……でも他も見ってからにするう」

リベ「そうなの？ 相手の名前をカップの底に彫ってくれるらしいよ？」

マエ「え、別に名前なんて彫ってもらわなくていいよ」

リベ「思い出のカップになるよ？」

マエ「でもそのカップに飲み物注ぐんでしょ？ 大好きな提督の名前をコーヒーや紅茶……飲水でだって沈める形になるんだもん。だ

から私はイヤ」プイツ

提督（やべえ、嫁が愛し過ぎてやべえ）

◇雑貨屋その2◇

提督「お、このブランケットなんていいんじゃないか？」

マエ「青地にライトブルーの錨と鎖……これにしましょ！」ニコツ

提督「ああ、これは俺たちらしいよな」ニカツ

マエ「……………♡／／／」↑不意の笑顔にときめく

リベ「こつちにカツプル専用のクツションあるよ〜！」

マエ「K i s s M e って書いてある……」

提督「こんなの使わなくなつて俺はすぐにもキスするぞ」

マエ「知つてるし、今言わなくてもいい／／／」

リベ「じゃあ、こつちのは？」

マエ「I ♡ D a r l i n g って……もうちよつと普通の探してよ」

提督「そうだぞ。んなの書いてなくてもマエストラーレから俺への愛は伝わってるからな！」

マエ「だから今そういうこと言わなくてもいいでしょ！／／／」

提督（嫁が可愛いよおおおあああ!!!）

〜結局、クツションは買わずにブランケットだけ購入〜

◇雑貨屋その3◇

マエ「うーん……」

提督「写真立てに時間かけ過ぎじゃね？」

マエ「だつて私と提督のケツコン式の写真飾るためだもん。それに相応しいのがいいの」ムウ

提督「俺はお前が隣で笑つていてくれれば写真なんていらねえよ」
ナデナデ

マエ「っ……も、もう、何言つてるの、馬鹿♡／／／」

提督「俺の素直な気持ち」

マエ「……………馬鹿あ♡／／／」

リベ（リベは空気読める子だから今は邪魔しない♪）
　　マエストラーレはその後も厳選し、最初の雑貨屋にあった時計と一緒にになっている見開き型の写真立てにした

帰り道、夕方ー

◇車内◇

　　提督の運転で帰路に着く

リベ「すう……すう……」Zzz

　　リベ、後部座席で提督に買ってもらったイタリアオオカミのぬいぐるみ（BIGサイズ）を抱っこしておやすみ中

マエ「リベは疲れて眠っちゃったね」クスクス

提督「朝から付き合ってくれたから、仕方ないだろ。マエストラーレも眠くなったら眠っていいぞ」

マエ「私は眠くないもん♡」

提督「そっか……」

マエ「でも流石にずつと歩き回って疲れちゃったな。リベったらすぐ手を引つ張るんだもん」ニガワライ

提督「そりゃあ、お姉ちゃんと買い物だからテンションも上がるだろう」

マエ「それもそうだよ。普段は任務やら訓練やらで、街にお買い物なんて行けないし」

提督「俺はそれより、二人して迷子になっちまわないか心配だったぜ」アハハ

マエ「むう、またそんな子ども扱いしてえ」

提督「でも見失わないようにちゃんと付いて行ってたろ？」

マエ「ま、まあ、振り向けばちゃんと提督が居てくれたから嬉しかったけど……♡」

マエ「ねえ、提督」

提督「ん？」

マエ「今度は二人で何処か出かけしようね？　リベには悪いけど、私だったまにはちゃんとしたデートしたいし……／／／」

提督「迷子にならないか？」ニヤニヤ

マエ「……………なっっちゃうかも」

提督「ダメやん」

マエ「……………だから、私が提督の手の届かないところに行かないように、デートの時はずっと私の手を握っててね♡ 鎖みたいにならずと♡」ニコツ

提督「っ……………おう、離さないよ／＼／＼」

(この不意打ちの破壊力よ…………)

マエ「(Ti amo…………提督♡)」

提督「ん？」

マエ「なんでもない♡」エヘヘ

リベ(にしし、聞いちゃった聞いちゃった♪)

後日、マエストラーレはリベツチオからそれをネタにイジられたそうなの。

マエストラーレ 完

グレカーレとケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇埠頭◇

リベ「とーちやーくっ♪」

マエ「今日も平和な海だったね〜」

グレ「でも平和だとヒマ過ぎてやんなつちやう！」

〜三人で哨戒活動を終えて帰ってきたとこ〜

リベ「あはは、でも平和なのが1番だよ♪」

マエ「リベの言う通り。それにグレカーレは任務外は提督の妻として色々やることがあるし、暇だなんて言ってる場合じゃないでしょ？」

グレ「ま、まあね〜……テートクって〜、あたしのこと大好き過ぎるから？ あたしがいないと何も出来ないダメ人間のよね〜」ナハハ……

マエ「だったらそんなこと言わないの」メツ

リベ「あ、提督だ！」

グレ「っ」ビクッ

〜提督、三人からの報告をその場で受ける〜

提督「ー分かった。ご苦労だった。補給後マエストラーレとリベツチオは待機。グレカーレは執務室に来てくれ」

マ・リ『はいっ』ケイレイ

グレ「は〜い……」

〜指示を受け、マエストラーレたちは補給室へ向かった〜

提督「？ グレカーレも行つてこい」

グレ「う、うん……」

提督「どうした？」

グレ「えつと……さっきの話、聞こえてた？」

提督「さっきの？」

グレ「あたしがいないと何も出来ないダメ人間」っての」

なよ！」

提督「なら素直にすればいい」

グレ「うぐっ」

提督「……まあなかなか難しいよな」ナデナデ

グレ「んう……♡」

提督「グレカーレが心配してるようなことは起こってない。みんな変わらず、俺たちを仲睦まじい夫婦だと思ってる」

グレ「ホント？」

提督「本当だ。見栄を張ったが故に出た言葉がどうあれ、俺たちが心から愛し合っているのをみんな知ってる。だから俺は気にしてない」

グレ「……うん……」

提督「でも俺の前ではこんなにも素直なのに、どうしてみんなの前だと見栄を張るんだろうな？」

グレ「そ、それは……あたしがテートクを……」

提督「俺を？」

グレ「……独り占めしたい、から……」

提督「？ そんなことしなくても俺はグレカーレだけのだぞ？」

グレ「そ、そういうことじゃなくて……」アセアセ

提督「????」

グレ「テートクは素敵なお上官なの。あたしたち艦娘に優しいし、軍略にも長けてて華々しい戦果をあげてるし、それに驕り高ぶったりしないし、海外艦だからって差別しない。そんなテートクを艦隊のみなが慕ってるし、好きなの」

提督「それはみんなの上に立つ者として嬉しいな」

グレ「だ、だからね？ あたしはあたしなりにテートクのお嫁さんになりたいくてアタックしてたの。それでテートクと今の関係になれたんだけど、今更みんなの前で素の自分を出すのが恥ずかしくて……」

提督「ふむ」

グレ「そ、それに素直なあたしはテートクにだけってした方が、よ

り愛してもらえなかなって」アウアウ

提督「……相変わらず可愛いな」

グレ「ホント？」

提督「ああ、可愛いよ」

グレ「えへへ……♡」

提督「まあこれまで通りでいいってことだな。ただ今の話を聞いたから、俺は悩んでる」

グレ「？」クビカシゲ

提督「可愛くて素直なグレカーレをみんなに見せびらかしたいが、そんなグレカーレは俺だけが独り占めしたいとも思ってるからな」

グレ「あうあうあう……♡」

提督「グレカーレがいないと、俺はダメ人間だからな？」フフン

グレ「あ、あたしだってトークがいないとダメ艦娘だよ♡」デレデレ

提督「困ったな？」

グレ「ね？♡」

提督「とりあえず、おかえりのキスしようか」

グレ「ただいまのチュウが先♡」

提督「え？？」

グレ「反論は許さないから♡ ただいまつ、il mio mio
roso（私の大切な人）♡ チュツ♡」

提督「おかえり、cucciola（子犬ちゃん）……ちゅっ」

二人の愛の秘密はこれからも二人だけのものだろうー。

グレカーレ 完

リベツチオとケツコンしました。

某鎮守府、昼ー

◇執務室◇

提督「リベく、昼飯作ってきたぞく」

リベツチオ（以後リベ）「Grazie♪（ありがとう）」ダキツキ

提督「おつとと……こら、料理が溢れたらどうするんだ」ニガワラ

イ

リベ「えへへ、Scusami♡（ごめんね）」テヘペロ

提督「可愛いから許す」デレデレ

リベ「♡」ギュー

く夫婦仲良く昼食タイムく

提督「今日はリベが食べたがってた和風パスタにしたんだぞく♪」

リベ「Mamma Mia！（うわあく）」キラキラ

提督「きのことベーコンのバター醤油和風パスタだ♪」

リベ「ジュルリ

提督「食べていいぞ」ニコニコ

リベ「いただきますくす♪」人

提督「どうぞく」ニコニコ

パクンー

リベ「Che buonoく！（とっても美味しい）」パアッ

提督「それは何よりだ」アハハ

リベ「提督は優しくて料理も上手で、マミーヤみたいね！」

提督「なら、間宮がお母さんでリベが娘だな」ハハ

リベ「それはダメ！」

提督「？」クビカシゲ

リベ「提督はリベのなの！ リベが提督のお嫁さんだもん！ マ

ミーヤは……そう、姑だよ！」

提督「そーなのか」ニガワライ

ー。

ー。

リベ「御馳走様でした〜！」

提督「リベ、口のまわりにソースが付いてるぞ」フキフキ

リベ「えへへ、G r a z i e ♡」

提督「どういたしまして♪　じゃあ、食器片してくるから、リベは

ゆっくりしてて」ナデナデ

リベ「は〜い♡」

〜提督、席を外す〜

リベ「はあ〜、なんて素敵なお皿なんだろう♡　毎日幸せ〜♡」オ

メメハート

コンコン〜

リベ「は〜い！　開いてます〜！」

カチャー〜

イタリア「C i a o　c i a o〜！」

ローマ「失礼します」

リベ「あ、リットr……じゃなくて、イタリアさんとローマさん！

C i a o ♪」

イタリア「C i a o〜♪」

ローマ「C i a o……提督はご不在みたいね」

リベ「提督は今昼食のお皿を片しに行ってますよ」

イタリア「いいなあ……提督の手料理って、パーティーでしか食べた

ことないけど美味しいのよね〜♪　今日は何を作ってもらったの？」

リベ「きのことベーコンのバター醤油和風パスタです♪」キラキラ

イタリア「M a m m a　M i a！　羨ましい〜♪」

ローマ「彼の料理の腕は確かだから、美味しかったんでしょね」

リベ「と〜と〜と〜と〜でも美味しかったです！」

イタリア「ふふ、それもお嫁さんの特権よね〜♪」

ローマ「フフ

カチャー〜

提督「ただいま……あれ？　イタリアにローマも居たのか……えっ

と、ちやお〜」ニコツ

イタリア「Ciao ciao! 提督♪」ハグ

ローマ「どうも……先日の出撃の報告書を持って参りました」つ報告書

提督「お、早いね。流石イタリアとローマだな。大義である!」ナデナデ

イタリア「うふふ♪ Grazie♪」ウインク

ローマ「ぐ、Grazie……」

リベ「」

イタリア「じゃあ報告書も渡せたし、私達は部屋に戻りますね♪」キラキラ

ローマ「次の作戦も任せなさい……では、失礼します」キラキラ

提督「お疲れ様」ノシ

提督「さて、報告書を確認して問題なければ確認済の判を……」テキパキ

リベ「」トコトコ

ストン

リベ on the 提督の膝

提督「どうしたリベ?」

リベ「提督はリベのだよね?」ウワメツカイ

提督「そうだぞ」

リベ「イタリアさんとローマさんとリベなら、誰が一番好き?」

提督「リベ一択」ソクトウ

リベ「」

提督「……もしかして、さつきイタリアとローマの頭を撫でたので嫉妬したの?」

リベ「うっ……」メソラシ

提督「あはは、可愛いなありべは」ナデグリナデグリ

リベ「うう」

提督「こんな天使がお嫁さんなんだ……他の女性なんて興味もないよ」

リベ「」

提督「鎮守府のみんなは仲間として好きだけど、女の子として愛してるのはリベ一人だよ」ホッペチュツ

リベ「リベも♡ リベも提督だけを愛してる♡」ホッペチュツ

提督「はは、機嫌は直ったみたいだね」ホッペナデナデ

リベ「うん♡ でもキスはもつとほしいな♡」ホールド

提督「報告書を確認し終えたら沢山してあげるよ」ナデナデ

リベ「むう♡、イジワル♡」アタマグリグリ

提督「そんなイジワルな人がリベは好きなんだろう？」ニコニコ

リベ「うん、だ♡い好き♡」ニヘヘー

提督（ああ、マジ天使だ……）デレデレ

「ナデグリナデグリ

リベ「きゃ♡♡」

◇執務室外・ドア前◇

提督「リベ♡、愛してるぞ♡！」ギュー

リベ「もつといっぱい抱きしめて♡♡」ホールド

／イチャイチャラブラブ

ビスマルク「くくく！」プルプル↑報告書を渡しに来た

プリンツ「訳）お、落ち着いてください、ビスマルク姉さま！」ア

ワワ

グラフ「訳）イタリアと日本のカップルならこうなるわよ。少し

は寛容になりなさい」アキレ

ビスマルク「訳）これだからイタリアは嫌なのよ！ オープン過ぎ

るのよ！ 昔からそうだわ……」クドクド

グラフ「訳）取り敢えず、報告書はもう少し後になってからにし

ましよう。プリンツ、その面倒なのを連れて部屋に戻るわよ」

プリンツ「訳）は、はい」

提督「リベ♡！」

リベ「提督♡♡」

その後暫く二人のイチャつきは続いたそうなのー。

シロツコとケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇執務室◇

シロツコ「……………んあ？」

シロツコ、昼寝から目覚める

シロツコ「んく……………」ノビー

シロツコ「てーとくー、抱っこ……………」ムニヤムニヤ

「残念っ。抱っこしてくれる提督は今いませーん」

シロツコ「？ あ、マエちゃんにグレちゃんにリベちゃん。三人共
どうしてあたしとてーとくの愛の巣にいるのー？ なんか約束でも
してたっけー？」

グレ「……………ねえ、ちよつとコイツ殴っていい？」コメカミピク
ピク

リベ「だ、ダメだよ」

マエ「殴っても何も変わらないわ」ヤレヤレ

グレ「でもどくしてもあたしのこの拳が『コイツを殴れ』と轟き叫
んでるのよ」ワナワナ

マエ「あんたがブチ切れる数秒前からでしょ」

シロツコ「ねーねー、あたしの質問は無視なのー？ どーしてー？」

マエ「ああ、ごめんごめん。シロ、ここは執務室で二人の部屋じゃないからね」

シロツコ「ふむ……………」

グレ「アンタが昼食後から今の今までずくずくと昼寝してたから、
アンタの仕事はあたしらが代わりにぜ・ん・い！ で、やってあげ
たんだからね!? だから一発でいいから殴らせろ！」

シロツコ「痛いもーん、やーだー……………」アタマフリフリ

リベ「まあまあ……………シロちゃんがこうなのは前からだし」ドオドオ

グレ「前からこういう性格なら何やつてもいいっての!? 大体、提
督もみんなも何でコイツを注意しないワケっ!？」

マエ「そりやあ、この子は艦隊1の戦果保持者だもの。文句なんて誰も言えないでしょ。普段の態度とは別で作戦中は頼りになるんだから」

リベ「昨日も一人で敵の艦隊全滅させちゃったもんね！ それも魚雷六発だけで！」

シロツコ「まさに落ちろカトンボってねー」ドヤア

グレ「凄いのは認めるけど、この性格を修整したい」グヌヌ

マエ「まあグレの気持ちは分かるけどー」

ガチャ！

提督「やあやあみんな俺のシロツコを守ってくれてありがとう！」

「旦那が片手と頭に料理を乗せた大皿を持ってご帰還」

リベ「提督がそんなシロちゃんのこと大好きだからねえ」ニガワライ

グレ「くくく」グヌヌヌ

シロツコ「あー、てーとくー。どこ行ってたのー？ 抱っこー」リョ

ウテヒロゲ

提督「ああ、寂しい思いをさせてごめんな。どうしてもシロツコのために夕飯を用意してやりたくてな」ギョツ

シロツコ「なら許すー♡」スリスリ

提督「可愛い。可愛いよシロツコ可愛い」ナデナデ

マエ「提督、シロツコ可愛いボットになる前に私たちの任をといてくれない？」

提督「ああそうだったな。任務ご苦労さん。大義であった。報酬としてミートボールナポリタンをやろう」

シロツコ「みんなで食べよー♪」

リベ「わーい、やっティー」

グレ「んなの一緒に食べたら糖尿まっしぐらよ！ タツパーにもらってくから！ それとあたしはまだナポリタン認めてないから！

美味しいからもらってくださいだからー」

「グレカーレはさつきと三人分のタツパーにナポリタンを詰めて逃げるように帰っていった」

シロッコ「グレちゃんは相変わらずツンデレだねー」
提督「難しいお年頃なのさ」

マエ（はあ、頭痛い……）

「それじゃあまあ私たちは行くね。っ」馳走さま」

リベ「またね、提督、シロちゃん！」ノシ

ーーーーー

く夕飯を終えてソファで揃ってまったりタイムく

シロッコ「んー、やっぱり提督の料理は美味しいねー」ケプツ

提督「そう言ってもらえると作った甲斐があるよ」

シロッコ「へへー、幸せー♡」ゴロニヤン

くシロッコは提督の膝枕でご満悦く

提督「俺も幸せだ。あ、カフェオレ出来たぞ」

シロッコ「Grazie♡」

提督「うんと甘くしたからな」ナデナデ

シロッコ「わーいわーい♡」

シロッコ「てーとくは相変わらずブラックなのー？」

提督「ブラックが一番好きだからな、俺は」

シロッコ「苦いの……」

提督「それがいいのさ」

シロッコ「あたしならお砂糖10杯でも足りない」

提督「だからカフェオレは甘くしてるぞ」

シロッコ「うん♡」ニへへ

くコーヒーも飲み終わると……く

シロッコ「てーとく……♡」スリスリベタベタ

提督「んー？」ナデナデ

シロッコ「お腹いっぱいになってー、てーとくとのんびりしてた

らー、エツチなコト……したくなつちやんたんですけどー？♡ して

もいーいー？♡ いいよねー？♡」

提督「カフェイン入るといつもそうだな」ニガワライ

シロッコ「こんなあたし、イヤー？」ウワメツカイ

提督「寧ろ好物です」

シロツコ「ロリコンバブみ提督ー♡」

提督「俺は仮面もグラサンしてないし、オールバックでもない」

シロツコ「でもてーとく、じゅにゅー？手○好きだよねー？♡

あれするといつもカッチカチになるしー、上手に出来るもんねー？♡」

提督「ナンノコトカナー？」スツトボケ

シロツコ「にへへ、まあいいやー♡ズボン脱がしちゃうねー♡」

提督「お手柔らかなに」

シロツコ「そんなのムリー♡ だあい好きなたてーとくの可愛いところばい見ちゃうんだからー♡」キヤツキヤツ

こうして今宵も提督は幼い妻からうんと搾られるのだったー。

シロツコ 完

フレツチャーとケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇食堂◇

フレ「朝のミソスープ……美味しい♪」

提督「フレツチャーもかなり日本の生活に馴染んだねえ」

フレ「はいっ。それでもたまにハンバーガーやホットドッグが食べたくなりますね」

提督「それくらいならいつだって食べられるだろ？」

フレ「はい。ですが、提督はやはりライスの方が好きでしょう？」

提督「どちらかと言えばな」

フレ「それならば、やはりたまにでいいです」

提督「どうしてえ？」

フレ「だって……愛する方とのお食事は、同じ物を食べたいじゃないですか……♡／／／／」ポツ

提督「………そか」

(俺の嫁可愛いいいいいっ！)

「そんな夫婦の隣のテーブルでは」

サム「いやあ、朝からアツアツだねえ。お隣は」

ガンビー「そ、そうだね……／／／／」↑あてられてる

ジョン「あんなの序の口よ。こっちは補佐で年がら年中砂糖弾幕の中を生き抜いてるのよ？」

「ジョンストンはとてもつおい子である」

サム「へえ、そうなんだ。例えばどんな風に甘いのか？」

ガンビー「………／／／／」↑ちよつと気になる

ジョン「……実際にアレ見たら分かるわ」

「ジョンストンが指差した方向を二人が見ると」

フレ「失礼します……んっ♡」チュツ

提督「んっ……」ゴクゴク

「フレツチャーが提督に口移しで食後のコーヒーを飲ませていた

サム「W, Wow」ニガワライ

ガンビー「くくっ／＼／＼」ガンミ

ジョン「どう?」

サム「す、スゴイね」

ガンビー「／／／／」コクコク

ジョン「でしょ? でも執務室だとアレがデフォルトなの。おやつタイムでも小休憩でも、なんでもチュツチュしてるのよ」

ジョン「この私が居るつてのにね!」ドドン

サム「た、大変なんだね」

ジョン「慣れたわよ。というか慣れなきややってられないわ」

ガンビー「や、辞めたいとか思わない?」

ジョン「はあ?」ジロリ

ガンビー「ぴいっ!?」ビクッ

ジョン「辞めたい? 辞めれるもんなら辞めたいわよ! でもね、アタシが辞めたらもつとスゴくなっちゃうでしょ!? この艦隊のみんなのためにも辞められないのよ!」

サム「や、辞めたらどうなるの?」

ジョン「そうね……とりあえず、お互い愛し合い過ぎて永遠とキスしたままでしょうね」

ガンビー「ふわあ／＼／＼」

ジョン「今はアタシがちゃんと注意してるからキスしたままではいられないけど、アタシが辞めたらきつとそうなるわ。断言出来る」

サム「ら、ラブラブなんだね……」

ジョン「ラブラブう?」ジロリ

サム「っ」ビクッ

ジョン「ラブラブなんかじゃ度が過ぎてるわよ! 書類だの報告書だの、アイツが書くでしょ……そこで誤字脱字がありました。あの二人ならどうするでしょーっ!? はい、ガンビア・ベイさん!」ビシッ
ガンビー「え、えっと……優しく指摘して、直してくれる、とか?」
ジョン「ぎーんねーん! 正解は誤字脱字があった数だけ、奥様か

らのキスの刑でーす！ 因みに誤字脱字がなかったらご褒美に5分間の抱擁しながらのアマアマキスタイム突入確定でーす！」

サム「どっちでもキスなんだね……」ニガワライ

ジョン「そしてアタシはその空間に居まーす！ 空気と化しています
が居まーす！ だってキスの先に行きそうになったら止めないとい
けない誰かが必要になるからでーす！」

ガン・サム『なるほど……』

ジョン「ここまで聞いて、アタシが辞めたらあの二人がそのまま
居られると思うと言う方は居ますかー!? 居ませんよねー!? 寧ろ
鎮守府1の功労艦として表彰されていいレベルだと思いませんか
ねー!？」

ガン・サム『コクコク

ジョン「なので軽率な質問は以後しないでくださいーい！」

ガン・サム『イエスマムツ!』ビシツ

くところ戻り、夫婦が座るテーブル

提督「やっぱり食後のコーヒーは最高だなあ」

フレ「ふふふっ、お代わりどうですか?♡」

提督「頂こうかな」

フレ「はあい……んっ……ちゅっ♡」

提督「んっ、んっ」

—————

夕方ー

◇執務室◇

提督「はあ、終わった終わった」ノビー

フレ「お疲れ様です♡」チュツ

提督「ん、ありがとう」チュツ

く夫婦は相変わらずキスしまくる

ジョン「それじゃ、お疲れ様」ノシ

提督「おく、また明日な」ノシ

フレ「お疲れ様でした」ペコリ

パタン

『ジョンストン、お疲れ!』

『ジョンストン、これ、ハバネロタバスコ入り抹茶ラテだ!』

『ジョンストン』

『ジョンストン』

提督「ジョンストンは相変わらず艦隊で人気だな」

フレ「姉として誇らしいです」

く元凶たちが何か言っている」

提督「でも、本当にうちに馴染めて良かったよ」

フレ「あら、アイオワさんが馴染めているんですから、そこまで心配はしてなかったのでは?」

提督「それでも一応はねえ。今は友好国だけど、昔は戦争してたんだからな」

フレ「そうですね。あの頃であつたら、わたくしは提督と出会えませんでした。出会ったとしても戦場だったかもしれない」

提督「今という奇跡に感謝しないとな」

フレ「はい♡」

くフレツチャー、提督の膝の上へ」

提督「今日は随分と甘えん坊さんじゃない?」

フレ「許されるなら、ずっとこのままがいいです♡」スリスリ

提督「それはダメだよ。ジョンストンに怒られるぞお?」ナゲナ
デ

フレ「そうですね。それに我慢したあとのご褒美だと思えば……ふ

ふふ♡」チュツチュツ

提督「だな」チュツチュツ

フレ「ハアハア……提督、わたくし、もう……♡」

提督「実は俺も」

フレ「ふふふ、同じ気持ちというのは幸せなことですね♡」

提督「そうだな……ソファーでいい?」

フレ「わたくしはどこでも……愛する提督となら♡」

提督「くっそ可愛い」

フレ「提督はくっそ格好いですよ?♡」

提督 「こら、女の子がくっそとか言うなよお」

フレ 「誰さんのが感染っちゃったんでしょね〜♡」

提督 「誰だ〜、そいつう?」

フレ 「愛しの旦那様で〜す♡」チュツチュツ

こうして夫婦はまた更にシユガー力を増強し、ジョンストーンから更なる注意を受けることとなるー。

フレツチャー 完

ジョンストンとケツコンしました。

某鎮守府、夜―

◇長官官舎前◇

ジョン「はーい、焼けたわよー！ みんな食べてー！」
みんな『うおー！』

♪今日はみんなだバーベキュー♪

アイオワ「やっぱりバーベキューはステーキよね！」

長門「肉がメインみたいなものだから」フフツ

サラトガ「美味しいわ♪」

龍驤「安い肉なんやけどなあ。みんなと食べると美味しいわ♪」

サム「日本のお肉は柔らかくて美味しいから、何ポンドでも食べられちゃうよ！」ハグハグ

陽炎「野菜も食べなさいよね♪。美味しく焼けてるんだから」ニガワライ

イント「ホントよね♪。お肉以外にも美味しいし♪」

加賀「日本は世界一の国です」モグムシヤ

ガンビー「流石美食の国ですよね♪」

大鳳「誇らしいです♪」

提督（アメリカ艦のみんな、日本での生活もだいぶ慣れてきたなあ。昔お互いに戦争してたなんて嘘みたいだ）

♪提督、今ある絆に感動している♪

ジョン「何ニヤニヤしてるのよ、気持ち悪い……ひとりニヤニヤしてないで、ハニーもステーキ食べなさいよ。アタシが焼いてあげてるんだから」

提督「気持ち悪いって言われた……」ガーン

ジョン「何よ、シヨックなの？いつものことじゃない」フンツ

提督「嫁が厳しい……」グスン

ジョン「そんなことより、早く食べなさいっ！ ちゃんとハニー用にこうして持ってきてあげたんだから！」ズイツ

提督「ん、ありがとう」

ジョン「ちゃんと筋は取ったはずだけど、もし噛み切れないのがあつたらここの紙コップにペツてするのよ?」

提督「ああ、分かってる」

ジョン「ちゃんと一口サイズにカットもしたけど、熱いから火傷しないようにちゃんとフーフーして食べるのよ?」

提督「あ、ああ、分かってる」

周りの艦娘『(相変わらず奥様は提督にだけは過保護だなあ)』ニヤニヤ

ジョン「うーん……やっぱり見てられないわ。アタシが食べさせてあげる!」

提督「え、別にそこまでしなくても……」

ジョン「アタシがするって言ったらするの! あなたはアタシがいないと silly……愚か者なんだから!」

提督「ひどい……」シクシク

ジョン「アタシとケツコン出来たのが嬉しくて、今更泣かなくなつていいじゃない♡ ホント、愚か者ね!♡」

(そういう素直な反応がアタシは大好きよ♡)

ジョン「えつとソースは……やっぱりニンニク増し増しのソイソースかしら?」

提督「え、ニンニク入ってるならちよつと遠慮したいんだけど……」

ジョン「あら、どうして? ハニー好きよね、このソース?」

提督「す、好きだけど……ちよつと今は……」

ジョン「? 何よ、ハッキリ言いなさいよ」ムナモトツンツン

提督「えつと……ニンニク増し増しだとですね……」

ジョン「うん」

提督「あとあとキスとかし難くなるかなつて……」

ジョン「? アタシは別に気にしないわよ? 寧ろあなたの口にニ

ンニク詰め込んだ状態でだつてキス出来る自信あるわ♡」ニパッ

提督「っ／／／／」

周りの艦娘一部『ヒューヒュー♪』↑冷やかし

周りの艦娘一部『うつぶ……!』↑甘くて胸焼け

ジョン「相変わらずハニーは変なところで気にするんだから。ダメよ、そんなんじゃ? あなたの妻はそんなつまらないこと気にしないくらい、最高の妻なんだからねっ♡」

提督「そ、そうだね……／／／／」

ジョン「そうよ♡ それじゃ、気を取り直して……はい、あーん♡」

提督「あく……ん」パクツ

ジョン「美味しい?♡」

提督「デリシヤス」

ジョン「えへへ、まあ当然よね♡」デレデレ

—————

バーベキューが終わったあとー

く夫婦は官舎内に引き上げて、まつたり中く

提督「はあ、食べた食べた……苦しい」

ジョン「いいことじゃない♡」

くジョンストン、提督の膝上にお姫様抱っこ状態く

提督「まあ満腹なのは幸せだからな」

ジョン「♡」

(あなたが幸せだとアタシも幸せ♡)

提督「ジョンストン、その……ちよつと離れて」

ジョン「Why?」

提督「ほら、今の俺はニンニク臭が……」ニガワライ

ジョン「まだ言ってる……いい加減にしないと本気で怒るわよ?」

提督「ジョンストンが気にしなくても俺が気にするんだよ……」

ジョン「Why?」

提督「臭いとか思われたくないだろ……好きな人なら尚更……」

ジョン「っ♡」ドキッ

ジョン(ズルい……ズルいズルいズルいズルいズルい! そんな言い方しなくなっただけいいじゃない!)↑喜んでる

ジョン「御生憎様。アタシ、どんなあなたでも愛せる女なの。だからこそ神様にだって誓えたし、絶対に離れてあげないっ♡」ヒシッ

提督「うぐっ／＼／＼」

ジョン「I didn't know what true love was until I met you」

《あなたに出会うまで、本当の愛を知らなかった》

提督「……………」

ジョン「Stay who you are」

《そのままのあなたが好き》

提督「俺も……そのままのジョンストーンが好きだよ」

ジョン「当然よね」ニパツ

ジョン「あ、来月アメリカに旅行へ行くでしょ？ あつちに行ったらお姉ちゃんたちや妹たちみんなにあなたをアタシの最高の夫だつて自慢してまわるから」

提督「え」

ジョン「でも、その前にもっと幸せな報告したいのよね？」

提督「？」

ジョン「ニンニクつて食べると凄いつて日本の艦娘の子たちから教えてもらったの」

サスサス

提督「なん……だと!？」

ジョン「期待してるからね、愛しのハニー」ガバツ

提督「あああああっ！」

そして夫婦はアメリカ旅行の際、おめでたい報告もしたとかー。

ジョンストーン 完

ハイウッドとケツコンしました。

某鎮守府、昼下り――

◇埠頭◇

フレツチャー（以降フレ）「無事に戻って来れましたね」

ジョンストン（以降ジョン）「そうねー。ま、見回るだけの簡単な任務でつまんなかったけどね！」

「鎮守府の周辺海域警戒任務を終えたところ」

フレ「もう、そんなこと言って……警戒任務も大切なんだから」

ジョン「分かってる分かってる」

「二人共、お疲れ様です」

フレ「あら、ハイちゃん。お出迎えに来てくれたの？」

ジョン「んなわけないでしょ。エドは旦那命なんだから、旦那さんに言われて工廠なんかに行つてた帰りよ、どうせ」

ハイウッド「酷い言い草ですね、シスター」

ジョン「だつてそうじゃない。ならわざわざお出迎えにでも来たの？」

ハイウッド「……工廠帰りで、二人の姿が見えたから……」

ジョン「ほらあ」ニヤニヤ

ハイウッド「……／／／」プイツ

フレ「こら、ハイちゃんをからかわないの」メツ

ジョン「へへ、はいはい♪」

フレ「もう……。ハイちゃん、私たちは補給を終えたら報告に上がること提督に伝えてくれない？」

ハイウッド「それは既に二人の姿を見つけた時に提督に伝えてあります。提督からは『ゆつくりおいで』とのこと」

フレ「了解。それじゃあ、またね？」

ジョン「イチャイチャし過ぎて忘れないようにねー♪」

ハイウッド「……はい」

それから――

◇執務室◇

提督「ハイウッド、今日の君もとても美しいね」

ハイウッド「あの……はい、嬉しいです、提督♡」

提督「運命なんてずっと信じたい人の戯言だと思ってた。君に会
うまでは」

ハイウッド「……………♡」モジモジ

提督「何度でも言おう。ハイウッド、君は俺の運命の人だ。愛して
いる」

ハイウッド「……私も愛しています♡」

く熱い抱擁を交わす二人く

フレ「……………」

ジョン「……………」

くそれをただただ見守るしかない姉たちく

ハイウッド「あ、あの、提督……シスターたちが報告をするために
来ているのですが……」

提督「ん？ ああ、そうだったね。二人共お疲れ様。俺とハイウツ
ドのことは気にせず報告してくれたまえ。ハイウッドを構ってはい
るが、しっかり頭には入るから」

く提督はハイウッドを抱きしめ、頬擦りしながらいるく

フレ「ええと、特に異常はありませんでした」

提督「当然だね。二十四時間体制で周辺海域の安全は確保してい
るのだから」スリスリ

ハイウッド「……………♡」

ジョン「でも流星に二人だけでつてのは酷いと思うわ。せめてもう
一人いてくれた方が助かるんだけど？」

提督「そこは申し訳ないと思っっている。しかし大丈夫だ。海防艦た
ちの練度も一定に達したからね。次からは海防艦たちや海防艦たち
の教官につけていれた駆逐艦の子たちが手隙になるから、四人行動に
出来る」ホツペチュツチュツ

ハイウッド「……………♡」キャツキャ

フレ「……では報告は以上になります」

ジョン「もう行くわね。正直、二人の姿見てるだけで胸焼けするのよ」

提督「俺たちの愛は止まらないんだ。ゆっくり休んで、次の任務に備えてくれ」ギューツ

ヘイウッド「……………♡」ニへへ

くフレツチャーたちが執務室をあとにしたく

ヘイウッド「提督、シスターたちの前や他の人たちの前ではもう少し愛情表現を抑えてください。嬉しいですが、恥ずかしいんですよ？
／／／／」

提督「そうか……………努力しよう」

ヘイウッド「もう……………／／／／」

(そう言っついても何も変わらないですよね？／／／／)

提督「それよりヘイウッド」

ヘイウッド「はい、どうしました？」

提督「フレツチャーたちの報告で今日の業務は終わりだな？」

ヘイウッド「はい。出撃していた艦隊も遠征艦隊も全て帰港しましたから」

提督「ならもういいな？」

ヘイウッド「……………はい♡」

く提督の真剣な眼差しを前に、ヘイウッドはそつとまぶたを閉じて待機するく

提督「愛しているよ、ヘイウッド……………んっ」

ヘイウッド「んっ……………♡」

く業務外であれば提督はヘイウッドとのキスを解禁するのだく

提督「……………うん、やはりヘイウッドとのキスは最高だ」

ヘイウッド「もう、提督ったら……………♡」ニヨニヨ

提督「愛する人とキスしたくなるのは当然だろう？」

ヘイウッド「そうですね♡」

提督「本当に君と出会うまで俺は愛のなんたるかを全く知らずに生きてきたんだな」

ヘイウッド「大袈裟ですね……………」

提督「そんなことはない。一人の人をこんなに愛し、欲することは今までになかったんだから」

ハイウッド「……それが私であるということが、この上ない幸運です♡」

提督「ああ、ハイウッド。愛している」

ハイウッド「私も、心から愛しています♡」

今までもこれからも、夫婦はずっと互いへの愛を囁き、末永く幸せな日々を過ごすのだった——。

ハイウッド 完

サミュエルとケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇夫婦の部屋◇

サム「んく……もう朝かく……」

くサム、お目覚めく

サム（提督は……）チラッ

提督「（ \boxtimes ω \boxtimes ）」スヤア

サム（まだまだ起きなさそう……）クスクス

サム（今は何時かな？）チラッ

時計くおう、まだ起きるには早いんじゃないか？

サム（まだ六時前か……六時になるまでは寝かせておいてあげよ

♡）

サム（だって、昨晚はいっぱい私を愛してくれたし♡）ニへへ

提督「んん……」ゴロン

サム「ひやつ」ビクッ

く提督、寝返ってサムを抱きしめる形にく

サム（はわわ……提督ってば朝から大胆♡／／／／）

サム（幸せだなあ……日本に来て良かった♡）

提督「すう……すう……」Zzz

サム（きて、そろそろ起こそうかな♡）

サム「提督く……て・い・と・くく♡ 朝だよ♡」ユサユサ

提督「んん……」パチッ

サム「えへへ、Good Morning baby♡

Kiss me before I rise♡」

提督「ん……おはよう、ちゅっ」

サム「んちゅっ……いい夢は見れた？♡」

提督「今もいい夢の中にいるくらいだよ」

サム「ふふ、良かったね♡ でも今の私はあなたの夢の中にいる私

じゃないよ♡」ホッペチュッ

提督「そうだね」ナデナデ

サム「うん♡ さあ、起きて今日も頑張ろう!♡」ニパッ

提督「おう」ニコッ

「こうして夫婦は今日も仲良く出勤」

ー

そして昼下がりー

◇本館内・廊下◇

サム「えっと、オーヨドーさんには書類を提出したから、あとは戻って提督の書類整理をすればー」

ドンッ

「サム、誰かとぶつかる」

サム「うああっ!?!」

アイオワ「Oh, sorry...:Are you all right?」

「アイオワ、サムを抱き止める」

サム「ビツク・ステイック(アイオワの愛称)……うん、大丈夫。私こそ、ぶつかっちゃってごめんね?」

アイオワ「いいのいいの。ミーが周りを見てなかったから……:そういえば、ポーナス・ベイビーに会った?」

サム「え、ううん、会ってない」

アイオワ「そうなの? 私はさつき執務室に報告書を届けに行ったんだけど、その帰りに向こうの廊下で会って、何かあなたに用事があるみたいだったから……:」

サム「そうなんだ……:教えてくれてありがとう! 執務室に戻ったら連絡してみるね!」ニコッ

アイオワ「ええ、それじゃあまたね」ノシ

「サムはアイオワと別れ、執務室へ」

◇執務室◇

トントントントー

提督『どうぞ』

ガチャー

サム「戻ったよ、提督♡」

提督「おかえり。それとサムにお客さんだよ」

ガンビア「H, Hello……」ノシ

サム「あ、ガンビー！ 良かった！ 執務室にいたんだね！」

ガンビア「う、うん……アドミラルに連れて来てもらったの……／

／／」テレワライ

提督「俺がトイレから帰る時に迷ってたみたいだったからね……それにサムに用事があるみたいだから連れて来たんだ」

サム「そうなんだ」クスクス

提督「にしても、ガンビア・ベイはよく迷うなく。着任した時に何度も一緒に歩いて案内したのに……」ニガワライ

ガンビア「あう……だ、だってえ、ここって広いのに案内標識も何も無いんだもん……／／／」モジモジ

提督「はいはい、また迷子になったら教えてやるよ」ナデナデ

ガンビア「むう、すぐに子ども扱いしてえ……／／／」

提督「すぐに迷子になるんだから、おつきな子どもみたいなものだろ？」ナデナデ

ガンビア「今度は迷子にならないもん！／／／」

提督「その言葉は何度も聞いたなあ」ニヤニヤ

ガンビア「／／／」ポンポン

サム「(？・へ？)」「ムツスー

／サム、絶賛嫉妬中」

サム「ね、ねえ、ガンビー！ 私に何か用事があるんでしょ？ その用事ってなんなのかな!？」ズイツ

ガンビア「あ、ごめんね！ えっとー」

／ガンビア、サムに用事を伝え中」

ー

ガンビア「じゃ、じゃあ、よろしくね……二人共バイバイ／／／」ノシ

サム「またね〜！」ノシ

提督「帰りも迷子になるなよ〜！」ノシ

ガンビア「ならないもん！／＼／＼」
バタン！

サム「ふう……提督、ガンビーをあまりいじめちゃダメだよ？ 女の子には優しくしなきゃ」

提督「え……まあそうだな。でもあれだけオドオドしてるといじり甲斐があるんだよなあ……反応もかわいいし」

サム「そう言えば、随分親しかったもんね！ ごめんね、私はかわいくなって！」フンツ

提督「なんでそういう話になるんなんだよ……ガンビア・ベイは部下としてかわいいってことだよ」

サム「どうだか……さつきだつてずっとガンビーの頭をナデナデしてたくせに」

提督「ん、なんだ……ヤキモチか？」

サム「デリカシーが無い人はキライ！」ツーン

提督「俺はどんなサムも大好きだし、愛してるぞ！」

サム「つ……そ、それくらいで私が許すともー」

ギョツ↑提督、サムを抱きしめる

サム「はにゃ♡ じゃなくて、抱きしめたくらいじゃー」

ナデナデ↑提督、抱きしめながらナデナデ

サム「はう♡ しよ、しようがないなあ……でへへ♡」ニヨニヨ

提督（どうして俺の嫁はこんなにもチョロくてかわいいんだろう……変な男に騙されないか心配だ）ナデナデ

サム「ん♡♡」スリスリ

提督「次の週末、ガンビア・ベイと一緒に街でアメリカにいるあいつの姉たちに送る贈り物を選ぶんだろ？ 変な男には注意しろよ？」

サム「え、何言ってるの？ 提督以外の男の人なんてそこら辺の雑草と同じだよ？」ニコニコ

提督「そ、そうか……」ニガワライ

（そうだった……俺の嫁は笑顔で深海棲艦を沈める子だった）

サム「そんなに心配なら、提督も来る♡？ 私はそうしてくれ
ると嬉しいなあ♡」

提督「ああ、分かった。ついてくよ」

(ある意味で心配だからね！)

サム「やったあ♡ じゃあ、約束のキスして♡」

提督「ん、了解……ちゅっ」

サム「ちゅっ♡ I m 私は永遠にあなたのためだよ yours forever♡」

提督「おう、死んでも離さないさ」

サム「うん♡」

そして週末、街が夫婦のシュガーテロの餌食になることをこの時誰も予期してはいないー。

サミュエル 完

ジャーヴィスとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

ジャー「あ、もうこんな時間！ ダーリン、ちよつと席を外すね！」

提督「ああ、いつもの勉強会だな。行ってらっしゃい」ニコツ

ジャー「あはっ、行ってきま〜す！♡」ナゲキツス

パタン

提督（あとでみんなへ何か差し入れでも持っていくか……）

〜落とし物を発見〜

提督（そそつかしいな……）ヒョイ

『Dear My Darling♡』

提督（ん？ 俺宛？）

ー

ー

ー

◇艦娘宿舎◇

雪風「ええー！ じゃあ、まだ渡してないんですかー!?!」

時雨「いつもあれだけイチャイチャしてるのに？」

初霜「まあまあ、ジャーヴィスさんにだって事情がありますよ」ニ

ガワライ

ジャー「うう〜……Sorry」シユン

アーク「まあ、タイミングというものがある。こればかりは仕方な

いだろう」

ウオspa「そうよね……でももどかしいわ」ニガワライ

雪風「それとも、まだ不安な箇所があるんですか？」

ジャー「う〜ん……みんなに教わって書いたから、大丈夫だと思う、

よ？」

時雨「そこ疑問系なんだ」ニガワライ

ウオspa「淑女なら自信を持ちなさい」

アーク「」コクコク

初霜「えつと……ならもう一度みんな読んでみて、再度直しましょうか？」

ジャー「うん……ゴメンネ？」

雪風「いえいえ、気にしないでください！」ニッコツ

時雨「乗りかかった船さ。気にしないでいいよ」ニッコツ

初霜「好きな人への手紙なら、これくらい慎重になりますから」ニッコツ

ウオspa「仲間のためだからね」フフ

アーク「とことん付き合うよ」フフ

ジャー「みんな……Thank youありがとう」ニッコリ

くそしてジャーヴィスは手提げを漁るがく

ジャー「あれ？ ダーリンへの手紙がない……」ガサゴソ

時雨「え、どこかに置き忘れたの？」

ウオspa「貴女って子は……」

ジャー「そんなことない！ だって、ダーリンに渡そうと思っていつも持ってたもん！」

雪風「なら執務室に置いて来ちゃったんですかね？」

アーク「それがここに来るまでに落としかか、だ」

ジャー「ちよつと待ってて！ 今来た道に戻って探してくるからく！」

初霜「慌てて転んだりしないでくださいねく！」

ジャー「サミダレーじゃないから、大丈夫く！」ノシ

時雨「何気、五月雨に失礼なこと言ったね」ニガワライ

初霜「でも強く否定出来ないのが心苦しいですね」ニガワライ

ウオspa「ごめんなさいね」ニガワライ

アーク「私からお詫びをしよう」ペコリ

雪風「？」↑分かってない

◇執務室◇

提督「……………」

「提督、手紙の中を何度も確認中」
だんなさま、こんにちは。
いつもジャービスのことを
あいしてくれてありがとうございます。
ちゃんとだんなさまのくこのことばで
ジャービスのあいをつたえたくて
こうしておてがみをかいたよ！

提督（頑張って慣れないひらがなを使って書いてくれたんだな
……）「ゾーン」

ジャービスはいつもだんなさまを
とつてもあいしてるから

かたときもだんなさまをわすれてないよ！

だんなさまへのきもちはずつとかわらないから！

だんなさまがしゅっちようでないときも

ほかのみんなとしゅっけきしてるときも

ずつとずつとだんなさまをおもってる！

いつもジャービスをあいしてくれて

ほんとうにありがとうございます！

ジャービスはいつも

かみさまのなまえをよんでないとき

だんなさまのなまえをよんでるよ！

だいすき、あいしてる、ありがとう

ぜんぶぜんぶうれしい！

提督（ジャービスより……か。ジャービスの“ヴィ”が“ビ”に
なっているのが、またかわいい）

提督（というか、俺宛だったからつい読んじまったけど、良かった
のか？）

提督「よし、元の位置へ戻さー」
ボタン！

ジャー「ただいま、ダーリン！♡ でも忘れ物を取りにきたただけだ
から、すぐに戻る……よ？」

提督「あ……」

く提督、バレるく

ジャー「ダ、ダーリン、それ……」プルプル

提督「ご、ごめん……俺宛だったからつい……」

ジャー「……………」カァー

提督「な、なあ、質問してもいいか？」

ジャー「?／／／」クビカシゲ

提督「この手紙のために雪風たちから日本語を習ってたのか？」

ジャー「……………」コクコク

提督「そっか……」スツ

く提督、ジャーヴィスのそばへく

ジャー「……………」ウツムキ

（や、やっぱり、アタシのニッポン語、変だったのかな……?／／／）

提督「こんなにも素晴らしい手紙をありがとう。
I loved you the whole time.」ギユツ

ジャー「ダーリン……」ギユーツ

提督「Give me a kiss」ニコツ

ジャー「まっかせて〜!」

ちゅ〜♡

ジャー「つはあ……えへへ♡ もつとしてあげようか?」ニコニコ

コ

提督「ああ、してほしいな」ニコツ

ジャー「とてもいっぱいしてあげる〜♡」チュツチュツ

◇執務室外・ドア前◇

ジャー「I love you♡ I love you♡」

チュツチュツ

提督『あはは、俺も愛してるよ』チュツチュツ

／ラブラブチュツチュ〜

ウオスパ「なんとかあったみたいね」ニガワライ

アーク「この中の様子ならそうでしょうね」ニガワライ

雪風「なんか、いつぱい音がしています！」キラキラ

時雨「バーンってドア開けちゃう？」

初霜「や、やめましょうよ／＼／＼」

→ジャーヴィスの戻りが遅くて心配で見に来た

ウオスパ「さ、私たちは戻ってティータイムにしましょう」

アーク「ですね。夫婦の邪魔をしてはいけませんから」

雪風「ミルクティーがいいです！」

時雨「僕はこの前通販で買った世界一苦いお茶を持参していくよ」

ニコッ

初霜「あはは……」ニガワライ

こうして夫婦はよりラブラブに、砂糖を鎮守府へ撒き散らすのだったー。

ジャーヴィス 完

ジェーナースとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇中庭◇

ジェーナース「Hi, Darling♡ 待たせたわね、ティータイムのセットを持ってきたわ♡」

提督「ああ、ありがとうナス」

ジェーナース「勝手に名前を省略しないで」ブラックスマイル

提督「ご、ごめん……」ニガワライ

(ついナスの方が親しみやすく呼んじゃうんだよなあ)

ジェーナース「ま、いいわ。それよりせっかくの夫婦二人だけのティータイムなんだから、うんとラブラブしましょ♡」

くそう言つてジェーナースは提督の後ろから抱きついた

提督「ああ、そうだね。やっとうこうして時間が取れたんだからね」
ジェーナース「うん……お仕事でも私は常にDarlingの隣にいられるけど、やっぱり夫婦ならたまにはちゃんと落ち着いてラブラブしないよね!♡」

提督「落ち着いてラブラブって妙な言い回しだね」

ジェーナース「余計なツツコミはいらないわ!」

提督「はいはい。で、今回は何を用意してくれたのかな?」

ジェーナース「ふふん、そんなのDarlingの大好物な私特製のチョコチップスコーンとストロベリーカップケーキよ!♡」

くケーキスタンドはお菓子でぎちぎちに

提督「こんなに……」

ジェーナース「余ったらジャーヴィスやアークやネルソンにあげるわ」

提督「ウォースパイトには?」

ジェーナース「オールドレディにはここに来る前に渡してきたわ。流石に陛下の妹君へ余り物をあげるのは失礼でしょ?」

提督「なるほどね」

ジェーナス「だから何も気にせず、Darlingは好きだけ食べればいいの♡」

提督「では遠慮なくいただくとするかな」

ジェーナス「なら今お茶を入れるわね♡」

ジェーナス、慣れた手付きで紅茶を淹れていく

提督「ジェーナスは紅茶を淹れる仕草が絵になるよね」

ジェーナス「その時だけなの？」

提督「あはは、いつもは可愛いからね。戦ってる時やそうしてる時は可愛いよりは綺麗って思うから」

ジェーナス「そ、そうよね!♡ だってこの私は誉れ高きJ級駆逐艦のNumber5、ジェーナスだもの!♡ 艦時代に10個の戦闘名誉章を受章したんだし、当然の評価よね!♡」エッヘン

提督「あはは、流石だね♡」

ジェーナス「だからDarlingは私以上に受章するのよ? なんとって私の自慢のDarlingなんだから。当然出来るはずだわ♡」

提督「ご期待通りになるよう頑張るよ」

ジェーナス「相変わらず気の無い返事ね……」ヤレヤレ

提督「なはは……」ニガワライ

ジェーナス（まあ、最初は私の名前すら知らなかったものね。あれには流石に驚いたけど、戦術家としては逸材だもの。もともと名前を轟かせるはずよ。私がしっかりサポートしてるわけだし!♡）ニシ

提督「そんなに笑ってどうしたの？」

ジェーナス「ううん、なんでもない♡ はい、どうぞ、火傷しないようにね♡」

提督「わあ、ありがとう」

ジェーナス「ミルクやお砂糖はいつも通りご自由に♡」

提督「はい」

ー
ー
く仲良くティータイムの最中く

ジェーナス「そういえばね、ジャベリンからEメールで次の休暇にサフォークとジャージーとジュピターの三人を連れてここに来てもいいかって。期間は1週間だって」

提督「それは構わないよ。向こうの方でもその許可は出てるってことでしょ?」

ジェーナス「うん。あとはDarlingからの許可とDarlingの上官たちから許可を貰えばいいってわけ」

提督「イギリスとは友好関係にあるからそこは問題ないだろう」

ジェーナス「その言い方だと他に問題がありそうね。何かがあるの?」

提督「うちの鎮守府の周りには観光スポットがないからね。退屈なんじゃないかと思って」

ジェーナス「あら、そんなのいらない心配だわ。今回の休暇は観光じゃなくて友と再会するのが目的なもの。お互い積もるお話もいっぱいあるし」

提督「なるほどね」

ジェーナス「それに私とDarlingがいかに毎日ラブラブで幸せな時間を過ごしてるのかを聞かせてあげないとね!♡」デヘデヘ

提督「……程々にね」ニガワライ

ジェーナス「え、いいじゃない。現にラブラブなんだから」ムスツ

提督「するにしても俺のいないところで話してくれ。そういうの面映いんだ」

ジェーナス「ならそうするわね♡」

ジェーナス「あ、ジャベリンたちが来たら是非食べさせたいお菓子があっただわ! アカシーにダンボールで仕入れてもらおうように言つとかないと!」

提督「ああ、あれか……ジェーナス好きだよね」

ジェーナス「元はと言えばDarlingが私に教えたんでしょ?

『俺の知ってるスコーンはこれだ』って」

提督「いやあ、あんなにハマるとは思ってたんですね……」

ジェーナス「別に怒ってないわよ？ 美味しいもの、あれ♪ きつとジャベリンたちもファンになるはず！」

提督「一時期はずっとおやつに食べてたもんね〜」

ジェーナス「だってどの味も美味しいもの♪ Darlingと仲良く食べさせ合うのにも丁度いいサイズだし♡」

提督「そうだね」

ジェーナス「それでね、Darling」

提督「ん？」

ジェーナス「大事なお願いがあるの」

提督「どうした？」

ジェーナス「ジャベリンたちに重大発表しようと思うの」

提督「どんな？」

ジェーナス「おめでた発表♡」

提督「え」

ジェーナス「あ、もちろんまだそんなことになってないからね？」

提督「あ、ああ……」

ジェーナス「今夜からDarlingと頑張ろうかなって♡ ジャベリンたちが来るのは早くてもあと1か月後だし、それまでにはデキるよね？♡」

提督「ど、どうかな〜？」

ジェーナス「それとも、Darlingは私との子どもは嫌？」

提督「それはない」

ジェーナス「なら、いいよね！♡」

提督「……………覚悟を決めよう」

ジェーナス「やった♡ なら早速今夜からラブラブイチャイチャ子作りセツ〇スしよ♡」

提督「もうちよつとオブラートに包もうか」

ジェーナス「うるせー！♡ ヤローー！♡」

提督「どっかの海賊漫画の主人公みたいに叫ぶなっ！」

その後、ジェーナスは無事に懐妊し、来日した妹たちや戦友に聖母のような笑みで報告をした。

ただその隣ではどこかのジョーと化した旦那がおり、彼女の性格を知る妹たちや戦友は旦那へ同情を寄せたという。

でも夫婦からは幸せなオーラがプンプンだった。だからサフォークやジャベリンたちは、そのオーラに常に晒されている戦友たちやジェーナスの姉には、より強い同情を寄せたそうなの。

ジェーナス 完

ジャヴェエリンとケツコンしました。

某鎮守府、昼下がり――

◇執務室◇

ジャヴェエリン「Admiral! I'm home♪ 遠征任務から帰ったわよー!」

提督「(⊠ω⊠)「スヤア

ジャヴェエリン「……寝てる」

ジャヴェエリン、静かに提督の側へ

ジャヴェエリン「Admiral? おーい、Admiral?」

提督「ぐう、すかぴ」

ジャヴェエリン「おヨメさんが帰ってきたんだから、出迎えるまではしなくても起きててよ!」

べしん!

ジャヴェエリンの張り手が提督の背中に炸裂

提督「……おかえり、ジャヴェエリンちゃん」ニコリ

痛がりもせずにケロッとしている提督

ジャヴェエリン「え、痛くないの? 私がやっておいてなんだけど、ケツコー力込めたんだけど?」

提督「んー、僕は痛みに鈍感だから」

ジャヴェエリン「えー、出会って数年経つのに知らなかったんだけど!?!」

提督「また僕のことを知ってもらえて嬉しいよ」

ジャヴェエリン「ふ、ふんっ♡ 何恥ずかしいこと言ってるのよ!♡」

口ではそう言っているも提督の新しいことを知れて嬉しいジャヴェエリン

ジャヴェエリン「まあいいわ。とりあえず、帰ってきたんだから、はい♡」

ジャヴェエリンは両手を広げてハグを催促する

提督「ん? ああ、おかえりおかえり」

ガシッ

ジャヴェリン「What?」

提督「高いたかーい♪」

ブンブンブンブン

ジャヴェリン「くっくっ!」カチン

べしっ!

くジャヴェリンは提督のおでこにチョップを見舞うく

提督「あれ? 僕、またなんかしちゃった?」

ジャヴェリン「どこのラノベ主人公よ! 高い高いなんかで喜ぶワ

ケないでしょ!」

提督「ええ……ごめん」

ジャヴェリン「ハグよ、ハグ! ヨメが両手を広げたらハグの合図

でしょ、フツッ!」

提督「いやあ、たまには甘えたいのかと……」

ジャヴェリン「ハグだつて甘えたい時にするの! 言わせるんじや

ないわよ!」フンッ

提督「ごめんごめん……はい、ハグ」

むぎゅっ♡

ジャヴェリン「っ、すっかりしてよね……まったく♡」スリスリ

提督「以後気を付けます」

ジャヴェリン「ん、よろしい♡」

くその後、存分に提督とのハグを堪能するジャヴェリンだつたく

◇鎮守府・中庭◇

提督「ジャヴェリンは今日、とっても甘えん坊だねえ」

ジャヴェリン「いつも通りでしょ♡」スリスリ

提督「そうかな? いつもよりスキンシップが激しい気がするけど

……」

ジャヴェリン「文句あんの?」

提督「ううん。僕も朝から寂しかったからね」

ジャヴェリン「僕『も』とか♡一緒にしないでくれない?♡」

く言葉は正直じゃないジャヴェリンく

提督「あはは、そっかそっか」

ジャヴェリン「まったく、ホントAdmiralは私がいないとダメなんだから♡」

提督「そうだねえ」

ジャーヴィス「あ、ジャヴェリン！ さつきぶりー！ 愛しのダリンに甘えられて良かったね！」

ジェーナス「旦那に甘えたくてキーキーうるさかったものね、あなた」

「そこへ姉妹たちが爆弾を投下」

ジャヴェリン「は、はあ!? そんなことないし！」

ジャーヴィス「はいはい。ツンデレ乙〜♪」

ジェーナス「ここまで来ると寧ろ清々しいわね。ま、それだけベツタリなら説得力ないけど……」

ジャヴェリン「こ、これはAdmiralが離してくれないの！」

提督「そうだよお、僕がジャヴェリンから離れたくないんだ」

ジャーヴィス「ワオ♪ 熱々〜♪」

ジェーナス「ホント、いい人見つけたわね、ジャヴェリン。大切にしなさいな」

ジャヴェリン「言われなくても大切にするに決まってるでしょ！」

「いいからさつきと行きなさいよ！」

ジャーヴィス「はいはい♪ お邪魔しました〜♪」

ジェーナス「バーイ」

提督「お姉さんたちに強く当たり過ぎじゃない？」

ジャヴェリン「私とAdmiralの時間を邪魔した二人が悪いの！ あと二人が言ってたことは忘れなさいよね!?!」

提督「うん、僕は何も聞いてないよー」

ジャヴェリン「ん、よろしい♡」

「その後もジャヴェリンは提督にずっと甘えた」

夕方――

◇執務室◇

ジャヴェリン「ねえ、まだ終わらないのー?」

提督「もうちよつとで終わるよー」

「ジャヴェリンはあれからずっと提督に抱きつき中」

ジャヴェリン「早くしないさいよねー。じゃないとキス出来ないんだから。私、ずっとほっぺにキスするだけで我慢してるのよ?」

提督「ごめんね。あと少しで終わるから」

ジャヴェリン「それが終わったら、もう何も無いわよね?」

提督「ああ、ないよ」

ジャヴェリン「じゃあ、それが終わったらキスしてー、ハグしてー、キスしてー、部屋に戻ってー、いっっぱいキスして過ごしましょうね♡」

提督「ご飯は?」

ジャヴェリン「ムード壊す天才ね、Admiralは」

提督「ごめんね?」

ジャヴェリン「疑問系なのが引つかかるけど、まあ許してあげる。

その代わりディナーはAdmiralが食べさせなさいよ?」

提督「いいよー♪」

ジャヴェリン「ん。よろしい♡」

提督「何が食べたいか考えておいね」

ジャヴェリン「なんでもいいの?」

提督「いいよー♪」

ジャヴェリン「ならオムライス!」

提督「了解」

ジャヴェリン「ちゃんとケチャップでハート描いてくれないと怒るからね!」

提督「ちゃんと分かってるよ。安心して」

ジャヴェリン「ん、よろしい♡ I love you more than words can say(言葉に表せないほど愛してる)♡」

提督「僕もだよ」

そのあと、ジャヴェリンは提督お手製のオムライスを堪能し、存分

に甘えて幸せいっぱい
の夜を過ごした——。
ジャヴェリン
完

タシユケントとケツコンしました。

海軍保有温泉旅館、夕方――

◇ロビー◇

女将「此度は当旅館にお越し頂き、まことにありがとうございます。旅の疲れをゆつくりと洗い流していつてくださいますし」ペコリ

提督「お世話になります」ペコリ

タシユ「お世話になります」ペコリ

く夫婦、新婚旅行で温泉に

女将「それでは、お部屋の方にご案内させて頂きますね。お荷物はこちらへどうぞ」ニコツ

提督「お願いします」

タシユ「……」オロオロ

女中「奥様もご遠慮なさらず」ニコツ

タシユ「あ、ああ、Спасибо」ニコツ

くお部屋に案内され、旅館の説明も受けて、まったり中

タシユ「んくっ……緊張した」グデー

くタシユケント、提督の背中に覆い被さって甘え中

提督「そんなにか？」ナデナデ

タシユ「うん……まあ、”奥様”って響きはちよつと感動したけど♡」

提督「そりゃあ、新婚旅行で予約したからな」

タシユ「はは、それもそうだよ♡」

提督「昼間は観光で歩き回ったし、夕飯の前にひとつ風呂浴びるか？」

タシユ「それもいいけど……もう少しこうしてたい♡」スリスリ

提督「ああ、いいよ」

くタシユケント、提督が胡座を掻く足の隙間へ移動

タシユ「んく、やつぱり同志に背中を任せるのが一番落ち着くなあ♡」アシパタパタ

提督「そんなに足を動かして、テーブルにぶつけるなよ？」
タシユ「そしたら同志のせい♡」

提督「なんでだよ」ニガワライ

タシユ「アタシをそれだけご機嫌にしたから♡」ニシシ

提督「理不尽と嘆くべきか、男冥利に尽きると喜ぶべきか……難しいところだなあ」

タシユ「そこは喜べよう」アタマグリグリ

提督「へいへい、嬉しす嬉しす」アタマポンポン

タシユ「あゝ、その言い方は喜んでないな？」

提督「エー、メツチャヨロコンデルヨ」

タシユ「なんでそんな口ボツトみたいな口調なんだよ！」

タシユ「ケント、体勢を変えて提督と向かい合う」

タシユ「喜べ〜！」ホツペムニムニ

提督「うへひ〜」

タシユ「ぷっ……あはは！ 変な顔〜！」

提督「自分でそうしといて笑うなよ」ペチン

タシユ「あてっ……だつてさ〜」クスクス

提督「はいはい、んじやそろそろ風呂入ろうぜ」

タシユ「は〜い♡」

〜夫婦、仲良く温泉へ〜

◇貸切露天風呂◇

カポーン……

タシユ「お〜……」カンドウ

提督「晴れて良かったな〜」

〜満天の星空〜

タシユ「最高だあ〜……大好きな同志は居るし、夜空は綺麗だし

……♡」ウツトリ

提督「………また、休みが取れたらまた旅行しような」ナデナデ

タシユ「無理しなくていいぞ？ アタシらにはやらなきゃならない

ことがたくさんあるんだからさ」

提督「そうだけど、俺は嫁さんと色んな景色見たいんだよ……」
タシユ「なくに、これからたくさん見せてあげるよ」

提督「え？」

タシユ「勝利の景色を嫌ってほどね♡」ニコツ

提督「つ……期待してるよ」ニコツ

タシユ「ああ♡」ギューツ

「そのあとも仲良く温泉を堪能した」

「」

「部屋で夕飯」

タシユ「間宮や伊良湖や鳳翔の料理もいいけど、こういう旅館の料理ってのもすごいね！」キラキラ

提督「ははは、そりゃあな」

タシユ「ほら、同志♡」

提督「？」

「タシユケント、ビール瓶を提督に見せる」

提督「ありがとう」つコップ

タシユ「これでも奥様だからね♡」トクトク

提督「おっとと……んじや、次は俺が」

タシユ「お願い♡」つコップ

提督「任せろ」トクトク

タシユ「あはは♡」

「夫婦で乾杯」

提督「せっかくだし、窓際で飲むか？」

タシユ「いいね♪ そうしよう！」

◇窓際◇

タシユ「夜景とお酒と愛する人……ん、ロマンチック♡」ホワ
ワン

提督「そうだな……なんの文句もない」ナデナデ

「夫婦、窓際に並んで座って晩酌」

タシユ「あ……幸せだなあ……♡」

提督「そう言ってもらえると、連れてきた甲斐があるよ」ニコツ
タシユ「まあ、まさかアタシに指輪をくれるなんて思わなかったけ
どね」ケラケラ

提督「でも素直に受け取ってくれたじゃないか」

タシユ「だって嬉しかったからね♡ あの時の同志の顔も可愛くて
……今思い出すだけでも胸が高鳴るよ♡」エへへ

提督「うるさい……／＼／＼」

タシユ「そうそう、そういう顔♡」ホッペツンツン

提督「……／＼／＼」プイッ

タシユ「あつ、拗ねないでよく。寂しい」ギューツ

提督「恥ずかしいんだよ／＼／＼」

タシユ「分かった分かった。アタシが悪かった……だからこっち向
いて。ね?」

提督「分かった」

タシユ「うん♡」ギューツ スリスリ

提督「……／＼／＼」ナデナデ

タシユ「ねえ、同志……♡」クイクイ

提督「ん?」

タシユ「Я благодарен Богу за то, ч
т о м ы в с т р е т и л и с ь ♡」

提督「え?」

タシユ「あなたと出会えてよかったって言ったの♡」ニコツ

提督「そ、そうか……俺もだよ」ニコツ

タシユ「Не бросай меня, будь всегда
а с о мной ♡」

提督「今度はなんて?」

タシユ「アタシを離さないで、ずっとそばに居てねって♡」ニコニ
コ

提督「……ロシア語は難しいからさ、最初から日本語で言ってくれ
よ／＼／＼」

タシユ「ゴメンゴメン♡ でも、つい母国の言葉で同志への愛を伝

えたくなつちやうんだ♡ いいでしょ？♡」

提督「ズルい言い方だな……／＼／＼」

タシユ「えへへ、Я^愛 Теб^しя^て Люб^るлю^よ♡」

提督「今のは分かった……俺も愛してるよ、タシユケント」ニコツ
タシユ「うん♡」ギューツ

こうして夫婦は短くも甘く長い新婚旅行を満喫するのだったー。

タシユケント 完

海防艦

占守とケツコンしました。

某鎮守府、昼ー

◇執務室◇

パターン！

占守「しれ〜！♡ 占守戻ってきたつす〜！♡」

国後「ただいま〜」ノシ

提督「ああ、おかえり、二人共」ニコツ

占守「しむしゆしゆしゆ〜！♡」ピョーン

〜占守、提督の胸にダイブ〜

提督「おっとと…：…どうした、占守？」ウケトメ

占守「しれえと離れ離れだったから、占守は寂しかったんでしゆ〜

♡ だからこうしてくつついてるんでしゆ〜♡」スリスリ

提督「占守は甘えん坊さんだな」アハハ

国後（たかだか十分ちよいしか離れてないのに、ある意味病気ね）ヤレヤレ

占守「しれえ〜♡ 占守のし・れ・え〜♡」ゴロニヤーン

提督「可愛いなく、占守は〜♪」ナデコナデコ

占守「しゆしゆしゆ〜♡」フヒヒ

国後「あの〜、報告とかしたいんだけど〜？」

提督「ああ、ごめんごめん。占守が可愛くてつい」

占守「もお、しれえ〜たら〜♡ しれえはとってもカツコイイで

しゆ♡」ニパー

提督「占守〜！」ギューツ

占守「しれえ〜♡」ムギューツ

国後（こんのおく、バカ夫婦〜！）ワナワナ
〜その後、夫婦は揃って国後に怒られた〜

そして、昼食ー

占守「♪♡」ワクワク

占守、提督を待っている

占守「今日はしれえが昼食を作ってくれるって言うけど、何を作ってくれるんすかね♪」

占守「この前作ってくれたサバの味噌煮も美味しかったし、シーフードちゃんこ鍋のミルク仕立ても美味しかったしなく……」ポワワン

占守「……何より、しれえが占守のためにお料理作ってくれるのが一番嬉しいっす♡」デヘヘ

占守「でもやっぱり一人で待ってるのは寂しいっす……」テヘツ

占守「誰もいないし、歌でも歌っちゃおうかな♪」

占守「しれえ♪ しれえの占守が♪ しむしゅっしゅっの、しゅっしゅしゅっになるっすよ♪」

提督「しむしゅっしゅっのしゅっしゅしゅっになるってどういうこと?」

占守「むしゅしゅ!?」ビクッ

提督「え、あく……も、戻ったよ……」ニガワライ

占守「むしゅしゅっ!／／／ しれえ、なんででしゅ!?／／／
／ なんていきなり戻ってきたんでしゅっ!／／／ マジそういうのは無しでしゅっ!／／／」ポカポカ

占守「恥ずかしさのあまり提督に逆ギレする占守」

提督「ええ、俺が悪いのか、今の?」

占守「しれえが占守を驚かせたのが悪いんでしゅっ!／／／」ポカポカ

提督「分かった分かった! 俺が悪かったからそんなに叩かないでくれ、飯が落ちる!」

占守「あ……じゃあ、許してあげましゅ／／／」ウウー

占守「占守が落ち着くのを待って、夫婦揃って昼食タイム」

占守「今日は井なんてしゅね!」

提督「ただの井じゃないぞ? 蓋を開けてみる♪」

占守「しれえ……♡／／／／」キユンキユン

スクツ↑占守、立ち上がる

提督「? どうした?」

ストン↑占守、提督の隣に座る

占守「並んで食べたいなって思っ……♡／／／／」ダメ?

提督「駄目じゃないさ。あくんってしてやろうか?」ニツ

占守「お願いしましゅ♡」オクチアーン

提督「あむ」

くでも提督が食べるく

占守「しむしゅしゅしゅ! お口開けて待ってるのに、どうして

しれえが食べちゃうんでしゅ!」ポンポン

提督「俺だって食べたいもん」モグモグ

占守「食べてもいいけど食べるタイミングがおかしいしゅ!」

早く食べさせるっしゅ! あく……」

く占守、雛鳥状態く

提督「はい、あくん」

占守「はむ……んく♪ おいひい♪」ムグムグ

ー

くご馳走様でした!く

占守「お腹いっぱいっしゅ……♪」ケプツ

提督「特盛りだったからなく」ナデナデ

占守「しれえ……」クイクイ

提督「?」

占守「占守、しれえとちゆうしたい、でしゅ……♡／／／／」モジ

モジ

提督「／／／／」ズキユーン

(俺の心がしむしゅしゅしゅするんじやく!)

提督「おいで」ニコツ

占守「はくい♡」ピトツ

提督「愛してるよ、占守」ナデナデ

占守「占守もしれえを愛してましゅ!♡」ニパー

ちゅっ♡

その後、国後が入ってくるまで二人は延々とちゅっちゅっしていたというー！。

占守 完

国後とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れー

◇埠頭◇

国後「んくっ……やっとな今日の任務も終わったわく」ノビー

占守「クナお疲れ様っす♪」

国後「お姉もねく。あく、鎮守府正面海域は今日も平和だったなく」

占守「これも艦隊のみんなや司令のお陰っす！ 占守達は占守達の

役目をこなせばいいっす！」

国後「分かってるわよく」ニガワライ

くワイワイガヤガヤく

占守「艦隊も帰ってきたみたいっすねく。クナ、司令のお迎えー」

く国後はもう艦隊の元へく

占守「しむしゆしゆく……司令のことになるとクナは早いっすね

くアハハ

ー

提督「みんな居るな？」

艦隊『はいっ！』

提督「よし！ 今回の作戦もみんなのお陰で大成功だ！ 特に択捉

！」

択捉「はい！」ピシッ

提督「作戦とは言え辛い囀任務を見事にこなしてくれた。ありがとう

うな。みんなが無事なのはお前のお陰だ」ナデナデ

択捉「えへへ……司令やみんなのお役に立てて、嬉しいです♪」

神風「司令官」クイクイ

提督「ん、どうした神風？ お前も撫でられたいのか？」

神風「ち、違うわよ！くくくく」

海風「提督、あちらをご覧ください」メクバセ

提督「？」クルリ

物陰「ム・？」ジーツ↑国後

提督「おおう、愛する嫁が何故かお怒りでいらつしやる……」ニガワライ

択捉「私が褒められたからでしようか？」アワワ

海風「それもあるでしょうけど、根本的なところは違うと思います」

ニガワライ

神風「国後さんは結構嫉妬深いならね」アハハ……

海風「ということで、提督」

神風「私達は補給に行くから、国後さんのことよろしくね♪」

提督「え、フォロー無し？」

択捉「あの……えつと……」アタフタ

海風「さ、択捉さんも行きましよう♪」グイッ

神風「夫婦喧嘩は犬も食わないって言うしね♪」グイッ

択捉「司令く！」ズルズル

提督「択捉く！」

く艦隊は提督を置いて補給へく

提督「……………」クルリ

国後「おかえり、し・れ・い♡」ゴゴゴゴゴ

提督「た、ただいま……ハートマーク付いてるのに怖いお」ガクブル

国後「何それ？」ニ”コ”ニ”コ”

提督「あ、あれは褒めてただけで、別にやましい行為ではなくてだな……」ヒヤアセダバー

国後「……………」ゴゴゴゴゴ

提督「す、すみませんしたく！」ドゲザ

国後「……………」ボソツ

提督「へ？」

国後「択捉ばつかずくるくいく！」

く国後、提督に抱きつくく

国後「あたしだって頑張ったもん！ 作戦には参加してなかったけど、司令やみんなが帰る鎮守府を守るって任務を頑張ったのにく！」

ギューツ

提督「……………ちゃんと分かってるよ。ありがとう、国後」ナゲナ
デ

国後「んっ……………えへへ♡ 今なら、クナって呼んでもいいのよ?♡」
スリスリ

提督「プリクナ、マジかわゆす」デレデレ

国後「何それ?♡」

提督「プリティ国後。略してプリクナ!」ドヤア

国後「また変なあだ名増やされた」ムウ

提督「可愛いじゃないか。デレた時はデレクナ、怒ってる時はブン
クナ、天使の時はクナエル、にやんにやんしてる時はー」

国後「わ〜わ〜!／／／／ 分かったから!／／／／ 分かったか
ら、せめて普通に言つてよ!／／／／

提督「クナは可愛いなく♪」スリスリ

国後「ちよ、髭が痛い!♡／／／／」↑でも頬擦りされるのは嬉しい
い

〜そんなこんなで夫婦はラブラブだった〜

そして、夜ー

◇提督&国後の部屋◇

国後「司令、お風呂沸いたわよ〜」

提督「おう、ちよつと資料まとめてるからクナが先に入ってきてい
いぞ〜」

国後「むう……………ムツスー

提督「?」クビカシゲ

国後「今日、あたしを出撃させない代わりに、一緒にお風呂入って
くれるって約束した……………」ジトーツ

提督「……………ああ、ごめん。忘れてた」ニガワライ

国後「……………何それ?」ムウ

提督「ちゃんと入るって。ほら、作業も止めたろ?」

〜提督、資料から手を離す〜

国後「ん♡ じゃあ行きましょ♡ 今日一緒に居られなかった分を
取り戻すんだから♡」ギョッ

提督「ああ、そうだな」ナデナデ

♡夫婦は仲良くお風呂へ♡

カポ♡♡♡

提督「くは♡…生き返る♡…」

国後「何それ♪ 大袈裟過ぎよ♪」パチャパチャ

♡国後、提督に背中を預けて手遊び♡

提督「口ではそう言いつつ、クナも嬉しそうじゃないか♪」ナデナ

デ

国後「あたしはお風呂が嬉しいんじゃないかって、司令と一緒にだから嬉

しいの♪ 勘違いしないでよね?♡」

提督（俺の嫁ぐうかわ…♡／／／／）

国後「ねえ、司令／／／／」モジモジ

提督「ん♡?」

国後「そっち向いても、いくい?／／／／」チラツチラツ

提督「いいけど、どうしたんだ?」

国後「司令の顔、ちゃんと見たくなくなっちゃった…♡／／／／」テ

へへ

提督「つ!?!／／／／」ズキューン

(デレクナの破壊力パネ♡!／／／／)

国後「ねえ、ダメ?♡／／／／」

提督「断る訳ないだろ／／／／」

国後「やった♡」クルン

♡夫婦向かい合う♡

国後「えへへ…司令の顔近い♡」ニヨニヨ

提督「そりゃああこんだけ近付いてればなく／／／／」

国後「司令顔真っ赤♡ 可愛い♡」デレデレ

提督「そうか…♡／／／／」

(おまかわだぜ／／／／)

国後「あ…♡」トクン

提督 「ん、今度はなんだ？／／／／」

国後 「ちゆうしたくなつちやつた♡」

提督 「……しよう／／／／」

国後 「うん♡ 司令、だ〜いすき♡」 チユツ

提督 「俺もだよ、クナ」 チユツ

国後 「んはあ……司令♡／／／／」 モジモジ

提督 「ん？／／／／」

国後 「硬いの当たってるう♡／／／／」

提督 「ご、ごめん……クナが可愛くて／／／／」

国後 「何それ……今回だけよ？♡／／／／」

提督 「ああ／／／／」 ギユツ

国後 「あ……お布団でもしてね？♡／／／／」

提督 「勿論！／／／／」 ガバツ

国後 「きやく♡／／／／」

その日のお風呂は長風呂だったー。

国後 完

八丈とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇食堂◇

提督「ご馳走様でした」人

八丈「ご馳走様でしたー！」人

く夫婦仲良く昼食を終えたところく

提督「食器は俺が持つてくから、八丈はテーブル拭いておいてくれ」

八丈「はくいつ」

く夫婦の見事な連携く

占守「しむしゆしゆしゆ、あの二人は相変わらずでしゆねく」ニヤ

ニヤ

石垣「八姉、幸せそう」ホツコリ

国後「幸せそうなんて生ぬるいでしょ。幸せの過剰摂取で死ぬん

じやない？」ケツ

占守「そんなこと言っていけないでしゆよ、クナ？」メツ

国後「だって毎回毎回あんな激甘シーン見せつけられる身にもなっ

てほしいじやない」チツ

石垣「二人のケツコン式の時、クナ姉泣いてた。証拠写真も残って

る(ケツコン式での集合写真)」

国後「うっさいつ、あの時はこんなにベタベタするとは思わなかつ

たのよ！／／／／」↑照れてる

占守「そうでしゆか？ ケツコンする前から二人はベタベタの

あつまあまでしたよく？」

石垣「コクコク

国後「よく二人は知ってたわね……」

占守「クナは意外と鈍感でしゆからねく」

石垣「ケツコン前から、昼食後の執務室がよく入室禁止になること

あつたでしょ？」

国後「ああ、あれね。提督が作戦を立案するために集中してるから

入るのダメなんでしょ？」

く国後の言葉に占守と石垣は『マジで言ってるのこいつ』という目で見たく

占守「お姉ちゃんはクナの将来が心配でしゅ」

石垣「私も……」

国後「何それ、意味わかんないっ！」ムカーツ

占守「仕方ないでしゅね。クナ、このあとちよつと付き合ってくれましゅ？」

国後「？ 別にいいけど、何？」

石垣「(大人の) 階段を登るんだよ」カタポンツ

国後「????」コンワク
—————

◇執務室隣の資料室◇

国後「ちよつと、資料室なんか来て何するのよ？ 何か調べもの？」

占守「しっ、静かに」シート

石垣「このコップを執務室側の壁にあてて、耳を澄ませてみて」
コップ

国後「????」

く国後「言われた通りにしてみるく」

『あつ、ていと、く……んんっ♡』

『相変わらず、八丈は可愛いな』

『あ、やんっ♡ だめえっ♡』

『何がダメなんだ？ いつもしてるじゃないか』

『そ、そうだけど、ひんっ♡ 激し、いいいっ♡』

く隣からは夫婦（主に八丈）のなんとも言えぬ声がするく

国後「……………」プシューツ

占守「おく、今日もお盛んでしゅねく♪」

石垣「それもいつもより激しいらしいね。八姉、喜んでる」ホッコ
リ

国後「な、ななな、何よ、これ……っ／＼／＼／」

『やつ、あつ、あつ、てーとく、それ、気持ちいいっ♡』

『なんだ、やっぱりこういうのが好きなんじゃないか』

『ち、違っ……ひうつ♡ てーとくだからあ、あぐっ♡ てーとくだから、好き、なのっ……ああんっ♡』

占守「何ってナニでしゅよ、クナ」

石垣「野暮なことは言いつこなし。二人は幸せ。私たちはそんな二人の生活が壊されないように、深海棲艦に勝つ……それだけ」

国後「でも、こんなのって……ふ、不潔よ……！」カオマツカ

占守「何処女みたいなこと言ってるんでしゅ？」

国後「正真正銘の処女よ！ とうか、アンタだつて処女でしょうがっ！」

石垣「クナ姉、静かにな」

国後「っ……ごめん」

(なんでこつちが悪いみたいになつてんのよ！)

『八丈、そろそろ……』

『う、うんっ……来て♡ てーとく、もっと気持ち良くしてっ♡』

『八丈っ！』

『ああんっ、てーとくっ！♡ (これ)好きっ、好きいつ！♡』

シーリーン

国後「……終わった……の？」

占守「つと、思いましたゆよね？」ニヤニヤ

石垣「ところがあの、どっこいしょ」↑無表情だがノリノリ

『次はハチが提督を攻める番だからねっ！♡』

『お手柔らかにな』

『ダメ♡ いっっぱい気持ち良くしちゃうんだから！♡』

占守「第二ラウンドでしゅ♪」

石垣「二人はいつもこう」

国後「……」ボンツ

く国後、耳をコップから離す

占守「あれ、もういいんでしゅか？」

石垣「攻め手に回った八姉も、受け手に回った提督も、どつちも可愛いよ？」

国後「ふ、夫婦で仲良くしてるんだし？ 部外者がこれ以上盗み聞きするのはいけないと思うの！」

(それに確かに二人が幸せなのっていいことだもんね)

占守「おお、クナが聖母様みたいな笑顔を！」

石垣「流石、クナ姉」パチパチパチ

国後「ほら、茶化さないで、もう退散しましょ」

占守「そうでしゅね」

石垣「お邪魔虫は退散するの」

くこうして姉妹たちは夫婦がこれからも幸せな生活を送れるようにと、団結力を強めるのだったく

—————

そんなことがあつてから数日後——

◇執務室◇

提督「なあ、八丈」

八丈「どうしたの、提督？ 痛かった？」ユサユサ

提督「いや、気持ちいいよ」

八丈「じゃあ、どうしたの？」グニグニ

く八丈、うつ伏せの提督の背中に跨がってマッサージ中く

提督「いや、最近やたらと国後から栄養ドリンクやらサプリメントやらを貰うんだが……あいつは健康オタクにでもなったのか？」

八丈「あく、確かにそうだね。ハチにはよく女性向け雑誌買ってくれるよ？ 自分にはこれくらいしか出来ないけど、いいのがあったら参考にしなさいって」

提督「なんの参考になるんだ？」

八丈「分かんないけど、大好きな彼を虜にする方法っていう特集があつて、お料理とかメイクの仕方とか載ってて助かってるよ♪」

提督「そうなのか。でもそんなことしなくても、俺は八丈にぞっこなんだけどなあ」

八丈「えへへ、ハチだつて提督にぞっこんだよ？ ♡ これからもいっぱいラブラブしようね♡」

提督「もちろんだ……。さて、そろそろ交代しようか」

八丈「お願いしまゝす……あ、いきなり激しくしちやダメだからね？♡」

提督「どうしてだ？ 八丈のために俺は日々マツサージテクを磨いているというのに」

八丈「だつて気持ち良くてよだれ出ちゃうんだもん……恥ずかしいじゃん♡／＼／＼」 テレテレ

提督「そんな八丈も可愛いだけだ」

八丈「もう！♡ ありがと♡」 チュッ

提督「おう♪」 チュッ

こうして夫婦は艦隊みんなに誤解されたまま、幸せに暮らしましたとさー。

八丈 完

石垣とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

石垣「……………」ペラツ↑確認作業中

提督「……………」

く提督、少し眠そうく

石垣「？」

トコトコ

石垣「提督、大丈夫？ 辛いなら少し寝る？」

提督「いや、大丈夫だ。腹が膨れて、眠気が来ただけだから」

石垣「駄目。提督、そう言って過労で倒れた」ジトツ

提督「あ、あれは……………」

石垣「言い訳するの男らしくない」

提督「言い訳してる訳じゃ……………」

石垣「いいから仮眠して。お膝も貸すし、時間になったら私が起こしてあげるから」

提督「分かった。石垣の言う通りにするよ」ニガワライ

石垣「♡」ムフーン

く夫婦共にソファアへく

石垣「ん♡」オヒザポンポン

提督「お願いします」ゴロン

石垣「素直なのいいこと♡」ナデナデ

提督「幼妻に駄目にされるう」

石垣「変なの♡」フフフ

提督「じゃあとりあえず三十分くらいしたら起こしてくれ」

石垣「はくい♡」

提督「おやすみ、石垣」

石垣「おやすみなさい♡」

ちゅっ♡

く少しすると提督は眠りに就いたく

石垣（やつぱり疲れてたんだ。最近任務で忙しかったもんね）

提督「ぐう……ぐう……」

石垣（貴方は一人じゃない。私がいるし、艦隊のみんなもいるよ。だからもつと頼って♡）

ナデナデ

く石垣、眠る提督の頭を優しく撫でるく

石垣（私に新しい居場所をくれた、大切な貴方。貴方が頑張ってくれるのは嬉しい。けどね、貴方はすぐに無理をするから、私は心配で堪らないの）

ぎゅっ

く石垣、提督の手をそつと握るく

石垣（私は艦娘で、貴方は普通の人……一緒に居られるのは長くない。もしかしたら、私の方が先に貴方を置いていってしまうかもしれない）

石垣（だからこそ、貴方との時間は今この瞬間も……私にとっては宝物なの）

石垣（貴方が無理をして何かの病気にでもなってしまったら、余計にその時が削られてしまう。だからもつと頼って、貴方の負担を私に背負わせてほしい）

石垣（貴方の過ごしている時間は、もう貴方だけが過ごさず時間じゃないんだからね？）

石垣「ばくか♡」チュッ

く石垣は結局、暫く提督を起こそうとはしなかったく

ー

夕暮れ時ー

ガチャ！

占守「海上警備終わったつすよく！」

国後「他の人たちはいつも通りに補給とか行かせたからね」

八丈「今日も正面海域は平和な海だったよく！」

く占守シスターズ乱入く

石垣「みんな、しーっ」

提督「んが？……おお、みんな……揃って何かあったのか？」ネボケ

石垣「あ……むう」ジロリ

く石垣、占守たちを睨むく

占守「いやあ、そんなに睨まないでほしいうす」ニガワライ

国後「そもそも寝てるなんて知らなかったんだもの」

八丈「立て札掛けといてよく」

石垣「そんな暇なかった。提督最優先。これが普通」ギユムツ

提督「??」↑まだ寝惚け中

占守「二人の惚気はもうお腹いっぱいすよ」

国後「大方、毎晩毎晩イチャコラしてるから寝不足になったんでしょ？」

八丈「お熱いねく♪」ニヤニヤ

石垣「つ……そ、そんなこと、にやいもん……♡／／／／」プイツ

三人『嘘乙』キツパリ

石垣「ほ、ホントだもん……昨日は、その……一回しかしてないもん……♡／／／／」

占守「一回でもなんでもやることやってるっす」

国後「しかも超嬉しそうな顔してますよ、奥さん？」

八丈「ラブラブなのはいいけど、もう少し考えてね♪」

石垣「うるちやい……♡／／／／」

く石垣、提督を座らせて、その背後に隠れるく

提督「どうした、石垣く？」ナデナデ

石垣「んっ……なんでもにやい♡」ゴロゴロ

占守（あの真面目一辺倒の石垣がねく）ウンウン

国後（幸せそうで何よりだわ……）ウンウン

八丈（早く姪っ子とか甥っ子の顔が見たいなあ）ルンルン

く散々生暖かい視線を浴びせ、占守たちは執務室をあとにしたく

提督「……俺はなんて失態を……」ガツクシ
くそこで提督は脳が覚醒く

石垣「疲れてたから仕方ないよ／＼／＼」↑まだ照れてる

提督「でも寝惚けてて何も覚えてない……覚えてるのは石垣が甘えて来てくれたことだけだ」

石垣「だってみんなして私を見るんだもん／＼／＼」

提督「そうだったのか」ナデナデ

石垣「うん……昨日は一回しかエッチしてないのに、みんな酷いの／＼／＼」

提督「ん？」

石垣「私とエッチしてて寝不足なんでしょって……だから昨日は一回しかしてないよって言ったの／＼／＼」

提督「……言うなよ／＼／＼」カオマツカ

石垣「だって……提督、一回エッチしたくらいじゃ満足しないでしょ？♡／＼／＼／ 任務が少ない時は私のお腹がタプタプになるくらいー」

提督「それ以上はいけないっ／＼／＼」

提督、石垣の口を塞ぐ

提督「次から何を言われても、何回エッチしたとか言わないの。オーケー？」

石垣「コクコク」

提督「まあ、エッチしてて寝不足なんて言われたら、ただ最近忙しかったからって返すこと。いいね？」

石垣「コクコク」

提督「ん、もう言うなよ？」

石垣「ぶあ……分かった」

提督「うん」

石垣「ペロペロした回数とか、おてでシコシコした回数は言ってもいいの？」

提督「だからそっち方面は言わんでいい！」

石垣「はくい♡」テヘペロ

提督「全く……変なところオープンだよな」ニガワライ

石垣「私は恥ずかしくないもん♡ どれも大好きな提督との思い出

だもん♡」ギョーツ

提督「でもそういうのは公表しない」

石垣「はくい♡」スリスリ

(提督、起きてからちよつと顔色良くなった……嬉しい♡)

提督「じゃあ、残りの仕事終わらせるぞ!」

石垣「うん♡ あ、ねえねえ……」クイクイ

提督「?」

石垣「今日は一回以上してくれる?♡」

提督「……………する／／／／」

石垣「じゃあ急いで終わらせないとね♡」

提督「ああ……………／／／／」

(俺より、石垣の方が一回じゃ満足しないんじゃないか? まあ可愛いから俺の選択肢は一つしかない!)

次の朝、夫婦(主に提督)は足腰がガクガクしながら歩いており、その隣にはツヤツヤの満面の笑みの石垣が提督の左腕に引っ付いていたというー。

石垣 完

択捉とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇埠頭◇

択捉「……………」ドヨン

く択捉、がつくりとうなだれ中く

占守「？ 択捉く？ そんなところでどうしたんす？」

国後「なんか嫌なことでもあった？」

択捉「先輩……あの、少しだけ……ほんの少しだけ、司令の奥さんでいられる自信がなくなっちゃって」

占守「しむしゆしゆしゆ!? 一大事じゃないっすか!」

国後「喧嘩でもしたの？」

択捉「違います。司令は相変わらず私に沢山の愛情を注いでくれています」

国後「じゃあどうして？」

択捉「司令の周りには素敵な女性が沢山います。スタイルの良い方、可愛くて綺麗な方、気立ての良い方と、沢山……」

択捉「司令の私に対する愛情は確かに感じてても、そんな司令の隣に私がいるのは不釣り合いな気がしてしまって……」

占守「どうして急にそう思ったんすか？」

択捉「さつき執務室で雷さん、浦風さん、夕雲さんといった方々が司令のお世話を焼いてまして、それで……」

国後「世話焼き勢に押されたって感じね」ニガワライ

択捉「恥ずかしながら」エへへ……

ポンツ↑占守、択捉の肩を叩く

占守「気持ちちは察しますが、要らぬ心配だと占守は思うっす」ニコツ
択捉「要らぬ心配……?」

占守「そーっす。確かにこの艦隊には美人さんばかりっすから、
そう考えてしまうのも頷けます」

択捉「……………」

占守「でも、その中でも司令は択捉を選んだんっす！ その証拠に
択捉とのケツコン式での写真は執務室に飾ってありますし、ケツコン
記念写真は執務机にちゃくんと綺麗に飾られているじゃないっすか
！」

択捉「占守先輩……」

国後「お姉の言う通りよ。それにジュウコンが許可されているの
に、司令は択捉以外に指輪をあげようとはしてないでしょ？」

択捉「はい……／＼／＼」ポツ

占守「なら何も問題ないっす！ 胸を張って司令のお隣にいればい
っす！」

択捉「はい♪」ニパツ

く 択捉は元気になり、執務室へく

占守「うんうん、こうした障害を乗り越えて愛は育まれるっす♪」
国後「障害っていう障害でもなさそうだったけどね」ニガワライ

◇執務室◇

雷「はくい、司令官♪ お茶を淹れたわよ♪」

浦風「少し休憩したらどうじゃ、提督さん？♪」

夕雲「お仕事のし過ぎは体に毒ですよ？♪」

提督「うむ……ならば、少しだけ休憩にしよう」

ガチャー

択捉「司令、択捉只今戻りました！♡」

く 択捉、何やら包を持って帰ってきたく

提督「おお、択捉。もういいのか？」

択捉「はい！♡ それに司令は私がいないとダメですからね♪♡」

ニコニコ

提督「そうだ、私はお前がいないと駄目な人間だ」ナデナデ

(先程とは顔色が違う。何ともないようで良かった……) ホツ

択捉「それですね、司令……」

提督「？」

択捉「お渡ししたいものがありました……／＼／＼」モジモジ

提督「その手に持つてる包のことか？」

択捉「はい……えっと、おやつにお出ししようと思ってた、チーズスフレです♡／／／／ お昼御飯を作った時にそれと並行して作っておいたんです♡／／／／」

提督「おお……」↑大の甘党

択捉「食べてくれますか？♡／／／／」

↑上目遣い＋潤んだ瞳

提督「……………ありがたく頂こう／／／／」ドキドキ

択捉「やった♡」エへへ

雷「なら私達はお暇するわね♪」

浦風「そうじゃねえ♪」

夕雲「提督、また甘えてくださいね♪」ニコッ

提督「ああ、今日は助かった。また頼む」ノシ

↑そして夫婦だけに

択捉「皆さん帰っちゃいましたけど、良かったんですか？」

提督「せっかく気を遣ってくれたんだ。ここはお言葉に甘えようではないか」ニコッ

択捉「そう、ですね……では今、お皿に盛り付けますね」ニコッ

提督「……………」択捉

択捉「はい司令、どうかしましたか？」

提督「雷達は厚意で私の手伝いをしてくれたのだ。だからその……気にすることはない」

択捉「はい、分かっています♡ お心遣いありがとうございます♡」ニコッ

提督「あと、誤解無きようちゃんと伝えておくことがある」

択捉「なんででしょうか？」クビカシゲ

↑提督、択捉の元へ行き、同じ目線にする

提督「私が一人の女性として愛しているのは択捉、お前だけだ。私の生涯を掛けて、お前を愛す」

択捉「っ!?!／／／／」ボンッ

↑択捉、思わず硬直

提督「択捉？」

択捉「……しも」ボソツ

提督「ん？」

択捉「私も……司令を愛しています♡／／／／死が二人を分かつまで、ずつと……♡／／／／」

むぎゆつ♡↑択捉、提督に抱きつく

提督「そうか。ありがとう、択捉」ナデナデ

択捉「私こそ、ありがとうございます、司令♡」スリスリ

提督「だが、少々困ったことが起きた」

択捉「どうされたんですか？」

提督「先程択捉は『死が二人を分かつまで』と、こう言った。私は死んでも択捉を愛していると誓っているから、どうしたものかと思つてな……」ウーム

択捉「し、司令……♡／／／／」キュンキュン

(そんなこと言われたら、私……♡／／／／)

択捉「えいつ♡」

く提督、択捉に押し倒されるく

提督「択捉？」ビックリ

択捉「私だつて、死んでも司令を愛しています♡司令が泣いて頼んでも離してあげませんから♡」

提督「嬉しいよ……死んでもなお、お前に愛されるのなら、それは私にとって喜びでしかない」ナデナデ

択捉「ちゃんと責任とつてくださいなね？♡私をこんな娘にしたのは司令なんですから♡」ギューツ

提督「勿論さ」

択捉「それじゃあ……♡」フフフ

提督「？」

択捉「先に私を食べてくれますか？♡」

提督「……頂こう」グイッ

択捉「あ♡」

その後、めちやく(ryー)。

チーズスフレへ解せぬ

択捉
完

松輪とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇艦娘宿舎◇

択捉「え、司令が？」

占守「浮気っすか？」

松輪「(。>?<)」クスンクスン

く松輪、声押し殺して涙く

国後「何かの間違いだと思っけどねく」ナデナデ

択捉「そ、そうですよ。司令に限ってそんなこと……」

松輪「やっぱり、私がちんちくりんだから、司令は……」グスン

占・国『あの□リコンに限ってそれは無いっす(わ)く』ニガワ

ライ

択捉「そんなことないよ。その証拠に司令は松輪としかケツコンしてないでしょ？」ナデナデ

松輪「でもおく」エグエグ

択捉「よしよし」セナカポンポン

松輪「くっ」クスンクスン

占守「そもそも、松輪ちゃんはどうして司令が浮気してるんだと言
うんすか？ 夜にすることはしてるんっすよね？」

国後（なんてこと訊いてるの、バカ姉！）

松輪「……はい、毎晩♡／／／」デレッ

国後（あんたも素直に……しかも嬉しそうに答えるな！）

択捉「ニガワライ

く松輪は理由を話すことにく

松輪「一ヶ月前くらいから、司令はずっと誰かと電話してる
ことが多くて……」

松輪「最初はお仕事の電話かなって思ってたんですが、最近では私
が現れるとその電話を強引に切って、素知らぬ振りをしてまして
……」

松輪「前に電話の向こうで聞こえてきたのは女の人の声でしたし、
そうなのかなって……思ってた……」ポロポロ

択捉「もういいよ」ギョツ

国後「辛かったのね」ヨシヨシ

松輪「司令に、ひつく……置いてかれちゃうの、ぐすつ……やだよお」

く松輪、また涙が溢れ出るく

占守「聞いたところ浮気の可能性もありましゅが、あれだけの松輪
ちゃん命の司令にしては急過ぎましゅ……」ウーン

占守「！」ピコーン

く占守、ひらめくく

占守「占守にいい考えがある！」キリッ

国後「悪い予感しかない……」

そして、作戦結構日ー

占守「ではこれより『私待つわ作戦』を開始するつす。クナ、司令
を倉庫へ連れてきて」

国後『はいはい』アキレ

◇倉庫◇

択捉「国後さんが動いたわ。じゃあ松輪、私は行くけど頑張つてね」
ニコツ

松輪「お、お姉ちゃんも一緒にー」

択捉「ダメ」キツパリ

松輪「(；ω；)」ウツ……

択捉「大丈夫。本当にダメな時は占守さんたちと仲介するから」ナ
デナデ

択捉「まずは夫婦で言葉を交わさなきや。泣くのはそれから。ね
？」

松輪「はい……！」クシクシ

択捉「ん、それでこそ私の妹だわ♪ 頑張つてね！」

くそして松輪は倉庫で一人、提督を待つことにく

◇監視室（別棟倉庫）◇

国後「司令に倉庫へ向かうように頼んできたわく」

占守「あざっす！」

扨捉「これであれば司令と松輪のお話し合いを見守るだけですな」

国後「ていうか、よくこんなこと思いついたわね」

占守「この前、秋雲さんの薄い本で読んだっす！ 密室に男女が閉

じ込められれば、あとは司令と松輪ちゃんの時間っす♪」

扨捉「監視カメラとかは明石さんが貸してくれましたからね」

国後（妙にいい笑顔でね！）

国後「あ、あと、なんであんな作戦名にしたの？」

占守「司令の着信音がー」スマホポチッ

『私待〜っ〜わ♪ いつまでも待〜っ〜わ♪』

占守「だから！」キリッ

国後（よし、殴ろう）ニコニコ

扨捉「あ、司令が倉庫に入りました！」

占守「おお！ では妖精さんお願いするっす！」

妖精ズ『ケイレイ

◇倉庫◇

提督「まさかこの倉庫内に鼠が出るなんてなく。艦娘とは言え女の子に鼠の駆逐なんてさせらんねえし、俺がやるしかねえか」キョロキョロ

提督E・対鼠用掃射砲

提督「汚物はこの地球上から消滅させねばな」↑大の鼠嫌い

キイイイ……

提督「？」クルッ

ボタン……

く倉庫の扉が閉まるく

提督「Oh……」

◇監視室◇

占守「作戦成功っす♪ ありがとうっす、妖精さん♪」

妖精ズ『ドヤア

国後「こんなことに妖精さん達がよく手を貸してくれたわね……」

占守「間宮さんのケーキバイキングでやってくれたっす」ハイライ

トオフ

国後「あゝ」

妖精ズ『ヨノナカソンナモンジャ……

択捉「わ、私も出します！」

占守「ありがとう……ありがとう！」ブワツ

国後（可哀想だからあたしも出そ）ニガワライ

◇倉庫◇

提督（オートロック式且つ侵入者を孤立させるための電波遮断システムフル稼働の倉庫内に取り残された……しかも鼠と共に）

提督（いや、焦るな俺。心は熱く思考はクールに……今の時間は一四〇〇過ぎ。ということは二時間後には誰かが開けるはず）

背中トントントーン

提督「？ まさか化学物質を食べてめっちゃ巨大化して喋れるようになってしまった黒い鼠が『ハハッ♪』ってしてくるとか？」クルツ

松輪「……司令」オロオロ

提督「あれ？ 俺の超スーパーウルトラデラックスラブリーマイエ
ンジェル松輪？」

松輪「ただの松輪です」ニガワライ

提督「どうしてここに松輪が？ いや、めっちゃ嬉しいけども」ナ
デナデ

松輪「……／／／／」↑などでされて嬉しい

く提督、松輪を撫でて落ち着いたく

提督「まあ、何かしらのトラブルだろう。松輪、気長に待とうぜ♪」
オイデオイデ

松輪「はい♡／／／」チョココン

く松輪 on the 提督の膝く

提督「俺鼠嫌いだからさく、松輪がいてくれて良かったぜく」
ギューツ

松輪「♡／／／」エへへ

提督「あ、そうだ。今二人きりだから教えとこう」

松輪「？」

提督「今度、実家に帰省するんだが、松輪も連れてくから」

松輪「ええっ!？」

提督「いや、母親が嫁も連れてこいってうるさくてさく。俺が電話してたの知ってるだろ？」

松輪「あ」

提督「俺、男三兄弟の三番目だけど嫁さんもらったのは今んとこ俺だけだからさ。会わせろって聞かねえんだ」ニガワライ

松輪「で、でも、最近はよくお話の途中で切られてました……よね？」

提督「だって母ちゃんが俺の小さい頃の話ばつかするからさく。んな話、松輪に聞かれるの恥ずかしいから嫌だったんだよ／／／」

松輪（そっか……私の勘違いだったんだ♡）エへへ

提督「あ、何笑ってんだよく？」アタマクシヤクシヤ

松輪「きやあ、だってえ♡／／／」

提督「まあ、とにかくそういうことだから」

松輪「はくい♡」

（良かった♡ あとでお姉ちゃん達にお礼言わなきゃ♪）

提督「母ちゃんずっと娘が欲しかったから、松輪を連れて行ったらめっちゃ可愛がられるぞ、きつと」

松輪「あはは……」コマリエガオ

提督「母ちゃんが俺の話したら俺のところに来いよ？ 絶対だからな？」

松輪「私の知らない司令も知りたいです♡」

く上目遣い＋愛らしい微笑みく

提督「……………ダメだ／＼／＼」

松輪「むう……………ならいいです。お義母様から勝手に聞いちゃいますから♡」

提督「それはもつとダメだく！／＼／＼」

松輪「ふふふ、聞こえませくん♡」プイツ

提督「そんな悪い嫁には……………ていつ！」

むにむに♡

松輪「きやあ……………しれ、やんっ♡」ビクン

提督「しばらく二人きりだから……………言うことを聞くまでしっかりお仕置きしてやるぞ♪」クニクニ

松輪「やっ……………司令、そこはっ……………んっ♡」ビクビク

提督「身体は随分正直だぞ？」フッフ

松輪「だつて……………あん♡ 大好きな司令が、触ってる、からあ、っん♡」ギューツ

提督「可愛過ぎんだよく！／＼／＼」ガバツ

松輪「きやく♡」ホールド

◇監視室◇

／ピンクな景色＼

占守「うわっ、うわっ……………あんなことまで！／＼／＼」ジーツ

国後「……………／＼／＼」フリーズ

択捉「こんなに進んでいるなんて……………／＼／＼」マジマジ

その後、夫婦は戻ってきた遠征隊により無事に倉庫から出ることが出来た。しかしその時の光景はとても人には言えぬ光景で、夫婦はしばらくの間、目撃された者達から生暖かい視線を受けたそうなの。

そして夫婦が帰省した際、嫁の紹介と共に良い報告もすることになるとは、本人たちもまだ知らないー。

松輪 完

佐渡とケツコンしました。

某鎮守府、夕方――

◇総司令室◇

提督「……え？」

総司令「だからお前の艦隊が我々の囷になれと言っているのだ。二度も同じことを言わすな」

提督「しかし、我が艦隊には重巡洋艦は疎か、軽空母すら配属されていません。それで戦艦四隻を有する敵艦隊の囷など……」

総司令「はあ……だからお前は未だに上に行けんだ。もつと利口になれ」

総司令「誰もお前のミジンコのような艦隊にこれっぽっちも期待はしていない。お前はただ私の艦隊の戦果に必ず繋がるように動けばそれでいい」

(この私が一泊地の総司令官という器に収まって堪るものか)

総司令「作戦は先程伝えた通りだ。異議は認めん」

提督「ですが……」

総司令「お前は！　ただあの兵器たちに突撃指示を出せばいいのだ！　それで私が大本営へ招聘されたあかつきにはお前にはこれからいい蜜を吸わせてやるのだから、寧ろ私に感謝しろ！」

提督「………分かり、ました」

総司令「ふんっ、やつとミドリムシ並の脳みそでも理解出来たか。初めから領けばよかったのだ」

提督「………」

総司令「良かったなあ、私という有能な上官に恵まれて」

提督「………はい」

総司令「ではさっさと下がれ。私はお前のように暇ではないのだ。これから大本営の御方へ接待しに行かねばならぬからな」

↳退出後、提督は足早に自身の執務室へ↳

◇執務室◇

ガチャー

提督「今戻った」

佐渡「お、司令♡ おつかえんなさ〜い♡」

〜ケツコン指輪キラツ☆〜

提督「来たぞ、例の作戦を行う時が！」

佐渡「マジか！ ならみんなを呼ばなきゃな！」

〜こうして緊急会議が始まる〜

提督「ーじやあみんな、手筈通りにな。俺たちはこの日のために我慢強く耐えて来たんだからな！」

艦隊『はい！』

〜解散し、執務室には夫婦だけに〜

佐渡「みんなやる気だなく♪ ま、この佐渡様がいりやあ余裕だよな！」エツヘン

提督「ああ、そうだな」

佐渡「応ともさ♡」ニパツ

提督「……………」

佐渡「フフツ

〜佐渡、提督を優しく抱き寄せる〜

佐渡「何辛気臭い顔してんだよ……………この佐渡様とみんなを信じろよ。いつもみたいにさ」

提督「佐渡……………」

佐渡「心配なもの分かるけど、肝心なトップがそんなんじや勝てる戦も勝てないぜ？ 司令は自分の信念を貫け。それをこの佐渡様とみんなで支えてやる」ニツコリ

提督「……………はあ〜」

佐渡「今の人の話聞いてて、よくそんな大きなため息吐けるな……………ちよつと傷付いたぞ」ムウ

〜すると、提督は佐渡を強く抱きしめる〜

佐渡「うおっ!? な、何だよ、やるつてのかわ!?」グヌヌ

提督「違う……………自分が情けなくなつたんだ」

佐渡「はあ？」

提督「みんなを信じて鼓舞しなくてはいけない身でありながら、それを小さな嫁さんに諭されては提督失格だと思えてならない」

佐渡「小さいは余計だろ！ 喧嘩売ってるのか!? いくらでも買つてやるかな！」ガルル

提督「佐渡……お前に出会い、お前がいつもそばにいてくれたことを誇りに思う。そして愛してるよ」

佐渡「っ……な、なあんだよ、今更分かるとか遅過ぎんだろ、ばっか！／／／／」

佐渡（くっそ……んなの反則だろ！♡）キュンキュン

提督「俺はもう迷わない。いつものように、必ずみんなを生還させるからな」ニコツ

佐渡「へんつ、だから最初から佐渡様がいりやあ余裕だつて言っただろ？♡」ニへへ

提督「ああ」

佐渡「……でさ、司令」

提督「？」

佐渡「この佐渡様がいても、今度の作戦は重要な訳だ」

提督「そうだな。だが、佐渡が俺を支えてくれたお陰で準備は万全だ」

佐渡「そ、そうだけどよお……やっぱさ、こう……なんだ、気合を入れないとだな……／／／／」モジモジ

提督「？」

佐渡「げんかつ験担ぎしようぜ？／／／／」

提督「？ まあ、そうだな。あとは神頼みしか方法は無いしー」

佐渡「違う！／／／／」

提督「??」コンワク

く佐渡、椅子の上で逆壁ドンく

佐渡「いつもみたいにし、司令の愛で、佐渡様が沈まないように繋ぎ止めてくれて言つてんだ、よ……／／／／」カァーッ

提督「お、おお……／／／／」

佐渡「小さいけど、締まりには自信あんだぜ?／＼／＼ 司令だつて好きだろ?／＼／＼ だからさ、そのお……／＼／＼」モジモジ
提督「分かった。いつものように出来るだけ時間を掛けて、たっぷり俺の愛を注ぐよ」シンケン

佐渡「お、おう、頼むわ♡／＼／＼」ニへへ

その後、夫婦は深く愛を育み、一層絆を深くしたく

そして、作戦結構日ー

◇とある海戦にて◇

総司令「敵艦隊が残っていない……だと!? 誰が奴らを屠ったというのだ!?!」

総司令艦隊『……囷となった艦隊の艦娘たちです。完全に全滅です』

総司令「」

提督「どうですか、総司令官殿。うちのミジンコ艦隊は? お役に立てましたでしょうか?」

総司令「貴様あああつ!」

く逆行し提督の胸ぐらを掴む総司令官く
バタン!

憲兵「泊地総司令官殿。横領、艦娘へ性的暴行及び部下への暴力行為などの罪で大本営より出頭命令が出ております」

総司令「な、なんだと!? 何かの間違いではないか!? 私はこの最高責任者だぞ!!」

憲兵「しかし証拠として音声や映像、書類が数多く出揃っております。どうかあがこうが懲罰は免れませんよ」

総司令（な、何故だ!? 憲兵隊や上の連中にもこの私の息の掛かった者たちがいるというのに、そいつらが揉み消せぬ程の証拠がどこから!?!）

憲兵「総司令官殿と関わりの深い者たちも同じく裁かれます故、潔くご同行願います」

く総司令官はふと提督の方を見たく

提督「ミドリムシ並の脳みそでもやれることはいくらでもありますよ、総司令官殿」ニツコリ

総司令官「き、きいさあまああつ！」

憲兵「これ以上罪を重ねてどうするのですか！」

「取り押さえられ、総司令官は連行されていった」

提督「ふう……」

元帥「ハツハツハ、お手柄だったよ、大将殿」

提督「これつきりにしてくださいよ？ 膿を出すとはいえ、うちの

大切な艦娘たちを危険に晒すなんて……」

元帥「大本営最強の遊撃部隊を育て上げたくせに何を言うか」

提督「戦場では何が起こるか分かりません。どんなに彼女たちが優

秀でも」

元帥「重々理解しているさ。まあ、あとの始末等はこちらに任せ、君は総司令官の後任が決まるまでの間、暫定でここの鎮守府とあやつの艦娘たちを受け持ってくれ」

提督「簡単に言ってくれますね」

元帥「君だから簡単に言えるんだ。それよりほら」メクバセ

「提督、振り返る」

佐渡「よ～つす、司令！♡ 佐渡様と艦隊が無事に帰還したぜ！♡」

提督「おお、佐渡！」

「夫婦は人目もはばからず熱い抱擁を交わす」

提督「佐渡、みんな、本当によくやってくれた！」

佐渡「へへん、あつたり前だろ！♡」ドヤア

艦隊『ニコニコ

佐渡「そもそも、この佐渡様が沈んでいいのは司令の愛の海だけだ

からな！♡」ギューツ

提督「こいつう！／／／／」

佐渡「てな訳で、今夜もいっっぱい愛してくれよな！♡」ニパー

提督「勿論だく！」

／イチャイチャラブラブ＼

元帥（若いなあ。しかしこの甘さは少々キツイものがあるぞい）

艦隊『今夜は辛い物を食べよう』
その夜、提督と佐渡は朝まで幸セツ

(ryー
佐渡 完

対馬とケツコンしました。

某鎮守府ー

◆???

ここは何処なのだろう

見慣れない風景

知らない言葉

『~~~~!』

どうしたのだろう

霞んで見えない

聞き取れない

でも

呼ばれている気がするの

何故なのだろう

『~~~~!』

誰……知らない言葉で呼ぶのは

ワタシハダレナノ

提督「対馬っ！」

対馬「っ……し、れい？」

◇執務室◇

提督「やつと起きたか……疲れているなら秘書机じゃなくて、ちやんと布団で寝ろ。でないと疲れがとれないぞ？」

く提督、寝惚ける対馬の頬を優しく撫でるく

対馬「……………」キョロキョロ

提督「? どうした？」

対馬「ううん、何でもなし。それより、今は何時なの？」

提督「日付をまたいで〇〇〇〇を過ぎたところだ」

対馬「え」

く執務を再開したのは二〇〇〇過ぎの頃く

提督「まあ、対馬を今日は出撃に遠征と酷使してしまったからな

……それに加えて私の補佐など、無理があつたのだ」ナデナデ

対馬「そつか……ブラツクな旦那にいっぱい使われたんだつた」スリスリ

提督「人聞きの悪いことを言わないでくれ……。そもそも対馬が自分ができると聞かなくなったからではないか。私は何度も代役を立てようと提案したのに、だ」

対馬「知らない。覚えてない」プイッ

提督「随分と忘れやすい頭をしているのだな」フフ

対馬「旦那に酷使されてるから」アタマグリグリ

提督「なら明日の出撃はー」

対馬「対馬が出る。遠征も演習も執務も全部」ズイッ

提督「……」ニガワライ

「意識もハッキリしてきたので、対馬も補佐に戻る」

提督「カキカキ

対馬「テキパキ

提督「ふむ……」

対馬「？」

提督（ボーキの数少々心許ない……明日からは軽空母の者たちに頼むか。いや扶桑たちや最上たちに頼むのもありか……）

提督「うくむ……」

対馬「……」チラッ

「対馬、時計を確認」

対馬「司令」クイクイ

提督「むむむ……」

対馬「司令」クイクイクイクイ

提督「むむむむむ……」

対馬「カチン

ペロツ↑対馬、提督の耳を一舐め

提督「うのわあっ!!!」ビククツ

対馬「フヒヒヒ……!?!?!」すごい声♪「クスクス

提督「んんっ、うんっ……耳は弱いといつも言っているだろう／＼

対馬「知らない♡」フヒヒ

提督「……………で、何の用だ？／／／」ドキドキ

対馬「もう〇ー〇〇を過ぎました……………休憩の時間♡」ニッコリ

提督「？ 先程執務を再開したばかりではー」

対馬「休憩のじ・か・ん♡」ニッコニコ

提督「わ、分かった……………」

く揃ってソファアへく

対馬「はい、司令♡」オヒザポンポン

提督「うむ……………」ゴロン

対馬「いい子いい子♡」ナデナデ

提督（膝枕をしたかっただけか……………健気な嫁だ）

対馬「司令に初めてこうして膝枕したのは丁度この時間……………大切な

思い出♡」ナデナデ

提督「あ、あく……………よく覚えているな／／／」

対馬「大好きな人との思い出はそう簡単に忘れられない♡」ニッコ

リ

提督「っ……………そ、そうか／／／」ドキドキ

対馬「司令は対馬がここにいていいと言ってくれました……………対馬を

必要としてくれました……………対馬を離さないと約束してくれました」

対馬「だから好き……………大好き……………いっぱいいっぱい愛してる♡ あ

なたのためなら何だってします♡」オデコチュツ

提督「相変わらず大袈裟だな……………」ニガワライ

対馬「大袈裟じゃありません……………あなたの初期艦、漣さんよりも小

さい対馬を選ぶなんて思ってもいかなかったもの……………」ホツペツンツン

提督「それはー」

対馬「あなたが□リコンさんで良かったです♡」フヒヒ

提督「またそんなことを……………」ガツクリ

対馬「違うの？」クスクス

提督「……………もう何度も説明しただろう」

対馬「覚えてないでくす♡」

「むくり↑提督、起き上がったって対馬と向き合う」

提督「私は、対馬だから惚れたのだ」

対馬「♡」コクリ

提督「お前にはいつもどこか陰があった……仲間たちや姉妹たちと笑い合っていて……私に笑顔を向けてくれていても……」

提督「お前の過去は私もよく知っているし、及ばずながら理解している。だから響や雪風たちにしてきたように……お前がもう他所の国へ行く必要はないと分かるように真摯になって接してきた。お前が見せる陰はまた違う陰に見えたのだ、私には」

提督「それで……それで、だな……／＼／＼／＼」

対馬「私の特別になろうとしてくれたんでしょ？♡」

提督「お、覚えているじゃないか……／＼／＼／＼」グヌヌ

対馬「何度でも聞きたいですし、こういうやり取りを何度だってしたいもの♡ 再確認って感じですかね？♡」フヒヒ

提督（こいつ……／＼／＼／＼）カアーツ

ギユツ♡↑対馬、提督に抱きつく

提督「こ、今度は何だ？／＼／＼」

対馬「あなたは対馬の特別なんですよね？♡ だから、特別なあなたの温かさを感じてるの♡」スリスリ

提督「く／＼／＼」

対馬「対馬の初めては全部あなたが与えてくれました……対馬の大切な大切な特別な人♡」ホッペチュツチュツ

提督「全部ではない」

対馬「え？」

提督「まだまだこれからだ、という意味さ……これから先、二人が死を分かつまで、色々な初めてが待っているだろう。私が知らないことも含めてな」

対馬「あなたが知らないこともあるの？」

提督「勿論だとも。現にケツコンは人生の墓場と聞いていたのに、私はこれっぽっちも今の時間を墓場だとは思えないでいるからな」

対馬「ふくん、そうなんですか♡」フヒヒ

提督「ああ、そうだと。だから対馬、これからも私と沢山の初め
てを見つけていこう」ニコッ

対馬「ええ、あなたと一緒に♡」

二人は誓い合うように口づけを交わした

対馬「フヒヒヒ……じゃあ早速ですが、二人でないと出来ない初め
て教えてください♡」ウワメヅカイ

提督「？」クビカシゲ

対馬「体は小さいけど、対馬は艦娘ですし、何より夫婦なのですし
……教えてくださいますよね？♡」スリスリ

提督「？ 一体何をー」

対馬「あなたともっと深く繋がりたいです♡ 口づけ以上の♡」

提督「なっ!?!/!/」

対馬「対馬に初めてを見せてくれますか？♡」ニッコリ

提督「………男に二言は無い、善処しよう/!/」グイッ

対馬「あんっ♡」

二人は深く愛を育んだ

そして、朝になりー

◇執務室外、ドア前◇

トントントン

択捉「司令く、おはようございます。妹たちと本日の書類整理補佐
に参りました」

シーン……

松輪「ま、まだ来てないのかな？」

佐渡「あの真面目な司令がかく？ んな訳ねえだろ。どうせ演習の
編成とか考えてて、聞こえてねえだけだつて。エト、入っちゃおうぜ」

択捉「え、でも……」

ガチャリ

佐渡「ほら、開いてる♪ おっはよくさーっ!」ビクッ

松輪「ど、どうしたの、佐渡ちゃん？」オドオド

択捉「もしや司令の身に何か!？」バツ

◇執務室◇

択捉「……………」コウチヨク

提督「ぐう…………ぐう…………」ZZZ

対馬「し、れい…………らいしゆき♡」ZZZ

く夫婦仲良くソファーでおやすみ中く

佐渡「めつずらしく、まだ寝てるぜ？」

松輪「でもどうして二人共服着てないのかな？」

択捉「ふ、二人は外で待つてて！／／／／今私が起こすから！／

／／／

佐渡「何だよ、起こすのくらい手伝ー」

択捉「い・い・か・ら！」ネームシツプオーラ

佐渡「わ、わあつたよ…………」

松輪「じゃ、じゃあ、先に大淀さんから書類貰つて来ちやうね…………」

その後、二人は択捉の怒号とも言える声で叩き起こされ、二人して

真っ赤になりつつ慌てて身支度を済ませた。

当然、択捉からはお説教も仲良く受けたというー。

対馬 完

平戸とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇長官官舎・居間◇

平戸「……………」

〽奥様、畳に寝転がり、絶望の縁に〽

択捉「何があつたの…………？」

松輪「平戸ちゃん？」

佐渡「人を呼びつけておいてこれかよ…………」

対馬「どうしたのかしら？」

福江「どうせろくでもない理由だろ」ヤレヤレ

平戸「ろくでもないことなんかじゃない」ムクリ

佐渡「あ、起きた」

〽奥様、のそりのそりと福江の元へ〽

平戸「ろくでもないことなんかじゃない！」

福江「分かった分かった。分かったから離れてくれ。近い」

択捉「で、何があつたの？」

平戸「平戸は…………平戸は司令の妻失格だと痛感したんです」

松輪「け、ケンカしちやつたの？」

平戸「いえ、そういうことではありません。しかし…………この平戸は

司令の妻でありながら、病魔から司令を守ることが出来ませんでしたっ！

たっ！ こんなの司令の妻失格ですっ!!」

姉妹『（・o・）』ポカーン

佐渡「いや、病魔から守るって…………」

対馬「私たちは免疫細胞じゃなくて艦娘だからねえ」

福江「敵艦から守るのが使命だろ」

平戸「でも！ 平戸は違うつ！ 平戸は司令を脅かす全てからお守

りするのっ！」

佐渡「でも元はと言えば、平戸の風邪が移って司令は寝てるんだろ？」

平戸「ピシッ

択捉「人より丈夫な艦娘でも風邪は引く。なら人である司令に移つても仕方のないことよ。平戸がそんなに責任を感じる必要はないと思うわ」

松輪「え、択捉ちゃんの言う通りだよ。今度は代わりに平戸ちゃんが司令のことを看病してあげればいいと思うなあ」

対馬「というか、打ちひしがれる前に司令の看病をした方がいいんじゃない?」

福江「どうせ司令は寢室で寝てるんだろ? 起きる前に色々と妻としてやれることをやった方がいいんじゃないか? 幸い今日の執務の大体は大淀さんや香取さんたちがやってくれてる訳だし」

平戸「でも……こんな自分が許せなくて……」

佐渡「自分で許せなくても、そうやって腐ってる方が司令の妻失格じゃね?」

平戸「ガーン

佐渡「常日頃お前は司令に向かつて、必ず守るだの指一本触れさせないだの言ってるのに、いざという時にこれじゃあなあ」

福江「姉さんの言う通りだ。司令は今病魔と闘ってるんだから、その奥様が応援してやらないと……腐ってる暇はないと思うぞ?」

平戸「……分かった。今は自分のことよりも司令のために頑張る」
フンスフンス

択捉「ええ、そうして。それじゃあ私たちは戻るけど、何か手伝ってほしいことがあったら知らせてね」

平戸「ありがとうございます」

—————

◇寢室◇

スーッ

平戸「ピヨコ

提督「……………」ペラッ

提督、読書中

平戸「……司令、失礼します。お飲み物をお持ちしました」

提督「ん……ああ、ありがとう」

平戸「一応、冷たいのと温かいのと両方お持ちしましたが、どちらをお召し上がりになれますか？」

提督「温かいのをいただけますかな？」

平戸「かしこまりました」ペコリ

平戸、提督のためにとある緑茶をご用意

平戸「どうぞ。火傷しないようにご注意ください」つ湯呑

提督「ありがとう。ごくつ……甘いな」

平戸「はい。風邪ということで、緑茶にはちみつを入れてます。それと岩塩を少々」

提督「なるほどな。そういえば、前にアメリカのLAに行った時にもコンビニでこのような緑茶があったな」

平戸「そうなのですね。私は風邪にいい飲み物として調べただけですから」

提督「あの時は私もアメリカは初めてだったからな。お茶なんかよりもデカイコーラを飲んでいたよ」

平戸「ふふふつ、司令は今でもラムネ等がお好きですよ」

提督「若くなつた気分になれるからな」

平戸「まだまだお若いでしょう」

提督「妻が若いからなあ。自分の老いがすぐに分かつてしまうのだよ」

平戸「そこはなんとも……でも、司令は私の自慢の旦那様です♡」

提督「ありがとう」

――

平戸「汗も拭き終わりましたし、また横になってください」

提督「そうだな。また読書の続きでもするとしよう」

平戸「出来ればお眠りになられた方が……」

提督「しかしだな、眠くないのだ」

平戸「それは分かりますが……」

提督「ではこうしてはどうだろう？」

平戸「なんですか？」

提督「平戸、添い寝してくれ」

平戸「は？」

提督「添い寝だ、添い寝」

平戸「し、司令がお望みとあらば……♡」

もぞもぞ……ぎゅっ♡

平戸「ご満足ですか？♡」

提督「ああ、実にいい。温かくて、いい匂いがして、柔らかくて、最高だ」

平戸「私は安眠グッズですか……」ニガワライ

提督「私の最愛の妻だ。いいじゃないか、風邪で弱った時くらい。昨晩は私が安眠グッズになったのだから」

平戸「それは、まあ……♡」テレリ

数分後――

提督「ふむ」

平戸「すう……すう……」

〽奥様は提督の胸の中で夢の中〽

提督（随分と気を揉ませてしまったからな。気が緩んでくれて良かった）

平戸「すう……すう……しれえ、しゅきい♡」

提督「……（悶え）……」

（嫁が可愛過ぎるっ）

〽奥様、寝ながらも提督の胸板に顔をグリグリと押しつけて愛情表現〽

提督（どうしてこうも愛くるしいのか……普段真面目なのがこういうことをすると、どうしようもなく気持ち募る）

平戸「♡」スリスリ

提督（起きたら責任を感じるだろうから、私も寝るとしよう）

「回復したら、また二人で頑張ろうな」

〽提督、眠る奥様の頭にキスを落として、自分も眠りに就いた〽

結局、夫婦はそのまま明日の朝を迎えた。提督は回復し、平戸は提督の愛をたくさん充電し、夫婦はバリバリと仕事をこなした。

しかし、無駄に平戸がつやつやしていたので、姉妹たちや仲間たちからは変な誤解をされ、何故か提督は皆から栄養ドリンクやら精力剤を渡されたそうなのー。

平戸 完

福江（ふかえ）とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇艦娘宿舎の一室◇

択捉「お茶です、司令」

提督「ああ、ありがとう……」

佐渡「で、嫁さんが演習でいない間になんの用なんだよ？」

対馬「松輪さんが日振さんたちと遠征で留守ですから、福江さんに聞かれたくないことですか？」フッフ

提督「ま、松輪は俺たち夫婦に憧れているから……福江のことについてとなるとこうなるんだ」

く提督、改めて話を始めるく

提督「ケツコン前から俺は福江とケツコンしようと約束していた。ケツコンした今もそれを後悔したことなんて一度もない」

佐渡「んだよく、惚気に来たのか？」

対馬「回りくどいと福江さんが帰ってきてしまいますよ？」

択捉「何が司令を不安にさせているんでしょうか？」

提督「それなんだがー」

ドバーン！↑ドアがいきなり開く

全員『っ!』ビクッ

福江「ただいま……司令♡」ニツコリ

提督「っ……お、おお、おかえり福江、早かったな……」

く福江、すかさず提督の元へ歩み寄るく

福江「演習なんて楽な任務さ。それより酷いじゃないか司令……執務室で待っていてくれないなんて……」ギューツ

提督「す、すまん……ちよつと択捉たちに話があつてな……」

福江「へえ……あたしに聞かれたらいけないことなの？」ノゾキコミ

提督「……………」

（目を逸らすな……逸らしたらダメだぞ俺！）

福江「どうなの、し・れ・い？」

佐渡「司令はお前のことでなんか悩んでるみたいだぞ〜」

提督「佐渡っ!？」

佐渡「福江もいるんだし、存分に話し合えよ。みんなで立ち会ってやるから」

福江「司令？」

グリーン↑福江の視線が提督に降り注ぐ

提督「……………」

福江「あたしの何がいけないの？ あたしの何に悩んでるの？ 小さいから？ やっぱり周りの目が気になるから？ ねえ？ なんで？ なんで何も言ってくれないの？ なんであたしじゃなくて択捉たちを頼ったの？ ねえ、どうして？ 答えてよ！」

提督「そ、そういうのじゃなくてだな…………」

福江「じゃあ何!? ハッキリ言いなよ！」

択捉「ねえ、福江」

福江「何？」

択捉「そんなにまくし立ててちや、話がしたくても出来ないわ。だから少し落ち着いた方がいいと思うの」

対馬「福江さんも司令のお話をちゃんと聞きたいんでしよう？ ならここでまくし立てるのは逆効果よ？」

福江「…………分かった。司令、あく、あたしだけの司令…………ごめんね。決して司令が憎くてやったんじゃないから」ナデナデ

提督「あ、ああ、分かっている…………俺こそお前じゃなくて択捉たちへ先に話そうとしてすまなかった」

福江「司令…………いいの♡ 謝らないで♡ 司令は何も悪くない♡」スリスリ

提督「それで、話を聞いてもらえるかな？」

福江「ええ、勿論♡」ニッコリ

提督「あのな…………俺はお前と出会えて幸せだと思ってる。上手くない時、挫けそうな時、逃げ出したい時…………そんな時はいつも決まってお前が支えてくれた」

福江「うん……うん……♡」

提督「でもな……その……」

福江「大丈夫……あたしの目を見て言っただけ？♡」

提督「……お前を深海棲艦共の前にこれ以上出したくないんだ」ギロツ

福江「っ♡」ゾクッ

択捉「え」

佐渡「うわお」

対馬「病んでるわね……」フッフ

福江「ご、ごめんなさい……でもケツコン艦のあたしが頑張らないと貴方の立場が……」

提督「アスクでただふんぞり返ってるだけで現場にも立ったことのおねえ奴らの話なんざ、今はしてねえんだよ！」

福江「ひっ♡」ビクッ

提督「俺はお前がああ訳分かんねえ深海棲艦共には傷つけられるのが耐えられないんだ！ 愛した女が戦ってるのに、俺はただその映像を見ていることしか出来ないんだ！ お前はもう俺の女なんだ！ お前はもう死ぬまで俺の側を離れるな！」

福江「で、でもあたしは毎回無傷で帰ってきてる、だろ？♡」ゾクゾク

提督「それだけじゃ嫌になっただけだ！ 演習も遠征も今後はやらせない！」ギューッ

福江「ひうつ♡」ヒシッ

提督「愛してるんだ……お前が俺の全てなんだ……」

福江「あく、司令……こんなにもあたしを愛してくれて、必要としてくれているんだね♡ 幸せ……♡」スリスリ

提督「んなの今更だろ……それより返事はどうした？」ナデナデ

福江「司令がそう望むのなら、あたしはそれに従うだけ♡」オメメハート

提督「福江……」

福江「司令……♡」

く夫婦は熱い熱い口づけを交わしたく

佐渡「なあ、これってどういうことなんだ？」

択捉「福江が専業主婦に転職するって話……」ゲツソリ

対馬「んでもって、二人がよりくつついて生活するってこと」フフ

フ

提督「福江……ちゅっ」

福江「ちゅっ……司令、もう一回♡」

提督「ちゅっ……福江……ちゅっ」

福江「あむ……んっ……ちゅっ……んっ、もつとお♡」ハアハア

提督「福江……ちゅっ」ハーハー

福江「ちゅっ……んはあ、司令え……好き♡ 愛してる数だけキ

スしてえ♡ はむっ……ちゅっ♡」ビクンビクン

くチュツチュチュと夫婦は口づけをし合うく

択捉「今回は何時間やってると思う？」

佐渡「さあ……昨日出撃から帰った時は一時間くらいしてたぜ？」

対馬「今回は専業主婦になったんだし、夜通しかもね」フフフ

択捉「よし、眠らせよう」サワヤカエガオ

こうして夫婦は択捉に殴られ、気絶させられた後、執務室に放置された。

しかし目を覚ました夫婦は何も無かったかのようにまた口づけし合った。

その翌日から、提督は福江を常に肩や膝の上に装備して仕事に励んだそうなりー。

福江 完

御蔵とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

御蔵「提督、そろそろご昼食にいたしましょう。午後からは他方の鎮守府よりお客様たちがお見えになられますから、早めに食べてそのご準備を」

提督「あく、そういえば今日はそんな日だったね」

御蔵「もう、しっかりしてください。提督は今や泊地で1番注目をされているのですよ？」

提督「たかだか海防艦だけの編成でこの前の泊地対抗の模擬戦を戦っただけじゃん」

御蔵「戦っただけではなく、戦い、更には相手の一艦隊に勝利したのです。その手腕は各泊地の名だたる元帥方も見倣っていると専らの噂ですよ？」

提督「僕が出来た戦術ならお偉方たちもすぐに理解して実行に移せるさ。そんなことで浮かれるほど、僕の頭はお花畑じゃない」

御蔵「謙虚も過ぎれば傲慢になります」

提督「そりゃ困る。御蔵にそう思ってもらいたくない」

御蔵「私限定なのですか……」

提督「当たり前じゃん。好きな女の子からそう思われたくないでしょ？」

御蔵「私には分かりません」プイッ

提督「あはは、まあそういうこと。それじゃお昼にしようか」

御蔵「はい。ではすぐに持って参りますのでお待ちください」ペコリ

提督「はくい。気をつけてね」ノシ

――

く残りの一手間を施し、お手製お弁当の包みを持って御蔵が提督の元へ戻る道中く

択捉「あ、御蔵さん」

御蔵「皆さん……こんにちは」ニコッ

く 択捉型姉妹の面々と遭遇く

佐渡「お、今日も司令は愛妻弁当か♪」

対馬「仲睦まじいこと」フッフ

松輪「ふ、二人共……」オロオロ

御蔵「ありがとうございます」

福江「おや、今日は随分と機嫌がいいね。いつもなら佐渡の冗談に狼狽えるはずなのに」

択捉「流石に慣れたんじゃないの?」

御蔵「あはは、まあ慣れるというよりは、本当に今日は気分がいいんです。提督が私のことをあの頃から変わらず愛してくださっていると実感しましたから」

択捉姉妹『うわお……』

御蔵「ふふふ、それではあの方を待たせてますのでこれで」ペコリ
く 御蔵、花びらと砂糖を振り撒きながら去っていくく

択捉「甘過ぎて胸焼けしそう……」

松輪「幸せそうだったね」

佐渡「司令もやるなあ♪」

対馬「鎮守府は砂糖がいっぱい……ふふふ」

福江「今日は辛口のカレーが欲しいな」

—————

◇執務室◇

提督「いただきま〜す」人

御蔵「召し上がれ♡」ニコニコ

提督「おつ、今日も唐揚げが入ってる！ しかも6個も！」キラキラ

御蔵「今日は大切な日ですから特別です♪」

提督「ありがとう。やっぱ御蔵は最高のお嫁さんだよ」

御蔵「全く、調子のいい旦那さんですこと。提督がおねだりするものだから、唐揚げの腕前ばかりが上がってしまってるんですよ?」フ

フフ

提督「いいじゃん別に。御蔵だって唐揚げ好きでしょ?」

御蔵「否定はしません。でもそれは提督と同じ意味での好きではありませんよ」

提督「まあ俺は唐揚げが大好きだからね」アグアグ

御蔵（私は提督がそうやって、私が作った唐揚げを幸せそうに食べてくれるから唐揚げが好きなんですからね♡）フフフ

提督「御蔵、例の物を!」

御蔵「はい、こちらに……今回は黒ポン酢にしました」

提督「おお、今日はポン酢も豪華だ!」

御蔵「それといつものマヨネーズです」

提督「こいつはうちのエースだ! 代打はいない!」

御蔵「ふふふ」

（少年のように可愛らしい……♡）

「こんな感じで仲睦まじく昼食を食べた夫婦」

御蔵「食後のお飲み物は何をご希望ですか?」

提督「今日はコーヒー。ブラックで」

御蔵「少々お待ちください」

提督「そういえば……」

御蔵「はい。いかがされました?」

提督「今日も模擬戦やるでしょ? その時はこの前の模擬戦とは別の編成でプランも変えようと思う。あ、もちろん御蔵が旗艦なのは変えないし、海防艦だけだよ」

御蔵「ではどのような?」

提督「この前は択捉に加えて占守、国後、八丈、日振にお願いしたけど、今度は石垣、大東、松輪、佐渡、福江にお願いしようかと思っ
てね。対馬には悪いけどまた次の機会ってことで」

御蔵「分かりました。戦術の方は?」

提督「もう貰ってる資料を見るからに向こうは空母を出す予定だね。開幕魚雷を撃てる子も連れてるし、練度はこの前の時よりは高い
だろうね」

御蔵「……………」

提督「だから八分目で行こう。手の内を全て見せる必要もないし、僕らの練度ならそれでいなせるよ」

御蔵「簡単に言ってくれますね」ヤレヤレ

提督「当然。死にもものぐるいで研鑽を積み、君たち海防艦を軽視する連中を見返すために頑張つて来たんだから」ニッコリ

御蔵「……ズルい言い方ですね」フフフ

提督「事実だからね。だからあの模擬戦以降、大本営も海防艦をもつと重用するようにと新たな海防艦の艦娘邂逅に力を入れてる」

提督「確かに君たち海防艦は脆い。でも脆いなら脆いなりの戦い方がある。短所は長所だ。どの艦種でも、その者の捉え方ひとつで最強の艦になるんだよ」

御蔵「素晴らしいお考えです」

提督「だから今日も常識を僕と御蔵で覆そう」

御蔵「はいっ！」

提督「それで1つお願いがあるんだけど」

御蔵「なんでしょうか？」

提督「客が来る前に御蔵を抱っこして御蔵成分を充電したいなあ♪あとキスも♪」

御蔵「……もう、何を言い出すかと思えば」アキレ

提督「僕には大事なことだよ？」

御蔵「いちいち私の許可はいららないと言う意味です。するならば拒みませんから、好きな時にしてください♡」

御蔵「両手を広げて抱っこをせがむ」

提督「それだとずっとしてるけど？」

御蔵「私の愛する提督はそこまで常識がない方とは思っていませんので♡」

提督「あはは、お嫁さんには敵わないなあ♪」

御蔵「提督の自慢のお嫁さんですの♡」

そして夫婦は時間が許す限り、抱擁を交わし、より愛を深くした。その数年後、史上初海防艦のみの艦隊で元帥へ昇格するという快挙

を成し遂げた提督が出、その者の横には小さき女神が常に微笑みを浮かべて佇んでいたというー。

御蔵 完

能美とケツコンしました。

某鎮守府、夕暮れ――

◇???

能美「嗚呼、提督……どうしてですか……？ どうして何もお返事してくださらないのですか？」

「……………」

能美「口を聞きたくない程に、能美のことをお嫌いになられてしまったということですか？」

「……………」

能美「酷い……能美はこんなにも提督のことを心からお慕いしていますのに……！」

グサツ！

「……………」

能美「本当に愛おしいそのお声すらお聞かせ願うことは叶わないのですね……！」

グサツ！

「……………」

能美「うっ、ううっ…………！」

グサツ！ グサグサツ！

倉橋「……………御蔵、なんとかしてください」ガクブル

御蔵「言って止まるならとつくに止めてますよ」

屋代「また罪無き提督人形がズタボロになってます」

能美「提督……提督……提督♡」

グサグサツ！

く能美は提督を愛しているあまり、少しでも離れてしまうと情緒不安定になるのだ！く

御蔵「能美、人形とは言え、提督に刃を向けることはよくありませんよ」

能美「でも！ 提督は能美を置いて行ってしまわれました！」

倉橋「いや、ただの演習艦隊を率いて他の鎮守府へ赴いているだけ……」

屋代「能美ちゃんはもう練度も上がりませんしね」

能美「ううっ」

くズタバロの提督人形を抱きしめて泣き出す能美く

倉橋「というか、なんでいつも倉庫の物陰で待っているんです？

早く会いたいなら埠頭で待ってた方がいいのではないですか？」

能美「会えなかったところに急に提督に会ってしまったら能美の心臓が危ないです！」

倉橋「めんどくさい人ですね……」

屋代「変なところだけ乙女ですね」

御蔵「……頭が痛い」

ざわざわ

御蔵「埠頭の方が騒がしくなってきましたね」

能美「提督のお帰りです」

倉橋「もはや気配だけで察するとか怖過ぎます」

屋代「でもやつとこれで屋代たちの任務も終わりますね」

く御蔵たちは能美が変なことをしないよう、姉妹として見張っていたのだ！く

能美「いくら能美が提督命でも、自害はしませんよ。その時は提督と共に逝きます」

御蔵「さらっと怖いこと言わないでください」

倉橋「でも案外そうなりそうですね。提督も提督で能美命ですから」

屋代「深刻な依存症にはなっていないかもしれませんけれどね」ニガワライ

提督「やはりここにいたのか。ただいま、我が妻、能美」

能美「……………」

パタリ

くやつと会えた喜びでキャパオーバーになって倒れる能美く

御蔵「おかえりなさいませ、提督」スルー

倉橋「あとのことはよろしくお願いします！」

屋代「提督人形は屋代が出来るだけ早く直しておきますね」

提督「ああ、皆ご苦労だった。すっかり休んでくれ」

三人『はっ!』ケイレイ

◇長官官舎◇

能美「……ん。提督の二オイ」

提督「目が覚めたか、能美？」

く提督は能美に膝枕をして介抱していたく

能美「ここは天国ですね」

提督「ああ、天国だ。可愛い妻の寝顔をこれでもかと堪能出来たからな」

能美「能美も提督の寝顔が見たいです」

提督「逆の立場になるのもいいな」ナデナデ

能美「しかしそうなるかと愛する提督に能美の姿を見てもらえませんか。それは悲しいです」

提督「夢で会えばいいことだ」

能美「っ! はい、そうですね♡ 夢でも提督は能美に会ってその瞳に能美を映してくださいますよね♡」

提督「ああ、勿論だ」

能美「ところで提督」

提督「なんだ？」

能美「お夕飯は何がよろしいですか？」ムクリ

く能美は起き上がり、あぐらをかく提督の足の隙間に向かい合わせですつぽりと収まるく

提督「んく……ああ、そういうえば叢雲から菜園のキャベツを渡されたんだった」

能美「そうでしたか。では、それを入れた麻婆豆腐でも作りましょうか」

提督「おお、いいな。能美のキャベツ入り麻婆豆腐。なら今日世話になった御蔵たちも呼ぼう」

能美「いいですね」

そして――

御蔵「お夕飯のお誘いありがとうございます」

屋代「提督人形の修復は終わりましたよ」

倉橋「来る途中で食堂へ寄って中華麺を頂いてきました!」

提督「いらつしやい。中華麺預かろうか」

倉橋「お願いします!」

く提督は前に仙台で食べた麻婆焼きそばがきっかけで、麻婆豆腐には焼きそばというのがテツパンになっている

屋代「能美さん、提督人形はどこへ置けばいいですか?」

能美「こちらで預かります。三人はお客様ですから、座って待っていてください」

提督「いただきます」人

四人『いただきます!』人

御蔵「はあ、いつ食べても美味しいです」

屋代「キャベツが麻婆の辛さを和らげてくれるので、ちょうどいいですね」

倉橋「しかし——」

提督「あーん」

能美「あむ♡」

能美「あーん♡」

提督「あむあむ」

倉橋「目の前の光景を見るならもっと辛くしてくれないと甘さが勝ります」

屋代「まあまあ、幸せなことですから」ニガワライ

御蔵「ラー油か山椒足します?」

倉橋「ください」

提督「愛してるぞ、能美」

能美「愛しています、提督♡」

結局、御蔵も屋代も追い山椒をすることにした——。

能美 完

倉橋とケツコンしました。

某鎮守府、夕方――

◇長官官舎・居間◇

提督「嗚呼、なんて喜ばしいことだ」

倉橋「……／＼／＼／」

「倉橋はあぐらを掻く提督の足の隙間に向かい合って抱えられ、猫可愛がりされている」

倉橋「あの、倉橋は当然のことをしただけでして……／＼／＼／」ア
タフタ

提督「日頃の鍛練の成果だな。嗚呼、本当に私の妻は強く、謙虚で、愛らしい」ナデナデ

倉橋「提督……その、勘弁してください……／＼／＼／」

「実はこの度、倉橋は近隣の港町から感謝状を贈られ、昼間はその授与式に提督と出席してきたのだ」

提督「我が国の漁船を、国民を敵潜水艦団から見事に護り、怪我人も出さなかった。その上倉橋は避難が終わる最後まで敵からの攻撃を一手に引き受け続け、無傷で帰還した。いくら褒めても足りないだろう」

倉橋「し、しかし、倉橋一人で成し得たことでは……／＼／＼／」

提督「勿論、今回任務にあたった海上安全巡回艦隊のメンバー全員で成し得たことだろう。それでも私はどうしても倉橋のことを一番誇らしく思えてならない」

倉橋「提督……／＼／＼／」

提督「いいだろう？ 今この場には私たちだけしかないんだ。目一杯褒めさせてくれ。私の最愛の妻を」

倉橋「……／＼／＼／」

「感謝状は任務にあたった艦隊のみんなが受け取ったが、それはそれこれはこれ」

提督「倉橋。俺の妻。自慢の嫁」ナデナデ

倉橋「ううっ……♡／／／／」

提督「小さくとも誰よりも強い。我が鎮守府の小さき守護神。愛しているよ。心から」

倉橋「きゅ／／／／」

パタリ

倉橋はキャパオーバーで気絶してしまった。それでもその顔はとろとろに蕩け切っており、提督はそんな妻が愛おしくて仕方なかった

次の日の朝――

トントントン

倉橋「………?」パチリ

倉橋は包丁で何かを規則正しく刻む音で目を覚ます

倉橋「はっ!？」

日課である愛する夫への朝食作り。なのに隣に提督がいないことで倉橋は飛び起きた

◇台所◇

倉橋「申し訳ありません、提督!」

提督「おや、おはよう。私の天使さん」

倉橋「お、おはよう、ございまして……天使だなんて……／／／／」
テレリテレリ

提督「昨日は中途半端に甘やかしてしまったからね。今日はとことん甘やかさせてもらおうよ?」ニッコリ

倉橋「ひえ……♡／／／／」

提督の大きな愛に倉橋は思わず背筋がゾクゾクする

提督「さあお顔を洗って、身支度を整えておいで。そのままでも十分可愛らしいけれど」ニコニコ

倉橋「くくく♡／／／／」モジモジ

提督「? 何なら着替えも歯磨きもしてあげようか?」

倉橋「け、結構でしゅ!／／／／」
バビューン

提督「私の妻が可愛過ぎる……八百万の神々よ、感謝申し上げます」

◇居間◇

提督「あーん」

倉橋「……………／／／／」

提督「あーん」

倉橋「あく……………んっ／／／／」モグモグ

提督「お味はどうかかな？」

倉橋「美味しいでしゅ／／／／」

提督「うんうん。倉橋が美味しいと感じるよう、愛を沢山込めたからね」

倉橋「うゆ……………／／／／」

提督「ほら次はお味噌汁だよ？ 口移ししてあげるね」

倉橋「びっ!?! ♡／／／／」ドキッ

提督「んっ」

倉橋「んう ♡／／／／」

く本当に口移しをされ、倉橋は思わず眼がとろんとしてしまうく

提督「……………そんな顔をされると困るよ」ナデナデ

倉橋「提督のせいだしゅ……………♡／／／／」

提督「倉橋が可愛いからね仕方ないね」

倉橋「うううつ ♡／／／／」

提督「さあもつと甘やかすからな」

倉橋「勘弁してください……………♡／／／／」

提督「嬉しいって顔してるんだけどな？」

倉橋「くくく ♡／／／／」

その日だけで倉橋は何度も声にならない声を上げ、提督の愛を思い知らされた――。

倉橋 完

屋代とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

屋代「提督、屋代のお話、ちゃんと聞いてますか？」

屋代は提督を床に正座させてお説教中

提督「聞いている聞いている。でも日頃執務室にこもりっぱなしつても良くないと思ってる」ニコニコ

く対して提督は反省の色無し

屋代「屋代もその意見には賛同しますよ。ですが、執務を放り出して他の皆さんまで巻き込んで追いかけてっ子だなんて……いつまでも気分なんです？」

提督「少年の心を忘れたくないということだ」キリッ

屋代「終いにはお顔がめり込むくらい単装砲の砲身で殴って差し上げますよ？ 屋代、ちっちゃくてもそれなりに力がありますし、遠心力も加算されますから、上の前歯は余裕で粉々に出来る自信があります」ニッコリ

提督「暴力、いけない」

屋代「でしたらもつと反省してください」

提督「いやでもさあ」

屋代「ほらまた『でも』とか『だって』とかすぐ口にするんですから。男らしくありませんよ？」

提督「男が『でも』とか言って何で悪いんだ！ 俺は男だよ！」

屋代「精神崩壊させましょうか？」

提督「そうなる屋代が献身的に介護を？」

屋代「いえ、そういう方が入られる施設に強制的に収容します。鎮守府は他の提督を着任させますからご安心を」

提督「ひどーい……」

屋代「屋代に提督の介護は面ど……荷が重いですから」

提督「ひどいっ！ これだけ愛し合ってる仲なのに！」

屋代「反省しない人を甘やかすと碌なことになりませんので」

提督「あのさ」

屋代「まだ何か？」

提督「この状況でも俺を愛していないと言える？」

屋代は提督が正座する太ももに横向きで鎮座している

屋代「愛してはいますよ。しかし愛しているからと言って甘やかすのは違います」

提督「屋代さんの髪から柑橘系のいい匂いがしてお説教聞いている場合じゃないのよね」

屋代「提督のために身嗜みは気を付けてますから。実はコンディショナーを変えたんです。明石さんのところにみかんから作ったコンディショナーがありましたので」

提督「へえ、いい匂いだなあ。思わずキスしたくなる」

屋代「反省したらいくらでもしてくれて構いません。しかし反省していないのにした場合は罰を与えます」

提督「どんな？」

屋代「太ももを振り回します」

提督「抓った上にグリグリと回すとか鬼畜の所業ですよん」

屋代「反省してもらうのが重要課題ですのよ」

提督「とうか、何だかんだ屋代も楽しんでない？」

屋代「あ？」ギロリ↑ドスの利いた声

提督「止めてチビる」

屋代「おもらし提督と名付けましょう」

提督「まだチビってねえしい！」

屋代「何でもいいので反省してください」

提督「いやあ、だからさ……この何つうか、俺が可愛い悪さして屋代がお説教するのって、俺たちだけのコミュニケーションじゃない？だから何だかんだ言って屋代もこの瞬間を楽しんでるんじゃないかっていう」

屋代「提督？」ニコニコ

提督「いやん、とっても素敵な笑顔なのに怖い」ガクブル

屋代「屋代はもつと普通のコミュニケーションを希望します。提督が普通にお仕事をし、それを屋代が扱う。そうであれば屋代だって提督を甘やかすことに何も抵抗はありません」

提督「ええ、今この状況が俺たちの普通じゃん」

屋代「屋代は普通が一番かと」

提督「今じゃん」

く内もも抓りく

提督「痛い痛いっ!」

屋代「世間的な普通と屋代たちの普通は違います。そう言いましたよね?」

提督「でも……」

く内もも抓り抓りく

提督「いぎやああああっ!」

屋代「反省する気ありますか?」

提督「……:……ほら俺って天邪鬼じゃん? だから悪さして屋代に叱られるのが好き、みたいな?」

く内ももダブル抓りく

提督「千切れちやう……ちっ切れちやうよ?」

屋代「その気でやっていますから」

提督「ごめんなさいいいいっ!」

屋代「全く困った提督です」ヤレヤレ

提督「でも愛している、と」

屋代「屋代くらいですよ。提督のお嫁さんが務まるのは」

提督「そうだなあ。屋代愛してる」

屋代「屋代も愛してますよ」

提督「嬉しい! けど、何でまだこっち向いてくれないんだ?」

屋代「まだ罰の最中なので」

提督「え?」

屋代「謝って終わるのではなく、反省して終わるんですよ」

提督「反省したじゃん」

屋代「謝るイコール反省ではありませんので」

提督「我にどうしろと!？」

屋代「ですから反省ですよ、反省」

提督「じゃあずっとこのまま？」

屋代「たまにはいいかもしれませんね。屋代は提督のお側にいれま
すし、提督はずっと罰を受けることになりますし」

提督「……………執務は？」

屋代「放り出して遊んでた人が何を言っているんです？」

提督「ごめん！ 本当にごめん！ いや、すみませんでした！ 次

からは屋代も誘ってサボります！」

屋代「次置き去りにしたらまた同じことをしますから」

提督「分かった。もう勝手に屋代の側を離れない」

屋代「では約束の口付けを♡」

提督「おう！」

屋代「んっ…………ちゅっ、んんっ…………寂しかったんですからね？」

提督「ごめんごめん…………ちゅっ」

屋代「んっ…………ふふふ、今回は許してあげます♡」

提督「次からは一緒にサボろうな」

屋代「程々にしてくださいね」

という茶番が鎮守府の日常風景なのであったー。

屋代 完

鵜来とケツコンしました。

某鎮守府、朝――

◇鎮守府敷地内・長官官舎◇

鵜来「提督く！もう朝ですよ！早く起きてください！今日の艦隊運用はお休みですが、提督にはこなすべき執務があるんですよ！」

提督「まだ眠い……あと五時間……」

鵜来「駄目に決まってるじゃないですかー！せめて五分とかにしてくださいよー！」

どごお！

く幼妻の容赦ない腹パンが炸裂く

提督「ふぐおっ!？」

鵜来「おはようございます。目は覚めましたか？」ニコニコ

提督「すつごい笑顔なのに怖いよ」

鵜来「誰のせいですかねく？」

提督「あく分かった分かった。起きます。起きますよ」

鵜来「はい。朝餉の方はもう準備してありますから、二度寝せずに来てくださいね！二度寝したら……分かってますよね？」

提督「そんなこれみよがしに血管浮き出た握り拳見せなくても起きるって」ニガワライ

鵜来「常習犯には体で覚えさせないと伝わりませんからね」ニッコニコ

提督「頼もしい嫁さんで心強いなあ」ノホホン

◇執務室◇

く朝食を取ったあとで執務室にやってきた夫婦だったが

鵜来「……………」

提督「いやあ、今日の執務が終わってるから自由だなく」ノンビリ

鵜来「鵜来、聞いてません」ジトリ

提督「サプライズ」ニコニコ

鵜来「今度は顔面に拳をねじ込まれたいのですね？」ニッコニコ
提督「女の子はサプライズ好きって聞いたのに……」ガクブル

鵜来「時と場合によります。そして今回ののはただただ困惑させられて
いるだけですよ」ニコツ

提督「説明するから、取り敢えず落ち着いて、その拳をゆつくりと
下ろすんだ」

鵜来「しつかりと聞かせて頂きましようか」

提督「うす……」

く提督、説明中く

鵜来「つまり、鵜来が眠ったことを確認したあとで、朝方まで徹夜
して本日の執務を終えられ、今日は鵜来とその……イチヤイチヤをご
所望と……／／／／」

提督「イエスイツトイズ♪」

鵜来「前もって言うてくだされば、鵜来だってお手伝いしましたの
に……」ムスツ

提督「いやあ、鵜来にはいつも何かとお世話になってるから、今回
は旦那として男を見せようかなと」

鵜来「そ、そうですか……／／／／」

(そんなことせずとも、鵜来は一生提督のお側を離れませんのに
……♡)

く提督の心意気に思わず頬が緩む鵜来く

提督「てことで、駄目かな？ 久々にちやんと鵜来とゆつくり過ご
せる時間を、褒美として俺に与えてはくれないか……俺のお嫁さん
？」

鵜来「っ……コホン。ここまでされて駄目だなんて言いません！」

提督「それは良かった」

く提督はそれから鵜来を手招きして、膝の上に抱え上げるく

提督「俺の嫁さんは可愛いなあ。しかもいい匂い」スンスン

鵜来「提督は鵜来のつむじの匂いを嗅ぎ過ぎです」ヤレヤレ

提督「やめられない止まらない」

鵜来「お菓子みたいに言わないでください」

提督「それだけ好きなんだ。こればかりは諦めてとしか言いようがない。本気で嫌われるならやめるけど、鵜来はいつも逃げないじゃないか」

鵜来「うつ……」

「凶星を突かれる鵜来」

提督「まあ鵜来は真面目だからな。俺みたいに面と向かってイチャイチャしたいなんて言えないよな」ナゲナゲ

鵜来「うう／＼／＼／＼」

提督「その分俺がストレートに伝えてるからバランス的には丁度いいんだろう。多分」

鵜来「鵜来だって、言う時は言います／＼／＼」

提督「へえ、そうか？　ならば是非とも今、俺に愛の言葉をかけてほしいものだな」ニコニコ

鵜来「そんな……日のある内からだなんて、恥ずかしいです／＼／＼」
「ウツムキ

提督「俺はいつでも伝えてるんだがなあ」ニツコリ

鵜来「提督は大人だから恥ずかしくないですよ／＼／＼」

提督「恥ずかしがってたら伝えたいことなんて伝えられないだろう。戦時中なんだから伝えられる時に伝えないと後悔する」

「真剣な声色で提督が返せば、鵜来はハツとする」

鵜来「そうですね……」

提督「ま、だからといって鵜来に強要するつもりはない。だから鵜来は今まで通り、俺に愛を告げられて嬉しそうにやけてればいいんだ」

鵜来「べ、別ににやけてなんか……／＼／＼」

提督「嬉しさが隠し切れてないんだよなあ」

鵜来「そ、それは……えつと……嬉しいのは事実ですから♡／＼／＼」

提督「ならもつと言うね。好きだよ、鵜来。愛してる」ホツペチュツ
鵜来「くすぐったいです♡／＼／＼」

その後も夫婦は延々とイチャイチャを堪能、満喫して久々の夫婦の

甘い時間を過ごした――。

鵜来
完

稲木とケツコンしました。

某鎮守府、休日の朝――

◇長官官舎◇

提督「ぐおゝ、ぐがあゝ……」

稲木「……」パチリ

ゝ奥様が先に目覚めるゝ

提督「ぐおゝ、ふがあゝ……」

稲木（うむ、今日も提督はよく眠っている）ウンウン

（いびきにはすっかり慣れたが……）

むぎゆゝゝゝつ！

稲木（この抱擁は一向に慣れない！ 提督の匂いは好きだが、どうしてこうも力強く抱き締めたまま寝れるんだ!?!）

（苦しくはないがこう……毎度毎度心臓に悪い！ 好きな人との距離が近過ぎて!）

ゝそれとなく抜け出せなくてかわいい悲鳴をあげてしまう奥様ゝ

提督「んんっ……んんっ」ムギユムギユ

稲木「っ!♡」ビクン

提督「んっ……んんゝ……ぐおゝ」

稲木「くう♡」

ゝ余計に抜け出せなくてかわいい悲鳴をあげてしまう奥様ゝ

稲木「ふう」

（落ち着け、私。提督はどうせもうすぐ起きる。そうすれば離してもらえるから――）

提督「んがあゝ」ムギユムギユムギユ

稲木「んっ、そこ……おっ♡ だ、め……おっ、ほお♡」ビクンビクン

提督「んうゝ」

稲木「ふー、ふー、ふー……♡」

（あ、悪魔の抱擁だ……こんなの気持ち良過ぎるう!♡）

提督「くうく、んく……んく」

稲木「あつ、おっ♡ おっほ？♡ いま、あたま、なでたら……
んおおっ♡」

提督「んが？ おく、朝か……」

稲木「お、おはよう、提督……♡」ビクンビクン

提督「おはよう、稲木……なんか凄い顔赤いけど、熱でもあるのか？」

稲木「い、いや、たぶん、提督が私を抱き枕にしていたからだろう……んあ♡」

提督「おおう、それは申し訳ない」

稲木「気にすることはない……」

（悪魔の抱擁は危険だが、提督に抱かれていないと寝付きにくく
なってしまったしな……：我ながら提督LOVEが過ぎる）

くとりあえず夫婦は起きて身支度を整えることにく

稲木「ふう……：私は朝から何をやっているのやら……」
フキフキフキフキ

く奥様は提督専用弾薬庫（意味深）から潤滑油が溢れ出してしまっ
たため、念入りに処理中く

提督「稲木く、まだか？ そろそろ漏れそうなんだが、まだ掛か
るなら本館のトイレ行くんだけど」

稲木「！ すまない！ 今出る！」

く奥様は急いでトイレから出たく

稲木「はあ、今日は厄日か？ いや、これもすべて悪魔の抱擁のせ
いだ……」

く下着を履き替え、稲木は洗濯機を回すく

稲木「いつ使っても洗濯機とは便利な物だ。乾燥までしてくれるの
だから……：私よりよっぽど役に立っている気がする」

提督「そう自分を卑下するのは良くない」ニユツ

稲木「きゃっ、急に背後から声をかけないで！」

提督「ごめん……：でも俺は稲木が役に立ってないなんて思っていない
から」ナデナデ

稲木「分かっている……」ゴロゴロ
くそして夫婦は遅めの朝食く

◇居間◇

稲木「そういえば、昨日鵜来から梨を貰ったな。食べ頃だから剥いて食べてしまおう」

提督「へえ、梨か」

稲木「稲城市の梨だとき。稲木違いの洒落で買ってきたんだろう」
ニガワライ

く奥様は慣れたナイフさばきで梨を剥いていくく

提督「まあいいじゃん。梨美味しいし」

稲木「梨に罪はないしな」

提督「そういうこと……って鵜来に何か報復を考えてるのか？」

稲木「川鵜を獲ってその肉をお裾分けしてやった」フフン

提督「あく、だから昨日急に午後出掛けたのか」

稲木「ああ。しかし『ありがとう』と言われただけだったな」

提督「まあ鵜来たそならそうだろうなあ」ニガワライ

稲木「私の自己満足だからいい。ほら、剥けたぞ。口を開けろ」

提督「ありがとう……あく」

稲木「ふふ、相変わらず素直だな、提督は……ほら♡」
シヤリツ

稲木「どうだ、お味の方は？」

提督「もぐもぐもぐもぐ、ごつくん……みずみずしくて美味しいよ」

稲木「ソフトボールサイズだから食べごたえも十分だしな……あむ」シヤクシヤク

提督「あ、俺も食べさせたいのに」

稲木「む、そうか？ ではお言葉に甘えて……あく」

提督「ほい」つ梨

稲木「シヤクツ……ふふつ、甘くて最高だな♡」

提督「梨特有の甘さがいいよな」

稲木「ああ♡」

（食べさせてもらったことの方がより甘さを増してくれたと思う

けどな♡)

くその後も仲良く梨を食べさせ合い、後片付けを済ませてのんびりすることにく

◇縁側◇

提督「んく、週休二日制になりたい」

稲木「そうなるのはまだまだ先だろうな。戦いが終わらない限り」

提督「だよなあ。まあいざ休みになっても、特にやりたいこともないんだけどな」

稲木「趣味を見つけるのもいいんじゃないか？」

提督「既に稲木を愛するのが趣味みたいなもんだしなあ……」ナゲナゲ

く提督はそう言つて奥様を膝上に抱え、頭を優しく撫で始めるく

稲木「そういうのはいい……くくくく」

提督「俺の唯一の趣味を奪う気か？」

稲木「私の心臓が保たない。提督は知らないだろうが、今頭を撫でられているだけでも胸の鼓動が戦闘している時より早くなっているんだからな？くくくく」

提督「俺のことが好きーって？」

稲木「うるさいくくくく」

提督「相変わらず可愛いな、稲木は」

稲木「むう……可愛いと言えば何でも許されると思っているな？」

提督「まさかく」ニコニコ

稲木「見え透いた嘘を吐くな」

提督「可愛いのは事実」ナゲナゲ

稲木「全く、仕方のない提督だな……♡」

(そして喜んでいる私も仕方のない妻だ♡)

こうして夫婦はその後ものんびりと愛を育んだ――。

稲木 完

日振とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇本館内・廊下◇

提督「今日の編成は……」

日振「ふむふむ……」メモメモ

く夫婦、編成を確認しながら執務室へく

「……クウく！♡」

提督「ん？」フリカエリ

日振「？」フリカエリ

金剛「テイトクく！♡ 今日も会えてソーハツピーネく！♡」ノシ

金剛「バーニング……ラアアアブ！♡」ピヨーン

ドッシーン！

く金剛のラブ（物理）が炸裂く

提督「いつてて……おはよう、金剛」ズキズキ

金剛「グツモーニン！♡ 提督は今日もいいニオイネく！」クンカ

クンカ

提督「ちよ、くすぐつてー」

日振「金剛さん、何してるんですか！」ポコポコ

く日振、必死に提督を助けようと援護く

金剛「オウ、ブリブリ！ グツモーニン！ ワタシは見ての通り、テ

イトク成分を充電中ネ！」キリッ

日振「いい顔して何言ってるんですか！」 提督は日振の旦那様な

んですよく！ そんなにくつついちゃダメなんですく！」ペチペチ

金剛「これくらい勘弁してくださいヨく。ブリブリばかりテイト

クを独り占めなんてズルいネく」ブーブー

日振「むうく！」ポンポン

提督「……」ニガワライ

比叡「あ、お姉さまく、何してるんですか！」

榛名「演習に遅れちゃいますよく！」

霧島「しつかりしてください。今日はお姉さまが旗艦なんですから……」ヤレヤレ

金剛「ンッフ、テイトク成分も充電しマシタシ、演習は勝利間違いなツシング！♡」

日振「早く退いてください」シツシツ

提督「き、気をつけてな」

金剛「ハイ、行ってくるネ〜！♡」ホツペチュツ

日振「(#。皿。)」

く金剛は嵐のように去っていった

提督「相変わらずだなあ、金剛は……」アハハ

日振「提督、ハンカチで拭きますから、そのままいでてください」
フキフキフキフキ

提督「い、痛い……というか摩擦であっつい！」

日振「あ、ごめんなさい！」

く日振は提督の頬に顔を近づけると

日振「ペロツ……どうれふか……いひやくない、れふか？♡」ペロ

ペロ

提督「ああ、もう大丈夫。ありがとな」ナデナデ

日振「はい♡」ニパー

くこうして夫婦は執務に取り掛かった

◇食堂◇

提督「午後からの演習の編成は……」

日振「ふむふむ……」メモメモ

く夫婦、編成を確認しながら昼食

鹿島「提督さん、香取姉が遠征で留守なので一緒に一緒にしてもいいですか？」ニコニコ

提督「ああ、どうぞ」ニコツ

日振「……」ムツス

く鹿島、提督のすぐ隣に寄って座る

提督「さ、流石に近過ぎない？」

鹿島「そうですか？ 香取姉とはいつもこのくらいですけど……」
提督「そ、そうなんだ……」

日振「(#。皿。)」グヌヌ

鹿島「あ、提督さん、ご飯粒がついてますよ?」

提督「え?」

ヒョイ……ぱくっ

提督「か、鹿島……／＼／＼」

鹿島「えへへ、今度はお弁当持参で鹿島と遠洋航海練習に行きませ
んか?」ニコニコ

提督「い、いやー」

日振「ダメに決まってるじゃないですかあ!」ガタツ

日振「もうもう! 提督は日振の旦那様なんですよ!? どうして日
振の目の前でそんなことを堂々と!」

鹿島「あらあら? たまには貸してくれたっていいでしょう?」

日振「ダメに決まっています! そもそも貸すとか借りるとか、提督
を物のように言わないでください!」プンプン

鹿島「提督さんを愛してるのね」クスクス

日振「愛しています! とっても! いっぱい!」

提督「……／＼／＼」テレリ

鹿島「じゃあ、キス……してみせてくれる?」

日振「え」

鹿島「証拠を見せてほしいな」

提督「お、おい、鹿島……」

日振「や、やりましゅ!／＼／＼」

く日振、提督の唇を奪う

提督「んんっ!／＼／＼」

日振「てい、ときゅ……んっ……らいしゅきれふ……はむっ、ちゅっ
♡」

／ラブラブチュツチュツ

鹿島「ふふふ♪」

(一生懸命で二人共可愛い) ホホエマー

くこんな感じに夫婦の試練は仕事が終わるまで続いたく

その日の夜――

◇夫婦の部屋（本館内）◇

日振「もう……みんなして日振の提督にベタベタして……許せないです」ムツスー

提督「よしよし……」ナデナデ

く夫婦は向かい合って抱き合うように座っているく

日振「……そもそも、提督ももつと拒否してくださいよう。日振の旦那様だという自覚を持ってください」メツ

提督「いやあ、みんな仲間だしさく、慕ってくれるのは嬉しいから、強くは言えないだよね」

（そもそもみんなからかつてるって分かるし……）

日振「むうく……日振は提督のお嫁さんなんです。確かに見た目は子どもですけど、ちゃんと正式に指輪も頂いたのに」アタマグリグリ

提督「俺は日振一筋だよ。みんなは仲間だと思ってるけど、日振のことは自慢の奥さんだと思ってる」ナデナデ

日振「本当ですか？」ウワメツカイ

提督「勿論」ニコツ

提督「それに……」スツ

く提督、優しく日振の唇を奪うく

日振「んむう……てい、っ……ときゅ……あ……っ♡」

提督「……っはあ……こんなこと、日振にしかないよ」ニコニコ

日振「提督……えへへ、そうですね♡」ニパー

提督「明日も色々あるだろうけど、一緒に頑張ろうな」ナデナデ

日振「はい♡ 旦那様のために日振、もつともつと頑張ります！♡」

こうして夫婦はより絆を深めたが、次の日も日振は提督をLOVE勢から護ることに奮闘するのだった――。

日振 完

大東とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

埠頭ー

大東「んくつ、やっと今日の任務も終わったぜく！」ノビー
く今日の哨戒任務終了く

日振「そうだね。今日も何も無くて良かった」ホツ

佐渡「平和過ぎてボケちまいそうだったぜく」

択捉「不謹慎なことと言わないの。艦隊の皆さんが帰ってこれるこの
鎮守府を守るのが、私たち海防艦の任務なんだから」

佐渡「へいへい……」

択捉「くくく」グヌヌ

日振「まあまあ、択捉ちゃん」ドオドオ

大東「姉妹喧嘩してないで、早く執務室行こうぜ！ あたいの旦那
が待つてんだからさ！」

佐渡「相変わらずラブラブだなあ。見てるだけで火傷しちまうぜ」
ヤレヤレ

択捉「仲良しなのはいいことじゃない。そんなこと言わないの」ペ
チン

佐渡「あたっ」

日振「あはは……」ニガワライ

大東「おおい、みんなく！ 早く早くく！」ノシ

三人『はくい（おく）！』ノシ

くみんなは艀装解除後、補給してから執務室へく

◇執務室◇

ガチャーー

大東「提督く！♡ ただいまく！♡」ワハー

日振「失礼します」ペコリ

択捉「失礼します！」ケイレイ

佐渡「たっだいま〜！」ノシ

提督「ああ、みんなおかえり、任務お疲れ様。そろそろ戻る頃だろうと思つて、ココアを用意しておいたんだ。よかつたらどうだい？」ニコツ

日振「わあ、ありがとうございます、提督」ニコツ

択捉「いただきます」ニコツ

佐渡「気が利くなあ〜！」ニシシ

大東「そりや、あたいの旦那だからな！」エツヘン

〜みんなしてソファアテーブルへ〜

佐渡「相変わらず執務室のソファアつて無駄にふかふかだな〜」バ
フバフ

択捉「埃が舞うから止めなさい」メツ

日振「確か、ベッドにもなるんですよね、これ？」

提督「うん。仕事が多い時なんかは部屋に戻る時間も惜しいから、家具妖精さんに頼んで作ってもらったんだ」

〜提督、みんなの前にココアの入ったマグカップを置いていく〜

大東「仮眠する時とかにも使ってるんだぜ！それに球磨さんとか多摩さんとかもたまに昼寝しに来るくらいだし♪」

提督「あとは加古とか川内とかね」ストン

〜提督、やつと座る〜

大東「よっこいしょつと♡」チョココン

〜大東、すかさず提督の膝の上へ〜

日振「あ、大東！」

提督「大丈夫大丈夫。今は仕事中心じゃないからね」ニコツ

日振「提督がそう仰るなら……」

大東「へへ〜ん♡」スリスリ

提督「あはは」ナデナデ

佐渡「相変わらず堂々としてんな〜」ニガワライ

択捉「でもこうしてないと大東ちゃんらしく……いや、夫婦らしくないからね」フフツ

日振「日振としてはもう少し人目を気にしてほしいです」ハア

大東「だつてこうしてないと、提督を他の人に盗られちゃうかもしんねえだろ？ あたいのだつてアピールしとかないとな！♡」へへ

提督「そんなことしなくても僕は太東一筋だよ」ナゲナゲ

大東「あつたり前だろ！♡」スリスリ

佐渡「じゃあさ、もし司令が浮気したら？」

択捉「佐渡っ！」

佐渡「もしもの話じゃんか」

択捉「だからつてそんな質問しちゃダメでしょ!？」

大東「ん、浮気か……」チラツ

提督「？」ニコツ

大東「別に浮気されたらされたであたいは気にしないな」

三人『え』

大東「浮気してもちゃんとあたいのことも好きでいてくれればあたいは気にしないし、そもそも提督つて嘘下手だからな」ニコツ

提督「いやあ、あはは」ハニカミ

日振「そ、そうなんだ……」

(それだけ提督のことを信賴してるんだらうなあ)

択捉「な、なるほど……」

(司令のことがそれだけ好きなんだなあ、大東ちゃん)

佐渡「へえ……」

(司令の奥さんになると、そういう余裕も自然と出てくのかね)

「そんなこんなでみんなしてお茶して、まつたりした」

「—————」

そしてその日の夜——

大東「なあ、提督」

提督「ん？ どうした？」カキカキ

「夫婦、今日も遅くまで仕事中」

「大東は提督の膝の上(定位置)」

大東「もし浮気すんなら、あたいにバレないようにしろよな？ あの時はお気にしないなんて見栄張っちゃったけど、やっぱそういうのさ

れると悲しいからさ……」ニガワライ

提督「大丈夫、そんなことしないから。僕は大東をずっと愛してるよ」ニコッ

大東「っ!?!」ドキッ

提督「？」ニコニコ

大東「な、なんでもない♡／／／」へへ

提督「そっか」ナデナデ

「その後も仕事を進め、今日の仕事を終えた」

提督「終わった」ノビー

大東「お疲れ、今日はここで寝るんだろ？ もうソファもベッド

にしといたし、掛け布団も用意したからな」ニコッ

提督「ありがとう。じゃあ、一緒にシャワー浴びてこよう」

大東「その前にさ……ちよつと休憩しね？ 仕事終わったばっかだしさ♡」

「大東、ベッドに寝転び、自身の隣を軽く叩く」

提督「じゃ、そうするか」スツ

「提督、大東の隣に寝転ぶ」

大東「へへ、捕まえた♡」ギューッ

提督「捕まった♡」ギューッ

大東「提督、提督♡」

提督「はいはい？」

大東「あたいのこと好き？♡」

提督「うん、好き」

大東「大好きか？♡」

提督「大好きだよ」

大東「愛してる？♡」

提督「愛してる」

大東「へへ……えへへ♡」デレデレ

「大東、提督にのしかかる」

大東「ずっとこうして、二人で愛し合って過ごそうな♡ あたかも

提督のことを愛してるから！♡」ニパー

提督「ありがとう。ずっと二人で幸せに過ごそう」ギューッ
こうして夫婦は好きだけイチヤイチヤし、気がつけば仲良く眠り
に就いていたというー。

大東 完

昭南とケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇長官官舎◇

提督「……………」ニガワライ

昭南「……………」ギューツ

「昭南、提督から離れる素振りがない」

提督「そんなに怖かったのか？」

昭南「……………」はい

提督「断れば良かったのに……………」ナデナデ

昭南「だって……………」

提督「まあ、姉妹揃つての休暇は久々だからな。断るのも難しいよな」

昭南「……………」はい

「昭南は本日、日振や大東と共に街へ遊びに行き、映画館に入ったものの、大東にホラー映画にしようと言われて見てきたのだ」

提督「日振は止めなかったのか？」

昭南「日振姉さんはゾンビ映画は特に怖くないみたいで……………」

提督「言い出しっぺの大東は？」

昭南「開始5分で寝てました」

提督「……………」昭南は全部見ちゃったのか」

昭南「だって……………」お金払ったのに見ないとか、勿体なくて……………」

提督「まあ、そうだよな」

昭南「あ、でも、ホットドッグ美味しかった。ソーセージにケチャツプとマスタードだけじゃなくて、ツナマヨとかコーンマヨとかが掛かってて美味しかったの」

提督「へえ……………」それは美味そうだな」

(良かった。少し気が紛れたっぽい)

昭南「でも、主人公の恋人がホットドッグ食べてたら、ゾンビに襲われて……………」

提督「どういう状況？　ねえ、それどういう状況？　ホットドッグ食べてたらゾンビに襲われるって。寧ろその恋人おかしいだろ。なんで襲われるかもしれない状況下でホットドッグ食えるの？　神経凶太過ぎない？」

昭南「そういえばそうですね……どうしてあんなに怖かったんだろ
う」ウーン

提督「きつと、雰囲気呑まれてたのかもな」

昭南「そうみたい……ふふっ、提督に言われてやっと怖くなくなつたかも」ニコニコ

提督「なんか逆に見たくなってきたぞ、それ」

昭南「今度一緒に行く？」

提督「休み取れればな。その前にレンタルかネットで見れるようになつてるかも」

昭南「そうなつたらここで見よ？　提督が隣にいてくれるなら怖くないかも」

提督「ホットドッグはないけどな」

昭南「むう、ホットドッグの話はもういいの」

提督「はは、ごめんごめん」ナデナデ

昭南「もつと撫でてくれなきや許してあげないんだから」

提督「ちゃんと眠くなるまで撫でさせて頂きますよ」

昭南「うん♡」

◇寝室◇

提督「……………」ニガワライ

昭南「……………」ギューツ

昭南、再びひつつき虫に

提督「本当に申し訳ないと思っている」

昭南「提督のバカ」

提督「そうだな。俺はバカだ」

昭南「ゾンビが入って来たのかと思った」

提督「日本にゾンビはいないだろ。敵襲ならあり得るけども」

昭南「バカ」

提督「はい、ごめんなさい」

く落ち着いた昭南がトイレに行ったあと、提督は寝る準備のために洗面台へ向かった。そこでプラスチック製のコップを落とし、それを拾おうとした拍子にシェービングクリームの缶やら何やら色々と落とし、その物音で怖くなった昭南がすっ飛んできたのであるく

昭南「どうして誰も見てないのに一人コントしてたの？」ジトー

提督「いや、不可抗力で……」

昭南「怖かった」

提督「本当に申し訳ないと思っている」

昭南「手が止まってる」

提督「はい」ナデナデ

昭南「ちゆうも」

提督「はい」チュツチュツ

昭南「んっ♡ ちよつと怖くなくなってきた♡」

提督「良かったです」

昭南「もう一人コントしないでね」

提督「したくてした訳ではごさいませぬ」

昭南「提督って普段格好いいのに、おつちよこちよいなところあるよね。抜けてるっていうか」

提督「えへへ……」

昭南「褒めてない」

提督「はい」

昭南「朝まで抱つこの刑ね」

提督「寧ろご褒美です」ギューツ

昭南「んっ……くるしゅうない、なんて♡」

提督「嫁が可愛い」

昭南「提督はおバカさん♪」

提督「もうなんとでも言ってくれ」

昭南「そうする♡ バーカバーカ♡」

提督「今流行のメスガキってやつ？」

昭南「？ 知らない。提督こういうの趣味なの？」

提督「いや全く。昭南だから許せるってだけ」

昭南「今度秋雲さんに聞いてこようかな」

提督「それはいくない」

昭南「じゃあ止めとく。それより」

提督「ん？」

昭南「お腹に硬いの当たってる……／＼／＼／＼」

提督「……だめか？」

昭南「……えつち♡／＼／＼」

提督「愛故だな」

昭南「バカ……♡／＼／＼」

それからめちやくちやry——。

昭南 完

第四号海防艦とケツコンしました。

某鎮守府、昼―

◇鎮守府内・中庭◇

択捉「よつさん、どうしたんですか？」

占守「さあ、こればかりは占守にも分からないっしゆねえ」

御蔵「いわゆる『ツツコミ待ち』というものでしょうか？」

日振「なのかなあ？」

「何故択捉たちが困惑しているのかというところ」

よつ「うーん、このワンピース子どもっぽくないかなあ？」

よつ「でもでも、ていとくがよつに似合うからって買ってくれたのに着ないのもなあ」

「先程から奥様よつが中庭で服を眺めながら、うろろうろしているから」

占守「よつちゃん、何してるんですか？」クビカシゲ

よつ「あ、みんな！ お疲れ様！ あのね、このワンピースどう思う？ ていとくから貰ったんだけど……」

「よつはみんなにワンピースを見せる」

占守「しむしゆしゆ？ 可愛いピンクのワンピースとしか……」

択捉「いいですね。私個人としては好きなデザインです」

御蔵「丈も短過ぎないですし、心配するとすれば下着が透けて見え
ないか、ぐらいですね」

日振「セーラー襟が可愛くていいですね！ 襟のふちに白いライン
が引いてあるのも可愛いです！」

よつ「そ、そう？ ほらでも、ちよつとお子様向けっぽく見え
ない？」

占守「そうでしゆかね……変に大人びたデザインのも合う合
わないがありますし、これでいいのでは？」

択捉「無難でいいと思いますけど」

御蔵「そもそも御蔵たち海防艦は普通の子どもと同等な見た目をし

ていますからね。なのに大人びた物を身につけるのはアンバランスかと」

日振「提督がよつさんに着てほしくて贈られたんですから、素直に喜べばいいと思いますよ」

よつ「た、確かにその通りなんだけどお……ほら、よつはていとおの嫁さんな訳で、そんなお嫁さんがお子様だったらていとも恥ずかしいでしょ？」

占守「ん……言いたいことは分かりますが……」

択捉「大変理解出来ませんが……」

御蔵「そもそも私たち海防艦へケツコンカツコカリの指輪を贈る時点で、周りからはそう見られていますからね」

日振「ていとおはそんなの気にしないからよつさんに指輪を贈ったんだと思いますよ？」

よつ「そ、そうかなあ？／＼／＼」テレリテレリ

「言われて嬉しくなって照れる奥様」

占守「まあ司令は□リコンさんでしゅからね」

択捉「上手くカモフラージュしてますが、本棚にはそれ系の薄い本がわんさかありますしね」

御蔵「でも不思議なことにその対象はよつさんだけですからね」

日振「それだけよつさんに提督はメロメロってことだね！」アセアセ

よつ「にへへえ、そっかそっかあ、じゃあこのままのよつでていとおは満足なんだあ、そっか♡」ニヨニヨ

「奥様は上機嫌になってワンピースを抱きしめて、その場でクルクルと回り出す」

占守「ちっ、とんだ茶番でしゅね」

択捉「まあまあ占守さん……イラツとするのは分かりますが落ち着いて」ドオドオ

御蔵「自覚のない迷惑なバカッポーですからね」

日振「ほ、ほらよつさん！ 提督がお待ちかねなのでは!? それを着て喜ばせてあげてください！」

よつ「うん、そうする！ みんなありがとう！ それじゃあね〜！」
ノシ

「こうして奥様は去って行く」

占守「はあ、お昼ご飯食べたのに辛い物が食べたくなくなってきました」
御蔵「私もです。からし蓮根辺りが欲しいですね。それと濃過ぎる
くらいの渋いお茶」

択捉「寮へ戻る前に食堂で感覚をリセットしますか」

日振「あ、じゃあ日振は先に明石さんのところでおやつ買って寮に
戻ってますね」

占・択・御『お願いします』

◇執務室◇

提督「いやあ、可愛いなあ。まるで天使じゃんか」

よつ「えへへえ、そう？♡」クルンクルン

「奥様、ワンピース姿をお披露目中」

よつ「でもていとく、こんな子どもっぽいよつでいいの？」

提督「まだ気にしてるのか？」

よつ「だって……」

提督「確かに周りからはいい風には見られないだろう。でも愛した
相手がよつだった。それだけのことさ」

よつ「ていとく……」トウンク

提督「周りなんかどうだっていい。よつとこうして結ばれたこと
が、俺は幸せで仕方がない。いいじゃないか、よつも俺のことを愛し
てて、俺もよつのことを愛してるんだから。お互いが愛し合ってるな
ら何も問題無いだろ？ 現に艦娘になら誰にだって指輪渡していい
んだし」

よつ「うんっ！」

「よつ、提督の胸にダイブ」

提督「よつは軽いな」

よつ「まあね！ だから抱っこしやすいでしょ？」フフン

提督「確かに」

よつ「でもだからって抱っこしたまま移動しちゃダメだよ？ 恥ず

かしいもん」

提督「見せつけたいんだけどなあ」

よつ「だあめ……こういうのは二人きりの時にするからドキドキするし、気持ちいいのお♡」スリスリ

提督「クソかわいいなちくしよー」

よつ「ていとくが可愛くしてくれてるんだよ」ニパア

提督「ああ、よつの笑顔に後光が差して見える」

よつ「あはは、大袈裟だなあていとくは」

よつ「ねえ……ていとく」

提督「ん？」

よつ「こんな子どもっぽいよつを愛してくれて、ありがと♡」ホツペチュツ

提督「違うだろ？」

よつ「え？」

提督「キスつてのはー」

く提督、奥様の唇を奪うく

よつ「あ……んっ、ちゅっ……んっ♡」

提督「ーこうするもんだろ？」ホツペナデナデ

よつ「うん……えへへ♡」ゴロゴロ

提督「変に気にすることなく、ずっと俺の側にいてくれよ」

よつ「はくいつ♡」

次の日ー

よつ「ていとく、手え繋ごっ！」

提督「おう」

よつ「あ、でも今日は腕組みの方がいいかなあ？」

提督「お好きにどうぞ」ニコツ

よつ「んく、じゃあ今は手を繋いで、帰りは腕組もっ！♡」

提督「ああ、いいとも」

よつ「にへへえ、ていとくだあいすきっ！♡」

提督「俺もよつが大好きだよ」

く夫婦はよりラブラブになつたく

占守「工廠行くだけであれっしゆか……」ウツプ

択捉「仲は睦まじいですね」ニガワライ

御蔵「あれで遠慮してるらしいですけどね」

日振「それだけ仲良しってことだよ！」

夫婦がより愛を深めた一方で、艦隊のみんなはそのシユガーテロの脅威により晒されることになったそうなのー。

第四号海防艦 完

第二十二号海防艦とケツコンしました。

某鎮守府、朝――

◇本館内・廊下◇

提督「今日ものどかでいい一日になりそうだねえ」

ふーふ「この大量の書類から目を背けてはいけない……」

く夫婦、大淀から書類を受け取り執務室へ移動中く

提督「いいじゃないか、ちよつとした現実逃避くらい」

ふーふ「したところで書類は減らないんだからね？」

提督「出世なんてするもんじゃないな」

ふーふ「この前まで早く出世したいって言ってた……」

提督「出世すれば楽になれると思ってた時期が僕にもありました」

ふーふ「敢えて言わせてもらっていい？」

提督「嫌だ」キリッ

ふーふ「人生そう甘くないんだよ？」ペチペチ

く奥様は提督の背中を叩きながら言うく

提督「だから嫌って言ったのに……」ブーブー

ふーふ「私、甘やかさない主義なんで」

提督「……さいですか……」ニガワライ

そして、忙しい一日が過ぎた夜――

◇執務室◇

提督「あゝ、やっと終わったぞく」

く本日の執務を終え、提督はソファーに倒れ込むく

ふーふ「ほらほら、終わったなら早く戸締まりして部屋に戻るよ

！

提督「少しくらい休暇させてくれても……」

ふーふ「だーめ！　そもそも制服のままソファーに寝そべらない！

シワになっちゃうじゃん！　そのシワを直すの誰だと思ってるの

!?

提督「……起きます」

ふーふ「よろしい」

提督「すっかり俺は奥さんの尻に敷かれてしまっているな」

ふーふ「そんなの今更だね」

提督「それじゃ、戸締まりして戻るか」

く戸締まりをしつかりし、夫婦は自室へ戻ったく

◇本館内・夫婦の部屋◇

提督「戻ったぞく……」

ふーふ「提督、帽子と制服の上着」

提督「ほい」つ帽子&上着

ふーふ「手袋はネットに入れて洗濯機に」

提督「ほいほい」

ふーふ「Yシャツは明日妖精さんのところに持っていくから洗濯籠に」

提督「ほいほいのほい」

ふーふ「スボン」

提督「ほいほいのほいほい」つスボン

く提督は言われるがままく

ふーふ「着流しは一番右にあるやつからで」

提督「ん」

ふーふ「後ろ向いてー」

提督「んー」

く身長差があるのでお立ち台に奥様は乗って乱れを直し、帯も締め
てくれるく

提督「……」

（私生活だどめっちゃめっちゃに甘やかしてくれる俺の奥さんぐう
聖）

ふーふ「よし、完璧！」

提督「ありがとう」

ふーふ「いえいえ。それじゃあ、んっ」

くそう言つて提督に頬を差し出すように向ける奥様く

提督「いつも感謝してるよ……ちゅっ」

ふーふ「えへへ、はい♡」ニコッ

くその後は第二十二号海防艦も着流しに着替えて晩御飯の準備に取り掛かるく

◇室内に設置した簡易厨房前◇

提督「今日の晩飯は何？」

ふーふ「ヤバい程美味しい唐揚げ♪」

提督「なん、だと……!？」

ふーふ「今日頑張ったから、今朝仕込んでおいたんだー♪ どう？ いい奥さんでしょ？ もっと好きになったでしょ？」

提督「ふーふ、俺とケツコンしてくれ」

ふーふ「えー、どうしよっかなー♪」

く小悪魔のようにわざと焦らす奥様く

提督「……お前の唐揚げを毎日食べさせてくれ」

ふーふ「流石にそれは健康的じゃないから却下」ニコニコ

提督「酷い……」

ふーふ「私の手料理なら毎日食べさせてあげるけどー？」ニッコリ

提督「私は永遠の愛を誓います」

ふーふ「私も誓いまーす♡」

提督「唐揚げはよ」

ふーふ「はいはい♡」

く提督に見守られつつ、奥様は唐揚げを手際よく作っていったく

ふーふ「はい、手を合わせて！」

提督「……」人

ふーふ「いただきます！」

提督「いただきます！」人

く提督は早速奥様お手製の唐揚げに箸を伸ばすく

提督「っ」サクッ

くしっかりと味付けされたサクサクの衣の中からジュワツと溢れ出す肉汁く

提督「おっほー！」

ふーふ「♪」ニコニコ

く柔らかい鶏肉に塩麴の味がしつかり染み込み、無限に米を食べたくなる欲求が押し寄せるく

提督「ああ、マジ最&高っ！ これ一個で丼飯軽くいける！」

ふーふ「おかわりあるからよく噛んで食べてよねー♪」

提督「おかわりー！」

ふーふ「ふふふ、はい♡」

(作り甲斐があるなー♡)

くこうして幸せいっぱい食卓を囲んだ夫婦であつたく

そして――

ふーふ「ふへ、ふへへ♡」

提督「よしよし」ナデナデ

く後片付けも湯浴みも終え、布団を敷いた部屋で夫婦は向かい合つて抱き合うように座っているく

ふーふ「いっぱい食べてくれてありがとね♡」

提督「こちらこそありがとう。本当に毎日でもあの唐揚げ食いたい」

ふーふ「それはダメ……揚げ物ばかりだと体に毒っていつも言ってるよね？」

提督「まあそれは分かってるんだけど、あれはそれぐらい美味しいからなあ」

ふーふ「まあ、そう言われると悪い気はしないけどさあ♡」

提督「はは、だろ？」

提督「もし退役したら……」

ふーふ「退役したら？」

提督「二人で唐揚げ専門店でもやるか」

ふーふ「えー、退役しても働かせる気ー？」

提督「いやあ、俺だけ堪能するのももったいないかと……」

ふーふ「提督のためだけに作ってるんだからいいじゃんか」

提督「そう言われると……」

ふーふ「この世界で提督だけが味わえるんだぞ？ ヤバいだろ？」

提督「……ヤバい」

ふーふ「あはは、じゃあそういうことで！♡」
提督「ああ、そうだな」
退役後、夫婦の子どもが唐揚げ専門店を出店したとか――。

第二十二号海防艦 完

第三〇海防艦とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

みと「はあ……」

〽奥様は憂鬱〽

よつ「どうしたの、みと?」

〽よつはみとの補佐。今は提督は演習艦隊を率いて他鎮守府へ行っているため二人でお留守番〽

みと「聞いてくれる、お姉ちゃん?」

よつ「姉妹なんだもん、遠慮しないで!」

みと「ありがとう……あのね」

よつ「うんうん」

〽みとはこの間のことをよつに正直に打ち明けた〽

みと「どうかな?」

よつ「提督の本棚にえっちな本があった。しかもそこに写ってたのはセクシーな大人の女性だった……男の人なら普通じゃない?」

みと「うん、それはいいの。旦那様だって男性だもの」

よつ「セクシーな女性が写ってたのが気掛かりなのね?」

みと「うん……私、ケツコンしてから一度も、旦那様とそういうことしたことないから、魅力ないのかなって」

よつ「んん、単に没収したやつを本棚に仕舞っておいただけなんじゃないの? それとそういうことしないのは、提督が誠実だからだよ。だってみとのことすっごく大事にしてて、見ててくっそも力つくもん」

みと「そ、そう?」

よつ「うん。だって常に抱っこして移動するとかありえないでしょ」

みと「私は嬉しいけど……♡」テレリ

よつ「あなたも末期ね。傍から見るとくっそ甘くて胸焼けする」

みと「なら、そんなに悩まなくてもいいのかな?」

よつ「いいと思うよ? こんなの見つけたけどって言えば提督も思
い出して処分するなり、持ち主に返して注意するなりするんじゃない
?」

みと「んん……分かった。今夜訊いてみるね。ありがとう、お姉
ちゃん」

よつ「どういたしまして……」

(提督は□リコンだから、あの本に載ってるようなので興奮しな
いはずなんだよね。カモフラ用なのかな?)

くこうしてみとはいつもの調子に戻り、お留守番を完遂するのだっ
た

その日の夜――

◇長官官舎◇

みと「このえっちな本は旦那様ので間違いないでしょうか?」

提督「………はい」

みと「どうして……」ワナワナ

くシヨツクを隠せないみとく

提督「えっと、その……俺も男なので……少々辛いと言いますか
……」

みと「みとでは役不足ということ、ですよ?」

提督「違っ……そういうことでは……!」

みと「言い訳しないでください! みとをもっと惨めにさせる気で
すか!」

提督「………すまない」

みと「謝罪は求めています。みとが旦那様の好みでないのはどう
しようもありませんから」

提督「だからそれは――」

みと「フォローしてくれなくてもいいです」

提督「な、なあ、俺の話聞いて?」

みと「なんででしょうか?」

提督「俺が艦娘のみんなからなんて呼ばれてるか知ってる？」

みと「□リコン野郎、幼女好き、ですね。泊地でも□リコンの水雷屋として名を馳せています」

提督「えっ、それは初耳なんだが？」

みと「皆さん、旦那様には聞こえないように言ってますからね。みとは艦娘なのであれくらいひそひそ話は聞こえます」

提督「だから同期の奴らがこんな送ってくるのか……」

提督「どこか納得したようにちやぶ台に置かれた本に目をやる」
みと「え？」キョトン

提督「だから俺の話を聞いてって言ったろ？ これは俺のだけど、俺が買ったやつじゃなくて、同期の奴らに送りつけられたものだ」

みと「だって……」

提督「自分で言うのもアレだが、俺はこの本に載ってるような女性には興奮しない。そもそもみとがいるのに、他の女性に見移りするなんてありえないんだ」

みと「旦那様……♡」トウソク

提督「誤解させてごめんな。でも本当のことなんだ。俺はみとを愛してるし、最近はみとのことを考えてないと俺の子提督も高射角準備に入らないし、一斉射もしない。みとを抱っこして寝てると、つい寝ているみとの頬をペロペロしたくなるし、息も荒くなるし、下手をすると朝になったら子提督が勝手に誤射してることもよくある」

みと「……♡」ガバツ

提督「みと、提督の胸にダイブ」

提督「ふおおおおつ!? マイスイートエンジェルぷにロリみとが俺の胸の中に！ ダメツ！ ハートキャッチされちゃう！ あ、もうされてた！ 分からされちゃうっ！ 俺がみとのこと大好き過ぎるって分からされちゃうっ！」

みと「♡」スリスリ

提督「言動はとも気持ち悪いが、みとはご満悦」

みと「我慢しなくてもいいんですよ？♡」

提督「みと……」

みと「みとは旦那様のお嫁さんですから、なんでもします♡ 旦那様が望むこと全部♡ ただ、その、お胸でするのは難しいと思いますか……」

提督「……………いいの？」

みと「は、はい……初めてなので分からないことだらけですが、旦那様が教えてくれれば、なんでも♡」

提督「じゃ、じゃあ、早速いいかな？」

みと「はい！♡」

提督「……………大人なキスしてもいい？」

みと「へ？」

提督「あ、やっぱダメ？」

みと「い、いえ、そんなことでいいんですか？ もつとこう、凄いのが来るかと思ひまして……」

提督「えっちなちゆうするのって凄いいことじゃない？」

みと「そ、そうかも？」

提督「えつと……それで、いいかな？」

みと「は、はい……んっ♡」

くみと、唇を突き出してその時を待つ

提督（かわええ……永遠と見られられるな。このまま餓死しても悔いはない）

みと「あの……まだ……ですか？♡」

提督「あ、ごめん……じゃあ」ホッペナデナデ

みと「はい……んんっ♡」ゴロゴロ

提督「くっそかわええ！」ナデナデナデナデ

みと「んゅ♡ くすぐったいです♡」

く結局、二人はキスせず、このままイチャイチャと触れ合うだけで気が付いたら朝になっていた

よつ「おはようございます！ 本日も補佐として頑張りますっ！」

提督「おう」ゲツソリツヤツヤ

みと「おはよう、お姉ちゃん♪」ニコニコツヤツヤ

よつ「……………昨晚はお楽しみでした？」ニコツ

みと「あ、あれ？ どうして分かっちゃったの？♡」

提督「最高の一晩だった……」

よつ「ほうほう。で、何をされたんで？」ニヤニヤ

提督「ずっとほっぺむにむにしてた」

みと「ずっとほっぺむにむにされました♡」ポツ

よつ「……………は？」

夫婦『えへへ……………♪』ラブラブ

よつ「さっさと合体しちまえー！」

後日、やつと提督は嫁の近代化改修（意味深）に踏み切ったそう――。

第三〇号海防艦 完

潜水艦

伊168とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&伊168部屋◇

伊168「司令官く、デート行くー♡ 今日には鎮守府全体的にお休みなんだしく♡」スリスリ

提督「行くのはいいけど、これじゃ行けないよ……／＼／＼」

く提督、伊168にのしかかられ中く

伊168「今日はせっつかくお休みなんだもん♡ こうしてたっついてい
いでしょ?♡」ノシッ

提督「いいけど、準備出来ないよ……／＼／＼」

伊168「もおく、しょうがないなあ。じゃあ後十分だけこうさせ
て♡」ヒシッ

提督「／＼／＼」ニガワライ

く準備をしてデートへ!く

提督E・黒のダツフルコート

USED加工デニム

伊168E・黒のダツフルコート（提督とお揃い）

USED加工デニム（提督とお揃い）

◇雑貨店◇

伊168「あ、この小物入れ可愛い♪ 司令官、お揃いで買おうよ♡」

提督「前にもお揃いで買わなかった?」

伊168「うくん……あ、じゃあ、このボールペンは?」

提督「まあ、ボールペンなら……」

伊168「やった♡」ウデダキツキ

提督「じゃあ、青のやつにするかな」ヒョイ

伊168 「私も同じのにする♡」

提督 「ん、了解」ヒョイ

伊168 「えへへ♡」ニコニコ

◇海外輸入品雑貨店◇

提督 「へえ、やつぱり日本とはデザインが全然違うね」キョロ
キョロ

伊168 「そうね。どれも見たことないやつぱっかりだわ……」
キョロキョロ

店員 「いらつしやいませ」カップルのお客様には、こちらの目
覚まし時計なんかオススメですよ！ 声を録音出来ちゃうんで、彼氏
彼女の声で目覚ましが鳴るんです」

提督 「いや、そういうなー」

伊168 「私達は夫婦なんで、夫婦で使える物がいいです」

提督 「!？」

店員 「あ、ご夫婦でいらしたんですか!? お若いのに羨ましいです
」

伊168 「えへへ♡ 旦那に熱烈なアピールされちゃいました」
♡「デレデレ

店員 「わお♪ では熱々のお二人にぴったりなものがありますよ
」

伊168 「ホントですか？ 見せてください」

店員 「はいはい」ではこちらの商品なんですけどー」

／ワーカワイイ！カイマス!! アリガトウゴザイマース！

提督 (風が出てきたな……) ゲンジツトウヒ

ゝ店の外へゝ

伊168 「いい買い物出来たわ♡」ルンルン

提督 「それ何に使うの？」

伊168 「説明聞いてなかったの？ これは夫婦で使うコーヒー
カップ！ 底の所にメッセージを書いた紙を入れられるようになって

てて、コーヒーを飲み終わるとそのメッセージが読めるようになるの
！」

提督「あ、本当だ。洒落たカップだね」マジマジ

伊168「もう、ちゃんと説明聞いててよね！」

提督「ああ、ごめんごめん」ニガワライ

昼ー

◇ファミリーストラン◇

伊168「何食べようかな」ルンルン

提督「ファミレスで良かったの？」

伊168「うん♡ 付き合ってた頃から、デートの時のお昼はこ
こって決まってたじゃない？ 私達の行き付けでしょ？♡」ウインク

提督「そ、そうだね／＼／」

「料理が来たよ！」

伊168「やっぱりここはオムライスね」パクン

提督「イムヤってオムライスにケチャップかけないよね」

伊168「だって中に入ってるのチキンライスだもの。そんなにケ
チャップづくしにしないでいいじゃない？」

提督「まあ確かにね」ムグムグ

伊168「司令官はいつもミックスグリルよね」

提督「基本ハズレないし、色んな肉が食べられるから好きなんだよ」

伊168「司令官は見た目に反して肉食系だもんね」クスクス

提督「肉が好きただけだよ。変な言い方するな／＼／」

伊168「あれれ？ 司令官から私に迫ってきたのにく？」ニヤ
ニヤ

提督「う、うるさい／＼／ 好きな子にアタックするのは当たり

前だろ／＼／」パクパク

伊168（照れてて可愛い♡）

瑞鶴「ゴクゴク↑コーヒー

翔鶴「ニガワライ

利根「ゴクゴク↑抹茶

筑摩「ニガワライ

天龍「ゴクゴク↑タバスコ

龍田「ニガワライ

→たまたま同じ店に居合わせた

提督「イムヤ、一口ちようだい」アーン

伊168「はくい♡」つオムライス

提督「むぐむぐ…うん、変わらない味だ」ニコツ

伊168「うふふ、それがファミレスだもん♡」ニコニコ

提督「イムヤもハンバーグいる？」

伊168「あ、ちようだいちようだい♡」アーン

提督「はいよ」つハンバーグ

伊168「ん♪ このミックスグリルのハンバーグは和風だか

ら好き♪」モグモグ

提督「美味いよな♪」

／イチャイチャラブラブ＼

瑞鶴「ガリガリ↑コーヒーカップ

翔鶴「オロオロ

利根「ガジガジ↑湯呑

筑摩「アワアワ

天龍「バリバリ↑空瓶

龍田「ウワオ

→提督達を見ながら昼食を堪能(?) 中

夕方ー

◇ゲームセンター◇

伊168「プリクラ撮ろ♡」グイグイ

提督「分かったから、そんなに引つ張らないでくれ」

伊168「早くしないといい機種取られちゃうじゃない」グイグ

イ

提督「分かった分かった」ニガワライ

／イチャイチャラブラブ＼

蒼龍「スパンスパン↑正拳突き連打

飛龍「ボーンボーン↑デンプシーロール

瑞鳳「ズバババ↑天翔十字鳳

木曾「シユバババ↑十六夜月華

多摩「バーバーバー↑真空波動拳

球磨「ズバーバー↑通天砲

→たまたま居合わせた。

※パンチングマシーンをプレイ中

提督「ここはいつも眩しいな……」

伊168「それがプリクラだもの♪」

提督「撮るみたいだな……」

伊168「♡」キラーン

ガバツ

伊168「これくらい、いいわよね?♡」ギューツ

提督「どうぞ／＼／＼」カオマツカ

チュツ

提督「!?!」

パシャー

伊168とチュープリ撮影

くそして帰宅中

提督「……雨が降ってきたな」

伊168「あっちゃ」

提督「狭いけど折り畳み傘で帰るか」つ傘

伊168「はくい♡」ヒシッ

く相合傘で帰宅中

伊168「今日は楽しかった♡」

提督「なら良かったよ」ナデナデ

伊168「♡」ニコニコ

提督「また明日から頑張ろうな」

伊168「ええ♡ オリヨクルでもなんでも行ってきてあげる♡」

ホッペチユツ

提督「ありがとう」ニコツ

伊168「キューーン

伊168「えへへ♡」テレリテレリ

そして夫婦は肩寄せ合って、小雨の中を仲良く鎮守府へ戻っていったー。

伊168 完

伊8とケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇???

提督「パチッ

(どこだここは?) キョロキョロ

く暗くてどこだか分からずく

提督(なんで両手両手を縛られてるんだ)

ガチャ――

提督「ビクッ

伊8「あ、起きてたんですね、提督♡」

提督「はちか……ここはどこだ? そしてなんで俺は縛られてるんだ?」

伊8「お仕置きです♡」

提督「え」

どんっ!

提督「っ」

伊8「提督……」ノシッ

提督「な、何かな?」

伊8「今日、イクとゴーヤのこと見てましたよね?」

提督「は?」

伊8「だから、中破したイクとゴーヤのことを、いやらしい目で見てましたよね?」ハイライトオフ

提督「いや、そんなこたー」

伊8「嘘は良くありませんよ?」

ぐっ!↑首筋を力強く押される

提督「っ!!」

伊8「まあ、鎮守府には沢山の美女と美少女がいますし、提督は男ですから、多少は仕方ないですけど」

ぐっ！

提督「かはっ」

伊8「はっちゃんの身体はもう飽きちゃいました？　ねえ？」
ぐぐっ！

提督「フルフル

伊8「飽きてないんですか？」

提督「コクコク

伊8「じゃあ、なんであんなにいやらしい目で見てたんですか？」
ぱっ↑首筋を押すのをやめる

提督「っは！　はあ……はあ……」ゴホッ

伊8「早く答えてくださいよ」ハイライトオフ

提督「はあ、はあ……」

伊8「答えない気ですか？」

提督「中破したイク達の姿を見た時……はちのことを思い出してしまっただ……」

伊8「」

提督「本当にそれだけなんだ……イクやゴーヤ達を見ていたのは、お前の姿を重ねていたんだ」

伊8「♡」↑恍惚ポーズ

提督「頼む……信じてくれ……」

伊8「そうですね……提督ははっちゃんの旦那様ですもんね♡」
ナデナデ

提督「勿論だ……」

伊8「変に疑ってごめんなさい。はっちゃん、二人に嫉妬してしまっ……」

提督「ああ、構わないよ。どんなはちでも愛してるから」

伊8「♡」↑恍惚ポーズ

ガバッー

提督「は、はち？」

伊8「はっちゃんも提督を愛してます♡」

提督「ああ、分かっていると」

ゴーヤ「なんなんでち？ あれ」

イムヤ「この前に読んだ本を参考に、ヤンデレ設定でえっちした
かったんだって」ニガワライ

イク「それだけの為にイク達は中破させられたのね……」

ゴーヤ「夫婦の営みにとやかく言いたくないけど、それだけの為に
ゴーヤ達をダシにしないでほしいでち」

イムヤ「はちは変に拘るからね」ニガワライ

イク「もうやってらんないのね。早く寝るのね」

ゴーヤ「賛成」

イムヤ「そうね」

伊8 完

伊19とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室◇

タタタタタタツ!

提督「ニガワライ

バーン!

イク「提督♡ ただいまなの♡」

べしや↑濡れまま飛びつき

提督「ああ、おかえり。イク」ナデナデ

イク「いひひ♡ 今日はまだ離れないのね♡」ギューツ

提督「あはは、今日もオリヨクルありがとう」ニコツ

イク「これくらい朝飯前なのね♡」スリスリ

提督「ナデナデ

イク「♡」ゴロゴロ

ゴージャ「やっぱりここにいたでち……」

イムヤ「もお、資材の搬入終わってなかったのに〜!」

はち「イクにそんなの言っても無駄だよ」ヤレヤレ

提督「みんなも無事だね。お疲れ様」

ゴージャ「ただいまでち♪」

はち「ただいま」ノシ

イムヤ「司令官からも言つてよ! イクは資材の搬入終わってない

のに執務室に直行したんだよ!」

提督「イク、それは本当かい?」

イク「うっ……」メソラシ

提督「そつか……そうなんだね。悲しいな……」

イク「っ」

イク「ご、ごめんなさいなの! イク、最後までお仕事しなくて悪

い子だったの!」

提督「謝るのは僕にじゃないだろ?」

イク「あ」

くイク、ゴーヤ達の方へ向く

イク「みんなごめんなさいなの！ 許してほしいのね！」フカフガ
ゴーヤ「ゴーヤは別に怒ってないでちゅ」

はち「次からはちちゃんとしてくれれば、それでいいよ」ニコツ

イムヤ「司令官に会いたいのには分かるけど、任務はしつかりね。イクは司令官のお嫁さんなのよ？ そのお嫁さんがちゃんとしてないと、司令官が悪く言われちゃうんだから」

イク「気をつけるのね……」シヨボーン

イムヤ「ん、しつかりね」

イク「はいなの！」ビシッ

ゴーヤ「それでイクく……一ついいでちゅ？」

イク「？」クビカシゲ

はち「いやあのさ……提督が濡れちゃってるから、離してあげなよ」

イク「？」チラツ↑提督を確認

提督ニコニコ「ヒタヒタ

イク「わきやく！ 提督、ごめんなさいなのね！」

提督「大丈夫大丈夫、これくらい明日には乾くさ。それよりみんなと補給してドツクで疲れを癒しておいで」ナデナデ

イク「はくい♡ 行ってくるのく！♡」

くイク達は補給&入渠へく

提督「さて、僕はジャージにでも着替えて仕事の続きをやらなきや」

◇ドツク◇

くみんなで入渠中く

カポーン……

イク「んはく……」クター

ゴーヤ「それにしてもとくはイクにだけは甘いよね。さつきだつてイクのせいで濡れたのに全く怒る気なかったもん」チャプ

イク「お嫁さんの特権なのね♡」イヒヒ

はち「とかいいつものことだから慣れちゃってるんじゃない？」

イムヤ「それはあるかもね。執務室に着替え用のジャージをいつもの置いてあるもん」

イク「グヌヌ」

はち「でも提督も凄いいよね。毎日あやって濡れるのに風邪一つ引かないもんね」

ゴーヤ「確かにそうでち！」

イク「提督はいつも元気なのが取り柄だって言ってたの♪」

イムヤ「でも油断大敵よ。慢心は駄目なんだから」

はち「そうだね。提督は私達と違って普通の人間だもん」

ゴーヤ「執務室に戻ったら温かいお茶でも淹れてあげるといいでち」

イク「分かったの！」フンスフンス

く入渠も済ませて執務室へく

イク「あ、戻る前にお茶淹れてあげるのね♡」

くイク、お茶を淹れてから執務室へく

◇執務室◇

ガチャー

イク「提督く、戻ったのく」ヒョコ

提督「おかえり、イク」ニコツ↑ジャージ姿

イク「温かいお茶淹れてきたの……飲む？」

提督「それは嬉しいな。頂くよ」

イク「はくい♡」

く夫婦、お茶で一服く

提督「あく、緑茶は美味しいねく」ホツコリ

イク「良かったのね♡」

提督「……イク」

イク「？」キョトン

提督「何かあったかい？」

イク「え」

提督「いつもならこういう時、イクは僕の膝の上に座るだろ？ なのに今は座ってない。なら何かあったのかと考えるのが普通さ」

イク「え、え〜とと……」

提督「無理には話さなくていいよ?」ニコッ

イク「ううん。ちゃんと話すのー」

〜イク、入渠中の話を説明中〜

提督「あ〜、そういうことか」

イク「そうなの」

提督「確かに僕も人の子だからね。風邪くらいは引くよ」

イク「でも提督はイクと出会ってから一度も風邪引いてないの!」

提督「健康には気を遣ってるからね。そう簡単には引かないさ」ク
スクス

イク「でもイクのせいで制服が濡れちゃって、そのせいで風邪引かせたら嫌なの……」

提督「今のイクは濡れてないじゃないか」アハハ

イク「そっ、それはそうだけど、次から気をつけるの!／／／／」

提督「イク、ちよつとこっちへおいで」チヨイチヨイ

イク「なんなの?」トコトコ

ぎゅつ↑提督、イクを抱きしめる

イク「あ……♡」ヒシッ

提督「やっぱりイクの体温は少し低いね。入渠後なのにひんやりしてる……出撃後は特にだ。今日だつてとても冷たかった」

イク「ごめんなさいなの……」

提督「謝る必要ないよ。僕は人より体温が高くてね……ひんやりしたイクを抱きしめることで、少しでも温めることが出来るかと思つていつも濡れたままのイクを抱きしめてるんだ」ギョッ

イク「提督……♡」ドキドキ

提督「僕はいつもイクや他の潜水艦の子達に冷たい海を潜る様命令してる……いつも本当にごめん。そしてありがとう」ナデナデ

イク「それがイク達のお仕事なのね♪ それで提督はそれを命令するのがお仕事なの♪ 謝る必要ないのね♡」スリスリ

提督「ありがとう、イク」ニコッ

イク「イクもありがとうなの♡」ニパッ

提督「僕はこれからもイクを抱きしめるからね」ホッペナデナデイク「ならイクは心も身体もポカポカの提督にこれからも温めてもらうのね♡」ニパツ

そして夫婦はそれを約束するかのようになり、口付けを交わすのだったー。

伊19 完

伊26とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇食堂の厨房◇

ニム「美味しくなあれ♡ 美味しくなあれ♡」ルンルン
〜ニム、提督のためにお料理中〜

間宮「ふふ……今日も幸せそうにお料理してるわね」

伊良湖「見ている私達も幸せな気分になりますね♪」

カランカラン――

イク「今日もオリヨクル頑張ったの〜♪」

イムヤ「みんな無傷だし、司令官も褒めてくれたよね♪」

ゴーヤ「明日はお休みだし、この後はゆつくりして明日はどこか行

きたいね〜♪」

はち「私はまだ読んでない本読みたいな〜」

〜任務終わりで昼食を食べに来たイク達〜

間宮「いらっしやいませ〜」ニツコリ

伊良湖「いらっしやいませ！」ニコツ

ニム「あ、みんな〜♪ 元気〜？ 報告の帰り？」

イク「ムニムニなの〜♪ そうなのね〜♪」

イムヤ「その呼び方止めなよ」ニガワライ

ゴーヤ「そうでち。せめて二六と呼ぶべき」ウンウン

はち「それはそれでどうかと思うよ……」ニガワライ

ニム「ニムはニムなの！ ムニムニやふろなんて変な呼び方しない

でよう！」プンプン

イク「いひひ、ごめんなの♪」テヘペロ

ゴーヤ「お約束ってやつでち」クスクス

ニム「もお〜」ニガワライ

イムヤ「ニムは今日も相変わらず司令官のためにお料理してるの

？」ニヤニヤ

ニム「え……う、うん／／／」エヘヘ

はち「いつもラブラブだね〜…その内、家族が増えたりして♪」
ニム「そ、それは…あ、あるかもだけど、まだ早いよう／＼／＼」
モジモジ

伊良湖「分からないよ〜？ 時が来ればあつという間にニムちゃん
だつてお母さんになるんだから♪」

間宮「子どもは授かりもの。いつ授かるのかは誰にも分かりません
からね…でもきつと、今とはまた違う幸せを感じられると思うわ」
ニコツ

ニム「今もとつても幸せなんだけどなあ〜…提督と一緒に居るだ
けで何もしてなくても幸せだもん♡／＼／＼」デレエ

イク「ナチュラルに惚気たのね…」

ゴーヤ「これはその時が近いかも…」

イムヤ「幸せなのはいいことなんだしいじやない」ニガワライ
はち「はっちゃん達が砂糖製造機になるのは決定してるけどね〜」

伊良湖「あはは…」ニガワライ

時計へねえねえねえ、時間大丈夫？

間宮「ニムちゃん、そろそろ提督の所に行く時間じやない？」

ニム「あ、本当だ！ 早く提督に届けなきゃ！」ワタワタ

〜ニムは急いでお弁当箱におかずなどを詰めて、それを包む〜

イク「ちゃんと愛も込めるのね〜♪」ニヤニヤ

ゴーヤ「そうしないと〜とくが悲しんじゃうよ〜？」ニヤニヤ

〜冷やかす二人〜

イム・は『ヤレヤレ

〜呆れる二人〜

ニム「うん、ちゃ〜んと込めるよ♪」ニッコリ

間・伊『一ミサツ↑緊急回避

イク・ゴ・イム・は『ん？』

〜ニム、包んだお弁当箱を優しく抱きしめる〜

ニム「大好きな提督にニムの愛が伝わりますように♡」ニへへ
ぎゅむっ♡

イク・ゴ『（。㇏）…』グハッ!!↑砂糖ぶしやつ

イム・は『（／＼／＼／＼）』ハウア!?

ニム「えへへ……それじゃあみんな、またね〜♪」ノシ
〜満面の笑みでその場を去るニム〜

間宮「ふう、回避成功ね」ニコツ

伊良湖「流石に直視は出来ませんからね〜」ニツコリ

イク「迂闊だったの……／＼／＼／＼」ウツプ

ゴーヤ「なんて破壊力……／＼／＼／＼」ダバー

イムヤ「司令官が骨抜きになる訳だわ……／＼／＼／＼」パタパタ

はち「少女漫画なんかより甘いよ、あれ／＼／＼」カオマツカ

間宮「私達も最初目の当たりにした時は皆さんと同じ反応でした」

ニコニコ

伊良湖「皆さんも気をつけてくださいね」ニコツ

イク「取り敢えず甘さが感じないくらいの辛い物が欲しいの……／

／／／

はち「イクと同じ／＼／＼」

ゴーヤ「ゴーヤは苦い物がいいでち……／＼／＼／＼」

イムヤ「イムヤも苦い物が欲しいわ……／＼／＼／＼」

間・伊『は〜い』ニガワライ

お昼〜

◇執務室◇

しおい「なら午後のオリヨクルは中止なの？」

提督「そういうことだ。イク達が獲得した資材が思いの外多くて
ね。目標数になったからしおい達はお休みだ」

ろ「やった〜♪ ありがとうございます、提督♪」ワハー

まるゆ「ありがとうございます」ペコリ

提督「お礼を言うならイク達に言うといい……とまあ、そういうこ
とだから、午後は自由に過ごしてくれ」

し・ま・ろ『了解』ニパッ

コンコン〜

提督「入ってくれ〜」

ガチャラー

ニム「提督♡ お弁当だよ♡」

提督「もうそんな時間か」

しおい「お嫁さんのご登場だね♪」

まるゆ「今日も仲良しですね」ニコニコ

ろ「提督とニムーはラブラブ♪」

ニム「や、止めてよ♪♪♪」デレデレ

提督「♪♪♪」ウツムキ

しおい「んじや、夫婦の時間を邪魔しちゃいけないから、しおい達

は退散するね」ニシシ

まるゆ「失礼しました」ペコリ

ろ「沢山ラブラブするといいつて♪」ノシ

パタン……

ニム「みんなに気を遣われちゃったね♡♪♪♪」エヘヘ

提督「……まあ、悪気は無いんだろうが、何とも言えないな♪♪

♪カァー

ニム「と、取り敢えず、お昼にしようか♡♪♪♪」

提督「おう♪♪♪」

♪夫婦肩寄せ合ってソファアへ座る♪

提督「いつもこうして作ってくれてありがとうな、ニム」ナデナデ

ニム「ううん、あたしは提督のお嫁さんだもん♡ ほら、早く開け

て開けて♡」ニコニコ

提督「分かった」ニコツ

しゆるしゆる……ぱかっ……

提督「おおく……」

♪ハートが盛り沢山の愛妻弁当♪

提督（オムレツにかかっているケチャップがハートマーク……ご飯に

はほぐした鮭で大きなハートマーク……毎回工夫してくれて嬉しい

な♪）ジーン

ニム「ねえねえねえ、早く食べて食べて♡」ワクワク

提督「ああ、頂くよ。ニムも一緒に食べよう」ニコニコ

ニム「勿論♡」パカッ

〜提督を模したキャラ弁〜

ニム「えへへ♡ カッコイイでしょう?♡」

提督「自分を模したキャラ弁にカッコイイとか言えないよ」ニガワライ

ニム「むう……提督はカッコイイもん! あたしの最高の旦那さんだもん!」

提督「ありがとう……ニムも最高に可愛い俺のお嫁さんだよ」ナゲナゲ

ニム「♡」キュンキュン

〜夫婦仲良く頂きます!〜

提督「うん、今日も美味しい!」パクパク

ニム「良かった♡」ニコニコ
ー。

ニム「あ、ねえねえねえ」

提督「ん?」

ニム「提督はあたしとの赤ちゃん欲しい?」

提督「(。D。)……」ブウーッ!

ニム「きやつ!? どうしたの、提督!?」フキフキ

提督「ごほ、けほつ……それはこっちの台詞だ。何だよ今の質問は!?」

ニム「えっとねー」

〜ニム、食堂での話を説明する〜

提督「／／／」カオカクシ

ニム「ねえねえねえ、提督はどうなの? あたしとの赤ちゃん欲しい?」グイグイ

提督「……ま、まあ、いずれは欲しい……かな／／／」

ニム「そっか♡ あたしも提督との赤ちゃん欲しいよ♡」ニパッ

提督「!?／／／」

提督(俺は嫁からどストレートに子作りを催促されてるのか!?)
／／)コンワク

提督「ま、まあ、その内な……今はニムと二人きりの時間を大切にしたいから……／＼／＼」ソツポムキ

ニム「提督♡」キュンキュン

提督「でも……」

ニム「？」

提督「もしも、赤ちゃんが産まれるなら、ニムに似た可愛い子がいいな」ニツコリ

ニム「!?♡／／／」ズキューーン

提督「なくんてー」

ニム「提督♡」ガバツ

ニム、提督を押し倒す

提督「ニ、ニム?／／／」

ニム「あたし、提督との赤ちゃん欲しくなっちゃった♡」オメメハー

ト

提督「え」

ニム「だから早く作ろ♡ 提督の赤ちゃん、あたし産みたい♡」

提督「嬉しいけど……せ、せめて夜になってからにしないか?／／

／

ニム「善は急げ♡ あたしと一緒に頑張ろう♡ おーおー♡」スリ

スリ

提督「話を聞いてくれえええ〜!／／／」

その後、執務室からは夫婦の艶めいた声が長時間に渡り聞こえていたというー。

伊26 完

伊58とケツコンしました。

海軍保有リゾート地、朝ー
く夫婦は新婚旅行中であるく

◇リゾート地の岬◇

ゴーヤ「わあ〜い！ てーとく！ 早く早く〜！」ノシ

提督「今行くよ〜！」ノシ

ゴーヤ「て〜とく〜！」

提督「は〜い〜！」

提督E・シユノーケリング用ウエットスーツ

小型酸素ボンベ

伊58E・いつものスクール水着

ゴーヤ「えへへ♡ てーとくと海の中を潜れるなんて幸せ♡ ゴーヤのわがまま聞いてくれてありがとう〜♡」ニコニコ

提督「ゴーヤのその笑顔をもらえただけでお釣りが出るよ」ナデナデ
デ

ゴーヤ「〜♡」ゴロゴロ

提督「んじゃ、先導よろしくな」ニカツ

ゴーヤ「は〜い♡ てーとくの手、絶対離さないからね♡」オテテ
ギユツ

提督「頼むよ」ナデナデ

ゴーヤ「それじゃあ、行きま〜す！♡」

く珊瑚礁や綺麗な魚の群れく

ゴーヤ「綺麗でち〜♪」

提督「」コクコク

ゴーヤ「ちよつと深くまで潜るでち〜！」

提督「」？d

ざぶんっ

ゴーヤ「てーとく！ クマノミいたよ〜！」

提督「コクコク

ゴーヤ「一回上がるね〜♪」

提督「?」d

そばっ

ゴーヤ「綺麗だね♡」

提督「ふはあ……ああ、こんなことならホテルで本格的な器具を借りれば良かったよ」ニガワライ

ゴーヤ「ふふ……でも、こうしてゆっくり海を満喫するのもゴーヤは好き♡ だってて〜とくがすぐそばに居てくれるんだもん♡」ニパー

提督「そ、そうか／＼／＼」テレツ

(本気でダイビングライセンス取ろうかな……)

ゴーヤ「次はどっちの方向に潜ろうかな〜♪」キヨロキヨロ

提督(あんなに喜んでくれるんだからな……)

「フッフ

ゴーヤ「? どうして笑ってるんでち?」

提督「ゴーヤが可愛いから」

ゴーヤ「えへへ♡ 嬉しいでち♡」ヤンヤン

提督「さて、また潜ろう」ニカツ

ゴーヤ「は〜い♡」

〜その後も海の中を満喫し、海から上がった〜

昼〜

◇夫婦が宿泊しているホテルの部屋◇

提督「いやあ、楽しかったな〜♪」

ゴーヤ「だよねだよね♡ ゴーヤもすっごく楽しかった♡」ニコニコ

コ

提督「んじや、昼食を食べに行くか」

ゴーヤ「じゃあ、ゴーヤ着替えるから待ってて〜♪」

提督「おう」

〜ゴーヤは服を持ってバスルームへ〜

数分後ー。

ゴーヤ「お待たせでち♡」

提督「」

ゴーヤE・ホルターネットワークワンピ（ライトグリーン）

ゴーヤ「てーとく?」

提督「とても似合ってる可愛い／＼／」ポー

ゴーヤ「嬉しいでち♡」ニコニコ

提督「じゃあ行こうか」ヒダリウデスツ

ゴーヤ「は〜い♡」ギョツ

◇ホテル内レストラン◇

提督「午後はどうする? また潜るか? 潜るなら俺はホテルで器

具を借りるぞ」

ゴーヤ「ん〜……午後は普通に浜辺で遊びたいでち♪」

提督「いいのか? 俺に気を遣うことないんだぞ?」

ゴーヤ「うん、ありがと♡ でも大丈夫♡」

提督「そうか」

ゴーヤ「実はね……」

提督「?」

ゴーヤ「てーとくと浜辺でこ、恋人らしく遊びたいなく……なんて

♡」テへ

〜照れ笑い+首傾げ+もじもじした仕草〜

提督「ズキューーン

（狙ってやってるのか!?!／＼／＼）

提督「んんっ……わかった、浜辺で遊ぼう／＼／」

ゴーヤ「ありがと♡」ニパー

提督（天使過ぎる……）

〜昼食を食べ、食休みをしてから浜辺へ〜

◇海軍保有ビーチ◇

提督「着いたな」

ゴーヤ「わあ〜！ 浜辺も綺麗〜！」キラキラ

提督「流石リゾートつてだけはあるな〜」

ゴーヤ「ゴーヤ、着替えてくる〜！」

提督「じゃあ、場所取っておく。パラソルの柄覚えてるよな？」

ゴーヤ「うん♪」

提督「まあ、わからなくなったら通信機スマホに連絡してくれ

ゴーヤ「は〜い！」

ー。

提督「」

〜提督、パラソル等の準備中〜

ゴーヤ「て〜とく〜！」

提督「ああ、おかせrー」

ゴーヤE・白地に桜の花弁柄のフリル三角ビキニ

提督「」

ゴーヤ「えへ♡ 似合う、似合う〜？♡」ニコニコ

提督「我が生涯に一片の悔いなし！」カンキ

ゴーヤ「もお〜大袈裟なだから〜♡」

提督「大袈裟なもんか！ こんなに可愛いんだぞ?! こんなに！

KO☆N☆NA☆NI！」

ゴーヤ「えへへ〜♡」ヤンヤン

提督「んじゃ、遊ぶか♪ 何する？」

ゴーヤ「定番の砂のお城作りしたいでち〜♡」

提督「よし、んじゃやろうか♪」ニカツ

ゴーヤ「は〜い♡」

〜お城作り開始！〜

ゴーヤ「〜あなたと生きたい〜♪ キラツ☆ 流星にまたがつて

〜♪」ルルン

提督「よし出来た。力作だ！」

ゴーヤ「て〜とく〜早いでち〜♪」クルツ

〜精巧なぜかまざらしの砂像〜

ゴーヤ「（。ㇿ。）」ポカーン

提督「自分の才能が怖いぜ♪」ドヤア

ゴーヤ「気合い入れ過ぎでち」ニガワライ

提督「遊びも全力じゃないとな！」ニカツ

ゴーヤ「もお♡」ニコニコ

ゴーヤ（そんな笑顔されたら何も言えないよう♡）キュンキュン
くその後も夫婦は楽しく遊んだく

夕方ー

提督「寒くないか？」

ゴーヤ「てーとくがゴーヤを抱き寄せてくれてるから大丈夫でち♡」

く夫婦肩寄せ合って夕日を堪能中く

ゴーヤ「夕日が綺麗……」ウツトリ

提督「夕日に照らされてるゴーヤも凄く綺麗だぞ」

ゴーヤ「ふふふ、言うと思ってた♡」クスクス

提督「ちつとクサ過ぎたか」ニガワライ

ゴーヤ「ううん、嬉しい♡ ありがと、てーとく♡」ギューツ

提督「またいつか来ような」ナデナデ

イ
ゴーヤ「その時は夫婦じゃなくて家族で来たいな♡」ウワメツカ

提督「……そうだな／＼／＼」

ゴーヤ「えへへ♡ 約束でち♡」

提督「ああ、約束だ」

そして夫婦は沈み行く夕日にまたここへ来ると誓うように、約束の口づけをするのであったー。

伊47とケツコンしました。

某鎮守府、夜―

◇提督&伊47邸（鎮守府付近）◇

提督「さあてと……明日も任務だし、そろそろ寝るか」

ヨナ「うん、そうしましょうそうしましょう」

提督「んで、寝る前になんだが」

ヨナ「？」

提督「いつものアレ頼んでいいか？」

ヨナ「またですかあ？」

提督「頼むよく。アレしてもらうとぐつすり眠れるんだよ」

ヨナ「もう、仕方ないですねえ。してあげます」

提督「よっしゃ！」グツ

ヨナ「大袈裟ですねえ、提督は」クスクス

◇寝室◇

提督「ヨナ、早くっ。早くやってくれ！」ワクワク

ヨナ「ちゃんとやりますから、そんなに興奮しないでください。眠れなくなりますよお」

提督「はーい」

ヨナ「では、失礼して……」モゾモゾ

ヨナ、仰向けに寝る提督の上に覆い被さる

提督「ソワソワ

ヨナ「これでいいですか、て・い・と・く♡」ボソツ

提督「うくん、マンドム」

ヨナ「♡」クスクス

提督はヨナの囁き声が好きなのだ

ヨナ「声が小さいのがまさかこんな風に役立つとは思いませんでしたあ」

提督「ああ、耳が幸せ……耳が気持ちいい」

ヨナ「変態さん……ですね」ニガワライ

提督「ふつ、何とでも言え。この耳への快感を知らぬ者に何と言われようとも、某は屈せぬぞ！」クワツ

ヨナ「はいはい……それじゃあ、今夜もヨナが提督のお耳に好き勝手しますから、提督は寝るなり何なりお好きにどうぞお」

「とということ、早速ヨナは提督の耳たぶをしゃぶる」

提督「お、おお……！」ゾクツ

ヨナ「んくば、んくば、んんくつ♡」

提督「お耳がしゅごいのおく！」ゾクゾク

ヨナ「ぷあ……提督、寝る気ありますう？」

提督「今は無理！」キリッ

ヨナ「耳掻きしちゃいますよお？」

提督「へーい、僕の愛するヨナく？ 人間誰しも越えちゃいけないラインつてもんがあるだろう？」ナデナデ

ヨナ「まあヨナももうあんなこと提督にしたいくないのでえ、しない方向の方がいいんですが……でも提督が眠ってくれないとお、提督も含めて鎮守府の全員が困るのでえ」

「過去にヨナは提督の鼓膜を耳掻きで傷つけたことがあるのだ」

提督「でも耳敏感なんだよなあ、俺」

ヨナ「でも提督のお耳、美味しいんですよ」キラキラオメメ

提督「ヨナのせいで俺の耳は開発されたようなもんだよな」

ヨナ「それは提督がヨナがいるのに、ネットで囁きボイスを買ってまで聴いてたのが悪いと思えます」ジトメ

提督「メソラシ

ヨナ「だから結局のところ自業自得う♡」

「耳舐め再開」

提督「くつ、うう、のおく」ビクビク

ヨナ「レロレロツ……レく、ジュルツ、ジュチュツ……チユく……

パツ♡ ふくつ」

提督「ひいいいっ」ビクンビクン

ヨナ「んへへ、提督面白く♡」キラキラ

提督「人で遊ぶな」デコピン

ヨナ「きやんっ……むう、嬉しいくせにい」

提督「否定はしないけどな。でもこんな状況で眠れない」

ヨナ「寝る気あったんですかあ……？」

提督「そりやあ寝たいから、嫁の囁き声が聴きたい訳で……」

ヨナ「でもヨナ、今夜はペロペロしたい気分ですう」

提督「お耳溶けちやうよお」

ヨナ「ヨナ溶解液出ないですよお？」

提督「言葉の綾だよ！」

ヨナ「んへへ、知ってまあす♡」ケラケラ

提督「まあとにかく、だ。ヨナのトロ甘ボイスキボンヌ！」

ヨナ「しようがないですねえ……」

提督「」ワクワク

ヨナ「だあいすきです、て・い・と・く♡」

提督「くく」ゾクゾク

く提督大満足く

ヨナ「ヨナはあんまりおっぱい大きくないですがあ、おっぱいチュ
くチュくしますかあ？ 確かそうしながら魚雷点検されるの好きで
したよねえ？」

提督「今夜は健全だからそれ以上はいけない」

ヨナ「よく分かりませんが分かりましたあ」

提督「聞き分けが良くて大変結構」

ヨナ「ではではあ、このままゆっくりとお休みしてくださいねえ♡」

ニコニコ

くそれから少ししてく

提督「ぐおく、ぐおく……」

ヨナ「……すっかり眠りましたねえ」クスツ

ヨナ「よおしよし……ふふ、寝顔まで愛おしいのはずるいですう♡」
ナデナデ

ヨナ「今なら寝てるから……んく、チュツ♡」

くヨナ、提督の右耳を喰むく

提督「っ」ピクツ

ヨナ「本当に敏感ですねえ。でも最後に左もペロンと……レロツ♡」

く反対の耳もペロペロく

提督「んんっ」

ヨナ「ふふふ♪」

ヨナ「どうして提督はこんなにもヨナの心を満たしてくれるんですかあ？」

ヨナ「提督と出会って、恋をして……ケツコンもして、毎日が幸せなんです」

ヨナ「もう提督が居ない日常なんて考えられません」スリスリ

ヨナ「大好き……大好きしか言えないくらい、ヨナは提督のことが大好きなんです」

ヨナ「こんなにヨナのことを夢中にさせて……いいですねえ、すやすやの提督はあ」ホッペツンツン

提督「んく……」

ヨナ「んへへ、嫌がつてもダメですう♡ 提督はヨナから逃げられませんからあ……えいえい♡」ツンツンツンツン

提督「んんく」ゴロン

ヨナ「わぷっ」

く提督が寝返りを打ち、ヨナはそのまま腕の中へく

ヨナ「起きてますう？」

提督「ぐおく……ぐおく……」

ヨナ「本気のいびきなので起きてませんねえ」

ヨナ「すりすり……んっ、提督の胸板、好き♡」

ヨナ「がつ、がつ……んへへ、提督の鎖骨噛んじやいましたあ♡」

提督「んく……」

ヨナ「なかなか起きないのもいいものですねえ。朝は大変ですが、今は好き放題出来ますう」

ヨナ「ヨナが眠くなるまで、覚悟してくださいねえ♡」

――

――

朝――

ヨナ「提督、朝ですよ」ユサユサ

提督「んん」

ヨナ「起きないと……はむっ♡」

く耳攻め開始

ヨナ「んくば、はむっ……レロレロレロレロ♡」

提督「んにやああああっ!?」トビオキ

ヨナ「提督、おはようございますう」クスクス

提督「あ、ああ……おはよう」

く二人で仲良く洗面台へ

ヨナ「♪」クスクス

提督「?」どうかしたのか?

ヨナ「気付いてないならいいですよ♪」ギューツ

提督「何だよ、それ」

ヨナ「さあ、何でしょう?」クスクス

提督「はあ……ん!?」何だこれ!?

く鏡に映る提督の胸元に無数のキスマークが

ヨナ「あくあ、バレちゃいましたあ♪」

提督「……はあ、やりやがったな」ジロリ

ヨナ「ヨナの前で無防備に寝てるのが悪いでえす♡」

提督「くっそ、天使過ぎて言い返せないっ」ナデナデ

ヨナ「♡」クスクス

こうして提督はヨナという天使の前に今日もなす術なく、メロメロになるのだった――。

伊201とケツコンしました。

???

提督「……………?」

「提督は目覚めると何処なのかも分からぬ場所にいた」

提督（深海棲艦による拉致か？ いやその可能性は限りなく低い。そもそも私を拉致するのにはリスクが高いし、拉致したところで旨みがない）

「提督の階級は中佐で上官たちが共有しているような最重要機密が入って来ない。故に艦娘たちの包囲網を潜り抜けてまで拉致するメリットがないのだ」

提督（となると、私を消したい派閥によるものか？ いやいや、確かに派閥争いはあるにはあるが、過激派はいないし私自身がどの派閥にも所属していない。それにどの派閥もこれまでこんな暴挙に出るなんて馬鹿げたことをする程低能ではない）

提督（……………というよりは普通に昨晩は眠りに就いただけで、特に何も怪しいところはなかったはずだ）

「考えれば考える程に今の状況が分からなくなる提督」

提督（そもそもだ。拉致しておいて両手足を拘束していないし、口も封じていないなんて素人過ぎる）

「そうしている内に提督は目が暗闇に慣れてきた」

提督「本当に知らない場所だな……………」

カチャリ

提督「っ!？」

「フレイ「あ、提督起きてたんだ？」

「存在すら知り得なかった扉から現れたのは愛する妻の伊201

」

提督「フレイ!？」

「提督は思わず妻の両肩を掴んだ」

「フレイ「きゃっ!？」 提督、落ち着いて？ 私は確かに貴方から求め

られればいつでも大歓迎だけど……♡／／／／

提督「冗談を言ってる場合じゃない！ この状況の説明をしてくれ！」

フレイ「強引な提督も好きよ♡」

提督「私は真面目に訊いている！」

フレイ「……覚えてないの？」

室内の空気が1℃下がる

提督「？ なんのことだ？」

フレイ「そう、覚えてないのね」

室内の空気がまた1℃下がる

提督「フレイ？」

フレイ「提督、昨晚のことはどこまで覚えてるの？」

提督「昨晚のことだと？ 昨晚はフレイとのケツコン記念日で、一緒に過ごしていたことまでは覚えている」

フレイ「……酷いわ」

提督「？」

フレイ「私の口から言わせたいのね。提督って本当に意地悪。でもそんな貴方を私は愛してる。だから私の口から言うわね？」

提督「ああ……」

〜伊201説明中〜

提督「私をクズ野郎と罵ってくれ……そして許してくれ……」

〜説明を受けた提督はフレイの前で土下座して許しを乞う〜

フレイ「酒は飲んでも飲まれるな」

提督「ごもつともで」ドゲザー

フレイ「あんなに私をめちゃくちゃにしたくせに……／／／／」

提督「すまなかつた……この通りだ……だからリコンしないでくれ……」

フレイ「する訳ないでしょ、もう……」

（そもそもあんなことされたら、もう提督なしじゃ耐えられな
いんだけど……／／／／）

簡単に説明するところだ。

昨晚、提督は妻とのケツコン記念日で珍しく羽目を外して、普段は飲まないワインを飲み、泥酔してしまった。

伊201はそんな夫を寝室まで運び、寝かしつけようとしたところで夫に引き寄せられてしまう。

そこで彼から彼が寝落ちするまで延々と自分の好きなどころや、自分に惚れているところ、自分がいないとどうにかかなりそうな気持ちになるなどの愛を囁かれた。

なので伊201はそんな夫を誰にも見られないように、夫の尊厳を守る名目で独占するために官舎の地下ある非常事態時に避難する部屋へと移動させて脳髓を彼からの愛でとことん蕩けさせてもらったのだ。

提督「もうお婿に行けない……」

フレイ「私が貰ってるから安心ね……♡」

提督「うう……恥ずかし過ぎる……」

フレイ「私は嬉しかったけど?♡」

提督「……」ガツクリ

フレイ「♡」デレデレ

提督「そ、それより、今日の任務はどうなってる?」

フレイ「秘書艦である私が指示を出して平常運転よ?」

提督「そうか……」ホッ

フレイ「みんなには提督は昨晚ハッスルし過ぎてお休みって伝えてあるから」ニコツ

提督「……なんだと?」

フレイ「あら、照れてるの?♡ でも大丈夫♡ みんな貴方が私に夢中なのは知ってるから、寧ろ喜んでくれたわ♡ だからお昼はお赤飯だって♡」ホッペチュッ

提督「何故バレている……?」

フレイ「普段から私を大切にし過ぎてるからじゃない?♡」

提督「……」

フレイ「これからはみんなの前で堂々とイチャイチャ出来るね?♡」ニコツ

提督「しない」

フレイ「じゃあ私からするね？♡」

提督「……………」

フレイ「私からなら貴方は拒めないものねー？♡」ニコニコ

それからと言うもの、伊201が提督へ行うスキンシップが激しくなり、なんだかんだ提督も微笑んで拒まずに受け入れているので、シユガーテロリストとして名を馳せた――。

伊201 完

伊203とケツコンしました。

某鎮守府、夕方――

◇訓練用グラウンド◇

長良「はあい、お疲れ！ 今日訓練はこれで終わりだよー！」
ゴーヤ「ぜえぜえ……」

イク「はあはあ」

はち「し、死ぬ……」

イムヤ「潜るのは勝手が違うわね……疲れたあ」

みんな肩で息をしている

島風「みんなおつそーい！ フーミイを見倣いなよ！」

フーミイ「走るの好き……」キラキラ

島風は暇だったので参加

しおい「いやいや、フーミイは別次元だから……」

しおん「速さが自慢ですからね」

イヨ「島風と同じスタミナとかやばいって……」

ヒトミ「走るの苦手……」

フーミイ以外はバテバテ

長良「まあ、私たちは陸地戦はしないけどもしものためにね。はい、それではお疲れ様でした！ お風呂入ったらしっかりマッサージすること！ 解散！」

全員『お疲れ様でしたー！』

島風「フーミイ、シャワー室まで競争しよー！」

フーミイ「今日は負けない……！」

ダッ！

全員『元気だなあ』ニガワライ

◇執務室◇

フーミイ「それでね、それでね。今日は私が島風に勝ったの。本当だよ？」

提督「はいはい、疑ってないよ」ナデナデ

くフーミイ、提督の膝上（定位置）で先程の競争結果を報告中く

フーミイ「私速いんだよ？ 今度は提督が見てる前で島風に勝つ。見ててね」

提督「勝つても負けても、俺としてはみんな怪我しないでくれればそれでいいんだけどな」ニガワライ

フーミイ「それは無理。だって私たちは艦娘だもの」

提督「まあな。そこは割り切ってるが、だからこそ私生活内での怪我はしないでほしいってこと」

フーミイ「私、転んだりしないもん」

提督「そう言ってるこの前俺が見てる前で盛大にすっ転んで膝を擦りむいたアホの子は誰だっけ？」

フーミイ「島風」

提督「フーミイだよ。捏造すんな。まあ確かに島風もしょっちゅうすっ転んでるが……」

フーミイ「私、捏造してない。捏造はあ——」

提督「それ以上はいけない！」

く提督、急いでフーミイの口を押さえるく

フーミイ「すんすん」

提督「匂いを嗅ぐな！」

フーミイ「ぶはあ、手袋の柔軟剤の匂いと提督の匂いと筆記用具の匂いがする」

提督「分析しないでいい」

フーミイ「じゃあキス」

提督「何がどう『じゃあ』なのかが分からないが、キスはしよう」

フーミイ「ハイカマン」

ちゅっ♡

提督「フーミイはすっかかりキス魔になったなあ」

フーミイ「提督が教えた。気持ちいいこと。好き」

提督「なんかすまん」

フーミイ「？ 気持ちいい、悪いこと？」

提督「いや、なんか汚した気がして」

フーミイ「？ 私汚れてない。シャワーも浴びてきた」ムスツ

提督「そういうことじゃないんだなあ」ニガワライ

フーミイ「???」クビカシゲ

提督「まあ気にするな。それより残りの書類を終わらせちまうから、待っててな。終わったら官舎に戻って一緒に飯を作ろう」

フーミイ「了解」

フーミイはそのまま提督の膝上に待機するのだった

◇長官官舎◇

提督「えくつと。じゃがいもはどこに置いたつけかなく」ガサゴソ

フーミイ「じゃがいもはこつち」つじやがいも

提督「おお、サンキュ。あとは人参と玉ねぎ……」

フーミイ「だから人参はこつち。それで玉ねぎはその下」

提督「お、おくおく、すまぬすまぬ」

フーミイ「提督、お仕事出来るのに整理整頓出来ない」

提督「苦手なんだよ。そもそも一人暮らし長かったし、基本手に届く範囲に必要な物は置いてあったからな」

フーミイ「そういうのタメ」

提督「気をつけるよ」

フーミイ「ん。私だって任務でいない時もあるんだから、ちゃんと把握しておいてね」

提督「了解」

フーミイ「それ以外なら私に甘えてていいから」

提督「フーミイママ……」

フーミイ「ママじゃないもん。お嫁さんだもん」

提督「ついお母さんっぽくてな」ニガワライ

フーミイ「じゃあいつでもお母さんになれるってことだね」ニコリ

提督「……そのうちな」

雑談しながら二人で料理をした

提督「うん、味も染みてていい出来だ」

フーミイ「肉じやがおいひい」モキュモキュ

提督「……………」

フーミイ「？ 私のお顔に何かついてる？」ペタペタ

提督「いいや。ただフーミイはいつも美味しそうに食うなあつて思つて」

フーミイ「そんなに美味しそうに見えるの？」

提督「そうだな。普段はあまり表情に出さないけど、食事の時と任務に向かう時は表情が出る」

フーミイ「ふーん。知らなかった」

提督「因みに食べてる時はニコニコしてるぞ。こんな感じに」

フーミイ「提督、変だよ？」

提督「自分の顔が変わつてことになるぞ？」

フーミイ「私そんなお顔してないもん」

提督「してた」

フーミイ「してない」

提督「してたって」

フーミイ「してない。して……………ないもん」

提督「まあ可愛いから俺としては最高だ」

フーミイ「提督もお布団の中では可愛い声いっぱい出て可愛いよ？」

提督「その話はやめろ」

フーミイ「今夜もフーミイが上ね」

提督「朝までコースですよん……………」

フーミイ「フーミイのパンパン気持ち良くない？」シユン

提督「気持ち良過ぎるんだよなあ」

フーミイ「じゃあするね……………いっぱい♡」キラキラ

提督「お手柔らかに」

フーミイ「や。提督の可愛い声とお顔、見せて♡」ニコリ

提督「……………／／／／」

その日も提督は朝までフーミイに見つめられるのだった――。

伊
2
0
3
完

U—511&呂500とケツコンしました。

とある某諸島、 昼前ー

◇海軍所有のプラベートビーチ◇

提督「さんとさんと照りつける太陽！」

ジリジリ……

提督「碧く穏やかな海！」

ザザーツ……

提督「そして……」チラツ

呂「きやく！ 気持ちいい！」ザブン

U「ろーちゃん、置いてかないで〜」チャポン

提督「海を潜る人魚達！」ジーン

提督「二人共俺の嫁なんだぜ？ いいだろう？」ドヤア

→虚空に話し掛けている

提督（まさかジユウコン出来るだなんてな……提督やってて良かった！）

〜ただ単にどちらか決められなかっただけである〜

呂「提督〜！ 提督もろーちゃん達と遊ぼ〜！」ノシ

U「アトミラール〜」ノシ

提督「今行くよ〜！」

〜提督、お嫁さん達の元へ〜

呂「えへへ♡ 提督、捕まえたって♡」ダキツキ

U「あ、ずるい……ユーも♡」ギユーツ

提督「あはは、こんな可愛い娘達に捕まるなら本望だ」ニカツ

呂「えへへ♡ 提督がろーちゃん達のこと可愛いって♡」ニヨ

ニヨ

U「嬉しいね、ろーちゃん♡」ニマニマ

提督（まさに両手に花！ 両手に天使！ 俺は人生勝ち組だぜ！）

呂「ねえ提督、ちゆうしよ♡」

提督「勿論！」

ちゅっ♡

呂「ん〜……んっ……っ……ちゅっ……ちゅう……ぷはあ♡ えへへ♡」スリスリ

提督「あはは」ニコニコ

クイクイ↑反対側から引っ張られる

提督「？」クルツ

U「ゆ、ユーも……ちゅう、したい♡／／／」モジモジ

提督「ああ、俺もユーとしたいよ」ニカッ

U「っ♡ ん〜♡」クチビルサシダシ

ちゅっ♡

U「あむ……んふう……ちゅっ……っ……んむう……んはあ♡ ア

トミラール……激し過ぎ♡／／／」ドキドキ

提督「ユーが可愛いから悪い」

U「う、嬉しい……♡ Danke♡」ニヘー

呂「むう〜、ろーちゃんは!?! ろーちゃんは可愛くないの!?!」プン

スカ

U「ろーちゃん、めっ。今のアトミラールはユーの!」

〜両手に花（乱れ咲き）状態である〜

提督「ほらほら、ケンカするな。どっちも可愛い俺の自慢の嫁さんだ。プロポーズした時にずっと三人で仲良く過ごそうって約束したろう?」

呂「提督……」キュン

U「アトミラール……」キュン

提督「せっかくの新婚旅行なんだ。ケンカなんかせずに楽しく過ごそうぜ?」ナデナデ

呂「は〜い♡」ニパッ

U「はい♡」ニコッ

提督「うんうん、二人にはやっぱり笑顔が一番だ♪」

呂・U『〜♡』デレツデレ
ー。

呂「あっ、そうそう、提督! ろーちゃん達の水着姿はどう? 可

愛い?」「ニコニコ

U「につ、似合ってますか?／／／／」

提督「マジマジ

(二人共黒のビキニ姿……)

提督「(?!?)」b「GJ!」

呂「えへへ♡ やった♡」バンザーイ

U「嬉しいですう♡／／／／」クネクネ

提督(可愛過ぎて昇天しそうだ……／／／／)

／それから存分に遊んだ

◇パラソルの下◇

／提督、休憩中

提督「くはく……かなり遊んだな」ネコロビ

呂「ユーちゃん、あそこまで泳ご♪」

U「うん♪」

／ワイワイキヤツキヤツ

提督「二人共元気だな……流石は艦娘だな……」

提督「ボケエ

提督(ああやって楽しく遊んでる海が、二人の戦場なんだよな……)

呂「綺麗なお魚いた♪」キヤツキヤツ

U「あっちにはウミガメがいたよ!」キヤハハツ

提督(ただの人間である俺にはあの二人の代わりに戦場に行けない

……)

提督「俺は二人に守られて、二人を守るのは俺の戦術次第なんだよな……」

提督「二人を必ず守り通す……勿論、鎮守府の皆も全員な」

／そして提督はいつの間にか寝落ち

／。

提督「パチツ

呂「あつ! 提督、起きた♪!」ニパツ

U「Guten Morgen! アトミラール♪」ニコツ

提督「おゝ、悪いな。寝ちまつてた……」

呂「大丈夫♪ ユーちゃんと遊んでたから♪」

U「はい♪ とても楽しかった♪」クスクス

提督「そっかそっか、そいつは良かった」ナデナデ

呂・U『』クスクス

提督「？ 何でそんなに笑ってるんだ？」

呂「手鏡貸してあげるって♪」つ手鏡

提督「んゝ……ファツ!？」

U「」クスクス

ゝ提督の身体には無数のアザがゝ

提督「何だこれ!? 虫刺されか!？」

呂「むゝゝ、失礼しちゃうゝ」プクウ

提督「へ?」

U「それはユーとろーちゃんに付けたキスマーク……です♡／／／

／テレツ

提督「(。ㇿ。)」ナニ？

呂「提督がろーちゃん達のキスでも起きなかつたからお仕置きした

の♡」ニへへ

U「えへへ♡ ごめんなさい♡」テへペロ

提督「」ズキューーン

(可愛いから許さざるを得ない!)

提督「俺も後で付けてやる」

呂「うん♡ 付けて付けてゝ♡」

U「ユー達がアトミラールのだってみんなに分かるように、付けて

ほしい♡」

提督「目立つのを付けてやるさ」ニカツ

呂・U『』ニパー

くゝゝ↑お腹が鳴る音

呂「あ／／／／」

U「あう／／／／」

提督「はは、昼飯にするか」ニツ

呂・U『うん♡』

く少し遅めの昼食く

呂「おにぎり美味しい♪」ムグムグ

U「サンドイッチも美味しい」ハグハグ

提督「宿泊してるホテルのサービスって何でもしてくれるんだな
く」パクパク

(高い金払った甲斐があったな)

呂「この後どうするく?」

U「砂浜でお城でも作る?」

提督「いいじゃんそれ♪ 傑作作ろうぜ!」

呂「うん♪ 頑張って作るですって!」

U「頑張ろく」ニコニコ

く昼食も終えて食休みく

提督「あく、幸せだなく」

呂「ろーちゃんもく♡」

U「ユーも幸せです♡」

く二人は提督の膝枕で休憩中く

提督「これからも仲良く三人で過ごそうな♪」ナデナデ

呂「ずっと一緒、ですって♡」ニへへ

U「ユー達は今後もアトミラールと共に♡」ニコツ

そして三人はその後ラブラブな新婚旅行を満喫するのであつ
たー。

U—511&呂500 完

コマンドアンテ・カツペリーニとケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇執務室◇

カツペ「んあゝ、今日の仕事もやっと終わるかあゝ！」

提督「終わりのも何も、お前はずっと俺の膝の上で昼寝しただけじゃねえか」

カツペ「ああん？ 何当たり前のこと言ってるんだい？」

提督「いや、本当に。さもめっちゃ仕事して疲れたみたいなの雰囲気出してるのが遺憾だな」

カツペ「あたいの任務は提督さんの側を離れないことだぜ？」

提督「護衛任務ということか？」

カツペ「そうだよ」

提督「なぜ？ 鎮守府も敵の空襲を受ける可能性は0ではないが、鎮守府は安全だし執務室は更に安全なんだが？」

提督「妻が言っていることが分からないよ」

カツペ「はあゝ」

提督「なんだ、そのクソでかいたため息は？」

カツペ「何も分かってないからだお」

提督「……いや、本当に謎なんだが？」

カツペ「鎮守府は危ない」

提督「だからなぜ？」

カツペ「提督さんを狙う雌狐がいるお！」

提督「奥様はそう断言し、提督にマーキングするように頬を胸板に擦り付けるよ」

カツペ「提督さんは超が付く鈍感男だからさあ、あたいがこうやって見張ってないと不安で堪えないだお」

提督「そんなにか……？」

カツペ「そんなに、だお！ そもそもなんで提督さんは色んな子に接近を許すのさ!?! 距離感おかしいとか思わないの!?!」

提督「家族なら当たり前……」

カツペ「うん、分かっているお。提督さんがあたいたち艦娘を家族だと思ってくれてるのも、本当に家族みたいに接してくれてるのも。だからみんな提督さんが好きなのさ」

提督「喜ばしいことだな……」

カツペ「つて思うじゃん!? しかーし!」

提督「しかし?」

カツペ「そのせいで提督さんLOVE勢は未だに提督さんとケツコ
ン出来るかもつて望みを捨ててないんだお!」

提督「俺の妻はカツペリーニだけだ」

カツペ「んあゝ! やめて! マジレスされるとキュン死にするか
ら!」

く抗議するように提督の胸板を軽く叩く奥様く

提督「しかし俺は本当のことを……」

カツペ「とにかく! そうやって誰に対しても優しいから雌狐があ
とを立たなくて、あたいはそれが心配だからこうして常に見張つて
るつてこと!」

提督「浮気なんてしない」

カツペ「だからマジレスするなあ! ケツコンして! もう大好き
が止まらない!」

提督「もうしているだろう……大丈夫か?」

カツペ「提督さんのせいだおおおあああつ!」

提督「ええ……」

く奥様の謎な発狂に提督は困惑したく

カツペ「はあく、なんであたいはつかこんな目に遭わなきゃなんな
いのさあ」アタマグリグリ

提督「………」ニガワライ

カツペ「あーもう好き。大好き。愛してる。そんな言葉なんかじゃ
足りないくらい愛してる」

提督「情熱的だな」ナデナデ

カツペ「提督さんはクールだねえ」

提督「……ただの照れ隠しさ」

カツペ「おつ、それならちよつと嬉しい♡」

くちよつとどころかとても嬉しいという感じの奥様く

カツペ「まあとにかく、あたいは今後とも任務で提督さんの側を離れる時以外は今のまま過ごすから、そこんどこよろしく♡」

提督「純粹に邪魔なんだが？」

カツペ「殴っていい？」

提督「お前は俺を殴れない」

カツペ「……………ずるい」

提督「愛する者へ暴力を振るうような人に永遠の愛なんて誓えないからな」

カツペ「あたいを幸せにし殺すつもりだ」

提督「人を殺人者にしないでくれないか？」

カツペ「だって、あたいの心臓を止めに掛かってるんだもん」

く奥様は提督の胸板に抗議の頭グリグリをしたく

提督「そんなつもりはないんだがなあ」

カツペ「あたいがそう感じてるからそうなのー」

提督「分かった分かった。俺が悪かった」

カツペ「ん！ よろしい！」

提督「じゃあそろそろ退いてくれ。戸締まりをして、官舎に戻ろう」

カツペ「りよっ！」

く奥様は元気に返すと、提督の背中にしがみついたく

提督「ダツコちゃん人形か、お前は」

カツペ「提督さんのお嫁さーん♡」

くそんな妻に提督はそれ以上何も言うことはせず、戸締まりをして

長官官舎へと戻ったく

◇長官官舎◇

カツペ「ただいまー！」

提督「おかえり」

カツペ「提督さんもおかえりー！」

提督「ああ、ただいま」

カツペ「お風呂入るー?」

提督「ああ、そうしよう。明日もまた執務が待っているからな」

カツペ「あたかも提督さんの護衛任務頑張らなきゃ!」

提督「せめて膝の上じゃなくて隣に椅子を持ってきて待機しててくれないか?」

カツペ「えー、なんでさー?」

提督「色々和我慢するのがしんどくてな」

カツペ「……………提督さんのえっち♡」

提督「好きな女性がベタベタしてきたら男なら反応するもんだ」

カツペ「おー、いいこと聞いたー♡」

「奥様は何かイケないことを思い付いた様子」

提督「なんだ、その含みのある言い方は?」

カツペ「提督さんが持つてるそういう本みたいに、机の下に隠れて

提督さんの単装砲を入念に整備してあげようかなって♡」

提督「したら問答無用で長期遠征に向かわせる」

カツペ「絶対しないお!」

提督「ん、よろしい」ナデナデ

カツペ「じゃあ仕方ないから隣で座っててあげるおー」

提督「いいことだ」

カツペ「その代わり、あたいのお願いは何でも聞いてもらうからね!♡」

提督「なぜ?」

カツペ「だって構ってほしいもん♡」

提督「……………分かった」

カツペ「うん♡」

後日、執務室はさらなる甘々ムードが充満する空間となったそう――。

カツペリーニ 完

ルイージ・トレツリとケツコンしました。

某鎮守府、昼前ー

◇執務室◇

提督「はい……はい……ええ、存じています」

提督、お偉いさんと電話中

トントントントー

提督「……いえ、そういうことでは……」

ガチャーー

ルイ「てくとく？」ピヨコ

提督「ニコツ

提督、ジエスチャーでルイに静かにするよう頼む

ルイ「♡」コクコク

ルイ、静かにドアを閉めてソファアへ

提督「確かにそうかもしれないですけど……」コマリエガオ

ルイ（どうしたんだろ……いつもより困った顔してる）

提督「はあ……分かりました。それで所属は……はい、了解しまし

た。ではー

ルイ（……所属？ え、もしかしてあたし、また所属変わっちゃう

とか!?) ガーン

ルイ（そんなのヤダ!）ダツ

カチャン……

提督「ふう……ごめんね。ちよつと先輩からのお願いの電話で

……」

ルイの姿はない

提督「あれ？」クビカシゲ

◇埠頭◇

ルイ「ハアハア

埠頭まで走ってきた

ルイ（何で逃げてるんだろう、あたし……逃げたって所属が変わっちゃうのは変えられないのに）

ルイ（艦時代の頃は所属が変わっても、何も思わなかったのにな……）

背中トントナー

ルイ「？」クルツ

ろ「こんにちはくですって♪」ニコツ

ルイ「ろーちゃん、やつほー」ニコツ

ろ「提督が探してたよ？ 何かしちやつたの？」

ルイ「なはは……まあ、ちよつとねく」ニガワライ

ろ「悪いことをしたらすぐに謝ったほうがいいよ？」

ルイ「あく……うん、そうだね」

（ただあたしが勝手に逃げちやつてるだけなんだけどなく）

ろルイ、あることを思いつくく

ルイ「ねえねえ、ろーちゃん。ちよつと相談してもいい？」

ろ「？ うん、ろーちゃんにおまかせ！ ですって♪」ニパツ

ルイ「ありがと。あのね、これはあたしの友達夫婦のことなんだけどね」

ろ「」コクコク

ルイ「その友達は大好きな人と愛し合ってるのに今度、仕事の関係で離れ離れになっちゃうんだって」

ろ「」フムフム

ルイ「その友達の相手の人は大人で友達と離れても平気そうなんだけど、その友達はどうしても離れたくないんだって」

ろ「」ウンウン

ルイ「でね、どうしたら離れ離れにならずに済むかなくって相談なんだけど……難しいよね？」ニガワライ

ろ「……」ウーン

ルイ「あ、無理に答え出さなくてもいいからね？ あたしもこれってのが全く浮かばないし……」

ろ「ねえねえ、お友達の夫婦はお互いのことが大好きなんだよね？」

ルイ「え……うん、そりゃあね。いつも一緒の部屋で暮らしてるし、毎日キスもしてるし……」

ろ「じゃあ、どっちが遠くに行っちゃうの？」

ルイ「多分、あたし……の友達」

ろ「なら大好きな人も一緒に連れてつちやうとか……そのお友達のおうちにその人も住むの♪」

ルイ「……あく、ね……」ニガワライ

ろ「お互いがお互いを好き好きなんだったら、変に考える必要ないと思うなく……お互いの距離は離れても、心の距離が離れることはないはずだもん」

ルイ「……心の距離、か」トクン

スクツ↑ルイ、立ち上がる

ルイ「なんか少し軽くなった。ありがとね、ろーちゃん♪」

ろ「うん♪ あ、提督がいるよ？ 行ってあげなよ♪」

ルイ「うん、今行く♪」

そして時は過ぎて夕方にー

◇執務室◇

提督「ん、今日の仕事はこんなところか」ノビー

ルイ「お疲れ、はい、お茶」つ湯呑

提督「ああ、ありがとう」ウケトリ

ルイ、提督の膝の上へ

ルイ「……」ギユツ

提督「……昼頃から様子がおかしいけど、何かあったのか？」ナゲ
ナゲ

ルイ「……ちよつと、ね」ニガワライ

提督「僕で良ければ相談に乗るぞ？」

ルイ「うん……」

提督「僕らは夫婦だ。一人じゃどうしようもないことも、二人でなら乗り越えられるはずさ」オデコチュツ

ルイ「あんっ……そう、だよね♡」ニコツ

「ルイ、決心する」

ルイ「あの、ね……あたしね？」モジモジ

提督「うん」

ルイ「あたしの所属がどんなに変わっても、心は提督の側にいるから！／＼／＼／＼ だから提督も……提督もあたしのこと忘れないで！／＼／＼」

提督「………ん？」クビカシゲ

提督「え〜つと、まあ、君を忘れることはないよ？ これからも君はずっと僕のお嫁さんな訳だし……」ナデナデ

ルイ「え？ だってお昼に電話で所属がどうのって……」

提督「ああ、あの電話は今度の合同演習の紅白戦についての打ち合わせだよ」

ルイ「へ？」

提督「うちの潜水艦隊は他所よりも高い練度だ。その僕達がどちらの所属になるかで、演習の内容は大きく変わる」

ルイ「………」

提督「つまり、僕達をみんな自陣に入れてくて仕方ないのさ♪ だから昼の電話も先輩から、うちの紅組に所属しろってお願いの電話だったんだ」アハハ

ルイ「………／＼／＼」プルプル

提督「うわあ、凄い顔が赤いけどどうかしたのかい？」

ルイ「提督のバカ！／＼／＼ バカバカバカバカ！／＼／＼」ポカポカ

提督「ちよ、ええ………何で？」イタイ

ルイ「所属とか言うから、てつきりあたしの所属が変わっちゃうのかと思ったの！ 提督と離れ離れになっちゃうのかと思ったの！」

提督「ああ、そういうことか………それは申し訳ないことをしたね」ニガワライ

ルイ「ヤダ！ 許さない！ あたしとつてもとつても不安だったんだから！」プイツ

提督「ニガワライ

ルイ「……………許してほしい？」チラッ

提督「ああ、勿論」

ルイ「じゃあ、ん♡」リョウテヒロゲ

提督「？」

ルイ「抱っこ！ 抱っこしてくれれば許してあげるって言ってるの！」プンブン

提督「あく…………ごめんね、僕だけのお姫様」ギユッ

ルイ「えへへ、あい♡ はにやはにや♡」スリスリ

ルイ「ちゅうしてくれたら、もつと許してあげても…………いいよ？♡

／／／／「チラッチラッ

提督「仰せのままに♪」チュッ

ルイ「んゝっ♡」チュッチュッ

後日、合同演習で提督率いる潜水艦隊は紅組艦隊を勝利に導いた。

そして夫婦はひと目をはばかりることなく、勝利のキスをして砂糖を

振り撒いたそうなの。

ルイージ・トレツリ 完

サーモンとケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇執務室◇

提督「んー、今日もよく働いたなあ、俺……」ノビー

サーモン「お疲れー、Admiral♪」

く本日の業務を終えた夫婦く

提督「サーモン、カモン」

サーモン「それホント好きだねー」ニガワライ

提督「言いやすいし韻踏んでいいじゃん？ それよりほら」カモンカモン

サーモン「はいはい♡」ピヨーン

く奥様は提督の胸板にダイブく

提督「はあ、仕事が終わったと実感する瞬間だ……スンスン♪」

サーモン「相変わらず好きだねー、Admiralは♡」クンカクンカ

提督「サーモンだつてどさくさに紛れて俺の匂い嗅いでるじゃないか。おあいこだおあいこ」

サーモン「ま、確かに♡」

く夫婦は互いの匂いを嗅ぎ合うく

提督「よし、サーモン吸い終わり！ 戻って風呂入って飯だ！」

サーモン「アイアイサー♪」

くこうして夫婦は戸締まりして長官官舎へ手を繋いで戻ったく

◇長官官舎・風呂場◇

カポーン

提督「潜水艦とはいえ、よくもまあ毎回毎回狭い風呂に入ってくるもんだ」ナデナデ

サーモン「はあ、文句あんの？ アタシが好きで入ってたからいいじゃん！ つか今更！ ケツコンする前から一緒に入ってたのに！」

提督「それはいくら注意してもお前が入ってくるからで……」ニガワライ

サーモン「そりゃあ、そういうフンイキ?になればシちゃうけどさあ……今日みたいにまつたり入る日だってあるじゃん」

提督「雰囲気というか、その時は毎回お前から仕掛けてくるけどな」

サーモン「Admiral ってまだまだ若いくせに枯れてるよねえ……(まあその気にさせたもん勝ちなんだけど)」

提督「聞こえてるぞ」ベシ

サーモン「あてつ……だつてホントのことじゃん?」ニツシツシ

提督「それはお前が煽るから……」

サーモン「クソザコAdmiral ♪ 頑張れ頑張れ ♪ 元気で

ろーだせー♡ つてね♪」ホツペチュツ

提督「ムカつくのにかわいいから質が悪い」

「なんだかんだ提督は奥様に弱いのだ」

提督「さて、のぼせる前に上がるか……」

サーモン「はい♪」

……………

提督「おい……どけよ。お前が上がらないと俺が上がれない」

サーモン「んー、もうちよいくつついてたいかなって♡」

「そう言つて提督の胸板に背中を押し付ける」

サーモン「海みたいに広いのも好きだけど、こうしてAdmiralのすぐ近くにのぼせるのってアタシ好きなんだよね♡ あー、ここが

アタシだけの特等席なんだ♡って実感するし♡」

提督「実はサーモンつてめっちゃ甘えん坊だよな」ナデナデ

サーモン「そりゃあね♡」ニパー

「その後提督は奥様が満足するまで頭を撫でてやった」

◇居間◇

提督「結局のぼせる寸前まで入ることになるとは……」

サーモン「えへへ……Sorry♡」

「長めの入浴後、夫婦は仲良く遅めの晩御飯」

提督「鳳翔さんが今日は開いてて助かった。でないと今から料

理する羽目になったからな」

サーモン「ヤーセンイーツ様々だね！」

提督「川内を夜戦に向かわせないためにやらせたデリバリー代行サービスだったが、思いの外注文も多いからアイツも満足してるっほいんだよな」

く夜間の警戒任務に出ている艦隊にも大好評く

提督「デリバリー限定のモツ煮と牛すじ煮込みと煮卵丼は悪魔的な美味さだぜ、マジで」

サーモン「アタシはやっぱピザかな！ 祖国の味！」

提督「でもイタリア艦の子たちが作るピザはあんま喜ばないよな、サーモンって」

サーモン「あれはピッツアだからね」

提督（何が違うのかは訊かないでおこう）

「んじゃ、いただきますー！」人

サーモン「いただきますーす！」人

くそれから夫婦は鳳翔の美味しい料理に舌鼓を打ったく

◇寝室◇

提督「歯磨きヨシッ！」

サーモン「布団ヨシッ！」

バフツ！

く夫婦揃って布団にダイブく

サーモン「んく、明日も頑張ろうね、Admiralく♪」

提督「そうだな」

サーモン「ねえねえ」

提督「はいはい、おいで」

サーモン「えへへ♡」

ころころ……とんつ♡

く奥様は大好きな提督の胸板に転がり込むく

提督「毎回思うけど、どうせこうなるのになんで布団二つ敷くんだけ？」

サーモン「ころころするのが楽しいから！」

提督「子どもか」

サーモン「見た目はそうかもしれないけど、そんな子ども体型をひいひい言わせる Admiral は鬼畜？」

提督「愛した人がたまたまそういう体型だった……それだけだ」

サーモン「あはっ、物は言い様ってね♪」

く奥様はケラケラ笑って提督の胸板に顔を埋めるく

提督「どうした？」

サーモン「んーん……ただ、好きだなあって♡」

提督「甘えん坊スイッチが入ったか」

サーモン「ま、そんなところ♡ はあ、Admiral 好き♡ 好き

好き♡」スリスリ

提督「よしよし……」ナデナデ

く提督は奥様の頭を何度も何度も優しく撫でたく

サーモン「んく、眠くなってきたく。もつともつとAdmiral

に甘えたいのにく」アタマグリグリ

提督「明日もまた甘えればいいだろ」ナデナデ

サーモン「今がいいのく！ なのに眠いのく！」

提督「わがままだなあ」ニガワライ

サーモン「それだけ好きなんだもん……♡」

提督「嬉しい限りだね」

サーモン「えへへ、だよねだよねー♡」

提督「ほら、もう寝よう」ナデナデ

サーモン「はい♡ ちゃんと夢まで会いに来てね♡」

提督「無茶言うな」

サーモン「ブーブー♡」

こうして夫婦は今宵も仲良く寄り添って眠りに就く――。

サーモン 完

ドラムとケツコンしました。《新艦娘》

某鎮守府、昼—

◇執務室◇

提督「こんなもんかな」

♪提督、手際よく午前の執務を終えた♪

ドラム「お！ やつと終わったのか!? 待ちくたびれたぜ！」

♪奥様ドラムはソファから起き上がり、提督の膝上に横抱きになるよう座った♪

ドラム「へへ、ちゃんといい子で待ってたんだから、頭撫でろ！」

提督「ああ、いい子いい子」ナデナデ

ドラム「えへえ♪ 待ってた甲斐があるってもんだ♪」

提督「待たせて悪かったね……」ナデナデ

ドラム「そう思うなら執務中も膝の上にいさせてくれよ。ソファで寝そべってるの寂しいんだぞ？」

提督「それは駄目。仕事中にドラムが膝の上にいると仕事が遅くなる」

ドラム「それはハニーがあたいの誘惑に負けるからで、あたいのせいじゃない！」

提督「それが問題なんだよ。ただ膝の上にいるならいいけど、ドラムは大人しくしてないだろ？」

ドラム「だつて目の前に愛するハニーの唇があるならキスしたくなるだろ？ 首筋があればキスマーク付けたくなるのは当然だし、耳たぶ甘噛みしたくなるのも当然だし……全部ハニーがあたいを魅了したのが悪い！」

提督「なんとという暴論……」ニガワライ

ドラム「そんなあたいがハニーは好きなんだろ？♡」ニヤニヤ

提督「ごもつとも」

ドラム「へへへ♡ それじゃ、キスしたら飯食いに行こうぜ！」

提督「ああ」

くこうして夫婦は仲良くキスをしたく

ーーーーー

◇食堂◇

提督「すっかり遅くなってしまった……」

ドラム「ハニーのせいだな♡」ツヤツヤ

く既に時間は一三〇〇を過ぎているく

間宮「あら、お二人共。遅かったですね……お仕事お疲れ様でした」

伊良湖「お疲れ様です！」

提督「ハハハ……どうも」

ドラム「お疲れさーん♡」ツヤツヤ

間宮「あら」サツシ

伊良湖「？」

間宮「本日はうなぎがありますが、どうします？」

提督「ああ、ならそれを頂こうかな」

ドラム「あたいテリヤキバーガーセット！ 飲み物はコーラで！」

間宮「畏まりました」ニコリ

伊良湖「少々お待ちください！」

そしてー

提督「うん……あさりの味噌汁が身にしみる」

く提督はうな重定食で、あさりの味噌汁と長芋のとろろ付きく

ドラム「Japanってホント食を魔改造する天才の国だよなー！

祖国のハンバーガーがこんな美味しいものに化けるんだからー！」

提督「アメリカのハンバーガーも私は好きだがな」

ドラム「あたかもそりゃあ好きだよ？ でもJapanのを食べた

ら、もうJapanの味に上書きされちゃったからねー。普通のハン

バーガーでさえJapanの方が小さいけど好きだよ」

提督「食の好みが合うのはいいことだ」

ドラム「美味しい国Japanだもんな！」

提督「あはは、そうだな」

くこうして楽しい食事の時間を夫婦は過ごしたく

ーーーーー

◇執務室◇

ドラム「午後は午後でまた暇だな」

くドラム、ソファで寝そべって足をバタバタさせるく

提督「そう言わないでくれ……ただでさえ予定になかったタイムロスで午後の執務が遅れてるんだ。大人しく待っててくれ」

ドラム「まるであたいのせいみたいに言うじゃん？」

提督「ドラムのせいだからね……」

ドラム「自分だってノリノリだったくせに……あたいのハニー専用格納庫、弾薬溢れてきてるんだけど？」

提督「それはすまん……いや、離してくれなかったのはドラムじゃないか」

ドラム「だってあたいの格納庫に入りたくて製造されたのに格納庫に入れてやれないのはかわいそうだろ？」

提督「そう言われるとなんとも……」

ドラム「あ」

提督「ん？」

ドラム「パンツやばい」

提督「早くトイレ行ってこい！」

ドラム「焦っちゃって……可愛いんだ♡」

提督「ドラムさん？」ニツコリ

ドラム「あ、と……トイレ行ってきまーす」

提督「……つたく」

ー

ドラム「ただいまく」

提督「ああ、お帰り。大事なかったか？」

ドラム「うん。結局全部溢れて来ちやったけど」

提督「それはまあ、仕方ないな」

ドラム「うん。だからさ」

提督「ん？」

くドラムは提督の側までやって来たく

ドラム「また補給してくれ♡」

提督「……夜になったらな」

ドラム「えー！ 今ー！ 今がいいー！」

提督「執務中」

ドラム「休憩！ 補給休憩にしよう！」ナデナデ

提督「おやつ休憩みたいに言うな。それと撫でるな」

ドラム「格納庫満タンの満足感をあたいに教えたのハニーなのに……」イジイジ

提督「確かに私の責任もあるが……だから弄るな」

ドラム「満タンじゃないと寂しい……あ、ちよつと射角上がってきたじゃん♡」クニクニ

提督「ドラム」

ドラム「はい、ハニー専用格納庫はこちらです♡ C'mon♡」

くスカートたくし上げく

提督「……一度だけだからな」

ドラム「ハニー♡」キュンキュン

こうして夫婦は休憩（意味深）に入り、本日の業務は残業確定になるのだったー。

ドラム 完

スキャンプとケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎ――

◇執務室◇

スキャンプ「Admiral♡ 寂しかったんだぞ♡ 良くもあたいを一人にしてくれたな♡」ギューツ

提督『すまんすまん。何でも言うことを聞くから、許してくれ』

スキャンプ「ならずつとずつと一緒に過ごせ♡ じゃなきやあたいの魚雷を食らわせてやる♡」

提督『そんなのお安い御用さ。寧ろ一生一緒にいよう』

スキャンプ「んへ♡ Admiralのくせにカツコつけやがって♡ その言葉忘れんなよ♡?♡」

スキャンプはずつと提督が普段使っているクッションを抱きしめながら、虚ろな目で虚空に話し続ける

アイオワ「ねえ、スキャンプは一体どうしちゃったの?」

フレツチャー「えつと、スキャンプさんはずっと長期遠征で鎮守府を留守にされてまして、昨夜無事に帰還したのです。ですが、最愛の提督は昨日に大本営から召集令状を受けて会議に向かったあとでしたので……」

ジョンストン「やっと会えると思ってたのに会えないってなって、幻覚と喋ってる感じ。一種のホラーよね」

アイオワ「Oh……」

訳を聞いたアイオワはすぐにスキャンプの元へ

アイオワ「Hay、スキャンプ!」

スキャンプ「? ああ、アイオワか。どうかしたのか?」

アイオワ「お昼は食べた?」

スキャンプ「そっぴやまだだな。Admiralと会話するのに夢中で忘れてた……」

アイオワ「……じゃあ、マミーヤでも一緒にどう?」

スキャンプ「待ってくれ。今Admiralに聞いてみる」

アイオワ「……………」

スキャンプ「Admiral、アイオワが——」

スキャンプ「え、あたいとずっと一緒にって言ったのに、置いてくのかって？ そんなことない！ あたいはAdmiralとずっと一緒にいる！」

スキャンプ「分かった。あたいが悪かった。そうだよな。いくら戦友でも、夫婦の時間は誰にも譲っちゃいけないよな」

スキャンプ「という訳で、あたいはAdmiralと一緒にいるから、今回は遠慮しとく」

アイオワ「スキャンプ、正気に戻って！ Admiralはそこになんないわ！ あるのはただのイエスorはい枕よ！」

ジョンストン「イエスかはいかしくない枕ってなんなの……」

フレッチャー「ノーなんて選択肢はないという、数ある愛の形の一つでしょう」ニガワライ

スキャンプ「アイオワはどうして、んな残酷なこと言えるんだ？

Admiralはちやんとここに——」

提督だと思っていた物が、実はクツションだったことが分かってしまうスキャンプ

スキャンプ「あ、ああ……」

ジョンストン「ねえ、ヤバくないアレ？」

フレッチャー「麻醉銃は準備してあるわよ？」

ジョンストン「すつごく物騒！」

一色触発の空気の中、

ガチャリ

提督「すまん。会議が長引いて向こうで一泊する羽目になった」
旦那が無事にご帰還。

提督の声が聞こえた瞬間、スキャンプの目に光りが戻る

スキャンプ「Admiral！♡」

ガバツ！

ドシンツ！

提督「あ、頭が……ぐああつ!？」

スキャンプ「大丈夫か!? 誰にやられた!? アイオワか!」

アイオワ「Why!」

フレツチャー「お前だよ」ニコニコ

ジョンストン「ね、ねえ、フレツチャー。実はすつごくスキャンプのことで腹立ってたりしたの?」

フレツチャー「いいえ? ただ、昨日からブツブツブツブツブツブツと煩くて眠れなかったから、羽虫程度には腹立ってるけれど?」ニコニコ

ジョンストン「めっちゃ腹立ってる!」

アイオワ「ねえ、そんなことより誤解解いてくれない!」

その後、無事に誤解は解け、アイオワは退室し、ジョンストンはフレツチャーを仮眠室へと連れて行くことに

スキャンプ「Admiral」♡ あたいだけのAdmiral♡「ゴロゴロニヤーン」

提督「本当に申し訳なかった。スキャンプ」ナデナデ
スキャンプ「あたいは優しいから許してやる♡ 一生一緒にいてくれるって約束したし♡」

提督「? ああ、一生一緒だ」

スキャンプ「あたいう二度と長期遠征行かない♡」

提督「……分かった。他の艦娘に頼もう」

スキャンプ「んじゃ、飯行こうぜ飯っ!♡」

提督「ああ、そうだな。遅くなったが、間宮で何か美味しいものでも食おう」

スキャンプ「へへ、腹ごしらえしたら、あとは何するか分かってるよな?♡」

スキャンプはそう言うと、提督の胸元をクリクリと指で弄る

提督「いきなりだな……」

スキャンプ「ダメなのか?」ウルウル

提督「……分かった。でも風呂入ってからな」

スキャンプ「じゃあじゃあ、風呂でもしようぜ!♡ あたいうも我慢出来ないからさ!♡」

提督「……お、おう」

スキヤンプ「くっ♡」スリスリ

その後、提督は美味しく頂かれ、やつれた状態で翌日執務をこなしていた――。

スキヤンプ 完

まるゆとケツコンしました。

某鎮守府、朝――

◆提督&まるゆの部屋◆

まるゆ「パチッ

むくりー

まるゆ「コシコシ

キヨロキヨロー

まるゆ「隊長がいない」

まるゆ（もう起きてるのかな……）

テコテコー

ガラガラー

まるゆ「隊長……？」

まるゆ（居ない……）

くドア前を確認く

まるゆ（靴が無い……もう執務室に行ったのかな？）

ガチャー

まるゆ「あ」

まるゆ（隊長の背中が見える）

まるゆ「隊長く！」

女提「

まるゆ「あれ？ 聞こえないのかな？」

テコテコー

まるゆ「あれ？ 隊長がどんどん遠くに？」

タツタツター

まるゆ「隊長く！ 待ってください！ 置いて行かないでくださ

い！」

女提「クルリ

まるゆ「隊長く！」タツタツタツ

女提「ばいばい、まるゆ」

まるゆ「え、隊長？ どういうことですか？ 隊長！」
くどんどん遠ざかる提督の姿く
待ってくださいつ！ 隊長おおおおつ！

◇提督&まるゆの部屋◇

まるゆ「っ!?」ガバツ

キョロキョロー

まるゆ「夢……か……」ホッ

まるゆ（良かったあ〜）

すう……すう……

まるゆ「？」

く提督熟睡中く

まるゆ「クスクス

まるゆ（まるゆはとっても怖い夢を見たのに、隊長はいつも通りで

すね♪）

女提「くく……」スースー

まるゆ（丁度良い時間だし、朝ご飯作ろ♪）

テコテコー

くエプロン装備しキッチンへく

まるゆ「隊長の朝はパン♪」

まるゆ「起きてからトースターに入ればいいから、やかんでお湯

を沸かして……」コポコポ

まるゆ「目玉焼きベーコンと簡単なサラダ♪」テキパキ

くモーニングセット完成！く

まるゆ「テーブルに持ってこ♪」ルンルン

◇茶の間◇

まるゆ「？」

くテーブルの上に紙が一枚く

まるゆ「書類かな？」ペラッ

まるゆ「!？」

『大本営異動令状』

まるゆ（異動……隊長が？）

まるゆ（ここから出て行っちゃうの!?)

ガラガラー

まるゆ「!?’ビクッ

女提「おはよ、まるゆ〜」アフ

まるゆ「お、おはようございます!’」サツ

女提「あ〜、朝ご飯用意してくれたの〜?’」

まるゆ「は、はい。今日は早くに目が覚めたので……」

女提「ありがと〜♪」ナデナデ

まるゆ「は、はい」

女提「いつもは喜んでくれるのに、今日はぎこちないね〜。何か

あった?’」

まるゆ「い、いえ! ちよつと怖い夢を見たので……」

女提「そつかく、大丈夫大丈夫」ギユツ

まるゆ「はい……」

〜朝食を済ませた提督はお仕事へ〜

そして昼前〜

〜まるゆ部屋の掃除中〜

まるゆ「はあ……」

まるゆ（隊長、ここから出て行っちゃうのかな?）

まるゆ（だからあんな夢を見たのかな?）

まるゆ「はあ……」

コンコンー

まるゆ「は、は〜い!’」

ガチャー

ゴーヤ「こんにちは〜♪」

まるゆ「あ、ゴーヤさん。こんにちは」ペコリ

ゴーヤ「今日はオリヨクル無いから遊びにきたでち♪」

（本当はて〜とくがまるゆちゃんの元気がないから心配でゴー

ヤを寄越したでち!）

まるゆ「そ、そうでしたか……今お掃除中なので、ちよつと待つて

てくださいい！」パタパタ

ゴーヤ「ゆっくりでいいでち」ニコニコ

(うくん、確かにちよつといつもと違うでち)

くお掃除終わったので、取り敢えずお茶く

ゴーヤ「まるゆちゃん、なんか元気ないでち。どうかしたの?」

まるゆ「あの……このことゴーヤさんは知ってました?」つ書類

ゴーヤ「?」ウケトリ

く確認中く

ゴーヤ「」

まるゆ「ドキドキ

ゴーヤ(これ、てーとくがこの前断ったって言ってたでち)チラツ

まるゆ「ドキドキ

ゴーヤ(まるゆちゃんが心配するから黙ってたんだろなあ)

まるゆ「あの……」

ゴーヤ「これはちやんとてーとくを問いただすべきでち!」

まるゆ「でも……」

ゴーヤ「早く行くでちく!」グイッグイッ

(面白そうだから敢えてこうしてみるでち♪)

まるゆ「はわくく」ズルズル

くゴーヤ、まるゆを執務室へく

◇執務室◇

まるゆ「ウツムキ

女提「」

女提(何なのこの状況! ゴーヤ! 何を企んでるの!?)

◇執務室の外◇

ゴーヤ「コソツ↑野次馬

◇執務室◇

まるゆ「隊長……」

女提「何?」

まるゆ「隊長が大本営に行っても、まるゆは大丈夫ですから」

女提「」

まるゆ「まるゆは大丈夫ですから！　ですから……」ポロポロ
女提「まるゆ……」

まるゆ「大本営に行っても頑張ってください！」ポロポロ
女提「まるゆ……あの書類見ちゃったの？」

まるゆ「ご、ごめんなさい……」ポロポロ

カタッー

てくてくー

女提「スツ

まるゆ「◇ ◇」

ぎゅっー

まるゆ「た、隊長!?／／／」

女提「ごめんね、まるゆ」ギユツ

まるゆ「だ、大丈夫です。まるゆは大丈夫ですから」ポロポロ

女提「

まるゆ「あ、でも……たまにお手紙は欲しいです」

女提「まゆるを置いて行かないよ」ギユツ

まるゆ「え」

女提「それね、もう断ったの」

まるゆ「ええ!?!」

女提「だって、せっかくまるゆとラブラブな夫婦生活してるのに、大本営なんかに行ったら終わっちゃうじゃない」

まるゆ「隊長……」ポロポロ

女提「まるゆがないんじゃないや、何もやる気出ないもん」ギユツ

まるゆ「隊長」ギユーツ

女提「変な勘違いさせてごめんね」ナデナデ

まるゆ「うわーん」ギユーツ

女提「よーしよし」ナデナデ

くまるゆ泣き止むく

まるゆ「本当にここに残っていいんですか？」

女提「うん」

まるゆ「大出世ですよ？」

女提「私はね、まるゆがそばに居てくれたから、周りから立派な提督って言われてるの」

まるゆ「？」

女提「まるゆのひたむきな姿勢、努力家な所、それを見ていつも私は勇気と諦めない心をもらったの」

まるゆ「隊長……」トクン

女提「大本営にも同じまるゆは居る。でも、私との絆を結んだのはここに居るまるゆなの。こんな大切な人を置いて行くなら出世なんてしないでいい」

まるゆ「隊長……♡」トクントクン

女提「私はゆつくり進んで行ければそれでいいの」ニッコリ

まるゆ「あ」

まるゆ（まるゆが悩んでいた時、隊長はいつも『ゆつくり進んで行ければそれでいいの』って言うてくれましたね）

女提「まるゆ……大好き。これからもよろしくね」チュツ

まるゆ「はい♡」チュツ

まるゆ（まるゆはこれからも、隊長のおそばで頑張ります♡ 隊長

とゆつくり末永く、いつまでも♡）

◇執務室の外◇

ゴーヤ「オロロロ」サトウダバダー

まるゆ 完

伊41とケツコンしました。《新艦娘》

某鎮守府、夜――

◇鎮守府敷地内・長官官舎◇

提督「風呂あがったぞー」

伊41「おう、お帰り！ 飯の準備は出来てるぞー！」

伊41の愛情たつぷりの手料理が並ぶテーブル

提督「今日もありがとうな……愛してるよ」

伊41「んなこと言われなくても分かってるよ……」↑照れくさい

提督「でも言われないうちは言われた方が嬉しいだろ？」

伊41「確かにそうだけど……むず痒いんだよ！」

提督「そうか。41にとつて俺の愛はむず痒いのか……」

提督、わざとらしく落ち込んで見せる

伊41「お、おい！ そんな落ち込むことないじゃんかよ……こういう甘酸っぱいというか……キラキラって感じの時になんて返したらいいか分かんないってだけで……」

提督「うん、知ってる」

伊41「あ！ またからかいやがったな!？」

提督「てんやわんやしてる41が可愛くてな……」ナデナデ

伊41「いい性格してるよな……つつたく」

くからかわれたのは悔しいが、頭を撫でられて嬉しい伊41

提督「それじゃ愛する妻の手料理を頂こうかな」

伊41「いちいち言わなくていいっての！」

――

く温かい食卓が終わり、今度は伊41がお風呂に入った

伊41「風呂終わった！」

提督「おう、お帰り。晩酌の準備は終わってるぞ」

伊41「あんがとな♡」

提督「おう」

くそして伊41はいつものようにあぐらをかく提督の脚の隙間に

収まるく

提督「石鹼のいい匂いがするな……」

伊41「あんま嗅ぐなよ……項のところに息あたってくすぐってえ
♡」

提督「そう言う割にはいつも逃げないよな」

伊41「察しろ……バカ♡」

く束の間の戯れのあとは、待ちに待った晩酌タイムく

伊41「かあくつ……ウイスキーが今日も美味しい♪」

提督「相変わらずの飲みっぷりだな……」

伊41「このために生きてるまでである！」

提督「俺のためじゃないのか……？」

伊41「……んなこつ恥ずかしいこと言うな」

提督「(・ω・)」

伊41「あーもう！んな顔すんなって！そーだよ！大好きな

提督のためにこちとら生きてるよ！」

提督「41愛してる」ギョッ

伊41「だ、だからあ……そういう恥ずかしいことを面と向かって
言うなって、いつも言ってるだろお……胸の奥がキュウってなってヤ
バいんだよお……」

提督「酔ってデレてきやがった。決めにきてるな？」

伊41「茶化すならこのウイスキーの瓶を頭にめり込ませるぜ？」

ニコニコ

くこめかみに血管を浮かばせてドス黒い笑みをを見せて四角いウイ
スキー瓶を見せつける伊41く

提督「暴力いくない」

伊41「先に喧嘩を売ったのは提督だろ……？」

提督「喧嘩いくない」

伊41「ごめんなさいは？」

提督「……ごめんなさい」

伊41「ん、よろしい」

くそう言つて伊41は今度はハイボールを楽しむく

提督「濃くない？」

伊41「薄めだけど？」

提督「炭酸水ほぼ入れてない……」

伊41「カラカラ〜♪」

提督「アル中かよ」

伊41「酔うのは提督にだけ……なんて♡」

提督「酔ってる？」

伊41「酔ってる……かも♡」

提督「誘ってる？」

伊41「誘ってるとしたら？♡」

提督「応えるのが当然だろう」

提督は伊41を優しく抱き上げる

伊41「へへ、食べ頃のお嫁さんだぞ♡」

提督「お酒の力借りないと素直になれないのも変わらないな」

伊41「四六時中イチャイチャしたいなら、他の人を嫁さんにするべきだったなく♡」

提督「俺がそんな気もないこと知ってるくせによく言うな」

伊41「毎日毎日旦那から愛してるって言われてりや、嫌でも気付くつての♡」

提督「ならこれからも言い続けなとな。愛してる」

伊41「ん、もつと♡」

提督「愛してるよ、41」

伊41「へへへ♡」

—————

〜寝室で熱い夜戦（意味深）を過ごした夫婦〜

伊41「はあはあ……相変わらず、はあ……スタミナ、お化け、だな……ふう♡」

提督「その割には何度もおねだりしてきたじゃないか」

伊41「だっ、だつて……」モジモジ

提督「？」

伊41「提督に求められると……あたしまで欲しくなってきた」

……」

提督「……最高かよ」

伊41「お、おい！ 当たってるぞ！」

提督「可愛い嫁のせいだな……駄目か？」

伊41「あと一回だけだから……？♡」

その後、朝までめちやくちやryー。

伊41 完

伊36とケツコンしました。《新艦娘》

某鎮守府、朝ー

◇鎮守府敷地内・長官官舎◇

提督「おはよう、みいむ。今日も頑張ろうな」

みいむ「おはようございます、提督。はい」

く伊36は提督に向かって両手を広げるく

提督「ああ、はい……よしよし」

みいむ「ん……へへへ、提督とのハグがないと一日が始まりません」
スリスリ

提督「相変わらず甘えん坊な、奥様だな」

みいむ「む。それは心外です。提督は甘えん坊な私を知った上で甘
やかし、娶りました。ですので甘えん坊だ、などと言われる筋合いは
ないかと」

提督「それもそうだな……」

く伊36の正論砲に素直にくだる提督く

みいむ「今ので私は大変傷付きました。よってこの傷を癒やすため
にハグをもう五分延長することを要求します」

提督「はいはい、どうぞ」

みいむ「投げやりな態度に追加ダメージを受けー」

提督「可愛いなあ、俺の嫁さんはー！」ナデナデ

みいむ「……まあいいでしょう。その調子で甘やかすように。ハグ
だけでなく、頭やおでこ、頬へキスをするると私の傷は早く回復します」
ゴマンエツ

提督「調子に乗ってきたな？」

みいむ「キスはまだですか？」

提督「仰せの通りに」チュツ

みいむ「んっ……苦しゅうない、です♡」ニパー

提督（惚れた方が負けとはよく言ったものだ）

—————

昼――

◇執務室◇

みいむ「昼食をお持ちしました」

提督「ああ、ありがとう。こつちも丁度終わったところだ」

みいむ「タイミングばっちり♡」

提督「だな」

くそして伊36は褒めるとばかりに提督に向かって頭を差し出す

）

提督「いい子だな、みいむは」ナデナデ

みいむ「えへへへ♡」

提督「今日のメニューはなんだ？」

みいむ「今日はAランチがデミグラスハンバーグで、Bランチがサバの味噌煮です。どちらがいいですか？」

提督「んく、サバの味噌煮で」

みいむ「では私がハンバーグですね」

くメニューも決まり、仲良く昼食タイムく

提督「いただきます」

みいむ「いただきますーす！」

提督「うん、美味しい」

みいむ「ね！ 幸せ！」

提督「間宮たちに感謝だな」

みいむ「私も頑張つて習ってるから、夜は期待してて」

提督「あれ、今日は平安丸の夕飯デリバリーがあるんじゃないか？」

みいむ「それは断つた！ だって今日は私が練習の成果を提督に味わってもらう日だから！」

提督「なるほーね。なら楽しみにしておくよ」

みいむ「満足したらハグ長めのキス増し増しで！」

提督「どこぞのラーメン屋の注文みたいな言い方はやめろ」

みいむ「はーい！」

くこうして夫婦は賑やかで心温まる時間を過ごしたく

――

夜――

◇長官官舎◇

提督「……………みいむさん？」

みいむ「何？」

提督「量多くない？」

みいむ「多い方が作りやすかった！」

提督「まあ肉じゃがは煮込むからね。いっぱい作った方がいいよな？」

みいむ「はい！」

く寸胴鍋いっぱい肉じゃがく

提督「じゃあとりあえずよそつてもらえる？」

みいむ「はい♪」

く井装備く

提督「…………井がデフォ？」

みいむ「え、足りない？　じゃあラーメン井に――」

提督「違う違う。そうじゃそうじゃなあい」

みいむ「君を逃がせないく…………肉じゃが定食く、なんて♡」

提督「乗りが良くて良き」

みいむ「えへへへ♡」

く井に肉じゃがどさーっく

提督「おう」

みいむ「いっぱいおかわりしてね♡」

提督「ガンバリマス」

――

みいむ「おく、いっぱい食べたねく　寸胴鍋の半分は減った！♡」

提督「もう入らない」ケプ

みいむ「明日はこれで肉じゃがコロツケ作るね♡」

提督「また量が半端なくなりそうだな」

みいむ「いっぱい幸せなことだよ♡」

提督「幸せ太りしそう…………」

みいむ「大丈夫♡」

提督「なにゆえ？」

みいむ「それはまだ秘密♡」

—————

◇寝室◇

みいむ「それじゃあ、愛の海に出撃ー♡」

提督「夜戦（意味深）だったか」

みいむ「だめえ？♡」モジモジ

提督「……その聞き方はズルい」

みいむ「えへへ……キスとハグも忘れずに！♡」

提督「分かってるよ……ほら」ギョツ

みいむ「んあ……幸せ！♡」スリスリ

提督「ほら、こつちを向け」

みいむ「ちゅーっ♡」

こうして提督は奥様から愛のフィットネスを受けて、幸せ太りを防
止したそうー。

伊36 完

伊400とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇艦娘宿舎◇

しおん「……………最近、旦那様がしおんの手料理を食べてくれないの」

しおい「ふくん」パリパリ

しおい、テレビを見ながらポテチを食べる

しおん「旦那様と出会って恋に落ち、両想いとなって愛を育み、夫婦となって仲睦まじく生活していたのに…………」オヨヨヨ

イヨ「う、うん」

(もう何回この説明聞かされたのやら…………)

しおん「これが…………世に言う倦怠期だというの!? こんなにも辛い

困難を世のご夫婦方は乗り越えて来ているというの!?!」

ヒトミ「……………」クスン

しおん「……………」もらい泣き

しおん「もしこのまま旦那様に捨てられてしまったら、しおんは…………しおんは…………」

しおん「どうしたらいいのおおっ!」

しおん、テーブルに顔をつ伏して号泣

しおい「ねえ、お姉ちゃん」

しおん「……………」?

しおい「うるさいからちよつと黙ってて。今いいところなの」

しおん「うわあああんっ!」

ヒトミ「し、しおんさん」ナデナデ

イヨ「しおいちゃん、もう少し話聞いてあげようよ」ニガワラ

しおい「無理」

しおん「えうっ…………えぐっ…………うう…………」

ヒトミ「え、えっと、お料理を食べてもらえなくなってどれくらい
なんですか？」

しおん「ぐすつ……今日で三日目になります」

ヒトミ「え？」

イヨ「ちよ、ちよっと待ってよ！ それだけ!？」

しおん「それだけなんて心外です！ 愛する旦那様にしおんの真心
を、愛情を込めたお料理を食べてもらえなくなって三日目になるん
ですよ!？」

イヨ「大袈裟過ぎでしょ！ 姉貴もしおんちゃんに何か言つてよ
!。」

ヒトミ「しおんさん、可哀想……」クスンクスン

イヨ（あく、姉貴もL O V E勢あつちだったの忘れてた）

しおん「あく、もう、うるさいなく！ お姉ちゃんが思ってるよう
なことないから!。」

しおん「でもおおお!。」

しおん「今日の朝もお昼も二人して食堂で食べさせ合ってたくせに
倦怠期とか笑わせないでくんない?。」

イヨ（あく、しおんちゃんもL O V E勢あつちだからキレルよね）

しおん「で、でも、旦那様に今夜は何が食べたいですかと訊ねたら、

『今夜は鎮守府の外へ行つて外食しようか』と仰つたのよ!。」

しおん「だ・か・ら！ お姉ちゃんの考えは極論過ぎって言ってる
の!。」

しおん「でもー!。」

しおん「でもじゃない！ ケツコンしてもデートとかふざげんな!
私も一緒につれてけよ！ 寧ろお願いしますうううっ!。」

イヨ「しおんちゃんしおんちゃん、本心だだ漏れってレベルじゃな
いよ。寧ろ決壊してる」

しおん「つと、こいつは失敬」

イヨ（何キャラなの!?)

ヒトミ「あ、あの、しおんさん。しおんさんはいつも提督にどんな
ものを作つて差し上げていたんですか?。」

しおん「それは勿論、旦那様のことを考えて主食、副菜、主菜の汁三菜に薬味も拘ってます」

ヒトミ「そうなんですか……提督、どうしたのかな？」
しおい「主食になるご飯は？」

しおん「それは勿論、しおん特製のバターライスに決まってるでしょう、何を言ってるのしおいちゃんったら」クスクス

ヒ・イ『あく』ナツトク

イヨ（そーいや最近、提督がいつも胸やけに効く薬飲んでるって噂になってたっけ……）

ヒトミ（毎食バターライスってすごいなあ。毎回作るしおんさんもだけど）

しおん「？」

しおい「それってさ、お姉ちゃんが提督と一緒になってからずっとだよね？」

しおん「？　いいえ、正確にはこのしおんを秘書艦にご任命されてからだから、ケツコン前からよ？」

しおい「それだよ、それ」

しおん「それ？」

イヨ「あ、あく、きつとささ、提督的にはダイエットでもしてるんじゃないかな？」

しおん「え、そうなの？」

ヒトミ「う、うん。最近太ったって言ってるの聞いたから……」

しおん「二人は必死にフォローしたさ」

しおい「提督だつて三十になるんだし、そろそろ他のレパートリー増やした方がいいよ。普通のご飯にするとか普通のご飯にするとか」

しおん「大切なことだから（ryー）」

しおん「なるほど……で、あればこうしてられないわ！　早くお夕飯の準備に取り掛からなくては！」

しおん「疾風のように去っていくしおん」

しおい「はさ、やっと行った」

イヨ「お疲れさ」

しおい「幸せで感覚が麻痺してるのかもしれないけどさ、もう少し自重してほしいよ」

ヒトミ「で、でも、幸せなのはいいことなんじゃ……」

しおい「それは分かってるよ。でも毎回毎回些細なことで悩んでほしくない」

しおい（ま、こういうやり取りが当たり前になってる私も、その幸せに慣れてきてるんだろうなあ）

三人は気を取り直してお茶をすすった

そして、夜――

◇鎮守府内、夫婦の部屋◇

提督「ただいま」

しおん「おかえりなさいませ、旦那様♡」

しおんE・割烹着（スク水の上に）

提督「あれ？ 割烹着なんか着てどうした？」

しおん「はい、旦那様がダイエットをしているのではと考え、デイナーに誘って頂いた身ではありますがしおん自らダイエット食を作りしておりました♡」ニコツ

提督「そ、そうなのかー」

しおん「はい♡ さき、旦那様、着替えて来てくださいます♡」
そして――

しおん「今晚はこんにやくやきのこを中心としたお料理とバターライスではなく、普通のご飯にしました♡」

提督「おお、これはまさしく白米……」カンドウ

しおん「ダイエットとはいえ、必要な糖質は取ってくださいね♡

はい、旦那様♡ あくん♡」つご飯

提督「あくん」モグモグ

提督、自然と涙が

しおん「ど、どうされました!？」

提督「ご、ごめん……まさかしおんから白米を食べさせてもらえる日が来るなんて思わなかったから」ナミダフキフキ

しおん「旦那様……」

提督「これからも俺のために美味しいご飯を炊いてくれ」ギョツ

しおん「っ……はい、旦那様♡」ギョーツ

その後、提督はしおんがいつも炊いた白米を毎食三合食べ続けることになったという。

その分、提督は頑張って運動量を増やしたそうナァー。

伊400 完

伊401とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇潜水艦寮の一室部屋◇

く潜水艦組で雑談く

イク「久しぶりにみんな揃ったのね〜♪」

ゴーヤ「みんな揃うと嬉しいでち〜！」

イムヤ「しおいが司令官とケツコンしてから、暫く時間が合わなかったもんね」クスクス

しおい「あはは……／＼／＼」

ろ「みんな揃うと楽しいって！」

はち「まあ夫婦の時間も大切だけど、友達との時間も大切にしてく〜フフ

まるゆ「今日は隊長が第一艦隊と出撃中だから、来れたんですよね？」ニコニコ

しおい「あ、あう〜／＼／＼」ウツムキ

イク「ふふ、しおいは提督が大好きだもんね〜」ニヤニヤ

ゴーヤ「流石他のラブ勢を倒しただけのことはあるでち」ニヤニヤ
イムヤ「それで、今日はどんな惚気話を聞かせてくれるの？」ニヤ

ニヤ

しおい「の、惚気って……提督と私は普通だよ？／＼／＼」モジモジ

19・58・168・8『嘘乙』

しおい「(。???)」アウ

ろ・ま『ニガワライ

イク「日頃あれだけべったりなのに、どの口が言うのね？」ミギホツ
ペツンツン

ゴーヤ「そうでち。あれだけくっ付いてるくせに〜」ヒダリホツペ
ツンツン

イムヤ「素直に白状なさい？」オデコツンツン

しおい「しよ、しよんにや／＼／＼」アウアウ
まるゆ「まるゆは別に惚気話じゃなくて、ただ隊長としおいちゃんが
がどんな風に過ごしているか聞きたいです」ニコツ

ろ「ろーちゃんも♪」ノシ

しおい「うくん……」

イムヤ「最近はどうな風に過ごしてるの？」

しおい「えくつと……」

◆回想◆

くある日の夫婦く

◇執務室◇

しおい『提督、頼まれた艦装の開発、無事に終わったよ』ニコツ

提督『ありがとう。なら暫く休んでいいよ』

しおい『は〜い♪』

くしおい on the 提督の膝く

しおい『く〜』ゴロゴロ

提督『ナデナデ

しおい『く〜』ハムツ↑提督の指をくわえる

提督『アハハ

しおい『く〜』アムアム↑提督の指を甘噛み

提督『クスクス

しおい『く〜』チューチュー↑提督の指を吸う

提督『ニコニコ

コンコンー

提督『どうぞ〜』

しおい『キリツ↑所定の位置へ戻る

◇現在◇

しおい「ーって感じでかな♡」キヤツ

イク「いつもそうなの？」ニコニコ

しおい「うん♡」デレデレ

イムヤ「羨ましいなく♪」ニコニコ

しおい「そうかな？♡」エへへ

ゴーヤ「幸せそうで何よりでち♪」ニコニコ

しおい「すっごく幸せです♡」デツレエ

はち「ニコニコ

ろ・ま』ニガワライ

しおい「あ、そろそろ提督が戻る時間だ！」ガタツ

イク「なら戻るといいのね」

しおい「片付け任せちゃって、ごめんね」

ゴーヤ「気にしなくていいでち」ニコニコ

しおい「ありがと♪ じゃあまたね」ノシ

くしおい退室く

19・58・168・8『ニコニコニコニコニコニコ

まるゆ「皆さん、もう大丈夫ですよ」

ろ「どうぞく♪」つバケツ

19・58・168・8『オロロロー↑砂糖ダバダー

まるゆ「まさかお二人がそんな日常を過ごしているとは……」ニガ

ワライ

ろ「仲が良くて良かったね♪」ニコニコ

まるゆ「そうだね」

ろ「提督としおいはこの前もー」

19・58・168・8『今はダメ！』オロロロー

まるゆ「もう一つバケツ持ってきてみましょうか？」ニガワライ

19・58・168・8『BA☆KE☆TSU！』

ろ「どうぞく♪」つバケツ

◇執務室◇

ガチャー

提督「今戻った」

しおい「お帰り♡」ヒシッ

提督「留守番ありがとう」ナデナデ

しおい「寂しかったよ♡」スリスリ

提督「悪かったな……さて、早速仕事をー」

しおい「ダメ！」

提督「？」クビカシゲ

しおい「今帰ってきたばかりなんだから、少し休んで！」

提督「しかしー」

しおい「しかしじゃないの！」ガバツ

しおい「のだいしゆきホールドが決まる！」

提督「分かった分かった。ならお茶を淹れてもらえないか？」ナデ

ナデ

しおい「はくい♡」ニパツ

しおい「取り敢えず休憩」

しおい「今日の出撃はどうだったの？」

提督「イタリアもローマも良い動きだった。赤城や加賀と上手く連携していたし、島風と吹雪とも上手に互いの短所を補い合っていた」

しおい「私も出撃して提督に褒めてもらいたいなく」プクウ

提督「しおいの練度は最高値になったからな。暫くは鎮守府で留守番だ」ナデナデ

しおい「はくい……」シヨボーン

提督「しおいが待っていてくれると思うと、自然とやる気が湧くかな。共に海に出るとするのなら、出撃ではなく静かで穏やかな海だな」ホツペナデナデ

しおい「提督……♡」キュンキュン

提督「海と言っても浜辺だけだな」アハハ

しおい「それでも嬉しいよ♡」ギューツ

提督「またしおいの可愛い水着姿を見たいしな」クスクス

しおい「もく／＼／＼ えっち／＼／＼」

提督「最愛の女性の水着姿は至高だからな」ハハハ

しおい「でもあの水着は……／＼／＼」モジモジ

提督「マイクロビキニが嫌ならスリングショットでもいいんだぞ？」

しおい「どっちも嫌／＼／＼」

提督「とても可愛いのに……」シヨボーン

しおい「か、考えとくね……／＼／＼／」

提督「ありがとう」ナデナデ

しおい「はうく♡／／／」デレエ

提督「さて、そろそろ仕事にー」

しおい「待って！」ギユツ

提督「？」クビカシゲ

しおい「まだ『ただいま』のキスしてないよ？♡」ウワメツカイ

提督「ただいま、しおい」チュツ

しおい「お帰り、提督♡」チュツ

こうして夫婦は仲睦まじく過ごすのであったー。

伊401 完

伊13とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりに

◇艦娘宿舎の一室◇

ガラガラ

イヨ「やつほく、姉貴連れて来たよ♪」ノシ

ヒトミ「お、お邪魔します……私にお話とは、何でしょう？」オズ
オズ

イク「そんなに畏まらなくてもいいの♪」

ゴーヤ「そーそー♪ お茶飲みながらお話しよ♪」

ろ「ひとみん、いらつしやいませ、ですつて♪」

くヒトミ、言われるがままお茶会に参加

イムヤ「急でごめんね。イク達がどうしてもって聞かなくて」ニガ
ワライ

ニム「お姉ちゃんのわがままでごめんね」ニガワライ

はち「はい、ヒトミの分」つ湯呑

ヒトミ「あ、ありがとうございます」オズ

しおい「あとこつちはお菓子ね♪」

まるゆ「頑張つて作ったバタークッキーです」ニツコリ

イヨ「やつたく！ 頂きまくす……んく、おいひい♪」モグモグ

ヒトミ「イヨちゃんっ」アワワ

イク「気にしなくていいの♪ ひとみんな食べて食べて♪」

ヒトミ「あ、ありがとう、ございます」サクッ

く和やかにお茶会が始まった

ゴーヤ「でねでね！ ヒトミちゃんに訊きたいことがあるんでち

！」キラキラ

ヒトミ「は、はい……」

(ま、眩しい……)

イク「提督とのトラック泊地・新婚旅行はどうだったの!？」キラキ
ラ

ニム「お姉ちゃん!？」

ヒトミ「っ……ごほっ、けほっ!」

イヨ「うわあ、姉貴大丈夫?」セナカサスサス

ヒトミ「けほっ……うん／＼／＼」ナミダメ

イムヤ「あなた達、ストレートに訊き過ぎ」ニガワライ

はち「こういうのは誘導的にするべき」ウンウン

しおい「それもどうかなく?」ニガワライ

ろ「ひとみん、けほけほしちやった」ヨシヨシ

まるゆ「ティツシュです」っ□

ヒトミ「あ、ありがとう……」ニコリ

ゴーヤ「それで! どうだったんでち!？」

イク「詳しく聞かせてほしいの!」

ヒトミ「えつと……その……はわわあ／＼／＼」オドオド

イヨ「姉貴、素直に吐いちゃえよ。この二人は提督が姉貴とケツ
コンした今でも提督が好きなんだからさ」

ヒトミ「うう……／＼／＼」ウツムキ

ゴーヤ「話せる範囲でいいの。てーとくとどんな風に過ごしたのか
聞かせて」ウルウル

ヒトミ「……／＼／＼」ウグツ

イク「お願い、ひとみん! どうしても知りたいの!」ウルウル

ヒトミ「わ、分かり、ました……／＼／＼」

イ・ゴ『ありがとう♪』

くそれからヒトミは旅行の思い出をお話しするく

ヒトミ「ーで、帰ってきました／＼／＼」カー

イ・ゴ『オロロロー!↑砂糖ブツパ

イムヤ(ヒトミちゃんって案外大胆なのね／＼／＼)

はち(ハネムーンベイビーあるかな?)フムフム

ニム(思ってた新婚旅行と全然違った……／＼／＼)

しおい(なんだかんだでヒトミちゃんもノリノリで話してたなく)

ニガワライ

まるゆ(仲良しさんです♪)

ろ（ラブラブで幸せそう♪）

イヨ（流石はこのイヨの姉貴、恐ろしい娘！／／／／）

ヒトミ「あ、あの、私、そろそろ……執務室に／／／／」

イムヤ「ああ、うん♪ オツケー、片付けはやつとくからいいわよ
♪」

はち「素敵な話をありがとう」ニコツ

ヒトミ「いえ……ご馳走様でした♪」ニッコリ

くヒトミはみんなにお礼を言って執務室へく

しおい「ゴーヤ、大丈夫？」サスサス

ニム「お姉ちゃんも平気？」サスサス

イ・ゴ『まだ無理！』ズシャー！

はち「暫くお砂糖には困らないね」クスツ

イヨ「困る困らないの話かな？」ニガワライ

イムヤ「というか、暫く甘いのは遠慮したいわ」ニガワライ

ろ「ならろーちゃんとまるゆーでお菓子作ろく♪」

まるゆ「色んなの作れますね♪」

◇執務室◇

トントントントー

提督「はい、どうぞく」

ガチャー

ヒトミ「た、只今、戻りました♡／／／／」ハニカミ

提督「おく、お帰り。みんななどのお茶会はどうだった？」

ヒトミ「………あなたとの新婚旅行のお話を、少し………♡／／／／
／エへへ

提督「あの時の話？ みんなに話すような出来事なんてあったか

？」

ヒトミ「私には全部が素敵な出来事でした♡／／／／」テレツ

提督「はは、そりや嬉しいな♪ あ、変なこと言っていないだろうな
？」

ヒトミ「言ってます♡ あなたが道を間違えちゃったことなん

て、一言も言つてませんよ♡」

提督「それは自白してるのと同じだぞ♪」アタマペシペシ

ヒトミ「きゃ♡ 言つてませんってば♡」デレデレ

提督「嘘をつく悪い口はこれか？♪」

提督、ヒトミの口の両端を引つ張る♡

ヒトミ「ふいふいふあう♡」

提督「反省しないのはこの舌だな？♪」

提督、ヒトミの舌を摘む♡

ヒトミ「んあ……んっ♡ ちゅっ♡ ちゅぱっ……れろっ、ぺろっ

♡」チュパチュパ

提督「まったく反省してないな」ニガワライ

ヒトミ「んう？♡」クビカシゲ

ヒトミ、提督の指をしゃぶりながら上目遣い＋首傾げ♡

提督（何、この可愛い生き物……）キューーン

ひよいつ♡↑提督、ヒトミを膝の上に乗せる

ヒトミ「お仕置きですか？♡」スリスリ

提督「ああ、お仕置きだ♪」

ヒトミ「分かりました♡ あなたの愛で私にお仕置きしてください

♡」

提督「ご褒美じゃないんだぞ？♪」

ヒトミ「分かってます♡ 一時間キスの刑ですから♡」

提督「いや、お前が可愛いから二時間だ♪」

ヒトミ「は♡い♡」

◇執務室外・ドア前◇

提督『なんて、んっ、いけない娘なんだ……ちゅっ、ヒトミは……

んんっ』チュツチュ

ヒトミ『あ……んっ……ちゅっ、ごめんなしやい……んんっ、ちゅ

ぱっ、あむ……ちゅっ♡』チュツチュ

／ラブラブチュツチュー＼

大鯨「入り辛いですね／／／」ニガワライ

「香取「こんなことをトラック泊地でもしてたなんて……／＼／＼」
ハア

鹿島「トラック泊地の提督さん達からの苦情は全部これですからね
／＼／＼」ヤレヤレ

大鯨「と、取り敢えず、書類だけドアの隙間に挟んで戻りましょう
／＼／＼」

香取「ですね……説教と指導は後に／＼／＼」

鹿島「早くしないと、吐きそうです／＼／＼」ウツプ

後日、提督は香取や鹿島にお説教を受けたが、ヒトミとのチュツ
チュは止まなかつたそうナー。

伊13 完

伊14とケツコンしました。

某鎮守府、夕方ー

◇埠頭◇

イヨ「んはあく、ただいま〜つと、イエイ♪」
〜潜水艦隊帰投〜

ヒトミ「今日のお勤めも無事に終了、ね」フウ
ろ「と〜ちやく〜♪」

しおい「今日も疲れた〜♪」

イムヤ「みんなお疲れ様♪」ノシ

ゴーヤ「お帰りなさ〜い♪」ノシ

はち「修理と補給は手配してるから、各自ちゃんと受けてね」ニコツ
まるゆ「お疲れ様です」ペコリ

イヨ「ありがと、イムヤン達は今日最後のオリヨクルだよね？ 頑

張ってね♪」

ゴーヤ「任せるでち♪」

はち「艦隊のために頑張るわ」フフ

まるゆ「行ってきます」ケイレイ

イムヤ「さあ、出撃よ〜♪」

〜イムヤ達を見送り、イヨ達はドックへ〜

◇ドック◇

イヨ「〜♪　〜♪」ルンルン

ろ「イヨちい、ご機嫌だね♪」

しおい「全部の戦闘でMVPだったしね」フフフ

ヒトミ「実は調子がいいのはそれだけじゃないみたいです」ニ
ガワライ

イヨ「フツフツフ〜…：…実はね〜、今日イヨが全部の戦闘でMVP
取ったら、て〜とくがお酒ご馳走してくれるんだ〜♪　いいでしょ〜
？♪」イエイ

しおい「あくそういう……」ニガワライ
ヒトミ「そうなんです／＼／＼」カー

イヨ「別に悪いことじゃないじゃん♪ てーとくの善意なんだし♪」フン

ろ「提督はこれくしよんが沢山あるから、美味しいの沢山飲めるね♪」

イヨ「そくなんだよ♪ スコッチにワインにく、テキーラでしょ♪ 他にもウオッカとかブランデー、芋、大吟醸♪」

ヒトミ「飲み過ぎて提督のご迷惑にならないようにね？」メツ

イヨ「大丈夫大丈夫♪ いつものことだもん♪」

ヒトミ「だからダメって言ってるの！」メツ

イヨ「な、なんだよ！ いいじゃんかよ！ てーとくと飲むお

酒って美味しいんだもん！」ブーブー

しおい「まあ、提督はイヨちゃんには特別甘いからね。迷惑とす

ら思っていないかも」ニガワライ

ヒトミ「はあ……今度何かお詫びの品を持って行かなきゃ……」

ろ「提督はお酒が好きだからお酒だね♪」

イヨ「となると、結局イヨが飲むことになるよね♪」

ヒトミ「イヨちゃんつ／＼／＼」ポコポコ

イヨ「うわあ、いたた！ 泣きながら叩くことないじゃんか！」

くそんなこんなで補給も済ませ、イヨだけ執務室へく

◇執務室◇

ガチャー

イヨ「たっだいまく、てくとくく♡」ノシ

提督「いだだだ！ イク、止めろ！」

イク「提督がマッサージ頼んだの♪ まだまだ止めないの♪」グリ
グリ

ニム「お、お姉ちゃん、やめてあげて！」アワワ

く提督、イクから肩のマッサージ？を受けているく

イヨ「こくらあ！ イヨのてーとくをイジメるな！」

くイヨ、提督を庇うように自分の方へ引き寄せるく

イク「イジメてないのく！ イクがマツサージしてあげてるのく
！」

イヨ「てーとくは痛がつてたでしよ！」プンプン

ニム「お姉ちゃんが悪いよ」ニガワライ

イク「むう、納得いかないのく」ブーブー

提督「こ、今度はもつと優しく頼むよ」ニガワライ

イク「はくい♪ イクに任せるのく♪」ギューツ

イヨ「こ、こらあ！ 何どさくさ紛れに抱きついてるの！ てーとくはイヨのなんだから！」ギューツ

イク「提督はみんなの提督なの！ イヨちいばっかりずるいのく
！」

提督「あだだだだ！ 首、首がががが！」

ニム「二人共やめてあげてく！」ハワワー！

く散々揉みくちやにされたく

提督「……………」チーン

イヨ「やつばく……………」

イク「う、動かないの……………」ツンツン

ニム「もお、どうするの!？」

イク「イク知らないのく！ ごめんなさいなのく！」ピューン

ニム「あ、お姉ちゃん！」

く逃走するイク、追うニム、一気に二人きりにく

イヨ「てーとくく、起きて、おきくてく！」ユサユサ

提督「はつ……………あれ？ ここは？ 死んだじいちゃんは？」キョロ
キョロ

イヨ（本当に危なかった…………）ホツ

「も、もお、てーとくつたら何言ってるの♪ 今日の前にいるのは
だくれく？♪」

提督「我が愛する嫁である」キリツ

イヨ「そーそー♡ てーとくのお嫁さんのイヨちゃんだよ♡」ナ
デナデ

くかくしかじか

提督「なるほど、そんなこんなで今に至るのか」フムフム

イヨ「うん、ごめんね？」

提督「怒ってないよ。だから気にするな」ナデナデ

イヨ「えへへ、うん♡」スリスリ

提督「で、出撃の報告は？」

イヨ「ああ、そうだった。えっと、最初はー」

くイヨ、説明中

イヨ「ーという感じ♪」イエイ

提督「ふむ、分かった。ありがとう。じゃあ、仕事が終わったら酒

盛りな」ナデナデ

イヨ「やった♡ 楽しみにしてるね♡」ギューツ

そして仕事を終えた夜ー

イヨ「カンパ♡イ♡」

提督「はい、乾杯♪」

く執務室のソファ―テーブルに並んで座り、約束通り夫婦だけで酒

盛り

イヨ「んはあく♪ 美味し♪」ゴマンエツ

提督「好きなだけ飲め、ご褒美だからな」ニコツ

イヨ「うん♪ 酔ってもてーとくが優しくしてくれるしね♡」スリ

スリ

提督「嫁に優しくするのは当然だ」ナデナデ

イヨ「えへへ♡ てーとくのお嫁さんになれて、イヨちよー幸せ

♡」

提督「俺もイヨみたいな素敵なお嫁さんをもてて幸せだよ」ホツペ

チユツ

イヨ「んあ♡ えへへ♡」デレツデレ

くそして酒盛りは続き

イヨ「あ、ねえねえ♡」

提督「ん、注ぐか？」

イヨ「ちよつと違うの♡ この前、足柄さんに聞いたお酒試していい？ カクテルなんだけど」

提督「カクテルか。作れるのか？」

イヨ「うん♡ 作り方習ったから作れるよ♡ ちよつと待っててね♡」

♡イヨ、執務室のバーカウンターへ♡

イヨ「えつと……グラスに大きめの氷、ウオツカ、グレープフルーツジュースを入れて、それから……」カチャカチャ

♡イヨ、提督の元へ♡

イヨ「出来たよ♡ イヨ特製、ソルティ・ドッグ♡」

提督「ソルティ・ドッグか……でも肝心のグラスの縁につける塩は？」

イヨ「それはこおこ♡」

♡イヨ、自分の唇を指差す♡

提督「へ？」

イヨ「唇に塩塗ってきたんだ♡ 愛するてーとく限定だからね♡

どうぞ、召し上がれ♡」ンー

提督「頂きます」人

ちゅっ♡

そのソルティ・ドッグはととても甘かったそうナー。

伊14 完

その他艦種

あきつ丸とケツコンしました。

某鎮守府、朝ー

◇提督&あきつ丸の部屋◇

く夫婦揃って朝食く

あきつ丸「本日の朝食は鮭の塩焼き、大根の味噌汁、各種の浅漬け、納豆、白米であります。今日も食の神に感謝するのであります！」キラキラ

提督「相変わらず大袈裟だな」ニガワライ

あきつ丸「何を言っているのですか？ 最愛の旦那様お手製の朝食はどんな豪華な物よりも至高の物であります！」キリッ

提督「そっかそっか」アハハ

あきつ丸「それに……」

提督「？」

あきつ丸「この味はあきつ丸のみが堪能出来る味であります故……」

♡「ポツ

提督「／／／／」ドキッ

(それは反則じゃないか、あきつ丸？／／／／)ドキドキ

く朝食を済ませ出勤準備中く

あきつ丸「くくく」↑お化粧中

提督「いつも白粉塗ってるけど、必要あるのか？ 元々色白なのに」
ホッペツンツン

あきつ丸「む、これは迷彩の為なのであります。なので必要なのであります」

提督「なら今日は紅い口紅も付けようぜ♪」

あきつ丸「その意図は何なのでしょうか？」

提督「え、何って……絶対可愛いから」

あきつ丸「／／／／」ボンッ

提督「な？ な？ 頼むよ〜！」

あきつ丸「そつ、そもそも口紅なんて持っていません／＼／＼」

提督「大丈夫、俺が持つてるから」つ口紅

あきつ丸「旦那様は女装の趣味があったのですね。また一つ愛しい

旦那様のことが知れたのであります！」キリッ

提督「うん、違う。俺、そんな趣味持ってない」ヒテイ

あきつ丸「ならば何故なにゆえ口紅を持っているのでしょうか？」

提督「俺の姉さんが新しい口紅を作ったんだと」

あきつ丸「おお、メイク師の義姉君が……」

提督「それで」アツあきつ丸キにサンプル使ってもらって、感想聞いて

♪」ってこれを送って来たんだよ」

あきつ丸「相変わらずであります」ニガワライ

提督「でもいつだったか送って来た化粧水は気に入って使ってるよな」

あきつ丸「あれは良い物であります」ウンウン

提督「まあ、んな訳でどうよ？ 姉さんの頼みでもあるし、付けて

みてくれねえか？」

あきつ丸「……しつ、仕方ないですね／＼／＼」シブシブ

提督「やった♪ 絶対似合うって！ 姉さんがあきつ丸に似合わない

いの送ってくるはずねえもん！」

あきつ丸「送って来たらどうするんですか？」

提督「俺の嫁を馬鹿にした罪でしょっぴくね」ハイライトオフ

あきつ丸（義姉君、逃げてください！ 旦那様の手が届かない遠い

異国へ！）ガクブル

提督「とまあ、冗談半分の話は置いといて、早く試してくれよ」ワ

クワク

あきつ丸「わ、分かりました……」ドキドキ

（冗談半分……もう半分が気になって仕方ないのであります

……）ハラハラ

くあきつ丸、緊張の中、口紅を使用中く

あきつ丸「」ヌリヌリ

提督「w k t k

く上手に塗れました！く

あきつ丸「……どっ、どうでありますか？／／／／」

く透き通る美白＋ぷっくり鮮やか唇く

提督「……いい」ボンツ

あきつ丸「はい？」

提督「いい！ SU☆GO☆KU！ 可愛い！ KO☆RE☆ZO

！ 絶世の美女！ 至高の女神！」ダイカンキ

あきつ丸「お、大袈裟過ぎるのであります／／／／」カー

提督「大袈裟なもんか！ こんなに可愛いんだぞ!？」

あきつ丸「あうあうあうく／／／／」カオマツカ

提督「もつと近くで見せてくれ！」ガシツ

あきつ丸「旦那様！ 近い！ 近いであります！ これ以上は！／

／／／／

ちゅっ♡

あきつ丸「んむう……んっ……っ……ちゅっ……っ……んんく……

♡「トローン

提督「んはあ……思わずキスしてしまうくらい可愛い……やばいぜ

／／／／

あきつ丸「いきなり過ぎますよ♡／／／／」ニヨニヨ

提督「嫌じゃないくせに」ホッパツンツン

あきつ丸「嬉しいのは当然であります♡／／／／」デレエ

提督「よし！ じゃあみんなにもこの可愛い俺の嫁を自慢しに行こ

う！」

あきつ丸「それは……いい、嫌であります……／／／／」プイッ

提督「エエエエエ（ハ、ハ）エエエエエ」ナンデ!？」

あきつ丸「可愛いのは旦那様の前だけでいい、であります故……♡」

エへへ

提督「プチツ↑理性さんお疲れーツス

ガバツ↑提督、あきつ丸を押し倒す

あきつ丸「だ、旦那様!?!／／／／」

提督「辛抱たまらん」ホツペナデナデ

あきつ丸「ひつ、^{ひめい}秘事にはまだ早いのであります／＼／＼」モジモ

ジ

提督「ならこれはなんだ？」ニヤニヤ

あきつ丸「そ、それは……／＼／＼」ビクッ

提督「さっきのキスでこうなったんだろ？」ニヤニヤ

あきつ丸「……旦那様は意地悪です♡／＼／＼」ウウ

提督「好きな人には意地悪したくなるもんでね」フッフ

あきつ丸「一回だけですよ？♡／＼／＼」ギユッ

提督「善処しよう」チュッ

あきつ丸「んっ♡」チュッ

◇提督&あきつ丸の部屋・ドア前◇

あきつ丸『だ、旦那様、せめて寝室で……ああ♡／＼／＼』

提督『寝室まで我慢出来る訳ない！』ズンズン

／ニヤンニヤンガタガタ＼

大和「く／＼／＼」

陸奥「あらく、あらく♪」ニヤニヤ

→遅いので呼びに来た

大和「これは暫く来ませんね……／＼／＼」パタパタ

陸奥「そうね、取り敢えず馬に蹴られる前に退散しましょうか」ク

スクス

大和「はい……取り敢えず苦い抹茶でも飲みましょう／＼／＼」

陸奥「賛成♪」ニコッ

その後、夫婦が出勤して来たのはお昼過ぎだったと言うー。

あきつ丸 完

神州丸とケツコンしました。

某鎮守府、昼過ぎー

◇埠頭◇

神州丸「うむ、釣りをするには絶好の日和っ」

あきつ丸「ですな、神州丸殿」ウンウン

神州丸「さき、どっしりと構えて食いつくのを待つとしよう」

あきつ丸「了解であります♪」

く釣りスタートく

神州丸「しかし、戦時中とはいえこうも平和な時間を過ごせるとは思いもよらなんだ。実に尊き時間だ」

あきつ丸「然り。神州丸殿の旦那殿に感謝です」

く今日は執務仕事が少ないので秘書艦任務はお休みなのだく

神州丸「提督殿はそういうことは好かぬ。言葉で感謝するよりは行動で示した方が喜ぶぞ？」

あきつ丸「流石奥方は理解が深い。感服致します」

神州丸「そ、そのような言い方はよせ。提督殿の理解力には遠く及ばぬ故、私はいつも理解を深めようと必死になっているに過ぎないのだ／／／／」テレリ

あきつ丸「相思相愛とはまさにこのこと。これならば案外早くにやよこの顔が見れるかもしれないな」ニヤニヤ

神州丸「ひ、飛躍し過ぎではないか!?!／／／／」

あきつ丸「いやしかし……既にもう行為はしているのでありましよう?」

神州丸「……ま、まあな／／／／ つい昨晚も優しく愛して頂いた次第だ……／／／／」ポツポツ

あきつ丸「ならば自分が言ったことは正しいのであります」フンス

神州丸「うるさいうるさいっ／／／／ それより貴様の竿がしなつておるぞ!／／／／」

あきつ丸「おお、これはデカイのであります!」

「おーい！」

神・あ『?』

秋津洲「釣れてるかも〜?」

神州丸「おお、貴様か。その手荷物からして貴様も釣りか?」

秋津洲「そうなんだー! 午後から暇で、何しようか悩んでたら二人の様子が見えたから明石さんのところで釣具一式借りてきたかも!」

あきつ丸「ほうほう、ならば一緒にやりましょう。自分は先程カサゴを釣り上げましたぞ」

秋津洲「わあ、おつきい! ここの埠頭って結構釣れるからいい暇つぶしになるよね♪」

神州丸「そうだな。そしてとても平和な時間だ」

秋津洲「よし、あたしも平和を満喫するかも〜!」

神州丸「よしっ」

く奥様、30センチ超えのグレ(メジナ)をゲットく

あきつ丸「おお、これは今日一番ではないですか?」

神州丸「日頃の行いのお陰だな♪ でもまだ釣るぞ!」

秋津洲「日頃提督とイチャイチャしてるから釣れたってことかも?」

神州丸「な、なな、何を言い出すんだ貴様は!?!?!」

秋津洲「だって日頃の行い〜なんて言うから。神州丸さんっていつも提督とイチャイチャしてるし」

神州丸「い、いいイチャイチャなんてしてないぞ!?!?! 旦那ちゃんとは節度ある夫婦生活をだなー」

秋・あ『旦那ちゃん?』キュピーン

神州丸「っ!!」シマツタ

く神州丸慌てて口を手で押さえるが後の祭りく

秋津洲「ほらほらく、やっぱりイチャイチャしてるく。そんな呼び方普通の夫婦はしないよ〜?」ニヤニヤ

あきつ丸「しかし可愛らしいですな。因みに奥方はどう呼ばれておいでで？」

神州丸「し、しいちゃんって……♡／／／」キャツ

秋津洲（げろあま）

あきつ丸「ややこが出来るまで秒読みですな、これは」

神州丸「うるさいうるさいうるさーいっ／／／／ 我々夫婦のことなんてどうだっていいだろ、まったく……／／／／」

く 神州丸、誤魔化すように持ってきた飲み物を口に含むく

秋津洲「オシャンティーな水筒かも！」

神州丸「ああ、これか？ 旦那ちゃ……提督がわざわざ贈ってくれたものだ」

秋津洲（言い直さなくてもいいのに……）

「何を入れてきたの？」

神州丸「旦那ちゃん特製のキャラメルモカなんだ！♡ 妻である自

分だけが味わえる幸せな飲み物なんだぞ！♡」ドヤアン

秋津洲「そ、それは良かったね……」ヒキギミ

（とうとう旦那ちゃんって言い切っちゃった）

あきつ丸「キャラメルモカとは洒落てますなあ」

神州丸「ミルクキャラメルが好きでよく食べていたら、旦那ちゃんが淹れてくれるようになったんだ♡ 本当に幸せっ♡ んーまつ♡」

秋津洲（水筒にキスするほどなんだ……。というか、ここまでデレデレの神州丸さんってレアかも。みんなの前ではここまでデレデレに顔溶けてるの見たことないし）

あきつ丸「こんなにも甘い魚も逃げ出しそうですなあ」

秋津洲「逆に寄ってくるんじゃない？」

あきつ丸「中には甘いのが好きな魚もいますからなあ、たぶん」

神州丸「旦那ちゃん♡ んーまつ♡ んーまつ♡」

—————

夜——

◇長官官舎◇

神州丸「出来ましたよ、旦那ちゃん♡」

提督「おお、豪華だな」

神州丸「たくさん釣れたんです♡ それについさつき捌いたばかりですからどれも新鮮ですよ♡ 召し上がれ♡」ワハー

提督「いただきます」人
パクン

提督「うんまい。これはなんの魚だ？」

神州丸「グレです♡ 今日一番の大物なんですよ♡ それを捌いてフライにしたんです♡ 旦那ちゃん白身の魚フライ好きでしょ？♡」ニコニコ

提督「最高だ。それにこのタルタルソースも。ご飯が進む進む」ガツガツ

神州丸「ご飯もたくさん炊いてありますから、いっぱい食べてくださいね♡」ニコニコニコニコ

ー

提督「ご馳走さん……いやあ、うまかった」

神州丸「お粗末様でした♡」

(えへへ、全部綺麗に食べてくれた♡ 嬉しい♡)

提督「食後の茶は俺が淹れよう。いつものでいいか？」

神州丸「いつものがいい♡」

提督「はいはい。いつものキャラメルモカな」

ー

提督「はいどうぞ」

神州丸「ありがとうございます♡」ワハー

提督「しいちゃんの笑顔を見ると、こつちまで幸せな気持ちになるな」

神州丸「そ、そう？／／／／」ハウ

提督「ああ、ケツコンしてから毎日思ってる。いつも幸せをありがとう」

神州丸「そ、そんな……♡／／／／」

提督「ほら、冷めない内に飲むといい」

神州丸「はあい……あつ」

くカップの中に大きなマシユマロが浮かんでいるく

神州丸「……大丈夫なんですか？♡／／／／」ドキドキ

提督「今日は仕事が楽だったからね。元気が有り余ってるんだ」ニ
カッ

神州丸「えへへ……朝まで離しませんからね♡」

提督「望むところだ」

それから二ヶ月後、神州丸のおめでたが提督から公表され、夫婦は仲間たちからお祝いで大量のミルクキヤラメルを投げつけられたー。

神州丸 完

熊野丸とケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇艦娘宿舎・談話室◇

熊野丸「それでは改めて乾杯！」

全員『かんぱーい♪』

く今夜は無礼講く

まるゆ「あの、まるゆまでご一緒していいのでしょうか？」

あきつ丸「問題ありますまい。まるゆ殿も我々と同郷でありますから」

神州丸「今は海軍所属ではあるが、やはりたまにはこうして同郷の者たちで集うのも一興よな」

山汐丸「こういった機会を定期的にくださる提督殿に感謝せねばな」

あきつ丸「然り。では改めて、提督殿のご配慮に乾杯といきましよう！」

全員『かんぱーい！』

神州丸「そういえば、すっかりもう日常と化した熊野丸の旦那自慢が此度は火を吹いておらぬが、いかがした？」

熊野丸「は、はあ!? い、いいいきなり何を!？」

あきつ丸「神州丸殿の言う通りですな。いつもならばやれ旦那が、それ旦那がと口を開けば旦那殿の話ばかりしているのに」

熊野丸「あきつ丸まで……」

まるゆ「喧嘩でもしてしまっただですか？」

山汐丸「まるゆ殿、そんなことは天変地異が起こっても有り得ないお話ですよ。何せ熊野丸はあれだけ提督殿に大切にされていたにも関わらず、プロポーズの際は真剣な提督殿の顔を見て強襲揚陸作戦だと思つて勝手に張り切つたのですからな」

熊野丸「う、うううるさいぞ山汐丸！ 俺は尊敬する提督が物凄い

真剣な顔をしていたから、俺にしか出来ない作戦の話なのかと思っただけだ！ 軍人なのだからそう考えるのが普通だろう!？」

神州丸「いや、まあ、確かに熊野丸の言うことも一理あるのは確かであるが、流石に鈍感だろう」

あきつ丸「ですな。提督殿があれだけ熊野丸殿へ猛アピールしていましたが……おいたわしや」

山汐丸「その上、プロポーズされたことに気がついて気が動転し、指輪をかつさらってくるという愚行よ。ようそれで提督殿に愛想を尽かされなんだ」ヤレヤレ

まるゆ「あ、あの、熊野丸さんをそんなにいじめないであげてくださーい」

熊野丸「……………」チーン

く熊野丸、何も言い返せず、まるゆの優しさがかえって身にしみる

あきつ丸「で、熊野丸殿。何故今宵は提督殿の話をしないのでありますか？」

熊野丸「いや、別に何かあったとかじゃ……」

山汐丸「大方、この前提督殿のご家族と挨拶した際に何か言われたのだろうか？」

神州丸「帰って来てから明らかに挙動不審だったからな」

熊野丸「うぐっ」

まるゆ「隊長のご家族に何かされちゃったんですか？」

熊野丸「いや、寧ろよくしてもらった。ただ……」

全員『ただ?』

熊野丸「……………」子どもはいつ出来るのかって……」

神州丸「ごほん」チラツ

あきつ丸「まるゆ殿、某と共に酒保へつまみを買いに行きませぬか？」

まるゆ「? 熊野丸さんのことは?」

山汐丸「神州丸殿と自分がしつかりと聞いておきますよ」

まるゆ「わ、分かりました」

くまるゆは訳も分からぬまま、あきつ丸と共に酒保へく

神州丸「はあ、流石にまるゆ殿に聞かせるには早い話だから焦ったぞ」

熊野丸「す、すまねえ」

山汐丸「にしても、子どもか。初夜はいかがした？」

熊野丸「……一緒の布団で手を繋いで寝たけど、出来なかった」

神・山『は？』

熊野丸「え？ だって、夫婦で手を繋いで一緒の布団で寝れば、赤ちゃんが宿るんだろ？ なのに俺には宿らなかつたから、そういうことだろ……？」

神州丸「はあく……」クソデカタメイキ

山汐丸「本当においたわしや、提督殿……」ナムサン

熊野丸「？」

神州丸「熊野丸」

熊野丸「ん、どうした？」

神州丸「即刻提督殿の元へ行け」

熊野丸「え、どうしてだ!？」

山汐丸「湯浴みをし、寝間着をまとった後に、提督殿へ『抱いて』と言って抱きつけ」

熊野丸「ええ、別に俺、抱っこされるようなガキじゃ……」

神・山『いいからやれ!』

熊野丸「わ、分かつたよ……じゃあな!」

く神州丸たちは提督の武運をただただ祈ったく

◇長官官舎◇

熊野丸「ただいま、提督！ 風呂入ってくる!」

提督「え、お、おお」ビックリ

熊野丸「上がった!」

提督「ああ、おかえり、熊野丸」

熊野丸「うん！ 提督！」ソデクイクイ

提督「ん？」

熊野丸「抱っこ！」リョウテヒロゲ

提督「……………ん？」

熊野丸「だーかーらー！抱っこ！こうすればいいって神州丸と山汐丸が言ってた！」

提督「……………ああ、そういう……………」サツシ

く取り敢えず妻を抱き寄せる提督く

熊野丸「ん、おお、えへへ……………なんかいいな、好きな奴に抱っこされるのって♡」

提督「……………そうか」

熊野丸「こうすれば赤ちゃん出来っかなー？♡」

提督「……………気にしなくていいんじゃないか？」

熊野丸「ヤダ！俺は提督との赤ちゃんが欲しいんだ！」

提督（もういいよな？ 据え膳だもんな？）

熊野丸「どうした、提督？目が血走ってるぞ？」

提督「赤ちゃん作るか」

熊野丸「おお、本当か!? よし、布団行こう！」

提督「ああ、優しくする」

熊野丸「おう♡」

◇寝室◇

熊野丸「え、ちよ、提督?! なんで寝間着脱がすんだ？ てか提督までなんで脱いでるんだ？」

提督「赤ちゃんの正しい作り方を教えるよ」

熊野丸「おお！」

提督「愛してるよ、熊野丸」

熊野丸「俺も提督のこと愛してるぜ♡」

ちゅっ♡

熊野丸「これで赤ちゃん出来るのか？♡」

提督「まだまだよ。キスしたまま、熊野丸は俺のことをただ見つめて
いるんだ」

熊野丸「赤ちゃん作るのってとっても幸せな気分になれるんだな！」

♡

提督「ああ、そうだよ。愛してる、熊野丸」
熊野丸「俺も愛してるぜ……んっ♡」

後日――

提督「大丈夫か？」

熊野丸「……お、おう……大丈夫大丈夫」

く熊野丸、内股で腰を押さえながら足を引きずっているく

提督「無理するなよ？」

熊野丸「無理はしてねえよ。ただ……」

提督「ただ？」

熊野丸「もつとしたい……♡／／／／」

提督「夜にな」

熊野丸「えへ♡」

◇物陰◇

神州丸「ヤツたな」

山汐丸「やりましたな」

あきつ丸「熊を目覚めさせてしまった感もありますが、提督殿も溜まっ
まっついていらっしやっただははずですから大丈夫でしょう」

その後、提督夫婦は子宝に恵まれたとき――。

熊野丸 完

明石とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇工廠◇

秋月「明石さん、長10cm砲ちゃんの修理お願い致します」ペコリ
明石「は〜い！」

神通「明石さん、こちらの艤装の修理もお願い致します」ペコ

明石「了解です♪」

青葉「青葉の艤装もお願いします〜」

大鳳「私のも……」

大和「大和の主砲もお願いします」

阿賀野「阿賀野は副砲の修理を……」

春雨「春雨の魚雷発射管も……」

明石「は〜い！ 順番に修理しますから、そこに置いてくださ〜い
！」

明石（こりや暫く帰れないな〜）ニガワライ

◇明石酒保◇

カランカランー

提督「いらっしや〜せ〜……」

最上「あれ？」

雪風「しれえが酒保にいます！」

時津風「いつの間に酒保に転職したの？」

提督「ちげえよ。明石が忙しいから俺が仕事しつつ店番してんだ
よ」ニガワライ

最上「妖精さん達は？」

提督「さっきの出撃でひどくやられたからな。妖精達は総出で明石
と艤装の修理だ」

雪風「なんならお店番、雪風もお手伝いします！」

時津風「あたしも手伝ってもいいよ〜！」

提督「気持ちだけでいいよ。それより買い物に来たんだろ？ ゆっくり買い物してけ」ナデナデ

雪風「分かりました！ でもお手伝いが必要な時はいつでも言うてください！」

時津風「助け合いの精神は大切♪」

最上「ボク達にも頼ってね」ニコッ

提督「はは、いつだって頼りにしてるさ」ニッ

◇工廠◇

夕張「明石さくん、長10cm砲ちゃんの修理終わりましたよ〜！」

明石「了解♪ ごめんね、手伝ってもらっちゃって〜」ニガワライ

夕張「いえいえ〜、好きでやってることですから♪」

明石「助かるわ」ニッコリ

夕張「ニヤニヤ

明石「？」

夕張「この修理が終わらないと愛しの提督に会えませんもんね〜」

ニヤニヤ

明石「ちよ、い、いいいきなり何なの!?!?!」ボンッ

夕張「いや〜、いつものお二人ならこの時間は酒保で仲良く休憩してる時間だなくと思いました」ニヤニヤ

明石「くう……た、確かにそうよ！ でもこんな時だってあります!?!?!」カー

夕張「あはは、怒らないでくださいよ〜」テヘペロ

明石「もう、早く次の艦装の修理に取り掛かりますよ!?!?!」

夕張「は〜い」ニシシ

ガラガラ〜

大淀「失礼します」

明石「あれ、大淀？ どうしたの？」

大淀「どうしたのじゃないわよ。資源の再利用の件は？」

明石「シマッタ！」

大淀「顔に思いつきり「しまった！」って書いてあるわよ？ その

様子ならまだなのね」ハア

明石「だ、だって今日は修理が多いから……」

大淀「それは知ってるわよ。でも期限あるんだから、ちゃんと考慮してね？」

明石「はい……」

大淀「じゃ、聞きたいことも聞けたし、私は提督の補佐に戻るわね。そっちも頑張ってね」

明石「うん。提督のことよろしくね？」

大淀「分かっているわ」クスクス

ガタンー

明石「早く終わらせよ」メラメラ

そして夕方ー

明石「チラッ

」時計は一八〇〇を過ぎている」

明石（提督……）シユン

夕張（いつもなら二人で部屋に戻る時間帯だからなく）ニガワライ
妖精 a 「明石さん、こちらの最終確認お願いしますです」

明石「は〜い！」

」まだまだ終わるのは先の様」

◇明石酒保◇

提督「さ〜て、こっちは店じまいするか」ノビー

大淀「お疲れ様でした」ニコッ

提督「明石に先に部屋に戻るって伝えてくれ」ノ

大淀「了解しました」ペコリ

」提督、一人残って後片付け」

提督「」テキパキ

提督（酒保の仕事も大分板に付いてきたな〜）ニガワライ
」後片付け完了！」

提督（さて、明石には悪いが先に部屋に戻るか）ノビー

◇工廠◇

明石「チラツチラツ

く時計は二〇〇〇を過ぎてているく

明石（提督に会いたいよう……）シユン

夕張「ほら明石さん！ 後は大和さんの主砲の修理だけなんですから、頑張らしましょう！」ニガワライ

明石「うん……」シヨボーン

夕張「ほらほらく、早くしないといつまで経っても愛しの提督には会えませんよく」

明石「頑張るく……」シヨボボーン

ガラガラー

提督「おく、やってるなく」ノシ

明石「提督♡ オメメハート

夕張（回復早っ!?)

提督「おく、お疲れ」ナデナデ

明石「えへへく♡」

提督「ずっと作業してて疲れたろ？ 少し休憩したらどうだ？」

明石「でも……」

提督「良いから……おくい、全員一回手を止めて休憩だく。それと手も洗ってこい」

全員『はくい!』

く全員手を洗って休憩中く

提督「みんな手は洗ってきたか？」

明石「はい♪」

提督「じゃあ、差し入れだ。食べ」

全員『おく!』

く真ん丸おにぎり＋冷たいお茶く

提督「頑張ってくれるのはありがたいが、ちゃんと腹は満たせよ？」

そうじやなきや出来る仕事も出来ないからな」ニツ

全員『頂きまぐす!』

提督「ほら、明石も食べ」ナデナデ

明石「ありがとうございます♪」ニコッ

提督「お前のおにぎりはこっち」つ弁当箱

明石「わぁ♡ 嬉しいです♡」ウケトリ

提督「お前のおにぎりにだけ鮭と焼きタラコ入れといたから」ミミ
ウチ

明石「提督……♡」キュンキュン

クイクイ↑明石、提督の服を引っ張る

提督「？」

明石「今夜はたっぷりご奉仕^{メンテナンス}してあげますね♡」チュッ

提督「期待してる」チュッ

＼ラブラブオーラブンプン／

夕張「おにぎりあつまくい！」ガツガツ

妖精 a「お茶もあつまくい！」ゴクゴク

妖精 b「何より二人があつまくい！」ゴクゴクガツガツ

妖精達『あつまくい！』ガツガツゴクゴク

明石 完

速吸とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇補給室◇

ガチャーー

赤城「失礼します」

加賀「失礼致します」

日向「邪魔するぞ」

響「こんにちは」

雪風「こんにちはー！」

卯月「来たぴよん☆」

速吸「あ、皆さんこんにちは。出撃お疲れ様でした！」

赤城「ありがとうございます。こちらが今回の出撃で消費した物の報告書です」つ報告書

速吸「はーい、お預かりしますね♪」ウケトリ

卯月「お腹空いたぴよん……」クウ

雪風「もう少しですから、我慢ですよ♪」

響「我慢も大切だ」ウンウン

速吸「あはは、もう少し待つてね」

数分後ー

速吸「お待たせしましたー！ 皆さんの補給物資の配給をお渡しします。ので、一列に並んでくださいね！」

加賀「駆逐艦の子から順に並びましょう」

日向「私は最後でいい」

赤城「そんな……いいんですか？」

日向「それだけ盛大に腹が鳴っているんだ……私に構わず先に並べ」ニガワライ

赤城「あう……／／／グウー

速吸「ちゃんとありますから、しっかり補給してくださいね♪」
艦隊補給中

赤城「そう言えば、速吸さん」モツモツ

速吸「はい？」

赤城「ごくん……提督との新婚生活はどうですか？」

速吸「ふえ!?／＼／＼」ボンツ

日向「ふふ、その様子だと良好のようだな」モグモグ

加賀「ケツコン前から既に夫婦のように過ごしていましたし何ら問題ないでしょう」モツモツ

速吸「はう／＼／＼」ウツムキ

卯月「速吸さんお顔真つ赤つかだぴよん♪」

雪風「タコさんみたいですね♪」

響「これは聞くまでもないね」フッフ

速吸「うう／＼／＼」ポツポツ

赤城「ふふ、幸せそうで何よりですね♪」

加賀「こちらまで幸せになりますね」クスツ

速吸「あ、ありがとうございますう／＼／＼」

日向「しかし仕事中は会えなくて寂しいと思う時はないか？」

速吸「い、いえ……寂しくはない、です……／＼／＼」

卯月「どうしてぴよん？」

雪風「雪風も気になります！」

響「良かったら聞かせてよ」

速吸「えっと……全然寂しくないと言ったら嘘になります。でも、

この寂しさも提督さんを想っている故の寂しさな訳で……上手く言えないんですけど、これはこれで提督さんを考える時間になってい、かなって……♡／＼／＼」

艦隊『（。 ㇏。）』ポカーン

速吸「あ、あれ……皆さんどうしました？」

赤城「い、いえいえ！ ただ幸せそうに話すなあと思ひまして！」アセアセ

日向「ふふ、まさに乙女の顔とやらをしていたぞ」

加賀「弾薬がかりんとうみたいに甘くなりました」

卯月「しれいかんのことを話す速吸さん、カワイイぴよん♪」ニ

ヤニヤ

雪風「幸運の女神さまが微笑んでますよ♪」ニコニコ

響「『ご馳走さま』とだけ言っておくよ」フッフ

速吸「みゅ／＼／／／」カオマツカ

ガチャラー

提督「お／＼つす、速吸。ちよつと今日の消費資材の明細を……つて、何でお前そんなに顔が赤いんだ？ 熱でもあるのか？」

速吸「い、いえ！ そんなじゃないです！／＼／／」ブンブン

赤城「あら、これはこれは」ニコニコ

加賀「私達は補給が済みましたから、お暇しましょうか」フッフ日向「だな……では私達は失礼するぞ」

卯月「夫婦仲良くしてぴよん☆」ニシシ

雪風「ご馳走さまでした♪」

響「またお話を聞かせてもらいに来るよ」フッフ

提督「お／＼、みんなお疲れ／＼」ノシ

速吸「お、お疲れ様でした／＼／／／」ペコリ

／＼夫婦二人つきりに／＼

提督「みんなに気を使わせちまったな／＼」アハハ

速吸「そ、そうですね♡／／／／」エヘヘ

速吸「え、えつと……本日の消費資材の明細書でしたよね！

ちよつとお待ちください！／／／／

提督「なんだよ／＼、他人行儀だな／＼。今は俺しかいないんだからい

つも通りにしろよ／＼」

速吸「ま、まだお仕事中ですよ／／／／」

提督「(´・ω・｀)」シヨポーン

速吸「う……そ、そんな顔してもまだダメですう／／／／」

提督「(´・ω・｀)……」

速吸「うう／＼……今だけです？ あなた♡／／／／」ポツ

提督「(●?、●?)」デヘヘー

速吸「もお♡／／／／」ニコニコ

提督「速吸／＼♪ 大好きだぞ／＼♪」ギューツ

速吸「きやつ……もお、あなたったら♡／／／」ギューツ
提督「ケツコンしたばかりなのに側に置いてあげられなくてごめん」ナデナデ

速吸「謝らないでください……速吸は大丈夫ですから♡」ニッコリ
提督「速吸……」

速吸「会えない時間は寂しいですけど、その分会えた時の嬉しさが増して……幸せで満たされますから♡」ニパー

提督「本当に速吸はいい女だな……お前みたいな人とケツコン出来て俺は幸せだよ」ナデナデ

速吸「えへ♡ 速吸もあなたのお嫁さんになれて幸せです♡」スリスリ

速吸（それに……）

提督「仕事が終わったらずっと一緒に過ごそうな♪」

速吸「はい♡ 楽しみにしてます♡」ギューツ

速吸（夜はたくさん補給^愛してくれそうですから♡）

◇補給室外・ドア前◇

提督『速吸く♪』

速吸『あなたく♡』

／イチャイチャラブラブ＼

長良「うわ、ラブラブだね／／／」

名取「す、凄いな／／／」

初春「困った夫婦じゃのく」ヤレヤレ

子曰「仲良しいいいことだよ♪」

若葉「幸せそうで何よりだ」フフフ

初霜「でも入り難いですね／／／」

→遠征帰りの補給をしに来た

長良「これはもう少し後の方がいいね／／／」

名取「／／／」コクコク

初春「ならば甘味処でも行くかの」

子曰「賛成♪」

若葉「あんみつが若葉を待ってる！」

初霜「ニガワライ

こうして夫婦は誰も寄せ付けることなく束の間の甘い時間を過ごしたー。

速吸 完

宗谷とケツコンしました。

某鎮守府、夜――

◇埠頭◇

提督「……」

宗谷「……」

「夫婦は肩寄せ合って、星空鑑賞」

宗谷「……綺麗、ですね。提督」

提督「ああ、本当に」

「提督は宗谷の横顔しか見てない」

宗谷「……あのく、星空のこと、ですよね？」

提督「宗谷のことだが？」

宗谷「あ、あのあの！　そういうのは良くないかと！」

提督「そういうのって？」

宗谷「だ、だから。そのう……わ、私が綺麗だとか！」

提督「事実だからね仕方ないね」

宗谷「あうあうあう……／＼／＼／＼」

「宗谷は両手で顔を覆って下を向く」

提督「綺麗な上に可愛いとか。俺って勝ち組だな」

宗谷「やめてください……／＼／＼／＼」

提督「宗谷はもっと自信を持っていい。謙遜も過ぎれば傲慢だぞ

？」

宗谷「そ、そんなこと言われても……慣れないんですよ／＼／＼／＼」

提督「だから毎日のように褒めてるだろ？」

宗谷「そ、それは幸せなのですが……でもやはり、私にはちよつと

……いえ、かなりハードルが高く……」

提督「なんだ。もつと愛でて欲しいのか。すまなかつたな。俺の愛

情不足で」

宗谷「違いますそうじゃありませんやめてください」

提督「うくん……無理」キツパリ

宗谷「なぜ!？」

提督「宗谷はさ、ペットがいたらどうする？」

宗谷「へ？ それは勿論、可愛がりますが……」

提督「だよな？ だったら俺が宗谷を褒めるのも当然だ」

宗谷「私は提督にとってペットですか!？」

提督「変な勘違いするな。妻として、一人の女性として、可愛がっているんだ」

宗谷「ま、またそうやって……／＼／＼」

提督「愛してるんだから仕方ない」

宗谷「あうあうあう……／＼／＼」

提督「満天の星空よりも、朝焼けに輝く海よりも、夕焼け色に染まった水平線よりも……俺の妻がこの世で一番美しい」

宗谷「……／＼／＼」

提督「そもそも星空鑑賞なんて意味ないんだよ。俺にとっては世界一美しい星がいつも隣にいてくれるんだから」

宗谷「……提督は私をいつもそうやって甘やかして、蕩けさせるのですね／＼／＼」

提督「俺だつて自分がこんなに齒が浮くようなセリフをスラスラ言うだなんて思わなかったよ。でも宗谷と出会って恋をして、愛を知ったら、君への愛の言葉が湯水の如く溢れてくるんだ」

宗谷「……／＼／＼」

提督「宗谷」

宗谷「はい?／＼／＼」

提督「知らないと思うが、俺は君のことが好きだ」

宗谷「いえ、十分に存じてますが?／＼／＼」

提督「大好きなんだ」

宗谷「で、ですから、もう——」

提督「愛しているんだ!」

宗谷「わ、分かりました! 分かりましたから!」

提督「駄目だ。何度言つてもこの俺の溢れる宗谷への愛を、数パーセントも伝えられていない」

宗谷「私の話を聞いてください！／＼／＼／＼　というか、星を見てく
ださい！／＼／＼／＼」

提督「なぜだ？　星ならもう俺の目の前に——」

宗谷「お空の星です！／＼／＼／＼」

提督「宗谷の美しさに比べたら、どんな星々も霞んで見える」

宗谷「くくくっ！／＼／＼／＼」

く宗谷はとうとう耐え切れずに、地べたへ寝そべって両足をばたつかせるく

提督「そうしていても可愛いだけなんだが？」

宗谷「知りません！／＼／＼／＼」

提督「なら理解するまで宗谷の可愛さ講習を——」

宗谷「しないでくださいっ！／＼／＼／＼」

提督「……………」

宗谷「？」

く提督が急に黙り込んだことが不安で、宗谷は指の隙間から提督の様子をチラ見く

提督「はぁ」

ゴロン

く提督は宗谷のように寝そべって、添い寝する形にく

宗谷「て、提督？」

提督「もつと俺の愛しい女の顔を見せてくれ。せつかくすぐ近くに
いるのに、顔が見えていないと切なくなる」

宗谷「くくくくっ／＼／＼／＼」

ゴロン

く宗谷は恥ずかしくて提督に背中を向けるく

提督「逃がすものか」

ぎゅっ

く提督は宗谷の背後から抱き止めるく

宗谷「……………離してください」

提督「いくら愛する宗谷の頼みでも、その望みは聞き入れられない」

宗谷「意地悪です……………」

提督「宗谷を手放すくらいなら、俺は悪魔とだって契約する」

宗谷「……本当に、大変な方に捕まっちゃいました……」

提督「なんとでも言え」

宗谷「……心からお慕いしています♡」

提督「知ってるよ」

宗谷「意地悪ですね♡」

夫婦はそのままイチャイチャした。

そして、

夜戦S「ねえ、あそこに打ち上げられてるアザラシの番を海に蹴落としていい？」

連行者Z「あんなのいつものことですよ。それより無断出撃未遂の反省文の方が重要です」

夜戦S「こいつあ酷えや」

そこをしっかりと他者に見られていたという――。

宗谷 完

第百一号輸送艦とケツコンしました。

鎮守府近辺の繁華街、昼――

◇レストラン◇

百一「……………」

提督「緊張し過ぎだ」ニガワライ

「今日は二人のケツコン記念日なので、提督が第百一号輸送艦を連れてバイキングレストランへ連れてきた」

百一「あの、本当にどれだけ食べても同じお値段しか取られませんか？」

提督「うん。さつきコースを頼んだら？ このタッチパネル内からなら何をどれだけ飲み食いしても、コース料金しか取られないよ」

百一「な、なるほど……………」

提督「ほらほら、時間無制限ではあるけど、品切れになることもあるから早く頼もう。お腹空いてるだろ？」

百一「は、はい……………では、その、えっと……………おにぎりとかくあん……………いやここは贅沢にめざしを」

提督「取り敢えず丼飯にハンバーグ、エビフライ、牛ヒレステーキを頼むね」

百一「……………」

「第百一号輸送艦はまるで宇宙の猫みたいなポカン顔をしている」

提督「飲み物はお茶でいい？」

百一「……………はい」

提督「はい、これおしぼり」

百一「……………ありがとうございます」

「そうこうしている間に頼んだ物がテーブルに並べられていった」

百一「おお……………」キラキラ

提督「一年、あつという間だったな。また来年も俺たちの記念日を

祝えるよう頑張ろう。愛してるよ、第一百一号輸送艦」

百一「はい！ 私も旦那様を心から愛しています！」

くすると周りから拍手が聞こえた

百一「え、あ、あれ？ どうして？」

提督「いや、あれだけ大声なら聞こえるって」

百一「あ……うう……／＼／＼」

く提督は拍手してくれた周りの人々に軽くお辞儀をし、妻に食事を
するよう促した

百一「ど、どれから食べたらいいのか……」オロオロ

提督「好きな物からどうぞ」

百一「………決められません」ガツクリ

提督「ならステーキはどうだ？ ほら、こんなに簡単にナイフで切
れる」

く特製ステーキソースをつけて、提督は甲斐甲斐しくひと切れを妻
の口へ

提督「ほら、あーん」

百一「あ……むっ、んんっ!!」

提督「美味しいか？」

百一「んんっ!!」コクコク

提督「噛まなくても蕩けていくだろ？」

百一「!」コクコクコクコク

く感動で首を激しく縦に振る妻を見て、提督は目を細めた

提督「同期たちに教えてもらった甲斐があるよ。あむ……うんっ、
美味い！」

百一「あの、これ本当におかわり出来るんですか？」

提督「いくらでも出来るぞ」

百一「……おかわりほしいです／＼／＼」

提督「了解。なら待ってる間に他の料理も楽しんでくれ」

百一「は、はい！」

くこうして夫婦は豪華なランチに舌鼓を打つのだった

某公園、昼下り――

◇噴水広場のベンチ◇

提督「いやあ、美味しかったな。また今度予約して行こう」

百一「ええ！　だ、ダメですよ！　せめて半年に一回……いえ、一年に一回とかで……」

提督「たまにの贅沢は悪いことじゃない。今は艦娘たちみんなのおかげでこうした生活が送れているんだから」

百一「でも……」

提督「確かにまだまだ深海棲艦との戦いは終わってないが、当初よりは以前の生活と変わらない生活水準に戻った。怠けるんじゃないさ。たまにはこうして英気を養ったって罰は当たらないさ」

百一「そう、ですわ……」ニコツ

提督「それに俺たちのケツコン記念日なんだからどう過ごしたっていいだろう？」ナデナデ

百一「う……もう♡」テレリ

提督の優しい言葉に返す言葉がなくなってしまう第一百号輸送艦

提督「記念日だから頑張つて仕事を片付けた甲斐があつた。こんなにゆっくり共に過ごせるんだからな」

百一「いつも忙しいですものね」ニガワライ

提督「まあ忙しい日常も嫌いではないんだけどな。でもこうしてゆっくり共に過ごせる時間があるのは幸せだろう？　いつもは夜しかゆっくり過ごせないんだから」

百一「……私は夜もあまりゆっくり過ごしたことがないのですが……」

提督「あ、ごめんごめん。イチヤイチヤの間違いだな」

百一「イチヤイチヤ、なのでしようか……？　／／／／」

提督「イチヤイチヤだろ。あれだけ俺にしがみついてきて――」

百一「わーわー！　／／／　言わないでください！　／／／／」

夫婦の夜戦（意味深）は毎回提督の圧勝なのだ

提督「でもなんだかんだ言つて、拒まないじゃん」ニヤニヤ

百一「それは……その……♡／／／／」モジモジ

提督「毎回キスも強請ってくるし、いつも腰を脚でガツチリロック
してくるし」

百一「だ、だって……♡／／／／」

提督「だって？」

百一「旦那様に求められると幸せですから……♡／／／／」

提督「……………帰ろう」

百一「え？」

提督「急いで帰ろう」

百一「え、えつと……？」

提督「嫁が可愛過ぎて一刻も早く抱きたい」

百一「ひえ……♡／／／／」

提督「激しい記念日にしよう」ニコッ

百一「は、はい……♡／／／／」

その後、めちやくちやry——。

第百一号輸送艦 完

山汐丸とケツコンしました。

某鎮守府、朝――

◇執務室◇

提督「よしっ、今日も仕事頑張ろう！」

山汐丸「はい、頑張りましょう」フランス

提督「まずは遠征地の確認と遠征艦隊の編成確認……それと工廠での開発。それから昨日リストアップしておいた艦娘を演習艦隊に組み込んで相手の鎮守府へ向かわせ……」テキパキ

山汐丸「……………」ポー

（旦那様……かつこいい……いつ見ても頼り甲斐あつて凛々しくてかつこいい……♡）

山汐丸は提督にメモメモである

提督「よし、まずはこんなものか。しおまる（愛称）、早速大淀のところに行つてこの資料を渡して来てくれ。俺はその間に工廠へ行つてくる」

山汐丸「……………」ポー

提督「しおまる？ おーい、しおまるさーん？」

山汐丸「はっ！ 申し訳御座いません！ 自分としたことが、旦那様の言葉を無視するなど何たることを！ お詫びに腹を切つて……」

提督「うん、やめようね。てかやめてね。好きな子が目の前で切腹とか拷問だからね」

山汐丸「旦那様……………」キュキュキーン

提督「申し訳ないと思つたら何をするんだつたかなー？」

山汐丸「は、はひ……では失礼を……んっ♡」

チユツ♡

山汐丸、ちよつと背伸びをして提督の唇に口づける

提督「ん。可愛い可愛い。それじゃあ。この資料お願いな」ナデナ

デ

山汐丸「……………」

山汐丸、提督とのキスでヘブン状態

提督「おーい、しおまるさーん？」ノシ

山汐丸「はうあつ！ 自分としたことが懲りずにまたも失態を！
かくなる上は……………」

提督「俺の話ちゃんと聞いてね。切腹しないでね。別に無視されて
悲しいとは思ってないし、怒ってもいないからね」ナデナデ

山汐丸「旦那様は自分を墮落させる天才ですね……………」モジモジ

提督「そんなことないよ」ナデナデ

山汐丸「では、確かにこの資料、見事大淀殿のところへしかと輸送
致します！」フンスフンス

提督「ああ、頼んだよ」ニツコリ

その日の昼――

◇中庭◇

提督「うんうん、こういう天気の良い日は弁当持って中庭で食べる
のがいいよね」

山汐丸「そうでありますね♡」

提督「間宮さんのとこの弁当って大抵のはリクエストに对应してもら
えるから毎回悩んじゃうんだよなあ」ニガワライ

山汐丸「そうでありますね♡」

提督「しかもその場で作ってくれるから温かいうちに食べられるの
もまた良し！ しかも嬉しい大和ラムネ付き！」

山汐丸「そうでありますね♡」

提督「…………しおまる、食べ前にキスしようか？」

山汐丸「そうでありますね♡」

チュツ♡

提督、山汐丸の唇へ口づけをする

山汐丸「つ！！！！／／／／」ボンツ

提督「あれ！ そうでありますねって言わないんだ？」

山汐丸「お、お戯れを…………／／／／」ドキドキ

提督「そうでありますねしか言わない嫁に罰を与えるのは夫の役目かと思つてね。しかもしおまるだつてキスには同意したし」ウインク
山汐丸「……………ぐぬう／＼／＼」

く口づけされて嬉しいやら、罰を与えられて恥ずかしいやら、山汐丸は照れていいのか恥じていいのか分からずに唸るしかなかったく

提督「はあ……………ホント、可愛い嫁をもらえて幸せ者だなあ、俺は」ナデナデ

山汐丸「……………自分も幸せ者であります……………♡／＼／＼」

その日の夜――

◇長官官舎・寝室◇

山汐丸「……………」カチコチ

提督「……………」ニガワライ

く今夜も今夜で夫婦は夜戦（意味深）をする予定く

提督「ほらほら、しおまる。リラックスリラックス」

く布団の上で正座して対峙する山汐丸に気を楽しにするよう促す提督く

山汐丸「む、無理であります……………きつと自分はまた旦那様に粗相をしてしまうでしょうし……………」

く山汐丸はリラックスするどころか、戦地に向かう面持ちであるく

提督「俺は気にしないって。あれは気持ち良くなつたらどうか、しおまるが感じてくれてる証拠だし」

山汐丸「し、しかし！ 愛する旦那様を差し置いて、自分ばかりよがつてしまうのはどうかと！ そ、そもそも、旦那様が自分の制止を受け入れてくださらずに続けることによつて引き起こることでありまして！」

提督「だつて感じてるしおまる可愛いんだもん。もつといじめたくなるじゃん」

山汐丸「……………そんなこと言うのは、卑怯でありますよ……………／＼／＼」
／＼「キュンキュン」

提督「そもそも山汐丸は濡れやすいよな」

山汐丸「じ、自分は他者と比べたことがありません……／＼／＼」
提督「俺もしおまるが初めてだから実際のところは分からないけどね。でもそういう描写がある小説なんかより凄いなと思うんだよ。あ、当然褒め言葉としてね」

山汐丸「そのようなことを褒められなくても……／＼／＼」モジモジ

提督「ほら、もうそうやってモジモジしてる。もう下着ヤバいんじゃない？」

山汐丸「し、下着は大丈夫であります！／＼／＼」

提督「うっそだあ？」

山汐丸「ほ、本当です！／＼／＼ 穿いてませんから！／＼／＼」

くそう言ってから羞恥心に駆られて布団を被る山汐丸く

提督「するのはいつものことだから穿いてないんだ？」

山汐丸「……／＼／＼」

提督「布団被ってても、足の方から布団捲れば分かることなんだよなあ」

ぺろーん

山汐丸「あ……／＼／＼」

提督「……可愛いお尻だな」ペチペチ

山汐丸「た、叩かないでっ／＼／＼」ピクン

提督「あれ、寝間着が……」

山汐丸「旦那様のせいですからね……／＼／＼」

提督「可愛いなあ」ナデナデ

山汐丸「撫でないで……ひうつ♡／＼／＼」

提督「布団、取るぞ」

バサッ

山汐丸「や、優しくしてくださいね……♡／＼／＼」

提督「善処しよう」ニッコリ

山汐丸「むう♡／＼／＼」

このあとめちやくちやry——。

山汐丸 完

迅鯨とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇食堂◇

間宮「よし。これで艦隊の皆さんのお昼に間に合いますね」

伊良湖「大鯨さん、迅鯨さん、お手伝いありがとうございます」

大鯨「いえいえ、これくらいお安い御用です」ニッコツ

迅鯨「はい。私も今は丁度手が空いてましたから」

「迅鯨の夫である提督は今は演習艦隊と他の鎮守府へ行っていて留守」

間宮「ありがとうございます。でも迅鯨さん、ちよつといいかしら？」

迅鯨「どうされました？」

間宮「提督と迅鯨さんのお二人のお弁当のことなんです……」

伊良湖「ああ、それ私も思いました！ どうして迅鯨さんのお弁当箱こんなに小さいんですか？」

「提督には三段重ねの弁当箱なのに対して、迅鯨のは一段」

間宮「それにバランスはいいですが、あまりにも小さ過ぎると思つて……ご体調が悪いんですか？ もしそうだったお手伝いさせて申し訳無くて」

迅鯨「い、いえ！ そんなことないのでご心配なく！」アセアセ

伊良湖「じゃあどうしてこんなに小さいんですか？」

大鯨「明らかに今まで食べてた量よりも少ないですね……何かあったんですか？」

迅鯨「えつと……実はお恥ずかしながら近頃余分なお肉がついてしまつて……」

間宮「なるほど。幸せ太りからのダイエットでしたか」

伊良湖「普段からあれだけラブラブですからね」

大鯨「幸せな悩みですね。心配して損しちゃいました」ニマニマ

迅鯨「うう、言わないでください。気にしてるんですからあ」

間宮「気にすることないと思いますよ？」

伊良湖「そうですね。それに全く見た目変わってませんから」

迅鯨「でも、最近太もものお肉とか余計に乗っちゃってる気がして……」

大鯨「気になるなら変に制限するのではなく、カロリーを抑えつついつも通りの量を食べた方が健康的ですよ」

迅鯨「そうなんですかね……」

間宮「急に変えるのも良くないですからね。それにこんなにあからさまな制限をなさると、提督も心配してしまいますよ」

伊良湖「そうですね！　迅鯨さんは知らないと思いますけど、提督って迅鯨さんとケツコンする前は私たちに『迅鯨のことが好き過ぎてツライ』とか意味不明な相談されたんですから！　だから絶対心配します！」

迅鯨「そ、そんなことが……／＼／＼」カァー

大鯨「迅鯨さんはちよつと鈍感さんですからね」クスクス

迅鯨「うう、言い返せません……。じゃ、じゃあ、きのことほうれん草のソテーを多めにします」

「そんなこんなで迅鯨は野菜多めのヘルシー弁当に切り替えたく

昼ー

◇執務室◇

迅鯨「どうぞ召し上がってください」ニコッ

提督「いただきます」人

「愛妻弁当御開帳」

迅鯨「今日はおにぎりと厚焼き玉子、きのことほうれん草のソテー、それから鶏むね肉の山賊焼きにしました」

提督「どれも美味そうだ……。いつもありがとう、迅鯨」

迅鯨「そ、そんな……。私は妻として当然のことをしているだけですから♡」

提督「鎮守府や官舎に帰ると、美人な妻とその手料理が待ってるんだ。こんなの当然じゃない。感謝すべき事実だ」

迅鯨「提督……♡」

迅鯨「も、もう、それより早く食べてください。お昼休みが終わっちゃいますよっ」

提督「愛する妻と過ごす時間は過ぎるのが早いからなあ」ハハハ

迅鯨「味のご感想を早くお聞かせくださいっ／＼／＼」アワアワ

提督「そうだな……時に迅鯨」

迅鯨「はい？」

提督「何故今日の迅鯨の弁当は緑が多いんだ？」

迅鯨「っ」ギクツ

提督「体調でも悪いのか？」

迅鯨「ち、違いますっ！ 私、きのことほうれん草のソテーが前の日から食べたくて、それで多くなっただけです！」

提督「そうか……まあそれならいい。でも体調が悪いならすぐに言うように」

迅鯨「はい」

（良かった。何とか誤魔化せた……間宮さんたちに感謝です。結局心配掛けちゃいましたけど）トホホ

くそして夫婦は仲睦まじくお昼を過ごしたく

提督「ご馳走様でした」人

迅鯨「お粗末様でした」

提督「今回も実に美味だった。特にあの味噌と梅肉を和えて焼いた焼きおにぎり」

迅鯨「この前たまたまグルメ雑誌で鎮守府近辺の繁華街にあるお弁当屋さんのおにぎりをご紹介されているのを見まして、見様見真似で作ってみましたですが美味しく出来て良かったです」ニコツ

提督「本当に出来た妻を持てたよ、私は」

迅鯨「勿体無いお言葉です♡」

提督「食休みを挟んだら執務に取り掛かるか」

迅鯨「そうですね……ところで提督」

提督「どうした？」

く迅鯨、ソファーに移動く

迅鯨「私のお膝をお貸します♡」オヒザポンポン

提督「これには抗えないな」

ごろんー

迅鯨「食べてすぐ寝ると牛さんになつちやいますけど、提督が牛さんになつても迅鯨がすっかりお世話しますからね♡」ナデナデ

提督「私を牛にしたいがための策略か」

迅鯨「違いますう」

提督「頬を膨らませても可愛いだけだな、迅鯨は」ナデナデ

迅鯨「提督だけですよ、そう仰るのは」

提督「しかし愛する妻の膝枕というのは何とも言えんな。ずっとしていてもraithたくなる」

迅鯨「提督のお望みのままに」

提督「それだと迅鯨が大変だろう。自分で言っておいて何だか、こういうのは短時間してもらうから特別に感じるんだと思う」

迅鯨「ふふ、そうかもしれないね♡」

提督「ああ……それにこの太ものいいふかふか具合は長時間堪能していたら、駄目な人間になる自信がある」

迅鯨「わ、私の太ももってそんなにふかふかですか？」

提督「ふかふかだな。なのにすべすべしていて、いい匂いで、最高だ」

迅鯨「最近お肉多いなあ、とかは思ったりしてませんか？」オソルオソル

提督（なんだ、そんなことを気にしていたのか）

「そんなことは全く思わないな。寧ろこのままであつて欲しいくらいだ」

迅鯨「な、なるほど……」ホッ

（良かった……私、このままでもちやんと提督に愛してもらえるんだ♡）

提督「月並みな言い方しか出来んが、どんな迅鯨でも私は愛しているよ」ナデナデ

迅鯨「はい、提督……♡」ゴロニヤーン

提督「だから必要ないダイエットはしないように」

迅鯨「うぐっ、バレてましたか……」

提督「それだけ迅鯨を毎日見てるからな。大丈夫、迅鯨は変わらず綺麗だ。私を信じてくれ」

迅鯨「はあい♡」

その後、迅鯨はダイエットを中止し、提督からうんと愛情を注がれてより美しくなるのだったー。

迅鯨 完

長鯨とケツコンしました。

某鎮守府、昼前――

◇食堂・厨房◇

長鯨「間宮さーん、下ごしらえ終わりましたー！」

「ケツコン後の長鯨はもっぱら食堂の手伝い任務」

間宮「お疲れ様です、長鯨さん」

長鯨「次は何をしましょうか？」

伊良湖「長鯨さーん」

長鯨「はーい！」

伊良湖「提督がお呼びですよ！ それと今日のお手伝いはもう上がっているそうです！」

長鯨「え、でもこれからお昼の時間になるのに……」

龍鳳「私たちが代打を務めるから心配ないですよ」ニコッ

迅鯨「こっちは任せていいよ」ニコッ

長鯨「うん、分かった！ それじゃあお疲れ様でした！ お先に上がりまーす！」

間宮「お疲れ様でした」

伊良湖「楽しんで来てくださいねー！」

長鯨「？」

「伊良湖の言葉に疑問を抱きながらも、長鯨は食堂をあとにした」

◇執務室◇

提督「ケツコン記念日なので、ピクニックに行くぞー！」デデドン

長鯨「忘れてたっ!? 愛する提督どのケツコン記念日なのー！」
ガーン

提督「いや、俺がわざとカレンダー誤魔化してたから気にしなくていいぞ」

長鯨「へ？」

提督「長鯨にはいつも何から何までやってもらってばかりだから

な。サプライズさ」ニコリ

　　提督、バスケットを見せる

提督「これからピクニックに行くぞ！」

長鯨「わあ……はい！　お供します！」ニコツ

　　夫婦は腕を組んで仲良く出発した

◇鎮守府裏の丘◇

提督「長鯨♪」ダキッ

長鯨「きやあ♡　もう、着くなり抱きつくなんてえ♡」

提督「嬉しいくせに♪」

長鯨「嫌なんて言いませんから……♡」

（サプライズのピクニックなんて、嬉しいなあ♡）キユンキユン
　　この小さな丘は鎮守府所有の場所であるため、今日は夫婦だけの貸し切りである

提督「朝に長鯨を食堂に送り届けたあとで、俺は官舎に戻って料理してきたんだ」

長鯨「わあ、凄い凄い♡」

提督「まだ喜ぶのは早いぞ？」

長鯨「へ？」

提督「ま、行ってみてのお楽しみだ。こっちに来てくれ」

長鯨「は、はい」

　　提督に手を引かれ、長鯨は丘に登る

提督「みんな、頼む」

音楽妖精隊

「♪　　♪」

　　丘では音楽妖精隊による生演奏

提督「愛してるよ、長鯨。これからも俺と幸せになろうな」

長鯨「はい……はいっ♡」

　　提督のサプライズに長鯨は嬉し涙を流しながら、笑顔で何度も頷いた

提督「こんなに喜んでくれるとはな。準備した甲斐があるよ」

長鯨「こんなの反則ですよ……」

提督「俺の長鯨への愛は増すばかりだからな！」アツハツハ

長鯨「もう……♡／／／／」

♪演奏が終わると、提督は妖精たちに報酬のお菓子詰め合わせを約束し、今度こそ二人きりに♪

提督「それじゃあ、お昼にしようか」

長鯨「楽しみです♪」

♪丘を降りたところにある大きな木の下にレジヤシートを敷いて、昼食の準備♪

提督「たくさん作ってきたから、好きなように食べてくれ」

長鯨「いただきます♪」人

♪長鯨はおにぎりに手を伸ばす♪

長鯨「んっ、海苔とごまの香りがいい感じ♪ 昆布も美味しいです」

モグモグ

提督「愛情込めて握ったからな」

提督「こっちの玉子焼きは甘めにしたんだ」

長鯨「ではいただきます♪」

提督「ほい……あーん」つ玉子焼き

長鯨「えへへ……あむっ……甘いですね♡」デレデレ

提督「砂糖入れ過ぎたかな？」

長鯨「お砂糖のせいじゃなくて、提督のせいです♡」

提督「こいつう」ホッペツンツン

長鯨「んう、くすぐりたいですう♡」ヤンヤン

提督「つたく、可愛いな。こんな可愛い人がお嫁さんとか、毎日夢

みたいだよ」

長鯨「そんな……私だって、こんなに素敵な人が旦那様だなんて、幸せ過ぎてます♡」

提督「あはは、二人幸せでいいことだな」

長鯨「はいっ♡」

くお昼を食べ終え、夫婦は二人してレジャーシートの上で寝そべって日光浴を楽しむく

提督「ああ、幸せだなあ。というか、幸せとした表しようがない」
長鯨「今日でケツコンして二年目だなんて思えませんか♡ 毎日毎日

幸せで、昨日よりも今日の方が幸せです♡」

提督「なら明日は今日よりも幸せになるってことだな」ニカッ

長鯨「そうですね♡」

(提督とケツコンして良かった♡)

く提督、長鯨を自分の方へ抱き寄せるく

長鯨「提督、ここお外ですよ?♡」

提督「別にいいだろ。こうやって抱き寄せるくらい。それに他のみんなも見飽きてるって」

長鯨「それでも恥ずかしいんですう♡」

提督「ならやめるか?」

長鯨「むう、私の気持ち知ってるくせに♡」ポカポカ

提督「あはは、悪い悪い。ほら、抱きしめてやるから怒るな」ムギョツ

長鯨「もう、私だから許してあげるんですからね?♡」スリスリ

く幸せいっぱい提督の胸板に頬擦りする長鯨く

提督「今夜は今夜で記念日のケーキをご馳走するからな」

長鯨「あはは、記念日なのに太ってしまいますね♡」

提督「記念日くらいいいじゃないか。どうせ、そのあとで運動するんだし」ニカッ

長鯨「提督のすけべ♡」

提督「愛ゆえだな♪」

長鯨「もう、明日も朝早いですからね?♡」

それからも夫婦は二人の時間を満喫し、大切な記念日で更に愛を育んだ――。

長鯨 完

大鯨とケツコンしました。

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

コンコン――

提督「はい、どうぞ」

ガチャ――

大鯨「て・い・と・くく♡ お昼御飯ですよ♡」ピョコ

提督「お、もうそんな時間になったのか……ありがとう、今書類を片付けるから」セツセツ

大鯨「あの、提督」オズオズ

提督「ん、どうした？」

大鯨「今日はお天気もいいですし、お外でお昼御飯にしませんか？」

提督「おお、それはいいな♪ じゃあそうしようか♪」

大鯨「はい♡」ニコツ

提督「どこで食べるんだ？」

大鯨「鎮守府の屋上はどうですか？」

提督「お、いいね♪ そこに決まり♪」

大鯨「うふふ、私も書類のお片付けお手伝いしますね♡」

提督「ありがとう、大鯨」ニコツ

大鯨「……………はい♡／／／」テレツ

／そして夫婦は屋上へ／

◇鎮守府本館・屋上◇

提督「ん……気持ちいいな！」

大鯨「潮風も穏やかで心地良いですね♪」

／レジャーシートを敷いてお重を取り出す／

大鯨「えつと……こちらが揚げ物でこちらが焼き物。こっちは煮物で――」

／どんどん出てくる愛妻料理／

提督「今日も沢山作ってくれたんだな〜」シミジミ

大鯨「あ、もしかして多過ぎました？ 提督のカロリーコントロールはバツチリだったはずなのですが……」

提督（カロリーコントロール？）

「いやいや、そんなことないぞ！ 毎日沢山作ってくれるし、しかも美味しいからいくらだって食べれるぞ！」

大鯨「良かった♡ この煮物は初めて提督が食べてくれたおかげで、こちらの揚げ物は初めて提督が褒めてくださったおかげなんです♡ それにこちらも〜」ペラペラ

提督（細かいことまで覚えてくれてるんだな〜……）

「このおにぎりの中味は何？」

大鯨「えっと、右縦列がツナマヨ、真ん中の縦列が鮭、左の縦列がおかかです♡」

提督「おう、どれも大好物だよ！」

大鯨「うふふ♡ だってツナマヨは初めてデートした時に入れたおにぎりの中味ですし、鮭は初めてお付き合いした時のおにぎりの中味で、おかかは初めて私達が出会った日のお夜食に出したおにぎりの中味ですから♡」

提督「………そんなに覚えてるの？」

大鯨「そうですね〜…それが何か？」クビカシゲ

提督（あらかわいい………じゃなくて！）

「いやあ、よくそんなに覚えてるな〜って思ってたね」ニガワライ
大鯨「そうですね〜？ 私は着任して初めて提督にお会いした時から提督をお慕いしていたんですよ〜？」ムウ

提督「あはは………そう言ってもらえるのは嬉しいけど、何だか照れるな〜／／／／」

大鯨「んふふ、照れる提督も可愛いです♡」ニコニコ

提督「やめてくれよ／／／／」

大鯨「は〜い♡」

〜夫婦仲良く頂きます！〜

大鯨「はい、提督♡ あ〜ん♡」つ揚げ物

提督「あ〜……ん」ムグムグ

大鯨「どうですか？」

提督「美味しい以外の言葉が見つからない！」モグモグ

大鯨「良かった♡ 次は何が食べたいですか？♡」キラキラ

提督「いや、今度は俺が大鯨に食べさせてあげるよ。いつも食べさせてもらってばかりじゃいけないしね」ニコッ

大鯨「っ……………では、煮物の里芋を♡」オクチアーン

提督「よっ……………あ」

ぼろっ↑里芋がお箸からこぼれ落ちる

大鯨「きやんっ」

〜大鯨の谷間へ落ちた里芋〜

提督「ご、ごめんな。今取るから」

大鯨「提督」クイクイ

提督「ん？」

大鯨「手ではなくて、提督のお口で取ってください♡」

提督「え」

大鯨「早くしないと服にしみちやいます〜♡」

むぎゅっ♡↑大鯨、谷間を提督に強調

提督「／／／／」

大鯨「て・い・と・く♡」

提督「お、俺が悪かったんだしな……分かった／／／／」

大鯨「♡」

ぐいつ↑提督、大鯨の肩を掴む

大鯨「あ♡」

提督「へ、変な声を出すな／／／／」

大鯨「は〜い♡」クスクス

提督「……………あむっ／／／／」

大鯨「っ♡」ピクン

提督「ふう……………ふう……………／／／／」

大鯨「提督♡」クイクイ

提督「んが？／／／／」

ぐいつ↑大鯨、提督の顔を自分の顔に引き寄せる

大鯨「♡」パクン

提督「!?!?!」

大鯨、提督が啜える里芋を食べる（口移し）

大鯨「あゝ……はむっ……んっ……っ……ん♡」ゴックン

提督「たっ、大鯨／＼」ドキドキ

大鯨「ん、美味しく出来ました♡」ニコニコ

提督「よ、良かったね／＼」

大鯨「はい♡」

提督「／＼」ニガワライ

大鯨「提督」

提督「こ、今度は何かな？」

大鯨「谷間のところにまだお汁が残ってるので舐め取ってくれませんか?♡」クイクイ

提督「なん……だ?!?!」

大鯨「て・い・と・く?♡」

提督「うぐっ……わ、分かった／＼」

大鯨「お願いします♡」ギュムツ

大鯨「想像におまかせ!」

提督「はあ……はあ……ど、どうだ!／＼」

大鯨「んふふ♡ ありがとうございます♡」

提督「つたく……大鯨が作ってくれた手料理が冷めちゃったよ」ニガワライ

大鯨「ごめんなさ〜い♡」キラキラ

提督（かわいいは正義って本当だな……／＼）クツ

大鯨「お昼を済ませて食休み」

提督「ご馳走様でした」マンゾク

大鯨「お粗末様でした♡」ナデナデ

大鯨、大鯨の膝枕を堪能中

提督「……思えば大鯨が着任してから長いな」

大鯨「そうですね♡」

提督「初期艦だった電とか最古参だった扶桑や高雄達がこぞって異動しちゃった時は本当にこの先どうなるかと思つたよ……それらもみんな練度が98になるとほぼ異動だったからなく」

大鯨「大異動でしたから、本当に大変でしたね」

提督「それでも大鯨が残ってくれた……これは本当に助かった。大鯨が居なきや、俺の今は無いよ」ホツペナデナデ

大鯨「勿体無いお言葉です♡」ニヨニヨ

提督「これからも一緒に頑張ろうな♪」

大鯨「はい♡ これからもずっと一緒にです♡ ずっと……ね♡」

その後も当鎮守府ではご時世のせいかな艦娘達の異動は多かった。それでも大鯨だけは提督の側を離れなかつたというー。

大鯨 完

平安丸とケツコンしました。《新艦娘》

某鎮守府、夕方――

◇本館・応接室◇

提督「よくも俺にそんなふざけたことが言えたな！ 我慢にも限界がある！ もう我慢ならん！ 表へ出る！」

友人提督「事実を受け入れられないとは嘆かわしい！ いいだろう！ こっちもお前の根性を叩き直してやる！」

く兵学校時代からの親友だが、大喧嘩く

平安丸「もう、提督ったら……」ヤレヤレ

迅鯨（友人提督秘書艦）「あの、止めた方がよろしいのでは？」

平安丸「こうなるとあの人は聞きませんから……思う存分やらせた方が良いでしょう」

迅鯨「でも怪我とか……」

平安丸「日本男児たるもの、怪我して強くなります。大丈夫ですよ。何も真剣で切り合う訳ではありませんから」

迅鯨「はあ……そうですか……」

平安丸「それより、わたくしたちはあのやんちや坊主様方のお遊びが終わったあとにお出しするタオルや飲み物を用意しに参りましよう」

迅鯨「あ、はい、分かりました」

――

く友人提督との熾烈な木刀稽古を終えたく

◇稽古場◇

提督「今日はこれくらいで勘弁してやる……」

友人提督「それはこっちのセリフだ……」

く両者共に体中アザだらけだが、表情は清々しいく

提督「さっさと帰れ」

友人提督「言われなくても」

提督「見送りはしないぞ」

友人提督「誰がしてくれって頼んだ？」

提督「あ？」

友人提督「お？」

「ガシツと握手を交わし、友人提督は迅鯨に肩を借りて自分の鎮守府へと戻っていった」

提督「はあ……痛え。あいつ容赦なく脇腹に入れやがって……クソが」

平安丸「そんな言葉を使つてはいけませんよ、提督？　品が下がります」

提督「おクソ野郎ですわ」

平安丸「全くもう……」ニガワライ

「平安丸はそう言いつつも、甲斐甲斐しく提督の怪我を治療する」
平安丸「打ち身に効く軟膏を塗つて差し上げますね」

提督「う……おお……すーすーする……」

平安丸「お風呂に入る際には石鹸で洗い流してからにしてくださいませ。でないと強い刺激になってしまいますから」

提督「うん、そうする……」

平安丸「それともうあのようなことで喧嘩しないでくださいませ」

提督「え、ごめん。それは無理」

平安丸「趣味趣向は人それぞれ……十人十色といつも申していますでしょう？」

提督「でもあいつは平安丸を馬鹿にした！」

平安丸「しておりません。そもそもわたたくしがそう受け取っておりませんのに、提督がいつも暴走するんですよ？」

提督「だってあいつがー」

『眼鏡は所詮デバフ。眼鏡は絶対に外した方がいい』

提督「ーなんて言いやがるからさー！　処刑もんだろ、処刑もん！　火あぶりにしたあとでローゼンメイデンに放り込んで最後はファラリスの雄牛に詰めて埋葬しないと！」

平安丸「そこまで怒るものですか？」

提督「当たり前だ！　平安丸は眼鏡をしていても最高に美しい！

眼鏡があることでより美しい！」

平安丸「……そう仰ってもらえるだけわたくしは満足です♡」

提督「でも悔しいだろ。平安丸の美しさをしらないなんて……国家損失と同じだ」

平安丸「わたくしは、愛する提督がわたくしのことを美しいと思っ
てもらえるだけで満足なのです♡ 万人に評価されるよりも、愛する
提督にだけ評価される方がわたくしは嬉しいですから♡」

提督「……くっそかわいいな」

平安丸「提督、お口……」

くそう言つて平安丸は提督の脇腹のアザを軽く抓るく

提督「いひゃあー！」

平安丸「二度目ですよ？」

提督「ごめんなさい……」

平安丸「よく出来ました」ナデナデ

提督「やはり平安丸こそ至高」

平安丸「眼鏡が本当にお好きですね」

提督「平安丸に惚れて眼鏡の良さに気付いたと言つても過言ではな
い！」キリッ

平安丸「もう……またそんなことを言つて……」

提督「でも本当なんだ。だからこそ、今は眼鏡をデバフなんて言う
やつを見ると怒りが込み上げるんだ」

平安丸「分かりましたから、もうこれ以上ご面倒を起こさないでく
ださいませ」ナデナデナデナデ

提督「……分かった」

くたくさん頭を撫でられて機嫌を直す簡単提督く

平安丸「それではそろそろ執務室に戻りましょう。残りの執務を終
えれば本日の業務は終わりですから」

提督「終わったら平安丸の愛妻料理が待っている！」

平安丸「心を込めてお作りします♡」

提督「よーし！ 早く終わらせて、早く飯にしよう！」

平安丸「はい、旦那様♡」

こうして夫婦は仲良く残りの執務を素早く終わらせるのだ
たー。

平安丸 完

間宮とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりー

◇甘味処・宮湖◇
みやこ

カラシカラシ

北上「ちわー」ノシ

大井「こんにちはー」ニコツ

間宮「いらっしやいませー♪」

伊良湖「いらっしやいませー！」

まみや「い、いらっしやいませー！」

北上「あれー、まみちゃんお手伝い？ 偉いねー」ナデナデ

大井「提督の子どもだけど、間宮さんのお陰でしつかり者な娘に育つてますねー」クスツ

まみや「お、おとうさんをわるくいわないでください！」プンプン

大井「ご、ごめんねー」ニガワライ

まみや「むうー！」

北上「大丈夫だよ、まみちゃん。大井つちはこう見えて提督のこと

大好きだから」ニヤツ

大井「ちよ、北上さん!？」

まみや「だめー！ おとうさんはおかあさんのなの！ とっちやめ
くの！」

大井「盗らない、盗らないから！ ね？」アセアセ

間宮「／／／カオマツカ

伊良湖「微笑ましいですねー」ニヤニヤ

間宮「恥ずかしいわ／／／カオカクシ

カラシカラシ

飛鷹「こんにちはー」

隼鷹「おいっす！」ノシ

間宮「い、いらっしやいませー／／／」

伊良湖「いらっしやいませー！」ニコツ

まみや「い、いらっしやいませ!」

飛鷹「あら、まみやちゃん。お手伝いしてるの?」

まみや「はい! でも、いまはおおいおねえさんに、おとうさんをおかあさんから、とらないようにおしえてるんです!」

大井「だから盗らないから〜!」

隼鷹「ほく、こりやいい肴だなく」ニヤニヤ

北上「だよねく」ニヤニヤ

大井「もく!」ウガー

ー。

まみや「いらこもなかとまみやあいすです」コトツ

北上「ありがとね♪」ナデナデ

飛鷹「ありがと♪」ナデナデ

まみや「ノノノ」エヘヘー

まみや「ごゆっくりどうぞく♪」

ペコーガツンっ!

→頭を下げた拍子にテーブルにおでこをぶつける

大井「ま、まみやちゃん!」

飛鷹「だ、大丈夫!」

隼鷹「うおく……今のは痛いぞく」ニガワライ

まみや「ううく……」ウルウル

間宮「痛かったわねく……」ナデナデ

まみや「……まみや……ないてないよく」ナミダメ

間宮「ええ、まみやは強い強い♪」ナデナデ

まみや「うん!」ニパー

北上「流石だねく」ニヒヒ

隼鷹「こりや将来は大物だな」ニシシ

飛・大『』ホッ

まみや「ニハヘー

間宮「ニコニコ

そしてその日の夜ー

◇提督&間宮邸（鎮守府内）◇

まみや「ねえねえ、おとうさんまだ〜?」

間宮「もう少しじやないかしら〜?」ニコッ

まみや「はやくかえってこないかな〜」ウズウズ

間宮「今日のお味噌汁はまみやが作ったんだもんね〜♪」ナデナデ

まみや「うん♪ いっぱいたべてもらうの〜!」キャツキャツ

間宮「お父さん泣いて喜ぶわよ〜」フッフ

まみや「おとうさん、ないちやうの〜?」

間宮「かもしれないつて話よ」クスッ

ピンポーン……

間宮「誰かしら〜?」ニコッ

まみや「おとうさんだ〜!」タタタタッ

ガチャ〜

まみや「おとうさ〜ん! おかえり〜!」トビツキ

提督「おお、まみや〜! 会いたかったぞ〜!」ウケトメ

まみや「まみやもあいたかった〜!」スリスリ

提督「まみや可愛いよ、まみや〜♪」ナデコナデコ

間宮「お帰りなさいませ、あなた」ニッコリ

提督「ああ、ただいま」ニカッ

間宮「あなた♡」チュッ↑お帰りのあれ

提督「間宮……」チュッ↑ただいまのあれ

まみや（なかよしなかよし〜♪）ニコニコ

〜そして家族揃って晩ご飯〜

提督「この味噌汁を我が娘である、まみやが……?」ワナワナ

まみや「うん♪」ニへへ

間宮「あなたに食べさせたくて頑張って作ったのよ?」ニコッ

提督「ありがとう、まみや〜! お父さんは嬉しいぞ〜」ナミダダ

バー

まみや「おとうさんかなしいの〜?」

間宮「喜んでるのよ」ナデナデ

提督「そうだぞ〜!」ガツガツ

提督「こんなに美味しい味噌汁は食べたことがない！ まみや、おかわりをくれ！」

まみや「は☆い☆」ニパー

間宮「クスッ

く色々済ませ、夫婦の時間へく

間宮「まみやは眠りました」

提督「ご苦労様、こっちは洗い物終わったぞ」

間宮「洗い物くらい私がやりますのに……」

提督「殆ど家事をやってもらってるんだ。これくらいさせてくれ」

間宮「ありがとうございます♡」ニコッ

提督「おう」ニカッ

く間宮、提督の膝の上に座るく

間宮「はふく……落ち着きます♡」スリスリ

提督「はは、間宮は甘えん坊だな」ナデナデ

間宮「嫌ですか？」ウワメツカイ

提督「そんなはずないだろう？」ナデナデ

間宮「うふふ♡」ゴロゴロ

ー。

間宮「そういえば、今晚のお味噌汁は食べたことがないくらい美味しかったんですね？」

提督「そりゃあ愛娘の手料理なんて世界一だろ？」

間宮「今までは私があなたの世界一だったのに……悔しいですね

く

提督「何言ってるんだ。間宮は元々世界一じゃない」

間宮「え」

提督「間宮の作る手料理は宇宙一だ。これまでもこれからもな」ニカッ

間宮「!?♡／／／」ズキューーーン

間宮「も、もう……あなたたったらく♡／／／」テレリテレリ

提督「事実だからな」アハハ

間宮「嬉しいです……これからもあなたの為に精一杯作りますね

♡「ホッペチユツ

提督「頼りにしてるよ」ホッペチユツ

間宮「うふふ♡」ニヨニヨ

提督「間宮……」ホッペナデナデ

間宮「あなた♡」クチビルサシダシ

提督「チユツ

間宮「ん♡ あん♡ んんっ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡ んむう♡

ん♡♡ ぷはあ♡」ハアハア

提督「愛してるぞ、間宮」

間宮「私も愛してます♡」

提督「では、そろそろ部屋に行って間宮をいただこうかなっ！」グ

イッ

間宮「あん♡」

♡提督、間宮をお姫様だっこ♡

間宮「あま〜く仕上がってますよ♡ 心ゆくまで味わってください

♡ 愛しの旦那様♡」ヒシッ

提督「ああ、堪能させてもらおうよ♪」ギユツ

その後、二人の間にまたひとつの宝物が増えたー。

間宮 完

伊良湖とケツコンしました。

某鎮守府、昼下がりにー

◇食堂兼甘味処・間伊（まい）◇

伊良湖「はい、あなた♡ あーん♡」つ最中

提督「あくん……ん♪ 今日も美味しいよ♪」モグモグ

伊良湖「あなたへの愛がたつくさん入ってますから♡」ニヨニヨ

提督「伊良湖♪」ギューツ

伊良湖「あなた♡」ギューツ

／ラブラブキヤツキヤツ＼

時雨「今日も提督達は絶好調だね」ニコニコ

春雨「仲睦まじいですよね♪」

天津風「そうね／／／」ポツポツ

雪風「見るだけで幸せな気分になれますね♪」

伊良湖「あなた♡」ホツペチュチュ

提督「伊良湖♪」ホツペチュチュ

時雨「ふふ、なんかアイスの甘さが無くなってきたよ」ニコニコ

春雨「私のぜんざいはなんか甘過ぎる気がします♪」

天津風「私は熱いわ／／／」プシュー

雪風「きつとあのお二人のせいですね♪」

間宮「スパーンスパーン↑鮪一刀両断中

く提督、仕事へ戻るく

伊良湖「く♪♡」キラキラキラキラ

間宮「今日も仲良しでしたね」ニコリ↑落ち着いた

伊良湖「えへへ♡ ありがとうございます♡」ニヨニヨ

間宮「これはお夕飯も頑張って作らなくてはいけませんね？」

伊良湖「はい♡ 張り切って作っちゃいますよ♡」

間宮「その前に、艦隊の皆さんにお出しするお夕飯の仕込み、頑張

りましょうね」ウインク

伊良湖「勿論です♪」フンスフンス

その日の夜――

◇提督&伊良湖の部屋◇

伊良湖「夜遅くまでお仕事を頑張るあの人に♪ 美味しいお夜食作りましょ♪」トントントン

伊良湖「今日は焼きおにぎりと苦めのほうじ茶♪」ルンルン
いぎ、提督の元へ

◇執務室◇

コンコンー

提督「は〜い。開いてますよ〜」

カチャー

伊良湖「お仕事、お疲れ様です♡」ヒョコ

提督「伊良湖♪ 来てくれたの〜？」ワクワク

伊良湖「毎日こんな遅くまでお仕事してるんですもの、妻として応援するのは当然です♡」ニパー

提督「ありがとう♪ 伊良湖は本当に良いお嫁さんだなあ♪」ナゲ

コナデコ

伊良湖「えへへ♡」ニヨニヨ

提督、夜食を堪能中

提督「いつも悪いね〜」モグモグ

伊良湖「いえいえ♪ 私が好きでやってることですから♡」ニコリ

提督「ありがと」ニコツ

伊良湖「それに……」

提督「？」

伊良湖「こうしてお夜食を持っていけば、あなたとの時間が出来ますから♡」ポツ

提督「キユン

ガタツ↑席を立つ

提督「伊良湖♪」ギューツ

伊良湖「あん♡ ふふ、どうしたんですか、あなた？♡」ギューツ

提督「伊良湖が可愛過ぎたから、抱きしめたくなった」ギューツ

伊良湖「嬉しいですよ♡」キュンキュン

く暫く抱き合う二人く

提督「よし！ 充電完了！ あと少し、頑張るよ！」

伊良湖「あの、お邪魔じゃなければにっこりでお待ちしてても良いですか？」ウワメツカイ

提督「勿論良いよ♪ でも夜だから、このブランケット使って」つブランケット

伊良湖「ありがとうございます♡」

く提督、仕事再開く

提督「カキカキ

伊良湖「♡」ジーツ

提督「サラサラ

伊良湖「♡」ジーツ

提督「ペラッ

伊良湖「♡」ジーツ

提督「スラスラ

伊良湖「♡」ジーツ

伊良湖（あく、凜々しい仕事モードのあなたのお顔……♡）キュン
キュン

提督「カキカキ

伊良湖（いつもの優しい笑顔は可愛くて好きだけど、こっちのお顔は素敵♡／／／）ポツ

提督「サラサラ

伊良湖（こんなに幸せで罰が当たらないかしら／／／）キラキラ

提督「よし、終わり！」

伊良湖「お疲れ様です♡」

提督「ふう〜、ありがと〜」ノビー

伊良湖「寝る前にマッサージでも致しましょうか？」

提督「お願いしようかな」ニコッ

伊良湖「はい♪ お任せください♡」

◇提督&伊良湖の部屋◇

くお布団敷いてマツサージ中く

伊良湖「どうですか？」ギユツギユツ

提督「あゝ、生き返るく」

伊良湖「うふふ♡」ギユツギユツ

伊良湖「今日着ていた制服はクリーニングしますから、明日はクリーニング済の別の制服を出しますね♪」グリグリ

提督「うん。いつもありがとく」

伊良湖「いえいえ♪ 妻として当然です♡」グリグリ

伊良湖「さて、ではシメと行きましょう。仰向けになってください♡」

提督「はくい」ゴロン

伊良湖「く♡」サスサス

提督「ちよ、そこはくくく」ビクツ

伊良湖「間宮さんには負けますが、私だって胸には自信あるんですよ？♡」パフ

提督「ふあっ!?!くくく」

伊良湖「たらくさんマツサージしてあげますからね♡ だ・ん・な・さ・ま♡」ウインク

提督「お手柔らかにねくくく」

伊良湖「私はどこも柔らかいですよ♡」ギユーツ

提督「くくく」テレワライ

そしてめちやく（ryー）。

伊良湖 完

改

武蔵とケツコンしました。改

某鎮守府、昼下がりー

◇戦艦寮の一室◇

ガチャーー

武蔵「迎えにきたぞー」

パタパタ!

むさし「かあ^母ちゃんおかえい〜!」

大和「お疲れ様、武蔵♪」

武蔵「お〜、ただいま〜。いい子にしてたか〜?」

〜武蔵はむさしを抱っこする〜

むさし「してたく〜!」ワハー

武蔵「そうかそうか♪ 流石は私と父ちゃんの子だな」ワシヤワ

シヤ

むさし「えへへ〜♪」

大和「ニコニコ

武蔵「いつも悪いな。むさしの面倒を任せて」

大和「いいわよ♪ 可愛い可愛い姪っ子だもの♪」

武蔵「そう言ってくれると助かる」

大和「それに結構興味深いお話もしてくれるから楽しいのよ」ニヤ
ニヤ

武蔵「?」

大和「ね〜♪」

むさし「ね〜!」ワハー

武蔵「???」コンワク

武蔵「まあ何かは知らんが面倒見てくれてありがとう」

大和「いえいえ♪ また明日ね、むさしちゃん♪」

むさし「ばいばい〜! やまとね^姉えち^{ちゃん}や!」フリフリ

く武蔵はむさしを抱っこしたまま帰ったく
大和「大和も子どもほしいなく」ニコニコ

◇帰り道◇

く母娘で夕飯の買い物中く

むさし「かあちや、かあちや」

武蔵「んく？ どうした？」

むさし「とうちやんはく？」

武蔵「父ちゃんはまだお仕事だ」

むさし「そっかく」

武蔵「父ちゃんに何かお話ししたいことでもあったか？」

むさし「ううん。いまとうちやはなにしているのかなって」ニコニコ

武蔵「はは、父ちゃんは母ちゃん達の為に頑張って働いてるぞ」ナ

デナデ

むさし「うん！」ワハー

く買い物を終えて帰宅中く

武蔵「そういえばむさしよ」

むさし「なくにく？」

武蔵「大和姉ちゃんにどんなお話を聞かせてるんだ？」

むさし「とうちやとかあちやのおはなし！」

武蔵「……………ん？」

むさし「だからく、とうちやとかあちやのおはなし！」

武蔵「……………どうして？」

むさし「やまとねえちやがききたがるのく♪」ワハー

武蔵「……………そうか」

むさし「うん！」ニコニコ

武蔵（姉さんめ、娘に何聞いてるんだ……）

武蔵「因みに父ちゃんと母ちゃんのどんなお話を聞かせてるんだ

？」

むさし「えつとねく、とうちやはかあちやがだいすきでね、かあちやもとうちやがだいすきっておはなし！」

武蔵「……なん……だど？」

むさし「それでねそれでね、きょうはかあちやはよくとうちやにぎゆうつてするっておはなしした！」

武蔵「……そ、そうなのか……」ハイライトオフ

むさし「♪」エツヘン

武蔵（今度から控えた方が……でもそれだと私が耐えられない……）グヌヌ

武蔵は悶々しながら帰宅した

その日の夜――

◇提督&武蔵邸（鎮守府近辺）◇

ガチャ――

提督「ただいま」

パタパタ！

むさし「とうちや、おかえい！」トビツキ

提督「つと……ただいまむさし」スリスリ

むさし「しゆりしゆり」キャツキャツ

武蔵「お、おかえり」

提督「おう、ただいま」ニカッ

見つめ合う夫婦

提督「？ どうした？ 来ないのか？」

提督、両手を広げて待つ

武蔵「うっ……」

むさし「う？」

提督「何今更恥ずかしくてんだ？ いつも飛び込んで来てるだろ

？」ホレカモンカモン

武蔵「う……うむ」ヒシッ

抗えなかった

提督「ただいま、俺の愛しい武蔵」ギューッ

武蔵「おかえり、私の愛しい提督」ゴロゴロ

むさし（らぶらぶ）ニコニコ

くそして家族での食卓く

むさし「おかわい〜！」つお茶碗

武蔵「ああ、どんどん食え」ニコニコ

むさし「うん！」ワハー

提督「母ちゃんのご飯は美味しいからおかわりしちゃうよな〜。俺にも頼む」つお茶碗

武蔵「ふふ、褒めても何も出ないぞ？♡」ニヨニヨ

提督「美味しい飯が出るだろ？」アハハ

武蔵「つたく♡」テシテシ

くてんこ盛りご飯く

提督「テラ盛り過ぎだろ……」ニガワライ

むさし「がんばれとうちや！」キラキラ

武蔵「♡」ニコニコ

提督「オウフ

くそして夫婦の時間へく

提督「あく、食い過ぎたく」ゴロン

武蔵「可愛い娘に応援されたら食べるしかないもんな」アハハ

提督「そうだな〜」

（半分は武蔵の笑顔のせいだがな！）

提督「むさしは寝たのか？」

武蔵「ああ、いつも通りぐっすりだ」

提督「健やかでいいことだ」ウンウン

武蔵「そうだな」ニコツ

武蔵「ほら、提督よ。こっちに頭を乗せろ」オヒザポンポン

提督「かたじけない」コロロン

武蔵「気にするな♡」ナデナデ

く武蔵、提督に膝枕く

武蔵「なあ、提督よ」

提督「どうした？」

武蔵「実はなー」

く武蔵、帰り道でのむさしとの会話を話すく

提督「ほく、だから今日はすぐに俺の胸に飛び込んで来なかったのか」

武蔵「ほくではない。大和に知られたんだぞ?／／／／」

提督「別にいいだろ。ケンカしてる話なら別だが、俺達のスイートメモリーなら」

武蔵「何がスイートメモリーだ。馬鹿者／／／／」コツン

提督「あてっ……だってそうだろ?」

武蔵「……否定はしない♡／／／／」プイッ

提督「子どもってのは正直だからな。それくらいは覚悟しなきゃ」
ナデナデ

武蔵「む、むう……」

提督「それとも甘えるのは我慢するの?」

武蔵「……やだ／／／／」ムウ

提督「なら今まで通りでいいだろ」ニカッ

武蔵「そう、だな……／／／／」デレツ

提督「さて、俺達もそろそろ寝るか」

武蔵「あ……」

提督「?」

武蔵「きよ、今日はその……してくれない、のか?♡／／／／」

く甘えた声+もじもじ仕草く

提督「なら風呂場に行こう。あそこは防音完璧設計にしたからな」
キリッ

武蔵「変態め♡／／／／」デレデレ

提督「その変態が夫なんだがな♪」

武蔵「なら私も同類か♡」アハハ

提督「そうだよ」チュッ

武蔵「あん……んはあ、ふふ♡」ギューッ

そしてめちやく(ryー

武蔵 完

ビスマルクとケツコンしました。改

某鎮守府、朝ー

◇執務室◇

提督「本日の作戦は前日伝えた通り。比較的敵は少ないが油断はしないように。情報には無いが潜水艦の動きにも細心の注意を払うこと」

艦隊『はっ！』ケイレイ

提督「では、みんな無事に帰ってくるように」ケイレイ

艦隊『了解！』

ビスマルク「気をつけて行きなさいね」

くビスマルクは提督を後ろから抱きしめ中く

グラーフ「お前ってヤツは……」

プリンツ「まあまあ、グラーフさん」ニガワライ

レーベ「いつものことだから……」

マックス「それに提督は昨日まで一週間、大本営に出張だったから

これくらいは想定内よ」アキレ

ユー「仲良し仲良し」ウンウン

はち「寧ろこうじゃなきや空から魚雷が降ってきてそう」

提督「ははは……／／／」

ビスマルク「ちよつとあまり動かないで」ヒシッ

提督「す、すまん」

グラーフ「今日の私は阿修羅になれる気がする」ニコニコ

はち「なら今日の作戦は楽そうだね」クスクス

マックス「私達は何もしなくても良さそう」クスクス

レーベ「ちゃ、ちゃんとやろうよ」アセアセ

プリンツ「あはは……」ニガワライ

ユー「プリンツ、胃薬いる？」つ胃薬

プリンツ「………ありがとう」ウケトリ

くとりあえず艦隊は出撃したく

提督「ふう……さてー」

ビスマルク「気兼ねなくキス出来るわね……ん〜♡」クチビルサシダシ

提督「待て」

ビスマルク「何よ……ダメなの？」ムウ

提督「ダメに決まってるだろ」

ビスマルク「……………ああ、キスだけじゃイヤなのね♪ もう昨晚もあんなにしたのに……アトミラールったら♡」キャツ

提督「違う。というか寝かせてくれなかったのはビスマルクの方だろうが」ハア

ビスマルク「何よ……イヤだったの？」ムツスー

提督「嫌ではなかったよ」

ビスマルク「なら何が問題なのよ〜」

提督「今のこの状況だ」

〜提督、ビスマルクに後ろからだいしゆきホールド〜

ビスマルク「これの何が問題なの？」

提督「もう少し慎みを持ってくれ」

ビスマルク「慎んでみんなの前ではキスしなかったわよ？」クビカシゲ

提督「それは慎みとは言わない。とりあえず離れてくれ」

ビスマルク「イヤ！」ヒシッ

提督「つたく……相変わらず強情だな」

ビスマルク「アトミラールが私を一週間も放置したせいよ。貴方も随分偉くなったものね。この私を放置するだなんて」

提督「ビスマルクやみんなの活躍があつて俺は今の地位に居れるんだ。感謝している。だからこそ大本営に呼ばれたんだよ」

ビスマルク「でも一週間だなんて聞いてない」

提督「たまたま会議が長引いたんだよ……」

ビスマルク「むう〜！」プツクウ

提督「毎晩電話してただろ？」

ビスマルク「電話だけじゃ貴方の温もりは感じられないわ」

ギューツ

提督「そうだけど……」

ビスマルク「私は毎晩寂しかった……貴方のせいよ」

提督「……」ニガワライ

ビスマルク「だから貴方は私を満足させる義務があるの！ だから

暫く私は貴方から離れないから！」ヒシツ

提督「はあ……分かった、俺の負けだ」オテアゲ

ビスマルク「ふふん♪ 最初からそう言えばいいのよ♡ いいの

よ、キスしてくれても？♡」オメメハート

提督「はいはい……」チュツ

ビスマルク「♡」チュツチュツチュ

♡夫婦は散々キスした後仕事へ♡

そして昼……

提督「カリカリ

♡提督、仕事中♡

ビスマルク「そこ、字が間違ってるわ」

♡ビスマルク、提督の膝上に鎮座♡

提督「おお」ケシケシ

ビスマルク「ホント貴方は私が居ないとダメなんだから……そんな

んで良く一週間も出張してたわね」ムナモトイジイジ

提督「向こうでは字は書かなかったからな」

ビスマルク「むう……」

提督「？」

ビスマルク「貴方は私が居なくても何とも思わないのね……」ウル

ウル

提督「ギョツ

ビスマルク「私が一人寂しくベッドで枕を濡らしていた間も、貴方

は一人優雅に寝ていたのね……」グスン

提督「おい」

ビスマルク「私はこんなにこんなにアトミラールのことを愛してる

のに、貴方は何も感じないのね……」グスグス

提督「おい！」

ビスマルク「何よ？」

提督「はあ……ちよつと膝から退いて。そこのソファアーに移れ」

ビスマルク「イヤ！」ヒシッ

提督「頼む……すぐに俺もそっちに行くから」ナデナデ

ビスマルク「……Ok^{わかつた}ay」

くビスマルク、ソファアーへく

提督「スクッ

提督「ストーン

く提督、ビスマルクの隣に座るく

ビスマルク「??」

提督「グイッ

く提督、ビスマルクを抱き寄せるく

ビスマルク「!?♡」キユン

提督「なあ、ビスマルク」

ビスマルク「な、何かしら?♡」ギューッ

提督「俺達はケツコンしてからまだ何処にも行っていないよな……」

ビスマルク「? 海には何度も行ってるじゃない」

提督「はは、確かにそうだな……でもそういう場所じゃないんだよ」

ビスマルク「??」クビカシゲ

提督「Du Schatz, wo sollen wir un

ser e Flitterwochen verbringen?」

訳「俺の宝物^{ビスマルク}、俺達の新婚旅行は何処に行きたい?」

ビスマルク「え……ええ!?!/」ズキューーン

提督「大本営のお偉いさんに頼んで一週間の休日を貰ってきた。だ

から一週間帰って来れなかった」

ビスマルク「貴方……/」ドキドキ

提督「何処に行きたい?」

ビスマルク「バカ……貴方となら何処でも嬉しいわよ♡」ギューッ

提督「ははは、なら日本らしい温泉旅行にでも行くか♪」

ビスマルク「ええ♡」スリスリ
提督「Du bist mein Schatz」ニツ
ビスマルク「Ich liebe dich」ニツ
♡」
そして夫婦は自然と互いを求め合った。

◇執務室外・ドア前◇

ビスマルク『アトミラール♡ もつと♡ もつとキスして♡』

提督『ああ、勿論だ』

／ラブラブチュッチュー＼

グラーフ「結局こうなるのか」ヤレヤレ

プリンツ「先に補給とドックに行きましょうか」ニガワライ

マックス「あれ絶対入ってるよね？」マジマジ

レーベ「そんなに見ちやダメだよ／／／／」

ユー「あれがソファ―海戦／／／／」

はち「ちっちゃいビスマルクが産まれるのも時間の問題だね」ニ

ヤニヤ

ビスマルク 完

飛鷹とケツコンしました。改

某鎮守府、昼過ぎー

◇艦娘寮の一室◇

コンコンー

隼鷹「開いてるよ〜」

ガチャー

いずもまる「こんにちは、じゅんようさん！」

ひよう「こんにちは〜！」ノシ

隼鷹「お、姪っ子シスターズじゃないか。どうしたんだ？」

いずもまる「おかあさまがおとうさまとおしごとへむかったのでこちらにきました！」

ひよう「じゅんよう、あそぼ〜！」ピョンピョン

隼鷹「ああ、そーいや面倒見てくれて頼まれてたっけ……」ワスレテタ

いずもまる「あの……もしおじやまでしたら、いずもまるたちはべつのばしよにいきます……」

ひよう「ええ〜！ じゅんようとあそびたい〜！」

いずもまる「こら、わがままいつてたらおとうさまにごほうこくするからね！」

ひよう「わがままじゃないも〜ん！」

／キヤイノキヤイノ

隼鷹「分かった分かった！ ここに居ていいからケンカすんな！」アセアセ

ひよう「やった〜！」

いずもまる「しかし……」

隼鷹「子どもが変な遠慮すんな。大人しく甘えとけ」ナデナデ

いずもまる「はい♪」ニパー

隼鷹（姪っ子って可愛いな〜♪）

ひよう「じゅんよう！ ひようも！ ひようもいいこだからなでて

〜!」

隼鷹「はいはい〜♪」ナデナデ

ひよう「えへへ〜♪」ニコニコ

隼鷹（提督と飛鷹が親バカなのも分かる気がする）デヘヘ

〜そして三人は部屋で仲良く遊ぶことに〜

ー。

いずもまる「もう、こんなにおさけのびんをちらかしてたらいけませんよ!? それにいくらおいしいからと、こんなにはからだにどくです!」クドクド

隼鷹「は、はい……」セイザ

（くそ〜! 説教癖まで飛鷹に似てやがる!）

ひよう「じゅんよう、おようふくはちゃんとしたたまなきやしわしわになるんだよ? きれいなおようふくがかわいそうだよ?」

隼鷹「そ、そうだな……」ニガワライ

（こつちもこつちで飛鷹に似てやがるな〜……）

〜結局姪っ子達に諭され部屋掃除をすること〜

隼鷹「んじや、あたしは酒瓶を捨てて来るから、二人はその服を畳んでおいてくれ」

い・ひ『りようかい!』ビシッ

隼鷹（後で飛鷹にも怒られるんだろうな〜……）シロメ

パターンー

いずもまる「じやあ、わたしがすかーとかはくものをたたむから、

ひようはうわぎね!」

ひよう「は〜い♪」

いずもまる「セツセツ

ひよう「ヨイシヨヨイシヨ

カタン……

いずもまる「?」

ひよう「ん〜?」

〜脱ぎ散らかされた服の中から何かを発見〜

ひよう「ん〜?」

いずもまる「これしやしんをかざるやつねー」

ひよう「みちやえ〜!」

いずもまる「あ、こら! かつてにみちやめ!」

ひよう「あれ?」

いずもまる「ど、どうしたの?」

ひよう「これ、おとうたんとおかあたんがうつつてるよ〜?」

いずもまる「え、みせて!」

ひよう「かつてにみちやめなんじゃないの〜?」ニヤニヤ

いずもまる「うう〜……」グヌヌ

ひよう「でもこのおとうたんとおかあたんすつごいな。おとうた
んはかっこいいふくきてて、おかあたんはきれいなどれすきてるの
〜」キラキラ

いずもまる「……」グスツ

ひよう「あわわ! おねえたんかないで〜! おかあたんにはだ
まってるあげるから、ほら」写真

いずもまる「うん……ほんとだ……」グシグシ

ひよう「おとうたんもおかあたんもしろいおようふくだね〜」

いずもまる「なんのしやしんなのかな〜?」

ガラガラ〜

隼鷹「ただいま〜」

い・ひ『びい!』

隼鷹「? あ、何か見つけたのか〜?」

いずもまる「かつてにみちやつて、ご、ごめんなさい! おこるな
らわたしだけをおこってください!」

ひよう「お、おねえたんわるくない! ひようがかつてにみたの!」

隼鷹「いやいや、そんならいで怒んないって」ニガワライ

隼鷹、写真に気がつく〜

隼鷹「うお〜! こんなところにあつたのか〜! 見つけてくれて

サンキューな♪」ナデナデ

いずもまる「?」

ひよう「さがしものだったの?」

隼鷹「そうなんだよ♪ これ、お前らの父ちゃんと母ちゃんのケツコン式の写真なんだぞ♪」

い・ひ『ええええ!』

隼鷹「確かその時のDVDもあるんだけど……どこやったかな?」

いずもまる「さ、さがします!」

ひよう「みつけたらみせて!」

隼鷹「ああ、いいよ♪」

い・ひ『がんばります!』

くこうして時間は過ぎていったく

そしてその日の夜更けー

◇提督&飛鷹邸（鎮守府近辺）◇

ガチャー

提督「ただいまく」↑残業して帰宅

「んああああ!」

提督「?」

く提督、茶の間へく

提督「飛鷹?」

飛鷹「娘達にバレたあああ／／／」ゴロゴロ

く飛鷹、赤面して床を転がるく

提督「おい、飛鷹?」

飛鷹「あ、あなた!?!／／／」

提督「ただいま」ニコツ

飛鷹「お、おかえりなさい／／／」

提督「いずもまるとひようは寝たのか?」

飛鷹「え、ええ／／／」パタパタ

提督「で、この状況は?」

飛鷹「えつとー」

く飛鷹、提督に説明中く

飛鷹「ーってなことがあって／／／」ウツムキ

提督「別にいいじゃないか。悪影響なものじゃないんだし」ニガワライ

飛鷹「だ、駄目よ！ 提督と私のケツコン披露宴をいずもまるとひように観られたのよ!? 隼鷹のせいだ！」

提督「そんな変な披露宴だったか？」

飛鷹「へ、変じゃないわよ……ただ……／＼／＼」モジモジ

提督「ああ、ゴンドラ代わりに船で登場したのを知られて恥ずかしいのか！」

飛鷹「それもあるわ／＼／＼」

提督「じゃあ、キャンドルサービス代わりにキスしながらみんなのテーブルを回ったやつか？」

飛鷹「それも／＼／＼」

提督「なら、ケーキ入刀中にキスしてて切り方をハマしたところか？」

飛鷹「……それも／＼／＼」

提督「ならブーケトスで俺が飛鷹ごと投げて俺がキャッチしたところか？」

飛鷹「……全部よ、全部！ 全部観られたから恥ずかしいの！」

／＼／＼「カー」

提督「ええ」ニガワライ

飛鷹「私はもつと普通の披露宴がしかなかったの！ なのにあなたが勝手にあんなアドリブ入れて！／＼／＼」

提督「じゃあ何か!? 飛鷹はあの披露宴が嫌だったのか!? あんなに俺とのラブラブな披露宴だったのに！」

飛鷹「嫌訳ないでしょ馬鹿！♡ 今でもこんなに幸せなのに！♡」ギューツ

提督「っ……なら、何も問題ないだろ！」ナデナデ

飛鷹「それとこれとは違うもん！♡／＼／＼」ヒシツ

提督「くそく！ 可愛い過ぎんだよ！」ギューツ

飛鷹「恥ずかしさが無くなるくらい抱きしめて！♡」

提督「当たり前だ！ 今夜は寝かさんぞく！」

飛鷹「愛してるわ、あなたく！」ホールド

提督「俺も愛してるぞ〜！」ダキッ

そして夫婦はそのまま防音設備抜群の寝室へ突入した。

◇子ども部屋◇

いずもまる「おとうさまとおかあさまはまえからああなんだね」ニ

コニコ

ひよう「ひようもしょうらいはらぶらぶふうふになりたいなく」ニ

コニコ

その次の日、飛鷹は隼鷹を何時間も正座させて説教をした。だがその顔はつやつやだったというー。

飛鷹 完

那智とケツコンしました。改

某鎮守府、朝ー

◇提督&那智の部屋◇

提督「トット」

提督、料理中

提督「アジミアジミ

提督「よし♪」

時計へ時間だぞ、コノヤロー

提督「起こさなきゃな」

提督、火を止めて寝室へ

◇寝室◇

那智「すう……すう……」

提督「今日も良く寝てるな」ホッペツンツン

那智「んん……」ムニヤムニヤ

提督「ほれほれ、早く起きないと朝飯が食えないぞ？」

那智「ん……んあ……」ゴロン

提督「普段はあれだけ頼り甲斐あるのに、朝には本当に弱いな……

おくい、那智さんやうい」ホッペツンツン

那智「らいじょうぶ……ていろくは、わたひが……」

提督「私が？」

那智「たべりゆ……」

提督「なん……だと……？」

那智「んへへ……」

提督（いや、確かに毎晩美味しく食されていますけどね、はい……）ニ

ガワライ

那智「ん……ぐへへ……」

提督「さて、本格的に起こすか……」グツ

提督、那智を仰向けに

提督「さあ、今日は何分耐えるかな？」グフフ
ちゅ♡↑提督、那智の鼻を摘んでキスで口を塞ぐ

那智「ん♡……」

提督「ンチュー」

那智「ん♡……ん♡……！」カッ

提督「ぷはあ♡……おはよ♪」ナデナデ

那智「お、おはよう♡……」ハアハア

提督「今日はすぐに目覚めたな」ニコッ

那智「私だつて進化しているんだ♡……というか慣れた」ムクリ

提督「そうか♡……んじや、朝の支度してこい。俺は朝食を盛り付け
してくるから」

那智「ああ、分かった」

提督、寝室を後にする♡

那智「ソッ

♡那智、自分の唇を撫でる♡

那智（また奪われてしまった♡……／／／／）カァー

那智（いや、まあ♡……嬉しいんだが♡／／／／）ニハハ

那智（浮かれてばかりは居られない♡／／／／）デヘヘ

那智（後で私から奪い返さなければ！♡）デレデレ

那智（やられっ放しは性に合わんからな♡）フフフ

♡那智、決意して朝の支度へ♡

◇茶の間◇

那智「ふう♡……」

提督「お♡、来たな」

那智「ああ♡……いつも料理してくれてありがとう」ニッ

提督「気にすんな。好きでやってることだからな」ナデナデ

那智「ふふ、いい旦那に恵まれたな、私は♡」スリスリ

提督「そりやどうも♡……さ、朝飯にしよう」ニッ

那智「ああ♡」

♡夫婦揃つての朝食♡

那智「いただきます」人

提督「召し上がれ」

ぱくっ

那智「うむ、いい炊き加減だ」モグモグ

提督「味噌汁はどうだ？」

那智「ずず……ん、今日の味噌汁も美味いぞ」ニコニコ

提督「良かった……んじゃ、俺もいただきます」

那智「くっ」パクパク

◆回想◆

提督「那智」

那智「どうしたんだ、提督……何か相談か？」

提督「相談じゃない。頼みだ」

那智「頼み？ 提督にしては珍しいな。私に出来ることなら何でも

するぞ」お前にはいつも世話になってるからな」

那智「（それに私達は……恋人同士だし♡）」デレデレ

提督「ん？ 最後はなんて？」

那智「な、何でもない！／＼／＼それで、私に頼みとは？」

提督「これは那智にしか頼めないことだ……しっかり聞いてくれよ

？ 一度しか言わないからな」

那智「ああ」

提督「すう……はあく……」シンコキユウ

那智「『ミガマエ

提督「俺の味噌汁を毎日食べてください」

く指輪の箱オープン」

那智「『ポカーン

提督「那智？」

那智「ぶ、ふふふ……くはは……」

提督「『コンワク

那智「ふふ……すまん……まさかそんなプロポーズの言葉をもらえ
るとは思わなくてな……」

提督『えつと……答えは？』

那智『ああ、すまん。私もちゃんと答えなくてはな』

提督『ゴクリ』

那智『こんな私で良ければ毎日お前の味噌汁を飲ませてくれ』
ギューツ

提督『お、おおく』ギューツ

那智『おいおい……なんだその反応は？ もっとはっきり言わない
と伝わらないのか？』クスクス

提督『い、いや……段々実感湧いてきた／／／』

那智『はは、実は私もだ♡』ギューツ

◇現在◇

「……ち」

提督「那智！」

那智「お、お、すまん。どうした？」

提督「いや、味噌汁のおかわりいるか？ さつきから何も入ってな

いお椀を永遠と口を持って行ってるから」

那智「／／／」ボンツ

提督（可愛い）

那智「も、もう一杯くれ／／／」つ椀

提督「はいよ♪」

く朝食を終え、夫婦は身支度を始めるく

那智「提督よ。襟が曲がっているぞ」トトノエ

提督「ありがとう」

那智「ん……よし、素敵だぞ♡」ニパツ

提督「ありがとう」ニツ

那智「では私も頼む」クルツ

提督「はいよ」

く提督、那智の髪を梳くく

那智「く♡」ニコニコ

提督「相変わらず綺麗な髪だな」

那智「毎晩ちゃんと手入れは欠かさないからな♪」

提督「そうか。長いと大変そうだな」

那智「そんなことはない。提督が毎回私の髪を褒めてくれるからな……」

〜那智は提督の方に顔だけ振り返る〜

那智「愛するお前が褒めてくれるんだ……大変だなんて思ったことはないぞ♡」ニパッ

提督「ドキッ

那智「♡」ニパニパ

提督（反則だろ／／／）カー

那智「どうした、そんな可愛い反応をして♡」ニコニコ

提督「那智が嬉しいことを言うからだ／／／」

那智「はは、そうか♡」ヒシッ

〜那智、提督を抱き寄せる〜

提督「な、那智？／／／」

那智「口づけがしたくなつた……いいか？♡」オメメハート

提督「断る理由なんてない／／／」

那智「愛しているぞ、提督♡」

提督「俺も愛してるよ」ニッ

ちゅっ♡

那智「んはあ……いかな……」

提督「？」

那智「口づけだけでは足りん♡」ギューッ

提督「え」

那智「いいよな？♡」ハアハア

提督「でも時間が……／／／」

那智「一回だけ♡」オメメハート

提督「一回だけだぞ？／／／」

那智「ああ♡」

そして夫婦は盛大に遅刻したー。

那智 完

熊野とケツコンしました。改

某攻略海域、昼前――

艦隊帰投中

鈴谷「んあ、疲れた！服もボロボロだし最悪！」中破

熊野「貴女が突出し過ぎたのが原因です。自業自得ですわ」無傷

利根「まあ、お主が突出してくれたお陰で吾輩達はかすり傷程度で済んだのじゃ。名誉の負傷じゃぞ！」小破

筑摩「ふふ、そうですよ。それに帰ればちゃんと治してもらえますから」小破

鈴谷「むう」

青葉「それより本日MVPに輝いた熊野さん、一言お願いします♪」

中破

衣笠「遅いなあ、青葉は……」小破

熊野「一言と言われましたも……当然のこととしか、言いようがありませんわね」キラキラ

青葉「おお、流石ですね」カキカキ

衣笠「熊野ちゃんも結構遅いよね」ニガワライ

鈴谷「そりやそうつしよ♪ なんとつて毎日提督からたくくさんの愛を貰ってるんだもん♪」ニシシ

熊野「／／／」プイッ

利根「ふむ……愛とは偉大なものじゃなく」

筑摩「羨ましいですね♪」クスクス

熊野「く／／／」カオマツカ

衣笠「ちよつとみんなく、熊野ちゃんが困ってるじゃん」

鈴谷「困ってるっていうかく、照れてるだけって感じ？」ニヤニ

ヤ

利根「何故照れるのじゃ？ 仲良きことは良いことではないか？」

筑摩「それとも、何かやましいことでもあるんですか？」ニコ

ニコ

熊野「や、やましいことなんてありませんわ！ わたくしは提督を心から愛しています！」

熊野「……………あ／＼／＼カァー

青葉「海のと真ん中で愛を叫んでしまうほど愛して居られると

……………」メモメモ

衣笠「わお♪」

利根「あつはっは！ これは熱いのう♪」

筑摩「ふふ、ご馳走様です」ニコニコ

鈴谷「ビュービュー♪」

熊野「くく……………は、早く帰りますわよ!?／＼／＼」

鈴谷「早く帰って提督に会いたいつてことだね」ニヤニヤ

青葉「お熱いですね」ニヤニヤ

筑摩「なら、私達も速度上げますか」ニヤニヤ

利根「ほお、ならば急ぐとするかの♪」

衣笠「ニガワライ

熊野「(＝)∨(∨)∧(＝)」キーツ！

くそんなこんなで艦隊帰投く

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞく」

ガチャー

熊野「艦隊帰投ですわ」

提督「ああ、おかえり」

熊野「皆さんはドックへ向かわせましたわ。わたくしはー」

提督「『無傷で帰投しましたのでシャワーを浴びて補給してきまし

たわ』だろ？」

熊野「……………御名答、ですわ」クスツ

提督「戦闘中の詳細は熊野が俺の端末に送ってくれたからもう確認

済みだ。熊野は休んでくれ」

熊野「……………それだけですの？」ムスツ

提督「？」

熊野「今日のわたくしはM・V・P！ でしたのよ？」ノゾキコミ

提督「ああ、知ってるよ。お疲れ様」

熊野「はあ……貴方は本当に鈍感ですわね」ヤレヤレ

提督「??」

ぐいつ……ちゅっ♡

く熊野、提督の唇を奪うく

熊野「んっ……んく……っ……ちゅっ……んん……」チュー

提督「く……まつ……の……ちゅっ……ん……」

熊野「……んはあ、わたくしからさせるなんて、夫失格ですわ」

ギューツ

提督「ご、ごめん／＼／」ナデナデ

熊野「許しません」スリスリ

提督「えく……」ナデコナデコ

熊野「許して欲しければ、今一度……わたくしと口づけを♡ 今度

は提督がわたくしの唇を奪ってごらんなさい♡」オメメトジル

提督「……分かった」アゴクイツ

熊野「♡」キュン

ちゅっ♡

熊野ニコニコ「く♡」チュツチュツチュー

提督（嫁が可愛過ぎてヤバイ……／＼／）

熊野「……ぷはあ……及第点、ですわね♡」スリスリ

提督「手厳しいな／＼／」ナデナデ

熊野「そんなにすぐに合格点なんて取らせませんわ♡」ギューツ

提督「く／＼／」ニガワライ

熊野「これくらいで満足してあげませんわ♡」クビスジチュツ

提督「お、おい／＼／」

熊野「大人しくされてなさいな♡ 痛いことはしませんから♡」ク

ビスジチュー

提督「う……／＼／」ビクツ

熊野「ふふ、可愛いですわ……わたくしの愛しい旦那様♡」クビス

ジハムハム

提督「ちよ、く、熊野……／＼／＼」ビクン

熊野「ふふ、もつと可愛いお声を聞かせてくださいまし♡」カプツ

提督「く、熊野／＼／＼」

く我、食される！く

小一時間後ー

熊野「ふふ、提督♡ 愛してますわ♡」ギューツ

提督「はあはあ……お、俺も愛してるよ／＼／＼」ナデナデ

熊野「ん♡ 最高ですわ♡」スリスリ

提督「そ、そろそろ昼飯にしないか……？／＼／＼」

熊野「んもう……ムードが台無しですわ」ムスツ

提督「ご、ごめん／＼／＼」

熊野「でも、確かにもうお昼ですものね……沢山運動しましたし、昼食に致しましょうか」ニコツ

提督「／＼／＼」コクコク

熊野「今日は気分がいいですから、サンドイッチが食べたいですわね♪」

提督「そのことなんだけど……」

熊野「何ですか？」

く提督、執務机の下からバスケットを取り出すく

熊野「これってもしかして……」

提督「熊野がMVPを取ったから昼飯に食べてもらおうと思ってサンドイッチを作ったんだ／＼／＼」

熊野「提督……♡」キュンキュン

提督「食べてくれるか？／＼／＼」

熊野「勿論頂きますわ♡」ギューツ

◇鎮守府内・中庭◇

提督「口開けて……」つハムレタスサンド

熊野「あむ……ん♪ 及第点ですわ♡」

提督「そっか」ニコッ

熊野「っ♡」キウンキウンキウン

提督「どうした？」

熊野「な、何でもありませんわ♡／／／」デレデレ

熊野（本当はとつくに提督は合格点に達してますわ♡）

熊野（でも……）チラッ

提督「次は何にする？」ニコニコ

熊野「ツナサンドがほしいですわ♡」

提督「よしきた！」つつナサンド

熊野「はむ……ん♪ こちらも美味しいですわ♡」ニヨニヨ

熊野（こんなに幸せなんですもの……もう少し欲張っても罰は当たりませんわ♡）

／ラブラブイチャイチャ

三隈「今日も提督夫婦は仲睦まじいですわね」クスクス

最上「そうだね……鈴谷達は大変そうだけど」チラッ

鈴谷「デスソースウマ〜！」グビグビ

筑摩「砂糖が止まりません」ダバダー

利根「何とも難儀じゃな、お主らは」ニガワライ

青葉「あれ〜、おかしいですね〜。手が勝手に地面を……」ドゴオドゴオ！

衣笠「鎮守府は今日もお砂糖日和だね」ニガワライ

熊野 完

球磨とケツコンしました。改

某鎮守府、朝――

◇執務室◇

提督「球磨、ちょっと頼まれてほしいことがあるんだが」

球磨「何だクマ〜？」

提督「今日着任するアイオワのことなんだが……」

球磨「クマ？ 予定では来週じゃなかったクマ？」

提督「ああ、向こうの都合だね。着任するのが早まったんだ」

球磨「どうしてもっと早く球磨に言わなかったクマ？」

提督「今朝いきなり言われたんだよ。球磨はその時丁度、席を外してたから」ニガワライ

球磨「なら仕方ないクマ。それでそのアイオワがどうしたクマ？」

ハツキリ言えクマ」

提督「アイオワが着任したら金剛か足柄に案内を頼もうとしたんだが……」

球磨「二人は今演習に行ってる最中クマ」

提督「そう。だから……」

球磨「球磨にアイオワの案内を頼むという事クマ〜？」

提督「その通りですはい」ニガワライ

球磨「球磨は秘書艦だからそんな暇ないクマ」ジトーツ

提督「そう言わずに頼むよ〜。勿論、案内してくれる分の秘書艦任務は免除するからさ」コノトオリ！

球磨「……………」

提督「フカブカ

球磨「仕方ね〜クマ。頼まれてやるクマ」ナデナデ

提督「ありがとう、球磨〜」ギューツ

球磨「調子のいい提督だクマ♡」スリスリ

〜そして球磨は埠頭へ〜

◇埠頭◇

アイオワ（訳「こんにちは♪ アメリカから来たアイオワよ。これからここで世話になるわ」ニコッ

球磨（訳「私は球磨。この鎮守府で秘書艦をしています。今日は私
があなたを案内しますので、私の後について来てください」ニッコリ
アイオワ（訳「わお♪ あなたすっごく英語が上手ね！」

球磨（訳「昔英語の得意な人が私の艦長だったので」ニコッ

アイオワ（訳「なるほどね。とても素敵な方だったみたいね」フフ
球磨（訳「とても優秀な方だったわ♪」

アイオワ（訳「ならあなたも優秀ね」クスクス

球磨（訳「そう褒めないで♪」ドヤア

アイオワ「クスクス

くそして球磨はアイオワを連れて執務室へく

◇執務室◇

ガチャー

球磨「提督く、アイオワ連れて来たクマく」ノシ

提督「ありがとう……えっと、日本語は話せるかい？」

球磨「問題ないクマ」

アイオワ「ええ、ちゃんと話せるわ」ニコッ

提督「ああ、君がアイオワだね？」

アイオワ「イエス♪ ミーがアイオワ級戦艦、アイオワよ！ あな

たがここのアドミラルね！ よろしくね！」

提督「よろしくね……俺がここの提督です。君の着任を心から歓迎
するよ。今日は早速、この鎮守府内を見て回って来てほしい。案内は
球磨に任せてあるから」

アイオワ「OK♪」

く球磨、アイオワを連れて鎮守府の案内へく

◇鎮守府内・中庭◇

く一通り案内を済ませ、二人は中庭へく

球磨（訳「ここで少し休憩しましょう」

アイオワ（訳「了解♪ あと、もう日本語でも大丈夫よ？」

球磨「分かったクマ〜」ニコツ

アイオワ「ええ♪」

〜二人並んでベンチに座る〜

球磨「ザツと回ったけど、どうだったクマ？」

アイオワ「設備がとても充実した素晴らしい鎮守府ね。ここに着任出来て嬉しいわ」

球磨「ふっふっふ〜♪ うちの提督が頑張ってる証拠だクマ♡」ニコニコ

アイオワ「さつき話して思ったけど、このアドミラルは素直で誠実な人ね♪ その証拠にさつき会った艦娘達はみんな素直ない娘達だったわ♪」

球磨「♡」ウンウン

アイオワ「艦隊のみんなから慕われてそうよね〜、ミーもケツコンするならアドミラルみたいな人がいいわね〜♪」

球磨「それは駄目だクマ〜！」ガタツ

アイオワ「ビクツ

球磨「この球磨の左手の薬指を見るクマ！」

〜ケツコン指輪キラツ☆〜

球磨「提督は球磨の提督だクマ！ そして球磨は提督の球磨だクマ〜！ 提督は球磨だけを愛してくれるって言ったクマ！ だから駄

目だクマ〜！」ブンブン

アイオワ「Wow……」ビックリ

球磨「あ……急に大きな声を出して悪かったクマ……」

アイオワ「気にしてないわ♪ ミーこそs o r r y……あんな素敵な人と結ばれてるあなたが羨ましかったの」ニコツ

球磨「そう褒めるなクマ〜♡ 褒めても提督は球磨のだクマ♡」デレデレ

アイオワ「ふふ、日本の言葉で言うところ『馳走様』かしら？」
球磨「照れるクマ〜♡」デヘヘ

くその後もガールズトークを楽しみ、球磨はアイオワと仲良くなつた
た

その日の夜――

◇提督&球磨の部屋◇

球磨「――それでアイオワと仲良くなつたクマ♪ 今度鎮守府近
くの街も案内してあげるクマ♪」

球磨は楽しそうに提督にアイオワのことをお話中

提督「そつかそつか」ニコニコ

球磨「む……」ジーツ

提督「？ 急に黙ってどうしたんだ？」

球磨「提督は球磨が他の人と仲良くしてても何も感じないクマ？」

提督「え……だつてアイオワは球磨の友達だし、そもそも女じやな
いか」

球磨「む、提督は分かってないクマ」ヤレヤレクマ

提督「ええ……」

球磨「球磨は提督が男の友達と仲良く話をしてるのを見るのも嫌だ
クマ……」ギューツ

提督「球磨……」

球磨「お仕事なら仕方ないクマ。交友を深めるのも分かるクマ」

球磨「せっかく素敵な提督に巡り会えたのに……また居なくなつ
ちやつたりしたらつて考えると、球磨は耐えられないクマ……」アタ
マグリグリ

球磨「球磨はもう大切な人を絶対に離したくないクマ……提督は球
磨だけのクマ……」ヒシッ

提督「スッ

ぽふぽふ↑提督、球磨の頭を撫でる

球磨「んあ♡」

提督「大丈夫だ。俺は愛する球磨を置いて何処にも行かないさ」ナ
デナデ

球磨「そんな甘いセリフを言いながら撫でるなクマ……卑怯だクマ

♡「トローン

提督「球磨は俺に撫でられるの弱いもんな」ニコツ

球磨「全部提督のせいだクマ♡」スリスリ

提督「責任とるよ」ナデナデ

球磨「一生ものだクマ♡」ギューツ

提督「勿論だ」

球磨「クマ♡♡ 約束のちゆうするクマ♡♡」クイクイ

提督「なら、目を閉じて」ナデナデ

球磨「見つめ合ったままするクマ♡♡」ヤンヤン

提督「はいはい」チュツ

球磨「んっ♡っ♡ あふ♡んん♡んむう♡」ギューツ

提督「ん…:ちゅっ…:ぷはあ…:満足したか？」

球磨「足りないクマ♡!♡」スリスリ

提督「そっか」ニコツ

球磨「お布団に連れてけクマ♡♡」ホールド

提督「はいよ♪」

球磨「提督♡」

提督「ん?」

球磨「だ〜い好きだクマ♡ 死んでも離してあげないクマ♡」

提督「おう」ニコツ

その後めちやく（ry）。

球磨 完

川内とケツコンしました。改

某鎮守府、昼――

◇執務室◇

神通「――以上が今回の訓練でのご報告になります」

那珂「新人の娘達も大分練度上がってきたよ♪」

提督「そうか、報告ありがとう。近々他の鎮守府と演習を組んで最終調整に入ろう。それが決まったら連絡するから、みんなにもそう伝えてくれ」

神・那『了解』ケイレイ

提督「ん……なら二人はもう下がっていいよ。お昼時だし、早く食堂へ向かうといい」

神通「お心遣いありがとうございます」ペコリ

那珂「は〜い♪ 提督、まったね〜♪」ノシ
パターンー

◇鎮守府本館内・廊下◇

那珂「今日のお昼は何かなく♪」ランラン

神通「楽しみね」ニコニコ

「あれ、二人共報告終わったの?」

那珂「あ、川内ちゃん♪」ノシ

神通「姉さん……はい、午前の訓練でのご報告は終わりました」ニコツ

川内「そっか、お疲れ様♪」

那珂「川内ちゃんは……あ〜」ニヤニヤ

川内「な、何よ?」

那珂「どうしたのって訊こうとしたんだけど、その手に持つてる包みを見て那珂ちゃん分かっちゃった〜♪」

川内「う／＼／／／」

神通「今日も愛妻弁当を提督にお届けに行くんですね」ニコツ

川内「う、うるさいなあ……いい、いいじゃん、別に／＼／／」プイッ

那珂「何も悪いとは言っていないよ〜?」ニヤニヤ

神通「姉さんは提督とお付き合いをされてからとても変わりましたね。前は口を開けば夜戦、夜戦とうるさいことこの上なかったのに、今ではとても良いお嫁さんになられて……私は嬉しく思います」ニコニコ

川内「神通は前に比べて私に辛辣になったよね……」ニガワライ

神通「それだけ悩まされてましたから」ニコニコ

川内「な、なんか、ごめん」

神通「ふふ♪」クスクス

那珂「でも川内ちゃん、よく夜戦我慢出来てるよね〜。前だったら暴れ出してたのに〜」

川内「あ、あはは〜……若気の至りってやつよ……」タジツ

那珂「本当は提督と離れたくないからだったり?」ニヤニヤ

川内「あう!?!?!」

神通「凶星みたいですね」フフ

川内「し、仕方ないじゃん……す、好きなだもん♡?!?!?!」ゴニゴニヨ

神・那『あれが夜戦バカと呼ばれていたとは思えない変貌っ振り!!』キョウガク

川内「そ、それにね?!?!」モジモジ

神・那『?』

川内「提督に本当の夜戦を教えられちゃったから、夜はそればっか考えちゃって♡?!?!」デレデレ

神・那『?!』↑劇画調

川内「て、提督の15.2cm高角単装砲改の前にはさすがの私もー」

那珂「川内ちゃんストトップ!?!?!」クチオサエ

川内「!?!」ムグツ

神通「そ、そこまで生々しいことは話してくれなくて結構です?!?!」

那珂「と、とりあえずさ、理由は分かったから提督のところに行き

なよ！ ね!?! / / / /

川内「コクコク」

神通「間違つても今のようなことを他の方々に話さないでください
ね？」

川内「わ、分かった / / / /」

くそして川内は二人と別れ、提督の元へく

那珂「なかなか凄い話を聞いちゃったね……」

神通「そうね……でも姉さんが幸せそうなのは確かだから」ニガワ
ライ

那珂「だね♪ だってあんなに乙女乙女してるんだもん♪」

神通「あと一つ解決したこともあるわ」

那珂「なに？」

神通「ほら艦隊の艦娘達の間で噂になってることあるでしょ？」

那珂「ああ、深夜に女性のうめき声とか叫び声が聞こえてくるやつ

……ってまさか!?!」

神通「 / / / /」コクリ

那珂「ええく……どうするのく？」

神通「後で明石さんと妖精さん達に相談して提督達に防音設備バツ
チリの部屋を用意してもらいましょう」

那珂「それがいいね」ニガワライ

く二人は苦笑いを浮かべて工廠向かうのだったく

◇執務室◇

ガチャー

川内「提督く、居るく？」ヒョコ

シーン……

川内「あれ？ トイレかな？」キョロキョロ

川内「？」

く執務機の椅子に掛けられた提督の上着く

川内「またこんなところに掛けて……」ハア

く川内、お弁当を置いて上着を手に取るく

川内「シワになっちゃやうからちゃんとハンガーに掛けてって言うてるのに……こういうところはズボラなんだから」バサッ

く微かに香る提督の匂い

川内「／／／」ドキッ

川内「誰も居ないよね？／／／」キョロキョロ

ぎゅむっ♡↑川内、提督の上着を抱きしめる

川内「提督の匂い……♡」クンクン

川内（落ち着く匂い……提督に抱きしめられてる時とか、提督に抱きついてる時と同じ匂い♡）ホワァン

川内「でへへ♡」ニヨニヨ

提督「上着なんかで満足出来るのか？」

川内「ひゃう!？」ビクッ

提督「よ♪ 川内♪」ニコッ

川内「て、ててて、提督!?!／／／」

提督「おう♪ その大事そうに抱きしめてる上着の持ち主である提督だが？」ニヤニヤ

川内「あ、こ、こここ、これは違うの!／／／」 提督のだからっ

い抱きしめたくなくて!／／／」アタフタ

提督「ったく」スッ

ぎゅっ♡↑提督、川内を抱きしめる

提督「上着なんかじゃなくて、実際に本人を抱きしめりゃいいだろ？ 俺達はもう夫婦なんだからよ」ナデナデ

川内「……うん♡」ギューッ

提督「夜はあんなだけ激しく俺を抱きしめるんだから、今更恥ずかしかることないだろ？」

川内「そ、そんなことないもん♡／／／」ウウー

提督「そうか？ 未だに俺の首筋に残るアザは誰が付けたんだっけ？」ホッペツンツン

川内「わ、私だけど……♡／／／」カァー

提督「『提督〜!』言いながら首筋をこう、ぎゅっとし過ぎて出来たんだよな〜？」ホッペナデナデ

川内「いい、言わないでよ♡／／／」ムウ
提督「はは、悪い悪い。川内がそんな反応するのは可愛いからついな」ナデナデ

川内「いじわるしちややだよ♡」スリスリ

提督「お前が可愛いのが悪い」クスクス

川内「えへへ、なら今夜も沢山可愛がつてね♡」

提督「おう♪」

川内「なら約束のキス、しよ？♡」

提督「勿論♪」

川内「提督、好き♡ 大好き♡」

提督「俺も好きだよ」

ちゅっ♡

そしてー

◇執務室外・ドア前◇

川内『はい、提督♡ あくん♡』

提督『あくん♪』

川内『あん♡ 私の指まで食べないでよ♡』

提督『川内は美味しいからなく♪』

川内『夜までお預け♡』

提督『はいよ♪』

／イチャイチャラブラブ＼

神通「あ、後でご報告に来ましようか」ニガワライ

那珂「だね……この空気を壊すのはちよつとね」ニガワライ

→騒動の件で報告に来た

神通「あんなに仲睦まじくて夜もお盛んなら部屋もすぐに出ていくことになるかしら」

那珂「どうかなく？ 暫くは部屋でいちゃいちゃするんじゃない？」

神通「その辺も踏まえてお二人にご報告しましょうか」ハア

那珂「そうだね♪」

そして夫婦はその後、神通達の報告を聞いて鎮守府近辺にマイホームを買うことにしたとかー。

川内 完

初雪とケツコンしました。改

某鎮守府、昼―

◇執務室（和室）◇

初雪「司令官」

提督「どうした、初雪？」

初雪「お腹空いた〜」グデー

提督「名取達がもうすぐ遠征から帰ってくる。それまでもう少しだけ待っててくれ」

初雪「んう〜」ダラーン

〜初雪、提督の背中にあすなる抱きで寄り掛かる〜

提督「待てないなら、先に食堂へ行ってもいいぞ？」

初雪「……………やだ」ギューツ

提督「ならもう少し我慢だな」ナデナデ

初雪「んう〜……………分かった」スリスリ

提督「ん、いい子だ」ニコニコ

初雪「へへ♡」

トントナー

提督「はい、どうぞ〜」

カラカラー

名取「失礼します。第二艦隊、只今遠征任務より帰還しました」ケイレイ

艦隊『』ケイレイ

提督「ああ、お疲れ様。詳しい報告はいつも通り報告書で確認する。

名取達は補給をして昼食をとるように」

名取「了解しました」ニコツ

初雪「みんなお帰り〜」ノシ

白雪「ただいま、初雪ちゃん♪」

吹雪「ただいま」ニコツ

深雪「お前ずっと司令官に引っ付いてたのか〜？」ニガワライ

叢雲「何当たり前のこと訊いてんのよ」アキレ

磯波「初雪ちゃんは提督さんのこと大好きだから」フフ

提督「いやあ……あはは／＼／＼」アタマカキカキ

名取「クスクス

初雪「私は司令官が大好きなんじゃない。愛してるの……間違え
ちやダメ」ギューツ

提督「あ、あはは／＼／＼」カオマツカ

吹雪「あはは♪ 司令官、お顔真つ赤ですよ♪」

白雪「仲良しですね」クスクス

深雪「うへく……あつま／＼／＼」ウツプ

叢雲「はいはい、ご馳走様」ヤレヤレ

磯波「あはは……」ニガワライ

名取「ふふ、では私達はこれで失礼しますね。どうぞごゆっくり」ニ
コツ

提督「あ、ああ、お疲れ様／＼／＼」ノシ

初雪「お疲れく」ノシ

くそしてまた二人きりにく

提督「じゃあ、みんなも帰ってきたことだし俺達も食堂に行こうか
／＼／＼」

初雪「待つて」グイッ

提督「うお!? ど、どうした?」

初雪「私、さっき司令官を愛してるって言った……」

提督「え、おう……そうだな」

初雪「でも司令官は何も言ってくれなかった」ジトツ
提督「え」

初雪「司令官は私のこと愛してる、よね?」ジーツ

提督「……あ、愛してるさ／＼／＼」

初雪「ん、なら許す♡」ニヘー

提督「あ、ああ／＼／＼」

初雪「……お腹空いた」クウ

提督「そうだな。お昼食へに行こう」スツ

初雪「ん」リョウテヒロゲ
提督「はいはい」ニガワライ
ヒョイツ↑提督、初雪をお姫様抱っこ
初雪「んへへ♡」スリスリ
提督「抜錨する」ニコツ
初雪「は〜い♡」ギューツ
〜夫婦仲良く食堂へ〜

◇食堂◇

〜夫婦、テーブル席で仲良くお昼〜
提督「いただきます」人
初雪「いただきます」人
／シレイカンオハシー ハイヨー／
那智「今日も仲睦まじいな、あの二人は」モグモグ
羽黒「おしどり夫婦ですから」ニコニコ
龍驤「おしどり？ トリモチの間違いとちやうか？」
衣笠「あはは♪ ”とり”だけにね♪」
古鷹「ふふふ、流石龍驤さん」クスクス
望月「でもあれは仲睦まじいを通り越してるよね〜」
初雪「あ〜」オクチアーン
提督「ほい」つご飯
初雪「むぐむぐ……うまし♪」
提督「良かったな」ニコニコ
〈次は私が食べさせる番
え、遠慮しとくよ／／／／／〉

〈ダメ〜♡

もがふごもが〜／／／／／
那智「まあいつものことだな」パクパク
羽黒「平和ですね♪」モグモグ
龍驤「見せつけられるこっちの身にもなってほしいわ」ケツ
衣笠「青葉すらあの光景の写真撮るの飽きたからね〜」ニガワライ

古鷹「あゝ、だから最近新聞で提督達のこと載ってないんだね」
望月「あの夫婦……主に初雪は狼狽えないからね」

全員『砂糖吐くな(ね)……』ニガワライ

初雪「はい、司令官♡ あゝん♡」ツツコミ

提督「むぐもが／＼／＼」クチパンパン

そして時は過ぎ、昼下がりー

初雪「……………」コツクリコツクリ

提督「眠いのか？」

初雪「ん……大丈夫……ふあゝ」クシクシ

提督「大丈夫じゃないだろ」ニガワライ

初雪「睡魔が私と司令官の仲を裂こうとしている……」グヌヌ

提督「大袈裟だな……」

初雪「だつて」ムウ

提督「ほら、こつちに来て少し休め」ヒザポンポン

初雪「睡魔に感謝しなきゃ」キラキラ

提督「ニガワライ

ころん♡↑初雪、提督の膝枕へ

提督「どうだ？」ナデナデ

初雪「筋肉で硬いけど司令官の匂いがするからプラマイゼロってとこ」ゴロゴロ

提督「手厳しいな」ニガワライ

初雪「司令官、私のためにもっと太ももに贅肉つけなよ」

提督「そんな器用な真似出来ないって……」アハハ……

初雪「むう」アタマグリグリ

提督「俺が太ったら初雪だって嫌だろ？」ナデナデ

初雪「司令官ならなんでも愛してるから大丈夫」キリッ

提督「俺は遠慮したいな」ニガワライ

初雪「なら司令官は私が太ったら嫌いになるの？」

提督「んなわけあるか。どんな初雪も愛してるよ」ニコツ

初雪「♡」キュン

「初雪は提督の膝の上に乗って、向かい合って座る」
提督「初雪？」

初雪「眠気覚めた。だからこうしてて♡」ギューツ

提督「はいよ」ナデナデ

初雪「ちゆうしてくれてもいいんだよ？」ウワメツカイ

提督「……／／／／」キョロキョロ

初雪「警戒し過ぎ♡」クスクス

ちゅっ♡↑初雪から提督の唇を奪う

提督「!?／／／／」

初雪「ん……ん……っ……ぷはぁ♡ えへへ♡」スリスリ

提督「／／／／」ナデナデ

提督（俺は一生初雪には勝てないだろう……）

その後も提督は初雪に沢山頂かれたそうなのー。

初雪 完

敷波とケツコンしました。改

某鎮守府、昼下がりー

◇執務室（和室）◇

ススーッー

敷波「司令官ただいま。艦装の開発終わってー」

提督「」

「提督、机に突っ伏している」

敷波「司令官？」

「敷波、提督にそっと近寄る」

提督「んんん……」Zzz

敷波「」ホッ

敷波（眠ってる……体調悪いのかと思ってびっくりしたじゃん……）

提督「ぐう……ぐう……」Zzz

敷波「アタシを働かせておいて自分は寝るとか……ズルいじゃん
ホッペツンツン

提督「ん……んう……」

敷波「」キュン

敷波（やば……ちよつと可愛い／＼／＼）

敷波「……あ」

「敷波、机の脇にサイン済み書類の山を見つける」

敷波「そっか……」クスツ

敷波（頑張つて終わらせただね）

敷波「なら眠つても仕方ないか」ナデナデ

敷波（何か掛けるもの持ってこよ）
てててー

「敷波、執務室のロッカーへ」

敷波（ここに無かったら部屋まで取りに行かなきゃなく……何かあつたかな？）

カサコソ↑物音を立てないよう慎重に探す

敷波（……お）

テツテレー♪

敷波（タオルケット♪　なんて／／／／↑自分でやって恥ずかしくなる

敷波（てかタオルケットなんてよくあったな）

ドサツ---

敷波「ビクッ

敷波「起きたの？」クルリ

提督「くう……すう……」

く提督、仰向けで尚も寝ている

敷波（頭とかぶつかなかったのかな？）ニガワライ

敷波（ま、寝てるからいつか）ウンウン

くそして敷波はタオルケットを提督に掛ける

提督「Zzz

敷波「ニコニコ

敷波（仰向けなら枕……必要だよね）

敷波「チラッ

提督「……ぐう……」スヤスヤ

敷波「／／／／」

敷波（膝枕……してあげたら喜んでくれるかな？／／／／）

敷波（てか、枕なんて執務室にないからアタシの膝枕しかないよね

／／／／）ウンウン

く敷波、提督を起ささないように膝枕をする

敷波（仕方ない仕方ない♡／／／／）デヘヘ

敷波「♡」ナデナデ

提督「……し、きなみ……」

敷波「!？」ドキッ

提督「んく……しきなみ……」スヤスヤ

敷波「……／／／／」ホッ

敷波（寝言でアタシの名前言うとかどんだけだよ……嬉しいけどさ

♡／／／／♡ エへへ

敷波（ホント、今でも夢みたい……アタシを選んでくれたなんてさ♡）フッフ

◆回想◆

提督『敷波、ちよつといいかな？』

敷波『どうしたの？』

提督『俺ら付き合っつて結構経つよな？』

敷波『え……まあ、それなりにはね』

提督『えつと、だな……／／／／』

敷波『??』

提督『』パカッ

く提督、指輪の箱を開けるく

敷波『指輪？』

提督『ケツコンしてください』

敷波『ふえ？』

提督『敷波を愛してます。俺のお嫁さんになってください』フカブ

カ

敷波『ええええええ!!』

◇そして今◇

敷波「」ニガワライ

敷波（あの時はホントに驚いたな〜）

トントナー

敷波「」ビクッ

ススツツ

綾波「失礼します。只今遠征から帰投しまし……あら」

朧「わお」ニヤニヤ

曙「うわ」

漣「（。？∩？）」k t k r

潮「／／／／」アワワ

敷波「／＼／＼／」アタフタ↑声を出したいけど出せない
綾波「ニッコッ

綾波、みんなに執務室から去るよう目配せする

朧「(●^人^●)」ゴチソウサマ

曙「(——|——)」ゴッチャンデス

漣「(・▽・)」グッドラック!

潮「(／＼／＼／)」ゴメンナサイ!

敷波「／＼／／」ノシ

綾波「(お幸せに)」クチパク

敷波「(どうも)／／／／」クチパク

スス……—

綾波達、静かに退室

敷波「／＼／／／」プシュー

敷波「(見られた)／／／」アウアウ

敷波「ま、まあ、夫婦だし……仕方ないよね、うん／／／」

敷波、ふと考える

敷波「(どうして司令官はアタシを選んできたんだろ……)」

敷波「(アタシは綾波みたいに華々しい戦果もあげてないし、朧みたいに自分に自信ないし、曙みたいに物事をハッキリ言えないし、漣みたいに明るくもないし、潮みたいに献身的でもないのに……)」

提督「(☒ω☒)」スヤア

敷波「(人の気も知らないで……幸せそうに寝ちやってさ……)」

敷波「このこの」ホッペツンツン

提督「うへへ……しきなみ……」スヤスヤ

敷波「キユン

敷波「(考えるの止めよ……司令官がアタシを選んできたことには
変わんないもん♡)」

敷波「司令官、大好き♡」ボソツ

敷波「(えへへ♡ 言っちゃった♡) デレデレ

敷波「(やば……大好きなんて言ったから顔がにやける♡／／／／)」

敷波「♡／／／／」エへへー

提督「ん……ん？」パチッ

敷波「うわ……お、起きた？／＼／＼」

提督「敷波……ああそうか、俺居眠りしちまつたのか……」

敷波「そ、そうだよ……戻ってきたら寝てるんだもん／＼／＼」

提督「ごめん……今起きるよ」スツ

敷波「あ、待って／＼／＼」

提督「ん？」

敷波「も、もう少し膝枕しててあげてもいいよ？♡／＼／＼」

提督「」

敷波「司令官が嫌じゃなければけど……♡／＼／＼」

提督「ならお言葉に甘えようかな。敷波の膝枕なんて俺だけの特権

だし♪」ニッ

敷波「恥ずかしいこと言わないでよ、もお♡／＼／＼」ナデナデ

提督「俺は恥ずかしくないからな♪」

敷波「うゝるゝさゝいゝ♡／＼／＼」ホツペグリグリ

提督「わふい^悪わふい^悪」ニガワライ

敷波「まったくもお♡／＼／＼」ニへへ

提督「なあ、敷波」

敷波「んゝ？」

提督「キスしたい」ホツペナデナデ

敷波「そ……すれば？♡」

提督「なら顔をこっちに寄せてくれよ」

敷波「仕方ないなゝ♡ はい♡」

提督「愛してるよ、敷波」

敷波「うん♡」

ちゅっ♡

敷波「えへへ♡」

提督「あはは♪」

その後も夫婦は何度も何度もついでばむような口づけを交わし、愛を育んだ――。

敷波 完

漣とケツコンしました。改

某鎮守府、昼下がりにー

◇執務室◇

提督「カリカリ

ゝ提督、仕事中ゝ

パタパタ!

提督(帰ってきたか……)

バターーン!

漣「ご主人様ゝ♪ 旗艦漣と第一艦隊、只今演習任務から帰投しました♪」ビシッ

提督「ああ、お帰り。詳細を頼む」

漣「はい♪ 先ず始めにー」

ゝ漣、提督に結果を報告ゝ

漣「ーといった感じですよ♪」

提督「ん、報告ありがとう。ならみんなで補給して、ドックで汗を流してくるといい」

漣「んもお、ご主人様つたらゝ♪ 女の子にシャワーを浴びていいだなんてゝ、えっちいですよゝ?」ニヤニヤ

提督「ん……それは配慮が足りなかった。非礼を詫びよう」ペコリ

漣「え」

提督「お詫びと言ってはなんだが、間宮さんの甘味処の券をあげよう。みんなと甘い物を食べて来なさい」

漣「………はい♪ んじゃ、ご主人様の分まで堪能して来ますね♪」

提督「ああ、ゆっくりしておいで」ニカツ

漣「は〜い♪」

ゝ漣、執務室を出るゝ

◇ドック・シャワー室◇

シャーーー……

漣「んあく！ 何やってるんだろ……漣のバカ！」クツ

潮「大丈夫、漣ちゃん？」アワワ

朧「漣はさつきからあの調子だね」

綾波「そうね……何があったのかな？」

敷波「さあ？」

曙「大方クソ提督と何かあったんでしょ。いつものことじゃない」
アキレ

潮「あ、曙ちゃん……そんな言い方……」アセアセ

漣「ぼのたそ（曙）の言う通りなので何も言えねえですはい……」
シヨボーン

朧「これは重症だね」ニガワライ

綾波「ヨシヨシ

敷波「アタシらで良ければ話聞くよ？」ナデナデ

漣「敷波お姉様〜！」ギューツ

曙「ヤレヤレ

〜取り敢えずドツクから上がって、落ち着いて話せる場所へ〜

◇甘味処・間宮◇

曙「んで、何があったわけ？」

朧「曙、そう急かしちゃダメだよ」

潮「漣ちゃん……」

漣「……」ウツムキ

敷波「ゆつくりでいいよ」ナデナデ

綾波「言いたいことがまとまってからで大丈夫だからね」ニツコリ

漣「……あのねー」

〜漣、説明中〜

漣「ーという訳でして……」シヨボーン

曙「身から出た錆じゃない」

潮「あ、曙ちゃん！」

曙「だってそうでじゃない」

漣「そうです……」シロメ

朧「漣も漣だけど提督も提督だね〜」

綾波「もっと仲良くしたいならもうちよつと言葉を選ばないとね」
ナデナデ

漣「はい……」

敷波「漣の気持ちは分かるけどね。アタシだって素直になれないところあるから」ヨシヨシ

漣「……………」

曙「つたく、うじうじしてみつともないわね」

漣「ぼのたそが今日はいつになく辛辣だよ〜」シロメ

綾波「ニガワライ

敷波「ナデナデ

曙「あんたがあんたらしくないからよ」

漣「漣らしく……?」

曙「そうよ……あんたはいつだって真っ直ぐで、周りを明るくして、一途にあのクソ提督を慕ってたじゃない。ならあんたらしくいつも通りで居なさいよ。クソ提督だってあんたのそういうところに惹かれたんですよ」

漣「ぼのたそ……」ジーン

朧「ニコニコ

潮「ニツコリ

曙「あと、次『ボノタソ』って言ったら魚雷ぶち込むわよ?」

漣「サーセン」ニコツ

曙「ふん……ほら、話が済んだならさっさとクソ提督の手伝いなりなんなりしに行きなさいよ」

漣「うん! 漣行きまーす!」ビシッ

曙「ちよつとたんま……ほら、あんたとクソ提督の分の羊羹も持つてきなさい」つ羊羹

漣「……………うん! ねえ、曙」

曙「ん? 何よ?」

漣「ありがと♪」ニコツ

曙「はいはい……」ノシ

漣は元気に提督の元へ

曙「つたく、夫婦揃って世話が焼けるんだから」フフ

朧「曙ってさ、将来絶対いい女になるよね」

曙「は？」

潮「私もそう思う」ニツコリ

曙「え」

綾波「もう既にいい女よね♪」ナデナデ

敷波「カツコ良かったよ、曙♪」ナデナデ

曙「……っさい／＼／＼」プイッ

全員『』ホホエマー

◇執務室◇

バターーン!

漣「ご主人様〜!」

提督「おお、早かったな……ってなんで間宮羊羹を持ってるんだ？」

漣「なんでってそりゃあ……」

曙『ならあんたらしくいっつも通りで居なさいよ』

漣「クスッ

漣「ご主人様と一緒に食べたいから!♡」ニパッ

提督「……そうか。なら一緒に食べよう……ありがとうな」ナデナ

デ

漣「えへへ♡ ご主人様の撫で撫でキタコレ!♡」キラキラ

提督「大袈裟な奴だな」ニツコリ

漣「〜♡」エヘヘー

〜夫婦仲良くおやつタイム〜

漣「ん〜、間宮さんの羊羹は最高ですね♪」アムアム

提督「そうだな」モグモグ

漣「ご主人様……」クイクイ

提督「ん？」

漣「いつも素直じゃなくて、すぐにふざけちやう漣を大切に想って

くれてありがとう♡」

提督「なんだ急に？」

漣「言いたくなかったんです♡」ニコツ

提督「そうか……」

漣「はい♡」ニコニコ

提督「なら私からもひとつ……」

漣「なんですか？」クビカシゲ

提督「いつも無愛想で、甲斐性のない私の側に居てくれてありがとう
う」ニツコリ

漣「あぐっ!?!」ズキューーン

漣「思わず舌を噛む」

提督「だ、大丈夫か!?!」

漣「ら、らいじょうぶでふ……」

漣（見事なカウンターで何も言えねえ♡）キュンキュン

提督「どれ見せてみる」

漣「はひ……」ベー

提督「ふむ……血は出ていないな。痛かっただろうに……」

漣「……はひ」

漣（ご主人様のお顔が近い……♡）

提督「そうだ、こうしよう」

漣「? ……!?!」

漣「提督、漣の舌を優しくつえばむ」

提督「ん……っ……」

漣「ごしゆりんっ……しやまあ……つんあ、ちゆっ……あふ♡」

提督「ぷはあ……これで少しは和らいだだろう？」ナデナデ

漣「は、はい♡」トローン

提督「次からは気をつけるんだぞ?」

漣「はくい♡」デレデレ

後日、漣は提督とのベロチューが気に入りよくおねだりするになっ
たそうなり。

漣
完

暁とケツコンしました。改

某鎮守府、昼前――

◇資材庫◇

響「これがラストだ」つ油

暁「了解よ♪」ヨイシヨ

雷「いつもより多く確保出来てよかったわ♪」

電「姉妹みんなで遠征行くのは久しぶりだったので、お仕事ですけど楽しかったのです」ニコニコ

響「確かに姉妹揃って遠征に行くのは久しぶりだったね」

雷「暁が司令官のお嫁さんになってからは久しぶりよね」ニヤニヤ

暁「それは関係ないでしょ！／／／／」プイッ

響「そうかな……暁が司令官とケツコンしてから司令官のそばを離れなくなったのは事実だと思うけど？」

暁「し、司令官が暁を離してくれなかったの！／／／／」

雷「それならよく今回の遠征任務に暁を選んだわね」

暁「そ、それは……そう！ 暁にしかどうしても頼めないって泣きながらお願いされたのよ！／／／／」

電「でも遠征行く時、暁ちゃんは泣いてたのです」

暁「な、泣いてないわ！ ちよつと久しぶりの海だったから潮風が目染みたの！／／／／」

響（素直じゃないな……）フフ

雷（見え見えの嘘ね……）クスッ

電（バレバレなのです♪）ニコニコ

「みんな暁を温かい眼差しで見つめる」

暁「≡≡≡」プンスカ！

「そして提督に報告するため執務室へ」

◇鎮守府本館内・廊下◇

雷「あら？」

暁「ん？ どうしたの？」

雷「暁、ほっぺと首筋が赤くなってるわよ？」

響「本当だ。今まで気が付かなかった」

電「虫さんに刺されちゃったのでしょうか？」

暁「／／／／」

雷「痒くない？」

暁「／／／／」コクリ

響「痛みはあるかい？」

暁「／／／／」フルフル

電「一応医務室でお薬塗ってもらった方がいいのです」

暁「だ、大丈夫／／／／」

雷「？ 無理しなくていいのよ？」

響「これくらい恥ずかしがることじゃない」

電「腫れが酷くなるかもしれないのです。甘く見ちゃダメなので
す」

暁「だ、だから、これは虫に刺されちゃったわけじゃないから／／

／／」カー

雷「ええ、こんなに赤くなってるのに？」

響「!!」ティコリン♪

響「雷……」クイクイ

雷「何？」

響「」ゴニヨゴニヨ

響、雷に耳打ち

雷「はう!?／／／／」ボンッ

電「ど、どうしたのです!?」ハワワ

響「電も聞く覚悟があるかい？」

電「……なのです！」コクリ

響「じゃあ、耳を……」

響、電に耳打ち

電「き、ききききき、きしゅみやくくにやのでしゅか?!?／／／／」ハ

ニヤー!

暁「ちよ、声大きいわよ!／＼／＼」アタフタ

電「ご、ごめんなさいなのです／＼／＼」ハウ

雷「でも、まさか見えるところに残してるだなんて思わなかったわ

／＼／＼」パタパタ

響「それだけ暁は自分のものだど司令官はみんなに教えたいんだろ
う」フッフ

暁「(そ、そんなことしなくても、暁は司令官のなのにく／＼／

／)「ボソツ テレテレ

響(乙女だ)

雷(乙女だわ)

電(可愛いのです♪)

くそんなこんなで執務室へく

◇執務室◇

コンコンー

提督「どうぞく」

ガチャー

暁「失礼するわね」

響「失礼するよ」

雷「ただいま、司令官♪」

電「ただいまなのです♪」

提督「おお、みんな遠征お疲れ様」ニコツ

く提督、みんなの側へ歩み寄るく

提督「みんなおかえり。よく帰ってやってくれたな」ナデナデ

響「これくらい朝飯前さ」キラキラ

雷「もつと私を頼つてもいいのよ♪」キラキラ

電「次も頑張るのです!」キラキラ

提督「暁もおかえり」ニコツ

暁「ただいま、司令官♡」ギューツ

響・雷・電『(。∩。)』

／＼
暁「えへへ♡ って、んんっ／／／／ ほ、報告するわね／／

提督「ああ、頼む」ニコニコ

響・雷・電『（・▽・）』ニヤニヤ

／＼暁、赤面しつつ報告中／＼

暁「ー以上よ／／／」ウウー

提督「ん、報告ありがとう。みんなは補給に行くように」

響・雷・電『了解』ケイレイ

暁「……了解」ジーツ

提督「？ ……！」ピコーン

提督「カタトントン

暁「？」

提督「（補給が終わったらな）」クチパク

暁「♡」コクコク

響・雷・電『／／／』ウワオ

◇補給室◇

暁「♡♪♡」ゴクゴク

響「暁は随分ご機嫌だね」フフ

暁「そんなことないわ♡ 普通よ普通♡」ニヨニヨ

雷「そんな周りにお花が咲き乱れてるようなオーラ出してよく言うわ」ニガワライ

暁「そうかしら♡」デヘヘ

電「暁ちゃん、可愛いのです♪」

暁「ありがと♡」エヘヘ

響「補給が終わったら司令官に何をしてもらうんだい？」ニヤツ

暁「つ……ゴホゴホッ！」

電「あ、暁ちゃん!」アセアセ

雷「ほら、ちり紙」つポケットティッシュ

暁「ケホッ……あ、ありがとう……」フキフキ

響「ご、ごめん。むせるとは思わなかった」セナカササス

暁「い、いいわよ。暁はレディだから、これくらい許すわ」
雷（むせたのはレディとしてどうなのかしら？）ニガワライ
暁「ま、まあ、補給が終わったら、司令官が暁を抱きしめたいってことよ♪」フフン

響「へー、ソーナノカー」↑棒読み

雷（暁がしてもらいたがってたのはバレバレなのに）ヤレヤレ

電「仲良しはいいことなのです♪」

暁「ね〜♡ 電もそう思うわよね〜♡」ニコニコ

電「なのです♪」ニコニコ

響・雷『（お熱いことで）』アキレ

◇執務室◇

ガチャ〜

暁「司令官♡」ピヨコ

提督「ああ、おかえり暁」ニコツ

暁「司令官〜♡ 寂しかった〜♡」トテトテ

むぎゆつ♡↑暁、提督にだいしゆきホールド

提督「寂しい思いをさせてごめんな」ナデナデ

暁「いいわよ〜♡ 暁は司令官のお嫁さんだもん♡」ゴロゴロ

提督「頼もしいお嫁さんで嬉しく思うよ」ホッペチュツ

暁「ん♡ もつと♡ 帰ったら沢山ちゅうしてくれる約束でしょう♡」アタマグリグリ

♡「アタマグリグリ

提督「勿論。沢山してあげるよ、暁」チュツチュツ

暁「あ♡ んう♡」チュツチュツ

◇執務室外・ドア前◇

暁『司令官♡ 好き〜♡ 大好き〜♡ いっぱいいっぱい愛してるの〜♡』チュツチュツ

の〜♡』チュツチュツ

提督『俺も暁を心から愛してるよ』チュツチュツ

暁『司令官〜♡』

提督『暁〜♪』

／ラブラブチュツチュー＼

響「ハラシヨ―」

雷「思ってた以上に甘いわ／／／／」

電「／／／／」ハワワ

→興味本位で覗きに来た

響「ハラシヨ―ハラシヨ―、実にハラシヨ―だ」

雷「あんなにキスして唇ふやけないのかしら／／／／」

電「も、もう見てられないのです／／／／」

提督『暁、愛してるよ』チュツチュツ

暁『暁も愛してる♡』チュツチュツ

その後も夫婦は甘い時を過ぎ、妹達は耐えきれずその場から逃げ
るように立ち去ったそうなの―。

暁 完

子曰とケツコンしました。改

某鎮守府、昼下がりにー

◇鎮守府本館・廊下◇

子曰「今日は何の日♪ ね・の・ひ♪」ランラン

♪子曰、歌いながら廊下をスキップ♪

初春「おお、子曰」ノシ

子曰「あく！ みんな！ やっほ♪！」ピョンピョン

初春「子曰は元気じゃな」クスクス

若葉「だが元気過ぎて書類を落とすのは感心出来ん」ヤレヤレ

初霜「書類持ったまま飛び跳ねてはいけませんよ？」つ書類

子曰「えへへ、拾ってくれてありがとう♪」ニパー

初霜「いえいえ」ニコツ

子曰「みんなで何処か行くの？」

初春「うむ。甘味処で新作すいーつなる物が出たそうでの……皆で

味を見に参る所じゃ♪」

子曰「新作スイーツか♪」

若葉「子曰も一緒に行くか？」

子曰「行きたいけど……この書類を提督に渡さなきゃいけないか

ら」ニガワライ

初霜「なら渡し終えてからでも大丈夫ですよ？ 私達待ってますか

ら」ニコツ

子曰「ありがとう♪ なら提督に渡して、休憩貰ってくる♪ み

んなは先に行つて席取つてて♪！」

初春「あまり急いで転げるでないぞ？」

若葉「また後でな」ノシ

初霜「頑張ってくださいね♪」

♪子曰は小走りで執務室へ♪

◇執務室◇

ガチャラー

子曰「たつだいまゝ！ 提督、大淀さんから書類貰ってきたよ！」

提督「ああ、ありがとう」ウケトリ

子曰「ねえねえ」クイクイ

提督「どうした？」

子曰「初春達と一緒に間宮さんの所に行ってきたもいい？」

提督「ああ、構わんよ。丁度おやつ時だからな、休憩ついでに行つてくるといい」

子曰「わあ♪ ありがとう、提督♪」ギューツ

提督「お礼なんかいいさ。さ、早く行つておいで」

子曰「うん♪ 提督も一緒に行く？」

提督「申し訳ないが私は行つてる暇がない。初春達によろしく言つていってくれ」

子曰「……………分かった♪ 行つてきまーす♪」ノシ

提督「ノシ

パタン……

◇執務室の外◇

子曰（提督、最近お仕事ばつかで大変そう……）

子曰（最近笑顔も見えないし……寂しいな……）

子曰（本当は一緒におやつ食べたかったな……）

子曰「ブンブン

子曰（ダメダメ、我儘言つちや提督が困つちやうもん！ 子曰はお嫁さんだもん！ だからこれくらい我慢しなきゃ！）フンスフンス

ゝ子曰は気を取り直して甘味処へゝ

◇甘味処・間伊まい◇

カランカランー

伊良湖「いらっしやいませ〜！」

子曰「こんにちは〜」ニコツ

子曰「えっと、みんなは……」キヨロキヨロ

初霜「子曰く、こつちですよ〜！」ノシ

子曰「」ノシ

く子曰、みんなが座るテーブルへく

初春「お主の分も既に頼んだぞ」フフン

子曰「ありがとう」ニコツ

若葉「四人でひとつの物を分けて食べるって感じだけどな」フフ

初霜「あ、来たみたいですよ」

間宮「は〜い、お待たせしました〜」 間宮と伊良湖特製のピーチ

タルトです♪ ごゆっくりどうぞ♪」

全員『（。？ん？）』オオー！

くみんなでピーチタルトを堪能中く

初春「実に美味じゃ……」ホワア

若葉「う、美味しいぞ！」モシヤモシヤ

初霜「白桃が瑞々しくて美味しい♪」ハニヤー

子曰「うん♪ とつても美味しい♪」ワハー

初春「最近は働き詰めだったからの〜。この甘さが身に沁みる」シ

ミジミ

若葉「二十四時間寝なくても大丈夫！」ハグハグ

初霜「若葉は少しは休んでよ」ニガワライ

子曰「」

く子曰、ふとフォークが止まるく

初春「？ どうしたのじゃ、子曰よ？」

若葉「？」モグモグ

初霜「子曰？」

子曰「……提督も最近はお仕事で忙しくて休んでられないんだ〜」

シヨボン

初春「まあわらわ達が忙しい分、あやつもそれ相応に忙しいのは当

然じゃな」

若葉「提督は提督でいつも忙しいからな。仕方ないだろう」モツ

モツ

初霜「でも子日は良く提督を支えてると思うよ？ そんなに気負わない方が……」

子曰「でも最近ね、笑ってくれないんだ……」

初春「フム

若葉「パクパク

初霜「子曰……」

子曰「子曰ね、提督の笑顔が好きなの……優しくて温かくて……とても心がぽかぽかするの」

子曰「でも最近は全く笑ってくれなくて……」

間宮「なら簡単ですよ♪」

子曰「間宮さん、伊良湖さん……」

伊良湖「話は聞かせてもらいました！」

初春「何か妙案があるのかえ？」

伊良湖「このピーチタルトを土産にして子曰ちゃんが提督に食べさせてあげれば万事解決ですよ♪」フフン

初霜「ああ、なるほど♪」オテテポムツ

若葉「それは名案だな」モグムシヤ

子曰「え？ え？」

間宮「疲れた時は甘い物が一番です。それに美味しい物を食べれば誰だって笑顔になるのよ♪」

伊良湖「更に愛しいお嫁さんからの『あくん』ならどんな殿方でもイチコロですよ♪」

子曰「……」ポカーン

間宮「さあ、ここに食べやすくカットしたピーチタルトがあります！」

伊良湖「これを持って疲れている愛しい旦那様の元へゴー、です！」

子曰「あ、ありがとう……」ウケトリ

初春「よしなにの」ニコツ

若葉「お前ならやれる」モツチャモツチャ

初霜「頑張ってくださいね♪」フンス

子曰「うん♪」ニパー

「子日は初春達から後押しされて提督の元へ」

初春「間宮さん方、ぴいちたるととやらをもう一つ」

初霜「若葉のお給料から引いてください♪」

若葉「ひ、酷いぞ!」

初春「一人で全て食べてしまうお主の方が酷くないかえ?」ニコニコ

初霜「私達はまだ一口しか食べてないのに」ニコニコ

若葉(な、なんだこのプレッシャーは……だが、悪くない／／／／)
ゾクゾク

◇執務室◇

ガチャー

子日「ただいま、提督」ヒョコ

提督「おかえり。随分早かったな」

子日「うん……ねえ、提督」

提督「?」

子日「口開けて」

提督「? こうか?」アーン

子日「どぞ♪」っピーチタルト

提督「!?!」モガッ

「子日、少し強引に提督の口へタルトをシュート!」

提督「モグモグ

子日「ごめんね……でも、こうでもしないと提督は食べてくれない
と思っ……」

提督「モグモグ

子日「お、怒ってる?」オソルオソル

提督「ゴクン

子日「キンチョウ

提督「……子日」

子日「な、なあに?」ビクビク

提督「美味しいなこれ、もう一口くれないか?」ニツコリ

子曰「あ……／＼／＼」ズキューーーン

提督「駄目か？」ニコニコ

子曰「え、えへへ♡ 遠慮しないでいっぱい食べて♡ まだいっぱいあるから♡」

～子曰、嬉しさのあまり提督の口にどんどんタルトを突っ込む～

提督「～!!!?」モガフゴー!

子曰「提督はやっぱり笑ってる方がカッコいいよ♡」ヒョイヒョイ

提督「～!!!」モガフゴモガー!

子曰「～♡!」

その後提督はめっちゃめっちゃお茶を飲んだー。

子曰 完

若葉とケツコンしました。改

某鎮守府、昼下がりに

◇執務室◇

提督「カリカリ

提督、仕事中」

若葉「テキパキ

若葉、お手伝い中」

提督「ハンコポンポン

若葉「シヨルイトントン スツ

コンコン」

提督「ん……若葉、頼む」

若葉「了解だ」

てここ……

ガチャ」

若葉「どうかしたか？」

初春「入渠終了の報告に参ったぞよ」

子曰「しっかり治ったよ」

初霜「中に入ってもいい？」

若葉「ああ、勿論だ。入れ」スツ

初春「うむ、失礼するぞ」

子曰「失礼します」

初霜「失礼します」ペコリ

三人は提督の机の前へ

提督「三人共、入渠は済んだみたいだな」

初春「うむ、この通りじゃ」クルリ

子曰「えへへ、バツチリ治ったよ」ピヨンピヨン

初霜「いつでも任務に戻れます」ケイレイ

提督「初春達の今日の任務は無い。明日まで待機だ」

初春「なんじゃ、わらわ達では役不足かえ？」

子曰「確かにさっきの出撃で子曰達は中破しちやっただけど……」
シユン

初霜「同じミスは繰り返しません！　どうか出撃命令を！」

提督「何も三人が頼りないから待機命令を出したのではない。俺は三人を午前中から出撃させ過ぎた。故に目には見えない疲労が溜まり中破させてしまった。三人はよくやってくれた。だから今日ももう休みなさい」

初春「ふむ、そういうことか。ならばお言葉に甘えようかの」ニコツ

子曰「明日に備えてお休みしますよ♪」ニパー

初霜「お心遣い感謝します」ペコリ

提督「気にするな。寧ろ中破させてすまなかつたな」

初春「それこそお主が気にすることではない。わらわ達はお主の手腕を評価しておる」

子曰「子曰達が大怪我しないのは提督のお陰だもん」ニコニコ

初霜「初春達の言う通りです」ニコツ

提督「そうか……ありがとう。三人共、疲労にはくれぐれも注意してくれ。どんな些細なことでも気がついたらすぐに言ってくれ」

三人『はっ』ケイレイ

提督「ん、いい返事だ。どこかの誰かさんとは違うな」チラツ

若葉「パイッ

初春「どこかの誰かさんとは薄情じゃな。お主の嫁ではないかえ？」

提督「ああ、疲労感を俺に隠して出撃した結果、大破して帰ってきた愚妻だ」

若葉「だ、だから、あれはもう散々謝ったじゃないか!？」

提督「それはお前がちゃんと帰って来れたから出来ていることだろう」スクツ

く提督、若葉の側へ歩み寄るく

提督「沈んでは謝ることも言葉を発することすら出来ないんだぞ。

そして、お前をこうして抱きしめてやることもー」

ぎゅっ♡

若葉「っ♡」

提督「お前の瞳をこうして見つめることもー」

じーっ♡

若葉「ち、近いぞ♡／／／」

提督「お前にこうしてー」

ちゅっ♡

若葉「んん……んっ……ちゅっ……んはあ♡」トローン

提督「ぷはあ……口づけしてやることも出来なくなっていたんだ

ぞ。何度謝られても足りん」ギューツ

若葉「ん……だから、それは……あ……もうしない、から♡／／／

／「キウンキウン

提督「この愚妻め……もう俺の目の届く範囲、俺の手が届く範囲に

しか置かん」ナデコナデコ

若葉「分かってる、さ……あうっ♡／／／」ゾクゾク

／ラブラブイチャイチャ

初春「咎めるか愛でるかどっちかにすれば良いものを」ヤレヤレ

初霜「初春、お口からお砂糖溢れてますよ」つバケツ

初春「すまぬの……」ダバー

子曰「あれ以来提督は若葉ちゃんを離そうとしないもんね♪」

初霜「若葉も若葉で提督に求められるのが嬉しいから、最近では

もつと引っ付いてるもんね」ニガワライ

提督「この愚妻め……お前なんかずっと抱きしめて離してやらん」

ギューツ

若葉「んあ……ああ、若葉をちゃんと、んんっ……捕まえていてく

れ♡／／／」スリスリ

初春「まあ、これも愛の形じゃろうて……それよりわらわはもう限

界じゃ」ダバダー

子曰「あはは、じゃあ食堂行く？」

初霜「行きましようか。初春に早く抹茶を飲ませないといけません

し」

提督「む、そういえばもう一五〇〇を過ぎているのだな。若葉、私

達も休憩にしよう」ナデコナデコ

若葉「ああ、若葉は提督に従うぞ♡」ゴロゴロ

提督「という訳だ。私達も食堂へ行く」アスナロダキ

若葉「一緒に行こうじゃないか♡／＼／＼」デレデレ

初春「子曰、初霜……此度のわらわはデスソースなる物を飲み干さねばならないようじゃ」シロメ

子曰「子曰も今回ばかりは苦い物欲しくなっちゃった♪」サトウタラー

初霜「ですよね♪」ニガワライ

夫婦は初春達と食堂へ移動く

◇食堂までの通路◇

提督「こら若葉。しつかり掴まれ。危ないじゃないか」ダキッ

若葉「ああ、すまない♡」ヒシッ

提督、若葉をお姫様抱つ^つこで移動中く

初春「今日も若葉マークが輝いておるわ……」ウツプ

子曰「この鎮守府ではお砂糖の象徴だよね♪」ハイライトオフ

初霜「二人共、気を強く持って」ファイト!

提督「今日もストロベリーサンデーでいいか、若葉？」

若葉「大丈夫だ♡」スリスリ

提督「若葉と食べるストロベリーサンデーは格別だからな。嬉しい♡」ニコッ

若葉「若葉は提督が居れば何でも嬉しいぞ♡」デレデレ

提督「ありがとう、若葉。心の底から愛している」ホツペチュツ

若葉「んあ♡ ほっぺじゃなく、唇にほしいぞ♡」ジーツ

提督「人の目があるからな。本当の口づけは二人きりの時だけだ。

それまでは唇以外の場所で我慢してくれ」オデコチュツ

若葉「あん♡ 分かった♡」ニヨニヨ

／ラブラブチュツチュツく

初春「もう無理じゃ……わらわはもう見とうない……」カベドゴオ!

子曰「何も見えなくい、聞こえなくい♪」ジメンドゴォ!

初霜「提督、若葉。すみませんが先に行つててください。二人はちよつとお花を摘みに行きたいそうなので」ニコツ

提督「ん、そうか。分かった」

若葉「またな、みんな♡／／／／」デレデレ

その後、初春達は提督に出撃を切望した。

そして提督の指揮の下(尚、提督は若葉を背中に装備して出撃)、某海域にてル級、夕級をワンパンKOする快挙を成し遂げるー。

若葉 完

夕立とケツコンしました。改

某鎮守府、昼下がりー

◇鎮守府本館内・廊下◇

夕立「ぼいぼいぼい♪ ぼいぼいぼい♪」ルンルン

由良「ふふ、夕立ったら」クスクス

那珂「今日は珍しく長時間の遠征だったからね。提督に会えるのが嬉しいんだね」ニコニコ

春雨「ケツコンしてからこんなに離れたの初めてですからね」

五月雨「会えない時間も夫婦の愛は育まれるんだね」ウツトリ

村雨「提督と夕立はくつつき過ぎな気もするけどね」ニガワライ

夕立「提督さんにく、やっと会えるっぽい♡」キラキラ

全員『(乙女の顔だく)』ニコニコ

◇執務室◇

バターーン!

夕立「提督さくん♡ 夕立、帰って来たっぽい♡」

海風「あ、皆さん。おかえりなさい」ニコツ

涼風「おかえりく」ノシ

江風「みんなおかえりく」ノシ

由良「あら、提督さんは？」

海風「提督ならついさつき演習部隊の皆さんと演習先の鎮守府へ向かいました」

涼風「あたい達は提督が留守の間を任されたんだ」

江風「ンで、ついでに書類整理をしてるところ」

夕立「Σ(。∩。)」ガーン

江風「今回はちよつと遠い鎮守府との演習だから、帰るのは夕方だつてよ」

涼風「そんな訳だから、報告は報告書にまとめてくれればいいってさ♪」

夕立「。。(。ハ。)。。」ブワッ

春雨「ゆ、夕立姉さん……」アワワ

村雨「タイミング悪かったわね」ヨシヨシ

五月雨「夕立……」クスン↑貫い泣き

海風「夕立姉さん」

夕立「(。；ω；)」ポイ？

海風「提督から軍服の上着を預かっています」つ上着

涼風「帰ってくるまでこれで我慢してくれってさ」

夕立「(。；ω；)」ウケトリ

海風「提督も夕立姉さんに会えないのが辛いと言っていました」ナデ

ナデ

江風「夕方には帰って来るんだからよ、泣き止めよ」ニカッ

夕立「(。；ω；)」ポイ！

涼風「そうそう、それでこそ提督の嫁さんだ」ニカッ

由良「とりあえず私達は補給しに行くわね」ニガワライ

那珂「みんなも頑張ってね！」ノシ

三人『了解♪』

村雨「さ、行きましょう、夕立」

夕立「ぽい……」ウワギギューッ

春雨「ヨシヨシ

五月雨「提督ならすぐに帰ってくるよ」ナデナデ

夕立「ぽい……」グスグス

艦隊は執務室を後にする

江風「……大丈夫か、あれ？」

涼風「どうだかなく……上着でどれだけ保つかによるな」

海風「そういえば、提督も泣きながら出発してましたね」ニガワラ

イ

江風「似た者夫婦って奴だな」アハハ

涼風「ま、提督のことだ。終わればソツコー帰って来んだろ」

海風「でしようね」クスクス

江風「島風並で帰ってくるかもな」アハハ

そして時は流れ夕方にー

◇埠頭◇

夕方「」ウワギギユーツ

夕立、提督の帰りを待つ

春雨「夕立姉さん、補給してからずっと埠頭で待ってますね……」

五月雨「夕立……」クスン

村雨「ご主人の帰りを待つ忠犬状態ね」ニガワライ

那珂「忠犬っていうか愛犬だよね☆」

由良「いつもの夕立じゃないと私達もなんかすっきりしないのよね」ニガワライ

夕立「みんなは夕立が心配で陰で見守っている」

春雨「でも、時間的にはそろそろですよね？」

那珂「そうだね……もう夕暮れだし」

由良「いくら遠いって言っても夜になる前に帰ってくると思うから、そろそろかしらね」

五月雨「提督、夕立の為に早く帰って来てください」人

村雨「もうすぐ来るわよ」ナゲナゲ

夕立「」スクツ↑立ち上がる

夕立「」バツ

夕立、海へ

春雨「夕立姉さん!」

由良「大丈夫」ニコツ

那珂「帰ってきたね」ニコツ

村雨「埠頭に来るまで待てなかったみたいね」クスクス

五月雨「良かったね、夕立」ナミダフキフキ

夕立「みんなは寮へ戻った」

◇鎮守府正面海域◇

提督「やっと帰ってきた！夕立に会えるぞ！」イヤツフー

霧島「気持ちは分かりますが、もう少し抑えてください」ニガワライ

イ

比叡「無理だよ。司令は夕立バカだもん」ニガワライ

長良「泣きながら夕立が帰って来るまで演習行かないってかなりごねたもんね」アハハ

白露「連れ出すの苦労したよね」

時雨「結局霧島さんに引きずられるように連れ出されたけどね」クスクス

照月「あ、鎮守府見えたよ」

霧島「……………司令」

提督「どうした？」

比叡「衝撃波に備えてくださいね」クスクス

提督「は？ それはどういうkー」

夕立「提督さくん♡」ガバーツ

提督「ぼiiiiiiii!」

ズガーン!

く提督、衝撃により海へ落ちるく

霧島「綺麗な水花火ね」

比叡「司令く、大丈夫ですかく？」

時雨「今日はいつにも増して豪快な飛び付きだったね」クスクス

白露「夕立の愛は物理だからね」

長良「でもちよっと今回は……………」ニガワライ

照月「すごい音したけど……………」ウワア

夕立「提督さん♡ 提督さん♡ おかえりなさくい♡」ユサユサ

提督「グワングワン

比叡「白目向いてる……………」ヒエー

霧島「想像以上の衝撃だったみたいね」メガネクイツ

長良「うつひやく」

照月「アワワワワ

白露「今日の愛はいつも以上に強かった」キリツ

時雨「提督は夕立に任せて、僕達は提督のボートを運んでごうか」ニ

コッ

くそして艦隊は帰投したく

◇執務室◇

提督「んく……」パチツ

夕立「提督さん、気が付いたっぽい？」

く夕立、執務室のソファで提督を膝枕く

提督「おく、夕立じゃないか」ナデナデ

夕立「ごめんなさい。夕立、提督さんに会えたのが嬉しかったから、

つい……」シユン

提督「大丈夫大丈夫……艦隊のみんなや留守番を頼んだ海風達は？」

夕立「みんなお部屋に戻ったっぽい」

提督「そうか……みんなに後で謝らなきゃな」

夕立「夕立も謝るっぽい！」

提督「謝るのは俺だけで十分だ。夕立は何も悪くない」ナデナデ
夕立「でも……」

提督「夕立は俺に会えたのが嬉しくて飛び込んで来たんだろ？」

夕立「ぽい」コクリ

提督「なら今回の夕立の愛を受け止め切れなかった俺の責任だ。

夕立は悪くない」ナデナデ

夕立「提督さん……」トクン

提督「ただいま、夕立」チュツ

夕立「おかえりなさい♡」チュツ

提督「ああ、俺の夕立く……会いたかったぞく」ワシヤワシヤ

夕立「ぽい♡ 夕立も会いたかった♡」??

提督「このあとはずっと一緒だぞく！」

夕立「じゃあじゃあ、素敵なパーティーするっぽい♡」

提督「え？」

夕立「夜はまだまだこれからっぽい♡」??

提督「最高に素敵なパーティーにしよう」ホツペチュツ

夕立「ぽい♡」クビスジカプツ

そして気が付けば朝日が夫婦を照らしていたー。
夕立 完

朝雲とケツコンしました。改

某鎮守府、朝ー

◇提督&朝雲の部屋◇

朝雲「えつと……ご飯よし。お味噌汁よし。豚バラ肉の生姜焼きよし。海藻サラダよし……今朝も完璧ね！」フフン

朝雲「あ、いけないいけない。大切なこと忘れてたわ」

朝雲「愛する司令へ私、朝雲の愛注入♡」チュツ

朝雲「料理に向かって投げキッス」

朝雲「く／＼／／」テレッツ

朝雲（霧島さんのお姉さんである金剛さんにこうするのが当たり前だつて教わつたけど……）

朝雲「すつごく恥ずかしいわ……／／／／」

朝雲（でもあの霧島さんのお姉さん、金剛さんに間違いはないわよね。うん）

時計へマルナナマルマル

朝雲「あつ、司令起こさないと！」

くテーブルに料理を並べてから寢室へ

◇寢室◇

ガチャー

朝雲「司令、朝よ♪ 起きなさい♪」ユサユサ

く朝雲、提督に馬乗りして起こす

提督「(⊠ ⊠)」スヤア

朝雲「やっぱり一度では起きないか……」ニガワライ

提督「……んんん……」

朝雲「おっ」

提督「……あさ、ぐも……」

朝雲「司令、起きた？」ホッペツンツン

提督「……はい……」

朝雲「本当に起きてるの？」ホッペフニフニ

提督「……はい、おれは……あさぐもがだいすきです……」

朝雲「なっ……なあっ／＼／＼」ボンッ

提督「(⊠ω⊠)」スヤア

朝雲「寝言かああああ！／＼／＼」

パシーン！↑見事な張り手炸裂

提督「んぐお!？」

朝雲「あ、朝よ！ さっさと起きて！ 朝食冷めちゃうから！」

提督「お、おお……」

朝雲「／＼／＼」フンッ

朝雲（恥ずかしくてつい叩いちやった。後で謝らないと……）シヨ

ボン

／＼そして提督も起きて夫婦で朝食／

提督「いただきまゝす」人

朝雲「い、いただきます……」人

／＼提督の顔には綺麗なもみじマーク／

朝雲「ね、ねえ、司令……」

提督「ん?」

朝雲「あの……その……」

提督「……ああ、大丈夫。今日の朝食も美味しいぞ」

朝雲「え、あ……ありがと……／＼／＼」テレリ

提督「やっぱ朝は米だよな」モグモグ

朝雲「私は司令とケツコンするまではパン派だったわ」

提督「パンも嫌いじゃないけど腹持ちが悪くてなく」ニガワライ

朝雲「司令は食べ過ぎなのよ」クスッ

提督「朝雲の料理はどれも美味しいから沢山入るんだよ」アハハ

朝雲「!?!?／＼／＼」ドキッ

提督「本当にいいお嫁さん持てたよ、俺は」ニコニコ

朝雲「………あっそ♡／＼／＼」プイッ

朝雲（ダメ……司令の顔見れない。私今絶対に変な顔してる♡／

／＼）ニヨニヨ デヘヘ

提督「♪」モグモグ

「朝食を終えて夫婦で出勤」

提督「身だしなみチェック頼む」

朝雲「ん……うん、バッチリ♪」

提督「サンキュ♪」

朝雲「私の身だしなみはどう？」

提督「今日もすごく可愛いよ」ニッコリ

朝雲「っ!?!♡／／／」ドキッ

提督「そしてすごく素敵だ」ニコニコ

朝雲「もおく！ バカく！♡／／／」

スパーーーン！↑強烈な張り手炸裂

朝雲「あ……」

提督「ほん^本日^日もあ^あふ^りい^がふ^とあ^とほ^うほ^うふ^いふ^あふ^す」ジンジン

「提督、両頬にもみじマーク」

朝雲「私^私つ^つら^らま^また……」クツ

提督「ひ^行い^こほ^うは」ニッコリ

朝雲「え、ええ……」

朝雲（後でちゃんと謝らないと……）

◇鎮守府本館内・廊下◇

扶桑「あら、提督に朝雲さんおはようございます♪」

山城「おはようございます。今日も見事なもみじマークですね」ク

スクス

提督「あ^朝ふ^雲あ^のふ^おほ^あひ^はわ^あふ^いふ^あら」ニコニコ

朝雲「うう／／／」ウツムキ

最上「うわあ……提督、大丈夫？」

時雨「ちゃんと冷やしてね。なんなら今氷持ってきてあげようか？」

朝雲「こ、氷なら私^私が用意するから！」

提督「ふ^だあ^そほ^おう^うふ^あ」

時雨「そっか」ニコニコ

朝雲「／＼／＼」プイッ

山雲「二人は今日も相変わらず仲良しね〜♪ 妬ましい♪」

満潮「しつかりしなさいよね。私の大切な妹に迷惑掛けたら承知し

ないんだから」ムネトンッ

提督「ひいほ肝いふ銘い銘ひ銘いま銘ふ」キリッ

朝雲（本当は私のせいなんだけどな……）

扶桑「提督、予定は変わりないですよね？」

提督「コクコク

山城「では準備が出来次第、出撃します」

提督「ひいほ氣ふをふつえけふてえ」

艦隊『はっ！』ケイレイ

朝雲「ケイレイ

◇執務室◇

朝雲「わ、私が言うのもあれだけど、どう？ まだ痛い？」

提督「ああ、もう大丈夫だ。氷ありがとう♪」ナデナデ

朝雲「う、うん／＼／＼」

提督「さて、扶桑達が出撃したら司令室に移ろう。その前に遠征班
だな……行き先は前日通達した通りで準備が出来た艦隊から随時向
かうようにと伝令を頼む」

朝雲「了解」

提督「それじゃ、今日も宜しく頼むよ。朝雲」ニコッ

朝雲「ええ、任せて♡」ニパッ

そして時は過ぎ、夕方ー

提督「くあく……本日のお勤め終了つと〜」ノビー

朝雲「お疲れ様♪ はい、お茶♡」つ湯呑

提督「サンキュ♪」ウケトリ

〜仕事後の一服〜

朝雲「ねえ、司令」

提督「ん〜？」

朝雲「今日もごめんね。沢山叩いちゃって……」

提督「気にしてないよ」ニコッ

朝雲「でも……」

提督「傍から見たら俺は幼妻に叩かれてニコニコしてる変態だが、朝雲の照れ隠しだつて分かつてるから」ナデナデ

朝雲「うん……／＼／＼」

提督「それに朝雲の普段の行動からは俺への愛が滲み出てるからな！」キリッ

朝雲「バカ♡」

ちゅっ♡

提督「!?／＼／＼」

朝雲「えへ♡ 沢山叩いちゃったお詫び♡」ギューッ

提督「ありがとう／＼／＼」ナデナデ

朝雲「く♡」ゴロゴロ

その直後に扶桑達が入渠終了の報告に来て、提督はまた朝雲の張り手を喰らうことになるー。

朝雲 完

初風とケツコンしました。改

某鎮守府、昼過ぎー

◇鎮守府本館内・廊下◇

初風「ツカツカ

ゝ初風、執務室に戻る途中ゝ

初風(資材の確認と艤装開発が思ったよりも時間掛かってしまったわ……)

初風(提督待ってるわよね……)

初風(お互いお昼御飯まだだし、待たせてしまったお詫びに何か作ってあげようかしら♡)ニコニコ

ゝ初風、足取り軽く執務室へゝ

◇執務室外・ドア前◇

／ワイワイガヤガヤゝ

初風「? 誰か来てるわね」

初風(この時間は遠征組もまだ戻って来ていないはず……)

『し〜れ〜え〜!』

『司令〜♪』

『ちよつとあなた達!』

／ワイワイノゝ

初風(なんだ……あの子達が来てたのね)

初風(今日あの子達は非番だから遊んでもらいにでも来たのかしら?)

ガチャー

初風「遅くなってごめんなさい、提とー」

提督「あ……」

雪風「あゝ、初風さんですゝ♪」ノシ

時津風「初風じゃん♪ やっほゝ♪」ノシ

初風「ーく……」

く雪風と時津風は提督の膝の上に座っているく

提督「お、おかえり、初風……」ニガワライ

初風「ええ、ただいま……そしてあなた達は提督の膝の上に座って何してるの？」

時津風「え？ 何って、ねえ？」

雪風「ねく♪」

初風「イラッ

天津風「あ、あのね初風！ 私達はただ昨日の遠征任務で報告書に書き忘れてたことを報告しに来たの！ だからー」

初風「ええ、分かってるわ。それでこのバカ提督が暇そうにしてたから構ってもらってたのよね？」ニコニコ

天津風「え、あ……うん……」

初風「はあ……これがその訂正した報告書？」

提督「……ああ、もう確認してサインもしてある」

初風「ん……ならこれ伝令室に持ってくわね。それじゃ……」

提督「ん……ああ、ありがとう……」

初風「ええ、どうぞごゆつくり」ニ”コ”ニ”コ”

提督「ニガワライ

く初風、報告書を持ってドアを開けるく

チラッ↑初風、提督の顔を横目で見ると

初風（……バカ提督）

パターンー

天津風「初風……」

時津風「行っちゃった……」

提督「ふう……」アタマカキカキ

雪風「しれえく……」クイクイ

提督「ああ、分かってるよ。三人共、執務室の留守番を頼んでいいか？」

天津風「ええ、もちろんよ」ニコツ

雪風「責任をもってお留守番します！」

時津風「いってらしゃくい♪」

提督「ありがとう」ニコッ

く提督、急いで初風の後を追うく

時津風「タイミング悪かったねく」ニガワライ

天津風「ホントよ、まったく……」

雪風「後で謝らないといけませんねく」

◇防波堤◇

初風「」

く初風、防波堤の隅で体育座りく

初風「何やってるのかしら、私……」

初風（雪風達がああやって提督に戯れつくのは前からなのに……）

初風「嫉妬、よね……」ハア

初風（嫉妬した自分が悪いのに提督に八つ当たりだなんて……）

初風「最低ね、私……」フッフ

「初風さん？」

初風「？」クルッ

妙高「どうしました、こんなところで？」

羽黒「こんにちは」ニコッ

川内「初風が一人だなんて珍しいじゃん♪」

く妙高達は艦装の整備帰りであるく

初風「……こんにちは」

妙高「こんにちは……何かあったってお顔してますね」

初風「……」ウツムキ

羽黒「私達でよければ話してみない？」ナデナデ

初風「……」チラッ

川内「話したらすつきりするかもよ？」ニッコリ

初風「……実はー」

く初風、みんなに先程のことをお話中く

初風「ー」ということがあって、ちよつと頭を冷やしました」

妙高「そうなの……」

初風「最低ですよ。勝手に嫉妬したうえ、提督に八つ当たりだな

んて……」

羽黒「反省してるなら、最低なんかじゃないよ」ニッコリ

初風「羽黒さん……」

川内「まあ、確かに嫉妬して提督に八つ当たりしちゃったのは悪いけどね。提督も傷ついたと思うし」ニガワライ

初風「ですよ……」

妙高「でも初風さんはちゃんと自分の非を認めて反省している……ならば最低なんかではありません。最低なのはそれを正当化することです」

初風「妙高姉さん……」

羽黒「ちゃんと謝れば司令官さんも許してくれるよ」ナデナデ

初風「……はい」ニコツ

川内「ん〜じゃ、後は頑張つてね♪」ニシシ

初風「？」

妙高「メクバセ

初風「？ ……あ……提督……」

提督「やあ……」ノ

妙高「頑張つてくださいね、初風さん」ニッコリ

羽黒「大丈夫だよ」ナデナデ

川内「フアイト♪」

初風「ありがとうございます」ニコツ

〜そして夫婦二人きりに〜

提督「隣、いいかな？」

初風「す、好きにすれば？／／／／」

提督「ありがとう」ストン

初風「／／／／」

初風（早く謝らないと……／／／／）

提督「ごめんな、初風」

初風「え」

提督「いくら姉妹でもあんなにベタベタしてたら嫌だよな。ごめん」フカブカ

初風「提督……」

提督「もし俺に兄弟が居て、その兄弟達が俺の初風と楽しそうにしてたらしい気分はしないし……俺だったら嫉妬しちまうからさ／＼」アタマカキカキ

初風「ドキッ

初風（提督も私と同じ気持ちなのね♡／＼／＼）トクントクン

初風「……私こそ、勝手に嫉妬して八つ当たりなんてしてごめんなさい」ペコリ

提督「ああ、大丈夫だ」

く提督、初風を優しく抱きしめて頭を撫でるく

初風「ん……提督……好き……大好きよ♡ いくら姉妹でも提督の隣は私だけの場所なの♡」ギューッ

提督「ああ、初風だけの場所だ」ナデナデ

初風「提督……♡」スリスリ

提督「愛してるよ、初風」ホッパナデナデ

初風「私も愛してるわ……ん♡」クチビルサシダシちゅっ♡

提督「さて、昼飯にするか」ニッ

初風「ええ♡」ニッコリ

提督「あ、そういや雪風達に執務室の留守番頼んでたんだった」

初風「雰囲気台無しじゃないの、バカ提督♡」クスッ

提督「申し訳ない」ニガワライ

初風「ほら、早く執務室に戻って雪風達に知らせてからお昼にしましょう♡ 特別に私が作ってあげる♡」ギューッ

提督「そいつは楽しみだな」ニッコリ

／ラブラブイチャイチャ＼

◇執務室内・窓際◇

雪風「仲直り出来たみたいですね♪」

時津風「心配して損したく」

天津風「いい加減にして双眼鏡しまいなさいよ」ニガワライ

雪風「はくい♪」

時津風「帰ってきたら冷やかしてやろ〜」キシシ

天津風「やめなさい」ペシッ

時津風「あてっ」

雪風「そんなことしたらお馬さんに蹴られちやいますよ♪」

時津風「ちえ、仕方ないな〜」

そして夫婦が執務室に戻ってきた際、初風は提督に肩を抱かれた状態で戻ってきた。

夫婦が戻る際に通つて来た道には屍砂糖の山が築かれていたというー。

初風 完

雪風とケツコンしました。改

某攻略海域、夜ー

く艦隊、夜戦中く

雪風「砲雷撃戦、続行します！」

大和「そうか……それなら……やるしかないわね！」

雪風「雪風が探照灯で敵の目を眩ませます！ 皆さんはその間に残存勢力の撃破を！」

く雪風、探照灯を用いて敵の照準を狂わせるく

ババーン！↑ハズレ

比叡「よし、外れた！ 大和さん！ 一緒に行きますよ！」

大和「行くわ！ 全主砲、斉射！ 薙ぎ払え！」

バババーン！

時雨「残りも叩くよ！」

浜風「お任せを！」

初霜「魚雷発射します！」

チュドーーン！

く☆勝利S☆く

く夜戦を終えて艦隊帰投中く

大和「夜戦で無傷に終わって良かったわ♪ ありがとう、雪風ちゃん」ナデナデ

比叡「作戦が見事にハマったわね♪」ナデナデ

雪風「えへへ、この作戦を考えたのは司令官です♪ 誉めるなら司令官にしてください！」ニコニコ

浜風「でも雪風が敵陣を混乱させてくれたから掴めた勝利よ」ニコッ

時雨「そうだよ。提督の発想力と雪風の練度の賜物さ」フフ

初霜「そしてこの作戦が成功したのはお二人の強い信頼関係があったからこそです♪」ニッコリ

雪風「えへへ♪ ありがとうございます♪」

雪風「!？」

く雪風、何かを感じ取りすぐに魚雷を発射く

ドバーーン!

艦隊『!？』

く敵潜水艦が浮かぶく

大和「潜水艦!？」

比叡「ひえく！」

時雨「勝ったからつい浮かれてちゃってたね」

初霜「鎮守府に帰るまではソナーから目を離さないようにしましよ

う！」

浜風「雪風、ありがとう」

雪風「はい♪」

大和「鎮守府までもう少し！ みんな気を引き締めて行きましよう

！」

艦隊『了解!』

雪風（絶対、大丈夫！ 雪風がお守りします!）

くそして無事に帰投く

◇埠頭◇

初風「おかえりなさい。艦装は私達が運びます」

天津風「みんなお疲れ様！」

時津風「みんなおかえりく♪」

浦風「補給とドックの準備も出来てるけえね」ニコッ

磯風「後は我々に任せろ」ニッ

谷風「ドックから上がったら夜食もあるからね!」

大和「ありがとう」ニコッ

比叡「今日の夜食は何かなく♪」

初霜「楽しみです♪」

浜風「早くドックへ向かいましょう」ワクワク

時雨「そうだね」クスクス

雪風「補給もお忘れなく♪」

くみんな軽傷だった為、補給してからドックへく

◇ドック内◇

雪風「雪風と時雨さんは無傷だったのでシャワーだけですね〜♪」
時雨「そうだね。みんなには悪いけど先に上がって食堂に行こうか」ニコツ

大和「私達のことは気にしないでいいわよ♪」
比叡「ちゃんと私達の夜食残しておいてね〜？」

浜風「私達もすぐに向かいますから」ニコツ

初霜「また後でね」ノシ

く雪風、時雨と共に食堂へく

◇食堂までの道中◇

時雨「今日の夜食は何かな〜？」テクテク

雪風「なんでしようね〜、楽しみです♪」テコテコ

時雨「提督の手料理は美味しいからね。雪風は毎日提督の手料理が食べられて羨ましいよ」クスツ

雪風「えへへ♡ 雪風は幸せ者ですから♡」ニヨニヨ

時雨「ふふ、夜食食べる前にお腹いっぱいになりそうだよ」クスクス

雪風「〜♪♡」ルンルン

時雨（提督が雪風にくびったけなのも分かるな〜）ニコニコ

◇食堂◇

カランカラン〜

間宮「おかえりなさい」ニコツ

鳳翔「おかえりなさい、二人共」ニコツ

金剛「Welcome back♪」

榛名「おかえり」ニコツ

霧島「おかえりなさい♪」ニコツ

武蔵「おかえり、夜食は提督特製のビーフシチューだぞ」ニツ

雪風「ただいまです♪」

時雨「ただいま♪ ビーフシチューか、やった♪」

鳳翔「提督、雪風ちゃん達が見えましたよ?」

提督「分かった、今行く!」

く提督、走って雪風の元へく

提督「雪風ええええええ!」ダダダダッ

雪風「しれええええええ♡」トテトテトテッ

く雪風、提督の胸に向かってダイブ!く

提督「おかえりく! 俺の雪風く!」グルグル

雪風「ただいまです♡ しれえく♡」キヤツキヤツ

金剛「幸せの Merry-Go-Round 発動デくス♪」フッフ

榛名「あれを見るとこちらまで幸せな気分になりますよね」ニコニコ

コ

霧島「砂糖も生産出来て一石二鳥ね……」サトウダバー

間宮「バケツありますよ♪」つバケツ

鳳翔「デザートは何がいいかしら♪」アラアラ

時雨「北海道のよいとまけなんていいんじゃないかな?」ニコニコ

くその後、艦隊も合流し夜食会へく

提督「ほら、雪風♪ あくん♪」つビーフシチュー

雪風「あく……ん……」ムグムグ

提督「どうだ? 美味いか?」

雪風「ごくん……はい、今日もバツチリです♡」ニパー

提督「イーヤツフー!↑歓喜

雪風「えへへ♡ しれえく♡」スリスリ

くラブラブキヤツキヤツく

大和「ふふ、本当に仲睦まじいわね♪」

比叡「見てるとビーフシチューがゲロ甘になりますけどね♪」

時雨「だから僕達は鳳翔さん達が作った激辛のを食べてるんだよ」

ニコニコ

浜風「あの光景を見ながらだと何故かこの激辛料理が食せてしまう

のだから驚きです」モグモグ

初霜「浜風さん、お砂糖出ちやってますよ」フキフキ

雪風「しれえ♡ 今回の夜戦はしれえが考えた作戦のお陰で大成功でしたよ♡」ギューツ

提督「あれは雪風が艦の時代にやった作戦のひとつだ♪ 全て雪風のお陰だ♪」ナデコナデコ

雪風「じゃあじゃあ、いっぱい褒めて、いっぱいキスしてください♡」ゴロゴロ

提督「勿論だ！ 夜はまだ長いぞく！」チュツチュツ

雪風「しれえのえつちく♡」チュツチュツ

／ラブラブチュツチュ／

全員『至高の光景ね……』サトウダバー

次の日、鎮守府では大量の砂糖を出荷したそうなりー。

雪風 完

天津風とケツコンしました。改

某鎮守府、夕暮れー

◇埠頭◇

く艦隊、遠征任務から帰投！く

那珂「鎮守府に到着く！ 今日のお仕事もバツチリ♪」

名取「そうだね」ニコニコ

雪風「みんな無事に帰投出来て良かったです♪」

時津風「地方巡業なんて楽ちん楽ちん♪」

那珂「地方巡業って言わないで！」

名取「まあまあ、那珂ちゃん」ニガワライ

初風「帰っても相変わらず賑やかねく」

天津風「湿っぽいよりマシよ」ニガワライ

初風「……」ジーツ

天津風「？ 私何か変なこと言った？」

初風「いいえ。変わったなああって思っただけ」フフ

天津風「何がよ？」

初風「昔の天津風なら、あの光景を見て『遊びじゃないのよ！』って叱ってたのに、今は笑い流せるようになったからよ」

天津風「あ、あの時はその……今みたいな余裕無かったから……」

時津風「今は遠征任務中でも司令が誰かにとられる心配無いもんね

く」ニヤニヤ

天津風「なっ／＼／＼」

那珂「提督はく、”みんな”の提督からく、天津風ちゃん”だけ”

の提督になっちゃったもんねく♪」キヤー

天津風「ちよっ／＼／＼」プシュ

雪風「今日も遠征任務に出る時はキスしてもらってましたもんね！」ニコニコ

名取「行つてらっしゃいのキスだなんて憧れちゃうなく」ニコニコ
天津風「く／＼／＼」ポッポー

初風（煙突は今日も絶好調ね……）ホホエマー

天津風「と、とにかく！ 資材運び込んで補給してから報告に行きましよう！／＼／＼／」

時津風「そうだね〜！ 早く司令に会いたいもんね〜！」ニヤニヤ
那珂「んもお〜、気持ちは分かるけど〜、夜まで待たなきゃダメだぞ？」キヤルルーン

天津風「／＼／＼」グヌヌ

名取「ほらほら、早く運んじやお」アセアセ

雪風「お二人の時間が無くなっちゃいますからね♪」

初風「馬に蹴られるのは御免だわ」クスクス

天津風「くく／＼／＼」プシュープシュー

く任務を完遂して執務室へく

◇執務室◇

コンコン、ガチャー

天津風「遠征任務から帰ったわよ〜……あら？」

名取「居ないね、提督さん……」

那珂「お花摘みかな〜？」

時津風「タイミング悪いな〜」

雪風「どうしましょう？」

初風「少し待ってみる？」

天津風「……あ」

全員『？』チュウモク

天津風「きつと屋上に行ってるんだわ。時間も時間だし今日は風も穏やかだから」

雪風「屋上ですか〜？」

時津風「屋上で何かあるの〜？」

天津風「夕日を見てるのよ。あの人、鎮守府の屋上から眺める夕日が大好きなの」ニッコリ

那珂「流石お嫁さんだね……」キラキラ

初風「愛する人の行動パターンも熟知してるなんて、流石ね」フフ

フ

天津風「そ、そんなんじや／＼／＼」プシユシユ
名取「ニガワライ

時津風「んじや、天津風が報告に行つてよ♪」

雪風「ですね♪ ついでにご夫婦で夕日を見て来てください♪」

天津風「ああ、もう！ 分かつたわよ！ 行けばいいんでしょっ

!?!?!」ポツポツ

／ギヤースギヤース ワイノワイノ

初風（煙突から出てる煙が♡マークだわ）クスクス

那珂（喜んでる喜んでる）ニヤニヤ

名取（可愛い）クスクス

／そして天津風は冷やかされつつ屋上へ

◇屋上◇

ガチャー

天津風「え〜つと……」キョロキョロ

提督「ボーツ

／提督、腰を下ろし壁にもたれ夕日を眺めている

天津風「あ、いたいた♡」ニパツ

とことこ……

天津風「なにサボつてるの、あなた♡」

提督「お、天津風。おかえり」

天津風「ただいま♡」

「にや〜」

天津風「？」チラツ

／提督のあくらの中で鎮座する三毛猫

天津風「野良？」

提督「野良だろうなく。でも人懐っこいぞ」ナデナデ

猫「みゃ〜」ゴロゴロ

天津風「喉まで鳴らしてる……」ニガワライ

提督「可愛いよなく」ナデナデ

天津風「そうね」クスクス

提督「とりあえず隣座つたら？」トナリポンポン

天津風「ええ♪」ストン

提督「遠征はどうだった？」

天津風「何も問題無かつたわ。寧ろいつも通り過ぎって感じ」ニガ
ワライ

提督「そかそか。お疲れ」

天津風「ありがとう♡」ニコツ

くそして二人は夕日を眺めるく

猫「んにゃく♪」ゴロゴロ

提督「」ナデナデ

天津風「……………」ジトーツ

猫「」チラツ

く天津風、猫と目が合うく

猫「ふしやく！」

天津風「きやつ」ビクツ

提督「おいおい、怒らせるなよく。猫は目が合うとそれが喧嘩の合

図なんだから」ナデナデ

猫「ふく！ ふく！」

天津風「ご、ごめんなさい…………」

猫「」プイツ

く猫は提督に擦り寄るく

提督「はいはい、お疲れさくくん」ナデナデ

猫「ふみやく♪」ゴロゴロ

天津風「」イラッ

天津風（なんなのこいつ……………そもそも、何であんたは私より猫ばっ
か撫でてんのよ！）

提督「ふふふ、愛い奴め」ナデナデ

猫「みやくん♡」スリスリ

天津風「」イライラ

天津風（今の鳴き声、絶対に甘える声だわ！ その人は私のなんだ

からね!?)

グイツ↑天津風、提督の左腕にしがみつ

提督「? どうした?」

天津風「何でもない……／＼／＼」ヒシッ

提督「ヤキモチ?」

天津風「分かってるなら言わないで……バカ／＼／＼」ギューッ

提督「はは、ごめんごめん」

天津風「ふんっ／＼／＼」

猫「スッ

提督「お?」

く猫は提督達から離れ何処かへ去るく

提督「空気まで読めるとか……あ奴、やりおる」

天津風「何言ってるのよ」ニガワライ

提督「あははく」

天津風「……」ジーツ

提督「?」

く天津風、提督のあぐらを凝視く

提督「……入る?」

天津風「っ……入る♡／＼／＼」オズオズ

ぼすん♡↑天津風向き合ってるあぐらの中へ

提督「いらっしやい♪ 子猫ちゃん♪」ナデナデ

天津風「子猫ちゃんじゃないわよ／＼／＼」ポツポツ

提督（もろ煙♡やん）ニガワライ

天津風「く♡」スリスリ

提督「……まあ、確かに子猫ちゃんじゃねえよな」

天津風「?」キョトン

提督「だって天津風は俺の嫁だもんな」ニカッ

天津風「!?!♡／＼／＼」ポツポー♡

提督「どうした? 顔が真っ赤だぞ?」ニヤニヤ

天津風「うるさい、バカ♡／＼／＼」プイッ

天津風（顔がにやけるく♡）ニヨニヨ

提督（絶対に今にやけてるんだろうなく）ナデナデ
天津風（あく幸せ♡）ポツポツ♡
夫婦はそのまま暫く屋上で過ごしたー。

天津風 完

朝霜とケツコンしました。改

某鎮守府、昼過ぎー

◇執務室（和室）◇

提督「サラサラ

」提督、仕事中」

朝霜「グデー

」朝霜、提督の背中に覆い被さる」

朝霜「なくな、司令」

提督「なんだ？」

朝霜「暇」アタマグリグリ

提督「この前の作戦での報告書も終わったし、今はこれといった任務も無いからなく。我慢してくれ」ナデナデ

朝霜「うう……」

提督「姉妹のみんなや霞達と遊んで来てもいいぞ？」

朝霜「みんな何かしら訓練や遠征行っちゃってるよ。だからこうして言ってるんだろ？」

提督「そうか……でも本当にこの書類くらいしか今はないんだよね」

朝霜「それ何の書類？」

提督「話したら朝霜の頭が痛くなる書類」

朝霜「あ……そういう難しい書類か。ならパス！」

提督「んな訳だから、朝霜は何かで暇潰しをしてくれ」

朝霜「ん……じゃあ、あたいは司令の膝枕で寝る」コロ

提督「分かった。朝霜は作戦前、そして作戦中は勿論だが、作戦後も休みなく働いてくれたからな。ゆっくり休んでくれ」ナデナデ

朝霜「おう♡」ゴロゴロ

◇執務室外・ドア前◇

朝霜『司令、もっと強く撫でてくれよ♡』

提督『はいはい』ワイシャワシヤ

朝霜『これこれ〜♡』デヘヘ

／ワキアイアイ＼

能代「これは……入りにくいわね……」ニガワライ

風雲「あの子つたら……」ハア

夕雲「あんなにベツタリな朝霜さん久々に見ましたね」クスクス

卷雲「最近忙しかったですからね……きつとその分司令官さまに甘えてるんですね♪」

秋雲「次はあの二人を題材に描こうかな〜♪」ニシシ

矢矧「止めなさい……とりあえず報告は後にして精密検査と補給してからまた来ましょう」ニガワライ

全員『了解』

その後、昼下がりー

◇甘味処・間宮◇

朝霜「あ〜ん♡」オクチオーブン

提督「はいよ」つかステラ

朝霜「あぐあぐ♡」

提督（餌付けしてるみたいだ……てか、食つてるとこ可愛いなく）

朝霜（司令がめつちやあたいの顔見てる♡）エヘヘ

朝霜「ごくん……ん！ 美味しい♡」

提督「良かったな」ナデナデ

朝霜「次はあたいが食べさせる番だかな♡」キラキラ

提督「ああ、頼む」オクチオーブン

朝霜「ん♡」

〜朝霜はカステラの端をくわえて提督に差し出す〜

提督「？」

朝霜「ふ^早あ^くふ^あひ^{ひろ}い^ほほ、ふ^食あ^べへ^ちひ^{いま}あ^うほ^ぞ？」

提督「頂きます」人

朝霜「おう♡」

パクパク……パクパク……パkー

ちゅっ♡

朝霜「♡」ホールド

提督「んっ……ちゅっ……んんっ……」ナデナデ

朝霜「あ……っ……んむう……ぷはあ♡」ハアハア

提督「ありがとう、美味しかったよ♪」

朝霜「へへ、当たり前前だろ♡」ニヨニヨ

〈次はあたいにしろよな♡

はいはい。ちよつと待て♡

／キヤツキヤツ　ウフフ、

島風「(。？㐍?)」オウオウオウ！

清霜「(。？㐍?)」フォォー!!!

長波「あの二人はまたあんな……少しは周りの目を気にしてほしいな♡」ニガワライ

高波「(／／㐍／／)」カモカモカモー！

早霜「仲睦まじくて妬ましいわね」クスクス

霞「見てらんないっいたら／／／／」ガンミ

足柄「り、リア充が眩しくて直視出来ないわ」フフフ

大淀「足柄さん、涙を拭いてください」っハンカチ

足柄「泣いてないわよ！　泣いてたとしても朝霜が幸せそうだから泣いてるんだから！　悔しくて泣いてるんじゃないんだから♡」ナ

ミダダバー

浜風「夫婦はいつも通りですが、足柄さん達もいつも通りですね」ニガワライ

磯風「仲良きことは美しき哉……めでたいことだ」ウンウン

日向「まあ、そうなるな」キリッ

伊勢「なに、上手くまとまったみたいなのよ」ニガワライ

朝霜「司令♡」ゴロニヤーン

提督「はいよ♡」ナデナデ

朝霜「後で膝枕の続きしてくれよな？♡」スリスリ
提督「勿論だとも」

朝霜「へへ♡ あたい、司令のこと好き♡」デレデレ

提督「俺はどんな朝霜も好きだよ」

朝霜「あたいは大好きだかな♡」

提督「俺もどんな朝霜も大好きだ」

朝霜「あたいも好き♡ 超好き♡」ギューツ

提督「ああ、俺もだよ」ナデナデ

〈司令♡♡ 好き好き♡♡〉

俺も朝霜が好き好きだぞ♡

／イチャイチャ ラブラブ＼

全員『間宮さん、サドンデスソースください！』サトウダバダー

間宮「少々お待ちくださいね♡」ニガワライ

間宮（また明石さんにサドンデスソース入荷してもらわなきゃ

……）

その後、夕方ー

◇執務室◇

朝霜「司令♡」

提督「どうした？」

朝霜「朝霜、提督の膝枕を満喫中♡」

朝霜「今日の仕事終わったのか？」

提督「終わったよ♡。遠征組も帰ってきてみんなからの報告書も確

認済みだ」

朝霜「そっか。お疲れさん、司令♡」ナデナデ

提督「あんがと」ニコツ

朝霜「それにしても、今日はずっと暇だったからつまんなかったぜ

♡

提督「暇っていうのは幸せなことさ」

朝霜「そうか？」

提督「そうとも。だって今日は俺のすぐ近くにずっと朝霜が居てく

れたからな。幸せで明日からの仕事が嫌になるよ」

朝霜「あはは♪ 仕事なんだからそこは頑張れよ♪」ナデナデ

提督「分かってるよ」ハハハ

朝霜「なら、明日の仕事をちゃんと頑張れるように今夜はサービスしてやるか♡」へへ

提督「何をする気だ？」

むくり↑朝霜、提督の膝枕から起きる

提督「？」

ぎゅむっ♡↑朝霜、提督にだいしゅきホールド

朝霜「今夜つて言つて分かんないとか、司令は鈍感だなく……それとも女の口から言わせるのが趣味なのか？♡」スリスリ

提督「そうか……夜の話か……／／／／」

朝霜「へへ、それ以外無いだろ？♡」チュッ

提督「しかし……いいのか？ そんな風に言われたら俺だつて止められないぞ？」ナデナデ

朝霜「ああ、任せておきなよ♡ 前からでも後ろからでも♡」クビ

スジチュッ

提督「なら今夜は寝かさない」ギユッ

朝霜「よっしゃ、いったろ♡」ヒシッ

深夜――

◇提督&朝霜の部屋・寝室◇

朝霜「ちよ、ちよつと司令……ま、待ってくれ／／／」ハアハア

提督「すまん……まだまだだ」ズツズツ

朝霜「ちよ……あつ……司令、てば／／／」ビクビクッ

提督「朝霜、朝霜」ズンズン

朝霜「司令♡ あっ♡」ビクンビクン

その後朝霜は、提督の圧倒的な力の前に足腰が大破するのであつた――。

朝霜 完

まるゆとケツコンしました。改

某鎮守府、夕方ー

◇食堂・厨房◇

まるゆ「よ、よろしくお願いします」ケイレイ

鳳翔「そんなに緊張しなくても大丈夫ですよ」ニコツ

大和「そうよ、楽しくいきましよう♪」

まるゆ「……はい！」ニパツ

〜調理開始!〜

鳳翔「そうそう。ちゃんと火加減も注意してね」

まるゆ「はい！」

大和「こまめに味見をして好みの味付けにしてね」

まるゆ「はい！」

〜無事に料理完成!〜

カランカランー

球磨「今日は一番乗りクマ〜♪」

多摩「やったにや！」

北上「お腹空いた〜……」

大井「あら、この香りは……」

木曾「いい匂いだな」

鳳翔「あら、いらつしやい」ニコツ

大和「こんばんは〜♪」

まるゆ「こ、こんばんは！」

球磨「クマ〜? 何をしてるんだクマ?」

鳳翔「まるゆさんに肉じゃがを教えているんです」ニコツ

木曾「肉じゃが……?」

大和「ふふ、愛する旦那様へ食べさせたいという可愛いお嫁さんの
願いです♪」

まるゆ「うう〜／＼／＼」ウツムキ

北上「肉じやがが甘くなるね〜」ニヤニヤ

大井「香りからしてちゃんとした肉じやがが出来たみたいね」ニコツ

まるゆ「は、はい……鳳翔さんも大和さんも丁寧に教えてくれましたから」

多摩「でも何で肉じやがなのにな？」

まるゆ「た、隊長は和食が好きなので……ちゃんともまるゆが作った和食を食べさせてあげたくて／＼／＼」ポツ

全員『(乙女がいる)』ホホエマー

木曾「まああいつならお前が作ったものならなんだって食うだろ」フフ

大和「大和もそう思います」ニコツ

まるゆ「そ、そんな……／＼／＼」アウ

球磨「あれだけ相思相愛なのに謙虚クマ……」

多摩「相思相愛を超えてる気がするにや……」

まるゆ「そ、そうですか？／＼／＼」ハウ

北上「提督の机にはいつも二人のケツコン式の写真が飾ってあるからね〜」ニヤニヤ

大井「たまにその写真を見つめてだらしない顔をしてる時もあります」イラツ☆

鳳翔「お二人は誰が見ても仲睦まじいですからね」クスツ

まるゆ「え、えへへ……／＼／＼」デレデレ

全員『(甘い……)』ウツプ

時計「時間だぜ！」

まるゆ「あつ、もう部屋に戻らなきゃ！」

大和「愛する旦那様をお迎えしたいものね」ニコニコ

鳳翔「微笑ましいですね」クスクス

まるゆ「からかわないでくださいよ／＼／＼」アワアワ

木曾「こっちは毎日二人の熱々っぷりを見せつけられてるからな」フフフ

球磨「これくらいは受け入れるクマ」ウンウン

まるゆ「そんなく／＼／＼／」

多摩「それより早く部屋に行かないと提督が帰ってきちゃうにや」
ニヤシシ

大井「慌ててお鍋をひっくり返さないようにね」クスッ

まるゆ「は、はいく／＼／＼／」

北上「そして美味しく頂いてもらいなく♪（意味深）」フッフッフ

まるゆ「は、はい！ 了解です！」↑気付いてない

くそしてお鍋を持ってまるゆは部屋へ戻るく

北上「さてさてく、”今晚は”お楽しみだねく」ニシシ

大井「”今晚も”お楽しみの間違いじゃないですか？」ニガワライ

木曾「実際そうなんだろうなく」

球磨「あれだけ甘い夫婦生活なら仕方ないクマ」

多摩「まるゆジュニアが誕生するのも時間の問題にや」

大和「おめでたいことはいいことです♪」

鳳翔「お赤飯の準備をしなくてはいけませんね」クスクス

◇提督&まるゆの部屋◇

ガチャー

提督「今戻ったぞ」

トテトテ……

まるゆ「お、おかえりなさい！ 隊てー」

こけっ

まるゆ「あわわっ！」

提督「つとと……そんなに慌てる必要ないだろう」ウケトメ

まるゆ「あわわわ！ ご、ごめんなさい！」

提督「どこか痛めたりしてないか？」

まるゆ「た、隊長が受け止めてくれましたから、大丈夫ですく／＼／

く

提督「そうか……次はもっとゆっくりでいいからな」ナデナデ

まるゆ「はい♡」スリスリ

く夫婦揃って晩御飯く

提督「今日は肉じゃがが……」オオー

まるゆ「鳳翔さんと大和さんに教わって作りました……」

提督「そうか。あの二人なら何も問題ないだろう」

まるゆ「とても丁寧に教えてくれました」ニコニコ

提督「そうかそうか」ニカッ

まるゆ「はう!?!♡」ドキッ

提督「どうした?」

まるゆ「い、いえ……ど、どうぞ食べてください!／＼／＼」

提督「そうだな、いただきます」人

まるゆ「ドキドキ

ぱくっ

まるゆ「ハラハラ

ぶくん

まるゆ「キンチョー

提督「………美味しい」ニカッ

まるゆ「良かった〜……」ヘナヘナ

提督「私の為にありがとうな」ナデナデ

まるゆ「いえ……♡／／／」ニコニコ

(頑張って良かった♡)

〜ご馳走様でした!〜

提督「いやあ、久々に食べ過ぎてしまった……ご馳走様」マンゾク

まるゆ「お粗末様でした♡」ニコニコ

(沢山おかわりしてくれた!♡) ヤッター!

まるゆ「あっ……」

提督「どうした?」

まるゆ「隊長……ごめんなさい。デザートを用意するのを忘れてました〜」ショボーン

提督「気にするな……それに今日は食べ過ぎてデザートは入らん」
ナデナデ

まるゆ「うう〜……今日は全部上手く行ったと思ったのに〜」

提督「……デザートならあるじゃないか」

まるゆ「え？」

提督「アゴクイツ

ちゅっ♡

まるゆ「っ!?!?!」

提督「……ふふ、ご馳走様」ナデナデ

まるゆ「た、隊長……♡／／／／」ドキドキ

提督「甘くて実に私好みの味だった」ニカツ

まるゆ「そ、それならおかわり、しますか?♡ なんちやて♡／／

／／「キヤツ

提督「存分に味わい尽くそう」ギユツ

まるゆ「まるゆ、頑張りまくす♡／／／／」ヒシツ

気がつけば外は明るかったー。

まるゆ 完